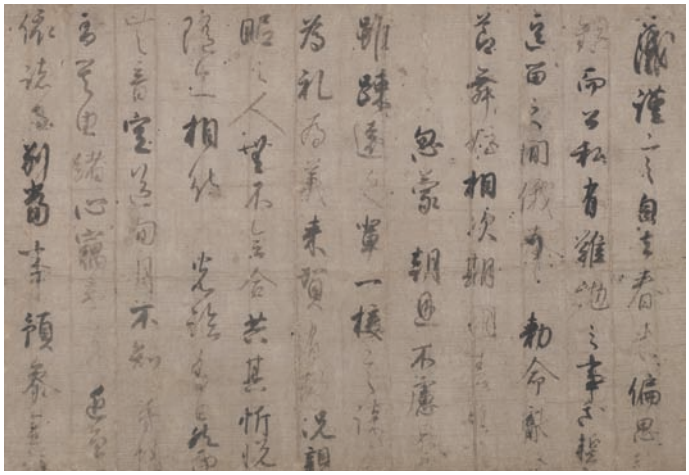
独立行政法人国立文化財機構年報

平成２８年度

平成 28 年度

新収品図版　〔東京国立博物館〕

購　　入



重要文化財　書状　藤原行成筆

重要文化財　准胝仏母像

青花雲龍文方壺

寄　　贈

玄奘三蔵像

雀の発心

ワヤン・クリ
ブトロ・グル

インド細密画

平成 28 年度

新収品図版　〔京都国立博物館〕

購　　入

賀茂御祖神社関係文書
（ 写真は六波羅探題下知状〈後欠〉）

重要文化財　金熨斗刻鞘大小拵

蝦蟇河豚相撲図　伊藤若冲筆

行道面　菩薩

寄　　贈

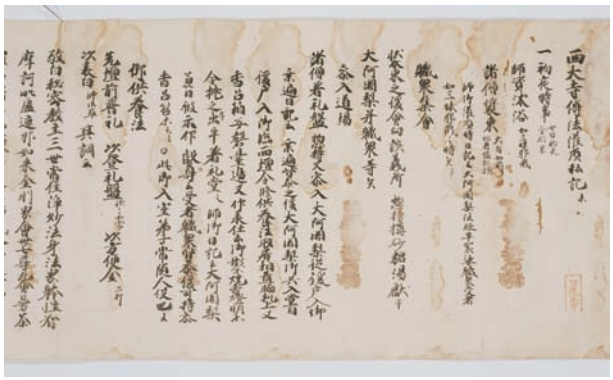
青花牡丹唐草文盤
（大阪府貝塚　廣海家コレクションのうち）

重要文化財　短刀　銘吉光（名物秋田藤四郎）
（永藤一氏旧蔵のうち）

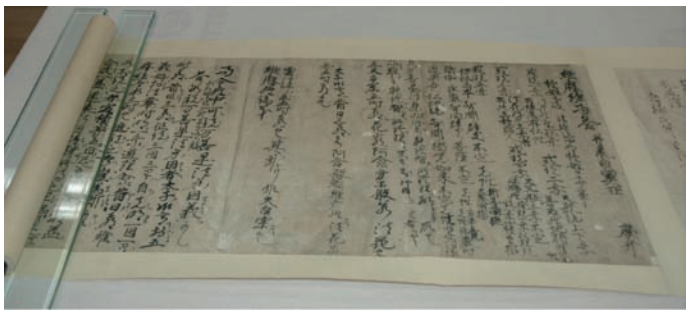
平成 28 年度

新収品図版　〔奈良国立博物館〕

購　　入



西大寺伝法灌頂私記　末



般若心経および維摩経問答（法隆寺伝来）

寄　　贈

絹本著色仏涅槃図

平成 28 年度

新収品図版　〔九州国立博物館〕

購　　入

花鳥図屏風

花鳥図巻

星曼荼羅

青花吹墨玉兎文皿

（全体）　（本紙）

重要文化財　継色紙「われみても」

（全体）

牡丹唐草螺鈿卓　（天面）

（版画部分）　リンデン伯「日本の思い出」　（表紙）

琉球使節江戸登城行列図

寄　　贈

刀　銘九州肥後同田貫上野介

渡唐天神像
方梅厓書（了庵桂悟賛文）

平成２８年度　年報　目次

平成28年度新収品図版

Ⅰ　28年度自己点検評価報告書　評定状況・・・ 1

Ⅱ　28年度自己点検評価報告書　個別表・・・ 15
ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承
①博物館の施設設備の整備・・ 20
②有形文化財の収集等
1)有形文化財の収集・・ 24
2)寄贈・寄託品の受入れ等・・ 28
③有形文化財の管理・保存・修理等
1)有形文化財の管理・・ 32
2)有形文化財の保存・・ 40
3)有形文化財の修理
3)-1計画的な修理及びデータの蓄積・・ 44
3)-2科学的な技術を取り入れた修理・・ 48
4)文化財修理施設等の運営・・・ 53
（２）展覧事業
①平常展・・ 56
②特別展等
1)特別展・・・ 63
2)海外展・・・ 85
③観覧環境の向上等
1)快適な観覧環境の提供・・ 90
2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等・・ 95
（３）教育・普及活動
①教育活動の充実等
1)学習機会の提供・・・ 99
2)ボランティア活動の支援・・・ 109
3)大学との連携事業等の実施・・・ 113
4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 117
5)博物館支援者増加への取組・・・ 121
②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実
1)有形文化財に関する情報の発信・・・ 125
2)資料の収集と公開・・・ 129
3)広報活動の充実
3)-1広報計画の策定と情報提供・・・ 133
3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 138
3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実・・ 142
（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 146
②その他有形文化財に関連する調査研究・・・ 258
③国内外の博物館等との学術交流等・・・ 286
④調査研究成果の公表・・ 290
（５）国内外の博物館活動への寄与
①国内外の博物館等への有形文化財の貸与・・ 294
②国内外の博物館等への援助・助言等・・・ 298

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
調査研究の評価軸及び評価指標等・・・ 302
（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究
1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究・・・ 306
2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究・・・ 310
3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究・・・ 311
②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究
1)重要無形文化財の保存・活用に関する調査研究等・・・ 312
2)重要無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究等・・・ 313
3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等・・・ 314
③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究
1)史跡・名勝の保存・活用に関する調査研究・・・ 315
2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究・・・ 317
3)重要文化的景観等の保存・活用に関する調査研究・・・ 327
4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究・・・ 328
5)水中文化遺産に関する調査研究・・・ 220
（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
①文化財の調査手法に関する研究開発の推進
1)デジタル画像の形成方法等の研究開発・・・ 331
2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発・・・ 332
3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発・・・ 333
4)動植物遺存体の分析方法の研究開発・・・ 334
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究
1)生物被害の予防と対策に関する調査研究・・・ 335
2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究・・・ 336
3)可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究・・・ 337
4)屋外文化財の劣化対策に関する調査研究・・・ 338
5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究・・・ 339
6)考古遺物の保存処理法に関する調査研究・・・ 340
7)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究・・・ 341
8)建造物の彩色に関する調査研究・・・ 342
9)近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究・・・ 343
10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究・・・ 344
（３）文化遺産保護に関する国際協働
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進
1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信・・・ 346
2)文化遺産保護協力事業の推進・・・ 349
3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等・・・ 352
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究・・・ 355
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
①文化財情報基盤の整備・充実・・・ 356
②調査研究成果の発信・・・ 359
③展示公開施設の充実・・・ 363
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
①文化財に関する研修の実施・・・ 365
②文化財に関する協力・助言等・・・ 367
③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力・・・ 379
④連携大学院教育の推進・・・ 384
⑤文化財等の防災・救援等への寄与
1)体制づくり・・・ 386
2)調査研究等の実施
ア　文化財等の防災・救援に関する調査研究と、情報の収集・発信・・・ 387
イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、保存環境、安定化処置及び修理等に関する研究・・ 388
ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究・・・ 388
3)人材育成等の実施・・・ 389
【受託研究】・・・ 390

ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
１．業務改善の取組
（１）組織体制の見直し・・ 445
（２）人件費管理等の適正化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 446
（３）契約・調達方法の適正化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 447
（４）共同調達等の取組の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 448
（５）一般管理費等の削減
①　機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 449
②　計画的なアウトソーシング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 450
③　使用資源の減少・・ 451
２．業務の電子化・・・ 452
３．予算執行の効率化・・ 453

ⅲ　財務内容に関する目標を達成するためにとるべき措置
１．自己収入拡大への取組・・・ 454
２．固定的経費の節減 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ （p.449～451と同じ）
３．決算情報・セグメント情報の充実等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 462

ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画
１．予算（中期計画の予算）・・ 463
２．収支計画・・ 463
３．資金計画・・ 463

ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置
１．内部統制・・ 464
２．その他
（１）自己評価・・ 465
（２）情報セキュリティ対策・・ 466
３．施設設備に関する計画・・ 467
４．人事に関する計画
（１）中長期的な人事計画の策定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 468
（２）評価制度の導入・・ 468
（３）能力や適性に応じた採用・人事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 469
（４）女性の活躍の推進・・・ 469
（５）研修及び人事交流等の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 470
Ⅲ　施設概要・・ 471

Ⅳ　財務諸表
1.平成２８年度財務諸表・・ 475
2.平成２８年度決算報告書・・ 503
3.平成２８年度事業報告書・・ 505

Ⅴ　評価
1.独立行政法人国立文化財機構の平成２８年度における業務の実績に関する評価・・・・・・・・・・ 527
2.独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価
1.外部評価委員会報告書・・ 577
2.外部評価委員評価書・・ 602

Ⅵ　日誌
1.法人全体及び７施設共通事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 647
2.東京国立博物館・・・ 648
3.京都国立博物館・・・ 651
4.奈良国立博物館・・・ 654
5.九州国立博物館・・・ 657
6.東京文化財研究所・・ 661
7.奈良文化財研究所・・ 664
8.アジア太平洋無形文化遺産研究センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 666

Ⅶ　運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図・役職員名簿
運営委員･評議員･外部評価委員名簿･･･ 667
独立行政法人国立文化財機構組織図･･･ 674
独立行政法人国立文化財機構役職員名簿･･･ 680

附属資料　：２８年度自己点検評価報告書 統計表

Ⅰ　平成28年度　自己点検評価報告書評定状況

自己点検評価報告書　評定状況　補足説明

○年度計画の評定及び中期計画の評定について、定性的観点、定量的観点に留意しつつ以下の基準で総合的に評価している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

平成28年度自己点検評価報告書　評定状況

S評定	2	1
A評定	72	44
B評定	303	319
C評定	10	8
D評定	1	0

全事業件数　390

（自己点検評価報告書）事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁
Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置					
1.有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信					
（1）有形文化財の収集・保管、次代への継承		A評定	5	1	
		B評定	30	34	
事業件数 36		C評定	1	1	
①博物館の施設設備の整備	1110A	東博	A	B	20
	1110B	京博	B	B	21
	1110C	奈良博	B	B	22
	1110D	九博	B	B	23
②有形文化財の収集等					
1)有形文化財の収集	1121A	東博	A	B	24
	1121B	京博	B	B	25
	1121C	奈良博	B	B	26
	1121D	九博	B	B	27
2)寄贈・寄託品の受入れ等	1122A	東博	B	B	28
	1122B	京博	A	B	29
	1122C	奈良博	B	B	30
	1122D	九博	B	B	31
③有形文化財の管理・保存・修理等					
1)有形文化財の管理	1131A1	東博	B	B	32
	1131A2	東博	B	B	33
	1131B1	京博	B	B	34
	1131B2	京博	B	B	35
	1131C1	奈良博	B	B	36
	1131C2	奈良博	C	C	37
	1131D1	九博	B	B	38
	1131D2	九博	B	B	39
2)有形文化財の保存	1132A	東博	B	B	40
	1132B	京博	B	B	41
	1132C	奈良博	B	B	42
	1132D	九博	B	B	43
3)有形文化財の修理					
3)-1計画的な修理及びデータの蓄積	1133-1A	東博	A	B	44
	1133-1B	京博	B	B	45
	1133-1C	奈良博	B	B	46
	1133-1D	九博	B	B	47
3)-2科学的な技術を取り入れた修理	1133-2A1	東博	B	B	48
	1133-2A2	東博	A	B	49
	1133-2B	京博	B	B	50
	1133-2C	奈良博	B	B	51
	1133-2D	九博	B	A	52
4)文化財修理施設等の運営	1134B	京博	B	B	53
	1134C	奈良博	B	B	54
	1134D	九博	B	B	55

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁
(2)展覧事業		S評定	1	0	
		A評定	11	3	
		B評定	25	19	
事業件数	42	C評定	3	2	
① 平常展					
1)平常展（来館者数・展示替件数）	1210A	東博	A	A	56
	1210B	京博	B	B	57
	1210C	奈良博	A	A	58
	1210D	九博	B	B	59
2)平常展（作品キャプション、展示に関する説明パネルの多言語化）	1212ABCD	4館	B	B	60
3)平常展（満足度調査）	1213ABCD	4館	B	B	62
② 特別展等					
1)特別展（開催回数）	1220ｱABCD	4館	A	B	63
1)特別展（満足度調査）	1220ｲA	東博	A	B	64
	1220ｲB	京博	B	B	65
	1220ｲC	奈良博	B	B	66
	1220ｲD	九博	B	B	67
特別公開「国宝土偶　縄文の女神」	1221Aｱ	東博	B	ー	68
特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」	1221Aｲ	東博	B	ー	69
特別展「黄金のアフガニスタン　ー守りぬかれたシルクロードの秘宝ー」	1221Aｳ	東博	A	ー	70
特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―」	1221Aｴ	東博	C	ー	71
特別展「平安の秘仏ー滋賀・檜野寺の大観音とみほとけたち」	1221Aｵ	東博	B	ー	72
臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展「禅―心をかたちに」	1221Aｶ	東博	B	ー	73
特別展「春日大社展ー千年の至宝」	1221Aｷ	東博	A	ー	74
日韓国交正常化50周年記念　特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」	1221Aｸ	東博	ー	ー	75
特別展覧会「禅-心をかたちに-」	1221Bｱ	京博	A	ー	76
特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」	1221Bｲ	京博	A	ー	77
特別展「国宝　信貴山縁起絵巻ー朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」	1221Cｱ	奈良博	B	ー	78
生誕800年記念特別展「忍性　ー救済に捧げた生涯ー 」	1221Cｲ	奈良博	B	ー	79
第68回　正倉院展	1221Cｳ	奈良博	A	ー	80
特別展「始皇帝と大兵馬俑」	1221Dｱ	九博	A	ー	81
特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」	1221Dｲ	九博	S	ー	82
特別展「京都 高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―」	1221Dｳ	九博	B	ー	83
特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」	1221Dｴ	九博	A	ー	84
2)海外展					
海外展「菩提の世界:醍醐寺芸術珍宝展」会場:上海博物館	1222-1	機構	B	B	85
海外展「菩提の世界:醍醐寺芸術珍宝展」会場:陝西歴史博物館	1222-2	機構	B	B	86
海外展「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」会場:国立故宮博物院南院	1222-3AD	東博・九博	B	B	87
海外展「15ー19世紀日中韓絵画精品展」会場:中国国家博物院	1222-4A	東博	B	B	88
海外展「韓日国宝半跏思惟像の出会い」	1222-5A	東博	ー	ー	89
③観覧環境の向上等					
1)快適な観覧環境の提供	1231A-1	東博	B	A	90
	1231A-2	東博	B	B	91
	1231B	京博	B	B	92
	1231C	奈良博	B	B	93
	1231D	九博	B	B	94
2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等	1232A	東博	B	B	95
	1232B	京博	C	C	96
	1232C	奈良博	C	C	97
	1232D	九博	B	B	98

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁
(3) 教育・普及活動		A評定	5	1	
事業件数 47		B評定	42	46	
①教育活動の充実等					
1)学習機会の提供	1311A1	東博	A	B	99
	1311A2	東博	B	B	100
	1311A3	東博	B	B	101
	1311B1	京博	A	A	102
	1311B2	京博	B	B	103
	1311C1	奈良博	B	B	104
	1311C2	奈良博	B	B	105
	1311D1	九博	B	B	106
	1311D2	九博	B	B	107
	1311D3	九博	B	B	108
2)ボランティア活動の支援	1312A	東博	B	B	109
	1312B	京博	B	B	110
	1312C	奈良博	B	B	111
	1312D	九博	B	B	112
3)大学との連携事業等の実施	1313A	東博	B	B	113
	1313B	京博	B	B	114
	1313C	奈良博	B	B	115
	1313D	九博	B	B	116
4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与	1314A	東博	A	B	117
	1314B	京博	B	B	118
	1314C	奈良博	B	B	119
	1314D	九博	B	B	120
5)博物館支援者増加への取組	1315A	東博	B	B	121
	1315B	京博	B	B	122
	1315C	奈良博	B	B	123
	1315D	九博	B	B	124
②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実					
1)有形文化財に関する情報の発信	1321A	東博	B	B	125
	1321B	京博	B	B	126
	1321C	奈良博	B	B	127
	1321D	九博	B	B	128
2)資料の収取と公開	1322A	東博	B	B	129
	1322B	京博	B	B	130
	1322C	奈良博	B	B	131
	1322D	九博	B	B	132
3)広報活動の充実					
3)-1広報活動の策定と情報提供	1323-0	本部	B	B	133
	1323-1A	東博	B	B	134
	1323-1B	京博	A	B	135
	1323-1C	奈良博	B	B	136
	1323-1D	九博	B	B	137
3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動	1323-2A	東博	B	B	138
	1323-2B	京博	B	B	139
	1323-2C	奈良博	B	B	140
	1323-2D	九博	B	B	141

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁
3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実	1323-3A	東博	B	B	142
	1323-3B	京博	B	B	143
	1323-3C	奈良博	B	B	144
	1323-3D	九博	A	B	145
(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究		S評定	0	0	
		A評定	17	16	
		B評定	123	126	
		C評定	6	5	
事業件数	147	D評定	1	0	
①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究					
1)収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究					
ア a.特別調査「法隆寺献納宝物」(第38次)	1411A1-1	東博	B	B	146
ア b.特別調査「書跡」第14回	1411A1-2	東博	B	B	147
ア c.特別調査「工芸」第8回	1411A1-3	東博	B	B	148
ア d.特別調査「彫刻」第6回	1411A1-4	東博	B	B	149
ア e.特別調査「絵画」第1回	1411A1-5	東博	B	B	150
イ 油彩画の材料・技法に関する共同調査	1411A2	東博	B	B	151
ウ 東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査	1411A3	東博	B	A	152
エ 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	1411A4	東博	B	C	153
オ 東洋民族資料に関する調査研究	1411A5	東博	B	B	154
カ a.特集「藤原行成の書 その流行と伝称」に関連する調査研究	1411A6-1	東博	A	A	155
カ b.特集「上海博物館との競演」に関連する調査研究	1411A6-2	東博	B	B	156
カ c.特集「親と子のギャラリー 美術のうら側探検隊」に関連する調査研究	1411A6-3	東博	B	B	157
カ d.特集「ドレッサーの贈り物―明治にやってきた欧米のやきものとガラス」に関連する調査研究	1411A6-4	東博	B	B	158
カ e.特集「歌仙絵」に関連する調査研究	1411A6-5	東博	B	B	159
カ f.特集「生誕百年記念 小林斗盦 篆刻の軌跡」に関連する調査研究	1411A6-6	東博	B	B	160
カ g.特集「掛袱紗―祝う心を模様にたくす」に関連する調査研究	1411A6-7	東博	B	B	161
カ h.特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」に関連する調査研究	1411A6-8	東博	B	B	162
キ (ア)中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究(科学研究費助成事業)	1411A7-1	東博	C	B	163
キ (イ)能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究(科学研究費助成事業)	1411A7-2	東博	A	A	164
キ (ウ)日本染織コレクションの形成に関する研究(科学研究費助成事業)	1411A7-3	東博	B	B	165
キ (エ)絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究(科学研究費助成事業)	1411A7-4	東博	B	B	166
キ (オ)古墳時代武装具に関する研究(科学研究費助成事業)	1411A7-5	東博	C	C	167
キ (カ)中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容に関する研究(科学研究費助成事業)	1411A7-6	東博	A	A	168
キ (キ)神像表現彫刻における物語性の調査研究(科学研究費助成事業)	1411A7-7	東博	B	B	169
キ (ク)法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究(科学研究費助成事業)	1411A7-8	東博	B	B	170
キ (ケ)清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究(科学研究費助成事業)	1411A7-9	東博	B	B	171
キ (コ)古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する研究(科学研究助成事業)	1411A7-10	東博	C	B	172
キ (サ)東アジアにおける繍仏の基礎的調査研究(科学研究費助成事業)	1411A7-11	東博	B	B	173
キ (シ)高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相に関する調査研究(科学研究費助成事業)	1411A7-12	東博	B	B	174
キ a.大小摺物(絵暦)の美術史及び文化史に関する総合研究(科学研究費助成事業)	1411A7-13	東博	B	B	175
キ b.徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究(科学研究費助成事業)	1411A7-14	東博	B	B	176
キ c.ディルムン文明の起源―バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究―(科学研究費助成事業)	1411A7-15	東博	A	A	177
キ d.東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究(科学研究費助成事業)	1411A7-16	東博	B	B	178
キ e.「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築(科学研究費助成事業)	1411A7-17	東博	A	B	179
キ f.在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究(科学研究費助成事業)	1411A7-18	東博	B	B	180
キ g.武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質(科学研究費助成事業)	1411A7-19	東博	D	C	181
キ h.極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較 ―東アジア金属工芸史の再構築―(科学研究費助成事業)	1411A7-20	東博	B	B	182
キ i.工芸の展開―金属工芸鋳金における真土型鋳造法の研究―	1411A7-21	東博	B	B	183

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価		頁
			年度	中期	
キ j.対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究ー大航海時代を中心にー（科学研究費助成事業）	1411A7-22	東博	B	B	184
キ k.日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究（科学研究費助成事業）	1411A7-23	東博	B	B	185
キ l.住吉派の摸写から見る近世御用絵師の絵画制作研究（科学研究費助成事業）	1411A7-24	東博	B	B	186
キ m.19世紀日本の女性南画家の移動と交友圏（科学研究費助成事業）	1411A7-25	東博	B	B	187
キ n.「月次祭礼図摸本」総合復元研究（科学研究費助成事業）	1411A7-26	東博	C	B	188
キ o.曾我蕭白筆「郡仙図屏風」の図像およびその文化的背景に関する研究（出光文化福祉財団）	1411A7-27	東博	B	B	189
キ p.三条西公条をめぐる絵事―「詠歌之大概歌仙図」を中心に―（メトロポリタン東洋美術研究センター）	1411A7-28	東博	B	B	190
ア 訓点資料としての典籍に関する調査研究	1411B1	京博	B	B	191
イ 出土・伝世古陶磁に関する調査研究	1411B2	京博	B	B	192
ウ CTスキャナ等科学機器を用いた文化財の調査研究	1411B3	京博	B	B	193
エ 近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究　河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究（科学研究費助成事業）	1411B4	京博	B	B	194
オ 幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査	1411B5	京博	B	B	195
カ 日本の宮廷装束・調度に関する基礎的研究	1411B6	京博	B	B	196
キ 長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究	1411B7	京博	B	B	197
ク a.特集陳列「丹後の仏教美術」に関連する調査研究	1411B8-1	京博	B	B	198
ク b. 特集陳列「徳川将軍家と京都の寺社」に関連する調査研究	1411B8-2	京博	B	B	199
ク c. 特集陳列「与謝蕪村」に関連する調査研究	1411B8-3	京博	A	A	200
ク d. 特集陳列「皇室の御寺　泉涌寺」に関連する調査研究	1411B8-4	京博	B	B	201
ク e. 特集陳列「伊藤若冲」に関連する調査研究	1411B8-5	京博	A	A	202
a.近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究	1411B9-1	京博	B	B	203
b.東アジアにおける繍仏の基礎的研究（科学研究費助成事業）	1411B9-2	京博	B	B	204
ア 復元模写制作に伴う仏教絵画の光学的調査と研究	1411C1	奈良博	B	B	205
イ 平安時代の大般若経の総合的調査と、歴史資料としての情報資源化に関する研究	1411C2	奈良博	B	B	206
ウ 仏教工芸・上代工芸の総合的調査	1411C3	奈良博	B	B	207
エ 墳墓出土品の調査と研究	1411C4	奈良博	B	B	208
オ 南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	1411C5	奈良博	A	A	209
カ 綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	1411C6	奈良博	B	B	210
キ a.特別陳列「お水取り」 に関連する調査研究	1411C7-1	奈良博	B	B	211
キ b.特別陳列「和紙ー近代和紙の誕生ー」に関連する調査研究	1411C7-2	奈良博	B	B	212
キ c.特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に関連する調査研究	1411C7-3	奈良博	A	A	213
キ d.春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究（科学研究費助成事業）	1411C7-4	奈良博	B	B	214
キ e.真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用（科学研究費助成事業）	1411C7-5	奈良博	B	B	215
ア X線CTスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究	1411D1	九博	B	B	216
イ 日本中近世の工芸、特に茶道具に関する調査研究	1411D2	九博	B	B	217
ウ 近世キリスト教に関する研究	1411D3	九博	B	B	218
エ 高等学校が所蔵する考古資料に関する研究	1411D4	九博	B	B	219
オ 水中遺跡の保存活用に関する調査研究	1411D5	九博	B	B	220
カ タイの歴史・美術に関する研究	1411D6	九博	B	B	221
キ a.トピック展示「火縄銃の世界」に関連する調査研究	1411D7-1	九博	B	B	222
キ b.トピック展示「きらめきで飾るー螺鈿の美をあつめてー」に関連する調査研究	1411D7-2	九博	B	B	223
キ c.日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究(科学研究費助成事業)	1411D7-3	九博	B	B	224
キ d.在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究(科学研究費助成事業)	1411D7-4	九博	B	B	225
キ e.極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　ー東アジア金属工芸史の再構築ー(科学研究費助成事業)	1411D7-5	九博	B	B	226
キ f.出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究（科学研究費助成事業）	1411D7-6	九博	B	B	227
キ g.近世西南日本の地域産業と対外交流の研究(科学研究費助成事業)	1411D7-7	九博	B	B	228
2)特別展等の開催に伴う調査研究					
ア a.特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」に関する調査研究	1412A1	東博	B	B	229
ア b.特別展「春日大社　千年の至宝」に関する調査研究	1412A2	東博	B	B	230
ア c.特別展「茶の湯」に関する調査研究	1412A3	東博	B	B	231

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁
ア d.日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」に関する調査研究	1412A4	東博	B	B	232
ア a.特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」に関する調査研究	1412B1	京博	A	A	233
ア b.特別展覧会「海北友松」に関する調査研究	1412B2	京博	A	A	234
ア a.生誕800年記念特別展「忍性 ー救済に捧げた生涯ー 」に関する調査研究	1412C1	奈良博	B	B	235
ア b.特別展「第68回正倉院展」に関する調査研究	1412C2	奈良博	B	B	236
ア c.特別展「快慶　日本人を魅了した仏のかたち」に関する調査研究	1412C3	奈良博	B	B	237
ア a.特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」に関する調査研究	1412D1	九博	B	B	238
ア b.特別展「タイ～仏の国の輝き～」に関する調査研究	1412D2	九博	B	B	239
ア c.特別展「世界遺産ラスコー展」に関する調査研究	1412D3	九博	B	B	240
ア d.特別展「新・桃山展ー大航海時代の日本美術」に関する調査研究	1412D4	九博	B	B	241
3)文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究					
ア 博物館環境デザインに関する調査研究	1413A1	東博	B	B	242
イ 博物館教育に関する調査研究	1413A2	東博	B	B	243
ウ 凸版印刷と共同で実施する、ミュージアムシアターでの公開に向けた調査研究	1413A3	東博	C	C	244
エ ICTを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	1413A4	東博	B	B	245
a.ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析（科学研究費助成事業）	1413A5	東博	B	B	246
b.藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究（科学研究費助成事業）	1413A6	東博	B	B	247
ア ボランティアによる、ハンズオン教材等を活用した展示作品理解のための事業に関する調査研究	1413B1	京博	B	B	248
イ 高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究	1413B2	京博	B	B	249
ウ 3Dプリンター等を用いた教育プログラムに関する調査研究	1413B3	京博	B	B	250
ア 歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	1413C1	奈良博	B	B	251
ア NHKと共同で実施する高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターでの映像公開に向けた調査研究	1413D1	九博	B	B	252
イ 特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	1413D2	九博	B	B	253
ウ 学校教育現場との連携を図って作り上げる学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発	1413D3	九博	B	B	254
エ 文化交流展示室に関して現在の展示施設、展示環境や展示方法の調査研究	1413D4	九博	B	B	255
a.潜在的利用者とつくる新しい博物館の活動「きゅーはく女子考古部」についての調査研究	1413D5	九博	B	B	256
b.松菊里型竪穴住居をモデルとした「組み立て式竪穴住居」の調査研究	1413D6	九博	B	B	257
②その他有形文化財に関連する調査研究					
1)有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究					
ア 博物館の環境保存に関する調査研究	1421A1	東博	B	B	258
a.美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築（科学研究費助成事業）	1421A2	東博	B	B	259
b.三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究（科学研究費助成事業）	1421A3	東博	C	C	261
c.被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究（科学研究費助成事業）	1421A4	東博	B	B	262
ア 修復文化財に関する資料収集及び調査研究	1421B1	京博	B	B	263
イ 文化財の保存・修復に関する調査研究	1421B2	京博	B	B	264
ア 収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究	1421C1	奈良博	A	B	265
イ 収蔵品・寄託品等に関する文化財修理の観点からの調査研究	1421C2	奈良博	B	B	266
ウ 収蔵品・寄託品等に関する保存科学の観点からの調査研究	1421C3	奈良博	B	B	267
ア 文化財の材質・構造等に関する共同研究	1421D1	九博	B	B	268
イ 博物館における文化財保存修復に関する研究	1421D2	九博	B	B	269
ウ 博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	1421D3	九博	B	B	270
エ 石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（科学研究費助成事業）	1421D4	九博	A	A	271
a.彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討に係る調査研究（科学研究費助成事業）	1421D5	九博	B	B	272
b.文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討（科学研究費助成事業）	1421D6	九博	B	B	273
c.X線CTを用いた文化財有機質材料の同定方法の確立（科学研究費助成事業）	1421D7	九博	B	B	274
d.みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム（文化庁文化芸術振興費補助金）	1421D8	九博	A	A	275
e.熊本県被災文化財救援事業（公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団助成金 ／独立行政法人国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進事業）	1421D9	九博	B	B	276

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁
2)博物館情報、文化財情報に関する調査研究					
ア　博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	1422A1	東博	B	B	277
イ　創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	1422A2	東博	B	B	278
ウ　博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究	1422A3	東博	A	A	279
エ　博物館における文化財の情報資源化に関する研究（科学研究費助成事業）	1422A4	東博	B	B	280
オ　海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）	1422A5	東博	B	B	281
a.東京国立博物館所蔵帝室本データベース（科学研究費助成事業）	1422A6	東博	B	B	282
b.東京国立博物館国立博物館所蔵写真資料データベース（科学研究費助成事業）	1422A7	東博	B	B	283
ア　文化財情報に関する調査研究	1422B1	京博	B	B	284
ア　文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究	1422C1	奈良博	B	B	285
③国内外の博物館等との学術交流等	1430A	東博	A	A	286
	1430B	京博	B	B	287
	1430C	奈良博	B	B	288
	1430D	九博	B	B	289
④調査研究成果の公表	1440A	東博	A	A	290
	1440B	京博	B	B	291
	1440C	奈良博	B	B	292
	1440D	九博	B	B	293
(5) 国内外の博物館活動への寄与		**A評定**	0	0	
事業件数	8	**B評定**	8	8	
①国内外の博物館等への有形文化財の貸与	1510A	東博	B	B	294
	1510B	京博	B	B	295
	1510C	奈良博	B	B	296
	1510D	九博	B	B	297
②国内外の博物館等への援助・助言等	1520A	東博	B	B	298
	1520B	京博	B	B	299
	1520C	奈良博	B	B	300
	1520D	九博	B	B	301
2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施					
(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		**S評定**	1	1	
		A評定	10	7	
事業件数	25	**B評定**	14	17	
①　有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究					
1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究					
文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	2111E-ア	東文研	B	B	306
日本東洋美術史の資料学的研究	2111E-イ	東文研	B	B	307
近・現代美術に関する調査研究と資料集成	2111E-ウ	東文研	A	A	308
美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	2111E-エ	東文研	B	B	309
2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究					
歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	2112F	奈文研	B	B	310
3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究					
近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	2113F	奈文研	B	B	311
②　無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究					
1)重要無形文化財等の保存・活用に資する調査研究等					
無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	2121E	東文研	A	B	312
2)重要無形民俗文化財等の保存・活用に資する調査研究等					
無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	2122E	東文研	A	B	313
3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等					
無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	2123E	東文研	A	B	314

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁
③ 記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究					
1）史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究					
我が国の記念物に関する調査・研究(遺跡等整備)	2131F-ア	奈文研	A	A	315
我が国の記念物に関する調査・研究(庭園)	2131F-イ	奈文研	B	B	316
2）古代日本の都城遺跡に関する調査研究					
平城宮東院地区の発掘調査	2132F-ア1	奈文研	A	A	317
平城京跡右京一条二坊四坪・西一坊大路・一条南大路の発掘調査	2132F-ア2	奈文研	B	B	318
東大寺東塔院跡の発掘調査	2132F-ア3	奈文研	A	A	319
藤原宮跡の発掘調査(大極殿院)	2132F-ア4	奈文研	A	A	320
藤原宮跡の発掘調査(朝堂院)	2132F-ア5	奈文研	S	S	321
飛鳥地域発掘調査	2132F-ア6	奈文研	B	B	322
平城宮・京跡の出土遺物・遺構の調査研究等	2132F-イ1	奈文研	B	B	323
飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	2132F-イ2	奈文研	A	A	324
東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	2132F-ウ	奈文研	B	B	325
アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	2132F-エ	奈文研	B	B	326
3）重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究					
文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	2133F	奈文研	A	A	327
4）全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究					
遺跡データベースの作成と公開	2134F-ア	奈文研	B	B	328
古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	2134F-イ1	奈文研	B	B	329
古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	2134F-イ2	奈文研	B	B	330
5）水中文化遺産に関する調査研究					
（Ⅰ 1.（4） ① 1） オ と同じ）	―	九博	－	－	220
（2） 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		**A評定**	**6**	**3**	
事業件数	**15**	**B評定**	**9**	**12**	
①文化財の調査手法に関する研究開発の推進					
1）デジタル画像の形成方法等の研究開発					
文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	2211E	東文研	B	B	331
2）埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発					
埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	2212F	奈文研	A	A	332
3）年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発					
年輪年代学研究	2213F	奈文研	A	A	333
4）動植物遺存体の分析方法の研究開発					
動植物遺存体の分析方法の研究開発	2214F	奈文研	B	B	334
②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究					
1）生物被害の予防と対策に関する調査研究					
文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	2221E	東文研	A	B	335
2）文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究					
保存と活用のための展示環境の研究	2222E	東文研	B	B	336
3）可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究					
文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	2223E	東文研	A	B	337
4）屋外文化財の劣化対策に関する調査研究					
屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	2224E	東文研	B	B	338
5）文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究					
文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	2225E	東文研	A	B	339
6）考古遺物の保存処理法に関する調査研究					
考古遺物の保存処理法に関する調査研究	2226F	奈文研	B	B	340
7）遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究					
遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	2227F	奈文研	B	B	341
8)建造物の彩色に関する調査研究					
建造物彩色に関する研究	2228F	奈文研	B	B	342
9)近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究					

（自己点検評価報告書）事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁
近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	2229E	東文研	B	B	343
10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究					
高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	2230E	東文研	B	B	344
高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	2230F	奈文研	A	A	345
(3) 文化遺産保護に関する国際協働		A評定	3	2	
事業件数	**10**	B評定	7	8	
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進					
1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信					
文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	2311E	東文研	B	B	346
文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	2311F-ア	奈文研	B	B	347
イギリスセインズベリー日本芸術研究所との共同研究	2311F-イ	奈文研	B	B	348
2)文化遺産保護協力事業の推進					
アジア諸国等文化遺産保存修復協力	2312E-1	東文研	A	B	349
保存修復技術の国際的応用に関する研究	2312E-2	東文研	B	B	350
カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ遺跡の建築学的・考古学的・保存科学的調査	2312F	奈文研	B	B	351
3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等					
在外日本古美術品保存修復協力事業	2313E-1	東文研	A	A	352
国際研修	2313E-2	東文研	A	A	353
ユネスコアジア文化センター(ACCU)等が行う研修への協力	2313F	奈文研	B	B	354
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究					
アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究(ODAユネスコ補助金・寄附金(文化財保存活用基金))	2320G	IRCI	B	B	355
(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用		A評定	5	3	
事業件数	**9**	B評定	4	6	
① 文化財情報基盤の整備・充実 **1)文化財に関するデータベースの充実・アーカイブ機能の更新及び拡張** **2)被災文化財関連情報に関するデータベースの充実・アーカイブ機能の更新及び拡張** **3)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供の充実**					
専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	2411E	東文研	A	B	356
文化財に関するデータベースの充実	2411F	奈文研	A	A	357
図書の収集・整理・公開・提供	2413F	奈文研	B	B	358
② 調査研究成果の発信 **1)定期刊行物の刊行** **2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等** **3)ウェブサイトの充実**					
定期刊行物の刊行	2421E	東文研	B	B	359
定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	2421F	奈文研	A	A	360
平成28年度オープンレクチャー(調査・研究成果の公開)	2422E	東文研	B	B	361
文化財情報基盤の整備・充実	2423E	東文研	A	B	362
③ 展示公開施設の充実					
1)特別展・企画展					
平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	2431F	奈文研	A	A	363
2)平城宮跡解説ボランティア研修					
平城宮跡解説ボランティアに対する研修等の実施	2432F	奈文研	B	B	364
(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		A評定	8	7	
事業件数	**25**	B評定	17	18	
①文化財に関する研修の実施 **1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修の実施** **2)研修体系の整理及び研修受講生及び派遣元自治体へのアンケート調査**					
博物館・美術館等保存担当学芸員研修	2511E	東文研	B	B	365
文化財担当者研修	2511F	奈文研	A	A	366

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁
②文化財に関する協力・助言等					
1）地方公共団体等への文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等					
文化財の収集、保管に関する指導助言	2521E-1	東文研	B	B	367
無形文化遺産に関する助言	2521E-2	東文研	B	B	368
文化財の虫菌害に関する調査・助言	2521E-3	東文研	B	B	369
文化財の修復及び整備に関する調査・助言	2521E-4	東文研	B	B	370
文化財の材質・構造に関する調査・助言	2521E-5	東文研	B	B	371
美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	2521E-6	東文研	B	B	372
地方公共団体等の要請による発掘調査等への協力・援助	2521F-1	奈文研	B	B	373
地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助	2521F-2	奈文研	A	A	374
地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	2521F-3	奈文研	B	B	375
2）他機関等との共同研究及び受託研究					
他機関等との共同研究及び受託研究を実施	2522E	東文研	B	B	376
他機関等との共同研究及び受託研究を実施	2522F	奈文研	B	B	377
3）東日本大震災の復旧・復興事業に伴う、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力					
東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	2523F	奈文研	B	B	378
③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力					
1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力					
文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・公開等への協力	2531F-1	奈文研	B	B	379
国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原等への協力	2531F-2	奈文研	A	A	380
国土交通省が行う平城宮跡展示館(仮称)の建設への協力	2531F-3	奈文研	A	A	381
国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の開園への協力	2531F-4	奈文研	A	A	382
2)NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力					
NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	2532F	奈文研	B	B	383
④連携大学院教育の推進					
1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進					
東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	2541E	東文研	B	B	384
京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進	2541F	奈文研	B	B	385
⑤ 文化財等の防災・援助等への寄与	2551-1	機構	A	B	386
	2551-2	機構	A	A	387
	2551-3	機構	B	B	388
	2551-4	機構	A	A	389
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		A評定	1	0	
事業件数 9		B評定	8	9	
1.業務改善の取組					
(1) 組織体制の見直し	7110	本部	B	B	445
(2) 人件費管理等の適正化	7120	本部	B	B	446
(3) 契約・調達方法の適正化	7130	法人全体	B	B	447
(4) 共同調達等の取組の推進	7140	法人全体	B	B	448
(5) 一般管理費等の削減					
①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化	7151	本部	B	B	449
②計画的なアウトソーシング	7152	法人全体	B	B	450
③使用資源の減少	7153	法人全体	B	B	451
2.業務の電子化					
業務の電子化	7200	本部	A	B	452
3.予算執行の効率化					
予算執行の効率化	7300	本部	B	B	453

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価		頁
			年度	中期	
Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		A評定	1	1	
事業件数	17	B評定	16	16	
1.自己収入拡大への取組					
(1) 自己収入拡大への取組	8110	法人全体	B	B	454
(2) 外部資金の獲得	8120	法人全体	A	A	455
(3) 保有資産の有効利用の促進	8130A	東博	B	B	456
	8130B	京博	B	B	457
	8130C	奈良博	B	B	458
	8130D	九博	B	B	459
	8130E	東文研	B	B	460
	8130F	奈文研	B	B	461
2.固定的経費の節減					
(Ⅱ 1.(5) と同じ)					
3.決算情報・セグメント情報の充実等					
決算情報・セグメント情報の充実等	8300	本部	B	B	462
Ⅳ 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画					
1.予算、2.収支計画及、3.資金計画					
予算、収支計画、資金計画	8400	本部	B	B	463
Ⅴ その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置					
1.内部統制					
内部統制	9100	本部	B	B	464
2.その他					
(1) 自己評価	9210	本部	B	B	465
(2) 情報セキュリティ対策	9220	本部	B	B	466
3.施設設備に関する計画					
施設設備に関する計画	9300	本部	B	B	467
4.人事に関する計画					
(1) 中長期的な人事計画の策定	9410	本部	B	B	468
(2) 評価制度の導入					
(3) 能力や適性に応じた採用・人事の実施	9420	本部	B	B	469
(4) 女性の活躍の推進					
(5) 研修及び人事交流等の検討	9430	本部	B	B	470

Ⅱ　平成28年度　自己点検評価報告書個別表

自己点検評価報告書「書式Ａ（事業系)」　様式補足説明

○【定量的評価】

目標値は、中期計画・年度計画で目標値を定めた項目のみ記載している。

○【定量的評価】

評価は、以下の評定区分を使用している。

Ｓ：達成率 120%以上かつ質的に顕著な成果
Ａ：達成率 120%以上
Ｂ：達成率 100%以上 120%未満
Ｃ：達成率 80%以上 100%未満
Ｄ：達成率 80%未満
※Ｂ評価が標準となる

○【年度計画に対する総合評価】及び【中期計画に対する総合評価】

評価は、以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

○【判定根拠、課題と対応】

「判定根拠」は記載を必須とし、「課題と対応」は必要に応じて適宜記載している。

自己点検評価報告書「書式Ａ（特別展）」　様式補足説明

○【定量的評価】、【年度計画に対する総合評価】、【判定根拠、課題と対応】
「書式Ａ（事業系）」と同様

○【成果】
各項目については次のような観点・論点を踏まえて記載している。

企画構成・展示作品
・企画構成（コンセプト、展示配列・組合せ等）の意図について
・展示品の概要（質、分野、初出品、規模等）について
・企画構成や展示方法の独創性や新規性、工夫について
・地域連携（巡回・地方の文化財や文化の紹介）や国際交流等の側面について
・時機、社会的関心、話題性等の観点について

学術的意義
・学問的重要度の高さについて
・新知見や新たな観点の提供、新発見の紹介等について
・図録での論文・解説等について（内容が充実している、本数が多い等）
・今後の研究への発展性や新規寄託の獲得等について
※研究の詳しい内容は「書式Ｂ（博物館研究系プロジェクト）」で記載

教育普及
・来館者の興味を喚起する取組や理解を助ける取組（解説の工夫・パネル設置・リーフレット作成・ハンズオン等）の実施について
・講演会、シンポジウム、ギャラリートーク等の開催について
・教育的イベント（子供向け等）の実施について

その他（運営・広報・サービス等）
・動線の工夫や待ち列対応等の混雑対策について
・関連する平常展示の実施について
・音声ガイドについて
・広報活動の展開（交通広告・ネット・SNS）について
・特別内覧会等の関連事業の実施について
・関連映像上映について

自己点検評価報告書「書式Ｂ（博物館研究系プロジェクト）」　様式補足説明

○【年度計画に対する総合的評価】の評定及び【中期計画の実施状況の確認】の評定について、定性的観点、定量的観点に留意しつつ以下の基準で総合的に評価している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

自己点検評価報告書「書式Ｃ」　様式補足説明

１　「年度計画評価」＞「定性評価」について

下記の５つの観点から、当該研究プロジェクト等に応じた観点を４つ以上選択の上記載し、それぞれ評定（Ｓ～Ｄ）を付している。

【観点の考え方】

・適時性：需要・必要性、公共性、国際性、緊急性、公開性
・独創性：オリジナリティ、発想・着想、新規性、卓越性
・発展性：応用性・汎用性、影響性、多様性
・効率性：時間、人員、設備等
・継続性：期間、質・内容、量、基礎性

【観点の判定基準】

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している（標準）
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する

２　「年度計画評価」＞「定量評価」について

当該事業の実績データのうち、中期目標・計画上の評価指標となっているものは、「実績値」として以下の基準で定量評価を行っている。なお、その他の実績データについては、「参考値」として掲載している（定量評価対象とはしていない）。

（評価指標の対象となるもの：文化財に関するデータベースの公開件数、定期刊行物等の刊行件数、公開施設における特別展・企画展の開催件数　等）

Ｓ：達成率 120％以上かつ質的に顕著な成果
Ａ：達成率 120％以上
Ｂ：達成率 100％以上 120％未満（標準）
Ｃ：達成率 80％以上 100％未満
Ｄ：達成率 80％未満

３　「年度計画評価」＞「評定理由」について

定性評価の判定理由を記述している。また、定量評価がある場合は、その判定状況を併せて記述している。

４　「年度計画評価」について

２の定性評価及び３の定量評価の各観点の評定（Ｓ～Ｄ）を下記にて数値化（５～１点）し、平均値を四捨五入して評定を算出している。

Ｓ＝５点、Ａ＝４点、Ｂ＝３点（標準）、Ｃ＝２点、Ｄ＝１点
（例１）Ａが３つ、Ｂが２つの場合
（４点×３＋３点×２）÷５＝　３．６　≒　４　→評価　Ａ
（例２）Ａが２つ、Ｂが３つの場合
（４点×２＋３点×３）÷５＝　３．４≒　３　→評価　Ｂ

５　「中期計画評価」について

１の【観点の判定基準】と同様の基準で評価している。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1110A

大項目	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　①博物館の施設設備の整備

【年度計画】
(4館共通)
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を行う。
(東京国立博物館)
1)本館については収蔵・展示施設の改修と拡充に関する基本計画を策定する。

担当部課	環境整備課	事業責任者	課長　若林　賢一

【実績・成果】
(4館共通)
1) 建物の長寿命化を見据えて館内設備機器(建物附属)の現状の調査、検証を28年度より着手しており、平成29年度末を目途に完了し、メンテナンスサイクルを始動するに必要な更新費用の予算要求を随時行う一方で、より緊急度の高い機器更新について館内予算の手当により実施を予定している。

(東京国立博物館)
2) 本館収蔵環境改善のための仮設収蔵庫の建設、本館改修(東京五輪対応)整備について本館保存活用計画の策定作業を進めながら予算規模に応じて実施する本館リニューアル計画について環境整備委員会の審議を経て館内合意された。また、今後将来に渡っての予算措置状況とメンテナンスサイクルの進捗に合致した整備計画を策定する必要がある。

【補足事項】

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 メンテナンスサイクルの構築に伴う現状の把握や個々の施設の現況調査とそれらに基づく優先度設定等の具体の作業を進捗させたため、A判定とした。

【中期計画記載事項】
施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。
(東京国立博物館)
開館後約 80 年が経過した本館の空調設備、収蔵・展示施設について、建物が重要文化財に指定されていることに配慮し、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も視野に入れつつ、改修等計画を推進する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 各館、各所でのメンテナンスサイクルの構築へ向けた取り組みを着実に実施しているが、実際のメンテナンスサイクル始動のためには、内部予算での必要最低限度の整備と施設整備補助金による段階的な更新整備の持続が必要不可欠であり、そのための推進体制の整備や予算要求の仕組み等の課題に対して取り組めておらず、中期で診た場合にはB判定としている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1110B

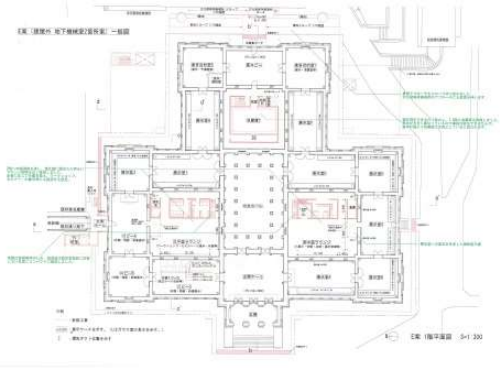
中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　①博物館の施設設備の整備

【年度計画】
(4館共通)
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を行う。
(京都国立博物館)
1)仮設収蔵庫（東収蔵庫）の減築工事を行う。
2)明治古都館（本館）の免震補強他の改修に向けた準備として、引き続き基本計画の策定を行う。

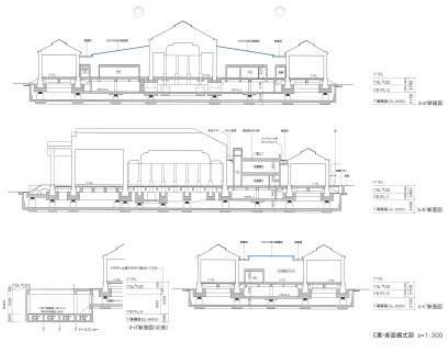
担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　植田義雄

【実績・成果】
(4館共通)
1)建築附帯設備（電気設備、機械設備等）の保全計画を策定、随時更新を行った。
(京都国立博物館)
1)仮設収蔵庫（東収蔵庫）の減築工事施工中。
2)明治古都館（本館）基本計画策定済。(29年2月)
中庭に新棟と屋根を建設し、建物全体を免震構造とすること、創建当時の姿を適切に保持することなどを基本計画に盛り込んだ。

【補足事項】



本館基本計画案　平面図



本館基本計画案　断面図

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	東収蔵庫減築工事により各種控室対応を行う準備工事及び棚の再利用も含めた棚解体を実施した。撤去、内装等の工事を継続して29年度に行う。 明治古都館（本館）基本計画は引き続き審議を行う。

【中期計画記載事項】
施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。
(京都国立博物館)
京都国立博物館本館（明治古都館)の改修に当たっては、重要文化財に指定された建造物としての保存とともに展示施設としての活用に配慮した改修計画及び観覧環境の再整備計画を進める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	メンテナンスサイクルの構築に向け、設備の老朽状態を把握し、電気設備及び機械設備の保全計画の策定を行った。 京都国立博物館（明治古都館）の改修について、重要文化財である建築物としての保存、展示施設としての活用に配慮した改修計画及び観覧環境の再整備基本計画の策定を行った。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1110C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　①博物館の施設設備の整備

【年度計画】
（4 館共通）
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を行う。
（奈良国立博物館）
1)構内バリアフリー及びエントランス拡張整備に向けた検討を行う。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　室溪　浩

【実績・成果】
（4館共通）
1)・各種設備の劣化状況調査及び更新計画を実施した。
　・なら仏像館展示室改修を実施した。
　・熱源設備の更新を実施した。
（奈良国立博物館）
1)構内バリアフリー及びエントランス拡張整備計画の検討を行った。

【補足事項】
（4館共通）
1)・各種設備について現状調査や、メーカへのヒアリングや資料徴収を行い、更新計画表の作成を進めた。
　・なら仏像館展示室改修に伴い全ての照明をLED化した。展示品に対し悪影響の少ない照明とすると共に省エネルギー効果が期待できる。
　・熱源の一つである吸収式冷温水機を1台更新した。機器の運転効率が向上し省エネルギー効果が期待できる。
（奈良国立博物館）
1)エントランス拡張整備計画の図面上の見直しを行うとともに、屋外舗装に使用しているピンコロ石の凹凸解消に向け、研磨処理試験施工を行った。

更新した吸収式冷温水機

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	現状調査並びにメーカーへのヒアリングや資料徴収により、更新計画表の土台づくりができた。

【中期計画記載事項】
施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。
（奈良国立博物館）
構内のバリアフリー化やエントランスの拡張等観覧環境等の改善及び展示施設の改修等を図るとともに、奈良における文化財の調査研究等の拠点として必要な研究設備を整備する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	今期中期計画の初年度として、メンテナンスサイクルの確立に向け、更新計画の作成に着手できた。29年度では各種設備の調査等を細部まで進め全体的なブラッシュアップを図る必要がある。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1110D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　①博物館の施設設備の整備

【年度計画】
(4館共通)
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を行う。
(九州国立博物館)
1)開館から10年が経過し、監視カメラ等の施設設備備品に老朽化がみられる。よって展示施設の維持管理を目的とした改修及び拡充を行う。

担当部課	学芸部文化財課 学芸部企画課 総務課 広報課	事業責任者	課長　冨坂　賢 課長兼文化交流展室長　河野一隆 課長　菅原秀倫 課長　古川晶一

【実績・成果】
(4館共通)
1)収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を行った。
(九州国立博物館)
1)監視カメラについて、特別展の開催していない時期に、展示室、エントランスを中心に監視カメラ設備をアナログ仕様からデジタル仕様に更新した。長期修繕計画の検討委員会を立ち上げ、10年整備計画を策定するとともに、30年以降の詳細な実施計画の検討を行った。

【補足事項】
・映像・音響設備の老朽化のため、6面マルチスクリーンの第7室を通常の展示室に改造した。中央にあった「柱立て祭り」の造作を撤去し、単体ケースを配列して作品展示のできる空間とした。部屋名は、「アジアを旅する」とした。
・当館では、展示に使用する各種の台(「展示台」)を管理するためのシステムを導入している。しかし、制御するOSが対応しなくなったため、システムそのものを書き換えた。その結果、読み取り速度や作業の安全性が向上し、展示運営に不可欠な台の管理コストが大幅に軽減された。とくに、展示完了後に作品に触れることなく展示台登録ができるようになったことは、大きな前進である。

第7室(改造後)

展示台システム更新

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 監視カメラの交換等を行い、長期保守計画を見据えた将来への投資を行うことができた。また収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けて検討を行い、10年修繕計画を策定した。

【中期計画記載事項】
施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を32年度までに構築し、継続的に発展させる。
(九州国立博物館)
開館から10年が経過しており、監視カメラ・空調システム等の施設設備備品に老朽化がみられる。よって展示施設の維持管理を目的とした改修等計画を推進する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 監視カメラの交換等を行った。また、開館から10年が経過したこともあり、施設整備の必要性が増したため、メンテナンスサイクルの検討を行い、10年整備計画を策定した。中期目標の達成にむかって順調に進んでいる。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1121A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　1)有形文化財の収集

【年度計画】
（東京国立博物館）
日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的収集及び展示を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長　救仁郷秀明

【実績・成果】
・購入件数 11件　内訳：絵画 1件、書跡 2件、東洋書跡 1件、東洋陶磁 1件、東洋染織 6件
・決算額　662,350,000円

28年度は、絵画1件 重要文化財「准胝仏母像」、書跡2件 重要文化財「書状」、「無量義経十功徳品第三断簡（愛知切）」東洋書跡1件「行書陶淵明帰去来図画賛軸」、東洋陶磁1件「青花雲龍文方壺」、東洋染織6件「白木綿地立涌メダイヨン文様更紗（鬼手）」「白木綿地花唐草シヴァ神文様更紗」「白木綿地火焔菱鋸歯文様更紗」「白木綿地菱メダイヨン花唐草ペイズリー文様更紗」「ヨーロッパ更紗夜具 緑木綿地花文様（蝋引更紗）」「サロン白木綿地スエズ運河オランダ海軍船文様バティック」の計11件を購入した。

【補足事項】
・重要文化財「准胝仏母像」は、彩色画として2点しか知られていない12世紀の准胝仏母像の一つであり、最も院政期の仏画らしい優美さを示す優品である。
・重要文化財「書状」は、和様の書を大成した藤原行成筆の唯一現存する書状である。当館所蔵の国宝「白氏詩巻」（B-2533）と本書状を合わせ、書を研究する上で最も重要な作品といえる。書としても歴史資料としても、当館の特別展や総合文化展で大いに活用できるものである。
・「青花雲龍文方壺」は景徳鎮窯の青花磁器であるが、皇帝のみに許された五爪の龍を配したものは大変貴重であり、展示や研究に活用できる。
・インド等更紗は、大判で展示映えするだけでなく、大変状態の良い作品であるため、状態のあまり良くない当館収蔵品の代わりに展示に活用することができる。

［購入品］重要文化財
書状　藤原行成筆

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
収蔵品件数	117,190件	－	－		114,362	115,653	116,268	116,932
うち国宝	88件	－	－		87	87	87	87
うち重要文化財	636件	－	－		631	633	634	634
収集件数	199件	－	－		465	1,291	615	664
うち購入件数	11件	－	－		5	5	9	16
うち寄贈件数	44件	－	－		63	471	100	148
うち編入件数	144件	－	－		397	815	5069	500
文化財購入費	662,350千円	－	－		106,050	123,950	139,686	225,880

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	28年度はまとまった購入予算を確保することができたため、重要文化財「書状　藤原行成筆」など2件を含め、当館の展示・研究に活用できる、高水準の作品を購入することができた。

【中期計画記載事項】
体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（東京国立博物館）
日本を中心にして広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	時代・地域・分野に偏りなく、「青花雲龍文方壺」やインド等更紗など日本を中心に広くアジア諸地域等にわたる作品を収集し、中期計画の初年度として順調な成果を上げることができた。次年度も引き続き情報収集等に努め、効果的な収集を図る。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1121B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　1)有形文化財の収集

【年度計画】
（京都国立博物館）
京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　宮川禎一

【実績・成果】
・購入件数14件　内訳：絵画3件、書跡1件、彫刻1件、金工1件、陶磁3件、漆工1件、染織2件、歴史2件
・決算額　130,088,000円

28年度は、絵画3件「蝦蟇河豚相撲図　伊藤若冲筆　1幅」「耕作図屏風　狩野永良筆　6曲1隻」「墨花争奇図巻　大岡春卜筆　2巻」、書跡1件「賀茂御祖神社関係文書　5巻」、彫刻1件「行道面　菩薩　1面」、金工1件「重要文化財　金熨斗刻鞘大小拵　1腰」、陶磁3件「色絵松梅文徳利　1口」「五彩花鳥文魁文字鉢　1口」「五彩印判手楼閣山水文大皿　1対」、漆工1件「水葵蒔絵螺鈿菓子箪笥」、染織2件「有職雛　直衣姿　1対」「雛道具　貝桶・合貝　1対」、歴史2件「甲寅記事画巻　平山省斎題　1巻」「異国船図巻　1巻」を購入した。

【補足事項】
・絵画購入品の「蝦蟇河豚相撲図　伊藤若冲筆　1幅」は、特集陳列「生誕300年　伊藤若冲」において展示に活用できた。
・金工購入品の「重要文化財　金熨斗刻鞘大小拵　1腰」については、重要文化財に指定された大小拵は本件を含めて4件しかなく、その存在は極めて貴重である。また当館は大小拵を1件も収蔵していないため、本件の収蔵により、当館の刀剣・刀装具のコレクション、およびその展示活用・研究の一層の充実が強く期待される。
・歴史購入品の「甲寅記事画巻　平山省斎題　1巻」は特別展覧会「没後150年 坂本龍馬」にて展示された作品である。

購入品「蝦蟇河豚相撲図　伊藤若冲筆」

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
収蔵品件数	7794件	−	−	経年変化	6,708	6,721	7,109	7,532
うち国宝	28件	−	−		27	27	27	28
うち重要文化財	198件	−	−		179	179	180	183
収集件数	265件	−	−		87	13	388	423
うち購入件数	14件	−	−		1	0	9	18
うち寄贈件数	251件	−	−		86	13	379	405
うち編入件数	0件	−	−		0	0	0	0
文化財購入費	130,088千円	−	−		22,000	0	227,452	797,790

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	「重要文化財　金熨斗刻鞘大小拵　1腰」を含む、当館の展示・研究に寄与する作品14件購入することができた。

【中期計画記載事項】
体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（京都国立博物館）
京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	28年度は、京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等について順調に購入し、展示・研究に役立てることができた。 今後も展示・研究に寄与する作品の購入を順次行っていく予定である。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1121C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　1)有形文化財の収集

【年度計画】
（奈良国立博物館）
仏教美術及び奈良を中心とした絵画、彫刻、書跡、工芸品、考古資料、歴史資料等の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤 栄

【実績・成果】
28年度に購入した文化財は以下の2件である。
・西大寺伝法灌頂私記　末　1巻
・般若心経および維摩経問答（法隆寺伝来）　1巻

【補足事項】
購入品のうち西大寺伝法灌頂私記末1巻は、紙本墨書、巻子装で、鎌倉時代末に作成された写本。書かれている内容は、西大寺を中興した興正菩薩叡尊が、正嘉2年（1258）3月に弟子の総持と栄真に伝法灌頂を授けた際の儀式次第で、叡尊の周辺にいた別の僧侶が、2年ほど後の正元2年（1260）に現在の形にまとめた。伝法灌頂は、密教における秘儀であることもあり、その詳細を伝える資料はあまり多く残されていない。しかも残っている資料は江戸時代以降の新しい写本が大半で、本品のように14世紀まで遡る写本はきわめて貴重なものと言える。

〈写真〉西大寺伝法灌頂私記　末（巻末）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
収蔵品件数	1,886 件	−	−		1,834	1,862	1,877	1,883
うち国宝	13 件	−	−		13	13	13	13
うち重要文化財	112 件	−	−		111	111	111	112
収集件数	3 件	−	−		3	28	15	6
うち購入件数	2 件	−	−		2	3	15	4
うち寄贈件数	1 件	−	−		1	25	0	2
うち編入件数	0 件	−	−		0	0	0	0
文化財購入費	5,040 千円	−	−		27,300	40,350	261,960	140,400

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
仏教美術に重点をおいた適時な収集を実施できた。件数では、過去2ヶ年度より少ないものの24・25年度とは同程度であり、予算に応じた適切な収集と判断される。本年度は年度計画に挙げた分野のうち書跡のみの文化財購入となったが、次年度以降は多分野での収集に取り組む。

【中期計画記載事項】
体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（奈良国立博物館）
仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
仏教美術を中心とした文化財を収集することができている。次年度は予算の増額が予定され、本年度より多くの品を収集できる見込みである。中期計画の期間全体でバランスのとれた収集となるよう、購入候補品を選定していく。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1121D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　1)有形文化財の収集

【年度計画】
（九州国立博物館）
日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　冨坂　賢

【実績・成果】
・購入件数36件　内訳：絵画9件、書跡2件、陶磁3件、漆工1件、染織2件、考古4件、歴史資料15件
・決算額640,412,000円
当館のテーマである日本とアジア諸国との文化交流の足跡を示す作品を収集した。作品として「泰西風俗図屏風」「花鳥図(ビオンボ)」、「青花吹墨玉兎文皿」「緑地山道文金更紗茶具敷」など優れた文化財を、あわせて36件購入した。

【補足事項】
・絵画分野では9件を購入した。「泰西風俗図屏風」は描写の丁寧さから高い評価を受けている南蛮美術の大作、「老人読書図」は筆者が特定できる類まれな作例で、いずれも初期洋風画を代表する作品である。
・書跡分野では2件を購入した。「継色紙」は散らし書きの妙が特筆される著名な古筆切。重要文化財の本作品「われみても」は料紙が3頁に及び、後水尾院が紀貫之筆と鑑定したことが箱内の資料から判明する出色の作例である。
・陶磁分野では3件を購入した。日本向けに景徳鎮窯で製作された古染付「青花吹墨玉兎文皿」、鍋島焼隆盛期の作例で5枚1組という希少な「色絵紅葉流水文皿」など、日本における陶磁製作の代表地である九州にふさわしい作品を購入した。

泰西風俗図屏風

・染織分野では2件を購入した。「緑地山道文金更紗茶具敷」は当館が積極的に収集している更紗の優品で、茶具敷に転用された。「人物・動物文更紗祭礼布」はインド更紗の大作で、南インドの宮廷生活を描く希少な作例である。
・考古分野では4件を購入した。「壺形土器」は縄文土器編年の基準である十腰内Ⅰ式土器の中での優品で彩色の残りもよい。また「注口土器」も縄文土器基準作である新地式の完形品として貴重である。
・歴史資料分野では15件を購入した。古典籍・古文書、絵図・地図、洋書などバランスよく購入した。このうちリンデン伯「日本の思い出」は幕末の長崎市街の様子を色彩豊かに描いた大判の石版画で、原装をとどめている点でも貴重である。
・いずれも、日本と大陸の文化交流を物語る作例、あるいは時代の美意識や工芸技術の高さを示す優品である。
・収蔵品のうち「花鳥蒔絵螺鈿聖龕」「絹本著色仏涅槃図　命尊筆」の2件が重要文化財に指定された。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
収蔵品件数	583件	－	－	経年変化	474	493	512	525
うち国宝	3件	－	－		3	3	3	3
うち重要文化財	37件	－	－		29	29	29	34
収集件数	58 件	－	－		21	19	19	13
うち購入件数	36件	－	－		18	15	14	5
うち寄贈件数	22件	－	－		3	4	5	8
うち編入件数	0件	－	－		0	0	0	0
文化財購入費	640,412千円	－	－		718,835	727,528	727,228	609,288

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	「継色紙(われみても)」など国立博物館として収集すべき作品と、「泰西風俗図屏風」「老人読書図」「花鳥図巻」など文化交流を端的に示す作品とを、バランスよく収集した。所蔵者との信頼関係に支えられ、例年以上に購入件数が増加した。

【中期計画記載事項】
体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。
（九州国立博物館）
日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	文化交流を端的に示す作品を、バランスよく収集した。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1122A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
(4館共通)
寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。また、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長　救仁郷秀明

【実績・成果】
1)○寄贈
・新規寄贈品件数　44件
　内訳：絵画　3件、書跡　6件、考古　3件、歴史資料　1件、東洋絵画　4件、東洋民族　27件
○寄託
・新規寄託品件数　37件
　内訳：絵画　3件、書跡　2件、彫刻　1件、刀剣　19件、陶磁　1件、染織 1件、東洋絵画　1件、東洋陶磁　9件
・寄託品は新規に37件を受け入れ、返却34件のうち2件の寄贈を受理し、4件を登録美術品3件として受け入れた。

【補足事項】
○寄贈
・作品の寄贈については15名の所蔵者から、44件の文化財を受け入れた。
・「玄奘三蔵像」は、現存作例のみでなく図像などでも類例のほとんどないこの種の画像の受容を考える上で、貴重な作例である。
・インドネシアの伝統芸能としてユネスコの無形文化遺産としても登録されている影絵芝居の人形、「ワヤン・クリ」のまとまったコレクションの寄贈を受けた。「ワヤン・クリ」は22年にも寄贈を受けており、近年飛躍的に充実が進んでいる。
・制作当初のタンカの形態をそのままうかがうことができ、制作年代が遡るチベットタンカの完好な遺例を含む、希少性の高いチベット仏教絵画の寄贈を受けた。当館収蔵品の欠落を埋め、さらに充実させることができた。
・インド細密画(一括89件)は、多岐にわたる内容を持ち、また取得地域・年代も明らかなことから、まとまったコレクションとして貴重であり、当館におけるインド細密画の展示を充実させることができた。
○寄託
・作品の寄託については1機関4個人から、37件の文化財を新規に受け入れた。
・寄託品のうち、重要文化財は「鵜飼図屏風」など絵画1件、書跡1件、東洋陶磁1件である。

［寄贈品］
玄奘三蔵像　1幅

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経	24	25	26	27
新規寄贈品件数	44件	−	−	年	63	471	100	148
寄託品件数	3,075件	−	−	変	2,563	2,519	3,064	3,072
うち新規寄託品件数	37件	−	−	化	3	20	604	31

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新規寄託の重要文化財3件を含め、寄贈、寄託ともに、東洋民族・東洋絵画分野において収蔵品の不足部分を補う質の高い内容となった。また、寄託品件数も順調に推移している。

【中期計画記載事項】
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に基づき寄贈・寄託品の受け入れをバランスよく行い、寄託品の件数を維持するなど、順調に成果をあげている。今後も外部の個人コレクターや社寺等との信頼関係を維持・拡大し、寄贈・寄託の推進に努める。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1122B

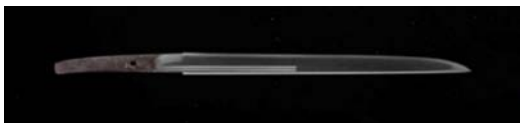
中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
(4館共通)
寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。また、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　宮川禎一

【実績・成果】
○寄贈
新規寄贈品件数　251件
内訳：絵画「花鳥図屏風」等 23件、書跡35件、彫刻「神像」等 2件、金工29件、陶磁142件、漆工7件、染織「雛道具」等 8件、歴史資料5件、
○寄託
新規寄託品件数　227件
内訳：絵画「垣豆群蟲図　伊藤若冲筆」等 76件、書跡14件、彫刻「銅造神将形立像」等 6件、金工12件、陶磁89件、漆工18件、染織2件、考古5件、歴史資料「幕末明治期瓦版錦絵類」等 5件

【補足事項】
○寄贈
・寄贈は251件で、寄贈者は18名である。
・寄贈品のうち、絵画2件、書跡1件、彫刻1件、陶磁142件、漆工7件、染織3件、歴史資料4件については、大阪府貝塚市で江戸時代から続いた商家から、27年度に引き続き寄贈されたものである。29年度には、これまでの受贈作品を一同に展示する特別企画を平成知新館において開催する予定である。
・金工29件のうち20件は、大阪府の愛刀家蒐集一族からの寄贈で、「重要文化財　短刀　銘吉光（名物秋田藤四郎）1口」、「重要文化財　短刀　銘相州住秋広／永和二　1口」、「重要文化財　短刀　銘左／筑州住　1口」といずれも貴重な作品を含んでいる。29年度には、同愛刀家が蒐集した名刀の数々を一同に展示する特集展示を平成知新館において開催予定である。



寄贈品「重要文化財　短刀　銘吉光（名物秋田藤四郎）1口」

○寄託
新規寄託のうち指定品は、「重要文化財　仏涅槃図　1幅」、「重要文化財　普応国師像　1幅」である。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
新規寄贈品件数	251件	−	−		86	13	379	405
寄託品件数	6,189件	−	−		5,914	5,892	6,001	6,112
うち新規寄託品件数	227件	−	−		73	70	162	232

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
重要文化財3件を含む当館の平常展示に寄与する作品、寄贈251件、寄託227件を受け入れることが出来た。また、寄贈作品のうち歴史資料1件と、寄託作品のうち歴史資料5件は、特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」にて展示した。

【中期計画記載事項】
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画期間初年度において寄贈、寄託の受入を積極的に行い、収蔵品を順調に充実させることができた。
既存の寄託品についても積極的に展示し活用することができた。28年度は、29度以降の展示計画において有用な作品を受け入れることができ、今後の展示の充実が一層期待できる。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1122C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
(4館共通)
寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。また、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤 栄

【実績・成果】
・寄贈
本年度に寄贈を受けた文化財は下記の1件であった。
絹本著色仏涅槃図　　一幅

・寄託
新規に寄託を受け入れた文化財は34件であった。主な寄託品は以下の通りである。
重要文化財　絹本著色八字文殊菩薩像及八大童子
善財童子像　一幅　個人
笙　頼尊作　一管　談山神社
無本覚心墨跡　偈頌　一幅　興国寺
絹本著色春日赤童子像　一幅　個人
銅造仏手　一個　新薬師寺

【補足事項】
・寄贈を受けた「絹本著色仏涅槃図」は、南北朝時代に描かれたもの。奈良県斑鳩町高安の高安村涅槃講に伝来した。高安の地では、涅槃会が江戸時代から継続して毎年執行され、本品はその本尊画像として伝えられてきた。このたび涅槃講が解散するにあたり当館への寄贈の申し出があり、仏教絵画としても優れ、また在地での祭礼行事の実相を示す史料としても価値が高く、寄贈を受け入れることとなった。

寄託鑑査風景

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
新規寄贈品件数	1件	−	−		1	25	0	2
寄託品件数	1,958件	−	−		1,951	1,994	1,984	1,956
うち新規寄託品件数	37件	−	−		13	49	7	7

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新規寄託の受け入れについては、26年度・27年度と比較して、大幅に件数を増やすことができ、実績を上げることができた。また、寄託を受けた文化財を28年度の特別展で早速展示するなど、活用の面でも成果を残すことができた。

【中期計画記載事項】
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新たに寄託を受けた文化財は平常展での活用が見込まれるものであり、寄贈・寄託の積極的な活用するという中期計画に沿った実績を上げることができた。また、新規寄託品の件数からみても中期計画は順調に進んでいる。今後もこれまで通り文化庁や地元教育委員会等多方面と連携し、新規寄託の増加と継続的寄託に努める。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1122D

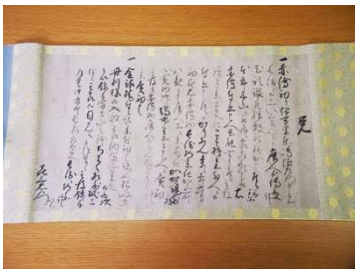
中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　②有形文化財の収集等　2)寄贈・寄託品の受入れ等

【年度計画】
(4館共通)
寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。また、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　冨坂　賢

【実績・成果】
寄贈
・22件の新規寄贈があった。内訳：絵画9件、書跡1件、彫刻1件、金工3件、刀剣2件、陶磁1件、考古3件、歴史資料2件
・書跡分野では1件の寄贈があった。盤珪永琢は、長崎に渡来した黄檗僧・道者超元に悟りを認められ、以後「不生禅」を提唱した近世前期の名僧。本作品は、盤珪永琢の禅を象徴する「不生」の2字を自筆で横に大書したものである。
・彫刻分野では1件の寄贈があった。「仏頭」は北魏時代5-6世紀、山西省雲岡石窟将来とされる、砂岩製の浮彫である。長らく寄託品として陳列に活用していたが、今回寄贈を受けた。
・考古分野では3件の寄贈があった。「大分県丹生川遺跡出土品」は弥生時代前期から中期にかけての石製品などである。「土馬」は「都城型」に分類される手づくねの土製品で、律令祭祀で用いられた。
・歴史資料分野では2件の寄贈があった。「両替天秤・分銅」は、天秤竿、天秤皿、分銅24個からなる。いずれも江戸幕府公認の座元で鋳されたことが刻印から判明する。
寄託
・44件の新規寄託があった。内訳：絵画3件、書跡4件、彫刻1件、金工3件、刀剣5件、考古26件、歴史資料2件。
・絵画分野では3件の寄託があった。「十一面観音像」は密教尊像の1つで、鎌倉時代13-14世紀の作例ながら、古密教の様式を伝える貴重な作品。福岡・千眼寺からは「十八羅漢図巻」「渡海羅漢図巻」の黄檗絵画の寄託を受けた。
・金工分野では3件の寄託があった。長崎・聖福寺からは、和韓中の混交を様式に示す「銅鐘」の寄託を受けた。
・考古分野では26件の寄託があった。当館近在の宝満山遺跡群から採取された瓦、土製品、陶器類などからなる。
・歴史資料では2件の寄託があった。「酒井田家文書」は有田・酒井田柿右衛門家に伝来した古文書群73点からなる。慶長20年、博多・承天寺住職から初代柿右衛門の父円西に宛てた書状は、すでに酒井田家が陶業に関与していたことが判明する等、九州陶磁史の第一級の史料群である。

仏頭


酒井田家文書

・多分野にまたがる「筑前國一之宮住吉神社奉納品」の寄託を受けた。

【補足事項】
福岡市美術館の耐震補強改修を受け、古美術品を中心とした約4,000点を当館第8収蔵庫に、28年12月から30年1月まで保管、併せて文化交流展示において713点を活用することとなった。(協約書を取り交わし、受入形態は借用)
また、宮内庁正倉院事務所から、明治期に正倉で実際に使用されていた陳列棚2基(伊藤博文が英国に発注し製作させたもの)と代々正倉の屋根を葺いた瓦13点を借用した。陳列棚は、バックヤードツアー参加者などが廊下側から収蔵庫内が覗ける小窓を通して観られる位置に配置した。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
新規寄贈品件数	22件	−	−		3	4	5	8
寄託品件数	905件	−	−		1,238	1,081	795	885
うち新規寄託品件数	44件	−	−		30	15	12	97

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	文化交流を主軸に据えた寄託品・寄贈品の受入を、分野のバランスよく行うことができた。特に館蔵品の少ない彫刻分野の優品の寄贈を受け入れることができた。

【中期計画記載事項】
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	文化交流を主軸に据えた寄託品・寄贈品の受入を、分野のバランスよく行うことができた。増数は寄託者・寄贈者とのこれまでの地道な信頼関係の賜物である。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1131A1

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　1/2

【年度計画】
(4館共通)
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。
(東京国立博物館)
ア　収蔵品及び一時預品の情報調査を継続して行う。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長　救仁郷 秀明

【実績・成果】
(4館共通)
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行った。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行った。

(東京国立博物館)
ア　収蔵品及び一時預品の情報調査を継続して行った。

【補足事項】
(4館共通)
ア　本館改修工事に伴って列品を移動・収納するための新規収蔵庫棟の基本設計、基本仕様を検討した。

(東京国立博物館)
ア　一時預品の調査確認作業(リスト作成、画像撮影)が捗り、成果を文化財情報システム（業務システム）に反映すべく検討を重ねた。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
収蔵施設の収容率	180%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新規収蔵庫棟の基本設計・基本仕様の検討、寄託品の所在確認作業、収蔵品及び一時預品の情報調査を実施し、順調に成果を上げている。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、（中略）展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。（略）

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に基づき順調に成果をあげている。特に、収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を滞りなく進めることができた。今後は、新規収蔵庫棟の実施設計、作品移動の計画立案も進める必要がある。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1131A2

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　2／2

【年度計画】
（4館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
（東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館）
ア　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
（東京国立博物館）
イ　歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板･館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用･公開するための作業を進める。
ウ　外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）の構築を進め、博物館機能の充実を図る。
エ　収蔵品の和古書・洋古書のデジタル化を前中期目標の期間の実績の年度平均以上実施し、公開を推進する。
オ　ガラス乾板・未整理のブローニー・スライド・写真カード等のデジタル化について検討する。

担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸研究部列品管理課	事業責任者	博物館情報課長　田良島哲 列品管理課長　救仁郷秀明

【実績・成果】
（4館共通）
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像は画像管理システムに随時登録し、データ整備を推進した。
（東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館）
ア　「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新した。
（東京国立博物館）
イ　歴史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用･公開するための作業を進め、134件を編入した。
ウ　「列品管理プロトタイプデータベース」について、一時預かり品に関する手続きを支援する機能を検討し、試験的に実装した。また収蔵品データの外部への公開に向けた機能改善を行った。
エ　収蔵する和古書・漢籍について20,224件、洋古書について5,110件のデジタル撮影を行なった。
オ　未整理のブローニーフィルムのデジタル化に向けて、データ整備を実施した。未整理フィルムにマイクロフィルムを数カット毎に切断してスリーブに保管したものがあることを確認し、デジタル化の方法を検討した。

【補足事項】
（東京国立博物館）
ウ　「列品管理プロトタイプデータベース」内の収蔵品データの公開に向けて、収蔵品の情報調査の成果を反映するとともに、当館ウェブサイト上に公開している総合文化展の展示作品リストとのデータの異同を効率的に確認するためのソフトウェアを開発した。
エ　和古書･洋古書及び漢籍のデジタル画像を公開する「東京国立博物館デジタルライブラリー」において、612件1,021冊分の画像を公開している。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数	25,334件	24,471件	B		8,964	22,095	36,811	30,013
和古書・漢籍	20,224件	－	－		7,083	18,357	25,991	13,924
洋古書	5,110件	－	－		1,881	3,738	10,820	16,089

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 順調に成果をあげている。デジタル撮影した画像の登録、及び「列品管理プロトタイプデータベース」におけるデータの更新により、収蔵品に関するデータ整備を推進することができ、また和古書・洋古書・漢籍のデジタル撮影を行うなど、年度計画どおりに事業を実施することができた。また、旧資料部関係品のうち、歴史資料の編入が28年度で完了した。

【中期計画記載事項】
（略）収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき順調に成果をあげている。収蔵品に関する画像及びデータベース上のデータ整備に推進により、展示・調査研究等の業務に活かすことができた。和古書･洋古書･漢籍についても前中期目標の期間の実績以上とすることができた。今後もデータ整備を推進して博物館における情報公開を充実させたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1131B1

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　1/2

【年度計画】
(4 館共通)
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　宮川禎一

【実績・成果】
(4 館共通)
ア・　平成知新館収蔵庫内の収蔵スペースを確保するため、29 年度設置予定の試作棚の製作を外部に依頼し、収蔵施設の充実、改善に向けた検討を行った。製作業者と改良点については協議・対応済みで、完成した試作棚は、29 年度に考古の収蔵庫に設置予定であり、29 年度以降順次、各分野の収蔵庫に応じた収蔵棚設置を検討・設置し、収蔵スペースの確保を図っていく予定である。
・　収蔵品・寄託品の適切な管理のために「環境モニタリングシステム」を活用し、平成知新館の温室度環境の維持・改善に役立てた。
イ　毎年度 2 回行う寄託品の期間継続手続きにあわせて、寄託品の所在確認作業を行った。
また、収蔵品・寄託品に関し、必要に応じて文化財情報システムを適宜修正した。

【補足事項】

(収蔵庫試作棚：上部2段が新しく設置する部分)

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
収蔵施設の収容率	100%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	収蔵スペース確保のために、既存の収蔵棚の上部に新たに棚を設けた収蔵棚の試作品を製作した。完成した収蔵棚を考古の収蔵庫に設置する段階までに至った。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略) 展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。(略)

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に沿って、環境モニタリング等のデータを活用し、展示・調査研究等の業務に活かすことができた。収蔵スペース確保のために、外注で試作棚を製作し、実際の収蔵庫に設置出来る状況に仕上げた。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1131B2

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　2/2

【年度計画】
(4館共通)
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
ア　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
(京都国立博物館)
ア　収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を前中期目標の期間の実績の年度平均以上実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　宮川禎一

【実績・成果】
(4館共通)
ウ・収蔵品・展覧会出品作品等の新規撮影は、デジタル撮影を5,710件（カット）行った。
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
ア・収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システムへ登録した。(28年度登録件数：23,066件)
(京都国立博物館)
ア・収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を継続し、5,820件実施した。
・フィルム用スキャナを継続して運用しつつ、外部委託による既存フィルムのデジタル化を進め、28年度は4,493枚デジタル化を行った。
・継続してマイクロフィルムのデジタル化を進めており、28年度は107リール（57,252コマ）のデジタル化を行った。
・継続してガラス乾板のデジタル化を行っており、28年度は1,220枚デジタル化を行った。
・購入、寄贈、寄託等に伴い、文化財情報システムの収蔵品データを適宜更新し展示・調査研究の業務に役立てた

【補足事項】
(4館共通)
ウ・当館の展覧会出品作品の撮影は、特別展覧会 「没後150年　坂本龍馬」(10月15日～11月27日)、
特別展覧会「開館120周年記念特別展覧会　海北友松」(29年4月11日～5月21日)を対象として進めた。
・特集陳列について、ポスター・チラシ・リーフレット作成のため、作品の撮影を行った。
・松井宏次氏寄贈作品（松井コレクション）・貝塚廣海惣太郎家コレクション等を含めた収蔵品の撮影を行った。
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
ア・27年度に引き続き、文化財情報システムの改修を行い、登録業務の改善を図った。
(京都国立博物館)
ア・引き続き外部委託とともに当館職員によるスキャニング作業を積極的に行い、
費用削減を図りながら、フィルムのデジタル化を促進した。
・館内では実施不可な8×10、5×7 フィルム、及び所蔵枚数の多い
6×12 フィルムのスキャニング業務に係わる一般競争入札を行った。
総合評価落札方式を採択したことにより費用削減とともにスキャニングデータの
品質保全を図ることができた。

収蔵品の撮影風景

・ガラス乾板は、京都造形芸術大学の協力の下、保存整理作業も続けて行っており、
28年度は四切サイズ中心に状態調査を行い、スキャニング作業は27年度から引き続き四切サイズを中心に行った。
・フィルムの保存状態改善のため、保存に適した収納箱への移し替えを継続して行った。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（既存フィルム）	5,820件	3,816件	A		2,732	2,682	5,536	5,966

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新規撮影5710件及び文化財システムへの登録を23066件は滞りなく実施することができた。大判フィルムスキャニングの外注委託において、総合評価落札方式の入札を採択したことにより、費用削減とともに館内では作業できなかった大判フィルムデジタル化に着手することができ、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させることができた。

【中期計画記載事項】
(略) 収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 大判フィルムスキャニングの外注委託において、一般競争入札（総合評価落札方式）により費用削減を図り、フィルムのデジタル化を積極的に行うことで、管理に必要なデータを整備し、順調に事業を実施できた。今後は8×10、5×7フィルムを中心にデジタル化を進めていきたい。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1131C1

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　1/2

【年度計画】
(4館共通)
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤　栄

【実績・成果】
(4館共通)
ア　・梱包用資材置き場を収蔵庫（資料庫C）として転用した。
　　・写真事務員の執務室の移転に伴い、同室を一時保管庫として転用すべく内装、照明等電気設備、空調設備、ドアのセキュリティ強化等の改修を行った。
イ　寄託品の所在確認作業に先立ち、館蔵品及び寄託品件数の見直しを実施した。過去の所在確認作業実績が当館のデータベースに正確に反映されているか、過去の確認記録との突き合わせを実施した。

【補足事項】

写真事務室を改修し、一時保管庫として転用

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
収蔵施設の収容率	99%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	館内スペースや事務室の配置見直しにより一時保管庫を確保した。これにより特別展等での作品保管場所が増加し、既存の収蔵庫を兼用するリスクを減らすことができた。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、（中略）展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。（略）

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	施設の増床が今後見込めない中、27年度からの検討に基づき小スペースではあるが、収蔵スペースを増加することができ、中期計画は順調に進んでいる。29年度以降も収蔵品等の定期の現状確認により管理の徹底を図る。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1131C2

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　2/2

【年度計画】
(4館共通)
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
ア　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
(奈良国立博物館)
ア　収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。
イ　画像データベースの個別データを追加更新する。
ウ　修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討する。
エ　収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を前中期目標の期間の実績の年度平均以上実施する。

担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長　宮崎幹子

【実績・成果】
(4館共通)
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進した。
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
ア　文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新した。
(奈良国立博物館)
ア　収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図った。
イ　画像データベースの個別データを追加更新した（4,936 件)。
ウ　修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討した。
エ　収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した（3,081件)。

【補足事項】
館蔵のカラー原板以外にも、ガラス乾板の整理作業を継続して実施している。28年度はガラス乾板のデジタル化、リストの作成とともに、クリーニングと保存箱への封入作業を一部に対して行った。これらは館の歴史資料として、初期の文化財写真の実例として、大変貴重なものである。今後とも、保存環境に配慮した整備と公開を見据えたデジタル化に向けて尽力していきたい。

館蔵ガラス乾板
獅子窟寺　薬師如来坐像

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（既存フィルム）	3,081件	5,373件	D		4,924	7,615	5,154	3,875

【年度計画に対する総合評価】 評定：C	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、既存カラーポジフィルムのデジタル化を数値として従来からあげている。既存カラーポジフィルムのデジタル化は28年度で概ね終了の見込みであるため、実績の数値は例年より少なくなっている。

【中期計画記載事項】
（略）収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：C	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、既存カラーポジフィルムのデジタル化を数値として従来からあげているが、既存カラーポジフィルムのデジタル化は28年度で概ね終了の見込みであり、当初の目標は達成されている。今後のデジタル化の指標としては、デジタル撮影の件数等をあけていくのがふさわしいかと思われる。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1131D1

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　1/2

【年度計画】
(4館共通)
ア　収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。
イ　定期的に寄託品の所在確認作業を行う。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　冨坂　賢

【実績・成果】
ア　収蔵庫に入りきらず館内の一般倉庫(3階大倉庫247㎡、4階倉庫176.7㎡、4階倉庫116.4㎡)に分置している資料に「建築模型」(東京国立博物館・奈良国立博物館・国立歴史民俗博物館からの長期管理換)と「教育参考資料」(準列品扱い)があったが、「建築模型」については金沢工業大学を新たな貸与先とする計画をまとめ、全量を移送した。
これに伴い3階、4階の各倉庫を改修し、「教育参考資料」を集中的に保管する場所を整備した。引き続き「建築模型」を保管していた当館第5及び第7収蔵庫の整備を29年度に実施する計画を立てた。
また福岡市美術館の耐震補強改修を受け、古美術品を中心とした約4000点を、28年12月から30年1月まで保管、併せて文化交流展示において713点を活用することとなったことを受けて、当館第8収蔵庫を専用保管庫とする作業を行った。(具体的な作業は1122Dを参照)
イ　年2回行う寄託品の継続手続きに合わせて、所在確認作業を実施した。

【補足事項】
ア

建築模型を当館から 10 トントラックに積み込み搬出している様子

整備後の 4 階倉庫の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
収蔵施設の収容率	80%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 「建築模型」ならびに「教育参考資料」を移動することで新たに収納スペースを確保し、新たに借用した福岡市美術館の作品の受入、「教育参考資料」の集中的保管を達成した。

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略) 展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 開館10年を経過して蓄積された収蔵品を整理して新たに収蔵環境をつくり出し、今後の収蔵品の増加に対応しても収蔵設備の充実、改善を図るための基盤が整備できた。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1131D2

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理　2/2

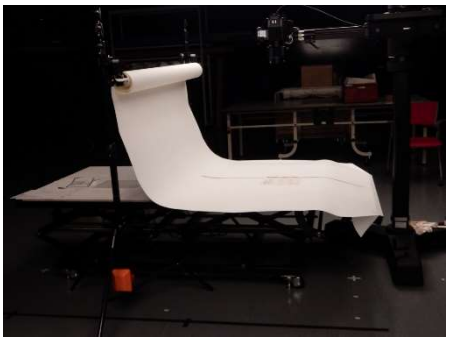
【年度計画】
(4館共通)
ウ　収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
(九州国立博物館)
ア　文化財情報（収蔵品データベース、寄託品・借用品データベース、画像データベース）の一元的管理が可能な業務システム構築を図る。

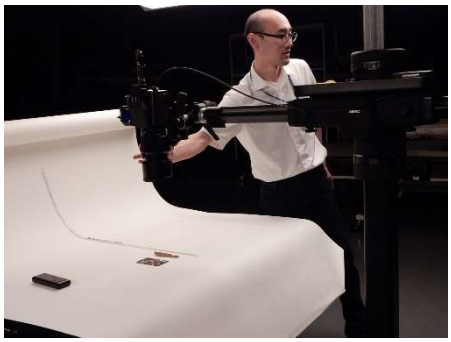
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　冨坂　賢

【実績・成果】
(4館共通)
ウ　専任撮影技師による1,517件（カット）の収蔵品・出品作品等の新規撮影および関連データを整備した。
(九州国立博物館)
ア　列品・寄託品・借用品・画像などの各データベースを一元管理するシステムを継続的に運用し、より効率的な管理のためのシステムの改修・整備を進めた。

【補足事項】
(4館共通) ウ

①特別展のための撮影


②新規導入の撮影台


③撮影台を利用した撮影

(九州国立博物館)
ア　28年度は業務システムの改修により基盤を整えつつ、これまで個々で管理されていたデジタルデータを統合し、業務システムで参照可能な状態にするための整備・登録作業も進めた。これにより、有形文化財に関する情報へのアクセシビリティを飛躍的に向上させることができた。引き続き、基盤強化と情報統合の両面の作業を進め、博物館活動を支援する体制の構築を目指す。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（既存フィルム）	（完了）		-	経年変化				

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新規のデジタル撮影を例年と同等に達成した。また「九州国立博物館文化財情報システム」を構築、運用を開始した。さらに、これまで蓄積された画像データに、新規撮影デジタルデータを加え、当館ウェブサイト「収蔵品ギャラリー」を一新した。

【中期計画記載事項】
（略）収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。（略）

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品等の情報を集中的に管理するシステムの基盤整備を達成し、今後展示、調査研究に活用していく方途が検討できることとなった。また、外部に文化財情報を発信していく基盤も整った。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1132A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
（4館共通）
ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）の徹底を図る。
イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（東京国立博物館）
ア　本館収蔵庫の整備計画の根拠となる環境情報の収集、解析、評価を行なう。
イ　収蔵品等の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。
ウ　収蔵・展示施設における地震対策に関わる調査研究を行なう。
エ　収蔵・展示施設の温湿度、空気汚染物質など保存環境に関する年次報告を整備する。
オ　輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　髙橋裕次

【実績・成果】
（4館共通）
ア　収蔵庫など316地点における生物生息状況を夏季に調査した。また、害虫防除のため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。
イ　本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として保存カルテを作成し、蓄積した。
（東京国立博物館）
ア　本館収蔵庫温湿度環境を収集し、それらの解析を行い、収蔵環境の特性把握と収蔵環境レベルの分類を行なった。
イ　収蔵庫及び展示室など308地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など11地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測し、蓄積した。
ウ　日本考古の資料に対して、安全性を高めた展示支持具を新たに設計した。
エ　収蔵庫、展示室など249ヵ所の温湿度、及び11地点の空気汚染物質濃度に関し年次報告書を整備した。
オ　収蔵品の貸与又は作品の借用に伴う輸送中に生じた振動及び衝撃に関する計測を実施し、40の計測データを収集した。

考古資料の展示支持具設計

【補足事項】

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 生物生息、温湿度、輸送中の振動、空気環境に関する調査と検証を実施し、本館、東洋館、平成館、資料館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館の4つの異なる建築物に関して、文化財を保存するための環境の整備またはそのための情報蓄積に役立てた。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を進めた。次年度は本館収蔵庫等への予算獲得を目指してこれら業務を継続したい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1132B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
（4館共通）
ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）の徹底を図る。
イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（京都国立博物館）
ア　平成知新館の長期的な保存環境の維持管理に関わる調査研究を行う。
イ　明治古都館・東収蔵庫の改修計画に役立てるため、各種環境データの収集などを行う。
ウ　フィルム保管庫、資料棟、文化財修理所、外部収蔵庫（KICK）も含めた、包括的な環境管理体制の構築を目指し、各種環境データの計測を継続する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　宮川禎一

【実績・成果】
（4館共通）
ア　館内外の関係者との連携を強化し、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）の徹底を図った。
イ　収蔵品の保存カルテを159件作成した。
（京都国立博物館）
ア　平成知新館では、毛髪式温湿度計と「環境モニタリングシステム」を併用した継続的な温湿度調査、網羅的な昆虫類生息調査、収蔵庫内等の真菌類調査、パッシブインジケータ・検知管類による空気環境調査を行った。
イ　使用が限定的となった明治古都館展示室・東収蔵庫についても、年間を通して温湿度調査を継続した。明治古都館収蔵庫は当面収蔵庫と使用が続くため、毛髪式温湿度計とデータロガーを併用した継続的な温湿度調査、昆虫類生息調査、真菌類調査を実施した。また、北収蔵庫は東収蔵庫の減築工事のため29年度の使用が制限されるため、外部委託による精密清掃を実施した。
ウ　前記の調査に基づいて、施設それぞれの特性・空調能力に応じ、季節にあわせた環境管理を行うことができた。文化財修理所では改修工事で清浄となった環境が維持されるよう入居工房と協力して虫菌害対策に取り組み、外部収蔵庫（KICK）では現地管理者と空調管理の報告体制を整えるなど、関係者との連携も強化することができた。
燻蒸庫故障に伴い、主に寄贈品を対象とした燻蒸は被覆燻蒸で実施し、エキヒュームSによる薬剤被覆燻蒸と、一部には低酸素殺虫処理を実施した。

【補足事項】

低酸素殺虫処理作業風景

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	貸与に伴う点検時を主体として行っている収蔵品の保存カルテを継続して行い、159件作成した。 適切な展示・保存環境の保持のため、機器を使用したモニタリングや委託調査のみではなく、調査結果の回覧、毛髪計の用紙交換、目視調査、設備点検などをあわせて実施することによって、包括的な環境管理体制の構築につなげることができた。保存等に関する調査研究の収集されたさまざまなモニタリングデータを今後どのように解析・蓄積するかが課題である。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	年間を通して、継続的に温室度や空気環境調査を行った。 文化財防災ネットワークにも関連して、災害時の調査研究も進めているが、28年度は専門家の講義の聴講や、他機関との情報交換・意見交換等に注力したため、29年度以降は実践的な調査・研究につなげたい。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1132C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
（4館共通）
ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）の徹底を図る。
イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（奈良国立博物館）
ア　展示施設及び展示ケースの温湿度管理について、無線ＬＡＮによるデータ管理システムを更に充実させる。
イ　展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。
ウ　収蔵・展示施設の適正な温湿度管理の徹底を図る。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（4館共通）
ア　文化財害虫生息状況を把握するため、館内の文化財の保管および展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置した。約2ヵ月に1度交換し、調査結果の蓄積並びに分析を行うことでIPMを推進している。また、文化財害虫の生息が危惧される古い展示ケース等に防虫シートを設置するとともに、展示施設の周囲への害虫忌避剤を散布した。掃除と防塵マット交換を定期的に実施し、収蔵庫周辺や調査室内等の衛生環境保持に努めている。
イ　保存修理指導で作製した文化財の写真添付が可能な作製フォームを用いて、96件の保存カルテを作成・保管した。
（奈良国立博物館）
ア　コンピューターの更新等を進め、データ管理システムの充実を図った。また、無線ＬＡＮによるリアルタイム温湿度管理システムを運用し、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示環境の変化について、監視並びに即時の対応を実施した。展覧会ごとに無線式温湿度センサーを設置し、継続した温湿度データの蓄積を図った。展示終了後には、データの分析を行い今後の参考資料とした。
イ　継続的に実施している展示ケース内の粉塵調査を正倉院展終了後の11月8日に実施した。また、展示ケースのシール部分の交換等を行い気密性の向上を図った。
ウ　西新館南側のエアカーテンを追加設置し、正倉院展での温湿度負荷の低減を図った。なら仏像館では、改修に伴い高気密展示ケースを導入し、展示環境が向上した。また、無線ＬＡＮ温湿度管理システムによる展示室温湿度の24時間リアルタイムモニタリングを進め、年間を通じて安定した温湿度環境を維持した。

【補足事項】
（4館共通）
ア　展示室、収蔵庫や文化財保存修理所等の館内150ヵ所に設置している文化財害虫調査用トラップを、学芸部研究員が当番制で2ヵ月に1回設置・回収を行った。回収したトラップに捕獲された虫の同定は外部業者に委託し、文化財害虫の種類や捕獲数に関する情報の蓄積を行った。この調査データをもとに、害虫被害が懸念される箇所を中心に忌避対策及び殺虫処置を実施した。併せて害虫発生を防ぐための清掃等による衛生環境の改善・保持などＩＰＭの実践につなげた。
（奈良国立博物館）
ア　機械式自動調湿装置を内蔵した展示ケースを使用することで、多数の観覧者による展示ケース内の急激な温湿度環境変化を緩和し安定した展示環境を保つことができた。

トラップの設置の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	27年度に引き続き、当初の予定通りに温湿度の管理、文化財害虫への対策等が実施でき、文化財の管理・保存が図られた。特に28年度は、西新館南側のエアカーテンの追加設置による温湿度負荷の低減、なら仏像館での高気密展示ケースの導入により展示環境の向上を図った。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	管理・保存のために、温湿度・生物生息等に対する計画的な対策を実施でき、中期計画は順調に進んでいる。29年度以降も展示・保存環境の把握に努め適宜の対応により文化財の維持・管理に努める。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1132D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等　2)有形文化財の保存

【年度計画】
（4館共通）
ア　収蔵品等の生物被害等を防止するため、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）の徹底を図る。
イ　収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（九州国立博物館）
ア　館内の温湿度・空気質・生物生息など保存環境に関するデータを蓄積する。
イ　全館的視野に立った収蔵品等の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	環境保全室長　木川りか

【実績・成果】
（4館共通）
ア　収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭの徹底を図った。文化財搬入に際し、ＩＰＭメンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺黴処理を実施した。
イ　収蔵品及び修理完了資料を中心に保存カルテを81件作成した。
（九州国立博物館）
ア　無線温湿度モニタリング装置を活用して展示室・収蔵庫の温度・湿度データを蓄積した。収蔵庫、展示室、諸室等館内約430ヵ所にトラップを設置し、2週間あるいは1ヵ月に1度回収し、文化財害虫の早期発見に努め、保存環境の改善を行った。
イ　館内の虫の繁殖原因となり得る、ダンボール類、薄葉紙、綿布団など文化財を取り巻く部材をなるべく排除し、防虫対策を徹底した。
展示ケース内で安全に温度・湿度を測定するため、データロガーを入れるケースを作成し、正確な温度･湿度計測ができるよう工夫した。

【補足事項】
・温湿度データの管理、解析によって 28 年度も展示、収蔵環境をより安定させることができた。今後も安定を維持しつつ、より一層の効率化を図りながらエネルギーの削減に寄与したい。
・収蔵庫、展示室、諸室等の約430ヵ所に常時粘着トラップを設置し、年間を通して定期的モニタリングを実施した。害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期に発見対処する体制を維持した。
・地元のＮＰＯ法人ミュージアム（ＩＰＭサポートセンター）やボランティアとの連携に努め、文化財の適切な管理･保存について市民や地域の理解を深めた。展示室等一般来館者エリアの温湿度記録や粘着トラップの観察には、28年度も引き続き両者の協力を得た。
・生物モニタリングを継続して進め、それらのデータを活用することによって害虫対策に生かしている。28年度は、展示室周辺の徹底清掃、文化交流展示室の床下の徹底清掃、収蔵庫およびその周辺諸室の徹底清掃を実施した。

IPM の一環としての
展示室床下の徹底清掃の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
殺虫殺黴処置	58件	－	－		6	10	9	12
保存カルテ作成件数	81件	－	－		91	94	75	91

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	温湿度計測データを活用し、展示作品に合わせて適切な展示環境、収蔵環境の維持をすることができた。また、これまで積み上げてきたＩＰＭ関係の調査結果を利用して、床下の徹底清掃を計画的に実施することができた。

【中期計画記載事項】
適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	収蔵・展示施設及び展示ケース内の温湿度計測を確実に行い、また粘着トラップによる生息調査結果を活用し、環境整備を適切に行うことができ、中期計画を順調に実施できた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1133-1A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい絵画、書跡、染織、考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に 27 年度より実施している国宝「医心方」の修理に継続して取り組む。
イ　引き続き国宝・重要文化財の中長期的修理計画を策定する。
ウ　保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　髙橋裕次

【実績・成果】
（東京国立博物館）
ア　保存修復課に紙本などの修理技術者として2名、彫刻や工芸品など立体の修理技術者として1名、合計3名の修理技術アソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を行なった。作品の劣化予防のために500件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから68件の本格修理を実施した。うち国宝2件、未指定品2件は寄附金による本格修理である。また、28年度は国宝「埴輪　桂甲の武人」の修理に着手した（修理前調査開始）。
イ　修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む305件の作品に関して修理仕様の検討を行ない、中長期修理計画策定を進めて、68件の本格修理を実施した。
ウ　データベース構築のために、27年度に修理が完了した61件の修理内容についてデジタル化を実施し、その成果をもとに『東京国立博物館文化財修理報告書XVII』を刊行した。

【補足事項】
・国宝「医心方」（平安～江戸時代）独立行政法人国立文化財機構文化財保存活用基金により、修理を継続した。
・国宝「国宝　埴輪挂甲武人」（土製 古墳時代・6世紀 群馬県太田市飯塚町出土)はバンク・オブ・アメリカからの寄附金により修理を開始した（29年3月着工、工期28箇月）。
・①重文「放犢図」（元時代）、②「大燈籠」（明治時代）、③「河童形土偶」（縄文時代(中期)・前3000～前2000年）は飯田貞子氏からの寄附金により修理を開始し、①③は27年度に完了、②は28年度に完了した。
・文化財保存修復学主催2016年度文化財保存修復学会公開シンポジウム「文化財を伝える―展示技術と保存修復学」にて「展示手法に応じた修理」を発表した。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
修理件数（本格修理）	68件	－	－		95	93	77	86
修理のデータベース化件数	61件	－	－		83	84	86	90

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 緊急性の高い本格修理及び対症修理、計画立案のための事前調査を計画的に実施し、厳しい経済的事情の中で、寄附金の活用等により、国宝2件、重要文化財4件を含む修理を実施し、当初の予定を大きく上回る内容の成果をあげた。また、関係資料のデータベース化も進めた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に従い、事前調査、対症修理、本格修理の各段階で保存科学と修理技術が連携して保存修理事業にあたり、博物館活動に対して最適な作品修理を行うことができた。今後も、学芸担当、保存科学者、保存修復技術者の3者が常駐する日本でも数少ない博物館である特徴を生かし、作品を安全に活用できるようにするための保存修理を充実させていく予定である。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1133-1B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「大手鑑（八十葉）」に取り組む。
イ　中長期的修理計画の策定を検討する。
ウ　収蔵品修理資料のデータベース化の調査を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　宮川禎一 保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
（京都国立博物館）
ア　・重要文化財熊野懐紙附属品の応急修理を行い、劣化の予防に努めた。
　　・28年度より4ヶ年計画で、重要文化財「大手鑑（八十葉）」の修理を開始した。
イ　・列品管理室の管掌下において館蔵品の修理事業は進められているが、保存修理指導室としては28年度修理着手された館蔵品において特に重要な作品の修理3件（仏涅槃図、重要文化財・維摩居士像、重要文化財・大手鑑）について、修理記録として4Kハンディカメラによる映像記録の保存に向け準備を行い、将来的な映像化に向けた対策を行った。
　　・修理候補作品リストを作成し、緊急性や予算を勘案しつつ修理を行う用意をした。
ウ　・文化財保存修理所では、28年度は151件の新規修理文化財搬入がありデータベース化を行った。また、過去のデータに関して1,999回追加、更新を行った。
　　・収蔵品修理資料のデータベース化の調査、修理報告書サーバの更新等各種整備を継続して実施した。

【補足事項】
ア・緊急性の高い作品を優先に、14件の本格修理を行った。
　（絵画4件、書跡2件、漆工1件、染織3件、考古4件）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
修理件数（本格修理）	14 件	－	－		13	15	11	12
修理のデータベース化件数	151 件	－	－		93	101	113	113

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 緊急度の高い作品から順に修理を行い、本格修理件数は27年度に対し、1件増、データベース化件数は38件増と、前年度を上回る成果を上げた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ・中期計画に記載された「計画的な修理」「基本設備の充実」は、ともに順調に進捗している。 ・伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、28年度から初めて修理記録に映像を含めた対策を講じたのは、特筆すべき点であると思量する。 ・多分野にわたり、緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を行うことができた。 ・29年度は文化財保護基金の使途を決定し、修理対象の拡充、ならびに修理件数の増加に努めたい。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1133-1C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい彫刻、絵画・書跡、漆工や考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「神泉苑請雨経法道場図」等の修理に取り組む。
イ　中長期的修理計画を策定する。
ウ　修理資料のデータベース化を図る。
エ　寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア　館蔵品本格修理7件のうち、新規4件、27年度からの継続事業3件を実施した。
　内訳　絵画4件（うち神泉苑請雨経法道場図は本年度のみ、絹本著色山越阿弥陀図は3ヵ年継続事業の最終年度、
　　重文 絹本著色明空法師像は2ヵ年継続事業の最終年度）
　　書跡2件（うち重文 法華経（色紙経）は3ヵ年継続事業の2年目）
　　考古1件
　・年度内に4件が完了。
イ　22年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、館蔵品修理を計画通りに実施している。
ウ　引き続き、当館紀要『鹿園雑集』に「奈良国立博物館文化財保存修理所 修理一覧」を掲載する。また、修理報告資料の整理を進めデータベース化に努めた。
エ　寄託所蔵者と協議を行い、寄託品3件について当館の推薦による財団からの助成を受けて修理を実施した。

【補足事項】
（奈良国立博物館）
ア　収蔵品の修理を目的とした募金箱について、従来の設置場所以外に、特集展示「新たに修理された文化財」の期間中、展示会場に新規で設置した。
・寄託品修理は、出光文化福祉財団の助成による大阪・専稱寺所蔵 絹本著色弁才天十五童子像、朝日新聞文化財団の助成による兵庫・中山寺所蔵 髪繡種子十一面観音菩薩像の2件について新規着工した。出光文化福祉財団・京都府・木津川市助成による京都・海住山寺所蔵 絹本著色大威徳明王像は27年度から2ヵ年継続で修理を行っている。上記の3件は平成28年度末に修理が完了した。

募金箱の設置

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
修理件数（本格修理）	7 件	－	－		9	8	9	11
修理のデータベース化件数	62 件	－	－		70	73	77	66

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 27年度から継続事業による修理のほか、新規事業による修理にも着工でき、計画的に修理が実施できている。また、本格修理及びデータベース化の件数は、概ね予定通り進行した。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 財団助成や募金等を活用し、緊急性の高いものから順次修理を実施することができた。また、当館保存担当研究員と文化財保存修理所の修理技術者が連携し、X線透過撮影や蛍光X線分析などを実施することで、適切な修理の基礎資料とした。中期計画は順調に進んでいる。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1133-1D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-1計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「東大寺等関係文書」等の修理に取り組む。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
館蔵品を中心に、展示計画や損傷の程度を勘案して緊急性の高い文化財21件(本格18件,応急3件)の修理を実施した。
（九州国立博物館）
ア　当館文化財保存修復施設使用者等の協力を得て、館蔵品、寄託品および借用品の状態調査を行うことができたため、効率的な調査、現実的な修理計画の策定、適切な処置を実施することができた。

【補足事項】
・館費による修理件数21件(本格18,応急3)の内訳：
絵画5(本格4,応急1)、書跡3(本格2,応急1)、染織6(本格6)、歴史資料7(本格6,応急1))
・重要文化財「東大寺等関係文書」(当館所蔵)について、28年度から2ヵ年継続事業として本格修理を開始した。紙継ぎや補修に用いられていた黄褐色の糊について赤外分光分析を行い、豆糊の使用を推定した。豆糊は水で膨潤しないため補修紙の除去は慎重に行う必要がある。当館文化財保存修復施設で修理が実施されたため、進行状況の頻繁な確認と協議を行うことができ、より良い修理に繋がっている。

重文「東大寺等関係文書」の裏打紙除去作業
（蒸気を当て蒸らしながら少しずつ除去している）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
修理件数（本格修理）	18 件	－	－		20	17	23	22
修理のデータベース化件数	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 当館文化財保存修復施設使用者等の協力を得て状態調査を行い、重要文化財「東大寺等関係文書」等、計画的に修理を実施することができた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って、機構内外の修復技術者と連携し、伝統技術に科学技術を取り入れながら計画的に修理を実施できた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1133-2A1

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
(4館共通)
ア　紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
イ　修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析、Ｘ線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　髙橋裕次

【実績・成果】
(4館共通)
ア　絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を9件（B-3178医心方など)実施し、本紙の保存に関して検討を行った。
イ　修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析 1055 件、2953 箇所（G-40 色絵月梅図茶壺など)、Ｘ線透過撮影 225 件、313 カット(J-6478 陶棺など)、赤外線撮影　7 件 132 カット(A-1449 准胝仏母像など)の科学的調査を実施した。これらの結果を構造調査と修理設計に役立てた。

【補足事項】

図1. 蛍光エックス線分析の様子(G-40)

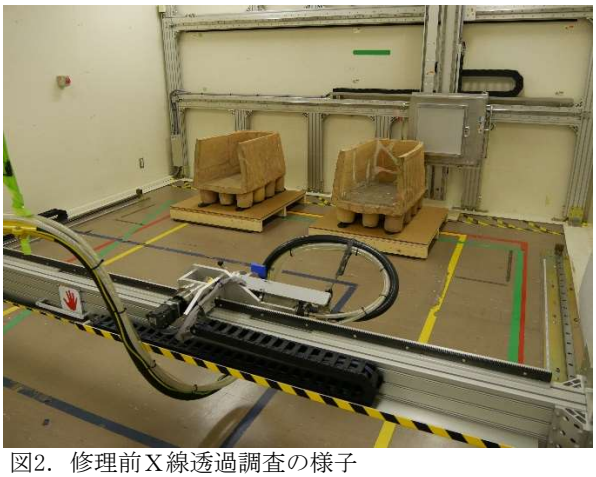


図2. 修理前Ｘ線透過調査の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
Ｘ線ＣＴスキャナーの導入により立体文化財の内部構造や状態の確認が出来るようになり、修理前調査や作品研究において精度の高い情報を用いて行うことができるようになった。また、作品の大きさや調査目的に応じて従来のＸ線透過撮影も並行して行うなど調査が充実した。一方で、Ｘ線ＣＴなどの調査では直接判断が付かない材質の分析においては蛍光Ｘ線線分析や赤外線撮影などの基本的な調査分析も文化財の保存や修理、研究において価値のある調査であり、引き続き精度の向上とデータの活用方法の発展が期待できる。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の分野担当者、保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
立体から平面まで様々な文化財の保存状態確認のための科学的調査を修理技術者、各分野の研究者と共に実施し、修理の仕様策定、作品研究と展示における調査結果の活用などに結びつけることが、中期計画に従い順調に実施できた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1133-2A2

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　Ｘ線ＣＴスキャナを運用し、研究の進展を図り、より適切な修理方法を検討する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　髙橋裕次

【実績・成果】
（東京国立博物館）
ア　Ｘ線ＣＴスキャナーシステム（3台）で館内外の文化財に対して109件（E-19998 浜松図真形釜など）318回撮影を行った。

大型垂直ＣＴ	撮影回数 141 回	(E-19998 浜松図真形釜など撮影作品数 25)
大型水平ＣＴ	撮影回数 22 回	(C-95 善財童子立像など撮影作品数 9)
プレシジョンＣＴ	撮影回数 155 回	(C-1534　能面大天神など撮影作品数 75)

○　文化庁、国立科学博物館、陸前高田市博物館、東海大学、サントリー美術館、櫟野寺、岩手県立博物館、埼玉県立さきたま史跡の博物館、十日町市教育委員会など外部の作品の撮影を行い調査研究に協力した。

【補足事項】

図1. 展示への活用

図2. Ｘ線ＣＴを用いた修理前構造調査の様子

『MUSEUM』第664号　Ｘ線画像による古代中国封泥の研究（谷 豊信）、根津美術館紀要「此君」第8号、埼玉県立さきたま史跡の博物館紀要などに調査画像の提供を行った。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	館内の作品の研究調査や修理前調査だけではなく、国内外様々な文化財に対する研究にも寄与し、成果を上げている。当館の装置ではＸ線の出力や撮影範囲で対応できない文化財もあり、今後は装置の改良を行ってより多くの作品の撮影に寄与できるようにする。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	撮影回数や各種調査研究、修理への寄与は十分に行えていると考える。しかし、3次元プリンターを用いた輸送梱包技術への応用や展示に用いる支持具の開発までは行えておらず、今後、3次元プリンターの導入を行い、それらの目標を達成することが必要となる。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1133-2B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
(4館共通)
ア　紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
イ　修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
(京都国立博物館)
ア　文化財材質分析システム等を調査研究のため活用を図る。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　宮川禎一

【実績・成果】
(4館共通)
ア　28年度修理開始の館蔵品の紙本文化財について、材料の分析を行い、文化財の材質が判明したことで修理方針の決定に役立てた。
イ　寄託品の修理に際し、X線調査を行い、文化財の材質が判明したことで修理指針に役立てたることが出来た。
(京都国立博物館)
ア　・研究職員の研究活動の一環として、文化財修理所各工房からの修理前後調査依頼（大和文華館蔵「蜀葵遊猫図」「萱草遊狗図」の蛍光X線分析等)、外部機関からの調査依頼（大津市歴史博物館等）を受け入れ、X線CT、透過X線、蛍光X線分析を中心に共同調査を行った。
・X線漏えい検査等の分析機器の管理、データの保存や共有の方針などを検討し、文化財材質分析システムの整備を図った。

【補足事項】
(京都国立博物館)
ア
・修理工房からの調査依頼　X線CT6件　透過X線4件、蛍光X線分析20件
・外部機関からの調査依頼　X線CT3件　蛍光X線分析1件
・大津市歴史博物館からの調査依頼で木造釈迦涅槃像（新知恩院蔵）のCT撮影を行い調査研究に役立てることが出来た。
・特集陳列「丹後の仏教美術」に出品した地蔵菩薩立像（金剛心院蔵)、特集陳列「皇室の御寺 泉涌寺」に出品した観音菩薩坐像（泉涌寺所蔵）のCT撮影を行い、調査研究に役立てることが出来た。

X線CT調査風景

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	科学機器を用いた調査によって、色材の構成元素、木組みや納入品の詳細等が判明するなど、文化財修理、材質・構造研究に貢献できた。今後は、分析技術の向上や、調査結果から考察を深めるためにも、標準サンプルを用いた基礎研究についても行う必要がある。

【中期計画記載事項】修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、緊急性の高い収蔵品等から28年度については順次、計画的に修理を行うことができた。ただし今後について、修理に伴う共同調査の成果は、現状、所有者・修理者・文化庁に委ねられており、当館の調査実績として公表しにくい側面がある。共同調査における成果の共有や発信について協議が必要である。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1133-2C

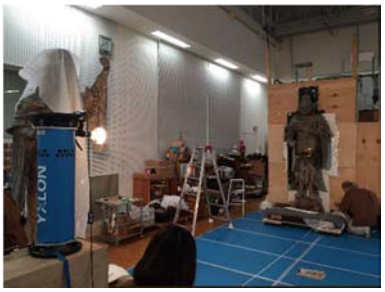
中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（4館共通）
ア　紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
イ　修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析、Ｘ線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
（奈良国立博物館）
ア　木造文化財について、木材樹種同定の調査を行い、文化財の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。
イ　古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品、木造彫刻などのＸ線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（4館共通）
ア　当館修理所内の工房である文化財保存と共同で修理文化財の調査を行い、修理方針の検討資料とした。
イ　館蔵品や寄託品の修理の際に、当館が保有する光学機器を用いて、当館研究員と工房職員が共同で赤外線撮影や蛍光Ｘ線分析等を実施した。
・絵画作品の修理に際に、詳細な観察を行うため赤外線撮影を実施した。（実施計8回）
・修理方針に反映させるため、絵画表面の顔料への蛍光Ｘ線分析を実施した。（実施計3回）
・工芸や彫刻作品の修理について、内部構造を調査するためＸ線透過撮影を実施した。（実施計5回）
（奈良国立博物館）
ア　文化財保存修理所で修理を行った木造彫刻作品について、京都大学生存圏研究所と連携し樹種同定調査を行った。同定結果を修理に活用している。（実施計4件）
イ　古墳出土の鉄器を中心とする館蔵考古資料の修理について、Ｘ線撮影等による構造調査などを行い、製作技術の解明や修理方針の検討資料とした。（実施計2回）

【補足事項】
（4館共通）
イ　当館の館蔵品や寄託品の修理に際して、文化財保存修理所の各工房と当館研究員が共同で文化財調査を実施し、データの収集・共有化に努めた。これらの調査を円滑に実行するため、当館に設置されている光学機器(高精細デジタルカメラ、近赤外線カメラ、蛍光Ｘ線分析装置、Ｘ線透過撮影装置など)を積極的に利用し活用を図った。



工房内でのＸ線透過撮影の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	修理所内で彫刻作品の修理の途中にX線透過撮影を実施し、適切な修理に役立てた。また、紺紙金字経の文字部分を元素分析し、適切な修理の基礎資料とした。このほか京都大学と連携して樹種同定調査を行うなど、20を超える回数を随時実施し、修理所との連携を進めている。今後も必要に応じ調査を実施することで、よりよい修理のためのデータ取得と活用を図る。

【中期計画記載事項】修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	保存科学担当者と修理技術者が、修理前や修理中の文化財に対して繊維同定や樹種同定などの科学分析を行うことで、適切な修理のための基礎資料とするとともに、その成果を踏まえ計画的な修理を実施した。今年度は、基本設備を充実させるため、X線CT装置の導入に向けた準備を進めた。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1133-2D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理　3)-2科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
（4館共通）
ア　紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
イ　修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析、Ｘ線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
（九州国立博物館）
ア　博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。
イ　修理資料のデータベース化の調査を実施する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（4館共通）
ア　重文「対馬宗家関係資料」(当館所蔵)等の紙本文化財の繊維同定を行い、文化財ごとに適切な補修紙を作成することができた。
イ　重文「東大寺等関係文書」(当館所蔵)について、裏打ち等に用いられた黄褐色の糊の赤外分光分析を行い、豆糊の使用を推定することができた。
（九州国立博物館）
ア　館外所蔵者負担による九州等所在文化財の修理59件のために修復施設を積極的に活用した。館費修理21件と合わせて80件の修理を実施した。この中には熊本地震により被災した熊本県立美術館所蔵・寄託文化財の修理も含まれている。安全な環境のもと修理事業を実施できる施設は関西以西では当館以外になく、当館文化財保存修復施設の立地と環境を最大限生かすことができた。
イ　修理報告書および修理経過を示す画像データを整理し、データベース化に備えた。

【補足事項】
・修復施設1・2では、国宝修理装潢師連盟が館費修理品9件の他、重文「田能村竹田関係資料」（大分市美術館所蔵）など、合計23件の修理を実施した。
・修復施設3では、修理工房宰匠が館費修理品9件の他、国宝「琉球国王尚家関係資料」文書記録類（那覇市所蔵）など、合計40件の修理を実行した。
・修復施設4では、美術院が「聖観音菩薩立像」（鹿児島・大慈寺所蔵）など、合計6件の修理を実行した。
・修復施設5では、芸匠が重文「広田遺跡出土品」（鹿児島・黎明館所蔵）など合計4件の修理を実施した。
・修復施設6では、大西漆芸修復スタジオが「叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度」（文化庁所蔵）など、合計7件の修理を実施した。

久留米市指定「楊柳観音図」
（梅林寺）の修理監督風景

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	修復施設を九州等所在文化財80件の修理に活用した他、重文「東大寺等関係文書」に使用された接着剤の科学分析を行い修理方針を検討するなど、伝統的な修理技術に科学的な保存技術を取り入れた修理を実施することができた。

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	当館研究員と修復施設を使用する5社が連携して所蔵品の状態調査を行い、適切な修理計画を策定することができた。修理中には紙繊維の同定や接着剤の分析等科学調査も随時行い、伝統技術に科学技術を取り入れながら計画的に修理を実施できた。28年度後半からは、熊本地震による被災文化財の修理拠点としても、修復施設を積極的に活用した。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1134B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

【年度計画】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。
（京都国立博物館）
ア　文化財保存修理所の設備等の改修について国と協力して検討を行う。
イ　文化財保存修理所及び仮工房等の施設を計画的に運用し、文化財の積極的な保存修理を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長　植田義雄 保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所燻蒸庫の老朽化による缶体破損に対して撤去を行った。
（京都国立博物館）
ア　施設整備費により燻蒸設備の新設を行う。新設工事の設計中。
イ　文化財保存修理所燻蒸庫の老朽化による缶体破損に対して既存燻蒸設備の撤去措置を行い、新設備の導入に向けた準備を行った。

【補足事項】

燻蒸庫　撤去前

燻蒸庫　撤去後

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	文化財修理所において、文化財の適切な保存修理環境を維持するため、燻蒸設備更新を予定しており、前段階の既存燻蒸設備の撤去を完了した。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、 国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れ、災害により修繕を必要とする文化財の修理環境改善の一つとして次期に導入する燻蒸設備の検討を実施した。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1134C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

【年度計画】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。
（奈良国立博物館）
ア　文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的な保存修理を図る。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　鳥越俊行

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所の窓枠のゴム等が劣化しつつあるため、点検を実施し必要に応じて交換を進めた。

（奈良国立博物館）
ア　文化財保存修理所運営委員会を5月17日に開催し、文化財保存修理所の円滑な運用に努めた。また、学芸部と文化財保存修理所において、修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の3工房代表者との文化財保存修理所協議会を開催し、1回目は9月8日に、2回目は2月21日に開催した。各工房の修理事業実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境の改善に関する課題などを討議した。
館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を4回実施した。

【補足事項】
・12月23日から29年1月15日まで、当館西新館北第1室において特集陳列「新たに修理された文化財」を開催し、27年度に文化財保存修理所各工房などで修理が完了した当館収蔵品・寄託品を修理解説パネルとともに展示(13件)することで、文化財修理技術を広く一般に理解してもらう機会とした。
・文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する案内パンフレットを、修理所公開や国内外の修理専門技術者による修理所視察などの機会に配布した。
・29年1月12日に文化財保存修理所一般公開を開催し、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。

修理展の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 運営委員会及び所内3工房代表者による協議会を開催し、修理実施状況の確認及び保存環境の改善について協議するなど、情報の共有に努め、文化財保存修理所を円滑に運営することができた。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、 国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所を円滑に運用するとともに、文化財被災時に修理技術者と連携できるよう随時意見交換を行った。意見交換や調査を行い、その成果を踏まえた文化財に対する積極的な保存修理を実施することができ、中期計画は順調に進んでいる。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1134D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承　③有形文化財の管理・保存・修理等 4)文化財修理施設等の運営

【年度計画】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア　文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。
（九州国立博物館）
ア　博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の適切な保存・積極的活用を図る。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
ア
・当館保存修復施設2の空調改善の検討を行い、空気が循環し易いよう給気拡散シートを設置した。
・当館保存修復施設1の中二階について、温室度改善の検討を行い、空調センサーを増設した。

（九州国立博物館）
ア
・保存修復施設にて当館所蔵品7件の本格修理を計画通り実施することができた。
・保存修復諸室を活用し当館所蔵品及び寄託品22点の構造調査を行い、その結果を保存管理に役立てた。

【補足事項】
・保存修復施設2は天井高が約7ｍあり、安定した空気環境を作るためには給気の風量を強くして空気を循環させる必要があった。しかし、古文書等紙文化財の修理では、風量が強いと紙が揺れてしまい修復作業が困難となるため、風量を弱くしていた。結果的に、この部屋では空気が循環せず、不安定な空気環境となっていた。28年度はその対策を検討し、高さ約3ｍの位置に給気拡散シートを張ることにより、強い風量でも、紙文化財に直接風が当たらなくなり、空気環境を改善することができた。

給気拡散シート

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	年度計画は順調に成果をあげている。空気循環や空調制御を工夫するなど施設設備の改修等を行うことによって、文化財だけでなく施設使用者にとってもよりよい環境で修理を実施できるようになった。

【中期計画記載事項】
文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、 国と協力して整備充実を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に対し順調に成果をあげることができた。日常的に検討を行い、安全な施設、環境で修理を実施することができた。施設の改修によって使用環境が改善された。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1210A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　①平常展

【年度計画】
①平常展
(4館共通)
1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
(東京国立博物館)
1)「日本美術の流れ」を中心とする本館の日本美術、東洋館の東洋美術、黒田記念館の近代洋画など、各種展示の更なる充実を図る。法隆寺宝物館は28年4月下旬から全面再開する。黒田記念館は特別展「黒田清輝」の開催に伴い28年6月13日まで閉館する。
2)特集
　テーマ性のもった展示を各種実施し、調査研究成果を公開するとともに、平常展の更なる充実を図る。
・上野動物園・国立科学博物館との連携企画「親と子のギャラリー　あつまれ！トラのなかまたち」(4月12日～5月22日)・「平成27年度新収品展」(5月17日～5月29日)・「特別公開「新発見！天正遣欧少年使節 伊東マンショの肖像」」(5月17日～7月10日)・「親と子のギャラリー　美術のうら側探検隊」(7月5日～ 8月28日)・上海博物館からの借用品を中心とする「上海博物館との競演―中国染織　その技と美―」(7月26日～10月23日)・正月恒例の「博物館に初もうで」(29年1月2日～1月29日)・特別展「春日大社展－千年の至宝」に合わせた企画「春日権現験記絵模本Ⅲ―現状模写と復元模写―」(29年1月17日～3月12日)・「東京国立博物館コレクションの保存と修理」(29年3月21日～4月16日) 等
3)文化庁関係企画「平成28年 新指定 国宝・重要文化財」(4月19日～5月8日) にて、28年に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長　救仁郷秀明

【実績・成果】
(4館共通)
1)　定期的な陳列替を実施し、8,538件の展示替を行った。
(東京国立博物館)
1)　定期的な陳列替を実施し、8,538件の展示替を行った。
2)　33件の特集を実施した。
3)　「平成28年 新指定国宝・重要文化財」を実施した（4月19日～5月8日)。また、新指定の重要文化財となった彫刻のうち一部を、同時期の本館11室においても展示した。

【補足事項】
　本館2階展示ケースの修理点検、清掃などで保存環境及び観覧環境の向上を図った。東洋館の展示ケースの補修を行った。また、展示環境の改善のための工事を実施した法隆寺宝物館については、28年3月15日から一部、4月26日から全体の展示を再開した。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
平常展の来館者数	761,709人	512,186人	A		416,430	484,429	587,528	747,944
平常展の展示替件数	8,538件	6,009件	A		6,989	5,708	5,506	6,930
平常展の展示総件数	10,918件	－	－		9,190	8,824	8,161	8,911

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	特別展に関わる特集や「博物館でアジアの旅」や「博物館に初もうで」など、展覧事業の充実によって、目標値を上回る来館者があった。また、展示替件数も目標を大きく上回った。

【中期計画記載事項】
　平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
　なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	最新の研究成果を反映した平常展示とともに、テーマ性を持った特集「博物館でアジアの旅」にかかるイベント等を充実させたことによって、国内外の多く来館者があり、中期計画に向け、順調に進んでいる。今後はさらに来館者の理解、満足度を高める平常展示を進めていきたい。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1210B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　①平常展

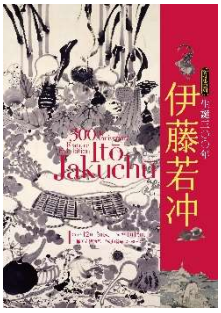
【年度計画】
①平常展
(4館共通)
1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
(京都国立博物館)
1)明治古都館改修に伴い、平常展示館として計画された平成知新館において特別展覧会も開催するための平常展展示計画を検討する。
2)平成知新館において、部門を超えた特集陳列を行う。
・「徳川家康没後四百年記念　徳川将軍家と京都の社寺　-知恩院を中心に-」(6月14日～7月18日)
・「丹後の仏教美術」(7月26日～9月11日)
・「生誕300年　与謝蕪村」(8月23日～10月2日)
・「とりづくし―干支を愛でる―」(12月13日～29年1月15日)
・「生誕300年　伊藤若冲」(12月13日～29年1月15日)
・「皇室の御寺　泉涌寺」(12月13日～29年2月5日)
・「雛まつりと人形」(29年2月18日～3月20日)

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　伊藤信二

【実績・成果】
(4館共通)
1)平常展来館者数については186,162人と目標値を上回った。展示替件数は943件であり目標値を上回った。
(京都国立博物館)
1)特別展覧会前後の準備・撤収のため名品ギャラリー閉室期間を設けるための展示計画を策定した。
2)年度計画に加え、3階1室にて特集陳列「絵付けの美　長崎・亀山焼」(10月15日～11月27日)、1階1室にて特別公開「修理完成記念　鳥取・三佛寺の蔵王権現立像」(29年1月17日～2月19日)を行った。

【補足事項】
(4館共通)
1)特別展覧会前後の準備・撤収のため名品ギャラリーを閉室する期間はあるものの、分野毎の展示室を横断するテーマを持たせた特集陳列を数多く行うことが増員につながり、目標値を上回った。
(京都国立博物館)
2)・「徳川家康没後四百年記念　徳川将軍家と京都の寺社　-知恩院を中心に-」、「丹後の仏教美術」、「皇室の御寺　泉涌寺」においては多数の作品借用を行い、館蔵品・寄託品以外で京都府下・市下に所在する文化財を来館者に紹介することができた。

「丹後の仏教美術」
展示風景



「生誕300年　伊藤若冲」
チラシ

・28年度は伊藤若冲生誕300年の年でもあり、東京都美術館、京都市美術館でも伊藤若冲関連の特別展覧会が開催されたが、当館の「生誕300年　伊藤若冲」では両館において不出品の作品を14件(初公開作品8件含む)展示した。
・27年度の特集陳列「皇室ゆかりの名宝」に続き、28年度は特集陳列「皇室の御寺泉涌寺」を開催することで、冬の時期における「皇室関連」展示の定例化を試みた。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
平常展の来館者数	186,162人	166,600人	B		-	-	265,791	205,526
平常展の展示替件数	943件	919件	B		-	-	693	1,145
平常展の展示総件数	1,068件	-	-		-	-	980	1,438

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】平常展来館者数及び展示替え件数ともに目標値を上回り、京都に立地する当館の特色を生かし、特集陳列にて作品のみならず地域や社寺に焦点を当てた展示を行うなど、充分な成果である。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】特集陳列「丹後の仏教美術」にて京丹後の文化を来館者に紹介することや伊藤若冲の生誕300年の節目である28年度に時機を得た特集陳列を行うなど、中期計画初年度として来館者増加のための取組を充分に行い成果は充分であった。取組を引続き継続し、29年度の来館者増加へつなげたい。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1210C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　①平常展

【年度計画】
①平常展
（4館共通）
1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（奈良国立博物館）
1)下記のとおり各展示施設において、最新の研究成果を取り入れた名品展（平常展）を実施する。また収蔵品の中からテーマを選んで特集展示を適宜実施する。
・西新館　絵画・書跡・工芸・考古　　・なら仏像館　彫刻　　・青銅器館　中国古代青銅器
2)分野の枠を超えた特別陳列を実施する。
独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実
・「和紙－近代和紙の誕生－」(6月7日～7月3日)　・「おん祭と春日信仰の美術」(12月10日～29年1月15日)
・「お水取り」(29年2月7日～3月14日)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤 栄

【実績・成果】
（4館共通）
1) 来館者数、展示替件数とも、所期の目標値を達成した。
（奈良国立博物館）
1) 下記のとおりの会場・期間で名品展を実施し、また特集展示を1件開催した。
・西新館　　名品展「珠玉の仏教美術」　開催期間： 6月 7日（火）～ 7月 3日（日）、
　　12月10日（土）～29年 3月14日（火）
・青銅器館　名品展「中国古代青銅器」　開催期間： 4月 1日（金）～29年 3月31日（金）[通年開催]
・なら仏像館　名品展「珠玉の仏たち」　開催期間： 4月29日（金・祝）～29年 3月31日（金）
・特集展示「新たに修理された文化財」　開催期間：12月23日（金・祝）～29年 1月15日（日）
2) 当初計画どおり、以下の特別陳列を開催した。
・「和紙―近代和紙の誕生―」(6月7日～7月3日)　・「おん祭と春日信仰の美術」(12月10日～29年1月15日)
・「お水取り」(29年2月7日～3月14日)

【補足事項】
（奈良国立博物館）
1) 施設改修のため約1年半の間、休館していた「なら仏像館」が4月29日に開館し、来館者に心地良い観覧環境を提供することができるようになった。

改修後の「なら仏像館」展示会場

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
平常展の来館者数	145,676 人	118,173人	A		145,914	122,075	92,147	95,208
平常展の展示替件数	427 件	314件	A		465	130	208	286
平常展の展示総件数	664 件	－	－		814	632	675	620

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
1年半以上の休館を経て、なら仏像館が再オープンした。工事による施設の改修により、観覧環境は大幅に改善した。またパネル・キャプション等の展示室内の多言語化の実現により、来館者サービスの面でも充実させた。そうした努力が実を結んだためか、来館者数は目標値の123%まで伸びた。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
なら仏像館が再開したことで、展覧事業の中核たるに相応しい平常展を、年間を通じて実施することができた。展示では特集を適宜組み入れることで、最新の研究成果を反映できている。多言語化に関しては、以前より全ての説明文章について英文も掲示していたが、再開後のなら仏像館では中国語・韓国語の表示及び音声ガイドを導入し、増加する外国人来館者への対応を図っている。以上のような対応の結果、本年度は来館者数が目標値を大きく超え、中期計画の初年度として十分な成果をあげることができた。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1210D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　①平常展

【年度計画】
①平常展
(4館共通)
1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
(九州国立博物館)
1)トピック展示によって、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマで研究成果を公開する。
・「火縄銃の世界」(7月12日～9月4日)
・「全国高等学校 考古名品展2016」(7月20日～9月25日)
・「有田焼創業400年記念　旧家の暮らしを彩った器―古伊万里（仮称）」(9月14日～11月6日)
・「海の王都・原の辻遺跡と壱岐の至宝～東アジア諸国との交流の歴史～（仮称）」(10月11日～12月4日)
・「きらめきで飾る－螺鈿の優品をあつめて－（仮称)」(11月15日～12月23日)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】
・トピック展示「火縄銃の世界」
本展では、種子島に伝来して以降、国友や堺など鉄砲産地のさまざまな火縄銃や関連遺物の紹介を通して、日本における火縄銃の展開をたどり、歴史的な位置付けを明らかにした。とくに火縄銃のハンズオン展示が反響を呼び、夏休み期間中ということもあって好評を博した。

「火縄銃の世界」

・トピック展示「全国高等学校 考古名品展2016」
26年度にはじめて開催された高等学校所蔵考古資料を紹介する第2弾の企画展。展覧会だけでなく、高校生が日頃の研究成果を披露する「考古学フォーラム」も開催し、若年層への考古学の教育普及だけでなく、高等学校所蔵資料の活用を広く訴えた。

「全国高等学校 考古名品展2016」

・トピック展示「有田焼創業400年記念　古伊万里－旧家の暮らしを彩った器」
創業400周年をむかえる有田焼を記念し、公家や大名家など旧家ゆかりの作品や欧州の宮殿を彩った名品を紹介した。美術品の視点ではなく、消費地の視点から捉えた本展の構成は斬新で、歴史分野からも高い評価を得た。
・トピック展示「海の王都・原の辻遺跡と壱岐の至宝」
弥生時代の交易の中心であった長崎県原の辻遺跡の出土品を中心に、魏志倭人伝の世界の文化交流を紹介した。離島振興・離島活性化交付金にもとづく壱岐市との共同主催事業。展示室内に鯨骨格標本をつるし、ダイナミックな展示が話題となった。
・トピック展示「きらめきで飾る－螺鈿の美をあつめて－」
古来、人々に愛されてきた螺鈿の名品を、中国・韓国・日本・琉球・東南アジアから集め、文様や技法の特質、歴史的な展開について紹介した。本展は沖縄県浦添市美術館と共同主催で開催したトピック展示であり、内容の濃く質の高い展示を構成することができた。

【補足事項】
「古伊万里－旧家の暮らしを彩った器」では、佐賀県・西日本新聞社から協力をいただいた。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
平常展の来館者数	393,590人	387,744人	B		460,525	349,848	357,362	412,621
平常展の展示替件数	1,654件	1,253件	A		1,195	1,157	1,027	1,513
平常展の展示総件数	2,208件	－	－		2,416	2,750	1,904	2,628

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	2月に発生した熊本地震および九州地域の風評被害のために、前半期落ち込んだものの、当館の文化交流展らしい5本の多彩なトピック展示を開催し、目標を達成することができた。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画の達成に向けて、順調に推移している。今後は今まで以上に関係各部署とのいっそう緊密な連携をはかりながら、円滑な展示室運営をはかっていきたい。

【書式Ａ】　施設名 4館　処理番号 1212ABCD

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業　①平常展		
【年度計画】平常展（4館共通）2)作品キャプション、展示に関する説明パネルの多言語化に取り組む。			
担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館企画課	事業責任者	課長　救仁郷　秀明 企画室長　伊藤信二 情報サービス室長　岩井　共二 課長兼文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】

2)（東京国立博物館）

・展示説明において作品キャプションについて、東洋館は英語、中国語、韓国語を付した。
本館、考古展示室、法隆寺宝物館については、英語のみを付した。

・展示室解説については、本館、東洋館、考古展示室は英語、中国語、韓国語を付したが、法隆寺宝物館は英語のみを付した。

○　政府からの要請により、解説等の多言語化の取組を以下のとおり行った。

・東京国立博物館の展示説明において作品キャプションに全て英語、中国語、韓国語を付した。また東洋館においては作品キャプションに中国語訳・韓国語訳を付した。

・展示テーマ数 140件全て(100%)について外国語パネルを設置した。また、74 件(56%) については中国語、韓国語での解説も付した。

・展示室解説は、本館、東洋館、考古展示室は、法隆寺宝物館について全て英語、中国語、韓国語を付した。

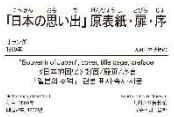
・コーナー解説115件全てに全て英語、中国語、韓国語を付した。

・作品解説は29年3月末で70%導入（101件中71件）し、4月末に完了予定。

ナレーションの３言語翻訳コンテンツ（九州）

（京都国立博物館）

28年度より名品ギャラリー(平常展)の展示作品の作品解説について、一部英訳を併記した。また、展示テーマ紹介パネル50件全てに英訳を併記した。さらには多言語化対応のため、音声ガイドを4言語(日、英、中、韓)にて引き続き実施した。なお、展示室看板(作品分野の解説)及び作品名の表示については、平成新館開館時より日英併記であった。



文化交流展室の題箋（九州）

○　政府からの要請により、解説等の多言語化の取組を以下のとおり行った。

・平成知新館名品ギャラリーの展示室看板へ中・韓国訳を付した。また、29年度の名品ギャラリーより中、韓の出品一覧を配布するための準備に着手した。

（奈良国立博物館）

・名品展「珠玉の仏たち」では、作品キャプションのタイトル／所蔵／材質技法／制作年について英語・中国語・韓国語を付け、大型作品には、英文解説を付けた。

・名品展「珠玉の仏教美術」では、全ての作品キャプションを英語化した。パネル類は、全て英語を併記した。

・なら仏像館においては挨拶文の英語・中国語・韓国語・仏語の併記を実施した。

○　政府からの要請により、解説等の多言語化の取組を以下のとおり行った。

・なら仏像館においてはコーナー解説の英語・中国語・韓国語の併記を実施した。

（九州国立博物館）

・平常展では、作品キャプションに日英両言語を必ず併記し、作品解説には要所に英語を付した。

・展示趣旨や時代背景等を解説するパネルには、タイトルは日・英・中・韓の4言語を併記した。また、27年度から導入したデジタル・サイネージにも日・英を必須で併記し、分かりやすい展示の実現に努めた。

○　政府からの要請により、解説等の多言語化の取組を以下のとおり行った。

・文化交流展では展示室の多言語化を推進し、28年度末段階で作品キャプションの全てについて、英語・中国語・韓国語対応を完了した。説明パネルについては、同時点で40%が完了した。なお章解説ならびに音声ガイドについては、政府からの要請前より全て対応済である。

【補足事項】

（九州国立博物館）

・展示のほか、海外の来館者からもニーズの高いスーパーハイビジョンシアターについても多言語化の検討を進めた。その方法として、既存映像に英・中・韓の3言語のテロップを当てる方法、ナレーションの3言語翻訳コンテンツを作成し、映像と同期させてイヤホンで聞く方法などについて、費用対効果を検討した。

・29年度には「神宿る島　宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録や、31年のラグビーワールドカップ、32年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、海外からの観光客の一層の増加が見込まれるため、すみやかに多言語化を推進できるように、NHKエンタープライズと共に詳細な仕様の検討を推進した。

なら仏像館　外国語パネル（日・英・中・韓）（奈良）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
外国語パネル等の設置				経				
東京国立博物館	100%	－	－	年	100	100	100	100
京都国立博物館	100%	－	－	変	－	－	100	100
奈良国立博物館	100%	－	－	化	100	91	100	100
九州国立博物館	100%	－	－		87	85	92	92

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画に掲げる多言語化を着実に実施した。加えて、政府方針に則り、年度途中から4言語化（日英中韓）実施を加速させ、作品キャプション、展示室解説等について、4館全てにおいて対応を行った。

【中期計画記載事項】

平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。（略）

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、中期目標の達成に向かって順調に推進している。29年度は、展示替が行われても、常にキャプション等の4言語化を実施する予定である。

【書式Ａ】　　施設名 | 4館 |　　処理番号 | 1213ABCD |

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　①平常展

【年度計画】①平常展　(4館共通) 3)満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。

担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	課長　救仁郷 秀明 企画室長　伊藤 信二 課長　室溪　浩 課長兼文化交流展室長　河野 一隆

【実績・成果】

(東京国立博物館)

・タッチパネルアンケートにより、平成館、本館、東洋館、法隆寺宝物館で開催された全ての総合文化展でアンケートを実施し、集計結果を元に環境改善に努めた。また、記述式要望書により当館への質問・意見をいただき、対応に努めた。

(京都国立博物館)

展示室の動線がわかりづらい、特集陳列出品作品がわかりづらいなどの意見に対し下記の対応を行った。

・各分野の展示室を跨って行われる特集陳列について、動線等わかりやすくするために章パネルにフロアマップを併記した。

・特集陳列において、特集陳列出品作品であることをわかりやすくするために題せんへ、特集陳列のタイトルを併記した。またタイトルと合わせて特集陳列のマークを付すことにより、視認しやすさも改善した。

(奈良国立博物館)

・外国語による展示品の説明文が少ないとの声に応じ、名品展「珠玉の仏たち」において英・中・韓の音声ガイドを導入した。

(九州国立博物館)

・平常展で満足度調査を実施し、来館者からの意見等については、関係者間で内容を共有し、改善に努める等満足度を高めるために活用した。また、展示室の内外に、開催中のトピック展示の内容、開催場所がわかりやすいよう、案内版や大型バナーを掲出した。

特集陳列「皇室の御寺 泉涌寺」章パネル(京都)

【補足事項】

(東京国立博物館)

・定期的にアンケートの項目を見直し、要望が多いキャプション等への指摘に対して改善を行った。

・お客様からの質問・意見については、担当部署へ照会するとともに館内で情報共有を図った。また、質問には迅速に対応した。

・新春特別公開において国宝「松林図屏風」を展示するに当たり、多くの鑑賞者が滞留するため、通常展示室中央に設置されたソファを撤去するなど、迅速に展示環境を調整した。

(京都国立博物館)

・特集陳列「皇室の御寺　泉涌寺」については、特集陳列を実施していない展示室を跨るためフロアマップは不可欠であった。

新春特別公開国宝「松林図屏風」(東京)

(奈良国立博物館)

・アンケートの結果は職員に回覧し情報共有を図った。また、展示に関わる質問や改善・要望に対しては、担当部署（学芸部）に個別に回送し、迅速な対応に努めた。

(九州国立博物館)

・文化交流展で実施しているアンケートの中で、満足度を定量的に評価する項目を設けて分析した。また、展示に対して寄せられた意見を一覧できるように整え、館長以下、研究員、館内職員全体で問題点の共有を図った。これによって、魅力的で内容も充実した展覧会の開催に向けて、情報を共有する基盤が整った。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
平常展の来館者アンケート満足度								
東京国立博物館	71.0%	74%	C		70	78	77	82
京都国立博物館	75.0%	79%	C		－	－	74	83
奈良国立博物館	88.9%	79%	B		79	84	81	78
九州国立博物館	73.8%	67%	B		70	65	62	72

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 来館者アンケートの満足度では、一部目標値を下回る施設があったものの、4館全体については目標値（74%以上）を上回った。また、アンケート等を通し、キャプション等の指摘等への対応や、章パネルへのフロアマップの併記等、アンケートの結果を展示内容等改善に活かす取組を実施した。

【中期計画記載事項】

平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。

なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期期間の初年度である28年度は、来館者アンケートの満足度について、前中期期間の実績以上を達成することができた。引き続き、来館者アンケート等を通じて、お客様からいただいたご意見を基に展示内容等に活かし、展示内容等の改善に努めていきたい。

【書式Ａ】　施設名 4館　処理番号 1220ア ABCD

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（4館共通）
ア　特別展等は、各施設の工事等による影響を勘案し、中期計画において定めた回数について開催する。
（東京国立博物館）年3～4回程度（京都国立博物館）年1～2回程度
（奈良国立博物館）年2～3回程度（九州国立博物館）年2～3回程度

担当部課	東京国立博物館学芸企画部 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部	事業責任者	部長　井上洋一 部長　山本英男 部長　内藤 栄 部長　小泉惠英

【実績・成果】
（東京国立博物館）特別展を13回開催した。内訳：当館開催8回、海外展5回（海外展については、独立行政法人国立文化財機構主催2回、九州国立博物館との共同開催1回含む。）
（京都国立博物館）特別展覧会を2回実施した。
（奈良国立博物館）特別展を3回開催した。
（九州国立博物館）特別展を5回実施した。内訳：当館開催4回、海外展1回（海外展については、東京国立博物館との共同開催。）

「兵馬俑展」会場（九州）

「東山展」会場（九州）

【補足事項】
（東京国立博物館）
当初予定の特別展に加え急きょ開催することとなった、日韓国交正常化40周年記念特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」は、韓国国立中央博物館と協力して実施し、日韓の文化交流を進めるうえで貴重な機会となった。
（京都国立博物館）
開催した特別展は以下のとおり。
特別展覧会「臨済禅師1150年・白隠禅師250年　遠諱記念　禅-心をかたちに-」、特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」
（奈良国立博物館）
開催した特別展は以下のとおり。
特別展「国宝 信貴山縁起絵巻 ―朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝―」、生誕800年記念特別展「忍性 ―救済に捧げた生涯―」、第68回 正倉院展
（九州国立博物館）
開催した特別展は以下のとおり。
特別展「始皇帝と大兵馬俑」、特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」、特別展「京都 高山寺と明恵上人 - 特別公開 鳥獣戯画 -」、特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」

特別展「忍性」会場入口風景（奈良）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
特別展の開催回数（海外展含む）								
東京国立博物館	13回	年3～4回	A		9	8	8	6
京都国立博物館	2回	年1～2回	B		5	3	2	3
奈良国立博物館	3回	年2～3回	B		3	3	3	4
九州国立博物館	5回	年2～3回	A		4	5	5	4

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	目標値を大きく上回る回数の特別展を開催した。また、質の面でも充実したものとなっている。

【中期計画記載事項】
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。
（東京国立博物館）年3～4回程度（京都国立博物館）年1～2回程度
（奈良国立博物館）年2～3回程度（九州国立博物館）年2～3回程度

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	積年の研究成果を反映し、国内外の博物館と連携した質の高い特別展を多数開催できた。29年度以降も、展覧会の質の高さを保ちながら、目標値を上回る多数の特別展を開催していく予定である。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1220イA

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
(4館共通)
イ　満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部企画課	事業責任者	課長　竹之内　勝典 課長　浅見　隆介

【実績・成果】

・アンケートでの会場内に椅子を増やしてほしいという意見を受け、椅子を設置した。
・アンケートでの展覧会のテーマ、展示作品に関する解説を増やして欲しいという要望に応えた。

【補足事項】
・展示エリア内全来館者用エレベーター内部に椅子を計8脚設置し、足腰が弱い来館者向けに腰掛とした。

エレベーター内に設置した椅子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
特別展の来館者アンケート満足度	87.9%	71%	A		74	73	67	75
国宝土偶　縄文の女神	－	－	－	経年変化	－	－	－	－
生誕150年　黒田清輝	89.6%	－	－		－	－	－	－
黄金のアフガニスタン	87.3%	－	－		－	－	－	－
古代ギリシャ展	83.4%	－	－		－	－	－	－
平安の秘仏	90.6%	－	－		－	－	－	－
禅―心をかたちに	85.4%	－	－		－	－	－	－
春日大社展－千年の至宝	91.2%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 アンケートによる調査で高い評価を年間通して得ることができた。

【中期計画記載事項】
特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 引き続きアンケートなどで要望の多い事項を順次検討の上実現させる。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1220イB

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

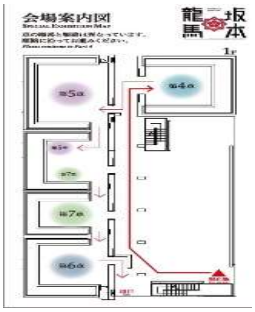
【年度計画】
(4館共通)
イ　満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長　植田義雄 企画室長　伊藤信二

【実績・成果】
(4館共通)
イ・特別展覧会「禅 - 心をかたちに-」においてアンケートを実施し、動線がわかりづらい、作品に書かれている文字の読みや意味を知りたいという意見があったため、特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」において動線をわかりやすくするための工夫、作品についての解説改善を行った。
・展示室内が撮影禁止であることに対する苦情があったため、特別展覧会では会場入口付近に看板等を造作し、来館者が記念撮影を行えるよう配慮した。

【補足事項】
(4館共通)
イ　「没後150年　坂本龍馬」においては、平成知新館の3階が名品ギャラリー、2階・1階が特別展覧会場であること、巡回展のため図録の章番号と順路が異なっていたため、動線の混乱が予想された。施した対策は以下のとおり。
・3階エレベーター前に会場案内図を設置。
・3階名品ギャラリーの章パネルに特別展覧会場への誘導サインを記載。
・展示室内の1階、2階の階段付近に会場案内図を設置。
・1階の彫刻室については名品ギャラリーであったため、特別展覧会出品作品ではないことを明記した案内看板を設置。
・来館者がより作品を理解しやすくなるよう、出品した手紙の原文の読み下し文や解説を作品の近くに併記した。

坂本龍馬展会場案内図



坂本龍馬展会場案内図

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
特別展の来館者アンケート満足度	78.1%	89%	C		88	89	88	87
禅 - 心をかたちに -	78.1%	-	-		-	-	-	-
没後150年　坂本龍馬	78.2%	-	-		-	-	-	-

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 アンケート満足度については、平常展示館として建設された平成知新館にて特別展覧会を行うため、階をまたぐ動線や既設の案内図等の要因にて目標値を下回ることになったと考える。しかしながら、来館者アンケートの声をもとに、利用者に配慮した運営を実現すべく、展示の動線をわかりやすくしたり、記念撮影場所を設けたりするなど、工夫を行い改善に活かした。

【中期計画記載事項】
特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 アンケート結果を踏まえ、会場動線の可視化など、よりよい観覧環境を実現すべく常に改善を図るなど、中期計画初年度として、29年度以降の特別展覧会運営に資する取組を充分に行うことができた。28年度はアンケート満足度が目標値を下回ることになってしまったが、今後はアンケート結果の速やかな回覧等にて、満足度を下げる要因に対して速やかに対応していきたい。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1220イC

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
(4館共通)
イ　満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　室溪　浩

【実績・成果】
(4館共通)
イ
・館内スタッフの対応について、展覧会毎に監視説明会を行い、要員配置、留意事項、接遇の基本、業務内容、期間中のイベント、各売場、券売機の券種及び割引対象について、説明会を行った。
・館内の混雑状況を考慮し、待ち時間の看板を適宜配置し、情報提供に努めた。
・忍性展では、対面アンケートを行い、通常の展覧会よりも回収率を上げることができ、幅広く意見を聞くことができた。
・巡回警備の際には、環境美化を保つ為、適宜対応した。
・展示物と順路を考慮し、休憩スペースの確保を行った、また、地下回廊の休憩スペースでは飲食等も可能としている。
・展示室への照度を考慮し、随時対応した。
・正倉院展終了後、会議メンバーにより、アンケート結果の反省・検討会を行った。

【補足事項】
・混雑状況に応じて、臨時に待ち列看板を入口、券売機、集札付近に適宜配置し、混雑情報を提供した。
・アンケートの要望、不満、意見及び現況を洗い出し、議論を重ね改善案を策定した。

対面アンケートの模様

臨時待ち列看板設置

アンケート結果の検討会

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
特別展の来館者アンケート満足度	86.4%	80%	B		82	81	79	79
国宝　信貴山縁起絵巻	91.6%	－	－		－	－	－	－
忍性　－救済に捧げた生涯－	92.6%	－	－		－	－	－	－
第68回正倉院展	74.9%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 人員を配置し、対面アンケート回収を行い、直接お客様の声を聞くとともに回収率の増加に努めた。各種展覧会アンケートで得られた意見については、内容を精査し対応可能なことについては順次改善していく。

【中期計画記載事項】
特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 28年度の特別展における満足度では、前中期目標の期間の実績以上となった。29年度以降もアンケートを実施し、意見等への検討を行い改善をはかり、満足度の向上につとめる。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1220イD

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展

【年度計画】
(4館共通)
イ 満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長兼文化交流展室長 河野一隆

【実績・成果】
・特別展「東山魁夷 自然と人、そして町」では、唐招提寺御影堂内部をほぼそのまま再現し作品を展示したほか、照明についても調色可能な器具を取り入れるなどの工夫を行った。そのため、展示会場に対する来館者の評価は高く、集客につながった。
・混雑が予想された特別展「京都 高山寺と明恵上人」では、他館のアンケート等を参照し、待ち時間の長さが予測されたため、教育普及ツールである冊子「レジェンド・オブ・明恵」を作製し、待ち時間の有効活用に努めた。また、入場規制、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。関係部署と協議を重ね、来館者誘導に混乱が生じないよう万全を期したため、クレームを最小限とすることができた。
・特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」では、難解になりがちな展示を楽しめるよう解説パネルに工夫をこらした点が満足度調査で高く評価された。

高山寺展入場規制

【補足事項】
ハローダイヤル、日本道路交通情報センターなど関係各所にFAXを送信し、混雑状況の周知を図った。
・主催事務局において、ホームページだけでなくSNSを活用して、待ち時間などのリアルタイムの情報発信に努めた。
○太宰府消防署の協力により、地域と連携した火災訓練を実施した。
○筑紫野警察署の協力により、不審者対応の巡回を実施してもらった。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
特別展の来館者アンケート満足度	85.9%	86%	C	経	86	85	85	88
始皇帝と大兵馬俑	87.6%	−	−	年	−	−	−	−
東山魁夷 自然と人、そして町	94.2%	−	−	変	−	−	−	−
京都 高山寺と明恵上人	78.8%	−	−	化	−	−	−	−
宗像・沖ノ島と大和朝廷	82.9%	−	−		−	−	−	−

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 高い満足度で推移したが、高山寺展の待ち時間の長さのため、満足度が低くなり、特別展平均の目標値を達成できなかった。待ち時間解消のためにできる限りの工夫は行うことができた。

【中期計画記載事項】
特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 管理運営のためのアンケート結果を関係各課で共有し、改善に向けて活かしている。また、外部委員の意見のまとめを全職員に配布し、来館者ニーズ等に対する職員の意識改革の推進を図った。なお、混雑が予想される特別展については、関係部署と連携を取り対応等を講じることができた。以上のとおり、中期計画に沿って運営を実施した。

【書式A（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aア

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　特別公開「国宝土偶　縄文の女神」(28年3月23日～4月17日)
　国宝の土偶5件のうちの1つである、縄文の女神と呼ばれる土偶を公開する。

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室主任研究員　品川 欣也

【実績】

展覧会名	特別公開「国宝土偶　縄文の女神」
会　　期	3月23日（水）～4月17日（日）(25日間)
会　　場	本館特別第4室
主　　催	東京国立博物館、山形県、(公財) 山形県産業技術振興機構
作品件数	42件
来館者数	この特別公開の会場は平常展の一部であるため、別途来館者カウントを行っていない。
入場料金	一般620円、大学生410円 ※総合文化展観覧料
ｱﾝｹｰﾄ結果	－

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	「縄文の女神」は、その優美かつ圧倒的な造形力に加え、現存する立像土偶では日本最大の土偶である。この土偶が発見された山形県舟形町西ノ前遺跡では、この他にも大小さまざまな土偶残欠47個がともに出土していて、そのうち41個をあわせて公開した。また本展では、これら土偶のもつ造形的な魅力を存分に楽しんでいただくため、山形県内の企業が力を合わせ、最新の技術を用いて「博物館向け次世代展示ケース」を開発した。
学術的意義	国宝土偶「縄文の女神」は現存する日本最大の土偶である。同じ西ノ前遺跡から出土した土偶残欠41個とともに展示することで、土偶「縄文の女神」の造形表現が秀逸なだけではなく、その大きさや遺存状況が特異であることを示し、縄文時代の儀礼を考えるうえで貴重であることを伝えることができた。
教育普及	新鮮な光で「縄文の女神」を楽しむ」と題したギャラリートーク（4月15日、於本館特別4室、講師2名）を実施した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	[広報]ポスターを制作、交通広告をJR上野駅等に出稿するとともに、朝日新聞紙上に広告を掲載した。また、『博物館ニュース』、WEB、SNS等自主媒体でも情報発信した。展示室内では、展覧会情報の入ったポストカード（山形県制作）、山形県立博物館のチラシ、有機EL照明のチラシを配布した。 報道内覧会を28年3月22日(火)に開催した16名出席)。
補　足	 会場の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	
来館者数	－	－	－	この特別公開の会場は平常展の一部であるため、別途来館者カウントを行っていない。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 国宝の土偶「縄文の女神」を展示するとともに、これまで当館で紹介することがなかった関連作品も展示した。また、展示作品に最適な展示ケース、照明を検討したことによって作品にとって最適な鑑賞環境を提供することができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aイ

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
イ　特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」(28年3月23日～5月15日)
　日本近代洋画で最も重要な画家の一人である黒田清輝の主要作品と黒田が学んだ西洋絵画を展示し、黒田の目指した芸術に迫る。(目標来館者数10万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	列品企画課平常展調整室長　松嶋 雅人

【実績】

展覧会名	特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」
会　　期	28年3月23日（水）～5月15日（日）(50日間)
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、東京文化財研究所、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション
作品件数	240件
来館者数	182,353人（達成率：182.4%）
入場料金	一般1400円、大学生1000円、高校生800円、中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　89.6%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	日本美術の近代化のために力を尽くした黒田清輝（1866-1924）の生誕150年を記念した大回顧展。フランスで油絵を学んだ黒田の印象派風の明るい光の表現を取り入れた画風は、日本の洋画界に新風を吹き入れた。また、黒田は東京美術学校で教育を任され、日本洋画のアカデミズムを築いた。この展覧会では師コランやミレーなど、黒田がフランスで出会い導かれた作品を合わせて展示しながら、留学時代の「読書」「婦人像（厨房）」や帰国後の「舞妓」「智・感・情」などの代表作によって、黒田清輝の画業全体を振り返った。
学術的意義	黒田清輝の画業全体を振り返る大回顧展であり、これまでの研究の成果を網羅するとともに、今後の研究の基礎資料となる。あわせて黒田の作品を網羅しつつ、師コランやミレーなどの同時代のフランス近代絵画を対比することで、日本絵画史のみならず、世界的な近代絵画史のなかで黒田の位置づけを行うことができた。
教育普及	記念講演会を27年度に1回、28年度に1回実施した。そのうち平成28年度分については4月16日の講演「黒田清輝とフランス―日本近代絵画にもたらしたもの」で、応募総数365人、参加者数261人であった。またジュニアガイドを編集、刊行した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	[広報]ポスター、プレチラシ、本チラシを制作、首都圏を中心に交通広告、屋外広告を展開するとともに学校、旅行会社等に送付、『博物館ニュース』、WEB、SNS等自主媒体でも情報発信した。また、展覧会公式WEBサイト、ツイッターアカウントが設置され、より幅広い層への訴求を行った。会期前・会期中を通じて、新聞、雑誌およびテレビ・ラジオ番組で紹介され、周知に貢献した。 報道内覧会を28年3月21日に開催した(141名出席)。
補　足	 会場の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	182,353人	100,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 出品作品の調査・研究成果をふまえて、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、目標人数を大きく上回る来館者を得られたとともに、満足度も高く、年度計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aウ

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ウ　特別展「黄金のアフガニスタン －守りぬかれたシルクロードの秘宝－」（4月12日～6月19日）
　世界巡回をしている、カーブル博物館が所蔵するアイハヌム、ティリヤ・テペなどの文化財を展示する。（東京国立博物館・九州国立博物館共同企画）（目標来館者数7万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部長　井上 洋一

【実績】

展覧会名	特別展「黄金のアフガニスタン －守りぬかれたシルクロードの秘宝－」
会　　期	4月12日（火）～6月19日（日）（61日間）
会　　場	表慶館
主　　催	東京国立博物館、アフガニスタン・イスラム共和国情報文化省、産経新聞、フジテレビジョン
作品件数	246件
来館者数	154,875人（達成率：221.3%）
入場料金	一般 1400 円、大学生 1000 円、高校生 600 円、中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　87.3%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	アフガニスタンは、古くから『文明の十字路』として栄え、シルクロードの拠点として発展した。その北部に点在する古代遺跡で発掘された貴重な文化財は、1979年のソ連軍による介入時に秘密裏に保管された。本展は、この秘宝の再発見を契機に、アフガニスタンの文化遺産復興を支援するために企画された古代アフガニスタンの歴史と文化を紹介する国際巡回展である。日本展では、平山郁夫氏らの呼びかけにより日本で「文化財難民」として保護・保管され、この機にアフガニスタンに返還されることとなったアフガニスタンからの流出文化財の中から15件も出品された。
学術的意義	中央アジアの考古学・古代史において極めて重要な考古資料を、出土コンテクスト等の情報とともに、細部まで観察できる状態で展示して、研究者の期待に応えることができた。また、展覧会図録で作品に関する正確なデータ（サイズ、材質など）を初めて提供したでの今後の研究に活用される。
教育普及	・記念講演会を3回実施した。第1回は4月17日の講演「アフガニスタン展「私とアフガニスタン」」で、応募総数331人、参加者数199人であった。第2回は4月23日の講演「アフガニスタン展「バクトリアの秘宝を語る」」で、応募総数565人、参加者390人であった。第3回は5月28日の講演「アフガニスタン展「世界遺産を護れ！-迫る危機をのりこえて-」」で、応募総数409人、参加者数287人であった。 ・5月5日にキッズデーを開催するとともに、ナイトミュージアムのイベントを実施した（応募総数　676人、参加者数118人）。 ・ジュニアガイドを編集、刊行した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	[広報]ポスター、プレチラシ、本チラシを制作、首都圏を中心に交通広告、屋外広告を展開するとともに学校、旅行会社等に送付、『博物館ニュース』、WEB、SNS等自主媒体でも情報発信した。また、展覧会公式WEBサイト、ツイッター、フェイスブックのアカウントが設置され、より幅広い層への訴求を行った。テレビ番組、雑誌等で多く紹介され、上野商店会等地域との連携による広報活動も行った。 4月11日　報道内覧会開催、126名出席
補　足	 会場の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	154,875人	70,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 　失われたと考えられていたアフガニスタンの文化財を展示し、目標を大きく上回る来館者があった。また、アフガニスタンの文化財保護に寄与するとともに、研究者への作品情報の提供もできた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aエ

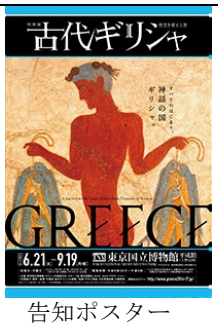
中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
エ　特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―」(6月21日～9月19日)
　フィッシャーマンを描いた壁画など、ギリシャ各地に残るギリシャ美術の名宝を紹介する。(目標来館者数20万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	調査研究課考古室長　白井 克也

【実績】

展覧会名	特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―」
会　　期	6月21日（火）～9月19日（月）(80日間)
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、ギリシャ共和国文化・スポーツ省、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション
作品件数	325件
来館者数	199,567人（達成率：99.8%）
入場料金	一般1600円、大学生1200円、高校生900円※中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　83.4%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	ギリシャには時代や地域によりさまざまな美術が花開いた。本展はギリシャ国内40か所以上の国立博物館群から厳選された300件を超える古代ギリシャの貴重な作品を展示する日本でかつてない規模の試みとなった。
学術的意義	青きエーゲ海の美しい島々からはじまるギリシャ最古のエーゲ海文明からヘレニズム時代まで、西洋文化の源である古代ギリシャ文明の黎明から最盛期に至るその壮大な歴史の流れを総合的に紹介した。 　いわゆる「暗黒時代」を挟んだ前後の時代を、多神教の価値観に裏付けられつつ多様性や変化を含んだ一連のものとしてとらえ、陶器画、彫刻、金工などあらゆる分野の作品を、最新の発掘・研究成果を取り入れつつ展示した。特に各文明・時代の中心地のみならず、中心地以外の地域の個性にも光を当てることができた。
教育普及	記念講演会を1回実施した。6月25日の講演「ギリシャ展「ギリシャ美術を巡る旅　-神々と人間の出会うところ-」」で、応募総数575、参加者数328人であった。また関連イベントとして7月25日にギリシャ展「古代ギリシャ　ナイトミュージアム」を開催した。応募総数1604人、参加者数371人であった。 　7月25日にキッズデーを開催し、ギャラリートークを4回実施した。第1回130人、第2回140人、第3回110人、第4回75人と計455人の参加があった。 　ジュニアガイドを編集、刊行した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	[広報]ポスター、プレチラシ、本チラシを制作、首都圏を中心に交通広告、屋外広告を展開するとともに学校、旅行会社等に送付、『博物館ニュース』、WEB、SNS等自主媒体でも情報発信した。『博物館ニュース』、WEB、SNS等自主媒体のほか、展覧会公式WEBサイト、ツイッター、アカウントを設置、より幅広い層への訴求を行った。テレビで関連番組、展覧会紹介番組が多く放映された。 6月20日　報道内覧会開催、207名出席
補　足	 会場の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	199,567人	200,000人	C

【年度計画に対する総合評価】 評定：C	【判定根拠、課題と対応】 　これまでにない規模でギリシャ美術を紹介した。目標の来館者数にはわずかに達しなかったが、キッズデーを開催するなど、夏休み中の子供の学習に役立つことができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aオ

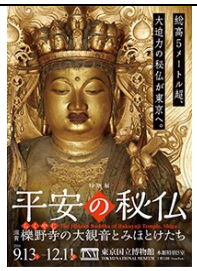
中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
オ　特別展「平安の秘仏 - 滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」（9月13日～12月11日）
　滋賀・櫟野寺の像高が3メートルを越す秘仏本尊十一面観音菩薩坐像等、同寺の平安仏20体を展示する（目標来館者数8万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室長　丸山 士郎

【実績】

展覧会名	特別展「平安の秘仏－滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」
会　　期	9月13日(火)～29年1月9日(日)（96日間）
会　　場	本館特別5室
主　　催	東京国立博物館、櫟野寺、読売新聞社
作品件数	20件
来館者数	212,144人（達成率：265.2%）
入場料金	一般1000円、大学生700円、高校生400円、中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　90.6%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	滋賀県甲賀市に所在する天台宗の古刹、櫟野寺には重要文化財に指定される平安時代の仏像が20体伝来する。本展覧会は、それらが揃って寺外で見られる初めての機会となった。本尊の十一面観音菩薩坐像は像高が3mもある圧巻の作品で、普段は大きく重い扉に閉ざされる秘仏である。他に像高2.2mの薬師如来坐像、11体の観音立像、坂上田村麻呂にまつわる毘沙門天立像、文治3年（1187）に造られたことが知られる地蔵菩薩坐像なども出品され、櫟野寺に伝わる平安彫刻の全貌を紹介した。
学術的意義	櫟野寺の重要文化財に指定される20体の仏像を適切な照明の下で展示し、表現などを観察する鑑賞環境を整えた。また、20体全てについて新たに写真撮影を行った上で、多くの図版を掲載する図録を刊行して、今後の研究の基礎資料を提供した。
教育普及	記念講演会を実施した。10月15日の講演「平安の秘仏展「滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち展「滋賀・櫟野寺の仏像をめぐって」」で、応募総数934人、参加者数362人であった。また関連イベントとして声明を行った。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	[運営]所蔵者の都合で会期を18日間延長したが、混乱なく運営することができた。 [広報]ポスター、チラシ、はがきを制作、学校や博物館・美術館に送付するとともに、首都圏を中心に交通広告等展開した。読売新聞、朝日新聞への広告出稿のほか、特集記事も掲載、テレビ番組で輸送・展示など開幕準備の様子も紹介された。報道内覧会を9月12日に開催した（116名出席）。
補　足	 会場の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	212,144人	80,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 像高が 3mを超す仏像を展示するという、国立博物館でなくては実現が困難な展覧会を開催して、目標を大きく上回る来館者があった。また、全作品について写真撮影を行い、今後の基礎資料を提供することできた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aヵ

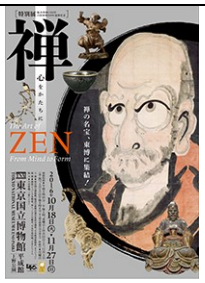
中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
カ　臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展「禅―心をかたちに」（10月18日－11月27日）
　　臨済禅師1150年と白隠禅師250年遠諱を記念して禅宗美術の優品を展示する。（目標来館者数9万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	救仁郷 秀明（列品管理課長）

【実績】

展覧会名	臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展「禅―心をかたちに」
会　　期	10月18日（火）～11月27日（日）（36日間）
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、BSジャパン
作品件数	239件
来館者数	133,629人（達成率：148.5%）
入場料金	一般1600円、大学生1200円、高校生900円、中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　85.4%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	臨済宗・黄檗宗の源流に位置する臨済義玄禅師の1150年遠諱、ならびに日本臨済宗中興の祖、白隠慧鶴禅師の250年遠諱を記念して開催した。臨済・黄檗両宗十五派の全面的な協力のもと、各本山や末寺、塔頭に伝わる高僧の肖像や墨蹟、仏像、絵画、工芸など、国宝22件、重要文化財102件を含む239件の多彩な名宝を通じて、禅の真髄に触れていただき、禅僧たちの足跡や禅の教えが日本文化に果たしてきた役割を紹介した。
学術的意義	禅宗美術をとりあげた大規模な展覧会としては、本展は1981年の京都国立博物館における「禅の美術」以来、35年ぶりの開催である。また日本の臨済宗・黄檗宗の美術をテーマとする大規模な展覧会としては初めての開催であり、臨済・黄檗両宗に関連する重要な作品を総覧できる貴重な機会を提供した。出品作品の多くは、日本美術の歴史を語る上で不可欠な作品であり、臨済宗・黄檗宗が日本美術に果たした役割の大きさを明らかにすることができた。過去15年間に開催した禅宗関連の特別展の蓄積を生かし、会場には一般来館者の理解に資する解説パネルを多数作成して設置し、また図録には最新の調査研究の成果を盛り込んだ。
教育普及	記念講演会及び関連イベントを3回実施した。第1回が10月29日の講演「禅―心をかたちに―展「禅の美術」」で、応募総数617人、参加者数340人であった。第2回が11月3日のトークイベント「禅―心をかたちに―展「白隠 VS 雪舟 達磨図を語る」」で、有料チケット販売、参加者数355人であった。第3回が11月12日のイベント「禅―心をかたちに―展「禅寺の四ツ頭茶礼」」で、応募総数632人、参加者数380人であった。 そのほか、禅トークを10回、写禅語を13回、坐禅会を3回、尺八コンサートを1回実施した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	[広報]ポスター、チラシ、はがきを制作、学校や博物館・美術館に送付するとともに、首都圏を中心に交通広告、屋外広告を展開した。英文チラシを制作、外国人への周知を図ったほか、東京メトロとタイアップしたスタンプラリーを実施した。また、関連企画として制作された現代美術家チームラボの作品の発表会を開催し、若者や現代美術ファンへのアプローチを試みた。 報道発表会　7月8日開催、73名出席 報道内覧会　10月17日開催、116名出席 チームラボ新作発表会・特別内覧会　11月8日開催、177名出席
補　足	 会場の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	133,629人	90,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 出品作品の調査・研究成果をふまえて、禅の美術の全容を紹介することができた。また、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、目標人数を大きく上回る来館者を得られ、年度計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aキ

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
キ　特別展「春日大社－千年の至宝」(29年1月17日-3月12日)
　第60次式年造替を記念して春日大社に伝わる門外不出の古神宝など選りすぐりの名品と関連する作品を展示する。(目標来館者数12万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	主任研究員　土屋貴裕

【実績】

展覧会名	特別展「春日大社－千年の至宝」
会　　期	29年1月17日（火）～3月12日（日）(48日間)
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、春日大社、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社
作品件数	250件
来館者数	209,572人（達成率：174.6%）
入場料金	一般1600円、大学生1200円、高校生900円、中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　91.2%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	春日大社では「式年造替」と呼ばれる社殿の建て替えや修繕が約20年に1度行われ、平成28年（2016）には60回目を迎えた。本展は、この大きな節目に、春日大社に伝来し、社外では拝観できない古神宝の数々とともに、春日の神々への祈りが込められた選りすぐりの名品を展観した。「平安の正倉院」と呼ばれる春日大社に伝来した王朝の精華を伝える古神宝類、祈りを込め奉納された甲冑や刀剣、聖地・春日野や神々の姿を表わした絵画や彫刻などが一堂に会した。
学術的意義	本展では、社外ではめったに公開されない国宝の古神宝や甲冑・刀剣などの奉納品、また芸能にかかわる作例から、春日の神々へささげられた祈りを美術作品から紹介した点に学術的な意義が認められる。また、春日信仰の背景となる古代・中世の神仏習合や本地垂迹説など、日本人の宗教観が結実した造形についてまとめて紹介した点にも、大きな意義が認められる。
教育普及	記念講演会を1回実施した。2月12日の「春日大社展「春日の歴史と神様にささげた究極の宝」」で応募総数995人、参加者数365人であった。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	[広報]ポスター、チラシ、はがきを制作、学校や博物館・美術館に送付するとともに、首都圏を中心に交通広告、屋外広告を展開した。 報道発表会　7月22日開催、42名出席 報道内覧会　29年1月16日開催、170名出席
補　足	 会場の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	209,572人	120,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 出品作品の調査・研究成果をふまえて、春日大社の歴史・美術、さらに春日信仰を紹介した。また、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、目標人数を大きく上回る来館者があり、中期計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221Aク

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（年度計画外で実施）
日韓国交正常化50周年記念　特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」（6月21日－7月10日）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室長　丸山士郎

【実績】

展覧会名	日韓国交正常化50周年記念　特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」
会　　期	6月21日（火）～7月10日（日）（20日間）
会　　場	本館特別5室
主　　催	日韓半跏思惟像展示実行委員会、東京国立博物館、韓国国立中央博物館、NHK
作品件数	2件
来館者数	78,562人
入場料金	一般1000円、大学生700円、高校生400円、中学生以下無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　80.6%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	半跏思惟像は、仏教の母国・インドにはじまり、中国、朝鮮半島、日本へと伝わりました。日本や朝鮮半島では6世紀から8世紀の間に多くの像がつくられ、奈良の中宮寺門跡に伝わる国宝の半跏思惟像はその代表作である。また、韓国国立中央博物館所蔵の銅製の半跏思惟像は、国宝78号像として広く親しまれている。日本と韓国に同じ姿の優れた仏像が残るのは、両国の古代から続く交流の深さを物語るといえる。この展覧会は2体の半跏思惟像を同時に展覧し、日本と韓国の仏像の美を堪能するまたとない機会となった。
学術的意義	日本と韓国に伝わる半跏思惟像の優品を同時に展示することで、両国の半跏思惟像の共通点や相違点を示すことができた。また、図録には韓国国立中央博物館研究員の論文を掲載するなど、作品に関する意見交換をして学術的な交流を深めることができた。
教育普及	－
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	[広報]ポスター、チラシを制作、学校・関係団体等に送付するとともに、JR等の大型ボードに広告を掲出、あわせて朝日新聞、読売新聞に広告を出稿した。『博物館ニュース』、WEB、SNS等自主媒体でも情報を発信、韓国中央博物館での展覧会関係報道と合わせ、多くの番組や新聞紙上で紹介された。 6月20日　報道内覧会開催、207名出席　（「古代ギリシャ」展と同時開催）
補　足	・本展は年度計画に無く、急遽開催されたものである。 会場の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	78,562人	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：－	【判定根拠、課題と対応】 急遽開催した展覧会であるが、78,562人（一日平均3,928人）の入館者があり、図録も13,329冊（売上率17.2%）もの売上があった。なお、本展は年度計画に無く、急遽開催されたものであるので、年度計画に対する評定はない。

【書式A（特別展）】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1221Bア

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】ア　特別展覧会「禅 - 心をかたちに - 」(4月12日～5月22日)
臨済宗・黄檗宗の寺院に伝わる高僧の肖像や墨蹟、仏像、絵画、工芸など多彩な名宝の数々を一堂に集め、我が国における禅僧の足跡や禅の教えが日本文化に対し果たしてきた役割を紹介する。(目標来館者数7万人)

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室主任研究員　羽田　聡

【実績】

展覧会名	特別展覧会「禅-心をかたちに-」
会　　期	4月12日(火)～5月22日(日)(36日間)
会　　場	京都国立博物館　平成知新館
主　　催	京都国立博物館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞
作品件数	305件(うち、国宝19件、重要文化財104件、重要美術品1件)
来館者数	88,288人（達成率：126.1%）
入場料金	一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　78.1%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	臨済宗・黄檗宗15派の源流に位置する高僧、臨済義玄の1150年遠諱と、日本臨済宗中興の祖、白隠慧鶴の250年遠諱を記念して開催。本展は、各派本山や末寺、塔頭に伝わる高僧の肖像や墨蹟、仏像、絵画、工芸など多彩な名宝の数々を一堂に集めた過去最大規模の禅の展覧会である。また、現代でも多くの禅寺では、座禅会や僧侶による講和が人気を博し、海外でも生活スタイルに「ZEN」の思想を取り入れているなど、時機を見て開催したものである。
学術的意義	・調査の過程において、大分県の見星寺では「慧可断臂図　白隠慧鶴筆」及び「龍図　仙厓義凡筆」が新たに発見された。 ・刊行した図版目録には、研究員11名（東京国立博物館5名、京都国立博物館5名、外部1名）による各論を収録し、展示作品にまつわる最新の研究成果を紹介することにつとめた。 ・5月4日(水)に研究者を対象として開催したシンポジウム「日本国内における禅宗文化の受容と伝播」では、講師　川本慎自氏（東京大学史料編纂所 助教）ほか2名による研究発表、座談会を実施し、活発な意見交換を行った。
教育普及	・ワークショップ　「くじで出会う　禅のことば」を会期中実施。本展に関連のある禅語のくじを引き、書写をしたり、その言葉の意味を考えたり、解説を聞くことで禅に親しみを持つきっかけにしてもらうものである。 ・『博物館Dictionary』　188号、189号へ本展に関連の内容を掲載し発行。 ・関連土曜講座　4月23日(土)「禅画と墨蹟－近世の禅林美術－」講師　福島 恒徳氏（花園大学文学部教授）など含む5回実施。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	・イベント等　記念講演会及び講堂内における四頭茶会と声明及び狂言、座禅会、そして平成知新館グランドロビーにおいてロビー講話を実施した。 ・多言語対応　展覧会後期より一部の作品の解説へ英訳を併記した。 ・混雑対応等　動線がわかりづらいため、階段の近くなどへフロアマップを製作し設置した。
補　足	・記念講演会　4月16日(土)　「禅における〈心〉のかたち」講師　野口 善敬氏（花園大学国際禅学研究所　所長） ・講演会　4月24日（日)「禅と水墨画　雪舟と白隠を中心として」講師　山下 裕二氏（明治学院大学 教授)、細川 晋輔氏（臨済宗妙心寺派龍雲寺 住職） ・四頭茶会　－禅院の茶礼 5月3日（火・祝）　茶祖とされている明庵栄西を開山（創建者）とする建仁寺で毎年4月20日に行われる四頭茶会を再現・実演し、その礼儀作法を解説。 ・声明－禅の祈り　4月29日(金・祝)、5月8日(日)　儀礼の際に行わる、僧侶が経典や回向文に節をつけて奏でる仏教音楽の一つである声明を実施。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	88,288人	70,000人	A

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	来館者が目標値を超えたこと及び、外国人来館者の増加に伴う英訳解説対応による多言語対応、そして数多くの禅文化に関わる事象を視覚的にわかりやすく紹介するイベントにより、禅の歴史と教え、更にはそれらが日本文化に対し果たしてきた役割を充分に多くの来館者に紹介し、我が国の中核拠点としての位置づけを示すことができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1221Bイ

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】イ　特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」(10月15日～11月27日)
龍馬が亡くなっておよそ150年、近年発見された新資料を通じて改めて龍馬イメージを再構築し、幕末という時代に迫る。(目標来館者数6万人)

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　宮川禎一

【実績】

展覧会名	特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」
会　　期	10月15日(土)～11月27日(日)(38日間)
会　　場	平成知新館1階、2階
主　　催	京都国立博物館、読売新聞社、読売テレビ
作品件数	※186件(うち重要文化財1件)　※参考出品1件をのぞく件数
来館者数	98,533人（達成率：164.2%）
入場料金	一般1,300円、大学生1,100円、高校生800円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　78.2%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	幕末の志士坂本龍馬が京都で亡くなっておよそ150年、坂本龍馬を主人公にして幕末史をふり返る特別展覧会を開催。本展では、坂本龍馬直筆の手紙のほかに、遺品として有名な血染めの掛軸や屏風、坂本家の家紋入りの紋服、土佐でもらった小栗流の剣術免状、近江屋で使った海獣葡萄鏡等を一部屋に集めて展示。また、個人宅から発見された「越行の記」や北海道で再発見された龍馬佩用の脇差など、この十年に進展した坂本龍馬研究の現状について紹介したものである。
学術的意義	・坂本龍馬直筆の書状のうち初公開として安政三年の相良屋源三郎宛て、慶応二年の伊藤九三宛て、慶応三年の佐々木高行宛てなどの重要な手紙を展示し、坂本龍馬研究の新たな視点を紹介することができた。 ・北海道坂本家史料の展示に伴い、当館所蔵の坂本家寄贈品の伝来を確認することができた。 ・近年発見された「越行の記」を展示することのみならず、近江塩津の林家史料が土佐藩北国開拓事業の一端を示す貴重な資料であることが裏書から判明した。 ・パークス襲撃事件に関する新たな資料(刀)について展示することができた。日本刀を用いた実際の戦闘記録が明確に記録され、なおかつ使用者と現物が確認できる極めてまれな例である。
教育普及	・ワークショップ　「龍馬さんからお手紙です！」を会期中実施。坂本龍馬の手紙を受取り、読み解くことで、手紙の面白さや坂本龍馬という人物の魅力を知ってもらうものである。 ・博物館Dictionary　193号へ本展に関連の内容を掲載し発行。 ・関連土曜講座　10月29日(土)「龍馬と坂本家」講師　高知県立坂本龍馬記念　学芸課長　前田由紀枝氏など含む7回実施。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	・イベント等　「刀剣乱舞DAY」(11月3日～6日)を実施。期間中、先着500名に特製クリアファイル配布等実施。 ・広報等　BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」(11月11日)にて放映。 ・シアター等　講堂にて「坂本龍馬の手紙」を放映。 ・運営等混雑が激しい作品前には最前列観覧用の列と後ろからの観覧列と分けるなど、混雑対策を実施。 ・キャプション等　一部の作品については置きキャプションとともに貼りキャプションを設置し、距離に関わらず解説を読みやすくなるようにした。
補　足	・月琴コンサート　11月15日(火)　坂本龍馬の命日である11月15日に、龍馬とその妻おりょうにゆかりの月琴コンサートを実施。 ・特別トークショー　11月3日(木・祝)　小坂崇氣氏(「刀剣乱舞 - ONLINE-」原作プロデューサー)と東京国立博物館末兼研究員による、刀剣鑑賞の楽しみ方や刀剣にまつわる話についてのトークショーを実施。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	98,533人	60,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 「刀剣乱舞 DAY」イベントの実施により、来館者数の増員を図るなどして来館者数の目標値を達成し、想定外の混雑が生じた。しかしながら、事前に混雑時の運営を想定していたため、作品前の待列対策を施せたことや、混雑時でも読み易いキャプションを事前に設けることなど対策は充分であった。また、最新の坂本龍馬研究成果の公表のみならずパークス襲撃事件関連作品の展示などにより美術工芸から見た幕末を紹介することもできた。以上により、目標を上回る成果を上げた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cア

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 ア　特別展「国宝　信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」(4月9日～5月22日) 日本三大絵巻の一つとして数えられる信貴山縁起絵巻の全貌を紹介する。また朝護孫子寺の寺宝の数々を関連する寺外の名品とともに公開することで、信貴山毘沙門天への信仰が生み出した造形の魅力にも迫る。(目標来館者数5万人)			
担当部課	学芸部教育室	事業責任者	谷口耕生

【実績】

展覧会名	特別展「国宝　信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」
会　　期	4月9日(土)～5月22日(日)（39日間）
会　　場	奈良国立博物館　東・西新館
主　　催	奈良国立博物館、総本山朝護孫子寺、読売新聞社
作品件数	78件
来館者数	55,198人（目標50,000人、達成率：110.4%）
入場料金	一般1,300円、高校・大学生900円、小・中学生500円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　91.6%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	・平安絵巻の傑作である国宝 信貴山縁起絵巻全3巻を史上初めて全会期にわたり全巻全場面展示した。 ・絵巻全巻展示に当たり仮説専用展示ケースを新造し、絵巻の細部を間近に鑑賞できるよう工夫した。 ・信貴山縁起絵巻と同時代の平安絵巻や信貴山朝護孫子寺の寺宝等の関連文化財を一堂に展示することで、同絵巻の絵画的魅力とともに信貴山信仰史上における意義も広く紹介した。
学術的意義	・高精細デジタルカメラや蛍光エックス線分析器等を用いた光学的調査の成果に基づいて制作した信貴山縁起絵巻の復元模写を展示し、制作当初の彩色を視覚的に提示した。 ・信貴山朝護孫子寺の寺宝調査を事前に実施し、その過程で発見された未紹介の重要作品を数多く展示するとともに、その学術的価値を図録解説で紹介した。 ・信貴山朝護孫子寺の歴史の中に信貴山縁起絵巻制作の意義を位置づける総説、3本の各論、関連年表、絵巻の詞書全文、参考文献一覧など学術的価値の高い資料を図録に掲載した。
教育普及	・高精細デジタル画像を用いた大画面スクリーン映像展示、デジタル・ビューアシステムを展示室内に設置し、信貴山縁起絵巻の細部表現やストーリーへの理解を促した。 ・会期中に公開講座を3回実施した。 ・小学生の親子を対象とするミニチュア絵巻制作体験のワークショップを実施した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	・混雑対策として、絵巻を間近に鑑賞する最前列のゾーンを結界で区切り、結界越しの背後からであれば列に並ぶこと無く自由に鑑賞できるよう動線を工夫した。 ・絵巻鑑賞の待ち時間をリアルタイムで表示するパネルを各入口に設置した。 ・空飛ぶ鉢と米俵の模型をエントランス・ホールに吊るして撮影ゾーンを設置し、観客が記念写真をSNS上にアップするよう促した。
補　足	【公開講座・ワークショップ】 ・4月23日（土）　公開講座「後白河法皇の信仰世界－神仏との交歓－」 講師：横内裕人（京都府立大学准教授）　171名参加 ・4月30日（土）　親と子のワークショップ「空とぶ鉢のおはなし絵巻をつくろう！」 2回実施。合計49組105名参加（1回目：25組55名、2回目：24組50名） ・5月 7日（土）　公開講座「信貴山縁起絵巻と朝護孫子寺の毘沙門天王信仰」 講師：谷口耕生（当館学芸部教育室長）　194名参加 ・5月21日（土）　公開講座「信貴山縁起絵巻について」 講師：梶谷亮治（奈良県学芸統括参与）　194名参加

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	55,198人	50,000人	B

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 信貴山縁起絵巻を全会期全場面展示し、信貴山朝護孫子寺の寺宝を数多く初公開したことで、満足度 91.6%と高い評価を得るとともに、目標人数を上回る入場者数を達成した。絵巻鑑賞の待ち時間が 1 時間近くまで延び、混雑対策に課題を残した。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cイ

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
イ　生誕８００年記念特別展「忍性　－救済に捧げた生涯－　」（7月23日～9月19日）
　忍性の生誕８００年記念として特別展を開催。忍性ゆかりの寺院の名宝・文化財の数々を通して、奈良に生まれた名僧、忍性の生涯を紹介する。（目標来館者数3万人）

担当部課	学芸部列品室	事業責任者	室長　吉澤　悟

【実績】

展覧会名	生誕８００年記念特別展「忍性　－救済に捧げた生涯－　」
会　　期	7月23日～9月19日（53日間）
会　　場	奈良国立博物館　東・西新館
主　　催	奈良国立博物館、読売テレビ、読売新聞社
作品件数	118件
来館者数	39,834人（目標30,000人、達成率：132.8%）
入場料金	一般1,300円、高校・大学生900円、小・中学生500円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　92.6%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	忍性の生涯を辿る全6章構成とした。最初に忍性の肖像や伝記を紹介する1章を設け、以降、第2章から第6章は出家から示寂までの5つの段階で、関連する文化財を展示した。忍性は「癩」すなわちハンセン病を患った者に救いの手を差し伸べたことで知られる。その活動はマザーテレサに先駆けること約700年である。展示ではその救済思想の根幹となる「文殊信仰」を大きく採り上げ、慈悲心に生きた偉人の生涯を紹介した。
学術的意義	忍性を主役にした初めての大規模展覧会である。国宝18件、重要文化財35件を含む重要作品が一堂に観覧でき、中には「東征伝絵巻」（唐招提寺蔵、重文）の全巻全場面公開や、3つの忍性骨蔵器が史上初めて揃って展示されるなど、本展ならではの貴重な作品公開が実現した。また、図録には個別の作品解説の他、総論1本と各論5本、コラム4本を掲載し、そのうち各論とコラムには忍性や律宗の研究、ハンセン病の歴史などで第一線の研究者が執筆しており、向後の研究でも基本文献とされる本が作成できた。
教育普及	本展に関連して公開講座を3回、夏季講座（3日間）を開催しており、さらに子供無料日（7月30日、31日は中学生以下無料）を設けて両日に2つのイベントを実施した。奈良芸術短期大学の協力によって忍性の生涯を紹介するアニメーション映像「笑顔のお坊さん 忍性 すべては母からはじまった」を作成して会場で上映したほか、その映像の教材活用を希望する小中学校には無償でＤＶＤを配布した（当館の展覧会でアニメーション映像の活用は初めての試み）。また、奈良教育大学と奈良市教育委員会の協力を得て、奈良市内の学校教員と忍性の教材化に関する検討会を行った。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	凸版印刷株式会社の協力により「東征伝絵巻」（唐招提寺蔵、重文）の全容が分かる高精細映像を作成し、展示会場で上映した他、同絵巻を自由に拡大鑑賞できるタッチパネル映像コーナーも会場に設けた。読売テレビとの協業により、本展に関連した文化財を紹介する番組や報道番組を作成し放映したほか、歌手の南こうせつ氏を本展のスペシャルサポーターに迎え、上記のアニメーションのナレーションを担当、広報等にも協力を頂いた。
補　足	 アニメーション「笑顔のお坊さん 忍性 すべては母からはじまった」の一部

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	39,834人	30,000人	A

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	当初計画にもとづき、学術的にも教育的にも有益な展覧会を開催することができ、目標値を上回る入館者数を獲得した。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cｳ

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（2）展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】ウ　特別展「第６８回正倉院展」（予定） 正倉院宝庫に伝わる宝物約70件を展示。（目標来館者数18万人）			
担当部課	学芸部工芸考古室	事業責任者	室長　清水　健

【実績】

展覧会名	第６８回　正倉院展
会　　期	10月22日（土）～11月7日（月）（17日間）
会　　場	奈良国立博物館　東・西新館
主　　催	奈良国立博物館
作品件数	64件
来館者数	208,614人（達成率：115.9%）
入場料金	一般1，100円　高校・大学生700円　小・中学生400円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　74.9%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	天平文化の精華を広く国民に公開する秋恒例の展覧会。68回目となった今年度は、正倉院宝物が概観できる器物、染織品、文書・経巻など初出陳9件を含む64件が出陳された。今回は、北倉伝来の聖武天皇ゆかりの宝物からはじまり、第1会場に、献物に関わる品や楽舞に関係する品など華やかなものを配置し、第2会場の第1室に聖武天皇一周忌斎会所用の用具をまとめて展示した。第2会場は儀式の用具からはじまって、仏・菩薩の供養に用いられる道具、奈良時代の生産技術に関する品、奈良時代の暮らしを伝える器物、文書と進み、経巻で締め括った。総体に奈良時代の宗教空間の提示から、金属工芸技術について眺めながら、世俗の生活の展示に至るよう配置した。 なお本年は、一昨年完了した正倉院正倉の整備事業が総括されたのを受け、屋根から下ろされた瓦6点を、会期中に最新の知見とともに第2会場の入口付近（展示室外の仮設ケース）に展示した。
学術的意義	正倉院宝物を大規模に公開するほとんど唯一の機会であり、殊に初出陳品には一般に公開されるのが史上初というものもあって、開催自体が重要な意義を持っていると考えられる。また本年は、奈良時代の金属生産と活用を一つのテーマとして提示し、大きな反響があった。さらに、巨大な仏具である大幡の関係品のまとまった展示や、復元プランの提示も、意義深いものであったと確信している。 図録には多くの新写や初公開を含む多数の図版を収録し、用語解説と対照できる最新の知見を踏まえた解説を収録した。また最新の知見を含む小論文も掲載し、宝物研究の最前線を提示した。加えて、正倉院の瓦についての最新の知見を含むリーフレットを作成し、正倉の建立年代に及ぶ問題を提起した。
教育普及	会場には宝物毎に簡潔な解説を付した日英の題箋を複数設置した。また正倉院宝物の概要やコーナー毎の見所を記したパネルや部分拡大図、技法解説などを随所に配置し、理解の促進を図った。 会期中には公開講座3回、正倉院正倉をテーマとした学術シンポジウム、解説付きの親子鑑賞会を各1回実施した。ボランティア解説員による見所解説を1日5回講堂にて行った。さらに、学芸部で監修した日・英・子ども用の音声ガイドを貸し出した。会期前には大学1校で、研究員による出前授業を実施した。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	特別協力者の協力を得て、交通広告など、大規模な広報展開を行った。また、特別協力者（新聞社）と協力して新聞の特別紙面を構成し、会場で配布するとともに、申し出のあった学校等への配布も行った。他方、所蔵者の許可を得て、特別に申し出た事業者による宝物撮影の機会を設け、特集番組を含む番組制作・紙面制作に協力した。館内に予約制の託児室を設け、観覧環境の充実に努めた。また待ち列部分で映像を流し、観覧環境の向上や観覧マナーについて啓発及び注意喚起を行った。
補　足	28年度は宝物を管理する正倉院事務所と協議し宝物の展示環境が改善したことから、混雑緩和を目的として金・土・日曜日及び祝日の観覧時間を、1時間延長し午後8時までとした。なお、時間延長の決定が報道発表や広報用の印刷物の製作に遅れたため、ポスター、チラシ等に記載の観覧時間と看板、ウェブサイト、新聞広告等に記載の観覧時間が齟齬したが、時間限定の観覧券（オータムレイト券）の取扱いを変更しなかったこともあり、大きな混乱はなかった。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	208,614人	180,000人	B

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 前年より１万人強減少したものの、多くの観覧者が来場し、会場の混雑にもかかわらず、前年を上回る高い満足度であった。会場も局所的な集中箇所はほとんどなく、自然な動線が確立していた。会場からの声には、ストーリー性のある展示構成や写真を多用した補助展示、開館時間の延長を評価する声が多くみられた。一方、小さな展示物が多かったこともあり、壁付きケースに小品を展示することに対する不満が多くみられた。また、題箋や照明についての不満も多く認められた。今後はそうした声を踏まえ、配置等をよく検討し、一層観覧環境の充実に努めたいと思っている。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1221Dア

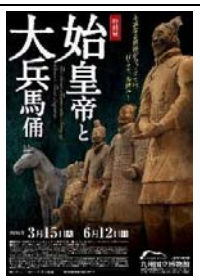
中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　特別展「始皇帝と大兵馬俑」(28年3月15日～6月12日)
　20世紀最大の考古学的発見とされる兵馬俑と併せ、重要で多彩な文物を一堂に紹介する。(東京国立博物館・九州国立博物館共同企画)(目標来館者数11万人)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	特別展室主任研究員　川村佳男

【実績】

展覧会名	特別展「始皇帝と大兵馬俑」
会　　期	28年3月15日～6月12日
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、陝西省文物局、陝西省文物交流中心、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、西日本新聞社、朝日新聞社
作品件数	124件
来館者数	191,222人（達成率：173.8%）
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　87.6%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	紀元前221年に中国を初めて統一した秦の始皇帝が成し遂げた事績について、兵馬俑を中心に紹介するとともに、建国から中国統一にいたる秦国の歴史にも焦点を当てた。兵馬俑は中国から出品可能な最大限の件数10体を借用し、約50体のレプリカとともに展示することで、兵馬俑を出土した遺跡である兵馬俑坑を再現した。兵馬俑を主題とした展覧会としては、当館を含む国立3館を巡回した初めての例である。
学術的意義	始皇帝の事績や人物像に関する研究は、これまで文献によって進められてきたが、本展では始皇帝陵や咸陽宮からの出土品による新たなアプローチを試みた。また、兵馬俑のうち将軍俑や雑技俑などが見せる姿態について新たな解釈を提示した。加えて、近年の発掘成果を踏まえて、秦国の歴史を西周時代の萌芽期にまで遡るとともに、西戎・匈奴など騎馬文化との関わりを交えて紹介することができた。
教育普及	図・写真のパネル、演示具を多用し、ハンズオンコーナーを設けることで、文字をたくさん読まなくとも意図が伝わる分かりやすい展示を目指した。また、「兵馬俑に迫る7つの話」のパネルを掲示することで、展覧会全体の脈絡をより明確にした。若年層にはジュニアガイド、イベント、始皇帝が統一した秦時代の単位で身長と体重を量るコーナーなどを打ち出し、より親しみやすくなるように工夫した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	兵馬俑と銅車馬を四周から観覧できる露出展示とし、展示室内で行列が発生することを防いだ。内覧会や館内外での講演会のみならず、1階ホールで人気漫画「キングダム」の原画展や関連遺跡写真のパネル展を開催した。ホームページやツイッターで関連情報を発信したほか、レプリカ兵馬俑や「キングダム」のキャラクターと記念撮影できるコーナーを3階に設け、ＳＮＳでの話題拡散を試みた。
補　足	・ワークショップ「紙で工作！兵馬俑に変身！」5月5日（木・祝） ・記念講演会「はじめての兵馬俑」5月15日（日） 講師：市元塁（東京国立博物館） ・アクロス文化学び塾「徹底分析　始皇帝と兵馬俑」 5月14日（土）　講師：川村佳男（当館学芸部企画課主任研究員） ・講座「始皇帝の考古学」6月5日（日） 講師：川村佳男（当館学芸部企画課主任研究員） ・イベント「兵馬俑トリックアート」 28年3月15日（火）～6月12日（日）

兵馬俑の展示室と賑わい

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	191,222人	110,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 熊本地震の影響により九州全体で観光客が減った時期であったにも関わらず、目標数値を大幅に上回る19万人以上の来館者を数え、アンケート回答者の9割近くが高い満足度を示した。また、展示やイベントに教育普及の要素を多く盛り込むことで、ジュニア層からシニア層にいたる幅広い年齢層の観覧者で賑わった。

【書式A（特別展）】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1221Dイ

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
イ　特別展「東山魁夷 自然と人、そして町」(7月16日～8月28日)
　東山魁夷の画業の歩みを代表作でたどると共に、記念碑的な大作である唐招提寺御影堂の障壁画が特別に公開する。(目標来館者数7万人)

担当部課	学芸部	事業責任者	特任研究員　臺信祐爾

【実績】

展覧会名	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」
会　　期	7月16日～8月28日
会　　場	九州国立博物館特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ九州放送、日本経済新聞社
作品件数	84件（会期中一部展示替えあり）
来館者数	133,002人（達成率：190.0%）
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　94.2%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	日本画家・東山魁夷（1908-1999年）の画業を、「模索の時代（戦前）」、「自然との対話」、「古都の佇まい」、「唐招提寺御影堂障壁画」、「終わりのない道」の5章を通して紹介した。東京美術学校時代から絶筆にいたる代表作だけでなく、展覧会で見る機会の少ない、構想から完成まで約10年を要した東山魁夷・畢生の大作唐招提寺御影堂障壁画全68面も含まれている。当館に引き続き、広島県立美術館に巡回した。
学術的意義	戦後の日本画、なかでも風景画に大きな足跡を残した日本画家東山魁夷の画業を代表作で辿る、九州地方における初めての大規模展覧会であった。主要な所蔵者の全面的な協力を得て、充実した展示となった。東山魁夷研究の第一人者である茨城県近代美術館長尾崎正明氏の企画・構成により、画風の変遷を含む東山の画業の全貌がわかりやすく提示され、図録（2,000円）の販売数も1万冊を越えた。
教育普及	来場者の理解を助けるため、章解説パネル以外に、「東山魁夷略歴」「鑑真和上と唐招提寺御影堂」「御影堂と平面図」や「習作とは」などのパネルを会場に掲出した。会場の雰囲気を担当者の解説付きで見せる約1分の動画を制作し、御影堂障壁画再現展示コーナーの写真とともに当館ホームページで公開した。 記念講演会および制作記録映画上映会、きゅうはくミュージアムコンサートを実施したほか、TV取材などに積極的に対応した。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	広島県立美術館担当学芸員と緊密に連絡を取り情報共有をはかるとともに、本展出陳作品の集荷および作品返却作業についても手分けして行った。作品鑑賞のための空間を確保するため、前後期で作品の展示換え（約40点）を行った。音声ガイドでは、作品制作の背景などについても解説した。 通常のテレビコマーシャルや新聞広告の他、TVQ九州放送による本展のミニ番組を放映した。
補　足	年に3日しか公開されない、東山魁夷の記念碑的大作・唐招提寺御影堂障壁画全68面を、柱、畳や欄間を含む御影堂内部のしつらえとともに、現地をほぼそのまま再現し、臨場感溢れる展示となった。本展用に持ち込んだLED照明の色味を作品ごとに細かく調整し、東山魁夷が意図した絵画表現を展示室で初めて再現したことで、来場者はもとより専門家からも高い評価を得た。 前後期の展示替えにあわせ、前後期一度ずつ鑑賞できる割引特別鑑賞券を前売り販売した。 ・記念講演会「東山魁夷の生涯と芸術」7月16日（土）、講師　尾崎正明（茨城県近代美術館長） ・記録映像上映会＆トーク「東山魁夷　山雲濤声　～唐招提寺障壁画の記録～」 7月30日（土）（午前午後の2回）　ナビゲーター　臺信祐爾（当館学芸部特任研究員） ・きゅーはくミュージアムコンサート「東山魁夷が愛したモーツァルト」8月11日（木・祝） 出演者　大迫淳英（ヴァイオリニスト）ほか

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	133,002人	70,000人	S

【年度計画に対する総合評価】
評定：S

【判定根拠、課題と対応】
28年の夏は、きわめて暑さが厳しく、リオオリンピック開催期間とも一部重なり、来場者数の予想が難しかったが、小中学校の教科書に掲載される等東山魁夷の知名度が高いだけでなく、特に御影堂障壁画全68面の再現展示に感動した来場者の口コミなどにより、目標値を大きく上回る結果となった。
　作品の質の高さ、卓越した照明効果、広報努力などにより、予想値を大幅に超える来場者に恵まれた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1221Dｳ

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ウ　特別展「京都 高山寺と明恵上人 － 特別公開 鳥獣戯画 －」（10月4日～11月20日）
　近年修理を終えたばかりの鳥獣戯画全４巻を九州で初公開し、中興の祖である明恵上人の生涯を彩る様々な名宝を一挙に紹介する。（目標来館者数12万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化交流展室研究員　森實久美子

【実績】

展覧会名	特別展「京都 高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―」
会　　期	10月4日～11月20日
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、高山寺、西日本新聞社、TVQ九州放送、朝日新聞社
作品件数	94件
来館者数	161,172人（達成率：134.3%）
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　78.8%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	京都・高山寺中興の祖、明恵上人に焦点を当て、仏道に捧げた彼の生涯を紹介するとともに、貴顕や僧侶らとの人的ネットワークにも着目し、彼らとの交流を物語る作品も展示することで明恵が生きた世界を概観するような構成とした。また、平安時代末から鎌倉時代にかけて行われた南宋や高麗との交流にも目を向け、アジア全域に広がった仏教文化の隆盛ぶりを展望した。加えて、近年修理を終えたばかりの鳥獣戯画全4巻を九州では初めて公開した。
学術的意義	明恵および高山寺を構成の軸としながら、同時代の人々や東アジアにおける仏教的な交流をも盛り込み、鎌倉時代の仏教界の活況ぶりを俯瞰するかつてない展示となった。隣接領域の最新の研究成果も踏まえた作品選定という点においても、学術的な意義は高いものといえる。
教育普及	明恵をより深く知ってもらうため､明恵と弟子の対話形式で明恵の人となりや事績を紹介する冊子『レジェンド・オブ・明恵』（全16頁）を作成した。イラストを中心とした分かりやすいレイアウトと平易な文章によって、子供だけでなく大人にも楽しんでもらえる読み応えのある冊子として好評を得た。無償配布（8万部）をし、入場前の待ち時間に読んでもらうことで展覧会への理解も一層深まった。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	九州初公開となる鳥獣戯画をメインビジュアルとした広報物を作成し、早くから各方面の注目を集めた。注目の高さを示すように会期中には目標値を大きく上回る多くの来館者を迎えたが、混雑整理対策を行い、大きな混乱等はなかった。
補　足	・九州初公開となる鳥獣戯画の人気を改めて認識させる展覧会であった。その一方で教育普及の目的で作成した冊子の効果もあり、九州では必ずしも知名度が高いとはいえなかった明恵を広く知らしめる機会となった。 ・展覧会会期中には多彩なイベントのほか、テレビ出演や動画公開など、展示室以外でも展覧会の魅力を伝えた。会期前および会期中には、以下の講演会・イベントを開催して、展覧会の普及に努めた。 ①第２回みゅーじあむ寄席「夢で会いましょう」8月7日（日） 出演：柳家喬太郎（落語家）、森實久美子（当館学芸部企画課研究員） ②特別講演会「鳥獣人物戯画の謎」10月9日（日）　講師：佐野みどり（学習院大学教授） ③「能「春日龍神」と明恵上人」10月15日（土） 出演：塩津圭介（能楽師）、森實久美子（当館学芸部企画課研究員） ④講演会「京都 高山寺と明恵上人の魅力」10月16日（日） 講師：森實久美子（当館学芸部企画課研究員）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	161,172人	120,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 老若男女に人気の高い国宝「鳥獣人物戯画」を展示し、新たな来館者層の開拓につながり、目標人数を大きく上回る来館者を得られた。また、初公開となる作品も展示し、調査・研究の成果を踏まえた展示を実現することができた。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1221Dｴ

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　1)特別展		
【年度計画】 エ　特別展「ちはやぶる神代の島の物語－宗像沖ノ島と大和朝廷－（仮称)」(29年1月1日～3月5日) 沖ノ島の祭祀遺跡と祭祀遺物を紹介し、同時期の大和の古墳出土品と比較しながら国家祭祀を考える。(目標来館者数4万人)			
担当部課	展示課	事業責任者	情報サービス室研究員　小嶋　篤

【実績】

展覧会名	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」
会　　期	29年1月1日～3月5日
会　　場	九州国立博物館特別展室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、宗像大社、西日本新聞社、TVQ九州放送、日本経済新聞社、朝日新聞社
作品件数	160件
来館者数	75,966人（達成率：189.9%）
入場料金	一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　82.9%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	本展覧会は、宗像・沖ノ島と大和朝廷の関係を明らかにする企画構成である。このため、展示作品は沖ノ島祭祀遺跡出土の国宝26件を核とし、大和朝廷中枢の資料である奈良県下の国宝5件・重要文化財14件を展示した。加えて、新羅や百済の王陵級古墳出土品や海上交通に関わる祭祀遺物を展示した。
学術的意義	沖ノ島と大和朝廷の関係は、沖ノ島調査時から注目されてきた研究課題であり、これまでに多くの研究蓄積がある。先行研究の成果をふまえ、本展覧会では沖ノ島出土品と大和の出土品をはじめて体系的に陳列した。また、沖ノ島祭祀が成立した要因について、歴史的背景と思想的背景の両側面から絞り込むことで整理し、沖ノ島祭祀を日本の国家形成史の中で位置づけることができた。
教育普及	本展覧会は、ユネスコ世界文化遺産候補である「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」について、より多くの人々に認知頂く機会となった。 実物資料や3Dプリンタを利用した体験・撮影コーナーを設置。専門題箋に加えて、マスコットキャラ「ドリー」による題箋・章解説を行うことで「教科書よりも分かり易い」展示を行った。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	新聞広告・HP掲載、ラジオ・TV番組の出演、各期間での講座・講演会の実施等により、積極的な広報活動を実施した。
補　足	・記念講演会「神宿る島と祈りの記憶－祭祀遺跡の発掘調査譚－」29年1月21日（土） 「沖ノ島祭祀遺跡の調査と成果」　講師：小田富士雄（福岡大学名誉教授） 「未知の世界を探求する」　講師：ユ・ビョンハ（大韓民国・国立慶州博物館長） ・リレー講座「交差する日本神話とアジアの歴史」29年2月4日（土） 講師：笹生衛（國學院大学教授） 講師：小嶋篤（当館展示課研究員）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定
来館者数	75,966人	40,000人	S

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 目標人数を大幅に上回る来館者を得られ、29 年度のユネスコ世界文化遺産登録に向けた機運を盛り上げることができた。今後も文化交流の視点から地域に根差した活動を行い、継続的に世界遺産をはじめとした文化財の活用を後押ししていくことが求められる。

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 1222-1

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　2)海外展

【年度計画】
(機構)
ア　海外展「日本醍醐寺」(5月11日～7月10日)(会場：上海博物館)
　　醍醐寺に伝わる多くの文化財を展示し、日本の密教文化を中国で紹介する。

担当部課	東京国立博物館学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室長　丸山士郎

【実績・成果】
・展覧会名　海外展「菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝展」
・会　　期　5月11日（水）～7月10日（日）(61日間)
・会　　場　中国・上海博物館
・主　　催　中国・上海博物館、醍醐寺、独立行政法人国立文化財機構
・作品件数　67件
・来館者数　349,375 人

醍醐寺は空海の孫弟子である聖宝（理源大師）(832－909年）が、貞観16（874）年に笠取山山上に仏像を安置したことに始まる。延喜7（907） 年に醍醐天皇の願によって本格的な造営が始まり、その後近世に至るまで多くの作品がつくられ、いまも文書を中心に約15万点の文化財が残る。本展覧会では、草創期から近世にいたる作品を展示して醍醐寺の歴史と美術を紹介した。

【補足事項】

会場の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
来館者数	349,375人	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
真言宗の代表的寺院である醍醐寺の文化財15万点の中から、国宝6件、重要文化財24件を含む67件という海外展としてはかつてない規模の展覧会となり、約35万人の入場者があった。また、原稿の執筆や作品の集荷、輸送、展示、撤収、返却を上海博物館と連携して計画的に効率よく進められ、醍醐寺に伝わる多くの文化財の展示を通して、日本の密教文化を中国で紹介することができた。

【中期計画記載事項】
海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
真言宗の代表的寺院である醍醐寺の文化財15万点の中から、国宝6件、重要文化財24件を含む67件という海外展としてはかつてない規模の作品を展示したことにより、本海外展を日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する機会とすることができた。

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 1222-2

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　2)海外展

【年度計画】
(機構)
イ　海外展「菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝展」(7月27日～9月20日)（会場：陝西歴史博物館）
　醍醐寺に伝わる多くの文化財を展示し、日本の密教文化を中国で紹介する。

担当部課	東京国立博物館学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室長　丸山士郎

【実績・成果】
・展覧会名　海外展「梵音東渡 - 日本醍醐寺国宝展」
・会　　期　7月27日(水)～9月20日 (火) (56日間)
・会　　場　中国・陝西歴史博物館
・主　　催　中国・陝西歴史博物館、醍醐寺、独立行政法人国立文化財機構
・作品件数　65件
・来館者数　 400,800 人（推計）*特別展料金を設定しなかったため、正確な来館者数を計測しておらず、平常展入館者数から推計した。
・入場料金　無料

　醍醐寺は空海の孫弟子である聖宝（理源大師）(832－909年）が、貞観16（874）年に笠取山山上に仏像を安置したことに始まる。延喜7（907） 年に醍醐天皇の願によって本格的な造営が始まり、その後近世に至るまで多くの作品がつくられ、いまも文書を中心に約15万点の文化財が残る。本展覧会は、草創期から近世にいたる作品を展示して醍醐寺の歴史と美術を紹介した。

【補足事項】

会場の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
来館者数	400,800 人（推計）	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	真言宗の代表的寺院である醍醐寺の文化財15万点の中から、国宝7件、重要文化財15件を含む65件という海外展としてはかつてない規模の展覧会となり、6万人を予想していたところ、約40万人の入場者があった。また、原稿の執筆や作品の集荷、輸送、展示、撤収、返却を陝西歴史博物館と連携して計画的に効率よく進められ、醍醐寺に伝わる多くの文化財の展示を通して、日本の密教文化を中国で紹介することができた。

【中期計画記載事項】
　海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	真言宗の代表的寺院である醍醐寺の文化財15万点の中から、国宝7件、重要文化財15件を含む65件という海外展としてはかつてない規模の作品を展示したことにより、本海外展を日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する機会とすることができた。

【書式A】　施設名 東京・九州国立博物館　処理番号 1222-3AD

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　2)海外展

【年度計画】
（東京国立博物館・九州国立博物館共同企画）
ア　海外展「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」（12月10日～29年3月10日）（会場：国立故宮博物院　南部院区　亜州芸術文化博物館）
　東京・九州国立博物館の国宝・重要文化財などを公開し、日本美術の流れを展示、紹介する。

担当部課	東京国立博物館学芸企画部企画課 九州国立博物館学芸部文化財課	事業責任者	調査研究課長　田沢裕賀 文化財課長　冨坂　賢

【実績・成果】
・展覧会名　海外展「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」
・会　　期　12月10日（土）～29年3月10日（金）（73日間）
・会　　場　台北・國立故宮博物院南院
・主　　催　台北・國立故宮博物院南院、東京国立博物館、九州国立博物館
・作品件数　151件
・来館者数　93,391人

　東京国立博物館と九州国立博物館の収蔵品からの国宝、重要文化財、重要美術品68点を含む151点の優品を、「祭祀と生活」・「皇権と佛法」・「貴族の世界」・「武家の文化」・「市民の創造」、及び「伝承と創造」の6章に分けて展示し、約5000年にわたる豊富で多様な日本の芸術文化を紹介した。

【補足事項】
・展覧会開催に先立ち、12月2日に「開箱記者会」が開催され、東京国立博物館職員及び九州国立博物館職員が立ち会いと挨拶を行った。
・展覧会の開催式(12月12日)には東京国立博物館館長、九州国立博物館館長が祝辞を述べた。また、九州国立博物館から副館長、学芸部長も出席した。

会場の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
来館者数	93,391人	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 原稿の執筆や作品の集荷、輸送、展示、撤収、返却を國立故宮博物院南院と連携して計画的に効率よく進められ、年度計画どおり日本美術の流れを展示、紹介することができた。

【中期計画記載事項】
　海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 当該展覧会を計画どおり開催し、東京・九州国立博物館の国宝・重要文化財などを公開したことにより、本海外展を日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する機会とすることができた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1222-4A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　2)海外展

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　海外展「15－19世紀日中韓絵画精品展」（11月5日～12月18日）
　　東京国立博物館、中国・国家博物館、韓国・国立中央博物館が所蔵する絵画を展示する。

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	調査研究課長　田沢 裕賀

【実績・成果】
・展覧会名　海外展「15－19世紀日中韓絵画精品展」
・会　　期　11月5日（土）～12月18日（日）（44日間）
・会　　場　中国国家博物院
・主　　催　中国国家博物院、東京国立博物館、韓国国立中央博物館
・作品件数　52件
・来館者数　42,153 人
・入場料金　無料

本展覧会は、中国、日本、韓国の3つの国の国立博物館が合同で実施する第2回目の国際共同企画展である。今回は3ヵ国の15－19世紀を代表する絵画名品をテーマとし、中国は国家博物館、日本は東京国立博物館、韓国は国立中央博物館の所蔵品から出品した。各館の絵画コレクションから文人絵画、風俗絵画、仏画を精選し、中国の明清時代、日本の室町、江戸、明治時代、そして韓国の朝鮮王朝中後期の絵画芸術を中心に紹介した。

【補足事項】

会場の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
来館者数	42,153人	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	東京国立博物館、中国・国家博物館、韓国・国立中央博物館が所蔵する絵画について、日本、中国、韓国の3ヵ国の15－19世紀を代表する絵画名品をテーマとして、文人絵画、風俗絵画、仏画を展示、紹介することができた。　原稿の執筆や作品の集荷、輸送、展示、撤収、返却についても、中国国家博物院、韓国国立中央博物館と連携して計画的に効率よく進めることができた。

【中期計画記載事項】
海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中国国家博物館、韓国は国立中央博物館が所蔵する両国の美術とともに展示したことで、日本美術の特質を示すことができた。29年度には韓国国立中央博物館において、本展覧会と同じ3館が共同で虎をテーマにした特別展を開催する予定である。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1222-5A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　②特別展等　2)海外展

【年度計画】
（年度計画外で実施）
海外展「韓日国宝半跏思惟像の出会い」

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室長　丸山士郎

【実績・成果】
・展覧会名　海外展「韓日国宝半跏思惟像の出会い」
・会　　期　5月24日（火）～6月12日（日）（18日間）
・会　　場　韓国国立中央博物館
・主　　催　韓国国立中央博物館、日韓半跏思惟像展示実行委員会、東京国立博物館
・作品件数　2件
・来館者数　 46,801 人
・入場料金　無料

半跏思惟像は、仏教の母国・インドにはじまり、中国、朝鮮半島、日本へと伝わった。日本や朝鮮半島では6世紀から8世紀の間に多くの像がつくられ、奈良の中宮寺門跡に伝わる国宝の半跏思惟像はその代表作である。また、韓国国立中央博物館所蔵の銅製の半跏思惟像は、国宝78号像として広く親しまれている。日本と韓国に同じ姿の優れた仏像が残るのは、両国の古代から続く交流の深さを物語るといえる。この展覧会は2体の半跏思惟像を同時に展覧し、日本と韓国の仏像の美を堪能するまたとない機会となった。なお、本展覧会は東京国立博物館と韓国中央博物館で開催した。

【補足事項】

開会式の様子

会場の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
来館者数	46,801人	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：－

【判定根拠、課題と対応】
本展は年度計画に無く、急遽開催されたものである。韓国でも広く知られる中宮寺の半跏思惟像を韓国で初めて展示し、その優れた表現に直接触れる機会をつくることができた。また、同じ形式の韓国の仏像と合わせて展示することによって、両国の仏像表現の共通性と相違を伝えることができた。

【中期計画記載事項】
海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

【中期計画に対する評価】
評定：－

【判定根拠、課題と対応】
日朝国交正常化50周年に関連して急遽開催された展覧会である。準備期間が非常に短かったが中宮寺、韓国国立中央博物館等関係者と密接な連絡をとることによって開催することができた。なお、本展は年度計画に無く、急遽開催されたものであるので、年度計画に対する評定はない。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1231A-1

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供　1/2

【年度計画】
（4館共通）
ア　特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
（東京国立博物館）
ア　多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。
イ　より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。

担当部課	総務部総務課 総務部環境整備課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課	事業責任者	課長　竹之内 勝典 課長　若林 賢一 特別展室長　丸山 士郎 デザイン室長　木下 史青

【実績・成果】
（4館共通）
ア　当館開催の特別展のうち、7つの特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。(貸出台数177,522台)
イ　館内においては、出入口スロープの設置、障がい者用トイレの設置は既に完了し、今後屋外のトイレ等について関係法令に基づく整備の実施を予定している。
　また、重要文化財となっている本館等の建物については、現行の法令基準に完全合致させる事が困難である部分もあり、今後保存活用計画の策定を経て更に施設面でのバリアフリー化を検討するとともに「障害者差別解消法」等の法令とも照らして来館者の機会損失とならない施設整備の実施についても検討していく。
　案内サインのデザイン更新により、視認性が向上によるデザインのユニバーサル化を進めている。
（東京国立博物館）
ア　館内の案内・誘導・解説サインの多言語化を行った。アルコール置場・アンケート置場などデザインの統一化を図った。
イ・特別展において、作品をより見やすく展示するためにLEDスポットを追加で購入した。(8台、導入時期：29年3月)
　・展示照明の品質を保つため、故障した既存白熱系スポットライトの継続的にメンテナンス・修理している。
○　より快適な観覧環境のため、清掃委託内容の見直しを行った。

森鷗外総長室跡・解説の４言語化（日英→日英中韓）

法隆寺宝物館のサイン・什器のデザイン統一

サイン更新による視認性向上(西門)

【補足事項】

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
音声ガイド貸出台数	177,522台※	－	－		225,235	154,056	261,241	223,331

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 現行法規と重要文化財建物等の事情を勘案してバリアフリー化対応した諸設備について概ね整っている。サインの多言語化は一部暫定的だが完了している。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 現行法規と重要文化財建物等の事情を勘案してバリアフリー化対応した諸設備について概ね整っている。　案内・誘導・解説サインについて多言語化・ユニバーサル化は概ね整っているが、全館的デザイン統一・整備の検討が急務である。

※　28年度中に貸出しを行った台数

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1231A-2

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供　2/2

【年度計画】
（東京国立博物館）
ウ　総合文化展におけるスマートフォンアプリを用いたガイド「トーハクなび」(日本語版・英語版)・「法隆寺宝物館 30 分ナビ」(日本語版・英語版)を引き続き実施する。「トーハクなび」の「本館 2 階　日本美術の流れコース」「平成館　日本の考古」については作品解説も搭載し、前者については、それと連動したパンフレットを制作・配布する。
エ　ユニバーサルデザインの触知図による対応など、障がい者のための環境整備を引き続き実施する。
オ　「総合案内パンフレット」(7 言語（8 種）：日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西）を制作・配布する。
カ　本館 2 階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、3 言語（英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布する。
キ　育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室	事業責任者	総務課長　竹之内 勝典 博物館教育課長　小林 牧 広報室長　鬼頭 智美

【実績・成果】
ウ　アプリ「トーハクなび」、「法隆寺宝物館 30 分ナビ」を継続して提供し、連動パンフレットの配布も継続して行った。また、ログ解析を継続し、利用者の使用状況把握を行った。さらに、「トーハクなび」については、27 年 2 月 1 日より端末貸し出しサービスを開始、2 月 28 日からはアプリのコンテンツの一部を中国語・韓国語に翻訳した音声ガイドの貸し出しサービスも開始した。
エ　ユニバーサルデザインの触知図による対応、ギャラリートーク、講演会会場にヒアリングループや UD トーク（音声認識ソフトによるコミュニケーション支援・会話の見える化アプリ）の設置をするなど、障がい者のための環境整備を実施した。
オ　「総合案内パンフレット」(7 言語（8 種）：日 151,000 部、英 85,000 部、中(簡体字 20,000 部・繁体字 10,000 部)、韓 47,000 部、仏 14,000 部、独 9,000 部、西 9,000 部）を制作・配布した。
カ　本館 2 階「日本美術の流れ」の 3 言語（英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布した。
キ　育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供した。また、8 月 15 日にキッズデーを開催し、子育て世代の来館促進と、博物館体験の充実を図った。

【補足事項】
ウ　各アプリの 28 年度のダウンロード件数は以下の通りである。
・Android 版「トーハクなび」3,434 件（累計 13,145 件、24 年 4 月 18 日公開）(3 月末現在)
・iOS 版「トーハクなび」7,970 件（累計 23,557 件、25 年 9 月 26 日公開）(3 月末現在)
・iOSアプリ「法隆寺宝物館30分ナビ」1,040件（累計24,616件、23年1月20日公開）(3月末現在)

アプリ端末・音声ガイド貸し出し風景

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 「トーハクなび」、「法隆寺宝物館30分ナビ」の継続、障がい者のための環境整備、「総合案内パンフレット」の制作・配布、「日本美術の流れ」のパンフレット制作・配布、託児サービスの提供等、年度計画は順調に達成されている。しかし、より幅広い来館者層を対象とした快適な環境の整備が必要。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 聴覚障がい者向けの設備の充実など一定の成果はあげているが、まだまだ対応は不十分といえる。引き続き幅広い来館者の利用に配慮した快適な観覧環境の提供のための施策を推進したい。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1231B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】(4館共通)
ア　特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
(京都国立博物館)
ア　明治古都館改修に伴い、平常展示館として計画された平成知新館において特別展覧会も開催するための観覧環境を検討する。
イ　館内案内リーフレット（6言語：日、英、中、韓、仏、西）を継続して制作・配布する。
ウ　平常展（名品ギャラリー）においても、音声ガイド（4言語：日、英、中、韓）を継続して活用し、来館者に対するサービスの向上を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長　植田義雄 企画室長　伊藤信二

【実績・成果】　(4館共通)
ア　・特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図った。
・館内のデジタルサイネージにおける情報発信や、特別展覧会開催時には日本語の音声ガイドを実施するなど、サービスの向上を図った。
イ　・平成知新館名品ギャラリーの展示室看板(作品分野の解説)へ中・韓国訳を付した。
(京都国立博物館)
ア　・大型独立展示ケースの移設作業及び可搬式大型六角展示ケースの購入など、特別展覧会を開催するための観覧環境の整備を実施した。
・明治古都館の改修計画に来館者用エレベーターの設置を検討している。
イ　館内案内リーフレット(6言語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して制作・配布した。
ウ　平常展（名品ギャラリー）においても、音声ガイド（4言語：日、英、中、韓）を継続して活用した。

【補足事項】(京都国立博物館) ア　平成知新館は平常展を行うための施設として26年9月にリニューアルオープンしたが、特別展覧会を開催するにあたり、一時に多数の来館者が訪れる大規模な展覧会を開催するに際しての動線管理や来館者の滞留や、屏風等の大型作品の鑑賞時に適切な距離が確保できていないことなど、観覧環境と安全管理上対策が必要となった。28年度実施した対策は以下の通り。
・陶磁展示室の大型独立ケースの移設を実施。
・染織展示室の大型独立ケースを彫刻展示室へ移設。
・染織展示室へ可搬式大型六角展示ケースを購入。
・漆工展示室の大型独立展示ケースをリフター改造により移動を可能とした。

可搬式大型六角展示ケース

ウ　音声ガイド利用台数　計36,584台
・特別展覧会「臨済禅師1150年　白隠禅師250年遠諱記念　禅－心をかたちに－」（日本語のみ）11,199台
・特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」（日本語のみ）10,020台
・名品ギャラリー(4言語：日、英、中、韓)15,365台

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
音声ガイド貸出台数	36,584台	－	－		35,037	17,202	76,671	109,167

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 29年度は館内案内リーフレットの配布、名品ギャラリーにおける音声ガイドなどを継続して行うことに加え、新たに、看板の一部に中・韓国語訳を付し、更には、混雑が予想される特別展覧会「国宝」を見据えた平成知新館の観覧環境の整備として、大型独立展示ケースの移設作業及び可搬式大型六角展示ケースの購入を行った。特に、展示ケース移設作業、購入により、特別展の展示作品を柔軟に計画できるようになり、観覧環境の向上に資することが期待されるため、充分な成果である。

【中期計画記載事項】博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 博物館内の施設の多言語化を進めるため、一部の作品の英訳を併記すること、展示室看板に中・韓国語訳を付すことなど、中期計画初年度として順調に事業を実施することができた。また、展示ケース移設作業、購入により、29年度以降の特別展における、観覧環境と安全管理上の対策を可能とすることの見通しが立った。28年度の成果を生かし、29年度についてはより多言語化を進めること及び快適な観覧環境を提供することに努めていきたい。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1231C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】(4館共通)
ア　特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
(奈良国立博物館)
ア　快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を行う。
イ　誘導サイン等の一層の整備を図り、より快適な観覧環境を確保する。
ウ　正倉院展の際に託児室を設置するとともに、混雑状況・待ち時間の速報を行う。
エ　館内案内リーフレット（7言語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作する。
オ　多言語による案内について充実を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　室溪　浩

【実績・成果】
(4館共通)
ア　特別展において音声ガイドを活用した情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を行った。
イ　・サイン検討会議を開催し、現状サインの問題点を把握しつつ、今後あるべき姿としてのサイン計画立案を進めた。
　　・なら仏像館リニューアルに伴いエントランス部分に視覚障がい者の歩行を補助すべく点字鋲を設置した。
(奈良国立博物館)
ア　なら仏像館展示室を全面改修した。
イ　誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を提供した。
ウ　正倉院展の会期中に無料託児室を開設し、保育士２名が常駐して１歳児から未就学児までの預かりを実施した。
エ　館内案内リーフレット（7言語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作した。
オ　総合案内に外国語（英語、中国語）対応できるスタッフを常時配置し、外国人来館者への応対の充実を図った。

【補足事項】
(4館共通)
イ　・サイン検討会議を開催し、現状サインの問題点を把握しつつ、今後あるべき姿としてのサイン計画立案を進めた。

(奈良国立博物館)
ア　なら仏像館展示室の改修において、内装改修による展示室全体の素材の変化やLED照明の導入により、従来より展示空間全体が明るさを増しながら、展示品の視認性を確保した展示環境を作り出した。また新たに導入した展示ケースに使用している高透過ガラスによりクリアな視界を確保できた。
イ　正倉院展の会期中には、臨時の誘導サインを増設し、より快適な観覧環境を提供した。
ウ　正倉院展の会期中の無料託児室は託児数106名の利用があった。

新設した点字鋲（なら仏像館）

館内誘導サイン（西新館）

無料託児室（西新館）

総合案内（東新館）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
音声ガイド貸出台数	42,210台	－	－		41,504	46,953	55,466	49,546

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	なら仏像館及び地下廻廊において、英語以外の多言語対応を達成した。施設のバリアフリー化に関しては、なら仏像館エントランス部分に視覚障がい者用の点字鋲を設置し整備を進めることができた。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	館内における多言語化を常に意識し、英語以外の言語にも対応を進めている。また、来館者がより快適に観覧できるよう、館内外のあるべき姿としてのサイン計画立案を行うなど、中期計画にある快適な観覧環境の提供に関して順調に進んでいる。29年度は特別展での音声ガイドの4言語（日・英・中・韓）対応を実施予定であり、更なる充実を図る。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1231D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
(4館共通)
ア　特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
(九州国立博物館)
ア　快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。
イ　来館者にとって分かりやすい展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。
ウ　館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。
エ　文化交流展示室の展示を、日本文化に初めて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットを刊行する。
オ　英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して制作する。

担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課	事業責任者	課長兼文化交流展室長　河野一隆 課長　楠井隆志 課長　菅原秀倫

【実績・成果】
(4館共通)
ア　4回開催した特別展では音声ガイドを導入し、満足度の向上に努めた。
イ　館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行った。
(九州国立博物館)
ア　文化交流展室にかかる次世代の音声ガイドの仕様の検討を進めた。
イ　トピック展示入口に大型バナーを掲出し、開催の視認性を高めた。
ウ　館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。
エ・オ　27年度に内容を更新した館内案内リーフレットに文化交流展示室について、より詳細な情報を掲載した結果、従来の展示室のマップと内容の重複が生じたため、従来の展示室のマップおよび外国語パンフレットの機能は、館内案内リーフレットに集約した。

【補足事項】
(4館共通)
ア) 特別展音声ガイド
・特別展「始皇帝と大兵馬俑」では、191,222人の来館者に対して40,813台の貸出があった。(貸出率21.3%)。(28年度中は、34,885台。)
・特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」では、133,002人の来館者に対して18,100台の貸出があった。(貸出率13.6%)
・特別展「京都 高山寺と明恵上人 －特別公開 鳥獣戯画－」では、161,172人の来館者に対して25,258台の貸出があった。(貸出率15.7%)。
・特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」では、75,966人の来館者に対して9,519台の貸出があった。(貸出率12.5%)。
・文化交流展室音声ガイド貸出件数：計11,083台(英語版：3,021台、中国語版：3,877台、韓国語版：4,185台)

トピック展示入口

(九州国立博物館)
ア　トピック展示の会場サインをポスターのロゴと共通するものとし、開催場所がはっきりと明示されるようにした。
イ　トピック展示に対しては、27年度のリニューアル以降、室内サインを統一した反面、開催場所が分かりにくいといった意見が寄せられていた。そこでトピック展示開催の場合には、展示室入口に視認性の高い大型バナーを掲げ、デザインをポスターロゴと共通させることで、入口が分かりやすくなるよう改善を行った。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
音声ガイド貸出台数	98,845台※	－	－		114,064	55,611	67,665	70,955

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 リニューアル後の文化交流展室の空間デザインを一部改変し、トピック展示では目立つようなサインを掲出して差別化を図った。今後は来館者の満足度を考慮しつつ、サイン・グラフィックの改善を行うこととする。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の達成に向けて順調に推移している。引き続き、関係部署との連絡調整を行い、観覧環境の快適性を今以上に高めていくことを目標としたい。

※　28年度中に貸出しを行った台数

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1232A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
（4館共通）
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、展示配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。
ウ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
（東京国立博物館）
ア　特別展等に合わせて軽食販売を行う等、サービスの向上に努める。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】（4館共通）
ア　観覧環境に関する来館者アンケートと多言語化に関する外国人アンケートを実施した。
イ　混雑が想定される状況においては、入場制限をかけることや待ち時間の表示を掲示するよう対策を取った。
ウ　ミュージアムショップやレストランについてはアンケートによる利用者の意見把握に努め、運営業者と定期的な協議を行いながらサービス向上に努めた。ミュージアムショップでは、来館者属性の変化に応じて、若年層や外国人向けの商品開発も進めた。
（東京国立博物館）
ア　展覧会開催に併せてキッチンカーによる軽食販売を実施した。

【補足事項】（4館共通）
ア　観覧環境に関する満足度について、レストラン・ショップ・館内スタッフの対応についての満足度はそれぞれ70%前後であるが、不満足であると回答を得たのは10%程度である。
　多言語化表記に関しての満足度について、好評を得たのは70%弱となっているが、不満足であると回答を得たのは10%程度である。
（東京国立博物館）
ア　キッチンカーについては、雨天を除く開館日は毎日日替わりで2台以上、年間200台以上の店舗が出店し、好評を得た。また、花見の季節やプレミアムフライデーに併せて追加出店も行った。

キッチンカー出店模様

ウ　「見返り美人」や「色絵月梅図茶壷」の図柄をデザイン化したカステラやお茶漬け海苔、「埴輪　踊る人々」のぬいぐるみや刀剣の絵葉書など、より親しみやすい商品の開発・販売を行った。また、広報大使である公式キャラクター「トーハクくん・ユリノキちゃん」使用したノベルティグッズについても、館内での使用を前提に検討を進めている。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	70.4%	80%超	C		－	－	－	－
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	69.7%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　ミュージアムショップでは継続的に運営業者側と協議を持ちながら、学芸員等のアイディアを生かした東京国立博物館のオリジナル商品の開発販売を行い、好評を博した。
　観覧者の安全を図るべく適宜状況に応じた方策の検討を行った。
　アンケート満足度については観覧環境・多言語化表記ともに概ね好評を得ることができた。今後もアンケートを引き続き実施し来館者の意向確認及び満足度の向上に努める。
　また、次年度以降もキッチンカーの出店を続ける予定である。

【中期計画記載事項】
　来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　来館者アンケートによるフィードバックをミュージアムショップ・レストランと共有し、定期的に協議を行いながらサービスの改善等に取り組むことができた。満足度調査においては数値目標を超えることができているが、多言語化表記に関する満足度をさらに満足度を高めていくことを目指す。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1232B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】(4館共通) ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、展示配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。
ウ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(京都国立博物館・奈良国立博物館) ア　特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。
(京都国立博物館) ア　モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。
イ　レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。

担当部課	総務課 学芸部企画室	事業責任者	課長　植田義雄 室長　伊藤信二

【実績・成果】(4館共通)
ア　来館者アンケートを実施し、その結果を踏まえ、展示作品の英語解説を増やすなどの改善に生かした。
イ　特別展覧会「坂本龍馬」においては動線管理、混雑対策等を展覧会期前より打ち合わせの上想定することにより、混雑した際にはスムーズに対応することができた。
ウ　新規にオリジナルグッズを作成し、また展覧会に応じた関連商品等を取り揃え、サービスの向上に努めた。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
ア　『博物館だより192号』にて花園大学名誉教授 竹貫元勝氏による特別展覧会「禅 -心をかたちに-」の展覧会評を掲載した。
(京都国立博物館)
ア　小学校・中学校・高等学校の教員、キャンパスメンバーズ加盟校の学生、外国人招致活動用務に携わっている方及び近畿地区在住の外国人の方へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。
イ　レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示することで、接客サービスの向上に努めた。

【補足事項】(4館共通) イ　昨今の刀剣ブームを勘案し刀剣がある展示室中央には展示ケースを置かないこと、書簡については貼りキャプション、置きキャプション両方を設置、また、混雑が予想される作品については、最前列観覧用の列と後ろからの観覧用の列と分けるなどの想定及び対策を行った。
ウ　特集陳列「生誕300年　伊藤若冲」、新春特集陳列「とりづくし-干支を愛でる-」の開催に合わせたオリジナルグッズとしてボールペンを製作し、12月23日より販売を開始した。

坂本龍馬展
刀剣の展示室風景

オリジナルグッズの製作

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	40.2%	80%超	D		－	－	－	－
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	69.3%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：C	【判定根拠、課題と対応】観覧環境に関するアンケート満足度が目標値を下回った理由として、文化財保護のための空調・照明管理に関する来館者への周知不足が考えられる。今後はサイン等での積極的な周知を心がけ、来館者の理解を得られるよう努めたい。アンケート満足度が目標値を下回る一方、混雑が予想される展覧会では状況に応じた動線管理を行い、また、オリジナルグッズの開発やレストランメニューの導入も行うことなど、対応可能な対策を行った。以上、総合的に観覧環境の向上、改善を進めている。

【中期計画記載事項】来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：C	【判定根拠、課題と対応】中期計画初年度として、観覧環境や多言語化に関する満足度調査等をもとに、混雑時の対応見直しや英語解説の増加等、サービス改善に向けた取組に着手することができた。29年度も引き続き、利用者に配慮した運営を図るべく事業や管理運営の見直しに取り組む。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1232C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
(4館共通)
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、展示配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。
ウ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
ア　特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。
(奈良国立博物館)
ア　アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努める。
イ　ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　室溪　浩

【実績・成果】
(4館共通)
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する対面回収による来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、その結果を改善に活かした。
イ　混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、展示配置及び音声ガイドの多言語化や、その対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。
ウ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、新たなオリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品や従来品をリニューアルするなど、サービス向上に努めた。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
ア　当館刊行の『奈良国立博物館だより』(100号 29年1月刊行) に以下の展覧会評を掲載した。
　筑波大学名誉教授・根本誠治氏「展示評　生誕800年記念特別展『忍性―救済に捧げた生涯』忍性さんにお会いしました。」
(奈良国立博物館)
ア　アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努めた。
イ　ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図った。

特設コインロッカー

【補足事項】
(4館共通)
ア) 正倉院展の会期中、展示ケースのガラス清掃、エントランスマット清掃を業者委託により実施した。
　正倉院展の会期中、臨時誘導サインを設置し、混雑状況の中でもトイレ利用案内、ミュージアムショップやレストランへの誘導が図れた。
イ)正倉院展では、館外にコインロッカー等設置することで、観覧しやすい環境の確保に努めた。
(奈良国立博物館)
イ) 堅苦しくなりがちな仏像をかわいらしくデザインし、手を上げている、走っている等の仏像の動きをポップなカラーで表現した「元気が出る仏像シリーズ」や正倉院模様の手鏡等のオリジナルグッズをミュージアムショップで販売した。

元気が出る仏像シリーズ（仏像をかわいらしくデザイン）

正倉院模様グッズ（手鏡・マグネット（漆胡瓶)、(螺鈿紫檀五絃琵琶))

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	68.0%	80%超	C		－	－	－	－
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	67.7%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：C	名品展や夏の特別展では、満足度が高かったものの、春の特別展での展示会場、秋の正倉院展での展示台の高低及び混雑の為順路が判りにくい等、来館者の満足度が低かった。アンケートの意見等を参考にし、今後も満足度の向上に努める。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：C	観覧環境に対する満足度は、目標値を超えなかった。29年度では特別展の特性を捉えた細かな対応が必要となる。一方、ミュージアムショップにおけるオリジナルグッズや仏教美術に関する図書の販売について、利用者の意見を参考に充実を図った。また、レストランにおいても利用者の意見の収集しサービス向上に努めており、中期計画期間中の改善が順調に行われた。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1232D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
(4館共通)
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、展示配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。
ウ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(九州国立博物館)
ア　特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。
イ　アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信、オリジナルグッズの提供に努める。

担当部課	学芸部企画課 広報課 総務課	事業責任者	課長兼文化交流展室長　河野一隆 課長　古川　晶一 課長　菅原秀倫

【実績・成果】
(4館共通)
ア　特別展、文化交流展のアンケート調査項目を見直し、「施設の満足度」及び「サービスの満足度」を新たに調査項目に加えた。文化交流展のアンケート（英語版）を作成した。
イ　京都・東京での実績から混雑が予測された特別展「京都　高山寺と明恵上人−特別公開　鳥獣戯画−」では、ミュージアムショップを通例の3階特別展出口前とは異なって1階ミュージアムホール内に移動し、入場するまでの待ち列のスペース確保を図った。混雑時の動線を想定し、関係各課と連絡調整をはかりつつ、円滑な観客誘導に努めた。
ウ　当館オリジナルグッズの開発のため、館内でワーキンググループを作り、マスキングテープなどの新たな商品を開発した。

高山寺展混雑導線図

(九州国立博物館)
ア　レストランでは年4回の特別展にちなんだ特別メニューを提供し、好評を博した。
イ　アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」では、特別展にあわせてバナーを店頭に掲出し、告知に努めた。

【補足事項】
(九州国立博物館) ア
・特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」では、東山魁夷ゆかりの地、信州の老舗「澤志庵（たくしあん）」の青じそ麺を使用した『佐賀金星豚と和風ラタトゥイユの冷製そば』を提供した。
・特別展「京都　高山寺と明恵上人」では、京料理に馴染みのある鴨肉や鴨のフォアグラ、京野菜を使った『鴨、京野菜、フォアグラの贅沢丼』を提供した。
・特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」では、宗像市をはじめ福岡県内の食材をふんだんに使い、金箔で沖ノ島に秘められた神々しさを表現した『だし薫る特撰醤油ラーメン』を提供した。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	77.2%	80%超	C		−	−	−	−
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	78.8%	−	−		−	−	−	−

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
混雑が予想された特別展でも、前例にとらわれない柔軟な対応でクレームを最小限に抑えることができた。レストラン、ショップ共、斬新な企画を打ち出し、満足度の向上に努めたが、わずかに目標には届かなかった。他方、多言語化対応については、外国人から一定度の評価を得ている。今後も、関係各所と連携して魅力ある展覧会の運営をし、顧客満足度をさらに高める。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
混雑が予測される展覧会では事前に関係部署と調整し、混雑対応について適切かつ迅速にクレーム処理を進めることができた。また、ショップやレストランとも密接に連携して、中期計画の達成にむけ初年度としては順調に推進している。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A1

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/3

【年度計画】
(4館共通)
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
(東京国立博物館)※ア、イは後述
ウ　文化財について分かりやすく理解するためのギャラリートーク・月例講演会・記念講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育講座室長　勝木言一郎

【実績・成果】
(4館共通)
ア　各分野の研究員や特別展のワーキンググループと協力し、精力的に講演会等の開催に取り組んだ。
(東京国立博物館)
ウ　「博物館でお花見を」「博物館でアジアの旅」では、来館経験の少ない人が当館に対して抱きがちな「敷居が高い」というイメージを払拭すべく親しみやすくわかりやすい内容の「スペシャルツアー」ほかガイドツアーを企画した。月例講演会やギャラリートークにおいても展示に即した内容のほかに、博物館アーカイブや資料館の活用などの所蔵作品以外のテーマも加え、多面的に文化財について理解を深められるような学習機会を提供した。

【補足事項】
(4館共通)ア及び(東京国立博物館)ウ
講演会32回　参加者数9,153人
内訳　①月例講演会「中国陶磁の形と色」ほか全12回、参加者数2,793人
②記念講演会「黒田清輝とフランス」ほか全14回、参加者数5,048人
③シンポジウム「現代のピラミッドを創る」ほか全2回、参加者数579人
④テーマ別講演会「董其昌とその時代」1回、参加者数210人
⑤その他講演会　桜セミナーほか全3回、参加者数523人
列品解説(ギャラリートーク等)125回、参加者総数11,123人
内訳　①列品解説52回、参加者総数5,350人　②特別展関連ギャラリートーク31回、参加者総数4,083人
③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク42回、参加者総数1690人
連続講座「仏像三昧」1回(3日)参加者総数947人
公開講座「保存と修理のツアー」ほか全2回、参加者総数230人
その他展示に関連する事業14回、参加者総数2425人

月例講演会

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
講演会等の開催回数	160回	128回	A		126	131	127	146
講演会等の参加者数	21,453人	-	-		13,193	15,777	14,419	18,080

【年度計画に対する総合評価】
評定：A
【判定根拠、課題と対応】
講演会等の開催回数については103回と、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を上回った。また、親しみやすくわかりやすい内容のガイドツアーの企画として「スペシャルツアー」の実施や、保存と修理のツアーの開催など、文化財の理解の促進を多面的に進めることができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：B
【判定根拠、課題と対応】
「3館園トラめぐり」など、講演会、ギャラリートーク等を順調に開催し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を上回ることができた。 本年度開催の事業を継続して実施していくことにより、外部との連携協力をさらに行っていく。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A2

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/3

【年度計画】
(東京国立博物館)
ア　日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、本館19室、東洋館2室、6室等を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、大講堂、小講堂やミュージアムシアター等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。
(ア) ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施
・特集「親と子のギャラリー　あつまれ！　トラのなかまたち」(4月12日～5月22日)
・特集「親と子のギャラリー　美術のうら側探検隊」(7月5日～8月28日)
(イ) 総合文化展の活性化を目的とした総合イベント「博物館でお花見を」(28年3月10日～4月10日)、「博物館でアジアの旅」(8月30日～10月23日)、「博物館に初もうで」(29年1月2日～1月29日)において、講演会、ギャラリートーク、体験型プログラム等の教育普及事業を実施する。
(ウ) 体験型プログラムの実施
・特集「親と子のギャラリー」ほか、総合文化展（平常展）に関連した一般向け及びファミリー向け体験型プログラムを実施する。
・本館19室・本館地下教育普及スペース・東洋館オアシスで展開する教育普及スペースで、ワークショップやハンズオンアクティビティなどの体験型プログラムを実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	博物館教育課長　小林 牧

【実績・成果】
ア　総合文化展を中心とした展示や作品に関連した企画を通じ、来館者の鑑賞体験を深め、歴史・文化の理解促進や伝統文化への興味関心を高めることを目的とした教育普及事業を展開した。
(ア)「あつまれ！　トラのなかまたち」では、トラをテーマにした文化財ならびに、国立科学博物館、恩賜上野動物園から借用した資料を展示するとともに、3館園をめぐるツアーを開催し、トラの生態や文化史に対する理解を深めた。また「美術のうら側探検隊」では、文化財の裏側を見るという新しい展示のかたちとハンズオンで、文化財の魅力を興味深く伝えることができた。
(イ)講演会、ギャラリートーク、ガイドツアー及び、ぬりえ、衣装体験、ヨガ、太極拳などの体験型プログラム、各国の伝統芸能公演などの文化イベントを実施し、総合文化展の活性化に寄与した。
(ウ)本館19室では、伝統模様のスタンプを使った体験型プログラムや、作品の制作工程見本の展示、ＩＴ技術により作品の高精細画像を楽しめる体験コーナーを継続して運営した。本館地下、東洋館2室、6室、ミュージアムシアターや小講堂において、各種体験型プログラム、ギャラリートーク等を、展示や対象に合わせて行った。平成館考古展示室において、レプリカによる触れるハンズオン展示を継続実施した

【補足事項】
・本館19室および東洋館オアシスでのハンズオン展示（688回187,028人)、ワークショップ(51回12,021人)、児童生徒を対象とした展示（86回　人数カウント不能)、童生徒を対象とした鑑賞会（2回118人　一部人数カウント不能）と、計827回の体験型プログラムを実施し、199,167人が参加した。
・「美術のうら側探検隊」「博物館に初もうで」ではワークシートを作成、配布。特別展でも鑑賞手引きとしてジュニアガイドの制作、配布を行った。
・「博物館でお花見を」では「花見で一句」として俳句を募り、488件もの応募があった。そのうち一般の部6句、小学生以下の部2句については、顕彰し、記念品を贈呈した。
○夏休み期間の8月15日には、総合文化展（本館、平成館考古展示室）で、子どもとその保護者のためのイベント「キッズデー」を開催した（キッズデー当日の総合文化展来館者数：2,390人)。

キッズデー　和楽器のコンサート

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
体験型プログラム等実施回数	827回	－	－		－	－	－	1,042
体験型プログラム等参加者数※	199,167人	－	－		－	－	－	198,393

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	体験型プログラム等について計827回実施、199,167人の参加者を受け入れ、年度計画を順調に達成している。夏休みに新たに「キッズデー」を開催するなど、来館者の学習機会をより充実させることができた。一方で、マンパワーの問題も顕在化してきた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に沿って順調にギャラリートークや体験型プログラム等の事業を進め、学習機会を提供している。ただし、適切な、マンパワーの配分と事業の充実を両立させるための方策について検討が必要。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A3

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　3/3

【年度計画】
（東京国立博物館）
イ　学校との連携事業を推進する。
・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象)。
・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象)。
・教員を対象とした研修等を継続して実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	博物館教育課長　小林　牧

【実績・成果】
イ　学校との連携事業を計画通り実施した。
・スクールプログラムを研究員及びボランティアにより実施し、225 校 7903 人が参加した。児童生徒に対し目的、学年、人数などに応じたプログラムを提供することで、充実した鑑賞体験の提供に寄与した。また、伝統文化への興味関心を高め、理解を促した。
・スクールプログラムにおいては新たに、タブレット端末による鑑賞支援アプリ「学校版トーハクなび」を使った鑑賞プログラムの運用を開始した。
・職場体験として、19 校 63 人を受け入れた。
・「盲学校のためのスクールプログラム」を 2 校 7 人が参加した。また、盲学校教員に対する研修を 1 回実施し、19 人が参加した。
・教員鑑賞会・ガイダンスを 3 回実施し、計 175 人が参加した。
・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修(共催：東京藝術大学)を 7 月 26 日～28 日の 3 日間開催し、41 名が参加した。漆工をテーマに、日本文化と博物館への理解を深めると同時に、博物館における鑑賞や伝統文化教育について教員とディスカッションを実施し、意見交換を行った。

【補足事項】
イ　スクールプログラムとしてレクチャー、対話型ギャラリートーク、見学ガイドアプリの貸出し、ワークショップ、キャリア学習など15のコースを設けた。告知はパンフレット、ウェブサイトで行い、ファックスとウェブサイトで申し込みを受け付けた。

スクールプログラム実施風景

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
スクールプログラム実施回数	227回	－	－	経年変化	－	－	－	211
スクールプログラム参加者数	7910人	－	－		－	－	－	8,261
職場体験実施回数	19回	－	－		－	－	－	19
職場体験参加者数	63人	－	－		－	－	－	60
教員を対象とした研修実施回数	6回	－	－		－	－	－	6
教員を対象とした研修参加者数	235人	－	－		－	－	－	585
印刷物	30,000部	－	－		－	－	－	42,000

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 スクールプログラム、職場体験の受け入れ、教員を対象とした研修など学校との連携事業を順調に実施し、年度計画達成している。全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修については、対象が限られているため、今後のあり方について検討を要する。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 学校等との連携教育の下、スクーププログラム、職場体験などの学習機会の提供を行い、中期計画に順調に取り組んでいる。教員研修については、より広い対象に向け、より充実したものになるよう検討が必要。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1311B1

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
（4館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（京都国立博物館）
ウ　歴史や文化についてわかりやすく理解してもらうため、講演会・土曜講座・夏期講座等を継続して実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　山川　暁

【実績・成果】
（4館共通）
ア　京都国立博物館においては、前中期目標以上の講演会等を開催した。

（京都国立博物館）
ウ　・「記念講演会(禅における〈心〉のかたち)」(4月16日、講師：花園大学所長　野口善敬氏)(1回・190人)を実施した。
・「土曜講座」(4月23日、講師：花園大学教授　福島恒徳氏　他)(38回・4,123人)を実施した。
・「夏期講座(名品を旅する)」(7月27日～29日、講師：実践女子大学教授　六人部昭典氏　他7名)(1回・210人)を実施した。
・「社会科教員のための向上講座」(11月4日、講師：京都国立博物館列品管理室長　宮川禎一)（1回・69人）を実施した。
・「セミナー・シンポジウム等」(4月24日、講師：明治学院大学教授　山下裕二氏 他)(4回・540人)を実施した。

【補足事項】
（京都国立博物館）
・記念講演会は花園大学国際禅学研究所　所長　野口善敬氏に講師を依頼し、190人もの聴講者があった。
・土曜講座は昭和48年から開始し、28年度末で1848回を数える歴史ある普及活動で、参加者から高い評価を得ている。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
講演会等の開催回数	45回	26回	A		19	21	36	39
講演会等の参加者数	5,132人	－	－		3,150	2,062	4,596	4,845

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	講演会・土曜講座・夏期講座等を継続して実施し、開催回数については、目標値を大幅に上回る回数を実施することができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を順調に行うことができた。また、数年前より継続してきた「社会科教員のための向上講座」は、リピーターも多く教員に定着しており、28年度は講座をもとに実際の指導案を作成するなど教育現場へのフィードバックが効果として見られた。次年度以降も継続してこれらの事業を実施し、内容の充実につとめる。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1311B2

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】

(京都国立博物館)

ア　京文化を核としながら、日本及び東洋の歴史・文化に対する理解促進を図るために教育普及事業を実施する。

・展覧会鑑賞ガイド・ワークシート（小中学生向けを含む）などを発行する。

・「博物館くらぶ」や京博ナビゲーターによるミニワークショップなど、文化財への一般の関心を高める体験型イベントを実施する。

・分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。

・ハンズオン教材を設置し、京博ナビゲーターが常駐する「ミュージアム・カート」を展開する。

イ　教育諸機関等との連携事業を推進する。

・京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。

・京都市内４美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で組織する「京都市内４館連携協力協議会」での連携協力を図る。

・教員のための講座を開講する。

・他の博物館や教育諸機関と協力した教育普及事業を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　山川　暁

【実績・成果】

ア　・「鑑賞ガイド」(「トラりんと見てみよう！　丹後に伝わる祈りのかたち」8,000部、「トラりんと見てみよう！　美術のなかのとりたち」13,000部）を発行した

・ワークショップ「“くじ”で出会う　禅の言葉」(36回・11,547人)、「龍馬さんからお手紙です！」(38回・8,725人）を実施した

・「博物館Dictionary」(10回、20,000部)を発行した

・「さわって発見！　ミュージアム・カート」を実施した（197回）

イ　・「文化財に親しむ授業」(7回・931人)、「おしゃべり鑑賞会」(1回・58人）を実施した。

・「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力として、京都ミュージアムズ・フォー連携講座「坂本龍馬の手紙を読む」(1回・200人）を実施した。

・「社会科教員のための向上講座」(1回・69人)、「文化財を教室に！－複製を活用した事例紹介と交流会―」(1回・24人)、「大阪府高等学校美術工芸教育研究会」(1回・13人)を実施した。

・スクールプログラム、来館学校団体等への対応（7回・344人）を行った

・東日本復興支援の「こども☆ひかりプロジェクト」に参加した(4回・960人)

・「ひとはくKidsサンデー」(兵庫県立人と自然の博物館）など他館プログラムや学校の鑑賞授業等に協力した（10回・601人）

【補足事項】

(京都国立博物館)

・28年度あらたに、「大阪府高等学校美術工芸教育研究会」(1回・13人)を試験的に実施した。29年度は人数を増やして実施予定である。

・サンフランシスコ・アジア美術館（アメリカ）とパートナーシップを結び、日本文化を紹介する教育用サイト「TeachJapan.org」の立上げに協力した

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
体験型プログラム等実施回数	553回	－	－		－	－	－	268
体験型プログラム等参加者数	21,333人	－	－		－	－	－	16,200
スクールプログラム等実施回数	7回	－	－	経	－	－	－	10
スクールプログラム等参加者数	344人	－	－	年	－	－	－	378
文化財ソムリエによる訪問授業実施回数	7回	－	－	変	－	－	－	7
文化財ソムリエによる訪問授業参加者数	931人	－	－	化	－	－	－	658
教員を対象とした研修実施回数	3回	－	－		－	－	－	12
教員を対象とした研修参加者数	106人	－	－		－	－	－	1,080
印刷物	41,300部	－	－		－	－	－	70,000

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	年度計画に基づいて館内の教育普及事業や、教育諸機関等との連携事業を推進し、今年度はあらたに「大阪府高等学校美術工芸教育研究会」(1回・13人)を実施し、対象を広げることができた。

【中期計画記載事項】

講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	館内での活動に加え、学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との協力し、今中期計画期間の事業の初年度として順調に事業を実施できた。今後も事業を継続し、内容の充実をはかりたい

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1311C1

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
（4館共通）
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（奈良国立博物館）
イ　講座等の開催
・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。
・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。
・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。
・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。
・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての認知度向上に努める。
・正倉院展において小学生とその家族を対象とした講座を実施する。

担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長　谷口耕生

【実績・成果】
（4館共通）
ア　28年度は講演会等を26回実施した。
（奈良国立博物館）
イ・サンデートークは毎月第3日曜日に12回実施。計991人の参加があり、アンケート結果で平均満足度88%を得た。
・公開講座は3つの特別展及び3つの特別陳列の会期中に13回実施。計1,972人の参加があり、平均満足度87%を得た。
・特別展関連の親子ワークショップとして4月30日に「空とぶ鉢のおはなし絵巻をつくろう！」、7月30日に「描いて飾ろう文殊菩薩」、7月31日に「きく！みる！ふれる！東征伝絵巻」を実施。計232人の参加があった。
・正倉院展に関連したシンポジウムとして「正倉院学術シンポジウム2016　正倉院正倉」を11月3日に実施。4人のパネラーにより基調講演と討論を行った。197人の参加があり、平均満足度90%を得た。
・夏季講座は「律宗の歴史と美術－鑑真と忍性へ」と題し、奈良県文化会館を会場に8月17日～19日の3日間実施。講師は8人、555人の参加があった。
・特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、『お水取り「講話」と「粥」の会』を29年2月11日に実施し、37人の参加があった。
・文化財保存修理所の一般公開は、29年1月12日に3回実施し、計119人の参加があった。
・第68回正倉院展では、10月23日に「親子鑑賞会」を実施し、152名の参加があった。

【補足事項】

夏季講座「律宗の歴史と美術－鑑真と忍性へ」会場風景

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
講演会等の開催回数	26回	28回	C		29	26	27	28
講演会等の参加者数	3,518人	－	－		3,454	3,219	3,525	3,974

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	講演会等の開催回数が目標値を2回下まわったものの、ほぼ当初の予定通り各種の講座及び講演会を実施することができ、例年どおり多数の参加者数が得られた上、アンケートにみる満足度も高かったことから順調と判断した。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	特別展等に関連した公開講座、当館研究員の多彩なテーマによるサンデートーク、小学生等を対象としたワークショップを開催し、仏教美術のコアなファンから初心者の方まで各々に応じた学習機会を提供できた。また『お水取り「講話」と「粥」の会』では東大寺の協力により歴史・伝統文化に触れられる機会を提供することができ、中期計画は順調に進んでいる。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1311C2

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　小中学校との連携
・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。
・奈良市内の公私立小中学校に博物館だよりを送付する。
・世界遺産学習を小学校高学年を中心に実施する。
・中学生の職場体験学習を受け入れる。
ウ　奈良市教育委員会及び奈良教育大学と連携してＥＳＤ(持続発展教育)プログラムの開発を行う。
エ　地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品のハイビジョン映像等を公開する。
オ　地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に公開する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　室溪　浩

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア
・奈良県内の小中学校に対してメールマガジンの配信を行った。
・『奈良国立博物館だより』は、奈良市内の全小中学校への郵送配布を行った。
・世界遺産学習事業を、奈良市の公立小学校5年生（25校1,542人）に対して実施した。
・中学2年生の職場体験で3校7名を受け入れた。
ウ
・奈良市教育委員会との連携事業として、奈良市内在住の親子を対象としたＥＳＤプログラムの実施に関する検討会議を行った。ＥＳＤプログラムについては29年度夏より実施する予定である。
・生誕８００年記念特別展「忍性－救済に捧げた生涯－」に関連した事業として、「描いて飾ろう文殊菩薩～忍性のきもちになって～」を奈良教育大学との連携事業として実施した。
エ　地下回廊のタッチパネル式学習端末機で、収蔵品の中から名品の画像を公開した。
オ　地下回廊で仏像模型や新たに追加した解説パネルを用いて、文化財に関する情報を充実させた。

【補足事項】
（奈良国立博物館）
ウ　奈良市教育委員会との検討会議実施回数　3回

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
体験型プログラム等実施回数	21回	－	－		－	－	－	23
体験型プログラム等参加者数	384人	－	－		－	－	－	380
スクールプログラム等実施回数	24回	－	－	経	－	－	－	8
スクールプログラム等参加者数	1,701人	－	－	年	－	－	－	390
職場体験実施回数	3回	－	－	変	－	－	－	4
職場体験参加者数	7人	－	－	化	－	－	－	9
世界遺産学習実施学校数	25校	－	－		－	－	－	37
世界遺産学習参加者数	1,542人	－	－		－	－	－	2,440
音声ガイド	770台	－	－		－	－	－	816

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	直接見聞きして学習できる世界遺産学習、自発的な学習を促すタッチパネル式学習端末、仏像模型や解説パネルを設置するなど、様々なかたちで学習の機会を提供できた。また、奈良市教育委員会との検討会議を3回実施するなど、29年度の事業実施に向け準備が進められた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	28年度は中期計画のとおり、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供することができた。また、地元教育委員会との連携を図り、29年度の事業実施に向け準備を進めることができ、中期計画は順調に進んでいる。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D1

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/3

【年度計画】
(4館共通)
ア　講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
(九州国立博物館)
ウ　シンポジウムを開催する。
エ　特別展記念講演会を開催する。
オ　文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。
カ　ミュージアムトークを随時実施する。
キ　文化施設等へ講師を派遣する。
ク　特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。

担当部課	学芸部企画課 交流課	事業責任者	課長兼文化交流展室長　河野一隆 課長　吉川利幸

【実績・成果】
ウ　「文化財防災ネットワーク推進事業」等シンポジウムを合計4回実施した。
エ　特別展で記念講演会を開催した。(合計：3回)
オ　文化交流展、特別展に関連した教育普及事業としてワークショップ等を実施した。
カ　展示物への理解をさらに深めるためにミュージアムトークを定期的に行った。(合計：49回) その際、パワーポイントの活用や実物の提示などを行い、来館者サービスに努めた。(参加人数：1,401人)
キ　地元の諸団体からの依頼に基づき、研修会やセミナーの講師として文化施設に研究員を派遣した。(8回、667人)
ク　各特別展でワークショップを開催し、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行った。

【補足事項】
オ、ク
・「始皇帝と大兵馬俑」展では、始皇帝が行った単位の統一を体感してもらう企画「秦の単位で身体測定」を実施。秦の単位の目盛りをつけた身長計と体重計を会場内に設置し、来館者に身長、体重を計測してもらった。小中学生向けのジュニアガイド「めざせ！始皇帝博士」を作成し、事前配布及び会場配布を行った。また、5月5日の子どもの日企画として、兵馬俑の髪型と冠をペーパークラフトで作るワークショップ「紙で工作！兵馬俑に変身！」を実施した。
・「京都 高山寺と明恵上人」展では、入場のための長い待ち時間が予想されたことから、明恵上人を紹介する冊子「レジェンド・オブ・明恵」を製作し、エントランスホールで配布した。また、冊子の一部をパネルにし、会場内にも設置した。冊子はホームページでもダウンロードできるようにした。
・「宗像・沖ノ島と大和朝廷」展では、会場内に体験コーナーを設け、3Dプリンタで出力した貝輪のレプリカ及び貝製品の素材であるイモガイの現生品を触れられるようにした。また、わかりやすい解説として、沖ノ島に住む鳥をキャラクターとした「ドリー」が展示に関する豆知識を紹介する題箋サイズのパネルを設置した。さらに、古代に親しむ企画として、会場外に写真撮影及び古代服「貫頭衣」試着コーナーを設けた。

冊子「レジェンド・オブ・明恵」

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
講演会等の開催回数	77回	90回	C		102	90	82	87
講演会等の参加者数	5,369人	－	－		8,354	7,267	4,694	6,212

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 さまざまな来館者層を対象にした多岐にわたる教育普及事業を実施し、アンケート結果からも高い評価を得た。講演会等の開催回数は27年度よりも減少したが、展示パネルや配布冊子等の質を上げるために尽力し、体験型の教育活動を充実させたことで、参加者数は過去2年の水準をほぼ維持した。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 「学校よりもおもしろく、教科書よりもわかりやすい」という理念に基づく当館独自のわかりやすく楽しい教育普及が好評を得ており、今中期計画期間の初年度として順調に事業を達成できた。今後も当館の理念に沿った学習機会の提供に取り組んでいきたい。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D2

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/3

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　博物館における体験型事業の充実を図る。
・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。
・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。
・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。

担当部課	学芸部企画課 交流課	事業責任者	課長兼文化交流展室長　河野一隆 課長　吉川利幸

【実績・成果】
（九州国立博物館）
1)
・体験型展示室「あじっぱ」を運営するとともに、これまでの調査研究で得られた知見を加味して、ＢＯＸキット等の体験資料を開発し、新規に収集した資料の紹介を行った。
・「なりきり学芸員体験」「なりきり考古学者体験」「なりきり文化財カメラマン」「ガムランワークショップ」「行こうよ！あじっぱ夏祭り」等のワークショップを館内で実施したほか、「きゅーはくきゃらばん」と名づけた教育普及活動を継続的に行うなど、幅広い層に向け教育活動の場を提供した。
・「あじっぱ」においてアジア諸国の文化を紹介するとともに、アジア諸国の文化の類似性や相違性について理解を深める体験学習プログラムを行った。また、ＢＯＸキット等の体験資料を開発した。
・学校やイベント先へ貸出可能な「松菊里型住宅をモデルとした『組み立て式竪穴住居』」を開発した。室内・屋外問わず使用可能で、また材質を研究し検討を重ね、博物館の環境にも配慮したものを設計し、製作した。

【補足事項】
・教育普及活動「きゅーはくきゃらばん」を15回実施。当館の体験プログラムを基本に、新規開発したプログラムを提供した。県内では福岡県立少年自然の家「玄海の家」や九州芸文館、遠方では被災地支援のため、福島県、宮城県、熊本県まで派遣した。特に仙台市では、毎年太宰府で実施されている「古都の光」を模して、子ども達に“灯篭”を作ってもらい、街路に飾るという新しいワークショップに取り組んだ。
・「行こうよ！あじっぱ夏祭り」は、2日間でのべ599人が参加した公開型ワークショップで「ぶーぶーペット作り」「ワラの工作にチャレンジしよう！」「せかいの「コマ」であそぼう！」「ぬりえ」の4つのワークショップを提供した。

夏祭りでのプログラムの様子

・体験学習プログラムを合計6件開発した。(「竹でできた楽器」「カルタ　～私はだれでしょう？～」「おひなさま」「かくれんぼ」「針闇書」「世界の玩具」)
・あじっぱ入口付近のディスプレイでは2回の特集展示を実施した。(「京劇」「植物でできたものたち」)
・小学校児童向けに「わくわく通信」を5回発行し、広報に努めた。体験プログラムや子ども向けのイベントを告知するチラシで、博物館近隣の筑紫地区・粕屋地区・福岡市・小郡市の全小学校に、毎回136,800枚を配布している。募集型の体験プログラムは毎回ほぼ定員に達した。
・28年度は、中学校で“あじっぱ”所有の教育普及資料を利用した連続授業を初めて実施した。選択授業として生徒24名に対し、全3回で、「ふでばこ展示会」「木目込みまり作り」「世界のこま体験」のワークショップをボランティアと共に行い、双方に有意義な時間となった。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
体験型プログラム等実施回数	2,143回	－	－		－	－	－	639
体験型プログラム等参加者数	7,796人	－	－		－	－	－	8,860

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 組み立て式の竪穴住居は、当館オリジナルの試みであり、広い反響を呼んだ。また、展覧会と教育普及活動の連携で「九博らしさ」を前面に押し出した企画となっており、大きな成果を挙げている。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 体験型展示室「あじっぱ」のコンテンツを利用したワークショップを行う「きゅーはくきゃらばん」を15回実施し、県内外の多くの子ども達に学習機会を提供できた。またアウトリーチ活動を通じて、兵庫県立人と自然の博物館や京都国立博物館、熊本県立装飾古墳館など他博物館との連携協力を推進するなど、今中期計画期間の初年度として順調に事業を実施できた。今後も他館との連携協力を図りながら、県内外の多くの子ども達に学習機会を提供したい。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1311D3

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　3/3

【年度計画】
（九州国立博物館）
イ　学校教育との連携事業を実施する。
・職場体験（中学生）の受け入れを実施する。
・ジュニア学芸員（高校生）事業を実施する。
・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。
ケ　放送大学の面接授業を実施する。

担当部課	交流課	事業責任者	課長　吉川利幸

【実績・成果】
（九州国立博物館）
・職場体験（中学生）を17回87人（のべ35日間）受け入れた。
・地元の高校生を対象としたジュニア学芸員体験事業を12月4日～29年3月12日の期間で8回実施（17人参加）し、なりきり学芸員体験や体験型展示室「あじっぱ」のリーフレット作成ワークショップなどを体験させた。
・教員向けの福岡県教育センターのキャリアアップ講座を2回実施。その他、高等学校教員初任者研修・経験10年経過研修を行った。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」は、47件・87パックの貸出しを行った。
・出前授業や館内での体験等を希望する学校への個別対応を行った。
・放送大学の面接授業を実施した。

「ジュニア学芸員体験」の様子

【補足事項】
・放送大学では、全8回の講義を行った。館長や研究員が講師となり、特別展開催のマネージメントや教育普及の取り組み方、平常展の展示についてなど、博物館運営についての講義を行った。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
スクールプログラム等実施回数	18回	－	－		－	－	－	13
スクールプログラム等参加者数	625人	－	－		－	－	－	1,251
出前講座実施回数	6回	－	－		－	－	－	6
出前講座参加者数	179人	－	－	経	－	－	－	370
職場体験等の実施回数	17回	－	－	年	－	－	－	32
職場体験等の参加者数	87人	－	－	変	－	－	－	117
教員を対象とした研修実施回数	4回	－	－	化	－	－	－	12
教員を対象とした研修参加者数	73人	－	－		－	－	－	167
「きゅうぱっく」貸出件数	87件	－	－		－	－	－	75
印刷物	145,000部	－	－		－	－	－	175,000
その他ウェブコンテンツ	1,331件	－	－		－	－	－	11,050

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 職場体験(17回、87人参加)、教員研修(4回実施)、放送大学等(受講者数：40人)について、事前に担当者と内容検討を行い、計画通り実施できた。 今後、さらに内容の充実を図っていく。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に対して学校教育との連携を順調に推進しており、職場体験、教員研修、放送大学の面接授業等についても、計画通り着実に実施できた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1312A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　館内案内、各種事業の補助活動等の充実を図る。
イ　点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を実施する。
ウ　自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。
エ　スクールプログラムの一部をボランティアにより実施する。
オ　ボランティアデーなど、ボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
ア及びエ　館内各所での案内、本館19室みどりのライオン体験コーナー、東洋館オアシス（教育普及スペース）での活動、職場体験の活動補助の他、イベント班とワークショップ班による、年間を通した各種イベント・ワークショップ・保存修復事業の補助活動、スクールプログラム班による学校団体向けプログラムの一部を実施。また、各活動実施のための研修会・解説会を実施した。
イ　通年で触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動を実施。バリアフリー対応班により、盲学校を含む視覚障がい者対応と盲学校教員向けの研修会、点字パンフレットの印刷、自主企画グループにより手話通訳付きのガイドを実施した。また、実施準備や活動のための研修会を実施した。
ウ　全16の自主企画グループによるガイドツアー等の活動を実施した。また、研究員による、ボランティア活動のための研修会を実施した。
オ　通常の自主企画グループの活動の他に「留学生の日」・「ボランティアデー」・「博物館でお花見を」・「博物館でアジアの旅」・「キッズデー」などでの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行えるよう支援した。また、ボランティアデーでは、新規ボランティア応募者を対象に募集説明会とボランティアによるボランティア活動紹介ツアーを実施した。

【補足事項】
イ　バリアフリー活動として、点字パンフレットを13冊作成 、手話通訳付きガイドツアーとして「たてもの散歩ツアー」（隔月1回、全5回）を実施した。
ウ　各自主企画グループ及びボランティア活動紹介ツアー等を実施した。
369回14,187人）
・自主企画グループによるガイドツアーとして、15グループ（樹木ツアー、浮世絵ガイド、本館ハイライトツアー、法隆寺宝物館ガイド、考古展示室ガイド、陶磁ガイド、庭園茶室ツアー、お茶会、彫刻ガイド、英語ガイド、こどもたちのアートスタジオ、たてもの散歩ツアー、近代の美術ガイド、東洋館ツアー、刀剣・武士の装いツアー）が活動した。また、たんけんマップグループが印刷物を作成した。
・ボランティアに対する研修を行った。（38回、解説会5回）
※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。

東洋館オアシスの活動

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
ボランティアの受入人数	169人	－	－		170	169	173	173

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計169人のボランティアを受け入れ、来館者対応、各種イベント・ワークショップ・保存修復事業の補助活動、触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動や盲学校対応、スクールプログラムの一部実施、ガイドツアー等、多岐にわたって計画的に各種事業を実施しており、順調に目標を達成している。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	教育活動の充実及び来館者サービスの向上、生涯学習活動に寄与するためのボランティアの育成及びその活動の支援をするなど、順調に取り組んでいる。今後、ますます多様化する来館者に対して、きめ細かな対応ができるよう、引き続き育成を進めていく。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　教育普及補助ボランティア（京博ナビゲーター）活動の充実を図る。
イ　調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。
ウ　文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。
エ「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長　植田義雄 教育室長　山川　曉

【実績・成果】
（京都国立博物館）
ア　・京博ナビゲーター（151 人）が下記の活動を行った
・平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動（通常活動・年始を除く開館日毎日）
・ミュージアム・カートに新しいハンズオン教材を追加した（三角縁神獣鏡（復元鋳造）・玉眼模型（天部））
・特別展覧会「禅－心をかたちにー」ワークショップ「”くじ”で出会う　禅の言葉」(36 日、11,547 人参加)
・特別展覧会「没後 150 年　坂本龍馬」ワークショップ「龍馬さんからお手紙です！」(38 日、8,725 人参加)
○ワークショップ実施のため、京博ナビゲーターを対象とした研修会を実施した（14 回）
○京博ナビゲーターのモチベーション向上と博物館活動への理解を深める「感謝会」を実施した（1 回）
イ　・収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。(31 人)
ウ　・文化財ソムリエ（17 人）が以下の活動を行った
・京都市内の小中学校への訪問授業(7 回)
・京都市中学校総合文化祭における「おしゃべり鑑賞会」(1 回)
・「ミュージアムキッズ！全国フェア 2016」「ミュージアムキッズフェア in みなみそうま」「プチ・ミュージアムストリート 2016」 への参加（3 回）
○文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。(20 回)
エ　・「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した。(16人)

【補足事項】
（京都国立博物館）
ア　京博ナビゲーターは、それぞれ月1回程度来館し、平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにて活動を行っている。ミュージアム・カートでは、玉眼模型や銅鐸複製などのハンズオン教材に触れることができ、来館者アンケートやナビゲーターへの声掛けでも大変好評なコメントが集まっている。特別展覧会「禅－心をかたちにー」、「没後150年　坂本龍馬」の期間中には、京博ナビゲーターが毎日ワークショップを実施し、合計20,272人の参加者があった。
イ　各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
ウ　文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生のボランティア（17名）に対して、当館研究員がスクーリング20回を実施。文化財や教育普及の手法についてレクチャーを行い、授業案や教材を作成する際には議論を促し、指導・助言を行った。本年度は「平成28年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の助成を受け、小中学校への訪問授業だけでなく、教員との交流会、学校への複製貸出・助言、他館活動の調査なども精力的に行った。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年	24	25	26	27
ボランティアの受入人数	215人	－	－	変化	45	45	210	214

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画に基づき、教育普及補助活動の充実を図ることができた。その他、ボランティ活動の充実を進め、育成等も実施した。ボランティアは昨年度と同程度の人数を受け入れた。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援し、今中期計画期間の事業の初年度として順調に事業を実施できた。今後も事業を継続し、内容の充実をはかりたい。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1312C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　ボランティアの各グループ（世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ）の活動の充実を図る。
イ　ボランティアの資質向上を目的に、定期的に研修を実施する。
ウ　勉強会や見学会等によって、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。
エ　ボランティアが自主的に実施するガイドツアー等のプログラムの支援を行う。

担当部課	ボランティア室	事業責任者	室長　石垣 鉄也

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア　ボランティア新制度2期がスタートして2年目になり、世界遺産グループ（51人）、解説グループ（64人）、サポートグループ（35人）の3つの活動がそれぞれ軌道に乗った。世界遺産学習として奈良市の小学5年生（25校1,542人）のほか、学校プログラムとして県内外の幼稚園～高校生、海外からの学生を受け入れた（24校1,701人）。名品展（平常展）では、要所にデスクを設け、年間を通じて、質問対応や解説を行った（合計1,200席）。また、3つのグループ合同で、正倉院展会期中に、講堂ボランティア解説を実施した（17日、97回）。この事業に関しては、教育室がスライド資料と原稿を作成し、ボランティア室が約1ヵ月間の練習立会と指導をした。
イ　ボランティアに対して、名品展研修を毎月行う（17回）とともに、特別展、特別陳列の開催ごとに展覧会担当者による展示内容の研修を実施した（6回）。ボランティア全員に解説と自己鍛錬のための学習資料として、全ての展覧会図録を配布した。
ウ　ボランティアのグループ別に、毎月の勉強会を実施した（合計38回）。スキルとチーム力の向上を目指し、毎月テーマを設けて指導した。解説グループでは、オブザーバーとして各分野の担当研究員が立会、指導した（9回）。
エ　ボランティアによる自主企画として、当館敷地内の茶室庭園の案内ツアーや親子イベントを実施した。また、親睦会や特別展ゆかりの社寺見学会を実施し、ボランティア通信誌を発行してボランティア間の情報共有に努めた。

【補足事項】
ア・特別陳列「お水取り」のツアー解説を29年3月に実施した（14日64回）。
　・年間を通じ、講座及びイベント等の館事業の支援･補助を行った（合計73回）。
イ・ボランティアと博物館の意思疎通をはかるため、
　ボランティア会議を定期的に実施した（9回）。
エ・ボランティア通信誌「ブリッジ」を5回発行した。
　・庭園見学ツアーを4月と11月に合計5回実施した。
　・社寺見学会を5月と8月の2回実施した。
　・ボランティア親睦会を12月に実施した。
　・英語解説のために自主勉強会を定期的に行った。
　・世界遺産グループによる、親子のための自主企画イベントを
　　夏休み子ども無料日に実施した（2日間）。
　・グループ毎にスタッフ室の掃除を実施した（10回）。

学校プログラムの実施（世界遺産グループ）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
ボランティアの受入人数	150人	－	－		121	114	110	157

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新たなボランティア制度の2期目の第2年次にあたって、27年度に引き続き、研究員による名品展研修や特別展、特別陳列の展示内容の研修の実施、館との連携協議、情報共有のためのボランティア会議の開催など、それぞれのグループの活動の充実、資質の向上等を図るための取組を着実に実施した。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	現在受け入れているボランティアについて新制度の第2年次であり、活動の充実、資質の向上等を図るための取組を着実に実施し、成果を上げているが、登録期限が29年度限りである。このため29年度以降引き続き、教育活動の充実、来館者サービスの向上等に寄与するため、次期のボランティアの募集選考方法、成果の引き継ぎ等について検討を実施した。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1312D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会（日本語、英語、中国語、韓国語)、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図る。
イ　ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。
ウ　ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。

担当部課	交流課	事業責任者	課長　吉川利幸

【実績・成果】(九州国立博物館)
ア　来館者対応（案内等)、イベントの実施、館事業への協力など、27年度以上に活動の場を広げることができた。それにより、活動意欲の向上、活動の活性化・充実、そして市民視点の活動の創造が行われた。
イ　ボランティア自身の企画・実施による研修等を積極的に実施することで、活動の資質の向上や活性化、発展が行われた。
ウ　各部会において研修やグループ別学習、活動を行った。また、九州国立博物館振興財団の支援によるグループ活動や子どもフェスタにおいて、部会の枠を超えてボランティア同士が活動を行うことができた。

【補足事項】
1)第4期ボランティアを中心に、第3期ボランティアからアドバイスを受けながら活動を行った。開館以来の活動に加え、新たな視点・思いによる活動が加わり、活動の発展や充実が計られた。
・総ボランティア数（28年度当初）計　307人（手話通訳ボランティア22人含む)
第3期ボランティア（23年4月から活動）数　122人
第4期ボランティア（26年4月から活動）数　163人
・通常の活動においては、1日平均30～40名、1ヵ月平均延べ1,000人前後のボランティアが、主に午前と午後に分かれて活動している。また、約6割のボランティアが週1回程度で活動をしている。
・日常の活動は、館内案内、あじっぱ（体験型展示室）における活動のサポート、文化交流展示室の解説案内、博物館内のIPM活動、土日を中心とした手話通訳による案内。
2)・活動の活性化・発展・創造やボランティアの資質向上を目的に、ボランティア自身の意向に沿った研修や館外研修（視察・交流等）を実施した。
（主な研修)「救命救急講習」「英語対応講座」「古代韓国歴史講座」「古文書講座」「IPM関連講座」等
（主な館外研修先)
「壱岐市立一支国博物館」「兵庫県立人と自然の博物館」「兵庫県立考古博物館」「熊本県立装飾古墳館」等
3)・イベントやワークショップのみならず、通常の活動において、企画から実施まで、全てボランティアに担わせることで、ボランティア自身や部会（グループ）の主体性や自主性を高めることができた。

衣装体験のお手伝いの様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
ボランティアの受入人数	307人	－	－		308	287	352	352

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
ボランティアの各部会同士の横のつながりを意識したイベントや研修等を27年度よりも多く実施することができた。また、財団支援事業のグループ活動に参加したボランティアの人数が増加したことで、27年度よりも部会の枠を超えたつながりを意識した活動が増えている。
毎月開催のボランティアの連絡会で、行事等の見通しがもてるように行事等の実施3ヶ月前までに情報提供したことで、自主的かつ積極的に活動に参加するボランティアが増えている。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
27年度の反省をもとに、学校現場への出前授業に積極的に九博ボランティアに関わってもらった。29年度に向けて、学校側と協議し計画的に九博ボランティアを派遣して行きたいと考えている。また、他県の施設や他館で活動するボランティアとの交流会を定期的に開催することができた。特別支援学校への対応は職員を中心に行っているが、当館が中心となって活躍できるように、事前研修等を実施して対応できるようにしている。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1313A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（4館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（東京国立博物館）
ア　キャンパスメンバーズへの教育連携事業を実施する。
イ　東京藝術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象）。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	総務課長　竹之内 勝典 博物館教育課長　小林 牧

【実績・成果】
（4館共通）
ア　加入校数52校（内訳：法人：3、大学：44、専門学校：2、学部：2、論系：1）本制度を利用し、23,566名の学生、672名の教員が総合文化展を観覧した。なお、特別展割引については、10,626名の学生が利用した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び高い職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップを募集し、総務部・学芸研究部・学芸企画部の 8 部署で 10～30 日間の活動を行い、16 大学 22 名が修了した。
（東京国立博物館）
ア・キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の役割、運営、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について実例を交えたセミナーを実施。また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いなど博物館実務全般について博物館学講座を実施した。
・日本大学芸術学部と共同で柳瀬荘アートプロジェクトを実施。東洋美術学校クリエイティブデザイン専攻を対象にした授業に協力した。
イ　東京藝術大学との連携事業として、藝大生によるギャラリートークを実施し、学生の貴重な経験となったと同時にお客様へのサービスの充実にもつながった。また、収蔵品のうち染織作品の「紅型」をテーマに調査を行い、工程見本の制作と次年度の展示準備を行っている。

【補足事項】
（東京国立博物館）
ア・キャンパスメンバーズ加盟校の学生を対象としたセミナー　（8 月 2 日、参加　170 人）
キャンパスメンバーズ加盟校の学芸員志望学生を対象とした博物館学講座(8 月 1 日～5 日、参加　23 大学・36 人)
・日本大学芸術学部　柳瀬荘アートプロジェクト（9月20日～10月1日）テーマ「間の共振」
参加アーティスト20人、来場人数197人
東洋美術学校　授業名「セールスプロモーション」(5 月 6 日、7 月 29 日)、38 人参加
イ　東京藝術大学との連携：藝大生によるギャラリートーク　インターン 7 人　計 42 回　聴講者 1,690 人

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
キャンパスメンバーズ加入大学数	52校	－	－	経年変化	38	43	44	48
インターンシップ参加者数	22人	－	－		－	－	－	23
見学対応実施回数	14回	－	－		－	－	－	12
見学対応参加者数	480人	－	－		－	－	－	275
その他大学との連携事業実施回数	1回	－	－		－	－	－	1
その他大学との連携事業参加者数	36人	－	－		－	－	－	37

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズ（加入校52校）及びインターンシップ（参加者21人）による大学等との連携を継続して実施しているほか、東京藝術大学や日本大学芸術学部との連携事業に順調に取り組んでいる。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 インターンシップやセミナー、柳瀬荘アートプロジェクトなどの大学との連携事業を通じて人材育成に寄与しており、今後も継続していきたい。東京藝術大学との連携による工程見本の制作・展示については、本館リニューアルなど展示環境の変化等に応じて今後の実施について検討したい。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1313B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（4館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（京都国立博物館）
ア　京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長　植田義雄 列品管理室長　宮川禎一

【実績・成果】
（4館共通）
ア　キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携（27校）した。
（京都国立博物館）
ア　・京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文社会論講座において、研究員4名によって8科目の授業を担当し、文化財美術作品の実物を教材として研究指導を行った。
・インターンシップとして、大学院生3名を受け入れた。

【補足事項】
（京都国立博物館）
ア・研究員4名は客員教授3名、客員准教授1名の体制で、京都大学大学院人間・環境学研究科在籍の学生に対し研究指導を行った。博物館収蔵資料のうちほとんど整理されてこなかった京都御所資料（幕末期歴史資料）の調査研究に際して京都大学学生に実地作品の取り扱いや実測・調書作成などの補助作業を担当させ、現物の観察方法や作品調書の作成方法の授業などを行った。
・京都大学の日本文化研修留学生に対して日本の美術の名品を紹介してその理解の促進をはかった。参加者14名。（1月25日）（教員：京都国立博物館学芸部長　山本英男）
・社寺の作品調査（河内長野市金剛寺）に美術史専攻大学生・大学院生を参加させて文化財の取り扱いの指導をした。参加者5名（10月17日～19日）

・文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、国宝修理装潢師連盟の協力を得て、文化財修復に関わる加盟大学院生 3 名のインターンを文化財保存修理所にて受け入れた。11 月 28 日には平成知新館 4F 研修室にて 3 名による報告会を行った。（出席者 29 名）

写真は文化財調査風景

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
キャンパスメンバーズ加入大学数※	27校	－	－		30	29	29	29
インターンシップ参加者数	3人	－	－	経	－	－	－	2
連携講座参加者数	6人	－	－	年	－	－	－	6
見学対応実施回数	2回	－	－	変	－	－	－	2
見学対応参加者数	35人	－	－	化	－	－	－	41
その他大学との連携事業実施回数	22回	－	－		－	－	－	1
その他大学との連携事業参加者数	52人	－	－		－	－	－	22

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズによる大学等との連携を継続して実施できた。 また、京都大学連携講座による大学院の学生に対して専門的な教育や論文指導等を着実に実施した。今後も引き続き積極的に専門教育を行う方針である。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズについては、中期計画初年度である28年度について、27校の加入実績となり、順調に事業を実施できた。今後も積極的に加入校を増やすことに努めたい。 今後も京都大学大学院の学生を指導して計画通り着実に人材育成を行いたい。

※　奈良国立博物館との共通加入校含む

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1313C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（4館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（奈良国立博物館）
ア　奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する（大学院生対象）。
イ　大学、高校において正倉院展に関する特別授業を実施する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　室溪　浩

【実績・成果】
（4館共通）
ア　キャンパスメンバーズへの入会の勧誘及び更新を積極的に進めてきた結果、28年度までで入会校数は25校となり、加入大学とは連携を継続した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　立命館大学から3名の学生をインターンシップとして受け入れた。
（奈良国立博物館）
ア・奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員1名を客員准教授として派遣し、日本アジア古典資料論の講義を行った。講義内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期1人、後期2人であった。
・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員2名を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生7人であった。
イ　京都美術工芸大学にて正倉院展に関する出前授業を実施した。(10月3日)

【補足事項】
（4館共通）
ア　キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学と連携しワークショップ「描いて飾ろう文殊菩薩」を実施(7月)
（奈良国立博物館）
ア　奈良女子大学大学院人間文化研究科
・野尻忠企画室長「日本アジア古典資源論Ⅰ・Ⅱ」
神戸大学大学院人文学研究科
・岩井共二情報サービス室長、吉澤悟列品室長「文化資源論講座」
イ　京都美術工芸大学
・清水健工芸考古室長「正倉院展 特別授業」

「描いて飾ろう文殊菩薩」

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
キャンパスメンバーズ加入大学数※	25校	－	－		27	26	27	27
インターンシップ参加者数	3人	－	－		－	－	－	3
連携講座参加者数	10人	－	－		－	－	－	10

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
大学との連携事業において講座を提供し、歴史・伝統文化の発信に努めたほか、キャンパスメンバーズ加入校との共同で小中学生を対象としたワークショップを実施するなど、教育普及活動を行うことができた。また、インターンシップとして大学生の受入を行い、人材育成に寄与することができた。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
大学との連携講座、キャンパスメンバーズ加入校と連携し親子向けのワークショップを実施する等、他機関を交えての事業実施により効果的な人材育成に寄与でき、中期計画に対し順調に成果を上げている。

※京都国立博物館との共通加入校含む

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1313D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
（4館共通）
ア　キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップを継続して実施する。
（九州国立博物館）
ア　博物館実習生の受け入れを実施する。

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長　木川りか 課長　吉川利幸 課長　菅原秀倫

【実績・成果】
（4館共通）
ア・大学等との連携を継続させるため、28年度も募集、実施し、各教育機関（大学・短期大学・高校）が継続で入会した。加入校内訳（大学15校、短期大学3校、専門学校1校、高等学校6校）
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　当館の保存修復施設を利用して地域大学との協業を図る短期インターンシップ研修プログラムを実施した。
（九州国立博物館）
ア　博物館実習生を13大学17人、計10日間受け入れた。（うちキャンパスメンバーズ校は5大学8人）
○博物館見学実習に対応した。（6件243名）

【補足事項】
（4館共通）
ア・キャンパスメンバーズである福岡女子短期大学音楽科と連携し、カフェコンサートを実施した。
・会員校の学園祭に協賛した。（5校）
・特典の利用として、文化交流展を3,304人（学生3,129人、教職員175人）、特別展を3,826人（学生3,430人、教職員396人）が観覧した。
・パスポートを2,254人（学生2,043人、教職員211人）が割引購入した。
・会員校である筑紫台高等学校は、キャンパスメンバーズ制度を活用し、授業のカリキュラムに当館の特別展観覧を組み込んでいる。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア・装潢技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を実施した。
（8月22日～27日の5日間）
九州産業大学2人、佐賀大学1人、広島市立大学1人の計3大学4人が参加した。
屏風の下貼り製作を通じて、修理の基本となる作業を体験できる貴重な機会を提供した。
・「学芸員技術研修会（資料保存）」（文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）代表：九州産業大学・美術館・教授　緒方泉氏）を研修室、4階文化交流展示室において実施した。
（講師：博物館科学課長 木川りか）9月21日　受講者27名
（九州国立博物館）
1)・実習実施期間：7月27日～8月8日（のべ10日間）（合計13大学17人）
・実習内容：博物館の各機能に関するレクチャー、実習（来館者対応、展示企画の立案）等を行った。

博物館実習（文化財写真についての講義風景）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
キャンパスメンバーズ加入大学数	25校	－	－		24	24	24	25
インターンシップ参加者数	4人	－	－		－	－	－	7
見学対応実施回数	6回	－	－		－	－	－	7
見学対応参加者数	243人	－	－		－	－	－	450
その他大学との連携事業実施回数	11回	－	－		－	－	－	12
その他大学との連携事業参加者数	136人	－	－		－	－	－	86

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	13大学17人の博物館実習生を受け入れ、館内各部門と連携・協力し、10日間にわたる博物館実習を実施できた。また、キャンパスメンバーズ加入校との連携事業を年度計画通り順調に実施することができた。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	博物館実習（13大学17人）、インターンシップ（3大学4人）を実施するなど中期計画どおり人材育成に寄与できた。今後も広報周知を行い、大学との連携事業等の取り組みを進めていきたい。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1314A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
(4館共通)
　保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　髙橋裕次

【実績・成果】
・文化財保存修復専門家養成実践セミナー（NPO－JCPとの共催）
文化財の保存修復に携わりたいと考えている学生、すでに携わっている社会人が、プロとしての能力を学ぶための広く開かれたセミナーをめざして実施しており、28年度は、23人の受講者があった。

・インターンシップ
国内で文化財の保存修理を学んでいる大学院生など4名を10日間受け入れた。国内からの4人（日本3、中国1）に対し館内で実施している環境保存、調査、修理の各分野の作業をともに行わせることで、臨床保存の実践方法について、多くのことを学ぶ機会を提供できた。

【写真 1.】インターン生と共に行った、
保存カルテ､点検調書のデジタル化作業の様子

・文化遺産の保護に資する研修2016
ユネスコとの共同でカンボジア、ラオス、ミャンマーの国立博物館に勤務する学芸員6名、事務職員、通訳3名に対して「保存修復について」と「文化財の調査分析」について修理室、X線CT撮影室を用いて研修を行った。

【補足事項】
インターン終了後にインターン生2名が学業の合間にアルバイトとして週に1回の割合で館内の業務の補助を行い、インターン時の経験を活用している。また、当館でのインターン活動に刺激され、当館での活動後に他の文化財関連機関でのインターンに参加したインターン生もいた。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
保存修理従事者等を対象とした研修会				経年変化				
開催回数	1回	－	－		2	2	2	1
参加者数	23人	－	－		47	48	37	18
インターン受入人数	4人	－	－		4	8	2	4

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	国内外から安定的にインターンを受け入れ、大学教育と補完できる教育が行えた。講義に加えて、実際に業務を体験させることで、充実したプログラムを実施した。

【中期計画記載事項】
　保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	研修会には予想を超える応募者があり盛況であった。中期計画を順調に遂行出来た。博物館におけるインターン制度についても認知が広まり、これまで希望がなかった大学などからも参加者があった。次期中期計画期間も時代の流れに対応した研修プログラムを更新していく。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1314B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
(4館共通)
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】(4館共通)
・毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、文化財の修復状況を確認するともに、修理技術者に指導・助言・を行った。 また、2ヵ月に1回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。(巡回10回・会議7回)
・当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会を実施した。(計2回・96人)
5月16日「臨済禅師1150年　白隠禅師250年遠諱記念　禅―心をかたちに―」(55人)
10月17日「没後150年　坂本龍馬」(41人)
・文化財修復に係わる大学院生(3人)のインターンシップ実習(8月15日～8月26日、9月5日～9月16日)を実施し、11月28日に口頭よる報告会を開催し(出席者29人)、報告書を作成した。
・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を9月2日に実施した。(参加者13人)
・国内外博物館における保存科学、修復の専門家等よる文化財保存修理所の視察を受入れ、情報交換等を行った。(計23回・127人)
5月13日　ブータン王室、Druk Foundation for Art Preservation、通訳(4人)
5月17日　中国河南博物館、奈良国立博物館(3人)
6月2日　文化庁(2人)
6月10日　ギメ東洋美術館(2人)
6月20日　シアトル美術館(3人)
7月19日　中国国家博物館(3人)他17件。
・11月22日　平成28年度京都府文化財所有者等連絡協議会研修会を国宝修理装潢師連盟と協力して開催した。

【補足事項】(4館共通)
・文化財保存修理所巡回によって、技術者から文化財の修復状況について説明を　受け、当館研究員から専門的な立場から指導・助言を行うことで双方の見識にプラスとなった。
・修理技術者に対する定例の研修会においては、実際の文化財を目にすることにより、修理技術の習得や向上に資することができた。
・文化財修復に係わる大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、修復技術の継承や今後の技術者育成を考える上でも意義は大きい。
・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会は関係教育機の間で周知がすすみ、参加校も増え、優秀な学生が参加するようになった。実際の修理現場の見学・説明といった研修を行うことで、学生の意欲や目的識の向上を図ることができた。

保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会(9月2日)

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
保存修理事業者を対象とした研修会				経				
開催回数	2回	－	－	年	4	3	2	2
参加人数	96人	－	－	変	169	140	87	126
インターン受入れ	3人	－	－	化	3	4	1	2
大学院生のための研修会参加人数	13人	－	－		29	18	19	22

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	27年度とほぼ同等の事業を遂行し、インターンの受け入れ事業を実施した。京都府文化財所有者等連絡協議会の研修会開催に協力し、所有者に対する修理事業の普及啓発活動を行った点は、初めての試みとして評価されてしかるべきであると思量する。施設見学は困難であるため、講演と出店形式でのワークショップで対応した。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業の目標を順調に達成した。京都府文化財所有者等連絡協議会研修会を開催したが、施設の構造上、一般への見学体制を組むことが困難な状況で、今後この種の一般向け普及啓発活動をどのように行うのかが課題と考えられる。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1314C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
(4館共通)
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　鳥越俊行

【実績・成果】
(4館共通)
・保存修理技術者に対する研修会を29年1月19日に開催した。
・海外の修理技術者等の視察を5回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。
5月18日：シンシナティ美術館アジア美術担当学芸員らによる視察（4名）
7月28日：ノーザンブリア大学院生の研修（1名）
10月28日：山東省文物保護修復中心職員らによる視察（7名）
29年3月16日：韓国国立羅州文化財研究所研究員らによる視察（2名）
29年3月22日：オレゴン州立美術館職員らによる視察（9名）

【補足事項】
(4館共通)
・文化財保存修理所技術者研修会
29年1月19日に文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催した。美術院代表者からの修理に関する報告（「(1) 高尾地蔵堂所蔵 木造毘沙門天立像 修理報告　(2) 美術院における図について（修理図解・実測図）　(3) 参考資料としてのデジタル画像」）及び討議を行った。（参加者51名）

修理者研修会の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	保存修理技術者に対する研修会を主催し、関係者による報告・討議を行い、修理技術等について理解を深めることができた。また、視察の回数や人数は年により増減があるが、例年並みの実施となった。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	海外修理技術者の視察等を受け入れ、文化財保存修理所の修理技術者と海外の技術者の交流を継続して行っている。また、研修会を通じて修理所内の各工房に在籍する技術者間の交流が図られた。これらの活動を通じて文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与できおり、中期計画は順調に進んでいる。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1314D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
(4館共通)
保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
(4館共通)
・保存修理事業者を対象とした研修会等を開催した。(計1回・250人参加)
・インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を行った。(計2回・27人参加)
・文化財保存、ＩＰＭ普及のための講座・研修を開催した。(計3回、合計196人参加)

【補足事項】
○保存修理事業者を対象とした研修会等
・文化財保存交流セミナー「九博バックヤード生活を終えてー基盤作りの一端に携わった 14 年ー」
講師：本田光子（学芸部特任研究員）
日程：29 年 3 月 25 日　参加人数：250 人
対象：一般

○保存修理事業者と協力した研修会
・短期インターンシップ「文化財保存修復研修」
日程：8 月 22 日～27 日（5 日間）　参加人数：4 人
対象：関西以西の大学・大学院で保存修復を学ぶ学生
・「古文書保存基礎講座」
日程：29 年 1 月 27 日、28 日　参加人数：23 人
対象：福岡県内を中心とする地域の博物館・美術館・文化財関連機関の古文書等の担当者
主催：九州国立博物館・福岡県教育委員会・筑紫野市歴史博物館
協力：国宝修理装潢師連盟

文化財保存修復研修

○IPM普及のための研修会
・「環境調査報告会」
日程：6月10日　参加人数：24人
対象：館内環境整備関係者
・「IPMセミナー・ミュージアムIPM研修」(基礎編・技術編・実践編)
IPMセミナー：10月26日、 IPM研修：10月27日、28日　参加人数：延べ172人
対象：全国の博物館、美術館等の学芸員

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
保存修理事業者対象等の研修会				経年				
開催回数	6回	－	－	変化	7	6	9	7
参加者数	473人	－	－		280	139	175	179

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	インターンの受け入れをはじめとする教育普及事業を計6回実施することができ、参加者のアンケートでも高い評価を得た。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	地元の教育委員会等と連携し、IPM従事者や修理技術者等の協力を得ながら、実習も積極的に取り入れたプログラムで実践的な研修を中期計画どおりに実施できた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1315A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
(4館共通)
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
(東京国立博物館)
ア　各種会員制度を整理し、割引の適用や新たな会員制度を導入することで、リピーターの促進や若年層の拡充を図る。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
(4館共通)
ア　会員数は29年度に開始となる新会員制度への変更に伴う駆け込み需要により、28,939人となり、27年度から大幅増となった。
イ　友の会、賛助会会員を対象に、講演会を実施した。また、賛助会会員を対象に感謝会を実施した。
ウ　マスターカードやアメリカンエキスプレスと協同でキャンペーンを行い、認知度の向上に努めた。
エ　一部特別展において、三菱商事株式会社と共催で「障がいのある方のための特別鑑賞会」を実施した。
オ　「上野文化の杜新構想」に基づき、上野全体でイベント等を実施した。国立西洋美術館の世界遺産登録に合わせ、引き続き「上野ウェルカム・パスポート」を発行した。
(東京国立博物館)
ア　29年度より会員制度の改定に向けた検討を行い、新たに「国立博物館メンバーズパス（4館共通)」及び東京国立博物館オリジナル制度「メンバーズプレミアムパス」「友の会」を導入することとなった。

【補足事項】
ア　賛助会会員数455人の内訳は個人391人（プレミアム3人、特別8人、維持380人)、団体64団体（特別19団体、維持45団体）である。

平成28年度賛助会感謝会の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
賛助会等支援組織の会員数	28,939件	−	−	経	18,471	18,439	23,899	23,451
賛助会会員数	455 件	−	−	年	332	379	414	464
友の会会員数	2,337人	−	−	変	1,570	1,586	2,145	2,041
パスポート会員数（ベーシック会員含む）	26,147人	−	−	化	16,569	16,474	21,340	20,946

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
会員制度については、27年度末の制度変更に伴う駆け込み需要もあるが、会員数は大幅増となった。賛助会は、団体会員が62団体から65団体へと微増となっている。新たな会員制度の導入による会員制度の活性化もあり、全体の支援組織の会員数は増加傾向にある。企業等と連携することで賛助会等の制度について認知度を高めるとともに、展覧会における企業との連携による事業も継続して実施することができた。「上野ウェルカム・パスポート」については好評を得ており、時事に合わせたデザインや特典を盛り込み使用率が向上している。
新たな会員制度の導入にあたっては、利用者の理解促進のため周知広報を広く行った。

【中期計画記載事項】企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
会員数は展覧会の内容などにより増減する。その中において、現状維持できていることは、中期計画において順調であるということができる。新たな会員制度を導入したことについて周知を行いさらなる会員の増加及び上位会員への移行に努めたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1315B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（4館共通）
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（京都国立博物館）
ア　支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。
イ　ミュージアムパートナー制度及び文化財保護基金制度を活用し、企業等との連携を図る。
ウ　海外を含む企業等と連携し施設を有効活用することで、博物館の認知度向上を図る。
エ　近隣の自治体をはじめとする諸団体との連携の推進を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長　植田義雄 企画室長　伊藤信二

【実績・成果】(4館共通)
ア　「パスポート」事業を継続し、リピーターの拡大に努めた。
イ　「パスポート」会員を対象とした事業を実施した。
ウ　・ＪＲ京都伊勢丹とオリジナルグッズの共同開発を行い、同社が発行する広報印刷物にてオリジナルグッズが紹介されるとともに、展示中の当館館蔵品もメインビジュアルとして掲載し当館の認知度向上につながる広報を行うことができた。
・凸版印刷株式会社と連携し、新春イベント「新春 京博こと始め2017」を開催した。
・タクシー乗務員向けの特別鑑賞会を実施し、広報協力を得ることができた。
・京都府内のホテル及び旅館等の社員向けの特別鑑賞会を実施し、広報協力を得ることができた。
エ　当館主催イベント「音燈華コンサート」及び「京都国立博物館COUNTDOWN2016→2017」の際に、共催として大和ハウス工業より協賛を受けた。
オ　開催時期にあわせ、特集陳列を開催することの検討を始めた。
（京都国立博物館）
ア　支援団体(一般社団法人清風会)が行う鑑賞会(4回)・見学会(4回)・会報(4回)の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。
イ　「ミュージアムパートナー」制度について引き続き周知を続けた結果、企業2社が新たに加わった。
ウ　企業等に対し、平成知新館を有償で貸与する等、建物の有効活用を行うことにより博物館の認知度向上を図った。
エ　近隣の美術館・博物館の諸団体等と広報活動やイベント等を実施し、連携推進を図った。

【補足事項】(4館共通)
ア　「パスポート」事業を28年度で終了することを告知するとともに、29年度より開始する「国立博物館メンバーズパス」の広報を行った。
イ　当館ミュージアムショップにおいて、「パスポート」提示により、グッズ等が10%引きで購入できる等の特典がある。
ウ　京都の飴屋「クロッシェ」制作の「トラりん手鞠」をオリジナルグッズとして開発し、12月13日より販売開始した。
（京都国立博物館）
エ・京都市内4美術館・博物館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館)で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携事業として、4館相互割引、広報のための合同パンフレットの製作、連携フォーラムやスタンプラリーなどを実施した。

トラりん手鞠　パッケージ

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
賛助会等支援組織の会員数	5,863件	－	－		3,417	2,631	6,873	7,476
清風会及びミュージアムパートナー会員数	370 件	－	－		353	336	351	368
パスポート会員数	5,493人	－	－		3,064	2,295	6,522	7,108

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	企業と共同で開発したオリジナルグッズを通じて企業が発行する広報誌に当館を紹介してもらうなど、博物館支援者増加のための新たな広報展開を行うことができた 。 パスポート会員数5,493人で、平成25年に平成知新館が開館して以来の減少となり、前年度を上回ることができなかった。　原因として、明治古都館休館に伴う平成知新館での特別展覧会開催により、特別展の前後に展示替え等のため名品ギャラリー休止期間が生じたこと、平成知新館開館による集客効果が落ち着きをみせ、入場者数そのものが前年より少なかったことが挙げられる。今後は、特集展示の魅力や夜間開館の実施等をアピールし、入会者率の増加を目指したい。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	企業や近隣の美術館及び博物館等とともにイベント等を実施し連携を深めることができた。会員制度については、新制度「国立博物館メンバーズパス」を活用しリピーターの拡大を図る必要があると考える。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1315C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
（4館共通）
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。
イ　支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。
ウ　賛助会員制度の継続・拡充を図る。
エ　地域、企業との連携を推進する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　室溪　浩

【実績・成果】
（4館共通）
ア　パスポート会員　会員数3,739人(一般3,597人、学生106人、家族36人)
イ　賛助会員を対象とした解説付き鑑賞会を実施した。
ウ　株式会社日本香堂提供のラジオ番組で、展覧会のPRを行った。
エ　他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。
オ　外国人向け冊子「ミュージアム・３DAYSフリーパス・関西」の販売を開始した。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等が主催する展覧会の解説付の鑑賞会の実施に協力した。
イ　特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。
ウ　賛助会員23団体50人(特別支援会員：4団体、特別会員：4団体、一般会員(団体)：15団体、一般会員（個人)：50人)
エ　観光関連業界と連携し顧客層の開拓を行った。

【補足事項】
（4館共通）
イ　賛助会員に対する特別鑑賞会を実施するなど、あらゆる機会を通じて会員獲得に対する努力を行った。
エ　日本香堂の寄附により作成した仏像彫刻の解説冊子『仏像を観る』（日本語版、英語版）を館内設置の修理募金への寄附者に配付した。
（奈良国立博物館）
エ　奈良の観光イベント「ライトアッププロムナード・なら2016」、「なら燈花会」、「なら瑠璃絵」に対して協力した。

「なら燈花会」

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
賛助会等支援組織の会員数	3,812件	－	－		2,554	2,668	3,235	3,665
賛助会会員数	73件	－	－		68	70	73	74
パスポート会員数	3,739人	－	－		2,486	2,598	3,162	3,591

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	新規会員の獲得に向けて積極的に取り組みを行いパスポート会員が昨年度比148名増となった。また、観光イベント「なら燈花会」の会場として参加して、地域活性化に協力するとともに夜間来館者の増加を図った。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	賛助会員を対象とした解説付き鑑賞会を実施するなど支援者の継続を図り、会員制度の広報及び募集を継続的に行った。また、29年度から開始する新たな会員制度「奈良博プレミアムカード」についても、今後、会員の獲得に向けて積極的な取り組みを行う。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1315D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
(4館共通)
企業との連携及び会員制度の活性化を図る。
ア　会員制度によるリピーターの拡大に努める。
イ　会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
ウ　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
エ　展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
オ　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。

担当部課	交流課 広報課 総務課	事業責任者	課長　吉川利幸 課長　古川晶一 課長　菅原秀倫

【実績・成果】
ア　「友の会」等の会員制度を継続して実施した。
イ　「友の会」会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展チラシ等の送付を行った。
ウ　支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。
エ　展覧会事業への企業からの協賛・協力を得た。
オ　既存のものも含め、館内表示等の多言語化対応の見直し等の検討を実施した。

【補足事項】
ア　年間パスポートについて検討した結果、29年4月からメンバーズプレミアムパスに改定することにした。それに伴い、広報を実施した。
ウ
・西日本新聞社及び（公財）九州国立博物館振興財団との共同事業として、国指定重要無形民俗文化財で28年にユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の一つとして登録された「博多祇園山笠」の飾り山を、開館以来毎年連続してエントランスに展示した。
・支援団体である九州国立博物館を愛する会及び近隣市町の小学校と連携して、子どもたちを対象にしたワークショップイベントや児童画展を開催した。
・地元の福岡女子短期大学と連携して館内のカフェで定期コンサートを実施した。

カフェコンサートの様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
賛助会等支援組織の会員数	6,016人	－	－		4,420	4,774	5,182	5,777
友の会会員数	268人	－	－		196	141	192	206
パスポート会員数	5,748人	－	－		4,224	4,633	4,990	5,571

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 特別展共催者等の申し入れもあり、友の会、パスポートの積極的な広報は控えざるを得なかったが、友の会会員数は増加した。リピーター獲得のため、29年度から開始する新しい会員制度や、友の会の特典内容について検討し、事前に告知を行うことができた。企業や支援団体との連携の下、各種イベントを実施し、博物館の認知度向上に寄与した。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 友の会会員数を大幅に増やすことができた。博物館支援者増加のために、パスポート及び友の会の会員特典について検討し、29年度から新たな特典を提供できることとなった。また、支援団体と共催でイベントを開催する等、企業及び支援団体との連携も順調に進んでいる。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1321A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
(4館共通)
ア　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。
イ　収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）を継続して公開する。

担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	博物館情報課長　田良島 哲

【実績・成果】
(4館共通)
ア　収蔵品のデジタル画像を資料館およびインターネットで公開した。
イ　収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）を継続して公開した。またiOS、Androidそれぞれのアプリ版「e国宝」を継続して公開した。

【補足事項】
(4館共通)
ア　以下のURLでインターネットに公開している画像およびテキストデータについて、非商業目的での利用条件を緩和し、一層の利用促進を図った。
http://webarchives.tnm.jp/
イ 2)各アプリ版「e国宝」の年度末時点でのダウンロード件数累計は以下の通りである。
・iOSアプリ568,173件（23年1月20日リリース）参考：26年度末時点549,902件
・Androidアプリ189,351件（25年2月6日リリース）参考：26年度末時点184,456件
○　本館19室において、「e国宝」のデータをタッチパネルで閲覧する「トーハクで国宝をさぐろう」及び三次元計測データをジェスチャーで操作する「トーハクをまわそう」をそれぞれ継続して公開した。
○　4館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase」の運用を開始した（29年3月27日）。

画像管理システム（資料館来館者向け画面）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 デジタル画像の公開については資料館、インターネットともに大きなシステム障害もなく順調である。また、利用条件の一部見直しにより一層の利用促進を図ることができた。「e国宝」についてもウェブサイト、アプリ及び本館における来館者端末での公開を継続することができた。また、「国立博物館所蔵品統合検索システムColBase」の運用を開始することができた。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 デジタル画像の公開を継続することにより、文化財に関連する情報の公開を適切に行うことができた。今後も公開を継続するとともに、公開件数を増加させていきたい。e国宝については29年度以降、利用端末等の環境の変化に対応したアプリの更新と、公開手法の見直しに着手する。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1321B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
(4館共通)
ア　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。
イ　収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）を継続して公開する。
(京都国立博物館)
ア　収蔵品の国宝・重要文化財・その他名品について6言語（日、英、中、韓、仏、西）の説明を付した国宝重要文化財・名品 高精細画像閲覧システムを継続して公開する。
イ　平成知新館レファレンスコーナーの情報閲覧システムにて、収蔵品の画像等を公開する。
ウ　デジタルサイネージや無線LAN等の情報処理技術を活用し、来館者に対する効果的な情報発信を図る。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　宮川禎一

【実績・成果】
(4館共通)
ア　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及び、公開収蔵品データベースの登録および更新を随時行い、公開情報サービスを継続して行った。
イ　収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）を継続して653件公開した。

(京都国立博物館)
ア　京都国立博物館所蔵国宝重要文化財・名品高精細画像公開システム「KNM GALLERY」を継続して公開した。
イ　収蔵品データベースにおいて画像や解説等を適宜更新し、平成知新館レファレンスコーナーの情報閲覧システムを通じ継続して公開した。
ウ　平成知新館1階エントランスホールと各階展示室前に設置されているデジタルサイネージのコンテンツを収蔵品の展示等に合わせて適宜更新したほか、有線・無線各LAN等の情報システムを通じ、来館者に対する効果的な情報　発信に努めた。

【補足事項】
(京都国立博物館)
ウ　平成知新館に設置のデジタルサイネージに、展覧会情報と展示作品の画像を表示し、来館者にとってわかりやすい情報発信を図った。

特別展覧会「没後150年 坂本龍馬」におけるデジタルサイネージ（平成知新館1階西側設置）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 平成知新館レファレンスコーナーやデジタルサイネージを通して、来館者に対する効果的な情報発信を図るとともに、京都国立博物館所蔵国宝重要文化財・名品高精細画像公開システム「KNM GALLERY」を継続して公開し、年度計画どおりに事業を実施できた。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイト等において、画像や解説を継続して公開した。　館蔵品データベースの28年度公開データを177件増加させ、中期計画どおり順調に事業を実地出来た。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1321C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
(4館共通)
ア　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。
イ　収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）を継続して公開する。
(奈良国立博物館)
ア　仏教美術情報の公開・普及を図る。
イ　「日本美術院彫刻等修理記録データベース」について、仏教美術資料研究センターでの公開と、ウェブサイト上でのテキストデータ公開を継続する。

担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長　宮崎幹子

【実績・成果】
(4館共通)
ア　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行った。
イ　収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）を継続して公開した。
(奈良国立博物館)
ア　仏教美術情報の公開・普及を図るべく、既存フィルムのデジタル化や新規撮影を行い、関連データを整備して、仏教美術資料研究センター並びにインターネットで公開した。
イ　「日本美術院彫刻等修理記録データベース」について、仏教美術資料研究センターでの公開と、ウェブサイト上でのテキストデータ公開を継続した。

【補足事項】
収蔵品並びに画像データベースの内容を充実すべく、画像・テキスト情報を逐次更新しているが、情報公開をさらに促進させて利用者へのサービスを拡充するために、収蔵品画像データの無償ダウンロードについて検討し、28年3月からこれを実施している。従来、画像データの提供は、収蔵品その他すべての画像について、特別観覧の手続きを経てDVDに焼き付けたものを郵送することで対応していた。現在のシステムでは、インターネットで公開している収蔵品・画像データベースで表示される収蔵品の画像データについて、利用者が自身でダウンロードが可能である。無償ダウンロードが可能な画像は、長辺4,000ピクセルの高解像度のもので、学術・教育目的のものであれば、課金無しで利用可能である。これにより、博物館が蓄積している高品質の情報を社会に還元する方法がさらに充実し、サービス向上に資するものとなった。

収蔵品データベース

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 デジタル撮影（4290件）、既存原板のデジタル化（3081件）、データベースへの登録件数（4936件）ともに例年に準じた成果をあげており、所期の目標を達成したといえる。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 各事業の数値が例年に準じたものとなるだけに留まらず、情報の発信についても新たな試みを実施するなど、機能・サービスの強化を図っている。今後はモノクロポジフィルムのデジタル化など残された事業を進める予定である。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1321D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　1)有形文化財に関する情報の発信

【年度計画】
（4館共通）
ア　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。
イ　収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）を継続して公開する。
（九州国立博物館）
ア　収蔵品に関する基本情報の公開活用に向けた情報整備を推進する。
イ　対馬宗家文書、装飾古墳、郷土人形データベース等の効率的な運用を検討し、実施する。
ウ　海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。

担当部課	学芸部文化財課 学芸部企画課	事業責任者	課長　冨坂　賢 課長兼文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】
（4館共通）
ア・「収蔵品ギャラリー」を全面的にリニューアルし利用者の利便性を高めた。展示情報とリンクすることで、当館の収蔵品の普及をいっそう推進した。
イ・収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）を継続して公開した。
（九州国立博物館）
ア・収蔵品ギャラリーのリニューアルに際して収蔵品情報・画像の整備を行い、収蔵品データベース上で公開活用の管理ができる体制を整えた。
イ・対馬宗家文書のデータベースは公開運用しつつ、データを一元的に管理する基盤を構築した。
・装飾古墳データベースでは現地調査を行ってきたインドネシアの装飾古墳等の成果をふまえた解説を追加した。また配信サーバの償却期間が終了したため、新規サーバを購入し、新たなコンテンツを追加して内容の充実につとめた。
・郷土人形データベースでは、新規にデータ登録を行ったほか、新たなARコンテンツとしてARマーカーにデバイスをかざすと作品情報がポップアップするようなシステムを構築した。また、データ作成等をボランティア・資料整理部と共に行った。
ウ・海外調査を含む個人研究を月1回定例で開催する研究会議で公表し、研究成果を共有するための基盤を構築した。

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア　27年度より検討・整備を重ね、9月にリニューアルした「収蔵品ギャラリー」は、①画像一覧から選択する、②メタデータを検索する、という2種類の方法から収蔵品の情報にアクセスできる。また、館内のシステムとの連動により展示予定期間も掲載されており、利用者がウェブサイト上で有益な情報を得ることに寄与している。29年度以降も引き続き、公開情報の充実を図る予定である。

装飾古墳データベース

収蔵品ギャラリー

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品に関する基本情報の公開活用に向けた情報整備として、ウェブサイト「収蔵品ギャラリー」を一新して、公開を開始した。陳列案とのリンクが達成され、収蔵品の情報提供に係る利便性が著しく向上した。装飾古墳、郷土人形データベースを拡充・充実させつつ、公開した。また対馬宗家文書データベースの構造を見直し、データを一元的に管理する作業を進めた。

【中期計画記載事項】
ウェブサイト等において文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイト「収蔵品ギャラリー」を一新して、公開を開始した。公開にあわせ、情報の充実・拡大を図るなど、中期計画の初年度として順調である。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1322A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　調査研究・教育など博物館の機能全般に関わる情報及び関係資料を収集・蓄積し、広く一般に公開する。
イ　博物館における情報資源の活用に向けて、各種資料のデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。
ウ　資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。

担当部課	学芸研究部博物館情報課	事業責任者	博物館情報課長　田良島 哲

【実績・成果】
（東京国立博物館）
ア・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、9,848件の図書および逐次刊行物の収集・整理を行った。
・画像管理システムに画像データ8,968件を登録し、既存データ2,066件の修正を行って正確な情報の提供に努めた。
・洋書12冊のデジタル撮影を行った。また昨年度図書館振興財団の助成で撮影したシーボルト旧蔵本の画像を追加し、タイトルの日本語訳をつけて「シーボルト旧蔵本デジタル・アーカイブ」において公開した。
・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続した。(入館者 4,730人)
・資料の保存のため、雑誌の合冊製本及び図書の再製本・保存箱の作成を行った。(雑誌製本 462冊、修理・箱作成52冊) また、戦前の当館刊行物173冊について、脱酸化処理を実施した。
イ・主に『MUSEUM』82冊の収録論文について、収載されている当館の所蔵品の列品番号を調査し、図書館システムの該当資料にその情報を入力した。また、当館開催の特別展(戦後分)の出品作品データベースを作成・維持した。
・『東京国立博物館資料館　調べ方ガイド 2 図書・雑誌を探す』、『東京国立博物館資料館　調べ方ガイド　3 雑誌記事・論文を探す』を作成し、資料館で配布するとともに、webで公開した。
ウ・国会図書館デジタル化資料送信サービスの提供開始に向けて資料館所蔵資料の利用についての規程類を整備した。

【補足事項】
ア・図書資料収集・整理の内訳は、新規受入図書 5,313冊、既存図書の遡及入力1,409冊、逐次刊行物の新規受入3,126冊である。別に洋雑誌1,722冊について、管理のため製本単位でのバーコード貼付と所蔵データの作成を実施した。
・毎月の新着図書・雑誌・展覧カタログについて閲覧室の新着資料コーナーに一部を展示するとともに、図書・カタログについてはそれぞれ新着資料リストを作成、公開した。
イ・5回の特別展にあわせて特別展関連図書コーナーを設置し、資料館及び展示会場インフォメーションにて関連図書リストを配布した。
・『東京国立博物館ニュース』及びライブラリーニュース（OPAC）に記事を掲載し、資料館からの情報発信に努めた。
ウ・委託業者の変更にともない、マニュアルを始め、各種記録を整備した。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	収蔵品・出品作品等の撮影、各種データの整備、図書等の収集・整理のほか、文献についての調べ方ガイドの作成や、脱酸化の事業など、公開のための基盤整備を継続して行うことができた。また、委託業者が変更になったが連絡を密に行い、定型業務を円滑に実施できた。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	情報の収集等に順調に取り組むとともに、資料利用規則の制定や、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの29年度からの実施準備など永年にわたって課題となっていた案件および新規の案件について実績をあげることができた。29年度以降、情報公開拠点としての運営方針について検討を行う。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1322B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　資料・画像・蔵書等の各研究支援データベースや研究情報ストレージについて整備を継続して実施し、資料の保守・管理や検索性を向上させる。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　宮川禎一

【実績・成果】
（京都国立博物館）
ア
・画像データ・科学調査データの増加に伴い、研究情報ストレージを構成する iSCSI ストレージプールについてファイルシステムの見直しを行い、データを一度退避・初期化し直して領域を最適化する等の各種調整を行った。また、収蔵品データベース、修復文化財・社寺調査データベース等の各研究支援データベースについて、マシンが実際に消費していた CPU やディスクの容量と、研究系仮想サーバの処理能力を分析し、仮想マシンの移行やディスク割り当ての見直し等各種調整を行った。
・平成知新館 2 階レファレンスコーナーにおいて、情報閲覧システムを通じ、来館者に対して館蔵品データの提供を継続して行った。また、平成知新館 1 階エントランスホールと各階展示室前に設置されているデジタルサイネージに展示情報を表示されることにより、来館者にとってわかりやすい情報発信を継続して行った。
・収蔵品、出品作品等の新規撮影は、5,710枚行った。
・調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書3,293冊、逐次刊行物1,614冊を収集した。

【補足事項】
・当館の展覧会出品作品の撮影は、特別展覧会「禅-心をかたちに-」(4月12日～5月22日)、「没後150年 坂本龍馬」(10月15日～11月27日)、また、平成29年4月11日開催予定の京都国立博物館開館120周年記念特別展覧会「海北友松」を対象にして進めた。
・特集陳列における図録・チラシ・ポスターを制作のため作品の撮影を行った。
・劣化が激しいフィルム保存箱を保存に適した収納箱への移し替え作業を継続して行った。
・重要度の高いマイクロフィルムのデジタル化を行った。

マイクロフィルム

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	研究情報ストレージ装置や各研究支援データベースについて見直し及び必要な調整・整備を行った。また、特別展覧会に伴う収蔵品等の新規撮影や図書資料の収集を計画的に行うことができた。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について新規図書3,293冊、逐次刊行物1,614冊を収集し、計画通りに蓄積できた。また、デジタルサイネージ等を利用してわかりやすい情報発信に努めた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1322C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（奈良国立博物館）
ア　図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。

担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長　宮崎幹子

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
ア　図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、デジタル撮影4,290件、既存原板（カラーフィルム）のデジタル化3,081件、データベースへの登録件数4,936件を行った。
　また、内外の利用者に対してサービスの充実を図るべく、仏教美術に関連する図書資料の収集を積極的に行った。（和書1,990冊、漢書23冊、洋書50冊　計2,063件）

【補足事項】
27 年に引き続き、「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業」（同実行委員会主催）への協力を行い、仏教美術資料研究センターにおいて、海外日本美術資料専門家（司書）の受け入れ、研修並びに見学を実施した。同事業では 7 ヶ国 9 都市より 9 名の専門家を招へいし、12 日間にわたって研修並びに交流事業を行っているが、そのうちの 1 日を当館での現地研修・見学にあてている。この研修・見学は、海外における美術に関わる情報の利用者の声を直接聞くことのできる貴重な機会であり、当館が運用する各種データベースに関しても積極的に質問や意見交換がなされている。この機会に得られた評価は、データベースの操作性の改善や画像の無償ダウンロードの実現などにも活かされており、今後とも情報公開のあり方に積極的に活用していきたいと考えている。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	資料の収集・蓄積、仏教美術資料研究センターの利用者ともに例年に準じた数値をあげており、所期の目標を達成しているとみなされる。また、「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業」による招へい数は7カ国9都市を数え、他国の専門家との意見交換で得られた情報は活用を図っていきたい。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	数値的に当初の目標を達成しているだけにとどまらず、海外からの研修生を受け入れるなど、情報の発信と充実に多方面から取り組んでいる。近い将来、図書資料の増加に伴い保管施設の確保などの問題に対応する必要がある。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1322D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　2)資料の収集と公開

【年度計画】
（九州国立博物館）
ア　蔵書管理システム及び画像管理システムにおけるデータベースの充実・構築に努め、内外の利用に供することを図る。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　冨坂　賢

【実績・成果】
（九州国立博物館）
ア
蔵書管理
・新規に図書753点、雑誌798点、図録・報告書2,455点を購入または受贈し、蔵書管理システム（日本事務器製ネオシリウス）に登載した。
・開館以後、受贈申込を受けていた個人からの寄贈図書を、すべて整備・登録し終えた。
（田中建夫寄贈図書11,618点（25年度）、麻生優寄贈図書14,371点（26年度）、石井進寄贈図書2,729点（28年度））
・蔵書のうち蔵書管理システムへの所蔵登録を継続し、28年度は28,813点(27年度40,470点)の所蔵情報を点検・登録した。
画像管理
・27年度より日本写真印刷コミュニケーションズ製文化財情報システムの一部として運用を開始した画像管理システムを、より業務に適した作業が行えるように改修した。
・登録した画像を収蔵品管理システムと連動させ館内業務に活用するとともに、当館Webサイトで外部へ公開した。

【補足事項】
（九州国立博物館）

蔵書管理システムトップページ

寄贈図書の配架状況

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新規に図書753点、雑誌798点、図録・報告書2,455点を購入または受贈し、蔵書管理システムに登載している蔵書データの遡及整備を着実に実施した。画像管理システムは、収蔵品管理システムと連動させつつ、Webサイト収蔵品ギャラリーのリニューアルに結びつけた。

【中期計画記載事項】
美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画初年度は、30年度を目標として、当館の蔵書データを一般公開するための基盤整備(図書データの書誌・目録整備を遂行)を推進した。画像管理システムは、Webサイト収蔵品ギャラリーのリニューアルに結びつけるため、データベースの充実に努めた。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 1323-0

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（機構本部）
ア　機構の概要、年報を作成する。
イ　機構本部ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行う。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平

【実績・成果】
（機構本部）
ア　『独立行政法人国立文化財機構概要 平成28年度』（日本語版・英語版）を28年6月に発行し、PDF 版をウェブサイトに掲載した。
　『独立行政法人国立文化財機構年報 平成27年度』を28年12月に発行し、PDF 版をウェブサイトに掲載した。
イ　機構本部ウェブサイト(http://www.nich.go.jp/)の運用を継続した。随時掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。
○当機構設立10周年を記念してロゴマークを作成した。

【補足事項】
ア　『独立行政法人国立文化財機構概要 平成 28 年度』は、日本語版と英語版を別冊子に分けて作成した。（日本語版：2,100 部、英語版カラー600 部。いずれもカラー25 ページ。）
　『独立行政法人国立文化財機構年報 平成 27 年度』：210 部、カラー4 ページ・モノクロ 1094 ページ。
イ　機構本部ウェブサイトアクセス件数：220,638件

『独立行政法人国立文化財機構
概要 平成28年度』
（日本語版・英語版）

独立行政法人国立文化財機構
ウェブサイトトップページ

独立行政法人
国立文化財機構

独立行政法人国立文化財機構
ロゴマーク

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	年度計画どおり、概要、年報を作成し、ウェブサイトの運用を行った。 また、概要の表紙等のデザインや、年報の目次の新設等、見直しと改善を行った。 機構に関する情報の提供を実施できた。

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に沿って、印刷物の作成、ウェブサイトの運用による情報提供を行うことができた。29年度以降も引き続き、自主媒体のほかロゴマークの多方面での活用等、積極的な広報に努める。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323-1A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4 館共通)
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(東京国立博物館)
　総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。
ア　広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
イ　春の「博物館でお花見を」、秋の「博物館でアジアの旅」、正月の「博物館に初もうで」を軸とした総合文化展の広報の企画・運営を行う。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	広報室長　鬼頭智美

【実績・成果】
(4館共通)
ア　年間スケジュールリーフレットを制作し(35,000部)、送付及び館内配布した。
(東京国立博物館)
ア『東京国立博物館ニュース』(隔月刊・30000部)や、総合案内パンフレット「案内と地図」(7言語8種：日151,000部、英85,000部、中(簡体字20,000部・繁体字10,000部)、韓47,000部、仏14,000部、独9,000部、西9,000部)、「展示・催し物のご案内」(35000部) を作成、配布した。また、東京国立博物館広報大使として、「トーハクくん」「ユリノキちゃん」を設定、PRチラシを作成・配布、さらに着ぐるみを作成・活用し、館内外のイベントにおいて当館をアピールした。
イ　「博物館でお花見を」、「博物館でアジアの旅」、「博物館に初もうで」、特別公開や特集「生誕百年記念　小林斗盦篆刻の軌跡―印の世界と中国書画コレクション―」などにおいて、チラシ、パンフレット、ポスターなど各種広報印刷物を作成・配布し、また当館ウェブサイト・SNSによる告知を行った。

【補足事項】
(東京国立博物館)
ア　広報大使の活動の一環として、「トーハクくん」「ユリノキちゃん」を「ゆるキャラ®グランプリ」にエントリー、ブース出展も行い、広く当館の存在をアピールした。これによりSNSでのフォロワーが増加、一般への認知度を高めた。
イ　「博物館でアジアの旅」の開始と同時に当館広報公式のインスタグラムによる情報提供を開始、JTBパブリッシングとのコラボレーションも実施し、新規利用者獲得に貢献した。また、初めて中国人向けに「WeChat」での告知を行い、訪日中国人へのアプローチを試みた。

ゆるキャラ®グランプリ(愛媛)

インスタグラムキャンペーンパネル

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	年間スケジュールリーフレット(35,000部)、『東京国立博物館ニュース』(30,000部)等を制作・配布したほか、各企画においても印刷物を作成し、新規の取組をするなどの効果的な広報の企画・運営が展開できた。

【中期計画記載事項】
　展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新規に自主媒体(着ぐるみ、インスタグラム)を取り入れるとともに、マスメディアや関係団体などとの連携を深めることで、一般来館者及び外国人、若年層など、より幅広い層にも訴求するような広報制作物及び広報展開を中期計画通りに実施できている。引き続き、新規来館者層及び訪日外国人等に向けて広報活動を展開したい。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1323-1B

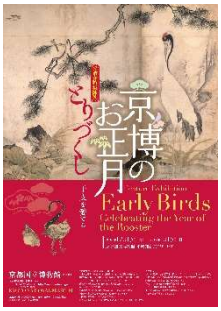
項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】(4館共通)
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(京都国立博物館)
ア　広報・宣伝制作物の企画・製作・配布等を行う。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長　植田義雄 企画室長　伊藤信二

【実績・成果】
(4館共通)
ア　年間スケジュールリーフレットの製作(45,000部)・配布を行った。
(京都国立博物館)
ア・新春特集陳列のポスター(2,000部)、チラシ(100,000部)の製作・配布を行った。
　・急遽、平常展期間中も夜間開館を実施することになったため、広報するためのポスター・チラシの製作・配布を行った。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行った。
○　PR大使として、公式キャラクター「トラりん」を活用し広報活動を行った。

【補足事項】
(4館共通)
ア　9月より夜間開館実施日が増えたため、改訂版5,000部の増刷を含む。
(京都国立博物館)
ア・新春特集陳列のポスター、チラシへは、12月～29年2月に実施した特集陳列「とりづくし」、特集陳列「生誕300年　伊藤若冲」、特集陳列「皇室の御寺　泉涌寺」、特別公開「鳥取・三佛寺の蔵王権現立像」の情報を掲載した。
　・ツイッターを利用し、展覧会の混雑情報やイベントなどの情報発信に努めた。
　・9月より名品ギャラリーにおいても夜間開館を実施することになったため、夜間開館を広報するためのポスター、フライヤーを製作した。



新春特集陳列チラシ

夜間開館ポスター

イ　博物館の活動の周知とイメージアップを図り、当館が幅広い年齢層に受け入れてもらえるよう、引き続き文化大使として俳優の藤原紀香氏を任命した。
○・トラりんのブログやツイッター、フェイスブックを活用し、展覧会や博物館の紹介を行い、さらに、トラりんの着ぐるみを館内に登場させ、来館者との記念撮影等を行うことで、従来の博物館のイメージの変化を図った。
　・トラりんを活用したPRを積極的に展開した結果、インターネットミュージアム主催「ミュージアムキャラクターアワード2016」にて、第1位を獲得することができ、博物館の認知度向上を図ることができた。
　・ゆるキャラ®グランプリ実行委員会主催「ゆるキャラグランプリ2016」にエントリーし、また、「ゆるキャラグランプリ2016 in 愛顔のえひめ」に東京国立博物館と共同ブースを出展したことにより、キャラクターを通じて幅広く博物館をPRすることができた。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】定期刊行物の作成及び年間スケジュール改訂版の増刷(5,000部)、展覧会チラシの製作・配布、そして「Twitter」の活用にて、質・量ともに充分かつ時機を得た発信を行うことができた。また、当初想定外の夜間開館に対しても、ポスター製作等により広報を実施した。更には、公式キャラクターを活用した発信、イベントの出演等で当館に馴染みのない層へのＰＲが充分にできた。以上、年度計画を上回る成果を達成することができた。

【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】28年度は伊藤若冲が生誕300年でもあり関心が高まっているため、新春特集陳列のポスター・チラシにおいてメインビジュアルとなるよう製作し、誘客へつなげるよう積極的な広報を行った。また、当館ウェブサイト上の公式ツイッターにて展覧会情報や混雑情報を発信すること、当館公式キャラクターを用いた発信をすることなど、中期計画初年度として自主媒体の活用を順調に行った。29年度も自主媒体を活用し、積極的に広報を行っていきたい。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1323-1C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（4 館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（奈良国立博物館）
ア　広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
イ　文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。
ウ　写真・映像の撮影等に場所を提供し、協力することにより博物館の認知度を高める。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　室溪　浩

【実績・成果】
（4館共通）
ア　年間スケジュールのリーフレットの制作・配布及びウェブサイトからのダウンロードサービスを実施した。

（奈良国立博物館）
ア　それぞれの展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、及び印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を、6回実施した。
イ　笑い飯哲夫氏（よしもとクリエイティブ・エージェンシー）を文化大使に任命し、広報活動の一環として29年3月12日に「奈良国立博物館文化大使　笑い飯哲夫のおもしろ仏教講座」を開催し、140名の参加があった。
ウ　当館の認知度を高めるために、NHK奈良放送局制作のニュース番組の撮影に当館敷地を提供したり、トヨタ自動車ＷＥＢメディア用のスチル撮影場所になら仏像館外観を提供した。

【補足事項】

年間スケジュール　リーフレット（左：表面、右：中面）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	27年度に引き続き、笑い飯哲夫氏を文化大使に任命し広報活動を行う等、博物館の情報を発信することができた。また、当館の認知度を高めるため、メディアに対して、当館敷地を撮影場所として12件提供した。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画のとおり個々の企画の目的、内容等を踏まえた各種広報活動を計画的に実施することができた。特に、外国人観光客の取り込みを図るために今年度より新たにフランス語版の常設展チラシを作成した。今後は、更に広報・宣伝制作物の計画的な作成を図る。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1323-1D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
（4 館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（九州国立博物館）
ア　特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。
イ　現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。
ウ　文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るため、ポスター・チラシ・ウェブコンテンツの活用を一層促進する。
エ　アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信を継続する。

担当部課	学芸部企画課 広報課	事業責任者	課長兼文化交流展室長　河野一隆 課長　古川晶一

【実績・成果】
（4館共通）ア
年間スケジュールリーフレット「九州国立博物館 展示スケジュールのご案内」の制作・配布を行った。(50,000部)
（九州国立博物館）
ア　特別展のポスター、チラシなどの対象者や地域を考慮した広報・宣伝材料を制作し、情報発信に努めた。
イ　過去の特別展やトピック展示などの情報を整備した。また、当館ホームページでは「収蔵品ギャラリー」と年間展示計画とを連動させるようシステムを更新した。いつ来たら作品が見られるかを示すことによって、文化交流展室への誘客促進を図った。
ウ　文化交流展示室の積極的な情報発信を図るため、ポスター・チラシ・ウェブコンテンツの活用のほか、ツイッターによる展示替え情報の発信、アクセストンネルへのバナー掲出、正月企画の告知、テレビCMの放映を実施した。
エ　アンテナショップ入口に特別展バナーを設置し、太宰府天満宮参道客への展覧会PRを図った。

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア・ポスター、ちらし、「展示・イベントスケジュール」の設置など太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。
・商工団体へ「展示・イベント案内ちらし」を毎月、『季刊情報誌アジアージュ』を年4回送付し、会員等への周知を依頼した。
・商業施設（ＪＲ博多シティ）と協力して、ワークショップを開催するとともに広報活動を展開した。
ウ・正月企画の展示・イベント告知のためCMを製作し、テレビ放映による告知を行った。
エ・トピック展の告知強化のため太宰府観光協会と協力し、参道バナー掲出に取り組んだ。

ウ）正月ＣＭの一コマ

エ）参道へのバナー掲出の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
リーフレット、ポスター・チラシなどの制作や活用を行うほか、28年度は年始の集客増に向けたＣＭ制作や、ツイッターによる展示替え情報の細かな発信など新たな取組みも行い、来館者増に努めた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
中期計画のとおり、企画の目的や内容等を考慮し、広報を実施することができた。特に28年度においては、地域・年齢層などのターゲティングを行った上で情報発信の媒体を新たに開拓し、効果的な広報を行うことができた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323-2A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
(4館共通)
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
(東京国立博物館)
ア　主要メディアの文化担当記者との懇談会を開催し、マスコミとの連携を強化する。
イ　上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部広報室	事業責任者	総務課長　竹之内 勝典 広報室長　鬼頭 智美

【実績・成果】
(4館共通)
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。
(東京国立博物館)
ア　プレスリリースの適時発行、特別展・総合文化展特集などの記者発表会・報道内覧会の開催を通じ、主要メディアの文化担当記者との連絡を密にし、連携を強化した。
イ　上野「文化の杜」新構想実行委員会において、『TOKYO数寄フェス』を開催した。また、夜間イベントやトークセッション、地域との連携交流事業等を実施した。

【補足事項】
(4館共通)
ア　青月社「はにわ」(9月刊行) で考古展示室の埴輪を紹介、刊行記念イベント〈9/1　於：新宿ロフトプラスワン〉の際、広報大使トーハクくんが出演、一般の方が収蔵品への親近感を高めるようつとめた。
(東京国立博物館)
ア　特別展に加え、特別公開「新発見！天正遣欧少年使節 伊東マンショの肖像」(5月16日)、特集「生誕百年記念　小林斗盦　篆刻の軌跡」(10月31日)など、総合文化展内の企画においても報道内覧会を実施、新聞主要紙・美術系番組制作者等に適時性を持って情報を提供、総合文化展としては多くの出席者を得た。

「小林斗盦　篆刻の軌跡」報道内覧会（10月31日）

「はにわ」刊行イベント（9月1日）

イ　『TOKYO数寄フェス』(10月21日～23日) のうち、21日は特別に夜間開館を実施し、イベント全体での延べ参加者数は313,000人であった。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 当館の収蔵品の普及に資する単行本発刊にあたっての対応、主要マスコミへの掲載・番組を通じての広報活動により、当館および収蔵品を一般に効果的にアピールできた。懇談会については、28年度は、特別展が急きょ追加で開催されるなど、あまりに特別展・特集とそれに伴う記者発表会・報道内覧会が続いたため、別途懇談会を設ける時機がなかったため、29年度より効果的に実施することとしたが目的は達成しており順調に進めている。　上野「文化の杜」新構想実行委員会においても各施設と連携して効果的な事業をした。

【中期計画記載事項】
(略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり広報印刷物・動画サイトや新規ツールも含めたSNS運営などの実施により、一般及びメディア媒体への認知度は年々着実に浸透力を高めている。今後も自主媒体により時機にかなった話題を提供し、積極的な広報活動を展開する。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1323-2B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】(4館共通) ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
(京都国立博物館) ア　地域等が主催する各種の委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。
イ　京都市内４美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長　植田義雄 企画室長　伊藤信二

【実績・成果】(4館共通)
ア・特集陳列「丹後の仏教美術」においては科学機器を用いた調査により判明した新知見と、特別展覧会「坂本龍馬」では作品調査中に確認できた重要な作品に関する記者発表を行った。
・特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」においては5月に東京にて記者発表会を共催社と連携して行い、首都圏のマスメディアへの訴求及び集客増を狙った。
・29年度が当館の開館120周年であること及び29年度開催予定の特別展覧会、28年冬の特集陳列の記者発表を11月7日(於：東京)、12月12日(於：京都)において行った。
・グーグルが推進する「Google Arts & Culture」に参加し、11月1日に公開した。
(京都国立博物館)
ア　周辺寺社及び商店街等で構成される東山南部地域活性化委員会に参加し、11月18日～20日に開催された同委員会主催の「第3回太閤祭り」(於：豊国神社) に協力した。
イ　京都市内4美術館・博物館で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力として、合同パンフレットを作成した。

【補足事項】(4館共通)
ア・11月7日　開館120周年記念記者発表会(東京都中央区八重洲　ベルサール八重洲)　出席人数78人
・12月12日　開館120周年記念記者発表会(当館講堂)　出席人数64人
・「Google Arts & Culture」上において、当館が所蔵する国宝や重要文化財など120件についての画像200点が閲覧可能となった。また、高精細の画像のため、細部までの鑑賞が可能である。なお、公開日当日に本サービスへ参加することの記者発表を行った。
(京都国立博物館)
ア　当館の敷地の一部を同行事の本部事務局ブースとして貸与した。また、特別展覧会「没後150年 坂本龍馬」において「第3回太閤まつり」のチラシを持参した場合には、団体割引料金を適用した。

11月7日　記者発表風景

「Google Arts & Culture」記者発表

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 29年度の記者発表を2回行ったことやグーグルが推進する「Google Arts & Culture」に参加するなど、様々な媒体と連携した広報活動が充分に実施できた。また、周辺地域の委員会への参加や京都市内4館連携協力協議会への連携協力など、立地に適した連携協力を充分に行うことができた。

【中期計画記載事項】
(略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 マスメディアとの連携強化のための開館120周年記念記者発表を2回行うことやグーグルとの連携協力など、今後の広報展開の広がりに寄与する取組を行うことができた。近隣施設とも引き続き連携強化を行い、京都という立地を生かした広報を展開していきたい。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1323-2C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
(4 館共通)
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
(奈良国立博物館)
ア　「奈良トライアングルミュージアムズ」(奈良国立博物館、奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館) での連携により、集客増に繋がる広報活動を展開する。
イ　展覧会、博物館活動への理解・促進を図るため、マスコミへの情報提供を行うとともに取材を積極的に受け入れる。
ウ　タクシーやホテル等利用者への広報を図るため、関係業界に対し特別展の説明会・内覧会を実施する。
エ　地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。
オ　近隣社寺等において展覧会チラシの配布など広報協力を依頼する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　室溪　浩

【実績・成果】
(4館共通)
ア　公共交通機関とタイアップし社内吊り広告や駅貼ポスターの掲出を行い、展覧会に関する情報発信を行った。
(奈良国立博物館)
ア　奈良トライアングルミュージアムズ(奈良国立博物館・奈良県立美術館・入江泰吉記念奈良市写真美術館)として、11月に奈良国立博物館にてワークショップ、12月に奈良まほろば館にて東京セミナーを実施した。
イ　プレス向けの内覧会を、特別展で3回、特別陳列で2回、その他で2回開催したほか、個別の取材依頼にも積極的に応じた。
ウ　特別展では、タクシー･ホテル等関係者に対する内覧会を実施、タクシー･ホテル等の利用者への広報活動を行った。
エ　奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良市観光協会との連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。
オ　周辺関係社寺等と連携し、特別展等の割引特典付きチラシ配布を行った。

【補足事項】
(奈良国立博物館)
オ　・冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」について、期間限定の無料観覧券(※名品展も無料)を、春日大社において配付し、おん祭展の広報と館の認知度アップに繋げた。
・特別陳列「お水取り」について、期間限定の無料観覧券(※名品展も無料)を、東大寺において配付し、お水取り展の広報と館の認知度アップに繋げた。

「お水取り」無料観覧券

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	特別展においては主催者であるマスメディアと協力して情報発信に努め、また、公共交通機関とタイアップして広報活動を行うことができた。また、特別展等の割引特典付きチラシを配付する等、近隣社寺と連携して広報を行うことができた。

【中期計画記載事項】
(略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	自主媒体を活用した情報発信、公共交通機関とタイアップした広告の掲出、近隣施設と連携した特別展等の割引特典付きチラシの配付等、中期計画どおり順調に広報活動ができており、今後も引き続き積極的な広報を行っていく。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1323-2D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動

【年度計画】
（4 館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
（九州国立博物館）
ア　地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。
イ　九州観光推進機構などを通じた海外への広報・営業活動を展開する。
ウ　近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　古川晶一 課長　菅原秀倫

【実績・成果】
（4館共通）
ア　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。
（九州国立博物館）
ア　地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開した。
イ　九州観光推進機構などを通じた海外への広報・営業活動を展開した。
ウ　近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図った。

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア・特別展セットチケットの販売に併せ、西日本鉄道（電車・バス）構内等でのポスターの掲出、チラシの配架など、公共交通機関と相互協力を行った広報を展開した。
・ＪＲ博多駅へサイネージ広告の掲出を行った。
・商業施設（ＪＲ博多シティ）と協力して、ワークショップを開催するとともに広報活動を展開した。
・マスコミ各社を対象とする懇談会を実施した。
・ポスター、ちらし、「展示・イベントスケジュール」の設置など太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。
・商工団体へ「展示・イベント案内ちらし」（毎月）、『季刊情報誌アジアージュ』（年4回）を送付し、会員等への周知を依頼した。
イ・福岡県が運営するポップカルチャー配信サイト「アジアンビート」のウェブサイトに博物館情報を掲載した。
・九州観光推進機構のウェブサイトに博物館情報を掲載し、アジアへ情報を発信した。
ウ・太宰府天満宮参道においてトピック展及び博物館の告知バナーを掲出し、展覧会情報の周知を図った。

ＪＲ博多シティでのイベントの様子

アジアンビートへの博物館情報掲載（6 月 6 日）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ポスター・チラシなどの制作や活用を行うほか、27年度に引き続き主要公共交通機関の施設内においてイベントを実施し、博物館を認知していない客層への周知活動、来館者増に努めた。太宰府天満宮参道等の周辺地域にも定期的にチラシを配架し、広報活動の充実を図った。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画のとおり、広報印刷物やウェブサイト等を活用し、近隣施設や団体と協力して広報を実施することができた。28年度はツイッターによる広報を開始し、新たに若年層に向けた情報発信を行うことができた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323-3A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（4館共通）
ア　ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。（年6回）
イ　ウェブサイトでは、ブログや投票などの博物館の顔が見えるコンテンツ及びユーザ参加型のコンテンツを継続して発信する。
ウ　SNS（ツイッター、フェイスブック）による情報発信を継続して行う。

担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸企画部広報室	事業責任者	博物館情報課長　田良島 哲 広報室長　鬼頭 智美

【実績・成果】
ア　ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。ウェブサイトはデザインを一部リニューアルし、利便性を高めるとともに、スマートフォン対応を強化、ウェブサイトのアクセス件数が向上した。
イ　メールマガジンを配信した（23回）。
（東京国立博物館）
ア　『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行った。（年6回）
イ　・「1089ブログ」により、情報発信を行った。（更新数92回）
　　・「投票」など、読者参加型のコンテンツで、展示や文化財についての興味喚起を図った。
ウ　ツイッター、フェイスブックに加え、画像コンテンツを主としたインスタグラムによる情報発信を開始、よりタイムリーな情報提供とともに、ことに若年層へのアプローチを強化した。

【補足事項】
（4館共通）
（東京国立博物館）
・「1089ブログ」では、特別展に関することだけでなく、総合文化展の見どころや特集について、画像もふんだんに使用し楽しくわかりやすい内容を提供した。
・ツイッターフォロワー50,141件、(27年度34,243件)、フェイスブックいいね！19,292件（27年度10,331件）27年度より着実に数を伸ばしている。また、8月30日開始以来インスタグラムではフォロワー数1000件を越え、29年度はさらに多くのフォロワー獲得が期待される。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化※2		24	25	26	27
ウェブサイトのアクセス件数※1	6,433,867件	5,380,118件	B		①	－	3,783,745	4,929,191	7,427,419
					②	2,982,729	2,898,885	4,248,437	6,724,460

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	年度計画記載の事項を実施し、ウェブサイトのアクセス数は550万件を超え目標値を上回っている。その内容の充実やSNSの活用により、東京国立博物館のより積極的なPRに寄与した。特にツイッターの活用により、一定数以上の固定ファンを獲得し、ツイッターのフォロワー数は50,141件となっている。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
　ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画どおり、博物館ニュースウェブサイトなど自主媒体および各種ソーシャルメディアの活用により、当館の認知度を向上し、一般への博物館とその収蔵品を効果的に広報することができた。29年度以降も時機に合った話題の提供により、ことに若年層への働きかけを行いたい。

※1　28年度実績は、本体サイト及び研究情報アーカイブズのアクセス件数。
※2　上段①の数値は、本体サイト及び研究情報アーカイブズのアクセス件数。下段②の数値は、本体サイトのみのアクセス件数。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1323-3B

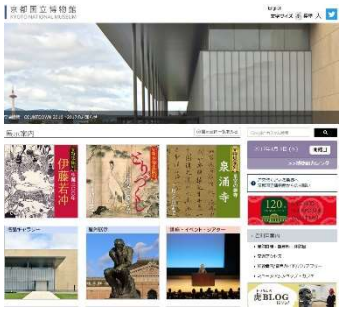
中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（4館共通）
ア　ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』、『Newsletter』（英文）の編集・発行・配布を行う。（年4回）
イ　博物館ディクショナリーを発行し、新刊をメールマガジンにて配信する。
ウ　収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　伊藤信二

【実績・成果】
（4館共通）
ア　ウェブサイトアクセス件数は3,334,335件であり目標値を達成した。
イ　メールマガジンを12回配信した。（121～132号）
（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』（190～193号）、『Newsletter』（129号～132号）の発行を行った。
イ　博物館ディクショナリー（188～197号）を発行し、新刊をメールマガジンにて配信した。
ウ　館蔵品・寄託品の貸与情報をウェブサイトにて公開した。

【補足事項】
（4館共通）
ア　ウェブサイトアクセス件数向上のため、ウェブサイトトップページのレイアウトに修正を加え、特集陳列等の情報を目立たせるようにした。また、開館120周年記念事業を紹介するウェブページを作成し、12月28日より公開した。



ウェブサイトトップページ

開館120周年記念事業ページ

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
ウェブサイトのアクセス件数	3,334,335件	2,274,464件	A		1,837,113	1,562,480	2,964,705	3,172,381

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	ウェブサイトアクセス件数は目標値を達成し、メールマガジンの配信及び『京都国立博物館だより』等計画通り実施できた。また、問合せの多い特集陳列の情報をトップページへわかりやすく掲載することなど、適宜改善を図ることができており、充分な成果である。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	ウェブサイトアクセス件数が目標値を達成することができた。また、時宜的なニーズに応じるため、ウェブサイトのトップページのレイアウトを変更するなど、中期計画初年度として順調に進捗することができた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1323-3C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（4 館共通）
ア　ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（奈良国立博物館）
ア　特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。（年 4 回）
イ　ウェブサイトの外国語版の充実を図る。
ウ　季刊誌『奈良国立博物館だより』の PDF 版をウェブサイトに掲載する。
エ　英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	情報サービス室長　岩井共二

【実績・成果】
（4館共通）
ア　特別展や公開講座の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイトを更新し、最新の情報提供を行った。なお、ページビュー数などの利用状況を考慮の上、モバイルサイトについては閉鎖することとなった。
イ　特別展・名品展やイベント情報など、館の活動に関する情報をメールマガジン（毎月1回計11回）のほか、公式ツイッターを使って発信し、より迅速かつ効率的な広報を行った。
（奈良国立博物館）
ア　名品展や特別展の紹介に加え、展覧会情報、イベント情報等を掲載した季刊誌『奈良国立博物館だより』を4回発行。配布を行った。
イ　英文サイトに加え、フランス語・中国語・韓国語によるなら仏像館の案内をウェブサイト上に掲載した。
ウ　『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載した。
エ　特別展では英文チラシを作成、外国人観光客向けの情報発信を行った。

【補足事項】
（4館共通）
イ　公式ツイッターのフォロワー数は、28年度中に12,000件を超えており、27年度より1．5倍程度の増加となった。
（奈良国立博物館）
エ　生誕800年記念特別展　「忍性　―救済に捧げた生涯―」に関連した動画の英語版、中国語版を作成し、Youtube上に公開した。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
ウェブサイトのアクセス件数	1,167,926件	953,946件	A		845,202	893,553	1,196,669	1,112,057

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	27年度に引き続き、ウェブサイト及び広報刊行物を通じて広く情報提供を行うことができた。なお、モバイルサイトについては、利用状況の低さから閉鎖となったが、ツイッターフォロワーが1．5倍、ウェブサイトアクセス件数についても27年度と同程度の件数を維持することができており、順調に目標を達成していると言える。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	公式ツイッターによる情報提供については、フォロワーが順調に増加している。また、特別展に関連した外国人観光客誘致事業についても一定の成果を上げることができた。他の広報媒体も順調に成果を上げており、中期計画を順調に遂行できている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1323-3D

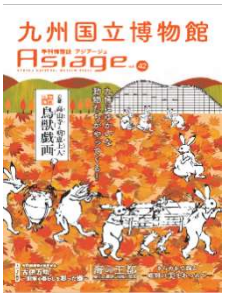
中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実　3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
（4 館共通）
ア　ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。
イ　メールマガジンを配信する。
（九州国立博物館）
ア　ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。
イ　『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』の編集・発行・配布を行う。（年 4 回）
ウ　太宰府市と連携し、スマートフォンに対応した文化情報発信サイトにより情報発信を行う。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　古川晶一 課長　菅原秀倫

【実績・成果】
（4館共通）
ア　ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。
イ　メールマガジンを配信した。（毎月2回、年24回）
（九州国立博物館）
ア・ウェブサイトにて文化交流展示室の展示スケジュール等を掲載した。
　・8月より当館アカウントによるツイッターを開始し、展示情報等のこまめな情報発信を行った。
イ　九州国立博物館季刊情報誌『アジアージュ』を発行した。（年4回）
ウ　スマートフォン向け情報ガイド「太宰府市イベントガイド」で展覧会情報等を発信した。

【補足事項】
（4館共通）
ア　・駐車場の混雑や対策のため、ウェブサイト、ツイッターにて駐車場空き情報を継続して提供した。
　・ウェブサイト利用者からの意見に「九博メール」で対応した。
イ　・読者投稿紹介を行うなど双方向型とした。
　・メールマガジン登録数（5,690件、3月31日現在）は毎月平均50人ずつ増えており、また、平均開封率が10%前後といわれている中、約40%と高水準を維持している。



季刊情報誌『アジアージュ』

ツイッターでの情報配信の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
ウェブサイトのアクセス件数	2,117,092件	1,696,500件	A		2,078,279	1,209,272	1,827,152	2,217,391

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	ウェブサイトのアクセス件数は目標値を大幅に上回った。ツイッターを開始したことにより、混雑が予想される展覧会でリアルタイムに待ち時間を案内することできた。その他、ウェブサイトのアクセス数、メルマガ登録数の増加及び開封率も高い状態を保っており、利用者に対するウェブサイトやメルマガの効果は実感できた。

【中期計画記載事項】
（略）広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、（中略）等により、積極的な広報を行う。
　ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に記載のとおり積極的な広報活動を順調に行った。特にツイッターは18～24歳のフォロワー層が27%（3月31日現在）で一番高く、新たに若年層に向けた広報につながった。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A1-1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　a.特別調査「法隆寺献納宝物」（第 38 次）（(4)－①－1）

【事業概要】

東京国立博物館では、法隆寺献納宝物について、昭和 54 年より、法隆寺献納宝物の調査を館内及び館外の専門研究者とともに共同で行ってきた。本事業は全ての研究者に対して、画像や概要など研究のための情報を提供することを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　田沢裕賀

【主な成果】

(1)前年に引き続き、古今目録抄の調査を実施し、報告書を刊行した。

・古今目録抄（聖徳太子伝私記）の翻刻のための調査を行った（8 月 31 日～9 月 2 日、12 月 1 日）
（客員研究員・奈良大学文学部教授　東野治之）
報告書：『法隆寺献納宝物特別調査概報 37　古今目録抄３』を刊行した。

(2)通年にわたって法隆寺献納宝物の染織品調査および法隆寺宝物館保管の上代裂について調査を行い、本格修理のための事前準備をすることができた。
法隆寺宝物館で保管する上代裂のうち、「I-337-37 赤地花弁文蔼纐平絹」（正倉院伝来）ほか 16 件について調査を行い、これに基づいて本格修理を行った。

「I-337-37 赤地花弁文蔼纐平絹」修理前

修理後

【備考】

(1) 古今目録抄（聖徳太子伝私記）調査日数　4 日
報告書：『法隆寺献納宝物特別調査概報 37　古今目録抄３』(29 年 3 月 31 日発行)
(2) 染織品調査「I-337-37 赤地花弁文蔼纐平絹」（正倉院伝来）ほか調査件数 16 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	法隆献納宝物の各種作品に関して、継続的な調査を実施することができた。また、古今目録抄については、計画どおり概報を刊行できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	法隆寺献納宝物の絵画、書跡、金工の各種作品を様々な観点から調査し、得られた新たな知見を概報刊行等により継続的に公表するなど、中期計画に沿った取組を順調に進めている。

【書式B/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A1-2

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　b.特別調査「書跡」第14回　((4)－①－1)

【事業概要】

当館の収蔵品・寄託品の中で、奈良時代から江戸時代におよぶ書跡・典籍、古文書などを調査する。その成果は、総合文化展の展示や目録の刊行等によって公開しており、図版目録として『日本書跡篇和様 I』、『古写経篇』などを刊行している。28 年度は、当館の収蔵する古写経の調査が一段落したことで、古写経を多く収蔵する奈良国立博物館の収蔵品のなかから関連する作品などを調査の対象とした。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　髙橋裕次

【主な成果】

(1) 調査概要

古写経は名称、制作年代、形状、寸法、奥書等、出典、料紙などの調査を行った。いずれも奈良時代 8 世紀の写経であり、当館が収蔵する古写経と関連が深い作品が多く含まれていた。今回は、23 件の古写経を対象に調査を行った。

(2) 調査の成果

まず国宝の紫紙金字金光明最勝王経 10 巻を手分けして調査した。当館では、奈良時代の紫紙金字経は収蔵しておらず、藍紙の金光明最勝王経の断簡が数点あるのみである。奈良時代の紫紙金字経の優品として位置づけられるもので、繊維を細かく裁断し、さらによく叩解していることが確認された。また金字の表面を丁寧に磨いている点は、他に見られない特徴であるといえる。なお、紫紙金字金光明最勝王経の他、10 件ほどの調査を実施できた。今後も調査を継続することで、当館の収蔵品との関連を明らかにし、研究を進めて、展示・公開の向上に寄与する予定である。

【備考】

調査件数:古写経 11 件
調査日数: 1 日間
調査人員: 6 名(東京国立博物館、奈良国立博物館、奈良文化財研究所)
調書作成: 23 枚

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	各機関の同じ専門分野の研究者が集まることで、最新の研究成果を反映させた知見を共有し、議論を深めることができた。今後の研究の推進及び展示・公開に寄与するところが大きい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、計画どおり作品調査を実施することにより、研究を推進し、展示・公開の向上に寄与するという所期の目標に向けて順調に推移している。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A1-3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　c.特別調査「工芸」第８回（(4)－①－1）

【事業概要】

東京国立博物館における文化財のうち、金工・陶磁・漆工・染織・刀剣・甲冑等工芸分野の特別調査。独立行政法人国立文化財機構の国立博物館３館及び文化庁・東京文化財研究所の工芸担当者が集まり、同じ専門分野の研究者が同時に作品調査を行う。複数の専門家の目で同時に同じ作品を調査することにより、精度の高い成果が得られる。また各機関の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有できる。今後の研究の進展や、展示内容の向上に結びつけることを目的とする。なお、担当研究員の体調や他業務を鑑み、28 年度は陶磁・染織の調査会を行うこととなった。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉

【主な成果】

(1) 陶磁（10 月 28 日（金）　1 日間）

九州国立博物館にて、同館が保管する文化庁所蔵の日本・中国陶磁及び同館所蔵の日本・中国陶磁を調査し、3 館（東京国立博物館・京都国立博物館・九州国立博物館）が所蔵する作品の相互活用に関する調整・意見交換を行った。その結果、来年度の特別展「茶の湯」に関連する特集陳列「懐石の器」に展示・公開するための有益な調査ができた。調査点数は 1 日間でおよそ 10 点余り。参加者は、降矢哲男研究員（京博）、酒井田千明アソシエイトフェロー（九博）、今井敦主任文化財調査官（文化庁）、三笠景子主任研究員、横山梓研究員（以上、当館）　以上 5 名。

陶磁調査風景（10 月 28 日）

(2) 染織（9 月 14 日（水）、15 日（木）　2 日間）

当館において保管されていた法隆寺献納宝物のうち、近年になり修理候補となった袍と裳について調査を行い、当館に保管されるほかの上代裂との同定作業及び修理方針について意見交換を行った。その結果、当館所蔵の上代裂との同定ができ、修理方針が明確になった。調査点数は 2 日間で 13 点。参加者は山川曉教育室長（京博）、田中陽子技官（宮内庁正倉院事務所）、小笠原小枝客員研究員、澤田むつ代客員研究員、土屋裕子保存修復室長、小山弓弦葉工芸室長、三田覚之研究員、四戸菜穂非常勤職員（以上、当館）　以上 8 名。

(3) 染織（3 月 23 日（木）、24 日（金）　2 日間）

東京国立博物館には、大倉集古館が所蔵する能装束・能道具が 217 件寄託されている。その多くは江戸時代中期から江戸時代後期の製作で、一部、安土桃山時代から江戸時代初期のものも含まれている。備前藩池田家がかつて所蔵していた大名家の能装束として資料価値の高いこれらの資料の悉皆調査を 27 年度より 3 ヵ年行うこととした。2 回目にあたる今年度については、2 日間で摺箔 6 領、縫箔 8 領、舞衣 5 領、計 19 領を調査した。本調査により、備前藩池田家の能装束の形態が明らかとなり、大名家における能の実態について知見を得た。参加者は、共立女子大学教授・田中淑江氏（当館客員研究員）、大倉集古館学芸員・三島和美氏、東京文化財研究所・菊池理予氏、当館工芸室長・小山弓弦葉、同研究員・三田覚之、同非常勤職員・四戸菜穂　以上 6 名

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	各機関の陶磁・染織の専門分野の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有し、議論を深めることができた。今後の研究推進及び展示公開に寄与するところが大きい。また分野ごとに分かれて作品調査を実施するため効率性も高く、相当数の作品を調査することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	文化庁・および九州国立博物館が所蔵する陶磁の各種作品を様々な観点から調査した。また、平成27年度に寄託を受けた大倉集古館所蔵の能装束調査を通して、大名家における能装束の実態についてさまざまな知見を得た。それらの調査成果を工芸史研究ならびに当館の展示に反映させるべく、中期計画の「収蔵品・寄託品をはじめとする文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究」に沿った調査を実施することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A1-4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　d.特別調査「彫刻」第６回（(4)－①－1）

【事業概要】

寺等所蔵の仏像や彫刻作品を調査し、研究報告や論文活動に結びつけ、あるいは寄託増加、特別展等の企画につなげて文化財の活用を図るものである。28 年度は、特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」出陳作品に対する樹種分析の実施、同「禅―心をかたちに―」出陳作品の調査などをとおして、参加者同士で積極的に意見交換を行い、さらなる活用の道を探った。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	企画課長　浅見龍介

【主な成果】

(1) 展覧会に関連して次のとおり調査を行なった。

8 月 22 日　京都・大報恩寺本尊釈迦如来坐像及び四天柱、仏後壁絵画の調査　調査参加人数 4 名

11 月 7 日　櫟野寺仏像の樹種について森林総合研究所、成城大学岩佐光晴氏との共同調査　調査参加人数 9 名

11 月 28 日　京都・鹿王院十大弟子立像の撮影及び調査　調査参加人数 4 名

11 月 29 日　神奈川・建長寺伽藍神像の撮影及び調査　調査参加人数 4 名

(2) 大報恩寺では、釈迦如来像等の状態を確認し、29 年度に本格的な事前調査を行う目途がついた。特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」に展示中の滋賀・櫟野寺の仏像については、森林総合研究所等と共同で調査を行い、作品の多くがヒノキであり、一部にカヤが含まれていることが判明した。これは 10 世紀ごろの用材観を知る上で大変貴重なデータとなる。また、特別展「禅」に展示中の鹿王院や建長寺所蔵作品についても新規撮影及び調査を実施し、その造形や構造から中世における中国・宋代美術の受容を具体的に示す知見が得られた。

(3) 研究成果は、今後の展示計画に活かすとともに、論文や書籍の執筆において随時発表していく予定である。櫟野寺の調査報告については、新規撮影された画像とともに 29 年度中に当館発行の『MUSEUM』誌にて公開したい。

東京国立博物館・特別展「平安の秘仏」会場での調査風景

【備考】

調査回数：4 回
研究会回数：1 回
調査参加者数：延べ 21 名
調査作品数：48 点

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」や「禅―心をかたちに―」等の特別展にともない、出陳作品の新規撮影や科学分析を含む実地調査が行えたことは、現地での調査が困難な場合が多いなかで、大変有意義であったといえる。また、研究成果もおおむね公開の目途がついた。なお、大報恩寺での調査は、今後の本格調査を踏まえて特別展実施に向けて検討する準備ができた。これにより、おおむね所期の目的は達成できたと思われる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	調査研究活動の成果の多様な方法による公開という計画に沿った調査を実施できた。成果の公開は、29年度以降、当館発行の『MUSEUM』誌での報告や、展覧会の企画等において行いたい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1411A1-5

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　e.特別調査「絵画」第１回（(4)－①－1）

【事業概要】
館蔵品及び寄託品を中心とした絵画作品の調査研究。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　田沢裕賀

【主な成果】
東京国立博物館の所蔵品及び寄託品を中心とした絵画作品を、年度ごとにテーマを設けて調査研究を進めるプロジェクトの初年度にあたる。
28 年度は 29 年 1 月より東京国立博物館で開催される特別展「春日大社　千年の至宝」にあわせ、神道の信仰に基づく作品を対象に、「垂迹画の調査研究」をテーマとした。調査は 9 月 7 日（水）、8 日（木）の 2 日間、東京国立博物館本館会議室で実施し、次のメンバーが参加した。田沢裕賀、沖松健次郎、土屋貴裕（東京国立博物館）、大原嘉豊、井並林太郎（京都国立博物館）、谷口耕生、北澤菜月（奈良国立博物館）。
調査の対象とした垂迹画は、春日信仰に基づく「春日宮曼荼羅」、「春日鹿曼荼羅」、山王信仰に基づく「日吉山王本地仏曼荼羅」、熊野信仰に基づく「熊野曼荼羅」といった絵画作品のほか、「春日宮曼荼羅彩絵舎利厨子」などの漆工作品など、約 30 件となった。
調査の結果、従来の制作年代に関して再検討を要する作品などが確認されるとともに、箱書や極から伝来に関して新たな知見を得ることができた。
これらの成果は、特別展「春日大社　千年の至宝」図録解説、図録各論等に反映することができた。また、制作年代に関する新知見に関しては、館蔵品及び寄託品の鎌倉～室町時代仏画の研究に今後生かすことができるものとして期待される。

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	28年度のプロジェクトは、特別展の開催に合わせ、館蔵品及び寄託品の調査研究を深めたと言う点で時宜にかなったものであると言える。従来、仏画の研究に比べ、垂迹画の研究が十分為されてきたとはいいがたく、今回の研究を実施した意義は大きい。調査の結果、従来の制作年代に関して再検討を要する作品などが確認されるとともに、箱書や極から伝来に関して新たな知見を得るなどの成果があった。今後は、本研究の成果を核として、垂迹画の研究そのものの深化はもとより、仏画や説話画の調査研究にも視野を広げ、進めていきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	本研究プロジェクトは、東京国立博物館の所蔵品及び寄託品を中心とした絵画作品を、年度ごとにテーマを設けて調査研究を進めるものである。28年度は特別展にあわせ「垂迹画の調査研究」をテーマとしたが、29年度以降も特別展、もしくは総合文化展の特集展示に関する基礎研究を継続して進めていくための第一回目の調査研究としては大変実りあるものであった。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　油彩画の材料・技法に関する共同調査（(4)－①－1）

【事業概要】

本研究は東京芸術大学との共同研究で 20 年度から開始し、続行している。東京国立博物所蔵の油彩画約 150 件の中から、明治期を中心とした作品を調査対象としている。東京藝術大学大学院油画保存修復研究室は、これまで大学所蔵の明治期油彩画について、調査研究を続け、多数の成果を公表している。本共同調査の目的は、高精細デジタルカメラを使用した顕微鏡写真、普通光写真、赤外線写真、紫外線蛍光写真、透過デジタルＸ線写真、蛍光Ｘ線分析などの科学的調査を通し、当館所蔵の油彩画に使用された材料と技術に関するデータ構築を行ない、これまで東京藝術大学が集積したデータと比較を可能にすることである。それによって、今後我が国に初期油彩画の技法的解明、あるいは歴史的解明が一層進展するものと考える。

【担当部課】	学芸研究部保存修復課	【プロジェクト責任者】	保存修復室長　土屋裕子

【主な成果】

(1)①A-11691 原撫松筆「モンタギュ夫人像」、② A-11787 原撫松筆「老人」、③A-11788 原撫松筆「画家ヘンリーの像」のＸ線透過撮影、蛍光Ｘ線分析、調書作成、③については、普通光、側光、紫外線、赤外線写真についても撮影を終了した。

(2)原撫松の作品の表面には光沢のあるワニスが塗布されており、調査の結果、天然樹脂であるマスチックワニスであることが推定できた。

(3)③については、下層に別の絵が描かれていることも判明し、今後、原撫松のモデルなどについての調査も含め、学術的研究も進むと期待できる。光学調査を基にした作品のデータおよび新知見などの所見は、今後『MUSEUM』で発表の予定。

高精細デジタルによる撮影

透過Ｘ線撮影

状態調査の様子

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	28年度も昨年同様に作業を進めたため、評価をＢとした。平成29年には館内での蛍光Ｘ線分析も含めて少なくとも月に1度の調査スケジュールを組みたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	一連の調査によって、次第に東京藝術大学の同時期の作品群および多感が収蔵する作品との比較研究が可能になってきている。特にＸ線透過画像、デジタル顕微鏡画像などの詳細なデータの比較により、作品の特性のみならず、歴史的関係性などについても新たな検討が可能となる。また、作品の高精細画像は、展示の際に使用するパネル、『MUSEUM』の原稿などにも利用され、次第に活用する機会も増えた。課題となるのは、調査回数と公開である。業務の間にうまく取り入れ、調査を進めるのはもとより、結果を積極的に公開、活用する必要がある。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1411A3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査（(4)－①－1）

【事業概要】
東京国立博物館所蔵の平安時代を中心とした、作品自体の本質に細部の繊細な表現が重要な要素となっている仏教絵画を対象として、東京文化財研究所の有する高精度のデジタル撮影技術によって撮影し、現在可能な最高レベルの画像を形成する。作品研究の深化と作品保護に資することが期待できる。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　田沢裕賀

【主な成果】
(1) 調査概要
29 年 2 月 23 日に
A-11796 重文　准胝観音像　1 幅　絹本着色　平安時代　12 世紀　についてカラー画像撮影、
A-1　　国宝　普賢菩薩像　1 幅　絹本着色　平安時代　12 世紀　のカラー分割撮影を行った。

(2) 調査の結果得られた知見
29 年 3 月 31 日現在、データを整理中のため、今後検討する。

(3) 調査研究の成果
データ整備中だが、今回の撮影により、東京国立博物館所蔵の平安仏画のカラー高精細画像をすべて撮影することができた。

准胝観音像の調査風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	当初予定の撮影は順調に終えることができたことで、赤外線撮影や蛍光画像、蛍光X線分析など29年度以降、新たに共同研究としてより充実させた計画を立ち上げる準備をすることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
A	前中期計画期間を継承し、当初予定通り主要な作品の調査を実施し、画像を整備することができた。画像の公開・活用方法については今後の検討事項であるが、肉眼観察を超えた情報を記録できる高精度画像は、脆弱で貴重な文化財の巻き広げによる負担を少なくするための基礎情報として有効活用が期待できる。 また、カラー画像が順調に整備できたため、それらの検討成果をもとにしながら、29年度以降の計画として、近赤外線画像、蛍光画像、蛍光Ｘ線画分析など、可能な限りの光学的調査を実施する計画を立てた。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1411A4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ　館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究（(4)－①－1）

【事業概要】
東京国立博物館が所蔵する漢籍、洋書に関する基礎データを調査し、画像情報を公開する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	博物館情報課長　田良島 哲

【主な成果】

東京国立博物館が所蔵する漢籍・洋書に関する書誌学的調査である。対象としたのは、安政 6 年（1859）にドイツ人医師シーボルトが再来日したときに携えてきた洋書及び滞留中に収集した洋書である。明治 2 年（1869）に長子アレキサンダー・シーボルトが外務省に寄贈した後、同 17 年（1884）に農商務省博物館の所管となり、現在に至ったもので、約 300 冊を数える。西欧の日本に対する深い関心が知られる内容のものが少なくない。
貴重図書として保管されてきたこれら洋書類の調査をもとに 26、27 年度に公益財団法人図書館振興財団の助成を受けて画像データベースを作成し、一部の書籍については全頁の公開を開始した。

28 年度はシーボルト献納本について、引き続き図書類のデジタル画像の作成を継続するとともに、既に作成した画像を当館研究情報アーカイブズ上で公開した。

実績値

“Manual of the botany of the Northern United States”1856　他計 12 冊の高精細デジタル画像を作成。
平成 27 年度までに画像作成済の洋書 92 冊の全頁を当館研究情報アーカイブズ上で公開。

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	27年度までの助成金がなく、館費のみでの対応であったため、画像作成件数は少なかったが、調査成果の公開を着実に継続した。他の類品のない資料であるので、成果の公開は学術的な意義が大きい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
C	成果公開の意義は大きいが、データ作成等のための予算が十分に確保できていないため、公開の進捗は十分とは言えない。科研費等の資金獲得を図る必要がある。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A5

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	オ　東洋民族資料に関する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
東京国立博物館が所蔵する約 3500 件の東洋民族列品を対象として調査研究を行い、展示を充実させる。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	出版企画室主任研究員　猪熊兼樹

【主な成果】
（1）東京国立博物館の他、南山大学・天理参考館・早稲田大学において南太平洋及び台湾の民族資料に関する調査を行った。
・東京国立博物館が所蔵する東洋民族列品のうち、特に南太平洋民族資料（南洋資料）の整理に資する知見を得た。
・東京国立博物館が所蔵する南洋資料の管理や活用に資する知見を得た。
（2）調査によって得られた知見は、平成館企画展示室における特集「南太平洋の生活文化」に反映させた。

南山大学人類学博物館の展示風景

特集「南太平洋の生活文化」の展示風景

【備考】
館外調査：南山大学（8 月 24 日）、天理参考館（8 月 25 日）、早稲田大学（10 月 20 日）
特集：「南太平洋の生活文化」（11 月 15 日～12 月 23 日　平成館 企画展示室）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	・27年度のパプアニューギニアにおける現地調査に引き続き、28年度は国内の他機関の調査を行うことで、東洋民族列品のうち南太平洋民族資料（南洋資料）に関する基礎的な情報を充実させた。 ・国内の他機関における南洋資料の保存管理や展示活用に関する有意義な情報を得ることができた。今後も引き続き情報交換を行う関係が構築できた。 ・国内において十分に周知されているとは言い難い南太平洋の生活文化を一般に紹介することを試みた。ギャラリートークによって南洋資料を来館者に紹介することで、今回の展示の手応えや今後の展示の構想を得ることができた。 ・29年度以降も当館所蔵品をはじめとする国内外の東洋民族資料の関連資料の調査に取り組みたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	・従来ほとんど展示活用されていなかった東洋民族列品については、東洋館リニューアル以降、東洋館13室の「アジアの民族文化」に展示活用されて、展示内容が着実に充実してきている。 ・東洋館13室「アジアの民族文化」の展示に活用されて列品情報の整備が進捗したことを踏まえて、28年度は平成館企画展示室において南洋資料の特集展示を試みた。これによって東京国立博物館の南洋資料の概観を公開することができた。 ・29年度以降も引き続き、これまでの調査研究を通じて得た知見や交流に基づき、更なる調査研究を重ねて南洋資料の平常展示や特集を工夫していく。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A6-1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	カ　a.特集「藤原行成の書　その流行と伝称」に関連する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】

特集「藤原行成の書　その流行と伝称」に関連する調査研究

28年8月23日～10月2日に開催した特集「藤原行成の書　その流行と伝称」の展示を充実させるための調査研究。平安時代に能書として活躍し「三跡」と称された藤原行成の直筆作品と、その行成の書の流行と受容を適切に示すために、展示作品や関連資料の調査によって、展示手法、展示構成の検討を行う。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員 恵美千鶴子

【主な成果】

(1)作品調査

5月23日：個人よりお預りした藤原行成の書2点の調査を実施した。

5月26～27日：行成紙手鑑、龍華樹院額ほか伝藤原行成筆の書や関連資料を調査した。

6月16日：伝藤原行成筆「和泉式部続集」の調査と附属する極札の調査をした。

(2)成果とその公開

・展示内容を示すために、平常展調整室協力の下、各題箋に内容を示す札をつけ、画像等パネルを作成した。
・出版企画室協力の下、図録『藤原行成の書　その流行と伝称』を作成し、販売した。
・広報室協力の下、トーハクブログ「藤原行成の書」を公開した（8月26日）。
・教育講座室協力の下、ギャラリートーク「三跡・藤原行成の書」を行った（8月30日）。

展示風景

展示内容を示すために題箋に札をつけた

展示図録

【備考】

調査日数：4日間、図録：1冊作成、成果の公開（ブログ、ギャラリートーク）：2件

関連論文：1件予定（恵美千鶴子「尊経閣文庫所蔵『無題号記録』の書写年代について」、田島公編『禁裏・公家文庫研究』第6輯、思文閣出版、29年4月刊行予定）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
A	展示計画の段階より、効率的に作品調査を実施することができた。作品調査の実績があったため、現存数10点に満たない藤原行成の直筆作品2点を所蔵者から借用できた。展示手法・展示の面でも、平常展調整室の協力により、展示内容をわかりやすくするための札や画像パネル等が充実し、広報室や出版企画室の協力により、成果の公開を速やかに行ったため、当初の目標を上回る成果を得ることができたといえる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
A	特集「藤原行成の書　その流行と伝称」に関連する調査研究は、プロジェクト責任者の27年度までの研究成果を生かしたもので、実績をさらに蓄積することができた。平常展調整室ほか各担当の協力もあり、展示構成や展示内容を小札や画像パネルで補うことにより、適切にわかりやすく示した。そのため展示図録の売り上げもよく、増刷することができた。本調査研究の成果は、29年度以降の総合文化展「宮廷の美術」等でも活用する予定であり、『東京国立博物館紀要』に研究論文としてまとめる予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A6-2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	カ　b.特集「上海博物館との競演」に関連する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
上海博物館が所蔵する工芸品及び仏像の名品 55 件を借用し、東洋館の展示を充実する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課東洋室長　富田淳

【主な成果】
上海博物館が所蔵する工芸品及び仏像の名品 55 件（陶磁器 12 件、染織品 17 件、青銅器 10 件、仏像 8 件、家具 8 件）を借用し、東洋館の諸室で活用することで展示を充実させた。
・東洋館において特集「上海博物館との競演」を行い、東洋館の展示を補完的に充実させた（継続中）。
・東洋館において恒例企画「博物館でアジアの旅」を行い、東洋館の展示に対する関心を促した。

上海博物館での事前調査

東京国立博物館東洋館での展示

【備考】
特集「上海博物館との競演」（4 月 12 日～29 年 2 月 26 日）
企画「博物館でアジアの旅」（8 月 30 日～10 月 23 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	・近年の恒例企画「博物館でアジアの旅」に、特集「上海博物館との競演」の展示を組み込んで、「アジ旅」ツアーを充実させるため上海博物館の所蔵品の調査を行った。 ・上海博物館が所蔵する工芸品および仏像の調査を行い、東京国立博物館が所蔵していない類型の作品を選定し、「上海博物館との競演」というテーマの下に両館の所蔵品を並べて展示することで、東洋館の展示を補完的に充実させることができた。 ・上海博物館からの借用に先立つ事前調査が十分にできたので、効果的な展示を行う作品を選定することができた。29年度以降も企画「博物館でアジアの旅」などを念頭において、効果的な展示に向けた調査研究に取り組みたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	・長年の交流がある上海博物館の協力を得て東京国立博物館の展示を充実することができ、またこのたびの企画を通じて両館の関係者が相互に信頼関係を深めることができて、今後の両館の活動にとって一層の発展が期待できるものとなった。 ・東洋館リニューアル以降、東洋館関係の展示や企画に関する工夫が重ねられており、「博物館でアジアの旅」などの企画が定着してきた。28年度の同企画においては、特集を関連させることで企画の内容の選択肢を開拓した。 ・29年度以降も引き続き、上海博物館をはじめとする友好機関との協力的な調査研究活動を継続し、相互にとって有意義な活動を展開していく。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A6-3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	カ　c.特集「親と子のギャラリー　美術のうら側探検隊」に関連する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
ファミリー向け展示企画「美術のうら側探検隊」を実施し、来館者の鑑賞体験を深める教育的展示について調査・研究を行った。

【担当部課】	学芸企画部博物館教育課	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長　小林牧

【主な成果】
1) 新しい視点の提供や能動的な鑑賞体験の提供によって、来館者の鑑賞体験を深めることを目指した教育展示、親と子のギャラリー「美術のうら側探検隊」（本館特別２室、７月５日～８月 28 日）を実施した。
2) 小学生高学年・中学生とその保護者を対象とした親しみやすい展示デザインについての研究を行った。「うら側を見る」というコンセプトを体現するキャラクター「ウラミルくん」を設定。探検隊風の衣装と虫眼鏡によって、堅苦しい美術鑑賞のイメージを払拭し、親しみやすい雰囲気作りを目指した。サイン、パネル、ワークシートにおいて、「ウラミルくん」のイラストを多用したデザインを展開し、パネルの形状も吹き出し型にするなどの工夫を施した。
3) 普段は展示室で見せることのない展示の「うら側」を展示するために、透明アクリルや鏡を多用した展示具・展示台の開発を行った。
4) 能動的な鑑賞体験を目指し、床に設置してのぞき込むようにした展示ケース、内部に光をあてる懐中電灯、手に取って楽しめるレプリカなどの鑑賞ツールを開発・設置した。
5) 鑑賞体験を形にできるワークシートを制作、会場で配布した。
6) 普段は入ることのできない博物館の保存修復の現場や館長室など「うら側」をめぐるツアーを実施した。

懐中電灯を用いて埴輪の中を見る展示

鏡で仏像のうらを見る展示

【備考】
来場者数：152,548 人（本館入館者数）
アンケート：展示全体　とても面白かった、面白かった　85 パーセント
解説のわかりやすさ　とてもわかりやすい、わかりやすい　80 パーセント

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応
B	展示室では、懐中電灯やレプリカなどを手にとってみる鑑賞者が多く、アンケート結果も好評で、記述式回答でもいままで見られなかった裏側を見ることによって、「興味が深まった」、「わかりやすかった」という感想を数多くいただいた。能動的な鑑賞体験が鑑賞や理解を深める一助となっていることは確認できた。一方で、鑑賞ツールの使い方の説明や展示・照明など、まだ工夫の余地はあり、29年度以降の課題としたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	本特集は、来館者の鑑賞体験を深めるための教育的展示の在り方についての調査・研究のための好事例となった。29年度以降も、新たな展示テーマを設定しつつ、よりよい教育的展示についての調査・研究を深めたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A6-4

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	カ　d.特集「ドレッサーの贈り物―明治にやってきた欧米のやきものとガラス」に関連する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
明治期に収蔵されたヨーロッパ・アメリカの陶磁器及びガラスの展示、紹介

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課東洋室主任研究員　三笠景子

【主な成果】
・文久４年（1864）に来日したイギリスのデザイナー、クリストファー・ドレッサーが博物館に運んできた欧米の陶磁器、ガラス及びドレッサーに影響を受けて博物館に寄贈されたアメリカのガラス工芸作家、カムフォート・ティファニーのガラス作品のうち、主だった 48 件をとりあげて展示した。
・ガラスに対する適格な修理方法を検討してきた中で、これまで長期にわたり展示公開ができなかった白色ガラスを、28 年に、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー野中昭美と陶磁器修復たま工房の北野珠子氏によって修理、クリーニングし、安全に展示公開することが可能となった。
・明治期に収集された収蔵品のヨーロッパ製磁器のなかにも、日本へ海運にてもたらされた段階もしくは戦争などで破損や汚損を被っていたため、近年展示できなかったものがあったが、それらについても明治期に収集された貴重な一群として展示公開に供するため、適切な処置を施し、展示することができた。
・今回の展示において、列品記載簿に明治時代、とくに博覧会事務局から引き継いだとされる列品について、収蔵年月の誤記や収蔵の経緯について不明な表現が認められ、混乱があったことがうかがえ、改めて収蔵時の履歴がわからないものが存在することがわかった。

クリーニング処置を施した G-1567 白色ガラス切子文瓶（画像左）と
G-1564 切子厚手籠目文瓶（画像右）

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	博物館には草創期にあたる明治時代に、欧米と政府との政治的なやりとりのなかでもたらされた列品が収蔵されている。しかし、近年の展示体系においてはそれらを公開する機会は極めて少なく、実態は局所的にしか知られていない。その意味で、欧米の陶磁器、ガラスの列品の網羅的調査を試みた今回の企画、展示は意義深いものと考える。 一方で、調査を進めたなかで、改めて収蔵時の履歴がわからないものが数点あることが判明した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	欧米の陶磁器、ガラスの列品の実態を把握することができ、また展示に供するために適した処置を行うことができた。ただし、明治期においてそれらがいつ、どのような経緯で収蔵されたのか、という情報について改めて整理する必要があり、今後の課題としたい。また、今回展示する機会がなかったものについては、今回同様特集のテーマで新しい文脈から展示公開する機会を設けて、29年度以降も展示できるように努めたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A6-5

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	カ　e.特集「歌仙絵」に関連する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
総合文化展の特集「歌仙絵」開催に関して、事前調査と出品作品の検討を行った。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課平常展調整室主任研究員 土屋貴裕

【主な成果】
(1) 作品調査
・6 月 9 日　都内で個人所蔵の歌仙絵関連作品の調査
・7 月 28 日　大阪市立美術館で歌仙絵関連作品の調査
・8 月 4、5、15 日　東京国立博物館で歌仙絵模本作品の調査
27 年度実施した調査の知見とともに、これらの調査の成果は下記の図録、展示解説等に反映することができた。
(2) 展示作品総数：53 件（うち、7 件が外部借用）
(3) 図録の刊行：96 ページ。コラム 3 件、論文 1 件、作品解説 53 件収録
(4) ギャラリートーク：1 件

展示風景（左：本館特別 1 室、右：本館特別 2 室）

【備考】
(1) 作品調査：3 件
(2) 展示作品総数：53 件
(3) 図録の刊行：96 ページ。コラム 3 件、論文 1 件、作品解説 53 件収録
(4) ギャラリートーク：1 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	本展開催が承認された27年度から、文化庁、京都国立博物館、九州国立博物館、大倉集古館など、出品予定の所蔵先と出品交渉を行い、事前調査を行っていたため、28年の集荷、輸送、図録解説等の執筆、展示に関して継続的かつ順調に進めることができた。歌仙絵は個人所蔵のものも多く、これだけ点数の多い展観を実施しえたことは文化財の公開という点からも大いに評価できるものと思われる。あわせて、今回出版した図録は当館の中世歌仙絵を網羅した図版目録的な役割も期待して発行したもので、今後の内外研究者の調査研究の発展にもつながる要素として評価されるだろう。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	本展は東京国立博物館所蔵の中世歌仙絵を中心とした展観で、これまで継続的に行ってきた館内作品の調査研究の成果に基づくものである。特に多くの絵巻模本の調査研究の成果を展示に盛り込めたことは特筆される。とくに東京国立博物館所蔵の歌仙絵模本の調査を精力的に進めたが、これらは従来展示等に活用されておらず、列品の有効的な活用という点からも、十分な成果を上げたと言える。これらの調査研究を踏まえ、次年度以降の総合文化展での展示解説などにその成果を生かしていく。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A6-6

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	カ　f.特集「生誕百年記念　小林斗盦　篆刻の軌跡」に関連する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
篆刻で初めて文化勲章を受章した小林斗盦の業績を伝えるため、代表的な作品を選定するとともに、効果的な展示手法や、分かりやすい展示構成を検討する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸研究部長　富田淳

【主な成果】
・小林斗盦の篆刻を 4 期に分け、各期における代表作を選定した。
・小林斗盦の篆刻の特質を最も良く引き出すための、印材・印影の展示手法を検討した。
・小林斗盦と古典との影響関係を理解するために最適な資料となる甲骨文・青銅器・封泥・漢印などを選定した。
・収蔵家としての側面を伝える古銅印・近人印・印譜・中国書跡・中国絵画などの旧蔵品を選定した。
・当時の文墨界の交流の諸相を示すため、小林斗盦が政界・芸苑・文壇などに刻した印を選定した。
・上記の調査をふまえ「古典との対峙」・「作風の軌跡」・「篆刻コレクション」・「制作の風景」・「中国書画コレクション」・「翰墨の縁」の 6 部からなる会場構成とした。

中国絵画の調査

代表作の調査

【備考】

・特集「生誕百年記念　小林斗盦　篆刻の軌跡」（東洋館 8 室、11 月 1 日～12 月 23 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	事前調査によって、早年から晩年に至る作風の変遷や各期の特質に関する知見を深めることができた。また、「方寸の世界」とよばれる篆刻の小さな印材や印影を効果的に展示する手法を検討し、展示に反映させることができた。小林斗盦の業績に多方面から光を当てることで、篆刻に対する理解を深めるとともに、東洋美術への親しみを促進させることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	江戸から続く篆刻の旧派に反発し本格的な中国の作風を取り入れ、研究と実作の双方において斯界の第一人者となった小林斗盦に焦点をあてることで、この100年における日本文化と東アジア文化との影響関係の一斑を示すことができた。今後は清時代の末に流行した書画の日本に対する影響という文脈の中で、さらに具体的かつ詳細な状況を探っていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A6-7

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	カ　g.特集「掛袱紗―祝う心を模様にたくす」に関連する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
12 月 20 日～29 年 2 月 19 日まで東京国立博物館本館 14 室で開催される特集「掛袱紗―祝う心を模様にたくす」の開催にあたり、当館に所蔵される江戸時代の掛袱紗をすべて調査し、その染織技法や素材についての歴史的考察を行った。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉

【主な成果】
(1) 調査概要
・27 年度に行った東京国立博物館所蔵の掛袱紗調査（28 年 2 月 2 日実施）をもとに、その染織技法や素材に関して考察し、制作年代や用途についての見解を明らかにした。
・調査した 37 件の掛袱紗のうち、特集陳列のテーマにふさわしい作品を 23 件選び、その保存状態や展示方法についてさらに詳しい調査を行い、来館者に理解されやすい展示方法について検討した（8 月～10 月）。

(2) 調査の結果得られた知見
・掛袱紗に刺繍で華やかな吉祥模様が施されるようになったのは、江戸時代前期の終わり頃、武家階級においてである。江戸時代中期以降は裕福な町人の間にも広まり、日本における染織技術の発達に伴って、江戸時代後期には様々な吉祥模様の掛袱紗が製作された。調査の結果、当館に所蔵される掛袱紗は、江戸時代後期、18 世紀末から 19 世紀前半の武家及び町方のものであることが分かった。
・調査の結果、これまで袱紗として登録されていた所蔵品のうち 2 件（列品番号 I-3790、I-98-3）は、実際には打敷であったことが判明した。また「裂」として登録されていた所蔵品 1 件（列品番号 I-2759）が、裏地が欠失し裏打された掛袱紗であったことが判明した。

(3) 調査研究の成果
・調査結果をもとに特集陳列用のリーフレット（A4 判・4 ページ）を作成した。（画像①）
・調査の成果を反映し、12 月 20 日～29 年 2 月 19 日まで東京国立博物館本館 14 室で開催される特集「掛袱紗―祝う心を模様にたくす」を開催した。（画像②）

画像①　リーフレット

画像②　展示風景

【備考】
調査日数：2 日　調査件数：37 件　関連展覧会：1 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	・従来、まとまって展示する機会がなかった掛袱紗の特集陳列を企画することにより、東京国立博物館に所蔵される掛袱紗を網羅的に調査することができた。 ・東京国立博物館に所蔵される掛袱紗を特集陳列することにより、江戸時代後期の掛袱紗を初めて公開し、広く一般に知られる機会を得た。 ・染織文化財は衣服の形態であることが一般的であるが、年中行事や吉事といった日々の生活の中で使用される染織文化財の存在や、そこに現われる卓越した日本の染織技術を明らかにした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	・博物館の「展示・公開」という事業に即して、これまで公開する機会のなかった文化財を調査・研究し、これまで収蔵庫で保管されたままであった収蔵品を展示によって活用できたことは大きな成果である。 ・29年度以降も、収蔵品の有効な活用に向けた調査・研究を目標に計画的に事業を進め、展示や論文といった形で社会や学会に貢献できるような事業を進めたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A6-8

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	カ　h.特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」に関連する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
東京国立博物館が手がける文化財保存と修理の役割と成果をわかりやすく広く一般に紹介するため、近年解体を含む根本的な修理を終えた作品を修理過程で得られた情報とともに展示公開し、理解を促進する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　髙橋　裕次

【主な成果】
（1）調査概要
28 年度は近年本格修理を行なった作品のほかに、応急修理を行なうことにより取り扱いや保存上の安全性が向上した作品や、鑑賞性が向上して展示活用が可能となった作品を対象として、一般の理解向上につながる作品の選定、処置内容とその説明について調査と検討を行なった。

（2）調査の結果得られた知見
対象としたのは、本格修理の場合、修理後十分な期間を置いて状態が安定したことが確認できた、27 年 9 月 30 日から 28 年 3 月 31 日までに修理が完了した作品とし、応急修理は当館アソシエイトフェロー（修理技術者）が処置を行なった絵画作品と立体作品とした。とくに「享保雛」（列品番号 I-1579）は、古い修理によって烏帽子の取付が不可能となっていた作品を、担当研究員とアソシエイトフェローの緊密な連携と適切な処置によって、安定して美しく展示できるようになったもので（『おひなさまと日本の人形』東京国立博物館セレクション、2016 年 2 月 20 日、P10-11）、27 年から始まった当館内での立体作品応急修理事業の一代表例として示すことができるものである。

（3）調査研究の成果
本格修理完了品として重要文化財「放犢図」や明治 18 年に沖縄県から一括して購入した陶磁器など 14 件、対症修理完了品として肉筆浮世絵、神像など 4 件、計 18 件を展示した。会期中、一般向けにバックヤードツアー、ギャラリートークを行ない、多くの参加者が熱心に鑑賞、聴講した。

ギャラリートークの様子

【備考】
展示
・特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」平成館企画展示室、29 年 3 月 22 日～4 月 16 日、展示作品件数 18 件。
教育普及事業
・バックヤードツアー　29 年 3 月 23 日（木）、参加者 60 名。
・ギャラリートーク　29 年 3 月 24 日（金）参加者 45 名、3 月 28 日（火）参加者 103 名、4 月 11 日（火）参加者 59 名、4 月 14 日（金）参加者 68 名、計 4 回参加者のべ 275 名。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	当課ではより専門的な内容を含む詳細の報告を別途『東京国立博物館文化財修理報告』を刊行しており、一般向けの平易な展示として特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」を毎年年度末に行なっている（28年度で17回目）。毎回作品は変化するが、より明確な展示のテーマ性や見栄えが課題である。本年は実際に処置を行なう当館アソシエイトフェローの活動と「応急修理」を前面に出すことによって来館者と修理技術者の親近性を高めることができ、理解促進につなげることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	当館における装こう修理のフェロー採用が28年度で一旦終了し、今回の展示はその節目として応急修理の成果を展示とギャラリートークで紹介した。これらフェローによる本格修理は28年度3月末完了品もあり、来年度以降の特集に展示する見込みである。保存修復課の活動と成果が本特集によって臨場感を持って来館者に伝わり、文化財保存に関する興味関心と理解の向上へつながるよう、毎年新しい視点で鑑賞できるテーマを設け、事業を展開する。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1411A7-1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　（ア）中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】
本研究は日本における古代中世の大画面説話画の中でも、画題として比較的早い時期から成立し、多く描かれた主題のひとつである聖徳太子絵伝について、現存諸作品の詳細な調査に基づき、社会的・文化的・宗教的な動向や、他の説話画制作の状況も踏まえた上で、どのように図様が展開したのかを明らかにしようとするものであり、あわせてデジタル画像による最新版の画像資料データベースを作成することを目指している。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 沖松健次郎

【主な成果】
（1）調査概要
根津美術館所蔵作品等の肉眼による観察と、デジタル高精細撮影および赤外線撮影を行った。
（2）調査の結果得られた知見
根津美術館本の現状見えている図様の下にある別の図柄の存在と、それが太子の 4 番目の妃といわれる芹積み姫にかかわる何らかの場面を描いたものでないかと推測される知見を得た。
（3）調査研究の成果
現在まで蓄積している画像で、各作品の場面について、特に従来不明確であった場面の再検討と整理を行い、より妥当性の高い分類を行った。
太子事蹟と作品との対応一覧についても、データベースとしての検索の便を考慮して、項目をより細分化したものを作成した。

【備考】
科学研究費助成事業の 5 年計画の 5 年目
関連の発表
沖松健次郎
「絵画による仏事空間の荘厳に関する考察―延久元年本聖徳太子絵伝を起点として」　4 月 23 日（土）
筑波大学芸術学美術史学会

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
C	科学研究費助成事業5年計画の5年目である28年度は、残りの調査を実施するとともに、今までのまとめとして画像資料データベースの完成をしなければいけないが、29年3月31日時点では、調査が一部しか実施できていないため、当初計画より遅れている。それに伴い、データベースの作成もずれ込んでいる。しかし、事蹟との対応一覧表は、従来触れられていなかった場面なども比定し分類整理を進めたことから今後の活用上、有効なものを作成できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。5ヵ年の期間において、作品が修理中であったり、調査予定先の都合で日程が合わなかったり、当初予定より調査を実施できた箇所は少なくなってしまったが、事蹟ごとの場面の分類整理は、従来知られていたものよりもより深めることができ、対応一覧も整備することができた。 公開については掲載許可などのクリアするべき課題もいくつかあるが、今後の太子絵伝、説話画などの各分野において基礎資料としての有効に活用されることが期待できる。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　（イ）能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究（科学研究費助成事業） （(4)－①－1）

【事業概要】
能狂言面の造形に注目して調査を行い、制作年代、作家等の推定を可能にする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	企画課長　浅見龍介

【主な成果】
5 月 29,30 日　静岡・佐野美術館調査
6 月 25 日　福井・永平寺予備調査
7 月 1,4,7 日　ＣＴ調査
8 月 2,5,30,31 日　ＣＴ調査
10 月 20,21 日　愛知・魚町能楽保存会調査
10 月 30,31 日　福井・永平寺調査
12 月 10,11 日　石川県立美術館、金沢能楽美術館
29 年 1 月 27～29 日　愛媛・東雲神社調査

（1）佐野美術館の「中将」は金春家の本面だった可能性があることを発見。「山姥」も金春本面の可能性はあるが、面裏の粗い刳りは硬い木に由来すると思われるのにヒノキ材であることから出来の良い写しの可能性もある。
（2）魚町の面により、今所在の知られない金春本面の造形が推定できた。
（3）永平寺承陽殿安置の道元禅師坐像が出目（幾斎）の作であることが確認できた。面打の家系による彫像の作例である。
（4）ＣＴ調査により、面の樹種の推定、木取り、構造、修復の様子などの情報を得ることができた。
特に大天神（C－1534）は木心を込めた木から作り、額に節があること、頭部端の従来鋸引きされたと見られてきた部分は、横木の別材を矧ぐことがわかった。
小面（C－1537）は一材から作っているが、正中で意図的に割り離したか、割れたものを矧いだことがわかった。その理由は今後の検討課題である。
（5）調査をもとに総合文化展において 29 年 1 月 31 日～3 月 26 日に特集「奈良・金春家伝来の能面・能装束」を開催した。

【備考】
科学研究費助成事業の 3 年計画の 3 年目

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
A	科学研究費助成事業3年計画の最終年度である28年度は、特別展の準備及び撤収のため、9月、11月に調査を実施できなかったが、その他は着実に進めることができた。特にＸ線ＣＴ調査によって目視による観察では見えない情報を得ることができたことは特筆すべきである。また、特集「金春家伝来の能面・能装束」を開催し、136ページオールカラーの図録を刊行した。さらにＸ線ＣＴ画像を掲載した報告書を制作した。特に図録は当初の計画になかったためＡ判定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
A	中期計画に沿って、能狂言面の調査研究を実施した。3年の研究期間の間に調書、写真、資料を蓄積し、一部の作家について特色を抽出することができた。本研究の目的である、制作年代推定、面打（能面作家）特定の根拠を見つけることであるが、一部についてそれを達成した。それらの成果を展示に反映し、図録も制作した。 29年度以降も継続して調査研究を実施し、展示に結び付ける。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　（ウ）日本染織コレクションの形成に関する研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】

本研究は、日本国内外の機関や個人コレクターが所蔵する日本染織コレクション蒐集の経緯や来歴、構成内容を網羅的に調査し、近代以前は蒐集されることがなかった日本染織が古美術品としての価値観を形成していく過程を考察するものである。染織史研究者の間では研究対象とならなかった江戸時代以降の袈裟類・裂類を中心に各所蔵先において染織コレクションの全容が分かる調査を行い、近代における日本内外の日本染織の動向を追跡する。本調査研究によって、日本染織の価値が理解されないままに離散する危機のある日本内外のコレクションに価値付けがなされ、現在、美術史の 1 分野として位置付けられる染織文化史研究が、どのような価値観を基盤として確立されたのかが実証される。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉

【主な成果】

(1)調査概要

・名古屋・松坂屋美術館にて、同館に所蔵の日本染織コレクション 91 件を調査及び研究発表会を開催（8 月 17～19 日／29 年 2 月 1～3 日）

・神奈川・女子美術大学美術館にて、同機関に所蔵の日本染織コレクション 66 件を調査（9 月 6,7 日／29 年 2 月 15,16 日）

・ワシントン・ワシントン大学染織美術館にて、同館に所蔵の日本染織コレクション 18 件を調査（11 月 1,2 日）

・ニューヨーク・メトロポリタン美術館にて、同館に所蔵の日本染織コレクション 66 件を調査（29 年 2 月 23,24,27,28 日,3 月 1 日）

(2) 調査の結果得られた知見

・名古屋・松坂屋美術館所蔵の日本染織コレクションのうち、大正期に染織のコレクターであった洋画家・岡田三郎助が蒐集し、その後、松坂屋に譲渡した小袖コレクションについては、その全容が明らかとなった。

・女子美術大学美術館に所蔵される日本染織コレクションのうち、琉球紅型については、その全容が明らかとなった。同館のコレクションは多岐にわたるため、29 年度以降も順次調査を行うこととなった。

・ワシントン・ワシントン大学美術館には、第 2 次世界大戦前に山中商会から購入した日本染織コレクションが@点ある。そのほか、アメリカ在住の染織コレクターが蒐集した染織を合わせて@点の作品を調査した。以前より調査を行ってきたニューヨーク・ブルックリン美術館が所蔵する山中商会由来の日本染織コレクションとの共通性を見出すことができた。

・ニューヨーク・メトロポリタン美術館の日本染織コレクションのうち、大正期にアメリカで活動した古美術商・野村正治郎が売買した日本染織コレクションの全容が明らかとなった。

(3)調査研究の成果

27 年度の調査成果と合わせた古美術商・野村正治郎がアメリカで売買した日本染織コレクションに関する調査報告及び論考を、29 年 3 月末を目処にまとめた。29 年度の東京国立博物館研究誌『MUSEUM』に掲載の予定である。

松坂屋美術館での調査風景(8 月 17 日)

【備考】

科学研究費助成事業の 5 年計画の 2 年目

調査実施機関：4 機関　調査日数：16 日　調査作品数：241 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業5年計画の2年目である28年度は、さらに調査の進行を円滑に進めるため、調査班を研究分担者が主導となる2つのグループに分けて、調査回数を増やした。他機関とのスケジュール調整が合わず、予定より調査日程が繰り下がってしまったため調査報告を公開する予定が遅れてしまったが、29年度の早い段階で公開の予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画における有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究に沿った調査研究を実施することができた。 29年度以降も、調査団を2～3チームに分けて、さらなる調査データの集積に努めたい。29年度は調査計画の中間期にあたるため、現状の成果をシンポジウムあるいは研究会で公開する予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　（エ）絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究（科学研究費助成事業） （(4)－①－1）

【事業概要】

本研究は、絵巻の研究を従来顧みられることのなかった伝来や鑑賞歴といった作品の付属情報から捉え直し、推進する。研究にあたっては、絵巻の伝来、鑑賞歴に関わる情報を収集・蓄積した上で、絵巻が今日に至るまでにどのような軌跡を経て伝世したのかという、各作品の通時的な歴史性に配慮し、絵巻という媒体全体を視野に入れた総合的な分析を行うことを最終的な目標として設定する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕

【主な成果】

（1）古代中世の文献資料に記載された絵巻関係資料の抜き出しとデータ化

本研究が主な対象とする古代中世絵巻の伝来、鑑賞情報を得るためには、日記、古記録等の文献資料を博捜し、そこに記載された本文を整理する必要がある。抜き出しにあたっては、絵巻のみならず仏画、肖像画、屏風等、絵画関係の記事をピックアップし、28 年度はおよそ 8 タイトルの文献資料から約 1,150 件の記事を抜き出し、その一部をデータ化した。

（2）東京国立博物館所蔵絵巻模本の調査

絵巻模本の多くは近世に作られたが、その制作に際して、所蔵者や伝来等の情報が記されている場合がままある。本研究では、東京国立博物館所蔵絵巻模本の悉皆調査を目指し、目録の整理、撮影、所蔵者や伝来、模写者等の情報を収集すべく、模本リストの整理を継続して行った。28 年度は特に（4）の特集に関わる模本など約 30 件の調査を行うことができた。

（3）絵巻詞書のデータ化

絵巻作品の文字情報には伝来などについて記すものもある。そこで公刊されている絵巻作品の詞書及び伝来情報のデータ化を進め、28 年度は 18 タイトルの入力を終えた。

（4）調査・研究の展示での公開

上記の調査・研究を踏まえ、以下の展示として成果の一部を公開した。

・特集「歌仙絵」東京国立博物館特別 1・2 室　10 月 17 日 ～ 11 月 27 日

・特集「春日権現験記絵模本Ⅱ―神々の姿―」東京国立博物館平成館企画展示室　29 年 1 月 17 日 ～ 3 月 12 日

【備考】

科学研究費助成事業の 4 年計画の 2 年目

（1）絵巻伝来関係資料の抜き出し件数　約 1,150 件

（2）絵巻模本の調査件数　約 30 件

（3）絵巻詞書のデータ化　18 タイトル

（4）展示への反映　2 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業4年計画の2年目である本年度は、当初計画にのっとり、文献資料記載絵巻関係資料の抜き出しとデータ化、絵巻模本の調査、絵巻詞書のデータ化という、本研究推進にあたっての基礎作業を着実に進めることができた。あわせて、調査・分析を展覧会という形で一般向けに行うことができたのは大きな成果と言える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究調査研究を遂行し、データの収集を効率的に行い、またその成果を展示に反映させることができた。29年度も引き続き、継続的に資料の収集、作品調査を進め、その成果を反映した研究を進めたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-5

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　（オ）古墳時代武装具に関する研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】

古墳時代は前方後円墳を中心とした葬送儀礼に、武器・武具・馬具(以下､武装具)が大きな比重を占めた時代である。このような古墳文化は、日本古代国家形成期における社会の安定と成長に重要な役割を果たしたとみられる。一方、日本列島の武装具は古代北東アジア諸地域の影響下に成立し、刀剣・甲冑や馬具装飾に見られる独自性・卓越性などに特色がある。

本研究は、副葬品や形象埴輪を中心に、古墳時代武装具の古代東アジア諸地域相互における位置づけを明確化する。また、武装具形埴輪や古代武装具との比較・検討から、日本列島と東アジア武装具の性格と政治史･文化史的意義を分析して、日本列島における原始・古代武装具研究の総合化と歴史的意義を解明するための研究基盤を確立する。

【担当部課】	学芸研究部列品管理課	【プロジェクト責任者】	列品管理課主任研究員 古谷　毅

【主な成果】

1　形象埴輪を中心とした各地方の主要古墳出土埴輪及び韓国出土埴輪資料を調査し、基礎的情報の整備を進めた。

2　調査情報を基礎に、「古墳時代武装具関係資料」を比較・検討し、政治史･文化史的意義の研究を推進した。

①　実施概要　：5 月 28 日(会議･研究会)、6 月 11・12 日(調査･研究会)、7 月 16～18 日(調査)、8 月 23～28 日(調査)、29 年 2 月 1～6 日(調査･合同研究会)、29 年 3 月 3～6 日(調査･研究会)に、東京国立博物館・高槻市立今城塚古代歴史館(大阪府)・嘉麻市教育委員会(福岡県)、韓国国立光州博物館・全南大學校博物館(光州市)、国立羅州博物館・国立羅州文化財研究所・羅州市伏岩里古墳展示館・全南文財研究所・大韓文化財研究院(羅州市･務安郡)、国立全州博物館(全州市)において、資料調査と研究会・会議を実施･開催した。

②成果・知見等：会議・研究会で調査成果の分析・研究報告を行い、調査成果の確認と問題点を検討・分析した。

③成果の公開等：韓国・慶北大學校における第 2 回公開合同研究会(29 年 2 月 4 日)で、日韓相互に調査・研究成果を発表した。

○資料調査(左･中)・合同研究会(右)　風景

〔左：嘉麻市教育委員会、中：韓国･全南文化財研究所、右：韓国･慶北大學校(朴天秀氏)〕

【備考】　科学研究費助成事業の 3 ヵ年計画の 2 年目

○調査･研究会回数(日数)：5 回(延べ 18 日間)・4 回（延べ 4 日間)

主な調査･分析資料：福岡県沖出古墳出土埴輪(嘉麻市教育委員会蔵)、大阪府今城塚古墳出土埴輪(高槻市立今城塚古代歴史館蔵)、霊岩チャラボン古墳・金山里古墳出土埴輪（全南文化財研究所・大韓文化財研究院保管)資料など

○主な学会等発表等：犬木　努「保渡田八幡塚古墳の形象埴輪配置 －「今城塚類型」との対比から－」『塚口義信博士古稀記念日本古代学論叢』和泉書院、11 月、他 2 件

○合同公開研究会　：1 回（慶北大學校合同研究会「第 2 回古代韓日古墳研究交流會」、29 年 2 月 4 日、韓国・慶北大學校

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
C	科学研究費助成事業の3ヵ年計画の2年目である28年度は、研究計画の達成度・公開性については、外部調査・研究会の開催回数はほぼ目標を達成し、韓国･慶北大學校との合同研究会の開催で、成果の確認及び公開性を加えることができた。ただし、内部調査については、館の業務方針により下半期に東京国立博物館所蔵資料(列品)の整理を中断したため、本研究の目標達成は十分とはいえない。29年度は研究環境の改善と共に、27年度評定(B)を上廻ることができるように、研究予算運用の効率性・適時性をより高めた研究計画を立て、本研究の到達目標とした成果を挽回・確保し、精度の向上と発展性・独創性及び公開性の拡充と確立を図る所存である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
C	中期計画に沿って、①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を計画した。①の学術的評価に関して、考古学的情報の整理・資料化及び研究会等を通じた活動はある程度目標を達成した。しかし、東京国立博物館所蔵資料(列品)の公開に資する調査・研究としては、上記の理由から蓄積が十分には進展しなかった。29年度は、中期計画における「4-1)所蔵品･寄託品及び各博物館の特色に応じた歴史･伝統文化に関連する調査研究」に沿った調査研究として成果を挙げることが出来るように、研究計画の改善を図り、高度な研究体制・研究環境の確立と効率性・適時性及び発展性・独創性を一層進展させ、列品情報の整備と研究成果(情報)の公開を目標とする。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-6

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　（カ）中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容に関する研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】

社寺縁起絵は、神社仏閣の由来や霊験を描き出した説話画で、日本仏教興隆の祖である聖徳太子の絵伝を淵源とする祖師高僧伝絵とともに、鎌倉時代に盛んに制作された。本研究では社寺縁起絵、高僧伝絵の最盛期とも言える鎌倉時代の作例と、その構造を権力基盤の強化に利用した近世初期公武権力による作例を比較し、中世から近世へ至る絵画制作の「場」の実態と歴史的位置付けを明らかにする。そのため、東京国立博物館収蔵品の調査、関連資料のデータ化、社寺縁起絵や高僧伝絵に登場する聖地の現地踏査を行い、これらの成果発表として特集展示を開催する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復室主任研究員　瀬谷愛

【主な成果】

（1）2年目となる28年度は27年度の成果に基づき、引き続き「一遍聖絵」に関連する「東山太子堂古図」（京都・太子堂白毫寺）、「聖徳太子二歳像」（京都・太子堂白毫寺、アメリカ・ハーバード大学美術館）、「遊行上人縁起絵」（遊行寺宝物館）ほかの作品調査を行った。また、一遍の故郷伊予に所在する繁多寺、善応寺、伊予国分寺等（7月4日～6日）、一遍遊行の最南端である鹿児島神宮（大隅正八幡宮）、大隅国分寺跡等（10月28日～30日）の踏査を行い、現地大学教授と有益な情報を交換するなどして新知見を得ることができた。

（2）美術史学会東支部例会（於成城大学、7月23日）にて、「一遍聖絵の成立と中世律宗」と題する口頭発表を行い、「一遍聖絵」の事跡や表現から一遍の活動と作品の成立背景に律宗が深く関与したとする新知見を報告した。関連して、「ハーバード大学美術館所蔵聖徳太子二歳像および像内納入品」に関するワークショップ（於ハーバード大学、29年3月25日）にて口頭発表を行った。また、「松崎天神縁起絵」に関する研究報告を行った（於防府天満宮、29年2月18日）。一般向けには、28年度調査の成果を含む、善光寺と善光寺縁起絵、一遍聖絵等に関する講演を行った（於長野県信濃美術館、9月10日、参加者約70人）。

（3）律宗による高僧伝絵制作に関する研究成果として、極楽寺忍性が唐招提寺に施入した「東征伝絵巻」の背景に、永仁6年が唐招提寺中興2世証玄の7回忌にあたりその追善があることを実証する論考（「忍性と証玄―東征伝絵巻施入をめぐって」）を特別展「忍性菩薩―関東興律七五〇年―」（神奈川県立金沢文庫）展覧会図録に寄稿した。

3月ハーバード大学美術館調査

（4）28年度は新たに近世に制作された社寺縁起絵、高僧伝絵に対象を広げ、館蔵品、寄託品を主な対象に作品調査を行った。とくに、17世紀の寺社再編整備・創建に関する研究の端緒として、五代将軍綱吉、柳沢吉保の帰依を受けて浄厳が湯島に開いた真言宗霊雲寺派総本山霊雲寺を対象とし、「真言律宗霊雲寺末寺院牒」「日吉山王本地仏曼荼羅図」「江戸名所図会」ほかを調査。その成果は29年4月25日～6月4日に特集「幕府祈願所 霊雲寺の名宝」（本館2階特別2室）として広く一般に公開する予定である。

【備考】

科学研究費助成事業の3年計画の2年目

作品調査：25件、現地踏査：2回、学会研究会展覧会等発表数：4件、論文解説等印刷物：「忍性と証玄―東征伝絵巻施入をめぐって」（「生誕八〇〇年記念　特別展　忍性菩薩―関東興律七五〇年―」展図録、神奈川県立金沢文庫、10月28日）、他1件。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
A	科学研究費助成事業の3年計画の2年目である28年度は、1年目に得られた「一遍聖絵」に関する成果を作品調査と実地踏査により深化させ、一遍の活動と関連作品の成立背景に律宗が深く関与した可能性を美術史学会で発表。美術史、中世史、仏教史にわたる新知見を学界に提示することができた。成果はハーバード大学における研究会で海外の研究者にも報告した。この知見は館蔵品を含む他の同時代作品研究にも応用でき、今後もさまざまな新解釈への発展が期待できる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
A	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。成果を学会や一般向け講演会ほかで発表することができた。また、28年度は新たに近世の実態調査も対象とし、29年4月25日～6月4日に特集「幕府祈願所 霊雲寺の名宝」（本館2階特別2室）での成果報告を予定している。最終年度となる29年度は江戸時代前期の研究についてさらに深めていき、鎌倉時代の社寺縁起絵、高僧伝絵との有機的なつながりを浮かび上がらせたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-7

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　（キ）神像表現彫刻における物語性の調査研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】

本研究は仏像とならんで日本彫刻史上重要な位置を占めながら、独自の研究方法が確立しているとはいいがたい神像について、それぞれの神が持つ固有の伝承や信仰という物語を根拠に神の姿（神像）が造られたはずであるという視点に立って、表情や仕草を読み解き、姿にこめられた意味を探ることを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課特別展室長　丸山士郎

【主な成果】

(1)福井・若狭神宮寺　男神坐像・女神坐像の調査

神像彫刻は神仏習合の結果として誕生するが、若狭神宮寺は神仏習合の最初期の例で、その歴史の考察は神像研究に欠かせない。また、当社所蔵の男神坐像と女神坐像は鎌倉時代に製作された神像彫刻中の名品で、その表現意図の研究を行った。

(2)中国・陝西歴史博物館保管の墳墓壁画の調査(9 月 22～23 日)

(3)中国・故宮博物院におけるインド・中国彫刻の調査(12 月 20･21 日)

仏教彫刻の神将形像などにみられる瞋目は怒りを表す形状であるが、9 世紀末頃までは怒りとともに異形であること示すこともあった。10 世紀以降、異形としての表現はしだいに形式化して意味が忘れられていくが、神像彫刻にもしばしばみられ、異形との関わりが注目される。瞋目は、8 世紀に中国から伝わったものであるが、706 年に完成した墳墓の壁画にも異形の表現として用いられている。(2)(3)の調査では、該当部分を含めた陝西歴史博物館が保管する古代壁画、故宮博物院で開催された「梵天東土展」出品のインド、中国彫刻の調査を実施した。

章不太子墓壁画

章不太子墓出土金具

(4)石川・白山神社　男神坐像の調査(29 年 3 月 23 日)

9 世紀の神像は仏像表現を多く取り入れるが、10 世紀になると独自の神像が確立していく。神像表現確立期の作品について調査を実施した。

【備考】

科学研究費助成事業の 3 年計画の 3 年目
調査回数：海外調査 2 回、国内調査 2 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の最終年度である28年度は、27年度に引き続き鎌倉時代の神像表現を検討するとともに、異国風の神像についての研究を行った。異国風神像は、神像の中でも特異な存在であり、その表現意図の検討は研究上欠くことができないものであり、最終年度として、神像の多様性を踏まえた研究を進めることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。 26年度は群像における神像表現の物語性、27年度は写実的で作者の表現意図が読み解きやすい鎌倉時代の神像彫刻について検討し、28年度は神像彫刻の中でも特異な表現である異国風神像の考察を行った。本研究を通して神像に込められた多様な物語性を考察することができた。今後は神像の通史的な考察を行う必要がある。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-8

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　（ク）法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】

法隆寺献納宝物として東京国立博物館が所蔵する法隆寺伝来の上代裂（じょうだいぎれ、古代の織物）を中心に、献納宝物及び正倉院宝物の歴史的・文化的背景を造形の側から明らかにするとともに、現在バラバラの状態で保管されている上代裂について、本来作品として仕立てられていた当時の組み合わせを作品調査に基づいて明らかにする。また、未解明な部分が多い法隆寺裂の全体像（数量・技法・文様）についても作品調査と写真撮影によってデータベース化を図る。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之

【主な成果】

(1)学会発表実績
・東京国立博物館研究員・三田覚之、「法隆寺献納宝物の幡と木簡について」、12月3日、木簡学会、奈良文化財研究所

(2)論文発表実績
・東京国立博物館研究員・三田覚之、「法隆寺伝来『古裂』の本格修理に伴う配置復元について」、6月、『MUSEUM』第662号、東京国立博物館、査読あり

(3)その他発表実績
・東京国立博物館研究員・三田覚之（編集）、『法隆寺献納宝物特別調査概報 古今目録抄3』、29年3月、東京国立博物館
・東京国立博物館研究員・三田覚之、「海を渡ってきた文様」、12月、『別冊太陽 古墳時代美術図鑑（別冊太陽 日本のこころ）』、査読なし
・京都・妙傳寺より発見の金銅菩薩半跏像の報道発表にあたっての取材対応（NHK）、12月

(4)国内調査実績
法隆寺献納宝物の未整理品調査、通年（本調査において、伝世品としては国内最古と考えられる木簡を見出した）
法隆寺献納宝物の染織品調査（本格修理作品16件に対する事前調査）、通年

法隆寺献納宝物の未整理品より発見の木簡

【備考】
科学研究費助成事業の3年計画の3年目
(1)学会発表回数：1
(2)論文発表回数：1
(3)その他発表実績：3
(4)調査回数：1（16件）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の3年目である28年度は、本研究の一環として行った法隆寺献納宝物の未整理品調査において、伝世品としては国内最古と考えられる木簡を見出した。該当作品については伝来経緯を調査の上、東京国立博物館の列品として新たに編入し、あわせて報道発表を行った。また学術的な報告として、奈良文化財研究所が主催する木簡学会において発表を行った。また、論文1件を発表した。28年度は研究の最終年度であったが、国内及び海外における調査が不十分と考えられたため、研究の深化を図るために科研費を1年延長することで研究の深化を図る準備を行った。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。 法隆寺献納宝物の未整理品から木簡を新たに見出すなど、館蔵品に対する再評価を行い、また研究成果を法隆寺献納宝物の染織品本格修理に活かすことができた。しかし、十分な調査研究や論文発表、学会発表を行うことができなかった。29年度は研究を1年延長し、調査研究活動により多くの時間を費やせるように図りたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-9

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　（ケ）清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究（科学研究費助成事業） （(4)－①－1）

【事業概要】

東京国立博物館が収蔵する写真資料のうち、清朝末期に文物、史跡の撮影を行った岡倉天心・早崎梗吉、塚本靖の写真資料に焦点をあて、文献資料の調査及び実地調査によって、現状との比較、写真が撮影された行程、未詳な被写体、被写体が選択された背景を明らかにし、当時における写真撮影の実態を解明する。その成果は、博物館のウェブ上で公開中の「東京国立博物館所蔵古写真 WEB データベース」に反映させるとともに、特集展示によって写真資料を一般に公開する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　関紀子

【主な成果】

28 年度は、岡倉天心・早崎梗吉、塚本靖が行った中国調査のうち、27 年度に行った北京から河北省趙州間の実地調査に引き続き、河北省荊州から河南省洛陽に至るまでの道程を 2 回に分けて実地調査した。調査では写真が撮影された場所を特定し、現状との比較を行った。

（1）第 1 回調査、河南省鄭州から開封・登封、8 月 16 日～ 8 月 23 日

龍亭、鉄塔、相国寺、禹王台、繁塔、蘭儀口、虎牢関、鞏県石窟、宋陵（永昭陵）、宋陵（永熙陵）、昇仙太子碑、会善寺、永泰寺、少林寺、劉碑寺、中岳廟、嵩陽書院、嵩岳寺塔、法王寺、崇福宮、三闕（太室闕、少室闕、啓母闕）、法海寺

（2）第 2 回調査、河南省湯陰から河北省荊州

11 月 20 日～11 月 25 日

河南省湯陰：岳飛廟、韓公廟、昼錦堂、河南省安陽：天寧寺、鄴城遺跡、南響堂山石窟、河北省邯鄲：黄粱夢、河北省荊州：予譲橋跡

明治 42 年　塚本靖撮影
蘭儀口黄河船舶

現在の蘭儀口の様子
（河南省開封市蘭考県）

【備考】

科学研究費助成事業の 3 年計画の 2 年目。
28 年度の調査回数 2 回。
平成館企画展示室で特集「清国踏査游記―関野貞・塚本靖が撮影した史跡写真」（7 月 26 日～9 月 4 日）を開催した。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の2年目である28年度は、年度計画をほぼ達成した。27年度、調査できなかった河北省の調査地を含め、28年度に予定していた河南省調査地をほぼ調査することができた。また、調査の成果として特集展示を行うことができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。本研究計画では、清朝末期に行われた岡倉天心・早崎梗吉、塚本靖の中国調査の行程を3ヵ年に分けて実施調査を計画しており、進捗状況はほぼ順調である。 最終年度である29年度は28年度の調査に引き続き、河南省洛陽以西から長江沿いの調査を行い、全行程を調査する予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-10

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　（コ）古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する研究（科学研究助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】
本研究は我が国において伝来、また出土した染織作品を通じ、広く古代東アジア世界における染織文化の実像を明らかにしようとする試みである。これまで日本染織史の分野で研究されてきた作品を国際的な文化交流の枠組みで捉えなおし、我が国に伝来した染織作品がもつ意義の大きさを明らかにしたい。また、考古遺物に付着した繊維を詳細に調査・検討することで、現在では形の失われた作品の遺存状態や織物などの種類、仕様等を通して現存作品と比較検討し、古代東アジアにおける染織品の使用法についても、その実態の解明を目指すものである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	客員研究員　沢田むつ代

【主な成果】
(1)主な調査
・福岡県大野城市・善一田古墳群出土の盛矢具(胡籙金具と靫金具)等の調査。同古墳群に関する発掘調査では、複数の盛矢具が出土した。他の出土遺物とともに、年代判定の上では重要な要素をもつ貴重な遺物であった。
・茨城県行方市・三昧塚古墳出土品の調査。現在は遺物が 2 ヵ所(明治大学博物館と茨城県立歴史館)に分かれて所蔵されている出土遺物の調査。
・法隆寺献納宝物を含む法隆寺伝来の染織品調査(本格修理作品 16 件に対する事前調査)、通年。
(2)主な調査成果
・三昧塚古墳出土の遺物は、過去に調査が行われ、報告書も出版されているが、今回、2 ヵ所に分散した遺物を調査した結果、遺物に付着した繊維については、これまで言及されていない新発見が得られた。
(3)主な調査成果の発表
・これまで 2 年にわたって調査を行ってきた新潟県胎内市・城の山古墳出土の繊維付着の遺物に関する調査成果の論文を、10 月に刊行された『城の山古墳発掘調査報告書(4 次～9 次調査)』に掲載した。
・これまで 2 年間調査を行ってきた宮崎県えびの市・島内地下式横穴墓出土品に付着した繊維ついて、調査成果の論文を、29 年 3 月に刊行された『島内地下式横穴墓群Ⅴ　灰塚地下式横穴墓群』に掲載した。
・これまで 3 年間調査を行ってきた群馬県・金井東裏遺跡出土の挂甲等に付着した繊維について、調査成果の論文を 29 年 3 月に刊行された『金井東裏遺跡　甲着装人骨詳細調査報告書』に掲載した。なお、挂甲に付着した織物から、当時の衣服の素材等が明らかとなり、衝角付甲については、これまで報告されていない珍しい装飾仕様が確認された。
・法隆寺献納宝物を含む法隆寺伝来の染織品修理の成果については『MUSEUM』662 号で論文の発表を行った。
・これまで長年調査・研究を続けてきた法隆寺献納宝物の経絣(広東裂)の調査・研究成果をまとめた論文を『MUSEUM』へ投稿した(『MUSEUM』667 号、29 年 4 月掲載予定)。

上代裂の調査・修理風景

【備考】
科学研究費助成事業の 3 年計画の 3 年目(ただし、1 年間の延長手続きにより、29 年度も継続)。
(1)調査回数：三昧塚古墳出土の遺物に付着する繊維等の調査ほか 8 件。
(2)論文等の成果物：①沢田むつ代「法隆寺伝来・上代裂　纐纈・綾・錦・組紐・刺繍・氈等の残欠―平成二十四年度修理の成果」、『MUSEUM』662 号、東京国立博物館、6 月。②沢田むつ代「城の山古墳出土品付着の織物の仕様事例」『城の山古墳発掘調査報告書（4 次～9 次調査)』新潟県胎内市教育委員会、10 月。③沢田むつ代「島内地下式横穴墓より出土した遺物に付着する繊維等について」『島内地下式横穴墓群Ⅴ　灰塚地下式横穴墓群』宮崎県えびの市教育委員会、29 年 3 月。④沢田むつ代「金井東裏遺跡出土の挂甲と横矧板鋲留衝角付冑等に付着する織物等について」『金井東裏遺跡　甲着装人骨詳細調査報告書』群馬県教育委員会、29 年 3 月。
(3)講演会等の回数：3 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
C	28年度は、三昧塚古墳出土の遺物等の国内調査はある程度遂行することができた。ただし、28年度は、科学研究費助成事業の最終年度であったが、海外調査を行っていない事情から、29年度の本事業の延長手続きを行ったので、29年度は国内外について調査の機会を拡充させたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施することができた。科学研究費助成事業 3 年計画において、国内調査についてはある程度実施することができたが、海外調査を行うことができなかったので、さらに、科学研究費助成事業を 1 年延長し、29 年度は報告書の刊行も視野に入れ、より調査研究の機会を充実させたい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1411A7-11

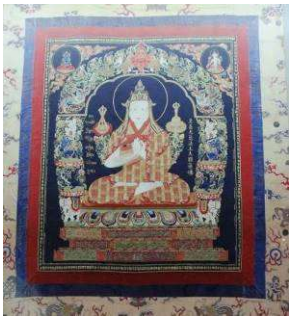
業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　（サ）東アジアにおける繍仏の基礎的調査研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1） （研究代表者：京都国立博物館企画室長　伊藤信二）

【事業概要】
本研究は、刺繍により仏教尊像や仏教的主題を表した「繍仏」について、中国・朝鮮半島など東アジアの作例をも視野に収めつつ、現存作例の調査に基づいて図像・技法・様式・用例を分析することで、仏教絵画史及び工芸史の観点から同時代繍仏を総合的・体系的に捉えることを目的とするものである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	企画課出版企画室主任研究員　猪熊兼樹

【主な成果】
（1）調査概要
中国チベット自治区所在の仏教工芸を中心とする工芸品の実見調査を実施した。調査地は下記のとおり。
ラサ　　：デプン寺、ガンデン寺、セラ寺、葯王山、ポタラ宮、清政府駐蔵大臣衙門、西蔵博物館、大昭寺
シガツェ：タシルンポ寺、シャル寺
ツェタン：ミンドゥリン寺、サムイェー寺
（2）調査の結果得られた知見
中国のチベット自治区所在の仏教工芸を対象とする図像・技法・様式・用例に関する調査を行うことにより、中国大陸の工芸品について地域および民族の造形的特質によって細分して検討する知見を得ることができた。
（3）調査研究の成果
東京国立博物館が所蔵する東洋資料の列品のうち、特にチベット関係資料の整理に資する知見を得た。
東京国立博物館が所蔵する東洋工芸の管理や活用に資する知見を得た。



刺繍法王像タンカ　西蔵博物館　ツェタン：ミンドゥリン寺壁画の調査

【備考】
科学研究費助成事業の 4 年計画の 4 年目
作品調査地 12 箇所（中国チベット自治区）
9 月 19 日（月）ラサ：デプン寺、ガンデン寺、セラ寺
9 月 20 日（火）ラサ：葯王山、ポタラ宮、清政府駐蔵大臣衙門、西蔵博物館、大昭寺
9 月 21 日（水）シガツェ：タシルンポ寺、シャル寺
9 月 22 日（木）ツェタン：ミンドゥリン寺、サムイェー寺
研究分担者：企画課出版企画室主任研究員　猪熊兼樹、列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕、
列品管理課平常展調整室研究員　末兼俊彦

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業4年計画の最終年度である28年度は、中国チベット自治区所在の仏教工芸を対象として、図像・技法・様式・用例に関する調査を行った。本調査により、東京国立博物館が所蔵するチベット関係資料の保管・整理に資する知見、また東アジア工芸史の研究に資する知見を得た。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究調査研究を実施した。28年度は本研究計画の最終年度にあたる。研究期間を通じて、中国の特にチベット自治区所在の仏教工芸を対象とする図像・技法・様式・用例に関する調査を行うことができた。本調査の成果を通じて、東京国立博物館が所蔵するチベット関係資料の整備を一層進捗させることができ、報告者が構想する東アジア宮廷史研究にも資する情報を収集できた。また本研究を通じて得た知見は東京国立博物館が所蔵する東洋工芸を展示する上でも活用できる。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-12

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　（シ）高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相に関する調査研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】

本研究は京都・神護寺に伝来する高雄曼荼羅を中心とする研究である。高雄曼荼羅は空海が中国より請来した両界曼荼羅を写したものであるが、類する作品は中国には残っていない。その表現は多分にインド的であるが、当代にさかのぼる絵画作品はインドにはわずかしか残っておらずインドとの具体的関係は明らかになってはいない。おそらくその表現は、インドの表現が、中国、日本で受容される過程で、それぞれの表現的要素を取り入れたものと考えられる。本研究は、高雄曼荼羅とそれに関係する国内外の作品を検討し、古代アジアの仏教美術の様相を探ろうとするものである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	副館長　松本伸之

【主な成果】

(1)韓国・国立中央博物館所蔵の西域絵画の調査(6 月 12 日)

(2)中国・陝西歴史博物館、における絵画、彫刻作品の調査(9 月 22～23 日)

本研究の中心テーマである高雄曼荼羅（両界曼荼羅）は中国で描かれた曼荼羅を模したものであるが、中国には同時代の本格的な両界曼荼羅は残っていない。同時代の仏教絵画や世俗絵画も多いとはいえず、国立中央博物館や陝西歴史博物館所蔵作品は貴重な作品である。(1)(2)の調査は、身体表現を中心テーマに実施し、高雄曼荼羅の身体表現の源流について考察する資料を得た。また、碑林博物館では、空海入唐よりも少し早い時期に造られた密教尊像の調査を実施し、高雄曼荼羅の身体表現との比較検討を行った。

(3)スリランカにおける密教美術の調査(29 年 2 月 25 日～3 月 2 日)

密教ではが独特の法具が用いられるが、密教が生まれたインドにはそれらが残されていない。インドに地理的に近いスリランカにはわずかに残っていて、本調査ではそれらの調査を実施した。その中で、日本では紹介されていない五鈷杵を見出すことができた。

(4)京都・醍醐寺の密教美術の調査(8 月 1～2 日)

空海の孫弟子にあたる聖宝が開いた京都・醍醐寺に伝わる絵画・書跡・彫刻・工芸などの密教美術の調査を実施した。調査の際には空海没後の密教美術の変容を考察する資料などを作成した。

【備考】

科学研究費助成事業の 4 年計画の 3 年目

調査回数：海外 3 回、国内 1 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業4年計画の3年目である28年度は、これまでに実施してきたインドにおける作品調査を踏まえ、それらと密接に関連するスリランカの絵画、彫刻等の調査を実施した。また、高雄曼荼羅の製作と近い時期に製作された中国の絵画・彫刻も調査した。それらを通して写真等の多くの資料を作成することができた。また、醍醐寺をはじめとした国内の密教美術の調査も実施した。高雄曼荼羅を、インドの表現が、中国、日本で受容される過程で、それぞれの表現的要素を取り入れたものと考える本研究にふさわしい成果を上げることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。28年度は、高雄曼荼羅に関連するインド、中国、朝鮮半島、日本の絵画・彫刻等の作品を調査した。29年度は最終年度に当たるので、これまでの成果をまとめて報告書の刊行を準備するとともに、作品調査も実施する。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-13

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　a.大小摺物（絵暦）の美術史及び文化史に関する総合研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】
東京国立博物館蔵「大小類聚」の精査とデータベース作成・公開（研究者対象）

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	客員研究員　岩崎均史

【主な成果】

本科研初年度にあたる 28 年度は、東京国立博物館所蔵の「大小暦類聚」（全 20 冊）中の巻 1～巻 12 までの大小個々のデータ採取（寸法・摺／写の判別・注文者・絵師情報、文字の翻刻・印章の判読）を行い、データベースに入力しつつデータの内容検証を行い、巻 12 までを完了した。29 年度以降このデータベースに大小の形態（趣向及び別途分類も含む）、干支情報などを加えていく。

研究分担者とは常に連絡を密にし、進行状況の報告など相互に行っているが、9 月 15 日には、東京国立博物館において、岩崎均史（代表者）と以下の研究分担者、田沢裕賀（東京国立博物館調査研究課長）、大久保純一（国立歴史博物館教授）、桑山童奈（神奈川県立博物館学芸員）、及び研究協力者北川博子（あべのハルカス美術館主任研究員）、大和あすか（静岡市東海道広重美術館学芸員）、（研究分担者の法政大学教授小林ふみ子は、海外調査のため不参加）以上 6 名による最初の研究会を開催した。内容は現状の説明と確認、個々の分担内容確認、今後のスケジュール確認、東京国立博物館蔵の「大小類従」の熟覧を実施した。

研究会では他に，関西方面の関連資料の存在確認と調査を計画すること、神奈川県立博物館の長谷部言人コレクション（長谷部家寄託）に関して、いずれは平行して同様の調査を行うことと、コレクションの帰属に関しても本研究の成果を生かすことなど、研究の深化を深める情報が確認された。

「大小暦類聚」の調査風景

東京国立博物館所蔵「大小暦類聚」巻 12

【備考】
科学研究費助成事業の 3 年計画の 1 年目

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の1年目である28年度は、事前に調査を行っていた東博所蔵の「大小暦類聚」（全20冊）の再調査と確認、データ化を進めた。作業は、初年度ながら主要部分を含む12冊までを終えることができ、年次別の摺り（オリジナル）と描き（コピー）の区別を明らかにすることができ、「大小暦類聚」の編纂が、当初よりのものでなく、次第に精度を上げていったことを検証することができた。これにより、29年度以降の研究発展に対する視点を確立することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の調査を外部専門家の協力によって行った。28年度は、収蔵作品の調査が中心であったが、研究会により、同種の作品の所在と、調査方法を確立することができた。 29年度以降、他の所蔵先の作品調査を重ねることで、大小摺物（絵暦）の文化史的重要性を明らかにすることができる状況にある。その成果として、データベースの公開を行い、将来的に様々な展示での活用が図られる。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-14

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　b.徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】
本研究は、明暦の大火後に再構築されていく徳川将軍家の御物形成の様相について、その目録諸本と献上・下賜の記録を調査するものである。それによって御物形成における御用絵師の役割を明らかにし、王権への芸術の関わりという江戸文化の重要な一側面を提示するものである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美

【主な成果】
(1)御用絵師の狩野探幽と狩野常信が、明暦の大火後に蓄積した鑑定控「探幽縮図」と「常信縮図」の調査を進めた。まず「探幽縮図」については、先行研究の成果をデータ化し、とくに注記の翻刻とそのデジタルテキスト化に着手した。また「常信縮図」（東京国立博物館本 57 巻）については、全巻の撮影を行った。
(2)徳川将軍家の御物目録のうち、もっとも基本となる「御数寄道具之帳」（東京大学付属図書館)、「明暦大火焼失茶道具目録」（篠山市立青山歴史村)、「銅御蔵御掛物御歌書極代付之帳」（東京文化財研究所)、「諸家遺物得物献上記」（国立公文書館)、「将軍家御物御茶湯道具」（国会図書館）の 5 件の調査を行った。この調査によって、明暦の大火前後の徳川将軍家の御物の輪郭が明らかとなり、大火後の目録編纂に御用絵師が重要な役割を担っていたことが明らかとなってきた。
(3)鑑定控「探幽縮図」「常信縮図」及び御物目録諸本の調査によって、御用絵師とともに、幕府重臣・永井尚政の関与がみえてきた。よって永井家関連史料を調査し、永井家と探幽、常信の交友をはじめ、御物形成に関わる人物の研究を進めた。
(4)御用絵師のなかでも表絵師の家系である御徒士町狩野家について調査し、狩野長信筆の新出作品「山水図」について新知見をまとめた。

【備考】
科学研究費助成事業の 3 年計画の 1 年目。
作品調査：6 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の初年度である28年度は、御物目録の編纂における御用絵師の関わりを中心に調査した。 ・鑑定控「探幽縮図」「常信縮図」はこれまで、模本や絵手本と位置付けられてきた。しかし、本研究では御物形成と関連付けて調査したことで、多くの新知見を得た。 ・柳営御物の目録諸本は江戸文化の重要な基礎的情報を有するもので、その調査・データ化は美術史、文化史において必要性の高いものである。 ・幕臣と御用絵師の交友だけでなく、幕府の制度面でも名物の鑑定・下賜品の制作が公的に行われたことが、御物形成に寄与していたという本研究の着眼点は、新規性に富み、江戸文化の底流を捉えなおすことのできる意義ある成果が期待される。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。 ・29年度以降は、明暦の大火後の徳川将軍家の御物形成の様相を、元禄4年の狩野常信、狩野洞雲らによる鑑定内容によって明確にしていきたい。そのため、28年度は目録諸本によって明暦の大火前後の御物の輪郭を明らかにすることができた。 ・本研究の目的である御用絵師の役割の解明に向けて、引き続き「探幽縮図」「常信縮図」の詳細な調査と、将軍へ献上された名物とともに下賜品の調査を進めていくことを課題とする。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-15

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　c.ディルムン文明の起源－バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究－（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】
科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金により全５年度にわたって実施される調査研究の第３年度。27 年度に引き続き、バハレーン王国において、平成 29 年 1～2 月の 5 週間、初期ディルムン時代の古墳群の考古学的調査研究を実施し、またアラブ首長国連邦（ＵＡＥ）において、平成 29 年 2 月初頭の 1 週間、関連する古代遺跡の情報収集を実施した。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	客員研究員　後藤健

【主な成果】
(1)　調査概要：バハレーン本島内陸部、ワーディー・アッ=サイルにある初期ディルムン時代の古墳群において、本年度は２基の比較的大型の高塚式古墳（ＷＳ4、ＷＳ5 号）を新たに発掘した。ドローンによる同遺跡の空撮を実施した。またアラブ首長国連邦（ＵＡＥ）の博物館、遺跡において関連文化財に関する新情報を収集した。
(2)　調査の結果得られた知見：バハレーンで発掘した古墳の３Ｄ計測により、ＷＳ4 号は径 11.5m、現存高 0.9m、またＷＳ5 号は径 8.4m、現存高 0.8mの円形積石塚で、中心部に竪穴式の石室１室をもつことなどが明らかにされた。
石室内の被葬者はいずれも１体であり、死者の食糧として調理された山羊の骨付き肉が備えられていた。またドローンによる空撮により、無数に分布する大小の古墳群はいくつかのグループに分けられることがわかった。尚ＵＡＥにおいては前３千年紀後半のウンム・ン=ナール文明に関する文化財の発見が近年相次いでいるが、バハレーンにおけるディルムン文明の起源と強い関係があることが、実地に確認された。
(3)　調査研究の成果：過去２回の調査成果に加えて、ディルムン時代の初期型古墳の造営法が一層明らかになった。それは前 2050 年頃以降の後期型古墳の造営法に発展するものである。

現地日本人会を対象とする発掘現場説明会

ドローンによる３Ｄ空撮

ＵＡＥの関連遺跡ヒーリー1 号墓

【備考】
科学研究費助成事業の５年計画の３年目
本年度はバハレーンにおける古墳２基の発掘調査と、ＵＡＥにおける予備的調査を実施した。
・公式概報：Gotoh T. et al., *Preliminary Report on the Archaeological Excavation at Wadi as-Sail 2017.*
・論文：安倍・上杉・西藤・後藤「ワーディー・アッ＝サイル古墳群から見た古代ディルムンの系譜」『西アジア考古学』18（2017 年）（印刷中）。
・口頭発表：Masashi Abe, “Dilmun Era Climate Changes,” Feb. 29, Bahrain National Museum.

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
A	科学研究費助成事業5年計画の3年目である28年度は、前年度に引き続きバハレーン王国に所在するディルムン時代のワーディー・アッ=サイル古墳群の考古学的調査を中心に実施された。 本年度は同国で最初のドローンによる３Ｄ空撮を許可され、遺跡（現存部）全体における古墳の配置掌握とグループ化が進められたことは画期的な成果であった。 また径10m前後の比較的大型の初期型古墳2基を前2年度に引き続き調査し、その造営法に関して、これまでにない知見を得たことから、所期の目的であるディルムン文明の起源解明に1歩近づくことに成功した。今後も調査を継続することにより、より多くのデータを入手し、目的に到達したい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
A	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究調査研究を実施した。 平成26～30年度にわたる全体計画の中で、バハレーン王国ワーディー・アッ=サイル古墳群の考古学的発掘調査は中核を占めるものであるが、現在までにすでに5基を精査しており、所期の成果を挙げつつある。それ以外に、バハレーン島では皆無とされていた鍾乳洞を発見し、ディルムン時代における気候変動を証明するなど、本研究がペルシア湾地域を対象とする世界の考古学研究に及ぼした影響は少なくない。 29年度以降はワーディー・アッ=サイル古墳群の考古学的発掘調査を継続し、より多くのデータを収集するとともに、その成果を内外に発信していく予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-16

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　d.東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）（研究代表者：筑波大学大学院教授　守屋正彦）

【事業概要】

東アジアの人々の間には、儒教に基づく礼拝空間における形象が共通の視覚イメージの一つとなっており、またそれに関わる漢詩文も思想の背景として今日まで共有されている。儀式のあり方、礼拝の諸像の形式や配置、また唱道する詩文や作法などの視点から、東アジアに遍在する礼拝の「かたち」の表象を解釈することによって、地域間や民族間の文化の多様性を明らかにする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	博物館教育課教育講座室長　勝木言一郎

【主な成果】

28 年度は 27 年度に引き続き、儒教の影響を受けた仏教経典、そしてそれに基づいてつくられた図像に関する調査研究に重点を置いた。

１．黒水城出土文献に記された父母恩重経の研究

父母恩重経は父母に対する孝道を説く仏教経典であるが、近年の学説では唐代に中国で撰述された偽経とする見方が有力である。そこで黒水城出土文献に徴し、父母恩重経や父母恩重経講経文について調査を進め、寧夏回族自治区カラ・ホト地区における父母恩重経の受容を考察した。

２．父母恩重経の中国における受容と展開に関する研究

敦煌文書、黒水城出土文献に徴し、父母恩重経のテキストを比較するとともに、敦煌やカラ・ホトにおける父母恩重経の受容と展開について考察を行った。

とくに大足石刻宝頂山石窟における父母恩重経変相の図像について研究を進めた。その結果、大足石刻宝頂山石窟の父母恩重経変相は、敦煌壁画に描かれた父母恩重経変相と別系統のテキストに依拠していることが明らかとなった。その研究成果の一部は「大足石刻宝頂山石窟における父母恩重経変相の図像に関する一考察」と題した論文を『「東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究」論文集 2017』に掲載する形で公表した。

また当館が所蔵する西域美術の模写の中に父母恩重経変相と特定される作品が確認された。次年度の平常展の中でそれらを公表することとした。

３．中国における孝子伝の研究

父母恩重経変相は中国の孝子伝の影響を強く受けたとする従来の学説を踏まえて、中国の孝子伝を敦煌文書に徴し、孝子伝の諸相と展開を考察した。

【備考】

科学研究費助成事業の 5 年計画の 3 年目

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業5年計画の3年目である28年度は、父母恩重経の調査対象を黒水城出土文献にまで拡大するとともに、中国の孝子伝による影響についても調査が進んだ。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。中国西北部、西南部における父母恩重経の受容について分析するとともに、父母恩重経が中国の孝子伝を受容していった過程を考察した。29年度は父母恩重経のテキストの体系化を図り、最終年度の30年度は父母恩重経と孝子伝との関係を考察する予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-17

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　e.「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）（研究代表者：天理大学教授　桑原久男）

【事業概要】

古代オリエント史、その中でも古代パレスチナ地域史の再構築を試みる考古学的研究。当域の古代史は概して、断片的な文献史料や旧約聖書の記述に依拠したかたちで描かれてきた。これに対して、本プロジェクトは、「地域考古学」と「聖書考古学」の立場を対峙させ、双方のコミュニケーションを重ねることで、より魅力的な古代パレスチナ史を提示することを目的とする。

本分担研究が属する「地域考古学」班では、既存の歴史観や資料に対する先入観を極力取りのぞき、発掘で得られた一次資料を丹念に分析することで地域史の復元、再構築に取り組んだ。イスラエル国内の都市遺跡、テル・レヘシュにおいて発掘調査を実施し、青銅器時代の都市国家システムや、鉄器時代末期の帝国支配地域の実態を実証的に検証することができた。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課東洋室研究員 小野塚拓造

【主な成果】

28 年度は研究代表者、分担者とともに 2 件の海外調査を実施し、古代パレスチナ史を再構築する上で貴重な学術的成果を得ることができた。成果の一部は予備報告の中で紹介したほか、より学術的な論考を準備中である。

(1) テル・レヘシュの発掘調査

・後期青銅器時代末期（前 13 世紀）の建築遺構を発掘。出土物の記録と予備的な分析を実施した。その結果、エジプトとの接触を示す土器群が見出され、エジプト第 19 王朝のパレスチナ北部への進出と、在地の都市国家社会がエジプト人と接触していたことを示す新たな知見を得ることができた。

・鉄器時代末期の大型複合建築の一部を 27 年度から継続して発掘。同建造物は前 7 世紀末～前 6 世紀に、軍事的・行政的な拠点であったと目される。28 年度には出土物の検討を行い、東地中海地域から搬入された遺物を多数見出すことができた。調査成果の予察からは、西アジアに帝国が出現することで形成された新たな経済圏において活発化した海洋交易の影響が、パレスチナ各地に及んでいたという結論を得た。

・1 世紀頃のシナゴーグを発見し、新聞等で発信した。

(2) ティムナ銅鉱山遺跡及び冶金作業場址の訪問

・主に後期青銅器時代に銅の採掘が活発に行われたティムナ渓谷の遺跡をめぐり、同時代の在地の都市国家とエジプト新王国に関する学術情報を収集した。

出土し始めた鉄器時代の石壁

土器の復元作業

【備考】

科学研究費助成事業の 3 年計画の 2 年目

(1) 海外調査　2 件

(2) 論文発表 2 件、シンポジウムでのパネルディスカッション 1 件

(3) 新聞による関連報道　7 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
A	科学研究費助成事業3年計画の2年目である28年度は、継続的に実施しているテル・レヘシュの発掘調査を基軸に、上述した古代パレスチナ史の新たな一面を解明することに成功した。成果は一次資料にもとづく極めて重要な知見を含むもので、古代西アジアに関連する諸分野で注目されるものと期待できる。同地の古代史は『旧約聖書』やキリスト教の誕生などと関連があり、調査成果が7件の新聞記事になったことが示すように、社会的な関心と要請度の高いテーマでもある。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。本科研プロジェクトは、テル・レヘシュの調査成果を基礎資料とし、古代パレスチナ史の再構築を目指すものである。2年目にあたる28年度には、先行研究にはない新たな知見を多数得ることができた。29年度に実施される研究の総括に向けて、順調に分担研究を進めることができたと評価できる。29年度は、最終的な調査成果を社会に発信するとともに、有形文化財の基礎的調査に基づく地道な歴史研究の面白さと重要性を示すことが課題となる。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-18

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　f.在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）（研究代表者：九州国立博物館長　島谷弘幸）

【事業概要】

在欧博物館を対象として、これまでに日本からの調査が及んでいない日本仏教美術作品の悉皆調査の実施と、新たな仏教美術作品の発掘を図る。それらの結果を、オリジナルデータの英語に日本語を付記し、高精細画像と共に総合的にデジタル化する。そのデータをもとに、日本の中だけの研究では分からなかった日本仏教美術の特性をより詳細に解明するとともに、欧州における日本仏教美術研究の進展を図り、日本文化研究の牽引役となる。また、欧州側の日本関係美術品の取扱技術を向上させ、さらに修復技術者の育成も可能にする道を開くことをも目指す。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	企画課特別展室長　丸山士郎

【主な成果】

(1)調査用関連データ収集・整理（9 月 9 日ほか）

A)調査前に先方より資料画像の収集を行い、調査用に整理をした。(379 点)

B)調査に関連する資料の収集を行った。すでに公刊されている図書や雑誌から関連する記事を抜き出した。

(2)調査時に収集したデータの整理を行った（11 月 24 日、29 年 3 月 23 日ほか)。

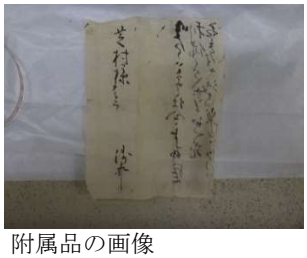
A)調査した際に撮影した画像の整理を行った。

①浅見調査分（ドイツ・デュースブルグ・ミュージアム DKM ほか 11 月 18～21 日）

②恵美調査分（ドイツ・ケルン東洋美術館ほか　29 年 3 月 6～12 日）

B)調査した際に取得した作品データの整理を行った。

調査風景



附属品の画像

【備考】

科学研究費助成事業の 5 年計画の 1 年目

(1)調査用関連データ収集・整理

A)画像整理：379 点

B)資料収集・整理：約 50 点

(2)調査時に収集したデータの整理

A)調査した際に撮影した画像の整理：682 点

①浅見調査分　379 点

②恵美調査分　303 点

B)調査した際に取得した作品データの整理：24 件（391 点）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業5年計画の初年度である28年度は、まず課題となっていたドイツの博物館美術館に所在する日本仏教美術の調査を行った。その調査で、在欧個人コレクションにおいて新たな日本仏教彫刻を発掘することができた。ドイツ調査を実施するための前準備である画像や資料の収集と整理により、調査を滞りなく実行することができ、調査後のデータも速やかに整理できたため、順調に進めることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。本科学研究費助成事業では、在欧博物館に所在する日本仏教美術を調査し、データベースとして公開することを目標としているが、28年度はドイツ国内に所在する日本仏教美術の調査とデータ整理を実施した。29年度には別の在欧博物館における日本仏教美術の調査を実施し、そのデータを増やして行く予定である。29年度以降には、調査した日本仏教美術について制作年代など詳細を研究検討することを課題として、データの充実を図っていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-19

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　g.武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質（科学研究費助成事業）((4)－①－1) （研究代表者：国立歴史民俗博物館 上野祥史）

【事業概要】

古墳時代は、象徴的な器物の授受を通じて、王権中枢が地域社会との関係を構築した時代である。5 世紀の古墳時代中期には、武器と武具とを組み合わせた武装具が王権から地域社会（首長）へと配布される象徴的器物であった。本研究は、武装具が古墳に集積する現象に注目し、古墳時代中期社会の特質を描き出すことを目的とする。典型的な事例として、奈良県円照寺墓山 1 号墳の出土資料を採り上げ、出土品(武装具･青銅鏡など)の調査・実測を経て全体像を分析し、武装具が集積することの意味を「王権」「地域」「東アジア」という 3 つの視座から検討する。

【担当部課】	学芸研究部列品管理課	【プロジェクト責任者】	列品管理課主任研究員　古谷　毅

【主な成果】

古墳時代中期における武装具集積の典型資料の調査及び研究会を実施し、28 年度は次のような研究成果があった。

1　東京国立博物館所蔵資料を整理して、基礎情報を提示するために実測調査を進めた。

2　調査情報を基礎として、研究会で「武装具の集積現象」を比較・検討し、研究を推進した。

①　実施概要

1)　東京国立博物館において、4 月 2･23 日、5 月 7･22･25～28 日、6 月 18 日、7 月 2･9･23･30 日、8 月 12･13･15～17 日、9 月 10･17 日(以上,調査)、8 月 14 日(研究会)の日程で調査及び研究会を開催し、円照寺墓山 1 号墳出土資料の整理・実測調査及び研究会を進めた。

2)　資料調査の際は、研究協力者を雇用して、実測図の作成等の資料化を推進した。

3)　11 月 21 日に、大阪市文化財協会における報告書原稿の統一・読合せを中心とした研究会と、翌 22 日に列品(奈良県円照寺墓山 1 号墳出土品)出土地の現地踏査を行なった。

②　成果・知見等　：東京国立博物館における研究会で、分析結果の研究報告を行い、論点の整理とその共有化を図り、これまでの調査成果の確認と問題点を検討・分析した。

○列品調査(左) 及び列品出土地踏査(右) 風景（8 月 15 日、11 月 22 日）

【備考】科学研究費助成事業の 4 年計画の 4 年目

○調査･研究会回数（日数）　：16 回（21 日間）･2 回（2 日間）

○調査対象･件数　：東京国立博物館所蔵 奈良県円照寺墓山 1 号墳出土資料（約 80 件）

○主な学会等発表等･論文等公開：古谷 毅「大塚古墳が築かれた時代-副葬品から見た古墳時代中期における大塚古墳-」『山梨考古』第 141 号(2016 年度 地域大会特集号)、10 月 1 日、山梨県考古学協会 他

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
D	科学研究費助成事業4年計画の最終年度である28年度は、研究計画の継続性・適時性・正確性および発展性・独創性について、問題はないと考えられる。達成度については、上半期の調査回数は十分であったが、下半期は館の業務方針により東京国立博物館における資料整理(列品整理)を大幅に縮小または中断したため、研究目標を達成できなかった。29年度は、継続計画で27年度評定(B)を上廻るように、研究環境の改善と研究予算運用の効率性・適時性と研究精度の向上を図り、本研究の到達目標とした成果を挽回・確保し、公開に向けた準備(報告書作成)を進める所存である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
C	中期計画に沿って、①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を計画した。①の学術的評価に関して、考古学的情報の整理・資料化及び研究会等を通じた活動はある程度目標を達成したが、東京国立博物館所蔵資料(列品)公開に資する調査・研究としては、上記の理由から十分に蓄積が行えなかった。29年度は、中期計画における「4-1)所蔵品･寄託品及び各博物館の特色に応じた歴史･伝統文化に関連する調査研究」に沿った調査研究として成果を挙げることが出来るように改善を図り、高度な研究体制と研究環境の確立と効率性・適時性及び発展性・独創性を一層進展させ、列品情報の整備と研究成果(情報)の公開を目標とする。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-20

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　h.極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－ （科学研究費助成事業）（(4)－①－1）（研究代表者：九州国立博物館学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男）

【事業概要】

戦国時代（紀元前 5 世紀）以降の中国で急速に普及していった、厚さ 1mm に満たない青銅製容器「極薄青銅器」の製作技術について、3D スキャン、蛍光 X 線元素分析装置など光学機器の使用を含む多角的な分析と製作実験により解明する。また、南北朝時代（5 世紀）以降に流行した轆轤挽きによる薄作りの青銅器「響銅」の製作技術との比較を通して、中国金属工芸史の再構築につながる基盤研究を行う。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課環境保存室長　和田浩

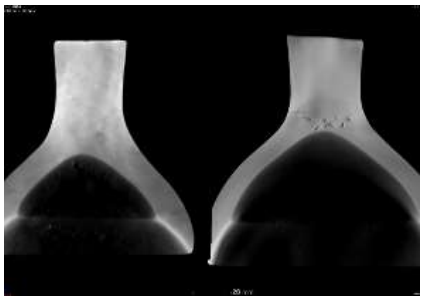
【主な成果】

（1）注口のついた匜（はぞう）という極薄青銅器の製作技術、とくに注口の部分に関する技術について、「鑞（ろう）付け」によって鋳造実験したサンプル（写真右）と「一鋳」によって鋳造実験したサンプル（同左）の内部構造をＣＴスキャンで解析した。注口の成形は両技法で可能であり、外見に大きな相違は見られないが、ＣＴ画像により注口基部に明瞭な違いを見出せることが分かった。

（2）和泉市久保惣記念美術館や中国陝西省の博物館が所蔵する響銅の製作技術に関する調査を実施し、中国の唐時代に製作されたと考えられてきた響銅のなかに、日本の奈良時代製のものがある可能性がわかった。

（3）Cu（銅）・Si（錫）・Pb（鉛）の比率を少しずつ変えながら鋳造した各種サンプルに轆轤挽き（ろくろひき）成形を行い、どの比率で鋳造したものが響銅（きょうどう）に適しているのか実験を行った。

（4）中国国家博物館及び首都博物館所蔵（11 月 21 日～23 日）の青銅器の展示調査を行った。



異なる技術で製作した極薄青銅器実験サンプルのＣＴ画像比較

響銅の実験サンプル

【備考】

科学研究費助成事業の 3 年計画の 1 年目

専門的・技術的な援助・助言回数：4 回。調査回数：6 回。作品調査件数：約 35 件。撮影点数：約 200 カット。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の1年目である28年度は、極薄青銅器の製作技術に関する調査、及び助言を行い、極薄青銅器の製作技術が多様であることを実験と調査によって示すことができた。実物の極薄青銅器に対してもＣＴ画像を用いた内部構造を解析し、鋳造サンプルの解析結果と照合する課題は途中であるが、当初の目的はおおむね達成できたといえる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究調査研究を実施した。特に、28年度は匜の注口部分を対象にして、極薄青銅器の製作技術と製作痕の対応関係に関する基礎的な成果を熟覧とＣＴ撮影によって得ることができた。29年度以降は極薄青銅器のその他の部位についても光学機器による解析や熟覧を進め、極薄青銅器の製作技術に見られる多様性及び時期的・地域的な差異と多様性との関連を考察していきたい。最終的に、響銅が5・6世紀の中国ひいては東アジアに展開した響銅の製作技術と、戦国時代の紀元前5世紀に出現した極薄青銅器の製作技術を比較し、両者の関係性の有無を明らかにすることを目指す。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-21

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　i.工芸の展開―金属工芸鋳金における真土型鋳造法の研究―(科学研究費助成事業)((4)－①－1)　(研究代表者：東京藝術大学　赤沼潔)

【事業概要】
日本各地及び中国など東アジアに残る鋳型の遺物と鋳造製品を調査分析し、そこから得られた情報に基づいて実際に製作を試みることによって、我国に伝わる真土型鋳造法の歴史的変遷と地域あるいは時代による技術材料的な特性を明らかにする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	特任研究員　神庭信幸

【主な成果】

(1) 第1回調査： 10月12日
芸大鋳金研究室にて狛犬鋳造実験の実施。

狛犬鋳造実験風景

(2) 第2回調査： 10月27日
ワシントンにあるアフリカン・アメリカン歴史博物館にて金属製装飾品の調査を実施。
金属装飾品、金属工具などの製作技術に関し、鋳造法に注目してヨーロッパ、アフリカ、北米における16世紀以降の真土型鋳造技術の利用と展開について調査を行った。

【備考】
科学研究費助成事業の3年計画の2年目
調査会：2回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の2年目である28年度は、真土型鋳造法の原型製作、外型製作、内型製作、乾燥、鋳込み、研磨、着色など実際の作業を再現することにより、作業工程の記録と作業結果の検証を連続的に行うことができた。これにより、映像記録及び鋳造物を用いた他の鋳造法との比較研究が可能な基盤ができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施することができた。また、27年度の調査結果などに基づいて再現実験を実施できたことは大きな成果である。最終年度では真土型鋳造法に関する技術、材料などについて映像および文献をアーカイブ化する予定で進んでいる。これまでの調査・再現実験などを通じて、再現実験にやや遅れがあるものの必要な作業は計画通り進んでいる。29年度に向けてスケジュール管理を確実に行っている。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-22

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　j.対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究―大航海時代を中心に―（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）（研究代表者：東京文化財研究所文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治）

【事業概要】
16 世紀から 17 世紀における南蛮漆器について、製作技法と作風の点から漆器・螺鈿・錺金具を中心に考察を加え、製作地の同定と輸送ルートの解明及び現地での需要の実態を解明する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課平常展調整室　研究員　末兼俊彦

【主な成果】
南蛮漆器の主な需要地であるポルトガルに赴き、現地に伝わる当該作品及び日本製の文化財について調査を実施した。

ポルトガル・リスボン
Museu Nacional de Arte Antiga
Edificio da Torre do Tombo
Museu Nacional de Arte Antiga
Museu Militar
Mosteiro dos Jeronimos
Praca do Comercio & Arco da Rua Augusta
Dra.Teresa Pames collection
FUNDACAO ORIENTE MUSEU
Palacio CONVENTO DA TRINDADE
Santa Casa da Misericordia de Lisboa
Jorge Welsh WORKS OF ART

（Santa Casa da Misericordia de Lisboa での調査）

・日本未紹介の関係資料について知見を得た。
・ポルトガル伝来の作品について、日本国内向けの作品との差異を見出せた。
・また、国内における関連作品についても調査を実施し、文化財用 CT スキャナを活用した化学分析を行った。

【備考】
科学研究費助成事業の 5 年計画の 2 年目
作品調査地 12 箇所
【9 月 19 日】Museu Nacional de Arte Antiga,Edificio da Torre do Tombo
【9 月 20 日】Museu Nacional de Arte Antiga,Museu Militar
【9 月 21 日】Mosteiro dos Jeronimos,Praca do Comercio & Arco da Rua Augusta,Dra.Teresa Pames collection
【9 月 22 日】FUNDACAO ORIENTE MUSEU,Palacio CONVENTO DA TRINDADE
【9 月 23 日】Santa Casa da Misericordia de Lisboa,Jorge Welsh WORKS OF ART
国内調査：滋賀・藤栄神社所蔵洋剣

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業5年計画の2年目である28年度は、輸出漆器の主たる需要地・ポルトガルを対象として、同国の国公立・私立の博物館や個人所蔵者所有の当該作品について、製作技法と作風の点から漆器・螺鈿・錺金具を中心に調査を行った。本調査により、日本未紹介の関係資料について知見を得た。また、日本国内に伝来する関係作品についても調査を進め、文化財用CTスキャナなど、国立文化財機構が所有する化学分析装置を活用した研究を行った。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。研究期間を通じて、国内外に伝来する当該の作品について広く調査を行うことができた。本調査の中には日本未紹介の新出の資料も多く含まれており、これまで知られていた作品との比較による研究の発展が見込まれる。報告者が構想する海路を中心とした文化交流にも資する情報を収集できた。また本研究を通じて得た知見は東京国立博物館が所蔵する作品を展示する上でも活用できる。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-23

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　k.日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）（研究代表者：九州国立博物館学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ）

【事業概要】

本研究は、これまで知られてきた資料を、新出の交易・文化交流資料から見直し、日本とタイにおける文化交流の実相を再構築することを目的とする。これまで続けてきたタイにおける日本美術、日本におけるタイ美術の悉皆調査を継続させ、資料そのものに関する正しい評価を行い、これまで埋もれていた資料の活用を図る。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課平常展調整室　研究員　末兼俊彦

【主な成果】

タイ王国国内における日タイ間の文化的交流を物語る作品について調査を行った。

特に、近代におけるタイ王国と日本の仏教文化交流を視野に入れ、日本国内に存在する作品について知見を得た。

京都

萬福寺、妙法院、仏光寺

愛知

日泰寺

・日本国内に伝来する作品とタイ王国内の関係資料について知見を得た。

・また、国内における関連作品についても調査を実施し、文化財用 CT スキャナや蛍光 X 線分析装置などを活用した化学分析を行った。

妙法院所蔵柄鏡

萬福寺所蔵のタイ金銅仏

【備考】

科学研究費助成事業の 3 年計画の 2 年目

作品調査地（国内）4 カ所　萬福寺、妙法院、仏光寺、日泰寺。

九州国立博物館とタイ王国芸術局との学術協定による調査に参加し 9 月 6～11 日の期間、タイ王国のバンコク国立博物館、チャオ・サン・プラヤー国立博物館にて作品調査を行い、日本国内伝来の作品と比較を行った。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の2年目である28年度は、日タイ間での文化交流の実態を調べるため、近代における両国の交流に焦点をあて、その足掛かりとして京都・愛知の寺社伝来の仏教美術を中心に、製作技法と作風の点から調査を行った。文化財用CTスキャナなど、国立文化財機構が所有する化学分析装置を活用した研究を行った。本調査によりこれら関係資料について知見を得た。また、九州国立博物館とタイ王国芸術局との学術協定による調査に参加し、タイ王国内に伝来する各作品についても日本国内の作品との比較研究を行った。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。28年度は本研究計画の2年目として、日本国内を中心に内外に伝来する当該の作品について広く調査を行うことができた。報告者が構想する海路を中心とした文化交流にも資する情報を収集できた。本調査の中には日本未紹介の新出の資料も多く含まれており、これまで知られていた作品との比較による研究の発展が見込まれる。また本研究を通じて得た知見は東京国立博物館が所蔵する作品を展示する上でも活用できる。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-24

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　1.住吉派の摸写から見る近世御用絵師の絵画制作研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）（研究代表者：鹿児島大学教授　下原美保）

【事業概要】

本研究は古典文化復興の一環として近世初期に設立され、多くの古典模写を手掛けてきた幕府の御用絵師住吉派の模写研究を基盤とする。本研究の目的は、住吉派における模写の在り方－目的、画題選択、依頼主、活用方法等－を具体的に明示し、同じく幕府の御用絵師である狩野派や板谷派の摸写と比較することで、同派のみならず、研究の遅れている近世御用絵師の絵画制作状況をより明確にすることである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課主任研究員 山下善也

【主な成果】

作品調査

(1) 東京国立博物館にて、　住吉具慶筆「元三大師縁起画稿」7 巻を調査（7 月 4 日）
　鹿児島大下原美保氏とともに。意見交換

(2) 東京都台東区上野の寛永寺護国院にて、住吉具慶以下一門合筆「元三大師像」を調査（8 月 18 日）
　鹿児島大下原美保氏ほかとともに。意見交換

(3) 東京国立博物館にて所蔵・寄託の住吉派作品・狩野派模本を調査（随時）山下単独で

　大和絵専科と看做されがちな幕府御用絵師住吉家が、仏画・漢画なども実によく描き出していることが、(1)～(3) の調査によって確認された。

寛永寺護国院にての調査風景

【備考】

科学研究費助成事業の 3 年計画 1 年目

調査回数 8 回、15 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の1年目である28年度は、東京国立博物館あるいは近隣に所在する住吉派作品の確認・調査を行った。行えていない狩野派模本との比較検討など、29年度の研究につなげていく基礎固めをすることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。 28年度は、身近な作品に関して住吉派の調査を中心に行い、所期の計画を概ね実施した。29年度は、調査する地域を館外へ広げるとともに、近世御用絵師である住吉派と狩野派の相異と共通点について研究していきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-25

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　m.19 世紀日本の女性南画家の移動と交友圏（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）（研究代表者：実践女子大学文学部教授　仲町啓子）

【事業概要】

本研究は、伝統的に〈交遊圏〉を存在基盤として展開した南画が、近代社会への適応という課題にいかに対処したかという点を、南画の主たる担い手である男性からの視点ではなく、女性たちの〈移動〉をキーワードとして分析し、新たな問題点を提起する。特に 19 世紀に限定して考察するのは、江戸時代的な遊歴と、幕末維新期以降に現れる過激な〈移動〉を対比させるとともに、地方ごとの親密な〈交遊圏〉から、新たなパトロンの出現、さらには美術の制度化と皇后らによる国家的なプロジェクトが出現する過程を、断絶された「近代」ではなく、一連の持続的歴史的展開という側面から考察したいという意図による。〈移動〉と〈交遊圏〉の質的変化が、女性南画家の社会的存在形態を変化させただけでなく、表現方法・内容にも影響を及ぼす点も考察する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課主任研究員 山下善也

【主な成果】

(1) 静岡県立美術館にて「徳川の平和」展を調査（11 月 1 日）
　徳川幕府治世下の美術文化の成熟を肯定的に紹介する同展は、当科研の課題と密接にかかわるため、充分な時間をかけて調査する必要があった。
　新出作品を含め 19 世紀の南画作品も数多く紹介されており、多くの収穫があった。
　企画者である同館野田学芸員と意見交換をした。
(2) 東京国立博物館にて所蔵・寄託の 19 世紀の南画作品を調査（随時）

南画作品の調査風景

【備考】

科学研究費助成事業の 3 年計画の 1 年目
調査回数 5 回、20 点

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の1年目である28年度は、東京国立博物館に所在する女性南画作品及び交友圏の画家作品（館蔵品・寄託品）の確認・調査を行うとともに、静岡県立美術館「徳川の平和」展の調査を行った。特に「徳川の平和」展調査では、特別展企画者に直接取材することができ、南画家の交友圏について重要な情報収集ができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。 28年度は、身近な作品に関して女性南画家及び交友圏の画家作品の調査を中心に行い、所期の計画を概ね実施し、研究対象のおおまかな見取り図的なもの把握することができた。29年度以降、さらに具体的な情報収集、関連付けを行い、研究の肉付けを進めていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-26

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究 1）収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　n.「月次祭礼図摸本」総合復元研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）（研究代表者：愛知県立芸術大学　岩永てるみ）

【事業概要】

「月次祭礼図模本」（東京国立博物館）は室町時代（15 世紀頃）に描かれた屏風絵を江戸時代に写したもので、原本はすでに失われている。本図は祇園会などの祭礼描写が丁寧で、洛中洛外図との関連性への関心から美術史的注目も一段と高いが、模本という制約によって本来の絵画表現は不明な点が多かった。本研究は、技法、歴史、美術史、材料の各分野からの専門知識や研究成果を総合して、原本の図像復元を目標に絵画分析を行う学際研究である。失われた原本図像を復元し、その過程で得られる各分野の研究成果を集約することで、中世と近世の狭間にある本図の表現や成立背景について解明を試みる。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課保存修復室主任研究員 瀬谷愛

【主な成果】

（1）2 年目となる 28 年度は、2 度の研究会（9 月 12 日、10 月 16 日）が行われた。1 年目に引き続く検討をもとに研究代表者の所属する愛知県立芸術大学で復元画制作が推進され、実際の作品制作へと進んだ。

（2）復元画制作にあたって表現を比較するために計画していた作品調査について、所蔵者の都合により遂行できなかった。そのため、「月次祭礼図模本」と図様が近似することが指摘されている東京国立博物館所蔵の狩野益信（洞雲）筆「年中行事図屏風」（A-12439、江戸時代・17 世紀）について、現在修理中にあって外部の調査が行えないため、個別にその熟覧を行い、29 年度のプロジェクト遂行に備えた。

「年中行事図屏風」6 曲 1 隻のうち第 4～6 扇

【備考】

科学研究費助成事業の 3 年計画の 2 年目
研究会：2 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
C	科学研究費助成事業事業の3年計画の2年目である28年度は、研究代表者の所属する愛知県立芸術大学での復元画制作作業が進む一方で、計画していた比較作品の調査については所蔵者の都合により遂行できなかった。改めて、「月次祭礼図模本」と図様が近似することが指摘されている東京国立博物館所蔵の狩野益信（洞雲）筆「年中行事図屏風」（A-12439、江戸時代・17世紀）の調査を課題に設定し、29年度に遂行できるよう努める。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。歴史学、美術史学からの検討を経て、2年目は具体的な復元図案の制作に入っており、切箔、本画の線描、彩色にかかっている。最終年度に調査を予定している当館所蔵「年中行事図屏風」に関する情報提供などを行うことにより、最終年度に完成予定の復元画の説得力を高めたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-27

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　o.曾我蕭白筆「郡仙図屏風」の図像およびその文化的背景に関する研究（出光文化福祉財団）((4)－①－1)

【事業概要】

「群仙図屏風」は曾我蕭白のもっとも著名な作品であるにも拘らず、画中の各人物の図像とそれらの総合的な意味が未だ解明されておらず、その型破りな構成を促した文化的背景も依然として不明である。本事業の目的は本図にみられる各人物や他の題材の図像を詳細に再検討した上で、それらが全体として意味するところを明らかにしつつ、作品の文化的背景を検証することである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	企画課国際交流室ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ　ミウォシュ・ヴォズニ

【主な成果】

(1)「群仙図屏風」との関連が予想される作品の調査
・ボストン美術館にて蕭白筆「久米仙人図屏風」など、作品 3 点の調査を行った（6 月 1 日）
・九州国立博物館にて蕭白筆「群童遊戯図屏風」など、作品 6 点の調査を行った（10 月 7 日）
・三重県立美術館にて蕭白筆「林和靖図屏風」など、作品 3 点の調査を行った（11 月 22 日）
・東京国立博物館にて蕭白筆「群仙図屏風」の調査を行った（29 年 2 月 10 日）
・サンフランシスコ・アジア美術館にて「瑤池仙會圖」の調査を行った（29 年 3 月 24 日）

(2)「群仙図屏風」に関する新見解
・中国・日本の資料を手がかりに、本図に混入されている三星のイメージとその意味を再考した。
・本図に林和靖のイメージが重ね合わされているとする説の裏付けとなる資料を見出し、そのイメージが本図の全体的構成とどのように関係しているかを検討した。
・上記の「林和靖図屏風」には和合二仙をはじめ、夫婦和合を象徴する題材が複数描かれていることを明らかにした上で、「林和靖図屏風」と「群仙図屏風」との関係を検討した。
・本図の虎を伴う仙人と龍に乗る仙人について異論があったが、画中のモチーフや先行作例との比較により、それぞれの像主を特定できた。
・「群仙図屏風」の構成は八仙図に基づいているとする見解もあるが、むしろ瑤池仙会図をはじめ、八仙・三星・西王母をいずれも描く画題の方が蕭白にヒントを与えた可能性が高いと指摘し、作者の意図を検討した。

【備考】
調査回数：5 回
調査点数：14 点
曾我蕭白に関する論文発表：『MUSEUM』第 663 号「曾我蕭白のふたつの寒山拾得図――主題およびその文化的背景の検討を中心に」8 月 15 日発行

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	「群仙図屏風」における三星と林和靖のイメージとその意味を再考し、また虎を伴う仙人と龍に乗る仙人の像主を特定した上で、本図の全体的構成が瑤池仙会図などの画題に基づいている可能性を提示することにより、「群仙図屏風」の図像とその文化的背景の全容解明に一歩近づいたと考えられる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。 「群仙図屏風」の図像については検討の余地がまだ残されている。例えば本図における西王母と林和靖との関係が不明であり、また蕭白の強烈な色使いにも特別な意味があると思われるため、今後これらの点について考察を進める予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1411A7-28

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　p.三条西公条をめぐる絵事―「詠歌之大概歌仙図」を中心に―（メトロポリタン東洋美術研究センター）（(4)－①－1）

【事業概要】
三条西公条は、三条西家を継ぎ、父・実隆から和歌の奥義を継承した。本研究は、公条をめぐる絵画制作と文芸との関わりを調査するもので、とくに京都・陽明文庫所蔵の「詠歌之大概歌仙図」の制作背景にある公条と文化人との交流の様相を明らかにすることを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美

【主な成果】
(1)「詠歌之大概歌仙図」（京都・陽明文庫所蔵）の調査を行い、付属品の添状 2 通と短冊 1 枚の内容を翻刻するとともに、絵画表現の特徴について同時代の諸作品との比較分析を行った。それによって、公条と大覚寺義俊、里村紹巴との交友、さらに紹巴と飛鳥井雅庸、柳営連歌師の紹之との関連が明らかとなった。また歌仙絵の筆者に狩野秀頼周辺絵師を想定した。
(2)「二尊院縁起絵巻」（京都・二尊院所蔵）の調査を行い、その制作背景や絵画様式について検討した。「二尊院縁起絵巻」は、これまで全巻の画像がなかったが、本研究によって全巻の撮影が行われた。
(3)「紫式部石山詣図」（宮内庁書陵部所蔵）の画像を入手し、公条の賛の筆跡を「詠歌之大概歌仙図」と比較した。それによって、公条の幅広い絵画制作との関わりを考察した。
(4)「詠歌之大概歌仙図」の絵画表現と比較するため、「高雄観楓図」「厩図」（東京国立博物館所蔵）の調査を行った。
それによって、「詠歌之大概歌仙図」の面貌表現が、「高雄観楓図」「厩図」と近似していることが明らかとなった。

【備考】
メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成の 1 年計画の 1 年目
調査件数：4 件
論文：1 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成1年計画の最終年度である28年度は、「詠歌之大概歌仙図」を中心に、「二尊院縁起絵巻」「高雄観楓図」「厩図」の詳細な調査を通じて、中世後期の公家文化における三条西公条の活躍や、それを取り巻く人々との交友、そのなかで描かれた絵画作品について多角的に考察することができた。とくに添状などから実証的に文化交流の様相を明らかにすることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。 本研究は、中世後期・16世紀における公家文化、とくに歌学の中心にあった三条西公条と大覚寺門跡・義俊、そして近世初期におよぶ活躍を成した里村紹巴らとの交友を示す具体的作例として「詠歌之大概歌仙図」の意義を考察し、中世から近世初期の文学と美術の新たな視座を示すことができた。 今後は歌仙絵の筆者として想定した狩野秀頼周辺の絵画制作について、さらに調査を進めていく。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411B1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　訓点資料としての典籍に関する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】

漢文を訓読するために施された、「訓点」とよばれる読みを表すための記号は、時代や地域によりかなりの多様性があり、その大半は典籍である。これらに付された訓点により、当時の日本人がどのように本文を訓読していたか、あるいは日本語の有り様が判明する。当館では、「守屋コレクション」に代表される、国内外の良質な古典籍を数多く収蔵することから、それらを中心とした調査研究を行うことにより、得ることの出来た成果を展示や講演、あるいは論文など、博物館における事業へと還元する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室主任研究員　羽田　聡

【主な成果】

（1）典籍の研究には、その特質に応じた専門の学識者が不可欠であるため、調査スタッフに大阪大谷大学教授の宇都宮啓吾氏（日本語学）を客員研究員として迎え、8 月 4 日をはじめ、29 年 3 月 13 日までに計 8 回の調査を実施し、とくに重要な部分に関してはあわせて写真撮影を行った。

（2）調査作品は、重要文化財「白氏文集巻第三・巻第四」（館蔵品）、あるいは重要文化財「法華経巻第二　万里小路宣房筆」や重要文化財「和歌色葉集残巻」（以上、ともに寄託品）など、20 件におよんだ。

（3）とくに、「法華経巻第二　万里小路宣房筆」については、これまで八巻本の法華経の一部と考えられていたが、巷間に散逸した断簡の情報を収集することで、十巻本として作成されたことを明らかにした。その報告を兼ね、平成知新館において「中世の古写経」と題した展示を行い、あわせて講演を実施したことで、成果を広く国民へと発信した。

（4）また、こうした研究の成果として、紙背文書を中心に、27 年度より調査を進めていた国宝「稿本北山抄巻第十」は、解題を付した書籍を勉誠出版より刊行した。

稿本北山抄巻第十

稿本北山抄巻第十紙背

【備考】

・調査回数　　8 回
・調査件数　　20 件
・撮影コマ数　約 100 カット
・成果の公開（展示）　1 回（平成知新館、29 年 2 月 7 日～3 月 12 日）
・成果の公開（講演）　1 回　羽田　聡「万里小路宣房の法華経」（土曜講座、29 年 3 月 11 日）
・成果の公開（出版）　1 件　『国宝　稿本北山抄巻第十』（勉誠出版、29 年 2 月）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	調査回数8回は、27年度の実績値と比較すれば、減少しているが、その対象は巻子や冊子など、いすれも時間を要するものであり、結果として昨年度と同様の件数を調査できた点に鑑み、所期の目標は達成していると判断した。また、調査結果の展示や講演への反映、書跡としての刊行という、ほかの博物館事業との連携を図ることが出来た点も勘案している。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	本事業は前中期計画より継続の事業であり、【備考】に示した実績値が27年度のと比して減少している項目もあるが、展示あるいは講演という成果の公開を新たに付加することが出来ため、今中期計画の所期の目標は達成していると判断した。27年度は「後進の育成」を課題としてあげていたが、この点について、当館では29年度より典籍のアソシエートフェローを採用するため、期待できる。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411B2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　出土・伝世古陶磁に関する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
日本国内で出土・伝世した陶磁器について、総合的に調査を実施し、博物館の所蔵品・寄託品の充実を図ると共に、最新の調査・研究成果を展示や講演会などに反映させる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸室研究員　降矢　哲男

【主な成果】
(1) 調査
・福井市愛宕坂茶道美術館の所蔵品調査を行い、調書を作成すると同時に記録写真の撮影を行った。
・近畿地方の江戸時代から続く旧家の所蔵品や金剛寺所蔵の陶磁器の調査を行い、調書を作成すると同時に記録写真の撮影を行った。(詳細は処理番号 1411B5 および 1411B4 参照)。
・15 世紀から 16 世紀を中心とした日本海交易で用いられた陶磁器について、特に沖縄地域や北関東地域の当該時期の遺跡から出土した貿易陶磁器を中心に、調査や写真撮影等を行った。
・個人コレクションの陶磁器の調査を行い、写真撮影等を行った。
(2) 成果内容
・旧家の所蔵品や金剛寺所蔵の陶磁器などの調査を行い、所蔵品の全体的な様相を把握することにより、収集のあり方や陶磁器の流通のあり方についての知見を得ることができた。調査途中ではあるものの、金剛寺については、寺の歴史的な経緯と陶磁器の流通状況とが、年代的に一致するような様相もみえてきている。
そして、個人コレクションの調査により、一部寄贈予定を含む、30 点ほどの作品の寄託を受ける予定であり、館蔵品で網羅されていない時期や産地の作品の展示が可能となり、平常展の内容をより充実したものとすることができる。
また、研究内容の状況を論文等にまとめることにより、日々の研究成果のを一般に公表した。

【備考】
(1) 調査回数 15 回
・主な研究発表
①　「戦国茶道文化と三好氏」大東市立生涯学習センターアクロス　8 月 21 日
・主な論文執筆
①　「禅院に伝わった唐物の名品」『目の眼』476 号　5 月 1 日
②　「京焼の色絵はどのように生まれたか」『なごみ』438 号　6 月 1 日ほか 1 件

愛宕坂茶道美術館の調査風景

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	基礎データを蓄積していくことが本プロジェクトの根本である。28 年度は複数の事例の調査を行うことができた。こうした基礎データの蓄積を継続的に行えたことは大きな成果である。ただ、27 年度と比べると、成果公表を行う機会が少なく、29 年度は 28 年度までのデータの蓄積を活かした成果発表をより積極的に行っていきたい。また、調査の過程で展示を拡充できるだけの寄託品を受け入れられることとなったことは、大きな成果といえる。このことにより、大規模な展覧会や講演会などの博物館事業の内容を充実させていくことに繋がることが期待できる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	今中期計画の初年度として、着実に調査を進め、多くの基礎データの蓄積を行い、研究発表や展示を通じて、研究成果を着実に還元してきている。また、基礎データの収集を通じて、館蔵品や寄託品を充実させることもできた。 29 年度以降も、基礎データの蓄積を継続して進めていくとともに、従来の蓄積データを照らし合わせながら研究を行い、さらなる成果の結実に結び付けていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411B3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　ＣＴスキャナ等科学機器を用いた文化財の調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
X線CTスキャナ等の分析装置を活用し、文化財の調査研究を行う。

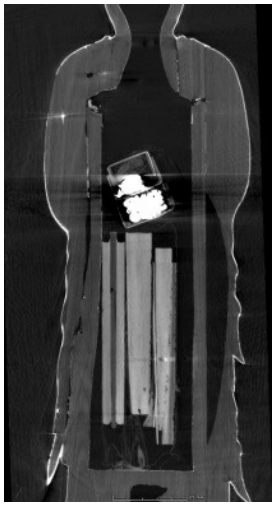
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品管理室アソシエイトフェロー　池田素子

【主な成果】

（1）特別展「－禅心をかたちに－」（4月12日―5月22日）において、26年度に行った建長寺・建仁寺の2点の「蘭渓道隆坐像」のX線CT調査の成果が公開され、建仁寺像に納入された頭部を3Dプリンタで造形し複顔をするなど展示にも活かすことができた。

（2）特集陳列「丹後の仏教美術」（7月26日―9月11日）にあわせて、縁城寺蔵・大日如来坐像、同・賓頭盧尊者坐像、金剛心院蔵・地蔵菩薩立像の3点についてX線CT調査を行った。大日如来坐像では木組みや内刳り等に見られる特徴的な構造、賓頭盧尊者坐像では玉眼の挿入方法、地蔵菩薩立像では像内納入品の詳細な形状、構造等が判明した。調査の成果は、図録に報告し、展示室内でも各像とともに写真パネルで紹介した。

（3）大津歴史博物館からの依頼で、新知恩院蔵・木造釈迦涅槃像のX線CT調査を行った。
体長 13cmの本像は、胸の部分に水晶が埋め込まれている。調査の結果、水晶は、上下以外は本体と密着しておらず、胸部との間に空間があることが判明した。調査の成果は、大津歴史博物館の企画展「新知恩院と乗念寺」（10月15日―11月27日）の会場で、本像とともに写真パネルで紹介され、図録でも報告された。



地蔵菩薩立像（金剛心院）のX線CT断面像

【備考】
調査点数：Ｘ線ＣＴ16点、Ｘ線透過撮影7点、蛍光Ｘ線分析27点
成果の公表：「禅：心をかたちに」展覧会図録　pp.319－322／「丹後の仏教美術」特集陳列図録　pp.4,5,12／大津市歴史博物館「大津の浄土宗寺院　新知恩院と乗念寺」展示解説図録（新知恩院）pp.16,17

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	28年度は、所蔵品や寄託品の研究の一環として、X線CTスキャナ等の分析装置を導入する機会が増えた。また、文化財保存修理所に受け入れられている修理寄託品について実施することが多かった。多角的な考察が必要となる実資料の研究や、所有者・修理者・文化庁との連携・協議で実現した修理前調査であったため、年度内には成果発表に至っていないが、 X線CTスキャナ等の分析装置の活用によって、学術的な研究が一層充実し、安全な修理にも貢献することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画における、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究が順調に行われた。自館の特集陳列にあわせた借用文化財の調査とその報告のほか、他館からの依頼に応えた調査によって他館の企画展にも協力することができた。展示室で掲示されたCT像の写真パネルのように、外観ではわからない内部構造の視覚化が、展示資料の理解につながるという手応えを得た。28年度の主な成果報告は、X線CTスキャナによる調査によるものであったが、29年度以降はマイクロスコープや蛍光X線分析装置などその他の装置による成果も公表していきたい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 1411B4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ　近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究　河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】
京都国立博物館では長年にわたり、京都を中心とした近畿地区の社寺に伝存する文化財の悉皆調査行ってきた。28 年度からは、4 年にわたって科学研究費補助金による助成を受け「河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究」というテーマのもと、大阪・河内地域に存在する社寺の文化財を中心に調査を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	連携協力室長　淺湫　毅

【主な成果】

（1）河内地域の社寺調査
・28 年度から 4 年にわたって助成を受ける科学研究費補助金による調査である。
・28 年度は、河内長野市の所在の天野山金剛寺において悉皆調査を行った。
　予備調査　9 月 14 日
　本調査　　10 月 17 日～10 月 28 日
　補足調査　平成 29 年 2 月 27 日～3 月 2 日
・本調査の成果は、科研の最終年度である平成 31 年度末に発行予定の報告書で公表する予定である

金剛寺での調査風景

（2）京都市内における社寺調査
・過去に行った京都市内の社寺調査のうち、建仁寺塔頭及び永観堂禅林寺に関して、将来の報告書刊行に向け、これまでに作成した調書の分類・整理を継続して行った。また、29 年度以降に新規で調査を行う龍光院（大徳寺塔頭）に関して、下見及び住職との打ち合わせを行った。

（3）その他の地域の調査
・過去に行った丹後地域における社寺調査の成果及び新規調査の成果に基づき、特集陳列『丹後の仏教美術』を開催し（7 月 26 日～9 月 11 日）、これまで京都国立博物館が行ってきた、近畿地区における社寺調査の成果の一部を、展示及び図録の形で広く公開した。

【備考】
科学研究費助成事業 4 年計画の初年度
・本調査に関しては最終年度に調査報告書を刊行する予定である。
・丹後地域における過去の調査成果を反映した図録『丹後の仏教美術』を、特集陳列にあわせて刊行した。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	河内地域の調査に関しては、科学研究費助成事業4年計画の初年度である28年度は、河内長野市の金剛寺において悉皆調査を行った。2週間にわたる調査で、本坊及び宝物館に安置される文化財に関しては、ほとんどの作品について調査を行うことができ、報告書刊行に向けての調書作成及び写真撮影を終えることができた。 また、これまで京都国立博物館が行ってきた社寺調査の成果を十分に反映した特集陳列『丹後の仏教文化』を開催し、図録を刊行することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿った近畿地区の社寺調査の一環として、河内地域の仏教文化と歴史に関して科学研究費助成事業に申請し、それに基づく調査研究を実施した。本事業は4年計画であり、初年度から3年度にかけては各年度1ケ寺を当該地域から選択し（28年度は金剛寺、29年度は観心寺を予定、30年度は協議中）、全研究員参加による悉皆調査を行う予定である。28年度に関しては当初の予定どおり、金剛寺の文化財について調査を行い、十分な成果を上げることができた。 過去に行った調査寺院の補足調査に関しては、河内地域の調査に重点を置いていたため十分には行うことができなかったものの、調書の整理等に関しては継続して行った。29年度以降は河内の調査とあわせて補足調査を行い、早期の報告書刊行を目指したい。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411B5

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	オ　幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】

大型の寄贈案件を効率よく処理するために、科学研究費補助金（基盤研究(B)）「幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査：貝塚廣海惣太郎家コレクション」を活用して、大阪府貝塚市の旧家の五つの土蔵が伝えた大量の文化財を調査する。所蔵者の意志のもと寄贈先を検討し、当館への寄贈分は、搬入後に燻蒸した上で本格清掃を施し、受贈手続きを経て収蔵品として整備する。29 年度中に寄贈顕彰の展覧会を開催することを目標とする。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品管理室主任研究員　永島　明子

【主な成果】

当家は江戸時代後期に米穀や肥料の問屋として身を起こし、幕末には廻船問屋として活躍した後、仲買、株式投資、銀行経営などに転じてその資本により近代産業の発展に寄与した商家である。当館は 24 年度に調査を開始し、作業効率の向上をめざして 27 年度より採択となった科学研究補助金を投入し、27 年度までに書画・工芸・考古・歴史資料の収蔵品 708 件と教育事業や茶会等のイベントで用いる備品 271 件を受贈してきた。これまでの調査から、歴代当主が同時代の画家や工芸家のパトロンとなり、また、表千家を支える地方数寄者のひとりとして大量の茶道具を蓄積し、姻戚関係にある大商人や華族と贈答や形見分けを通じて品物を交換していたことがわかっている。

28 年度は延べ 114 日間、学生アルバイトや美術輸送会社の作業員を含めた述べ 245 人を動員し、絵画 2 件、書跡 1 件、彫刻 1 件、陶磁 142 件、漆工・木竹工 7 件、染織 3 件、歴史 4 件の計 160 件の収蔵品と、7 件の備品の受贈を実現した。またこれまでに受贈した作品の図録用撮影を開始し、58 件 193 カットを整備した。土蔵の環境調査も継続した。

本プロジェクトは、科学研究費補助金の継続が予定されている 29 年度までに調査や寄贈手続きを終え、寄贈顕彰を兼ねた展覧会の開催を目標とする。その予告と調査の中間報告として、一般観覧者向きの土曜講座「廻船問屋の土蔵が伝える木･竹･漆の文化財」（7 月 23 日）を開き好評を得た。地方新聞事業部からも展覧会への問い合わせがあった。

土蔵内での作品探索

土蔵より搬出

現地での簡易清掃

書跡調査風景

寄贈予定品の搬出

京都国立博物館旧管理棟での燻蒸作業

本格清掃後、鑑査会用に陳列

撮影のための開梱

姿見（鏡）の撮影作業

【備考】科学研究費助成事業の 3 年計画の 2 年目

28 年度は、絵画 23 件の調査と 69 カットのメモ撮影、書跡 30 点の調査と 60 カットのメモ撮影、彫刻 3 件の調査と 39 カットのメモ撮影、金工 25 件の調査と 25 カットのメモ撮影、陶磁 182 件の調査と 910 カットのメモ撮影、漆工･木竹工 143 件と 1110 カットのメモ撮影、染織 15 件の調査と 417 カットのメモ撮影が実施され、土蔵の環境調査も継続された。28 年度の特集陳列「生誕 300 年 伊藤若冲」や平常展「香りの調度」において、27 年度の寄贈品が展示された。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の2年目である本年度は、最終目標の展覧会を念頭に各分野で粛々と調査を進め、寄贈数を増やし、図録用の撮影を行い、中間報告として一般聴衆を対象とした講座を開くことができた。また学生たちに作品の取り扱いや調査の方法を伝授する結果ともなっている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。 ・最終年度の展覧会にむけた調査や寄贈が、概ね順調に推移している。 ・引き続き調査と寄贈を進め、800点を超える寄贈品から出陳作品を選定し、展覧会の構成を考え、図録用の撮影を行い、広く一般市民に幕末明治期の商家の暮らしを紹介できるよう努める予定である。 ・27、28年度とも調査主体たる研究員の人事異動があり、一貫した視点を引き継ぐことの困難から、非効率かつ研究員に負担を強いる状況があり、所蔵者からも大きな不評を買っているのが課題である。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411B6

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	カ　日本の宮廷装束・調度に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】

一般には目に触れる機会がほとんどない日本の伝統的な宮廷装束及び調度について所蔵調査を行い、基礎的な情報を記載した調書を作成する作業により、宮廷の物質文化の実像に可能な限り迫る。その成果を報告書や展示として紹介し、日本民族が培った美意識を広く伝える。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　山川　曉

【主な成果】

学術研究助成基金助成金事業の 3 年計画の 2 年目である 28 年度は、27 年度に引き続き、京都国立博物館が所蔵する歴史分類作品群のうち、宮廷装束及び調度の悉皆調査を継続して行った。

また、現存する宮廷関係作品のデジタル・データベースの作成に向け、他機関所属宮廷関係作品の文字情報及び画像情報のデジタル化を行った。その結果、多くは近代の作品であり、近世に遡る作品が少ないことが改めて浮き彫りとなった。

研究途上ではあるが、研究成果を盛り込み、ICOM ミラノ大会服飾国際委員会において研究発表を行った。

ICOM ミラノ発表風景

作品調査風景

【備考】

科学研究費助成事業の 3 年計画の 2 年目

・京都国立博物館が所蔵する歴史分野作品の調査（調書作成・簡易デジタル画像の撮影）
　調書 32 件　画像　370 枚
・京都国立博物館所蔵作品の保存公開用画像　5 件
・他機関所蔵作品のリスト：6 機関 349 件
・他機関所蔵作品紙媒体画像のデジタル化：6 機関 220 件
・ICOM（国際博物館会議）ミラノ大会服飾国際委員会において、研究成果に基づき日本の宮廷装束について発表
　7 月 4 日　Kyoto -a Treasure House of Traditional Japanese Costumes-　（イタリア・ミラノ国際会議場）
・ICOM 服飾国際会議のウェブサイト上に発表内容をまとめた論文を発表
http://network.icom.museum/fileadmin/user_upload/minisites/costume/pdf/Milan_2016_Proceedings_-Yamakawa.pdf（29 年 1 月 10 日より公開）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の2年目である28年度は、上半期に作品調査を予定通りに進めることができず、下半期に集中して行うこととなった。しかしながら、他機関資料のデジタルデータ化は予定通りに進み、最終年度に簡易データベースを作成する準備を進めることができた。ICOMミラノ大会の服飾国際会議における発表と、ウェブサイト上で公開された論文をを通して、宮廷装束をとおして日本民族が培った美意識を伝えることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	京都文化の根幹を成す宮廷に関わる研究であり、中期計画における趣旨に即した調査研究を実施することができた。最終年度に向けて、作品調査を継続して実施するとともに、現在把握できた作品の簡易データベースを作成する。あわせて研究成果公開として、29年度後半に京都国立博物館において特集陳列「御所文化を受け継ぐ―近世・近代の有職研究―」を開催し、京都で培われてきた宮廷文化を広く紹介する。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411B7

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】
科学研究費補助金の若手研究（B）による事業。大正から昭和にかけて数多く中国書画が日本に将来された背景を、「京都学派」の漢学者にして書画鑑定に秀でた長尾雨山（1864～1942）の業績を再検証することにより明らかにする。膨大な書簡や詩文稿、書画作品など雨山に関する一次資料の整理と調査を核とし、断片的な紹介にとどまっていた雨山の業績と思想を総合的に理解するための基礎的研究とする。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品管理室主任研究員　呉　孟晋

【主な成果】

28 年度は 3 ヵ年計画のうちの中間年にあたる。京都近郊在住の長尾雨山の遺族が所蔵する文献資料や書画作品について、27 年度である程度その全容を把握することができたが、28 年度ではその成果をもとに個別の資料・作品について調査を行った。最終的にこれらの資料・作品を目録として公開するために、名称や内容についての誤りを正し、精度を高めることに注力した。主には以下の 3 項目を実施した。

（1）目録の精査：27 年度に作成した目録の内容を校正した。たとえば、27 年度は全体の点数を把握するための作業であったため、草稿については冒頭数字のみを拾っていたが、資料群のなかでも中国書画にかかわる重要な資料約 700 点について、重点的に見直しを行い、名称などを改めた。この作業には、西上実・京都国立博物館名誉館員の協力を得た。

（2）作品調査：京都国立博物館が所蔵及び寄託を受ける中国書画について、随時、長尾雨山の箱書きのある作品を調査した。大和文華館や澄懐堂美術館など国内の美術館や、海外では台北故宮博物院で関連する中国絵画を調査した。その結果、京博上野コレクションにある伝沈周筆柘榴図の箱書きの草稿が含まれていることがわかるなど（図 1・図 2）、調査対象の資料的価値を確定するに至った。

（3）研究発表：上記の成果の一部を 6 月に京都で開催されたＡＡＳ（アジア研究協会（米国））学会の分科会において、”The Modernity of Nagao Uzan’s Connoisseurship”と題する口頭発表を行った。また、その一部は文化センターの教養講座でも触れており、一般向けに長尾雨山の活動を紹介する機会を得た。

図2　伝沈周筆柘榴図の軸箱蓋裏にある長尾雨山の識語

（参考）伝沈周筆柘榴図

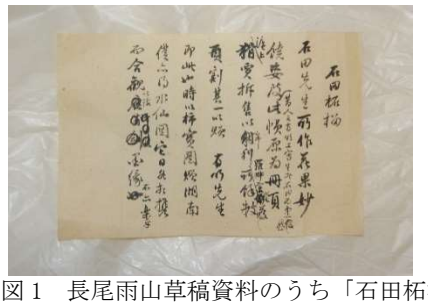


図 1　長尾雨山草稿資料のうち「石田柘榴」（「石田」は沈周のこと）

【備考】
科学研究費助成事業の 3 年計画の 2 年目

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の2年目である28年度は、初年度の成果を踏まえて、目録の精査、作品調査、研究発表を行うことができた。中間年度として、館蔵品を含めた作品調査、特に、長尾雨山の中国絵画理解の様相についての調査結果により、京博上野コレクションにある伝沈周筆柘榴図の箱書きの草稿が含まれていることがわかるなど調査対象の資料的価値を確定するに至り研究を深化させることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。最終年度である29年度までに資料・作品目録を公開するための作業を進めることができた。ただし、資料総数が膨大であるため、目録に収録する項目などどのような形で公開するべきか、検討を要する課題も見えてきている。

【書式Ｂ/博】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 1411B8-1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ク　a.特集陳列「丹後の仏教美術」に関連する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
特集陳列「丹後の仏教美術」（7 月 26 日～9 月 11 日）に関わる調査研究

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	連携協力室長　淺湫　毅

【主な成果】
（1）特集陳列には、新規調査に基づく作品を含め、絵画・書跡・彫刻・工芸作品 36 件を陳列した。このうち大半の作品は 27 年度までに調査自体は終了していたが、28 年度は図録用の新規写真撮影を行った。その結果、丹後の仏教美術作品に関して、新たに写真資料を得ることができた。

（2）図録用の写真撮影と並行して、科学機器（ＣＴスキャナー・赤外線カメラ）を用いた調査・撮影を行った。ＣＴスキャンの結果、金剛心院・地蔵菩薩立像は像内納入品の詳細な内容について判明し、また、仏性寺・阿弥陀如来立像は唇に水晶を嵌めるという特異な作例だが、その後ろに金属製の歯が納められていることがわかった。これらの成果は図録及び展覧会会場において、広く一般に公表した。

（3）会期中にあらためて出品作品の調査研究を行った結果、縁城寺の大日如来坐像・阿弥陀如来立像が、いずれも鎌倉時代の南都系仏師の作例として重要であることが判明した。両作品に関しては、継続した研究が必要という観点から所蔵者の理解を得、展覧会終了後も当館に寄託していただけることとなった。

【備考】
・出品作品　36 件
・ＣＴスキャン撮影　4 回
・赤外線撮影　1 回
・図録の発行　1 冊（特集陳列図録『丹後の仏教美術』）
・講演会　3 回（「丹後の寺社縁起」『京都国立博物館土曜講座』京丹後市・小山元孝氏ほか）
・作品の新規寄託　2 件（「大日如来坐像」京丹後市・縁城寺蔵ほか）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	丹後地域の仏教文化に関する、当館のこれまでの研究成果をいかんなく発揮し、充実した内容の展覧会となった。また、近年導入したＣＴスキャナーなどの科学機器を活用し、像内納入品の詳細な内容や、表面からの目視では確認できない、仏像の特異な構造に関して調査するとともに、その成果を展覧会図録及び展示会場内の解説パネル等で、広く一般に公開することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画における、有形文化財の展覧事業・教育普及活動に関連する調査研究として、順調に行われた。当館は、継続して京都を中心とする近畿地方の社寺調査を行い、その成果を展覧会に反映しているが、本特集陳列も、長年継続して行ってきた社寺調査の成果を基礎に、新た調査を行って実現したものである。展覧会としては、上記の成果を反映して充実した内容となったが、展覧会に際して行った調査・撮影で、近畿の社寺が所蔵する文化財に関する、新たな知見及び写真資料を得ることができ、さらなる展覧会の企画にあたっても、貴重な資料を得ることとなった。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411B8-2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ク　b. 特集陳列「徳川将軍家と京都の寺社」に関連する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
京都・知恩院所蔵徳川家関連資料の調査研究

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　大原嘉豊

【主な成果】
特集陳列「徳川将軍家と京都の寺社―知恩院を中心に―」（6 月 14 日～7 月 18 日）に向けて、京都・知恩院所蔵徳川家関連資料の調査及び撮影を行った。

(1)29 年 3 月 4 日に知恩院所蔵徳川家関連資料 17 点の写真撮影を行い、併せて保存修理指導室主任研究員羽田聡及び企画室研究員井並林太郎によって調査研究を行った。

(2)29 年 3 月 7 日に知恩院所蔵重要文化財・徳川秀忠坐像の写真撮影を行い、併せて東京国立博物館学芸企画部企画課長浅見龍介によって同像及び重要文化財・徳川家康坐像、於大の方坐像の調査を行った。及び、あわせて、知恩院所蔵徳川家関連資料について、知恩院総務部と情報交換を行った。

(3)上記の調査の成果について、『徳川将軍家と京都の寺社―知恩院を中心に―』として図録を作成し、一般にも公表を行った。

(4)上記の展覧会成果を受けて、重要文化財　徳川家康・秀忠両坐像の修理について知恩院と調整し、朝日新聞文化財団助成申請を行い、来年度から 2 ヵ年の計画で修理が行われることが決定した。

【備考】
・調査作品数及び撮影作品数　21 点
・成果の公表：特集陳列図録『徳川将軍家と京都の寺社―知恩院を中心に―』（6 月 14 日）刊行

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	知恩院所蔵徳川家関連資料は従来ほとんど公開されたことがなく、本格的な調査は初めてであった点、かつ、その調査機会の貴重性に鑑み、当初計画にはなかった図録を刊行し、一般にもその成果を還元しようとした点については一定の評価がなされてしかるべきであると考えている。また、この展覧会を受けて、重要文化財　徳川家康・秀忠両坐像の修理について知恩院及び文化庁・京都府と調整し、朝日新聞文化財団助成申請を行い、その決定を見た点でも意義が高かったと考えられる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を遅滞なく果たしている。また、一般公開の機会のほとんどないものを寺院の特別協力を得て、公開を可能とした。知恩院所蔵近世文化財について、文書を除く有形文化財の調査は従来あまり行われていなかっただけに、意義あるものと考える。知恩院については本年度で計画は完了し、所期の目的は達成している。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411B8-3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ク　c. 特集陳列「与謝蕪村」に関連する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
特集陳列「生誕 300 年　与謝蕪村」（8 月 23 日～10 月 2 日）に関わる調査研究

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室研究員　福士雄也

【主な成果】

(1) 当館所蔵品・寄託品に個人所蔵の作品を加え、約 40 件の作品調査と写真撮影を行った。調査の過程で、昭和 3 年（1928）にモノクロ写真が書籍掲載されて以来所在不明だった「東坡宝山昼眠図」（個人蔵）が再発見された。この作品以外に使用例の確認されていない朱文方印「澱南之人」は、蕪村の出生地が摂津国であることを裏付ける研究上の新資料としても注目される。

(2) 作品調査を経て、上記再発見作品を含む 6 件の作品を新たに寄託品に加えることができた。その結果、館蔵品・寄託品のみの構成による 15 件の小規模展示ながら、蕪村の初期から晩年にいたる各時期の優品を揃えることができ、画風の変遷およびその中での各作品の位置付け等、蕪村研究の基礎となる情報を蓄積することができた。特に、雨森章廸の賛を有する「漁夫図」（個人蔵、未出陳）は、蕪村の交友関係を知る好個の資料である。

(3) 展示に合わせ刊行した図録では、全出品作品をカラー図版で掲載し、個別解説を加えた。重文「新宅画賛」（個人蔵）、「山荘会友図襖」（個人蔵）などは、カラーでの図版掲載は初めてのことと思われ、これは蕪村研究という点においても意義のあることといえる。

与謝蕪村筆「東坡宝山昼眠図」

(4) 上記調査研究の成果を観覧者へと還元し、その理解に資するため、作品解説の前にリード文を置くことを試みとして行い、アンケート等を参照する限りおおむね好評を得た。

【備考】
・調査件数　約 40 件
・撮影コマ数　約 100 カット
・講演等　芳賀徹「描かれた『奥の細道』―蕪村から小野竹喬まで」（9 月 10 日）
・図録「特集陳列　生誕 300 年　与謝蕪村」刊行（8 月 23 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
A	生誕300年という節目の年に、京都に縁深い与謝蕪村の作品を特集展示し、図録等を通してその魅力をわかりやすく紹介した。その準備段階における調査研究で蕪村の伝記に関わる作品を見出し、摂津国出生説を補強する資料を提示できたことは、所期の想定を超える成果と言える。展示・図録には、こうした調査研究の成果が反映されている。また、作品調査は新規寄託品の受け入れにも結び付いており、年度計画に叶う成果が得られている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
A	有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究として、京都文化を中心とした文化財の収集・調査研究・展示・教育普及を実施することが中期計画目標として定められている。そのなかで近世絵画分野においては、京都ゆかりの諸画家に関する資料・作品の調査研究を進め、情報を蓄積していくことが必要である。この点で、画家の伝記や画風変遷についての研究を進めることができたことは、新規寄託品の受け入れ件数を含め、当初の想定を超える成果であったと言える。

【書式Ｂ/博】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 1411B8-4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ク　d. 特集陳列「皇室の御寺　泉涌寺」に関連する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
特集陳列「皇室の御寺　泉涌寺」（12 月 13 日～29 年 2 月 5 日）に関わる調査研究

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室主任研究員　羽田　聡

【主な成果】
（1）泉涌寺に伝来した美術作品を語るうえで、欠かすことのできない「日中の交流」「皇室とのつながり」というテーマに基づき、書跡・絵画・彫刻・金工各分野の数ある所蔵品から、調査を実施のうえ、これを体現するに相応しい全 40 件を選び、展示を行った。

（2）全 40 件のうち寄託品は 9 件であり、ほかはすべて泉涌寺、および塔頭寺院から借用した。これらは普段、寺外で公開されることがほとんどなく、とりわけ「三宝大荒神坐像　快慶作」（重要文化財、来迎院蔵）は秘仏として非公開であるため、貴重な機会を多くの来館者に提供することができた。

（3）会期中は講演の開催、並びに刊行物の発行により、10 年以上にわたり中国へと留学し、泉涌寺開山となった俊芿（1166～1227）が日本の仏教さらには文化に果たした役割を、展示作品を交えながらわかりやすく解説し、展覧会をより理解するための一助とした。

（4）上記（2）は近隣社寺との連携という観点に立脚するなら、今後の関係構築においても、展覧会の実現は大きな原動力となることが期待できる。これを間接的に裏付けるように、「観音菩薩坐像（楊貴妃観音像）」（重要文化財、泉涌寺蔵）をはじめ、3 件の彫刻作品について、X 線 CT 撮影による調査を行う許可を所蔵者から得たうえ、会期終了後の 29 年 2 月 9 日および 10 日の両日にこれを実施した。

（5）上記（4）に記した X 線 CT 撮影による調査の結果、「観音菩薩坐像（楊貴妃観音像）」（重要文化財、泉涌寺蔵）については、像内納入品が存在することは知られていたが、従来、言われていたような金属製ではなく、木製であることが新たに判明した。

【備考】
・調査実施　3 回
・出品作品　40 件（うち国宝 1 件、重要文化財 10 件）
・講演等　　2 回　淺湫　毅「泉涌寺ゆかりの仏像」（29 年 1 月 21 日）
　　西谷　功「俊芿律師と泉涌寺」（29 年 1 月 28 日）
・刊行物　　1 点　羽田　聡「博物館ディクショナリー　泉涌寺と俊芿」（29 年 1 月 17 日）
・X 線 CT 撮影　3 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	27年度に実施した特集陳列に比して、【備考】欄に記した実績値はほぼ同数であることから、所期の目標は達成していると判断した。また、通常の特集陳列であれば、収蔵品を用いて行うことが常であったが、博物館外からも多くを借用するという新たな方法を試み、近隣社寺との連携を深めた点、展覧会終了後に実施した X線CT撮影による調査により新たな知見を得ることができた点も判断の材料として加味した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画として立項されている「有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究」に照らし、滞ることなく順調に実施でき、かつX線CT撮影による調査で新たな知見を得たため、所期の目標を達成していると判断した。規模の比較的小さな特集陳列において、記者発表などにより広報活動を行ってはいるが、おもに金銭的な事情から継続的な展開は困難を伴う。こうした点は集客とも結びつくため、情報をどのように発信し続けるかを検討することは今後の課題としてあげられる。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411B8-5

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ク　e. 特集陳列「伊藤若冲」に関連する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
特集陳列「生誕 300 年　伊藤若冲」（12 月 13 日～29 年 1 月 15 日）に関わる調査研究

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室研究員　福士雄也

【主な成果】

(1) 当館所蔵品・寄託品に個人所蔵の作品を加え、約 50 件の作品調査と写真撮影を行った。調査の過程で、従来存在が知られていなかった作品を約 10 件見出すことができた。

(2) 相対的に作例の少ない山水図を 2 点見出すことができたことは、この領域における研究の深化に繋がる成果と言える。うち 1 点は「千画絶筆」印を有することにより 50 歳代と考えられる大作である点貴重であり、またもう 1 点は傘寿の祝いとして配るために制作されたことを示唆する款記を備える点、その人物像に迫る資料的価値を有する。

(3) 初公開となった「六歌仙図押絵貼屏風」（個人蔵）については、最晩年の作例が複数知られる類作との表現上の相違点を指摘し、それらに先行する初発的性格を明らかにした。近年注目が集まる若冲の歌仙絵研究においても意義ある成果と言える。

(4) 昭和 2 年（1927）に当館（恩賜京都博物館）で展示されて以来所在が不明となり、近年再発見された「垣豆群蟲図」（個人蔵）を 89 年振りにふたたび当館で展示した。同時期の類作である「鶏頭蟷螂図」（個人蔵）との比較展示により、晩年期における着色草虫画の特質について知見を深めることができた。

伊藤若冲筆「垣豆群蟲図」

(5) 展示は所蔵品・寄託品から選定することとしたが、作品調査を経て上記新発見作品を含む 8 件の作品を新たに寄託品に加えることができた。その結果、水墨画を中心とした 28 件の展示ながら、若冲の初期から晩年にいたる各時期の優品を揃えることができ、画風の変遷およびその中での各作品の位置付け等、若冲研究の基礎となる情報を蓄積することができた。

(6) 展示に合わせ刊行した図録では、全出品作品をカラー図版で掲載し、個別解説を加えた。新発見作品の図版掲載は、若冲研究における資料の蓄積・共有化という点においても意義のあることといえる。

(7) 上記調査研究の成果を観覧者へと還元し、その理解に資するため、特集陳列「与謝蕪村」に引き続き、作品解説の前にリード文を置くことを行った。

【備考】
・調査件数　約 50 件
・撮影コマ数　約 150 カット
・講演等　坂本英房「若冲の屏風に登場する動物たち」（1 月 7 日）
　　福士雄也「若冲のユーモア」（12 月 17 日）
・図録「特集陳列　生誕 300 年　伊藤若冲」刊行（12 月 13 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
A	生誕300年という節目の年に、京都を代表する画家である伊藤若冲の作品を特集展示し、図録等を通してその魅力をわかりやすく紹介した。その準備段階における調査研究で、山水図および歌仙絵という若冲研究上注目される領域において新知見を得たことは、所期の想定を超える成果と言える。展示・図録にはこうした調査研究の成果が反映されている。また、作品調査は新規寄託品の受け入れにも結び付いており、年度計画に叶う成果が得られている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
A	有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究として、京都文化を中心とした文化財の収集・調査研究・展示・教育普及を実施することが中期計画目標として定められている。そのなかで近世絵画分野においては、京都ゆかりの諸画家に関する資料・作品の調査研究を進め、情報を蓄積していくことが必要である。この点で、画家の人物像や希少主題についての研究を進めることができたことは、新規寄託品の受け入れ件数を含め、当初の想定を超える成果であったと言える。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411B9-1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	a.近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】
科学研究費補助金の若手研究（Ｂ）による事業。書画に付属する極書のうち、近世期に作成されたものを対象として主に書誌学的観点から形式等の諸データについて分類・整理を行うことで、極書を史料として扱うための基礎的研究とする。作品の伝来・伝承等に関する情報抽出にとどまっていた極書そのものを研究対象とし、将来的には鑑定行為全般の文化史的意義の研究へと発展させることを目指す。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室研究員　福士雄也

【主な成果】
28 年度は 4 か年計画のうちの初年度にあたるため、京都国立博物館に収蔵される作品及び京都近郊に所在する作品を中心に極書の調査を行い、基礎データの収集を開始した。

(1)　作品及び極書双方の作者・内容について基本的な情報を整理し、目録化した。30 件弱の作品を目録化することができた。

(2)　数値データや文字情報のみならず、極書の詳細な写真撮影を進め、相互の比較考察を可能とする画像データの蓄積を行った。

(3)　まだ資料サンプル数は少ないが、同一人物による同一フォーマットの極書であっても、記された文言等に若干の相違のある例が見受けられた。こうした差異は何に由来するのか、捏造の可能性はないのか、今後研究を進めるうえで検討すべき材料を得ることができた。

(4)　捏造とは断定できないものの、少なくともオリジナルではない可能性のある極書も見出された。今後研究を進める中で、こうした史料の位置付けも可能となることが期待される。

狩野養信による添状
（一山一寧賛「牛図」の付属資料）

【備考】
科学研究費助成事業の 4 年計画の 1 年目

・目録化した作品：26 件
・撮影カット数：924 カット

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業4年計画の初年度である28年度は、調査した作品・極書の諸データについて目録化を進め、その過程で分類・整理に必要な項目についても随時更新を行った。蓄積されたデータこそまだ多くはないが、史料相互の差異を比較することで分類・整理をよりきめ細やかなものとする見通しが立った。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	・中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。 ・研究は下記のスケジュールで進める計画である。 29年度：京都近郊だけでなく関東方面も含む地域での調査とデータの目録化を進める。 30年度：東海・九州地方でも集中的に調査とデータの目録化を進める。調査データの偏向を確認し、必要なデータの収集に努める。 31年度：引き続き必要なデータの収集に努めるとともに、蓄積されたデータの整理と形式の統一、画像の調整等を行う。展示・報告書等を通じて研究成果を公表する。 28年度の調査作品数は目標の50件を下回り、若干の遅れがある。29年度はさらに多くの作品について目録化を進めたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1411B9-2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	b.東アジアにおける繍仏の基礎的研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】
本研究は、刺繍により仏教尊像や仏教的主題を表した「繍仏」について、日本中世～近世期を中心に、同時期の中国・朝鮮半島など東アジアの作例をも視野に収めつつ、現存作例の調査に基づいて図像・技法・様式を分析することで、仏教絵画史及び染織史の観点から同時代繍仏を総合的・体系的にとらえることを目的とするものである。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長　伊藤信二

【主な成果】
(1)27 年度に続き、国内に所在する中世～近世期の作品について実見調査を実施した。主な作品は以下の通りである。

・重要文化財　刺繍阿弥陀三尊来迎図　1 幅
（滋賀・宝厳寺所蔵）
・重要文化財　刺繍普賢十羅刹女図　1 幅
（滋賀・宝厳寺所蔵）
・刺繍阿弥陀三尊来迎図　1 幅
（東京国立博物館所蔵）
・刺繍種子三昧耶幡 2 流（東京国立博物館所蔵）
・刺繍阿弥陀来迎図　1 幅（神奈川・清浄光寺所蔵）
・刺繍釈迦涅槃図　1 幅（岐阜・恵那寺所蔵）

刺繍涅槃図　恵那寺　　刺繍法王像タンカ　西蔵博物館

(2)チベットのラサ地区を中心に、密教寺院や博物館を訪れ、実見調査を行った。調査寺院や施設は以下の通りである。
・デプン寺・ガンデン寺・セラ寺・葯王山・
ポタラ宮・西蔵博物館・大昭寺（ラサ地区）
・タシルンポ寺・シャル寺（シガツェ地区）
・ミンドゥリン寺・サムイェー寺（ツェタン地区）

【備考】
科学研究費助成事業の 4 年計画の 4 年目

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業4年計画の4年目である28年度は、27年度に引き続き日本国内所在の繍仏作品の実見調査を実施するとともに、これまで調査した作品データの整理を実施した。日本中世～近世期の繍仏を中心に、同時期の中国など東アジアの作例をも視野に収めつつ、現存作例の所在を網羅するという作業は従来ほとんど行われてこなかったこともあり、本研究の意義と成果は大きい。 また本研究の計画の1つであるチベットでの現地調査を実施できたことも大きな成果であった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。 本研究は刺繍により仏教尊像や仏教的主題を表現した「繍仏」について、日本中世～近世期を中心に、同時期の中国や朝鮮半島など、東アジアの作例をも視野に収めつつ、現存作例の調査に基づいて図像・技法・様式を分析し、繍仏を総合的・体系的に捉えることを目的とするものであり、28年度も27年度に引き続いての実見調査と、最終年度であることを踏まえた整理を実施することができた。 繍仏については、研究代表者が平成17年(2005)刊行した書籍『繍仏』以降も未発掘作品が多く発見されている繍仏研究に寄与するものと考える。また昭和39年（1964）奈良国立博物館において実施された特別展「繍仏」以降、作品がまとまった形で公開されたことはない。本研究は、今後繍仏作品の大規模展覧会が開催される上で最新の所在情報や成果を提供することに大きく資すると思われる。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411C1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　復元模写制作に伴う仏教絵画の光学的調査と研究（(4)－①－1）

【事業概要】
仏教絵画の制作当初の姿を復元的に描く模写制作に際し、現状では変色や剝落によって肉眼の観察のみでは判別できなくなっている料絹・料紙や顔料などの素材について、事前に高精細デジタルカメラや蛍光 X 線分析器等を用いた光学的調査を入念に実施し、そこで得られたデータを模写制作に活用・公開する。

【担当部課】	学芸部教育室	【プロジェクト責任者】	室長　谷口耕生

【主な成果】

(1)当館と東京文化財研究所との共同研究による光学的調査の成果データに基づいて実施された国宝信貴山縁起絵巻の復元模写制作の成果について検討を加え、広く公表した。
・特別展「国宝　信貴山縁起絵巻―朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」に信貴山縁起絵巻復元模写（文化庁蔵）を出陳し、図録に同模写の高精細デジタル画像を掲載するとともに、模写制作過程で得られた最新の知見を各論として公表した。

(2)愛知県立芸術大学が進める復元模写制作の基礎資料を提供するために顔料調査を実施した。
・当館調査室において高精細デジタルカメラ等の光学機器を用いた両頭愛染曼荼羅の顔料調査を実施し、顔料の復元について検討を行った（9 月 23 日）。
・大仏頂曼荼羅及び重要関連作品である千手観音像（当館蔵）、普賢延命像（当館蔵）について高精細デジタルカメラを用いた顔料調査を実施するとともに、制作途中の大仏頂曼荼羅復元模写を実査し、顔料等の復元について詳細な検討を行った（11 月 30 日）。

文化庁所蔵信貴山縁起絵巻復元模写（尼公巻）

【備考】
調査回数：2 回（9 月 23 日両頭愛染曼荼羅調査、11 月 30 日大仏頂曼荼羅調査）
調査作品数：4 件（両頭愛染曼荼羅 1 幅、大仏頂曼荼羅 1 幅、千手観音像 1 幅、普賢延命像 1 幅）
論文発表：1 件（「国宝『信貴山縁起絵巻』の復元模写」『国宝　信貴山縁起絵巻―朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝』特別展図録）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	当館と東京文化財研究所が実施した光学的調査の成果に基づいて制作された信貴山縁起絵巻の復元模写を当館特別展「国宝　信貴山縁起絵巻―朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」において展示公開し、同展図録中に制作過程で得られた知見を各論として公表することができた。以上の成果は、29年度から編集を開始する信貴山縁起絵巻の光学的調査報告書にも掲載する計画である。さらに当館館蔵品である両頭愛染曼荼羅及び大仏頂曼荼羅を愛知県立芸術大学が復元模写制作するにあたり、同大学と共同で各種の光学的調査を実施し、そこで得られた成果に基づいて制作当初の顔料を復元的に考察し、復元模写制作につなげることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	信貴山縁起絵巻、両頭愛染曼荼羅、大仏頂曼荼羅という当館を代表する館蔵・寄託品について復元模写を制作するにあたり、過去に継続的に共同研究を実施してきた東京文化財研究所及び愛知県立芸術大学とともに精度の高い光学的調査を実施し、その成果に基づいて研究会等を重ねながら彩色等の復元的考察を加え、着実に復元模写制作に寄与することができた。29年度以降も、愛知県立芸術大学を始め芸術系大学の復元模写制作に寄与するデータが得られるよう、引き続きこれまでと同様の光学的調査をはじめ各種の調査研究を実施する計画である。

【書式Ｂ/博】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　1411C2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　平安時代の大般若経の総合的調査と、歴史資料としての情報資源化に関する研究（(4)－①－1）

【事業概要】
平安時代に日本で書写された『大般若波羅蜜多経』（略して「大般若経」とも）の網羅的な調査を通じて、当該期における写経の形態的特徴を明らかにするとともに、写経遺品から得られる情報を歴史学の研究資料として利用するための基盤を構築しようとするものである。平安時代のなかでも 9～11 世紀のものは情報の共有が不足しているため、本研究ではその時代に書写された『大般若波羅蜜多経』の基礎データの蓄積に重点を置く。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長　野尻 忠

【主な成果】

(1)「安倍小水麻呂願経」（貞観 13 年〈871〉願文）の研究

27 年度に引き続き、慈光寺に伝来する『大般若経』（「安倍小水麻呂願経」）を調査し、本経が発願された背景、書写の場（地域）、書写に参加した人々の階層や人数などについて考察を深めた。

12 月には、寺外に所在する僚巻が、どのような経緯で流出していったかを調査するため、国立公文書館及び宮内庁書陵部、さらには奈良女子大学で関連資料を閲覧した。

(2) (1)以外の平安時代古写経・大般若経関連遺品の研究

平安時代の古写経では、館蔵の紫紙金字『法華経』を、外部の識者（紙染め研究）を交えて調査、意見交換した（6 月 10 日）。また、同時代の中国写経で、入唐僧円珍が我が国にもたらした『金光明経文句』巻下（園城寺所蔵）の調査を、外部の識者（国語学）を交えて調査した（6 月 21 日、9 月 6 日・15 日、10 月 27 日）。

大般若経関連遺品では、奈良時代書写の大般若経、通称「長屋王願経」（瑞光寺所蔵）を調査し（4 月 25 日）、また同じく奈良時代の通称「魚養経」（薬師寺所蔵）を調査した（12 月 7 日）。

(3) 平安時代史料の調査と研究

平安時代の写経を伝えた宗教的環境の研究と仏教関係史料の調査は、東大寺と仁和寺へ赴いて実施した。(4 月 18 日・19 日、東大寺貴重書調査)（7 月 28 日・29 日、仁和寺聖教調査）

(4) 研究に基づく成果

科学研究費助成事業　基盤研究Ｃ「平安時代の大般若経の総合的調査と、歴史資料としての情報資源化」（研究代表者：野尻忠）の成果報告書として、『慈光寺所蔵「大般若経（安倍小水麻呂願経）」の調査と研究』を、29 年 3 月 22 日に刊行した。

図版を多用した研究成果報告書

【備考】
論文等：「大般若経（安倍小水麻呂願経）」の基礎的研究」（上記報告書掲載）他 1 件　　講演会等：4 件
調査及び研究の回数：23 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	28年度は当初の計画どおり研究成果報告書を刊行できた。その内容は、プロジェクト名称に掲げる「歴史資料としての情報資源化」という目的を達成していると評価できる。しかし、27年度までに採取した膨大なデータの整理に時間と労力を要して年度末での刊行となったうえ、調査データを充分に消化して研究を展開できたかは、甚だ心許ない。プロジェクトとしては報告書刊行を以て一区切りとするが、引き続き同テーマの研究に取り組んでいく。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	本事業は、当館がこれまで実施してきた仏教美術研究の蓄積の上に立ち、直接的には前々回の中期計画期間に実施した奈良時代の『大般若波羅蜜多経』に関する総合的研究やを踏まえて、そのノウハウを生かしつつ平安時代の『大般若波羅蜜多経』を調査し、研究を推進しようとするものであった。当初の計画どおり研究成果報告書を刊行できたが、その内容は個別写経の研究が中心となり、平安時代の写経史全体を見渡す視点が弱い。今後もさらなる調査の蓄積に努め、全体像の構築を目指していく。

【書式Ｂ/博】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 1411C3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　仏教工芸・上代工芸の総合的調査（(4)－①－1）

【事業概要】

仏教工芸及び日本上代工芸の総合的な調査・研究を行い、成果を公表する。対象は館蔵品、寄託品、一時預かり品をはじめ、展覧会等に際して借用した作品、他の機関・社寺等が所蔵する作品に及ぶ。また、展覧会の出品候補となる作品や、当館の所在する奈良周辺の文化財など、各所の文化財についても積極的に調査を実施し、基礎情報の蓄積に励む。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸考古室長　清水　健

【主な成果】

(1)　展覧会に関する調査

・特別展「国宝信貴山縁起絵巻」にて借用中の文化財の調査・写真撮影を実施した。
・特別展「忍性」の事前調査を実施し、関係する文化財を調査・熟覧した（6 月 13 日）。
・特別展「忍性」にて借用中の文化財の調査・写真撮影を実施した。
・特別展「春日大社」（30 年度予定）に出陳予定の文化財の、調査・写真撮影を実施した（2 月 27 日、3 月 10 日）。
・特別展「綴織當麻曼荼羅と繍仏の至宝」（30 年度予定）の事前調査を、大和文華館にて行った（3 月 9 日）。

(2)外部資金による調査

・科学研究費　基盤研究（A)「春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究」（研究代表者・湯山賢一）による文化財の調査・熟覧を徳川美術館にて実施した（5 月 11 日）。
・仏教美術協会研究等助成「天台宗の地方展開と鏡像」による文化財調査として、以下の 2 件を実施した。
　①越前市朽飯八幡神社にて、鏡像を調査・熟覧した（9 月 3 日）。
　②島根県村方地区、及び松江市立鹿島歴史民俗資料館にて、鏡像を調査・熟覧した（3 月 2 日～3 日）。
・メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成「８世紀に制作された鏡の図像の意味―法隆寺献納宝物海磯鏡を中心に」による文化財調査として、以下の 3 件を実施した。
　①国立台北故宮博物院・国立歴史博物館において、所蔵する唐鏡を観覧・調査した（12 月 24 日～26 日）。
　②中国・上海博物館において、同館所蔵の唐鏡を調査・熟覧をした（ 12 月 30 日）。
　③中国・上海博物館、蘇州博物館、南京博物院、南京市博物館、浙江省博物館にて唐鏡等の文化財を観覧・調査した（12 月 29 日～29 年 1 月 2 日）。

(3) 経常調査、その他の調査

・修理寄託中の文化財につき、X線撮影を含む調査・写真撮影を行った（4 月 19 日、29 年 3 月 27 日）。
・仏教楽具の調査を唐招提寺にて実施した（9 月 1 日・12 月 18 日）。
・飛鳥資料館にて、奈良文化財研究所とともに、同館に貸与中の館蔵品の光学調査を実施した（11 月 28 日）。
・外部の専門家とともに館蔵品の水瓶について総合的な調査及び検討会を実施した（29 年 2 月 25 日）。
・収蔵する仏教工芸品について随時調査を実施した。

【備考】

・調査　25 回（うち客員研究員・調査員による調査 6 回、海外調査 2 回）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	仏教工芸及び日本上代工芸の総合的な調査・研究を行い、成果を公表するという、事業概要に従い、当初の計画に基づき、概ね成果を達成している。奈良に所在する博物館として、奈良周辺の文化財の調査・研究を継続的に行っており、展覧会の借用品の調査等を通じて、多くの成果を積み重ねることができた。また仏教美術を専門とする博物館として、全国的に研究の層の薄い仏教工芸の研究について、良質な図版を確保し、基礎情報や光学的な調査に基づく基礎データなど、貴重な情報を得ることができた。さらに、海外調査等を行い、国際的な視野による上代工芸の研究に励むことができた。今後これらの一層の充実に傾注したい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	今期は30年度に開催予定の春日大社に関する展覧会、同年度に開催予定の刺繍と織りによる仏画に関する展覧会に関連する調査・研究を重点化するほか、継続して行っている奈良周辺の文化財の調査・研究、仏教工芸に関する調査・研究、上代工芸に関する調査・研究の一層の充実に努めたいと思っている。殊に、光学機器を用いた調査は、成果の待望される分野であり、データの蓄積や分析に力を入れていく必要がある。28年度は初年度として、海外調査や機構内の他の機関との調査協力を達成し、一定の成果を上げることができた。今後は調査回数の増加を図るとともに、対象となる文化財の多角的な調査に励むなど、計画の遂行に一層努力したい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 1411C4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ　墳墓出土品の調査と研究（(4)－①－1）

【事業概要】
当館蔵の墳墓出土品の学術調査を通じて展示活用や研究発信に貢献する

【担当部課】	学芸部列品室	【プロジェクト責任者】	室長　吉澤　悟

【主な成果】

(1)28 年度は当館所蔵の群馬県白山古墳出土品の調査を実施した。白山古墳は北関東の終末期古墳（7 世紀築造と推定）で、昭和 29 年に発掘され、出土品は国有化の後に当館に管理換えされたものである。出土品は蕨手刀や圭頭大刀、鉄鏃等に加え、和同開珎や銅碗（7 世紀末～8 世紀初頭）など珍しい品も含んでおり、古墳時代から奈良時代へと移り変わる時期の地方首長の威信財の有り様を示す貴重な資料である。

(2)調査は、奈良文化財研究所都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）と当館考古部門の「連携研究」として実施した。奈良文化財研究所においては主に、刀剣類の破片部材の同定や実測図作成、写真撮影、和同開珎や銅碗等の成分分析と類例比較、写真撮影などを行い、同時に当館においては主に、昭和 29 年の発掘調査や古墳に関する情報収集や、過去の遺物修理記録の調査などを行った。成果報告は、当館の研究紀要『鹿園雑集』19 号（28 年度末発行）に掲載した。

群馬県白山古墳出土品

【備考】
・成果報告に向けた協議会等実施回数：2 回

・成果報告：1 回（諫早直人、金宇大、降幡順子、大江克己、吉澤悟「群馬県白山古墳出土品の自然科学および考古学的研究」『鹿園雑集』19 号　奈良国立博物館　29 年 3 月）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	館蔵品の詳細な調査と成果発表を行ったことで、当初計画を着実に遂行したと言える。 特に白山古墳の調査・研究では、奈良国立博物館側が出土品の収蔵経緯や保存状況について報告し、奈良文化財研究所は出土武具の調査や銅製品の成分分析などを行い、それぞれを併せて総合的な報告を作成した。研究機関の効率的な連携研究を実現できたことは、今後の調査研究にとって有益と考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	所蔵品の基礎的で総合的な調査研究を実施するという当初計画を着実に遂行することができた。28年度に報告した白山古墳の調査成果をもとに、29年度はさらに関連遺品との比較検討などを含めた考察を進める予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411C5

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	オ　南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】

展覧会への借用品及び館蔵・寄託品、また館外の寺社等において所蔵される作品のなかから、南都に伝来したか、あるいは南都と関連の深い古代・中世の彫刻作品につき、調書を作成し、詳細な記録写真を撮影し、データの収集・蓄積に努める。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　岩田茂樹

【主な成果】

(1) 館内外において多数の作品の調査・撮影を行った。作品名については以下のとおり。
(2) いずれの作品についても、調査の結果、学術的に重要な知見が得られた。
(3) 特別展や名品展における図録の解説や題箋の執筆、あるいは公開講座での報告、また学術研究誌に掲載した論文等に、新知見を反映させることができた。
(4) また調査を契機に、新たな寄託品として収蔵できた作品もある。

［調査対象作品］

現光寺阿弥陀如来坐像（5 月 10 日）／新長谷寺阿弥陀如来立像（6 月 2 日）／正智院不動明王立像（6 月 10 日）／安居院釈迦如来坐像（6 月 16 日）／般若寺文殊菩薩騎獅像（8 月 1 日）岡寺伝如意輪観音坐像（8 月 22 日）／東大寺双身毘沙門天立像（8 月 4 日）／唐招提寺文殊五尊像（9 月 5 日）／御所市伏見区阿弥陀如来坐像（9 月 9 日）／法隆寺観音菩薩立像（9 月 13 日）／常念寺薬師菩薩立像（9 月 28 日）／若王寺智証大師坐像（9 月 28 日）／禅昌寺十二面観音菩薩坐像（11 月 24 日）／當麻寺広目・多聞天立像（12 月 2 日）／百済寺観音菩薩立像（12 月 12 日）／個人蔵地蔵菩薩立像（29 年 1 月 5 日）

［調査の成果］

法隆寺観音菩薩立像については、蛍光Ｘ線分析調査の結果、鉄を多く含む成分比が判明し、白鳳期の銅造彫刻制作工房のグルーピングを考えるに資する成果を得た。安居院釈迦如来坐像については、頭部の別製螺髪が造像当初に近い時期のものであることが初めて判明した。また保存状態に関しても新たな見解が得られた。岡寺伝如意輪観音坐像については、同像に附属する板製光背に描かれた画像につき、近赤外線撮影等の光学的手法による撮影によって、これまで判然としなかった図様に関する新たな情報が得られた。百済寺観音菩薩立像については、これまで未紹介の作品であるが、平安時代中期（10 世紀）にさかのぼる新出資料としての位置づけが得られた。

【備考】

(1)　調査回数　16 回
(2)　岩田茂樹「東大寺・双身毘沙門天立像」（東京国立博物館研究誌『MUSEUM』665 号、12 月 12 日発行）において東大寺双身毘沙門天像について論じ、鎌倉時代前期の慶派仏師の作であり、戦勝祈願などに際して調伏法本尊となるべき性格の尊像であることを指摘した。
(3)　般若寺文殊騎獅像や唐招提寺文殊五尊像に関する調査成果を、特別展「忍性　救済に捧げた生涯」の図録解説や題箋解説に反映させた。
(4)　現光寺阿弥陀如来坐像、御所市伏見区阿弥陀如来坐像の 2 件につき、新たな寄託作品とすることができた。
(5)　新長谷寺阿弥陀如来立像の調査の成果は、29 年度開催予定の特別展「源信」の図録や題箋に、常念寺薬師菩薩立像や若王寺智証大師坐像の調査の成果は、3 年後に開催を計画している「(仮称)木津川流域の仏像」に反映させる。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
A	調査回数は27年度のそれを凌駕し、またその成果は28年度の特別展に反映させることができ、29年度以降の展覧会についてもそれが可能である。蛍光Ｘ線分析調査によって得られた法隆寺観音菩薩立像に関する知見や、安居院釈迦如来坐像の調査の成果は、彫刻史上において大きな意義を有するものである。また調査が契機となって新たに寄託品が増え、名品展の充実に資することもできた。改善点は、調査の成果に基づく学術論文の発表数を増やすことが望ましいと考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
A	南都に伝来ないし南都と関わりの深い古代・中世の彫刻作品について、継続して調書の作成や記録写真の撮影、また光学的手法による調査・撮影を行ったことにより、データの収集・蓄積に充分な成果があった。また調査研究によって重要な知見が得られる等、中期計画の初年度として充分な成果をあげることができた。今後も同様のペースで調査研究を持続したい。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411C6

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	カ　綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】

東京文化財研究所との共同研究「文化財の光学的調査と情報共有に関する基礎的調査研究」に基づいて、当館が所蔵及び保管する仏教絵画を中心とする美術作品について、高精細デジタルカメラや蛍光エックス線分析器など最新の光学機器を用いた文化財調査を実施し、併せてデジタルコンテンツの作成を行うものである。上記の調査を通じて、色料や基底材など作品に用いられる素材の情報や、制作技法に関する情報、補彩・補絹など補修箇所に関する情報を大量・精緻に蓄積し、報告書等でその成果を広く公表することで、美術史的研究や将来の修理に資することも視野に入れている。

【担当部課】	学芸部教育室	【プロジェクト責任者】	室長　谷口耕生

【主な成果】

(1) 当館において国宝聖徳太子及び天台高僧像の光学的調査に関する研究会を実施し、光学調査報告書第 2 冊「特殊画像編」の編集方針の確認及び追加調査計画を協議した（4 月 25 日）。
(2) 聖徳太子及び天台高僧像の奈良博寄託分 7 幅について高精細デジタルカメラを用いた透過エックス線画像の追加撮影を実施（6 月 24 日）。
(3) 奈良・朝護孫子寺において東京文化財研究所研究員とともに国宝信貴山縁起絵巻の光学的調査成果報告書刊行に向けて協議し、撮影データの分析等を行った（7 月 28 日）。
(4) 当館において、共同研究で得られた膨大な画像データ共有の方法、過去に成果報告書として刊行された調査データの WEB 上での公開方法等について、東京文化財研究所研究員と協議を行った（11 月 28 日）。

『国宝聖徳太子及天台高僧像光学調査報告書
―特殊画像編―』

【備考】

調査回数　1 回(6 月 24 日)、調査作品数　1 件（聖徳太子及び天台高僧像 7 幅）
研究会等開催件数　3 件(4 月 25 日、7 月 28 日、11 月 28 日)
刊行物　報告書『聖徳太子及び天台高僧像 第 2 冊』29 年 3 月 31 日刊行

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	16年度から継続的に実施してきた東京文化財研究所との共同研究「文化財の光学的調査と情報共有に関する基礎的調査研究」に基づき、平安仏画を代表する名品である国宝聖徳太子及び天台高僧像について光学的調査の実施及び成果報告書第2冊の年度内刊行に向けた追加調査、編集作業を計画どおり進め、本年度内に刊行した。また29 年度以降に計画されている国宝信貴山縁起絵巻調査成果報告書の刊行に向けて調査データの整理、分析を順調に進めることができた。これら精度の高い調査データは美術史研究や現在計画中の保存修理に際して重要な基礎資料となることが期待される。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	16年度から協定を結んで進められてきた東京文化財研究所との共同研究に基づき、28年度は平安仏画を代表する聖徳太子及び天台高僧像の調査報告書第2冊の刊行に向けて追加の光学的調査及び編集作業を着実に進め、本年度内に刊行した。さらに、すでに光学的調査を実施した国宝信貴山縁起絵巻について顕微鏡写真撮影等の追加調査を実施し、29～30年度にかけて各年度に1冊ずつ分冊の形で合計3冊の調査成果報告書を刊行する計画である。また今後は、これまでの個々の作品調査や研究から一歩踏み込んで、彩色の施された文化財に関する総合的な研究と情報の共有という広い枠組みの中で検討を重ねることで、更なる進展を図りたい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 1411C7-1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　a.特別陳列「お水取り」に関連する調査研究（(4)－①－1）

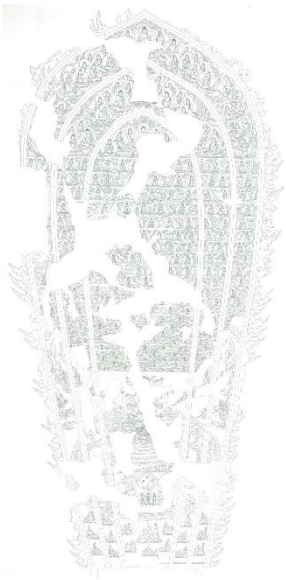
【事業概要】
南都諸社寺等における文化財の調査、宗教文化に関する調査の一環として、奈良において著名な伝統行事の一つである、東大寺二月堂修二会（お水取り・毎年 3 月に催行）に関する調査・研究を行い、その成果を毎年恒例開催となっている特別陳列「お水取り」に反映させる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	情報サービス室長　岩井共二

【主な成果】
(1)東大寺ミュージアムにおいて、文化財担当者と出陳候補文化財に関する打ち合わせを行い、また調査を実施した。
(2)出陳可能な文化財の決定と、その内容の確認を行うことができた。
(3)特別陳列「お水取り」の展示構成、図録に上記の内容を反映させた。

【備考】
(3)文化財担当者との協議の結果、28 年度特別陳列「お水取り」の出陳作品として 24 年度～26 年度に修理を実施した東大寺所蔵「重要文化財　銅造舟形光背」を修理後初めて出陳することができた。修理完了によって、これまで見ることが出来なかった裏面の図様が確認出来るようになり、これによって新たに得られた知見を、同特別陳列を通じて広く発信することができた。
同文化財は 29 年度以降の特別陳列「お水取り」でも重要な構成要素となると考えられることから、引き続き展示を行うことができるよう協議を実施する予定である。

○調査実施回数　　1 回
○展覧会関係講座　　1 回



重要文化財　銅造舟形光背（身光）
トレース図（裏面）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	仏教美術及び奈良に関連する文化財を展示活動の中核に据えている当館にとって、当該ジャンルに関連する多彩かつ魅力的な展示の企画立案・実施は、社会からの要請が最も強い業務の一つである。このような認識から特別陳列「お水取り」の内容を充実させ、かつそれを学術的な裏付けをともなったものとすべく、設定した展覧会のテーマに沿った調査研究を展開してきた。28年度は修理後初出陳となる文化財の展示を行うことで、展示の充実を図ることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	特別陳列「お水取り」の企画立案から開催に至るまでの過程における調査研究は、奈良の歴史・伝統文化の理解促進に資するものであり、当館の事業の中でも重要性が高いものと言える。28年度の展示では修理によって得られた新たな知見を公開することで、調査研究の成果を広く発信することができた。29年度以降も同特別陳列の開催に向けた調査研究を行う予定であり、これを円滑に遂行し、確実な成果の蓄積を進める予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411C7-2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　b.特別陳列「和紙－近代和紙の誕生－」に関連する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】特別陳列「和紙－近代和紙の誕生」に関して、以下の 2 点について調査研究を行った。
(1)　明治期の製紙改良家である吉井源太の調査
(2)　高知県立紙産業技術センターで行っている紙製文化財の紙質調査

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　鳥越俊行

【主な成果】
(1)　現在の和紙は、高知県出身の製紙家吉井源太により明治期に技法や材料の大きな改良が行われている。特別陳列「和紙－近代和紙の誕生」では、吉井源太の日記や製作した紙など彼の業績を中心に展覧会を構成した。吉井源太の出身地である、いの町紙の博物館や高知県立紙産業技術センターで保管されている資料調査を行い、展示に反映した。
(2)　日本の紙文化財は、修理に用いる補修紙を作製するために紙質調査を行っている。本展示では、修理の際に高知県立紙産業技術センターで実施している紙質調査について、当館所蔵の修理作品とともに紹介した。

【備考】
(1)吉井源太に関する現地調査回数：3 回
(2)高知県立紙産業技術センターとの検討会：3 回
(3)印刷用の和紙で展覧会チラシを作成し、16 ページの展覧会図録を作成した。

和紙展の図録表紙

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	明治期に洋紙が輸入されるのに伴い、和紙制作は大きく変貌したが、これまで一般にはほとんど知られていなかった。日本の手漉き紙が和紙として発展した歴史を、高知県いの町出身の吉井源太を中心に開催した国立博物館で初めての展覧会となった。本展示により、博物館･美術館関係者のみならず、紙を扱う技術者や和紙製作者などへ和紙の近代化についての調査成果を公開した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	和紙の展示は単年度の計画であるが、今後も国の施設として和紙に関する情報発信が必要である。このため、29年度は東京大学資料編纂所の共同研究員として、いの町紙の博物館所蔵『吉井源太翁遺文』のデジタルデータ化及び調査研究を行い、近代製紙技術の変遷の解明、江戸期以前の和紙文化財に使用された料紙に関する理解を深化させ、展示等を通じて成果を公開する予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411C7-3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　c.特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に関連する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
春日大社若宮社の祭礼、おん祭の歴史と、春日信仰の美術を紹介する展示。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室員　斎木涼子

【主な成果】
(1) 京都大学附属図書館所蔵「奈良与力橋本家律令雑記」における、おん祭関係史料及び「春日若宮文書」の調査
奈良奉行与力を務めた橋本家の記録、「奈良与力橋本家律令雑記」に含まれるおん祭関係史料は、部分的に論文等で言及されることはあったものの、本格的に紹介されたことはなかった。
また「春日若宮文書」については、国書総目録に見えるものの、実態については不明であった。そこで、両者の概要の調査を行った。
その結果、特に前者については、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」の展示内容に相応しい史料であることが確認された。
(2) 個人蔵「御役所絵図」（奈良奉行所平面図）の調査
個人蔵になる「御役所絵図」は、論文等で言及されたことがあるものの、展示等において紹介されたことはなかった。そこでその概要の調査を行った。
その結果、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」の展示内容に相応しい史料であることが確認された。
(3) 以上の(1)(2)の調査成果を受け、28年度特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」の特集テーマを「奈良奉行所のかかわり」に決定した。またこれにともない、「御役所絵図」と「奈良与力橋本家律令雑記」から4点を選び、展示・紹介することができた。

「奈良与力橋本家律令雑記」のうち春日若宮祭礼書類（左）、春日若宮祭礼手控（右）

【備考】
・調査：京都大学附属図書館　2回（40点）
個人所蔵品　1回（1点）

・斎木涼子　「おん祭と春日信仰の美術―特集　奈良奉行所のかかわり―」（特別陳列『おん祭と春日信仰の美術』図録　展示概説、12月）

・特別陳列『おん祭と春日信仰の美術』（12月10日～29年1月15日、奈良国立博物館東新館）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
A	「春日若宮おん祭」について、従来注目されることの少なかった江戸時代の史料群の調査を行い、その存在を評価し、展示を通じて広く公表することができた。また例年、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」については、主に美術作品や芸能関係資料の調査・研究が続いていたが、今年度は歴史史料の調査を重点的に行い、その結果、今までにない近世の奈良奉行所と奈良の祭事という新しい観点から展覧会を構成することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
A	平安時代以来の長い歴史を持ち、重要無形文化財である「春日若宮おん祭」の歴史、また春日社に対する信仰について、例年新たな切り口を見出し、展覧会を通じてその多様な魅力、歴史・文化における重要性を紹介することができている。特に、今回の成果である未紹介の史料の調査・展示は、新聞等でも取り上げられており、地域における文化財への関心を高めるとともに、美術史・歴史研究の発展にも寄与するものと考える。今後も、祭礼や信仰の様々な側面に関する研究を行い、新たな知見を提示していく必要がある。

【書式Ｂ/博】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 1411C7-4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　d.春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】
当館はこれまでに「春日社」や「春日信仰」をテーマにした数々の展覧会を開催してきたが、春日大社の式年造替（平成 27～28 年）及び春日大社創建 1250 年（平成 30 年）を目前に控えたこの時期に、改めてこれを総合的に研究する事業である。各分野の研究員がそれぞれの専門的立場からプロジェクトに参画し、展示に向けた個別遺品の調査に留まらず、類似の遺品全体を系統的に調べ上げ、丹念に情報収集する形で研究を進める。本研究による成果は、近年当館で毎年開催している特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」や、平成 30 年に予定している特別展「創建 1250 年記念　春日大社展（仮）」に反映する計画である。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　内藤 栄

【主な成果】28 年度は、以下に掲げるいくつかのテーマから春日信仰にアプローチした。その成果の一部は、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術―特集 奈良奉行所のかかわり―」（12 月 10 日～29 年 1 月 15 日）や各研究員が関わった刊行物、口頭発表等に反映された。また、3 年間の研究の集大成として、研究成果報告書を刊行した。
(1) 春日曼荼羅等の絵画資料に関する研究
・5 月 11 日　徳川美術館が所蔵する春日南円堂曼荼羅、鹿島立神影図を調査した。
・5 月 28 日　静嘉堂文庫美術館が所蔵する春日本迹曼荼羅、春日鹿曼荼羅等の仏教絵画を調査した。
・5 月 29 日　根津美術館が所蔵する春日宮曼荼羅、春日補陀落山曼荼羅等を調査した。
・8 月 29 日　米国ニューヨークのブルックリン美術館が所蔵する春日鹿曼荼羅や両界曼荼羅等を調査した。
・8 月 30 日　米国ニューヨークのメトロポリタン美術館が所蔵する春日宮曼荼羅、春日鹿曼荼羅等を調査した。
・8 月 31 日から 3 日間、米国オハイオ州のクリーブランド美術館が所蔵する春日宮曼荼羅・北塔九曜図等を調査した。
(2) 春日若宮祭（おん祭）の歴史に関する研究
・4 月 11 日と 9 月 9 日の 2 回にわたって京都大学附属図書館へ赴き、春日若宮祭関係の資料を調査した。これは、江戸時代に奈良奉行所の与力を務めた橋本家に伝来した史料で、以前から存在は知られていたが、本格的な調査は今回が初めてとなる。調査と研究の成果は、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」の展示内容に反映された。
(3) 春日本地仏に関する研究
・8 月 29 日　米国ニューヨークにおいて、ブルックリン美術館所蔵の神将形頭部等、アジアソサエティ所蔵の地蔵菩薩立像等を調査した。
・8 月 30 日　米国ニューヨークのメトロポリタン美術館が所蔵する如来坐像等を調査した。
・9 月 1 日　米国オハイオ州のクリーブランド美術館が所蔵する菩薩半跏蔵等を調査した。
(4) 春日塔跡出土品の整理
・昭和 40 年代の発掘調査で当館敷地内の春日塔跡から出土した品を順次、整理し、写真撮影した（年間を通じて）。

【備考】
科学研究費助成事業の 3 年計画の 3 年目
刊行物：『春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究』（当館編集・発行、29 年 3 月 31 日）　　論文等：5 件　　研究発表等：2 件　　調査及び研究の回数：8 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の3年目である28年度は、27年度までに実現できなかった米国各所での春日信仰遺品の調査を実施したことと、京都大学の春日若宮文書を本格的に紹介した点が評価される。28年度の実績としては達成しているが、助成申請時に掲げた「遺品全体を系統的に調べ上げる」という計画に対する達成度は低い。そのため左の評定とする。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費の助成を受けた3年間で、春日曼荼羅の調査と研究、春日塔跡出土品の整理などにおいて充分な実績があった。その一部は刊行した報告書に盛り込んだほか、毎年冬に開催している特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」の展示内容にも反映された。また、平成30年に予定する特別展「春日大社」に向けても、有用な成果を上げることができた。しかし、当館のこれまで研究が「個別遺品の調査」に留まっていたことへの反省から、「類似の遺品全体を系統的に調べ上げ、丹念に情報収集する形で研究を進める」とした当初の目標からすると、不足の感が否めない。助成期間は終わるが、引き続き日本仏教美術研究の拠点であるとの自負のもとに、春日信仰あるいは広く南都の宗教信仰に関わる文化財の調査、情報収集に努めていく。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1411C7-5

業務実績書

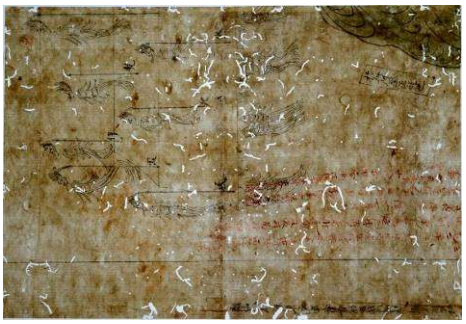
中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査
プロジェクト名称	キ　e.真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】
寺院や公的機関が所蔵する密教聖教について、歴史史料としての側面に着目して調査・研究を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	美術室員　斎木涼子

【主な成果】
(1)　称名寺所蔵聖教（神奈川県立金沢文庫管理）について、目録をもとに金沢文庫において写真帳の閲覧を行った。その後、重要史料と思われるものについては、複写（紙焼きコピー）を申請し、入手した。
(2)　国立公文書館所蔵の『三僧記類聚』について、紙焼き写真をもとに、内容調査を行い、仁和寺本『三僧記類聚』との比較などを行った。
(3)　現在修理中の当館所蔵「神泉苑請雨経法道場図」（重要文化財）について、解体修理の各過程を確認し、その際に密教の修法図面である道場図の制作方法、使用顔料などについて、新たな知見を得た。
(4)　27 年度及び 28 年度の調査によって得られた史料や情報について、整理・検討を行った。

「神泉苑請雨経法道場図」紙背からの状態確認


「神泉苑請雨経法道場図」細部

【備考】
科学研究費助成事業の 2 年計画の 2 年目
・調査：神奈川県立金沢文庫（称名寺所蔵聖教写真帳調査）　1 回（30 点）
　　当館文化財修理所（「神泉苑請雨経法道場図」調査）　3 回（1 点）

・斎木涼子「忍性と祈雨」『忍性―救済に捧げた生涯―』特別展図録（コラム）　奈良国立博物館　7 月
　斎木涼子「内侍所神鏡をめぐる儀礼」第 18 回洛北史学会大会「儀礼研究の可能性―王権・宗教・外交―」（研究報告）於京都府立大学会館　6 月 4 日
　斎木涼子「平安時代の宮中仏事」（サンデートーク）　於当館講堂　11 月 20 日

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業2年計画の2年目である28年度は、27年度の調査の遅れを取り戻しながら、新たな調査を進めた。新たに入手した図書・資料等により、講演・講座の内容をより正確かつ充実したものにすることができ、それらの図書・資料により、今後の新たな検討素材などを得ることができた。 また、2年間の調査成果を検討し、未紹介史料の内容確認や聖教における平面図の作成手順など、様々な知見を得ることができた。今後、得られた情報や知見を、順次論文や報告で発表していく予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って調査研究を実施した。 27年度より始まった2年計画の1年目・2年目ともに予定していた調査を終える事ができた。また2年間の調査成果を検討し、様々な知見を得ることができた。今後、得られた情報や知見を、順次論文や報告で発表していく予定である。 さらに、今回の研究テーマを発展させる内容で、29年度に科学研究費を申請しており、28年度新たに見出した研究課題を継続的に研究していく予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411D1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究 （(4)－①－1）

【事業概要】
Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長兼環境保全室長　木川りか

【主な成果】

Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析をするためには元となるＣＴデータがどれだけ物質の特徴を捉えているかを検証することが必要である。28 年度は漆工芸品と鋳造品についてＣＴデータの見え方の検証を行った。

（1）漆工品木地構造調査のための解析研究

漆工芸品の木地構造の特徴を検証するため、Ｘ線の出力を 225kV とし、Ｘ線管に装着するフィルターによる見え方の検証を行った。その結果、木地構造がより鮮明になるなど成果が得られた。この成果はサントリー美術館所蔵の漆工芸品や徳川美術館所蔵の「初音の調度」の共同研究に応用し成果を得ている。現在、報告書作成に向けてデータ整理等を行っており、29 年度には学会発表を予定している。

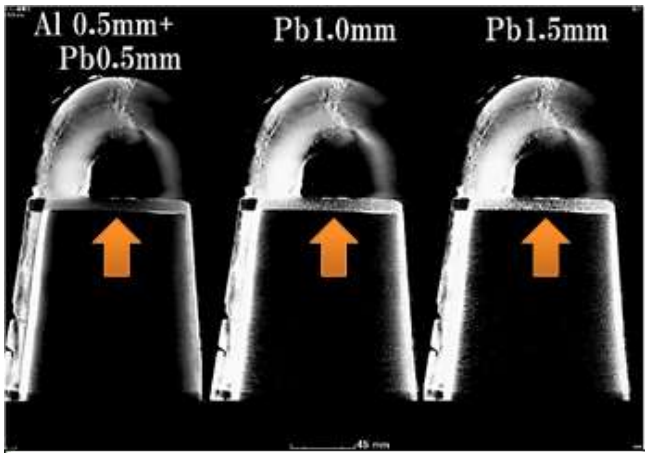


図 1 フィルターによるコントラストの違いの検討例

（2）鋳造品の製作技法解明のための解析研究

鋳造品はその鬆（す）の入り方の見極めが重要であり、製作技法の解明にもつながる。鋳造品などの金属を解析するためにＸ線の出力を 320kV とし、積分撮影時間とフィルターによる見え方の検証を行った。図 1 は銅鐸の断面Ｘ線画像である。同一条件でもフィルターの違いによって矢印部のコントラストの違いが顕著であることがわかった。これらの検証結果は金属製の考古遺物の撮影に応用することができる。調査結果については学会や論文等で公開予定である。

【備考】
・調査件数：4 件・調査回数 108 回
・赤田昌倫，他 4 人：
X 線 CT スキャナを用いた国宝「初音の調度」見台の構造調査　日本文化財科学会第 33 回大会 2016 年

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	・調査回数は108回に上り、年間を通して調査研究を実施することができた。 ・ＣＴデータのノイズが軽減されたことで観察の精度が上がり、各種調査の進展につながった。 ・特に28年度の成果から漆工品や鋳造品の構造調査が進展し、報告書や学会発表で明らかにすることができた。 ・29年度も研究を継続させ、材質にあった調査方法の確立を目指す。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	・Ｘ線ＣＴの撮影方法の改善による鮮明なＣＴデータの取得については常時検討しており、中期計画に沿って研究内容の水準を保ちながら順調に調査研究を遂行できた。29年度も継続して実施する予定である。 ・改善されたＣＴデータから構造に直結するデータ解析の方法についても検証し、漆工品であれば木地構造の解析を、鋳造品であれば湯の流れの解析を行う予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411D2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　日本中近世の工芸、特に茶道具に関する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
美術史的・文化史的視点に立脚して、中世から近世に日本で誕生し発展した工芸品、特に茶道具に関する継続的な調査研究である。当館にとって重要なテーマの一つである茶の湯に関する展示・収集等に研究成果を反映することを目標とする。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	アソシエイトフェロー　酒井田千明

【主な成果】
（1）縞蒔絵螺鈿茶箱（サントリー美術館所蔵）の調査を行い、トピック展示「きらめきで飾る－螺鈿の美をあつめて」（会期：11 月 15 日（火）～12 月 23 日(金)）の展示および展覧会図録に活用した。

（2）南蛮砂張棒之先水指（五島美術館所蔵）の調査を行い、特別展「タイ―仏の国の輝き―」（会期： 29 年 4 月 11 日（火）～6 月 4 日（日））の展示および展覧会図録に活用する予定である。

（3）主に文化交流展示における茶の湯に関する展示で活用予定の、福岡市美術館および田中丸コレクション所蔵の茶道具（28 年度から 30 年度にかけて当館で預かり）の調査を実施した。

（4）29 年度の特別展「新・桃山展―大航海時代の日本美術」および文化交流展示における茶の湯に関する展示につなげるべく、主に国内の博物館・美術館所蔵の茶道具について情報収集を行った。
訪問した主な所蔵先は、東京国立博物館、京都国立博物館、三井記念美術館、野村美術館、五島美術館、彦根城博物館、本間美術館、味楽窯美術館、個人宅（東京）等。

「肩衝茶入　銘　松永」（福岡市美術館所蔵）

「絵唐津菖蒲文茶碗」（田中丸コレクション所蔵）

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	28年度に計画していた研究や課題について予定どおり実施することができた。調査研究成果を次年度以降の特別展および文化交流展示や、作品収集へとつなげることが課題である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	当初目標は達している。29年度の特別展「新・桃山展―大航海時代の日本美術」および文化交流展示の茶の湯に関する展示において、これまでの研究成果を活用する予定である。今後も継続的な調査を実施するだけでなく、さらに調査対象を広げ、分野を横断した情報共有・整理を行うことが課題である。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411D3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　近世キリスト教に関する研究（(4)－①－1）

【事業概要】

キリスト教の日本伝来と禁教に関わる作品展示は、文化交流展の重要なテーマとして、20 年度より、毎年度実施してきた（リニューアルのため一時中断した 27 年度は除く）。「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」（28 年 9 月に名称を「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」から変更）が世界遺産登録を目指す動きがあるなか、近世日本におけるキリスト教の歴史や信仰に関する研究を進めるとともに、展覧事業等を通じて、研究成果を一般により広く発信する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室研究員　松浦晃佑

【主な成果】

（1）「キリスト教の伝来と禁教」というテーマのもと、キリスト教が日本に伝来した頃から、明治時代に至るまでの近世の作品を中心に、日本のキリスト教の歴史を追えるように作品展示を行った（9 月 14 日から 29 年 3 月 31 日まで）。また、9 月 14 日に、観覧者に向けて作品解説を行い、展示内容を深く理解してもらうよう努めた。さらに、26 年度まで実施していた展示内容の刷新を目的に、平戸市生月町博物館島の館において、「かくれキリシタン」に関する調査研究を行うとともに、同館より作品の展示に関する協力・助言を得た。

「キリスト教の伝来と禁教」展示風景

（2）当館研究紀要『東風西声』第 12 号（29 年 3 月刊行）に、「『南蛮通詞』試論」を掲載した。28 年度以前より国内外の機関で史料収集を進めてきた成果を公表した。この論考で、キリスト教が禁止された近世日本において、キリスト教宣教師や信者の一部が、通訳として日本と海外との間で行われたコミュニケーションの一端を担っていたことを紹介した。

【備考】

松浦晃佑　「『南蛮通詞』試論」『東風西声』第 12 号（29 年 3 月刊行）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	キリスト教に関する遺産を世界遺産に登録しようとする動きがあるなか、文化的に、また政治的にも、日本社会に多大な影響を与えたキリスト教に関する調査研究は、その歴史や信仰のあり方をより深く理解する上で重要である。28年度は、刊行物を通じて、調査研究の成果を発信することができた。また、展覧事業に関しては、近世の作品を中心に、キリスト教の伝来から禁教、禁止解除までの歴史をたどる作品展示を行うことができた。他館との連携も深めることができ、28年度に得た成果を、29年度以降の展覧事業で活用したい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした調査研究を行う中期計画の下、ヨーロッパから、アジアを経由して伝えられたキリスト教の歴史を、近世の作品を中心に、展覧事業を通じて広く紹介することができた。また、調査研究の成果を刊行物で公開し、日本とアジア、ヨーロッパとのコミュニケーションを担うキリスト教宣教師や信者たちがいたことを紹介し、近世日本における交流の様相を明らかにした。29年度以降は、他館の協力を得ながら、28年度の成果を生かしていく。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411D4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ　高等学校が所蔵する考古資料に関する研究（(4)－①－1）

【事業概要】

全国の高等学校には現在、校内遺跡出土品、歴史系部活動による発掘調査出土品等、様々な来歴の考古資料が保管されている。高等学校所蔵考古資料の実態把握は、考古学研究上の重要性に加え、社会史的、教育史的意義を有する。しかしながら、考古学的知識を有する教職員の不足から、十分な管理、活用が行われているとはいえない状況にある。本研究は、高等学校所蔵考古資料の更なる活用にむけて、全国的な調査を実施し、その成果を展示等の博物館活動を通じて広く公開するものである。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	展示調整室主任研究員　今井涼子

【主な成果】

（1）高校所蔵考古資料の調査

・28 年度は、29 年度以降の資料調査のための情報収集を行った。福島県、島根県、沖縄県について資料調査の候補となる高等学校の情報を得ることができた。

・京都府京都文化博物館「京都府内の学校所蔵考古・歴史資料展」・博学社連携シンポジウム「学校の‘たからもの’を発掘しよう！学校所蔵考古・歴史資料のこれから」、和歌山県立紀伊風土記の丘「学校にあるたからもの」を調査した。関係者と情報交換を行うとともに、各府県内の考古資料所蔵高等学校について概要調査を行った。

（2）トピック展示の実施

・27 年度に実施した調査の成果を、真夏のトピック展示「全国高等学校考古名品展 2016」（会期：7 月 20 日～9 月 25 日）で紹介した。

・企画課と連携してトピック展示会場内に「考古学研究部部室コーナー」を設け、展示している考古資料と高校生の部活動の関連性を示すとともに、考古学という学問を身近に感じられるよう演出した。

・企画課、博物館科学課と連携して、「瞳のある土偶」（松商学園高所蔵）の X 線 CT 画像とレプリカを活用した体験コーナーを設けた。考古資料の科学的データを用いた体験事業や展示の方法等について情報収集できた。

（3）体験事業の実施

・交流課と連携して「なりきり考古学者体験スペシャルバージョン」（8 月 27 日、9 月 17 日）をトピック展示会場内で実施した。考古資料担当研究員の指導のもと、ハンズオン用の土器を使用した。展示室内で実施したため、観覧者も間接的に体験することができた。

なりきり考古学者体験の様子

（4）「全国高等学校考古学フォーラム」の実施

・26 年度、27 年度に引き続き、「全国高等学校考古学フォーラム」（8 月 6 日）を実施した。高校生による研究発表に加え、きゅーはく女子考古部の協力によるワークショップも行い、フォーラムの構成に変化をもたせた。

・博物館実習生にスタッフとして役割をもたせ、効果的な実習とすることができた。

【備考】

調査回数：2 回　Ｘ線ＣＴ分析：6 件　3 次元計測：1 件　新聞取材：6 件（朝日、毎日、西日本他）

論文等：今井涼子「高校考古―ある博物館の取組み」『歴史地理教育』29 年 2 月号

赤田昌倫、今井涼子、西島亜木子、田中麻美、鮫島由佳、平山絵理子「真夏のトピック展示「全国高等学校考古名品展 2016」における考古資料の 3 次元データの公開活用について」『東風西声』第 12 号

刊行物：真夏のトピック展示図録『全国高等学校 考古名品展 2016』

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	資料調査とトピック展示の実施が、高校所蔵考古資料の認知と再評価、高校と地元資料館等との連携事業実施の契機になった。こうした外部からの働きかけが高校自身による資料の再発見、再認識へとつながり、考古資料の新たな活用が始まっている。 わかりやすさと専門性のバランスに配慮し、考古資料と考古学に親しめる体験メニューを開発した。更に工夫を重ねることで、博物館での実施に留まらず、高校での考古資料の有効活用につなげることが可能である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	資料調査とトピック展示の実施が、高校内外での新たな活動の契機となった。この動きは始まったばかりであり、高校所蔵考古資料の基礎的情報の蓄積と公開を継続していくことが必要である。体験事業等を通じて高校との連携を継続、強化し、博学連携事業として発展させていくことも可能である。

【書式Ｂ/博】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 1411D5

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	オ　水中遺跡の保存活用に関する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】

日本国内における水中遺跡保護の体制の確立を目的とし、国内外の水中遺跡の保存と活用に関する取組を調査した。特に以下の 4 点の課題項目を設定した。①国内における水中遺跡保護に関する詳細調査。②国内の水中遺跡の探査・保存・活用の手法に関する調査研究。③諸外国における水中遺跡の探査・保存・活用に関する取り組み状況調査。④最終報告に向けたこれまでの調査研究のとりまとめ。これらの成果はシンポジウム等での発表を行い、また、事業成果報告書を作成した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　小泉惠英

【主な成果】

①国内における水中遺跡保護に関する詳細調査

モデルケースとして 4 県（新潟県、滋賀県、福岡県、長崎県）について、周知の遺跡の詳細と現状把握、文献に掲載された沈没船・漂着物等に関する情報、また、それぞれの県内の水中文化財保護に対する体制についても情報の収集を実施した。また、日本各地の県史及び市町村史に残された漂着や沈没の記録の収集を実施しており、29 年度にこれに基づいたデータベースを作成する予定である。

中国現地視察の様子（南海 1 号沈没船）

②国内の水中遺跡の探査・保存・活用の手法に関する調査研究

福岡県及び宗像市の協力のもと、遺跡探査技術の理解を深めるため、福岡県沖ノ島周辺にて海底探査を実施した。また、地方自治体が主体となって実施した遺跡調査事業（福岡県新宮町及び沖縄県多良間村）においては、水中での記録作業や活用方法などの技術協力を行った。保存手法と活用・展示方法の研究として、長崎県松浦市の鷹島海底遺跡・新宮町相島海底遺跡の出土遺物の X 線 CT スキャンによる調査を実施した。

③諸外国における水中遺跡の探査・保存・活用に関する取り組み状況調査

水中で現位置のまま保存された遺跡の活用方法について、海底ミュージアムの先進的な事例として知られるイタリアのバイア海底公園にて現地調査を実施した。また、中国の南海 1 号船の引き上げプロジェクトと保存処理の手法について現地の海のシルクロード博物館（広東海上糸絹之路博物館）にて調査を実施した。イタリア・中国における水中文化遺産の保護体制について現地にて専門職員と協議を行ない、関連法案や遺跡保護への取り組みについて理解を深めた。

④最終報告に向けたこれまでの調査研究のとりまとめ

25 年度から実施している諸外国の調査の中から、オーストラリア及びオランダについて保護管理体制やキャパシティービルディングについて再考察を実施した。また、国内の実践的な探査方法や活用について、琵琶湖の湖底遺跡の活用について調査を実施した。

【備考】

文化庁の取組：水中遺跡調査検討委員会（2 回）、文化財担当員協力者会議（2 回）、研究会（2 回）
調査件数：計 8 回（海外調査 2 回、国内水中遺跡調査 3 回、出土遺物調査 3 回）
発表件数：計 7 回　世界考古学会議（3 件）、新安沈船 40 周年記念シンポジウム（韓国）、他
報告件数：1 件 『水中遺跡の保存活用に関する調査研究４』（文化庁報告書）
取材：新聞（読売、朝日、西日本、宮古毎日新聞　他）、　テレビ（NHK、韓国 MBC　他）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	28年度に予定していた4項目について、予定通りに実施した。特にイタリア・中国の現地調査では、具体的な活用や展示の事例について学ぶことができた。国内の遺跡調査研究では、今後の調査に関して期待が持てる成果を得ることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	28年度の事業は、文化庁事業として5ヵ年計画の内の4年目に該当し、最終報告に向けて日本における水中遺跡保護の体制に関して、その方向性を打ち出すことを主眼とした。29年度では、28年度の事業のうち、特に①国内における水中遺跡保護に関する調査で得られた結果をもとに、さらに詳細な調査を実施し、また、調査エリアを拡大する。最終年度として、これまでの調査の総まとめを行い、特に活用に重点を置いた事業を展開する。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411D6

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	カ　タイの歴史・美術に関する研究（(4)－①－1）

【事業概要】
九州国立博物館とタイ王国文化省芸術局における学術文化交流

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室長　原田あゆみ

【主な成果】
本事業は、25 年度にタイ王国文化省芸術局と締結された学術交流協定のもとに継続されている事業で、日タイ両国における共同調査を基本とする。28 年度の研究成果は以下の通りである。

（1）交易品、美術工芸品、伝統及び文化交流等に関する共同研究として、タイとは古くから交流の歴史をもつ琉球の調査研究を行った。沖縄県立博物館・美術館、沖縄県立埋蔵文化財センター、首里城公園美術館、今帰仁城にて琉球とタイの交易資料の調査を行った。また、那覇市歴史博物館、那覇市壺屋焼物博物館、浦添市美術館、名護市博物館にて琉球文化の調査を行った。タイ側に新たな資料を提供できたのみならず、沖縄県側にもタイ側の資料情報を提供することができた。

（2）地域に開かれた市民参加型の博物館づくり及び広報活動に関する共同研究として、国立民族学博物館、大阪市歴史博物館、東京国立博物館、江戸東京博物館で調査を行った。本調査はタイ王国芸術局の要望により実施されたもので、タイにおける博物館活動の推進に寄与するためのものである。

（3）博物館事業に係る共同事業及び学芸員、研究員等の人材交流として、当館の教育普及、ボランティア活動担当者および学芸員による視察および意見交換会をタイにおいて行った。

（4）タイの歴史・文化を博物館来館者に興味をもって理解してもらうために、両国の教育普及担当者が共同調査を行い、教育普及コンテンツについて研究した。

バンコク国立博物館での教育普及調査の様子

【備考】
上記の調査研究の実施、参加者数は以下のとおり。

（1）交易品、美術工芸品、伝統及び文化交流等に関する共同研究： 8 月 27 日～9 月 2 日
（タイ側参加者 6 名、日本側参加者 3 名）

（2）地域に開かれた市民参加型の博物館づくり及び広報活動に関する共同研究： 8 月 29 日～9 月 3 日
（タイ側参加者 5 名、日本側参加者 3 名）

（3）博物館事業、特に教育普及に係る共同事業及び学芸員、研究員等の人材交流：29 年 1 月 14 日～1 月 20 日
（タイ側参加者 7 名、日本側参加者 3 名）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	本研究は、学術交流協定をもとに計画的に進められている。28年度は学術交流締結から4年目にあたり、計画されている共同研究テーマを具体的に実施することができた。5年目となる29年度は共同セミナーを開催することになっているため、具体的な日程、プログラムを日タイ双方で早めに確認する必要がある。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	計画にある有形文化財の収集に関しては、28年度については具体的に実施しなかったが、学術交流協定の計画の大綱に沿って、年度毎に課題を選んで共同研究を実施している。29年度に実施を予定している共同セミナー、報告書作成においては展覧事業・教育普及活動以外にも、作品収集・保管等に関する報告を行う予定である。

【書式Ｂ/博】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 1411D7-1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　a.トピック展示「火縄銃の世界」に関連する調査研究（(4) －①－1）

【事業概要】

火縄銃の歴史的展開について、九州を中心とした調査および展示を行い解明する。地域・時代ごとの形式上の差異などに注目し、展覧会事業等を通じてその成果を広く発信する。また、調査で得られた知見を踏まえて、新たな資料の掘り起こしを行う。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	資料登録室研究員　望月規史

【主な成果】

(1) 九州を中心として国内 11 機関で調査を行い、トピック展示「火縄銃の世界」(7 月 12 日～9 月 4 日) の展示及び展覧会リーフレットに活用した。
(2) 8 月 17 日に堺市博物館からの依頼により、トピック展示「火縄銃の世界」を案内・解説し、火縄銃資料の展示方法などについて指導を行った。
(3) 12 月 19 日に、甘木歴史資料館からの依頼により、火縄銃（6 挺）の調査および展示指導を行った。
(4) 29 年度の特別展「新・桃山展―大航海時代の日本美術」および文化交流展示における武器・武具に関する展示に活用するため、国内の博物館所蔵の火縄銃および関係資料について各種の情報収集を行った。

「火縄銃の世界」会場写真

【備考】

制作物：トピック展示用リーフレット
調査地：計 11 機関
靖國神社遊就館（5 月 19 日）、都城島津邸（5 月 29 日）、静岡市文化財資料館（6 月 4 日）、国立歴史民俗博物館（6 月 15 日）、平戸市生月町博物館・島の館（6 月 24 日）、大分県立埋蔵文化財センター（7 月 4 日）、佐伯市歴史資料館（7 月 4 日）、長浜城歴史博物館（9 月 10 日）、種子島開発総合センター鉄砲館（9 月 23 日）、堺市博物館（10 月 29 日）、甘木歴史資料館（12 月 19 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	展示品と類品及び関連作品を比較しながら多くの資料を調査することができた。また、ＣＴ調査の結果から、非接触・非破壊で火縄銃の構造などを観察でき、大きな成果を得た。その成果を28年度最初のトピック展示に反映し、当初計画通り遂行することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	当初計画に沿って研究内容の水準を保ちながら順調に調査研究を遂行できた。日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした調査研究を行う中期計画のもと、29年度の特別展「新・桃山展―大航海時代の日本美術」および文化交流展示の武器・武具関する展示において、これまでの研究成果を活用する予定である。今後も継続的な調査を実施していきたい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 1411D7-2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　b.トピック展示「きらめきで飾るー螺鈿の美をあつめてー」に関連する調査研究（(4)－①－1）

【事業概要】
本プロジェクトは、螺鈿をテーマとしたトピック展示の作品選定、図録執筆を前提に、国内に所蔵される螺鈿器の調査研究を行ったものである。その成果はトピック展示の展示及び図録において公表した。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	資料登録室主任研究員　川畑憲子

【主な成果】
本トピック展は、国内に所蔵される中国、朝鮮半島、日本、琉球、タイ、ベトナム、インド製の螺鈿器を通じて、アジアに広がる螺鈿の文様や技法の歴史的な変遷を紹介することを目的とした。
本トピック展を準備するにあたり、以下の美術館・博物館の協力のもと、約 60 件の作品を実見、調査を行い、各機関の研究者とも意見を交換した。
本トピック展（11 月 15 日～12 月 23 日開催）は、沖縄の浦添市美術館との共催で実施し（浦添市美術館は 29 年 1 月 14 日～2 月 19 日開催）、全体の構成や作品選定については、浦添市美術館と綿密に連絡を取り、相互に連携協力した。また、琉球螺鈿の調査研究については、浦添市美術館の大きな協力を得た。
トピック展示（総出陳件数 88 件）では、制作地別の解説パネルや作品紹介キャプションを設置して、観覧者の理解を助けるよう努めたほか、作品写真および各個解説、展示概説「きらめきを愛でる、アジアの螺鈿」を掲載した図録を刊行した。

出陳作品のうち「花鳥螺鈿合子」
（福岡市美術館）

【備考】
調査実績：国内 15 か所
東京国立博物館、根津美術館、五島美術館、サントリー美術館、鎌倉国宝館、徳川美術館、大和文華館、奈良国立博物館、京都国立博物館、京都（個人）、白鶴美術館、福岡市美術館など。
調査作品点数：63 件
川畑憲子　トピック展図録「きらめきで飾る-螺鈿の美をあつめて-」概説「きらめきを愛でる、アジアの螺鈿」

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	浦添市美術館を中心に国内の博物館、美術館と緊密に連携をとり、アジアに広がる螺鈿の文様や技法の歴史的な変遷について調査研究を進めた。その成果をトピック展示に反映し、広く一般に発信することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画「(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究」に基づき、螺鈿に関する調査研究を進めて、その成果をトピック展示に反映し、広く一般に発信することができた。 今回の調査研究において得られた知見を今後の展覧事業・教育普及活動に反映させていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411D7-3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　c.日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究(科学研究費助成事業)（(4)－①－1）

【事業概要】
これまで知られてきた日タイ交流史料を新出の交易・文化交流資料から見直し、日本とタイの文化交流の実相を再構築することを目的とする。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室長　原田あゆみ

【主な成果】
日タイ合同の研究会を開催し、統合的に研究を進めている。タイ現地調査は研究協力機関であるタイ王国文化省芸術局の研究者も参加・補佐し、情報を共有している。

(1) タイにおいては、交易ルート、具体的な交易品、出土・伝来資料、また交流に係る記録資料の調査を行った。交易ルートは、古代のマレー半島とタイ湾をめぐる交易路についてタイの研究者を交えて現地調査を行い、主要な港市の立地、社会的背景を確認した。出土・伝来資料としてはアユタヤーの仏塔に納められた金製品ほか、他国からもたらされた品物を具体的に示した。交流に係る記録としては、タイ近代資料（公文書館資料や王族の日記）に記された日本に関する記録を収集した。

(2) 日本においては、日本への伝来資料、記録資料の調査を行った。具体的にはタイ関係資料のうち日本国内で茶道具として使用されてきたもの、仏教僧の交流により日本に贈られたものなどである。

(3) 日本とタイに伝わる更紗の研究として、明治初期にタイから日本にもたらされた貝葉写本と包裂、江戸時代に日本に伝わった更紗裂帳、タイに伝わる更紗を比較調査した。この成果は、本科研のデータベースに反映されるだけでなく、大谷大学真宗総合研究所の調査研究事業にも有効に活用されている。

大谷大学における
貝葉写本包裂の調査

【備考】
科学研究費助成事業の 3 年計画の 2 年目
発表等：原田あゆみ「日本に伝わるパーリ語貝葉写本と包裂について」
日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究第 3 回研究会（10 月 29 日　堺市博物館）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の2年目である28年度は、収集してきたデータの整理と平行して、国内外の調査を進めた。本研究はタイ芸術局との信頼関係の下に進められ、情報公開や意見交換を行うなど相互補完的に研究成果を蓄積することができた。しかし、タイ以外で予定していた海外調査を実施することができなかった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財に関連する調査研究を実施した。29年度が最終年度となるため、調査成果の整理を進めていく時期に来ているが、一部予定していた海外調査が実施できていない。29年度は年度前半に調査を終了させ、後半は報告書を作成予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411D7-4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　d.在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究（科学研究費助成事業）（(4) －①－1）

【事業概要】
これまで日本からの調査の手が充分に及んでいない在欧博物館等を中心に、日本仏教美術作品の悉皆調査を推進し、並行して新たな仏教美術作品の発掘も図る。調査で得た画像と情報をデジタル化し共有することによって、欧州における日本仏教美術研究の進展に寄与することも目指す。

【担当部課】	九州国立博物館	【プロジェクト責任者】	館長　島谷弘幸

【主な成果】
(1) 下記の調査を行った。
・5 月 5 日～8 日、ギリシャ国立博物館にて、日本仏教美術作品（彫刻、工芸など）の調査及び撮影を行った。
・7 月 6 日～9 日、フィンランド・ヘルシンキ国立博物館にて、館蔵品データや今後の調査方法について担当学芸員と面談調査を行った。また、同じくフィンランド・ヨーエンスー芸術博物館にて、日本仏教美術関係作品（仏像、絵画など）の悉皆調査及び撮影を行うとともに、今後の調査方法について協議した。
・11 月 17 日～22 日、ドイツ・DKM 博物館、フォルクワング美術館、ハンブルク美術工芸博物館にて日本彫刻の調査及び撮影を行い、館長及び担当学芸員と今後の調査方法について協議をした。ユネスコ世界文化遺産フェルクリンガー・ヒュッテ製鉄所展覧会「大仏陀展」を視察し、一部について作品調査も行った。

ＤＫＭ美術館での調査（神像）

・29 年 3 月 6 日～12 日、ドイツ・ケルン東洋美術館及びスイス・ジュネーブ民俗学博物館にて日本美術作品（絵画、書跡など）の調査及び撮影を行った。
(2) 各機関での調査に際しては現地の学芸員と面談調査を行い、今後の調査研究にとって有意義な情報と人脈を得ることができた。また資料や図録等の収集なども積極的に行い、29 年度以降の調査を円滑に進めるための準備を進めることができた。

【備考】
科学研究費助成事業の 3 年計画の 1 年目
現地調査回数　4 回
調査作品件数　80 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の初年度である28年度は、これまで継続して行ってきた調査で、調査対象となっていた美術館・博物館でほぼ予定通りに調査及び資料の収集を行うことができた。調査対象に含まれていなかった美術館・博物館でも、今後の調査実施に向けて情報収集及び交渉を行った。データベースの充実に向けて、各機関との協力関係を築き、ネットワークの形成を強固なものとできたことは意義深い。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	・29年度も調査対象とある日本仏教美術作品を所蔵する機関での調査を実施するとともにデータの蓄積をし、最終年度となる3年目には調査成果をデータベース化し公開することと報告書の作成を目指す。28年度は29年度以降の下地を作るべく情報収集を積極的に行うとともに、調査も順調に進展した。 ・各国の博物館・美術館との協力体制が構築できたが、調査受け入れ先である博物館・美術館の要望に合わせた研究分担者、研究協力者の日程調整が難しい点は課題である。各機関との交渉及び協議を重ね、より円滑な調査活動を行いたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411D7-5

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　e.極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－（科学研究費助成事業）（(4)－①－1）

【事業概要】
戦国時代（紀元前 5 世紀）以降の中国で急速に普及していった、厚さ 1mm に満たない青銅製容器「極薄青銅器」の製作技術について、3D スキャン、蛍光 X 線元素分析装置など光学機器の使用を含む多角的な分析と製作実験により解明する。また、南北朝時代（5 世紀）以降に流行した轆轤挽きによる薄作りの青銅器「響銅」の製作技術との比較を通して、中国金属工芸史の再構築につながる基盤研究を行う。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室主任研究員　川村佳男

【主な成果】
東京国立博物館、和泉市久保惣記念美術館や中国陝西省、江西省、広西壮族自治区などの博物館が所蔵する極薄青銅器および響銅の熟覧調査を行った。熟覧の結果、中国の唐時代に製作されたと考えられてきた響銅のなかに、日本の奈良時代製のものが含まれている可能性を認識することができた。東京国立博物館では熟覧調査のほかに、元素別デジタルマッピング機能をもつ蛍光Ｘ線分析装置による計測も実施した。計測の結果、地金が青銅ではなく、銅であるものや、器物表面で検出された元素の一部が地金から析出した錆ではなく、人為的に塗布された漆や顔料に由来する可能性をもつものが見出された。これらの結果は、国内外の学会やシンポジウムで発表した。

中国で開催された国際シンポジウムでの発表

科学研究費の分担研究者の所属する東京藝術大学では、Cu（銅）・Si（錫）の比率を少しずつ変えながら鋳造した各種サンプルに鎚鍱による成形で響銅の一種・銅羅の製作実験を行い、どの比率で鋳造したものが響銅に適しているのか検証した。

【備考】
科学研究費助成事業 3 年計画の 1 年目
調査回数：10 回（うち海外での調査 3 回）
作品調査件数：約 70 件
学会発表回数：4 回（うち 2 回は海外での発表）
撮影点数：約 600 カット

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の1年目である28年度は、国内外の多くの博物館などで予定していた極薄青銅器と響銅の幅広い調査を実施し、地域や時代を超えた共通要素がある一方、時代や地域による違いについても大まかな見通しを得ることができた。また、学会発表も所期していた回数で行うことができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、28年度は熟覧を主体とする調査によって、極薄青銅器及び響銅の共通要素と時代差・地域差に関する初歩的な見通しを得ることができた。29年度以降は光学機器による解析や製作実験などによって、よりキメの細かい調査を実施し、これまでに得られた見通しの内容を検証する。最終的に、響銅が5・6世紀の中国ひいては東アジアに広く、且つ、迅速に普及したのは、戦国時代の紀元前5世紀以降つづいた極薄青銅器の製作技術に、響銅を受容する基盤としての役割が備わっていたからであることを明らかにしたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411D7-6

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　f.出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究（科学研究費助成事業）（(4) －①－1）

【事業概要】
本研究は、世界各地に伝存する中国・明時代の彫漆器のうち、特に在銘・出土遺品の調査を通じてその様式や特質を明らかにし、いまだ判別の難しい明代彫漆器の制作地や編年を正しく捉えることを目的とする。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	資料登録室主任研究員　川畑憲子

【主な成果】
28 年度は、計画していた調査を進めて調査データを整理し、29 年度の総括に向けて新たな検討課題について考察を進めることに努めた。
具体的には、27 年度に続き、国内外に所蔵される明代彫漆器及び関連作品について、さらに広範囲に、作品調査を行った。
28 年度、調査に訪れたおもな所蔵先は、東京国立博物館、静嘉堂文庫美術館、個人宅（東京）、個人宅（京都）などである。調査では、明代彫漆器を中心に文様技法や銘文に関する詳細な観察、記録、撮影を行ったが、明代のみならず、宋代、元代などの彫漆器も合わせて調査することができ、当初の計画よりも多くの貴重な作例データを集積することができた。さらには、調査データをもとに国内外の研究者と議論を交わし、研究を深めることができた。
また、文献資料をあらためて博捜し、他の遺物や他の出土事例とも合わせて検討し、彫漆器の制作地及び制作年代について、これまでの定説を再検討することができた。

鳳鶴堆朱食籠（東京国立博物館）

【備考】
科学研究費助成事業の 3 年計画の 2 年目
調査回数：国内 7 ヶ所
収集資料数：漆器ほか約 40 点

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の2年目である28年度は、計画通りに研究を進めることができ、29年度にあたる最終年度の総括に向けて、調査データを整理し、新たな検討課題について考察を進めることができた。具体的な成果としては、さまざまな官製銘を収集し、より詳細な編年の手がかりを得ることができたほか、日本で入れたと思われる作者銘や、評価に関する銘文も収集し、日本人が明代彫漆器の作者や制作地をいかに捉えていたか、具体的に知ることができたことは大きな成果であった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究において掲げられた目的を達成することができた。 最終年度の29年度は総括に向けて、作品調査の成果を整理、検討をすすめ論文や発表などで成果を公表していく予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1411D7-7

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	キ　g.近世西南日本の地域産業と対外交流の研究(科学研究費助成事業)（(4)－①－1）

【事業概要】
本研究は、「鎖国」制下における対外貿易と国内産業との関係について、その産業と貿易活動の関連が、産業が立地する地域に与えた社会・経済的影響について解明することを目的とする。

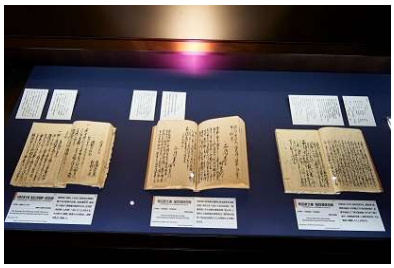
【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	展示調整室研究員　一瀬　智

【主な成果】
28 年度は、計画していた基礎的な調査と史料収集を進めることができたほか、当館のトピック展示及び図録において、成果の一部を公開することができた。

(1)訪問した主な調査先は、国立公文書館、東京国立博物館、長崎歴史文化博物館、出島阿蘭陀商館跡、上ノ国館調査整備センター、松前町郷土資料館などである。調査では、肥前地域や天草地方における陶磁器・陶石生産や流通を研究する上で重要な情報を持つ歴史資料、江戸時代に実際に流通して各地にもたらされた陶磁器の伝世資料・出土資料について、29 年度以降の研究に向けた基礎的なデータを収集することができた。

調査風景（上ノ国館調査センター）

(2)9 月 14 日～11 月 6 日に開催したトピック展示「有田焼創業 400 年記念　古伊万里　旧家の暮らしを彩った器」では、展示及び図録において、江戸時代における伊万里焼の流通について紹介した。その展示構成や論考の組み立てにあたり、本研究を念頭に、輸入原料を用いるなど、対外交流と深く関わって生産された伊万里焼が、どのように日本列島各地に流通したのか、という観点から、それを物語る歴史資料を用いた展示を行った。


トピック展示での展示風景

【備考】
科学研究費助成事業の 3 年計画の 1 年目
調査回数：国内 3 ヵ所（東京・長崎・北海道）
調査点数：歴史資料・出土資料等　約 30 点
論文等：一瀬　智「江戸時代の海運と伊万里焼の流通」（トピック展示図録『有田焼創業 400 年記念　古伊万里　旧家の暮らしを彩った器』、9 月 14 日）
展覧会への反映：1 回（トピック展示「有田焼創業 400 年記念　古伊万里　旧家の暮らしを彩った器」）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の1年目である28年度は、概ね計画していた基礎的調査や史料収集を進めて、29年度以降の研究に向けたデータを収集できたほか、展覧会および図録において、研究成果の一部を公開することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	28年度には肥前地域や天草地域における陶磁器・陶石生産と長崎貿易、またその国内流通について基礎データを収集できた。29年度には、幕府領天草の支配関係史料を中心に調査・収集を実施する。最終年度の30 年度には、調査・収集・整理した史料から本研究の結論発表を目指す。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1412A1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　a.特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」に関する調査研究 （(4)－①－2）

【事業概要】
特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」開催に向け、調査研究を行い、成果を展示に反映する。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課特別展室長　丸山士郎

【主な成果】
(1) 調査概要
東京国立博物館で開催した特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」出品作品の美術史的、科学的（像の樹種調査、納入品の CT 調査）調査を実施。
調査期間：4 月 13 日～4 月 14 日、6 月 6 日～6 月 8 日（於櫟野寺）、9 月 13 日 ～ 29 年 1 月 9 日（於東京国立博物館）
(2) 調査の結果得られた知見・成果
櫟野寺本尊の十一面観音菩薩坐像は延暦 11 年(792)に最澄が延暦寺の建立に際して良材を求めて当地を訪れ、櫟の霊木を刻んで造られたと伝承されている。樹種調査によってヒノキ材であることが判明した。櫟野寺の仏像の多くはヒノキ材で、一部カヤ材であることも判明した。また本像の像内には木箱が収められいるが、CT 調査を実施し、中に籾と巻子が収められていることが分かった。その後、開封して納入物を確認した。

調査風景

櫟野寺仏像群

【備考】
調査内容：美術史的調査、樹種調査 20 体、CT 調査 1 件
論文：論文 1、作品解説 20、コラム 3

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	未撮影作品の写真撮影や作品調査を実施し、その成果は図録や会場解説、講演会などに生かすことができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	必ずしも著名とはいえない寺院であるが、計画を上回る来館者があった。また、そこに伝わる仏像の魅力を十分に伝えることができた。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1412A2

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　b.特別展「春日大社　千年の至宝」に関する調査研究（(4)－①－2）

【事業概要】
特別展「春日大社　千年の至宝」に関する調査研究

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	列品管理課平常展調整室主任研究員 土屋貴裕

【主な成果】
(1) 調査日・調査先：本展開催のため、下記の事前調査などを行った。
・5 月 11 日　徳川美術館で出品予定の絵画、工芸作品の調査（土屋）
・5 月 26 日　春日大社で出品予定の書跡、舞楽関係作品の調査（土屋、竹内、小山）
・5 月 29 日　根津美術館で出品予定の絵画作品の調査（土屋）
・6 月 15 日　京都国立博物館で出品予定の絵画作品の調査（土屋）
・6 月 16 日　春日大社で出品予定の絵画、書跡作品の調査（土屋）
・7 月 19、20 日　春日大社で出品予定の工芸作品の調査（猪熊）
・7 月 27 日　大阪市立美術館で出品予定の絵画作品の調査（土屋）
・7 月 28 日　春日大社で出品予定の絵画、書跡作品の調査（土屋）
・7 月 28 日　名古屋市蓬左文庫で出品予定の書跡作品の調査（恵美）
・8 月 26 日　陽明文庫で出品予定の絵画、書跡作品の調査（土屋、恵美）
・9 月 8、9 日　春日大社で出品予定の刀剣、武器・武具作品の調査（酒井）
・10 月 4 日　宮内庁書陵部で出品予定の書跡作品の調査（恵美）
・11 月 24 日　春日大社及びその周辺で春日宮曼荼羅に描かれた景観に関するフィールド調査（土屋）

(2) 調査の成果：上記の事前調査に基づき、下記の成果をあげることができた。
・脆弱な材質でできている出品候補作品の安全な輸送、及び事前の採寸等による展示具の作成に関して、入念な準備をすることができた。
・出品作品の細部表現などについて知見を深め、展覧会の図録解説等に反映することができた。

【備考】
28 年度は 13 回の調査を行った。
これらの成果は文化財の安全な輸送、展示計画及び図録解説等に反映した。
・プロジェクトメンバー
竹内奈美子（登録室長）、恵美千鶴子（東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員）、酒井元樹（工芸室主任研究員）、小山弓弦葉（工芸室長）、猪熊兼樹（出版企画室主任研究員）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	調査を行うことにより、出品候補作品に関する知見を深めることができた。その結果、脆弱な材質でできている出品候補作品の安全な輸送を実現することができた。また、採寸等により実際の展示に用いる展示具の事前準備を行うことができ、展示の際の効率化を図ることができた。また、画像等では確認できない細部の表現や箱書などを調査することで、色調・技法の詳細を確認できたことはもとより、作品解説の執筆に役立てることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	本展は春日大社所蔵品を核とした展覧会であるが、一方で春日信仰に関わる文化財は春日大社のみならず、全国の社寺、博物館、美術館に所蔵されている。これらを調査することで、春日に関わる広範な美術工芸品の出品がかなったことは特筆される。出品交渉、安全な輸送、展示によって培った所蔵者との信頼関係は、今後の特別展を含む当館事業の円滑な推進に利するものである。また、調査研究の成果は今後の総合文化展での展示解説等にも発展的に反映することができるものと考えられる。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412A3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　c.特別展「茶の湯」に関する調査研究（(4)－①－2）

【事業概要】
特別展「茶の湯」に関する調査研究

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	調査研究課東洋室主任研究員　三笠景子

【主な成果】
（1）調査概要
日本国内収蔵の茶湯道具の名品について体系的、網羅的に調査した。調査先は下記の通り。
出光美術館、永青文庫、五島美術館、宮内庁三の丸尚蔵館、静嘉堂文庫美術館、泉屋博古館分館、
常盤山文庫、根津美術館、前田育徳会、三井記念美術館（都内）
致道博物館（山形県）、鑁阿寺（栃木県）、MOA 美術館（静岡県）、徳川美術館（愛知県）、
岐阜県現代陶芸美術館（岐阜県）、
聖衆来迎寺（滋賀県）、北村美術館、京都国立博物館、茶道資料館、野村美術館（京都府）、
和泉市久保惣記念美術館、大阪市立東洋陶磁美術館、正木美術館、湯木美術館（大阪府）、
頴川美術館（兵庫県）
福岡市美術館、九州国立博物館（福岡県）、松井文庫（熊本県）
表千家不審菴、裏千家今日庵、武者小路千家官休庵
東京都内、愛知県内、岐阜市内、大阪市内、京都市内の個人宅

（2）調査の結果得られた知見
調査作品のなかで、かつて昭和 55 年（1980）に東京国立博物館で開催された「茶の美術」展以降、所蔵先が変わるなどして行方のわからなくなった作品があることがわかった。その一方で、これまで展覧会では紹介されていない作品の存在も明らかになった。

（3）調査研究の成果
作品の調査を通じ、絵画、墨跡、金工、陶磁、漆工の各分野の研究史をたどり、近年の研究成果を反映したうえで、展覧会の構成に取り組むことができた。

【備考】
調査先　20 か所、作品調査件数　約 50 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	およそ40年ぶりとなる特別展「茶の湯」について、全国の美術館、博物館及び個人所蔵者に協力を仰ぎ、およそ目標となる作品数の出品を承諾いただくに至った。個人所蔵作品には調査ができなかったものもあったが、実見できた作品については付属する資料や箱書きなど解説に反映し、これまで知られていなかった情報を展覧会図録にとりいれることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	日本文化の象徴としての茶の湯を通史で概観するための展覧会として、過去の展覧会や所蔵者からの情報を得て網羅的な調査を行い、それらの成果を展覧会図録に公開することができた。展覧会構成上、展示空間の制限上、網羅的に紹介できない部分については、展覧会会期中及び会期後に研究成果として具体的に取り上げ、今後論文や学会発表等で公開したい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1412A4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　d.日タイ修好 130 周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」に関する調査研究（(4)－①－2）

【事業概要】
29 年度に東京国立博物館及び九州国立博物館で開催する特別展「タイ　～仏の国の輝き～」の展示を充実するために関係機関・施設・遺跡等において調査を行い、出品作品の選定及び交渉を行った。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課出版企画室主任研究員　猪熊兼樹

【主な成果】
（1）調査概要
タイ国及び国内に所在するタイ美術作品の実見調査を実施した。調査地は下記のとおり。
タイ国　バンコク：バンコク国立博物館、王室御座船博物館、ナショナルギャラリー
　　アユタヤ：チャオ・サン・プラヤ国立博物館、ラチャブラナ寺、マハタート寺、プラ・シー・サンペット寺、日本人町跡、ポルトガル人町跡、ロカヤスタ寺、王宮遺跡
国内　　京都市　：京都国立博物館、萬福寺、南禅寺金地院、妙法院
　　名古屋市：日泰寺
　　横浜市　：三会寺
（2）調査の結果得られた知見
日本とタイに存在する美術品の調査を行い、タイ族前史の古代国家、タイ国黎明期のスコータイ朝、国際貿易都市として栄えたアユタヤ朝、現王朝ラタナコーシン朝の仏教美術の優品を選定することができた。
（3）調査研究の成果
日タイ修好 130 周年記念展に出陳する文化財を選定し、展示構成を作成した。
タイ国の歴史と各時代の特徴の理解を促す作品を選定することができた。

バンコク国立博物館での調査

【備考】
展覧会概要
会場会期
九州国立博物館：29 年 4 月 11 日（火）～6 月 4 日（日）
東京国立博物館：29 年 7 月 4 日（火）～8 月 27 日（日）
主催
九州国立博物館・福岡県、東京国立博物館、タイ王国文化省芸術局、日本経済新聞社、西日本新聞社、TVQ 九州放送

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	29年の日タイ修好130周年を念頭において、両国の文化財関係者の交流を活かした特別展を開催する準備に努めた。 ・タイ国から借用する作品については、タイ国の関係機関の協力を得て、タイ国各地の国立博物館や王室コレクションを中心とする名品を選定することができ、展示構成を充実する準備ができた。 ・国内機関が所蔵する日タイ交流史を示しうる作品や資料を、特別展に出品するための調査や交渉を行い、展示構成を充実する準備ができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	・日本とタイの文化財関係者の交流関係を活かし、29年の日タイ修好130周年を念頭においた特別展の準備ができた。29年度は同展の開催年に当たるので、これまでの準備を実現する努力を行う。 ・日本とタイの文化財関係者の交流関係を活かし、特別展「タイ　～仏の国の輝き～」の開催に合わせて、タイ文化や日タイ関係史を主題とする国際シンポジウムなどを開催する準備を行った。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1412B1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　a.特別展覧会「没後 150 年　坂本龍馬」に関する調査研究（(4)－①－2）

【事業概要】

京都国立博物館の収蔵資料のうち注目度の高い坂本龍馬関係資料を中核にした特別展覧会「没後 150 年　坂本龍馬」（10 月 15 日～11 月 27 日）の開催準備のため、27 年度に引き続いて坂本龍馬資料及びそれに関連する幕末維新資料の調査研究を行い、その成果を展覧会に反映させた。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品管理室　宮川禎一

【主な成果】

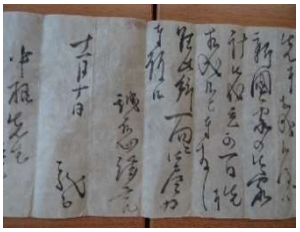
（1）27 年度調査した高知県所在の坂本龍馬の北辰一刀流長刀兵法目録の比較資料として山形県庄内町の清河八郎記念館が所蔵する清河八郎宛の北辰一刀流兵法目録の実物調査を行い、その類似性から龍馬の免状の意義を確かめた。全国的に見て龍馬の目録の希少性が明らかとなったことは重要であり、江戸修行時代の龍馬の活動の実態を明らかにすることが出来た。

（2）高知県立坂本龍馬記念館所蔵の「土佐藩京都藩邸資料」の一部を実際に調査して、池田屋騒動に巻き込まれた土佐藩足軽の野老山吾吉の供述調書が池田屋騒動の実態をよく示す貴重な資料であることを確認した。また同時に慶応二年正月の伏見奉行所が坂本龍馬を取り逃がした際に京都所司代にその様子を報告する書状二通の写しも調査し、坂本龍馬の伏見寺田屋での遭難事件を奉行所側からの視点で記した貴重な資料であることを確かめた。この二件を含む土佐藩邸資料についてはその一部を特別展覧会「没後 150 年　坂本龍馬」に出品することとした。

（3）大阪府在住の個人所蔵品のうち幕末維新史に関わる瓦版錦絵等の絵画資料約 50 件の寄託を受けてその内容を調査した。それらはペリー来航から戊辰戦争までの内容を含み、幕末維新史を通観できる資料であることを確認して特別展覧会に出品することとした。

（4）京都市東山区の霊明神社の調査中にパークス襲撃事件の際に林田貞堅が攻撃に使用した刃毀れの顕著な日本刀（銘兼元）を発見した。京都国立博物館には事件の際に応戦した中井弘の日本刀が収蔵されており、その作品と対比できる貴重な作品の発見となった。

（5）坂本龍馬新出の書簡（慶応三年十一月十日付　中根雪江宛）の調査と内容の検討を行った（右の写真）。29 年 1 月 13 日に高知県主催の記者発表においてその調査成果が公表されて大きな反響があった。



坂本龍馬新出の書簡（部分）

【備考】

・5 月に東京の江戸東京博物館において 10 月からの特別展覧会「没後 150 年　坂本龍馬」の記者発表を行った。特に 27 年度検討した刀銘吉行の調査成果が大きく取り上げられて全国的な話題になった。
・（4）のパークス事件に関わった林田貞堅の刀と中井弘の刀については 9 月 9 日に京都国立博物館で記者発表を行い大きなニュースとして報道された。
・特別展覧会「没後 150 年　坂本龍馬」（10 月 15 日～11 月 27 日）を読売新聞社と共催し、これまでの調査研究の成果を展示に反映させた。
・特別展覧会「没後 150 年　坂本龍馬」図録を刊行（10 月 15 日）し、調査研究の成果を公表した。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
A	これまでの高知県所在の坂本龍馬の北辰一刀流長刀兵法目録の比較資料として山形県庄内町の清河八郎記念館が所蔵する清河八郎宛の北辰一刀流兵法目録の実物調査を行い、その類似性から龍馬の免状の意義を確かめた。全国的に見て龍馬の目録の希少性が明らかとなったことは重要であり、江戸修行時代の龍馬の活動の実態を明らかにすることが出来た。最新の龍馬研究・維新史研究の貴重な資料の掘り出しと検討が進んだ結果として特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」の展示内容や件数を充実させることができたこと、またこの期間に98,500人もの来館者を集めた。さらに来館者の満足度も高かった。展示期間中には天皇皇后両陛下の行幸啓があり、展示を親しく御覧いただいた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
A	中期計画における「京都文化を中心とした有形文化財の調査・研究」を順調に達成した。高知県立坂本龍馬記念館所蔵の「土佐藩京都藩邸資料」の一部を実際に調査して、池田屋騒動に巻き込まれた土佐藩足軽の野老山吾吉の供述調書が池田屋騒動の実態をよく示す貴重な資料であることを確認し、また同時に慶応二年正月の伏見奉行所が坂本龍馬を取り逃がした際に京都所司代にその様子を報告する書状二通の写しも調査し、坂本龍馬の伏見寺田屋での遭難事件を奉行所側からの視点で記した貴重な資料であることを確かめた研究結果は特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」において充分反映されている。京都国立博物館の幕末史研究の意義が評価されていると考えられる。特別展覧会の開催で一応の終了を見るが、平成29年度においても京都市の要望で「大政奉還150年記念事業」の一環として幕末・維新史に関する小規模な展示を計画している。

【書式Ｂ/博】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 1412B2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　b.特別展覧会「海北友松」に関する調査研究（(4)－①－2）

【事業概要】
特別展覧会「海北友松」（29 年 4 月 11 日～5 月 21 日開催予定）に関する調査研究
平成 29 年 4 月 11 日～5 月 21 日の開催予定である特別展覧会「海北友松」に関して、展覧会出陳予定作品の調査研究を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　山本英男

【主な成果】

（1）　関東・東北・近畿・中国地方の博物館・美術館及び社寺や個人が所蔵する「海北友松」展出陳作品の調査を行った（障壁画・屏風・掛幅・画巻その他）結果、展示作品リストについても確定させることができた。

（2）　アメリカ合衆国の美術館が所蔵する友松作品の調査を行い（サンフランシスコ・アジア美術館及びカンサスシティー・ネルソンアトキンズ美術館）、出品の許可を得た。前者の作品はこれまで友松筆としての認知を受けてこなかった初期作、後者は 60 年ぶりの初の里帰りとなる。

（3）　これまで未紹介の作品の発見「屏風画料請取状」等他 4 点ほどあり、出陳予定作品の中に加えることが出来た。その中には大作の屏風絵や、極めて希少な屏風絵の画料受取状なども含まれている。
画料受取状については、妙心寺山内の文書調査課程で、妙心寺(京都)に宛てた友松自筆の書状「屏風画料請取状」が再発見された。この書状は、重要文化財に指定され、友松の最晩年の傑作として名高い三双の金碧屏風「花卉図屏風」「寒山拾得・三酢図屏風」「琴棋書画図屏風(妙心寺所蔵)に関わる画料の請取状(受領書)である。寺社の日誌などには、当時の絵師が行った仕事への対価が記載されていることもあるが、この書状のように、落款印章を伴う絵師の自筆になるものは極めて少なく、同時代で現在するものはなく、絵師と寺の生々しいやりとりを示す貴重な資料である。

禅宗祖師図押絵貼屏風　調査風景

【備考】
「海北友松」展図録にその成果を反映させる予定である。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
A	展覧会場のスペースを考慮した上で調査を開始したため、短い期間内に上質な作品から効率的な調査が出来た。画風比較や落款印章の検証などによって、基準となる作品を選択できた。基準となる作品の画風的な目安が出来るため、今後、作品の発見が期待される。友松については過去4度の回顧展が行われているが、調査の成果による作品の発見を反映して、代表作はもとより、希少な初期作や新発見の作品などを多数網羅した史上最大規模の回顧展を企画することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
A	中期計画に沿った調査研究を実施することができ、予定していた作品の出陳が叶った。加えて、新発見の作品が5点もあり、極めて充実した内容となった。作品のバリエーションも多彩であり、墨の気魄を漂わせる壮大なスケールの障壁画をはじめ、やまとえを思わせる金地濃彩の屏風絵、瀟洒な雰囲気をもつ水墨画なども含まれている。当館では、桃山時代の絵師の展覧会を19年以来行ってきており、展覧会によって画家の知名度が上がるため、今後、当館で友松作品を展示した場合、入館者の増加が期待される。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1412C1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　a.生誕８００年記念特別展「忍性　－救済に捧げた生涯－　」に関する調査研究（(4)－①－2）

【事業概要】
忍性展に関連する調査・研究

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品室長　吉澤　悟

【主な成果】

(1)　特別展「忍性」の準備において、忍性の活動に関わる遺品の所在調査を行った。忍性が前半生を過ごした奈良と、後半生の活躍舞台となった常陸および鎌倉において、それぞれ彫刻作品や文書資料、あるいは出土品などをリスト化し、それを元に特別展出陳作品を選定していった。結果、これまであまり知られていない文化財を多く展覧会で紹介することができた。
さらに、この特別展に出陳した仏像等の新規撮影を行い、資料蓄積を推進した。同時に、特別展図録には、主要作品は多方向ないし新規カットの写真を掲載し、新たな作品評価につながる情報提示を行った。
(2)　忍性の骨蔵器に関しては、Ｘ線撮影、蛍光Ｘ線分析等による調査を行い、さらに実測図作成、銘文判読等の基礎情報を獲得している。さらに調査を継続し、29 年度以降に忍性墓関連資料の調査報告を作成する予定である。

【備考】
・調査・研究の成果を反映させた刊行物
吉澤悟「総論　生誕 800 年記念特別展『忍性―救済に捧げた生涯―』概観」（生誕 800 年記念特別展『忍性―救済に捧げた生涯―』総論、7 月 22 日）
山口隆介「極楽寺忍性像及び叡尊像の造立背景に関する試論―忍性像の寿像の可能性をめぐって―」（生誕 800 年記念特別展『忍性―救済に捧げた生涯―』各論、7 月 22 日）
伊藤久美「忍性の肖像画について」（生誕 800 年記念特別展『忍性―救済に捧げた生涯―』各論、7 月 22 日）
谷口耕生「極楽寺忍性による東征伝絵巻の施入をめぐって」（生誕 800 年記念特別展『忍性―救済に捧げた生涯―』各論、7 月 22 日）
・調査・研究の成果を反映させた講演会、講座等
夏季講座（於：奈良県文化会館 国際ホール、8 月 17 日～19 日）
公開講座（於：奈良国立博物館講堂、8 月 6 日、8 月 27 日、9 月 10 日）
・本特別展の準備と併行して、奈良教育大学および奈良市教育委員会と連携して、小学校 4、5 年生を対象にした授業（郷土の偉人に関する学習）の教材開発の援助を行った。奈良市内の小学校教諭に対して忍性の事績や関連文化財を紹介する講座を行い、さらに展覧会用に作成した忍性の生涯を描いたアニメーションＤＶＤを学校現場でも活用できるよう配布した。

忍性のアニメーション画像

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	特別展に関連して忍性や律宗ゆかりの仏像（大和郡山市西町自治会の文殊像、茨城県観音寺の如意輪観音像、鎌倉極楽寺の諸尊像など）や忍性骨蔵器（唐招提寺蔵、文化庁蔵、鎌倉極楽寺蔵）などの資料調査を実施し、その成果を展示や図録に反映することができた。また教育事業においても、奈良市内の小学校で忍性を授業教材に採り上げるなど、展覧会と学校教育の現場との有機的な繋がりを作ることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	展覧会に関する調査研究を通じて、仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究を実施することができた。また教育事業においても、奈良市内の小学校で忍性を授業教材に採り上げるなど、展覧会と学校教育の現場との有機的な繋がりを作ることができたことは、今後の連携事業での波及的効果が期待される。

【書式Ｂ/博】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 1412C2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　b.特別展「第６８回正倉院展」に関する調査研究（(4)－①－2)

【事業概要】

特別展「第６８回正倉院展」の開催に当たり、円滑かつ安全に展覧会を遂行し、最新の成果を広く国民に周知するため、当該年度に出陳される宝物を含む宝物についての調査・研究、展示環境についての研究、観覧環境についての調査・研究、その他宝物の適切な輸送方法輸送など、多角的に研究を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸考古室長　清水　健

【主な成果】

(1) 宝物についての調査・研究
・展覧会の開催に先立ち、宮内庁正倉院事務所の協力により、宝物に関する正確かつ最新の情報を、宝物の閲覧（一部のみ)、宝物調書の閲覧、宝物の詳細な写真の提供などによって入手し、展覧会図録や会場の題箋、パネル等に反映させた。
・正倉院、正倉院宝物についての研究成果を、展覧会図録所収の解説、小論文(「宝物寸描」)、3回の公開講座、及び学術シンポジウム等を通じて公表した。また新聞紙面等を通じて、研究員の日頃の研究成果を反映した最新の知見等をコラム、コメントのかたちで披瀝した。
・研究員全員による宝物についての研究会を実施した。
・作業の合間等に、宝物の実見に努めた。
(2) 展示環境についての調査・研究
・文化財の適切な展示環境を考究するため、展覧会の会期中及び前後の詳細な温湿度データ、塵埃のデータを収集し、分析した。
・文化財の展示環境についての検討会を、事前に宮内庁正倉院事務所とともに行い、また事後に実際の計測データの検証会を行った。
(3) 観覧環境についての調査・研究
・観覧者の多数集まる展覧会における適切な観覧者への情報提供について考究するため、題箋やパネルの大きさ、設置位置、言語、情報の内容等について検討し、アンケート等を通じて観覧者の発する情報を収集した。
・作品の照明について外部専門家と意見を交換して、効果的な照明を会場にて試み、有識者の意見や、アンケート等を通じて観覧者の発する情報を収集した。
・観覧者の多数集まる展覧会における適切な動線の設定について考究するため、展示品やパネル等の配置、展示品への誘導方法について検討し、有識者の意見や、アンケート等を通じて観覧者の発する情報を収集した。
・文化財の安全かつ魅力的な展示についての検討会を、宮内庁正倉院事務所とともに行った。
(4) その他
・文化財の安全な梱包・輸送のための検討会を、宮内庁正倉院事務所とともに行った。

【備考】

・宝物に関する事前調査　5回
・内部研究会　2回
・公開講座　3回
　清水　健「正倉院の荘厳具――大幡に寄せて――」(11月5日)ほか
・正倉院学術シンポジウム　1回
・出前授業（京都美術工芸大学）　1回
・新聞連載(宝物紹介・読売新聞)　5回
・『平成２８年　正倉院展目録』（日・英）　奈良国立博物館　10月21日
　日本語篇所収／内藤栄「聖武天皇の輿―葬儀と一周忌斎会をめぐって―」、清水健「正倉院の大幡」ほか

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	正倉院展の開催を円滑かつ安全に遂行し、最新の成果を広く国民に周知するという事業計画に基づき、概ね順調に成果を上げている。従来の研究を踏まえ、最新の知見を加味した高度な内容の作品解説を、学芸部全体での検討を経て展覧会図録に掲載し、成果として公表した。また、小論文や講座、シンポジウムを通じて、最新の研究成果を公表した。一方、27年度より始まった宮内庁正倉院事務所との文化財の安全な梱包・輸送のための検討会、及び文化財の安全かつ魅力的な展示についての検討会は、一定の成果を収めており、今後一層の充実が望まれる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	今期については、主に宝物についての調査・研究、観覧環境についても調査・研究を重点項目とし、充実を図っていきたいと考えている。宝物に関する調査・研究は、日々更新される成果を踏まえて着実に前進しており、多くの画像やメディアを活用して、最新の成果を広く一般に伝えることが概ね達成された。また宝物の観覧環境等に関する研究も進展しており、以前のような観覧者の不満は年を追って低減している。今後は一層のデータ・情報の収集に努めるとともに、質の高い学術情報の普及を行っていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1412C3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　c.特別展「快慶　日本人を魅了した仏のかたち」に関する調査研究（(4)－①－2）

【事業概要】
29年開催の特別展「快慶　日本人を魅了した仏のかたち」(会期:4月8日～6月4日)に出陳を予定している文化財、及び未出陳快慶作品について、基礎的な調査とともに高精細カラー画像及び赤外線透過画像の撮影を実施し、その成果を展示会場及び展覧会図録に反映すべく準備を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品室員　山口隆介

【主な成果】
(1)彫刻部門を中心に、奈良・東大寺、同・西方寺、京都・醍醐寺、同・清水寺、同・遣迎院、同・大報恩寺、同・松尾寺、同・金剛院、同・如意寺、京都国立博物館、滋賀・圓常寺、岡山・東壽院、栃木・真教寺にそれぞれ所蔵ないし寄託される快慶及び快慶派作品の調査撮影を実施した。
(2)彫刻部門を中心に、奈良・安倍文殊院、京都・大行寺、兵庫・浄土寺にそれぞれ所蔵される未出陳快慶作品の調査撮影を実施した。
(3)上記の彫刻作品の調査撮影を通じて、快慶作品の造形的特色や、截金・彩色文様のパターン及び技法に関する知見を得ることができた。
(4)書跡部門を中心に、神奈川県立金沢文庫、宮内庁書陵部、国立公文書館、長谷寺、前田育徳会尊経閣文庫において出陳予定の文書・聖教調査を実施した。
(5)快慶に関する基礎的データ(作品一覧・銘記・文献一覧・年表等)を展覧会図録に資料集として盛り込むべく、データの収集と整理を行った。

展覧会にかかる事前調査と写真撮影
(29年1月17日　於 奈良・安倍文殊院)

【備考】
「快慶」展に出陳予定の文化財、及び未出陳快慶作品の基礎的調査及び写真撮影(20回実施)
特別展図録『快慶　日本人を魅了した仏のかたち』(29年4月8日刊行)

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	特別展「快慶　日本人を魅了した仏のかたち」に出陳予定の文化財の基礎的調査及び写真撮影を実施することができた。また、未出陳快慶作品についても可能な限り調査撮影を実施し、造形的な特徴や表面仕上げなど、快慶作品をめぐるさまざまな情報を蓄積することに努めた。これらを踏まえて、展示会場及び展覧会図録の充実を図るなど、展覧会開催に向けて着実に準備を進めることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	特別展「快慶　日本人を魅了した仏のかたち」の企画立案から実施に至るまでの過程における調査は、着実に調査研究を積み重ねている。とくに出陳を予定している文化財、及び未出陳快慶作品について、あらためて実査と高精細カラー画像の撮影を行ったことで、快慶作品の基礎的データの充実を図るとともに、今後の研究に有用な新しい知見を得ることができた。これらの成果を展示会場及び展覧会図録に反映させる予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1412D1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　a.特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」 に関する調査研究（(4) －①－2）

【事業概要】
沖ノ島出土金製指輪の技術的系譜の検証とその成果の公開事業

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	情報サービス室研究員　小嶋　篤

【主な成果】
4 月 17 日～21 日にかけて韓国・国立中央博物館、国立公州博物館、国立扶余博物館、国立全州博物館、国立慶州博物館にて資料調査を実施した。宗像・沖ノ島出土の金製指輪は国内に類例がなく、対岸の新羅を中心とした朝鮮半島南部の出土品との類似性が指摘されてきた。その一方で、古代の指輪に関する専論は少なく、東アジアを対象とした研究は皆無の状況にあった。このような研究状況をふまえ、本調査研究では朝鮮半島と日本列島の金属製指輪について網羅的に調査を実施した。28 年度の成果について、展覧会図録『宗像・沖ノ島と大和朝廷』（共著）として上梓し、また同題の展覧会を開催した。

韓国・国立公州博物館での調査風景

韓国・金鶴洞古墳群出土の銀製指輪

【備考】
論文等：小嶋　篤　解説「古代の指輪」　図録『特別展　宗像・沖ノ島と大和朝廷』

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	古代東アジア諸国のうち、日本（倭国）と関係の深い百済と新羅の金属製指輪について、その地域性と技術的系譜を出土資料で示すことができた。また、その成果を展覧会および図録によって、広く公開することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画における「有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究」に沿った調査を行うことができた。 日本と韓国の文化財所蔵機関の協力を経て、学術的な調査研究成果を「教科書よりもわかりやく」という視点から、特別展の展示内容や図録に反映することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1412D2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　b.特別展「タイ～仏の国の輝き～」 に関する調査研究（(4)－①－2）

【事業概要】
29 年 4 月 11 日から開催予定の日タイ修好 130 周年特別展「タイ～仏の国の輝き～」の開催に向けた調査研究

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室長　原田あゆみ

【主な成果】
特別展開催前年の 28 年度は、タイ王国芸術局の協力を得ながら、各地で作品調査を実施し、展示作品の選定、借用交渉を行い、ほぼ内諾を得ることができた。
主な成果としては以下のとおり。

（1）王室第一級寺院ワット・スタットの大扉調査
26 年度から住友財団の支援を受けて続けてきた大扉の修理が 28 年度に終了し、特別展出陳のための撮影、調査を行った。扉表には彫刻、裏には絵画がほどこされている。焼損以来 57 年間、保管状況の問題から絵画面は調査されることがなかったが、本展覧会への出陳が決まり、初めて調査が行われた。

（2）大谷大学貝葉写本と包裂調査
展覧会のために大谷大学に伝わるパーリ語写本とその包裂を調査した。写本の筆写年代と包裂の時代はほぼ同時期であることが明らかになった。

（3）作品撮影、輸送、展示のための調査
展覧会にかかる印刷物のための撮影、作品輸送のための調査を行った。タイ芸術局、タイ現地輸送業者、日本側輸送業者、日本側展示デザイナーと合同で調査を行い、撮影、輸送、展示方法について確認を行った。

（4）教育普及活動にかかる調査
展覧会会場において、タイ文化をわかりやすく説明するために、教育普及活動を取り入れる工夫を行った。特にタイにおける仏教を理解していただくために、タイ芸術局の協力を得てタイ人の生活と仏教に関する取材調査を行った。

バンコク国立博物館における作品撮影

【備考】28 年度の調査：22 回（海外 5 回、国内 17 回）
（海外）
4 月 28 日～5 月 8 日：タイ・バンコク、南タイ調査　9 月 9 日～9 月 12 日：タイ・バンコク、スコータイ、ウートーン、ナコーンパトム　11 月 13 日～11 月 22 日：タイ・バンコク、パトムターニー　12 月 20 日～23 日：バンコク、ウートーン　29 年 1 月 14 日～20 日：バンコク、サムットプラカーン、プラチュアップキリーカーン
（国内）
6 月 7 日：萬福寺　6 月 17 日：横浜・三會寺　6 月 28 日：相国寺承天閣美術館　7 月 26 日：沖縄県立博物館・美術館　7 月 28 日：古河市歴史博物館　8 月 30 日：国立歴史民俗博物館　9 月 28 日：京都国立博物館　9 月 29 日：大谷大学　10 月 9 日：静岡・浅間神社　10 月 29 日、30 日：堺市博物館　11 月 17 日：林原美術館　11 月 18 日：五島美術館　11 月 25 日：杭全神社、堺市文化財調査事務所　12 月 7 日：京都国立博物館　12 月 8 日：大谷大学、平戸・松浦史料博物館

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	・特別展開催のための調査は、バンコク国立博物館が収蔵する仏教美術や工芸品などを中心に、日タイ交流に関連した作品を予定通り行うことができた。本研究成果は特別展図録、展示、講演会にて公開を予定している。 ・本展覧会は日タイ修好130周年記念事業として開催されるもので、ほかの記念事業との連携が期待できる。そのための準備として、事業情報を積極的に関係諸機関へ発信した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に対する進捗状況はほぼ順調である。ただし、特別展開催が29年度はじめ（4月11日）であるため、直前の準備が年度末、年度初めとなるため、他事業との調整が必要となる。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1412D3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　c.特別展「世界遺産ラスコー展」 に関する調査研究（(4)－①－2）

【事業概要】
29 年 7 月 11 日から開催予定の特別展「世界遺産ラスコー展」の開催に向けた調査研究

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	課長兼文化交流展室長　河野一隆

【主な成果】

29 年度夏季に当館で開催予定の特別展「世界遺産　ラスコー展」の準備のための調査研究として、インドネシア先史文化の原始絵画の実地調査と、28 年にスタートした東京会場の視察を行った。

・インドネシア先史文化調査は、スマトラ島の南部にあるパセマ高原一帯に分布する装飾古墳と石造記念物を対象に行った。当地の先史時代の芸術は、世界的に見てもほとんど知られていない。しかしインドネシアでは、クロマニョン人の描いたとされる旧石器時代最古期の洞窟壁画なども見つかっている。このため原始絵画の人類史的な位置を探るうえで、最も注目される地域とされている。そこでラスコー洞窟との比較対象をする上で欠かせない地域と考え、科研費等を活用して現地調査を行った。また、当地は石人が装飾古墳と共に分布する点でも、九州に展開する石の文化を考える上で非常に重要な地域である。これらの成果は、「世界遺産　ラスコー展」のカタログに掲載した解説コラムや館内定例の研究会議、当館の研究紀要『東風西声』(29 年 3 月発行）などを中心に公表した。

・28 年に東京・国立科学博物館で公開が始まった「世界遺産　ラスコー展」は、準備時と開会後に会場を視察し、準備における課題や造作の配列、観客動線の動き等について確認した。

・また同展については、特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」に来場する考古学ファン層への認知を高めるべく、共催メディアと共に先行ちらしを作成し、早い段階での周知につとめた。

九州会場先行ちらし

東京会場の視察の様子

【備考】

・インドネシア・スマトラ島の装飾古墳については、世界的にもほとんど知られていない原始絵画を対象とした先駆的な調査・研究であり、先史時代の芸術の展開と人類史的な評価の上で欠くことの出来ない成果が得られた。調査地は南スマトラ・パセマ高原の、タンジュンアロ、レンバク、タラン・ティンギ、テグルワンギ、ティンギ・ハリ、ブルマイの 6 箇所で、期間は 1 週間であった。

・東京会場の視察では、クレートの保管状況や搬入時の問題点を確認、プロジェクト推進上の問題点をデザイナーとも確認し、九州での円滑な準備ができるよう検討した。

・河野一隆「インドネシア・南スマトラのパセマ高原における装飾古墳―登場と展開についての素描―」(『東風西声』第 12 号、29 年 3 月）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	開催年度の前年として、原始絵画の調査研究や巡回展の準備に大きな成果を挙げることができた。これにもとづいて、円滑に推進するための検討が始められたので、先行ちらしのリリースに繋がった。29年度以降も、28年度の成果を踏まえて、順調な事業推進につなげることが課題である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画のとおり、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を行った。内容が充実し、かつ魅力的な特別展を開催するための準備として、順調に推移している。29年度以降も、魅力的な展示を作り上げるために、調査研究と展示とを両立させつつ、開催に向けて準備を進めていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1412D4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　d.特別展「新・桃山展－大航海時代の日本美術」 に関する調査研究（(4)－①－2）

【事業概要】

特別展「新・桃山展－大航海時代の日本美術」に関する調査研究。

日本が初めて本格的にヨーロッパの文化に接触した、鉄砲伝来から鎖国の完成までの安土桃山時代を中心とする約一世紀を取り上げ、この時期の日本美術を文化交流の様相に注目した新視点から紹介することを目的とする。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室主任研究員　鷲頭　桂

【主な成果】

・出陳交渉を進めるとともに、各所蔵者の協力を得ながら展示予定作品の現地調査を実施し、輸送計画及び展示計画の立案に有効なデータを得ることができた。
・計 37 機関で工芸（漆工・金工・染織・陶磁）、絵画、歴史資料の調査を行った。
・各作品の状態・法量を把握し、主題や形状構造、材質や制作技法、文字情報などについて知見を得た。
・本調査研究の成果は、展示、作品解説、カタログなどに反映させる計画である。
・ポルトガル国内の 31 機関で工芸（陶磁・漆工・染織）、絵画の調査ならびに担当者の取材を行った。そのうちの 1 機関である東方基金（FUNDAÇÃO ORIENTE）からは本展に所蔵品の出陳の許可をいただき、協約書に関する協議を行った。

調査作品の１つ
聖フランシスコ・ザビエル像（神戸市立博物館）

【備考】

国内調査（17 機関）
・絵画調査：神戸市立博物館（4 月 11 日）、東京・個人（4 月 20 日）、聚光院（5 月 23 日）、西凉寺（6 月 29 日）、高知県立図書館（7 月 20 日）、岡山県立博物館（7 月 21 日）、岡山県立美術館（7 月 21 日）、国立西洋美術館（7 月 22 日）、日光東照宮（11 月 15 日）、本妙寺（29 年 1 月 19 日）
・工芸調査：京都国立博物館（6 月 28 日）、壬生町立歴史民俗資料館（5 月 20 日）、福岡市美術館（9 月 15 日・11 月 9 日）
・歴史資料調査：山口大学総合図書館（5 月 18 日）、大分県立先哲史料館（5 月 20 日）、大分市歴史資料館（5 月 31 日）、熊本市立熊本博物館（29 年 1 月 13 日）

海外調査（31 機関）
・総合調査：ポルトガル（10 月 11 日～11 月 9 日）東方基金、リスボン国立古美術美術館ほか

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	作品の調査により、出陳作品の精査及び展示計画の立案に有効なデータを得ることができた。準備作業も予定通り進んでおり、29年度の作業計画策定に向けての準備も順調である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画にもとづき本調査研究を遂行した。その知見を展示に反映できるよう作品調査を精力的に行い、その成果を輸送・展示作業の安全性を高めることにも活かしていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413A1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　博物館環境デザインに関する調査研究（(4)－①－3）

【事業概要】
東京国立博物館における文化財の展示／観覧環境のデザインについて調査・研究し、今後の展示／観覧環境のデザイン向上を目的として実施する。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課デザイン室長　木下史青

【主な成果】
・正門プラザのチケットカウンターを刷新、より機能的な什器を新規購入・設置するとともに、「すべてのお客様への顔である」べき正門プラザの整備及び清掃等整美のあり方について、関係部署と検討・調整を行った。
・法隆寺宝物館のサイン、什器等について、設計者である谷口建築設計研究所と協議の上、整備を行った。
また、法隆寺宝物館におけるサイン・備品の仕様を、他の館内サイン(本館・平成館・東洋館など)とも整合するよう検討を進めている。
・館内に乱立している内作立て看板に関して、環境整備委員会等での指摘等を受け、デザイン室においてテンプレートを作成・標準化を進めている。
・館内サインの多言語化(日英中韓)を推進した。(画像は黒門の解説サイン)

刷新したチケットカウンター

立て看板のデザイン標準化

黒門の解説サイン多言語対応

【備考】
・他館展示／観覧環境のデザイン調査：これまでの国内外の博物館・美術館での事例・環境デザインを調査し、特に 28 年度においては正門プラザ・本館・平成館エントランスホールの改修のための参考とした。

・調査先／台湾：國立故宮博物院南部院区・國立臺灣文學館・奇美美術館・高雄市立博物館、国内：国宝 迎賓館・根津美術館・南相馬市博物館・いいたてミュージアム・武蔵野美術大学美術館・平等院ミュージアム鳳翔館（宇治）・那覇市立壺屋焼物博物館・トヨタ博物館・森美術館、春日大社国宝殿、東大寺ミュージアム等

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	所期の目標を達成している。サインの最新事例を調査し、好例をサイン・環境デザイン、情報提供・サインデザインの改修の参考とした。また、関連各部署との連携で館内表示の標準化を進めている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	所期の目標を達成している。引き続き29年度計画への反映し、国際化対応への推進が期待される。 中期計画初年度は、お客様への効率的かつより意味の伝わる情報提供のあり方（サイン、サイネージ）について、公共空間・商業空間についての最新事例を行うとともに、来る本館リニューアルへ向けた、デザインシステムの具体的な方法論を検討・実験を行った。 次年度は初年度の検討結果に基づき、より実践的なサイン・プランニングを進める予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413A2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　博物館教育に関する調査研究（(4)－①－3）

【事業概要】
来館者の鑑賞体験を豊かにすることを目的とした、博物館教育の理論と実践に関する調査研究を、教育普及事業の実践、参加者に対するアンケート、学校教員との研究会を通して行った。

【担当部課】	学芸企画部博物館教育課	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長　小林牧

【主な成果】
1)本館地下、19 室「みどりのライオン」及び東洋館 2 室、6 室「オアシス」におけるアクティビティやワークショップ、並びにスクールプログラムの運営を通して、さまざまな来館者のニーズに沿ったプログラムの開発とより効果的な運営に関する研究を行い、多様なユーザーに向けたプログラムを開発、展開することができた。また、それらの運営とアンケート調査によって、さらに知見と考察が深まった。
2) 他館との連携による教育プログラムの調査・研究を継続して行い、上野動物園、国立科学博物館との連携事業「トラめぐり」並びに関連展示、親と子のギャラリー「あつまれ！トラのなかまたち」を実施した。
3)触れる展示、ハンズオン企画の調査・研究を行い、考古展示室における土偶、銅鐸、埴輪、古銭のハンズオン展示を継続して行い、親と子のギャラリー「美術のうら側探検隊」においてハンドライト等のツールを用いた鑑賞の提案を行い、土偶に関しては新たにみみずく形土偶のレプリカを制作し運用を開始した。
4)全国高等学校美術工芸教育研究会の教員を対象とした研修において、博物館における鑑賞教育のあり方について意見交換を行った。
5)小・中・高等学校の教員を対象とした研修において、博物館における教育プログラムを立案する研究会を実施し、意見と情報の交換を行った。
6)障がい者に向けたプログラムの開発を目指した調査・研究を継続して行い、特に聴覚障がい者に向けてのヒアリングループや、UD トーク（音声認識ソフトによるコミュニケーション支援・会話の見える化アプリ）の設備設置を行った。
7)ボランティア組織のマネジメント及びボランティアによる事業の開発等について調査・研究を行った。

みみずく土偶のハンズオン

【備考】
調査：ワークショップ等における参加者アンケート調査、教員研修会　アンケート調査　3 回
成果物：考古展示室ハンズオン展示　みみずく形土偶（29 年 3 月に制作）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	レクチャーから体験型プログラムまで、幅広い教育事業の実践や、ボランティア組織の運営を通じて、博物館教育についての研究を行うことができた。その結果、「トーハクキッズデー」、ワークショップ「篆刻体験　自分だけの印をつくろう！」など新規のものを含めた多様なプログラムの開発と運用を行うことができた。 また、より幅広い来館者の支援を目指して、聴覚障がい者の教育プログラムへのアクセスを可能にするための機器についての調査を行い、29年3月には講演会やギャラリートーク会場への機器の設置ができた。29年度はこれらの機器の運用を開始したい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画期間では、より幅広い来館者に向けた鑑賞支援についての取り組みを目指している。28 年度はキッズデーにおける未就学児を対象とした施策や、聴覚障がい者を対象とした施策など、新たな取り組みができた。次年度以降はこの方向を継続しつつ、訪日外国人をその対象として位置付けるなど、各プログラムの充実と一層の拡充に向けての調査・研究を継続したい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413A3

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　凸版印刷と共同で実施する、ミュージアムシアターでの公開に向けた調査研究（(4)－①－3)

【事業概要】
館蔵文化財のデジタル・アーカイブを活用した、新たな公開手法を凸版印刷株式会社と共同で研究する。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部長　井上洋一

【主な成果】

28 年度は既制作の素材を活用して、当館研究員の監修により「安土城から檜図、そして二条城へ」「江戸城の天守」の二つのコンテンツを作成、公開した。

(1) 調査概要
凸版印刷が作成した 2 つのコンテンツ案について、当館研究員が内容の正確性や、映像表現の当否について確認を行った。

(2) 調査の結果得られた知見
既存の安土城の映像表現の根拠となる史料は、必ずしも十分な信頼性があるものではないため、当館公開に際しては、映像表現を修正した。

(3) 調査研究の成果
下記 2 件のコンテンツを当館ミュージアムシアターで公開した。
9 月 28 日～12 月 23 日「安土城から檜図、そして二条城へ」
29 年 1 月 4 日～3 月 31 日「江戸城の天守」

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
C	28年度は、作品の管理、利用状況と研究員のスケジュールとの調整が困難であったため、新規のデータ取得に至らなかった。29年度以降、ミュージアムシアターの事業展開と併せて、研究方針、対象作品等の見直しを行う。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
C	情報技術の進歩、対象作品の選択の難度などの条件により、既存の枠組みでの調査研究は見直しが必要であり、提携先の凸版印刷、館内担当部署と協議を行い、29年度に方向性の成案を得る。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413A4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ　ICT を利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究（(4)－①－3）

【事業概要】

来館者の鑑賞体験を深めることを目的とした日英 2 ヶ国語による鑑賞支援アプリケーション「トーハクなび」のユーザー動向解析を用いたより豊かな鑑賞体験の創造に関する調査研究、児童生徒のための鑑賞支援アプリケーション「学校版　トーハクなび」の活用・改善に関わる調査研究を行った。

【担当部課】	学芸企画部博物館教育課	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長　小林牧

【主な成果】

1) スマートフォンによる公式ガイドアプリ「トーハクなび」（日英 2 か国語対応）を継続して配信した。
2) 27 年 4 月より継続して「トーハクなび」のユーザーログを集積・解析し、来館者の鑑賞体験を深めるための情報と発信方法、的確なシステムのあり方について、調査・研究を行い、報告書を作成した。
3) 29 年 1 月より来館者のアクセスの可能性を広げるために、「トーハクなび」をインストールした端末の貸し出しサービスを開始した。
4) 学校団体で来館する児童・生徒を対象としたスクールプログラムの一環として、タブレット端末によるスマートフォンアプリ「学校版トーハクなび」（中学生・高校生対象）の運用を 6 月から開始した。運用開始に際して、生徒・教員向けの体験会と観察調査、ユーザーログの集積、アンケートの実施など、生徒の鑑賞体験を深めるためのよりよいプログラム開発に向けた調査を行った。
5) 29 年 3 月 11 日、12 日に、博物館における鑑賞体験を深めるための ICT を利用したプログラム開発に向けて、新しい視座とアイデアの創出を目的とした「トーハク×アイデアソン」を「訪日外国人の記憶に残る日本文化体験とは」をテーマに開催した。

アイデアソン開催風景
左：グループワーク
右：審査員による講評とトークショー

【備考】

1) 「トーハクなび」ユーザーログの集積　27 年 4 月～　継続中
2) 「学校版トーハクなび」ユーザーログの集積　6 月～　継続中
3) 報告書「「トーハクなび」利用者の動向」29 年 3 月作成　4 月にインターネットで公開予定
4) 報告書「トーハク×アイデアソン」（29 年 3 月 11 日、12 日開催）　4 月にインターネットで公開予定

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	アプリ「トーハクなび」によるサービスを提供しつつ、ユーザーの動向についてのデータを集積することができた。また、アイデアソンにおける企画募集や討論を通じて、外国人来館者のニーズやを探り、ＩＣＴのトレンドを探ること、新しい視座を提供することもできた。 「学校版トーハクなび」では運用を開始することができた。それに伴い、生徒たちの使用状況の観察やログの集積により、よりよいプログラムに向けての情報収集と改善を行うことができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	31年度に予定されている本館リニューアルを目途に、またオリンピック開催にむけて、主に訪日外国人を対象とした鑑賞支援プログラムの充実を目指しているが、今年度はそのための情報集積と、課題の掘り起こしができた。また、学校教育の現場でＩＣＴ利用への関心が高まるなか、ＩＣＴによる鑑賞支援プログラムの提供をいち早く実践することができた。次年度はプログラムの運用を通して、よりよいプログラムへと発展させるための検討を具体的に進めたい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1413A5

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	a.ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析（科学研究費助成事業）((4)－①－3)

【事業概要】

本研究は、ミュージアムにおける「鑑賞者開発（Audience Development)」の実証的な研究である。鑑賞者開発は、芸術団体と人々の関係強化を目指した考え方で、英国を中心に研究・導入されているが、ミュージアムにおける実証研究はいまだ発展途上にある。そこでプロジェクト責任者は、インターネットやモニタリング調査、海外比較等をもとに我が国ミュージアムにおける鑑賞者開発のモデルを構築し、それを実際のミュージアム事業と連動させることにより、ミュージアムにおける鑑賞者開発の先駆的な実証研究になりうると考え、本研究を計画した。研究を通して我が国ミュージアムに最適な鑑賞者開発の在り方を明らかにし、将来的にはミュージアムへの多様化するニーズを満たし、ミュージアムの社会的価値を増進することにつなげていきたい。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	総務部総務課渉外開発担当係長 関谷　泰弘

【主な成果】

(1) インターネット調査の実施
(2) 来館者調査の実施
(3) 鑑賞者開発イベントと調査の実施
(4) 27 年度調査結果をもとに論文発表
(5) 国際学会における口頭発表

【備考】

科学研究費助成事業の 3 年計画の最終年度

(1) 1 都 3 県の 828 人にインターネット調査を実施（12 月 13 日)。ミュージアムとの関係性から 5 分類した人々の、ミュージアムへの参加動機、意識、日常の行動等を調査した。結果は(2)とあわせて、29 年度以降に学会等で発表予定。
(2) 一般の東京国立博物館への来館者調査を実施し、180 人から回答を得た（2 月 1,5 日実施)。この結果を(1)インターネット調査及び、(3)「博物館で野外シネマ」参加者データと比較分析し、29 年度以降に学会等で発表する予定。
(3) 「博物館で野外シネマ」への参加者 202 人にアンケート調査を実施（10 月 14,15 日)。
(4) 英米との比較による我が国ミュージアムにおける来館者開発の導入に向けた基礎研究, 関谷泰弘, 日本ミュージアム・マネージメント学会紀要, 21 号（ページ未定）, 2017 年（査読済）.
(5) How can local cultural institutions be united? A case study on the Ueno Passport as a tool for local cultural connection, Yasuhiro Sekiya, ICOM-MPR 2016, Milano Conference, 2016. (7 月 5 日)

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の最終年度である28年度は、当初予定通り、インターネット調査と東京国立博物館における来館者調査を実施し、さらに27年度に実施した調査に基づいた研究発表を行った。また、26年度、27年度に引き続き、研究に関係する事業の国際学会における口頭発表も行い、継続的な国際発信も続けている。27年度は調査分析が予定通り進まなかったためＣ判定としたが、28年度で遅れた分を取り戻し、当初予定通り事業を実施できたため、Ｂ判定とした。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。1年目に鑑賞者開発プログラムの企画・実施及びその実証調査を実施、2年目にその結果の発表及び英米におけるインタビュー調査を実施。最終年度である28年度には、27年度の調査結果を論文の形でまとめるとともに、インターネット調査及び来館者調査を実施し、今後の分析につなげている。当初の研究計画通り研究を終了できたため、Ｂ判定とした。今後は、29年度から科学研究費助成事業による海外共同研究の実施が決定したため、この研究結果を発表するとともに、海外の事例を調査研究し、日本との比較を踏まえて、実際のミュージアムにおける事業の実施から、さらなる研究に結び付けていきたいと考えている。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1413A6

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	b.藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－3）（研究代表者：奈良県立橿原考古学研究所　今尾文昭）

【事業概要】

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館が所蔵する藤ノ木古墳出土品をはじめ 11 件（3,000 点以上）の国宝等国指定文化財を対象に、照度・大気・振動・温湿度等の展示・収蔵環境の調査と非接触高精度三次元形状計測及び透過 X 線撮影検査による微細物理的検査との相関性について研究し、適正保管・管理・公開を促進するための計画の指針（試案）を検討する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	企画課特別展室主任研究員　品川欣也

【主な成果】

(1)調査

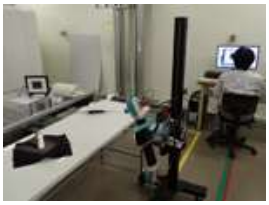
東京国立博物館にて縄文土器、経筒などの三次元形状計測やＸ線ＣＴ撮影を行った。三次元計測を行ったデータの解析処理を行い、また新たな公開方法について検討を行った。

(2)調査の結果得られた知見・発見など

作品の高精度な三次元計測データが得られ、今後の適正保管・管理・公開を促進するための基礎データとすることができた。

(3)調査・研究の成果

29 年度の図版目録「東京国立博物館図版目録　経塚遺物篇(西日本)」などに計測データを解析して得られた画像データを使用予定。



三次元計測機を用いた計測風景

【備考】

科学研究費助成事業の 4 年計画の 4 年目

・三次元計測作業 9 日間、Ｘ線ＣＴ撮影作業 3 日間　（計 8 件、国宝 2 件、重要文化財 2 件を含む）

・調査回数 2 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業4年計画の最終年度である28年度も、引き続き本研究課題の対象資料(藤ノ木古墳出土品)の比較検討資料として、基礎的なデータの集積を行い、年度計画における文化財を活用した効果的な展示に関する調査を、達成することが出来た。この成果として、計測データを解析して得られた画像データを、図版目録「東京国立博物館図版目録　経塚遺物篇(西日本)」に掲載予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施することができた。とくに本研究課題は新しい計測機器及び方法(非接触高精度三次元形状計測及び透過X線撮影検査)を用い、文化財の適正保管・管理・公開を促進するための基礎資料が構築できた。 本研究で得られた知見は、共同研究(三次元計測並びにＸ線ＣＴ計測データを活用した考古資料の新たな展示方法の開発　十日町市博物館、大塚オーミ陶業)の開始につながった。

【書式Ｂ/博】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 1413B1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　ボランティアによる、ハンズオン教材等を活用した展示作品理解のための事業に関する調査研究（科学研究費助成事業）（(4)－①－3）

【事業概要】

本研究では、対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究を行う。具体的には、京都国立博物館において 26 年 9 月にスタートした「京博ナビゲーター」の活動を対象とする。ミュージアム・カートやワークショップにおいて、来館者の主体的な興味・関心を引き出すためには、どのような手法や教材がもっとも有用かを検討、実践し、最終的にはその成果を普遍化して他の教育普及活動にも応用できるようにすることを目的とする。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室研究員　水谷亜希

【主な成果】

禅の言葉

(1)27 年から継続して 151 人が京博ナビゲーターとして登録、それぞれ月に 1 回以上来館し、館内で活動を行った。通常時の活動では、ナビゲーターはミュージアム・カートに設置されたハンズ・オン教材を用いて来館者と交流した。

(2)「三角縁神獣鏡（復元鋳造）」と「玉眼模型（如来）」の 2 件を新たな教材としてミュージアム・カートに追加し、ナビゲーターへの研修を 4 回行った。

(3)特別展に関連したワークショップ、「“くじ”で出会う禅の言葉」と「龍馬さんからお手紙です！」を開館日の毎日実施した。関連して研修会を 4 回行った。

(4)ナビゲーター同士がウェブ上で交流できるポータルサイトの運用を開始した。

(5)ミュージアム・カートやワークショップは、子どもだけでなく、大人や近年増加している海外の旅行者にも好評である。

(6)ミュージアム・カートや京博ナビゲーターを含む教育普及活動について、海外からの視察があった（国立扶餘博物館（韓国）、国立中央博物館（韓国）、サンフランシスコ・アジア美術館（アメリカ））

(7)活動中の見守りは教育室スタッフが中心となって行っているが、土日祝日は目が届きにくく、ボランティアとの意思疎通に影響が出ているため、限られた人員でどのように運営を継続するかが 27 年度からの課題となっている。

(8)他館への調査（琵琶湖博物館ほか）、研究会への参加（全国美術館会議 教育普及研究部会ほか）を 8 件行った

【備考】

科学研究費助成事業の 4 年計画の 1 年目

・ナビゲーター登録：151 人　　・ミュージアム・カート活動日数：197 日
・カートに設置したハンズ・オン教材：16 件（うち新規 2 件）
・ワークショップ「“くじ”で出会う禅の言葉」：36 日 11,547 人
・ワークショップ「龍馬さんからお手紙です！」：38 日 8,725 人
・ナビゲーターに向けた研修会：14 回　　・感謝会：1 回　　・外部視察受け入れ：3 件　　・他館調査 8 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業4年計画の初年度である28年度は、27年度までの事業を継続しつつ、教材2件の追加と研修、特別展に関連したワークショップの実施と研修、ポータルサイトの運用開始など、新しい活動に取り組んだ。また他館の活動調査や研究会等に参加し、自館の活動を客観的に分析するための地盤作りを行った。さらに、29年度のナビゲーター2期生募集に備え、これまでの活動の振り返りと改善点の洗い出しを行った。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。科学研究費助成事業4年計画では、現状の分析や実践方法の改良を行い、最終的には口頭発表や論文等で成果を広く公表することを目指している。28年度は、新たな取り組みや、分析のための地盤作りを行うことができた。29年度はナビゲーター2期生の募集・活動開始の年にあたるため、メンバーの入れ替わりに伴う影響も考慮した上で、活動の継続と分析・改良を行う。

【書式Ｂ/博】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 1413B2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究（(4)－①－3）

【事業概要】

本事業は、高精細デジタル複製を学校に持ち込んで訪問授業を行い、子ども達が文化財に親しむきっかけを作る活動である。京都国立博物館は 21 年に訪問授業を開始し、26 年には NPO 法人京都文化協会・京都市教育委員会と共に「文化財に親しむ授業実行委員会」を立ちあげた。訪問授業で講師をつとめるのは大学生ボランティアの「文化財ソムリエ」であり、子ども達が学ぶだけでなく、実践を通じた大学生の学びの場としても機能している。本事業は、複製を軸として博物館、教員、大学生が交流することで互いに学び合い、新たな活動領域や価値観を獲得する試みである。その成果は訪問授業や教員への情報提供に反映するほか、論文、研究発表等で公開することを目指す。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室研究員　水谷亜希

【主な成果】

(1)文化財ソムリエ 7 期生 7 名を新たに採用し、計 17 名が活動した。28 年度は 20 回のスクーリングを博物館にて実施、絵画担当の研究員が勉強会を行ったほか、教育室研究員の助言のもと、文化財ソムリエが授業の進め方、内容を検討した。8 月には学校教員との交流会を行い意見交換を行うとともに、過去の授業例の紹介や複製の取り扱いレクチャーを行った。以上の訪問授業に関わる活動のほか、こどもひかりプロジェクトが主催する東北地方での活動に参加、11 月には京都にこどもひかりユース（大学生ボランティア）を招き、互いの活動紹介や意見交換を行った。

(2)スクーリングでは、文化財ソムリエが主体的に考え、行動できるよう議論を促した。また絵画担当研究員が作品解説を行うことで、専門性の高い内容を学んだ上で、授業内容を検討することができた。28 年度は、26 年度に作成した雪舟筆「天橋立図」の複製を用いたプログラムを新たに開発した。教員との交流会では、学校教育と博物館教育の違いを再認識するとともに、互いのスキルを活かす方法について有意義な意見交換を行うことができた。また、こどもひかりプロジェクトへの参加は、他地域の大学生や他分野の博物館職員との交流の場となり、文化財ソムリエのモチベーションを大いに高める効果があった。

文化財ソムリエによる訪問授業

(3)スクーリングでの準備に基づき、京都市内への訪問授業 7 回を行った。また、交流会に出席した教員や他館職員による複製を活用した授業が 6 回実施された（京都市内 3 件、大阪府泉南市 1 件、京都府福知山市 1 件、三重県四日市市 1 件）。若冲生誕 300 年を記念して京都市で行われた「第 32 回京都市中学校総合文化祭　若冲創造展」の会場では、文化財ソムリエによる「おしゃべり鑑賞会」を実施した。

(4)複製を使った活動や鑑賞教育に関して、他館の調査 3 件（醍醐寺宝物館と醍醐中学校の連携授業）を行った。さらに、これまでの成果をふまえて論文 1 件を執筆した。

【備考】

・文化財ソムリエ：17 人　・スクーリング：20 回
・教員との交流会：1 回 24 人　・こどもひかりユースとの交流会：1 回 22 人
・訪問授業：7 回 931 人（小学校 2 回、中学校 5 回）　・教員・他館職員による授業 6 回 486 人
・おしゃべり鑑賞会：1 回 58 人　・こどもひかりプロジェクトの体験イベント：4 回 925 人
・新聞取材：「サミットを想像し鑑賞　四日市高生　光琳の複製屏風」（中日新聞 12 月 23 日）
・他館調査：3 件　・助成金：平成 28 年度 文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業　3,810,000 円
・論文：「文化財複製を活用した大学生による訪問授業の実践　京都国立博物館 文化財ソムリエ」『学叢』38 号、京都国立博物館、5 月

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	本活動はノウハウの蓄積や文化財ソムリエの成長に伴い、年々内容が深まっている。28年度はあらたな複製（天橋立図）を用いたプログラムも開発することができた。また交流会をもとに教員や他館職員による授業・プログラムが実施されたことで、訪問授業に加えて486人もの生徒に学習の機会を提供することができた。28年度は京都市内だけでなく、近隣他府県でも活動を展開することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	21年度より開始した高精細複製を使用した文化財鑑賞教育についての調査研究は、これまでの活動の蓄積を生かし、年々内容を深めると共に活動も多様になっており、外部との協力・交流も広がりを見せている。28年度はその内容の更新・拡大と現中期期間において、調査研究の成果を生かした新たな取り組みを実行することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1413B3

業務実績書

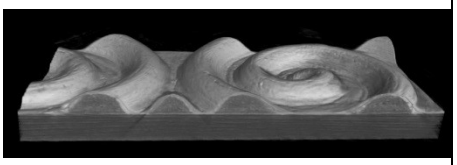
中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　３Ｄプリンター等を用いた教育プログラムに関する調査研究（(4)－①－3）

【事業概要】
京都国立博物館で所有するＣＴスキャナ、３Ｄデジタイザ、３Ｄプリンタ等の科学調査機器を活用し、展覧事業・教育普及活動等を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品管理室長　宮川禎一 教育室長　山川曉

【主な成果】

(1)「根来塗と鎌倉彫」（名品ギャラリー,6 月 14 日-7 月 24 日）の展示に　あわせ、鎌倉彫風の外観を持つ「屈輪文堆彩漆大香合」（当館寄託）のＸ線ＣＴ調査を行った。調査結果、本資料の屈輪文様は、木を彫り出して造形する鎌倉彫ではなく、木胎に別の素材で屈輪文様を造形したものであることが判明した。展示室では実資料と並べて、調査の結果を A３パネルで掲示し、漆工芸の材料や技法の理解に役立てることができた。



屈輪文堆彩漆大香合の
X 線 CT 画像（部分）

(2)27 年度作成した「三角縁神獣鏡（復元鋳造）」を館内の「ミュージアム・カート」に設置し、京博ナビゲーター（ボランティア）と対話しながら、来館者が自由にさわれるようにした。復元鋳造は、制作された当時の色や輝き、重さを体験できるため来館者に大変好評だった。この復元鋳造は、３Ｄデジタイザで計測したデータを元に３Ｄプリンタで樹脂複製を作成、その樹脂複製から型取りを行い、原本と同じ原料で鋳造したものである。原本は「三角縁複波文帯三神三獣鏡」（重要文化財、愛知県犬山市 東之宮古墳出土、京都国立博物館蔵）、復元鋳造は芦屋釜の里（福岡県）八木孝弘氏に依頼した。３Ｄデジタイザと３Ｄプリンタを利用することで、原本を安全な状態に保ったまま復元鋳造を制作することができた。

三角縁神獣鏡
（復元鋳造）

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学調査機器を活用して三角縁神獣鏡の複製を作成してハンズオン教材として活用したり、漆工作品についての調査結果を紹介するパネルを展示室に掲示することで、現物の展示だけでは分からない文化財の側面について、来館者に伝えることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画期間に、館で所有する科学調査機器を活用し、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施することを目標とする。本年度は、複製の制作やパネルによる研究成果の紹介だけでなく、他館からの見学も受け入れ、今後の活用・展開について意見を交わすことができた。今後は本年度の成果をふまえ、このほかの文化財に関する調査と成果の発表、他機関との協力を行っていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1413C1

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究（(4)－①－3）

【事業概要】
奈良を中心とした寺社の歴史や伝統行事に関する情報を集め、「世界遺産学習」をはじめとする教育プログラムに反映させられるか検討を行い、重要度の高い情報、適切な内容を発信する仕組みを考える

【担当部課】	学芸部教育室	【プロジェクト責任者】	室長　谷口耕生

【主な成果】

(1) 4 月 29 日のなら仏像館リニューアルオープンに合わせて世界遺産学習の実施対象を全国から来館する小中高校生に拡大し、なら仏像館（当館旧本館）が奈良の文化財の保存･公開に果たしてきた歴史的役割を積極的に伝える方向でプログラムの内容を一新した。

(2) 奈良教育大学・奈良市教育委員会とともに立ち上げたＥＳＤコンソーシアム文化遺産教育ワーキンググループを立ち上げ、博物館施設を活用して地域社会への関心を高めるための方策について協議を重ねた。

(3) 同ワーキングで提言された展示と密接に関連するクラフト教材活用及びワークショップの実践として、信貴山縁起絵巻展関連の親子イベント「空とぶ鉢のおはなし絵巻をつくろう！」(4 月 30 日)、忍性展関連の親子イベント「きく！みる！ふれる！東征伝絵巻」(7 月 31 日）を開催し、合計 163 名の小学生の親子が塗り絵絵巻の製作や複製絵巻に直に触れるという体験を通じて、絵巻物の仕組みへの理解を深めた。

「空とぶ鉢のおはなし絵巻をつくろう！」実施風景

【備考】
・「世界遺産学習」等に来校した学校団体 49 校（奈良市世界遺産学習 25 校、学校プログラム 24 校）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	「世界遺産学習」を 中心とした 子供向けの 「語りかけ」 を検討・ 実践 することで 、他の観光案内 にはない博物館のオリジナリティを持たせることが出来た。さらに「世界遺産学習」を中心とした子供向けの教育・普及活動の充実により、ボランティアガイドの育成・充実にも貢献し、来館者向け解説サービスの向上にも繋がっている。「世界遺産学習」は、 内容を随時検証し、より正確で分かりやすい内容を継続的に検討していくことによって、その継続性と質の確保に努めている。学芸部職員による研修や勉強会を通じて、内容の修正を行い、正確性を確保した。なら仏像館リニューアルオープンに合わせて「世界遺産学習」の実施対象を全国から来館する小中高校生に拡大し、ESD（持続的開発のため教育）ワーキングあるいは職員とボランティアの間で情報の検討を通じてプログラムの見直しを行った結果、「世界遺産学習」の精度が向上し、来校する学数も所期の目標に達している。この数値を維持するためにも今後とも検討を重ねていく必要があり、それらの成果来館者サービスの向上につながるものと考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	歴史、伝統文化の教育事業として 継続的に行ってきた 「世界遺産学習」は 一定の成果を上げている 。29年度は、「世界遺産学習」をユネスコが提唱 するESD（持続的開発のため教育）一環としての位置づけをより明確にするための方法論確立に向けて協議を進めるとともに、教育機関との連携により親子プログラムを充実させるなどより一層の質的向上を目指す。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1413D1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　ＮＨＫと共同で実施する高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターでの映像公開に向けた調査研究（(4)－①－3）

【事業概要】

テレビの世界ではフルハイジョンが主流だが、その 4 倍の画素数の４Ｋテレビという高画質が近年シェアを伸ばしている。当館では開館以来、この４Ｋのさらに 4 倍の密度を有する８Ｋというスーパーハイビジョンシステムによる映像を、世界で唯一の常設設備として公開してきた。このスーパーハイビジョンの質感と臨場感あふれる優れた特性を、文化財の保存と活用のための魅力的なコンテンツ制作に生かす。同時にコストも考慮した新しいシステムの調査研究を推進する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	文化交流展室研究員　森實久美子

【主な成果】

27 年度末に開催された放送文化基金シンポジウム「８Ｋから∞へ ～超高精細映像のゆくえ～」において、当館のスーパーハイビジョンシアターの運用の課題として多言語化の問題を提起した。この中では、スーパーハイビジョンを博物館で導入した事例が少なく、内外の関心も高いことから多言語化が喫緊の課題であることが指摘された。これを受けて、28 年度はスーパーハイビジョンを運営する NHK エンジニアリングと共同で多言語化対応のための方法と経費についてさまざまな検討を行った。

多言語化の方向性には 2 つあり、①映像にナレーションである日本語以外の 3 ヵ国（英・中・韓）語のテロップを入れる方法、②映像と同期させて多言語のナレーションを、チャンネルを変えて個別にイヤホンで聞く方法である。①の方法では単一の映像コンテンツに 3 ヶ国語のテロップを入れることはデザイン上できないため、個別にコンテンツを作成しなければならない。また映像再生のための収録パックも増設しなければならないため、映像投影施設側のコストが膨らむ。一方、②の方法では映像機器に対する投資は①の方法よりも安価であるが、座席ごとに音声を聞き取るイヤホンを装着せねばならない。また運営のためにはイヤホンのクリーニングまたは、使い捨てイヤホンの配布などランニングコストが嵩むこととなる。いずれも一長一短でいずれが最適かの結論は出せないが、導入にむけての課題が浮かび上がった。また、参考見積でも、いずれの方式であっても 1 千万円を越えることが明らかとなり、長期的なビジョンでの予算確保の必要性が明らかとなった。

以上、開館以来の課題であった、スーパーハイビジョンシアターの多言語化について、関係部署と協議しながら具体的かつ実践的な検討を進めることができた。

長崎の教会群の映像番組

宗像・沖ノ島の映像番組

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	開館以来、十分に検討されてこなかったスーパーハイビジョンの多言語化について、具体的かつ実践的な検討が進められたことは大きい。今後は、諸方面と連絡調整をしつつ、予算面も含めた裏づけが必要である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画の達成にむけて、順調に推移している。新コンテンツの作成との両輪で、本プロジェクトを推進していきたい。スーパーハイビジョンの多言語化は、海外からのインバウンド需要の恩恵を受けている当地にとっても必須の問題であり、今後、「神宿る島　宗像・沖ノ島」や「長崎の教会群」の世界文化遺産登録を控え、ますます緊急度の高い課題となることが予測される。そこで、関係各所と連携しつつ、実現にむけて推進していきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1413D2

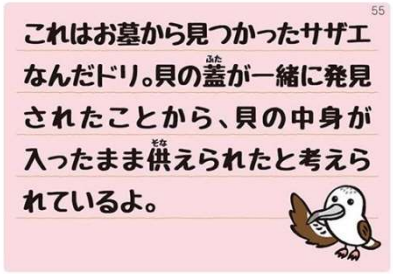
業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究（(4)－①－3）

【事業概要】
特別展をより楽しくわかりやすくするための教育普及プログラムを実施する。28年度は「始皇帝と大兵馬俑」展、「京都 高山寺と明恵上人」展、「宗像・沖ノ島と大和朝廷」展の3つの特別展において、教育普及プログラムを実施した。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	アソシエイトフェロー　西島亜木子

【主な成果】
他館ではあまり例をみない特別展での教育普及活動について、これまで実施した活動における来館者の反応や要望に基づき、効果的な教育普及事業について実践的な調査研究を行った。
特別展のテーマや来館者層、来館状況に応じた教育普及活動を事前に担当者と協議し、実施内容を検討した。その結果、展示室内での体験コーナー、解説パネルの設置、展示室外でのワークショップを実施した。また、展示理解促進のための冊子を製作した。体験者へのアンケートでは、約8割が「楽しかった」と回答し、高評価を得た。
(1)「始皇帝と大兵馬俑」展では、始皇帝が行った単位の統一を体感してもらう企画「秦の単位で身体測定」を実施。秦の単位の目盛りをつけた身長計と体重計を会場内に設置し、来館者に身長、体重を計測してもらった。小中学生向けのジュニアガイド「めざせ！始皇帝博士」を6万5千部作成し、事前配布及び会場配布を行った。また、5月5日の子どもの日企画として、兵馬俑の髪型と冠をペーパークラフトで作るワークショップ「紙で工作！兵馬俑に変身！」をエントランスホールで実施し、167名が参加した。
(2)「京都 高山寺と明恵上人」展では、入場のための長い待ち時間が予想されたことから、明恵上人を紹介する冊子「レジェンド・オブ・明恵」を8万部製作し、エントランスホールで配布した。（当初の印刷部数は5万部であったが、好評であったため3万部増刷した）行列の間に冊子を手に取り、読んでいる姿が多数見られ、展覧会への事前理解が深まった。また、冊子の内容をパネルにし、会場内にも設置した。冊子はホームページでもダウンロードできるようにした。（ダウンロード数1,331件）
(3)「宗像・沖ノ島と大和朝廷」展では、会場内に体験コーナーを設け、3Dプリンタで出力した貝輪のレプリカ及び貝製品の素材であるイモガイの現生品を触れるようにした。また、わかりやすい解説として、沖ノ島に住む鳥をキャラクター化した、オオミズナギドリのドリーが展示に関する豆知識を紹介する題箋サイズのパネルを設置した。さらに、古代に親しむ企画として、会場外に写真撮影及び古代服「貫頭衣」試着コーナーを設けた。



「宗像・沖ノ島と大和朝廷」展解説

（参考）ドリーが解説したサザエ
（福岡市埋蔵文化財センター所蔵）

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	「博物館は敷居が高い」と考えている人が多いことから、当館のわかりやすくて楽しい教育普及プログラムは来館者から期待が寄せられている。その期待に応えるため、幅広い世代を対象にしたプログラムを実施し、高評価を得た。当館では、3D計測した展示資料を3Dプリンタで出力し、実物の近くに設置して触れるコーナーを設置したり、展覧会のテーマとなっている時代の服装を再現し、試着できるコーナーを設置するなどオリジナルの教育普及プログラムを開発しており、他館でも活用できるなど発展性がある内容であった。効率性、継続性については担当者の能力に依存する面もあり、今後改善が必要である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	教育普及プログラムの調査研究は、来館者が期待する知識・体験の提供を充分調査して実施しており、アンケートで約8割が「楽しかった」と回答していることからもわかるとおり、高い評価を得ている。年代も若い世代から高齢者まで安定して満足度、期待度が高い。それにより、中期計画における「教育普及活動等に関する調査研究」のうちの教育普及事業については充分に達成できたと考える。29年度以降も、それぞれの展覧会に合った来館者のニーズを調査研究し、来館者の要望に合わせた多様なプログラムについて調査研究していきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1413D3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　学校教育現場との連携を図って作り上げる学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発（(4)－①－3）

【事業概要】
現在、13 種類の「きゅうぱっく」を準備し（各 2 セット、計 26 セット）、学校や社会教育団体等への貸出を行っている。今後、新規ぱっく開発を見据えて、現在ある「きゅうぱっく」の有効な活用法に関する実践事例を収集するとともに、貸し出しや出前授業を通して博物館の活用や「きゅうぱっく」に関する情報を発信し、利用の普及を図る。

【担当部課】	交流課	【プロジェクト責任者】	教育普及室主任研究員　久保田和之

【主な成果】
・「きゅうぱっく」を活用した実践事例や博物館を活用した授業作りに関する指導案や学習プリントなどを収集し、今後の新規ぱっく開発の方向性について、更なる検討を進めた。
・学校現場や子ども達のニーズを踏まえ、アジア各地の代表的な楽器の音色・演奏及び解説を聴くことができるＣＤと、トランクに収納可能なサイズの楽器を集めた新規ぱっく『あじっぱ・どこでも音楽室（仮称)』の開発に向けて検討を開始した。

【備考】
・「きゅうぱっく」利用報告書や聞き取りを元に、アクティブラーニングへの移行が進む学校現場において、教員が「きゅうぱっく」に何を期待し、何を求め、どのように活用しているか、調査を進めた。
・多くの先生方に「きゅうぱっく」を知っていただけるように、28 年度も春日市立須玖小学校、那珂川町立岩戸小学校、佐賀市立新栄小学校、太宰府市立太宰府中学校など、積極的な出前授業をおこない、児童生徒の反応を検証した。
・従来、きゅうぱっく「稲づくりから国づくりへ」及びきゅうぱっく Lite「青銅器のいろいろ」では、３Ｄプリンタで再現した銅戈を提供してきたが、28 年度からは、青銅で再現したより本物に近い銅戈をパックした。これによりリアルな青銅器体験を提供できるようになり、生徒達の反応も格段に良くなり、理解も進んだ。今後も現状の経年劣化したアイテムを更新し、利用者の期待に応えられるように努めたい。

「きゅうぱっく」を利用した授業

・事前に依頼があった複数の特別支援学校や視覚障がい者の団体に対して、当館研修室及び和室において「きゅうぱっく」を体験してもらい、理解を深めるように工夫するとともに、その反応を検証した。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	「きゅうぱっく」の貸出件数は、47件・87パック（セット）であり、27年度と比較すると件数はほぼ横ばいであるが、貸出パック数は10パック以上増加している。理由としては、教員の「きゅうぱっく」活用の幅が広がり、同時に複数パックを借りるケースが増えていること、出前授業での活用や校長会での広報など情報発信に努めたことにより、「きゅうぱっく」が使いやすくまた効果的な学習教材であると認知されつつあることなどが挙げられる。今後も広報活動を積極的に展開していく必要がある。 また、今後は、収集した多くの実践事例を精査し、学校等での利用促進を図るとともに、「きゅうぱっく」の内容をさらに充実させたいと考えている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画における「有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究」の達成に向かっている。カリキュラムに「きゅうぱっく」の活用や、来館時の「きゅうぱっくを活用した体験活動」が位置づけられている学校があるなど、学校教育との連携が深化している。学校の要望に応えるために、的確な時期の情報発信や教員研修の充実、積極的な受け入れを進めるとともに、内容の充実・新規ぱっくの開発・作成が求められている。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1413D4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ　文化交流展示室に関して現在の展示施設、展示環境や展示方法の調査研究（(4)－①－3）

【事業概要】
27 年度に実施した文化交流展示室リニューアル後の観覧者動向を分析し、よりいっそうの充実と改善に努める。また、開館以来映像展示を行ってきた第 7 室の改修および展示のリニューアルを実施する。さらに、文化交流展示室内における新しい解説システムの検討に着手する。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	課長　楠井隆志

【主な成果】

(1) 文化交流展示室の充実と改善

・トピック展開催中は観覧者の動向を観察し、より多くの来室につながるようデジタルサイネージ案内や会場案内表示板の設置、開催情報の細やかな提供に努めた。

・お客様からの指摘や意見を参考にしながら、キャプションやグラフィックパネルの柔軟な修正対応・改善・工夫に努めた。

(2) 第 7 室の改修及び展示リニューアル

・第 7 室は、開館以来「すず♪かね♪たいこ」のテーマのもと、中国・ベトナム・インドネシアの祭りで奏でられた青銅楽器の世界を、6 面マルチスクリーン映像を上映しながら実物資料の展示をおこなってきた。開館 10 年が経過し、映像機器の老朽化と部品供給の終了を受けて映像展示継続が困難になった。そのため、9 月の 1 カ月間閉室して通常展示室への改修を実施した。

・新しい展示室は、アジアの国や地域、時代にとらわれない、親しみやすいテーマを毎回設定し、これまで基本展示でなかなか活用する機会の少なかった収蔵品をベースとする展示を展開することにした。第一弾として、10 月 4 日より 12 月 23 日まで、アジアの屋根を彩った瓦や装飾を紹介する「アジアの甍」を開催した。

「アジアの甍」（10 月 4 日～12 月 23 日）展示風景

(3) 新しい解説システムの検討にむけての情報収集

・現行の音声ガイドシステム（英・中・韓）は開館以来のシステム・内容であるため、当館の特徴である頻繁な展示替になかなか対応できないという欠点がある。また日本語解説への強い要望も寄せられており、新しい手法による解説システムの検討・導入が急務といえる。

・近い将来の新システム導入にむけて、さまざまな業者へのヒアリングをおこなうとともに、近年新しいシステムを導入した先行施設への見学やヒアリングを実施した。

【備考】
新解説システムに関する業者へのヒアリング：4 社
先行施設への見学：5 施設

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	作品キャプションやグラフィックパネルの内容については、事前の調整はもちろん、展示後も内容の工夫や表記の修正など、柔軟な対応を心がけ、分かり易い展示サービスの提供と満足度の向上に努めることができた。新しい解説システム検討にむけての先行施設の視察や情報収集も着実に進めることができた。次年度は、文化交流展の多言語化対応の観点からも当館にふさわしい、時代の先端をゆく新解説システムの検討にむけて具体的な計画を策定に取り組む計画である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	解説システムについては、当館にはどのようなシステムが相応しいか内部検討を進めており、中期計画の初年度として、計画は概ね順調に遂行することができた。現行システムが開館以来のものであることから、早急な新システムへの移行が望まれる。29年度はシステムの設計要件をまとめ、30年度には導入が完了できるよう、検討作業を進めてゆきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1413D5

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	a.潜在的利用者とつくる新しい博物館の活動「きゅーはく女子考古部」についての調査研究 ((4)－①－3)

【事業概要】
新たな来館者層開拓及び考古学の魅力を伝えることを目的とした「きゅーはく女子考古部」の活動を実施する。本事業は博物館が提供するプログラムを来館者が実施する従来のプログラムと違い、参加者自らが活動内容を決める新たな方法を採用する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	アソシエイトフェロー　西島亜木子

【主な成果】
5月から29年3月まで毎月1回の活動を通して参加者が考古学の魅力を発見するとともに、参加者自らがSNS等で活動内容を発信した。また当館ウェブサイト内のブログでも活動の様子を掲載した。取材依頼も多数あり、当館の活動や考古学の魅力を充分発信することができた。5月から8月は当館が提供したプログラムを実施、9月から29年1月までは部員の自主的な活動を行った。

これまで少なかった20代～30代女性の来館者層をターゲットとするため、部員募集チラシのデザインを若者向けにしたり、応募方法をメールのみにしたりすることで、若い女性の応募を促すことができた。活動の前半は当館が企画したプログラムを実施した。当館研究員が近隣の史跡の魅力や考古展示の見方を伝えたり、古代の衣装を部員にデザインさせたりすることで、それまで興味が薄かった古代のさまざまな分野に興味を持ってもらい、考古学に関する知識を増やすことができた。また、活動後半は、部員の自主企画とすることで、従来の博物館のワークショップ等で実施されないような独創的なプログラムが実施でき、一般の若い考古ファンがどのようなことに興味を持つかを知る調査の一助となった。部員への教育活動という点においては、自主企画を担当する班の部員が、土器作りや楽器作り、古代料理などの事前調査をし、それを活動日に他の部員と共有することで、通常のワークショップや教育講座よりも深い学習・体験が可能となった。また、応募条件に「活動内容をSNS等で発信できる方」という条件をつけたことで、部員自らが博物館の活動や考古学の魅力について発信し、新たな来館者層発掘のための博物館の広報にも役立った。

部員の企画による「古代食作り」の様子

【備考】
取材：30件（うち新聞7件、テレビ6件、情報誌2件、ウェブ14件、ラジオ1件）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	27年度に引き続き2年目の実施であったが、27年度の活動とは違う独創的な内容の活動を積極的に行うことができた。同様の興味をもつ仲間が欲しいという要望があり、本活動によってその要望にそった活動ができた。また、応募条件に「活動内容をSNS等で発信できる方」という条件をつけたことで、部員自らが博物館の活動や考古学の魅力について発信し、博物館の広報にも役立った。参加者が自ら内容を考える独創性がある活動を実施できた。また、他館から同様の事業を実施したいとの声が多数あり、発展性も見込まれる。27年度の意見をふまえ、今回は活動回数を増やしたため、活動内容について充分話し合う時間を設けることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	少人数での活動ではあるが、27年度とは違うメンバーでの実施であることや、部員自らが当館の活動をSNSで発信することで新たな来館者層へ当館及び考古学の魅力を発信できた。また、参加者自らが考えるという新たな試みも27年度の活動とは違う独自の企画を実施することができた。29年度も新たな部員を募集して実施を継続したい。 なお、活動日以外に行われた考古学のイベントにおいて1期生と2期生の合同でワークショップを行ったり、他自治体依頼による考古遺跡を巡るモニターツアーに参加したりすることで、1期生と2期生のつながりもできている。1期生、2期生への聞き取りやアンケート調査、3月に実施した一般向けのアンケート結果によると、活動日以外に遺跡を訪れたり当館や他の考古系博物館を訪れたりした部員がほとんどで、考古学および博物館の魅力が十分伝わったと言える。今後も引き続き参加者の声やアンケートを検証し、29年度以降の活動に生かしていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1413D6

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究
プロジェクト名称	b.松菊里型竪穴住居をモデルとした「組み立て式竪穴住居」の調査研究（(4)－①－3）

【事業概要】
展示理解補助ツールとして、来館者が組み立てることができる竪穴住居を製作し、活用する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	アソシエイトフェロー　西島亜木子

【主な成果】
展示だけではわからない古代の住居の様子が理解できる組み立て式竪穴住居を製作した。
（1）製作
・事前に実際の竪穴住居を復元した近隣の施設を視察し、構造や問題点、活用方法を調査し、製作する竪穴住居の構造の参考にした。
・竪穴住居の構造は、松菊里型と呼ばれる弥生時代が始まったころの住居をモデルにした。松菊里型住居は平面プランが円形で、中央に穴があり、その両脇に 2 本の柱があるのが特徴である。韓国の代表的な集落住居である松菊里遺跡で多く見つかったもので、稲作を始めとした多くの文化とともに日本に伝えられたとされ、対外交流をテーマとする当館が製作する竪穴住居にふさわしいものである。
・当館は IPM 活動を活発に行っていることから、館内に保管した際に文化財害虫を寄せ付けない材質（FRP、スチロール、プラスチック等）を使用した。
（2）活用
・「きゅーはく女子考古部」での活動において、部員が竪穴住居を組み立ててお披露目会を行った。また、組み立ての様子を当館ウェブサイトのブログにアップした。
・12 月 17 日～29 年 1 月 9 日まで、エントランスに展示し、自由に写真を撮ったり、竪穴住居内に入ったりすることができるようにした。
・29 年 3 月 4 日に実施した考古学のワークショップ等を行うイベント「きゅーはく女子考古部の宴」では竪穴住居を公開で組み立て、イベント来場者にも竪穴住居に入ってもらい古代の住居について学ぶ機会を提供した。

組立式竪穴住居設置の様子

【備考】
西島亜木子、他「松菊里型住居をモデルとした「組み立て式竪穴住居」の製作と活用」
『東風西声』第 12 号（29 年 3 月 31 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	展示だけでは不十分な古代の住居の構造を、竪穴住居の実物を再現する方法ではなく、当館独自の設計で製作することができた。また、博物館の環境に配慮することで、館内での活用を可能にすることができた。常設ではなく、必要に応じて組み立てることができる構造であり、館内での活用のほか、アウトリーチ活動や他施設への貸し出しも可能で、発展性もある。29 年度以降は、さまざまな活用方法を構築しながら積極的に活用していきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	考古学系の展示や特別展、イベント等、幅広く活用できるように、場所に限定されない竪穴住居を製作することができた。また、博物館の環境に配慮した材質で製作することにより、天候に左右されないイベントを実施できた。これにより中期計画における「教育活動における調査・研究」を行い、目標を達成することができた。29年度もさまざまな教育普及活動で活用したい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1421A1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　博物館の環境保存に関する調査研究（(4)－②－1）

【事業概要】
東京国立博物館における文化財の活用に関連する保存環境、展示環境、輸送環境について調査研究し、今後の環境の向上に結びつけることを目的として実施する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　髙橋　裕次

【主な成果】
(1) 調査概要
28 年度は文化財の輸送環境に関する調査研究として、国内輸送に用いられるトラック、船舶に関しての輸送環境を把握、評価することを目的として、文化財の輸送に用いられる輸送機関上で発生する加速度の計測を行った。

(2) 調査の結果得られた知見
トラックおよび船舶上で発生する加速度値から振動周波数毎のパワースペクトル密度：PSD(power spectral density)を求め、ターゲットとする振動周波数範囲を絞り込んだ結果、輸送環境計測におけるプロトコルとして、最大 550Hz 程度までを計測できるものが適正であるという結論が得られた。また、トラックと比較して船舶(RO-RO 船の場合)上で発生するピーク加速度が非常に低いレベルであることが分かった。ただし、船舶上で発生するローリング等の動揺に関しては、より低周波範囲を正確に捉える必要がある。

(3) 調査研究の成果
輸送環境計測のプロトコルが定まったことによって今後のデータ収集を効率良く進められるようになった。また、船舶による文化財の輸送環境はこれまでほとんど情報が無く、データを収集し解析できた成果は大きいと考えている。

トラック(美術品輸送専用車両)荷台における輸送環境調査

【備考】
学会発表
・日本文化財科学会第 33 回大会「美術品輸送車両上で発生する振動周波数の解析」(6 月 4-5 日)。
・文化財保存修復学会第 38 回大会「首都高速道路走行時に美術品輸送車両上で発生する加速度の評価」 (6 月 25 日)。
・日本包装学会第 25 回年次大会「美術品輸送用トラックの荷台で計測された加速度の評価」 (7 月 7 日)。
・第 54 回全日本包装技術研究大会「中国における美術品長距離輸送時の環境調査」(11 月 29 日)。
・International Safe Transit Association European Packaging Symposium「The Investigation of Shock and Vibration of Tracks During Transport for Museum Objects」(29 年 3 月 9 日)。
論文
・『日本文化財科学会誌』第 71 号「遺物の保存環境」(8 月 1 日)。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	東京国立博物館における文化財の活用に関連する輸送環境について、国内輸送に用いられるトラック、船舶に関しての輸送環境を調査研究した。その結果、輸送環境計測のプロトコルが定まったことによって今後のデータ収集を効率良く進められるようになった。また、情報が極めて少なかった船舶による輸送環境について調査することができた。これらの成果は、今後の輸送環境の向上に結びつける上で重要なものとして位置付けられる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	文化財の輸送環境については、輸送機関上における環境の把握、その環境下における梱包資材の応答、そして、輸送機関および梱包資材からの影響で文化財にどのような変化をもたらすのかを総合的に研究することで、その向上が見込まれるものと考える。上記実績はその第1段階に該当するものである。残りの中期計画期間中に、梱包資材と文化財に関する調査を実施することで最終段階を完了できる見通しである。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1421A2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	a.美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築（科学研究費助成事業）（(4)－②－1）

【事業概要】
輸送機関、梱包資材、文化財が輸送中に発生する振動に対してどのような応答を示すのかを調査し、科学的根拠に基づく梱包設計を行うシステムを構築する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課環境保存室長　和田浩

【主な成果】
・東京-上海間の輸送において計測を実施した。梱包箱内の 1 データを得た。特に海外(中国)における陸上輸送中に大きな衝撃加速度が発生することが判明した。この成果は海外輸送時における加速度データロガーの記録条件をどのように設定するかにおいて参考となる情報となった(4 月 20 日)。
・京都-東京間の輸送において計測を実施した。トラック荷台上の 1 データを得た。このデータは国内輸送に用いられる美術品専用車両上における輸送環境の計測において、加速度データロガーの記録条件をどのように設定するかにおいて参考となる情報となった(5 月 23 日)。
・日本文化財科学会第 33 回大会において「美術品輸送車両上で発生する振動周波数の解析」と題して研究成果を発表した(6 月 4-5 日)。
・金沢-東京間の輸送において計測を実施した。トラック荷台上の 3 データを得た。このデータは国内輸送に用いられる美術品専用車両上における輸送環境の計測において、加速度データロガーの記録条件をどのように設定するかにおいて参考となる情報となった(6 月 8 日)。
・文化財保存修復学会第 38 回大会において「首都高速道路走行時に美術品輸送車両上で発生する加速度の評価」と題して研究成果を発表した（6 月 25 日)。
・文化財保存修復学会より「第 10 回文化財保存修復学会業績賞」を受賞した(6 月 26 日)。
・台車を用いた館内輸送時において計測を実施した。このデータは館内輸送環境の計測において、加速度データロガーの記録条件をどのように設定するかにおいて参考となる情報となった(7 月 1 日)。
・日本包装学会第 25 回年次大会において「美術品輸送用トラックの荷台で計測された加速度の評価」と題して研究成果を発表した(7 月 7 日)。
・上海-西安間の輸送において計測を実施した。トラック荷台上の 4 データを得た。このデータは海外(中国)の陸上輸送環境の計測において、加速度データロガーの記録条件をどのように設定するかにおいて参考となる情報となった(7 月 15-17 日)。
・『日本文化財科学会誌』、第 71 号に論文「遺物の保存環境」と題して研究成果を発表した(8 月 1 日)。
・キトラ古墳壁画の輸送において計測を実施した。梱包箱内の 3 データ、トラック荷台上の 3 データを得た。国内輸送に用いられる美術品輸送専用車両が超低速走行した場合にどのような輸送環境を示すのかを初めて現象的にとらえることに成功した(8 月 25-26 日)。
・東京-大阪間の輸送において計測を実施した。トラック荷台上の 4 データを得た。このデータは国内輸送に用いられる美術品専用車両上における輸送環境の計測において、加速度データロガーの記録条件をどのように設定するかにおいて参考となる情報となった 9 月 14-15 日)。
・上海-西安間の輸送において計測を実施した。トラック荷台上の 4 データを得た。このデータは海外(中国)の陸上輸送環境の計測において、加速度データロガーの記録条件をどのように設定するかにおいて参考となる情報となった(10 月 14-16 日)。
・苫小牧-東京間の輸送において計測を実施した。トラック荷台上の 3 データ、梱包箱内の 1 データを得た。のデータは国内輸送に用いられる美術品専用車両上における輸送環境の計測において、加速度データロガーの記録条件をどのように設定するかにおいて参考となる情報となった。また、これまで船舶を用いた輸送環境についてはこれまで具体的な情報が乏しかったところ、今回の計測によって客観的な評価につながるデータの取得に成功した(11 月 6-8 日)。

トラック荷台上での振動計測

・第 54 回全日本包装技術研究大会において「中国における美術品長距離輸送時の環境調査」と題して研究成果を発表した（11 月 29 日)。
・美術品輸送専用車両を用いた走行実験を実施した。トラック荷台上の 4 データを得た。美術品輸送専用車両が急発進、急停止、段差乗り上げ等した場合にどのような輸送環境となるのかについてのデータ取得に成功した(12 月 6 日)。
・キトラ古墳壁画の輸送において計測を実施した。梱包箱内の 3 データ、トラック荷台上の 2 データを得た。国内輸送に用いられる美術品輸送専用車両が超低速走行した場合の輸送環境に関して、他の高速輸送との比較によりその安全性を相対評価することに成功した(12 月 7 日)。
・文化庁主催「古墳壁画の保存活用に関する検討会第 21 回」において研究成果を発表した(12 月 19 日)。
・美術品輸送専用車両を用いた走行実験を実施した。トラック荷台上の 4 データを得た。美術品輸送専用車両の荷台上で走行中に発生する振動周波数範囲について絞り込むことができ、今後の加速度データロガーの計測設定条件を確定することができた(12 月 21 日)。

・International Safe Transit Association European Packaging Symposiumにおいて「The Investigation of Shock and Vibration of Tracks During Transport for Museum Objects」と題して研究成果を発表した(29年3月9日)。

【備考】
・科学研究費助成事業の4年計画の1年目
・輸送環境計測実施回数(国外):3回、輸送環境計測実施回数(国内):9回、取得輸送データ数:40データ、成果発表回数(国内):6回、成果発表回数(国外):1回、受賞:1回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業4年計画の1年目である28年度は、文化財輸送に用いられる輸送機関上で発生する振動データの収集を、特に集中的に実施した。国外における計測を3回、国内における計測を9回実施することができ、その結果振動に関しては40データを取得することができた。その成果としては具体的に、海外における陸上輸送中に大きな衝撃加速度が発生することを明らかにしたこと、海外輸送時における加速度データロガーの記録条件をどのように設定するかにおいて参考となる情報が得られたこと、国内輸送に用いられる美術品専用車両上における輸送環境の計測において、加速度データロガーの記録条件をどのように設定するかにおいて参考となる情報が得られたこと、館内輸送環境の計測において、加速度データロガーの記録条件をどのように設定するかにおいて参考となる情報が得られたこと、これまで船舶を用いた輸送環境についてはこれまで具体的な情報が乏しかったところ、今回の計測によって客観的な評価につながるデータの取得に成功したこと、美術品輸送専用車両が急発進、急停止、段差乗り上げ等した場合にどのような輸送環境となるのかについてのデータ取得に成功したこと、国内輸送に用いられる美術品輸送専用車両が超低速走行した場合にどのような輸送環境を示すのかを初めて現象的にとらえることに成功したこと、美術品輸送専用車両の荷台上で走行中に発生する振動周波数範囲について絞り込むことができ、今後の加速度データロガーの計測設定条件を確定することができたこと等である。また、これらの調査結果から得られた知見をまとめ、国内外で成果発表を計7回行った。一方、査読付き海外学術雑誌への英文による論文発表が実現しておらず研究成果の国際的な発信力にやや劣る点が認められるため、左記評価に値するものと考えた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	全体の研究計画は、輸送機関上で発生する振動、梱包資材の振動応答、文化財(素材、模造品など)の振動応答をそれぞれ調査し、最終的にそれらの情報を集積した科学的な梱包設計システムの基礎を構築するものである。28年度は輸送機関上で発生する振動データについて相当数を収集することができた。29年度以降は、輸送機関上で発生する振動調査を引き続き行い、梱包資材の振動応答についても調査を実施する予定である。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1421A3

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	b.三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究（科学研究費助成事業）((4)－②－1)（研究代表者：奈良県立橿原考古学研究所　水野敏典）

【事業概要】

古墳時代前期を代表する遺物である「三角縁神獣鏡とは何か」について三次元計測技術を応用して製作技法から考えることを目的とする。舶載三角縁神獣鏡と仿製三角縁神獣鏡の対比を中心に、それをとりまく倭鏡・中国鏡・銅鐸の同一文様をもつ青銅器を分析対象として、量産技法から相互関係を分析する。そのための手段として精密三次元計測データによる客観的で詳細な分析を用いる。そして、肉眼観察では扱うことが不可能であった青銅器表面の微細な鋳型の傷や、面的な変形、収縮についての新しい情報を得ることで、これまでにない製作技法の解明を進める。さらに、青銅器製作技術から「舶載」と「仿製」三角縁神獣鏡の技術的系譜を明らかにすることも目的とする。

【担当部課】	学芸研究部列品管理課	【プロジェクト責任者】	列品管理課主任研究員　古谷　毅

【主な成果】　1　既存データを用いた研究成果を発表・公開した。
2　今後の活用に向けて、Ｘ線 CT 画像データ等の利用方法等を検討した。

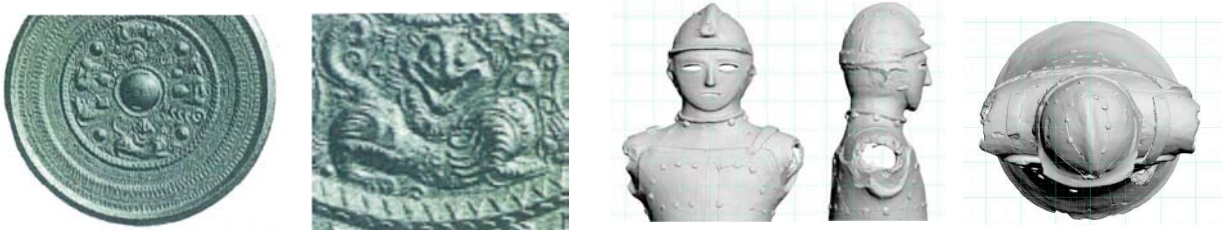
①　実施概要

1）　東京国立博物館所蔵資料の既存調査データ・写真の整理・分析、およびデータ利用方法の開発を検討した。

2）　新規に、古代出雲歴史博物館・京都府大山崎町・大阪大学考古学研究室所蔵資料の三次元計測を行った。

②　成果・知見等　：既存データ(東京国立博物館所蔵主要古墳出土銅鏡：科学研究費補助金基盤研究(A)課題番号 25284161･平成 14　年度～平成 16 年度、基盤研究(A)課題番号 25284161･平成 18　年度～平成 21 年度)のデータ・写真の整理・分析を検討し、今後の研究資料の整備を図った。

②　成果の公開等　：早稲田大学総合人文科学研究センターで、三次元計測の応用における研究成果を発表した。



○三次元計測データ画像分析〔左：三角縁神獣鏡(部分･拡大)、右：正射投影図作成用画像(正面及び右側面部分･上面〕

【備考】科学研究費助成事業の 4 年計画の 4 年目

○調査･研究会回数（日数）:3 回(3 日間)
　・主な調査･分析資料　：三角縁神獣鏡・日本列島製漢式鏡、銅鐸（東京国立博物館蔵）

○研究会回数（日数）　：1 回（1 日間）

○論文等公開　：水野敏典「製作技法からみた三角縁神獣鏡」『纒向発見と邪馬台国の全貌－卑弥呼と三角縁神獣鏡』(発見・検証 日本の古代Ⅰ)角川書店、7 月 29 日

○主な学会等発表等　：水野敏典「鏡」『３D 考古学の挑戦考古遺物・遺構の三次元計測における研究の現状と課題・研究 発表要旨』早稲田大学総合人文科学研究センター、10 月 16 日

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
C	科学研究費助成事業 4 年計画の最終年度の 28 年度は、継続性・正確性および発展性・独創性は変更の必要がない。しかし、達成度は館の業務方針により下半期に東京国立博物館における資料(データ)整理等を中断したため、資料(データ)整理等が不十分に終わった。代替成果として、一部既存データの解析・開発を行ったが研究目標の達成は十分とはいえず、予算運用の効率性・適時性や研究精度・分析視角の発展性・独創性、及び調査・分析手法の開発・確立は不十分であった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
C	中期計画に沿って、①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を計画した。①の学術的評価に関して、考古学的情報の整理・資料化及び研究会等を通じた活動・研究はある程度目標を達成した。しかし、当館文化財(列品)の公開に資する調査・研究として、列品データの整理・分析は不十分で、中期計画における「4-1)所蔵品･寄託品及び各博物館の特色に応じた歴史･伝統文化に関連する調査研究」に沿った調査研究としても、十分な成果を挙げることができなかった。改善点は、研究年度内に挙げた既存データ解析等の成果を整理・分析し、研究期間終了後ではあるがより高度な効率性・適時性および発展性・独創性に資するようにデータ整備を図ることを目標として、29 年度成果に反映させる所存である。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1421A4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	c.被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究（科学研究費助成事業）（(4)－②－1）（研究代表者：筑波大学准教授　松井敏也）

【事業概要】
大規模災害における文化財等の被災状況の調査及び情報収集、博物館施設等における空気汚染物質調査、博物館施設等における資料保存環境管理の実態調査を行う。それらの調査結果を基にして、被災博物館施設等における空気汚染環境を改善し、安定した資料保存環境を構築するための技術や手法に関する調査研究を実施する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課環境保存室長　和田浩

【主な成果】
・文化財保存修復学会第38回大会において「津波被災ミュージアム施設「鯨と海の科学館」(岩手県山田町)と仮設収蔵施設の空気質」と題して研究成果を発表した(6月26日)。
・『日本文化財科学会誌』、第71号に論文「遺物の保存環境」と題して研究成果を発表した(8月1日)。
・北海道・東北保存科学研究会との共同シンポジウム(後援：公益社団法人空気調和・衛生工学会北海道支部)を開催した。本プロジェクトによる研究成果を発表し、同時に北海道・東北地域における文化財保存の担当者との情報共有を行った(8月10・11日)。
・台北國立故宮博物院主催の「第三届博物館保存修護工作坊 - 文物保存與永続発展」(第3回博物館保存修復ワークショップ-文化財保存と永遠の発展)への招聘を受け、「文物保存環境温湿度規範」(文化財保存環境の温湿度基準について)及び「展櫃微環境設計與微気候控制」(展示ケース内微小環境の設計と微小空間環境の制御について)に関して研究成果に基づく講演を行った(11月4日)。
・福岡市民防災センターにおいて地域災害及び防災に関する調査を行った(12月14日)。
・京都市市民防災センターにおいて地域災害及び防災に関する調査を行った(12月15日)。
・第1回スマートビルディングEXPO(東京ビッグサイト)において、断熱材の開発担当者と協議を行い、室内環境制御についての知見を得た(12月16日)。
・熊本ピーエスオランジュリ(熊本市)において、エネルギー効率の高い持続可能な空調設備に関する調査を行った(29年1月13日)。

北海道・東北保存科学研究会との共同シンポジウムの様子

【備考】
科学研究費助成事業の5年計画の3年目

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業5年計画の3年目である28年度は、博物館施設等における空気汚染物質調査の成果として文化財保存修復学会における成果発表を、また、資料保存環境管理の実態を調査し、『日本文化財科学会誌』及び「第三届博物館保存修護工作坊 - 文物保存與永続発展」において成果発表を行うことができた。また、安定した資料保存環境を構築するための技術や手法に関する調査として、熊本ピーエスオランジュリの施設調査及び各地の防災センターにおける情報収集を実施した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	全体の研究計画は、大規模災害における被災状況の調査、博物館施設等における空気汚染物質調査、資料保存環境管理の実態調査を行い、被災博物館施設等における空気汚染環境を改善し、安定した資料保存環境を構築するための技術や手法に関する調査研究を実施するものである。28年度は大規模災害における被災状況の調査、博物館施設等における空気汚染物質調査、資料保存環境管理の実態調査を重点的に行った。29年度以降は、安定した資料保存環境を構築するための技術や手法に関する調査研究を重点的に実施する予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1421B1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　修復文化財に関する資料収集及び調査研究（(4)－②－1）

【事業概要】
文化財保存修理所で実施されている修復・模写文化財の資料収集及び調査研究

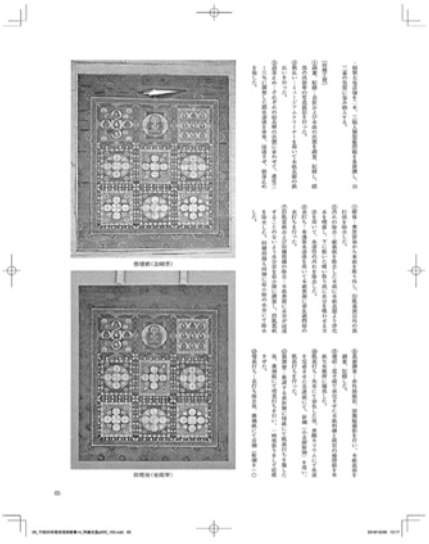
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　大原嘉豊

【主な成果】

(1) 情報の収集と調査
- 28 年度、文化財保存修理所の工房に搬入された新規の修復文化財に関して、修理工房より提出された「修理計画書」に基づき、148 件のデータを収集し、「修復文化財データベース」に登録した。
- 京都国立博物館研究員により 10 回行った修理工房の巡回のほか、適宜、修理技術者とともに実施した調査を通じ、文化財の構造や使用材料、内部納入品・銘文調査など、修理中にのみ得られる情報を収集、分析した。

(2) 情報の整理
- 27 年度に修理が完了し、搬出を終えた修復文化財に関して、修理工房より提出された「修理解説書（報告書）」に基づき、1,960 件のデータを「修復文化財データベース」上で更新し、整理作業を行った。

(3) 情報の共有
- 25 年度に修理が完成した文化財 84 件に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 14 号(29 年 3 月 31 日発行)に掲載した。
- 修理時の調査により発見された銘文 22 件を「銘文集成」として同書に報告した。



『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 14 号 修理概要（部分）

【備考】
(1) データ収集件数 148 件
　巡回回数 10 回
(2) データベースの追加更新件数 1,960 件
(3) 報告書　1 冊（修理報告 84 件、銘文報告 22 件を含む）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	文化財保存修理所で行われる修復文化財情報の収集・整理については、データのデジタル化処理方法等、将来的な情報の応用に対する発展性を見据えて継続的に実施してきた事業であり、効率性・正確性を担保しつつ順調に実施されている。『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第14号は、29年3月に刊行し、諸研究機関に送付を済ませている。29年度計画も28年度に準じて実施するが、得られた知見を元にした研究の活性化が望まれる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	本事業は、法人化以前から継続してきた事業であり、中期計画でもその重要性に鑑みて継続性を重視している。文化財保存修理所に搬入される修復文化財の多寡は他律的条件であるため定量的評価になじまないものであるが、ほぼ安定した件数で推移しており、有形文化財に関連する調査研究は順調に達成している。今後の最大の改善点としては、一時期停頓していた『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』の刊行速度を速め、修復次年度に報告刊行という速やかな情報公開を実現することにある。

【書式Ｂ/博】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 1421B2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　文化財の保存・修復に関する調査研究（(4)－②－1）

【事業概要】
修理を実施している文化財について、その保存修復に関する調査研究を修理事業者と協力して行い、また、復元模写事業を行うことで文化財の保全と公開に役立てる。あわせて、調査研究の過程で得ることのできた貴重な情報を蓄積し、学術的な利用のみならず、最適な修理方針の策定など、今後の保存修復事業にも活用する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　大原嘉豊

【主な成果】

(1) 28 年度、所蔵者の協力を得て修理所内工房と実施したＸ線科学分析調査はソフテックスによる蛍光Ｘ線分析調査 11 件である。

(2) 博物館と模写修理事業者（六法美術）とによって、当館館蔵扇面貼交屏風のうち「柳桜図」「枇杷に小禽図」の復元模写を実施し、紙質調査と技法調査を行った。

(3) 国宝「釈迦金棺出現図」について、博物館と模写修理事業者（六法美術）に京都工芸繊維大学佐々木良子当館調査員を加えて、27 年度に行った蛍光Ｘ線分析装置と分光分析装置による調査成果を、『学叢』38 号（5 月 27 日発行）に掲載した。

修理事業者による「柳桜図」の復元模写

【備考】
・調査報告「釈迦金棺出現図　科学分析調査報告及び復元模写事業概要」、『学叢』38 号、京都国立博物館、5 月

・外部資金の導入
「柳桜図」「枇杷に小禽図」復元模写…清風会研究支援経費

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	28 年度事業は、屏風に貼り込まれた扇面画の復元模写事業を 27 年度に引き続き行った。また、27 年に行った「釈迦金棺出現図」の科学分析調査成果を公刊した。また、ソフテックスによる蛍光Ｘ線分析調査も修理過程において工房と所蔵者の協力の下に行い、修理方針の策定などに役立てた。今後も継続を図りたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	修理事業者を含めて綿密な調査、検討を重ね、文化財の保存と公開のため、参考となる情報を蓄積するなど、有形文化財に関連する調査研究について順調に成果を上げている。27年に始めた復元模写事業は研究や一般啓蒙上の効果が高いため継続事業化を進めており、29年度以降の計画も策定を済ませており、当館蔵「若狭国鎮守神人絵系図」の一部の復元模写を予定している。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1421C1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究（(4)－②－1）

【事業概要】

館内施設や設備（展示室・展示ケース・収蔵庫等）の環境が文化財に与える影響の調査・分析を目的としている。次の 3 点の調査を継続的に実施し、得たデータの分析と情報共有を行うことで保存環境の向上を図った。

(1)　温湿度センサーを用いた館内施設の温湿度調査
(2)　展示ケース内に浮遊する塵埃調査（電子顕微鏡を用いた塵埃の観察）
(3)　文化財害虫トラップの設置及び回収

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　鳥越俊行

【主な成果】

(1)　展示室・展示ケース各所に温湿度センサー（無線機能付き）を設置し、24 時間のリアルタイムモニタリングを実施した。温湿度データの蓄積を進めると共に、展覧会ごとに情報を整理している。収蔵庫は、温湿度データロガーやデジタル温湿度計を用いて、定期的なモニタリングと温湿度データの回収を行った。これらの調査から得たデータを分析し、展示や保管時の文化財環境の改善につなげている。

(2)　正倉院展の後、展示ケース内の塵埃を電子顕微鏡にて観察した。観察結果を踏まえて、単位面積当たりの塵埃量を測定し各ケース内の気密性に関する調査を実施している。調査結果を踏まえ、気密性向上のためのメンテナンスを実施した。

(3)　文化財害虫の生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置した。2 ヵ月に 1 回の交換を行い、調査結果の蓄積並びに分析を行うことで IPM を推進している。また、文化財害虫の生息が確認された展示室等に防虫シートを設置し被害の防止を図るとともに、施設の周囲に害虫忌避剤の散布を行った。掃除と防塵マット交換を定期的に実施し、収蔵庫周辺や調査室内等の衛生環境保持に努めた。

温湿度センサーの設置状況

【備考】

・学芸部保存修理指導室員並びに総務課環境整備係員等により構成される、「奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」を実施した。月に 1 回の程度で開催し、以上の調査内容と結果を踏まえた、保存環境に関する課題点や改良案について協議を重ねている。
(1)展示室内温湿度調査：162 箇所
(2)展示ケース内ほか粉塵調査：25 箇所
(3)文化財虫害生息状況調査：150 箇所
・「奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」：11 回開催

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
A	27年度に継続して調査の実施やデータの蓄積を着実に行っている。また、調査で得られた結果を踏まえ、ワーキンググループでの情報共有や議論を行い、保存環境の保持と改善を図った。今後、取得データの精度向上も考慮し、保存環境の維持や向上を進めると共に円滑な監視体制を整えたい。 4月になら仏像館がリニューアルオープンし、改修前よりも温湿度調査箇所を増やすことで、以前より細かいデータの収集が可能となった。今後も館内環境維持のため継続して調査を行う。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	展示室では継続したモニタリングや調査を行っている。また、なら仏像館はリニューアルしたばかりなので、今後も継続したデータの蓄積を着実に実施する。29年度以降の取得データの精度向上も考慮しながら、継続的な調査を行いたい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 1421C2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　収蔵品・寄託品等に関する文化財修理の観点からの調査研究（(4)－②－1）

【事業概要】

本事業では、以下の 3 点の内容について実施した。

(1) 修理方法の記録を残し将来の文化財修理に資するため、館蔵品や寄託品の保存状態の調査を行う。その内容を保存カルテとして記録する。

(2) 館蔵品や寄託品の修理を着工するにあたり、修理文化財の保存状態に関する情報を得るため調査を行った。また、調査結果を踏まえた修理調書を作成している。

(3) 修理中の文化財から取得した材質・銘文等の情報について調査と分析を行った。また、その結果を当館の研究紀要への掲載等を行いデータの蓄積を実施している。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　鳥越俊行

【主な成果】

(1) 館蔵品や寄託品の保存状態を詳細に観察し、そこで得られた情報を基に保存カルテを作成している。必要に応じて光学調査も併せて実施し、作品の基礎データを蓄積した。

(2) 館蔵品や寄託品の修理に伴い、詳細な観察や光学調査を実施した。保存カルテと調査結果を基に修理調書を作成し、館内鑑査や修理方針の策定に役立てた。

(3) 修理中の文化財から得た木片について、共同研究の一環として京都大学生存圏研究所との協定に基づき樹種同定を実施した。また、修理中に発見された銘文は、当館研究員が翻刻を行い情報化と整理を行っている。25 年度までの成果は従来通り当館の紀要に掲載し広く公表したが、26 年度分からは文化財保存修理所修理報告として新たに刊行する予定である。

採取した材質調査試料片

【備考】

・保存カルテや修理調書を基に修理された文化財は、修理完了後の翌年度冬に開催される特集展示「新たに修理された文化財」にて公表する予定である。

(1) 保存カルテ作成件数：総計 96 件
（内訳　絵画：34 件、書跡：15 件、彫刻：11 件、工芸：14 件、考古：22 件）

(2) 修理調書作成件数：総計 8 件
（内訳　絵画：4 件、書跡：0 件、彫刻：1 件、工芸：1 件、考古：2 件）

(3) 材質調査及び銘文調査件数：4 件
（内訳　材質調査実施件数：4 件）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	文化財保存修理所の修理技術者と連携を進め、X線透過撮影や顔料調査などの修理に有用な調査を実施した。保存カルテについても整備を進め、修理方針の検討に役立てた。また、材質調査や銘文調査も引き続き実施し、データの蓄積を図った。次年度には文化財保存修理所修理報告として新たに刊行し、情報の公開を進める予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	当館の文化財保存修理所は、奈良をはじめとする国指定品の修理における拠点であり、修理技術者との連携は今後も重要である。本事業は、修理に関する基礎情報を収集し、その成果を公開するものである。29年度についても引き続き調査を行い、情報の蓄積を図る。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1421C3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　収蔵品・寄託品等に関する保存科学の観点からの調査研究（(4)－②－1）

【事業概要】

本事業では、以下の 2 点の内容について実施した。

(1) 館蔵品や寄託品の修理前や修理中等に併せ、光学調査（Ｘ線透過撮影・蛍光Ｘ線分析）を実施した。そして、修理方針の策定に有効な情報を取得し反映させた。

(2) 文化財修理所での修理中の文化財については、当館の研究員と工房の技術員が共同で光学調査を実施し、得られた結果を修理へ反映している。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　鳥越俊行

【主な成果】

(1) 館蔵品や寄託品の文化財（彫刻や漆工品など）の修理等に併せ、Ｘ線透過撮影を実施し内部構造や納入品の把握を行った。また、金銅像の材質や絵画の顔料に関する情報を得るため、蛍光Ｘ線分析装置を用いて材質分析を行った。これらの光学調査は修理に活用すると共に、データの蓄積も行った。

(2) 当館の研究員と工房の技術者が共同でＸ線透過撮影及び蛍光Ｘ線分析などの光学調査を行った。館蔵品や寄託品の修理前や修理中にこれらの調査を実施することで、得られた結果は修理へ随時反映させることが可能となった。

蛍光Ｘ線分析の様子

【備考】

・調査件数

Ｘ線透過撮影調査回数：5 件

蛍光Ｘ線分析実施回数：3 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	修理等の際に、内部構造や保存状態・材質情報に関する情報を得るため光学調査を実施した。各年度の修理状況により増減はあるものの、継続的な調査を実施している。光学調査の結果は修理調書に反映し修理方針の策定にも重要な情報となっている。29年度についても継続した調査並びにデータの蓄積を図りたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	29年度にX線CT装置を導入し、彫刻や漆工品などの修理に活用する予定である。修理所での修理の内容により、X線撮影や蛍光X線分析などの調査数に増減はあるが、修理方針の策定等に伴う調査を随時実施できた。29年度も調査を継続し、データの蓄積を図りたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421D1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　文化財の材質・構造等に関する共同研究（(4)－②－1）

【事業概要】
文化財の材質・構造等に関する共同研究

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長兼環境保全室長　木川りか

【主な成果】
他機関との文化財の材質・構造等に関する共同研究を行った。共同研究の調査件数は 44 件であり、科学調査を行った回数は 313 回であった。以下に主な成果を示す。

(1)「火焔土器」の科学調査
「火焔土器」の構造調査や材質に関しての知見を得るため、長岡市馬高縄文館、大塚オーミ陶業と共同で科学調査とレプリカ作製を行った。調査は表面の蛍光Ｘ線分析、Ｘ線ＣＴ、三次元計測を行った。またこれらのデータを用いて３Ｄプリンターによるレプリカを作製し、さらに陶器によるレプリカも作製した。レプリカはハンズオン展示として活用した。調査成果についての報告書を作成した。

(2)「瞳のある土偶」の構造調査
松商学園所蔵の葦原遺跡出土「瞳のある土偶」について構造調査を行った。この構造調査のデータについては報告書を作成した。
調査結果を一般公開するため、展示スペースにパソコンで土偶内部の３Ｄデータを見ることができるコーナーを設置し、この隣には３Ｄプリンターにより作製したレプリカをハンズオン展示した。

(3) 27 年度の研究成果の発表
27 年度の共同研究に関する成果を日本文化財科学会と文化財保存修復学会にて発表した。

「瞳のある土偶」の展示風景

火焔土器の調査風景

【備考】
・共同研究の調査件数：44 件
科学調査を行った回数：313 回

・27 年度の研究成果の報告
学会発表　「土井ヶ浜遺跡出土 128 号人骨のＸ線 CT による非破壊調査」
日本文化財科学会 33 回大会　(6 月 4 日、5 日)　他 7 件
新聞報道「Ｘ線ＣＴ調査が変える歴史研究の最前線」日経 BIZGATE（ネット配信記事）11 月 2 日公開

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	・調査件数は44件と年間を通して多くの文化財調査を実施することができた。 ・デジタルデータの活用方法について学会発表での報告や、３Ｄプリンターで出力したものを展示室内で活用するなどの取り組みを行った。 ・今後はデジタルデータの活用方法や公開の仕方についての改善点を検討していく。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	・これまで11年間継続して様々な文化財の調査実績を蓄積しており、蓄積された同種の文化財データとの比較を行った。 ・29年度も多くのデータを蓄積し、多くの文化財の解析を行う予定である。 ・実験データから電圧や電流と積算時間など調査条件を精査しており、29年度に向け調査方法の改善を検討していく。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421D2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　博物館における文化財保存修復に関する研究（(4)－②－1）

【事業概要】
当館の文化財保存修復施設の機能と利点を生かし、西日本地域の大学で装潢技術による文化財保存修復を学ぶ学部生・大学院生を対象とした研修を実施する。また、「文化財を守り伝える」という博物館の役割について、作品の展示を通して一般の方々に知って頂く機会を設ける。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	保存修復室主任研究員　志賀智史

【主な成果】

○「文化財保存修復研修」
実施日：8 月 22 日（月）～26 日（金）の 5 日間
参加者：九州産業大学 2 名、佐賀大学 1 名、広島市立大学 1 名の計 3 大学 4 名
内　容：屏風の下貼り製作
協力者：一般社団法人国宝修理装潢師連盟
装潢修理技術を伝える団体として国の選定保存技術保存団体に認定されており、また当館文化財保存修復施設の使用者でもある一般社団法人国宝修理装潢師連盟から協力が得られたことにより、実践的な研修を実施することができた。本研修の実施により、修理技術者の育成に寄与すると共に、参加学生の文化財保護への理解を深めることができた。

「文化財を守り伝える博物館」展示風景

○常設展示「文化財を守り伝える博物館」
実施日：4 月 1 日（金）～29 年 3 月 31 日（金）の通年
展示場所：文化交流展示室　第 1 室
展示替回数：31 回
博物館の役割については、これまでバックヤード見学でしか知ることができなかったが、展示室において本テーマにて作品を展示することにより、より多くの方々に博物館の役割を知って頂く機会となった。展示は、文化財をまもりつたえてきた「保存箱」を象徴の展示とし、「修理」、「模写模造と科学調査」、「収蔵」、「環境」の 4 つのテーマで展開した。

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	修復技術者の育成は、公共の財産である文化財を後世に伝えていくために不可欠である。また育成は継続的に行う必要があり、毎年実践的な研修を少人数で継続している本研修は、適時性や継続性が高い。博物館の役割についての展示は、同様な展示を通年で行っている博物館は他に極めて少なく、バックヤードツアーと共に当館の特色といえる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画のとおり、文化財の収集・保存・修理・管理ほか、文化財及び博物館の業務に関連する調査研究を実施、及び将来的に展覧事業や教育活動等に結びつく基礎的な調査研究を実施した。 「博物館の役割についての展示」及び「バックヤードツアー」の双方の事業とも好評を得ており、29年度以降も継続したい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421D3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究（(4)－②－1）

【事業概要】

本研究の目的は、我が国の博物館における IPM（総合的有害生物管理）普及のための地域共働システムづくりである。本研究では、地元 NPO 法人やボランティアとの共働による研修会の開催及び大学・専門教育機関・地域文化施設の連携による IPM 研修プログラム確立を通し、IPM の社会的理解度を深めつつ、博物館等における IPM を軸にした自立的地域共働システムづくりを目指すものである。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	特任研究員　本田光子

【主な成果】

(1) IPM セミナーを実施した。定員を超える 140 名の参加があり、会場に入りきらなかったため、サテライト会場を設定した。
セミナーでは、フランスで行われた IPM 国際会議の報告、海外の博物館での IPM 活動についての報告、当館における IPM の取り組みに加え、市民ボランティアが当館で行っている IPM 活動についても報告した。開催日：10 月 26 日

(2) 継続的に行ってきたミュージアム IPM 研修（基礎編・技術編・実践編）の内容をスリム化し、受講しやすい日数に組み替えて実施した。これまでは各館 1 人の受講で実施してきたが、今回は各館 2 名の参加を原則とし、立場の違う 2 名 1 組（総務系と学芸系など）での参加とした。その結果、自館に戻ってから IPM を実践していく上で、研修で得た知識を共有し、IPM を進めて行きやすくなったと考える。
開催日：10 月 27 日、28 日　受講人数：32 人

(3) IPM 研修は募集定員 24 名のところ、参加申し込み開始日に北海道から沖縄まで全国 58 施設から 109 名の応募があり、全国的に IPM への関心の高さがうかがえた。29 年度以降も IPM 研修を継続していく必要性を感じた。

IPM セミナーの様子

IPM 研修（虫の同定実習）の様子

【備考】

IPM セミナー：1 回　参加人数：140 人
IPM 研修（2 日間）：1 回　参加人数：32 人
学会研究会等発表：3 件
「九州国立博物館における新規殺虫処理システムと最近の取り組みについて」IPM セミナー（10 月 26 日）
「博物館展示資料の加湿温風による殺虫処理について-山笠土台部材の処理事例」
文化財保存修復学会（6 月 25 日）
「冷凍庫を利用した木製クレートの予防的低温殺虫処理について」文化財保存修復学会（6 月 25 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	27年度までのIPMシステム構築に向けての基礎研究の成果を踏まえ、28年度よりIPM研修の内容を大幅に変更した。受講条件を1館に対し2人で参加するようにしたところ、お互いに研修内容を共有でき、自館に戻ってIPMを実践しやすくなった様子がうかがえた。29年度は28年度に受講できなかった希望者を含め、募集方法を検討して実施したい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	「有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究」という新たな枠組みの中で、IPMシステム構築に向け、基礎研究を行った。受講条件、研修内容を変えて行った結果、IPM実践に向け、より確かな形で普及することができたと考えられる。受講の希望者が多いことから、29年度以降の募集方法・講義内容を検討し、IPM研修を継続していく必要がある。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421D4

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ　石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（科学研究費助成事業）（(4)－②－1）

【事業概要】

本研究では、弥生時代～古墳時代の墳墓の埋葬施設（室、槨、棺）への赤色顔料の塗布について、その種類や塗布範囲の調査を行い、時期差や地域差、階層差等の有無を検討することを目的とする。これまで墳墓から出土する赤色顔料の使用方法については、塗布や散布、敷かれたなどと言われることがあるが、使用対象が木棺や遺骸といった有機物であることが多く、実際にはその使用方法は明確ではない。ここでは、石棺や甕棺などの腐朽しない棺を主な調査対象とし、これらの点について検討を行うものである。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	保存修復室主任研究員　志賀智史

【主な成果】

・石棺内面全面に赤色顔料を塗布する地域や、蓋の合わせ面のみ、蓋内面のみ、蓋内面以外の内外面全面など部分的にしか塗布しない地域もみとめられ、塗布範囲に地域性が認められることが判明した。この地域性には年代差だけでなく、石棺材や石棺形態との関連性も認められた。
・高三潴遺跡（福岡県久留米市）の箱式石棺の調査を行い、墳墓での赤色顔料を用いた葬送儀礼の一端を明らかにした。
・城の山古墳（新潟県胎内市）の調査を行い、赤色顔料の種類や使われ方等を東日本の前期古墳の中に位置付けた。
・本田光子当館特任研究員が保管する赤色顔料とその関連資料について、整理を行った。
・関連調査として城野遺跡（福岡県北九州市）の朱について産地推定を行い、中国産朱が使用されていることを明らかにした。

久留米市・高三潴遺跡での石棺調査風景

【備考】

・科学研究費助成事業の 4 年計画の 4 年目
・「東日本の前期古墳出土丹塗土器に採用されたベンガラの地域性に関する研究」
　『日本文化財科学会 33 回大会発表要旨集』日本文化財科学会
・「城の山古墳出土の赤色顔料について」『城の山古墳発掘調査報告書（4 次～9 次調査)』新潟県胎内市教育委員会
・「玉丘古墳から出土した赤色顔料について」『玉丘古墳群Ⅴ』兵庫県加西市教育委員会　ほか

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
A	科学研究費助成事業4年計画の最終年度である28年度は、未調査地域の資料調査を行うと共に、過去3年間に行った資料についても現在の視点で見直した。出土赤色顔料の考古学的な研究は、当研究員以外行っておらず、独創性、継続性、適時性が極めて高い。また、専門的に毎年調査を継続しており、効率性や正確性が高い調査を行うことが可能となっている。その結果、今回示したように、赤色顔料の種類や塗布範囲に時期差や地域差が認められることが判明した点は大きな成果である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
A	これまで漠然と棺内面は全面に赤色顔料が塗布されていると考えられていたが、4年間の本研究により少なくとも石棺では部分的にしか赤色顔料を塗布しないものが一定量認められることが明らかになった。この違いについては、時期差、地域差、石棺石材の産地の差、石棺形態の差など、様々な差との相関関係が認められた。その差が生じた背景については、今後様々な資料の考古学的解釈を援用し、より詳細な検討を行いたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421D5

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	a.彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討に係る調査研究（科学研究費助成事業）（(4)－②－1）

【事業概要】

歴史的木造文化財建造物の劣化要因として虫害などの生物劣化は大きなウェイトを占め、従来、文化財建造物が木材害虫であるシバンムシなどによって顕著な被害を受けた場合には、修理にあわせて建物全体のガス燻蒸処理が実施されてきた。ガス燻蒸は、比較的短時間で部材内部に生息する虫まで駆除できるという点で、現時点で唯一の有効な方法である反面、燻蒸剤は毒ガスであるため、作業者や観覧者の安全確保のために厳重な対策が必要となる。さらに施工後放出される有毒ガスの周辺環境に対する影響も懸念される。本研究では、人体や環境に対して安全で、かつ有効な殺虫処理として、既に欧州などで小型の文化財について実績のある調湿温風による殺虫をとりあげ、これを漆などの彩色を施した日本の大型建造物に適用する手法を確立する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長兼環境保全室長　木川りか

【主な成果】(1)プロトタイプチャンバーによる試験木材、漆塗膜への影響評価：

研究分担者の京都大学農学研究科・藤井義久教授の研究室にて 27 年度に試作した調湿温風を発生・循環できるチャンバーにおいて、実際の処理を想定した昇温、降温プログラムを何度か繰り返し、彩色層・木部における含水率とひずみ分布を測定した。基本的には、処理のときに想定される条件下では木部、彩色層ともに、顕著な影響が及ぶような大幅なひずみは生じないと考えられるデータが得られているが、材質の履歴によっては、予想外の大きなひずみがおきる可能性も想定される場合があることがわかり、処理を計画するうえで貴重な知見が得られた（京都大学にて試験）。

(2)試験用建物の処理試験：

プロトタイプチャンバーの原理を応用して、試験用の建造物（ログハウス）を処理するための装置を製作し、断熱覆屋をその周囲に作成して、建造物の処理の実験を開始した。装置としては想定した能力を発揮しており、経済的かつ有効な断熱方法の検討が残された課題である（京都大学にて試験）。

試験用建造物と、温風処理用装置および断熱覆屋の試作

(3)日光において殺虫処理を想定した建造物における昆虫のモニタリング：

28 年度は、主に日光東照宮神厩舎・鐘楼、二荒山神社大国殿においてトラップによる昆虫の分布状況を調査した。

【備考】

科学研究費助成事業の 3 年計画の 2 年目

研究全体会議　3 回：6 月 6 日（京都大学）、11 月 17 日（京都大学）、29 年 1 月 27 日（京都大学）

① 小峰幸夫、原田正彦、斉藤明子、佐藤嘉則、木川りか、藤井義久
「日光の歴史的木造建造物における新たなモニタリング手法の実用性と補集テープ調査の集計報告」（「保存科学」56 号）

② 竹口彩、藤原裕子、藤井義久、木川りか、佐藤嘉則、古田嶋智子、犬塚将英
「湿度制御した温風処理による漆仕上げ材の表面ひずみの測定」（「保存科学」56 号）

③ 斉藤明子「昆虫研究者のための博物館資料論・資料保存論(1) 昆虫標本の生物被害と IPM」（「昆蟲」19 巻第 4 号）

④ 秋山純子、ほか「九州国立博物館の新たな防虫対策の取り組みについて」（「東風西声」29 年 3 月）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の2年目である28年度は、初年度に作成したプロトタイプの装置及び運用プログラムを応用して、試験用の木造建造物を処理するための装置を製作することができた。十分な気密性、断熱性を保持しつつも、経済的にも実際に許容できる金額で作成できる処理用覆屋の設計で、十分に当初の目標を達成できたものと考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、実地試験用の装置作成、及び断熱覆屋の試作と試験を実施した。最終年度となる29年度には、実際の処理対象となる建造物の大きさでの処理が可能となるような検討を進める必要がある。そのため、より断熱性がよく経済的にも効率的な断熱空間を可能にするための検討を進める予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421D6

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	b. 文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討（科学研究費助成事業）（(4)－②－1）

【事業概要】
近年、文化財の科学調査が一般的に行われるようになってきた。しかし文化財は脆弱な材質、構造のものが多く、文化財の科学調査は調査のための作品移動の機会をなるべく少なくし、短時間に非破壊で行うことが求められる。これまでは制限がある中での点分析が主流であったが、文化財を総合的に理解するには面的な広がりで捉える調査が必要である。本研究では文化財の科学調査に面的な手法を導入した有効な調査法を検討する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	環境保全室研究員　秋山純子

【主な成果】
(1)「博物図譜」（香川県立ミュージアム保管）画帖 13 帖の調査を行った。（11 月 19 日）
この調査により、今後詳細に調査する帖を取捨選択し、「博物図譜」の科学調査の手法を検討することができた。

(2)「博物図譜」（香川県立ミュージアム保管）画帖 4 帖のカラー画像および赤外線画像を高精細スキャナーで撮影し、面的調査に有効な画像を得ることができた。（29 年 1 月 17 日～19 日）

(3)「博物図譜」（香川県立ミュージアム保管）画帖 4 帖の顕微鏡観察および撮影を行い、図譜の彩色について詳細な情報を得ることができた。（29 年 1 月～3 月）

(4) 面的調査の基準となる染料のカラーチャートを作成し、顔料と併せて染料の面的調査を進めることができた。

(5) 染料のカラーチャートの赤外線撮影、科学分析を行うことで、基準となる染料の基礎データを得ることができた。
(29 年 1 月 26 日、29 年 3 月 15 日)

香川県立ミュージアムでの調査の様子

【備考】
科学研究費助成事業の 4 年計画の 2 年目
調査回数：4 回
学会発表等：
「歴史資料に使用された彩色材料の調査研究」日本文化財科学会（6月4日，5日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業4年計画の2年目である28年度は、文化財の彩色材料のうち染料について面的調査を進めることができた。特に「博物図譜」は様々な色彩で描かれ、彩色材料は多岐にわたっており、面的調査には大変有効であった。今後も「博物図譜」を中心に近世絵画の顔料・染料について面的調査の有効性を検証して行きたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財に関連する調査研究を実施した。29年度は引き続き「博物図譜」の科学調査を中心に、面的調査の有効性を検証する。最終年度はこれまでの顔料・染料の調査データを検証し、面的調査に有効なデータを総合的にまとめる予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421D7

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	c. X線 CT を用いた文化財有機質材料の同定方法の確立（科学研究費助成事業）（(4)－②－1）

【事業概要】
Ｘ線ＣＴを用いた文化財有機質材料の同定方法の確立

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	アソシエイトフェロー　赤田昌倫

【主な成果】

1）28 年度は有機質材料の中で漆の添加物について検証を行った。観察にはマイクロフォーカスＸ線ＣＴを用いた。図 1 に木屎を添加した漆試料のＸ線ＣＴ像を示す。木屎は肉眼では粉末であるが、Ｘ線ＣＴ像では繊維の集合体を非常に鮮明に確認することができた。また繊維の断面形状から繊維直径も検証することができた。

2）この結果から、漆に添加される物質についてマイクロフォーカスＸ線ＣＴによる判別が可能であることがわかった。

3）Ｘ線ＣＴの活用方法の一つに、物質の密度とＸ線吸収の相関性を利用する手法がある。各物質の密度の違いによってＸ線の吸収量は変化するため、Ｘ線ＣＴ像では各物質の密度差によって異なるコントラストとして表現される。マイクロフォーカスＸ線ＣＴで調査したデータについてコントラストの平均値を数値化したものを輝度値とし、各有機質材料の同定に用いた。その結果、材料によって輝度値が変化することを確認した。

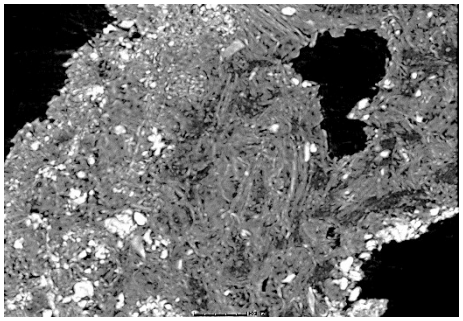


図 1　木屎を添加した漆試料の X 線像

【備考】
科学研究費助成事業の 3 年計画の 1 年目

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の初年度である。 採択が28年11月であったが、計画どおりに実験用試料の作製を行った。 また、いくつかの漆塗膜片について調査を行い、漆に添加される物質について判別が可能となった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	29年度は実験用試料の作製を継続していく。 作製した試料からマイクロフォーカスＸ線ＣＴによる観察を行い、特に輝度値が変化すると考えられる顔料を添加した試料について観察を行い、得られたＣＴデータから輝度値変化を検証する予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421D8

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	d.みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム（文化庁文化芸術振興費補助金）（(4)－②－1）

【事業概要】
九州山口各県・各県立拠点館・地域市民と連携協力し、各地のミュージアムが地域の文化・文化財をまもる拠点となるように、関係職員と地域市民が共に防災危機管理能力を高めることのできる研修プログラムを策定することを目的とする。プログラム策定のために、「調査・情報収集」、「研修試行」、「教材開発」、「会議」の開催を実施。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	特任研究員　本田光子

【主な成果】
(1) 事業計画の検討と実施、災害の教訓と課題を共有するための事例発表を含む全体合同会議、ワーキング会議を開催した。
・第1回全体会議（5月25日）、第2回全体会議（29年2月15日）
・ワーキング会議　4回開催（7月19日、12月5日、29年2月2日、29年3月10日）
(2) 被災地の施設・団体との先進的防災システムの構築のため、全国の博物館等施設の調査情報収集を行い、災害の内容や地域性を考慮した研修プログラム策定のための基礎情報を共有した。以下、調査を記載。
・東京（宮内庁）：伝統的な危機管理手法、新潟（十日町情報館他）：市民参加型の被災資料整理活動等
日程：6月8日～10日　参加者数：13名
・宮城及び福島（東北歴史博物館他）：東日本大震災の被災施設と文化財の現況及び市民参加の保全活動
日程：8月31日～9月3日　参加者数：12名
・兵庫（人と防災未来センター他）：阪神大震災の教訓とその後の施設整備や市民参加の保全活動
日程：11月23日～25日　参加者数：12名
・愛知（愛知県美術館他）：東海地震に備えた美術館の防災危機管理　大阪（国立民族博物館）：悉皆調査の取り組み　日程：11月29日～12月1日、 29年2月6日～7日　参加者数：14名
・熊本（熊本県博物館ネットワークセンター他）：熊本地震における被災状況、救出資料の一時保管状況視察
日程：12月3日　参加者数：31名
・京都・奈良（宮内庁正倉院事務所、京博、奈良博他）：伝統的な危機管理、各館の危機管理の取り組み
日程：12月13日～15日　参加者数：18名
(3) 事例発表と調査で得た情報を活かした博物館職員及び市民が共に学ぶ研修プログラムの一部を試行した。
・第1回：市民参加型の資料保全活動（12月3日）
・第2回：防災を考えた日常管理（29年2月1日）
・第3回：市民参加型の資料保全活動（29年3月8日）
・第4回：悉皆調査の取り組み（29年3月11日）
(4) 熊本地震における文化財の被災状況に関する速やかな情報収集および救援活動を行った。
(5) 事業報告書を刊行した。

研修会「被災古文書の応急処置ワークショップ」の様子

【備考】
文化庁文化芸術振興費補助金の3年計画の3年目

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
A	文化庁文化芸術振興費補助金の3年計画の最終年度である28年度は、地域の文化・文化財を守り継ぐための防災・危機管理研修プログラム策定の基礎情報を順調に収集・活用することができた。 国立博物館を核に広域にわたる地域連携によるネットワーク構築強化を進めたことにより、4月に発生した熊本地震では、被災状況調査や被災文化財救援事業への連携協力がスムーズに実現できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
A	本調査研究は最終年度を迎え、研修プログラムの策定と教材開発をおこなった。また、九州山口の広域で構築されたネットワークが熊本地震における被災文化財の調査および救援活動において機能することが確認された。今後、策定した研修プログラムが継続的に活用されるとともに、広域ネットワークを維持することで、地域における防災・危機管理力を高めるために役立てたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1421D9

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	e.熊本県被災文化財救援事業（公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団助成金／独立行政法人国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進事業）（(4)－②－1）

【事業概要】
28年4月に発生した熊本地震を受け、独立行政法人国立文化財機構では、熊本県被災文化財救援事業（文化財レスキュー事業）を開始した。本事業の事務局である九州国立博物館では、熊本地震で被害を受けた文化財を適切に搬出・応急処理・一時保管できる体制づくりを目的として、派遣人員の調整、一時保管庫の環境整備、文化財レスキュー手法の整理・共有、レスキュー、情報発信を実施した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　小泉　惠英

【主な成果】

レスキューの様子

（1）派遣人員の調整
国立文化財機構・九州山口各県の学芸員および文化財行政関係者等から、996名（のべ人数）の派遣を実施した（7月11日～3月23日）

（2）一時保管庫の環境整備
益城保管庫では、棚の搬入（10月12日、11月5日）と防犯およびガラス飛散対策のためのコンパネ設置（11月14日）、氷川保管庫では、網戸の設置と棚の搬入（11月15日）を実施した。あわせてデータロガー・毛髪計による環境調査を実施した。

（3）文化財レスキュー手法の整理・共有
津波を伴わない直下型地震における文化財レスキューで実施すべき内容を整理すべく、文化財搬出前の事前調査、文化財搬出、搬出した文化財の調書作成、レスキュー資料の応急処置についてその手法を検討した。文化財搬出前の事前調査、半壊家屋からの文化財搬出、搬出した文化財の調書作成についてのマニュアルを作成した。

応急処置の様子

（4）レスキューの実施
被害を受けた建造物から28件、救出文化財約6,200件の文化財レスキューを実施した。

（5）情報発信
文化財レスキュー事業について広く紹介すべく、独立行政法人国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進事業公開シンポジウム「地域とともに考える文化財の防災・減災Ⅲ　熊本地震と文化財レスキュー」を開催した。（12月4日）また文化財レスキュー事業を紹介するパネルを作成し、展示を行った。（12月4日）

【備考】
国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進事業3年目
公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団助成金の1年計画の1年目
派遣人員実績：996名（のべ人数）　レスキュー件数実績：28件
情報発信実績：シンポジウム1回（12月4日開催　200名参加）、パネル展1回（12月4日）、論文1本（三角菜緒「【中間報告】熊本県被災文化財救援事業における作業マニュアルの策定について―災害時の文化財搬出・搬出前の事前調査・調書作成手順の検討―」・『東風西声』）（29年3月）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進事業終年度、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団助成金1年計画の1年目にあたる28年度は、防災ネットワーク推進事業の2年度目までに行ってきたネットワークの構築および研究・研修の成果を生かして、熊本地震で被害を受けた文化財を適切に搬出・応急処理・一時保管できる体制構築を短期間で行うことができた。事業では28件、救出文化財約6,200件の文化財救出を実施しており、当初目標は十分に達成できたと考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	本事業では、派遣人員の調整、一時保管庫の環境整備、文化財レスキュー手法の整理・共有、レスキュー、情報発信を行い、実際に28件、救出文化財約6,200件のレスキューを実施することができた。今回事業で検討した手法は、今後発生が予測される津波を伴わない直下型地震での文化財レスキューにおいても活用可能である。引き続き研究を進めるとともに、情報発信を行いたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1422A1

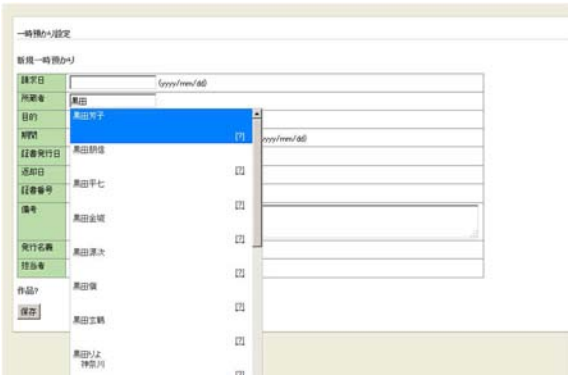
業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究（(4)－②－2）

【事業概要】
東京国立博物館における収蔵品管理システムの調査研究を通じて、資料情報と学芸業務の有機的な関連について調査研究し、博物館における効果的・効率的な情報の管理及び蓄積、活用のための環境構築に資することを目的とする。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	博物館情報課情報管理室長　村田良二

【主な成果】
(1) 収蔵品管理システムについて、作品検索、総合文化展管理、鑑査会議管理、貸与管理、修理予定・履歴管理の各機能を継続的に運用し、随時改善を重ねて機能を向上させた。
(2) ユーザアカウントについて、これまでシステムが独自に管理していたが、館内業務システムで利用している認証サーバを用いるよう変更した。これにより、ユーザは業務用端末と同じ ID で利用できるようになった。
(3) 各機能の入力・編集画面における操作性の向上のため、JavaScript ライブラリの移行を検討した。
(4) 外部からの一時預かり品の管理を行うことについて検討し、一時預かり品の登録や、預かり証の発行を行う機能を試験的に実装した。



一時預かり品管理画面（試験版）

(5) 収蔵品データベースの一般公開に向けて、当館ウェブサイト上の展示作品データと収蔵品管理システム上の作品データの異同を検出する手法について検討した。
(6) 本研究によって得られた知見について、『東京国立博物館紀要』第 52 号において論文を発表した。

【備考】
収集データ件数　221,907 件
（内訳）
作品データ件数　213,228 件
平常展データ件数　4,494 件
鑑査会議データ件数　87 件
貸与データ件数　1,485 件
修理データ件数　2,613 件

関連論文
・村田良二「文化財情報の構造と組織化について―データベース化の実践をもとに―」東京国立博物館紀要、第 52 号、29 年 3 月

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	収蔵品の効果的・効率的な管理のためのシステムを継続的に開発でき、学芸業務に欠かせないツールとして着実に発展させることができた。ユーザ認証を館内業務システムとアカウント情報を連携させることにより、利便性を向上させることができた。一時預かり品に関わる業務について分析し、システムによる管理に向けて検討を進めることができた。また、これまでに得られた知見について論文にまとめて発表することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	28年度以降の中期計画期間では、システム全体の設計を再検討し、さらに発展させていく。28年度は継続的な改善と同時に、論文においてこれまでの知見をまとめたことにより、今後の再検討に向けた準備を進めることができた。29年度以降は、新規に開発した一時預かり品の管理機能を改善するとともに、入力・編集画面のインターフェースにおいて28年度に検討したライブラリの移行について、本格的な導入を進める。また収蔵品データベースの公開に向けて、当館ウェブサイトと収蔵品管理システムのデータの比較を自動的に行う機能について検討を進める。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1422A2

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	イ　創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究（(4)－②－2）

【事業概要】
34 年度の東京国立博物館創立 150 年へ向けて、『東京国立博物館 150 年史』を編纂するために、業務文書や刊行物等を収集、整理し、今後の編纂事業の基礎資料として内容の調査を行う。28 年度は寄贈された文書類の目録化と、館内から収集した文書類の付箋挿入と整理に加え、ＰＤＦなどデータ化を進め、保存措置を講じる。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	東京国立博物館百五十年史編纂室長 井上洋一

【主な成果】
(1)収集した文書類の整理・目録化・保存措置（4 月 4 日～29 年 3 月 27 日：週に 1～2 日）
資料保管室（資料館 3 階）に収集した約 8,500 件の館史関係文書類について、27 年度に完成した目録(仮)と対応するための付箋挿入をするなど整理を進めた。以上は、資料整理アルバイト 1 名、非常勤職員 1 名と、東京国立博物館百五十年史編纂室員がともに作業を行った。
(2)東京国立博物館百五十年史編纂ワーキング打合せの実施（5 月 11 日ほか）
『150 年史』編纂のためのワーキング打合せを実施した。編纂物の内容を決定し、執筆者の選定を進めた。
(3)館史の内容に即した文書類の整理・確認
a)関東大震災時・第二次世界大戦時における被災文化財資料（7 月 13 日ほか）
文化財レスキュー事業に関連して、館史上の被災文化財の確認とその対応について資料を収集し、データ化を行った。インターン 1 名がデータ化を進め、編纂室員がシンポジウムでその内容を発表した。
b)東京国立博物館館史における教育普及事業関係資料（7 月 1 日から）
歴代の教育普及事業関連資料を収集し、変遷表を作成するとともに、関連調査を進めた。
(4)文書類のデジタル化（4 月 7 日ほか）
『東京国立博物館百年史』編纂の際に用いられた資料・原稿等の PDF 化を進めるとともに、外部関係者より借り出した元職員の日記資料などをデジタル・データ化した。
(5)総合文化展にて館史に関わる特集展示の実施（8 月 23 日～10 月 16 日ほか）
特集「壬申検査―博物館草創期の文化財保護活動―」、特集「臨時全国宝物取調局の活動―明治中期の文化財調査―」の展示を企画し実施した。
(6)問い合わせへの対応（4 月 18 日ほか）
館内・館外からの館史に関する問い合わせに対応した。

【備考】(1)収集した文書類の整理：72 日間実施
(2)編纂ワーキング打合せ：4 回実施
(3) a)関東大震災時・第二次世界大戦時における被災文化財資料の整理・確認：11 日間実施
シンポジウム「歴史と共に考える　文化財の防災・減災」で発表
（7 月 18 日、恵美千鶴子「関東大震災、第二次世界大戦の文化財」）
b)東京国立博物館館史における教育普及事業関係資料の整理・確認：30 日間実施
(4)資料・原稿等デジタル化：158 件（約 2,000 点）
(6)問い合わせ対応：7 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	27年度より継続的に収集した文書類の整理・保存措置について進めることができた。また、27年度に完成した目録を館内で公開したことにより、個別の調査・問い合わせへの対応が迅速に行えるようになった。収集・整理した文書類のデータを活用し、教育普及の歴史に関する年表を作成することができた。引き続き、館内各所に所在する文書類の収集整理を課題とするとともに、それらの文書類を『150年史』編纂に有効に活用できるようにするとともに、ほかの事業にも役立つようなデータ作成を行っていく。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	目録が館内で周知されるようになったことで文書類の活用が可能となり、館史に関わるさまざまな作業に対応できるようになったことから、中期計画に対する進捗状況は順調である。平成29年度以降も引き続き文書類の整理を進めるとともに、利用しやすいデータ作りに努め、さらなる活用を図っていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1422A3

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ウ　博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究 （(4)－②－2）

【事業概要】

本研究は、幕末期における西欧の博物館との接触から、維新後における博物館の創設を経て、帝室博物館の成立に至る明治期を中心とした博物館史を、世界史的な視野で再構成するための基礎的な資料調査と研究を、特に所蔵品の流通に着目して行おうとするものである。

そのために外国博物館との当時の文書や交換・寄贈された文化財を調査する。

あわせて、館史資料の撮影を進め、館史資料の公開・共有を目指す。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	調査研究課考古室長　白井克也

【主な成果】

1）館史資料の調査

27 年度までの科学研究費補助金によって高精細デジタル撮影を行った『列品録』『重要雑録』『動物録』『例規録』などの館史資料のうち、いくつかについて釈読を行い、一部は実物によって確認した。

ここから得られた成果の一部は、特別展『古代ギリシャ―時空を超えた旅―』の図録に論文として発表した。

また、『重要雑録』の中に、シカゴ・コロンブス世界博覧会（シカゴ万博、明治 26 年（1893））の出品作品の準備やその後の処理に関する文書の存在を見出したが、これは従来の同博覧会に関する研究では利用されたことのない新史料であることがわかったので、釈読を開始した。

これに関連して、資料館に図書として保管する、シカゴ万博関係の図書『臨時博覧會事務局報告』（前 3 冊）を調査した。

一方、列品のうち「墺国博覧会掛引継」、「墺国博覧会事務局寄贈」とする作品について、美術品台帳を分析し、これらは内務省内の組織改正に伴う引継であり、これらの作品がすべてウィーン万博に出品されたという推測が成り立たないことを見出した。

2）館史資料の高精細デジタル撮影を実施（1500 コマ）。

3）列品調査

9 月 14 日に、ペンシルヴェニア大学から返礼として寄贈された考古資料（以下、交換品）に関して、所在と現状を調査した。このうち 1 件は列品の登録から削除されていたが、その後、当該作品を収蔵庫内で見出して調査、この結果、同大学からの交換品のすべてが館内に依存していることを確認した。削除されていた 1 件については、平成 28 年度第 3 回鑑査会議を経て列品として復活した。

さらに、シカゴ・コロンブス世界博覧会に出品された水彩画の下絵とみられるものが、歴史資料の列品に 2 件確認されたので、調査を実施した。

4）聞き取り調査

ペンシルヴェニア大学が所蔵する、シカゴ万博時の寄贈品について調査経験のある島根大学・及川穣准教授より情報を得て、9 月 27 日に聞き取り調査を実施し、同大学所蔵資料の現状や、今後の調査方針について意見交換した。

5）現地調査

11 月 3 日にペンシルヴェニア大学を訪問し、シカゴ万博のときに当時の帝国博物館から寄贈された考古資料や水彩画、関連する文書を調査した。また、交換品の母体となった古代エジプトコレクションを調査した。また担当者の西村曜子氏と意見交換した。

29 年 2 月 2 日、3 日にも、同大学において帝国博物館からの寄贈品、同大学から帝国博物館への交換品の追加調査を行った。

【備考】

高精細デジタル撮影　1500 コマ
聞き取り調査回数　1 回
現地調査回数　2 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
A	シカゴ・コロンブス世界博覧会の際に行われた文化財交換に関して、『重要雑録』に、従来の館史研究に活用されていなかった資料の存在を認めたこと、また、ペンシルヴェニア大学に交換品が残されていることが判明するなど、年度当初には想定していない新たな成果が得られた。 従来は美術・工芸の分野からその意義を語られることが多かったシカゴ・コロンブス博覧会に関して、考古資料に関して新知見が得られたことで、当時の国際舞台における博物館の役割について新たな視点をひらくとともに、明治時代の日本における考古資料に対する認識に関する研究に道を開いた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
A	本研究は、東京国立博物館百五十年史編纂に向けて基礎資料を準備するためのものであったが、平成28年度の調査において新資料が発掘されたことにより、従来の館史研究で欠けていた視点を補うことができた。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1422A4

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	エ　博物館における文化財の情報資源化に関する研究（科学研究費助成事業）((4)－②－2)

【事業概要】

本研究は、博物館が収集した文化財と関連する資料（図書・文書など）の分析と整理、データ化を行い、文化財との相互の関連付けを行うことで、これらを一元的に管理し、必要なときに引き出して活用できる博物館アーカイブズを構築する。さらに他の研究機関と情報の共有化を図るため、情報資源を新しい枠組みでとらえ直し、相互利用を可能とする資料の情報資源化の方法論を、実践をとおして研究する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　髙橋裕次

【主な成果】

① 文化財の活用のあり方に関する研究成果をもとに、文化財の相互の関係を明らかにし、さらに周辺の学問との相関図を作成することで、人々が必要とする情報にたどり着くための方法を模索した。
② 宮内省の臨時全国宝物取調局が、明治 21 年(1888)より 10 年間にわたって行った文化財の悉皆調査の関連資料の検討をとおして、この調査が社会に及ぼした影響や、その背景などを明らかにするための作業を行った。
③ 臨時全国宝物取調局で作成された目録は、全国の文化財の貴重な履歴である。用途の異なる数種の目録の分析によって、情報をどのように整理したかを検討した。
④ 公文書類、展覧会情報、写真資料、新聞のスクラップなどと関連付けを行った文化財の相互の関連を分析するために構築するデータベースを購入し、その準備を開始した。

【備考】

科学研究費助成事業の 4 年計画の 3 年目

調査件数	2,000 件
デジタル撮影件数	77 件
公文書テキストデータ化	300 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業4ヵ年計画の3年目である本年度は、宮内省が明治21年(1888)より10年間にわたって実施した臨時全国宝物取調局の調査に関わる資料をとおして、文化財に対する一般の人々の意識や、博物館における文化財の管理体制に与えた影響などを考察した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、東京国立博物館百五十年史の編纂に向けた作業のなかで、文化財の情報資源化という観点から、MLLA連携を見据えた統合データベースの構築をめざしている。計画的に調査・研究を行い、所期の目標を達成した。 平成29年度は、これまでの研究のまとめとして、個々の文化財に関連付けた目録類、図書、文書などのデータをもとに、文化財を多角的にとらえた総合的な情報について確認する。また、検索された情報について、各研究機関と共有する上での適合性を検証する。報告書については、情報資源を新しい枠組みでとらえ直し、相互利用を可能とする資料の情報資源化の方法論を、実践をとおして研究するという、研究の目的にふさわしい内容かどうかについて討論を重ねる。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1422A5

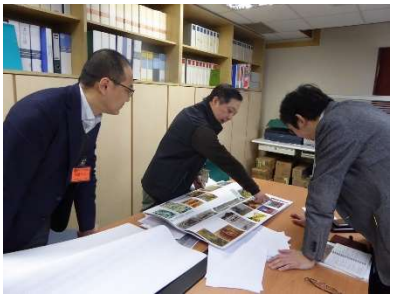
業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	オ　海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究（科学研究費助成事業） （(4)－②－2）

【事業概要】
1939年以降海外で開催された日本古美術展について一覧化を進めるとともに、文化庁所蔵資料のデータ化及び主要な展覧会の資料を収集・整理することにより、海外における日本観とその変遷を考察・研究する基礎資料を整備する。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	広報室長　鬼頭智美

【主な成果】
(1)ドイツ・ベルリン国立博物館アーカイヴ、イタリア・ローマ国立東洋美術館にて図書・写真・文献資料調査、一部複写・収集し、関係展示を視察した。(7月24日～31日)
・米国スミソニアン・アーカイヴス、フリア美術館及びメトロポリタン美術館にて、図書・文献資料調査、一部複写・収集し、日本美術担当学芸員に面談調査を行った。(11月1日～6日)
・米国ボストン美術館、同附属図書館、ボストン公立図書館、ハーバード大学美術館にて図書・文献資料調査、一部複写・収集し、関連施設を視察した。(12月7日～13日)
・英国・大英博物館、ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館などで資料調査を行うとともに関係者との面談を行った。(29年1月9日～15日)
・台湾の國立故宮博物院及び同南分院にて「日本美術之最」展について面談調査及び現地展覧会視察を行った。(29年2月9日～12日)
・文化庁所在資料を調査、必要部分のスキャニングを進めた。
(2)ドイツ、米国での調査により、調査先の美術館で開催された日本古美術展の原資料にあたり、各展覧会の詳細についての知見を得た。また、図書資料の所在を確認、リストに書誌情報をかなり追加することができた。
(3)海外日本古美術展覧会の一覧を作成、WEB公開用データとして整理し、当館研究情報アーカイブス上で公開した。また、3ヵ年の研究実績及び記録について、29年3月に報告書を刊行した。


故宮博物院における調査風景

【備考】
科学研究費助成事業の3年計画の最終年度
『海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究』刊行（29年3月）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の最終年度である28年度は、昭和14年（1939）開催のベルリンにおける「日本古美術展」の元となったと考えられる昭和11年（1936）米国開催展覧会以降2016年までに海外で開催された日本古美術展について一覧化を完成、WEB及び報告書により公開した。また、文化庁所蔵資料については分室保管分について関係資料の大部分をデータ化、これまでの資料とあわせて整理し、海外における日本観とその変遷を考察・研究する基礎資料を整備した。 3ヵ年に予定していた展覧会リストの完成及び基礎資料の収集については概ね計画通りの成果をあげることができた。今後、原資料の複写分のうち重要なものの翻刻を進め、今回完成したデータベースに追加することが課題となる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、その他有形文化財に関連する調査研究を実施した。 3ヵ年の研究期間内に、1936-2016年に開催された日本古美術展(企画展)のリストを完成し、重要な事例について関係文献資料・展覧会図録、会場写真等の基礎資料の収集・整理し、リストに組み込めるものは記載・公開した。また、研究記録とリストについては報告書を刊行した。これらの基礎資料の公開により、海外での日本古美術ひいては伝統文化への関心・イメージの形成・変遷を考察し、今後博物館としていかに外国人に日本文化への興味を喚起し理解を深めることができるか検討し、外国人向けの展示・展覧会等の企画に活用が可能となった。また、今回の調査で明らかになった主なテーマ、また開催地について個別に考察、日本文化発信の拠点設置についての検討材料となる。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1422A6

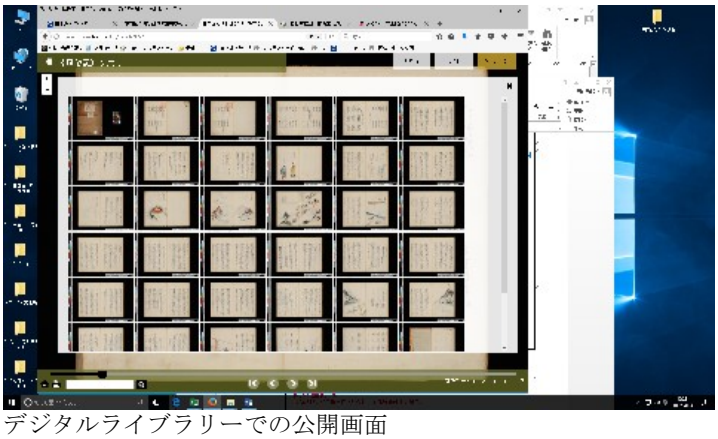
業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	a.東京国立博物館所蔵帝室本データベース（科学研究費助成事業）((4)－②－2)

【事業概要】
当館所蔵の和古書コレクション「帝室本和書」のうち、主に他に所蔵のない典籍を中心に高精細画像を作成し、当館研究情報アーカイブズ上の「デジタルライブラリー」において全頁の公開を行う。

【担当部課】	博物館情報課　調査研究課	【プロジェクト責任者】	田良島　哲

【主な成果】
帝室本和書（列品番号 QA）のうち　448 件、631 冊、32,631 カットの画像を作成し、検索項目の確認のできた資料から、順次、「デジタルライブラリー」http://webarchives.tnm.jp/dlib/　で公開した。



デジタルライブラリーでの公開画面

【備考】
科学研究費助成事業（単年度）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	研究成果公開として、計画どおりのデータ作成および公開を実現した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	平成29年度は、研究成果公開促進費が採択されなかったため、館内経費を用いて、可能な限りの画像データ作成と公開を継続する。引き続き各種競争的資金の獲得をめざす。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1422A7

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	b.東京国立博物館所蔵写真資料データベース（科学研究費助成事業）((4)－②－2)

【事業概要】

東京国立博物館所蔵写真資料データベースは、東京国立博物館が所蔵する幕末から昭和初期にかけて撮影された紙焼き写真をデジタル化し、広く一般に公開することを目的とする。現在「東京国立博物館所蔵古写真 WEB データベース」としてホームページ上で公開しているデータは、18～21 年度の科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の交付によって作成された。

本事業では、上記のデータベース作成事業を引き継ぎ、従来の紙焼き写真に加え、東京国立博物館が所蔵するガラス乾板を含めた全写真資料について調査とデジタル化を行い、データベースの充実を図る。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸研究部長　富田淳

【主な成果】

(1)ガラス乾板の調査

東京国立博物館が収蔵する明治～昭和初期撮影されたガラス乾板のうち、四切写真約 5,000 枚とキャビネ写真約 2,400 枚の法量（縦、横）、墨書等文字の項目について、5 月～29 年 3 月に東京国立博物館で調査し、併せてガラス乾板の保存状態を確認した。

(2)ガラス乾板のスキャナー作業

未撮影の乾板の内、約 720 枚のスキャナー作業を 10 月～29 年 3 月に東京国立博物館で行った。

(3)紙焼き写真のデータ整理

紙焼き写真について、約 2,000 枚について既成画像を元に公開用データを作成した。

ガラス乾板のスキャナー作業及び調査風景

【備考】

科学研究費助成事業の 3 年計画の 2 年目。

「東京国立博物館所蔵古写真 WEB データベース」(http://dbs.tnm.jp/kaken/oldphotos.html) において約 7,000 件を公開した。

調査回数 54 回。ガラス乾板のスキャナー作業 18 回。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	科学研究費助成事業3年計画の2年目である28年度は、新たに未撮影乾板のスキャナー作業を実施し、公開データに組み込むことができた。また、東京国立博物館が収蔵する明治～大正時代にかけて撮影された主要なガラス乾板を調査することができ、紙焼き写真については予定していた件数のデータ整理を行うことができたので、概ね所期の目標を達成していると判断した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画に沿って、有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究を実施した。本研究計画では、東京国立博物館が収蔵する主なガラス乾板を3ヵ年に分けて実施調査を計画しており、進捗状況はほぼ順調である。最終年度である29年度はさらに調査の効率化を図り、公開データの増加を目指したい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 1422B1

業務実績書

中期計画の項目	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　文化財情報に関する調査研究（(4)－②－2）

【事業概要】

当館のウェブサイトや文化財情報システムなど、運用中のコンテンツの問題点の検討や機構共通システムの運用に対する対応、博物館システムの発展的整備の方向性など、文化財情報に関する諸般の調査研究を実施する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　宮川　禎一

【主な成果】

(1) 当館における文化財情報のアーカイブズやウェブサイトなど、各種データベースや公開システム等について検討する情報システム検討委員会を隔月で開催し、継続的に博物館システムの検討を行った。

(2) 博物館におけるインフラとしての情報ネットワーク整備や、アーカイブズに求められる知財管理について、近年の他機関における動向や社会的ニーズの変化を踏まえ、継続して調査・検討を行った。

(3) 科学調査研究の推進に伴ってデータ量が急増しているため、データを保管するストレージシステムの構成拡張や運用調整等について検討を行い、情報システム面での整備を推進した。

(4) Windows7 のサポート年限が残り 5 年を切ったため、博物館システムにおける Windows10 の正式採用に向けた各種検証や試験導入等について検討を行い、対応を推進した。

研究系サーバラック

【備考】

・情報システム検討会　　6 回
・情報システム調査　　6 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	博物館におけるインフラとしての情報ネットワーク整備や、アーカイブズに求められる知財管理について、近年の他機関における動向や社会的ニーズの変化を踏まえ、継続して調査・検討を行い、文化財情報に関する調査研究を推進できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	中期計画において求められている文化財情報の研究について、科学調査研究の推進に伴ってデータ量が急増しているため、データを保管するストレージシステムの構成拡張や運用調整等について検討を行い、情報システム面での整備などを通じて対応できた。 29年度以降についても、データの増大や社会的ニーズの変化に伴う高度化を踏まえつつ、調査研究を推進する。

【書式Ｂ/博】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 1422C1

業務実績書

中期計画の項目	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究
プロジェクト名称	ア　文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究（(4)－②－2）

【事業概要】

当館が活動範囲とする仏教にかかわる歴史と美術について、展覧会や調査研究事業と連動した情報収集を行い、そこにデジタル技術を適切に取り入れることにより、データの継続的な作成・データベースの構築・情報資源の公開並びに共有へと展開させる。その際には実践に即した方法論を鍛え、文化財の保存活用に資するアーカイブズの形成・発展にも寄与することを目指す。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	資料室長　宮崎幹子

【主な成果】

デジタル撮影の安定的な稼働を目指して、撮影機材、撮影環境、保存用ストレージ、体制等の整備を引き続き行い、多数の文化財を撮影した。館内の情報システムや公開用データベースのデータ更新を適宜行い、情報資源の拡充と公開に積極的に取り組んだ。

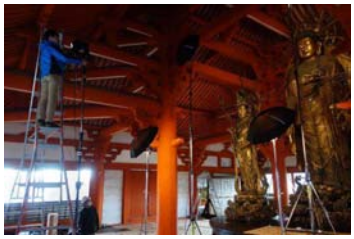
(1)　写真撮影としては、特別展「国宝信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王の至宝－」並びに「忍性－救済に捧げた生涯－」の開催と連動して、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の文化財の撮影を多数行った。信貴山縁起絵巻展では、信貴山縁起絵巻を最新の撮影機材をもちいての全巻撮影が叶い、また忍性展では全国各地の忍性関連資料の写真撮影を実施することが出来た。また、今春に控えた「快慶－日本人を魅了したほとけのかたち」展の準備として、多数の快慶作品の撮影を行った。これらによって、当館における文化財写真アーカイブズの更なる充実を図ることが可能となった。

(2)　ガラス乾板の保存活用の一環として、ガラス乾板の整理作業を引き続き行った。この作業は、デジタル化、ガラス乾板の保存処置（カビや埃の除去）、畳紙・保存箱への納入、新たな専用キャビネットへの排架とが連動したもので、館内の貴重な資料の保存活用と情報公開が同時に目指された活動であり、今後も継続して行う計画である。

(3)　奈良地域の文化財の画像公開を目的とする「奈良地域関連資料画像データベース公開事業」において、奈良女子大学附属図書館と学術協力の協定を締結している。28 年度はこの事業の一環として、能満院の春日浄土曼荼羅を始めとする寄託品の撮影を実施し、画像提供を行った。

(4)　収蔵品・画像データベースから画像の無償ダウンロードが可能となるよう、27 年度にシステムの改修を行い、28 年 3 月からサービスを開始したため、28 年度が実質的な提供となったが、利用者はインターネットから直接画像をダウンロードすることが可能となり、画像データの利用促進に貢献するものと期待される。

【備考】



撮影風景　浄土寺　阿弥陀三尊像

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、課題と対応等
B	文化財の調査と撮影は、文化財の保存や所蔵者の意向、物理的・時間的制約など様々な要因が影響するため、過去の平均値との比較から年度の実績を評価することは必ずしも適切ではない。実績概要でも述べたとおり、学術的に重要でありながら調査と撮影の機会を充分に得ることが難しかった分野について、調査を実施し、質の高い画像を取得して、公開へと繋げていることの意義は非常に大きい。　今後も当館の事業と密接に連携しつつ情報の蓄積を続け、仏教美術情報の一大拠点として、アーカイブズの質・量双方の維持に努める予定である。 情報資源の運用にあたっては、新たに館蔵ガラス乾板のデータベースを公開するなど、文化財アーカイブズ形成の実践を鋭意進めている。今後も更なる発展を視野に入れて研究に力を注いでいく。 また、画像の無償ダウンロードでは、高品質の画像を、利用者に活用しやすいかたちでの情報提供を目指しており、調査研究の成果を幅広い層に向けて還元していくという意味でも大きな成果をあげるものと期待できる。人員と予算が限られる現在のような体制の中で、幅広い活動を展開している点でも評価できる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、課題と対応等
B	デジタル撮影については現在のところ安定的な稼働を実現できている。館内での処理から最終的な情報公開までの一連の流れについて、今後とも人材及び機材の確保を含めた長期的な展望が必須である。また、現在行っているカラー・近赤外線・透過Ｘ線のデジタル撮影にとどまらず、ＣＴ撮影についてもデジタル化を実現すべく、機材・設備の整備が急務である。当館では仏教美術分野では国内唯一と言っていい貴重な画像コレクションを維持管理しているが、文化財調査の拡充に併せて、アーカイブズの拡充が図れるよう更に体制を整備していくことが肝要である。 今後も文化財の保存・活用そして研究の基盤として機能するべく、文化財アーカイブズ形成の実践を続けていくとともに、それを下支えする理論の構築にも取り組んでいく。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1430A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】
（4館共通）
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
4)2019年ICOM（国際博物館会議）京都大会に向けた活動を促進する。
（東京国立博物館）
1)学術交流協定を締結している博物館及び東アジア・欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。
2)日中韓国立博物館長会議、IEO（国際展覧会オーガナイザー会議）等の国際会議へ参加する。

担当部課	学芸企画部企画課国際交流室	事業責任者	国際交流室長　井上 洋一（兼任）

【実績・成果】
（4館共通）
1)中国、韓国、米国など4か国の博物館・美術館等から計73人の研究者・研修生を招へいしまたは受け入れ、研究交流を行った。
2)中国、韓国、タイ、米国、ヨーロッパなど10ヵ国・地域の博物館・美術館等へ当館研究職員を60人派遣し、収蔵品及びその活用に関する研究を行い、現地の研究者と交流した。
3)文化庁支援事業として、北米・欧州ミュージアム日本専門家連携・交流事業の一環である日本専門家会議（29年1月27日）及び国際シンポジウム「日本美術をみせる―リニューアルとリノベーション―」（29年1月28日～29日東京国立博物館）を開催した。
4)ICOMミラノ大会、第1回ユネスコハイレベル博物館フォーラム等、国際会議への参加を通して、ICOM京都大会への参加を呼びかけた。
（東京国立博物館）
1)韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館などとの学術交流協定に基づき、研究員の交流・派遣を行うとともに、海外での共同事業の企画・実施準備、国際会議に研究員を派遣、また海外博物館の新規建設にかかわる助言を行うなど、調査研究、ネットワーク構築、交流事業の推進を図った。
2)第 9 回日中韓国立博物館長会議に参加し、中国国立国家博物館及び韓国国立中央博物館の代表者と交流・情報交換を行い(11 月 4 日北京)、3 館共同事業による展覧会を同地にて行った（11 月 5 日～12 月 11 日)。また、IEO に参加し、主要美術館の展覧会関係者との意見交換を図った（4 月 14 日～15 日ダブリン)。

【補足事項】
（4館共通）上記研究員派遣人数は当館予算による派遣延べ人数を示す。
科学研究費助成事業等外部資金等を含む人数は145人。
（東京国立博物館）
1)海外交流の成果共有のため、学術交流発表会を実施した。・ 韓国国立中央博物館研究員による発表会（6月11日朴秀桓氏・8月30日 金ウルリム氏)、当館研究員による報告会（29年1月18日恵美千鶴子主任研究員・荒木臣紀調査分析室長）

学術交流発表会(朴秀桓)

日中韓国立博物館長会議

2)日中韓国立博物館長会議では、次回 30 年韓国開催、展覧会開催等について合意した。
・海外展としては、日中韓共同企画展である「15－19 世紀日中韓絵画精品展」（中国国家博物館）のほか、「菩提の世界－醍醐寺芸術珍宝展」（中国上海博物館・陝西歴史博物館）と「日本美術の粋－東京・九州国立博物館精品展」（台湾国立故宮博物院南院）を開催し、多方面から高い評価を得た。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
海外からの研究者招へい	73人	－	－		11	21	47	83
海外への研究者派遣	60人	－	－		34	41	18	47
国際シンポジウム開催数	1回	－	－		－	－	2	1
国際シンポジウム参加者数	463人	－	－		－	－	422	284

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
韓国国立中央博物館・上海博物館との協定に基づく主体的な招へいに加え、研修生受け入れ等、海外から合計73名の研究者を受け入れた。また海外へは60名を派遣した。本年で3度目となる米国・欧州ミュージアム日本専門家連携・交流事業にも10か国35名の参加があった。これらの取り組みにより海外研究者との交流が進み、今後の展覧会等事業や研究交流につながっている。今後、交流対象国をより広めていくことに努めたい。

【中期計画記載事項】
我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。さらに、2019年ICOM京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する。

【中期計画に対する評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
目標値以上の研究者招へいと派遣を実施し成果を達成し、順調に遂行できた。2019年ICOM京都大会の開催に向けて、当初計画により2016年ミラノ大会に参加したことに加え、第1回ユネスコハイレベル博物館フォーラムに参加し、大会の周知とネットワーク拡大を図った。第3回となった米国・欧州ミュージアム日本専門家会議では今後の組織づくり等の展開に向け前向きかつ活発な議論が進み、2日間のシンポジウムには一般参加を含め2日間で延べ463名が参加し、国内博物館活性化の先導的役割かつネットワーク構築について着実な成果を結んできている。今後具体的な活動の更なる活発化を目指す。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1430B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
4)2019年ICOM（国際博物館会議）京都大会に向けた活動を促進する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長　植田義雄 企画室長　伊藤信二

【実績・成果】
(4館共通)
1) 6月10日、ギメ東洋美術館館長 Sophie Makariou氏を招聘し、27年度に締結した学術交流協定を前提とし、今後の連携協力に関する打合せ等を行った。
2) 研究交流並びに研修のため職員を21人派遣した。
3) 29年3月30日、メトロポリタン美術館アジア美術部アシスタント・キュレーター　ビンチク・モニカ氏を招聘し国内の漆工の研究者6名及び当館研究員1名にて、中世漆工を中心とした国際研究会交流会を開催した。
4)・2016年ICOMミラノ大会の分科会にて当館職員2名が発表を行った。(上記派遣人数に含む)
・12月24日(土)、土曜講座にてICOM関連の講座を行った。
5)サンフランシスコ・アジア美術館（アメリカ）とパートナーシップを結び、日本文化を紹介する教育用サイト「TeachJapan.org」の立上げに協力した

【補足事項】
(4館共通)
2)・4月、29年度開催予定の特別展覧会「海北友松」の作品調査及び出品交渉のため、当館職員2名をアメリカへ派遣した。
・7月、陝西歴史博物館に行われる「日本醍醐寺国宝展」展時作業のため、当館職員2名を中華人民共和国へ派遣した。
・ほか、上海美術館、クイリナーレ宮美術館(イタリア)、マルチメディアホール(クロアチア)などへ派遣した。
4)・12月24日「博物館の国際会議とは？－ICOM2016ミラノ大会から2019京都大会へ－」
講師：学芸部教育室長 山川曉
参加人数：38人

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
海外からの研究者招聘	2人	－	－		3	0	2	2
海外への研究者派遣	21人	－	－		15	19	14	17
国際シンポジウム開催数	0 回	－	－		1	－	1	1
国際シンポジウム参加者数	0 人	－	－		209	－	168	200

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
例年の海外交流に加えて、28年はICOMミラノ大会のため5人派遣し、ICOM関連の土曜講座を行うなど、2019年ICOM京都大会に向けた布石となる活動を充分に行うことができた。

【中期計画記載事項】
我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。さらに、2019年ICOM京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
海外からの研究者を2名招聘し、海外の博物館等へ21人派遣したことに加え、2019年ICOM京都大会開催のための活動を行い、国内外のネットワーク構築を順調に進捗することができた。今後についても、国内外の博物館・美術館や研究機関とのネットワークを構築し、博物館活動の活性化に寄与していく予定である。また、29年度には、201年ICOM京都大会に向けた国際シンポジウム等を開催し、一般の方々への広報活動を実施していく予定である。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1430C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】（4館共通）
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
4)2019年ICOM（国際博物館会議）京都大会に向けた活動を促進する。
（奈良国立博物館）
1)学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長　内藤 栄

【実績・成果】
（4館共通）
1）中国・韓国の博物館から研究者等9名を招聘し、今後の研究や展示活動及び博物館活動全般に関わる情報交換を実施した。
2）職員延べ19名（事務系職員含む） を諸外国に派遣し、文化財に関する研修および現地研究者との研究交流を実施した。
3）国際研究集会「古代日韓の装飾と技術」を12月13日に開催。学術交流事業で招聘した国立慶州博物館研究員と当館研究員2人による研究発表と討論を行い、計30人の参加があった。
4） ICOMミラノ大会（7月4日～9日）に職員1名を派遣し、また国内の関係者が集まる「ICOMミラノ大会報告研修会」（10月8日、京都）に参加した。
（奈良国立博物館）
1）中国上海博物館、中国河南博物院、韓国国立慶州博物館との間で、学術交流協定に基づいて職員を派遣し、また先方の館員を招聘して、それぞれの専門分野にかかわる研究交流、意見交換を実施した。

国際研究集会「古代日韓の装飾と技術」

【補足事項】
（4館共通）
1）招聘人数の内訳は、韓国国立慶州博物館4名、中国上海博物館3名、中国河南博物院2名。
2）派遣人数の内訳は 、韓国国立慶州博物館1名、中国上海博物館5名、中国河南博物院1名、中国浙江省博物館等1名、中国陝西歴史博物館1名、台湾故宮博物院等3名、蘇州博物館等1名、イタリア（ミラノ）ブレラ美術館1名、イタリア（ローマ）クイリナーレ宮美術館1名、米国クリーブランド美術館等4名。
3)国際研究集会「古代日韓の装飾と技術」（於当館講堂） 12月13日
研究発表「慶州月池出土骨製花鳥紋装飾研究」
発表者：田孝秀（国立慶州博物館学芸研究士）
研究発表「金属製品をめぐる“技術”について－科学的保存処理の技術と金工技術－」
発表者：大江克己（当館アソシエイトフェロー）
4） ICOMミラノ大会では、 COMCOL委員会に参加した。
（奈良国立博物館）
1） 学術交流協定に基づいて、以下の交流を実施した。
・中国上海博物館から職員3名を10日間招聘し、当館から職員3名を10日間派遣した。
・中国河南博物院から職員2名を1ヵ月間招聘し、当館から職員1名を15日間派遣した。
・韓国国立慶州博物館から職員2名を各1ヵ月間招聘し、当館から職員1名を1ヵ月間派遣した。

慶州博物館招聘者の現地研修
橿原考古学研究所にて

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
海外からの研究者招聘	9 人	－	－		7	9	9	13
海外への研究者派遣	16 人	－	－		17	8	13	20
国際シンポジウム開催数	－	－	－		－	－	－	－
国際シンポジウム参加者数	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 海外の博物館の研究者を招聘しての交流、職員を海外の博物館へ派遣しての研究交流とも、実施件数は例年並であるが、それぞれの機会に文化財調査や研究交流は着実に実施できている。

【中期計画記載事項】
我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。さらに、2019年ICOM京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 学術交流協定に基づく海外博物館との交流は、招聘及び派遣を継続できており、派遣に関してはそれ以外の博物館・美術館との間でも活発に実施している。派遣時、あるいは招聘時には、有意義な意見交換・現地調査等を実施しているが、より一層の内容の充実を図っていく必要がある。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1430D

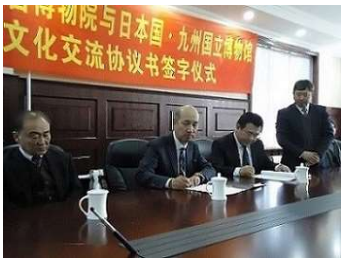
中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③国内外の博物館等との学術交流等

【年度計画】
（4館共通）
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
4)2019年ICOM（国際博物館会議）京都大会に向けた活動を促進する。
（九州国立博物館）
1)国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに学術文化交流協定を締結している海外博物館等との交流を活発に行う。
2)海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長　木川りか 課長　吉川利幸 課長　菅原秀倫

【実績・成果】（4館共通）
1）タイ王国文化省芸術局長を招聘し、研究交流及び29年度開催の特別展「タイ～仏の国の輝き～」に関する協議を行った。（7月30日～8月3日）
2）当機構職員を韓国、中国をはじめとした海外の博物館・美術館等に67人派遣し、研究交流等を実施した。
3）日中韓文化遺産フォーラムを開催した。（29年2月12日、参加者173人）
4）ICOM京都大会に開催に向け、7月にミラノで開催されたICOM世界大会に出席し情報収集を行った。
（九州国立博物館）
1）国際交流活動の推進へ向けての基盤を整備し、海外博物館等との交流を実施した。（瀋陽故宮博物院等）
2）水中考古学フォーラムにおいて、オランダ文化遺産庁のマータイン氏他2名が講演を行った。（8月27日、参加者約45人）

【補足事項】（4館共通）
1）・タイ王国文化省芸術局長を招聘し、特別展「タイ～仏の国の輝き～」に関する協議を行った。また、特別展の会場となる当館及び東京国立博物館の視察を行った。（7 月 30 日～8 月 3 日）
・28年度外国人芸術家・文化財専門家招聘事業（文化庁長官官房国際課）により、韓国国立中央博物館・学芸研究室長・閔丙贊氏を招聘し、当館の視察をはじめ、長崎県松浦市、平戸市などにおいて、高麗仏に関する調査を行った（10 月 19 日～22 日）。



瀋陽故宮博物院との学術文化交流協定締結の様子

（九州国立博物館）
1）学術文化交流協定に基づく交流事業により、韓国国立公州博物館及び国立扶餘博物館の研究員（8月30日～9月12日：2人参加）を招聘し、研究員等の交流を実施した。また、瀋陽故宮博物院と学術文化交流協定を締結し、今後の特別展の開催や研究員等の交流について協議を行った。（11月22日）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
海外からの研究者招聘	43人	－	－		3	16	35	51
海外への研究者派遣	67人	－	－		60	87	82	77
国際シンポジウム開催数	1回	－	－		2	1	2	1
国際シンポジウム参加者数	173人	－	－		450	207	403	80

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	学術文化交流協定締結館を中心に67人の研究者を海外へ派遣して交流を深め、国際シンポジウムを開催するなど研究交流等を順調に実施できた。

【中期計画記載事項】
我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。さらに、2019年ICOM京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	3 名の海外の研究者を招聘し水中考古学フォーラムを開催するなど、中期計画に沿った事業を順調に行うことができた。また、ミラノで開催された ICOM 世界大会に出席するなど、国内外の博物館等とのネットワーク構築を推進することができた。今後も海外の優れた研究者を招聘し、国際シンポジウムの開催や共同調査の実施などの取組を進めていきたい。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　1440A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ④調査研究成果の公表

【年度計画】
（東京国立博物館、京都国立博物館）
1)文化財修理報告書を刊行する。
（東京国立博物館）
1)「東京国立博物館情報アーカイブ」等の運用をし、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。
2)紀要・図版目録等を刊行する。
3)法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。
4)研究誌『MUSEUM』を刊行する。（年6回）

担当部課	学芸企画部企画課 学芸企画部博物館情報課	事業責任者	企画課長　浅見　龍介 博物館情報課長　田良島　哲

【実績・成果】
（東京国立博物館、京都国立博物館）
1)『東京国立博物館文化財修理報告XVII』を刊行した。
（東京国立博物館）
1)・「東京国立博物館情報アーカイブ」等の運用をし、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図った。「東京国立博物館情報アーカイブ」は、「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」としてリニューアルし、研究員の調査研究活動等に関する情報公開を拡充した。
・特集陳列印刷物リーフレットのPDFファイル版を当館ウェブサイト上に公開することによって研究情報の普及を図った。
2)・『東京国立博物館紀要』52号を刊行した。
・『東京国立博物館図版目録　改訂版経塚遺物（東日本篇）』を刊行した。
3)『法隆寺献納宝物特別調査概報XXXVII　古今目録抄3』を刊行した。
4)研究誌『MUSEUM』661号～666号を刊行した。
○『東京国立博物館セレクション　シルクロードの美術』を刊行した。
○『日本の考古　ガイドブック』を刊行した。
○特別展図録6件・特集陳列印刷物9件（ﾘｰﾌﾚｯﾄ6件、冊子3件）を編集した。
○出版企画委員会4回、『MUSEUM』『紀要』等編集委員会9回を開催し、博物館の出版事業の拡充を図った。

東京国立博物館研究情報アーカイブズ

【補足事項】（東京国立博物館）
○出版物については別記（ c-⑥ 調査研究刊行物一覧）を参照。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
定期刊行物	16件	16件	B		17	16	16	16
紀要等	4件	4件	B	経	4	4	4	4
『MUSEUM』	6件	6件	B	年	6	6	6	6
『東京国立博物館ニュース』	6件	6件	B	変	7	6	6	6
特別展の開催回数（海外展除く）	8回	－	－	化	7	6	6	6
テーマ別展示の開催件数	33件	－	－		47	33	22	31
講演会等の開催回数	160回	－	－		126	131	127	146

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 紀要、『MUSEUM』等の定期刊行物を16件刊行するとともに、その他文化財修理報告書、図版目録等を計画どおり刊行することができた。また、「東京国立博物館情報アーカイブ」は、「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」としてリニューアルし、研究員の調査研究活動等に関する情報公開を拡充したほか、特集陳列印刷物リーフレットのPDFファイル版を当館ウェブサイトに掲載することで、さらなる情報公開に努めた。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 『東京国立博物館図版目録　改訂版経塚遺物（東日本篇）』を発行するなど、図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などを順調に刊行するとともに、来館者の要望が高い出版物を刊行し、販売部数を伸ばすことができた。また、ウェブサイトでの公開等、インターネットを活用した調査研究成果の発信を行うことができた。また今後「東京国立博物館研究情報アーカイブズ」での発信をさらに拡充する。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1440B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ④調査研究成果の公表

【年度計画】
（東京国立博物館、京都国立博物館）
1)文化財修理報告書を刊行する。
（京都国立博物館）
1)研究紀要『学叢』を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分の概要を順次ウェブサイトで公開する。
2)社寺調査報告書等を刊行する。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　伊藤信二

【実績・成果】
（東京国立博物館、京都国立博物館）
1)文化財修理報告書14を刊行した。
（京都国立博物館）
1)『学叢38号』を刊行した。28年度は学叢第28号のPDFを当館ウェブサイトにて追加公開した。
2)既に過年度において調査済みである社寺の社寺調査報告書を刊行するべく調書の整理を行ったが、報告書の精度を担保すべく、調書の確認及び整理を充分に行う必要があることが判明したため、29年度以降に刊行することとした。
○特別展覧会にて2件、特集陳列にて4件の計6件の図録を刊行した(定期刊行物実績値には含まない)。

【補足事項】
（京都国立博物館）
○特集陳列「丹後の仏教美術」の図録については、出品が叶った、通常拝観できない秘仏である重要文化財「千手観音像」(京都・緑城寺蔵)を掲載するなど、京丹後地域の文化及び調査研究成果を展示のみならず図録においても発信することができた。
○特集陳列「生誕300年　伊藤若冲」の図録については、東京都美術館や京都市美術館においても伊藤若冲関連の特別展覧会が行われ、伊藤若冲への関心が高まっていることを受け、ほかの特集陳列図録より充分な数を制作の上、順調に販売することができ、調査研究成果の公表のみならず、来館者サービスの向上及び自己収入増加に寄与することができた。

「丹後の仏教美術」図録

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
定期刊行物	10件	11件	C		11	10	10	11
紀要等	2件	3件	C	経	3	3	2	3
『博物館だより』	4件	4件	B	年	4	4	4	4
『Newsletter』	4件	4件	B	変	4	3	4	4
特別展の開催回数（海外展除く）	2回	－	－	化	5	3	2	3
テーマ別展示の開催件数	9件	－	－		－	－	4	7
講演会等の開催回数	45回	－	－		19	21	36	39

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	社寺調査報告書については刊行できなかったものの、ほかの定期刊行物については順調に刊行することができた。また、特集陳列において図録を4件刊行し、調査研究成果の公表を充分に行うとともに、来館者サービスの向上等に寄与するなど、総合的には充分な成果を達成した。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	社寺調査報告書を刊行せず、紀要等の発行については目標値を達成することができなかったが、中期計画初年度としては、特集陳列の図録刊行等にて調査研究成果の発信を充分に質・量ともに充分に拡充することができた。また、28年度は既に過年度において調査済みである社寺の調書の整理に着手し、29年度以降刊行することの見通しを立てた。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1440C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ④調査研究成果の公表

【年度計画】
（奈良国立博物館、九州国立博物館）
1)文化財修理に関する印刷物を刊行する。
（奈良国立博物館）
1)研究紀要『鹿園雑集』を刊行するとともに、学術研究公開の一環としてウェブサイトで公開する。
2)東京文化財研究所と共同で実施している絵画作品などの光学的調査について、報告書を刊行する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤　栄

【実績・成果】
（奈良国立博物館、九州国立博物館）
1)研究紀要『鹿園雑集』第17号・第18号（合併号）内に包摂する形で、25年度の文化財修理に関する調査研究成果を刊行した。
26年度以降の調査研究成果については、今後『鹿園雑集』から分冊して、文化財保存修理書　修理報告書として刊行するべく、編集作業を行った。（第一号は29年5月刊行予定）

（奈良国立博物館）
1)研究紀要『鹿園雑集』第17号・第18号（合併号）を刊行（29年1月）し、併せて当館ウェブサイトに掲載することで研究成果を広く公表した。

2)東京文化財研究所と共同で実施している絵画作品などの光学的調査について、『国宝聖徳太子及天台高僧像光学調査報告書―特殊画像編―』を29年3月に刊行した。

【補足事項】

展覧会図録・研究紀要等

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
定期刊行物	6件	5件	A		5	4	5	4
紀要等	2件	1件	A		1	0	1	0
『博物館だより』	4件	4件	B		4	4	4	4
特別展の開催回数（海外展除く）	3件	－	－		3	3	3	3
テーマ別展示の開催件数	4件	－	－		6	10	9	4
講演会等の開催回数	26回	－	－		29	26	27	28

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 27年度は刊行できなかった『鹿園雑集』を刊行したことで、27年度までの調査研究事業報告を完了することができた。その他定期刊行物についても順調に刊行、公開することができており、目標を達成している。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 調査・研究の成果は、展覧会に関わる刊行物を中心に発信できている。また、文化財研究の成果を研究紀要『鹿園雑集』に刊行、報告するとともに、ウェブサイトでの公開を実施し、中期計画は順調に遂行している。29年度からは、文化財の修理報告書を単体で刊行し、より充実した内容を目指していく。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1440D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ④調査研究成果の公表

【年度計画】
（奈良国立博物館、九州国立博物館）
1)文化財修理に関する印刷物を刊行する。
（九州国立博物館）
1)研究紀要『東風西声』を刊行する。
2)保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（奈良国立博物館、九州国立博物館）
1)・九州国立博物館「博物館科学の取り組みと設備」を改訂し、刊行した。（部数2,000部）
・文化庁共催事業「日中韓文化遺産フォーラム　水中文化遺産の保護と活用」（29年2月12日に開催）報告書（部数：2,100部）、英文パンフレット（部数：1,000部）を刊行した。

（九州国立博物館）
1）研究紀要『東風西声』12号を刊行した。（掲載論文数10本、部数1,000部）
2)・当館修復施設を使用する修復技術者と連携し、『平成28年度版　中学　社会デジタル教科書』（日本文教出版株式会社）の制作に協力した。その成果は「歴史を掘り下げる　文化財を守り伝える仕事―九州国立博物館の取り組み」として同教科書に掲載された。
・文化交流展示「文化財を守り伝える博物館」の中で、当館内で修理を行った重要文化財宗家文書を展示し、修理工程についてもパネルで紹介した。また、火焔型土器の3次元計測結果を3Dプリントによって可視化し、展示した。

『平成 28 年度版　中学社会デジタル教科書』

【補足事項】

1)「博物館科学の取り組みと設備」においては、文化財修理に活用される文化財の色材や紙、糊などの分析に使用される機器や取り組み例を紹介した。
1)『東風西声』12号では10本の論文を掲載した。（うち当館職員9本）
○特別展図録・特集陳列等図録7冊を刊行した。
（うちトピック展示図録3冊）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
定期刊行物	5件	5件	B		5	5	5	5
紀要等	1件	1件	B		1	1	1	1
季刊情報誌『アジアージュ』	4件	4件	B		4	4	4	4
特別展の開催回数（海外展除く）	4回	－	－		4	4	5	4
テーマ別展示の開催件数	6件	－	－		12	14	11	8
講演会等の開催回数	77回	－	－		102	90	82	87

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 研究紀要についても、掲載論文数、内容がより充実したものを刊行することができ、また文化財修理に関わる調査等について一般の理解を助ける刊行物を印刷することができた。

【中期計画記載事項】
文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 予定通りに印刷物を刊行することができた。また、文化財修理や科学調査の結果を平常展示や教科書で公表することもでき、中期計画に沿って順調に計画を実施している。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1510A

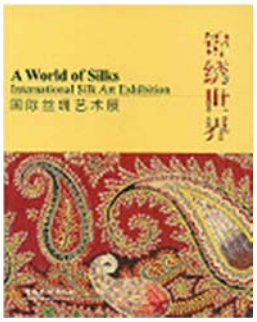
中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(5) 国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
（4館共通）
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
（東京国立博物館・奈良国立博物館）
1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。
（東京国立博物館）
1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。
2)海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する（海外交流展出品作品を含む）。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長　救仁郷 秀明

【実績・成果】
（4館共通）
1)国内の博物館等103機関に750件の作品を貸与した。
（東京国立博物館・奈良国立博物館）
1)岡山県立博物館、鳥取県立博物館と協力して、考古資料の相互貸借を実施した。
（東京国立博物館）
1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。
2)海外の博物館等4機関に34件の作品を貸与した。
　海外交流展として2機関に162件を出品した。

【補足事項】
（東京国立博物館・奈良国立博物館）
1)東京国立博物館では、考古資料相互貸借事業経費により、岡山県立博物館に53件、鳥取県立博物館に36件を貸与して、岡山県立博物館から10件、鳥取県立博物館から11件を借用した。借用品により、特集「吉備・伯耆因幡の古墳文化－中国地方東部の歴史的特質－」を開催した。
（東京国立博物館）
2)中華人民共和国国立絲綢博物館で開催された特別展「絹の世界」には、当館から特別協力として希少な古代裂を含む28件の文化財を貸与し、幹部1名が開会式に列席し、作品展示・撤収・輸送随伴に延べ4名の人員を派遣した。
2)海外交流展
・中国国家博物館　「15-19世紀日中韓絵画精品展」　出品件数：18件
・台湾国立故宮博物院南部院区　「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」
　出品件数：144件



国立絲綢博物館
特別展「絹の世界」図録

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
貸与件数	946件	－	－		1,295	1,137	1,130	991
うち国内の貸与件数	750件	－	－		1,252	1,086	1,059	909
うち国外の貸与件数	196件	－	－		43	51	71	82

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　国内外の博物館等109機関に946件の作品の貸与を行った。展示室改修にともない27年度に停止していた考古資料貸与業務を再開するなど、例年通りの貸与業務を行うことができた。台湾国立故宮博物院南部院区における海外交流展には、平成26年の特別展「台北 國立故宮博物院－神品至宝－」の返礼として、国宝・重要文化財を含む多数の文化財を出品した。

【中期計画記載事項】
　収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
　中期計画に基づき、岡山県立博物館や中華人民共和国国立絲綢博物館など国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、例年通りの規模で貸与を実施することができた。　貸与件数自体は近年減少傾向にあるが、次年度以降も内外の重要な展覧会に有意義な貸与を実施し、外部の博物館活動に対して重要な寄与を果たしてゆく予定である。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1510B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(5) 国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
(4館共通)
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　宮川禎一

【実績・成果】
(4館共通)
1)　機関に対し367件の館蔵品・寄託品貸与を行った。
　　館蔵品の貸与件数：166件
　　寄託品の貸与件数：201件
　　計：367件

○28年度も継続してウェブサイトにて「貸出作品リスト」の公開を行った。

【補足事項】
(4館共通)
1)　収蔵品の貸与に際しては、貸出先施設の保管体制、警備体制、虫害対策等を総合的に判断しながら先方の要望に応じた。
　東京国立博物館の「禅」展に国宝4件、重文22件を含む42件、九州国立博物館の「鳥獣戯画」展に国宝6件、重文23件を含む42件、長崎歴史博物館の「没後150年 坂本龍馬」展に重文7件を含む41件などを貸与した。

長崎歴史文化博物館「没後150年 坂本龍馬」展貸与品：
重文「絵画・書跡貼交屏風」 館蔵品

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
貸与件数	367件	－	－		304	626	582	303
うち国内の貸与件数	365件	－	－		301	623	570	293
うち国外の貸与件数	2 件	－	－		3	3	12	10

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	収蔵品の保存状況と貸出先のコンディションを勘案しながら国内の博物館等に対し、367件の貸与を行い、可能な範囲で要請に応じた。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	収蔵品の保管･展示状況と貸出先のコンディションを勘案しながら先方の要請に適切に応じることができた。次年度以降も引き続き、要請に対し適切に貸与を行っていく予定である。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1510C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(5) 国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
（4館共通）
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
（東京国立博物館・奈良国立博物館）
1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。

担当部課	学芸部列品室	事業責任者	室長　吉澤　悟

【実績・成果】
（4館共通）
1)収蔵品と寄託品を国内外あわせて34の機関に、計165件貸し出した。

（東京国立博物館・奈良国立博物館）
1)福岡市博物館、福岡市埋蔵文化財センター、遊佐町教育委員会との間で考古資料の相互貸借事業を実施した。

【補足事項】
（4館共通）
1)収蔵品の貸与
○貸与先34件の内訳
・国立4件、公立17件、私立12件、海外1件
○貸与作品165件の内訳
・国宝16件（館蔵品7件、寄託品9件）
・重要文化財50件（館蔵品17件、寄託品33件）
・その他99件（館蔵品60件、寄託品39件）
・貸与した館蔵品84件の内訳
（絵画38件、彫刻5件、書跡5件、工芸6件、考古30件）
・貸与した寄託品81件の内訳
（絵画37件、彫刻11件、書跡11件、工芸19件、考古3件）

貸与品：重要文化財
紙本著色絵因果経断簡　巻第二上（六十二行）
館蔵品

（奈良国立博物館）
1)相互貸借事業における貸与・借用品数
・福岡市博物館、福岡市埋蔵文化財センター（貸与品：館蔵品10件、借用品：8件）
・遊佐町教育委員会（貸与品：館蔵品1件、借用品：4件）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
貸与件数	165件	－	－		102	135	149	145
うち国内の貸与件数	161件	－	－		100	135	149	137
うち国外の貸与件数	4 件	－	－		2	0	0	8

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
計画通り貸与申請に対して慎重かつ積極的に対応することで、国内外の展覧会に協力することができた。貸与件数も例年に並んで100件を超える貸与を行った。また、28年度も考古相互貸借事業を実施し、地域を結ぶ文化財公開の実績を作ることができた。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画にもとづき、貸与申請に対しては慎重かつ可能な限り希望に応えられるよう対処した。文化財の公開と活用に積極的に貢献でき、中期計画の進展は順調であったと評価される。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1510D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(5) 国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
(4館共通)
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　冨坂　賢

【実績・成果】
1)国内 28機関・海外 2機関に収蔵品及び寄託品を貸与した。
(機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。)

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)国内の貸与先機関は、下記のとおりである。

・国及び国立博物館
文化庁、東京国立博物館、奈良国立博物館

・地方公共団体及び公立博物館・美術館
(福岡県内)
九州歴史資料館、甘木歴史資料館、伊都国歴史博物館、小郡市埋蔵文化財センター、求菩提資料館
(福岡県外)
東京都江戸東京博物館、荒神谷博物館、彦根城博物館、佐賀県立博物館、佐賀県立名護屋城博物館、佐賀県立九州陶磁文化館、都城島津邸、浦添市美術館、京都府京都文化博物館

・私立博物館・美術館及び私立団体
公益財団法人古都大宰府保存協会大宰府展示館、MIHO MUSEUM、あべのハルカス美術館、泉屋博古館、サントリー美術館

○海外の貸与先機関は、下記のとおりである。
・大韓民国釜山市福泉博物館、國立故宮博物院南部院区

國立故宮博物院南部院区
「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」出品
国宝　太刀(銘来国光)

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
貸与件数	83件	-	-		113	143	101	90
うち国内の貸与件数	72件	-	-		105	117	89	88
うち国外の貸与件数	11件	-	-		8	26	12	2

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	公私立の博物館等の要請に対し、適切に貸与を実施した。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に沿って、適切に貸与を実施し、公私立の博物館等の展示の充実に寄与できた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1520A

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(5) 国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
(東京国立博物館)
1)新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。

担当部課	学芸研究部	事業責任者	学芸研究部長　富田　淳 総務部長　松本　伸之

【実績・成果】
(4館共通)
1)公私立博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、120件の援助・助言を行った。
・文化庁、地方公共団体等の文化財関係事業に関する助言・協力（30件）
・展覧会の開催、運営に関する援助・助言（9件）
・講演や査読での協力（16件）
・有形文化財の管理・保存に関する助言・指導（35件）
・博物館の運営・事業・環境に関する援助・助言（30件）
(東京国立博物館)
1)新規貸与館に対する環境調査を実施し、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。

【補足事項】
(4館共通)
・文化庁、地方公共団体等の文化財関係事業に関する助言・協力
　文化庁（文化審議会専門委員他)、愛知県文化財保護審議会、流山市教育委員会、静岡県文化財保護審議会委員他
・展覧会の開催、運営に関する援助・助言
　文化庁、国際交流基金、パリ装飾芸術美術館、国立歴史民俗博物館、神戸市立博物館、名古屋ボストン美術館他
・講演や査読での協力
　東京国立近代美術館、国立民族学博物館、静岡県立美術館、大和文華館、ユネスコ他
・有形文化財の管理・保存に関する助言・指導
　丹青研究所、韓国国立中央博物館、大英博物館、練馬区牧野記念庭園記念館、仙台市立博物館、杉原千畝記念館他
・博物館の運営・事業・環境に関する援助・助言
　東京国立近代美術館、国立新美術館、ルーブル美術館、京都鉄道博物館、江戸東京博物館他

(東京国立博物館)
1)環境調査を実施した新規貸与館は、6館。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
援助・助言等の件数	120件	－	－		85	114	119	139

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
公私立博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、117件の援助・助言を行った。また、新規貸与館に対する環境調査を6館に対して行った。いずれも内容・質ともに適切に実施し、年度計画を順調に達成することができた。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画期間の初年度として、国内外の博物館等からの要請に応じて、適切に専門的・技術的な援助・助言を行うことができた。29年度以降も引き続き、可能な限り国内外の博物館等からの要請に積極的に応じていきたい。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1520B

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(5) 国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長　山本英男

【実績・成果】

1)　公私立の博物館・美術館が開催する展覧会及び運営に対し、112件の援助・助言を行った。
- 文化財の展示にかかる援助・助言(17件)
- 文化財の調査、保存、修理に関する指導・助言(25件)
- 講演会、セミナー等での協力(36件)
- 文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力(34件)

【補足事項】
1)文化財の展示にかかる援助・助言
- 「博物館でお花見を」桜セミナー及び教育関連展示作業
- 海外展「醍醐寺展」の展示及び撤収作業
- 海外展「日本仏像展」開催に伴う会場運営業務
- 「大妖怪展」に関する展示作業及び撤収業務　　など

文化財の調査、保存、修理に関する指導・助言
- 愛知県史編さんに伴う作品調査
- 野崎家塩業歴史館所蔵漆工品に関する作品調査
- 明和町指定文化財(仏通禅師所用法衣並びに什物)の調査　など

講演会、セミナー等での協力
- 岐阜県「美濃桃山陶と無形文化財」講演
- 児童対象ワークショップにおける水墨画について解説
- 仁和寺所蔵の文化財調査
- 第81回装道大学講座　講師　など

文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力
- 越前市文化財保護委員会委員として助言
- 滋賀県文化財保護審議会委員として助言
- 文化庁企画選定委員として助言　など

愛知県史編さん事業に伴う所蔵作品調査

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
援助・助言等の件数	112件	－	－		65	43	29	65

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	援助・助言の件数、岐阜県「美濃桃山陶と無形文化財」講演や児童対象ワークショップにおける水墨画について解説等、内容、件数とともに十分な実績をあげることができた。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努めた。 来年度以降についても、各機関からの要請に応じ、専門的・技術的な面で支援し、また、文化財等防災ネットワークの形成も強化する予定である。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1520C

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(5) 国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤 栄

【実績・成果】
(4館共通)
1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言は、62件を数えた。

【補足事項】
(4館共通)
1)
・展示や文化財調査、保存修理などに関わる学術的な立場からの援助・助言（35件）
①展示への援助としては、文化庁が主催する28年度の日本古美術海外展のために研究員1名をイタリアへ19日間派遣し展示指導に当たったほか、山形県遊佐町における当館所蔵品の展示のため研究員1名を派遣したこと等があった。
②文化財調査、保存修理などについては、東大寺や仁和寺における文化財調査への参加、唐招提寺・伊豆山神社・知恩院などでの収蔵施設の環境に関する助言などがあった。
③講演等による援助として、奈良県東京事務所が開催した仏像写真ワークショップに講師を派遣するなどした。
・行政への援助・助言は、「東アジア文化都市2016奈良市」実行委員会への出席など（4件）
・公私立博物館等の各種委員への就任は、松伯美術館（奈良市）の理事など（21件）
・その他の依頼事項への対応（2件）

〈挿図〉杉沢土偶里帰り特別展示
(遊佐町防災センター)案内チラシ

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
援助・助言等の件数	62件	－	－		67	71	58	58

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	公私立の博物館等が開催する展覧会への技術的・学術的な指導、および博物館等の運営への助言を実施したほか、博物館以外の文化財所蔵機関への助言も積極的に実施することができた。定量的項目の数値が大幅な増減をしていないので、左の評価とする。今後も公私立博物館等への援助・助言は継続していく。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	公立・私立の別や規模の大小を問わず、国内の数多く機関への援助・助言を実施できている。また28年度は海外からの要請を受けて展示指導に当たることもできた。これは情報交換の推進、人的ネットワーク形成の観点からも評価できるが、今後はさらに件数の増加に努める。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1520D

中項目	1.　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(5) 国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（4館共通）
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
（九州国立博物館）
1)地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。
2)公私立博物館・美術館等職員・ボランティア等のためのＩＰＭ（総合的有害生物管理）に関する専門講座を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　小泉　惠英

【実績・成果】
（4館共通）
1)・公私立博物館等で開催された研究集会及び講演会において指導・助言を行った。(10件)
・文化財の調査にかかる援助、助言（22件）
・文化財の保存修理にかかる援助、助言（13件）
・作品の展示及び運営等についての指導、助言（29件）
・講演会、セミナー等における公演（13件）
（九州国立博物館）
1) 古文書保存基礎講座を開催した。
2) IPMセミナー、IPM研修 及びIPMコーディネータ研修を開催した。
IPMセミナーでは、園田直子氏（国立民族学博物館）から「パリ国際IPMコンファレンス2016」の報告があり、また Tom Strang 氏（カナダ保存研究所）からは、「スミソニアン自然誌博物館における動物標本類の目視調査プログラム」についての講演があった。その他、当館で活動しているボランティア環境部会からの報告など、国内の状況のみならず世界の最新のIPMの動向についての専門講座を開催した。

【補足事項】
1) 古文書保存基礎講座を開催した。
会場：九州国立博物館、筑紫野市歴史博物館
日程：29年1月27日、28日　参加人数：23人
2)
・IPMセミナーを開催した。
会場：九州国立博物館
日程：10月26日　参加人数：約140人
・IPM研修を実施した。
会場：九州国立博物館
日程：10月27日、28日　受講人数：32人
・(公財) 文化財虫菌害研究所と共催で、IPMコーディネータ研修を実施した。
会場：九州国立博物館
日程：12月14日～16日　受講人数：66人

10 月 26 日開催 IPM セミナーの様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
援助・助言等の件数	87件	－	－		109	64	57	67

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	九州地域の中核館としての役割を果たしつつ、当館の特色である文化財修理やIPMの普及啓発事業を計画通りに行った。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画にしたがい、当館研究員の専門性を活かし国内外の博物館等からの要請に応じて指導、助言を行うとともに、研修会を開催するなど、地域の核としての博物館の役割を果たしている。

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

【調査研究の評価軸及び評価指標等】

（１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

①有形文化財（美術工芸品、建造物）及び伝統的建造物群に関する調査研究

評価軸：我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与しているか。	
成果	美術工芸品については、「遊行上人縁起絵」諸本や佐竹永海・永湖・永陵の作品及び黒田清輝宛書簡の翻刻・考察を行い、作品の背景となる時代等について新たな知見を得た。 建造物については、法隆寺古材調査によって、古代建造物の技法に関して新たな知見を得た。 以上のことから、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与することができた。
評価軸：有形文化財の保存修復等に寄与しているか。	
成果	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究において、仁和寺・薬師寺等、未整理のものを含む歴史資料・書跡資料の調査を行って内容を把握するとともに、その保存を図り、活用可能な状態に整理を行い、今後の保存に関する方向性を示すことができた。 若桜町の伝統的建造物群について表記保存対策の調査を行い、重要伝統的建造物群保存地区選定へ寄与した。 以上のことから、有形文化財の保存修復等に寄与することができた。

②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究

評価軸：無形文化財、無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与しているか。	
成果	継承の危機に瀕している無形文化遺産の内、社会的な認知度が低い選定保存技術に関して、『選定保存技術資料集』（日・英2ヵ国語版）を刊行することができた。また、国内の無形文化遺産について、全国的な統括リストが存在しないことを受け、文化庁及び全国地方自治体の協力の下、無形民俗文化財を中心とする網羅的な所在調査を実施し、併せて「無形文化遺産アーカイブス」の開発と公開を行った。 以上のことから、無形文化財、無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与することができた。

③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究

評価軸：記念物の保存・活用に寄与しているか。	
成果	遺跡整備・活用研究集会を「近世城跡の近現代」をテーマとして実施し、近代以降の近世城跡の変容を様々な観点から具体的に取り上げ、それらの歴史的位置付けを明らかにしようと試みた。また、27年度当該研究集会の報告書『デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用』（12月刊行）において、研究集会の発表内容に加え、最新の事例をまとめ、同様の事業を計画している自治体等に情報提供を行うことができた。 以上のことから、記念物の保存・活用に寄与することができた。
評価軸：古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与しているか。	
成果	平城京跡においては東大寺東塔の調査を行い、鎌倉再建期のみならず、天平創建期の基壇外装を良好な状態で確認し、当初の規模や構造を明らかにする重要な成果を得た。 藤原宮跡では大極殿南門全面の発掘調査を行い、大宝元年元日朝賀の際に立てられた7本の幢幡にかかわる遺構を検出した。『続日本紀』に律令国家完成の宣言として記される重要な行事の様相を具体的に復元する手がかりを得たことは極めて重要である。また、7本の幢幡を立てる儀式の成立及び展開過程のみなら

	ず、陰陽五行思想との関連も明らかとなり、今後の国家儀式研究の発展に多大な寄与をする重要な成果である。 また、飛鳥・藤原地区で出土した土器や瓦の胎土分析を進め、それぞれの産地に関する一定の成果を得ることができた。特に瀬田遺跡出土の弥生時代編み籠では、これまで用途不明であった木製品が編み籠の脚部であることが判明するという重要な知見が得られた。 以上のことから、古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与することができた。
評価軸：文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与しているか。	
成果	文化的景観に関する研究集会を開催し、現状に関する情報を集約するとともに、今後の在り方に関して意見を交換した。また、文化的景観学検討会を開催し、文化的景観の概念及び調査・計画手法等の体系化に関する検討を進めた。成果の一部を、四万十市及び岐阜市の文化的景観についてまとめ、『文化的景観スタディーズ第3冊』として公表した。さらに宇治市・金沢市等で実地調査を行い、文化的景観の保護の在り方について検討を深めた。 以上のことから、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与することができた。
評価軸：埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与しているか。	
成果	第20回古代官衙・集落研究集会「郡庁域の空間構成」を開催し、古代国家形成の分析や古代都城研究に資する研究成果を得た。当該研究集会では、郡衙遺跡中枢部の郡庁域に焦点を絞り、官衙の特性や地域の特徴とそれらの事象の歴史的意義付けを論じた。特に廃絶期の廃棄土坑を巡る議論は新たな研究の視点をもたらすものとなり、全国の文化財担当職員等との調査・研究情報の交換を通じて、研究の質的向上に資することができた。 加えて、「第17回シンポジウム　8世紀の瓦づくりⅥ「飛雲文軒瓦の展開」」を開催し、当該時期における中央と地方との関係の在り方を明らかにする研究成果を得た。当該シンポジウムでは、飛雲文の資料について集成を行い、この文様が奈良時代半ばに出現し、平安時代に入ってもなお使用されていること、各地への伝播の仕方が複雑であることが明らかになり、全国の文化財担当職員、大学の研究者等との調査・研究・情報の交換を通じて、今後の古代瓦研究の向上に貢献した。 また、国内外の水中遺跡の保存と活用に関する取組を調査し、モデルケースとして4県（新潟県、滋賀県、福岡県、長崎県）について、周知の遺跡の詳細と現状把握、文献に掲載された沈没船・漂着物等に関する情報とそれぞれの県内の水中文化財保護に対する体制についても情報の収集を実施した。福岡県及び宗像市の協力のもと、遺跡探査技術の理解を深めるため、福岡県沖ノ島周辺にて海底探査を実施した。さらに、地方自治体が主体となって実施した遺跡調査事業（福岡県新宮町及び沖縄県多良間村）において、水中での記録作業や活用方法などの技術協力を行った。保存手法と活用・展示方法の研究として、長崎県松浦市の鷹島海底遺跡・新宮町相島海底遺跡の出土遺物のX線CTスキャンによる調査を実施した。水中で現位置のまま保存された遺跡の活用方法について、海底ミュージアムの先進的な事例として知られるイタリアのバイア海底公園にて現地調査を実施した。中国の南海１号船の引き上げプロジェクトと保存処理の手法について現地の海のシルクロード博物館（広東海上糸絹之路博物館）にて調査を実施した。25年度から実施している諸外国の調査の中から、オーストラリア及びオランダについて保護管理体制やキャパシティービルディングについて再考察を実施した。また、国内の実践的な探査方法や活用について、琵琶湖の湖底遺跡の活用について調査を実施した。結果として、国内外の水中遺跡の探査・保存・活用に関する取り組みを進めることができた。 以上のことから、埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与することができた。

モニタリング指標

		第3期中期期間平均	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
論文等数	九博	1.3	2				
	東文研	14.8	13				
	奈文研	71.4	37				
	計	87.5	52				
報告書等の刊行数	九博	1.0	2				
	東文研	1.4	3				
	奈文研	25.2	16				
	計	27.6	21				

（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

①文化財の調査手法に関する研究開発

評価軸：科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与しているか。	
成果	デジタル画像の形成方法の研究開発について、不規則な平面を有する文化財の画像情報の取得・形成やガラス乾板など古写真の情報の活用を中心に検討し多数の光学調査を行った。また、奈良国立博物館・東京文化財研究所共同研究成果報告《国宝　絹本著色十一面観音像》を12月21日にウェブ公開した。これは、軽快な高精細画像の拡大・縮小に加えて、蛍光X線分析による調査が行われた画面上のポイントと分析データを紐付けして公開できるように加工したもので、さらに撮影に用いた光源から任意の2種による画像を表示して同時に拡大・縮小できるようにするなど、紙媒体にはないウェブ公開の特徴を最大に生かしたものにすることができた。 埋蔵文化財の計測方法に関する実例研究を進め、瓦をはじめとする三次元計測方法の普及と技術移転に取り組んだ。 年輪年代学研究では薬師寺東塔で解体された部材に関する年輪年代学的計測を行い、729年・730年の年代を得ることができ、東塔の建立年代に貴重なデータを提供した。 以上のことから、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与することができた。

②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究

評価軸：科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の質的向上に寄与しているか。	
成果	歴史的建造物の温風殺虫処置に向けた研究に着手し、処理効果判定のための害虫生息調査において、飛翔性昆虫を衝突させて捕獲するフライト・インターセプション・トラップを新たに適用して成果を得た。 セロファンテープ等の粘着テープを有機溶媒によって除去する方法や緑青焼けを起こしている作品の修復方法に応用できる成果を得た。 キトラ古墳壁画の彩色に関する科学的分析を行い、壁画表面のクリーニング方法、特に以前に使用された修理材料のある中での汚れの除去方法に焦点を当てて、漆喰の強度を保ちつつクリーニングを行う方法に関する検討を行った。これは日本では従来行われていない修復方法であり、得られた成果を修復現場に還元できた。 高松塚古墳とキトラ古墳の壁画調査・修復及び保存・公開に技術的な協力を行い、それぞれの保存・修復・公開に寄与した。加えて、古墳壁画の新しい分析手法として携帯型X線回折装置の開発・改良及び漆喰試料を用いた試用実験、模擬石室の環境モニタリングを実施し、恒久的保存に向けた問題に取り組み、新し

	い方向性を示すことができた。 以上のことから、科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の質的向上に寄与することができた。

モニタリング指標

		第3期中期期間平均	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
論文等数	東文研	16.4	18				
	奈文研	26.2	34				
	計	42.6	52				
報告書等の刊行数	東文研	5.0	5				
	奈文研	2.6	1				
	計	7.6	6				

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111E-ア

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-ア	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 ア　国内外の文化財に関する様々な情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、研究会を開催して他機関との連携を図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。
プロジェクト名称	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○津田徹英（文化財アーカイブズ研究室長）、皿井舞（主任研究員）、橘川英規（研究員）	

【年度実績と成果】

○調査研究の成果データの国際標準化に向けての調整・準備

・アート・ドキュメンテーション学会美術館図書室 SIG（Special Interest Group）と当研究所との共催で研究会「アート・アーカイブの今」を開催した（5 月 14 日、於セミナー室）。

・当研究所刊行の論文を Japanese Institutional Repositories Online（JAIRO）へ搭載することを実現し、結果、国立国会図書館の NDL サーチ、国立情報学研究書の CiNii Article でも論文のフルテキストで参照できることとなった。

・これまで蓄積してきた文化財関連文献情報のデータ群の世界発信に向けて欧米で広く使われる学術情報データベース「OCLC」へ提供するべく協議を重ねた。

○美術資料のデータ化と蓄積

・奈良国立博物館・東京文化財研究所編『国宝 絹本著色 十一面観音像』（18 年 3 月刊）に基づいてデジタルコンテンツ化し、Web 上での公開を行った。

○国内外の関連機関との研究協議

・国立西洋美術館との「文化財情報の海外発信にかかわる基盤形成事業実施にかかわる覚書」を締結した（6 月 27 日）。

・JAL プロジェクトの一環として日本に招聘された海外日本美術史料専門家（司書）との意見交換会を行った（11 月 30 日）

・アメリカ・ゲッティ研究所への図書及び文献情報の提供に向けての協議を重ね、現地で 28 年度の確認協議を行った（29 年 3 月 19～24 日）。

・イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と日本美術及び同研究所に関する英語文献・記事情報の採録に関する運用面での協議を現地で行った（29 年 2 月 13～18 日）。

図　セインズベリー日本藝術研究所での調査風景

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、公的機関として当研究所の研究・活動成果について国内はもとより海外からも Web を通じて得やすくなることをめざし、ゲッティ研究所との協議を重ねて文献に関しては書誌情報の国際標準化を進めた。②独創性においては、当研究所でこれまで蓄積された研究成果の発信に際し、メタデータに加え分析データ等を紐付けして公開を行った点に高い独創性を示し得た。③発展性においては、当研究所の研究成果の公表にあたり、情報の国際標準化への筋道がついたことで、逐次、研究成果の公表が国内に留まらず海外に及んで見込めることとなったことは大きな成果である。④効率性においては、当研究所の研究成果を、国内はもとより海外からもアクセスしやすくなったことにより、利用者の情報取得・収集についての効率性が一段と高まった。⑤継続性においては、開所以来の蓄積・実績に立脚しつつ、文化財情報の外部発信を積極的に行える環境を整えた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）学会・研究発表　1 件（①）	定量評価 －

・調査・研究の公表環境の整備（JAIRO への搭載、OCLC への文化財情報の提供）29 年 1 月

・美術資料のデータ公開（『国宝 絹本著色 十一面観音像』のデジタルコンテンツ化と公開）12 月

・①橘川英規「東京文化財研究所における文化財に関する専門的アーカイブの拡充－『日本美術年鑑』のコンテンツを国際的学術基盤へ－」EAJRS（日本資料専門家欧州協会）、ルーマニア・ブカレスト大学、9 月 15 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	今中期計画に基づいて、当研究所の文化財に関する調査・研究の成果・データを国際標準に沿う形に整えることへの道筋がつき、そのことで国内に留まらず海外から Web 上で情報に接し得る環境へと改善が進むこととなった。29 年度以降は、その運用評価と改善を進めることで当研究所の活動・成果が海外へより効果的に発信できることが見込まれるだけでなく、海外からも情報を Web 上で得られる機会が増大することが期待できるであろう。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111E-イ

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1) -イ	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 イ　近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究を行い、研究の基盤となる資料の整備を行う。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。
プロジェクト名称	日本東洋美術史の資料学的研究	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○小林達朗（日本東洋美術史研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、安永拓世（研究員）	

【年度実績と成果】

○基礎研究調査
・逸翁美術館蔵「白梅図屏風」について調査を行った。
・29 年 2 月 23 日に東京国立博物館蔵准胝観音像の調査を実施した。

○研究基盤となる資料整備
・美術史研究のためのコンテンツ（日本美術史年紀資料集成）を作成するため平成 11 年以降の展覧会図録から年紀のある作品の資料を順次収集し、ファイルメーカーを使用して入力を行った。
・『記事珠』公開に向けてのパイロット版を作成するため、解読、註の作成を第 2 巻以降について行った。

年紀資料集成の公開状況

○研究交流の推進
本プロジェクトにかかる研究会を 2 回行った。
・西木政統（東京国立博物館）　「滋賀・鶏足寺七仏薬師如来像の造像をめぐる一考察」(5 月)
・「遊行寺上人縁起絵の諸相」(29 年 3 月)
津田徹英：「詞書の筆跡からみた遊行上人縁起絵―伝世諸本の位相―」、井並林太郎（京都国立博物館）「遊行上人縁起絵諸本の絵相について」、遠山元浩（遊行寺宝物館）「遊行上人縁起絵に描かれた真教と情景の一考察」、本多康子（渥美国際交流財団）「金蓮寺本 遊行上人縁起絵について」、梅沢　恵（神奈川県立金沢文庫）「一遍聖絵と遊行上人縁起絵における図様の共有」

年度計画評価	B

【評定理由】
下記各観点から評価を行った。①適時性においては、『記事珠』については、外部の専門家も交え協議会を行い、今後の進め方について目途をつけることができた。②独創性においては、逸翁美術館蔵「白梅図屏風」については従来の見解と異なり、素地が絹本ではなさそうであるという新たな見解を得ることができた。③発展性においては、東京国立博物館と共同で実施してきた仏教絵画の共同研究を仏教美術全般に広げ、高精細画像の取得から光学調査全般を実施する体制に変更した点は、大きな成果である。④継続性においては、年紀資料集成については、792 件をホームページ上のデータベースで公開することができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	A	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（参考値）論文等 2 件（①・②）、研究発表 1 件（③） 研究会 2 回、年紀資料集成件数　792 件	－

①江村知子「光琳の「道崇」印作品について―尾形光琳の江戸滞在と画風転換」、『美術研究』421 号、29 年 3 月
②安永拓世「展覧会評　我が名は鶴亭」、『美術研究』421 号、29 年 3 月
③津田徹英「詞書の筆跡からみた遊行上人縁起絵―伝世諸本の位相―」、文化財情報資料部研究会「遊行上人縁起絵の諸相」、29 年 3 月 28 日

中期計画評価	B
中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	年紀資料の作成、『記事珠』パイロット版の拡張、文化財調査、研究会の開催を今中期計画期間 5 年間の目標とし、28 年度はこれらについて順調に対応することができた。29 年度以降は仏教美術の光学調査の共同研究を東京国立博物館とともに行い、より一層の研究の深化と成果公開を進める。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111E-ウ

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-ウ	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 ウ　近現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向付けに大きく関わった欧米等の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者および美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。その事業のひとつとして日本美術家人名データベースの作成を進める。
プロジェクト名称	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、橘川英規（研究員）、田所泰（アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○当研究所が所蔵する黒田清輝宛書簡について、部内研究会を 3 回開き（五姓田義松書簡：4 月 21 日、黒田貞子書簡： 8 月 30 日、山本芳翠書簡： 12 月 8 日）、また岡田三郎助からの書簡の翻刻を『美術研究』420 号に掲載した。

○谷文晁の画風を近代に伝えた佐竹永海・永湖・永陵についての作品調査を都内で行ない（8 月 4 日）、松戸市戸定歴史館で開催された「松戸神社神楽殿の絵画と修復展」（29 年 1 月 21 日～3 月 5 日）の図録と講演会（29 年 2 月 5 日）でその成果を公表した。

○大正期の女流美人画家、栗原玉葉に関する部内研究会を 2 回開き（6 月 28 日、29 年 1 月 12 日）、その詳細な評伝を『美術研究』420 号に掲載。また玉葉の代表作である《朝妻桜》（大正 7 年作）について、美術史学会東支部例会で研究発表を行なった（29 年 1 月 28 日）。

○コンセプチュアルな作品とパフォーマンスで知られる現代美術家の松澤宥に関する資料調査を、活動の拠点であった下諏訪で行ない（10 月 15～16 日）、そのアーカイブ構築に向けて研究協議会を開催した（29 年 3 月 14 日）。

黒田清輝宛書簡の一例

○黒田清輝と親交が深く、制作と並行して美術雑誌等で西洋美術の紹介に努めた画家、久米桂一郎の関連資料について共同研究を実施すべく久米美術館と覚書を交わし、資料のデジタル化に着手した。またフランス近代美術を専門とする齋藤達也氏（パリ・ソルボンヌ大学在籍）と交渉し、日本近代におけるフランス美術受容研究のための準備を行なった。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行なった。①適時性においては、松澤宥のような没して間もない作家の、散逸の恐れがある資料のアーカイブ構築を目指した点が極めて高く評価される。②独創性においては、大正期に人気を博したものの、その後長らく忘れられていた栗原玉葉の画業について基礎研究を行なった点が高く評価される。③発展性においては、久米美術館との共同研究により、黒田清輝と久米桂一郎の資料を複合的に提示するデジタルアーカイブへの道を拓いた点が高く評価される。④効率性においては、明治から現代に至る広範な領域を各プロジェクトスタッフが分担して進めた点が高く評価される。⑤継続性においては、平成 25 年度以来続けている黒田清輝宛書簡の翻刻を 28 年度も精力的に進めた点が評価される。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）論文等　2 件（①・②） 学会・研究発表　1 件（③）	定量評価 －

①田所泰「栗原玉葉に関する基礎研究―その生涯と作品について」（『美術研究』420 号、12 月）
②塩谷純「佐竹永湖―文晁派の伝道者として」（『明治 21 年の佐竹永湖とその周辺　松戸神社神楽殿の絵画と修復展』図録、29 年 1 月）
③田所泰「栗原玉葉の《朝妻桜》に関する考察」（美術史学会東支部例会、29 年 1 月 28 日）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	中期計画期間の初年度ということで、久米美術館との共同研究等、スタートを切ったばかりのものもあるが、その一方で黒田清輝宛書簡の翻刻のような、前中期計画を引き継いだ研究については相当の進捗がみられた。また佐竹一派や栗原玉葉のような、これまで等閑に付されていた作家について、論文の形で成果をまとめることができた。29 年度には、久米美術館との共同研究、及び西洋美術研究者との交流を進め、欧米の動向を視野に入れた日本近現代美術研究の一層の進展を図りたい。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2111E-エ

中期計画の項目	2-(1)-①-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-1)-エ	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1)我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 エ　美術作品を中心とする有形文化財についてのより深い理解を得ることを目的として、その表現・技術・材料を対象として自然科学や伝統技術、また歴史学や国文学などの隣接諸分野と連携した多角的調査研究を実施するとともに、新たな研究手法の開発・普及に取り組む。
プロジェクト名称	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○小林公治（広領域研究室長）、佐野千絵（文化財情報資料部長）、二神葉子（文化財情報研究室長）	

【年度実績と成果】

○漆器類に関わる研究

・5 月 10～11 日に大分県津久見市、県立歴史博物館、大分市歴史資料館所蔵南蛮漆器の調査及び意見交換を実施した。

・南蛮文化館と共同研究の覚書を取り交わし所蔵品の調査研究を行うとともに、同館所蔵品の修復について指導助言を行った。

・5 月 19 日、東慶寺蔵南蛮漆器聖餅箱を東京国立博物館撮影 CT 画像による樹種及び年輪年代の検討作業を実施した。

・29 年 3 月 4～5 日に当研究所にて公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」を開催した（発表者　国内 9 名・海外 2 名）。江戸時代初期を中心とした南蛮漆器の持つ多源的性格の検討、桃山時代ポルトガル人による工芸関連史料検討、同時代の琉球漆工史、南蛮漆器の炭素年代測定結果、南蛮漆器使用漆の有機化学分析結果、東アジア産南蛮漆器漆のストロンチウム同位体分析、南蛮漆器使用木材の樹種同定、螺鈿に使われた貝種分析、桃山時代の「鮫皮」利用史、装飾金具編年の検討、南蛮漆器類似のポルトガル・アジア様式調度の歴史と素材・技術分析などで、人文学から自然科学までの多岐にわたる未知の分析結果多数が報告・討議された。参加者は、4、5 日それぞれ、海外からの渡航参加者 13 名、12 名、国内参加者 86 名、74 名（登壇者含まず）であった。研究会に対する評価をアンケートで得たところ、「とても良かった」62.5%、「良かった」29.2%、と、9 割以上の高評価を得た。

公開研究会での討論の様子

○研究成果公開

・当研究所が所蔵するガラス乾板のデジタル化データに、文字情報を補訂の上、ウェブへのアップ作業を継続的に実施した。

・6 月 11 日の宝石学会、同月 26 日の文化財保存修復学会で、真珠科学研究所との共同研究の中間報告を口頭発表した。

・29 年 2 月 24 日、部内研究会にて甲賀市水口藤栄神社蔵十字形洋剣の調査研究結果について成果発表を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、日本を代表する漆器類について国内外からの期待に応えて総合調査を実施し、時宜に適う進展ができた。②独創性においては、人文学から自然科学までの様々な分野の専門家の協力を得て広範囲かつ深い調査研究を行えた。③発展性においては、これまで所内外の共同研究者と実施してきた南蛮漆器に対する美術史、文献史学、自然科学的手法による調査・研究結果を、公開研究会において統合的に検討し、南蛮漆器の制作材料・技法、また産地や流通について多角的な情報を提示できた。④効率性においては、所内外の研究者と協力して同一資料を含む調査対象に対して共同で総合的な調査を実施し、その研究結果をすみやかに報告・公開できた。⑤継続性においては、これまで継続的に実施してきた内容を受けて、より広範な研究対象に対してさまざまな手法で調査研究を進めた。よって全体として、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** 論文 1 件（①）、学会・研究発表 4 件（②） 公開研究会 1 回、予稿集刊行 1 点（③）	定量評価 －

①小林公治「南蛮漆器の多源性を探る　問題点の把握と提起」『公開研究会　南蛮漆器の多源性を探る　予稿集』

②小林公治「慶長期後半から寛永期前半にかけて流行した漆器文様・技法―絵画資料と伝世漆器との対話」文化財情報資料部研究会　10 月 25 日　ほか

③『公開研究会南蛮漆器の多源性を探る 予稿集』東京文化財研究所、29 年 3 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国において古代から近現代までに制作された絵画・彫刻等を中心とする有形文化財、及びそれらに関連する国内外の文化財について、その文化財の制作背景等とその後の評価の変遷、今日に至るまでの保護等に関する調査研究、文献・画像資料及び文化財情報に関する調査研究とそれらの収集・整理を行い、調査研究成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	28 年度は漆器類に関する総合的な調査・研究を実施し、新知見を得て、多数の参加者を得た研究会の開催など、予想以上の成果を得ることができた。29 年度以降は、人文学・自然科学・社会科学的手法を更に連携させ、漆器類に加え金属工芸品等も視野に入れた調査研究の発展につなげたい。

【書式C】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　2112F

中期計画の項目	2-(1)-①-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-2)	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 2)建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究法隆寺古材調査を中心とする古代建築の調査研究を推進する。また、近世・近代を中心とした我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に関する基礎データの収集、未指定建造物の調査、歴史的建造物の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、纏まったものより順次公表を行う。伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査研究を推進し、保存を行っている各自治体等への協力を行う。
プロジェクト名称	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○林良彦（建造物研究室長）、箱崎和久（都城発掘調査部遺構研究室長）、西山和宏（都城発掘調査部主任研究員）ほか5名	

【年度実績と成果】

・法隆寺古材調査のとりまとめ
従来より行ってきた古代建築の技法に関する再検証「法隆寺古材調査」について、報告書にまとめるべく図面の作成と執筆作業に入った。

・若桜町伝統的建造物群保存対策調査の実施、とりまとめ
国の重要伝統的建造物群保存地区選定を目指している鳥取県若桜町若桜地区において、27 年度から行っている表記保存対策調査を継続実施、報告書を刊行した。

・出雲市市内神社建造物調査の実施
28 年度に出雲市内の神社本殿の悉皆調査を行い、大社造を源流とする他地方とは異なる様相を呈する神社の形式を明らかにした。報告書は 29 年度刊行予定。

若桜町伝統的建造物群保存対策調査風景

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、地方の魅力の顕在化が叫ばれている今日に於いて地域の文化財調査を通じて貢献した。②独創性においては、建造物及び伝統的建造物群調査の分野で調査後、指定文化財となる割合において当研究所の行った調査は他の追従を許さない。③発展性においては、現在行っている文化財建造物調査によって将来多くの文化財建造物や伝統的建造物群保存地区が指定選定されることが期待できる。④効率性においては、限られた人員の中で充分に成果を出している。以上によって、各項目ともB（順調）と判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** (参考値) ・論文等数　2 件（①） ・研究発表等数　4 件（②） ・報告書等の刊行数　1 冊（③） ・調査回数等　出雲 5 回、若桜 3 回	定量評価 ―

①鈴木智大「江戸時代中期における北口本宮冨士浅間神社社殿の中興と造営組織」『奈良文化財研究所紀要 2016』6 月ほか 1 件
②林良彦「修理と修景の実務」全国伝統的建造物群保存地区協議会東北ブロック会議記念講演　10 月 27 日　ほか 3 件
③「若桜町若桜一伝統的建造物群保存対策調査報告書一」若桜町発行／奈良文化財研究所編　29 年 3 月刊行

中期計画評価	B

中期計画記載事項	建造物に関しては、古代建築の保存に資するため、法隆寺古材調査を中心とする古代建築調査を行って古代建築及びその修理過程等を明らかにする。また、近世・近代の建造物等の調査研究を行い、成果を公開する。伝統的建造物群については、その保存と活用に資するため、重要伝統的建造物群保存地区を目指している地区の調査を行い、成果を公開するとともに、各地の歴史的建造物の保存に協力する。
評定理由及び今後の見通し	古代建築の技法に関する研究は、中期計画に対し順調に進捗している。当研究所が蓄積した過去の研究成果を元にした当研究所ならではの研究である。法隆寺古材調査は膨大な作業量があるが地道に研究成果をまとめて公表して行く。受託各事業は自治体や所有者の求めに応じて行っているが、いずれも文化財建造物や伝統的建造物群の保存に大きく資するものである。29 年度以降は、これについても力を注ぎたい。

【書式C】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　2113F

中期計画の項目	2-(1)-①-3)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-①-3)	①　有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 3)歴史資料・書跡資料に関する調査研究　仁和寺等、近畿を中心とする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関する原本調査、記録作成を悉皆的に実施するとともに、公表に向けて整理を行う。
プロジェクト名称	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○吉川　聡（歴史研究室長）	

【年度実績と成果】

・仁和寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、御経蔵聖教第 74 函～第 81 函の調書原本校正・写真撮影を実施した。また、調査内容をとりまとめ、報告書として刊行した。
・薬師寺所蔵の歴史資料の調査を実施し、第 8 函～第 10 函の調書原本校正、第 26 函の写真撮影を実施した。また薬師寺僧の官位に関する研究論文を公表した。
・唐招提寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、宝蔵の聖教の第 10 函～第 12 函の整理作業と、第 5 函の写真撮影を行った。
・興福寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、井坊家記録仮 2 括～仮 6 括の調書を作成し、二条家記録第 1 函～第 7 函の写真撮影を実施した。
・東大寺所蔵の歴史資料の調査を、科学研究費補助金も充当して実施し、新修東大寺文書聖教第 85 函の調査データ入力、第 56 函・第 76 函の写真撮影を実施した。
・三仏寺所蔵の歴史資料の調査を実施し、奉納経等の整理検討・写真撮影を行った。
・法華寺所蔵の歴史資料の調査を実施し、近世の日記の調書作成・写真撮影を実施した。
・興福寺関係の個人所蔵資料について、科学研究費補助金も充当して調査を実施した。
・奈良県からの依頼により、生駒市長福寺所蔵の文字資料を調査した。鎌倉時代の大型木札等があり、その成果を第 38 回木簡学会研究集会にて報告した。
・調査協力の依頼を受けて、文化庁依頼の仁和寺聖教調査に協力した。

興福寺調査風景

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、重要諸寺社等が所蔵する未整理の歴史資料・書跡資料の内容を把握し、保存をはかり、活用可能な状態に整理することは、適時性が高い。②独創性においては、長福寺所蔵の木札は、難読資料を赤外線斜光写真等を用いて釈読しており、独創性がある。③発展性については、仁和寺の報告書は、仁和寺御室に集積され御流聖教として重視された聖教群の目録であり、今回、平安末期の仁和寺御室として著名な守覚が編纂した密要鈔の全貌が明確となった。また薬師寺の寺僧の官位昇進状況を明確にしたことは、前近代の寺僧の階層性を考察する上で、発展性がある。④効率性については、資料の状況・緊急性等に合わせて、調査方法を変えており、効率的に調査を行った。⑤継続性については、膨大な資料を長年にわたり中断なく調査し、全容解明に努めており、継続性に優れている。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(参考値) ・論文等数：1（②）　・研究発表等数：1（③）　・報告書等の刊行数：1（①） ・調査資料点数：仁和寺：写真撮影 356 点　薬師寺：写真撮影 152 点　唐招提寺：写真撮影 45 点　興福寺：調書作成 64 点・写真撮影 272 点　東大寺：調査データ入力 607 点・写真撮影 339 点　三仏寺：調書作成 27 点・写真撮影 142 点　法華寺：調書作成 121 点・写真撮影 120 点　個人蔵資料：調査データ入力 778 点・写真撮影資料 142 点　長福寺：調査・写真撮影 72 点	―

①『仁和寺史料　目録編〔稿〕三　仁和寺御経蔵聖教目録稿三　第五十一函～第七十六函』
②吉川聡「薬師寺僧の官位とその補任の様相」『奈良文化財研究所紀要 2016』（奈良文化財研究所編、6 月）
③吉川聡「生駒長福寺の本堂と木札の調査―木札編―」木簡学会第 38 回研究集会、12 月 3 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	我が国の歴史、文化の解明及び理解の促進等を図るため、薬師寺・仁和寺等の近畿地方を中心とした寺社の歴史資料・書跡資料等に関する調査研究を行う。
評定理由及び今後の見通し	古寺社に伝来した資料を近畿を中心に調査し、その成果を目録等の形で公表することを目指している。中期計画初年度の 28 年度は、各寺社について調査を実施できた。そして仁和寺御経蔵第 51 函～第 76 函の目録を公表することができた。また、薬師寺資料からは薬師寺僧の官位昇進過程を明らかにした。まずは順調に調査し成果を挙げられたといえる。29 年度以降は、短期的な成果のみならず、基礎となる調査を着実に積み重ねる必要がある。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2121E

中期計画の項目	2-(1)-②-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-②-1)	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 1)重要無形文化財の保存・活用に関する調査研究等 無形文化財等の伝承実態に関する基礎的な調査研究及び資料の収集を行うとともに、現状記録を要する対象を精査し、記録作成を実施する。 調査研究等に基づく成果の一部については、一般向けの公開講座などを通して公表する。 また、これまでに研究所で収集・保管してきた記録・資料の整理を行い、必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。
プロジェクト名称	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	
無形文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○飯島満（部長）、前原恵美（主任研究員）、菊池理予(研究員）ほか	

【年度実績と成果】

○無形文化財（芸能分野）に関する調査研究
・芸能分野：人形浄瑠璃文楽に関する調査研究（成果の一部は「七代目豊沢広助『義太夫　節と手順』」等で報告）
・工芸分野：染織材料に関する調査研究（成果の一部は本年度の公開学術講座等で公表）
○現状記録を要する無形文化遺産の記録作成
・講談：連続口演の機会が激減している講談の実演記録を作成（一龍斎貞水師 8 席・神田松鯉師 6 席）
・落語：伝承が危ぶまれている正本芝居噺の実演記録を作成（林家正雀師 2 席）

無形文化遺産部公開学術講座の様子

○研究調査に基づく成果の公表
・第 11 回無形文化遺産部公開学術講座「麻のきもの　絹のきもの」（共催・文化学園服飾博物館）の開催（29 年 1 月 18 日）
・無形文化遺産の伝承に関する研究会「現在に伝わる明治の超絶技巧」（共催・泉屋博古館）の開催（10 月 17 日～18 日）
○無形文化遺産に関わるアナログ資料のデジタル化
・音声資料：オープンリールテープに関しては、民謡テープ（約 80 時間）についてデジタル化を実施
・画像資料：梅村豊撮影歌舞伎舞台写真に関しては、白黒ネガ（昭和 54 年から昭和 63 年に撮影）のフォルダリストを公開
・映像資料：再生不能の事態が危惧される Hi8（ハイエイト）の媒体変換を実施（ＤＶＤ19 枚を作成）

年度計画評価	A

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性及び④効率性においては、無形文化遺産の伝承に関する研究会「現在に伝わる明治の超絶技巧」は、有田焼創業 400 年を記念した泉屋博古館主催の展覧会『明治有田　超絶の美』の関連事業として実施したものであり、研究会翌日に上記展覧会の見学会をエクスカーションとして設定できたことは、それぞれ極めて適時性と効率性に適うものであると考える。②独創性及び⑤継続性においては、当研究所による講談の記録作成は平成 14 年度に溯るが、口演機会の激減している長編語り物の記録作成を、これほど継続的に実施しているのは当研究所のみであり、独創性・継続性ともに極めて高く評価できる。③発展性においては、染織素材の麻と絹は、多くの伝統的産業と同様、生産者側の技術伝承も危機的な状況におかれているが、その現状を公開学術講座で様々な角度から具体的に検証できたことは、無形文化遺産を取り巻く厳しい伝承実態ついて、広く一般の認知度を高めるきっかけになったものと評価できる。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）論文等発表 2 件（①）／学会・研究発表 3 件（②）	定量評価 －

①飯島満「七代目豊沢広助『義太夫　節と手順』」、『無形文化遺産家級報告』第 11 号、29 年 3 月 31 日
②菊池理予「文化財保護における　麻のきもの・絹のきもの」、第 11 回無形文化遺産部公開学術講座、29 年 1 月 18 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	重要無形文化財を中心とする古典芸能・伝統工芸技術及びそれらに関わる文化財保存技術について、調査研究・情報収集・記録作成に努め、その保存伝承に資する成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	中期計画通り順調に事業を実施できている。染織技術については、原材料等により着目した調査研究を予定どおり着実に実績をあげることができたと考える。実演記録作成については、実演者からの信頼が得られているので、本中期計画中も継続的な実施が期待できる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2122E

中期計画の項目	2-(1)-②-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-②-2)	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 2)重要無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究等 我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等、無形の民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。 さらに、無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し、その情報の整理・公開に努める。
プロジェクト名称	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	
無形文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○飯島満（部長）、久保田裕道（無形民俗文化財研究室長）、石村智（音声映像記録研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

○無形民俗文化財に関する調査研究
・風俗慣習調査：樹木祭祀・正月儀礼等の調査研究（福井県おおい町ニソの杜の習俗ほか3道県の事例で実施）
・民俗芸能調査：民俗芸能の分類に関わる調査研究（北海道豊頃町二宮獅子神楽ほか6県の事例で実施）
・民俗技術調査：民具製作・和船製作・食に関わる技術等の調査研究（和船製作については成果の一部を「Japanese Shipbuilding Skills and Traditions」で報告）
○選定保存技術に関する調査研究
・当研究所と滋賀県草津市との研究協定に基づいた、青花紙（未指定）に関する草津市との調査研究・情報共有
・『選定保存技術資料集』（日・英2ヵ国語版）の刊行
○無形文化遺産アーカイブスの開発と公開
・被災地における無形文化遺産調査：東日本大震災被災地の無形文化遺産に関する調査・記録保存・活用に拘わる研究
・無形文化遺産アーカイブスの構築：無形文化遺産アーカイブスの開発と公開。映像・画像等の収集とデジタル化
○研究集会の開催
・無形民俗文化財研究協議会：第11回協議会を「無形文化遺産と防災」（12月9日）をテーマに開催。成果は報告書として刊行。

青花紙原料のアオバナ収穫の様子

年度計画評価	A

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性においては、東日本大震災被災地域及び将来的な災害を想定した地域における無形文化遺産の調査・研究は、社会的ニーズが高い課題として注目されており極めて適時性が高い。また伝承地域の過疎化や少子高齢化により継承の危機に晒されている無形民俗文化財・選定保存技術の調査も同様に社会的ニーズが高い。②独創性については、無形民俗文化財の研究部としては国内唯一の存在であり、全国の関係者とのネットワーク構築を促進させていることは、無形民俗文化財の保護体制の整備・強化に貢献するものとして、その独創性を十分に評価できる。③発展性については、調査・研究の成果を協議会及び下記の刊行物等によって積極的に情報発信できたことに加え、あまり研究対象とされることがなかった青花紙の本格的調査を実施することによって、伝承地である草津市側がその保護施策により積極的な姿勢を取ることになったことなどは、高く評価できると考える。④効率性については、無形民俗文化財に関する専門家（芸能・工芸）をスタッフに擁し、効率的に調査研究を実施できた。⑤継続性については、無形文化遺産アーカイブスの開発と公開、映像・画像等の収集とデジタル化を引き続き継続的に実施している。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）　論文等発表5件（①）／学会・研究発表3件（②）／刊行物1件（③）	定量評価 －

①今石みぎわ「Japanese Shipbuilding Skills and Traditions」、『ICH Courier 29』、11月1日
②久保田裕道「無形文化遺産時代の神楽」、儀礼文化学会、11月13日
③『選定保存技術資料集』、東京文化財研究所、29年3月31日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	無形民俗文化財においては、全国の民俗芸能・風俗慣習・民俗技術の情報を収集記録し、その保存及び活用に貢献しうる研究成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	当該年度計画を達成したため、中期計画としても順調と判定した。前中期計画において重点的に行ってきた東日本大震災の被災地域における無形民俗文化財の調査・研究を継続しつつも発展させ、無形文化遺産の防災に繋げるとともに、継承が困難になりつつある全国の無形文化遺産の保護・活用にも貢献することを目指す。

【書式C】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 2123E

中期計画の項目	2-(1)-②-3)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-②-3)	②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 3)無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等 日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員の交流や無形文化遺産関連調査を行うなど、無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。
プロジェクト名称	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	
無形文化遺産部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○飯島満（部長）、石村智（音声映像記録研究室長）、二神葉子（文化財情報資料部文化財情報研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

○韓国文化財庁国立無形遺産院との研究交流

8月29日～31日に6名のスタッフで韓国文化財庁国立無形遺産院を訪問し、「韓日無形遺産研究交流成果発表会」に参加し、2名のスタッフが研究報告を行い、また総合討論にはスタッフ全員が参加して、韓国国立無形遺産院のスタッフ及び韓国の無形文化遺産の専門家と研究交流を行った。また10月31日付けで韓国国立無形遺産院との研究交流に関する新たな合意書を取り交わし、今後6ヵ年にわたり研究交流を継続することが確認された。さらに29年3月31日に、これまでの研究交流の成果に基づいた報告書『日韓無形文化遺産研究Ⅱ』を刊行した。

「韓日無形遺産研究交流成果発表会」の様子

○無形文化遺産の国際的な動向に関する調査研究

ユネスコ無形文化遺産条約第11回政府間委員会（開催国エチオピア： 11月28日～12月2日）に参加し、ユネスコ無形文化遺産条約に関する情報収集を行う予定であったが、現地の治安悪化のため外務省の要請を受け渡航を自粛した。そのためウェブキャストにより会議を傍聴したが、通信環境の問題もあり会議の内容を理解するには一定の限界があったものの、必要最低限の情報収集を行うことができた。その成果は『無形文化遺産研究報告』第11号において「無形文化遺産の保護に関する第11回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」として報告した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、現在、無形文化遺産に係る保護政策を国内的にも国際的にも促進している韓国の現状を把握する上で韓国国立無形遺産院との研究交流は時宜に適ったものであると言える。②独創性については、無形文化遺産に関する韓国の政府機関と直接の研究交流を行っているのは日本では東文研のみであり、他に代え難い事業を実施することができた。③発展性については、28年度に取り交わした韓国国立無形遺産院との研究交流に関する合意書は、これまでより研究交流のあり方を広げたものとなっており、より多様な形態での研究交流を発展させることができると考える。④効率性については、28年度はユネスコ無形文化遺産委員会に止むを得ず参加できなかったため、情報収集には相当の苦労を要したが、スタッフの努力によってそれを補うことができたため、一定の効率性は担保できたと考える。⑤継続性については、韓国国立無形遺産院との研究交流は新たな合意書の締結により今後6ヵ年にわたって継続することになったこと、またユネスコ無形文化遺産委員会については参加できなかったもののウェブキャストにより傍聴することで一定の情報を収集できたことから、高い継続性を確保できたと考える。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値）論文等発表1件（①）／刊行物1件（②）	定量評価 －

①二神葉子「無形文化遺産の保護に関する第11回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」、『無形文化遺産研究報告』第11号、29年3月31日
②東京文化財研究所・国立無形文化遺産院編『日韓無形文化遺産研究Ⅱ』、東京文化財研究所、29年3月31日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	無形文化財、無形民俗文化財等に関する課題に取り組み、その伝承・公開に係る基盤の形成に寄与する。
評定理由及び今後の見通し	韓国国立無形遺産院との研究交流は順調であり、新たに合意書を取り交わすことでより発展していくことが期待されることから、当初の計画通りに実施している。ユネスコ無形文化遺産条約政府間委員会における情報収集については、28年度は現地での参加はできなかったものの、ウェブキャストの傍聴などにより最低限の情報は補うことができたことから、今後も継続的に実施していくことで、中期計画の目標を十分達成していけると考える。

【書式C】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　2131F-ア

中期計画の項目	2-(1)-③-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-1)-ア	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1) 史跡・名勝の保存・活用に関する調査研究 我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。 ア　遺跡等の整備に関連する国際的な動向も踏まえた資料の収集・調査・整理等を行う。また、史跡・名勝の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行う。
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○内田和伸（遺跡整備研究室長）、高橋知奈津（遺跡整備研究室研究員）、マレス・エマニュエル（遺跡整備研究室アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

・27 年度の遺跡整備・活用研究集会の報告書『デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用』の刊行　12 月
　報告書の前半は研究会での発表内容であるが、後半は最新の事例集とした。

・28 年度の遺跡整備・活用研究集会の開催　12 月

「近世城跡の近現代」をテーマとし、近代以降の近世城跡の変容のうち、サクラの植栽、旧藩主を祀る神社の創建、城跡公園の成立、模擬天守の設置、近代施設や近代庭園の立地などを具体的に取り上げ、それらの歴史的位置づけをどのように認識すべきかについて報告した。報告内容と報告者（所属）は次の通り。

“郷土愛”と城跡の近代　－藩祖と桜を中心に－	高木博志（京都大学）
近世城跡の神社と顕彰碑	羽賀祥二（名古屋大学）
城址の公園化と風致、模擬天守閣と景観	野中勝利（筑波大学）
近世城跡の近現代遺構－建築・公園・庭園－	内田和伸（奈良文化財研究所）

刊行した遺跡整備・活用研究集会の報告書『デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用』

上記報告の後、報告者に丸山宏（名城大学）、森山英一（城郭研究家）を交えて総合討議を行った。この研究集会の内容に関するアンケートではほとんどが「有意義であった」「大変有意義であった」としており、近世城跡の近現代遺構をすべて否定的に捉えるのではなく、重層的に捉えるべきということで共通理解が得られた。

年度計画評価	A

【評定理由】

27 年度研究集会の報告書と 28 年度の研究集会の内容について下記各観点から評価を行った。①適時性については、最新の事例をまとめた報告書により、同様の事業を計画している自治体などには適時性のある情報提供を行えたこと、特に研究会でのアンケートではテーマが時期にかなっているとの回答が多く大きな成果であった。②独創性については、遺跡が地域社会の中で関わってきた履歴を歴史の重層性として捉え、整備で議題とすることは希で重要なことであったといえる。③発展性については、近世の城跡の整備あるいは遺跡の重層性というテーマでは今後もその深化が大いに期待できる。④効率性については、検討会に様々な研究者・行政担当者を招聘して幅広く情報を共有し、事前に参加者への質問を行っておくなどし、議論を効率的に進められた。⑤継続性においては、発展性とも関わるが、近世の城跡の整備あるいは遺跡の重層性というテーマではさらに継続的な議題が用意できること。また、報告書、研究報告の本数も適切であった。以上、すべての観点において計画以上の成果であったことから総合評価をAと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**（参考値）	定量評価
	・論文等数　6 件 ・研究発表等数　2 件（②） ・報告書等の刊行数　1 件（①） ・研究集会開催数　1 件（③）	－

①奈良文化財研究所　遺跡整備・活用研究集会の報告書『デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用』12 月
②内田和伸「特別史跡キトラ古墳の整備―乾拓板を用いた遺跡の活用―」日本遺跡学会　11 月　他
③奈良文化財研究所　遺跡整備・活用研究集会「近世城跡の近現代」12 月

中期計画評価	A

中期計画記載事項	記念物のうち史跡については、その保存・活用のためのマネジメントに関する調査研究を地域振興の観点に基づき国際的動向も踏まえながら進める。名勝については、近世の庭園に関する調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	27 年度研究会の報告書において最新事例を集めて紹介できたことは大きな成果である。これを元にデジタルコンテンツを用いた観光振興に関する文化庁での研究会も 29 年度に始まる。28 度の研究会に関しては、各記念物の保存活用計画の策定が文化庁から求められており、そこで議論となるのが本質的価値であるが、遺跡が機能を失った後に地域社会と関わってきた歴史も重要で、その代表的なものが近世城跡に立地する近現代の遺構である。その保存と活用は地域振興にも関わる重要な課題である。今後も継続的に遺跡における歴史的重層性の表現等の課題を取り上げていく。

【書式C】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　2131F-イ

中期計画の項目	2-(1)-③-1)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-1)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1) 史跡・名勝の保存・活用に関する調査研究 我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。 イ　近世初期の庭園に関する研究集会を開催する。また、現存庭園調査を行うとともに、庭園に関する基礎資料の収集・整理、所蔵資料の整理を進める。
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○内田和伸（遺跡整備研究室長）、マレス・エマニュエル（遺跡整備研究室アソシエイトフェロー）、中島義晴（文化遺産部主任研究員）ほか	

【年度実績と成果】

・28 年度の「庭園の歴史に関する研究会」は、近世の第一回目ということで、テーマは「織豊期から江戸時代初期の庭園」であった。庭園史・建築史等の専門家を集めて発表と討議を行った。報告内容は次のとおり。
岐阜城跡織田信長居館とフロイスの記録　高橋方紀（岐阜市教育委員会）
肥前名護屋城の数寄空間―特別史跡名護屋城跡と陣跡の庭園―　松尾法博（佐賀県立名護屋城博物館）
安土桃山時代庭園の位置づけと意義　小野健吉（和歌山大学）
大工資料からみた織豊建築像　加藤悠希（九州大学）
織豊期の文化と庭園　河内将芳（奈良大学）
この研究会の内容を『近世庭園の研究 1　織豊期から江戸時代初期の庭園』として出版した。

・連携研究：奈良市における庭園の悉皆的調査
奈良市と連携研究協定を結び、奈良市における庭園の悉皆的調査に取り組み、民家庭園 13 件、寺院庭園 13 件について、現地調査を終了した。また、報告書作成に向けて、周辺資料の収集、調査成果のとりまとめを開始した。

・発掘庭園データベースの更新整理を実施し、新たに発掘庭園が 121 件追加できた。

・森蘊・村岡正・牛川喜幸の庭園等関係研究資料について、国内外の庭園・遺跡を撮影したスライドを分類し、注記整理を進めた。

庭園調査の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、近年の発掘調査によって確認された織豊期の庭園遺構に関する成果を研究会にて公開し、かつ報告書にとりまとめることができた。②独創性については、研究会で庭園史学のみならず、建築史学、文献史学、考古学等の多分野の研究者とともに取り組んでいる点で、学際性の高い研究を実施することができた。③発展性については、中期計画で取り組み始めた近世の庭園の歴史に関する研究では、今後の研究課題が研究者間で共有されたことは、近世庭園史の研究の進展に資する。④効率性については研究集会の開催、報告書の刊行、庭園の調査等を滞りなく進めることができたので、事業を効率的に実施できたと言える。⑤継続性については近世庭園の歴史に関する研究について、中世との接点となる時代について継続的にテーマを設定して進めることができた。また、発掘庭園に関する正確な情報提供のため、新たな事例収集を実施し、データベースを更新することができた。以上から、順調に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**（参考値）	定量評価
	・論文等数　3 件（①） ・研究発表等数　5 件（②） ・報告書等の刊行数　1 件（③）	―

①マレス・エマニュエル「森蘊　庭園史研究と作庭は表裏一体」『庭 NIWA』11 月
②マレス・エマニュエル「The place of Kobori Enshu in the History of Japanese Gardens」Kyoto University of Art and Design International Symposium (II) Understanding Japanese Gardens : Spirituality or Science　10 月
②『近世庭園の研究 1　織豊期から江戸時代初期の庭園』奈良文化財研究所　29 年 3 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	記念物のうち史跡については、その保存・活用のためのマネジメントに関する調査研究を地域振興の観点に基づき国際的動向も踏まえながら進める。名勝については、近世の庭園に関する調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	当初の計画通り事業を実施した。特に、「庭園の歴史に関する研究会」を開催し、発掘調査での新検出が相次ぎ研究の進展の期待される織豊期の城館の庭園について、庭園史学、建築史学、考古学などの外部研究者とともに、多面的に遺構解釈等について考え、報告書にまとめたことは意義があった。また、奈良市内の庭園について悉皆的調査を実施し、多くの事例を収集することができた。今後も研究会を継続するとともに、奈良市内の庭園の調査成果をまとめていく。

【書式C】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　2132F-ア1

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2) ーア	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮・京跡、東大寺塔院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	平城宮東院地区の発掘調査	
都城発掘調査部 （平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○渡辺晃宏（副部長）ほか	

【年度実績と成果】

・平城宮東院地区は、東宮としても利用された重要な宮殿である。その様相を明らかにするため、継続的な調査を実施している。28 年度の調査面積は 986 ㎡、調査期間は 29 年 2 月 6 日からで、29 年度まで継続して調査を実施する予定である。

・基本層序

ごく薄い整備盛土直下に旧耕作土・床土が広がる。床土下には遺物包含層（淡褐土）が広がる。基本的に包含層直下が遺構面で、多くは地山（黄橙色粘土）だが、西南部では数層の整地土が残る。各層の厚さは場所によって大きく異なる。

・主な出土遺物

集計中であるが、土器・瓦類が出土している。

・調査所見

多数の柱穴を検出した。これらの中には、既調査区で発見した建物の一部となるものも含まれる一方、新発見の建物も存在すると想定される。

北端部で遺構密度が希薄な状況を確認した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、中期計画に基づいて古代天皇の皇位継承に関わる重要な宮殿の調査を行うことができた。②発展性においては、本調査区西側の所見とは異なり、北端付近で極端に遺構密度が下がる状況を確認し、東院地区全体のエリア構成等の解明に向けた重要な成果を得ることができ、29 年度以降の調査に向けて重要な知見を得た。③効率性においては、既往の調査所見を十分に反映することで、効率的な調査を行うことができた。④調査区西南部で複数層に及ぶ整地土層の広がりと、時期の異なる遺構の存在を新たに確認し、従前の調査成果との照合をも行いつつ、29 年度以降の調査と合わせて調査を進める方向性を確認することで、遺構の保全と学術的探求の両立を目指すことができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	A	B	A	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・論文等数：1 件	定量評価 ー

①「東院地区の発掘調査　ー平城第 584 次」『奈良文化財研究所紀要 2017』29 年 6 月（予定）

中期計画評価	A

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び 今後の見通し	古代日本の都城の解明等を図るため、平城宮跡東院地区の調査研究を進めるという中期計画に基づき、適切で効率的な発掘調査を実施し、大きな成果を挙げつつある。以上よりＡと判定した。 29 年度以降は、今回の調査成果を、従来の調査研究成果と合わせて検討・研究し、さらに調査研究を進めていきたい。

【書式C】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　2132F-ア2

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ア	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮・京跡、東大寺塔院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	平城京跡右京一条二坊四坪・西一坊大路・一条南大路の発掘調査	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○渡辺晃宏（副部長）ほか	

【年度実績と成果】

・当研究所本庁舎敷地内における学術調査。一条南大路より南方の西一坊大路周辺の様相及び、敷地西北部の右京一条二坊四坪の様相を明らかにすることが目的。北区（南北 10m×東西 21m）、中区（南北 6m×15m）、南区（南北 5m×東西 6m）の 3 つの調査区を設定。
調査面積は合わせて 360 ㎡、調査期間は 28 年 3 月 22 日～5 月 16 日。

・主な検出遺構
北区・・・柱穴群、沼状遺構、古墳時代溝一条
中区・・・一条南大路南側溝、西一坊大路西側溝、東西溝一条
南区・・・西一坊大路西側溝

敷葉遺構の検出状況

・調査所見
①佐伯門西南方の大路側溝の変遷を明らかにした。
佐伯門西南方の一条南大路南側溝と西一坊大路西側溝には 3 時期の変遷がある。特に、最終段階では大路のかさ上げと排水体系の再整備を行う。奈良時代後半の一条南大路の再整備、佐伯門前・一条南大路の重要性を再確認した。
②右京一条二坊四坪の土地利用のあり方を明らかにした。
右京一条二坊四坪には、沼状遺構が存在し、その埋め立ては平城京造営期よりも下がる。平城京造営直後には、坪の一部を利用するのみで、その後の埋め立て・整地によって坪全体の利用へと推移したものと考えられられる。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、庁舎新営工事に先立つごく短期間に調査時間を適切に確保し、重要な学術的問題を解決するための調査を実施することができた。②独創性においては、地中埋設物等の事前把握に努めて、調査手順等について様々な工夫を凝らして調査を行った。③発展性においては、平城宮西面中門前広場の整備の変遷や、一条北大路が奈良時代後半に大規模な再整備を施されること、宅地内の整備が遷都当初よりも古いことなど、調査地点のみならず、平城京全体の変遷や都市空間としての役割の変化の解明に繋がる、大きな成果を得ることが出来た。④効率性においては、従来の調査成果を勘案して、効率的な調査区設定や重機による掘削を行うことができた。⑤継続性においては、本庁舎敷地内でこれまでに実施してきた調査成果を反映し、総合的な調査・研究を行うことができた。本事業は当初計画通り遂行出来たと言える。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(参考値)・論文等数：1 件（①） ・出土遺物件数等　瓦 44 箱（うち軒丸瓦 6 点、軒平瓦 24 点、道具瓦等 4 点）、礎石 1 点、土器 12 箱	―

①「平城京右京一条二坊四坪・西一坊大路・一条南大路の調査」『奈良文化財研究所紀要 2017』29 年 6 月刊行予定

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	古代日本の都城の解明等を図るための調査として実施したもので、平城京の構造とその変化を解明する上で重要な成果を得たことから、Bと判定した。 今回の調査成果を生かし、平城京右京域の変遷の様相の解明や、平城宮内での佐伯門周辺遺構の再検討などが進んでいくことが期待される。

【書式C】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　2132F-ア3

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ア	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮・京跡、東大寺塔院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	東大寺東塔院跡の発掘調査	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○渡辺晃宏（副部長）ほか	

【年度実績と成果】

・調査面積は 882 ㎡（2 区：530 ㎡、4 区：161 ㎡、5 区：191 ㎡）、調査期間は 7 月 19 日～12 月 15 日。

・主な検出遺構

奈良時代創建の東塔基壇（凝灰岩製基壇外装や石敷きなど）、鎌倉時代再建の東塔基壇（基壇外装や石敷きの抜取痕跡など）、回廊南門跡（雨落溝など）、土橋状遺構（時期・性格等未詳）　など

・主な出土遺物

瓦磚類 784 箱、土器類 5 箱、青銅製品（風鐸片など）94 点、鉄製品 93 点、凝灰岩（基壇外装材）64 点、花崗岩（礎石ヵ）3 点、花崗岩片 15 箱　など

・調査所見

　塔基壇南面・西面において鎌倉時代再建塔の基壇を確認し、また塔基壇北面・南面では再建塔基壇の内部に良好な状態で遺存していた奈良時代創建塔の基壇を確認した。これにより、両塔の基壇規模や構造の復元に資する詳細なデータを取得し、特に創建塔に関しては塔本体の建物構造を推察するための重要な手がかりを得るなど、奈良時代の創建から南北朝時代の廃絶に至る東塔の歴史に関する知見を深めることができ、また、今回 SFM 技術（ある対象を撮影した複数枚の写真から、対象の形状を復元する技術）の導入で詳細で効率的な記録作成を行うことができた。

　また、回廊南門の痕跡や土橋状遺構などを検出し、東塔院全体の構成やその変遷を明らかにするための貴重な資料を得た。

2 区・4 区全景（南西から）

年度計画評価	A

【評定理由】

　下記各観点から評価を行った。①適時性において、日本を代表する寺院である、東大寺の象徴的建物の一つである東塔院の創建期の様相を明らかにすることができた多大な成果は、新聞などに大きく報道され高い公開性を達成した。②独創性においては、立体的で重層的な遺跡の掘り下げ記録作成において困難に直面した状況において、新たに SFM 技術の導入によって詳細で効率的な記録作成を行うことに成功するなど、当研究所ならではの総合的な調査・研究を行った。③発展性においては、従来古代に遡るか不明であった基壇外装の意匠（三ツ割）が新たに発見され、建築史研究に新たな視点をもたらすなど、創建期東大寺東塔院に関する多くの事実を明らかにできた。④効率性においては、東大寺・奈良県立橿原考古学研究所との共同作業を、入念な打ち合わせのもと実施することで、効率を高めた。⑤継続性においては、27 年度までの調査成果を元に遺構保護と調査研究を積極的に両立した調査区を設定し、質の高い調査を実施した。また継続的調査を進めた結果、東塔礎石が西南戦争砲に用いられていた事実が明らかになるなど、新たな情報が集まりつつあり、これらを発掘調査成果と比較し検討する可能性と必要性も惹起された。以上から、Aと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** (参考値) ・論文数 1（①） ・記者発表数 2　・新聞報道（10/5:読売新聞ほか 5 紙　11/17:奈良新聞ほか 4 紙） ・現地説明会 1　参加者 1,125 人	定量評価 －

①山本祥隆ほか「東大寺東塔院跡の調査-第 574 次」『奈良文化財研究所紀要 2017』29 年 6 月刊行予定

中期計画評価	A

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	古代日本の都城の解明等を図るため、東大寺塔院地区の調査研究を進めるという中期計画に基づき、創建期の東大寺東塔院地区の構造や詳細、またその後の変遷に関して、柱位置の確定・基壇外装構造の解明、基壇の構築状況の解明など、大きな成果を得ることができたことから、Aと判定した。 今後は、東塔本体以外の回廊の調査が中心となっていく予定であり、28 年度までの調査・研究を十分に踏まえてさらに大きな成果を挙げていきたい。

【書式C】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　2132F-ア 4

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ア	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2) 古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮・京跡、東大寺塔院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	藤原宮跡の発掘調査（大極殿院）	
都城発掘調査部（藤原）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○玉田芳英（部長）、清野孝之（考古第三研究室長）、和田一之輔（考古第一研究室研究員）　ほか	

【年度実績と成果】

○藤原宮大極殿院東門と東面回廊の発掘調査（第 190 次）を実施した。
・調査地：橿原市高殿町。
・調査期間： 10 月 4 日～29 年 2 月 6 日。
・調査面積：480 ㎡。

○調査成果
・藤原宮大極殿院東面回廊において、礎石据付穴、基壇外装据付溝、雨落溝、礫敷広場などを確認し、東門及び東面回廊の規模と構造を明らかにできた。とりわけ東門と回廊との取付部について、柱間寸法が異なるなど特異な構造となることが判明した点は大きな成果である。
藤原宮中枢部の構造を解明し、他の古代宮殿との比較研究を行ううえで重要な成果が得られたとともに、29 年度以降の継続調査につながった。

調査区全景（南東から）

年度計画評価	A

【評定理由】
下記各観点から評価を行った。①適時性においては、藤原宮大極殿院の様相を解明するために必要な場所を選定し、適切な調査を行った。②独創性と③発展性においては、藤原宮大極殿院東門と回廊の構造を明らかにし、とりわけ門と回廊の取付部に特異な構造を確認するなど当初の目標以上の成果が得られるとともに、藤原宮中枢部の実態解明に関する成果を蓄積でき、研究課題への新たな展望を得た。④効率性では、従前の調査成果などから事前に充分な準備を行い、当初の計画通り効率的に調査を実施できた。⑤継続性においては、藤原宮の様相解明のための長期的な継続調査の一環として、大極殿院の継続的な調査を行い、今後の継続調査に資する基礎的データを得るとともに、東門と回廊との取付部に関する新たな課題も明らかとなった。以上から、事業の進捗状況は所期の目標を上回るものとして年度計画以上であると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) ・報道発表数：1 件（①）　・現地説明会数：1 件（②） ・現地説明会来場者数：1315 人　・報告書等数：1 件（③） ・出土遺物：軒瓦等 132 点、丸・平瓦コンテナ 152 箱、土器コンテナ 10 箱、石器・石製品 16 点ほか ・記録作成数：遺構実測図 28 枚、写真 350 枚	定量評価 ―

①奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 190 次調査）記者発表」(29 年 1 月)
②奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 190 次調査）現地説明会」(29 年 1 月)
③和田一之輔ほか「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 190 次調査）」『奈良文化財研究所紀要 2017』(29 年 6 月予定)

中期計画評価	A

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	発掘調査による古代国家藤原宮の復元という中期計画の目標をもとに、藤原宮大極殿院地区の発掘調査と研究を進める計画である。初年度となる平成 28 年度は、大極殿院回廊の発掘調査を実施し、門と回廊との取付部の構造が特異となる点を明らかにするなど所期の目標以上の成果が得られ、大極殿院の範囲と構造をより一層明確にすることができた。次年度以降も大極殿院地区の発掘調査を進め、藤原宮中枢部の構造解明を目指す。

【書式C】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　2132F-ア5

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ア	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2) 古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮・京跡、東大寺塔院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	藤原宮跡の発掘調査（朝堂院）	
都城発掘調査部（藤原）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○玉田芳英（部長）、西山和宏（主任研究員）、大澤正吾（考古第二研究室研究員）ほか	

【年度実績と成果】

○調査地：藤原宮朝堂院朝庭（飛鳥藤原第 189 次）
○目　的：藤原宮朝堂院朝庭の様相解明。大極殿院南門前面の儀式遺構の解明。
○調査期間： 6 月 20 日～12 月 1 日
○調査面積：960 ㎡
○調査成果
・2008 年の第 153 次調査で検出した大型柱穴 4 基に加え、今回新たに 3 基を検出し、藤原宮大極殿院南門前面の 7 基の大型柱穴の存在を明らかにした。これら 7 基の大型柱穴は、大宝元年（701）の元日朝賀の際に立てられた 7 本の幢幡に関わる遺構と考えられる。大宝元年の元日朝賀については、『続日本紀』に「文物の儀、是に備れり」と記されており、律令国家完成の宣言と一般に理解されている。この儀式の様相を具体的に復元する手がかりを得たことはきわめて重要な成果である。
・この他、藤原宮期の遺構として、礫敷広場や 16 基からなる柱穴列などを検出した。
・藤原宮造営期の遺構として南北溝、藤原宮廃絶後の遺構として大土坑などを検出した。

復元幢幡を各柱穴付近に配置（南から）

年度計画評価	S

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、学術的な課題の解決を目的とした調査であることに加え、調査成果が新聞一面などに大きく報道されたことに加え、現地説明会に多数の来場者があり、11 月 13 日に実施した東京講演会にも調査成果を盛り込んだことで、高い公開性を達成した。②独創性においては、中央に 1 基、その東西に各 3 基が三角形状に配されるという、7 本の幢幡を立てる儀式の最初の様相を明らかにした。これまで知られていた在り方とは全く異なる新知見であり、学術的に高い価値を有する。③発展性においては、7 本の幢幡を立てる儀式の成立及び展開過程のみならず、陰陽五行思想との関連も明らかとなり、今後の国家儀式研究の発展に多大な寄与をした。④効率性においては、既往の調査を踏まえて必要箇所を適切に調査し、適宜 3D 測量など最新の調査手法を採用することで効率性に優れた。⑤継続性においては、20 年度の第 153 次調査以来、課題の解明を目指して継続的・計画的な調査を積み重ねた成果が結実したものであり、高い継続性を有する。以上から、年度計画以上に事業を進め、顕著な学術的成果を上げたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	S	S	S	A	S

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(参考値) ・報道発表数：1 件（①）・現地説明会数：1 件 ・現地説明会来場者数：1315 人 ・新聞報道（9/29:読売新聞ほか 5 紙、9/30:朝日新聞 10/3:毎日新聞ほか 2 紙） ・論文等数：2 件（②）・研究発表等数：1 件（③） ・出土遺物：軒瓦等 49 点、丸・平瓦コンテナ 45 箱、土器コンテナ 12 箱、木製品・木質遺物 4 点、金属製品 5 点、石器・石製品 5 点ほか ・記録作成数：遺構実測 35 枚、写真 837 枚	―

①奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 189 次調査）記者発表資料」（9 月）
②大澤正吾「藤原宮朝堂院朝庭の調査（飛鳥藤原第 189 次）」『奈文研ニュース』No. 63（12 月）
③大澤正吾「藤原宮の幢幡遺構―大宝元年の元日朝賀と儀仗旗―」『奈文研第 8 回東京講演会　飛鳥むかしむかし』11 月 13 日

中期計画評価	S

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	古代日本の都城の解明等を図るため、中期計画では主として藤原宮大極殿院内の発掘調査を進める予定であったが、前年度発掘調査成果の検討から、大宝元年元日朝賀の際に立てられたという 7 本の幢幡に関わる遺構は朝堂院に所在するとの見通しが得られたため、当初計画の大極殿院の調査に加えて実施したもので、長年の研究課題であった大宝元年元日朝賀の幢幡の在り方を明らかにするとともに、今後の継続的な調査研究に向け、着実に調査研究の蓄積を加えることができた。幢幡遺構の検出は、律令国家研究に欠くことのできない重要な研究成果である。

【書式C】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　2132F-ア 6

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2- (1)-③-2)-ア	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2) 古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ア　古代都城の解明のため、平城宮・京跡、東大寺塔院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。
プロジェクト名称	飛鳥地域発掘調査	
都城発掘調査部（藤原）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○玉田芳英（部長）、西山和宏（主任研究員）、山本亮（考古第三研究室アソシエイトフェロー）ほか	

【年度実績と成果】

○3 件・2 ケ所の発掘調査を実施した。

・奥山廃寺（明日香村奥山）発掘調査（第 118-1 次）
　調査期間： 4 月 6 日～14 日
　調査面積：6 ㎡
　主な成果：伽藍推定地の南東側を調査し、地山面で中世以降の遺物を含む土坑 1 基を検出した。

・特別史跡山田寺跡発掘調査（第 188-8 次・第 188-11 次）
　調査期間： 9 月 21 日～10 月 25 日・29 年 29 年 2 月 7～15 日
　調査面積：44 ㎡（第 188-8 次）、21 ㎡（第 188-11 次）
　主な成果：山田寺の北限の様相を解明するべく、特別史跡指定地の北部に 3 箇所の調査区（西・中・東区）を設定して調査を行い、中区で約 230 ㎝の間隔をあけて東西に並ぶ柱穴 2 基を検出した。既往の調査成果と照らし合わせて、柱間寸法 8 尺の一本柱塀で、寺域北限を画する北面大垣の遺構と考えられた。西区では、瓦を葺とする南北方向の暗渠遺構を検出し、東区では、過去の調査（第 6 次）で検出していた石積み溝の延長部分を検出した。この試掘調査の成果を受けて、西区を拡張する形で発掘調査を行ったところ、8 尺等間で並ぶ北面大垣の柱穴列を 3 間分検出した。うち 1 基については、掘込面を違えて新旧 2 基の穴が重複しており、ある時期、柱が立て替えられた状況を確認したが、他の 3 基には柱穴の重複をみとめることができず、建て替えは大垣全面にわたるものではなく、一部の柱を対象としたものと判明した。さらに、試掘調査時に確認していたものに加え、3 条の瓦組暗渠を新たに検出した。狭い範囲の調査ではあったが、北面大垣を検出したことにより、推測にとどまっていた山田寺の寺域北辺を確定するとともに、寺域北部の様相を明らかにするという成果を上げた。

山田寺跡北面大垣検出状況

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の観点から評価した。①適時性においては、個人住宅の建て替えや史跡の整備といった事業に、適宜適切に対応したことからＢとした。②独創性においては、山田寺北限の位置を確定するとともに、新たに北面大垣の柱間寸法を明らかにするという多大な成果を上げたため、Ａとした。③発展性においては、調査成果が今後の山田寺研究の基礎となる情報であったことから、Ｂとした。④効率性に関しては、限られた日程・予算の中で必要な調査を終え、成果も上げたことから、Ｂとした。⑤継続性においては、45 年にわたって途切れることなく飛鳥地域での発掘調査を実施したことから、Ｂとした。以上から、事業を順調かつ効率的に進めたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・論文等：1 件（①） ・出土遺物（合計）軒瓦等 18 点、丸・平瓦コンテナ 44 箱、土器コンテナ 4 箱、金属製品 5 点、石器・石製品 3 点 ・調査件数：3 件	定量評価 －

①山本亮「山田寺の調査　第 188-8 次」『奈良文化財研究所紀要 2017』（29 年 6 月予定）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	古代日本の都城の解明等を図るため、藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進めるという中期計画に対して、山田寺の寺域北限を確定し、目標達成に向けて順調に成果を上げた。今後は、雷丘から山田寺に至る山田道の調査をはじめ、寺院遺跡等の調査研究を進める予定である。

【書式C】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　2132F-イ1

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	平城宮・京跡の出土遺物・遺構の調査研究等	
都城発掘調査部 （平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○渡辺晃宏（副部長）　小池伸彦（埋蔵文化財センター長）　ほか	

【年度実績と成果】

(1)28 年度の発掘調査による検出遺構・出土遺物の整理と研究

・木製品・金属製品・石製品・土器・土製品・瓦磚類・木簡等の整理・分析及び研究、検出遺構の図面トレース及び遺構の分析・解釈、撮影写真の整理を実施した。

・受託事業として行った平城京内の発掘調査についても、出土遺物や検出遺構の整理・分析研究といった基礎作業の大半は本事業で行っている。

年輪による木材の同一材同定作業

(2)27 年度以前発掘調査出土遺物の整理と科学的保存処理

・過去の調査出土遺物の洗浄・整理・分析研究等の作業を継続的に実施した。

・過去の調査出土木製品及び木簡、金属製品の保存処理を継続して実施し、適宜遺物の材質等の分析を行った。

・旧大乗院庭園、平城京左京三条一坊、平城京右京一条二坊四坪・二条二坊一坪及び平城宮東区朝堂院の学報作成に向けて、遺物・遺構の整理・分析・研究・執筆作業を行った。

(3)調査・研究成果の公表

・28 年度の発掘調査の概報を作成した。

・特別展『地下の正倉院展』(10 月 15 日～11 月 27 日・於：平城宮跡資料館)を開催し、図録(①)を刊行するとともに、1 回の記者発表を実施した。また、本展示に伴う再調査で、ペルシア人とみられる官人名を確認し、報道された。

・新たな調査手法（年輪による木材の同一材同定など）を開発し、調査に応用することができた。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、発掘調査の進展に対応し、迅速な遺物・遺構の整理作業を進め、調査の効率的遂行に還元することが出来た。②独創性において、当研究所内の各部局と連携しながら、新たな調査手法（年輪による木材の同一材同定など）を開発し、調査に応用することができたことは大いに評価できる。③発展性においては、新開発の手法をさらに別の資料に応用するなどの作業に着手した。また、新手法を学会等で積極的に公表し、学会全体に影響を及ぼすことが出来た。④効率性においては、データベースや情報技術（木簡アノテーションツール等）の有効活用を推進することで、作業効率を高めることに成功した。⑤継続性においては、従来からの調査の積み重ねによって得られた知見を踏まえつつ、さらに新知見を蓄積することができた。以上から着実に事業の成果を上げたとしてＢと判定した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) ・報告書等の刊行数：1 件（①） ・記者発表：1 件　　新聞報道（10/5：奈良新聞ほか 1 紙　10/6：朝日新聞ほか 2 紙）	定量評価 －

①『地下の正倉院展－式部省木簡の世界－』10 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	継続的に調査・研究を進め、成果を着実に蓄積し、またその成果を調査研究に直ちに還元するとともに、新手法の開発等も行うことが出来たことから、Ｂと判定する。 今後も、継続的な調査・研究の積み重ねを目指すと共に、積極的に成果の公表を行い、また新手法の開発と応用、及び普及にも力を注ぎたい。

【書式C】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　2132F-イ2

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	
都城発掘調査部(藤原) 企画調整部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○玉田芳英（部長）、尾野善裕（考古第二研究室長）、清野孝之（考古第三研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

・28 年度に飛鳥・藤原地域の発掘調査で検出した遺構の図面・写真資料の作成・整理・分析研究とともに、出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体・土器・土製品・瓦塼類の整理・分析研究を進めた。成果の一部は、『奈良文化財研究所紀要 2017』で公表する。

・27 年度までに飛鳥・藤原地域の発掘調査で検出した遺構の図面・写真資料の再整理・再検討とともに、出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体・土器・土製品・瓦塼類の再調査・再整理・分析研究を進めた。特に瀬田遺跡出土の弥生時代編み籠では、これまで用途不明であった木製品が編み籠の脚部であることが判明するという重要な知見が得られた。

藤原京関係では、条坊に関する発掘調査成果のデータ化を継続的に行い、飛鳥関係では報告書刊行に向けて石神遺跡の検出遺構及び出土品の整理・分析作業を重点的に進めた。成果としては、整理作業が終了した藤原京左京六条三坊の発掘調査成果を『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅴ』として刊行したほか、飛鳥・藤原地域の調査研究成果を一般向けに解説した書籍『飛鳥むかしむかし 飛鳥誕生編』『飛鳥むかしむかし 国づくり編』の 2 冊を朝日新聞出版から刊行した。

また、11 月 13 日には同書の刊行を記念して、「飛鳥むかしむかし」と題して東京で講演会を開催し、27 年度に奈良国立博物館との連携研究として行った研究成果を「7～8 世紀の遺跡出土銅鋺の分析」として文化財保存修復学会で発表した。

そのほか、学会等で「Provenance study for earthenware with colored lead glazes excavated in 7th -8th century,Japan」「古代における採石加工技術の展開」などの研究発表・講演を行った。

また、『奈良文化財研究所紀要 2017』には、「藤原宮大極殿院出土の墨書竜山石」「藤原宮下層運河 SD1901A の総合的検討―飛鳥藤原第 186 次調査の自然科学分析を中心に―」「飛鳥地域出土の湖西窯産須恵器」「奥山廃寺出土の素文軒平瓦―飛鳥地域出土瓦の再整理」などの調査研究報告を掲載する。

瀬田遺跡出土の弥生時代編み籠

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の観点から評価した。①適時性においては、新たに出土した資料を迅速に公開したことに加え、正式な発掘調査報告書としての『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅴ』を刊行し、活用に供したことからＡとした。②独創性においては、自然科学的分析を利用して藤原宮造営時の運河の運用のされ方や、遺物の墨書の再検討を通して大極殿造営時に建設現場で石材加工が行われていたことを明らかにするとともに、土器編年などに関する新たな知見を加えるなどの成果を上げていることからＡとした。③発展性においては、報告書の刊行や整理作業を通じて、今後の研究に繋がる成果にとどまらず、遺構の性格を明らかにするための新たな研究視点を提示し、遺物研究上の新たな課題を明らかにしたことから、Ａとした。④効率性に関しては、前年度よりも縮小された人員・予算の中で適宜外部業務委託を行い、例年と遜色ない成果を上げていることから、Ａとした。⑤継続性おいては、28 年度の実績が 27 年度の成果をもふまえたものであることからＢとした。以上から、事業の進捗状況は年度計画以上であると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) ・報告書等の刊行数：1 件（①） ・論文等数：10 件（②） ・研究発表等数：4 件（③）	定量評価 ―

①奈良文化財研究所編『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅴ―藤原京左京六条三坊の調査―』(奈良文化財研究所学報第 94 冊)（29 年 3 月）
②奈良文化財研究所編『飛鳥むかしむかし 飛鳥誕生編』(朝日選書 549) 朝日新聞出版（8 月）
③Junko Furihata、Megumi Ginno, Yoshihide Tamada, Saito Tsutomu
「Provenance study for earthenware with colored lead glazes excavated in 7th -8th century,Japan」『WAC-8』、2016.9.1

中期計画評価	A

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	古代日本の都城の解明等を図るため、藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進めるという中期計画の目標達成に向けて、藤原宮造営期の実態解明という成果を上げたことに加え、藤原京域の発掘調査に関する正式報告書を刊行するなど、所期の目標を上回る成果を上げた。今後も整理・検討作業を進め、成果を公表していく予定である。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F-ウ

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-ウ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 ウ　飛鳥時代の壁画古墳についての調査研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、出土遺物を中心とした資料の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、藤原宮・京跡や飛鳥・藤原地域に所在する寺院の出土部材の研究を行う。
プロジェクト名称	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	
飛鳥資料館	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○石橋茂登（学芸室長）、西田紀子（学芸室研究員）、若杉智宏（学芸室研究員）ほか 4 名	

【年度実績と成果】

・キトラ古墳関連の資料収集の一環として中国式天文図を中心に調査した。文献資料からの資料収集のほか、台湾故宮博物院の清代の天文図を実見した。成果は講演会で発表（予定）。
・金属工芸の資料調査として飛鳥寺跡出土品、川原寺跡出土品について蛍光X線による分析、レントゲン撮影、写真撮影などを行った。
・刀子についての調査を紀要で報告した。また、銭弘淑塔について秋期特別展で借用してきたものを主とし、一部資料については出張して蛍光X線分析と写真撮影を行った。
・山田寺跡出土部材の計測調査を継続した。

銭弘淑塔の写真撮影

年度計画評価	B

【評定理由】

①適時性と④効率性においては、秋期特別展で銭弘淑塔を多数借用した機会を逃さず、効率的な調査を行うことができた。②独創性においては、長年キトラ古墳の調査研究に携わってきた知見を活かし、他機関では実施し得ないキトラ古墳天文図を中心とした天文図の調査を行ったことがあげられる。⑤継続性においては飛鳥寺跡出土品などの古代寺院出土品の調査はこれまでも継続してきたものであり、今後も継続していくものである。その成果は飛鳥地域のみならず日本古代ひいては東アジアの金属工芸史や国際交流史にも敷衍しうるものといえ、③発展性においても評価できる。
よって、事業は順調かつ効率的に推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(参考値) ・論文等数　1 件（①） ・研究発表等数　1 件（②）	―

①諫早直人・石橋茂登「飛鳥寺塔心礎出土刀子」『奈良文化財研究所紀要 2016』6 月
②石橋茂登「キトラ古墳の天文図を読み解く」第 10 回アジア考古学四学会合同講演会　29 年 3 月 5 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	飛鳥地域の寺院遺跡出土資料を主とした調査研究は、中期計画に照らしても確実な一歩である。さまざまな金属工芸品についての調査研究は古代の資料との比較対象としても必要な調査である。キトラ古墳は藤原京の時代に造られた古墳であり、当時の思想や科学を解明するためには壁画の研究が有効といえる。今後も調査研究を継続し、基礎的な成果を蓄積することが期待される。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2132F-エ

中期計画の項目	2-(1)-③-2)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-2)-エ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 2)古代日本の都城遺跡に関する調査研究 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。 エ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究、中国の生産遺跡（陶磁器窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究所との共同研究、遼西地域の都城遺跡等に関する遼寧省文物考古研究所との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究所との共同研究等を、協定に基づいて行う。また、調査研究が纏まったものより順次公表する。
プロジェクト名称	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	
企画調整部 都城発掘調査部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○玉田芳英（都城発掘調査部長）渡辺晃宏（都城発掘調査部副部長）今井晃樹（都城発掘調査部主任研究員）ほか	

【年度実績と成果】

・中国社会科学院との共同研究として、北魏洛陽城出土遺物の調査研究、北斉鄴城の発掘調査を見学し学術交流を実施した。9 月に 2 名、2 月に 3 名を洛陽に派遣し、出土遺物の整理、調査研究を実施した。12 月には都城遺跡の比較研究のため、1 名を派遣。中国社会科学院考古研究所が行う北斉鄴城寺院遺跡の発掘現場を見学し、遺構についての意見交換を行った。

・河南省文物考古研究院との共同研究として、唐三彩関連資料の調査等を行った。『鞏義黄冶窯』報告書中国語版を刊行した。29 年 2 月に 5 名を派遣し、河南省鄭州市にて『鞏義黄冶窯』報告書日本語版刊行に向けての打ち合わせをおこない、唐三彩関連資料を調査した。11 月 28 日～12 月 2 日に河南省から 5 名を招聘した。

・遼寧省文物考古研究所との共同研究として新たな「三燕文化出土遺物の研究」実施にむけての調整作業を行った。中国側当局からの許可に時間を要し、28 年度中の協定書締結とはならなかったが、29 年度早々には共同研究を開始できる目途が立った。また、27 年度実施した日中学術研究会「遼西地区東晋十六国時期都城文化研究学術検討会」の報告書刊行のため編集作業を行った。

・国立文化財研究所慶州文化財研究所との共同研究として、日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究、発掘調査交流を実施した。日韓共同研究に係る研究者派遣 14 名、受入 16 名。発掘調査交流に係る研究者派遣 1 名、受入 1 名。

韓国チョクセム古墳群発掘風景

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、中国韓国ともに最新の発掘調査での成果を共同研究に取り入れており適時性が確保されている。②独創性において、中国における遺物調査は、唐三彩といった日中に共通する遺物を軸にする独創性を持っている。③発展性において、遼寧省の事業に見られるように新規の課題にも取り組んでいる。ただ、新規の協定書締結に遅れが発生しこの点で評価を C とした。④継続性において、いずれの事業も長く続く学術交流であり、成果を報告書として公表する準備をすすめている。総合的に事業全体は、順調に進行していると判断し、B と判定した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	C	B	

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ・論文等数・研究発表等数　3 件（①②③）	定量評価 －

①河南省文物考古研究院・中国文化遺産研究院・日本奈良文化財研究所『鞏義黄冶窯』5 月
②崔享仙「韓日発掘交流に参加して」『奈文研ニュース』No.63、12 月
③芝康次郎「日韓発掘交流に参加して」『奈文研ニュース』No.64、29 年 3 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	古代日本の都城の解明等を図るため、平城地区では平城宮跡東院地区と東大寺塔院地区の調査研究を進め、飛鳥・藤原地区では藤原宮跡大極殿院地区と飛鳥地域の寺院遺跡の調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	古代日本の都城の解明に資するために中国・韓国の研究機関と共同研究を遂行している。これらは独立行政法人となる前から継続している事業であり、今期中期計画期間においても内容を最適化しながら行う必要がある。28 年度は新規共同研究の始動をするにあたって若干準備時間を要する点もあったものの順調に事業が進んでおり、今後の発展が期待できる。

【書式C】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　2133F

中期計画の項目	2-(1)-③-3)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-3)	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 3)重要文化的景観等の保存・活用に関する調査研究 文化的景観及びその保護に関する基礎的・応用的な調査研究を推進し、特に重要文化的景観の整備活用に関する情報の収集・検討等を行う。また、これまでの成果を踏まえつつ、文化的景観の学術及び保護に資する検討会等を主催し、文化的景観の概念及び調査・計画手法等の体系化に取り組む。
プロジェクト名称	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	
文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○林良彦（景観研究室長）、中島義晴（主任研究員）、惠谷浩子（景観研究室研究員）、本間智希（景観研究室アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○基礎的・体系的研究

・文化的景観研究集会を 7 月 30～31 日に開催し、文化的景観の概念、調査・計画、普及啓発、及び整備活用の現状と課題等について参加者とともに検討した。30 日はテーブルディスカッション、31 日は北山杉の林業景観地である京都市中川地区にてエクスカーションを実施した。参加者は 105 名、ポスターセッション参加は 18 題であった。

・文化的景観の学術及び保護に資する検討の成果として、27 年度に開催した文化的景観研究集会（第 7 回）「営みの基盤生態学からの文化的景観再考」の報告書を刊行した（刊行物①）。

・「文化的景観学」検討会を、5 月 29 日、7 月 31 日、11 月 18 日、29 年 3 月 7 日に開催し、文化的景観の概念及び調査・計画手法等の体系化に関する検討を進めた。成果の一部を、四万十市及び岐阜市の文化的景観についてまとめ、文化的景観スタディーズ第 3 冊として公表した（刊行物②）。

文化的景観研究集会

○文化的景観保護に関する現地調査・研究

・宇治市、金沢市、岐阜市、四万十市等の文化的景観について、現地で関係者等への聞き取り調査等をおこない文化的景観の保護のあり方について検討を進めた。

・京都市、南山城村等をフィールドに、市・村の担当部局への協力を通じて文化的景観の価値や継承等に関する検討を行った。

・当研究所ウェブサイトにおいて公開している重要文化的景観選定地区の情報について、最新情報を追加した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、文化的景観の概念等の基礎的・体系的な研究は、近年日本の多くの地域で取組み始められている文化的景観保護の推進に必要不可欠である。②独創性において、研究集会の中で、目標を上回る多様な立場の関係者が討論する場を設け議論を深めたこと、また、報告書の中で住民の言葉を取り上げたことは十二分に評価できる。③発展性において、研究集会で文化的景観について多様な関係者と検討したことにより、例えば農村と都市の差異を踏まえて議論を進めることの重要性を共有することができたことは今後の発展を期待できる。④効率性において、検討会に様々な研究者・行政担当者を招聘して幅広く情報を共有し、その議論を研究集会へと展開させ、また、日程を連続させることで、事業を連動させ所期の目標以上に効率的に進めることができた。⑤継続性においては、研究集会及び検討会を 27 年度までの成果を踏まえつつ開催できた。以上から本事業は大きな成果を上げていると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	A	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** (参考値) ・論文等数　3 件（③）　・研究発表等数　4 件 ・報告書等の刊行数　3 件（①②）	定量評価 ―

①奈良文化財研究所『営みの基盤－生態学からの文化的景観再考－（第 7 回文化的景観研究集会報告書）』文化的景観スタディーズ第 2 冊 7 月
②奈良文化財研究所『川と暮らしの距離感　四万十・岐阜』文化的景観スタディーズ第 3 冊 29 年 3 月、ほか 1 件
③惠谷浩子「文化的景観研究 1－日本における文化的景観の 20 年」ランドスケープ研究 80(3) 10 月、ほか 2 件

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化的景観の保存・活用の促進等を図るため、重要文化的景観に関する情報を収集・整理し、成果を公開する。あわせて、複数の事例研究により文化的景観の調査手法の体系化を行う。
評定理由及び今後の見通し	研究集会・検討会の開催や現地調査の実施等により、当初の計画通り研究を遂行できた上、研究集会・検討会では文化的景観の概念及び調査・計画等の体系化に関する検討を深め、また、研究集会報告書の刊行及びウェブサイトの更新をして情報を継続的に公開し、保護行政・学術研究への貢献を図った。現地調査・研究では、保存計画や整備・活用計画の策定について検討を深められたことは。大いに評価できる 29 年度以降は、文化的景観に関する研究集会・検討会を中心に、個別の事例・課題に対する検討、成果の公表をし、また、景観整備活用事例の基礎的な情報収集及び成果の公表等をしていく。

【書式C】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 2134F-ｱ

中期計画の項目	2-(1)-③-4)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-4)-ｱ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 ア　全国の遺跡に関する資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。
プロジェクト名称	遺跡データベースの作成と公開	
埋蔵文化財センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○金田明大（遺跡・調査技術研究室長）、馬場基（都城発掘調査部主任研究員）、小田裕樹（都城発掘調査部考古第二研究室研究員）ほか 9 名	

【年度実績と成果】

○関東地方（東京都・千葉県・栃木県・茨城県）、東北地方（福島県・山形県・秋田県）について、報告書から古代官衙関係遺跡の該当データを抽出・整理し、データベース化した。
○上記地域について、報告書から古代寺院遺跡関連のデータを抽出・整理し、データベース化した。
○平城宮内の古代井戸遺構に関する資料を収集・整理し、それらをデータベース化した。また、埼玉県・群馬県の井戸遺構に関する資料を収集した。
○関東・東北地方の古代官衙関係遺跡のデータを報告書から抽出・整理し、データベース化した。
○上記地方の古代官衙関係遺跡について、新たに刊行された資料のデータベースを公開した。

図　古代寺院遺跡データベース画面

○上記地方の古代寺院遺跡関連データを公開した。
○全国の国庁・郡庁等に関する資料を収集・整理すると共に、そのデータを基に第 20 回古代官衙・集落研究集会の研究報告資料を作成した。
○第 19 回古代官衙・集落研究集会の報告書（奈良文化財研究所研究報告）を編集・刊行した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、地方公共団体等で、喫緊の課題として官衙遺跡等の適切な保存が求められている現今の文化財保護行政の状況下で、このデータベースは官衙遺跡の歴史的意義などを分析し、その保護方策を検討する上で有効に機能している。②独創性において、全国を網羅している点、多彩なデータベース項目を備えており様々な分析に役立つ点など、他に類を見ない。③発展性において、公開ﾃﾞｰﾀ地域・件数が拡大・増加し、古代井戸遺構ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽも次第に充実しており、地域・ﾃﾞｰﾀ種類を拡張できた。④効率性において、長年蓄積されてきた官衙・集落遺跡の研究においては、膨大な量のデータを比較検討する必要があるが、必要なデータを効率よく検索・集計することに大きく寄与している。⑤継続性においては、新規の情報追加のみならず、既存のデータについても新知見に基づく更新を加えており、長期にわたり継続してデータベースを構築することで成果をあげている。また、入力・補訂件数、公開データ件数は目標としていた値を大きく上回り、報告書刊行数についても順調に刊行した。以上の様に、各観点からみて、所期の目標を十分に達成していると認められ、B と評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
	（参考値）【データベース入力補訂件数】合計 6978 件 （官衙関係遺跡データベース:遺跡数 2144 件/文献 733 件/建物データ 3423 件/画像データ 186 件、古代寺院遺跡データベース:遺跡数 22 件/文献 261 件/建物データ 45 件/画像データ 126 件、古代井戸データベース:遺跡数 14 件/文献 24 件） 【公開データ数】合計 95785 件　【報告書件数】1 件（②）	－

①小田裕樹他　第 20 回古代官衙・集落研究会資料集『郡庁域の空間構成』12 月 9 日
②小田裕樹他　第 19 回古代官衙・集落研究会研究報告書『官衙・集落と土器 2』12 月 9 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	研究が計画通り順調に進捗した。継続的な調査研究を通じて情報の蓄積が着実に図られており、古代官衙・集落研究に大きく寄与している。遺跡に関しては「全国遺跡報告総覧」が公開されているが、それを効果的に活用する上で、特に需要の多い官衙・集落・井戸について、その効率的な分析・研究に大きく寄与する本データベースは重要である。29 年度以降は、引き続き関東・東北地方のデータを収集し、それが一段落した後は、新出資料のデータ収集を九州地方分から着手し、データベースの一層の拡充を図る所存である。28 年度はその拡充に向けての大きな第一歩となった。

【書式C】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　2134F-イ1

中期計画の項目	2-(1)-③-4)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-4)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 4) 全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 イ　古代官衙・集落遺跡に関する研究集会、古代瓦に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。
プロジェクト名称	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○渡辺晃宏（副部長）　ほか	

【年度実績と成果】

(1) 第 20 回古代官衙・集落研究集会「郡庁域の空間構成」
（12 月 9～10 日、於：平城宮跡資料館講堂）を開催。
研究報告は、海野聡「遺構からみた郡庁の建築的特徴と空間的特質」、西垣彰博「九州の郡庁の空間構成について」、雨森智美「郡庁域の空間構成-西日本の様相-」、田中弘志「弥勒寺東遺跡（弥勒寺官衙遺跡群）の郡庁院」、栗田一生「関東地方の郡庁の空間構成」、藤木海「東北の郡庁の空間構成」、吉松大志「文献からみた郡庁内・郡家域の空間構成」の計 7 本。
報告後、会場からの質問や意見を交えつつ、坂井秀弥氏の司会により報告者を中心とした討論を行った。研究集会に際しては、報告資料集（②・③）を編集・刊行し、参加者等に配布した。

研究集会の討論の様子

(2)『第 19 回古代官衙・集落研究集会報告書　官衙・集落と土器 2』（奈良文化財研究所研究報告 18 冊）(①)の刊行
27 年度開催した第 19 回研究集会の報告書を刊行し、研究成果の公開を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、古代官衙・集落遺跡の調査・研究推進上における重要かつ適切な課題を設定し、第 20 回研究集会を開催した。27 年度に開催した第 19 回研究集会の成果を、遅滞なく研究報告書として刊行し、広く公開した。②独創性においては、郡衙遺跡中枢部の郡庁域に焦点を絞り、全国的な集成のもと、時期変遷や地域内・地域間での共通点と相違点を抽出する作業を通じて、官衙の特性や地域の特徴とそれらの事象の歴史的意義づけを論じることができ、特に廃絶期の廃棄土坑を巡る議論は当初予想を超えて新たな研究の視点をもたらした。③発展性においては、郡庁域は地方官衙の中枢遺構群として、さらに多くの地域・遺跡での分析を通じて、より豊かな成果を得ることができ、その歴史性を描くことが可能となる。こうした見通しと新たな課題を、参加者も含めて共有することができた。④効率性においては、資料集成を先行して行い、報告者と共有して、研究の速度向上に努めた。⑤継続性においては、当研究所の事業として、20 回目の研究集会を開催したことは大きな功績であり、継続的に当研究所内外から積極的な情報提供や研究集会への参加等を得ていることは評価に値する。例えば本研究集会報告書バックナンバーは当初予想を超えて多方面から強く希求されている。以上から、事業を計画通り着実に遂行したと言える。

観点	①　適時性	②　独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) ・論文等数　7 件(うち当研究所 1 件)　・研究発表等数　7 件(うち当研究所 1 件) ・報告書等の刊行数　3 件（①②③） ・研究集会参加者 138 名。アンケート・回収率 127 名(回収率 92%)　大変有意義 82 名、有意義 41 名、普通 3 名、あまり有意義ではなかった 0 名、有意義ではなかった 0 名、無回答 1 名。	定量評価 －

①『第 19 回古代官衙・集落研究集会報告書　官衙・集落と土器 2』（奈良文化財研究所研究報告 18）12 月
②『第 20 回古代官衙・集落研究集会　郡庁域の空間構成　研究報告資料』12 月
③『政庁域（郡庁・国庁・宮殿他）遺構集成』（第一分冊　図版編、第二分冊　表編）12 月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	当初計画通り研究集会を実施し、報告書を刊行することができ、研究集会報告・討論を通じて、古代国家形成の分析や古代都城研究に資する研究成果を得た。また、全国の文化財担当職員等との調査・研究情報の交換を通じ、研究の質的向上に資した。さらに、研究報告書の刊行によって研究成果を公表し、国民共有の財産となった。 本研究集会及び報告書は、古代国家形成・古代都城研究に有益で、また全国の地方自治体の埋蔵文化財担当職員等の参加者からの期待も大きい。今後も継続的に事業を推進する必要があり、適切なテーマ設定による質の高い研究集会の開催を進めていきたい。

【書式C】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　2134F-イ2

中期計画の項目	2-(1)-③-4)	新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
年度計画の項目	2-(1)-③-4)-イ	③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 4)全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。 イ　古代官衙・集落遺跡に関する研究集会、古代瓦に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。
プロジェクト名称	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	
都城発掘調査部（平城）	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 渡辺晃宏(副部長)、○清野孝之（考古第3研究室長)、今井晃樹（主任研究員）ほか	

【年度実績と成果】

(1) 第17回シンポジウム　8世紀の瓦づくりⅥ「飛雲文軒瓦の展開」(29年2月4～5日、於平城宮跡資料館講堂）を開催。研究報告は、
林正憲「平城京の飛雲文軒瓦」、田中久雄「近江の飛雲文軒瓦1」
北村圭弘「近江の飛雲文軒瓦2」、佐藤隆「摂津・河内の飛雲文軒瓦」
中島信親「長岡京の飛雲文軒瓦」、前田清彦「三河の飛雲文軒瓦」
山口耕一「下野の飛雲文軒瓦」、須藤梢「伊勢の飛雲文軒瓦」
長谷川一英「備前・備中の飛雲文軒瓦」
の計9本。
報告後、報告者を中心とした総合討論会を開催し、会場からの質問や意見を交えつつ、討論を行った。
シンポジウムに際しては、発表要旨集（①）を編集・刊行し、参加者等に配布した。

(2)『古代瓦研究Ⅶ』(②)の刊行。
第14・15回シンポジウムの報告書を刊行し、研究成果の公開を行った。

総合討論の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、古代瓦の調査・研究推進上における重要かつ適切な課題を設定し、第17回研究集会を開催した。25・26年度に開催した第14・15回シンポジウムの成果を、遅滞なく研究報告書として刊行し、広く公開した。②独創性については、従来、散発的にしか取り上げてこられなかった飛雲文の資料について集成を行い、全国的視野で総合的に検討した結果、この文様の出現時期が奈良時代半ばには出現し、平安時代に入ってもなお、使用されていることが判明したのみならず、各地への伝播の仕方が複雑であるという予想外の事実が明らかになった。③発展性においては、②で今回新たに明らかになった各地の飛雲文の系譜関係を追究していくことで、国府や国分寺と中央といった一方向の関係だけではなく、地方相互の関係を考えていくことが可能となるという、予想外の新知見を得た。④効率性においては、報告者との十分な打ち合わせを行うことで、研究や報告の重複を避けることに努めた。⑤継続性においては、当研究所の事業として17回目のシンポジウムを開催した。研究所内外から積極的な情報提供やシンポジウムへの参加を得ている。
以上から、本事業を計画通り着実に実施したと言える。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) ・論文等数　9件(うち当研究所1件)　　・研究発表等数　9件(うち当研究所1件) ・報告書等の刊行数　2件（①②） ・研究集会参加者118名。アンケート・回収75名(回収率64%)	定量評価 －

①第17回古代瓦研究会シンポジウム「8世紀の瓦づくりⅥ　飛雲文軒瓦の展開」(発表要旨集）29年2月
②『古代瓦研究Ⅶ　－平城宮式軒瓦の展開1　6225－6663系－　－平城宮式軒瓦の展開2　6282－6721系－』29年2月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	遺物及び遺構の解明とその保存・活用の促進等を図るため、官衙・集落遺跡、古代瓦等に関し全国的な情報収集及び連携に基づく調査研究を実施し、成果を公開する。
評定理由及び今後の見通し	当初の計画通りシンポジウムを実施し、報告書を刊行することができ、シンポジウムの報告・討論を通じて、当該時期における中央と地方との関係のあり方を明らかにする研究成果を得た。また、全国の文化財担当職員、大学の研究者等との調査・研究・情報の交換を通じて、今後の古代瓦研究の向上に貢献した。さらに、研究報告書の刊行によって研究成果を公表し、国民共有の財産とした。本研究集会及び報告書は、古代瓦研究だけではなく古代都城、国府、国分寺、地方官衙の研究にも有益で、全国の地方自治体の埋蔵文化財担当職員等の参加者からの期待も大きい。今後も継続的に事業を推進し、適切なテーマ設定によるシンポジウムの開催を進めていきたい。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2211E

中期計画の項目	2-(2)-①-1)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-1)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1)デジタル画像の形成方法等の研究開発 高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する多様な情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するとともに、その公開を目指して、調査・研究を行う。
プロジェクト名称	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○二神葉子（文化財情報研究室長）、城野誠治（専門職員）、福永八朗（アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○デジタル画像の形成方法の研究開発

・不規則な平面を有する文化財の画像情報の取得・形成やガラス乾板など古写真の情報の活用を中心に検討した。所内プロジェクト、外部資金による他プロジェクトとも連携し、多数の文化財の光学的調査を実施した。

・媒体が脆弱で劣化が進み、資料情報の保全に緊急を要するガラス乾板からの画像取得については、当研究所所蔵のみならず、京都府教育委員会と覚書を交わして「京都府所蔵資料のデジタル化事業」を実施するなど、過去の文化財の姿を伝える貴重な資料を含んだ画像情報の利活用の促進のため、外部機関が所蔵するガラス乾板からの画像取得を実施した。

○他機関と連携による情報共有・公開情報の作成

・文化財アーカイブズ研究室と連携し、奈良国立博物館・東京文化財研究所共同研究成果報告《国宝　絹本著色十一面観音像》を 12 月 21 日ウェブ公開するにあたり、軽快な高精細画像の拡大・縮小に加えて、蛍光X線分析による調査が行われた画面上のポイントと分析データを紐付けして公開できるように加工した。

・『春日権現験記第一巻・第二巻　光学調査報告書』を 29 年 3 月 31 日付で刊行した。

文化財写真に関するワークショップ

○文化財の画像情報の取得・形成

・12 月 20 日に「文化財写真に関するワークショップ」を開催し、文化財の写真を業務や調査研究で扱う学芸員や研究者、大学院生などに対する普及啓発を図った。
講演　皿井　舞：文化財写真とはーその意味と活用ー
講演　城野誠治：文化財写真に必要とする情報ー写真で何を捉えられるのか
実演：文化財写真撮影の実際

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、高精細の画像取得は我が国の文化財に対する国内外の関心に応えるものである。また、ガラス乾板は乳剤の寿命に達しており画像消失の恐れがあることからも、時宜に適ったものである。②独創性においては、光学的調査に際しては、独自に開発・選択した技術・機材を最大に活用することができた。③発展性においては、成果報告《国宝　絹本著色十一面観音像》では、撮影に用いた光源から任意の 2 種による画像を表示して同時に拡大・縮小でき、100 点余りの蛍光 X 線分析の全データを掲載するなど、紙媒体にはないウェブ公開の特徴を最大に生かした。④効率性においては、当初計画を見直し、画像形成技術について紹介する公開ワークショップを開催し、成果公開物の刊行のみに頼ることなく、効率よく活動を所内外に伝達できた。⑤継続性においては、光学的調査をも継続的に実施した。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値）刊行物 1 点（①）	⑥定量評価
		－

①『春日権現験記第一巻・第二巻光学調査報告書』（東京文化財研究所、29 年 3 月 31 日）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財の現状及び経年劣化等の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成や 3D 記録製作等について研究開発を進める。
評定理由及び今後の見通し	上記の中期計画の記載事項についていずれも所期の目標を達成した。29 年度以降も、運営費交付金や外部資金による他プロジェクトと連携し、効率的に調査研究を実施する。研究成果については、中期計画 2－（4）「文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用」と連携し、ウェブによる発信に引き続き努める。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2212F

中期計画の項目	2-(2)-①-2)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-2)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用に関する研究を行う。特に、情報取得手段としての遺跡探査と遺構･遺物の計測、それらの成果を活用する方法について研究を進める。
プロジェクト名称	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○金田明大（遺跡・調査技術研究室長）、山口欧志（遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー）、西村康（客員研究員）ほか3名	

【年度実績と成果】

○恭仁宮跡（宝幢想定地、京都府）での探査を実施した。
○平城宮、東大寺、飛鳥・藤原地域等における、コンピュータービジョン SLAM 等（カメラを用いた3次元計測技術）を応用した手法による遺構計測を実施した。
○熊本地震で被災した熊本城の石垣崩落状況計測・記録のための準備調査を行った。
○日本文化財科学会第33回大会において、計測・探査の成果を発表した。
○フランス CNRS にて日本の文化財計測技術について講演した。
○CAA2016、 The Eighth World Archaeological Congress で発表した。
○考古資料の形態に関する統計的手法を用いた基礎的研究を行った。
○熊本地震に対応し、近世城郭(延岡城、宮崎県)の石垣の探査・計測手法の研究を行った。
○SfM/MVS 技術（多視点ステレオ写真測量）を応用した手法による各種遺構や瓦等の遺物の計測(図)を行った。
○レーザースキャナーによる各種文化財の三次元計測手法の研究を行った。
○簡便で安価な三次元計測手法の研究と普及・技術移転に取り組んだ。

図　SfM を利用した軒丸瓦の計測成果

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、地方公共団体等において計測・探査実施あるいは技術指導を行ったことに加え、災害復旧に伴う緊急の調査に即応して成果を上げた。②独創性において、機器等を改良して文化財に特化した手法を確立し、新しい手法として普及を図っている。③発展性においては、既存の調査・研究の蓄積との連携に配慮しながら、地方公共団体等で簡便かつ廉価に導入可能な三次元計測手法を開発しており、今後これらの手法が基礎的な記録手段として広範に普及していくと考えられる。④効率性において、遺跡・遺物の詳細なデータを従来の数十分の一の時間と労力で計測・記録する手法を、低コストで実現しつつある。⑤継続性においては、独法化以前からの研究資産・研究水準を引き継ぎつつ、不断の技術改良と現在の文化財研究及び保護に要求される水準に沿った研究を進め、成果を上げている。以上の様に、所期の目標を上回る成果が得られていると認められ、Aと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値）探査件数：8件　計測件数：45件 論文件数：18件（①） 発表件数：21件（②・③）	定量評価 －

①How to classification? :A trial examining the effectiveness of an elliptic Fourier descriptor for Japanese archaeological studies.　金田明大　CAA2016　4月1日　他17件
②The Japan GIS database of the Histrical Natural Disaster and Hazards using research data of Archaeological excavation, Geological survey and Histrical documents. 村田泰輔 The Eighth World Archaeological Congress.　343-345　8月28日
③Human resource development in the field of digital documentation of cultural heritage in Mongolia. 山口欧志　The Eighth World Archaeological Congress.　195　8月28日　他19件

中期計画評価	A

中期計画記載事項	遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の探査・計測等の調査手法に関する研究開発を進める。
評定理由及び今後の見通し	28年度は、考古学研究及び発掘調査の手法開発に寄与する研究開発と成果の普及を行い、著しい成果を上げた。特に地方公共団体等で実践可能な手法の研究開発に注力した。さらに、考古遺物の不時発見や被災などに起因する、地方公共団体等からの緊急支援要請にも対応した。このほか、発掘調査及び遺物整理作業に有用な器具類の開発など、埋蔵文化財の調査に資する基礎的研究に着手した。 29年度以降は、これらの多種・多様な研究開発を継続するとともに、国内外から寄せられるさらに多くの支援要請に応えるために、十分な人的、予算的措置を講じていきたい。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2213F

中期計画の項目	2-(2)-①-3)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-3)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資するとともに、年輪データの蓄積を進める。特に、奈良文化財研究所で開発、実用化したマイクロフォーカスＸ線ＣＴを用いた非破壊調査手法により、調査対象の拡充と活用を図り、これらの研究成果を公表する。
プロジェクト名称	年輪年代学研究	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○小池伸彦（センター長）、大河内隆之(主任研究員)、星野安治(年代学研究室研究員）ほか４名	

【年度実績と成果】

○出土品、建造物、美術工芸品等の多岐に亘る木造文化財を対象とした年輪年代及び樹種同定調査を実施。

○出土遺物の調査研究:平城第 530 次調査（当研究所旧庁舎下）から出土した多数の斎串を年輪年代学的な視点から観察することで、同材に由来する群に分類し、製作の経緯について検討するという新たな視点を打ち出し,「年輪年代学的手法を用いた木器の接合検討－出土木器研究の新展開－」として日本文化財科学会第 33 回大会にて発表、第 10 回ポスター賞を受賞。

○建造物の調査研究：国宝薬師寺東塔の年輪年代を明らかにした。初重・支輪裏板の部材には樹皮が残存しており、729 年・730 年の年輪年代が得られ、これは 730 年頃に東塔が完成したという見解と非常によく一致する。

○美術工芸品の調査研究：輪王寺三仏堂の仏像群が解体修理されているのにあわせ、美術院京都修理所や輪王寺で年輪年代調査を実施し、近世初頭の年輪年代情報を得た。

○マイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置を用いて、木造彫刻や美術工芸品等の非破壊調査を行い、その成果を A nondestructive dendrochronological study on japanese wooden shinto art sculptures using micro-focus X-ray Computed Tomography (CT) Reviewing two methods for scanning objects of different sizes として Dendrochronologia 誌（英文査読誌）に発表。

○従来は調査対象から薄切片を採取してプレパラートを作成し、顕微鏡で観察していた樹種同定方法に代わる新しい手法として、ナノ（1/1000μm）レベルの高分解能を持つ最新鋭のＸ線ＣＴ装置（ベルギー製）を用いた非破壊による樹種同定方法の技術開発に着手した。なお実験にあたっては、この装置を日本で唯一設置しているベルギーのメーカー日本法人のマシンタイムを利用して実施している。

平城第 530 次調査出土斎串

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、当研究所で実施している発掘現場や薬師寺東塔・輪王寺三仏堂の仏像群などの解体修理現場の進捗状況に的確に対応し、年輪年代調査・樹種同定調査を迅速に実施した。②独創性において、従来は年代測定を目的に活用されてきた年輪年代学的手法を木製品の製作経緯の考究に活用するなど、独創性を発揮した。③発展性において、文化財の調査研究におけるＸ線ＣＴの活用範囲を従来の年輪年代測定を目的としたマイクロレベルの使用から樹種同定を目的としたナノレベルの観察へと拡張させた。④効率性において、デジタル画像技術の活用により、当研究所旧庁舎下から出土した多数の斎串や薬師寺東塔の解体部材など、数多くの調査対象について効率的かつ正確に年輪年代調査を実施した。⑤継続性において、樹種・地域ごとの年輪データの蓄積を継続的に実施し、年輪データのクロノロジーの充実を図っている。以上の様に、所期の目標を上回る成果が得られていると認められ、Ａと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) 論文等：5 件（①） 発表等：11 件（②③）	定量評価 －

①A nondestructive dendrochronological study on japanese wooden shinto art sculptures using micro-focus X-ray Computed Tomography (CT) Reviewing two methods for scanning objects of different sizes, Dendrochronologia 38, 6 月。ほか 4 件

②年輪年代学的手法を用いた木器の接合検討－出土木器研究の新展開－, 浦蓉子, 星野安治, 日本文化財科学会第 33 回大会, 6 月 4 日,（日本文化財科学会第 10 回ポスター賞）

③「マイクロフォーカスＸ線ＣＴを用いた国産ヴァイオリンの非破壊による年輪年代学的研究 －鈴木政吉の製品と作品を中心に－」大河内隆之, 井上さつき, 桐山建志, 安江恒, 日本写真学会年次大会, 6 月 8 日,（日本写真学会最優秀ポスター賞）ほか 9 件

中期計画評価	A

中期計画記載事項	年輪年代調査による木造文化財の年代確定に資するため、年輪データの地域性に関する研究を進める。また、年輪年代の非破壊調査等の新たな手法に関する研究開発を進める。
評定理由及び今後の見通し	年輪年代測定や樹種同定を通して各種文化財の研究に資する情報を提供することができた。とりわけ、薬師寺東塔の年輪年代が明らかになったことは、建築史・美術史・考古学等の研究に大きく寄与するものである。また、従来主に年代測定の手段としてのみ使用されるこのと多かった年輪年代学を木製品の製作の経緯を考究する手段へと昇華させた点も、28 年度の大きな特徴である。地域性に関しては、ヒノキの北限に近い金光寺（福島県）や輪王寺（栃木県）で実施事例を重ねることができた。 当研究所にマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置が導入されて 13 年になるが、その装置を用いて多数の調査研究を進めるとともに、技術の進歩に即して更に高解像度の装置を視野に入れた技術開発にも着手し、非破壊による文化財の調査研究を今後も牽引していく役割を担うことになろう。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2214F

中期計画の項目	2-(2)-①-4)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-①-4)	①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発 遺跡から出土する動植物遺体の調査を実施して古環境や動植物資源利用の歴史を明らかにするとともに、多様な調査手法の可能性を検討する。また、環境考古学研究の基礎となる現生標本を継続的に収集して、公開する。
プロジェクト名称	動植物遺存体の分析方法の研究開発	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○小池伸彦（センター長）、山崎健（環境考古学研究室研究員）、松崎哲也（環境考古学研究室アソシエイトフェロー）ほか3名	

【年度実績と成果】

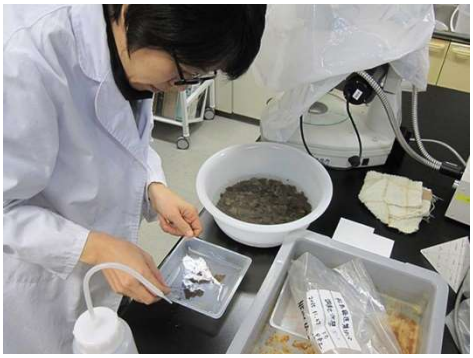
○　中沢遺跡（岩手県）、金井東裏遺跡、金井下新田遺跡（以上、群馬県）、六反田南遺跡（新潟県）、石船戸遺跡（新潟県）、保美貝塚（愛知県）、藤原宮跡（奈良県）などの遺跡から出土した動物遺存体や骨角製品を分析した。

○　藤原宮朝堂院朝廷、藤原宮大極殿院、平城京朱雀大路、平城京右京一条二坊・二条二坊、平城京左京二条二坊十一坪において、古環境復原のための調査を行った。

○　現生標本の収集と公開では、ニホンジカの角の切断標本などを作製するとともに、三次元計測による立体的な骨格図譜の Web サイトを拡充・更新した。

○　研究成果の発信として、 World Archaeological Congress、日本動物考古学会、条里制・古代都市研究会などで研究発表を行った。

○　研究成果の社会還元や普及事業として、国民文化祭で講演をした。



平城京から出土した葉の調査

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、地方公共団体からの多様な要請を受け、環境考古学に関する研究・分析を行った。さらに、東日本大震災の復興事業で需要の高い整理作業や報告書作成を支援した。②独創性において、非接触三次元レーザースキャナーによる現生骨格標本のデジタルアーカイブ化を実現し、新たな標本活用方法を提供している。③発展性において、幅広い時代や地域の動植物遺存体の調査研究を進めて、動植物利用の歴史を明らかにした。④効率性において、一定の精度を確保しつつも分析方法の効率化を図ることで、全国からの緊急の要請にも対応することができた。⑤継続性において、研究の基礎となる現生標本を継続的に収集・作製・管理・公開した。以上の様に、所期の目標を十分に達成していると認められ、Bと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 論文等数：7件（①） 研究発表等数：8件（②③）	定量評価 －

①山崎健「西日本における縄文時代の動物遺体―縄文海進最盛期の研究動向―」『考古学ジャーナル』694、29 年 2 月 28 日　他 6 件

②山崎健他「藤原宮跡から出土した馬の飼育形態と産地推定」『日本動物考古学第 4 回大会』、6 月 19 日

③山崎健「渥美半島の貝塚からわかる縄文時代の暮らし」『渥美半島の縄文文化をさぐる』第 31 回国民文化祭あいち 2016 シンポジウム、11 月 23 日　他 6 件

中期計画評価	B

中期計画記載事項	過去の生活・生業活動の解明等を図るため、分析に必要不可欠な現生の動植物標本を収集・整理するとともに、発掘調査等で出土した動植物遺存体等の調査手法に関する研究開発を進める。
評定理由及び今後の見通し	地方公共団体等からの要請に対応しながら、緊急性の高い復興支援に従事し、幅広い地域や時代の調査研究を順調に遂行した。さらに、研究の基礎となる標本の収集を継続的に実施するとともに、公共性の高いデジタルアーカイブ化を進めることができた。論文数や研究発表数も所期の目標を十分に達成している。29 年度以降も引き続き、現生標本を収集しながら、出土した動植物遺体の調査研究を実施する予定である。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2221E

中期計画の項目	2-(2)-②-1)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-1)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 1)生物被害の予防と対策に関する調査研究 歴史的建造物、古墳環境など生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、簡易・迅速な生物モニタリング手法に関する基礎研究を行うとともに、虫菌害被害を受けた文化財に対する環境低負荷型の防除方法や生物被害痕跡のクリーニング技術の開発に向けた基礎研究を行う。
プロジェクト名称	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○佐藤嘉則（主任研究員）、小峰幸夫（アソシエイトフェロー）、岡田健（センター長）	

【年度実績と成果】

○　虫害のある歴史的建造物について環境低負荷型の温風殺虫処置方法について研究を進める中で、処理効果を判定するための害虫生息調査を日光山内の社寺において実施した。その際、従来の粘着性トラップ調査に加えて、飛翔性昆虫を衝突させて捕獲するフライト・インターセプション・トラップ（FIT）を新たに適用し、現地での実証実験を行った。

○　石人山古墳にある石棺表面に繁茂する緑色着生生物について、次世代シーケンス解析を用いて群集構造を明らかにし、成果を学術雑誌を通して発信した。緑色着生生物の制御方法を検討するための基礎情報になることが期待される。

○　微生物被害痕跡の修復に際して、酵素を用いたクリーニングを実施するため、各酵素の基礎的な性状分析（夾雑活性など）を行い、酵素の利用可能性について評価を行った。

○　浮遊菌を簡易・迅速に測定できる機器を用いて、博物館において適応した事例について調査結果を学術雑誌にまとめた。

日光山内の社寺に設置したFITの写真

○　津波被災文化財等の生物劣化現象の記述と初期対応に関する基礎研究を実施した。特に、木製の民俗資料に発生したカビについて、木材分解性や耐塩性などの生理生化学的な性状分析を行った。津波による文化財の微生物被害については、国際的にも研究報告がほとんどないため、28年度に得られた成果は、国際的な学術雑誌への成果発信を行う予定である。

年度計画評価　A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性及び②独創性においては、高い需要が期待される歴史的建造物の温風処置方法の実施に向けた研究に着手し、殺虫処理評価のための害虫分布調査においても、従来法に加えて独自性の高いFIT法を適用し十分な成果を得た。③発展性においては、屋外の装飾古墳石棺表面の藻類の制御について、先端的な分析手法を用いた群集構造解析を行った研究成果を発信し、屋内の展示収蔵環境での生物被害の予防と対策に関しても、浮遊菌の簡易迅速測定法の利用可能性について検討したことは屋内外の他の文化財への展開という観点でも極めて意義がある。⑤継続性においては、津波被災文化財の微生物調査とそれに基づく初期対応の在り方についての研究を災害時でない現況においても継続しており、着実に成果を蓄積している。そして研究成果の社会還元を目的とした教育普及において、学会、シンポジウム、研修講師を通じて生物被害に関する知見の広報を継続的に行った。④効率性においては、以上の業務をプロジェクトスタッフそれぞれの専門性を生かして分担しながら効率よく遂行することができたといえる。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値）・論文等　1件（①）、報告等　3件（②、③、④）：合計　4件 ・学会発表　2件、研究会講演等　3件：合計　5件	定量評価 －

①佐藤嘉則、西澤智康、小沼奈那美、犬塚将英、森井順之、木川りか、朽津信明：石人山古墳装飾石棺表面に形成した着生生物群集の構造解析、『保存科学』56号、1-14、29年3月；②小峰幸夫、原田正彦、斉藤明子、佐藤嘉則、木川りか、藤井義久：日光の歴史的木造建造物における新たなモニタリング手法の実用性と捕集テープ調査の集計報告、『保存科学』56号、77-88、29年3月；③間渕創、佐藤嘉則：バイオエアロゾル測定を用いた博物館施設におけるゾーニングについて、『保存科学』56号、89-98、29年3月；④竹口彩、藤原裕子、藤井義久、木川りか、佐藤嘉則、古田嶋智子、犬塚将英：湿度制御した温風処理による漆仕上げ材の表面ひずみの測定、『保存科学』56号、165-174、29年3月

中期計画評価　B

中期計画記載事項	大規模燻蒸に替わる虫菌害対策のシステム化をより向上させるため、浮遊微生物量の短時間・連続測定など新しいモニタリング技術について基礎研究を行う。屋外環境においては、木造建造物や古墳など環境制御が困難な場所における生物被害の予防策および対処法に関する調査研究を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画の初年度として、歴史的建造物に対する環境低負荷型の殺虫方法の実施に向けた害虫生息調査において新規手法を取り入れて遂行し、処理後の評価を行う調査研究を計画の通り実施した。簡易・迅速な新しい生物モニタリング手法に関する基礎研究についても当初の計画通り研究を遂行することが出来た。生物被害痕跡のクリーニング技術の開発に向けた基礎研究についても成果を得ることが出来た。以上の理由から、中期計画の初年度として順調に研究業務が遂行されたといえる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2222E

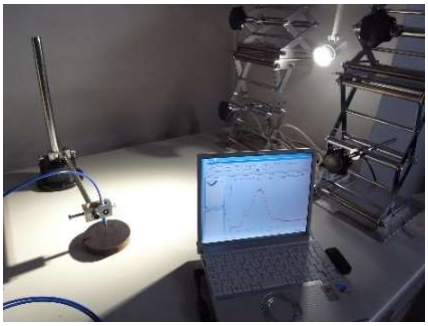
中期計画の項目	2-(2)-②-2)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-2)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 2)文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 全国の文化財施設における白色 LED、有機 EL 光源の導入状況を把握するとともに、資料保存上、また展示照明としての問題点を抽出し、その原因の科学的検証を行うための実験システム構築に着手する。さらに、展示ケース内汚染物質軽減方法の検討と清浄化マニュアルの作成を行う。
プロジェクト名称	保存と活用のための展示環境の研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○吉田直人（保存環境研究室長）、石井恭子（研究補佐員）、呂俊民（客員研究員）	

【年度実績と成果】

○保存担当学芸員研修修了者の所属館に対し、白色 LED 導入状況や効果等を把握するためのアンケート調査を実施、113 件の回答を得た。集計の結果、およそ 6 割の施設が展示照明に白色 LED を導入していること、従来照明との比較において、色彩等の相違を認識するケースが少なくないことが判明した。

○光源の LED への転換に伴う展示効果の相違を科学的に検証するための実験システムを構築し、直管形白色 LED と蛍光灯照射時の彩色手板表面における光拡散の比較を行い、照射角と観察角による影響について知見を得た。

○有機 EL による展示照明を試験的に行っている施設の視察を行い、赤系色の発色が高いことや、照明によっては照射角によって光色に変化が生じる現象を確認した。



彩色材料への白色 LED 光照射実験

○展示ケース内のガス濃度評価方法、またこれを軽減するための吸着剤による効果を上げるためのファンの使用、展示台の遮蔽方法などに関する検討を行った。また、これまでの成果をもとに、学芸員向けの展示・収蔵空間における「空気環境改善マニュアル」を作成した。

○成果公表（論文 1 件、学会発表 5 件）を行った。また、展示照明としての LED や有機 EL に適用されるべき指針に関する研究会を一般社団法人照明学会の協賛のもとで実施した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、展示照明における LED の検証と空気環境清浄化は現在の文化財施設における大きな関心事であり、これらに取り組んで多大な成果を挙げていることからＡ判定とした。②独創性においては、実測とシミュレーションの両面から検証を行い、理論的裏付けが担保された結果を得た。③発展性においては、実際の展示空間への適用が可能なモデルによる基礎研究を通じた実証的検証を行った。④効率性においては、シンプルかつ様々な検証項目に適用できる照明実験システムや実大展示ケースによる研究を行った。⑤継続性においては、研究会等を通じて学芸員等への成果普及を行うことによって、新たな研究ニーズを見出すことが出来た。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）論文 1 件（①）、学会発表 5 件（②～⑥）、研究会 1 件（⑦）	定量評価 －

①吉田直人 他：彩色材料への直管形蛍光灯と白色 LED 光照射時における反射スペクトルの比較 『保存科学』56 号 pp. 143-153

②古田嶋智子 他：実験用実大展示ケースを用いたケース内空気環境の研究-展示ケース内温湿度の測定と CFD 解析- 文化財保存修復学会第 38 回大会 6 月 25 日 ③須賀政晴 他：実験用実大展示ケースを用いたケース内空気環境の研究-気流性状の測定と CFD 解析- 文化財保存修復学会第 38 回大会 6 月 25 日 ④呂俊民 他：実験用実大展ケースを用いたケース内空気環境の研究-展示ケースのガス濃度評価方法の提案- 文化財保存修復学会第 38 回大会 6 月 25 日 ⑤佐野千絵 他：展示台からの酢酸ガス遮蔽材料についての検討 文化財保存修復学会第 38 回大会 6 月 25 日 ⑥呂俊民 他：美術館・博物館における展示空間の空気環境に関する研究 その 3. 空気清浄化機能を有した実験用展示ケースの評価 2016 年度日本建築学会大会 8 月 24 日 ⑦「保存と活用のための展示環境」に関する研究会“次世代の美術館・博物館照明指針を考える-LED・有機 EL 照明の活用に向けて-”29 年 2 月 20 日 東京文化財研究所

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財の展示照明として導入が進む白色 LED、有機 EL 光源が文化財の保存に与える影響並びにその展示照明としての評価方法を検討する基礎研究を実施し、照明に関する新たな基準作成に資する。また、文化財に影響を与える展示ケース内汚染物質の軽減方法に関して検討を行い、空気清浄化マニュアルを作成して成果普及を図る。
評定理由及び今後の見通し	中期計画をベースとした年度計画に沿って順調に成果を挙げた。今後、保存と活用の両立の観点から、さらに LED や有機 EL の展示照明としての適性評価に資する研究を推進し、また完成した空気環境改善マニュアルの全国の文化財施設への普及を図りたい。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2223E

中期計画の項目	2-(2)-②-3)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-3)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 3)可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究 複数の小型可搬型機器を活用して、絵画・工芸品等に関する高精度な材質・構造・状態調査を行う。新たに導入した可搬型X線回折装置、小型FCR現像機のその場分析への適用を進める。
プロジェクト名称	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○犬塚将英（分析科学研究室長）、早川泰弘（副センター長）、城野誠治（文化財情報資料部専門職員）	

【年度実績と成果】

○可搬型分析装置を用いたその場分析

・可搬型蛍光X線分析装置による材料調査として、絵画や建造物の彩色材料、さらには工芸品や金銅仏などの調査を実施した。琉球絵画における彩色材料の特徴を顕在化させることができ、同時代の日本絵画との比較も行った。また、金属製品の調査では、真鍮の利用実態調査を進めるとともに、金銅製作品の地金・腐食生成物の高精度分析を検討した。

・新たに導入した可搬型X線回折分析装置を用いて、煉瓦造建造物（INAXライブミュージアム）に析出している塩類のその場分析を実施した。また、この分析結果と据置型分析装置を用いて分析した結果とを比較することにより、可搬型X線回折分析装置を用いたその場分析の有用性の評価を行った。

・小型FCR現像機を用いて、高解像度X線透過撮影及び定量的な計測に関する検討を行った。

可搬型X線回折分析装置による煉瓦造建造物の調査

○検出器開発

・可搬型X線回折装置への適用を目標として、2次元イメージング検出器の開発を行った。ガス電子増幅フォイルと新しい信号読出しを行う基板を搭載した検出器を用いて、粉末試料にX線を照射した時の回折像を検出する基礎実験を行った。

○研究成果発表

・これまでに実施した絵画や建造物の調査結果や検出器開発のための基礎実験に関する論文3件、学会発表1件の研究成果発表を行った。また、これまでに光学調査を実施した琉球絵画に関する光学調査報告書を刊行した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、絵画、建造物、工芸品、金銅仏等の様々な文化財の調査時に、それぞれの調査の目的に応じて最適な分析手法を選択し、可搬型分析装置を用いた分析調査を迅速に実施した。②独創性においては、文化財調査の分析手法の改良の一環として、X線検出器の開発を独自に進めている。基礎実験の結果、粉末試料にX線を照射した時の回折像を捕えることに成功した。③発展性においては、異なる分析手法から得られる結果を総合的に解析することにより、文化財の材料と保存に関する新たな知見が期待できる。④効率性においては、分析装置、データ解析の手法等の改良を重ねることにより、分析調査の効率が向上した。⑤継続性においては、類似した文化財に対して同一の手法を用いて分析を継続することにより、分析結果の正確性を維持している。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値）論文等3件（①、②、③）、学会発表等1件（④）、報告書等1件（⑤）	定量評価 －

①犬塚将英、房安貴弘：文化財の材質調査のための2次元イメージング検出器の開発、保存科学56、29年3月、②佐々木淑美、犬塚将英：煉瓦造文化財の保存環境と塩類析出に関する調査、『保存科学』56号、29年3月、③早川泰弘：国宝慈光寺経における真鍮泥の利用について、『保存科学』56号、29年3月、④早川泰弘、犬塚将英、城野誠治：サントリー美術館所蔵 重要文化財四季花鳥図屏風の彩色材料調査、日本文化財科学会第33回大会、6月4日～5日、⑤『琉球絵画 光学調査報告書』、29年3月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	各種の可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造に関する調査方法を確立し、日本絵画における顔料の変遷についての研究を進めるとともに、金工品等における黄銅（真鍮）材料の利用実態を明らかにする。新たに可搬型X線回折装置を導入し、各種文化財の保存状態等に関する調査研究を進める。
評定理由及び今後の見通し	各種の可搬型分析機器を用いた分析調査を行ったことにより、日本絵画で用いられている顔料についての研究成果が得られた（論文1件③、学会発表1件④、報告書1件⑤）。新たに導入した可搬型X線回折装置を活用することにより、金属製品に見られる腐食生成物の詳細な分析、及び建造物に見られる析出塩類のその場分析（論文1件②）を実施することができた。中期計画初年度に得られたこれらの新たな分析結果を参考にしながら、29年度以降は文化財の劣化原因や保存方法に関する調査への発展も検討している。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2224E

中期計画の項目	2-(2)-②-4)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究究
年度計画の項目	2-(2)-②-4)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 4)屋外文化財の劣化対策に関する調査研究 屋外に所在する石造・木質文化財を対象に、覆屋の機能・遺構の露出展示に関する課題として、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を行う。また、石塔など石造文化財の災害事例及び災害対策に関する基礎的調査を行う。また、現在一時保管場所での長期的な保管を余儀なくされている被災文化財に関して、その保存・修復方法に関する研究を進める。
プロジェクト名称	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○朽津信明（修復計画研究室長）、森井順之（主任研究員）、宋苑瑞（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

屋外に位置する美術工芸品や文化財建造物等の劣化要因となる周辺環境の変化について、以下の通り調査研究を進めた。

○覆屋の劣化軽減機能に関する調査研究では、石塔にかかる覆屋を対象に、覆屋が開放している場合（東根供養塔）、覆屋の窓がガラスの場合（関戸宝塔）、覆屋の窓がポリカーボネートの場合（山上多重塔）で、石塔にあたる照度及び紫外線強度の長期連続観測を 12 月まで実施し比較検討を行った。

○遺構の露出展示に関する調査研究では、遺跡だけではなく自然史資料にも範囲を拡大し調査を行った。主な調査地は、地震痕跡：丹那断層、郷村断層、千屋断層、木戸山西方断層活断層露頭、旧相模川橋脚、地震動の擦痕、ほかにも剥ぎ取りもしくは切り取り展示された地震痕跡資料等の保存状態調査を行った。また、地層大切断面（大島町）や牧島アンモナイト館では、地層や化石の劣化状態に関する調査を開始した。

○石塔の地震対策に関する調査研究では、28 年度は熊本地震で倒壊した石塔を対象に現地調査を行った。

○過去に修復された屋外文化財の保存状態評価では、園比屋武御嶽石門、天女橋など石造文化財の調査を行うとともに、今後経過観察を継続するうえで必要な項目について過去修復に関わったものから聞き取りを行った。また、27 年度に保存修理を実施した鎌倉大仏では、損傷記録データの整理、今後大仏内での地震計測を実施するための機器選定及び研究所内での点検など準備作業を行った。

○現在旧石巻市立湊第二小学校舎内に保管されている石巻文化センター被災資料を対象に、温湿度及び虫害管理に関する技術の石巻市への移転を東北歴史博物館と共同で行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、熊本地震など直下型地震では石造文化財の被災が目立っており、二次災害の危険性も考えても対策立案のための研究は急務である。②独創性においては、今まで文化財科学分野で取扱いが少なかった自然史資料に目を向けた点が独創的であり、石造物や遺跡などの保存を行う立場からその保存活用の問題点や対策について調査を開始した。③発展性においては、遺跡の活用において新しい材料を用いる機会が増えるなか、ここで得られた基礎データの活用が今後期待できる。④効率性においては、今後調査対象とする地震痕跡について網羅的に現地調査を行い、効率的な問題点の整理を行うことができた。⑤継続性においては、多くの屋外文化財は過去の修理から年数が経っており、現在の保存状態や次期修理を見据えた調査の継続が求められる。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）論文等発表 2 件（①、②） 学会・研究発表 2 件（③、④）	定量評価 －

①保存科学から見た被災遺構の保存・活用の歴史（朽津信明、森井順之）、『保存科学』56 号、pp.15-32、29 年 3 月
②Conservation of Wareishi-jizo statue carved on granite cliff on the seashore (M. Morii, N. Kuchitsu, T. Kawaguchi, H. Matsuda and S. Tokimoto), Science and Art: A Future for Stone, pp.1211-1218, 11 月
③風化形態の違いによる砂岩の侵蝕速度の違い（朽津信明、森井順之、西山賢一）、日本応用地質学会平成 28 年度研究発表会、日立システムズホール仙台、10 月 26 日～27 日
④国宝銅造阿弥陀如来坐像の地震対策評価　その１　過去の地震被害および対策（森井順之、安井佑佳、花里利一）、2016 年度日本建築学会大会（九州）、福岡大学、8 月 25 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	屋外に所在する石造物や木造建造物等について、凍結劣化や塩類風化、頻繁な生物被害などの屋外特有の保存環境要因、及び地震や水害などの自然災害による劣化・破損を軽減するための方法について調査研究を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画に沿って順調に各種文化財の劣化に関するデータが蓄積されている。また、熊本など、実際に被災した文化財の被災状況も蓄積されつつあるので、29 年度以降、次の災害を軽減する方向性を検討する研究に進んでいく予定である。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2225E

中期計画の項目	2-(2)-②-5)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-5)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 5)文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 美術工芸品及び建造物等の修復においてこれまでに使用されてきた伝統材料及び今後使用が想定される新しい修復材料について、調査研究と評価を行う。絵絹や染織品に用いられる絹などについて、生産地における現地調査や物性調査を行う。従来修復に困難があるとされた緑青焼けなどの現象について、機構解明のための調査研究を進める。
プロジェクト名称	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○早川典子(修復材料研究室長)、國元麻里奈（研究補佐員)、菊池理予（無形遺産部無形民俗文化財研究室研究員）ほか8人	

【年度実績と成果】

1) 文化財の修復材料に関する調査
   - 屋外環境に使用する建造物修理材料の検討
     厳島神社大鳥居の修復に使用する建造物修理材料を開発し、各種条件での耐候性を検討したのち、実際の修復作業において適用した。
   - 染織品に関する調査
     藍染め、特に生葉で染めた試料と一度酸化還元後に染色した藍の試料について調査を行なった。布の種類、布の前処理の種類、染色回数を変化させて試料を作成し、可視分光分析により測定し、基礎データとした。

2) 文化財の修復技法に関する研究
   - 緑青焼けに関する研究
     緑青の種類による銅イオン濃度の違いによる緑青焼けの発生状態への影響を確認した。
   - 粘着剤の除去に関する調査
     セロファンテープ等の粘着剤テープについて、有機溶媒を用いた除去方法と強制劣化による劣化状態を基礎調査した。
   - 汚れクリーニングのための酵素の適用条件の検討
     ポリビニルアルコール分解酵素を使用するにあたり、酵素による接着剤と顔料への影響、接着剤と顔料の酵素に与える影響について検討した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、厳島神社大鳥居の修復に使用する修復材料において、芯木の腐朽を抑制する強化支持材料を開発し、成果判定の難しい耐候性テストを成功させ、28度中に実際の修復に適用することができたため、時宜に適うと判断した。②独創性においては、文化財修復に還元可能な基礎データは他では行われていない成果のためAと判定した。③発展性においては、今回の基礎データは、収集のみならず、セロファンテープや緑青焼けを起こしている修復困難な文化財のクリーニングを行う可能性を見出す基礎データとなったため、高い発展があると判断した。④効率性においては、少人数の中で複数のテーマを遂行しており、Bと判定した。⑤継続性においては、29年度以降に基礎データ、修理現場への還元を行う予定である。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断し総合評価をAとした。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・学会発表　7件（①～⑦）	定量評価 －

①琉球漆器の堆錦技法に用いる焼漆製作工程の調査研究：小川歩ほか、文化財保存修復学会第38回大会 6月26日　②紙に付着した粘着テープの劣化-有機溶媒を用いた粘着テープおよびテープ痕除去方法の検討-：内田優花ほか、文化財保存修復学会第38回大会 6月26日　③緑青および焼緑青が和紙に及ぼす影響～灰汁中の銅イオンの存在～：貴田啓子ほか、文化財保存修復学会第38回大会 6月25日　④補採用絵具として使用される棒絵の具類の接着剤について：山田祐子ほか、文化財保存修復学会第38回大会 6月25日　⑤Chemical analysis of UV irradiated B-72 by PY-GC/MS and EGA-MS：Okamoto et.al, Analytical and Applied Pyrolysis, 21th International Symposium, 5月10日　⑥粒度の異なる緑青顔料が和紙の劣化に及ぼす影響: 貴田啓子他、マテリアルライフ学会第27回研究発表会、7月14日⑦Multilateral Chemical Analysis of UV irradiated B-72、Okamoto et.al, アメリカ化学会、10月7日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	美術工芸品や建造物等の修復に貢献するため、伝統的な修復材料・技法についての科学的調査を行い、その安定性についての評価を行う。また旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。
評定理由及び今後の見通し	中長期計画に沿った成果が得られていると考えた。伝統的な修復材料・技法についての科学的調査と、新規材料・技法の開発の双方が行われており、29年度は修復現場での適用検討を行うなど、今後もこの成果を発展させることが可能であると考えられる。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2226F

中期計画の項目	2-(2)-②-6)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-6)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 6)考古遺物の保存処理法に関する調査研究 種々の材料調査分析法を総合的に活用して出土遺物の材質、構造及び劣化状態に関する診断調査を行い、保存処理法の開発に資する基礎的なデータを収集する。特に、鉄製遺物の効果的な新規の脱塩法を確立するための基礎研究を行う。また、木製遺物の物性、化学組成及び組織構造に関する基礎データを集積し、システマティックな含浸処理法に関する基礎研究を行う。
プロジェクト名称	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○高妻洋成（保存修復科学研究室長）、田村朋美、柳田明進（以上、保存修復科学研究室研究員）ほか5名	

【年度実績と成果】

○X線CT、XRF※1、XRD※2、走査型電子顕微鏡などの種々の手法を総合的に活用して奈良県飛鳥寺塔心礎出土遺物の材質・構造調査を実施することにより、真珠製遺物を検出することができた。飛鳥寺出土品の中に真珠製品が含まれることことが分かったのは本調査が初めてであるとともに、真珠の劣化形態についての知見が得られた。※1 元素に特有の一定以上のエネルギーをもつX線を照射することによって、その物質を構成する原子の内殻の電子が励起されて生じた空孔に、外殻の電子が遷移する際に放出される特性X線のこと。
※2 X線回折装置で化合物の同定・定量分析や、結晶構造の解析を行うことができる。

○伝・持田古墳群（宮崎県）出土の鉄剣について、X線透過撮影及びX線CT撮影を実施した。その結果、鉄製の刀身に象眼が施されていることが明らかとなった。また、鞘部分や銀製と思われる柄部分の構造を明らかにした。

○愛知県幸田町深溝松平家墓所出土の彩色ガラス坏について、XRFによって基礎ガラスの化学組成と彩色材料の調査を実施した。その結果、ガラスの種類は中世ヨーロッパで製作されたカリ石灰ガラスであり、黄・黄緑色部分の彩色にはアンチモンが利用されていることが明らかとなった。また、本資料は表面に銀化が生じており、剥落の危険があったため、アクリル樹脂（Paradoid B72）を複数回塗布することにより表層の剥落を防止する保存処置を実施した。

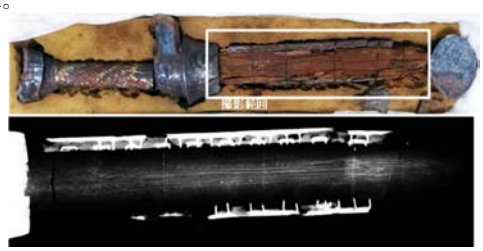


図　伝・持田古墳群出土鉄剣X線透過撮影像（刀身の象嵌）

○平城宮跡出土木製遺物を一時保管中の水槽内溶存酸素や酸化還元電位など、水質に関する基礎的なデータを収集するとともに、 大型の木製品についてPEG含浸保存処理を開始した。

○出土漆製遺物などの保存に有効なトレハロース含浸法についての基礎的な実験を開始した。

○鉄製遺物の新規の脱塩法の開発のため、塩化鉄（Ⅱ）の潮解に伴う鉄製遺物の腐食挙動を把握し、新規脱塩法の最適条件を検討した。

○「文化財調査におけるイメージング技術の諸問題」と題した研究集会を開催し（29年3月3日）、文化財の診断調査法として広く利用されるようになったX線CTをはじめとする各種イメージング技術の現状と課題について、全国の文化財担当者と情報を共有し、総合討議を通じて様々な角度から意見交換を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、金属製遺物や大型木製遺物の保存技術には未解決の部分も多く、新たな保存処理法の開発等が求められている中、新たな脱塩法開発を進めることができた。②独創性において、28年度は特に問題の多い鉄製遺物について、従来法とは異なる水蒸気移動の作用を利用した新規の脱塩法開発のための実験に着手した。③発展性において、脱塩法の開発では処理工程の最適条件が把握されつつあり、さらに基礎研究を蓄積することで安全で確実性の高い鉄製遺物脱塩法の確立に発展すると期待される。④効率性において、各種の材質構造を総合的に分析することで、効率よく遺物の診断調査を実施し、遺物の劣化原因を究明できる。⑤継続性において、平城宮跡出土遺物を対象にすることで、多くの遺物の材質・構造調査のデータを継続的に収集することが可能であり、保管環境の継続的なモニタリング体制についても構築できた。以上の様に、所期の目標を十分に達成していると認められ、Bと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ・論文等数：2件（①） ・研究発表等数：9件（②③） ・研究集会等の開催：1件	定量評価 ―

①田村朋美「鹿児島県城久遺跡群出土のガラス玉の分析」、奈良文化財研究所紀要2016、pp.50―51、6月24日　他1件
②柳田明進、脇谷草一郎、高妻洋成「水蒸気移動による出土鉄製文化財の新規脱塩法の開発（その1）塩化鉄（Ⅱ）の潮解過程における最適条件の検討」、日本文化財科学会第33回大会、6月4日。
③松田和貴・脇谷草一郎・髙妻洋成 「出土木製遺物の一時保管容器における水質の推移」日本文化財科学会第33回大会、6月4日　他7件

中期計画評価	B

中期計画記載事項	考古遺物の診断調査から得られる情報を活用し、金属製遺物の脱塩・安定化法や木製遺物のシステマティックな含浸処理法等、考古遺物を安定した状態で保存・活用するための新規の保存処理法に関する調査研究を行う。
評定理由及び今後の見通し	各種の材質・構造調査を実施することで、多角的に遺物の状態を知ることができるようになったことで、新規の脱塩方法の開発に関する実験に取り掛かることができた。また、出土木製遺物の一時保管環境の継続的にモニタリングする体制を確立し、データの収集が進んだ。以上のように、当初の計画通り順調に進捗した。29年度以降も各種の分析手法を活用して出土遺物の診断調査を進めていく予定であるが、構造調査の要であるX線透過撮影装置の老朽化が進んでおり、継続的な診断調査のためには早急な更新が不可欠である。

【書式C】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 2227F

中期計画の項目	2-(2)-②-7)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-7)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 7)遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究　環境制御による劣化抑制の成否について検証するため、平城宮跡遺構展示館等をフィールドとして、遺構の劣化の進行速度と周辺の環境についてモニタリング調査を行う。石造文化財等の劣化要因である塩析出が材料の劣化に及ぼす影響に関する基礎研究を行う。さらに、埋蔵環境における金属製品の腐食プロセスを解明するため、金属腐食実験を行い、環境因子と劣化の関係を定量的に評価する。
プロジェクト名称	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○高妻洋成（保存修復科学研究室長）、脇谷草一郎（主任研究員）、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）ほか2名	

【年度実績と成果】

○平城宮跡遺構展示館において環境調査を実施するとともに、周辺地盤での防水シート敷設など、数値解析に基づく遺構劣化の抑制試験を実施し、各方法の効果について検証した。
○大分市元町石仏の環境調査を継続して実施し、塩析出による石仏の劣化を抑制するために27年度に実施した覆屋改修の効果を検証した。また塩析出に関する室内実験を実施し、石仏周辺の温熱環境が塩析出におよぼす影響を検討した。
○塩析出時に生じる磚や石仏表面の破壊を抑制するとともに材料中の塩を除去するため、パルプを用いたフェイシング法について検討した。
○日田市ガランドヤ古墳群ほか2基の装飾古墳において環境調査を実施した。特にガランドヤ1号墳では、通年の結露抑制に効果的な換気装置およびヒーター運用方法について現地で検証作業を実施した。
○高槻市ハニワ工場公園において温熱環境調査および遺構の劣化状態調査を実施した。露出展示されているハニワ片を始めとする遺構面は、冬期において硫酸ナトリウムが析出することで著しく劣化が進行していることが明らかとなり、遺構展示館内の照明設備や換気の運用方法が塩析出に対して及ぼす影響について検討した。

図　防水シート敷設による遺構劣化の抑制効果に関する検証

○模擬古墳において炭素鋼、青銅を用いた劣化試験を行い、古墳の石室内環境が金属製遺物の腐食に及ぼす影響を検討するとともに、金属製遺物の腐食をモニタリングする室内実験から、土中の含水状態と温度の変化が腐食速度に及ぼす影響について検討した結果、金属製遺物の腐食速度は土中の含水状態が飽和状態から低下する際に増加すること、夏期の気温の上昇にともなって増加することが示された。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、平城宮跡遺構展示館では現在展示環境の改善が進められている、その問題点の一部について現場における検証作業を適切な時期におこなった。②独創性において、既往の手法が土や石材の強化に主眼を置くものであるのに対して、本研究は遺跡における熱水分移動解析に基づいて遺跡の整備後に生じる遺構の劣化を予測し、それを予め回避するために適切な環境の制御を行うことで遺構保存を実現することを目的としているのが、特徴的である。③発展性において、遺構を取り巻く環境は無二のものであるが、乾湿の繰り返しや塩類析出など、遺構で生じる劣化現象は熱、水分と溶質移動によって引き起こされる普遍的なものである。従って、本研究の知見は汎用性に富み、広範な分野にわたる様々な遺構への応用が可能である。④効率性において、フィールド調査で使用する機材や調査手法は、異なる環境下にある多種多様な遺構で使用可能なものであることから、機器類の導入経費や運用面において効率は高いと考えられる。⑤継続性において、各調査フィールドにおいて調査の長期的な目標、及び各年度の短期的な目標を明確に設定し、各地方公共団体の文化財担当者と目標・成果を共有しつつ、長期的な文化財保護行政の一環としての調査研究という位置づけを得て事業を継続している。以上の様に、所期の目標を十分に達成していると認められ、Bと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ・論文等数：2件（掲載決定、①②）　・研究発表等数：17件（③）	定量評価 —

①脇谷草一郎、桑原範好、鉾井修一、小椋大輔、高妻洋成「平城宮跡遺構展示館で汚損を引き起こす含水酸化鉄沈殿に関する検討」、考古学と自然科学、第72号、pp.1―14、29年2月
②高取伸光、小椋大輔、脇谷草一郎、安福勝、桐山京子「覆屋内温湿度変動が磨崖仏の塩類風化に及ぼす影響の数値解析―元町石仏の保存に関する研究　その1―」、日本建築学会論文集、29年3月
③柳田明進、脇谷草一郎、芥子円香、高取伸光、小椋大輔、鉾井修一「模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究　その4　石室内の温度、水分状態が金属製遺物の腐食過程に及ぼす影響」28年度日本建築学会大会、8月24日　他16件

中期計画評価	B

中期計画記載事項	遺構周辺の熱水分性状に関する環境調査及び物質移動、埋蔵環境についてモデル化を行い、遺構と埋蔵環境下にある遺物の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究を行う。
評定理由及び今後の見通し	調査研究フィールドの殆どが前中期計画から継続して調査を実施しているものであることから、28年度は本中期計画初年度としては十分量の実測データを蓄積することが出来たとともに、研究発表件数も目標を大きく上回った。さらに、遺跡保存のための環境制御法について、室内実験による検証作業にも着手したことから上記の評価を妥当と考えた。29年度以降はこれまでの熱、水分移動に加え、溶存酸素などの溶質移動も加えて埋蔵環境のモデル化を行う予定である。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2228F

中期計画の項目	2-(2)-②-8)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-8)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 8)建造物の彩色に関する調査研究　薬師寺東塔天井彩色等の材料調査を行い、使用されている材料の同定と彩色技法の調査研究を行う。復元された平城宮跡大極殿において、建造物塗装彩色の経年変化に関する研究を行うため、環境調査に用いる各種センサーの設置及び測定、大極殿塗装彩色及び暴露試験用塗装彩色手板の色彩測定を行う。
プロジェクト名称	建造物彩色に関する研究	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○高妻洋成（保存修復科学研究室長）、脇谷草一郎（主任研究員）、田村朋美（保存修復科学研究室研究員）ほか2名	

【年度実績と成果】

○薬師寺東塔天井彩色及び諸戸家住宅塗装の分析調査を行い、彩色材料について材料科学的な情報を提示した。

○平城宮跡復原朱雀門において塗装の劣化状態調査を実施した。調査の結果、塗装には剥落、亀裂、変色、退色、汚損などの劣化がみられた。北面では塗装表面の状態に大きな変化はみられないものの、全体的に退色していた。一方で、南面では表面の剥落、亀裂が顕著にみられた。変色、退色の程度を定量化するために、分光測色計を用いて、塗装の色差の測定を行った。施工時より保管されている塗見本と現状の比較をしたところ、塗見本を基準とすると、建物外側に面した測定点では色味が黄色味に転じる傾向がみられた。建物内側の測定点では直達日射・天空日射にかかわらず日射の影響が大きく、全体的に黄色味に変化していることがわかった。

図　平城宮復原大極殿日射計設置風景

○平城宮跡復原大極殿において同様に塗装の劣化状態調査を実施した。調査の結果、大極殿外部の東、西、南面で、木材の繊維方向に沿った亀裂、剥離、剥落が多くみられた。また四隅の柱では、亀裂に沿って濡れ色のような、周囲と比べ明度の低い箇所が確認された。これらの劣化におよぼす周辺環境の影響を検討するため、大極殿外周で水平面全天日射、紫外線強度、及び照度の実測調査を開始した。測定開始から 5 か月が経過した現時点では、日射量の多い順(南＞西＞東)に亀裂、剥離、剥落が顕著であることが明らかとなった。さらに、大極殿外部と内部の柱の各方位で表面温度の実測調査を継続的に実施し、各円柱の方位毎の面にどのように温度の変化が起こり、劣化に差異がみられるのかを検討した。亀裂、剥離などの劣化が顕著な外部南面で表面温度の日較差が最も大きいことが明らかとなった。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、近年、遺跡の公開・活用が重要視されるなか、遺構の展示のみならず復原建物を表示する例が散見される。本研究から得られる成果は、現存する古代の建造物の彩色保存のみならず、公開・活用のための復原建物の保存にも寄与するところ大と考えられる。②独創性において、既往の建築物塗装の劣化に関する調査では、製作当初の材料、技法及び現在に至るまでの外界気象条件について、情報があまりに不明確であったことから、塗装の劣化について精緻な検討が困難であった。しかし、本研究ではそれらの情報を得た上で、建築塗装の劣化に関する調査を実施できる点において独創性が高い。③発展性においては、遺跡の公開・活用がこれまで以上に求められる現在、その一手法として復原建物の建設は今後も一定の需要があると考えられ、本研究の成果はそれらの保存、維持に大きく寄与しうるものである。④効率性において、フィールド調査で使用する機材や調査手法は、異なる環境下にある多種多様な遺構で使用可能なものであることから、機器類の導入経費や運用面において効率性が高い。以上の様に、所期の目標を十分に達成していると認められ、Bと評価する。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) ・研究発表等数：3 件（①②③）	定量評価 ―

①長崎紀子・脇谷草一郎・髙妻洋成「特別史跡平城宮跡朱雀門の塗装劣化の特徴について」日本文化財科学会第 33 回大会（於奈良大学）、6 月 4 日

②長崎紀子・脇谷草一郎・髙妻洋成「特別史跡平城宮跡第一次大極殿正殿の塗装の現状について」文化財保存修復学会 第 38 回大会（於東海大学）、6 月 26 日

③長崎紀子・脇谷草一郎・髙妻洋成「The degradation painting of the First Daigokuden Main Hall and Suzaku-Gate」、世界考古学会議第 8 回大会 WAC-8 Kyoto 2016（於同志社大学）、8 月 28 日

中期計画評価	B

中期計画記載事項	南都の寺社等の歴史的建造物の塗装彩色の修理に資するため、技法及び材料調査を実施するとともに、復元された平城宮跡大極殿において塗装彩色の経年変化のモニタリング法に関する研究を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画初年度の 28 年度は、主に平城宮跡第極殿を調査対象として気象条件の実測調査を開始したこと、及び塗装の劣化に大きく影響をおよぼすと考えられる材料の透湿抵抗について室内実験による実測を行い、塗装に関する基本的な物性値の蓄積に着手出来たことから上記の評価が妥当と考える。 29 年度以降は大極殿を中心に、継続して定期的な劣化状態調査を実施するとともに、室内実験を通して塗装の劣化に対して環境がおよぼす影響について検討し、現地において塗装の劣化を抑制する環境制御法について検討する。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2229E

中期計画の項目	2-(2)-②-9)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-9)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 9)近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究 近代文化遺産の特徴であるレンガ・石・コンクリート・各種金属・各種合成樹脂・各種繊維等の多種多様な材料の劣化状況や保存手法に関する基礎的調査研究を行う。特にレンガ造建造物及び構造物のこれまでの修復事例調査を実施し、保存科学的観点からその修復・保存の理念を検証し、評価する。ドイツ技術博物館との共同研究をはじめ欧米での保存や修復事例調査を行う。
プロジェクト名称	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○北河大次郎（近代文化遺産研究室長）、石田真弥（アソシエイトフェロー）、山府木碧（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

○煉瓦造建造物の保存修復について

・煉瓦造建造物の保存修復に関する勉強会を計3回実施し、4つの研究テーマ（1. 材料の差し替え・積み直し、2. 目地のオーセンティシティー、3. 耐震補強、4. 防水・防湿対策）を特定した上で、現状の課題の解決に向けた研究を行った。勉強会には、文化庁職員、建築及び土木関係の研究所職員、大学教授、修理技術者が参加した。

・研究テーマの一つである耐震補強について、欧米で先進的な取組みを行っているイタリアの専門家を招き、国内の専門家と共に研究会を行った。イタリア中部では28年度、大規模な地震が続き、煉瓦等を用いた多くの組積造建造物が被災した。日本においても震災対策の重要性は年々高まっており、現地・事例調査で非常に参考になると思われたため、ドイツではなくイタリアにて調査を行った。

・上記4テーマに関連して、国内外に所在する約40件の歴史的な煉瓦造建造物等を現地調査し、修理技術者等から保存修復の理念及び技術に関するヒアリングを行った。

・現地調査を行った旧近衛師団司令部庁舎、トヨタ産業技術記念館、旧第四・第五高等中学校等に対して、今後の保存対策に関する調査・助言を行った。

○屋外展示されている大型構造物、鉄道車両、航空機等の文化財の防錆対策のため、国内6ヶ所で試験片を使った屋外暴露試験を行い、塗装の劣化と屋外環境の相関について調査を実施した。

○近現代建造物の保存と活用の在り方に関する協力者会議委員（文化庁）、全国近代化遺産活用連絡協議会協力者会議委員等として、近代文化遺産の保存と活用に関する調査・助言を行った。

○史跡佐渡金銀山遺跡、名勝錦帯橋、横手市増田伝建地区等の保存と修復に関する研究を行った。

○27年度の研究成果をまとめた報告書（日本語版及び英語版）を刊行した。

年度計画評価	B

【評定理由】

以下の各観点から評価を行った。①適時性においては、世界遺産登録、国指定等が進む一方で、保存修復の理念・技術が未だ確立していない煉瓦造建造物に関する研究であり、適時性が高い。②独創性においては、煉瓦造建造物の現代的課題を包括的に整理し、それに対して産官学の専門家と共に取り組む共同研究は前例がなく、独創性が高い。③発展性においては、現場の声を広く集め、具体事例を数多く集めた研究成果を広く周知することで、修理実務への応用が期待でき、発展性は高い。④効率性においては、具体的テーマを早い段階で絞り込み、現地調査物件についても専門家の意見を反映して厳選しており、効率性は高い。⑤継続性においては、煉瓦研究は27年度の包括的研究を踏まえて展開した研究であり、屋外暴露試験についても約10年にわたる調査を踏まえたもので、継続性は高い。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①　適時性	②　独創性	③　発展性	④　効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値）論文3件（①～③）／学会・研究発表3件（④～⑥）／刊行物2件（⑦、⑧）	定量評価 －

①石田真弥「群馬県内における煉瓦の基準寸法に関する考察　煉瓦建造物の保存・活用に関する研究-11」『日本建築学会　大会学術講演梗概集（九州）』、日本建築学会、pp.681-682、9月13日、②石田真弥「明治・大正期の博覧会出品煉瓦の寸法変遷に関する考察　煉瓦建造物の保存・活用に関する研究-13」『2016年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ』、日本建築学会関東支部、pp.611-614、29年2月20日、③石田真弥「内国勧業博覧会出品煉瓦の寸法変遷に関する考察　煉瓦建造物の保存・活用に関する研究-12」『日本建築学会研究報告 九州支部』、日本建築学会九州支部、pp.513-516、29年3月1日、④北河大次郎、「近代水道遺産の活用に向けて」、全国近代化遺産活用連絡協議会、10月20日、⑤石田真弥「事例報告【前橋市を中心とした絹遺産の煉瓦建造物】」、シルクロードネットワーク 新庄フォーラム2016、6月25日、⑥石田真弥「事例報告【まちの宝を活かしたまちづくり－前橋市を例として】」、赤煉瓦ネットワーク第26回全国大会2016半田大会、11月5日、⑦『近代文化遺産の保存理念と修復理念』（29年3月、東京文化財研究所）、⑧『Conservation and Restoration of Western Paper』（29年3月、東京文化財研究所）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	コンクリート構造物やレンガ構造等による産業・交通・土木関連の施設や機械類、合成樹脂等の複合的な材料が使われている美術工芸品など、近代文化遺産の保存や修復に必要とされる理念・技術・方法を研究し、保存管理計画等の策定に寄与する。
評定理由及び今後の見通し	本研究は、年度ごとに異なる材料を対象に実施しようとするもので、29年度は煉瓦と同じく研究の緊急性が高い鉄製構造物を対象とする予定である。また、それと並行して、28年度の研究成果を修理実務で応用する際の課題等についてフォローアップ調査も行う。これらはいずれも当初の計画通りに実施しているもので、所期の目的を十分達成したといえる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2230E

中期計画の項目	2-(2)-②-10)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-10)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究 キトラ古墳壁画の彩色及び漆喰の状態調査並びに展示環境の制御とモニタリング方法の調査研究を行う。また、文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。
プロジェクト名称	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○岡田健（センター長）、吉田直人（保存環境研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）、他 13 人	

【年度実績と成果】

○高松塚古墳壁画

・28 年度も修理施設内での害虫等生息調査、浮遊菌・付着菌量調査、温湿度推移のモニタリングを継続し、安全な保存空間の維持に努めた。空調制御プロセスの解析を、構築した計測システムによって行った。

・修復作業に関連する調査研究としては、壁画表面のクリーニング方法に関する検討を行った。特に以前に使用された修理材料のある中での汚れの除去方法に焦点を当てて、漆喰の強度を保ちつつクリーニングを行う方法を検討した。

○キトラ古墳壁画

・取り外した漆喰の再構成が終了し、8 月に天井・南壁・西壁、12 月に北壁・東壁を四神の館に搬送した。再構成にあたっては、使用する材料の検討とクリーニング方法の検討を行い、適用した。また、搬送に伴う壁画の状態の確認を行い、四神の館における現在の壁画状態についても継続的に観察を行っている。

○高松塚古墳壁画・キトラ古墳壁画双方の微生物分離株を菌株のデータ集、基本台帳やシークエンスデータファイルと併せて、公的機関である理化学研究所バイオリソースセンターに寄託した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、取り外した漆喰の再構成が終了したキトラ古墳壁画を四神の館に搬入した。また 28 年度の公開に間に合わせるため、再構成の際に使用する材料及びクリーニング方法の検討行い、その結果、適用することができた。②独創性においては、日本ではほかに例のない古墳漆喰壁画の修復方法の検討を行い、得られた成果を修復現場に還元することができたためＡと判定した。③発展性においては、今後の他の壁画修復や公開を行う際に有意義と考えられるためＢと判定した。④効率性においては、少人数の中で複数のテーマを遂行しており、Ｂと判定した。⑤継続性においては、29 年度以降に基礎データ、修理現場への還元を行う予定である。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）・論文 5 件（①～⑤）	定量評価 －

①高松塚・キトラ両古墳からの主要細菌分離株：*Bacillus*・*Ochrobactrum* 両属分離株の分子系統学的位置：半田豊、立里臨、佐藤嘉則、木川りか、佐野千絵、杉山純多、『保存科学』56 号、pp.1-14、29 年 3 月、② Krasilnikoviella muralis gen. nov., sp. nov. , a new member of the family Promicromonosporaceae, isolated from the Takamatsuzuka Tumulus stone chamber interior and reclassification of Promicromonospora flava as Krasilnikoviella flava comb. nov.: M. Nishijima et al., International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology(2016)、③ Prototheca tumulicola sp. nov., a novel achlorophyllous, yeast-like microalga isolated from the stone chamber interior of the Takamatsuzuka Tumulus: Y. Nagatsuka et al., Mycoscience (2016) 、④Polyphasic insights into the microbiomes of the Takamatsuzuka Tumulus and Kitora Tumulus: J. Sugiyama et al., Journal of General and Applied Microbiology (2016) 、⑤ Yamadazyma kitorensis f.a., sp. nov. and Zygoascus biomembranicola f.a., sp. nov., novel yeasts from the stone chamber interior of the Kitora tumulus, and five novel combinations in Yamadazyma and Zygoascus for species of Candida： Y. Nagatsuka et al.、International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology (2016)

中期計画評価	B

中期計画記載事項	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。
評定理由及び今後の見通し	中長期計画に沿った成果が得られていると考えた。高松塚古墳、キトラ古墳双方に進捗があり、さらに 29 年度は修復現場での適用検討や新規の調査を行うなど、今後もこの成果を発展させることが可能であると考えられる。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2230F

中期計画の項目	2-(2)-②-10)	科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
年度計画の項目	2-(2)-②-10)	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 10)高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究　キトラ古墳壁画の彩色及び漆喰の状態調査並びに展示環境の制御とモニタリング方法の調査研究を行う。また、文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。
プロジェクト名称	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	
都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○玉田芳英（部長）、高妻洋成（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長）、廣瀬覚（主任研究員）ほか	

【年度実績と成果】

○高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究
・高松塚古墳石室解体に伴う発掘調査成果の整理・活用として、高松塚古墳石室目地漆喰の保存展示用台座の作成のための計測実施と仮強化処理を行い、またキトラ古墳出土遺物（骨片・ガラス小玉・鉛玉）のクリーニング、仮強化処理及び簡易保管ケースの作成、保管環境のモニタリング・保管フィルム、脱酸素剤等の交換を行った。
・『特別史跡高松塚古墳の調査報告』の編集・刊行準備を行った。
○キトラ古墳壁画の彩色及び漆喰の状態調査並びに展示環境の制御とモニタリング方法の調査研究
・キトラ古墳壁画の彩色調査用治具の製作（蛍光 X 線分析）を行った。
・壁画の保存修復（劣化原因）について高精細デジタルアーカイブによる記録画像の記録、古墳壁画下地漆喰の状態調査（THz）を行った。
・分光分析、X 線回折分析など彩色調査のための分析手法開発のための予備実験を行った。
・模擬石室環境測定・収蔵庫の温湿度モニタリングの実施を行った。
・キトラ古墳壁画保管室の隔月で虫トラップ、2 回の浮遊菌調査を実施した。
○文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的な協力
・修復が終了したキトラ古墳壁画の、各面について記録撮影を行った。
・文化庁キトラ古墳壁画保存管理施設に研究員が常駐して施設の日常管理及び運営を行うとともに、壁画・出土遺物の展示公開を行った。また、壁画非公開期間は展示室にて出土遺物等を公開した。
　第 1 回壁画公開　白虎（西壁）・天文図（天井）・朱雀（南壁）　9 月 24 日～10 月 23 日
　第 2 回壁画公開　玄武（北壁）　29 年 1 月 22 日～2 月 19 日
・高松塚古墳壁画修理施設での高松塚古墳壁画の一般公開に際し、研究員を派遣した（のべ 17 人）。
・古墳壁画 PT 会議へ出席（6 月 3 日、29 年 2 月 1 日）、古墳壁画の保存活用に関する検討会へ出席（6 月 10 日・12 月 19 日）した。
《古墳壁画保存対策 PT》東京文化財研究所・奈良文化財研究所の各班にて構成
　発掘班／保存整備班／修復班／材料調査班／生物・環境調査班

キトラ古墳天井壁画

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、9 月 24 日のキトラ古墳壁画体験館「四神の館」開館、キトラ古墳壁画保存管理施設の運用開始に向け、修復された壁画 5 面及び展示遺物のある展示室・保管室等の環境調査を適時実施し、その後の一般公開時等の保管環境を適切に管理する体制を開館準備段階より継続的にとり、壁画・出土遺物の展示公開を行った。②③独創性については、古墳壁画の新しい分析手法として携帯型 X 線回折装置の開発・改良及び漆喰試料を用いた試用実験、模擬石室の環境モニタリングを実施し、恒久的保存に向けた問題に取り組み新しい方向性を示すことができた。また、③発展性については、 X 線回折装置の開発等、相応の成果は上げることができたが、今後より一層期待される。国交省による「四神の館」の展示を、これまでの調査研究成果の蓄積をふまえて全面的に作成・支援した。④の効率性はデジタルアーカイブスキャニングにおいて新規に紫外線スキャニングも導入し、可視光線、赤外線及び紫外線の 3 種のデジタルスキャニング画像を効率よく取得することができた。⑤の継続性としては整理作業や分析調査など従来通りに遂行するとともに、新たに「四神の館」一階の文化庁の壁画保存管理施設での展示内容・保管環境に関する指導助言を行い、さらに研究員が 3 名常駐する体制を構築し、壁画の公開にも積極的に協力した。以上から、事業の進捗状況は年度計画以上であると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	S	S	A	A	A

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値）・派遣人数：のべ 17 人　・研究発表等数：6 件（②③） ・報告書等の刊行数：1 件（①）	定量評価 ―

①文化庁・奈良文化財研究所ほか『特別史跡高松塚古墳の調査報告－高松塚古墳石室解体事業にともなう発掘調査－』（29 年 6 月予定）
②Akinobu Yanagida ら’Experimental research on preservation of buried cultural properties in the stone chamber by means of the simulated tumulus - Effect of environment on corrosion of metal artifacts in the stone chamber’ WAC-8,2016.8.28~9.2 Doshisha university
③犬塚将英ほか「テラヘルツ波イメージング技術による高松塚古墳壁画の層構造調査」『日本文化財科学会第 33 回大会』、6 月

中期計画評価	A

中期計画記載事項	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、実践的調査研究を迅速かつ適切に行う。
評定理由及び今後の見通し	28 年度はキトラ古墳壁画保存管理施設の運用・管理体制を所期の予定以上の体制で構築し、保存・活用事業を適切に対応した。「四神の館」等での展示は、来館者からも高い評価を受けている。29 年度以降も文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する保存・活用事業に適切に対応し、適切な施設運営、さらに技術開発に向けた効率性を高めた調査研究を実施していく。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2311E

中期計画の項目	2-(3)-①-1)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-1)-ｱ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。 ア　世界遺産委員会をはじめとするユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、国内外において文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行う。また、収集した情報の整理・公開及び比較研究等を通じて、今後の我が国の文化遺産保護施策の検討の用に供する。
プロジェクト名称	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○江村知子（主任研究員）、増渕麻里耶（アソシエイトフェロー）、二神葉子（文化財情報資料部文化財情報研究室長）	

【年度実績と成果】

○文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の国際会議やシンポジウム等に出席した。収集した情報はデータベース等に蓄積するとともに、『世界遺産年報 2017』所収「第 40 回世界遺産委員会ニュース」への取材協力にて成果公表を行った。
・7 月 10 日～15,17 日　第 40 回世界遺産委員会（イスタンブール）、10 月 24～26 日　同・継続審議（パリ）
・12 月 13～14 日　ACCU 奈良主催国際会議「アジア太平洋地域における文化遺産保護人材養成の実情と課題」
・29 年 1 月 28 日　金沢大学主催「世界遺産と共に生きる」シンポジウム　等
○文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の調査を行った。
・29 年 1 月 13 日　岩手県教育委員会（世界遺産の管理及び資産の拡張についての調査）
・29 年 2 月 12～16 日　ヴァチカン美術館（文化財保護及び情報管理活用についての調査）
○文化遺産保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、『各各国の文化財保護法令シリーズ[21]トルコ』を 1 冊刊行した。
○27 年度に刊行した『世界遺産用語集』の内容をより充実させ、上記の最新の情報を盛り込んだ『世界遺産用語集（改訂版）』を刊行し、より広く成果を公表することに努めた。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、近年の変動が大きい国際情勢に鑑みながら文化遺産保護の最新の国際動向を把握し、ホームページの活動報告や刊行物等で成果公開するとともに、情報を必要とする関連組織や関係者に迅速に提供できた。②独創性においては、国際動向と国内状況に鑑みながら様々な専門分野に対応し、当研究所独自のネットワークを活用して情報収集と発信を行った。③発展性においては、幅広く収集した情報を、所内外の調査研究活動及び文化遺産保護に関する業務に提供、情報共有を進め、27 年度に刊行した『世界遺産用語集』の改訂版を刊行するなど国際情報の発信に大きな発展を得た。④効率性においては、国内外のネットワークを通じて、最小限の従事者・規模で着実に事業を進めることができた。⑤継続性においては、世界遺産委員会等の国際会議に参加し利用価値の高い情報収集を行うことができた。適時性の高い対象国を選択して翻訳・編集する文化財保護法令シリーズは 21 冊目を刊行することができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値）国際会議出席 3 回、海外調査 1回、国内調査 2 回、刊行物発行 2 冊（①、②）	定量評価 －

①『各国の文化財保護法令シリーズ[21]トルコ』(29 年 3 月 31 日)
②『世界遺産用語集（改訂版）』(29 年 3 月 31 日)

中期計画評価	B

中期計画記載事項	海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。国際情勢に鑑みながら毎年、優先度の高い国の文化遺産保護関連の法令について条文を和訳し、法令集として刊行する。　また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信する。
評定理由及び今後の見通し	中期計画期間中に、継続的に文化遺産保護に関する国際情報の収集・分析を行い、着実に情報発信と成果公表を行い、国内外の研究ネットワーク強化に努める。28 年度は国際情勢に鑑みながら、国際会議等に参加するとともに、文化遺産保護に関する調査を行い、計画通りの成果を上げることができた。よって順調かつ効率的に計画が実施できていると判断した。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2311F-ア

中期計画の項目	2-(3)-①-1)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-（3)-①-1)-ア	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。 ア　世界遺産委員会をはじめとするユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、国内外において文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行う。また、収集した情報の整理・公開及び比較研究等を通じて、今後の我が国の文化遺産保護施策の検討の用に供する。
プロジェクト名称	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】**○森本晋（部長)、杉山洋（副所長)、佐藤由似（国際遺跡研究室専門職)	

【年度実績と成果】

・ユネスコ・シルクロード・オンライン・プラットフォーム第2回会議（バレンシア（スペイン)、6月8日～12日）に研究員1名が出席し発表を行い、各国でのシルクロードとの関連を活用した事業に関する知見を得た。
・第40回ユネスコ世界遺産委員会（イスタンブール（トルコ)、7月10日～17日、パリ（フランス）10月24日～26日）（写真1）に研究員1名が出席し、危機遺産等に関する情報を収集した。
・ユネスコ・バーミヤーン専門家委員会（ミュンヘン（ドイツ)、12月1日～3日）に研究員1名が出席し、29年秋に東京で開催予定のバーミヤーン・シンポジウムに関する情報を得た。
・アンコール歴史遺跡開発保存国際調整委員会第26回技術委員会（シェムリアップ（カンボジア)、6月22日～23日）（写真2）に研究員3名が出席し発表を行い、今後の活動に向けての意見交換を行った。
・アンコール歴史遺跡開発保存国際調整委員会第27回技術委員会・第23回全体委員会（シェムリアップ（カンボジア)、29年1月24日～25日）に研究員2名が出席し、新発見の遺構に関する発表を行った。

写真1　イスタンブールでの世界遺産委員会（7月）

写真2　アンコール歴史遺跡開発保存国際調整委員会（6月）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、28年度はユネスコ関連の会議において、27年度にも対応した世界遺産委員会・アンコールの委員会に加えて、シルクロードの会議・バーミヤーンの委員会にも対応した点が高く評価できる。②独創性においては、会議で得られた成果を基に諸外国・関係機関からの要請に答える資料の収集を行うとともに、機会をとらえて独自の研究事業成果を発表している。③発展性においては、本事業の活動によって、文化財関係機関としての国際的な位置づけを高めていくと予想される。④継続性においては、多年に渡る継続的な国際会議出席によって、文化遺産に関わる最新の世界情勢を的確に把握している。諸観点を総合し、事業が適切に遂行されていると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	A	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・国際会議出席　6回 ・研究発表　1件（①）	定量評価 －

①発表:アンコール歴史遺跡開発保存国際調整委員会　第26回技術委員会（6月22日～23日)、第27回技術委員会（29年1月24日）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。
評定理由及び今後の見通し	文化遺産保護に関する国際情報の収集を28年度は特に積極的に行うことができた。文化遺産に関する国際的な要請に答えるための情報分析も進めることができ、会議の場を通じての情報発信も順調に進めている。よって本事業は、29年度以降も積極的に進めていく予定である。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2311F-イ

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-1)-イ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。 イ　英国・米国等の研究機関との間で文化遺産に関する研究交流を行う。
プロジェクト名称	イギリスセインズベリー日本芸術研究所との共同研究	
企画調整部 都城発掘調査部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○玉田芳英（部長）神野恵（主任研究員）庄田慎矢（考古第一研究室研究員）　ほか	

【年度実績と成果】

・セインズベリー日本芸術研究所サイモン・ケイナー考古・文化遺産学センター長、ケンブリッジ大学研究院のミルヤーナ・ラディヴォイェヴィッチ研究員を招いて『英国発！グローバル考古学』と題した公開講演会を開催（9 月 3 日）。
　サイモン・ケイナー「加速化する日英の文化財交流」／ミルヤーナ・ラディヴォイェヴィッチ「進化か革新か？考古科学が明かすユーラシア最古の冶金」／
　庄田 慎矢「土器に残された油脂の考古生化学」
・平成 16 から 17 年にかけてドイツで開催した「曙光の時代　日本の考古学の連続と変革」展の英語版刊行に向けた準備を進めた。
・奈文研学報など刊行物について、各報告書に収録されている English Summary をデータベース公開し、英語での検索が可能になるよう準備を進めた。
・英国セインズベリー日本芸術研究所にてセミナー ’The Digital Repository of Japanese Archaeological Site Reports: background and prospects for collaboration’を共催した（29 年 2 月 24 日）。
・英国ヨーク大学考古学情報サービスにて考古学デジタル情報ワークショップを共催した（29 年 2 月 27 日）。

公開講演会

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、海外での最新研究成果を日本にとりこみ、日本考古学の成果を英語で発信する点は日本考古学のグローバル化に大きく貢献する内容であった。②独創性においては、交流を通じて欧米の最新の考古学研究について情報を収集するだけでなく、日本からも現在進行中である全国遺跡総覧プロジェクトを英国に紹介しその可能性を議論するなど、奈文研ならではの卓越した成果を上げた。③発展性においては、データベース公開や海外での講演会を通じ、海外の日本考古学研究者に貴重な研究素材を提供し、その成果を広く世界に発信できた。④継続性においては、協定に基づく新規の共同研究であり今後とも継続する事業である。以上から、事業は順調に推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	A	B	B	

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・論文等数　1 件（奈文研概要 2017）① ・研究発表等数　1 件	―

①奈良文化財研究所概要 2017「セインズベリー日本藝術研究所との共同研究」平成 29 年 6 月刊行予定

中期計画評価	B

中期計画記載事項	日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなど ASEAN 諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由及び今後の見通し	28 年度からの事業であるが、招へい・派遣ともに順調に行われ、共同研究として充実した成果をあげており、29 年度以降の発展も期待できる。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2312E-1

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ｱ-(ｱ)・(ｲ)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護協力事業の推進 国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。 ア　文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (ア)カンボジア・アンコール遺跡群（特に西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やミャンマーをはじめとする東南アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。 (イ)西アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究を実施する。また、同地域及び周辺地域（コーカサス等）における文化遺産保護協力事業に向けた予備調査をイラン・アルメニア等において実施する。
プロジェクト名称	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○友田正彦（保存計画研究室長）、安倍雅史（研究員）、山田大樹（アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○東南アジアの木造建築文化に関する研究会を開催した（29年2月13日）。ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムの各国から考古学専門家各1名を招聘し、既に失われた木造建造物について考古遺跡や出土遺物をもとに研究する可能性等について議論した。

○カンボジア・アンコールのタ・ネイ遺跡を対象とする保存整備計画立案に関するワークショップをアンコール地域保存管理機構（APSARA）と共催した。また、これに先立ち国際調整委員会ICC総会に参加した（29年1月22日～29日）。

○ミャンマー・バガン遺跡の煉瓦造建造物保存に関し、7月23日～29日に準備調査及びマンダレーでの専門家会合出席、また8月24日の地震発生を受けて9月24日～30日に被災状況調査を実施した。

○アルメニアとイランでの協力可能性調査及び関係機関との協議を9月26日～10月6日に実施した。アルメニアでは染織品保存修復に関する研修事業を開始することで文化省と合意し、イランでは博物館の展示・収蔵環境に関する共同研究や木造文化財の虫害対策等について文化遺産手工芸観光庁や文化遺産観光研究所、国立博物館と協力していく方向性で一致した。さらに、具体的協議のためイラン側上記機関代表者2名を招聘し(29年3月26日～4月2日)、併せて研究会を開催した。

○ネパールの地震被災文化遺産保護に関する技術支援のため、協力協定締結及びハヌマンドカ王宮内現場準備作業（4月22日～26日派遣)、関係機関協議及び歴史的集落保全出席（11月26日～12月2日派遣）等を行った。また、ネパールの中央・地方行政担当者等8名を招聘し、歴史的集落保全に関する研修を実施した（29年3月4日～12日）

○この他、タイ芸術局建造物課職員来日研修への協力（6月）等を行った。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、継続的支援活動と共に、イランとの新規協力や被災文化遺産に関する調査等をニーズに即応して実施することができた。②独創性においては、東南アジアの木造建築やイランの文化遺産保存環境など従来取り上げられてこなかった分野の研究を実施できた。③発展性においては、アルメニアとイランでの新規協力事業開始に向け、多様な準備及びカウンターパートとの深い関係構築を行えた。④効率性においては、当初計画としたネパールとの協力協定締結及び現地協議に加え、ネパール行政担当者等を招聘し本邦研修を実施できたことから所期を上回る実績をあげることができた。⑤継続性においては、現地機関への技術移転等に留意しつつ、着実に実績を蓄積することができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	A	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）専門家派遣6回、専門家招聘3回、研究会開催2回、報告書作成3冊（①）	定量評価 －

①報告書『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力　平成28年度成果報告書　29年3月』

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国における文化遺産の保存修復及び管理活用に関する研究会の開催や遺跡現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。また、その成果をもとに、日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなどASEAN諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由及び今後の見通し	アジア諸国における文化遺産保護水準の向上に資するための協力事業を着実に推進するため、カンボジアやミャンマー等における従来からの研究・支援を発展的に継続するとともに、イランをはじめとする新規相手国の協力事業開始に向けた準備等を所期の予定通り実施することができた。29年度以降も、順調な進展や具体化が期待される。

【書式C】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 2312E-2

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ｱ-(ｳ)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護協力事業の推進 国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。 ア　文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (ウ)上記各事業と連携しつつ、文化遺産の保護に関する研究会の開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。
プロジェクト名称	保存修復技術の国際的応用に関する研究	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○中山俊介（センター長）、前川佳文（研究員）、増渕麻里耶（アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画保存に向けた煉瓦造建造物外壁の調査準備と保存修復方法の検討

・7月18日～29日、9月24日～30日、29年2月5日～28日の計3度の期間にわたりミャンマーのバガン遺跡を訪れ、寺院壁画保存に向けた煉瓦造建造物外壁の調査準備と保存修復方法の検討会を実施した。また、8月24日にミャンマーの中部で発生した地震により被災した壁画の状態調査を実施し、現地専門家と共に今後の対応策について貴重な意見交換ができた。

・発表：「バガン遺跡煉瓦造建造物外壁の修復材料について」（宗教文化省考古国立博物館局バガン支局、7月）

地震により剥落した寺院

カッパドキアの石窟壁

○トルコ共和国における壁画調査と保存管理体制構築に向けた取り組み

・6月18日～24日、10月29日～11月14日の2度の期間にわたりトルコ共和国を訪問し、同国内における壁画調査と保存管理体制構築に向けた関係機関との打ち合わせを実施した。その結果、現状の把握と共に、29年度に実施を計画している保存管理に関する研修事業内容を構築するうえでの貴重な情報を得ることができた。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、管理体制の見直しや災害対策は文化財保護を進めるうえで不可欠であり、当事国と協力しながら重要課題に取り組むことができた。②独創性においては、当事国が抱える問題点の解決に向けた取り組みとして、当研究所の卓越した国際的ネットワークを基盤としながら適切に進めることができた。③発展性においては、当事国専門家との有意義な意見交換が実現できており、文化遺産保護という共通テーマのもと深い国際交流の発展に繋げることができた。④効率性においては、当事国が抱える問題点と到達目標を明確に把握し、段階を踏みながら効率的に進めることができている。⑤継続性においては、当事国側からも大きな関心が寄せられ事業継続を望む声があり、協力関係を密に調査研究を進めることができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）発表等4件（①、②）	定量評価 －

①発表「バガン遺跡煉瓦造建造物外壁の修復材料について」宗教文化省考古国立博物館局バガン支局、7月
②発表「Maintenance project of Wall Painting in Turkey」アンカラ文化観光省、ガーズィ大学他、11月

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国における文化遺産の保存修復及び管理活用に関する研究会の開催や遺跡現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。また、その成果をもとに、日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなどASEAN諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由及び今後の見通し	現在活動を展開する二カ国においては、壁画文化財の適切な保存修復方法や保存管理体制の確立を目標に研究を進めている。中期計画初年度である28年度においては、現地調査や専門家との意見交換を通じて、取り組むべき課題が明確となるなど大きな成果が得られている。以上を判定の理由とし、当事国の目線に立った協力事業を今後も展開していく。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2312F

中期計画の項目	2-(3)-①-2)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-2)-ア-(ア)	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2)文化遺産保護協力事業の推進 国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。 ア　文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。 (ア)カンボジア・アンコール遺跡群（特に西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やミャンマーをはじめとする東南アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。
プロジェクト名称	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ遺跡の建築学的・考古学的・保存科学的調査	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**杉山洋（副所長）　○森本晋（部長）　佐藤由似（国際遺跡研究室専門職）	

【年度実績と成果】

・カンボジア：アプサラ機構と共同で西トップ遺跡北祠堂の調査・解体修理事業を継続（写真 1)。28 年度に北祠堂の解体修復がほぼ完成した。
・北祠堂の解体修復に伴う調査で基壇下層からレンガで構築した遺構を検出した（写真 2)。本遺構はアンコール遺跡群では初めての検出であり、アプサラ機構をはじめ、関係者の現地視察を得た。現在出土した骨片、炭化物等の分析中である。
・アンコール遺跡群国際調整委員会出席（6 月 22 日～23 日と 29 年 1 月 24 日～25 日の 2 回)、成果を発表。
・カンボジア人若手研究者 2 名、中堅研究者 2 名を招へい（29 年 3 月 20 日～27 日)・

写真 1　北祠堂 N24 再構築

写真 2　レンガ遺構の検出

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、遺跡の状態を的確に判断し修復を行った。②発展性においては、修復に伴う各種調査を綿密に行い、アンコール遺跡の新たな解明に寄与した。③効率性においては、資機材を効率的に運用し、これまでのアンコール遺跡群での修復活動よりより効率的な事業展開ができた。④継続性においては、27 年度から修復を継続し中央祠堂の解体に向けての調査を行い、順次遂行した。以上から、事業は順調に推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** ・調査回数：月 1 回の計 12 回実施した ・論文等数：1 件（①) ・研究発表等数：3 回（②) ・報告書等の刊行数：2 件（③)	定量評価 －

①論文：佐藤由似「中世カンボジア王都周辺地域に於ける陶磁器の需要と展開」『中世陶磁器の考古学』2016, p. 207-228
②発表：国際調整委員会発表　第 26 回 ITCC　6 月 22 日～23 日、第 23 回 ICC　29 年 1 月 24 日～25 日
③報告書：『西トップ遺跡調査修復報告書　北祠堂編 1』、『ヴィエルスバイ窯跡調査報告書』

中期計画評価	B

中期計画記載事項	諸外国における文化遺産の保存修復及び管理活用に関する研究会の開催や遺跡現地におけるワークショップを含む国際共同研究等の実施を通じて、その理念と技術の両面における研究を進めるとともに、国際協力を推進するための基盤を強化する。 また、その成果をもとに、日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなど ASEAN 諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由及び今後の見通し	現在事業は順調に推移しており、予算的にも効率化を進めている。北祠堂の解体修復を 27 年度末でほぼ終了し、現在最後の修復建造物である中央祠堂の解体に向けて準備を行っている。今後中央祠堂解体修復工事の 32 年度末の完成を目指し鋭意事業を継続していく

【書式C】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 2313E-1

中期計画の項目	2-(3)-①-3)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-3)-ア	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等 文化遺産保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。 ア　国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。また海外の文化遺産保存担当者を対象に、国内外において和紙及び紙・絹、漆及び漆文化遺産等についての保存修復の講義と実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査を行い、その結果をもとに修復を行う。
プロジェクト名称	在外日本古美術品保存修復協力事業	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤雅人（国際情報研究室長）、江村知子（主任研究員）、元喜載（アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

○作品修復を以下のとおり行った。

・日本技術美術博物館 Manggha（ポーランド）所蔵　瀑布渓流図　絹本着色　掛軸 1 幅　修復中。

・日本技術美術博物館 Manggha（ポーランド）所蔵　遊女禿図　絹本着色　掛軸 1 幅　修復中。

・日本技術美術博物館 Manggha（ポーランド）所蔵　月下秋景図　絹本着色　掛軸 1 幅　修復中。

・ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア（オーストラリア）所蔵　親鸞聖人絵伝　掛軸 4 幅　修復中。

・ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア（オーストラリア）所蔵　般若図　掛軸 1 幅　修復中。

絵具の調査

○共同研究を以下のとおり行った。

・ドレスデン国立美術館-陶磁器資料館（ドイツ）所蔵　染付蒔絵鳥籠装飾広口大瓶の修復方法に関する共同研究

○修復のために行った研究の成果として、以下のとおり学会発表を行った。

・学会発表「画絹の生糸形状が発色に与える影響」文化財保存修復学会第 38 回大会（神奈川）、6 月 26 日

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、近年日本の修復技術・材料に対する海外からの注目が集まっている。また、引き続き本事業への参加の問い合わせ、在外日本古美術品の保存修復に対する問い合わせがあり、その需要は高い。これらから適時性が高いと判断した。②独創性においては、日本美術品についての専門的な修復技術・知識を用いる本事業は、当研究所特有の知見を活かした事業であり、他では行われていない。③発展性においては、本事業により在外作品の活用が促進され、海外での日本理解につながる。さらに本事業で行った修復事業の成果を国内外で発表し情報を各方面へ還元することができる。④効率性においては、最小限の員数及び限られた時間の中で、28 年度は 5 件（掛軸 8 幅）の修復及び海外での調査 2 件の事前調査のみにとどまらず、ドレスデン国立美術館との共同研究を実施することができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	
定性評価	A	B	A	A	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）修復作品 5 件、学会発表 1 件（①）、共同研究 1 件	定量評価 －

①学会発表「画絹の生糸形状が発色に与える影響」文化財保存修復学会第 38 回大会（神奈川）、6 月 26 日

中期計画評価	A

中期計画記載事項	諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を進める。研修は一時的な技術移転に留まらず、国際的な文化遺産保護に関する情報交換、技術移転、相互協力を行い、国際貢献に努める。
評定理由及び今後の見通し	27 年度輸入した 5 件の作品の修復を開始した。今後も同数程度の修復を継続できるよう、次期修復作品の調査及び情報収集を継続する予定である。 海外における本事業の成果を広く発信し、国内外の反応を本事業に反映させる予定である。また、内容をより充実させるために、国内外において、材料及び技術の情報収集及び研究を続ける必要がある。本事業は海外からの評価も高く継続が望まれているため、今後も同様に事業を行う。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2313E-2

中期計画の項目	2-(3)-①-3)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-3)-ア・イ	①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等 文化遺産保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。 ア　国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。また海外の文化遺産保存担当者を対象に、国内外において和紙及び紙・絹、漆及び漆文化遺産等についての保存修復の講義と実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査を行い、その結果をもとに修復を行う。 イ　文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）等が実施する研修への協力を行う。
プロジェクト名称	国際研修	
文化遺産国際協力センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤雅人(国際情報研究室長)、小田桃子（アソシエイトフェロー）後藤里架（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

○日本研修：国際研修「紙の保存と修復(International Course on Conservation of Japanese Paper)」の開催（8 月 29 日～9 月 16 日、会場：東京文化財研究所他）
- 日本の紙本文化財修復に使用する材料、道具、日本の文化財修復制度に関する講義、及び巻子修復（画像参照）、和綴じ冊子作製、掛軸・屏風の取り扱い実習を行った。名古屋市、美濃市、京都市にて和紙製造現場や紙本文化財関連施設等を見学した。
- 参加国：リトアニア、ポーランド、クロアチア、アイスランド、韓国、ニュージーランド、エジプト、スペイン、ベルギー、ブータン

日本研修の風景

○メキシコ研修：ICCROM-LATAM プログラムにおける「International Course on Paper Conservation in Latin America」の開催（11 月 9 日～25 日、会場：メキシコ国立文化遺産保存修復調整機関（CNCPC）
- 研修前半は日本人講師により紙本文化財修復の為の材料や道具に関する講義、及び小麦デンプン糊調製、和紙を用いた裏打ちの実習を実施。研修後半は、国際研修に参加経験のあるメキシコ人、スペイン人、アルゼンチン人講師により、日本の紙文化財修復の為の材料、技術等の欧米の文化財修復への応用方法に関する講義、実習を行った。
- 参加国：アルゼンチン、ブラジル、コロンビア、エルサルバドル、グアテマラ、メキシコ、パラグアイ、ペルー

○CNCPC 職員の招聘（3 月 7 日～6 月 29 日）
- ICCROM-LATAM プログラムの一環で CNCPC 職員を招聘し紙本文化財修復の技術・研究交流を行った。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、毎回のアンケートを参考に微調整しており常に需要に対応している。②独創性においては、伝統技術、材料科学、歴史学などの様々な専門家による講義及び実習を備え、かつ紙漉現場などの実地学習をも備えた研修は他にはない。これらの内容は当研究所の基礎研究及び調査に基づいており独自のものである。③発展性においては、日本の紙文化財だけでなく海外の文化財の修復にも応用が可能である。また、参加者が帰国後に各地の諸機関、諸学会等で本研修に関する講演、ワークショップ等を行っており、波及効果も高く、研修後のフォローも行うことで各国での技術の応用に対応している。さらに本年度は近年作成していなかった報告書をこれまでの知見も集約し作成することができた。これはスペイン語で実施された CNCPC 担当分の情報も含んでおり国内関係者への海外の情報提供という点で極めて高い発展性を持つ成果であると考える。④効率性においては、プログラム編成や旅程を工夫することで、限られた費用と期間で最大限の研修効果を得ることができた。⑤継続性においては、参加者の好評を得、既に 20 年以上の歴史を持つが常に各国からの要望も高い為に、今後の継続が望まれる。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	S	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）研修開催数：2 回、日本研修参加者数：10 名、メキシコ研修参加者数：12 名、CNCPC 職員招聘：1 名、・研修参加者満足度：日本研修 100%、メキシコ研修 100%、 ・報告書 1 件（①）	定量評価 －

①報告書『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2016』　29 年 3 月

中期計画評価	A

中期計画記載事項	諸外国の文化遺産担当者等を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を進める。研修は一時的な技術移転に留まらず、国際的な文化遺産保護に関する情報交換、技術移転、相互協力を行い、国際貢献に努める。
評定理由及び今後の見通し	国内外における研修を国際機関等と継続的に共催することにより、中期計画の初年度において、海外の文化財保護関係者への日本の修復技術の移転を推進し、目標を達成することができ、100%の高い参加者満足度を得た。修復技術の移転のみに留まらず、日本文化の発信にも繋がる本プロジェクトによる研修は、海外の諸専門家から恒常的に必要とされているため、今後も同様の計画の元に遂行する予定である。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2313F

中期計画の項目	2-(3)-①-3)	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-①-3)-イ	①文化遺産保護に関する国際共同の総合的な推進 3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等 文化遺産保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。。 イ　文化財保存修復研究国際センター（ＩＣＣＲＯＭ）等が実施する研修への協力を行う。
プロジェクト名称	ユネスコアジア文化センター（ＡＣＣＵ）等が行う研修への協力	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○森本晋（企画調整部長）杉山洋（副所長）西山和宏（都城発掘調査部主任研究員）中村一郎（写真室専門職員）	

【年度実績と成果】

ユネスコアジア文化センター（ＡＣＣＵ）が行った以下の事業に協力し、文化遺産の調査研究・保護に関する実践的な知識や技術を移転し、人材育成を行うことができた。

・集団研修「遺跡（遺構・遺物）の調査と保護」（8 月 30 日～9 月 29 日）では、アジア太平洋諸国 15 ヵ国、15 名の研修生に対して、研究員 2 名が 2 件の講義を行った。
・フィリピンで実施された「文化遺産ワークショップ」（10 月 10 日～15 日）に研究員 1 名を講師として派遣し、フィリピン人専門家 15 名に対して伝統的建造物の記録方法に関する研修を行った。
・個別テーマ研修「博物館等における文化財の調査・記録・保存修復・活用」（11 月 8 日～12 月 6 日）では、3 ヵ国（ラオス、カンボジア、ミャンマー）からの 6 名の研修生に対して、日本の博物館概説として成り立ちから現在までの実情と課題について研修をおこない、研究員 2 名が計 6 件の講義と実習を行った。

写真 1　ワークショップ

写真 2　文化財写真の研修

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、本事業はアジア太平洋地域諸国からの要望に応える研修事業への対応であり、国際性も高い。②独創性においては、研究所の研究業務で長年に渡り蓄積されてきた知識・技能を研修生に移転した。③発展性においては、研修対象国の増加ならびに研修内容の深化が行われた。④継続性においては、長年にわたり継続して対応している事業で、今後も継続が計画されている。以上から、事業は順調に推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・派遣講師、のべ 5 名、研修数 3 名、講義計 9 件	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	日本が得意とする調査技術や保存技術等を活かしつつ、ミャンマーやカンボジアなどＡＳＥＡＮ諸国をはじめ、諸外国での文化遺産保護に関する技術支援や体制強化などに資する協力事業を実施する。
評定理由及び今後の見通し	ＡＣＣＵによる研修への協力は、国際的な文化遺産保護に関する情報交換、技術移転、相互協力を行い、国際貢献に努めるという中期計画を適切に進めているもので、28 年度も研修内容を見直しながら進めており、十分な進展が期待できる。

【書式C】　施設名 アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号 2320G

中期計画の項目	2-(3)-②	文化遺産保護に関する国際協働
年度計画の項目	2-(3)-②	②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究拠点として、以下の事業を行う。・同地域における無形文化遺産保護分野の研究ついての総合的情報収集、及びその成果に基づく無形文化遺産保護調査研究データベースの充実／・無形文化遺産保護に関する研究の活性化に資する国際会議の開催／・無形文化遺産保護の理解と促進に資するシンポジウムの開催／・同地域における危機に瀕する無形文化遺産保護に向けた政策等の調査研究及びワークショップ／・国際会議への出席やユネスコとの連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集
プロジェクト名称	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究(ODA ユネスコ補助金・寄附金（文化財保存活用基金）)	
研究担当	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○)】**○大貫美佐子(副所長(兼)研究担当室長)、野嶋洋子(アソシエイトフェロー)、田中鉄也(アソシエイトフェロー)	

【年度実績と成果】

以下の国際会議・シンポジウム・ワークショップなどの開催、現地調査、情報収集活動などを通じ、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護及びそのための研究に貢献した。

(1)平成 28 年度無形文化遺産保護パートナーシップ事業(文化庁受託)による事業　※詳細は処理番号 3320G を参照。

①<マッピング事業 1>アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する国際専門家会合(受託項目(2)①・(3))

②<マッピング事業 2> アジア太平洋諸国の無形文化遺産研究に関する文献調査(受託項目(1))

③<マッピング事業 3> アジア太平洋地域における無形文化遺産保護の研究情報収集と活用の最適化(受託項目(1))

④大メコン圏における無形文化遺産に関する法制度研究(受託項目(4))

(2)無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査

東京文化財研究所無形文化遺産部の協力を得て、以下の活動を実施した。

①アジア 3 ヵ国(フィリピン: 7 月 4 日～7 日、ベトナム: 12 月 14 日～20 日、ミャンマー:29 年 3 月 13 日～17 日)及びオセアニア 3 ヵ国（バヌアツ・フィジー: 10 月 20 日～26 日、マーシャル諸島:29 年 2 月 14 日～17 日)における現地調査

②ワーキンググループ会合の開催(7 月 1 日、11 月 11 日、29 年 1 月 30 日)

第 3 回会合では、フィリピン・バヌアツ・フィジー・バングラデシュ等から参加者を招き、国際会合として開催した。

(3)情報公開等：『IRCI 概要 2016』の日・英版作成、ウェブサイトの定期的更新及びリニューアル準備を行った。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記の観点から評価を行い、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

①適時性においては、アジア太平洋地域で喫緊の課題である無形文化遺産保護に取り組んだ。②独創性においては、域内での事例が少ない無形文化遺産保護の研究に積極的に取り組むとともに、新規事業では災害と無形文化遺産を関連付ける新しい視点を提供し、対象国より高い関心を集めた。③発展性においては、各事業で着実に情報収集・調査を進めており、所期の計画を上回る数の国々で今後の協力に向けた基盤形成ができた。法制度研究ではワークショップ(処理番号 3320G 参照)をもとにツールキットが作成され、事業終了後も各国での活用が期待される。④効率性においては、国内外の機関・研究者と連携することにより、限られた人員のなか、効率的に事業を推進することができた。⑤継続性においては、事業対象国の現地機関との関係構築が進展し、継続的事業実施に求められる体制が整った。ただし、予算については毎年度申請が必要であるため、継続的な予算獲得に努める。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B

【目標値】	**【実績値・参考値】** (参考値) 国際協力事業実施件数 5 件（(1) ①～④及び (2))、国際会議等開催件数 5 件、海外調査件数 6 件、国際会議等出席件数 9 件、刊行物 6 冊	定量評価 －

①『IRCI 概要 2016(日本語版)』(9 月)②『IRCI 概要 2016(英語版)』(12 月)③「Research for Safeguarding Intangible Cultural Heritage on the Verge of Extinction: Vietnamese ICH Element Dong Ho Woodblock Printing」(29 年 3 月)、ほか 3 冊

中期計画評価	B

中期計画記載事項	アジア太平洋地域において活動する研究者・研究機関と連携のもと、無形文化遺産保護の実践及び方法論についての国際会議やシンポジウム及び専門家会合並びに出版等の事業を通じた研究の活性化、研究情報の収集及びその活用戦略の検討と開発を通じて、当該地域における無形文化遺産保護のための研究を促進する。特に、自然災害等によって危機に瀕した無形文化遺産に注意を払い、その実態や保護事例についての調査研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。
評定理由及び今後の見通し	新中期計画の始動にあわせ新規事業の実施を計画し、28 年度は「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」に着手し、順調な活動を行うことができた。これまで継続的に実施している事業に関しても、国際会議や専門家会合等を通じ、国内外の研究機関・研究者との連携を強化し、保護の実践や方法論等についての議論を深化させることができた。今後の事業活動を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資するとともに、研究拠点形成に努める。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2411E

中期計画の項目	2-(4)-①	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①-1)・2)・3)	①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。 1)文化財に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。 2)被災文化財関連情報に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。 3)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実する。
プロジェクト名称	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○津田徹英（同文化財アーカイブズ研究室長）、安永拓世（研究員）、橘川英規（研究員）	

【年度実績と成果】

○全所的文化財情報を発信するため4半期ごとにアーカイブズWG協議会を開催した（4月21日、9月29日、12月20日、29年3月2日）。

○資料閲覧室のレファレンス機能の拡充

・音声視聴覚ブースを設置し、公開に向けて当研究所無形文化遺産部が所蔵する音声映像資料の資料閲覧室での視聴に対応するよう環境を整えるとともに、『音盤目録』をWeb上での公開と活用を見据えてデジタル化を行った。

・刊行物アーカイブズシステムの運用評価を行い、成果公開のコンテンツとして、海外発信を念頭に置いて英文のともなう『在外日本古美術品保存修復事業 報告書』の公開のため担当部署との協議を行い（6月27日）、直近5年間の報告書のWeb上での公開を行うべく、掲載作品を収蔵する海外の美術館・博物館に対して公開に関する許諾申請を行った。

○明治・大正期刊行の雑誌類等資料のデジタル化推進

・当研究所所蔵の『売立目録』について、収載内容が画像ともども検索できるシステム改良を行い、併行して収載内容のデータ入力を進めた。

・当研究所の所蔵する近現代の美術作品カード（絵葉書資料）のデジタル化を進めた。

○無形文化遺産部と連携し、東日本大震災によって被災した地域の無形文化遺産等について復興・支援情報の記録を検索・閲覧できるデータベースとして「無形文化遺産アーカイブス」の更新を適宜進めた。

○資料閲覧室の運営・管理

・資料受け入れ数：和漢書9,879件、洋書53件、展覧会図録・報告書等1,302件、雑誌29,985件（合計41,219件）

・閲覧室利用状況：公開日総数137日・年間利用者合計923人

図書閲覧室窓口

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、研究所の活動と研究成果を広く周知するために、オープンアクセスのみならずオープンサイエンス対応のため研究所として保存すべき情報・資料について暫定的な指針を定めた。②独創性においては、当研究所が有する独自性の高い文化財情報の公開を念頭におき『売立目録』を、また、英文を併載して海外からも情報に接しやすい『在外日本古美術品保存修復事業 報告書』について、直近5年間分のWeb上での公開を目指してデータベース化を進めた。③発展性においては、研究所のもつ文化財情報を広く発信し、かつ、海外の研究機関のサイトからの情報アクセスに際して研究所のサイトに誘導することで、研究所の有する文化財に関する専門的アーカイブに直截的に接する機会を増やした。④継続性においては、当研究所が有する情報・画像資料のデジタル化を継続的に行った。あわせて、研究者から一般に至るまで、その関心の程度に応じて情報の提供が可能となるよう目指した。また、資料閲覧室としての公共性とその特性に沿った運営を行い、週3回、一般利用者への所蔵資料の提供を行った。⑤定量的評価の観点においては、目標値を上回り達成率が120%以上となった。よって順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	A	B	A	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	⑤定量評価
・文化財に関するデータベースの公開件数18件	（実績値）文化財に関するデータベースの公開件数22件、（参考値）データベースのデータ件数1,164,416件、データベース等へのアクセス件数：1,591,403件、資料閲覧室の開室日数137日、利用者数923人、文化財に関する資料・図等の総件数309,620件、論文等　1件（①）、学会・研究発表　1件（②）	A

①橘川英規「閉架書庫に発生したカビ対策事例」（『保存科学』56号、29年3月）

②橘川英規「図書館に発生したカビとその防除対策事例」（第36回文化財防虫防菌処理実務講習会、10月14日）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。なお、文化財に関するデータベースの公開件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由及び今後の見通し	今中期計画期間の初年度にあたる28年度は、閲覧室のレファレンス機能を無形文化財の音声・映像視聴に及ぶことを見据え環境整備に着手するとともに、海外発信を念頭に置き研究所の成果刊行物のなかから英文をともなう在外修復の報告書を選定し、掲載作品を収蔵する海外の美術館に公開の許諾申請を進めた。29年度以降も当所の調査研究と成果を集約し、データベースの継続的拡充を行うことで、専門的アーカイブと総合的レファレンス双方の充実が見込まれる。

【書式C】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 2411F

中期計画の項目	2-(4)-①	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①-1)	①文化財情報基盤の整備・充実　文化財関係の情報を収集して発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。1)文化財に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。
プロジェクト名称	文化財に関するデータベースの充実	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○森本晋（部長）　高田祐一（文化財情報研究室研究員）	

【年度実績と成果】

・文化財情報電子化の研究を行い、GIS（地理情報システム）を活用した遺跡情報の分析に関する研究発表2件と全国遺跡報告総覧に関する研究発表5件（うち3件は口頭発表）を行った。

・文化財情報データベースの充実として、従来より進めている遺跡、写真、報告書抄録、航空写真、図面画像、考古関連雑誌論文情報補完の各データベースに関して、データの入力・更新を行うとともに、公開データベースの更新を行った。

・新規データベースとして「報告書内論考データベース」を公開した。

・データベースのデータ件数は28年度末で以下のとおり、順調に増加している。ただし（ ）内は27年度末の値。（単位：件）
全文213,810(213,772)、木簡166,231(164,282)、抄録96,474(91,042)、写真640,855(575,087)、遺跡480,794(480,021)、航空写真1,386,456(1,381,527)、図面画像316,990(263,444)、論文補完91,694(88,075)。

シンポジウムでの討論

・埋蔵文化財の発掘調査報告書全文検索データベース「全国遺跡報告総覧」に関して、島根大学での協議（計5回）、関係機関との打ち合わせ（個別協議計10回、全体協議1回）を行ったほか、シンポジウム（写真）を11月28日に奈文研で開催し、60名の参加を得た。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、データベースの充実において、最新のデータを提供している。特に全国遺跡報告総覧には社会的関心も高く、今求められているデータを積極的に発信できている。②独創性においては、他機関では提供されていない内容をデータベースで公開している。③発展性においては、現存のデータベースではカバーできなかった発掘調査報告書に掲載される論考について新たに「報告書内論考データベース」を追加したことは、内容の充実のみならず需要を反映し多様化を図ったことでも評価できる。④継続性においては、数十万件規模のデータベースを複数維持し、データの入力・更新作業は長年に渡って継続しており、今後も続ける予定である。⑤定量的評価の観点については、現存のデータベースの継続に加え、新規に追加したことでB評価となった。以上から、本事業は当初計画以上に順調かつ発展的に推移している。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	A	B	A	A	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	⑤定量評価
・文化財に関するデータベースの公開件数　22件	（実績値）公開データベースの数　25件 （参考値）データベースのデータ件数　1,341,997件 データベース等へのアクセス件数　4,206,991件 論文等数・研究発表等数　7件（①②③） 全国遺跡報告総覧データ数　18,838件 アクセス件数　2,033,826件	B

①高田祐一「発掘調査報告書のデジタルアーカイブ」『奈良文化財研究所紀要2016』6月24日
②森本晋ほか「GMLによる遺構情報モデルの符号化の試み」『地理情報システム学会第25回学術研究発表大会』10月15日
③高田祐一「「全国遺跡報告総覧」プロジェクトの状況　発掘調査報告書のデジタルアーカイブの実現に向けて」『遺跡学研究13』11月17日　ほか4件

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。なお、文化財に関するデータベースの公開件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由及び今後の見通し	文化財情報に関する基礎研究を積み重ねながら、継続性が重視されるデータベースの充実を着実に進めており、それが新規のデータベース公開につながっている。他機関と協力して進める大規模データベースである全国遺跡報告総覧は中期目標を超える成果を上げつつ、今後の発展が大いに期待される。

【書式C】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 2413F

中期計画の項目	2-(4)-①	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-①-3)	①文化財情報基盤の整備・充実　文化財関係の情報を収集して発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。3)文化財に関係する図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実する。
プロジェクト名称	図書の収集・整理・公開・提供	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○津田保行（連携推進課長）、渡 勝弥（課長補佐）伊藤久美（事務補佐員）	

【年度実績と成果】

・資料の収集・整理・保管・提供

購入及び寄贈により発掘調査報告書を始めとした歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心とする資料の収集を行い、目録の整備を行った。また、資料の情報をデータ化し、データベースに蓄積してインターネット上で公開した。書架及びステップ等を補充し、提供スペースを拡充した。

・利用者サービス

閲覧室において一般利用者に資料を閲覧提供すると共に、遠隔地からの図書利用については、国立情報学研究所が行っている NACSIS-ILL 及び公共図書館を通じて文献複写・現物貸借サービスを行った。

購入図書　1,117 冊
寄贈図書　8,572 冊
雑誌　1,254 タイトル

一般利用者数　475 人
利用冊数　4,027 冊
来館者複写件数　1,918 件

遠隔利用：複写受付件数　538 件
貸借貸出冊数　94 冊

空きスペースに配置した書架

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、利用者が求める資料を収集し、適切な整理と配架をすることにより、利用冊数が増加した。②発展性において、全国遺跡報告総覧の基礎データとなる資料を集中的に登録し、ネット配信等に活かした。③効率性において、仮設庁舎という限られた書庫スペースでありながら書架及びステップ等を補充することにより、狭隘の緩和、資料配架の効率性の向上を行った。④継続性において、従来からの目録規則に則った整理を行うことにより、各資料の適切な整理と保管を行い、資料やデータの登録も継続的に行った。以上から事業は順調に推移している。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	A	B	

【目標値】	**（実績値・参考値）** （参考値）資料閲覧室・図書資料室の開室日数　243 日 資料閲覧室・図書資料室の利用者数　475 人 文化財に関する資料・図書等の総件数　454,898 件	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。
評定理由及び今後の見通し	現在、仮庁舎ということもあり、書庫がかなり狭隘な状況になりつつある中、30 年度の新庁舎への書庫移転を見据えた資料管理を検討し、スペースの有効活用を行うことにより、新着資料の受入に努力を続けた。 データの登録及び利用者サービスを低下させることなく継続出来た。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2421E

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-1)	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 1)定期刊行物の刊行 ・『東京文化財研究所年報』 ・『東京文化財研究所概要』 ・『東文研ニュース』 ・『美術研究』(年3冊) ・『日本美術年鑑』 ・『無形文化遺産研究報告』 ・『無形民俗文化財研究協議会報告書』 ・『保存科学』
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行	
東京文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○所長　亀井　伸雄	

【年度実績と成果】
・『東京文化財研究所年報』2015 年度版
・『東京文化財研究所概要』2016 年度版
・『東文研ニュース』年 3 回（61～63 号）
・『美術研究』(419 号)（6 月）
・『美術研究』(420 号)（12 月）
・『美術研究』(421 号)（29 年 3 月）
・『平成 27 年版　日本美術年鑑』(29 年 3 月)
・『無形文化遺産研究報告』第 11 号（29 年 3 月）
・『第 11 回無形民俗文化財研究協議会報告書』(29 年 3 月)
・『保存科学』56 号（29 年 3 月）
その他、エントランスロビーでのパネル展示及び関連の小冊子（29 年 3 月）

年度計画評価	B

【評定理由】
下記各観点から評価を行なった。①適時性においては、『保存科学』56 号は 28 年度から全ての原稿について口絵カラーも含む pdf ファイルを作成し当研究所のウェブサイトから自由にダウンロードできるようにするなど、この分野に関心を持つあらゆる人々に最新の文化財調査研究に関わる知見を載せて作成することができた。②発展性においては、『美術研究』掲載の津田徹英論文で中世の絵巻を詞書から捉え直し、集成する試みを提唱した点が評価される。③効率性においては、『日本美術年鑑』の編集作業で刊行物アーカイブシステムを本格的に導入した点が評価される。④継続性においては、『美術研究』は昭和 7 年以来、『日本美術年鑑』は昭和 11 年以来続けてきた刊行を、28 年度も絶やさず実現できた点が評価される。⑤定量的評価の観点においては、所期の予定どおり、28 年度も文化財に関する調査研究の成果に関する刊行物を刊行することができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	⑤定量評価
・定期刊行物等の刊行件数　12 点	(実績値) 定期刊行物等の刊行件数　12 点（以下のとおり） 『東京文化財研究所年報』2015 年度版　刊行部数 500 部 『東京文化財研究所概要』2016 年度版　刊行部数 2,700 部 『東文研ニュース』61～63 号　刊行部数各 1,600 部 『平成 27 年版　日本美術年鑑』刊行部数・配布部数各 600 部 『美術研究』419 号～421 号　刊行部数各 400 部、・配布部数各 380 部 『無形文化遺産研究報告』第 11 号　発行部数 600 部 『第 11 回無形民俗文化財研究協議会報告書』　発行部数 700 部 『保存科学』56 号　発行部数 650 部	B

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物や公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。なお、定期刊行物等の刊行件数及び講演会等の開催回数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由及び今後の見通し	中期計画どおり定期刊行物の作成を順調に実施することができた。また、各研究プロジェクトの総括的な研究成果を多く公表することができた。 29 年度も、引き続き、学術誌としての一定の水準を保ちながら刊行する計画である。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2421F

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-1)・2)・3)	②調査研究成果の発信　文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。1)定期刊行物の刊行・『奈良文化財研究所紀要』・『奈良文化財研究所概要』・『奈文研ニュース』・『埋蔵文化財ニュース』、2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等・公開講演会・現地説明会、3)ウェブサイトの充実・学術情報リポジトリ・なぶんけんブログ（探検！奈文研、コラム作寶樓等）
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	
研究支援推進部 企画調整部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○津田保行（連携推進課長）、渡　勝弥（連携推進課課長補佐）梶原孝次（連携推進課課長補佐）、ほか	

【年度実績と成果】

1)定期刊行物の刊行
・奈良文化財研究所紀要 2016 刊行（6 月 30 日）・奈良文化財研究所概要 2016 刊行（7 月 29 日）
・奈文研ニュース「No.61」6 月刊、「No.62」9 月刊、「No.63」12 月刊、「No.64」29 年 3 月刊
・埋蔵文化財ニュース「No.166―年輪年代学的手法を用いた木製品の同一材検討-平城京出土斎串の整理作業を通じて-」10 月刊
「No.167―保存科学研究集会文化財調査におけるイメージング技術の諸問題」3 月 29 日刊
「No.168―平成 28 年(2016 年)熊本地震装飾古墳等被災状況速報」3 月 30 日刊
「No.169―2015 年度埋蔵文化財関係統計資料」29 年 3 月 31 日刊
2)公開講演会
①　「プラネタリウムで考古学」の「星空とキトラ古墳のナゾにせまる」（5 月 21 日）他で講演　於多摩六都科学館（東京都）175 名
②　第 118 回公開講演会（6 月 18 日）：202 名　③「英国発！グローバル考古学」（9 月 3 日）：65 名
④　第 119 回公開講演会（11 月 5 日）：234 名　⑤第 8 回東京講演会「飛鳥むかしむかし」（11 月 13 日）：447 名
⑥　飛鳥資料館春期特別展記念講演会「飛鳥の文化財を撮る眼」（5 月 28 日）：36 名
⑦　飛鳥資料館秋期特別展記念講演会「祈りをこめた小塔」（11 月 26 日）：46 名
3)現地説明会
①　藤原京右京九条二・三坊の発掘調査（飛鳥藤原第 187 次）現地見学会（5 月 15 日）　於橿原市城殿町発掘調査現場（ポリテクセンター奈良敷地内）：1,753 名
②　平城京二条大路・朱雀大路跡の発掘調査(平城第 566 次調査)現地見学会（6 月 11 日）　於二条大路南 4 丁目発掘調査現場：505 名
③　藤原宮朝堂院朝庭の発掘調査（飛鳥藤原第 189 次調査）現地見学会（10 月 2 日）　於橿原市高殿町発掘調査現場：1,315 名
④　東大寺東塔院跡発掘現場説明会（10 月 8 日）於東大寺東塔院跡発掘現場：1,125 名
⑤　藤原宮大極殿院の発掘調査（飛鳥藤原第 190 次調査）現地説明会（29 年 1 月 28 日）於橿原市高殿町発掘調査現場：497 名
4)シンポジウム
①　文化的景観研究集会（第 8 回）（7 月 30 日-31 日）：105 名
②　シンポジウム「シリア内戦と文化遺産―世界遺産パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援―」（11 月 23 日）：220 名
③　全国遺跡報告総覧シンポジウム（11 月 28 日）：60 名
④第 20 回古代官衙・集落研究集会「郡庁域の空間構成」（12 月 9 日-10 日）：138 名
⑤28 年度　遺跡整備・活用研究集会（12 月 16 日）：77 名　⑥第 17 回古代瓦研究会シンポジウム（29 年 2 月 4 日－5 日）：219 名
⑦保存科学研究集会 2016「文化財調査におけるイメージング技術の諸問題」（29 年 3 月 3 日）：95 名
5)ウェブサイトの充実
・ブログ①探検！奈文研　週 1 回更新　N0131(4 月 7 日)-163(3 月 30 日)　②コラム作寶樓等　月 2 回更新（全 23 回）
・全国遺跡報告総覧等によるウェブサイトにおける発掘調査報告書等の公開件数：18,838 件
・当研究所ＨＰアクセス件数　4,990,661 件(全国遺跡報告総覧等の各種ＤＢのアクセス数を含む)
・新規に「報告書内論考データベース」を公開した。　・学術情報リポジトリにおいて、随時最新情報を登録・更新した。
・木簡画像データベースにおいて、英中韓のページの登録件数を増やし、内容を充実させた。

年度計画評価	A

【評定理由】
下記各観点から評価を行った。①適時性においては、調査研究の成果を適時に刊行するとともに、現地説明会開催、ウェブ公開いずれにおいても即時的に情報を発信した。②独創性において、当研究所の調査・研究内容の新規性及び卓越性を持たせ発信することができた。③発展性においては、個々のデータベース登録数も増え、新たなデータベースも公開するとともに、多様なブログ、コラム等を更新することによりＨＰの内容を一層充実させた。④継続性においては、定期刊行物、講演会、ウェブ公開いずれにおいても従来から継続的に実施している上、データベースは随時、データを増加しており、アクセス数も上昇しているため、恒久的な提供と利用が認められる。特に公開 2 年目となる全国遺跡報告総覧は、全国の考古学研究者からの問合せがあり、アクセス数も大幅な伸びを見せているため、十分に成果を残したと言える。⑤定量的評価の観点について、刊行数においては目標通りに実施することができ、公開講演会等においては目標を 190%と大きく上回る回数を実施することができた。東京講演会では藤原宮朝堂院朝廷の幢幡遺構等の調査成果を多様に公開し盛況を得た。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	A	A	

【目標値】	【実績値・参考値】	⑤定量評価
(1) 定期刊行物等の刊行件数 10 点 (2) 公開講演会、現地説明会の開催回数 10 回	(実績値) (1) 定期刊行物等の刊行件数　10 点 (2) 公開講演会、現地説明会の開催回数　19 回 (参考値) 講演会等（公開講演会、現地説明会）の来場者数 7,314 人 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数　4,389 件	(1) B (2) S

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物や公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。
評定理由及び今後の見通し	28 年度は目標を上回って公開講演会や現地説明会等を実施し、藤原宮朝堂院朝廷の幢幡遺構等の調査成果を多様に発信している。また、データベースの充実やコラムの更新によるウエブサイトのアクセス数が増加している。なお、全国遺跡報告総覧は安定稼働と確実なデータの蓄積を行っており、利用率は更なる上昇が見込まれる。 今後も公開講演会、現地説明会、ウエブサイトの充実等を通じて調査研究の成果をさらに発信していきたい。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2422E

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-2)	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 2)公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等 ・公開講座（オープンレクチャー）
プロジェクト名称	平成 28 年度オープンレクチャー（調査･研究成果の公開）	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○小林達朗（日本東洋美術史研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、小林公治（広領域研究室長）	

【年度実績と成果】

○11 月 4 日（金）～5 日（土）、ひろく一般から聴講を募集し、オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」を開催した。（東京文化財研究所セミナー室）

テーマは以下のとおりである。
- 橘川英規（文化財情報資料部研究員「ドキュメンテーション活動とアーカイブズ―『日本美術年鑑』をめぐる資料群とその発信について」
- 増渕鏡子（福島県立美術館学芸員）「よみがえるオオカミ―飯舘村山津見神社・天井絵の復元をめぐって」
- 佐野千絵（文化財情報資料部長）「かたちを伝える技術―展覧会の裏側へようこそ」
- 岡田健（保存科学研究センター長）「記憶するかたち、見つけるかたち―文化財の意味と価値」

外部からの聴講者は、11 月 4 日には 78 名、5 日には 81 名を得た。

オープンレクチャーの様子

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、目標値として会場定員にほぼ近い両日あわせて 159 名の一般参加者を見た。参加者にアンケートを行い、11 月 4 日の 60 名の回答者数のうち、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ 80%、11 月 5 日の 75 名の回答者のうち「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ 85.4%の回答を得ることができた。②独創性においては、「かたちからの道、かたちへの道」という大テーマを据え、有形文化財から受ける価値観とその表現や伝承へ向かう意志など、すべての文化活動と文化財保護活動を結びつけることができた。③発展性においては、有形文化財伝承の意味・価値、伝える活動、ドキュメンテーション活動など、多岐にわたる側面から研究成果を一般に公開できた。④継続性においては、「古典の日」に合わせて、台東区との協力を欠かさずに続けて開催している。⑤定量的評価の観点においては、年 1 回開催の目標を達成し、アンケートにより参加者の高い満足度を得た。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	⑤定量評価
・講演会の開催回数　1 回	（実績値）講演会の開催回数　1 回 （参考値）講演会の来場者数　159 人	B

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財に関する調査研究の成果を定期刊行物や公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。なお、定期刊行物等の刊行件数及び講演会等の開催回数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由及び今後の見通し	28 年度からの中期計画期間も毎年オープンレクチャーを行う計画であり、初年度である 28 年度も計画どおり実施した。29 年度も同様に「かたちからの道、かたちへの道」の大テーマの下、講演者 2 名、2 日間の形態で、継続して行う予定である。

【書式Ｃ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2423E

中期計画の項目	2-(4)-②	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-②-3)	②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 3)ウェブサイトの充実 ・東文研総合検索システム ・東京文化財研究所刊行物一覧 ・学術情報リポジトリ
プロジェクト名称	文化財情報基盤の整備・充実	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○二神葉子（文化財情報研究室長）、福永八朗（アソシエイトフェロー）、小山田智寛（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

○情報発信機能の強化

・ウェブサイトの主要コンテンツである「東文研総合検索システム」をポータルとするウェブデータベースについて、プロジェクト「専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充」と連携、4 件を新規に公開、既存ウェブデータベースへデータを追加した。また、横断検索可能なデータベースの範囲の拡大、関連情報の表示機能の追加などの機能改善を実施した。

・ウェブデータベースから参照可能な刊行物の PDF ファイルを適宜追加し、学術情報リポジトリの充実を図った。また、東京文化財研究所刊行物一覧についても適宜新規及び遡及入力を行い、学術情報レポジトリの PDF ファイルへのリンクを張った。

・ウェブサイトを適宜更新するとともに SNS での発信を行い、行事案内や毎月の「活動報告」などについて周知を図った。

○ネットワーク環境の整備・充実

・27 年度に導入を開始した大容量ストレージシステムに、10 月、ストレージサーバを追加、容量を増強した。当該システムは、研究情報蓄積のほか、ウェブデータベース検索の SQL サーバなど情報発信にも利用される。

○情報セキュリティの強化

・ウェブサーバなどのネットワーク機器及びソフトウェアに対し保守・監視を行い、国立文化財機構内他施設の担当者と情報交換しつつセキュリティ水準の維持・向上に努めた。

・29 年 3 月に既存の無線 LAN アクセスポイントに個人認証システムを導入、セキュリティの強化を図った。

・情報発信及び情報取得に際しての当所職員の情報セキュリティへの意識向上を目的に、3 回の研修を開催した（情報セキュリティ研修：第 1 回「東京文化財研究所のネットワークセキュリティの現状」9 月 6 日、第 2 回「マルウェアについて」11 月 1 日、第 3 回「迷惑メール対策～あなたはいつも狙われている～」12 月 22 日　いずれも講師：福永八朗）。

○その他

・国による文化財目録（インベントリー）に関する国外の事例調査を実施した。

・ウェブデータベースの構築及びその効果に関する内容を中心とした調査研究成果を、論文や学会等で発表した。

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、データベースのウェブサイトでの新規公開、データ追加は我が国の文化財に対する国内外の関心にこたえるもので、時宜に適っている。②独創性においては、公開データベースは独自に開発したもので独創性が高いといえる。③発展性においては、大容量ストレージシステムは複数のストレージサーバを一体的に扱うことが可能で、今後も容量の増加に対応できるものとした。また、データベースは横断検索が可能で、画像、テキストいずれをも扱うことが可能で、今後のデータベースの多様化にも対応するものとなった。④効率性においては、システムへの理解を深める所内向け研修など、とても効率よく活動を所内外に伝達できた。⑤継続性においては、ウェブサイト更新による情報発信、セキュリティ水準向上への対応も継続的に行った。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	A	B

【目標値】	**【実績値・参考値】**	⑥定量評価
	・(参考値) ウェブサイトへのアクセス数（訪問者数）2,567,780 件、学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数 1,510 件、論文等件数　2 件（①）、学会等発表数　3 件（②）、報告書等の刊行数　1 件	－

①「東京文化財研究所の文化財データベース－刊行物アーカイブを中心とした、アーカイブ・データベースの目的、要件およびその実現の方法について」福永八朗、6 月 1 日

②「尾高鮮之助調査撮影記録のデータベース化とその活用事例」二神葉子ほか、6 月 25 日、文化財保存修復学会

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元する。
評定理由及び今後の見通し	上記の中期計画の記載事項に沿って、ウェブデータベースの機能改善や、情報発信機能の向上につながるストレージシステムの強化など、順調に取組を進めることができた。29 年度以降も、運営費交付金や外部資金による他プロジェクトと連携し、効率的に調査研究を実施する。また、情報システムセキュリティの確保に留意しつつ、調査研究及びウェブを活用した成果公開のための情報基盤の整備を行うとともに、国内外での事例調査を実施し、ウェブにより発信する文化財情報データベースをさらに拡充する。

【書式Ｃ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2431F

中期計画の項目	2-(4)-③	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-③-1)	③展示公開施設の充実　平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。1)特別展・企画展（平城宮跡資料館）・企画展「夏の子ども展示（仮称）」(7/9～9/22)・特別展「地下の正倉院展」(10/15～11/27)・ミニ展示「発掘速報展 平城 2016」(29/1/24～4/2)（飛鳥資料館）特別展「文化財を撮る―写真が遺す歴史―」(4/26～7/3)・企画展「第６回写真コンテスト「飛鳥の石」作品展」(7/26～9/4)・特別展「小塔の世界（仮称）」(10/7～12/4)・企画展「飛鳥の考古学 2016」(29/1/24～4/2)
プロジェクト名称	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**○加藤真二（展示企画室長）、三輪仁美（展示企画室アソシエイトフェロー）、田中恵美（展示企画室アソシエイトフェロー）ほか５名	

【年度実績と成果】

●平城宮跡資料館
・夏期企画展「ナント！おいしい！？平城京！！」実施（7 月 23 日～8 月 31 日）
・秋期特別展「地下の正倉院展　式部省木簡の世界―役人の勤務評価と昇進―」実施（10 月 15 日～11 月 27 日）
・冬期企画展「発掘速報展平城 2016」実施（29 年 2 月 4 日～3 月 31 日）
・常設展展示物・施設のメンテナンス。常設展展示壁面ケース LED 化工事対応。
・ボランティアガイド・外部質問、取材、案内対応（4 件/週）
・展示物等の貸借業務（13 件）
●飛鳥資料館
・春期特別展「文化財を撮る―写真が遺す歴史」（4 月 26 日～7 月 3 日）を開催。5 月 28 日講演会「飛鳥の文化財を撮る眼」、6 月 24 日イベントを開催。
・夏期企画展「第 7 回飛鳥資料館写真コンテスト「飛鳥の石」」（7 月 26 日～9 月 4 日）を開催。・飛鳥光の回廊（8 月 27、28 日）に参加。
・秋期特別展「祈りをこめた小塔」（10 月 7 日～12 月 4 日）を開催。
・冬期企画展「飛鳥の考古学 2016　飛鳥むかしむかし　早川和子原画展」（29 年 1 月 24 日～3 月 20 日）を開催
・より分かりやすく展示を一部リニューアルした
●藤原宮跡資料室　　常設展示に加え、藤原宮大極殿院出土遺物を速報展示

平城宮跡資料館秋期特別展「地下の正倉院展」ポスター

飛鳥資料館冬季企画展「早川和子原画展」ポスター

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、「破斯清道」木簡、薬師寺東塔の年輪年代学による造営年代など重要な研究成果発表にあわせて展示を実施できた。また、飛鳥資料館の百万塔を中心の一つに据えた小塔の展示は 27 年度購入した文化財を活用し時宜を得ていた。早川氏原画展は奈文研が多数執筆した連載記事の書籍化にあわせて挿絵イラスト原画を展示したもので、最適なタイミングといえる。②独創性においては、夏期企画展では研究所の研究成果を子供向けにわかりやすく展示したところ、年長者からも大変好評であった。また秋期特別展では、木簡の実資料や削りくずのプレパラート標本多数をわかりやすく・見やすく展示できるようケース等に工夫を凝らし、他館では行われていない展示を行うことができた。また、飛鳥資料館の文化財写真をテーマにした展示は写真室を有する当研究所ならではの展示である。③発展性においては、プレパラート標本や出土種子資料の有効な展示方法を確立することができた。また、いずれの展示も現在、国交省が進めている平城宮跡展示館での展示に生かすとともに、同館開館後の平城宮跡資料館の展示の改変を考えるうえで重要な手がかりとなる。④継続性においては、秋期特別展「地下の正倉院展」は 10 年間継続しており、木簡ファンの掘り起こしに成功している。また、木簡実資料の展示ルールを確定したとともに、新たな展示方法の模索を続けている。冬期企画展の発掘速報展も 2001 年度以来継続しており、発掘調査の成果を中心とした研究所の研究成果をいち早く公開する役割を果たしている。⑤定量的評価の観点について、平城宮跡資料館においては特別展・企画展を年間 4 件開催することができ、目標の 120%以上の件数を実施出来た。飛鳥資料館においては目標通り達成した。いずれにおいても、目標以上の実績を上げており、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①　適時性	②　独創性	③　発展性	④継続性	
定性評価	A	A	A	A	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	⑤定量評価
（1）平城宮跡資料館特別展・企画展開催件数　3 件 （2）飛鳥資料館特別展・企画展等開催件数 4 件	（実績値）（1）平城宮跡資料館特別展・企画展開催件数　4 件 （2）飛鳥資料館特別展・企画展等開催件数　4 件 （参考値）平城宮跡資料館　入館者数 102,053 名　開館日数 310 日 飛鳥資料館　入館者数 35,970 名　開館日数 307 日 藤原宮跡資料室　入館者数 8,378 名　開館日数 359 日 図録等刊行実績：リーフレット 7 件（①②③ほか）	（1）A （2）B

①『ナント！おいしい！？平城京！！』(A4 版フルカラー両面印刷三つ折り　7 月 23 日発行)
②奈良文化財研究所監修『平城京のごみ図鑑』編集・執筆（河出書房新社出版、A5 版 127 頁、11 月 30 日発行）
③飛鳥資料館図録第 64 冊『文化財を撮る－写真が遺す歴史』4 月 26 日刊行

中期計画評価 0	A
中期計画記載事項	平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。なお、公開施設における特別展・企画展の開催件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
評定理由及び今後の見通し	新たな展示の手法やパネル等の表現について模索しつつ、新たな参観者層の掘り起こしを図ることができた。今後、平城宮跡展示館の開館とその後の平城宮跡資料館の展示内容の改変を見据えながら、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示等を充実させ、来館者の理解を促進するという平城宮跡資料館の計画を着実に実施していきたい。28 年度はこの上なく中期計画の順調なスタートが切れたことから、A と評価した。

【書式C】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　2432F

中期計画の項目	2-(4)-③	文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
年度計画の項目	2-(4)-③-2)	③展示公開施設の充実 2) 平城宮跡解説ボランティア研修として、平城宮跡に関する講義研修、来館者対応・接遇に関する臨地研修、特別展等開催に伴う解説研修を行う。
プロジェクト名称	平城宮跡解説ボランティアに対する研修等の実施	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○津田保行（連携推進課長）、梶原孝次（連携推進課課長補佐）、岩井靖子（連携推進課事務補佐員）	

【年度実績と成果】

・平城宮跡解説ボランティアを組織・運営して、来訪者に対して、第一次大極殿等の文化庁施設、平城宮跡資料館の定点解説のほか、予約及び当日受付した来訪者を対象に「ツアーガイド」として宮跡内各施設に同行し解説を行い、平城宮跡の理解を広げることに貢献した。また、公益財団法人アジア福祉教育財団が研修の一環として実施した海外福祉関係者の施設見学で英語による解説を行った。

・国営平城宮跡歴史公園への進展も見据えて、解説ボランティア制度の改善のため、所内で懇談会を立ち上げ、研修の充実等の検討を行っている。

・ボランティアに対して、以下のとおり各種研修を実施した。

研修実績

6 月 18 日	第 118 回公開講演会受講による研修実施
10 月 14 日/17 日	地下の正倉院展第 1 期解説研修実施
11 月 1 日	地下の正倉院展第 2 期解説研修実施
11 月 5 日	第 119 回公開講演会受講による研修実施
29 年 2 月 3 日/6 日	発掘速報展平城 2016 解説研修実施

公開講演会受講による講義研修の模様

年度計画評価	B

【評定理由】

下記観点から評価した。①適時性において、平城宮跡解説ボランティア事業では、来訪者の様々な知識需要・必要性に対し、その場にて十分な対応ができた。②発展性においては、多種多様な層の来訪者へ解説ができ、特に海外からの来訪者からの反響は大きかった。③効率性においては、解説ガイド申込の際に来訪者へのアドバイスを補足することで、効率よく解説を実施できた。④継続性においては、年間を通して、平城宮跡解説ボランティア事業はとぎれず、継続した解説者の配置を行うことができた。以上、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	① 適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** (参考値) ・ボランティア登録数　124 人 ・ボランティア解説を受けた来場者延べ人数：70,332 人 ・解説活動日数：309 日	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成する。
評定理由及び今後の見通し	28 年度はボランティアによる定点解説やツアーガイドなどを実施し、来訪者に対して平城宮跡の理解を広げることに貢献した。また、解説研修を始めとする各種研修を実施し、ボランティアの育成を行った。今後は、28 年度に組織した懇談会において、平城宮跡の変化等に対応したより効果的な研修等の在り方などの検討を進め、その検討結果を研修等に活かしていく予定である。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2511E

中期計画の項目	2-(5)-①	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-①-1)・2)	①文化財に関する研修の実施 1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。 2)研修の体系を整理するとともに、研修受講生を対象としたアンケート項目を見直したうえでの調査及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況及びニーズに関するアンケート調査を行う。
プロジェクト名称	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○岡田健（センター長）、吉田直人（保存環境研究室長）、石井恭子（研究補佐員）	

【年度実績と成果】

○　第 33 回博物館・美術館等保存担当学芸員研修を実施した（7 月 11 日～22 日、受講者 27 名）
・研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後取り入れてほしい科目等に関するアンケート調査を行った。
・27 年度に実施した第 32 回博物館・美術館等保存担当学芸員研修受講者の所属長あてに、研修成果の活用実績やカリキュラム、応募手続き等に関する要望を問うアンケート調査を行った。

○　平成 28 年度保存担当学芸員フォローアップ研修－展示照明用白色 LED の開発と評価に関する最新の動向－を実施した(6 月 16 日、参加者 103 名)。

博物館・美術館等保存担当学芸員研修における講義の様子

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、数年に渡り、勤務館において資料保存に携り、設備や問題点を把握している学芸員を対象とした研修会を行っている。②独創性においては、自然科学的見地でのカリキュラム構成で保存に特化した研修を行っているのは他では例を見ない。③発展性においては、受講者、また受講者の所属長を対象としたアンケートにより、研修に対するニーズを把握し、絶え間ないカリキュラムの検討と必要な改正に努めている。④継続性においては、研修終了後も受講者に対して助言等を行い、またフォローアップ研修等を通じて、最新の資料保存に関する知見等を提供する機会を設けている。⑤定量的評価の観点においては、受講者数は目標値を若干下回ったものの、実施件数、活用実績は目標値を上回り、特に研修成果の活用実績については、達成率が 120%以上となった。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	【実績値・参考値】	⑤定量評価
（1）研修の実施件数　1 件 （2）研修の受講者数　30 人 （3）アンケートによる研修成果の活用状況　80%以上	（実績値）（1）研修の実施件数 1 件 （2）研修の受講者数 27 人（応募者 60 名のうち、28 名が受講に相応しいと判断したこと、また内 1 名が辞退したため） （3）研修成果の活用状況　100%	（1）B （2）C （3）A

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。なお、研修の実施件数及び受講者数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、アンケートによる研修成果の活用実績が 80%以上となることを目指す。
評定理由及び今後の見通し	中期計画どおり研修を実施した。29 年度以降も継続して学芸員による環境管理を推進するための研修を行い、また双方向のコミュニケーションによって、その内容をより充実させたい。また、「研修成果の活用実績」に関するアンケートを引き続き実施し、カリキュラム等に関するニーズを把握し、必要に応じた見直しを行っていきたい。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2511F

中期計画の項目	2-(5)-①	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-①-1)・2)	①文化財に関する研修の実施　1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。2)研修の体系を整理するとともに、研修受講生を対象としたアンケート項目を見直したうえでの調査及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況及びニーズに関するアンケート調査を行う。
プロジェクト名称	文化財担当者研修	
企画調整部 研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○森本　晋（部長）、加藤　真二（企画調整室長）、桑原　隆佳（総務係長）　ほか	

【年度実績と成果】

○研修の体系を整理するとともに、研修受講生を対象としたアンケート項目を見直した。

課程名	期間	定員	応募者	受講者
建築遺構調査課程	6月6日～6月10日	8～15	4名	4名
古文書歴史資料調査基礎課程	6月20日～6月24日	8～15	23名	23名
人骨・動物骨調査課程	7月25日～7月29日	8～15	7名	7名
地質考古調査課程	8月29日～9月2日	8～15	17名	17名
遺跡情報記録調査課程	9月6日～9月9日	8～15	5名	5名
文化的景観調査計画課程	9月12日～9月16日	8～15	10名	10名
地質・年代調査課程	9月26日～9月30日	5～10	3名	3名
保存科学Ⅰ（金属製遺物）課程	10月1日～10月19日	5～10	8名	8名
土器・陶磁器調査課程	11月14日～11月18日	8～15	16名	16名
文化財写真課程	11月28日～12月8日	8～15	12名	12名
報告書作成課程	12月8日～12月16日	8～15	19名	19名
中近世城郭調査整備課程	29年1月16日～1月20日	8～15	11名	11名
保存科学Ⅳ(遺構・石造文化財)課程	29年2月13日～2月17日	5～10	11名	11名
デジタル写真課程	29年3月7日～3月10日	8～15	13名	13名
報告書公開活用課程	29年3月13日～3月15日	8～15	6名	6名
合計		95～180	167名	167名

○研修の体系を整理するとともに、研修受講生を対象としたアンケート項目を見直した
○遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門研修13課程・特別研修2課程の研修を実施し、延べ167名が受講した。
　研修受講者に対するアンケート調査では、100%から「有意義であった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。
○29年度の研修計画策定ためニーズに関するアンケート調査を7月に実施した。
○派遣元を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を3月に実施した。
○文化財研修を紹介するパンフレットを年3回作成し、各都道府県・政令指定都市へ配布した。
○28年度の計画にアンケートの意見を反映させて特別研修「デジタル写真課程」「報告書公開活用課程」を追加した。

年度計画評価　A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、中近世城郭調査整備課程、デジタル写真課程、報告書公開活用課程など、公共性、緊急性が特に高い研修を行い、これへの対応を行った。②独創性においては、いずれの研修も当研究所以外では実施できず、なおかつ最新の知見を盛り込むことで、研修内容のオリジナリティ、新規性、卓越性を実施した。③発展性：発掘・保存・整備等に関する技術の全国的な水準向上に対応した。④効率性においては、基本的に5日間、研究所の既存設備、適任者で行うこととし、時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性を実施した。⑤継続性においては、文化財担当者研修は、前身の埋蔵文化財担当者研修及び埋蔵文化財発掘技術者研修を含め、昭和49年より継続しており、のべ受講者数も9,317人となった。⑥定量的評価の観点においても、目標値を達成した。特に研修成果の活用状況については、達成率が120%以上であった。総じて、事業はきわめて順調に推移していると言える。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】	⑥定量評価
(1) 研修の実施件数　13課程 (2) 研修の受講者数　156人 (3) 研修成果の活用状況　80%以上	(実績値) (1) 研修の実施件数　15課程 (2) 研修の受講者数　167人 (3) 研修成果の活用状況　100%	(1) B (2) B (3) A

中期計画評価　A

中期計画記載事項	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。なお、研修の実施件数及び受講者数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、アンケートによる研修成果の活用実績が80%以上となることを目指す。
評定理由及び今後の見通し	中期計画に沿って、順調に研修を実施することができた。28年度も、仮設庁舎で研修を実施したが、当初予定していた13課程と、追加で実施した2課程、合計15課程を実施できた。受講者数については、目標値156人に対して167人と当初比107%の達成率となり、目標値を上回ることができた。受講者の満足度についても、目標80%に対して100%の満足度を示し、実施回数、受講者数、満足度ともに目標以上の成果を上げることができた。仮設庁舎での満足とは言い難い研修環境下の研修でありながら、受講者に対するアンケートでは、「今回受講した研修が『有意義だった』あるいは『役に立ったと思う』との回答が100%という結果であった。このため、必要性に対応した質量とともに充実した内容が確保されて実施できたと判断している。今後も本研究所では、真に地方公共団体が求める研修、さらには厳しい財源事情のなか、費用対効果も十分に勘案しながら研修事業の充実を図りたい。

【書式C】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 2521E-1

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の収集、保管に関する指導助言	
文化財情報資料部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○津田徹英（文化財アーカイブズ研究室長）、塩谷純（近現代視覚芸術研究室長）、小林達朗（日本東洋美術史研究室長）	

【年度実績と成果】

・文化庁　買取評価員

・文化庁　国有文化財等（美術工芸品）保存修理事業協力者会議　協力者

・文化庁　文化審議会専門委員

・東京国立博物館　修理請負候補者選定委員会委員

・京都国立近代美術館企画競争審査委員会（美術系図書の書誌情報遡及入力業務）

・大和文華館　展覧会にかかわる文化財調査

・八尾市教育委員会　八尾市史編纂委員会

・近江八幡市文化観光課　市指定文化財 木造釈迦如来立像の修理事業

・松戸市戸定歴史館　佐竹栄湖にかかわる展覧会の文化財調査

・南蛮文化館　保管にかかわる文化財調査

・高知県立歴史民俗資料館　資料調査

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、各団体からの要求に対して適した経験を持つ研究者が対応した。②発展性においては、所外の業務に携わることによって、当所の研究成果に対する評価などを直接聞くことができ、所内プロジェクトへの新たな取り組み方を考える一因となった点が評価される。③効率性においては、当研究所の研究成果を生かし、研究プロジェクト成果の公表にも結びつけた。④継続性については、窓口を分散させることで各団体の要望を拾い上げやすくすることができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）指導助言件数　11 件	定量評価 －

中期計画評価	B

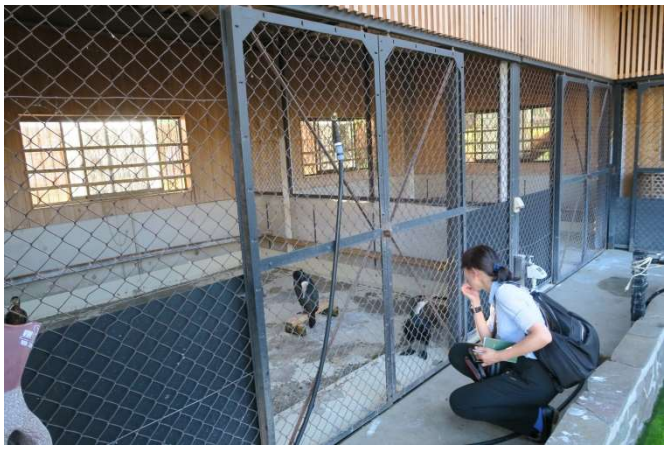
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	各団体からの収集、保管等に対する助言は、当所の研究成果に応じて所外の要望が集約されたものであり、問い合わせ件数に寄らず、研究プロジェクトとリンクした研究の高度化が期待できると考える。今後も適宜、研究プロジェクトの進捗にあわせて取り組んでいく予定である。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-2

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。
プロジェクト名称	無形文化遺産に関する助言	
無形文化遺産部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○飯島満（部長）、久保田裕道（無形民俗文化財研究室長）、今石みぎわ（研究員）ほか	

【年度実績と成果】

○無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する助言
- 選定保存技術に関する調査（文化庁）への助言 1件
- 国際芸術交流支援事業（文化庁）への助言 1件
- 日本芸術伝統振興会への助言 1件
- 一般財団法人日本青年館への助言 1件
- 公益社団法人全日本郷土芸能協会への助言 1件
- 東京都武蔵野市への助言 1件
- 東京都歴史文化財団への助言 1件
- 岐阜県岐阜市への助言 2件
- 岐阜県関市への助言 1件



現地視察の様子（岐阜県関市の鵜飼）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性・②独創性・③発展性・④継続性において、古典芸能、民俗芸能、民俗技術等の無形文化遺産の調査・保存・活用に関わる各種委員会等に、継続的に委嘱されており、日頃の研究に基づいて、各々において的確な助言を実施できたことは、いずれの定性評価においても、十分であると考える。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）助言 10件	定量評価
		－

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	例年通り、多様な助言依頼に対応できており、計画通りの実績をあげることができた。 29年度以降も、これまで得てきた信頼を損なわぬよう努めることとしたい。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-3

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の虫菌害に関する調査・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○佐藤嘉則（主任研究員）、小峰幸夫（アソシエイトフェロー）、岡田健（センター長）	

【年度実績と成果】

カビが発生した竹製の民俗資料

これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献した。主な虫菌害問題の相談元は、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺等の文化財保存担当あるいは文化財修復関係機関等であった。対応件数は、合計で 41 件あり、内 18 件については派遣依頼等を受けて現地にて調査をしたもの、研究所にて試験等を実施したものなどより詳細な解析が必要な事案であった。虫菌害の相談内容は、保存公開施設内における文化財害虫の発生、カビの大規模発生など一般的な虫菌害被害のみならず、屋外の装飾古墳の彩色面に発生した植物根の対処や建造物のげっ歯類による加害対処など多岐に渡った。被害の規模も文化財展示収蔵施設全体に関する事柄から、個別の作品に対する事柄まで多様であった。また、28 年 4 月に発生した熊本地震による被災文化財等のカビ被害に対する初期対応など緊急性を伴う事案も含まれた。生物被害の傾向としては、28 度は秋の長雨によりカビの被害事例が例年より多く見受けられ、空調設備が不十分な博物館、美術館、図書館などで被害が起きていた。相談案件の中には、基礎的な知識や対策があれば未然に防ぐことが出来たであろう事例も多く含まれていたことから、文化財の生物被害対策に関する基礎的な知識の習得と対策の実践を織り込んだポスター制作などを通して、文化財の生物被害に対する普及・啓発活動を強化する必要がある。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、被害の拡大を防ぐことが最優先となる生物被害対策において、多くの要請に対して迅速に対応することができたといえる。②発展性においては、ATP 測定法など被害状況の把握の過程で新しい技術を積極的に取り入れることができ、研究課題への展開が期待された。③効率性においては、昆虫学と微生物学の 2 人の専門性を生かし、現地調査や分析試験を役割分担しながら、最大限の件数に対応できたといえる。④継続性においては、毎年恒常的に高い相談件数があるなかでできる限りの対応をしてきている。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	A	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）協力・助言実施件数　：41 件	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画初年度から、国や地方公共団体等文化財からの生物被害に関する要請に対して協力・助言を行い、文化財の保存に関する質的向上に貢献することができた。虫菌害の被害については、現場での対策のみならず、普及・啓発活動を通して、基礎的な保存体制の意識改革が予防策としては重要である。教育普及の効果は、長期的に虫菌害の被害の絶対数の減少に繋がり、本業務の人的・時間的負担の軽減に繋がるため、29 年度もさらなる普及・啓発活動を行っていくことが重要である。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2521E-4

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○朽津信明（修復計画研究室長）、北河大次郎（近代文化遺産研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）	

【年度実績と成果】

(1)28 年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、特別史跡キトラ古墳壁画、国宝臼杵磨崖仏、国宝銅造阿弥陀如来坐像（鎌倉大仏）、国宝平等院鳳凰堂、国宝二条城障壁画、国宝円覚寺洪鐘、史跡屋形古墳群、史跡日岡古墳、史跡楠明重定古墳、史跡塚花塚古墳、史跡竹原古墳、重要文化財通潤橋、史跡石人山古墳、史跡薬師堂石仏、史跡観音堂石仏、史跡日野江城、史跡清戸迫横穴、重要文化財羅漢寺石仏、史跡下馬場古墳、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡足尾銅山、史跡韮山反射炉、史跡萩反射炉、史跡高島炭坑跡、史跡原爆ドーム、史跡桜京古墳、重要文化財菅尾磨崖仏、重要文化財末広橋梁、重要文化財厳島神社大鳥居、重要文化財岩水寺所蔵木造地蔵菩薩像像内経、重要文化財伏見稲荷大社御茶室障壁画、重要文化財旧鶴岡警察署、重要文化財旧弘前偕行社、重要文化財泉穴師神社、重要文化財近代教科書関係資料、名勝錦帯橋、興福寺油汚損文化財、熊本県内被災古墳。

厳島神社大鳥居での調査風景

(2)地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

絵金屏風、大山崎町宝積寺石造塔、小豆島町石造文化財、臼杵市銅造普賢菩薩坐像、臼杵市内キリシタン遺跡、横浜市田谷の洞窟、町田市西谷戸横穴墓群、日本航空協会所蔵「飛燕」、四国村所蔵「夏目漱石直筆絵はがき」、登録有形文化財奥津発電所調整池、関市若栗橋、日本郵船所有「氷川丸」、横浜市「日本丸」、根津美術館蔵石造浮屠、慶応義塾大学蔵計算機、三原市磨崖和霊石地蔵、真鶴町指定有形文化財如来寺石仏群、富山市大山恐竜足跡化石群、岡崎市観音寺所蔵熊毛兜。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、28 年度は、27 年度に続いて油が文化財に撒かれる被害が起き、また熊本地震によって被災した文化財なども数多くあったことから、文化財の修復に対する社会の要請が特に強く示され、それに対して適切に指導助言を行うことで要請に応えることができた。②独創性においては、これまで保存科学があまり関わることのなかった、自然史資料の保存に関しても積極的に協力を行った。③発展性においては、臼杵磨崖仏や韮山反射炉など、これからまさに修復が行われようとしている現場への協力を行っており、今後の発展性が期待される。④継続性においては、高松塚古墳やキトラ古墳等、長年継続的に取り組んでいる事業に積極的に寄与してきた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	A	B	B	B	

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値）指導・助言件数　58 件	定量評価
		−

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画初年度より、地方公共団体や大学、研究機関等からの要請に応じて指導助言を行うことで、各地の文化財を適切に保存し、また有効に活用することに寄与してきている。熊本地震による被災文化財への対処はまだ終わっておらず、それ以外にも早急に修復が要望される文化財が出てくることが予想され、そうした緊急の要請に迅速に対応できるように技術の向上を図っていく予定である。

【書式C】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 2521E-5

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の材質・構造に関する調査・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○犬塚将英（分析科学研究室長）、早川泰弘（副センター長）、岡田健（センター長）	

【年度実績と成果】

28年度は、蛍光X線分析、X線回折分析による材質調査、及びX線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。調査を行った作品、所蔵先、調査月は以下の通りである。

○材質調査
・日本画（岡田美術館、4月）、　・仏像断片（文化庁、7月）、
・彫像等（学習院大学、8月）、　・絵画（東京大学、8月）、
・仏像（深大寺、9月）、　・扉板絵（平等院、9月）、
・漆工品（石川県立美術館、29年2月）、　・仏像（恵明寺、29年2月）
・絵図（江川文庫、29年2月）、　・絵画（國學院大學、29年3月）

○構造調査
・陶磁器（ドレスデン国立美術館、5月）、　・絵画（東京大学、8月）、
・出土遺物（明治大学、8月）、　・剥製標本（国立科学博物館、10月）、
・漆工品（サントリー美術館、29年2月）

陶磁器の構造調査

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、所蔵先の地方公共団体、社寺、大学等からの要請に迅速に応じて、材質調査・構造調査を実施した。調査後は速やかに調査報告書を作成し、助言を行った。②独創性においては、国内では実績例の少ない可搬型X線回折分析装置を用いて、文化財が置かれている現場での調査を実施した。③発展性においては、類似した作品に関するデータが蓄積されたことにより、それらを比較検討し、材質に関する新たな知見が得られた。④効率性においては、分析装置、運搬手段等の改良を重ねて、材質調査・構造調査の効率が向上した。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	
定性評価	A	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）調査・助言件数　15件	定量評価
		－

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	これまでに当研究所が実践してきた科学的調査技術に加えて、中期計画初年度である28年度からは新しく可搬型X線回折分析装置、可搬型イメージングプレート現像装置を活用した調査・助言を行った。特に可搬型X線回折分析装置を用いた分析結果から、金属に現れる腐食生成物に関する分析データが蓄積され始めており、今後分析調査を継続する際の有益な情報となることが期待される。

【書式C】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　2521E-6

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。
プロジェクト名称	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○吉田直人（保存環境研究室長）、石井恭子（研究補佐員）、佐野千絵（文化財情報資料部長）	

【年度実績と成果】

○　国指定品の所有者以外による公開、また公開承認施設申請に関わる資料保存環境調査を 50 館に対して行い、計 51 通の報告書を作成・提出した。

○　全国の文化財施設等からの保存環境、また新築・施設改修・増築などの相談に対して助言を行い、改善に資した。必要に応じて、現地調査を行った。

ある施設における展示ケース内の
酢酸、アンモニア気中濃度測定

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、問題点を認めた場合に改善への対応が出来るよう、遅くとも国指定品を公開する数ヶ月前より環境調査に着手している。②発展性においては、調査や相談に応じた施設に対しては、現状の問題点を解決するのみならず、以後自主的な環境モニタリングを促すよう、そのための方法を含めた報告や助言を行っている。③効率性においては、相談等はメールや電話での迅速かつ適切な対応に心がけている。④継続性においては、多くの施設に対して長期にわたり対応することにより得たデータ等が保存環境研究におけるニーズの把握に役立っている。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）調査・助言件数　658 件 環境調査報告書作成数　51 通	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画に沿って、全国の博物館等文化財保存施設に対し、環境に関する援助・助言を行い、すべての依頼に対して適切な対応を行い、安全な文化財の保存と展示に資することができた。29 年度以降は特に白色 LED 導入や空気環境改善に関する援助・助言の要望が増加するものと考えられ、引き続き迅速かつ適切に対応したい。

【書式C】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　2521F-1

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等　国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。1)地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体等の要請による発掘調査等への協力・援助	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○渡辺晃宏（副部長）　ほか	

【年度実績と成果】

・発掘調査の概要は下表の通り

次数	遺跡名	調査期間	面積	主な検出遺構・調査所見
568	平城京左京一条二坊十六坪・木取山古墳	4 月 6 日～12 日	32 ㎡	南北溝 1 条、土坑 1 基
569	平城宮跡	4 月 18 日～20 日	12 ㎡	土坑 2 基
570	平城京左京一坊二条九坪	5 月 23 日～24 日	1.5 ㎡	顕著な遺構なし
575	法華寺旧境内	8 月 1 日～25 日	30 ㎡	中近世土坑、塼組井戸、礎石建物
579	平城宮跡	10 月 27 日～11 月 7 日	36 ㎡	市庭古墳周濠
580	平城京左京三条一坊十坪	12 月 1 日～9 日	21 ㎡	柱穴群、土坑
583	平城京左京一条二坊十坪	29 年 1 月 30 日～2 月 15 日	39 ㎡	東西溝・土坑など

・立会調査の概要：遺構面の深度に関する情報を蓄積し、また遺構保護に尽力した。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、年度当初想定を越える件数の奈良県・奈良市からの要請に対し、適切かつ迅速に対応して、文化財保護行政に資することができた。②独創性においては、当研究所の有する調査技法を投入して精度の高い調査を進めることができた。③発展性においては、遺構面の把握を通じて、今後の保存対策に資する情報を得ることができた。④効率性においては、想定以上の件数の発掘調査・立会調査を、作業スケジュールの調整などを通じて、国民への負担を最低限に留めて調査を進めることができた。⑤継続性においては、平城宮・京内の遺跡の状況に関する情報を、着実に蓄積することができた。以上から、計画通り要請に応じて的確に協力援助を実施した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	A	B

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ・立会調査件数：45 件 日数：延べ 187 日	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	地方公共団体と連携し、平城宮・京跡を中心とした埋蔵文化財について、多くの知見を蓄積した。これによって、研究が進展するのみならず、文化財保護行政にも大きく寄与することができた。以上より、Bと判定した。 今後とも、奈良県・奈良市と密接な連携をとりつつ、事例を蓄積していきたい。

【書式C】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 2521F-2

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等　国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。1)地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助	
都城発掘調査部 (藤原)	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○玉田芳英（部長）、尾野善裕（考古第二研究室長）、清野孝之（考古第三研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

飛鳥・藤原地区で地方公共団体が行う発掘調査への援助事業は 11 件で、いずれも工事に伴う事前調査や立会調査である。緊急を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮及び飛鳥・藤原地域についての考古学的基礎資料の継続的蓄積を図った。とりわけ、藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡において実施した第 187 次調査では、藤原京西二坊大路と坪内道路を検出したのみならず、藤原宮期の大規模宅地の土地利用状況を明らかにすると共に、陸橋をそなえた前方後円形の周溝墓としては大和盆地最古例となる弥生時代終末期の周溝墓を発見し、前方後円墳の出現を考えるうえで大きな成果をあげた。

次　数	調　査　地	調査原因	発掘面積	調査期間	概　要
第 187 次	藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡	建物建設	2,019 ㎡	27.11.25～28.10.5	弥生周溝墓・西二坊大路・坪内道路・古代の建物を検出
第 188-1 次	奥山廃寺	住宅建設	6 ㎡	28.4.6～14	顕著な遺構を検出せず
第 188-2 次	藤原京五条三坊、木之本廃寺	住宅建設	27 ㎡	28.5.17～24	中近世の溝・井戸を検出
第 188-3 次	飛鳥寺跡	工事立会	24.7 ㎡	28.6.8～10	顕著な遺構を検出せず
第 188-4 次	山田寺跡	工事立会	2 ㎡	28.7.21	顕著な遺構を検出せず
第 188-7 次	藤原宮跡	道路拡幅	296 ㎡	28.10.12～12.21	古墳時代の溝・古代の溝を検出
第 188-12 次	藤原宮跡	工事立会	740.9 ㎡	28.11.28～29.01.24	顕著な遺構を検出せず
第 188-13 次	飛鳥寺跡北方	工事立会	未確定	29.3.27～	継続中
第 188-14 次	藤原宮跡	工事立会	65 ㎡	28.02.16～12.26	遺構面まで達せず
第 188-15 次	本薬師寺跡	工事立会	29.7 ㎡	29.02.27～03.02	西塔の基壇とみられる硬化面を検出
第 188-16 次	藤原京左京七条一坊	建物建設	6 ㎡	29.02.20～02.24	中世の溝を検出
第 188-17 次	藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡	建物建設	33 ㎡	29.02.09～02.10	
第 191 次	藤原宮跡	水路改修	240 ㎡	29.01.10～02.01	藤原宮外濠の可能性ある溝を検出

年度計画評価	A

【評定理由】

下記の観点から評価した。①適時性においては、地方自治体からの要請に適宜適切に対応したため、Bとした。②独創性及び③発展性においては、第 187 次調査で前方後円墳へと発展していくと考えられる形式の弥生墳丘墓として大和盆地で最古の事例を発見し、適切な調査を行って極めて多大な成果をあげ、今後の研究に大いに資すると考えられることから、Sとした。④効率性においては、限られた予算の中で調査を完遂し、概要報告ではあるが速やかに調査成果を公表していることから、Bとした。⑤継続性においては、48 年にわたって途切れることなく飛鳥・藤原地域での調査を行っていることをふまえ、Bとした。以上から、事業の進捗状況は年度計画以上であると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	S	S	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) ・援助（調査）件数：13 件 ・報道発表数：1 件（①）　・現地説明会数：1 件（②）　・現地説明会来場者数：1315 人 ・出土遺物（合計）：軒瓦 11 点、丸・平瓦コンテナ 33、土器コンテナ 148 箱、木器・木製品コンテナ 33 箱、金属製品 19 点、石器・石製品 10 点。 ・論文等数：2 件（③）	定量評価 ―

①奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡の調査（飛鳥藤原第 187 次調査）記者発表資料」(6 月)
②奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡の調査（飛鳥藤原第 187 次調査）現地説明会資料」(6 月)
③森川実ほか「藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡の調査―第 187 次」『奈良文化財研究所紀要 2017』(29 年 6 月予定)

中期計画評価	A

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	我が国古代国家成立期の主要舞台である飛鳥・藤原地域の調査研究は、開発事業との調整のため、関係自治体と緊密に連携して進めていく必要があり、従来通り今後も継続的に行ってゆく予定である。28 年度は、地方公共団体からの要請に応えて、古代国家の具体的な姿を明らかにすべく学術的調査を実施し、調査成果を速やか、かつ着実に公開しており、中期計画に沿って順調に成果を上げている。とりわけ、藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡の調査（187 次）では、予期されていた古代都城の遺構を検出したにとどまらず、先行する弥生時代の周溝墓を発見するなど、当初予想以上の成果を挙げることができたため、Aと評価する。

【書式C】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 2521F-3

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等　国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。　1)地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	
奈良文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**－	

【年度実績と成果】

地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。

現在就任している専門委員会委員（一部）

・松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会委員（長崎県松浦市）	・和歌山県文化財保護審議会委員	・史跡兜山古墳環境整備検討委員会委員（福井県鯖江市）
・九州歴史資料館協議会委員（福岡県）	・金沢城調査研究埋蔵文化財専門委員会委員（石川県）	・福山市歴史文化基本構想策定委員（広島県福山市）
・真脇遺跡発掘調査団団員（石川県）	・奈良市文化財保護審議会臨時委員（史跡名勝天然記念物保存活用部会）	・出雲市荒神谷遺跡整備改修検討委員会委員（島根県出雲市）
・柏原市鳥坂寺跡整備検討委員会委員（大阪府柏原市）	・彦根市国指定名勝庭園保存管理計画・整備基本計画検討委員会委員（滋賀県彦根市）	・恭仁宮跡調査専門家会議専門委員（京都府）
・史跡上野国佐位郡正倉跡等調査整備委員会委員（群馬県伊勢崎市）	・史跡法鏡寺廃寺跡保存整備委員会委員（大分県宇佐市）	・水中遺跡調査指導委員会委員（文化庁）
・墨古沢南Ⅰ遺跡調査指導委員会委員（千葉県酒々井町）	・赤膚山元窯登り窯修理指導委員会委員（奈良県）	・泉佐野市史跡日根荘遺跡保存整備委員会委員（大阪府泉佐野市）
・藍住町勝瑞城館跡調査整備検討委員会委員（徳島県藍住町）	・大分元町石仏保存整備委員会委員（大分市）	・埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会作業部会委員（文化庁）
・伊達市宮脇廃寺跡保存管理計画策定委員会委員（福島県伊達市）	・宇治川太閤堤跡保存整備検討委員会委員（京都府宇治市）	・特別史跡三内丸山遺跡発掘調査委員会委員（青森県）　ほか

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、地方公共団体の要請に対し、適時・適切に対応した。②独創性においては、当研究所独自の視点から各委員会に従事した。③発展性においては、多様な分野の専門委員会に対応でき、今後の発展が見込まれる。④継続性においては、継続的に検討が必要な委員会等は、再任・任期の延長によって継続的に協力している。総じて、年通じて出張回数も多く、要請に応じた的確な対応をとることが出来た。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） 出張依頼を受けた件数：339 件（委員会出席、審議会出席、その他（現地指導・現地調査等）	定量評価 －

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・修復・整備事業や、建造物の調査、修復事業について、各担当機関から専門的な協力・助言を求められ、適時・適切に対応することができた。当研究所に対する社会的要求に応えるべく、今後も継続的に対応し、貢献していく。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2522E

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-2)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 2)蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究を実施	
東京文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○亀井伸雄（所長）	

【年度実績と成果】

○地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、受託研究等を行った。
・文化遺産国際協力拠点交流事業「大洋州諸島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業」
・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務
・特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務
・絵金屏風の保存修理に関する調査研究
・日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討
・万世特攻平和祈念館金属類収蔵品劣化対策事前調査事業
・文化遺産国際協力コンソーシアム事業
・文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」
・文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)「ミャンマー・バガン遺跡群における地震被害に関する調査」
・文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)「シリア内戦下における被災文化財に関する調査」
・近代産業遺産（美術工芸品）に関する海外事例調査事業

このほか、一般財団法人日本航空協会と共同研究を行った（計1件)。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、地方公共団体等の要請に応じて、研究課題を的確に遂行した。②発展性においては、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かして取り組んだ結果、発展的な成果を得ることができた。③効率性においては、多様な研究課題の実施に際し、正確な調査データを得るため、各所において所内適任者による調査を行った。④継続性においては、前中期計画期間から引き続き、共同研究及び受託研究を複数実施することができた。 よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値）受託研究　11件 共同研究　1件	定量評価 -

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	地方公共団体等からの共同研究及び受託研究の依頼に対し、中期計画に基づき、文化財に関する知見や調査成果を活かし、的確に対応した。多くの機関との共同研究及び受託研究を実施したことにより、文化財に関する調査・研究の中核として、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与できているものと考える。 29年度以降も、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与すべく、蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関との共同研究及び受託研究に取り組んでいく。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2522F

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-2)	②文化財に関する協力・助言等　国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。2)蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究を実施	
奈良文化財研究所	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】－	

【年度実績と成果】

地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、以下のような受託研究等を行った。

・奈良職業能力開発促進センター本館取壊しに伴う藤原京跡（右京九条二・三坊）、瀬田遺跡発掘調査（(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構）
・陸前高田市堂の前貝塚出土の動物遺存体の分析委託業務（岩手県陸前高田市）
・ミャンマーにおける発掘調査法・遺物研究法等の考古技術移転を目的とした拠点交流事業（文化庁）
・特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務（文化庁）
・台の下貝塚出土の動物遺存体の分析（宮城県気仙沼市）
・興福寺南大門西門守屋の発掘調査（宗教法人興福寺）
・出雲市内神社建造物調査（鳥取県出雲市）
・南山城村における文化的景観保存修景事業（京都府南山城村）
・鳥取県鳥取市大桝遺跡出土文字資料の保存処理等の総合的研究（(公財)人鳥取県教育文化財団）
・木之本廃寺、藤原京左京五条三坊（脇本宅）発掘調査（奈良県橿原市）
・松帆銅鐸・舌の調査研究（兵庫県南あわじ市）
・鳥取県鳥取市青谷横木遺跡出土木簡の保存処理等総合的研究（鳥取県埋蔵文化財センター）
・興福寺北円堂院回廊の発掘調査（宗教法人興福寺）
・史跡　飛鳥寺跡に隣接する県道「橿原神宮東口停車場飛鳥線」の厳重立会調査（奈良県中和土木事務所）
・国宝　薬師寺東塔　木材年代測定業務（第3回）（奈良県）
・特別史跡藤原宮跡（高殿町道路拡幅）発掘調査（奈良県橿原市）
・平城宮跡歴史公園二条大路東部他発掘調査（国土交通省近畿地方整備局）
・特別史跡山田寺跡法面改修工事に係る発掘調査業務（文化庁）
・瑞巌寺周辺の岩窟・石塔の映像記録・測量調査（松島町の文化遺産を活かした地域活性化事業実行委員会）
・鳥取県鳥取市大桝遺跡出土大型呪符木簡他の保存処理等の総合的研究（(公財)鳥取県教育文化財団）
・平城宮跡歴史公園朱雀大路西側溝北部発掘調査（国土交通省近畿地方整備局）
・大和紀伊平野農業水利事業に係る埋蔵文化財発掘調査（奈良県）
・法隆寺若草伽藍跡西方の調査出土壁画片の調査（奈良県生駒郡斑鳩町）
・特別史跡山田寺跡法面改修工事に係る発掘調査業務（文化庁）
・常総市水損文書の真空凍結乾燥処置に関する研究（茨城県常総市）　ほか

年度計画評価	B

【評定理由】

下記観点から評価した。
①適時性において、地方公共団体等の要請に応じて、実施業務に適時・的確に対応した。②独創性において、当研究所独自の技術力を持って受託業務にあたった。③発展性において、実施業務は多様であり、全国の地方公共団体等の今後の業務にとって、発展的な成果をあげた。④効率性において、限られた時間と人員を効率よく配置し、受託業務を遂行した。
以上から、地方公共団体等からの依頼に対し、これまで当研究所が培ってきた研究成果、調査技術等を活かし、的確に遂行した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	（参考値）・受託調査研究受入・実施件数　41件　321,225千円 （27年度：33件　226,308千円）	－

中期計画評価	B

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	地方公共団体等からの受託研究に迅速、かつ的確に対応でき、順調に推移していると判断した。今後も我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与すべく、他機関と共同して積極的に調査研究等に取り組んでいく。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2523F

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-3)	②文化財に関する協力・助言等　国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。3)東日本大震災の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。
プロジェクト名称	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	
都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○玉田芳英（部長）、高妻洋成（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長）、山﨑健(埋蔵文化財センター環境考古学研究室研究員）ほか8名	

【年度実績と成果】

(1) 現地に以下の通り派遣した。
○合戦原遺跡（宮城県山元町：線刻壁画のある古墳時代横穴）
・保存処理指導：4月7日～8日、4月28日～29日、5月8日～9日・29日。
○台の下貝塚（宮城県気仙沼市：縄文時代貝塚）
・整理指導：29年3月17、18日
(2) その他、以下の取り組みを行った。
○波怒棄館遺跡、台の下遺跡（以上、宮城県気仙沼市）、堂の前貝塚（岩手県陸前高田市）から出土した動物遺存体や骨角器について、受託調査研究により分析を行った。
○中沢遺跡（岩手県陸前高田市）から出土した動物遺存体を分析して、発掘調査報告書の執筆を行った。
○東日本大震災への復興支援について、8月末に京都で行われた国際学会で発表するとともに、台湾の中央研究院歴史語言研究所で講演を行った。
○文化庁刊行の報告書『東日本大震災の復興と埋蔵文化財保護の取組（報告)』に、当研究所の取組について執筆した。

復興調査で出土した資料の調査・分析

(3) 東日本大震災に伴う埋蔵文化財保護に関する会議に以下の通り出席した。
○東日本大震災の復旧・復興に伴う埋蔵文化財の発掘調査に係る派遣専門職員会議（4月22日、10月14日）
○東日本大震災に伴う埋蔵文化財保護に関する会議（7月27日、29年3月17日）
(4) 熊本地震による古墳の石室等の被災状況調査に関して、以下の取り組みを行った。
○装飾古墳を中心とする石室の被災状況について、内部撮影を含む調査を行った（6月21日～22日、8月17日～18日)。
○大規模震災における古墳の石室及び横穴墓等の被災状況調査の方法に関する検討委員会に参加した（12月12～13日、29年3月13日～14日)。

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性について、地方公共団体からの要請に応じて適切に対応するとともに、これまで進めてきた復興調査支援について、国際学会や海外の講演会で発表した。また、4月に見舞われた熊本地震においても支援要請に即応し、急務である古墳壁画の保存処理に係る調査を適切に実施した。②独創性について、現地の問題にそれぞれ応じた形で、当研究所が蓄積した技術を調査支援として新たに展開することができた。③発展性について、緊急性の高い古墳壁画の保存処理に係る一連の作業を新たに行うとともに、今後の発掘調査支援方法の選択肢を一層広げることができた。④効率性について、現地での保存処理や、整理作業及び報告書作成等も含めた包括的な発掘調査支援を行うことで、短期間での調査完了を可能とした。⑤継続性について、研究所内で担当を決め、各種会議等に出席して関係諸機関との連携を進めることで、今後も継続的に支援要請に即応できる体制を整備し、支援体制の一層の強化も推し進めることができた。よって、順調に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) 現地派遣人数：のべ8人日　発表件数：2件 研究報告等数：2件（①・②）　論文等数：1件（③）	定量評価 ―

①Takeshi Yamazaki“Assistance with Organic Material Remains Discovered in Reconstruction Surveys after the Great East Japan Earthquake”The 8th World Archaeological Congress、2016.08.29
②Takeshi Yamazaki“Support for Reconstruction Efforts after the Great East Japan Earthquake”「環境考古與文化財保存科学」中央研究院歴史語言研究所、2016.12.07
③奈良文化財研究所「奈良文化財研究所の取組」『東日本大震災の復興と埋蔵文化財保護の取組（報告)』文化庁文化財部記念物課（29年3月）

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	28年度も被災地の地方公共団体からの要請に応じて、適宜適切かつ効率的な支援を行うことができた。29年度以降も、さらに実効性の高い支援方法を検討すると共に、調査の効率性を高める技術を開発し、案件に応じた柔軟な対応をより可能とする体制を構築するための着実な成果を上げるよう努めたい。

【書式C】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　2531F-1

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　・文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備・公開、管理事業への協力
プロジェクト名称	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・公開等への協力	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○伴　佳英（研究支援課長）、江川　正(研究支援課宮跡等活用支援係長)、今西康益（研究支援課宮跡等活用支援係係員）ほか2名	

【年度実績と成果】

・宮跡内の現状等について、文化庁、国土交通省等に情報提供及び助言の協力を行った。
①消防訓練実施への協力
②宮跡内イベント開催への協力
③文化庁平城宮跡整備計画への資料提供等
④国土交通省平城宮跡歴史公園整備計画への資料提供等
⑤平城宮跡保存・活用連絡協議会（協議会・連絡会）28年度第1回への参加
⑥平城宮跡保存・活用連絡協議会ワーキング　28年度第1回への参加
⑦平城宮跡遺構展示館の露出展示改善に関する検討委員会（第6・7回）への参加
⑧平城宮跡及び藤原宮跡等の保存整備に関する検討委員会への参加
⑨平城宮跡安全・安心連絡協議会への参加
⑩発生事案の報告及び対応

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、過去の経緯等の情報提供及び必要な助言を行った。②発展性においては、文化庁、国交省等の委員会などに積極的な参加・協力による情報共有を行い、適確な審議が可能となるための助言を行った。③効率性においては、過去の維持管理及び修繕等事案毎に整理された情報を迅速に提供した。④継続性においては、整備内容、発生事案など事例を継続的に積み重ねることによって、今後においても必要に応じて情報を提供し事業進捗に協力した。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・各種会議への参加件数（公園整備関係3件、宮跡整備関係1件）（①③） ・委員会への参加件数（調査関係会議1件）（②） ・資料提供、協議等依頼への対応事項件数（文化庁14件、国土交通省6件） ・立会調査等対応件数（日数）等（文化庁42件、国土交通省20件）	定量評価 －

①平城宮跡及び藤原宮跡等の保存整備に関する検討委員会、平城宮跡保存・活用連絡協議会（協議会・連絡会・ＷＧ）、平城宮跡安全・安心連絡協議会
②平城宮跡遺構展示館の露出展示改善に関する検討委員会
③文化庁平城宮跡整備計画（二条大路の整備、防犯設備整備、基幹設備整備、復原施設改修整備、便益施設設備改修整備）

中期計画評価	B

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。
評定理由及び今後の見通し	文化庁施設の公開･利用等の連絡調整、発掘調査等の連絡調整、文化庁施設の整備･維持管理及び修繕等の相談に対応している。そして、文化庁施設(復原施設･便益施設等)の計画的整備に対しても、必要な情報提供及び助言等の協力を行っている。今後も、国土交通省平城宮跡歴史公園整備計画等への必要な情報提供及び助言等を行い、公開・活用事業に継続的な協力を行っていく。

【書式C】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　2531F-2

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　・国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原等への協力
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原等への協力	
都城発掘調査部（平城）	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○渡辺晃宏（副部長）　ほか	

【年度実績と成果】

・国土交通省が行う平城宮跡展示館の建設に当たって、立会調査を 1 件行った。
・国土交通省が行う平城宮跡及び二条大路、朱雀大路の整備に先立つ発掘調査を 5 箇所の調査区で行った。
・国土交通省が行う第一次大極殿院の整備工事に当たって、立会調査を 1 件行った。
・国土交通省が行う平城宮跡展示館、朱雀大路周辺、二条大路周辺、第一次大極殿院周辺の整備設計あるいは整備工事に対する指導・助言を 10 回以上行った。
・第一次大極殿院の復元に向けて、出土金具を中心とする資料収集を進め、所内検討会を 1 度開催した。
・第一次大極殿院の建築金具の復元に向けて、有識者会議を 2 回開催した。
・第一次大極殿院の復元研究報告書の作成にむけて準備を進めた。
・文化庁が行う特別史跡平城宮跡の管理に対して、適時に適切な助言を行った。

関連遺構データの収集・整理作業

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。なお、28 年度は、国土交通省の事業が実施に移るにあたり、その設計や実施計画のための依頼や検討事項を中心に、当初の見込みを上回る質・量の業務が発生した。以下の①③④⑤観点においては、こうした状況に対し適切かつ効率的に対応しつつ、所期の目標を上回る大きな成果を上げている。

①適時性においては、国土交通省が行う整備及び整備工事に対し、適時に適切な発掘調査と指導・助言を行った。②独創性においては、第一次大極殿院の金具復原において、奈良時代前半の金具のデザインを検討した。③発展性において、国土交通省への対応は、平城宮跡周辺の整備を進める上で適切に行い、それに基づいて整備を進めることになった。④効率性においては、効率的な指導と助言を行い、また第一次大極殿院所用の金具の検討のため、事例の収集等を効率的に行って検討を進めることができた。⑤継続性においては、整備工事への対応、大極殿院の復原のいずれも、27 年度以前より継続的に進め、それを元に 28 年度も作業を行うことができた。以上から、本事業は計画以上に順調に実施できたと言える。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	B	A	A	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・国土交通省が行う整備工事への立会による対応件数：3 件（延べ 57 日） ・国土交通省が行う整備等に対する指導・助言：10 回以上 ・第一次大極殿院の復元に向けての検討会開催回数：3 回 ・第一次大極殿院復元検討会記録集の刊行：1 冊（①）	定量評価 －

①『平城宮第一次大極殿院復原検討会記録』14

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。
評定理由及び今後の見通し	国土交通省による整備設計と整備工事に対し、発掘調査や立会調査、指導・助言などを適切に行い、平城宮跡の保護と活用に十分寄与することができた。また細部の検討が続く第一次大極殿の復原に対し、出土事例の収集と製作技法を含めた建築金具のデザインを中心とする検討を、適時に効率よく進めることができた。29 年度以降もこれらの成果を元に、適切に対応していく計画である。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F-3

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力・国土交通省が建設する平城宮跡展示館の展示への協力
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力	
企画調整部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○加藤真二（展示企画室長）、田中恵美（展示企画室アソシエイトフェロー）、三輪仁美（展示企画室アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

・詳覧ゾーン実施設計監修・展示施工準備のための調整・資料準備
（展示業者との打合せ 14 回）
・展示評価（前期調査・後期調査）の企画・実施　（合計 7 日間実施）
・展示候補遺物等の実態調査・出陳調整
（所内、奈良市埋蔵文化財調査センター、東大寺、薬師寺、興福寺、唐招提寺）
・他の博物館施設等の視察調査
（北海道博物館、北海道大学総合博物館など 11 館）
・展示品の採寸対応：合計 7 日間実施、198 件採寸。
・パネル類の原稿作成：21,700 字

※詳覧ゾーンは、国交省が建設・設置を進めている平城宮跡のガイダンス施設である平城宮跡展示館に設けられる、おもに奈文研の発掘調査の出土品や調査知見をもとに、より一歩踏み込んだ詳細なガイダンスを行うゾーン。

展示評価（後期調査　11 月 26 日実施）

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性において、詳覧ゾーン実施設計を適切に監修するとともに、施工を順調に進めるのに必要な展示品採寸、パネル原稿作成を計画通り行った上、さらにその過程で見いだされた約 10 カ所の検討点を実施設計にフィードバックすることができた。②独創性において、出土品をもとに平城宮・京をガイダンスする日本唯一の施設の開館に向け、当研究所蔵資料に加え、県、市、寺院等などでの調査・調整を行い、18 件の新規資料の出陳の承諾を受けるとともに、展示評価を実施し、さらに充実した展示内容とすることができた。③発展性において、既存の平城宮跡資料館との役割分担（資料館：奈文研の最新の調査研究成果を展示する。展示館：平城宮跡のガイダンス施設）を明確化し、将来の平城宮跡における展示の多様性を確保することができた。④効率性において、本プロジェクト専門のアソシエイトフェローを採用し、プロジェクトを効率的、順調に遂行することができた。⑤継続性において、22 年度より取り組んできたが、29 年度末の平城宮跡展示館開館に向け、展示施工への準備を着実に進めるとともに、各種調査、原稿作成、関係機関との調整などで、展示内容の正確性の担保と事業の円滑な進行を促進することができた。よって、平城宮跡の公開・活用事業にさらなる魅力と内容の正確性を付加することができたのでA評価とする。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	A

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・展示施設の視察調査数　11 館 ・展示評価　合計 7 日間実施 ・パネル原稿作成　21,700 字 ・国土交通省地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所平城分室との定例会 11 回	定量評価 －

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。
評定理由及び今後の見通し	詳覧ゾーン実施設計を適切に監修し、29 年度には本格化する展示施工に関して、必要な展示品採寸、パネル原稿作成を計画通り行うことができるとともに、実施設計へのフィードバックを行うことができた。関係者とともに、29 年度は展示施工が順調に行われるように協力を進め、29 年度末の平城宮跡展示館の開館を迎えたい。

【書式C】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2531F-4

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　・国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の開園への協力
プロジェクト名称	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の開園への協力	
飛鳥資料館	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○石橋茂登（学芸室長）、若杉智宏（学芸室研究員）、菊地智慧（学芸室アソシエイトフェロー）ほか4名	

【年度実績と成果】

・国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の開園にむけた準備作業として、国営飛鳥歴史公園事務所、文化庁と協力して作業を行った。
・国交省が作成する公園リーフレットへの協力として、画像提供、文章の確認などを行った。
・月1回の定例協議を実施し、開園直前には連絡調整等を密にした。
・公園開園にむけた準備作業として、特に壁画公開期間を念頭に多数の来館者を国交省展示施設内でどのように誘導するかなどの具体的な問題について協議し、助言した。
・9月21～22日の内覧会においては明日香村、国土交通省などと協力して公園施設の内覧がスムーズに行われるよう努めた。
・9月24日の開園記念式典では誘導や案内を中心に協力した。
・開園後の連絡調整等として月1回の定例協議を継続しているほか、毎日公園の飛鳥管理センターを訪問して相互に来館者数や作業の予定を交換している。広報についても相互に紹介しあい、相乗効果を出せるよう努めている。
・国交省が作成した地下の展示解説パネルについて、国交省に協力して、明日香村の要望を踏まえた修正作業に対する監修・助言を行った。

キトラ古墳壁画体験館　四神の館

年度計画評価	A

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、国営公園の新規開園という希有な機会に対し、最大限の協力を適時に適切に行うことができた。②独創性においては、石室模型の細部造形を実物どおりになるよう監修したり、フォトマップ撮影などに使った道具の具体的な使用方法を紹介するコンテンツの内容に協力するなど、調査研究を担ってきた当研究所にしかできない作業であると評価できる。③発展性と⑤継続性においては、国営公園の開園準備段階から協力や協議を継続してきた結果、充実した展示施設を実現することができ、これまで学術書や限られた展示しかできなかったキトラ古墳に関する調査研究成果をひろく一般に周知できるようになった点が高く評価できる。④効率性においては、当研究所の豊富な知見を生かして四神の館の展示内容について効率よく助言や情報提供を行うことができた。また、開園記念式典などの際には必要な人員を動員して、効率的で十分な対応をとることができた。総じて、キトラ古墳周辺地区の開園にあたり単なる協力にとどまらず、当研究所の調査研究を発信し、文化財への理解を深める場を生み出したという点で、所期の目標を超える成果と言える。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	A

【目標値】	【実績値・参考値】 （参考値） ・協議等回数　計12回 ・内覧会・式典等　計3回	定量評価 －

中期計画評価	A

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。
評定理由及び今後の見通し	文化庁と国土交通省の双方と連携して、キトラ古墳周辺地区の開園にあたり貢献した。奈文研の知見を最大限に生かした成果として高く評価できる。この施設は飛鳥観光の拠点となる施設であり、文化財に対する理解を深める場としても重要な施設と位置づけられる。今後も協力関係を維持し、当研究所の行う壁画古墳関連の調査研究を紹介する場としても活用が見込める。また、飛鳥資料館と連携して壁画に関連する展示をするなどして、相乗効果により観光客の移動を促し、地域活性化につなげることも期待できる。

【書式C】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　2532F

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-2)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。2)ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力
プロジェクト名称	ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	
研究支援推進部	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○津田保行（連携推進課長）、梶原孝次（連携推進課課長補佐）、岩井靖子（事務補佐員）	

【年度実績と成果】

○ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークとの共催・後援事業において、人員及び会場提供に協力
・4 月 9 日　「平城宮跡クリーン大会」（共催）参加者数 220 名
・5 月 29 日　第 29 回「歴史講座」（後援）「木簡の語る平城京」参加者数 126 名
・9 月 25 日　第 30 回「歴史講座」（後援）「木簡の語る長屋王」参加者数 140 名
・11 月 7 日　NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク 15 周年記念講演会「平城宮跡を守った人々−平城京研究 150 年、平城京保存 100 年」参加者数 140 名
・29 年 1 月 29 日　第 31 回「歴史講座」（後援）「木簡の語る光明皇后と藤原麻呂」参加者数 154 名
・広報誌「天平のひろば」59 号〜62 号発行に協力

○職場体験にかかる協力(地域連携・交流)
・11 月 9 日−10 日　富雄中学校(参加人数　3 名)
・11 月 16 日−18 日　富雄南中学校、都跡中学校(参加人数　計 6 名)

○佐保川地区自治連合会の企画講座「歴史講座」への講師派遣
（於：佐保川地域ふれあい会館）
7 月 9 日　吉川　聡　「法華寺の鳥居」
9 月 10 日　内田和伸　「平城宮東院庭園・宮跡庭園」
11 月 12 日　神野　恵　「中近世の法華寺集落の形成－小規模調査の成果から」
29 年 1 月 14 日　今井晃樹　「奈良の瓦窯」
29 年 3 月 11 日　渡辺晃宏　「光明皇后と法華寺阿弥陀浄土院」

平城宮跡クリーン大会での平城宮跡内の清掃活動

年度計画評価	B

【評定理由】
下記各観点から評価を行った。①適時性においては、ＮＰＯ法人と協力しつつ、平城宮跡の清掃や普及活動を行った。②発展性においては、ＮＰＯ法人の歴史講座等の支援や、周辺自治会が企画する講座への講師派遣を通じて、広く情報発信を行うことが出来た。③効率性においては、ＮＰＯ法人の共催、後援事業において、当研究所の施設を有効かつ効果的に活用できた。④継続性においては、ＮＰＯ法人への支援や、周辺自治会への協力を継続的に実施することができた。以上によりそれぞれＢ評価とし、本事業については、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】**	定量評価
		−

中期計画評価	B

中期計画記載事項	ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由及び今後の見通し	27 年度に引き続き、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークの行う活動に協力した。また、周辺自治会等の活動への協力も継続的に実施した。 今後も引き続き、平城宮跡の有効な利活用や情報発信を目的とした同法人や周辺自治会等の活動に、協働して取り組んでいく予定である。

【書式C】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2541E

中期計画の項目	2-(5)-④	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-④-1)	④連携大学院教育の推進 連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進 ・東京藝術大学大学院：システム保存学(保存環境学、修復材料学)
プロジェクト名称	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	
保存科学研究センター	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】** ○佐野千絵（文化財情報資料部長）、早川典子（保存科学研究センター修復材料学研究室長）、内田優花（東京藝術大学教育研究助手）	

【年度実績と成果】

○今年度開講した授業及び担当教員、受講者数

保存環境計画論（前期、火曜１限）　２単位　佐野千絵・吉田直人・佐藤嘉則　19 名
修復計画論　（前期、木曜１限）　２単位　岡田健・朽津信明　7 名
修復材料学特論（前期、木曜２限）　２単位　岡田健・早川典子　7 名
保存環境学特論（後期、火曜１限）　２単位　吉田直人・佐藤嘉則　6 名
文化財保存学演習
テーマ「文化財と光の色んな関係－見る・守る・調べる－」、講師：吉田直人、日時： 6 月 14 日(火) 13～17 時

○修士学生指導

英語論文輪講　（前期、水曜３限）　２単位　佐野千絵・早川典子　システム保存学修士１年生対象
修士論文指導　随時　システム保存学修士１年生対象

○入学試験

28 年度東京藝術大学大学院美術研究科博士課程（前期）（後期）入学試験は受験者がなく実施せず。

○成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力

教室会議参加（10 回）、入試合同判定会議（2 回）、博士・修士審査会への協力（5 回）

年度計画評価	B

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、水俣条約による水銀利用規制やＬＥＤ照明の導入の長所・短所など、最新の情報を含む授業を開講した。②発展性においては、修復の理念や基本技術、応用事例なども取り上げており、幅広い知識を得られる授業を展開した。③効率性においては、大学内での開講と当所内での授業とを組み合わせて学生及び当所員の負担に配慮して開講した。④継続性においては、修士１年学生総数 19 名のほぼ 100%が出席している授業もあり、文化財保存学専攻各教室からの評価も高い。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。

観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・開講時間： 前期　火曜１限、木曜１限、木曜２限　/　後期　火曜１限 ・開講回数：90 分×15 回、受講者数：延べ 39 名 ・開講時間　１限 9：00～10：30　２限 10：40～12：10　　３限 13：00～14：30 ・開講回数　計４コマ　各２単位	定量評価 －

中期計画評価	B

中期計画記載事項	連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。
評定理由及び今後の見通し	第４期中期計画では、文化財保存学専攻所属の大学院学生に対して、４種の授業８単位を開講し、１学年あたり１人を目安に修士論文指導を行う計画である。さらに幅広い教育を提供するため、受験生の専門性にあわせて教員交代を適宜おこない、文化財保存学専攻に所属する学生全体への教育の質の向上に資する計画である。 中期計画初年度として、修士学生の指導、文化財保存学専攻に在籍している修士・博士学生の教育にも協力し、大学側からの評価も高く、当初計画通りに遂行できた。

【書式C】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 2541F

中期計画の項目	2-(5)-④	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-④-1)	④連携大学院教育の推進連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。1)東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進 ・京都大学大学院：共生文明学（文化・地域環境論）・奈良女子大学大学院：比較文化学（文化史論）
プロジェクト名称	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進	
奈良文化財研究所	**【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】**－	

【年度実績と成果】
客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して大学院生の研究指導を実施した。

京都大学大学院人間・環境学研究科
・玉田 芳英「原始・古代精神文化論 1」5 名「文化遺産学演習 2」1 名
・高妻 洋成「保存科学論 2」3 名「文化遺産学演習 5」2 名
・尾野 善裕「遺物調査法論 1」1 名「文化遺産学演習 1」0 名「文化・地域環境論特別セミナー（博士科目）」1 名「文化遺産学特別演習 1（博士科目）」1 名
・馬場 基「史料学論 1」2 名「文化遺産学演習 3」2 名
・山崎 健「環境考古学論 1」3 名「文化遺産学演習 4」0 名「共生文明学研究 1（博士科目）」1 名
奈良女子大学大学院人間文化研究科
・小池伸彦「文化財学の諸問題Ⅰ・Ⅱ」 3 名・3 名
・渡邊晃宏「歴史資料論Ⅰ・Ⅱ」2 名・2 名
奈良大学文学部
・中島義晴、前川　歩「文化財修景学」58 名

年度計画評価	B

【評定理由】
下記各観点から評価を行った。①適時性においては、本務において得た最新の研究成果などをもとに、研究指導を行った。②独創性においては、当研究所が長年培ってきた専門知識を教授することができた。③発展性においては、連携大学院における講義や研究指導を通じて、次世代の研究者の育成・発展に大きく貢献した。④継続性においては、大学との連携協定を基に長年継続しており、継続的に実施することができた。
文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材育成について、計画通り寄与することができた。

観点	① 適時性	② 独創性	③ 発展性	④ 継続性	
定性評価	B	B	B	B	

【目標値】	**【実績値・参考値】** （参考値） ・受入学生数(延べ人数)： 京都大学　22 名 奈良女子大学　10 名 奈良大学　58 名	定量評価 ―

中期計画評価	B

中期計画記載事項	連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。
評定理由及び今後の見通し	連携大学院協定に基づき、計画的かつ継続的に実施できた。今後も、これまで蓄積してきた研究成果を基に連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与するため、学生に対して研究指導を実施していく。

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 2551-1

中項目	2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　⑤文化財等の防災・救援等への寄与

【年度計画】
1)体制づくり
有事における文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりに向けた検討を行う。
・文化遺産防災ネットワーク推進会議や文化遺産防災ネットワーク有識者会議を開催する。
・けいはんなオープンイノベーションセンターについて、収蔵庫機能の維持管理等を行いつつ関西地区における文化財防災の拠点として活用する。
・全国の自治体や博物館等施設、史料ネット等へのヒアリング、情報交換会の開催、調査の実施及び会議への参加等を通じて地域文化財防災ネットワーク構築に努める。また、地域防災計画について、大規模地震防災・減災対策大綱に対応した防災計画の検討を行う。
・ブルーシールド日本委員会についての検討や、諸外国の防災の取組に関する調査を実施し、国内体制の構築のための知見を得る。
・本事業での取組についてウェブサイトでの情報公開に努める。

担当部課	文化財防災ネットワーク推進本部 文化財防災ネットワーク推進室	事業責任者	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田　健

【実績・成果】
・文化遺産防災ネットワーク推進会議（会場：東京国立博物館。参画機関21団体、うち28年度の新規加盟1団体：(独)国立公文書館）
　臨時連絡会（6月30日）：熊本地震による文化財被災状況及び文化財レスキュー事業等について
　第5回（11月29日）：事業の活動状況、有識者会議からの提言、鳥取県・福島県で発生した地震等に伴う文化財等の被害・レスキュー活動の状況等、参画機関の活動内容等について
・文化遺産防災ネットワーク有識者会議（会場：東京国立博物館）
　第4回（6月30日）：事業の活動状況、熊本地震による文化財被災状況及び文化財レスキュー事業等について
　第5回（11月29日）：熊本地震、台風10号、各地における地震等に伴う文化財等の被害・レスキュー活動の状況等について。また、提言「文化遺産防災ネットワークの充実に向けて」を策定し、29年度以降の事業展開に対する知見を得た。
・けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）収蔵庫の環境調査・維持管理
　下記1.～4.を実施した。年間を通じて、顕著な虫菌害も発見されず、温湿度環境を安定的に維持した。
　1.環境調査(通年)　2.京都国立博物館防災対応受託規則の策定　3.KICK設備管理業者との収蔵庫環境管理契約締結
　4.収蔵庫の一部に限定して文化財を収蔵し、環境調査の継続
・28府県の博物館協会事務局・教育委員会文化財所管課等の担当者と面談し、府県内の文化財防災体制の現状等について聞き取り調査を実施し、文化財防災ネットワーク推進事業の紹介及び防災体制の確立に向けた意見交換を進めた（5月～29年3月）。
・第3回全国史料ネット研究交流集会（12月17日・18日、会場：愛媛大学南加記念ホール）を愛媛資料ネットと共に主催し、21団体が報告を行った（共催：愛媛大学法文学部、科研費基盤研究(S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立」研究グループ）。
・47都道府県の地域防災計画を閲覧調査し、文化財に関する記述について数県で改定を行っている状況を把握した。
・文化遺産防災国際シンポジウムの開催に合わせ、研究会（3月17日、会場：東京国立博物館、参加者数：18名）を開催し、諸外国のブルーシールド組織の実態や国内委員会設立に向けた具体的な課題等を把握した。
・ウェブサイトの定期的な更新に努め、文化財防災情報の収集公開機能を強化するサイトリニューアルを行った。

【補足事項】

文化遺産防災ネットワーク推進会議臨時連絡会
日時：6月30日　会場：東京国立博物館

熊本地震被災文化財レスキュー体制の構築・
指導助言

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
・文化遺産防災ネットワーク推進会議は、28年度にも新規に1団体が加盟し、徐々に拡大している。さらなるネットワーク強化を目指したい。
・熊本地震を受けて、熊本に重点化した情報収集やレスキュー活動の指導助言を実施した。これによって、被災地での文化財救出体制が速やかに構築され、29年3月現在で実施件数28件、文化財件数約6,200件の救出につながった。

【中期計画記載事項】
巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。
1)体制づくり
有事における文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりに向けた検討を行う。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
4月に発生した熊本地震に際して、一部事業を熊本に重点化し、被災地におけるレスキュー活動のネットワーク構築の在り方の研究を行った。各機関の協力の下で文化財救出体制の構築に貢献できた一方、ネットワーク全体の連携体制としての活動実現には課題を残した。参画団体及び有識者と十分な意見交換を図り、最終的な事業完了のイメージを固めていきたい。

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 2551-2

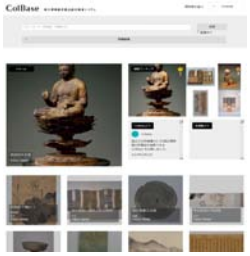
中項目	2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　⑤文化財等の防災・救援等への寄与

【年度計画】
2)調査研究等の実施
ア　文化財等の防災・救援に関する調査研究を行い、情報の収集と発信を行う。
・全国の文化財防災の先進事例の収集や、地方指定等文化財情報に関する収集・整理・共有化や、文化財防災体制にかかる調査研究に取り組む。
・データベースの作成として、被災した自然史標本等の所在情報や、歴史災害痕跡のデータベースや、全国の博物館の文化財情報保管に資するデータベース開発を行うなど、広く文化財全般の防災ネットワーク構築に寄与する。また、文化財レスキュー活動において必要となる文化財情報や運用のあり方についての予備調査を行う。
・文化遺産防災総合シミュレーションのための調査や災害発生時の被害算定手法について調査を行う。

担当部課	文化財防災ネットワーク推進本部 文化財防災ネットワーク推進室	事業責任者	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田　健

【実績・成果】
・都道府県・市町村指定文化財のリストについて、無形・有形文化財それぞれに作成していたデータベースの統合を目指し、データ項目を分析・整理した。また、文化財保護に関連する条例を収集し、データベース化や公開に向けての設計等を行った。
・無形民俗文化財に関し、和歌山県をデータベース項目策定のモデルケースとした調査を実施した。防災に資するデータベース項目策定のためのデータを収集した。
・被災した遺跡出土の動植物遺存体を含めた自然史標本に関する所在情報の収集をおこなったほか、防災・減災に向けた保管・管理体制を検討した。
・災害痕跡データベースの構築・公開のため、全国の発掘調査報告書ならびに発掘調査現場での情報収集を行い、GISデータベースシステム構築を進めた。大容量データを搭載したGISシステムの動作確認を進め、国土地理院情報検索システム等との連動性を確保した。
・東京大学史料編纂所の歴史地震史料データベースとの統合検索システム開発に着手した。本データベースについては、国内外の学会で成果を発表した。
・災害に備えて文化財に関するデータを各博物館相互に保管する方法を検討し、国立4博物館所蔵品のデータを集約した「国立博物館所蔵品統合検索システム（ColBase)」を開発し、29年3月27日に一般公開した。
・和歌山県有田郡湯浅町および広川町等の協力を得て、町誌等の既存資料をもとに文化遺産の分野横断的な総合的リストを作成し、文化遺産保全地図の作成を進めた。湯浅町：指定64件・未指定約150件、広川町：指定35件・未指定約120件をリストアップした。
・平時における悉皆調査手法の開発及び関係諸機関とのネットワーク形成のため、福岡県うきは市と登録有形文化財河北家住宅所蔵の動産文化財を対象に、市民と協働した地域歴史遺産保全活動モデルの構築に取り組み、「うきは市文化財サポーター育成講座」（全8回、総参加者数：延べ92名）を開講した。

【補足事項】



国立博物館所蔵品統合検索システム「ColBase」
日本語版TOPページ サンプル画面

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 ・国立博物館所蔵品統合検索システムについては、目標であった一般公開を達成した。今後は、非公開情報を含むデータの相互保管を継続的に行うため、データの復号化等の演習の実施や、受け渡しルールの策定を検討したい。開発したシステムを国内博物館へも紹介し、全国的な文化財防災のためのデータベースの普及に貢献しうる目途が立った。 ・その他の事業については、資料及びデータの収集・整理・分析の段階であり、データベースの構築・公開に向けて、引き続き作業を進めていく。

【中期計画記載事項】
巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。
2)調査研究等の実施
ア　文化財等の防災・救援に関する調査研究を行い、情報の収集と発信を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 文化財及び条例に関するデータベースの構築については、データ量が膨大であるために29年度以降も継続的な収集・整理作業が必要とされるとともに、データ更新の方法の確立も必要不可欠であるので、継続して取り組んでいきたい。

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 2551-3

中項目	2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　⑤文化財等の防災・救援等への寄与

【年度計画】
2)調査研究等の実施
イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、安定化処置及び修理、保存環境等に関する研究を実施し、指針の策定を目指す。
・救出時の被災文化財等の劣化診断に関する調査研究を行う。
・津波や水害などで被災した美術工芸品に対する脱塩処理等による安定化処理技術の確立を目指す。
・水濡れ資料の脱酸素処理による保管についての研究を行う。
・被災文化財等の安定的保管のための保存環境に関する研究を行う。
ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を実施する。
・無形文化遺産の防災のため動態記録作成等を通じて、被災後の継承等に関する研究を実施する。

担当部課	文化財防災ネットワーク推進本部 文化財防災ネットワーク推進室	事業責任者	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田　健

【実績・成果】
イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、安定化処置及び修理、保存環境等に関する研究を実施し、指針の策定を目指す。
・津波や水害などで被災した美術工芸品に対する安定化処理技術を確立するため、漆器及び油彩画を対象に研究を行った。
1. 複数材で構成された漆工芸資料の脱塩について、X線CTスキャナーによる分析等の結果、湿布法の有効性を確認した。今後、資料の形状・状態によって選択する脱塩方法を検討する。
2. アクリル画は、実験結果により一定の処置を行うことが可能になった。油彩画は、水による処置が困難な作品について、残留塩素や汚れの成分による影響と劣化の進行状況を把握することが今後の課題となった。
・空調の無い一時保管場所での適切な保管方法や、救出された水濡れした文化財のカビ対処法を重点的に検討した。
1. 保管容器の検証において、密閉度の高いケースで調湿材によって適正な湿度に保持する効果が顕著であることが分かった。
2. 各地の一時保管施設において環境モニタリングを継続し、環境安定のための設備等に制約がある中で、より良い状態の実現に努めた。陸前高田市博物館における一時保管庫の環境モニタリング手法等に関する助言等を行った。
3. 津波被災資料からの臭気については、精密分析によって原因物質を特定し、軽減のための方策をとった。
・長期間水濡れしていた近代資料について、真空凍結乾燥後、 NPO法人書物研究会の協力の下、処理方法の検討を行った。
1. 乾燥後の固着が著しい水損ノート類について、半密閉で湿り気を与えることで展開できる可能性があることを確認した。
2. 製紙会社2社より調達した計40点の塗工紙・微塗工紙サンプルの塗工層のX線回折データを集積した。
3. レスキュー→冷凍保管→真空凍結乾燥の流れに則したマニュアル化が今後の課題となった。
・先進的安定化処理技術の研究成果を公開するため、研究会報告書を作成・発行し、また研究会を開催した。
1. 平成27年度文化財防災ネットワーク推進事業研究会報告書 「大規模災害時における被災資料の一時保管施設について考える」（11月1日発行）
2. 中日韓文化財防災学術研究会報告書（29年1月31日発行）：国内外300ヵ所以上送付（うち中国・韓国は各200部）
3. 被災文化財の脱塩技術に関する専門家同士の研究会「安定化処理に関する課題」（6月27日）
主催：東京国立博物館、会場：文部科学省情報ひろばラウンジ、参加者：修理技術者等22名
ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を実施する。
・東日本大震災被災地域における無形文化遺産の動態記録を作成した。その他の地域における無形文化遺産についても調査するとともに、可能なものについては並行して動態記録を作成した。

【補足事項】

イ
水損紙資料の安定化処置及び修復方法に関する研究
真空凍結乾燥作業の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	イ　漆工芸品・油彩画・アクリル画等に関する安定化処理技術において、先進的な開発を進めることができた。 ウ　予防・防災を目的とした動態記録作成の有効性・活用について更なる検討を進めたい。

【中期計画記載事項】
巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。
2)調査研究等の実施
イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、保存環境、安定化処置及び修理等に関する研究を行う。
ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	イ・ウ共通　被災対象・被災状況によって対処法が全く異なるため、情報収集・研究データの蓄積・マニュアル化を継続して行っていきたい。

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 2551-4

中項目	2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
事業名	(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　⑤文化財等の防災・救援等への寄与

【年度計画】
3)人材育成等の実施
文化財等の防災・救援に関する指導・助言、研修、啓発・普及活動として、シンポジウム、講演会、研究集会、地方公共団体担当者等への研修会、地域の防災体制構築のための人材育成等を実施する。

担当部課	文化財防災ネットワーク推進本部 文化財防災ネットワーク推進室	事業責任者	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田　健

【実績・成果】
・講演会・シンポジウムを以下の通り開催した。
1. 特別講演会「歴史と共に考える文化財の防災・減災」(7月18日)
会場：九州国立博物館、講演者数：7名、参加者数：340名
2.「文化財を災害から守る２　今、そこにある危機　関西地域の災害と文化財」(11月12日)
会場：けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）2階ミュージアムホール
講演者数：4名、参加者数：32名　※パネル展示「熊本県文化財レスキュー活動報告」を同時開催。
関西地域で起こりうる身近な災害として直下型地震、豪雨等による水害を取り上げ、文化財を守る活動について地域市民に広く普及を図った。来場者アンケートでは半数以上の参加者から「とても良い／良い」の評価を得た。
3.「中部・近畿文化財関係者による文化財防災連絡会議」(12月13日)
会場：京都国立博物館平成知新館講堂、報告者・パネリスト数：8名、参加者数：74名
4. 公開シンポジウム「地域と共に考える文化財の防災・減災Ⅲ　熊本地震と文化財レスキュー」(12月4日)
会場：九州国立博物館、報告者・パネリスト数：14名、参加者数：200名
九州国立博物館での講演会・シンポジウムは、延べ540名の全世代にわたる市民と多数の文化財関係者の参加を得た。アンケートでは、2回ともに「とても良い／良い」の評価が9割近くにのぼり、文化財防災及びレスキュー活動への理解に資することができた。
5.「文化遺産防災国際シンポジウムー文化遺産を大災害からどう守るか：ブルーシールドの可能性Ⅱー」(3月18日)
会場：東京文化財研究所セミナー室、参加者数：50名
ブルーシールドに関する知見の向上と文化遺産防災に係る情報共有と啓発を行った。
・以下の研修を実施し、防災・減災・レスキューといった複数の視点から、体制構築に関わる知識と資料のレスキュー技術の習得を促すことができた。
1. 水損紙資料の応急措置研修（10月11日・12日）　共催：熊本県教育委員会
会場：熊本県博物館ネットワークセンター、講師：国立博物館・文化財研究所研究員及び史料ネット会員等
参加者：44名（熊本県内の市町村文化財担当者及び博物館・美術館学芸員、大学生等）
内容：熊本地震により水損した資料の応急処置技術や保管条件についての講義・実習
2. 文化財等防災ネットワーク研修（1月24日・25日）
会場：奈良文化財研究所、参加者：15名
内容：平常時・発災時の文化財等レスキュー体制の構築、水損紙資料の応急処置や実践的な取扱いの講義・実習
3. 地域防災計画文化財関連項目標準の検討に関する研究会（3月23日）
会場：東京文化財研究所、参加者：11名
内容：新潟県教育庁から講師を招聘し、地域防災計画における文化財関連項目の記述について標準化も含めた具体的内容を検討した。

【補足事項】

特別講演会「歴史と共に考える文化財の防災・減災」
日時：7月18日　会場：九州国立博物館

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	非常災害時における文化財等のレスキューについて普及・啓発を行うとともに、実際の活動の担い手となる人材を育成するために、文化財行政担当者・博物館関係者及び一般市民向けの公開シンポジウムや研修を実施し、いずれも高い反響を呼び、好評を博した。

【中期計画記載事項】
巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。
3)人材育成等の実施
文化財等の防災・救援に関する指導・助言、研修、啓発・普及活動を実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	機構職員が被災地での文化財等レスキュー活動を通じて得たノウハウは、国内外の文化財行政担当者・博物館関係者にとって、今後発生する可能性のある大規模自然災害への対処における指針の一つとなりうる。特に、被災資料の応急処置や環境保全といった実践的な分野における研修や研究会は、今後も重点的に継続していきたい。

【受託研究】

処理番号	年度計画の記号	受託事業名	担当	備考	頁
3112F-1	2-(1)-①-2)	若桜町若桜伝統的建造物群保存対策調査	奈文研	文化遺産部	392
3112F-2	2-(1)-①-2)	出雲市内神社建造物調査	奈文研	文化遺産部	393
3123E	2-(1)-②-3)	文化遺産国際協力拠点交流事業「大洋州諸島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業」	東文研	無形文化遺産部	394
3132F-1	2-(1)-③-2)-ｱ	平城宮跡歴史公園二条大路発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	395
3132F-2	2-(1)-③-2)-ｱ	興福寺南大門西門守屋の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	396
3132F-3	2-(1)-③-2)-ｱ	平城京跡二条条間路（東二坊）の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	397
3132F-4	2-(1)-③-2)-ｱ	平城京右京三条一坊十坪の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	398
3132F-5	2-(1)-③-2)-ｱ	興福寺北円堂院回廊の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	399
3132F-6	2-(1)-③-2)-ｱ	平城宮跡歴史公園二条大路東部他発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	400
3132F-7	2-(1)-③-2)-ｱ	平城宮跡歴史公園朱雀大路西側溝北部発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城）	401
3132F-8	2-(1)-③-3)-ｱ	平城京左京二条二坊十一坪の発掘調査（平城第581次）	奈文研	都城発掘調査部（平城）	402
3132F-9	2-(1)-③-2)-ｱ	平城京左京一条二坊十坪の発掘調査（平城第582次）	奈文研	都城発掘調査部（平城）	403
3132F-10	2-(1)-③-2)-ｱ	特別史跡山田寺跡法面改修に係る試掘調査業務	奈文研	都城発掘調査部（藤原）	404
3132F-11	2-(1)-③-2)-ｱ	特別史跡山田寺跡法面改修に係る試掘調査業務	奈文研	都城発掘調査部（藤原）	405
3133F-1	2-(1)-③-3)	京都市の文化的景観保存計画策定調査	奈文研	文化遺産部	406
3133F-2	2-(1)-③-3)	南山城村における文化的景観保存修景事業	奈文研	文化遺産部	407
3134F	2-(1)-③-4)-ｱ	考古資料および文献史料からみた過去の地震・火山災害に関する情報の収集とデータベースの構築・公開	奈文研	埋蔵文化財センター	408
3212F	2-(2)-①-2)	瑞巌寺周辺の岩窟・石塔の映像記録・測量調査	奈文研	埋蔵文化財センター	409
3213F	2-(2)-①-3)	国宝　薬師寺東塔　木材年代測定業務（第３回）	奈文研	埋蔵文化財センター	410
3214F-1	2-(2)-①-4)	陸前高田市堂の前貝塚出土の動物遺存体の分析委託業務	奈文研	埋蔵文化財センター	411
3214F-2	2-(2)-①-4)	波怒棄館遺跡出土の動物遺存体の分析	奈文研	埋蔵文化財センター	412
3214F-3	2-(2)-①-4)	台の下貝塚出土の動物遺存体の分析	奈文研	埋蔵文化財センター	413
3221E	2-(2)-②-1)	日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討	東文研	保存科学研究センター	414
3225E	2-(2)-②-5)	絵金屏風の保存修理に関する調査研究	東文研	保存科学研究センター	415
3226F	2-(2)-②-6)	松帆銅鐸・舌の調査研究	奈文研	埋蔵文化財センター	416
3227F-1	2-(2)-②-7)	平城宮跡遺構展示館の保存活用に関する調査研究事業	奈文研	埋蔵文化財センター	417
3227F-2	2-(2)-②-7)	平成28年度　国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務	奈文研	埋蔵文化財センター	418
3228F	2-(2)-②-8	法隆寺若草伽藍跡西方の調査出土壁画片の調査	奈文研	埋蔵文化財センター	419
3229E-1	2-(2)-②-9)	万世特攻平和祈念館金属類収蔵品劣化対策事前調査事業	東文研	保存科学研究センター	420
3229E-2	2-(2)-②-9)	近代産業遺産(美術工芸品)に関する海外事例調査事業	東文研	文化遺産国際協力センター	421
3230E-1	2-(2)-②-10)	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	東文研	保存科学研究センター	422
3230E-2	2-(2)-②-10)	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	東文研	保存科学研究センター	423
3230F-1	2-(2)-②-10)	特別史跡キトラ古墳の保存・活用及び文化庁キトラ古墳壁画保存管理施設（キトラ古墳壁画体験館　四神の館内）の管理・運営業務	奈文研	都城発掘調査部（藤原）・埋蔵文化財センター・企画調整部・文化遺産部	424
3230F-2	2-(2)-②-10)	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	奈文研	都城発掘調査部（藤原）・埋蔵文化財センター・企画調整部・文化遺産部	425
3311E	2-(3)-①-1)-ｱ	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	東文研	文化遺産国際協力センター	426
3312E-1	2-(3)-①-2)-ｱ-(ｱ)	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	東文研	文化遺産国際協力センター	427
3312E-2	2-(3)-①-2)-ｱ-(ｱ)	文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)「ミャンマー・バガン遺跡群における地震被害に関する調査」	東文研	文化遺産国際協力センター	428
3312E-3	2-(3)-①-2)-ｱ-(ｲ)	文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)「シリア内戦下における被災文化財に関する調査」	東文研	文化遺産国際協力センター	429
3312F	2-(3)-①-2)-ｱ-(ｱ)	ミャンマーにおける発掘調査法・遺物研究法等の考古技術移転を目的とした拠点交流事業	奈文研	企画調整部	430
3320G	2-(3)-②	平成28年度無形文化遺産保護パートナーシップ事業	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		431
3521F-1	2-(5)-②-1)	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	奈文研	都城発掘調査部（平城）	432
3521F-2	2-(5)-②-1)	長門鋳銭所跡出土木簡の保存処理を経ての総合的研究	奈文研	都城発掘調査部（平城）	433
3521F-3	2-(5)-②-1)	鳥取県鳥取市大桝遺跡出土文字資料の保存処理等の総合的研究	奈文研	都城発掘調査部（平城）	434
3521F-4	2-(5)-②-1)	鳥取県鳥取市青谷横木遺跡出土木簡の保存処理等総合的研究	奈文研	都城発掘調査部（平城）	435
3521F-5	2-(5)-②-1)	鳥取県鳥取市大桝遺跡出土大型呪符木簡他の保存処理等の総合的研究	奈文研	都城発掘調査部（平城）	436
3521F-6	2-(5)-②-1)	木之本廃寺、藤原京左京五条三坊（脇本宅）発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（藤原）	437
3521F-7	2-(5)-②-1)	史跡　飛鳥寺跡に隣接する県道「橿原神宮東口停車場飛鳥線」の厳重立会調査	奈文研	都城発掘調査部（藤原）	438

3521F-8	2-(5)-②-1)	奈良職業能力開発促進センター本館取壊しに伴う藤原京跡（右京九条二・三坊）、瀬田遺跡発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（藤原）	439
3521F-9	2-(5)-②-1)	特別史跡藤原宮跡（高殿町道路拡幅）発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（藤原）	440
3521F-10	2-(5)-②-1)	大和紀伊平野農業水利事業に係る埋蔵文化財発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（藤原）	441
3521F-11	2-(5)-②-1)	藤原京左京七条一坊（別所町集会所）発掘調査業務	奈文研	都城発掘調査部（藤原）	442
3521F-12	2-(5)-②-1)	常総市水損文書の真空凍結乾燥処置に関する研究	奈文研	埋蔵文化財センター	443
3531F	2-(5)-③-1)	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	奈文研	研究支援推進部	444

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	若桜町若桜伝統的建造物群保存対策調査(①-2))		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	林良彦（部長）

【スタッフ】
箱崎和久（都城発掘調査部遺構研究室長)、西山和宏（都城発掘調査部主任研究員)、海野　聡（都城発掘調査部遺構研究室研究員)、鈴木智大（都城発掘調査部遺構研究室研究員)、番　光（都城発掘調査部遺構研究室研究員）

【年度実績概要】
鳥取県若桜町は鳥取県東部にある山間の町で播磨、但馬地方に通じる結節点として宿場町が栄え、また、周辺の材木の集散地としても栄えた。若桜町ではこの町並みを重要伝統的建造物群保存地区として後世に伝えようと 27 年度から文化庁の補助を受けて保存対策調査に乗り出し、奈良文化財研究所が調査事業を行っている。
2 ヵ年継続の最終年度となる 28 年度の本受託事業は、保存地区と目される地区内に残る 27 年度に行った伝統的建造物の把握（1 次調査）に引き続き、代表的な伝統的建造物の各戸調査（2 次調査）や環境物件として地区に残る水路網等を調査し、調査票作成、写真撮影、実測調査の成果をまとめ、調査報告書を出版するとともに、文化庁の重要伝統的建造物群保存地区選定に向けての各種作業に協力した。
地方行政が行う文化財保護施策に寄与する調査であると評価できる。

「若桜町若桜－伝統的建造物群保存対策調査報告書－」

【実績値】
調書作成 40 枚
写真撮影約 2，600 カット
報告書出版「若桜町若桜－伝統的建造物群保存対策調査報告書－」1 冊

【委託者・受託経費】
委託者：若桜町（鳥取県）
受託経費：2,934 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	出雲市内神社建造物調査(①-2))		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	林良彦（建造物研究室長）

【スタッフ】
箱崎和久（都城発掘調査部遺構研究室長)、西山和宏（都城発掘調査部主任研究員)、海野　聡（都城発掘調査部遺構研究室研究員)、鈴木智大（都城発掘調査部遺構研究室研究員)、番　光（都城発掘調査部遺構研究室研究員）

【年度実績概要】
28 年度に出雲市からの受託で、市内の神社に残る建造物の悉皆的な調査を行った。出雲大社の境内、境外にある摂末社についてはすでに数年前に奈文研が調査しているので、今回はそれ以外の一般の神社についての調査である。まず市内全域、約 190 件の神社の 1 次調査（外観）を行い年代的には最も古いもので 17 世紀後期、それ以降近代までの社殿が確認された。次に確認された各本殿の類型から代表的なものについてより詳細な実測調査等を含む 2 次調査を行い、平面図、原稿を作成した。

出雲市は出雲大社の膝元で、他の地方とは異なり大社造系の本殿が多く残っているが、大社の本殿等に代表される 2 間四方、田の字平面の本体前面に偏って階隠の付く、いわゆる純粋な大社造は希少で、大社の社殿には見られない三斗組や出組などの組物を用いる社殿も意外に多くあり、近世における多様な社寺建築の変化が見て取れた。

大社造以外では流造も相当数あるが、縁を四方に巡らせるなど、大社造やその派生形式に影響を受けた、他地方にはない特徴と考えられた。

地方の文化財建造物保護の動きをサポートする事業として評価できる。

出雲市内神社建造物調査風景

【実績値】
調書 220 枚
写真撮影約 9,000 カット
平面図作成 24 枚

【委託者・受託経費】
委託者：出雲市（島根県）
受託経費：2,996 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3123E

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業「大洋州諸島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業」(②-3))		
【担当部課】	無形文化遺産部	【事業責任者】	飯島満（部長）

【スタッフ】
石村智（音声映像記録研究室長)、久保田裕道（無形民俗文化財研究室長)、前原恵美（主任研究員)、菊池理予（研究員)、今石みぎわ（研究員)、佐野真規（アソシエイトフェロー)、宮澤京子（有限会社海工房・客員研究員)、鈴木絢香（研究支援推進部アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】

・ グアムで開催された第 12 回太平洋芸術祭において、南山大学、Traditional Arts Committee, Guam、Tatasi Subcommittee, Guam との共催、ユネスコ大洋州事務所の協力で、第 1 回「カヌーサミット」を 5 月 26 日に開催した。このサミットでは、大洋州島嶼国に共有された文化遺産であるカヌー文化について、その研究者及び伝承者を招き、その保存と継承についての課題について活発な議論が行われた。参加者は 100 余名におよび、サミットの様子はユネスコのウェブサイトでも紹介されるなど、各方面に大きなインパクトを与える成果を挙げた。

・ フィジー・南太平洋大学をカウンターパートとした研究交流では、当初はフィジーにおいて現地ワークショップを開催する予定であったが、先方の担当者の異動などの止むを得ない事情があったため開催を断念したが、10 月 22 日～30 日にかけてフィジーを訪問し、UNISDR 主催による「大洋州における災害レジリエンスの発展に関するフレームワーク」会議に出席し情報収集を行った（アジア太平洋無形文化遺産研究センターとの共同事業）のにあわせて、南太平洋大学の担当者と研究打合せと情報交換を行った。

・ 南太平洋大学との研究交流において、南太平洋大学の研究者及びカヌー文化の継承者など 4 名を、29 年 3 月 20 日～27 日の日程で日本に招聘する研修事業を実施した。その中では、22 日に東京文化財研究所において「カヌー文化研究会」を開催して日本国内のカヌー文化研究者との研究交流を行い、さらに沖縄の国営公園沖縄海洋博記念公園海洋文化館を訪問し博物館研修を行った。

・ 28 年度に本事業で実施したフィジー・ガウ島での現地調査の成果について、映像記録にまとめ、DVD として公刊した。本 DVD は日・英 2 ヶ国語で製作されており、関係各方面に配布することによって、本事業の成果の公開を図ると共に、教育ツールとして大洋州島嶼国の各国で活用されることを期待している。

第 1 回カヌーサミットの様子

カヌーの航海デモンストレーションの様子

【実績値】
学会等発表　2 件
①考古学研究会第 62 回総会研究集会（4 月 16 日～17 日)「気候変動が文化遺産に及ぼす影響」(ポスター発表)
②第 34 回日本オセアニア学会研究大会・総会（29 年 3 月 26 日～27 日)「第一回カヌーサミット開催報告」(口頭発表)

論文等発表　1 件
①DVD『気候変動に立ち向かう文化の力：フィジー・ガウ島より』(29 年 3 月 31 日刊行)

【委託者・受託経費】
委託者：　文化庁
受託経費：5,997 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	平城宮跡歴史公園二条大路発掘調査(③-2)-ｱ)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	渡辺晃宏（副部長）

【スタッフ】
林正憲（主任研究員）、芝康次郎（考古第1研究室研究員）、小田裕樹、山藤正敏（考古第2研究室研究員）、桑田訓也（史料研究室研究員）、番　光（遺構研究室研究員）

【年度実績概要】
・東区と西区の二つの調査区を設定した。調査面積は東区 360 ㎡、西区 324 ㎡、合計 684 ㎡。調査期間は 3 月 8 日～7 月 25 日。

・基本層序
東区：地表から現代造成土、礫交じり褐色砂質土、灰褐色シルト（床土）、褐色粘土。遺構検出面は褐色粘土上面で、h=64.3m。
西区：地表から現代造成土、灰色粘質土（床土）、灰褐色砂質土（遺物包含層）、黄褐色砂質土(奈良時代の整地土)。遺構検出面は黄褐色粘質土上面で、h=64.7m。

566 次調査東区全景（北から）

・主な検出遺構
①朱雀大路西側溝
東区で南北約 18m分を検出。幅 3.7～5.0m、遺構検出面からの深さは二条大路南側溝との合流点北側で 0.8m、南側で 1.2m。東岸にしがらみ護岸が残る。
②二条大路南側溝
東区で東西約 10m分、西区で東西約 18m分を検出。幅 4.0～4.5m、深さ 1.0～1.2m。後述する南北溝より西では規模が小さくなり、幅 3.5m、深さ 0.7m。
③西一坊坊間東小路西側溝
西区で南北約 6m分を検出。幅 1.6m、深さ 0.5m。
④南北溝
西区で南北約 8m分検出した、これまで知られていなかった二条大路を横断する素掘り溝。朱雀門心から西 90mに位置し、二条大路南側溝に合流する。幅 3.0～3.8m、深さ 0.8m。

566 次調査西区全景（北から）

・主な出土遺物
土器・土製品（土馬・墨書土器・緑釉陶器含む）、瓦磚類、鉄釘、銅銭、石製品、冶金関連遺物、木簡、人形、横櫛、草鞋、骨片、種実など。

調査所見：
朱雀大路西側溝が二条大路を横断することを再確認した。また、新たに二条大路を南北に横断する溝を発見した。南面大垣周辺又は宮内の排水を二条大路南側溝へ流していた可能性がある。朱雀門前の条坊道路の敷設計画及び排水計画があきらかになった。また、西一坊坊間東小路西側溝と二条大路南側溝との接続点付近では西岸に沿って埋土の上層に大量の瓦が出土した。右京三条一坊八坪を遮蔽する築地塀の存在が推測される。

【実績値】
（参考値）
・「平城京右京三条一坊一坪・二坪・八坪の調査（仮）」『奈良文化財研究所紀要』2017
（参考値）
出土遺物：瓦類 945kg+28 箱（うち軒丸瓦 24 点、軒平瓦 20 点）、土器片 19 箱、木器・木製品 50 箱、木簡 150 点以上（うち削屑 120 点以上）、鉄釘 1 点、銅銭 3 点、石製品 4 点、冶金関連 10 点、骨片 13 点、種実 80 箱。
記録作成数：実測図 43 枚（A2 判）、デジタル大判写真 212 枚、デジタル写真 1086 枚

【委託者・受託経費】
委託者：国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所
受託経費：34,381 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	興福寺南大門西門守屋の発掘調査(③-2)-ｱ)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	渡辺晃宏（副部長）

【スタッフ】
林正憲（主任研究員）、小田裕樹（考古第2研究室研究員）、桑田訓也（史料研究室研究員）

【年度実績概要】
・興福寺による防災設備工事にともなう発掘調査。
調査面積は144㎡。調査期間は5月25日～7月20日。

・基本層序
上から表土（5㎝）、整備盛土（45～65㎝）、旧表土（5㎝）、現代盛土（3㎝前後）、にぶい黄褐色砂質土（5～20㎝、近代以降の遺物包含層）、橙色粘質土もしくは淡黄色粘質土（20～30㎝、創建期の整地土か）、黄褐色砂礫（地山）。地山の標高は、調査区東北部では約93.55m、西南部では約92.90mで、おおよそ北東から南西に向かって低くなる。
遺構検出は、基壇外装・雨落溝などが遺存する箇所を除き、基本的に橙色粘質土もしくは淡黄色粘質土の上面でおこなった。遺構検出面の標高は、調査区北部の最も高い箇所で93.75m前後、調査区南部の最も低い箇所で93.25m前後である。

調査区全景（南西から、右奥は南大門の復元基壇）

・主な検出遺構
基壇建物1棟（古代・西門守屋）、不整形土坑1基（中世）、長方形土坑1基（太平洋戦争時の防空壕か）など。

・主な出土遺物
奈良時代から近代までの土器、陶磁器類、瓦が出土した。他に寛永通宝などの銭貨も出土している。

・調査所見
①西門守屋は、東門守屋とほぼ対称の平面形態であることが判明した。
西門守屋の基壇は、西側で南に折れ、東側では南辺に階段とみられる凸部があるなど、南大門をはさんで東門守屋と東西対称の平面形態をもつ。ただし、規模には若干の差異があり、今後の検討課題である。
また、基壇の南北規模や建物の柱配置については、後世の削平・撹乱が著しく、明らかにできなかった。
②西門守屋の創建および廃絶の時期について、一定の見通しを得た。
創建時期については、残存する基壇外装の所見から、奈良時代前半にさかのぼる可能性が高い。
廃絶時期については、不整形土坑出土土器の年代観を重視すれば、12世紀頃が1つの有力な候補となり得る。1180年の南都焼き討ちにより焼亡し、以後再建されなかった可能性が考えられる。

【実績値】
論文等数：1件
「興福寺南大門西門守屋の調査－平城第567次」『奈良文化財研究所紀要2017』(29年6月予定)

（参考値）
出土遺物：瓦片192箱（うち軒丸瓦32点、軒平瓦19点）、土器片3箱、金属製品31点、石製品1点
記録作成数：実測図17枚（A2判）、デジタル写真約760枚

【委託者・受託経費】
委託者：宗教法人興福寺
受託経費：3,292千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	平城京跡二条条間路（東二坊）の発掘調査(③-2)-ｱ)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	渡辺晃宏（副部長）

【スタッフ】
国武貞克（主任研究員）

【年度実績概要】

・共同住宅の建設にともなう発掘調査。調査面積は 84 ㎡。調査期間は 5 月 16 日～6 月 21 日。

遺構完掘状況（北東から）

・基本層序
　上から造成土（約 60 ㎝）、耕作土（約 20 ㎝）、床土（約 40 ㎝）、褐灰シルト（約 5 ㎝）、黒褐シルト（約 10 ㎝）、
黄灰シルト（約 30 ㎝）。遺構検出は、灰褐シルト上面で行った。検出面は h=60.40m。

・主な検出遺構
　二条条間路南側溝（上層・下層）・南北溝 2 条・柱穴 10 基

・主な出土遺物
　瓦、土器、木製品、木簡

・調査所見
①二条条間路南側溝を検出した。
　二条条間路南側溝上層は幅 3.5m、検出面からの深さ 0.5m以上。下層溝は幅 3.5m、検出面からの深さ 0.4m。上層溝より北へ 0.6mずれる。二条条間路南側溝の南側では、地山が約３mの幅で高く残ることから基底幅約３mの築地が想定される。想定築地の南には雨落溝と推定される東西溝を調査区の西で２m程度検出した。
②2 時期の遺構群を確認した。
　上層では坪内で柱穴を確認したが、建物としては認識できなかった。下層では、二条条間路南側溝に南から流れ込む 2 時期の南北溝を確認した。機能などは不明で今後の検討が期待される。

【実績値】
論文等数：１件
「平城京右京二条条間路の調査－平城第 571 次」『奈良文化財研究所紀要　2017』(29 年 6 月予定)

(参考値)
出土遺物：土器 20 箱、瓦 10 箱（うち軒丸瓦 6 点、平軒瓦 4 点)、緑釉塼 7 点、木製品 20 箱（漆刷毛等)、木簡 450 点以上（うち削屑 350 点以上)、柱根 1 点
記録作成数：実測図 13 枚（A2)、デジタル写真約 500 枚

【委託者・受託経費】
委託者：個人（土地所有者）
受託経費：1,875 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F-4

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	平城京右京三条一坊十坪の発掘調査(③-2)-ｱ)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	渡辺晃宏（副部長）

【スタッフ】
国武貞克（主任研究員）

【年度実績概要】
・店舗建設に伴う発掘調査。調査面積は 117 ㎡。調査期間は 6 月 24 日～7 月 26 日。

・基本層序
　上から水田耕土（約 20 ㎝）、床土（約 30 ㎝）、黄褐色粘質土（約 10 ㎝）、黄褐色砂質土（約 10 ㎝）、暗灰砂質土（20 ㎝以上）。遺構検出は黄褐色粘質土上面で行った。遺構面は h=64.9m。

・主な検出遺構
　東西溝 2 条（古墳時代、古代以降）、建物 2 棟

・主な出土遺物
　土器、瓦、木製品等

全景写真（南東から）

・調査所見
　南北棟掘立柱建物及び先行する建物を検出した。
　東西溝 1 は時期を特定できる遺物は検出されていない。坪の南北の中軸から 3.9m北に位置し、坪の中心を通る坪内道路の北側溝の可能性もある。一方、調査区内で想定されていた坊間小路の東側溝は、検出できなかった。

【実績値】
（参考値）
出土遺物：瓦 1 箱（うち軒丸瓦 1 点）、土器 4 箱、木製品 2 点
記録作成数：実測図 14 枚（A2 判）、デジタル写真約 430 枚

【委託者・受託経費】
委託者：個人（土地所有者）
受託経費：1,935 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F-5

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	興福寺北円堂院回廊の発掘調査(③-2)-7)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	渡辺晃宏(副部長)

【スタッフ】
馬場基（主任研究員)、海野聡（遺構研究室研究員）

【年度実績概要】
・興福寺北円堂院回廊整備事業の遺構の保全状況を確認するための調査。調査機関は 6 月 22 日～7 月 2 日。整備工事が施工された北円堂院回廊周囲（東面回廊の東西、南面回廊の北、南門北）に 7 箇所（A～G 区）の調査区と、北円堂院回廊南面に調査区を設定した。調査面積は計 104 ㎡。

・基本層序
　整備回廊周辺は、いずれも整備回廊工事の掘方内。北円堂回廊南側は、砂利・表土・焼土（約 5 ㎝）直下で地山面。遺構検出は地山面（h=94.8～94.9m）で行った。

・主な検出遺構
　顕著な遺構無し。

・主な出土遺物
　無し。

・調査所見
　整備北円堂院回廊基壇化粧は、東面回廊東西両側、北面回廊南北両側、南面回廊北側において北円堂院回廊基壇遺構が影響を受けている可能性があると判断した。
　北円堂院回廊南側では、既存の水路によって遺構は残存しておらず、今回の工事の影響はないないと判断した。

奈良県文化財保存課による視察

【実績値】
論文等数件数：1 件
史跡・興福寺北円堂院回廊整備工事に伴う毀損状況報告書

（参考値）
記録作成数：実測図 7 枚（A2 判)、デジタル写真約 300 枚

【委託者・受託経費】
委託者：宗教法人興福寺
受託経費： 676 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F-6

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	平城宮跡歴史公園二条大路東部他発掘調査(③-2)-ｱ)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	渡辺晃宏（副部長）

【スタッフ】
今井晃樹、馬場基、丹羽崇史、岩戸晶子（以上、主任研究員)、庄田慎矢（考古第一研究室研究員)、鈴木智大、海野聡（遺構研究室研究員)、浦蓉子（考古第一研究室アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】
・左京一坊一坪域の二条大路北側溝の調査区（東区・平城第 576 次）230 ㎡と、右京三条一坊二坪域の朱雀大路西側溝の調査区（西区・平城第 577 次）120 ㎡、合計 350 ㎡。調査期間は東区が 10 月 12 日～11 月 30 日、西区が 12 月 2 日～29 年 1 月 31 日。以下、東区と西区ついてそれぞれ述べる。

東区
・基本層序
　整備盛土（約 120cm)、耕作土（10～15cm)、床土 1（20cm)、床土 2（20cm)、整地土。遺構検出は整地土上面（63．60m付近）で行った。

・主な検出遺構
　整地土、二条大路北側溝、斜行溝

・主な出土遺物
　瓦、土器、木簡など

二条大路北側溝完掘状況

・調査所見
　想定位置に二条大路北側溝を検出した。また、本調査区は宮内からの基幹排水路 SD3715 との合流点に近接する地点であり、7.5m 近い側溝幅を確認した。

西区
・基本層序
　整備盛土（約 60 cm)、床土（約 20 cm)。遺構検出は床土直下（h=64.00m付近）で行った

・主な検出遺構　朱雀大路西側溝、築地雨落溝

・主な出土遺物　瓦・土器類、木簡など。

・調査所見
　右京三条一坊二坪域の朱雀大路西側溝を確認した。また、二坪域の朱雀大路に面した部分の築地東西側溝を確認した。合わせて、当該地域の遺構面の確認をした

【実績値】
論文等数：2 件
「平城京朱雀門周辺・朱雀大路・二条大路の調査－第 552 次・第 566 次・第 577 次・第 578 次」『奈良文化財研究所紀要 2017』(29 年 6 月予定)
「平城京二条大路東一坊域の調査－第 576 次」『奈良文化財研究所紀要 2017』(29 年 6 月予定)

（参考値)
出土遺物：瓦片 90 箱（軒丸瓦 2 点、軒平瓦 1 点含)、土器片 12 箱、木器 19 箱、木簡（削片含）300 点以上、和同開珎 1 点
記録作成数：実測図 35 枚（A2 判)、デジタル写真約 970 枚

【委託者・受託経費】
委託者：国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所
受託経費：19,138 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F-7

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	平城宮跡歴史公園朱雀大路西側溝北部発掘調査(③-2)-7)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	渡辺晃宏（副部長）

【スタッフ】
今井晃樹、丹羽崇史、岩戸晶子(主任研究員)、海野聡（遺構研究室研究員)、浦蓉子（考古第一研究室アソシエイトフェロー)、

【年度実績概要】
・調査面積は 324 ㎡。調査期間は 11 月 14 日～29 年 1 月 19 日。

基本層序
　コンクリートガラ（40～50cm)、耕作土・床土(40cm)、整地土。遺構検出は整地度上面(64.30m付近）で行った。

主な検出遺構
　朱雀大路西側溝

主な出土遺物
　土器、瓦類、木簡など。

調査所見
　朱雀門前の朱雀大路西側溝の二条大路横断部分を確認し、その構造を明らかにした。
　また朱雀大路西側溝で三箇所に張り出し遺構を確認した。架橋に伴う構造物の可能性がある。

朱雀大路西側溝　東肩部シガラミ遺構
（等間隔に杭を立て、杭間に枝材を沿わせて編んでいる）

【実績値】
論文等数：1 件
「平城京朱雀門周辺・朱雀大路・二条大路の調査－第 552 次・第 566 次・第 577 次・第 578 次」(29 年 6 月予定)

（参考値）
出土遺物：瓦片 64 箱（軒丸瓦 34 点、軒平瓦 12 点含む)、土器片 4 箱、木製品 13 箱、人形 1 点、鳥形 1 点、木簡 20 点
記録作成数：実測図 26 枚（A2 判)、デジタル写真約 900 枚

【委託者・受託経費】
委託者：国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所
受託経費：13,676 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F-8

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	平城京左京二条二坊十一坪の調査（平城第 581 次）（③-2)-ｱ)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	渡辺晃宏（副部長）

【スタッフ】
馬場基（主任研究員)、庄田慎矢（考古第１研究室研究員)、鈴木智大（遺構研究室研究員）

【年度実績概要】

・倉庫建築に伴う発掘調査。調査面積は 21 ㎡。調査期間は 29 年 1 月 16 日～20 日。

・基本層序
　上から、近現代造成・盛土（約 1m)、耕作土（約 10 ㎝)、床土（約 60 ㎝)、遺物包含層（厚さ不定)。遺物包含層下が遺構面（h=59.9～60.1m)。遺構面は、一部で黒褐色土（整地土）が認められるが、主として黄褐色粗砂・灰白色粘土・灰色粘土・緑灰色シルト・暗緑灰色粗砂・暗青灰色シルト（いずれも地山)。

・主な検出遺構
　南北柱列 3 条、柱穴群、南北溝状遺構など

・主な出土遺物
　土器・瓦類・木製品

・調査所見
　比較的狭い調査面積ながらも、数多くの遺構を検出した。左京二条二坊十一坪は、隣接する十坪との一体的な利用や、左右対称の建物配置、また数回に及ぶ建物の建て替えなど、特異で濃密な土地利用がなされた重要な地域であることが明らかになっている。この坪内の、南部においても、これまで北部で検出していた遺構群と同等の遺構群が展開する可能性が高いことを明らかにした。

調査区全景（南西から）

【実績値】

・「平城京左京二条二坊十一坪の調査（平城第 581 次)」『奈良文化財研究所紀要 2017』29 年 6 月（予定）

（参考値）
出土遺物：瓦片 6 箱（軒丸瓦 3 点、軒平瓦 1 点)、土器片 10 箱、板状鉄製品 3 点、冶金関係遺物
記録作成数：実測図 3 枚（A2 判)、デジタル写真約 60 枚

【委託者・受託経費】
委託者：個人（土地所有者）
受託経費：863 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F-9

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	平城京左京一条二坊十坪の発掘調査（平城第 582 次）（③-2)-7)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	渡辺晃宏（副部長）

【スタッフ】
馬場基（主任研究員)、庄田慎矢（考古第１研究室研究員)、鈴木智大（遺構研究室研究員）

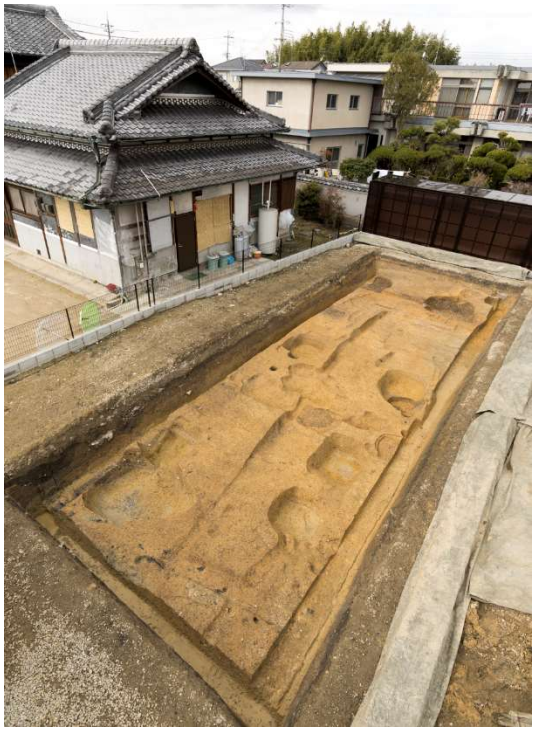
【年度実績概要】
・宅地分譲に伴う発掘調査。調査面積は 100 ㎡。調査期間は 29 年 2 月 13 日～3 月 3 日。

・基本層序
　上から、近現代造成土（約 50 ㎝)、床土（約 30 ㎝）で、床土直下が遺構面(h=70.4m)。遺構面は、北半では橙褐色砂質土・黄褐色シルト（いずれも地山)、南半は橙褐色砂質土（埋め立て・整地土)。橙褐色砂質土は、後述する東西溝状遺構埋立土最上層の整地土である。

・主な検出遺構
　東西溝状遺構、柱穴、土坑など

・主な出土遺物
　土器・瓦類

・調査所見
　近現代における削平が多かったものの、奈良時代とみられる柱穴等を検出することができた。また、東西溝状落ち込みは、深さ 2m を越える大規模なもので、平城京造営時に埋め立てられたと考えられる。平城京以前の地形や造営過程を考える上でも、重要な情報を得ることが出来た。



調査区全景（南東より）

【実績値】

・「平城京左京一条二坊十坪の調査－平城第 582 次」『奈良文化財研究所紀要 2017』29 年 6 月（予定）

（参考値）
出土遺物：瓦片 23 箱（軒丸瓦 7 点、軒平瓦 9 点含む)、土器 5 箱、寛永通宝 1 点
記録作成数：実測図 7 枚（A2 判)、デジタル写真約 100 枚

【委託者・受託経費】
委託者：株式会社ハウスプロジェクト
受託経費：2,875 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F-10

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	特別史跡山田寺跡法面改修に係る試掘調査業務(③-2)-7)		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	玉田芳英（部長）

【スタッフ】
西山和宏（主任研究員）、山本亮（考古第三研究室アソシエイトフェロー）、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員）

【年度実績概要】
○特別史跡山田寺跡において、国有地北端と民地の敷地境の法面改修事業に伴い試掘調査を実施した。当該地は山田寺の寺域北端を画する北面大垣の推定地にあたる。３箇所の試掘調査区（西区・中区・東区）を設定し、遺構面の残存状況と高さを確認した。
・調査地：桜井市山田
・調査期間： 9 月 21 日～10 月 25 日
・調査面積：西区 3×3.5m　中区 3×5＋2×4m　東区 3×3.5m　計 44 ㎡
○調査成果
・西区：地山上の盛土層を確認した。盛土層の上面はほぼ水平となり、遺構面となる。遺構面の高さは GL－約 0.8m。瓦を蓋とする南北方向の暗渠状遺構を検出した。
・中区：地山上に薄く整地土とみられる土層があり、上面が遺構面である。遺構面の高さは GL－約 0.7m。東西に並ぶ柱穴を確認し、位置ならびに間隔が既往の調査成果と整合的であることから北面大垣の遺構と考えられる。北面大垣は間隔を約 230cm（８尺）とする一本柱塀である可能性が高いことがわかった。
・東区：過去の調査（第６次）で検出していた石積み溝の延長部分を検出した。遺構面は GL－約 1.5m。
・出土遺物：いずれの調査区でも瓦と土器が出土した。西区では遺構面を厚く瓦溜が覆っており、最も出土量が多い。
・北面大垣を検出したことにより、推測にとどまっていた山田寺の寺域北辺を確定できた。

調査区全景（東から）

【実績値】
・出土遺物：軒瓦 13 点、丸・平瓦 23 箱、土器 3 箱、金属製品 2 点、石器・石製品 1 点、鉄滓 1 点、木炭 2 点。
・記録作成数：遺構実測図４枚、写真 27 枚、メモ写真 134 枚。

【委託者・受託経費】
委託者：文化庁
受託経費：1,382 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F-11

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	特別史跡山田寺跡法面改修に係る発掘調査業務(③-2)-7)		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	玉田芳英（部長）

【スタッフ】
廣瀬覚（都城発掘調査部主任研究員）、尾野善裕（考古第二研究室長）、大林潤（都城発掘調査部主任研究員）、石田由紀子（考古第三研究室研究員）

【年度実績概要】
○特別史跡山田寺跡において、国有地北端と民地の敷地境の法面改修事業に伴い発掘及び立会調査を実施した。当該地は山田寺の寺域北端を画する北面大垣の推定地にあたる。9 月 21 日～10 月 25 日に実施した試掘調査の結果から、工事掘削予定範囲に北面大垣が重複する可能性が生じたため、遺構の正確な位置を把握するための発掘調査を実施した。また、立会調査では、工事掘削範囲における遺構の有無を確認した。
・調査地：桜井市山田
・調査期間：29 年 2 月 7 日～2 月 15 日（立会調査は 3 月 24 日まで）
・調査面積：発掘調査 21 ㎡、立会調査 240 ㎡

○調査成果
・発掘調査で東西に 8 尺等間で並ぶ北面大垣の柱穴列を 3 間分検出した。
・検出した柱穴のうち 1 基は、掘込面を違えて新旧 2 基の穴が重複しており、従来の所見通り、ある時期、柱が立て替えられた状況を確認した。ただし、その他の 3 基には柱穴の重複を認めることができなかったことから、立て替えは大垣全面にわたるものではなく、一部の柱を対象としたものであった証左が得られた。
・北面大垣廃絶後に敷地内の排水のために設置されたとみられる瓦組暗渠 4 条を検出した。
・発掘調査で検出した柱列の東延長部分の立会調査で、柱の抜取穴 2 穴を検出した。
・出土遺物は瓦と土器を中心とする。古い時期の柱穴を覆う整地土中から 7 世紀末の土器片が出土した。新しい時期の柱穴は、この整地土を掘り込んでおり、柱の立て替え時期も 7 世紀末頃と推測される。瓦組暗渠を覆う整地土出土の土器は 11 世紀代のものを含んでおり、この頃までに大垣が廃絶したことが判明した。
・北面大垣の正確な位置を確認するとともに、大垣の改修・廃絶の過程を明らかにすることができた。工事範囲における遺構の遺存状況を明確にしたことにより、遺構を損傷することなく工事を実施することができた。

調査区全景（北西から）

【実績値】
・出土遺物：軒丸瓦 3 点、垂木先瓦 2 点、丸・平瓦コンテナ 20 箱、土器 1 箱、鉄器片 4 点
・記録作成数：遺構実測図 4 枚、写真 12 枚、メモ写真 132 枚

【委託者・受託経費】
委託者： 文化庁
受託経費：600 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3133F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	京都市の文化的景観保存計画策定調査(③-3))		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	林良彦（景観研究室長）

【スタッフ】
惠谷浩子（景観研究室研究員)、本間智希（景観研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

- 「京都の文化的景観」の報告書目次案を作成するとともに、京都市域内の生業や物産に関する地域的傾向を把握するため明治期の 172 件の町村についての基礎情報のリストを作成した。なお、これに伴い、現地調査を 2 回実施した。

- 28 年度は「京都の文化的景観」研究会を 1 回実施した他、委員会メンバーによるそれぞれの知見の報告と意見交換を目的とした「京都の文化的景観」勉強会を 3 回実施した。勉強会においても報告を行い、各メンバーからの意見を集約し、修正作業を進めた。なお、研究会・勉強会の議事録も作成した。

- 「京都岡崎の文化的景観」の普及啓発として、選定地区内の教育現場や公共施設において配布する岡崎公園に焦点を当てたパンフレット（16 ページ）の執筆・編集を行った。

- 「北山杉の林業景観」に関する現地調査を計 13 回実施した。中でも 8 月 29 日から 5 日間は、3 大学 5 研究室から建築専攻の学生 20 名を含む総勢 30 名による集中調査を行い、8 件の民家調査や集落調査を通じて 122 枚の実測野帳、149 枚の 1 次悉皆調査・水系調査票を作成。また、住民向けの調査報告会を実施し、調査や地域の価値を簡潔にまとめた瓦版を作成し地区内全戸（約 150 軒）に配布した。また、研究会を 2 回開催し、研究会の議事録も作成した。それに伴い、建造物及び道具の実測や現地住民へのヒアリング・収集資料をまとめ、調査報告書の目次案の改定を行った。

- 「京都の文化的景観」、「京都岡崎の文化的景観保存計画書」、「北山杉の林業景観」の調査や普及啓発事業、研究会の実施のため、京都市等との協議をのべ 14 回行った。

「京都の文化的景観」勉強会の開催

「北山杉の林業景観」住民報告会の開催

【実績値】
パンフレット：1 点
現地調査：15 回
実測野帳：122 点
調査票：149 点
研究会：3 回
勉強会：3 回
デジタル写真：5,931 点

【委託者・受託経費】
委託者：京都市
受託経費：2,413 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3133F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	南山城村における文化的景観保存修景事業(③-3))		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	林良彦（景観研究室長）

【スタッフ】
惠谷浩子（景観研究室研究員)、本間智希（景観研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

- 京都府選定「南山城村の宇治茶生産景観」の範囲となっている 4 地区（大河原地区、田山地区、高尾地区、童仙房地区）の茶畑景観に関する現地調査を 5 回実施した。それに伴い、4 地区についての資料収集を行い、基礎情報リスト等の資料を作成した。

- 「南山城村における文化的景観」に関係する、宇治茶生産・加工及び椎茸栽培、しめ縄加工等に従事する住民への生活・生業に関する聞き取りを 8 件実施した。

- 上記の現地・聞き取り調査、資料収集に伴い、「南山城村における文化的景観」の普及啓発として、文化的景観の価値表現や地域資源の継承を目的としたパンフレットの構成案を作成し、南山城村等との協議を 5 回行った。

茶畑景観と茶業に関する現地調査の様子（童仙房）

茶生産の裏作に栽培される原木椎茸のハウスと茶畑（田山）

茶工場でのヒアリング調査の様子（大河原）

しめ縄づくり時のヒアリング調査の様子（童仙房）

【実績値】
現地調査：5 回
聞き取り調査：8 件
デジタル写真：725 点

【委託者・受託経費】
委託者：南山城村（京都府）
受託経費： 606 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3134F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	考古資料および文献史料からみた過去の地震・火山災害に関する情報の収集とデータベースの構築・公開(③-4)-ア)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	小池伸彦（センター長）

【スタッフ】
津田保行(研究支援推進部連携推進課長)、森本　晋(企画調整部長)、渡辺晃宏(都城発掘調査部副部長)、金田明大(遺跡・調査技術研究室長)、山崎　健(環境考古学研究室研究員)、脇谷草一郎(主任研究員)、星野安治(年代学研究室研究員)、村田泰輔(遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー)、高田祐一(企画調整部文化財情報研究室研究員)

【年度実績概要】

本事業は、科学技術・学術審議会の建議「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」に基づき、「考古資料および文献資料から見た過去の地震・火山災害に関する情報の収集とデータベース構築・公開」という研究課題を設定して、26 年度から 5 ヵ年計画で進めている。これは、全国の大学や関係機関からなる「地震・火山噴火予知研究協議会」からの依頼による受託事業である。この予知協議会に設置された「史料・考古部会」では、地震・火山噴火に関する近代的な観測データが整う以前の資・史料を収集・調査・分析・活用し、低頻度で発生する大規模な地震や火山噴火現象等の理解・解明に資することがその役割となっている。そのなかで当研究所は、主として災害痕跡の考古・地質学的データの収集とデータベース構築・公開を担っており、28 年度の主たる実績は以下の通りである。

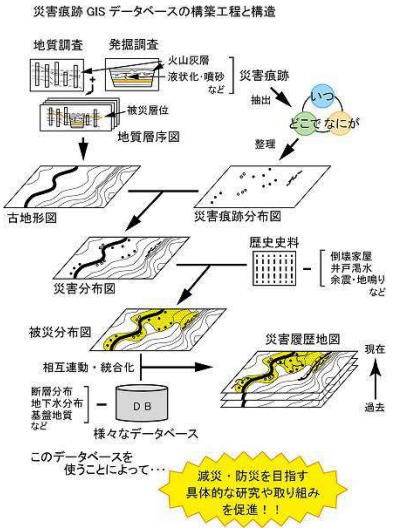


図　歴史災害痕跡データベースの構造と開発工程

○発掘調査報告書の該当データ抽出作業、資料収集・整理
27 年度に引き続き、新潟県の 9 千件余りの発掘地点（3,220 遺跡）に加え、熊本地震を踏まえ、熊本県 220 地点（災害痕跡 28 箇所)、福岡県 213 地点（災害痕跡 41 箇所)、大分県 104 地点（災害痕跡 22 箇所）の情報を収集整理した。また南海トラフ起源地震への対応として和歌山県 213 地点(災害痕跡 102 箇所)、香川県 116 地点（災害痕跡 37 箇所）でも情報収集整理を進めている。

○データベース入力
データ量の増加と共に入力項目の整理が必要となり、各項目の再定義（文字情報、画像情報、ID 化情報等）を行った。これまでのデータをこの定義づけに従い更新し、加えて 1 万件余のデータを新たにエクセルに入力した。また入力の効率化を狙い、入力インターフェースの開発を 28 年度より着手した。

○災害痕跡データベース構築とＧＩＳシステムの開発
大容量データを搭載したＧＩＳシステム※について動作確認を進めると共に、27 年度から取り組んでいる国土地理院情報検索システム、産業総合研究所地質情報システムとの連動性確保や地質データの入力および表示方法の開発を継続的に進めている。さらに、東京大学史料編纂所の開発する文字情報型の歴史地震史料データベースとの統合情報検索システムの開発に 28 年度より着手した。　※文字や数字、画像などを地図と結びつけて、コンピュータ上に再現し、位置や場所からさまざまな情報を統合したり、分析したり、分かりやすく地図表現したりすることができる仕組み。

○発掘調査現場における災害痕跡の調査、試料採取・分析
平城宮・京、藤原宮、新村柳原遺跡（以上、奈良県)、青谷横木遺跡、大桝遺跡、高住牛輪谷遺跡（以上、鳥取県)、武久川下流条里遺跡（山口県）で現地調査を行い、検出された地震痕跡等について現地指導・検討と共に土層試料切り取り等を行った。

○学会・シンポジウムでの情報発信
The Eighth World Archaeological Congress (WAC8)での発表（8 月 28 日～9 月 2 日)。
災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画成果報告シンポジウム成果報告（29 年 3 月 14～16 日)。

【実績値】報告書 3 点
報告書：『奈良文化財研究所紀要』(6 月 24 日)、『常松菅田遺跡Ⅱ』(10 月 31 日)、『大桝遺跡２』(29 年 3 月 20 日)

【委託者・受託経費】
委託者：国立大学法人東京大学地震研究所
受託経費：7,480 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3212F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	瑞巌寺周辺の岩窟・石塔の映像記録・測量調査(①-2))		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	小池伸彦（センター長）

【スタッフ】
山口欧志（遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】
本事業では，28 年度に日本遺産に認定された「政宗が育んだ“伊達”な文化」や松尾芭蕉の旅の舞台である宮城県松島町瑞巌寺周辺の岩窟・石塔の三次元計測調査を実施した。また 27 年度までの成果を地元市民向け事業にて発表した。

1．調査地：瑞巌寺周辺の岩窟・石塔のうち，圓通院の敷地内に残る岩窟・石塔の三次元計測を行った。
2．方法：GNSS 測量機による基準点測量および三次元レーザースキャナーと SfM-MVS（Structure from Motion and Multi-view stereo）による三次元計測を行った。
3．結果：円通院内に残る岩窟群と石塔を三次元デジタルデータとして定量的に記録することができた。これにより，今後の文化遺産活用や保護・保存のための基礎資料として役立てることができる。また，中世から近世に至る霊場の形成過程について学術的な検討ができる資料を作成することができた。

図　圓通院内近景

【実績値】
計測した石窟群の数：5 ヵ所
レーザースキャナーによる三次元計測数：37 回
作成図面；平面図 1 葉、立面図 1 葉、半透明見通し図 5 葉

【委託者・受託経費】
委託者：松島町の文化遺産を活かした地域活性化事業実行委員会
受託経費： 850 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3213F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	国宝　薬師寺東塔　木材年代測定業務（第3回）（①-3)）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	小池伸彦（センター長）

【スタッフ】
星野安治（年代学研究室研究員)、児島大輔（大阪市立美術館学芸員・客員研究員）

【年度実績概要】

・ 本受託研究は，国宝薬師寺東塔（以下東塔）の構成木部材の木材伐採年代を明らかにすることで，東塔の建立年代，及び建立後の修理の経過を推定する資料を得ることを目的とする。東塔は，薬師寺が平城京に移されてから現在まで伝わる奈良時代の貴重な建造物である。東塔では，21年7月から奈良県教育委員会による保存修理事業が行われているが，木材年代測定は，この解体修理にともない，東塔構成木部材の年輪年代測定，及び放射性炭素年代測定を行う。これまで，25～26年度の2ヵ年度にわたる奈良県教育委員会からの受託研究調査，及び27年度に補足調査を行い，本受託研究はこれに継続するものである。

・ これまでの成果として，年輪年代測定を行った東塔木部材のうち，東塔の建立当初の年代を示すと考えられる8世紀前半に伐採された木部材が複数，見出された。

・ 中でも伐採年代を示す樹皮残存部材が2点，見出されている。これらはいずれも「初重・支輪裏板」だが，最外層の年輪年代について，1つは729年，もう1つは730年という年代が得られている。「初重・支輪裏板」は，片面に彩色が残っている木部材で，建立の最終局面で取り付けられたと考えられている。これらの木部材から，729年，及び730年いう伐採年代が得られたことは，これまでに考えられている730年頃に東塔が完成したという見解と非常によく一致する。

・ また，東塔の中心をなす心柱は，大きく上下2本の木材からなっているが，「心柱・下」に残存している最も新しい年輪の年代が719年であることが明らかとなった。「心柱・下」の放射性炭素年代測定結果も，年輪年代測定結果と整合的である。「心柱・下」には，樹皮は残っていないものの辺材が残存していると判断できるものである。同じく辺材が残存し，最も新しい年輪の年代が720年の木部材も2点，見出されている。これらの木部材に使われた木が伐採されたのは，最外層の年輪年代以降，それほど経たない年代と解釈できる。

・ これらの年輪年代から，文献史料が伝える薬師寺が平城の現在の地へ移転したとされる718年には，少なくともこれらの木部材に使われた木はまだ伐採されておらず，用材調達も行われていなかったということが明らかとなった。

・ 以上の成果をもとに，東塔保存修理事業専門委員会における成果報告，及び法相宗大本山薬師寺主催の記者発表に協力し、マスコミの注目を集めた。

心柱調査風景

【実績値】

【委託者・受託経費】
委託者：奈良県
受託経費：1,099千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3214F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	陸前高田市堂の前貝塚出土の動物遺存体の分析委託業務(①-4))		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	山崎 健（環境考古学研究室研究員）

【スタッフ】
松崎哲也（環境考古学研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

○　堂の前貝塚（岩手県陸前高田市）から出土した動物遺存体の分析をおこない、1,425 点の動物遺存体を同定し、以下の成果が得られた。動物遺存体は発掘調査現場採集資料が大部分を占め、一部水洗選別資料が含まれる。脆弱な状態で出土したものが多かったため、必要に応じてパラロイド B-72 を使用して強化処理を行い、同定を行った。

○　現場採集資料では、種類や部位を同定した資料は総計 593 点である。貝類はマガキやアサリが多く含まれていた。魚類ではマグロ属やブリ属が多かった。哺乳類ではニホンジカ、イノシシが多かった。

○　水洗選別資料では、種類や部位を同定した資料は総計 832 点であった。貝類はアサリやマガキが多く、その他にクボガイやチヂミボラなどが含まれていた。魚類はカワハギ科やブリ属、アイナメ属などが含まれていた。哺乳類はニホンジカ、イノシシが多かった。

○　堂の前貝塚から出土した動物遺存体は、脆弱な資料が多かったが、強化処理をすることで多くの資料を同定することができた。貝類では岩礁域に生息するマガキや砂泥底に生息するアサリが多く含まれていた。魚類はマグロ属やブリ属といった回遊魚のほかに、沿岸の浅海域や岩礁域に生息するカワハギ科やアイナメ属などが含まれていた。また、注目すべき点として、マグロ属の椎骨に骨角器と思われるものが嵌入した資料が 1 点見つかった。哺乳類はニホンジカとイノシシが多く、被熱して白色化したものも比較的多く見られた。

分析・同定作業風景

【実績値】

分析点数：1,425 点

【委託者・受託経費】
委託者：陸前高田市（岩手県）
受託経費： 614 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3214F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	波怒棄館遺跡出土の動物遺存体の分析(①-4))		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	山崎 健（環境考古学研究室研究員）

【スタッフ】
松崎哲也（環境考古学研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

○　波怒棄館遺跡（宮城県気仙沼市）から出土した動物遺存体の分析を行った。28 年度は 1mmメッシュのふるいを使用して抽出された資料の分類、同定を中心として、一部 4mmメッシュふるい抽出資料の同定を行った。合計 8,116 点の動物遺存体を同定し、以下の結果が得られた。

○　4mmメッシュ資料（SX52）には、貝類、魚類が多く含まれており、種類や部位を同定した資料は 1,259 点であった。貝類で最も多かったのはアサリで、その他にマガキなどが含まれていた。魚類で最も多かったのはカツオで、次いでソウダガツオ属、タイ科などが含まれていた。

○　1mmメッシュ資料には、貝類、魚類が大量に含まれており、種類や部位などを同定した資料は 6,857 点であった。貝類はムラサキインコが非常に多く、そのほかにイガイ科やニシキウズガイ科なども少量含まれていた。魚類で最も多かったのはニシン科で、次いでカタクチイワシ、アジ科などが含まれていた。魚類は大部分が椎骨であった。哺乳類はネズミ科やモグラ科が少量含まれていたものの、非常に少なかった。

○　28 年度に分析を行った 1mmメッシュ資料には、貝類、魚類が多く含まれていた。貝類は、ムラサキインコが非常に多い。魚類は、ニシン科やカタクチイワシ、アジ科などが非常に多かった。27 年度に分析を行った発掘調査現場採集資料と 4mmメッシュ資料では、マグロ属やカツオなどの大型回遊魚が多く含まれていたが、これらだけでなく、ニシン科やカタクチイワシなどの小型魚類も多量に漁獲していたことが明らかになった。

分析・同定作業風景

【実績値】
分析点数：8,116 点

【委託者・受託経費】
委託者：気仙沼市（宮城県）
受託経費：2,063 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3214F-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	台の下貝塚出土の動物遺存体の分析(①-4))		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	山崎　健（環境考古学研究室研究員）

【スタッフ】
松崎哲也（環境考古学研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

○　台の下貝塚（宮城県気仙沼市）から出土した動物遺存体の分析を行い、1,848 点の動物遺存体を同定した。動物遺存体の保存状態は良好であり、以下の成果が得られた。

○　貝類はマガキが主体であり、次いでウチムラサキ、ウバガイ、ミルクイ、ツメタガイが多くみられた。アカニシやツメタガイには人為的な穿孔が認められた。

○　哺乳類はニホンジカとイノシシが主体であり、タヌキ、キツネ、イヌ、カワウソ、ムササビ、ノウサギ、鰭脚(ききゃく)目、クジラ目も同定された。鳥類はキジ科が多く、ハクチョウ属やカモ科も含まれた。魚類はマダイやマグロが多かった。

分析・同定作業風景

【実績値】
分析点数：1,848 点

【委託者・受託経費】
委託者：気仙沼市（宮城県）
受託経費：2,063 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3221E

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討(②－1))		
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	佐藤嘉則（主任研究員）

【スタッフ】
犬塚将英（分析科学研究室長)、小峰幸夫（アソシエイトフェロー)、藤井義久（京都大学教授・客員研究員)、北原博幸（客員研究員)、原田正彦（(公財）日光社寺文化財保存会)、福岡憲（(公財）文化財建造物保存技術協会)、木川りか（九州国立博物館学芸部博物館科学課長)

【年度実績概要】

歴史的木造建築物の被覆燻蒸処理は、一度にほぼ確実に害虫を駆除できる反面、安全対策上の制約が多い。また、大規模な処理に対しては、近い将来に対応できる業者・技術者がいなくなる恐れがあること、予防工事が別途必要になること、日光のような冷涼な気候では実施期間が夏の短い期間に限定されるなどの課題も多くある。さらに日光には甲虫駆除対策の必要な建築物が他にも多数あることからも、他の生物劣化（シロアリ食害や腐朽）も含めて、包括的かつ長期的に繰り返し実施できる殺虫方法で、さらに有効で安全な手法で、経済的にも妥当な方法の確立が求められている。

本共同研究は、これらの事情を背景として、被覆燻蒸の代替策として、「湿度制御下での温風処理（以下、温風処理)」に着目し、その効果と日光の木造建築物への適用可能性について調査や検証実験を通して評価しようとするものである。

28 年度は、27 年度に製作したチャンバーの性能評価、建物処理用実用化装置の試作と性能評価、実際の建物に日常発生しているひずみの測定と評価、数値流体力学（Computational Fluid Dynamics, CFD）を用いた気流解析、従来の飛翔性昆虫捕獲用粘着トラップと、飛翔性昆虫を衝突させて落下したものを捕獲するフライト・インターセプション・トラップ（Flight Interception Trap, FIT）の実証試験を行った。

チャンバーの性能評価は、温風処理の条件を変えて装置の運転状態を確認するとともに、処理条件ごとの部材の温度分布、表面ひずみや材質の変化などへの影響を評価した。建物処理用実用化装置の試作と性能評価では、実際の建物処理を想定した温湿度制御ユニットを作成し、小型建造物（モデル処理建物）の温風処理を実施した。その際、処理空間内での温度分布、土中温度、設置した資料木材の温度、含水率や表面ひずみなど詳細に計測し、データの解析を行った。日光の現場において、実際の建物に日常発生しているひずみの測定と評価では、温湿度とひずみを測定し、その結果から温風処理によって発生するひずみの許容値の検討を行った。モデル処理建物を対象に CFD を用いて、気象条件を考慮した非定常解析を行った結果、処理空間内の空気は十分に循環し、温度と相対湿度は均等となる結果であった。FIT による実証試験では、現在害虫が発生していると考えられる、輪王寺大猷院霊廟本殿・相の間・拝殿、輪王寺本堂西側鐘楼、東照宮五重塔、中禅寺鐘楼で試験を行った結果、チビキノコシバンムシやエゾマツシバンムシンなどの加害害虫であるシバンムシ類を捕獲することができた。

前述の研究や試験の結果報告、プロジェクトメンバー内での情報共有や今後の研究計画を協議することを目的とした会議を 6 月、11 月の合計 2 回実施した。

モデル処理建物の温風処理実験の様子

研究成果報告及び情報共有の様子（11 月）

【実績値】
国内研究打合わせ 2 回（6 月、11 月）

【委託者・受託経費】
委託者：公益財団法人日光社寺文化財保存会
受託経費：537 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3225E

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	絵金屏風の保存修理に関する調査研究(②－5))		
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	岡田健（センター長）

【スタッフ】
○岡田健（センター長)、早川泰弘（副センター長)、吉田直人（保存環境研究室長)、早川典子（修復材料研究室長)、川野辺渉（特任研究員）

【年度実績概要】

燻蒸事故により汚損された絵画の保存修復に関して、調査研究を行った。
これは、通常の汚損事故とは異なり、文化財に使用すべきでない燻蒸材料を使用した結果、化学反応によって作品に使われていた色料が変色・変化をした状況で、作品のみならず作業者の安全を図るため、当研究所が事故当事者である熊本市現代美術館との契約において実施するもので、この結果をもとに修理技術者が慎重な作業を行っている。

28 年度は、年末までに屏風 5 点の表具付けまでが完了し、いよいよ地元保存会への返却が近くなったので、収蔵施設である絵金蔵の保存環境を調査し、適切な保存環境及び保管方法についての検討を実施した。

作業の概要は以下のとおり：
(1)絵金蔵の保管環境に関する調査
収蔵庫、前室の保管環境について現地調査を行い、温湿度の推移に関するデータの分析を行った。
クリーニングが終了した絵画は、依然として湿度の変化に対して注意を払うべき状態にあるが、現状の収蔵施設に対して大規模な改修等の実施は困難であり、保管方法と取り扱い方法についての指針を作ることとなった。

(2)今後の保存環境に関する考察と協力
年度末の作品返却を目途に、保管方法と取り扱い方法に関する指針を作り、絵金蔵及び保存会に提供した。

【実績値】

【委託者・受託経費】
委託者：　公益財団法人熊本市美術文化振興財団
受託経費：250 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3226F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	松帆銅鐸・舌の調査研究(②-6))		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	高妻洋成（保存修復科学研究室長）

【スタッフ】
田村朋美（保存修復科学研究室研究員)、村田泰輔（遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー)、難波洋三（客員研究員)

【年度実績概要】

本事業の対象は、27 年に南あわじ市で発見された銅鐸及び舌である。本資料は、舌を伴う点やこれらを吊り下げる紐が残存する点など、銅鐸の具体的な使用方法や埋納年代を知る上で非常に重要である。本事業では、これらの銅鐸及び舌について、各種の自然科学的調査を実施した。

また全ての銅鐸が砂利集積場で採集され、本来の包蔵地が不明であるため、砂利採取地域を含む南あわじ市全体の地形発達史と景観復原に取り組み、本来の包蔵地を絞り込むと共に当時の集落社会への理解を深める調査研究を始めた。

以下に 28 年度の研究結果の概要を記す。

○銅鐸 7 点及び舌 7 点について、筆、竹串などを利用して表面の砂粒子を除去する一次クリーニングを実施した。
○銅鐸 7 点及び舌 7 点について、Ｘ線透過撮影及びＸ線ＣＴ撮影を実施し、内部構造調査を実施した。その結果、鬆(ス)の分布や内部に生じている微細な亀裂の有無などの保存状態を把握することができた。
○銅鐸 7 点について進行する作業工程毎に三次元スキャンを実施し、銅鐸内外の表面構造の現状記録および計測を行った。データは記録のみならず、今後の実測図作成に利用する。
○舌の頂部に結びつけられていた紐についてマイクロフォーカス X 線 CT 撮像を実施し、三次元可視化システムを用いて、紐の構造解析を行った。その結果、紐が平結び状や三つ編み状に撚られているなど、貴重な情報を得るに至った。
○現地でのボーリング・コア掘削を 7 地点で行い、南あわじ市の地質情報の収集を始めた。現在、層相解析を進めており、基本層序を検討しつつ地形発達史を読み解く作業を継続していく。

写真１　松帆 3 号銅鐸の三次元計測画像

【実績値】
事業報告書：1 件
『松帆銅鐸・舌の調査研究に関する報告書』29 年 3 月 30 日

【委託者・受託経費】
委託者：南あわじ市（兵庫県）
受託経費：2,184 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3227F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	平城宮跡遺構展示館の保存活用に関する調査研究事業(②-7))		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	高妻洋成（保存修復科学研究室長）

【スタッフ】
脇谷草一郎（主任研究員）

【年度実績概要】

平城宮跡遺構展示館では奈良時代の遺構地盤を約 50 年間露出展示している。掘立柱建物跡を展示している北棟では、主として遺構や盛土表面での塩析出による劣化が、磚積基壇建物跡を展示している南棟では磚や石材表面での塩析出や、常に湛水状態にある雨落ち溝での褐色沈殿物による汚損が顕著な劣化として挙げられる。以下に 28 年度の研究結果の概要を記す。

○28 年度は 27 年度から継続して気象条件、及び遺構展示館内の温熱環境と遺構地盤の熱水分環境について実測調査を行い、データの蓄積を行った。

○27 年度に実施した遺構展示館覆屋及び遺構地盤における熱水分移動のモデルを用いた解析から、塩析出による劣化を抑制する方法のうち南棟周辺地盤表面を防水シートで覆う手法について、仮設の防水処置を施して遺構地盤の含水率を測定することで、その効果について検討した（写真 1)。土壌水分センサーの設置箇所が水の浸入路にあたることから実測調査からは確認できなかったものの、写真記録から法面の含水状態が低下したことが確認された。

○南棟遺構面の汚損を引き起こしている含水酸化鉄沈殿に対して、雨落ち溝に水を供給することで沈殿を流下させて除去する手法について実践し、その効果について検討した。一定以上の水流を作り出すことで、含水酸化鉄沈殿を流し出すことが可能であることが明らかとなった。しかし、遺構面東端の排水ポンプに到達するまで沈殿を流下させるためには、相応の流速を要すること、また長時間にわたる流水を要することから、日常の維持管理方法とするにはなお検討を要すると考えられる。

○磚や石材表面の粉状化、剥離を引き起こす硫酸ナトリウムの析出を抑制する温熱環境について、室内実験から検討した。実験の結果から、磚や石材などの多孔質材料が接する大気側の気温を上昇させることで、硫酸ナトリウムの析出量が減少することが示唆された。したがって、27 年度にモデルから検討した結果と合わせて、南棟のルーバーを介した外気との換気を冬期は抑制することで、磚や石材の塩析出による劣化を軽減し得ることが示唆された。

○パルプを用いた磚や石材の塩析出による劣化の抑制、及び塩の除去方法について検討した。室内実験の結果から、水で湿潤状態としたパルプで石材表面を覆うことで、石材表面の剥離の抑制と材料内部から塩を効果的に除去し得ることが示唆された。

写真 1　南棟南側地盤表面の防水処置

【実績値】
事業報告書：1 件
『平城宮跡遺構展示館の保存活用に関する調査研究事業報告』29 年 3 月 31 日
研究発表：1 件
脇谷草一郎・桑原範好・鉾井修一・小椋大輔・高妻洋成「平城宮跡遺構展示館における塩析出抑制を目的とした保存環境の検討」日本文化財科学会第 33 回大会、6 月 4 日
論文：1 件
脇谷草一郎、桑原範好、鉾井修一、小椋大輔、高妻洋成「平城宮跡遺構展示館で汚損を引き起こす含水酸化鉄沈殿に関する検討」、考古学と自然科学、第 72 号、pp. 1―14、29 年 2 月

【委託者・受託経費】
委託者：文化庁
受託経費：2,976 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3227F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	平成 28 年度　国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務(②-7))		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	高妻洋成（保存修復科学研究室長）

【スタッフ】
脇谷草一郎（主任研究員)、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）

【年度実績概要】

大分県日田市に位置する史跡ガランドヤ 1 号墳は、装飾が施された奥壁などの石材表層で剥離や析出物が認められる。このような装飾の劣化の主たる要因は石材表面における結露の発生と考えられることから、装飾の保存のためには石材表層における結露の発生を抑制することが重要である。26 年度に石室保護施設が完成して以降は、冬期の放射冷却による天井部での結露発生の危険性が概ね解消した。そこで、28 年度は 27 年度に引き続き、現地表面よりも下方に位置する石材に対象を絞り、石材表面における結露抑制のための環境制御法について検討した。

地表面下部の石材において結露が発生する要因は、1) 石材の背面が土壌であるため熱容量が大きな材料となっており、夏期の表面温度上昇が緩慢であること、2) 絶対湿度が高い夏期の外気が石室内に流入する、以上の 2 点が主たるものとして挙げられる。そこで、28 年度は下記の環境制御法を試みた。

○石材表面温度の上昇を促進するため、石室内にオイルヒーターを設置して 4 月下旬から稼動した。
○ヒーターの稼動にともない、石材表面からの水分蒸発が促進されることから、石室内で発生する水蒸気を排出するため、玄室と前室においてそれぞれサーキュレーターを 1 台設置し、石室から外向けに送風を行った。
○5 月中旬に外気の絶対湿度が増加し始めたのにともない、保護施設の換気を間欠運転として、外気相対湿度が 40%以下のときのみ換気を稼動することとした。
○外気の絶対湿度が相当量に達した 7 月中旬に保護施設の換気を完全に停止し、漏気による湿気の流入を防ぐため換気口を閉塞した。
○9 月中旬に外気絶対湿度が低下し始めたことから、10 月初旬に外気の相対湿度が 90%以下の際に保護施設の換気を再開した。なお、石室内のヒーターは引き続き稼動させた。
○12 月中旬に石室内ヒーターを停止した。また、冬期は外気の絶対湿度が常に低い値にあることから、12 月下旬に保護施設の換気を常時稼動とした。

写真１　オイルヒーターとサーキュレーターによる石室内環境制御

以上の環境制御法を実施した結果、夏期に奥壁及び側壁の底部で石材がわずかに濡れ色を呈したものの、顕著な結露の発生には至らなかった。さらに秋以降では上記石材表面の濡れ色が殆ど認められないほどに石室内が乾燥状態に移行したことが確認された。以上のことから、28 年度実施の環境制御法によって、石室内の結露は効果的に抑制できるものと考えられる。

【実績値】
事業報告書：1 件
『国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務』29 年 3 月 30 日
研究発表：1 件
脇谷草一郎・小椋大輔「史跡ガランドヤ 1 号墳の保存環境に関する研究　－仮設覆屋による結露抑制方法の検討－」2016 年度日本建築学会大会、8 月 24 日

【委託者・受託経費】
委託者：日田市（大分県）
受託経費： 356 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3228F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	法隆寺若草伽藍跡西方の調査出土壁画片の調査(②-8))		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	高妻洋成（保存修復科学研究室長）

【スタッフ】
降幡順子（都城発掘調査部主任研究員)、脇谷草一郎（主任研究員)、田村朋美、柳田明進（以上、保存修復科学研究室研究員)、中村一朗（企画調整部写真室専門職員）

【年度実績概要】

○奈良県斑鳩町所在の法隆寺若草伽藍跡西方より出土した、20 点の壁画片の材料調査を実施した。
○なお、これらの壁画片は法隆寺創建時の若草伽藍に用いられた壁画であり、火災を受けたことで当初の色調が変色した状態にある。
○資料の現状を記録するため、写真室において写真撮影を実施した。
○調査資料 20 点について X 線透過撮影を実施し、下地や彩色層の状態などの壁画の層構造を観察するとともに、使用された顔料の密度に起因する X 線の透過度の差に着目して顔料の分布領域についても検討を行った。
○さらに遺存状態が良好な資料を数点抽出し、マイクロフォーカス X 線 CT 撮影を実施することで、下地層や彩色層などの構造を詳細に観察した。
○壁画片の蛍光 X 線分析を実施し、下地層、彩色部に用いられた材料について化学組成の分析を実施した。
○同様に、火災によって変色が生じた鳥取県の上淀廃寺出土壁画片の既往研究成果と本成果を比較することで、本壁画資料に用いられた顔料について検討を行った。

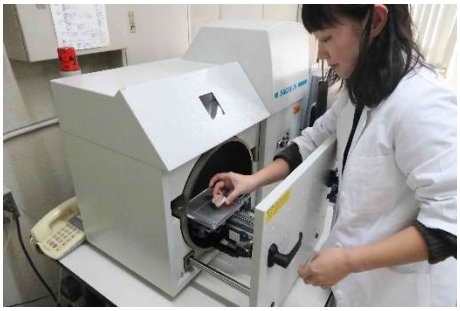


図 1　壁画片の蛍光 X 線分析作業

【実績値】
事業報告書：1 件
『法隆寺若草伽藍跡西方の調査出土壁画片の調査報告』29 年 3 月
調査資料点数：20 点

【委託者・受託経費】
委託者：斑鳩町（奈良県）
受託経費： 500 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3229E-1

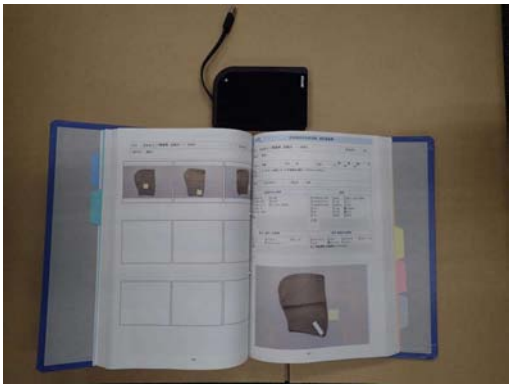
業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	万世特攻平和祈念館金属類収蔵品劣化対策事前調査事業(②－9))		
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	近代文化遺産研究室長　北河大次郎

【スタッフ】
北河大次郎（近代文化遺産研究室長)、石田真弥（アソシエイトフェロー)、山府木碧（研究補佐員)、長島宏行（客員研究員)、中山俊介（文化遺産国際協力センター長）

【年度実績概要】
南さつま市に位置する万世特攻平和祈念館は、開館以来 23 年を経て、26 年度に実施した収蔵品の紙資料の現場調査に加え 28 年度は紙資料以外の収蔵品（航空機、航空機部品、その他遺族などから寄贈された軍服、勲章、刀剣など）などに関して、その現状（金属製品の状態（錆の有無など)、染織品や革製品の状態（変形、虫損、カビなどの汚損）について 1 点ずつ調査を行い、それを記録すると共にデータベースに入力し、収蔵品のリスト化も合わせて行った。さらには今回の調査結果を元に、修復の必要性の有無を収蔵品ごとに決定しデータベースに組み入れた。

収蔵品調査の風景



報告書（紙版とデータ(ハードディスク))

【実績値】
「万世特攻平和祈念館金属類収蔵品劣化対策事前調査事業　調査報告書」、　東京文化財研究所、10 月 31 日

【委託者・受託経費】
委託者： 南さつま市（鹿児島県）
受託経費：2,503 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3229E-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	近代産業遺産（美術工芸品）に関する海外事例調査事業(②－9))		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	中山俊介（センター長）

【スタッフ】
北河大次郎(保存科学研究センター近代文化遺産研究室長)、石田真弥(保存科学研究センターアソシエイトフェロー)、山府木碧（研究補佐員)、小堀信幸、堤一郎、長島宏行（以上、客員研究員）

【年度実績概要】

本調査の目的は、海外において保存展示されている近代産業遺産（美術工芸品）に関する現地調査を実施し、今後、国内において、ますます増えていくと思われる近代産業遺産（美術工芸品）の保存及び修復についてその理念や、使用する材料及び技法などに関する知識や情報を収集し国内の保存や修復現場で有効に利用するための資料とする。

また、活用手法などに関しても合わせて情報を収集し国内での活用に役立てる。

・ ヨーロッパにおける調査地

VASA MUSEUM （ストックホルム、スウェーデン）（船舶）
ドイツ博物館（ミュンヘン、ドイツ）（鉄道、船舶他）
ドイツ技術博物館（ベルリン、ドイツ）（鉄道、船舶、航空機）
ドイツ海洋博物館（ブレーマーハーフェン、ドイツ）（船舶）
鉄道博物館（ヨーク、イギリス）（鉄道）
HMS VICTORY/HMS WARRIER/MARY ROSE （ポーツマス、イギリス）（船舶）
FLEET AIR ARM MUSEUM（ヨービルトン、イギリス）（航空機）

・ アメリカにおける調査地

スミソニアン博物館（NATIONAL AIR & SPACE MUSEUM)（ワシントン、アメリカ）（航空機）
NATIONAL AIR & SPACE MUSEUM(STEVEN F.UDVAR-HAZEY CENTER)（ワシントンアメリカ）（航空機、修復施設）
NATIONAL AIR & SPACE MUSEUM(MARY BAKER ENGEN RESTORATION HANGER)（ワシントン、アメリカ）（航空機）
（修復施設）
B&O RAILLOAD MUSEUM（ボルティモア、アメリカ）（鉄道）
Independence Seaport Museum（フィラデルフィア／アメリカ)（船舶）
USS OLIMPIA/USS BECUNA/USS NEWJERSEY(フィラデルフィア、アメリカ)（船舶）
イントレピッド海上航空宇宙博物館（ニューヨーク、アメリカ）（航空機、船舶）
USS GROWLER（ニューヨーク、アメリカ）（船舶）

それぞれに関して、船舶、鉄道、航空機の専門家とともに調査を実施し、国内における同種の近代産業遺産の保存と活用において適用しうる知見を得、報告書にまとめた。

VASA MUSEUM にて保存手法の展示

【実績値】
ヨーロッパ調査　1回、アメリカ調査　1回
『近代産業遺産（美術工芸品）に関する海外事例調査報告書』　29年3月

【委託者・受託経費】
委託者：　文化庁
受託経費：7,487千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3230E-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務(②－10))		
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	岡田健（センター長）

【スタッフ】○岡田健（センター長)、早川泰弘（副センター長)、吉田直人（保存環境研究室長)、朽津信明（修復計画研究室長)、加藤雅人（文化遺産国際協力センター国際情報研究室長)、犬塚将英（分析化学研究室長)、森井順之（主任研究員)、佐藤嘉則（主任研究員)、佐野千絵（文化財情報資料部長)、早川典子（修復材料研究室長)、小峰幸夫（アソシエイトフェロー)、鳴原由美（アソシエイトフェロー)、藤井佑果（アソシエイトフェロー)、大場詩野子（客員研究員)、川野辺渉（特任研究員)、木川りか（九州国立博物館学芸部保存科学課長)

【年度実績概要】

○生物環境調査班
・従前より行っている、修理施設内での害虫等生息調査、浮遊菌・付着菌量調査、温湿度推移のモニタリングを継続し、安全な保存空間の維持に努めた。また、空調制御プロセスの解析を、構築した計測システムによって行った。
・高松塚古墳の微生物分離株を、菌株のデータ集、基本台帳、シークエンスデータファイルと併せて、公的機関である理化学研究所バイオリソースセンターに寄託した。
○修復班
・壁画表面のクリーニング方法に関する検討を行った。特に以前に使用された修理材料のある中での汚れの除去方法に焦点を当てて、漆喰の強度を保ちつつクリーニングを行う方法を検討した。
○材料調査班
・奈良文化財研究所との共同により、高松塚古墳壁画の材料に関する分析調査を継続的に実施した。
テラヘルツ分光分析により、下地を形成している漆喰層の状態の調査を行った。これらの研究成果をまとめ、学術誌への投稿を行った。
○その他
・9 月 24 日～30 日と 29 年 1 月 21 日～29 日に実施された文化庁による国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設（国営飛鳥歴史公園内）の一般公開に際して研究員（6 人）を派遣した。
・関連する装飾古墳の調査では、史跡屋形古墳群、史跡日岡古墳において保存環境調査を行うと共に、史跡下馬場古墳では久留米市教育委員会が行う保存環境調査に対する助言を行った。
・古墳壁画保存関連の事業全般について情報共有を行い、効率的で正確な作業を行うために、6 月 3 日、10 月 5 日、29 年 2 月 1 日の 3 回にわたり、奈良文化財研究所と古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議を開催した。
・6 月 10 日、12 月 19 日に開催された文化庁の「古墳壁画の保存活用に関する検討会」（第 20 回、21 回）に、奈良文化財研究所とともに事務局として出席した。

菌株寄託の準備作業

【実績値】
論文　4 件：
①高松塚・キトラ両古墳からの主要細菌分離株：*Bacillus*・*Ochrobactrum* 両属分離株の分子系統学的位置：半田豊、立里臨、佐藤嘉則、木川りか、佐野千絵、杉山純多、『保存科学』56 号、pp.1-14、29 年 3 月　② Krasilnikoviella muralis gen. nov., sp. nov. , a new member of the family Promicromonosporaceae, isolated from the Takamatsuzuka Tumulus stone chamber interior and reclassification of Promicromonospora flava as Krasilnikoviella flava comb. nov.: M. Nishijima et al., International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology(2016) ③Prototheca tumulicola sp. nov., a novel achlorophyllous, yeast-like microalga isolated from the stone chamber interior of the Takamatsuzuka Tumulus: Y. Nagatsuka et al., Mycoscience (2016) ④Polyphasic insights into the microbiomes of the Takamatsuzuka Tumulus and Kitora Tumulus: J. Sugiyama et al., Journal of General and Applied Microbiology (2016)

【委託者・受託経費】
委託者：　文化庁
受託経費：38,600 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3230E-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務(②－10))		
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	センター長　岡田健

【スタッフ】○岡田健（センター長)、早川泰弘（副センター長)、吉田直人（保存環境研究室長)、朽津信明（修復計画研究室長)、加藤雅人（文化遺産国際協力センター国際情報研究室長)、犬塚将英（分析化学研究室長)、森井順之（主任研究員)、佐藤嘉則（主任研究員)、佐野千絵（文化財情報資料部長)、早川典子（修復材料研究室長)、小峰幸夫（アソシエイトフェロー)、鴫原由美（アソシエイトフェロー)、藤井佑果（アソシエイトフェロー)、大場詩野子（客員研究員)、川野辺渉（特任研究員)、木川りか（九州国立博物館学芸部保存科学課長)

【年度実績概要】

○生物環境班
・キトラ古墳の微生物分離株を菌株のデータ集、基本台帳やシークエンスデータファイルと併せて、公的機関である理化学研究所バイオリソースセンターに寄託した。

○修復班
・取り外した漆喰の再構成が終了し、8 月に天井・南壁・西壁、12 月に北壁・東壁を四神の館に搬送した。
・再構成の際に使用する材料の検討、クリーニング方法の検討を行い、適用した。
　また、搬送に伴う壁画の状態の確認を行い、四神の館における現在の壁画状態についても継続的に観察を行っている。
・修復に使用した材料の記録として、実際に使用した材料と模擬漆喰を用いて、記録用の再構成モデルを作成した。

○材料調査班
・奈良文化財研究所との共同により、キトラ古墳の材料に関する分析調査を継続的に実施している。

漆喰再構成作業

漆喰再構成作業

【実績値】
シンポジウム出席　1 件：
「キトラ古墳壁画体験館 四神の館」の開館記念シンポジウム　9 月 18 日

論文 1 件：
Yamadazyma kitorensis f.a., sp. nov. and Zygoascus biomembranicola f.a., sp. nov., novel yeasts from the stone chamber interior of the Kitora tumulus, and five novel combinations in Yamadazyma and Zygoascus for species of Candida：　Y. Nagatsuka et al.、International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology (2016)

【委託者・受託経費】
委託者：　文化庁
受託経費：22,530 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3230F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳の保存・活用及び文化庁キトラ古墳壁画保存管理施設（キトラ古墳壁画体験館　四神の館内）の管理・運営業務(②-10))		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）・埋蔵文化財センター・企画調整部・文化遺産部	【事業責任者】	玉田芳英（部長）

【スタッフ】
廣瀬覚、降幡順子（以上、都城発掘調査部主任研究員)、高妻洋成(埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長)、脇谷草一郎 (埋蔵文化財センター主任研究員)、石橋茂登（飛鳥資料館学芸室長)、若杉智宏(同研究員)、内田和伸（文化遺産部遺跡整備研究室長)

【年度実績概要】
・キトラ古墳壁画保存管理施設(キトラ古墳壁画体験館　四神の館内)に研究員、アソシエイトフェロー、事務補佐員が常駐し、壁画の保存管理を適切に行った。
・特別史跡キトラ古墳及び文化庁キトラ古墳壁画保存管理施設を紹介するリーフレットを作成し、配布した。
・キトラ古墳壁画の第 1 回及び第 2 回一般公開において、チラシ・ポスター・パンフレットを作成し、展示室内のデザイン、展示ケース内の遺物の陳列、パネル作成等、展示業務全般を行った。
・キトラ古墳壁画の非公開時において、展示ケース内の遺物の陳列、パネル作成等、展示業務全般と、外注により監視員を配置して展示室公開の業務を行った。
・発掘調査成果の整理・活用にかかる事業として、キトラ古墳の石室及び仮設保護覆屋の 3D 測量データを用いてモデリング作業を行い、デジタルデータを作成した。
・キトラ古墳の活用にかかる事業として、多摩六都科学館の秋期企画展「キトラ古墳が語るもの」の関連講演会にて、講演を行った。
・キトラ古墳の植栽の枯死に伴う植え替えやロープ柵の設置など、文化庁が行う環境整備に際して、工事立会（立会調査）2 件を実施した。
・キトラ古墳現地に設置された乾拓板を活用して、国営飛鳥歴史公園と共催でキトラ古墳の整備に関する講演会と現地見学＆乾拓体験教室を行った。

【実績値】
論文・講演数等 7(①～⑦)
①降幡順子「星空とキトラ古墳のナゾにせまる」(多摩六都科学館講演会、5 月 21 日)
②玉田芳英「キトラ古墳の発掘調査」(多摩六都科学館講演会、10 月 1 日)
③若杉智宏「キトラ古墳と夜空の星々」(多摩六都科学館講演会、11 月 19 日)
④井上 直夫「キトラ古墳が語るもの～虎の巻～」(多摩六都科学館講演会、11 月 19 日)
⑤菊地智慧ほか「キトラ古墳壁画と出土品の公開(仮)」『奈文研紀要 2017』(29 年 6 月予定)
⑥石橋茂登「キトラ古墳壁画保存管理施設の公開に向けて」『奈文研ニュース No.61』(6 月)
⑦玉田芳英「キトラ古墳壁画体験館四神の館（キトラ古墳壁画保存管理施設）の開館」(9 月)
⑧内田和伸「特別史跡キトラ古墳の整備-乾拓板の設置と活用について-」『遺跡学研究』日本遺跡学会 2016、pp170-173
⑨内田和伸「キトラ古墳の保存と活用」(国営飛鳥歴史公園体験プログラム 11 月 3 日 、29 年 3 月 20 日)
キトラ古墳壁画の公開(第 1 回)
公開期間： 9 月 24 日～10 月 23 日(28 日間)
参加人数：19,040 人
キトラ古墳壁画の公開(第 2 回)
公開期間：29 年 1 月 22 日～2 月 19 日(27 日間)
参加人数：10,976 人
キトラ古墳現地見学＆乾拓体験教室
期間： 11 月 3 日 、29 年 3 月 20 日
参加人数：8 人、20 人

【委託者・受託経費】
委託者：文化庁
受託経費：53,927 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3230F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務(②-10))		
【担当部課】	文化遺産部・都城発掘調査部（藤原）・埋蔵文化財センター・企画調整部	【事業責任者】	玉田芳英（部長）

【スタッフ】
廣瀬覚、降幡順子(以上、都城発掘調査部主任研究員)、大谷育恵(都城発掘調査部考古第一研究室アソシエイトフェロー)、高妻洋成(埋文センター保存修復科学研究室長)、石橋茂登（企画調整部飛鳥資料館学芸室長)、若杉智宏(同研究員)、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員)

【年度実績概要】
・『特別史跡高松塚古墳の調査報告－高松塚古墳石室解体事業にともなう発掘調査－』の編集作業を行い、700 部を印刷・刊行する準備を行った。
・石室解体に伴う発掘調査成果の整理・活用にかかる事業として、26・27 年度に引き続き、目地漆喰の保管兼展示用の台座を作成した。28 年度は、①東壁石 1－東壁石 2 間、②東壁石 2－東壁石 3 間、③西壁石 2－西壁石 3 間、④天井石 3－天井石 4 間上面の 4 点について、三次元レーザー計測で形状を記録し、同データを用いて台座を作成した。また台座作成とともに、保管時の漆喰の剥落及び粉状化を防ぐため、漆喰表面に樹脂を塗布し仮強化処置を行った。
・石室解体に伴う発掘調査成果の整理・活用にかかる事業として、27 年度に引き続き石室解体作業の選択型 3 次元動画制作を遂行し、インターフェイス版の動画ソフトを完成させた。
・壁画の保存修復（劣化原因）について、デジタルアーカイブスキャニングによる記録画像、テラヘルツによる漆喰層の状態調査、試験板を用いた紫外線蛍光スキャニングの安全性評価などを実施した。
・9 月、29 年 1 月の高松塚古墳壁画修理施設の一般公開に際し、解説員として研究員（のべ 17 人）を派遣した。

【実績値】
・派遣研究員数：のべ 17 人日。
・研究発表等数：1 件（①)。
・報告書等数：1 件（②)
① 廣瀬覚「古代における採石加工技術の展開－二上山凝灰岩の加工技術を中心に－」『第 3 回中世採石・加工技術研究会発表資料集』(11 月)
② 文化庁・奈良文化財研究所ほか『特別史跡高松塚古墳の調査報告－高松塚古墳石室解体事業にともなう発掘調査－』(29 年 3 月)

【委託者・受託経費】
委託者：文化庁
受託経費：63,535 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3311E

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	文化遺産国際協力コンソーシアム事業(①－1)－ｱ)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　中山俊介

【スタッフ】
中野照男（事務局長・客員研究員)、川嶋陶子、松保小夜子、牧野真理子（以上、アソシエイトフェロー)、井内千紗（客員研究員)、河野輝美、五嶋千雪（以上、事務補佐員）

【年度実績概要】
文化遺産国際協力に係る諸課題について議論するための分科会を計 13 回開催した。文化遺産保護に関する国際協力の活動を広報するため、研究会開催のほか、コンソーシアム公式ウェブサイトをリニューアルした。さらに、コンソーシアム設立 10 周年を記念したシンポジウム『文化遺産からつながる未来』の開催や、文化遺産国際協力実施国の事業実施体制に関する調査を実施した。

Ⅰ．コンソーシアムの会議の開催
・運営委員会を 2 回開催し、活動方針等を協議したほか、29 年 3 月には活動報告のための総会を開催した。
・企画分科会、東南アジア・南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会、欧州分科会、アフリカ分科会、中南米分科会を計 13 回開催した。

Ⅱ．情報収集と情報発信
・ウェブサイト上の文化遺産国際協力事業のデータベースに関し、ユーザーである関係機関に聞き取り調査を行うなど現状の問題点と課題を整理し、改善へ向けて計画を立てた。
・広報活動促進のため、コンソーシアム公式ウェブサイトをリニューアルした。
・研究会「シルクロード ―世界遺産登録後の問題と日本の課題―」(11 月 21 日）、「文化遺産保護の国際動向」（29 年 3 月 16 日）を開催した。
・文化遺産国際協力コンソーシアム設立 10 周年記念のシンポジウム「文化遺産からつながる未来」を開催した。
（文化庁、国際交流基金アジアセンターと共催）
・会員向けのメールニュース（コンソーシアムイベント告知、国内外文化遺産関連イベントの案内等）を配信した。

10 周年記念シンポジウムの様子

Ⅲ．文化遺産国際協力の推進に資する調査
・欧州各国の文化遺産国際協力の政策や体制について、欧州分科会での審議を通して情報収集用の調査フォーマットを作成し、国内専門家に委託して情報収集を行った。（調査対象国：イギリス・イタリア・オランダ・ベルギー、計 4 ヵ国）

【実績値】
総会の開催：1 回、運営委員会の開催：2 回、分科会の開催：(企画分科会 4 回、東南アジア・南アジア分科会 2 回、西アジア分科会 2 回、東アジア・中央アジア分科会 2 回、欧州分科会 1 回、アフリカ分科会 1 回、中南米分科会 1 回）合計 13 回、研究会の開催：2 回、シンポジウムの開催：1 回

（成果物ドキュメント名）
①報告書『世界遺産としてのシルクロードー日本による文化遺産国際協力の軌跡－』（日本語版：6 月　300 部、英語版：10 月　200 部）
②報告書『アセアン＋３ 文化遺産フォーラム２０１５　東南アジア諸国と共に歩む～多様な文化遺産の継承と活用～』（日本語版：12 月　300 部、英語版：12 月　200 部）
③小冊子（設立 10 周年記念配布資料）『文化遺産国際協力コンソーシアム設立 10 周年記念　文化遺産からつながる未来』（日英併記、9 月、300 部）

【委託者・受託経費】
委託者：文化庁
受託経費：44,024 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3312E-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」(①-2)-ア-(ア))		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存計画研究室長　友田　正彦

【スタッフ】
山田大樹（アソシエイトフェロー）、金善旭（研究補佐員）、久保田裕道（無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長）、石村智（無形文化遺産部音声映像記録研究室長）

【年度実績概要】
27年4月のゴルカ地震で被災したネパールの文化遺産復興を技術的に支援するため、カウンターパートである同国文化・観光・民間航空省考古局をはじめ関係機関との協働のもと、建築史・建築構造・都市計画・修復技術・無形文化遺産等の各分野において、以下のような現地活動等を行った（括弧内は出張期間と派遣人数）。なお、歴史的建造物の構造学的調査は東京大学生産技術研究所腰原幹雄研究室、歴史的集落の保存と復興に関する調査は東京大学大学院工学系研究科西村幸夫研究室にそれぞれ再委託して実施した。

・（4 月 27 日～5 月 8 日：5 名）ハヌマンドカ王宮内で倒壊したシヴァ寺の回収部材分類整理及び記録作業や、構造的に不安定な状態のアガンチェン寺に対する応急補強計画策定調査等のほか、27 年度実施した調査につき現地関係者への報告会開催。
・（5 月 30 日～6 月 4 日：1 名）アガンチェン寺応急補強工事実施のための調整及び準備作業。
・（6 月 4 日～9 日：2 名+別予算 1 名）歴史的集落コカナにおける都市計画分野の調査。
・（6 月 13 日～19 日：１名）アガンチェン寺応急補強工事の監理（着工）及びユネスコ日本信託基金事業運営委員会への出席。
・（7 月 3 日～9 日：1 名）同工事監理。
・（9 月 1 日～14 日：7 名）コカナ住民・関係者に対する 27 年度調査成果報告及び意見交換会の開催。カトマンズ盆地内の歴史的集落を有する 6 市への聞き取り調査。アガンチェン寺応急補強工事監理（竣工）。
・（10 月 4 日～9 日：2 名+別予算 2 名）コカナのシカリ祭を対象に無形文化遺産調査。
・（10 月 25 日～11 月 1 日:1 名）材料強度試験用の試験体作製（煉瓦壁･モルタル）。
・（11 月 20 日～12 月 6 日:14 名+別予算 2 名)アガンチェン寺修復に向けた調査内容等の実地検討及び同周辺建物の実測調査。歴史的集落所管 4 市と共催で「カトマンズ盆地内の歴史的集落の保全に関する会議」を開催。
・（12 月 19 日～28 日：4 名)材料強度試験の実施。
・（29 年 1 月 6 日～10 日：1 名）材料強度試験の実施。
・（29 年 2 月 14 日～19 日:1 名）シヴァ・アガンチェン両寺修復に向けた調査等。
・（29 年 2 月 21 日～27 日）ネパール人構造専門家 2 名の本邦招聘、研究会開催。

歴史的集落保全に関する会議参加者一同

【実績値】
専門家派遣 12 回、招聘 1 回、現地会合 3 回、研究会 1 回、報告書 4 冊、論文発表 6 本

【委託者・受託経費】
委託者： 文化庁
受託経費：20,800 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3312E-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)「ミャンマー・バガン遺跡群における地震被害に関する調査」(①-2)-ア-(ア))		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存計画研究室長　友田　正彦

【スタッフ】
前川佳文（研究員)、マルティネス・アレハンドロ（アソシエイトフェロー)、北河大次郎（保存科学研究センター近代文化遺産研究室長)

【年度実績概要】
8 月 24 日に発生した地震により大きな被害を受けたミャンマー中部所在のバガン遺跡群について、その被災状況を専門的視点から把握・分析するとともに、現地関係当局による今後の復旧の円滑化に資することを主な目的として、以下のような現地調査を実施した。

・(10 月 25 日～11 月 10 日）建築構造物の被災状況等に関する調査：
文化財保存、建造物修理、建築構造、測量の各分野の専門家計 8 名を派遣し、建造物の被災状況確認、被災建物の構造学的分析、緊急的保護対策の状況、被災状況の記録分析といった観点から調査を行った。調査結果の概要とそれに基づく考察・提言内容は、英文の速報にまとめてミャンマー宗教・文化省考古・国立博物館局やユネスコ・バンコク事務所等関係機関に提出した。また、上記調査内容のうち、常時微動計測やカナダ・カールトン大学に依頼して実施した 3 次元計測及び地震前取得データとの比較分析については、バガンの典型的煉瓦造建造物に関する今後の構造学的詳細検討における基礎データとして活用することとしている。

・(29 年 2 月 5 日～28 日）壁画の被災状況等に関する調査：
文化財保存修復、材料科学、耐震工学の専門家計 4 名を派遣し、歴史的建造物の被災状況の確認、建造物内に描かれた壁画と被災建物との関連性追求、緊急的保護対策案及び修復材料の検討といった観点から調査を行った。調査は考古局の現地職員と共同で実施し、復興に向けた具体的対策案確立に向け、協力関係を継続していく。

倒壊した僧院遺跡における調査

【実績値】
専門家派遣 2 回、報告書 1 冊

【委託者・受託経費】
委託者： 文化庁
受託経費：4,618 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3312E-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)「シリア内戦下における被災文化財に関する調査」(①-2)-ｱ-(ｲ))		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　中山俊介

【スタッフ】
友田正彦（保存計画研究室長)、安倍雅史（研究員)、山田大樹（アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】

本事業は、シリアの文化遺産の被災状況に関する情報を収集し、かつ内戦終結後すみやかに国際的な支援に移行できるよう現地専門家や国際機関とのネットワークを構築することを目的とした。具体的には聞き取り調査と国内シンポジウムを実施した。

(a) 聞き取り調査

11月21日に東京文化財研究所において、シンポジウムのために招聘したユネスコ世界遺産センターアラブ諸国ユニット主任であるナーダ・アル・ハッサン氏に聞き取り調査を実施した。ナーダ・アル・ハッサン氏は、ユネスコが実施している「シリア文化遺産緊急保護プロジェクト」を担当している。シリア側が現在、求めている支援内容、また研修などを実施するにあたっての注意点など有益な情報を得ることができた。

(b) 国内シンポジウムの実施

当研究所と、文化庁、奈良文化財研究所、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所の共催により、シンポジウム『シリア内戦と文化遺産―世界遺産パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援―』を東京国立博物館（11 月 20 日）と奈良・東大寺金鐘ホール（11 月 23 日）にて、それぞれ開催した。

シリアでは、23 年 3 月に起きた大規模な民衆化要求運動を契機に内戦状態へと突入し、すでに 5 年以上の月日が経過している。シリア内戦下では、貴重な文化遺産も被災し、とくに 27 年 8 月から 10 月にかけて起きた IS（自称『イスラム国』）による世界遺産パルミラ遺跡の破壊は、我が国でも大々的に報道され注目を集めた。27 年 5 月から IS が実効支配していたパルミラ遺跡を 28 年 3 月にシリア政府軍が奪還した後、同 4 月にポーランド人やシリア人研究者が現地に入り調査を実施した。彼らは、パルミラ遺跡とパルミラ博物館の被災状況を記録したほか、被災した博物館の収蔵品に応急処置を施し、ダマスカスまで緊急移送を行った。

今回のシンポジウムには、現地で生々しい状況を目にしたポーランド人やシリア人の研究者、シリア文化遺産救済支援事業を担当するユネスコ職員、シリアでの調査研究に豊富な経験を有する国内の専門家を講演者として招き、パルミラ遺跡を含むシリアの文化遺産の価値や被災の現状、その復興に向けて国際社会に求められている支援の方向性等について発表してもらうとともに、意見交換を行った。

パルミラ博物館の被災状況（ロバート・ズコウスキ―氏提供)

【実績値】

『文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）シリア内戦下における被災文化財に関する調査事業報告書』29 年 3 月

【委託者・受託経費】
委託者： 文化庁
受託経費：5,988 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3312F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	ミャンマーにおける発掘調査法・遺物研究法等の考古技術移転を目的とした拠点交流事業(①-2)-ア-(ア))		
【担当部課】	企画調整部	【事業責任者】	森本晋（部長）

【スタッフ】
杉山洋（副所長)、佐藤由似（国際遺跡研究室専門職)、影山悦子（同アソシエイトフェロー)、尾野善裕（都城発掘調査部考古第二研究室長)、大澤正吾（同研究員)、降幡順子（同主任研究員)、田村朋美（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員)

【年度実績概要】
文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業（ミャンマー）
　文化庁より委託された本事業では、相手国拠点であるミャンマー宗教文化省考古・国立博物館局と共同し、ヤンゴン大学考古学部の協力を得て、以下の 3 つの項目を通して、日本が有する経験・技術の移転を測った：
　①陶磁器の調査研究方法に関する日本での研修と国際研究会の開催
　②ピイの考古学フィールドスクールでの研修事業
　③ミャンマーにおける発掘調査研修を通じた技術移転

・8 月 6 日～13 日：考古学・保存科学等の専門家 4 名をモーラミャインに派遣し、現地の考古学者 3 名とともに、窯跡の予備調査を行った。また、ヤンゴン大学考古学部の大学院生 2 名を対象に、窯跡周辺から出土した陶器の記録、整理、調査方法に関する研修を行った。さらに、ヤンゴン郊外のタインリン博物館において、同館が所蔵する壺の 3D スキャナーによる実測方法の実演を行い、新しい調査方法の利点を解説した。

・ 8 月 26 日～9 月 3 日：ミャンマーから考古学者 3 名と保存修復専門家 1 名を日本に招聘し、ミャンマーで出土した土器の調査研究方法に関する研修を行った。研修の一環として、東京国立博物館、町田市立博物館において、ミャンマー陶磁器を調査した。さらに、ミャンマーと日本の専門家の間で情報を共有することを目的とし、ミャンマー及びその周辺地域で出土した土器・陶磁器の調査方法に関する国際研究会を開催した。また、京都で行われた世界考古学会議に参加し、ミャンマー周辺で出土した土器に関する研究成果を発表し、参加者と情報交換を行った。

・12 月 10 日～16 日：考古学等の専門家 4 名を派遣し、ピイの考古学フィールドスクールにおいて、出土した土器の調査方法に関する研修を行った。同スクールの講師ら 27 名が参加した。

・29 年 2 月 11 日～17 日：考古学等の専門家 4 名をモーラミャインに派遣し、現地の考古学者 3 名とともに窯跡の調査を行った。ヤンゴン大学の学生 2 名に対し、発掘調査の実地研修を行った。

土器の調査方法に関する研修
(12 月、ピイ考古学フィールドスクール)

【実績値】
・専門家派遣　3 回、12 名
・専門家招へい　1 回、4 名
・研修　4 回、35 名

【委託者・受託経費】
委託者：文化庁
受託経費：5,705 千円

【受託】　施設名　アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号　3320G

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	平成 28 年度無形文化遺産保護パートナーシップ事業(②)		
【担当部課】	―	【事業責任者】	岩本渉(所長)

【スタッフ】
大貫美佐子(副所長(兼)研究担当室長)、永冨雅信(前総務担当室長)、三島貴雄(係長)、杉野ゆりか(総務担当アソシエイトフェロー)、野嶋洋子(研究担当アソシエイトフェロー)、田中鉄也(研究担当アソシエイトフェロー)、薗田郁(研究担当アソシエイトフェロー)、古川幸恵(研究担当アソシエイトフェロー)、児玉茂昭(研究担当前アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】
(1)アジア太平洋地域における無形文化遺産保護分野の研究についての総合的情報収集及び研究データベースの充実
(書式 C2320G 実績項目(1)②・③に対応)
①現地研究者・研究機関と協力し、域内 11 ヶ国を対象とした国単位での体系的文献サーヴェイを実施。
②上記①で収集した情報を、研究データベース「Research Database on ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region」に追加。
③研究データベースのレビュー会合を開催(東京大学・国立情報学研究所　29 年 1 月 30 日)。
④上記①②及び項目(2)①の活動成果について、文化遺産国際協力コンソーシアム(29 年 3 月 1 日)で発表した。
(2)無形文化遺産保護に関する研究活性化に資する国際会議の開催
①上記(1)①で得た情報をもとに、国際専門家会合「2016 Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region」を開催(堺市 11 月 18 日～19 日)。アジア太平洋地域の 14 ヶ国より 25 名の専門家が参加した。(書式 C2320G 実績項目(1)①)
②「第五回 IRCI 運営理事会」を開催(大阪市 9 月 28 日)。29 年度事業計画について承認された。
(3)無形文化遺産保護の理解と促進に資するシンポジウムの開催　(書式 C2320G 実績項目(1)①)
堺市との共催により、「無形文化遺産国際シンポジウムー技と心を受け継ぐー」を開催(堺市 11 月 19 日)。
(4)危機に瀕する無形文化遺産保護に向けた政策等の調査研究及びワークショップ(書式 C2320G 実績項目(1)④)
大メコン圏における無形文化遺産保護に関する法制度研究事業の最終ワークショップ「IRCI Final International Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region」を開催(ベトナム・ハノイ　12 月 17 日～19 日)。メコン圏 5 ヶ国を含め、19 名の専門家が参加。九州大学法学研究院協力のもと、各国法制度についての議論が深められ、本事業の成果となるツールキット案が作成された。開催に先立ちワーキンググループ会合を実施(同　12 月 15 日～16 日)。
(5)国際会議への出席やユネスコとの連携を通じた国際的動向の情報収集
①Workshop on Capacity Building for Transmission and Sustainable Development of Traditional Craftsmanship (中国・深セン 5 月 12 日～16 日)
②第六回無形文化遺産条約締約国会議 (フランス・パリ 5 月 30 日～6 月 1 日)
③第四回無形文化遺産分野 C2 センター調整会議 (フランス・パリ　6 月 3 日)
④ICOM 第二四回大会 (イタリア・ミラノ 7 月 3 日～8 日)
⑤2016 Sub-Regional Meeting for Intangible Cultural Heritage Safeguarding in Northeast Asia: The Role of the Media in Raising Awareness about Intangible Cultural Heritage (モンゴル・ウランバートル 10 月 9 日～13 日)
⑥韓国 C2 センター(ICHCAP)第九回運営理事会 (韓国・ソウル 12 月 15 日)
⑦中国 C2 センター(CRIHAP)第六回運営理事会 (中国・北京 29 年 2 月 23 日)
⑧Envisioning the Future of the Global Capacity-Building Programme and Facilitators' Network(タイ・バンコク 29 年 3 月 6 日～9 日)
⑨*ICOMOS* University Forum Workshop on Authenticity and Reconstructions(フランス・パリ 29 年 3 月 13 日～15 日)

法制度研究事業最終ワークショップ
(ハノイ)

(6)情報公開等
IRCI ウェブサイト：定期的な更新を行い、またリニューアルに向けた準備作業を行った。

【実績値】
国際会議等開催件数:4 件、国際会議等出席件数:9 件
研究データベース登録件数:2,012 件、閲覧件数:1,456 件(4 月 1 日～29 年 3 月 31 日)
ウェブサイトアクセス件数:7,856 件(4 月 1 日～29 年 3 月 31 日)
刊行物:①『Proceedings of 2016 IRCI Experts meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region』②『無形文化遺産国際シンポジウム―技と心を受け継ぐ―報告書』③『Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region: Final Report』

【委託者・受託経費】
委託者：文化庁　　受託経費：51,380 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託(②-1))		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	渡辺晃宏（副部長）

【スタッフ】
箱崎和久（遺構研究室長)、林良彦（文化遺産部長)、加藤真二（企画調整部企画調整室長)、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター主任研究員)・田村朋美（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員)、窪寺 茂（建築装飾技術史研究所長・客員研究員）

【年度実績概要】

国土交通省による第一次大極殿院地区の整備に伴った復原検討を行う受託研究。奈良時代前期（Ⅰ－2 期）の第一次大極殿院を構成する、南門、東楼・西楼、築地回廊の各建物、及び大極殿院の地形や諸施設等について往時の形態を復原するのが目的である。

28 年度は、大極殿院の建物に使用する飾金具の復元研究を進めた。そのため、全国の出土金具の類例収集、奈文研所蔵出土金具の成分分析、古代の金具に用いられる意匠及び南門の建築金具の復原意匠について検討した。検討会は所内検討会を 1 回、有識者を招聘した検討会（第一次大極殿院復原建築金具検討会）を計 2 回開催した。これらの検討内容を収録した記録については、『第一次大極殿院復原検討会記録』（内部資料）を刊行した。また、これまでの検討内容をまとめ、報告書を刊行するための準備を進めた。

有識者を招聘した検討会
（第一次大極殿院復原建築金具検討会 12 月 22 日）

金具の検討（第 65 回検討会、第一次大極殿院復原建築金具検討会）
・全国の発掘調査報告書から、近畿圏内の都城・官衙・寺院関係と、日本全域の国府・国分寺の出土建築金具事例を収集した。
・奈文研所蔵の出土金具について、製造技法解明の一端として成分分析を行った。既往の研究とは異なる、地金の製造技法と金具に含まれる成分に、必ずしも関係性はみられないという新たな知見を得た。
・古代の金具に用いられる文様に注目し、使用される文様やその構成から復原年代に相応しい意匠について検討した。
・奈文研所蔵の出土木口金具について、その妥当性を確認した。
・金具意匠の検討結果と奈文研所蔵の出土金具を参考とし、南門の尾垂木・飛檐垂木・地垂木の木口金具を中心に意匠の復原設計を行った。
・報告書では情報が不十分な事例について、遺物を実見する現地調査を行った（福岡県太宰府市、岩手県平泉町)。

整備事例の調査
・地方官衙の復原整備の手法と整備後の現状について、現地確認を行い、地形に対する基壇・建物のおさまり、経年による建物部分の傷みについて情報を得た（宮城県多賀城市、岩手県盛岡市)。

報告書の作成
・27 年度までの検討の内容を報告書として刊行すべく、原稿執筆及び各種資料の整理や編集作業などを進めた。

【実績値】
・第一次大極殿院復原検討会：1 回（第 65 回）
・第一次大極殿院復原建築金具検討会（9 月 7 日、12 月 22 日)：有識者 2 名招聘
・類例調査：2 回（国内 2 回）
論文等数件：2 件（①、②）
①坪井久子「大極殿院の風鐸の検討―第一次大極殿院の復原研究 22―」（29 年 6 月、予定）
②大橋正浩「出土木口金具の意匠を構成する文様について―第一次大極殿院の復原研究 23―」（29 年 6 月、予定）
報告書等数：1 件（③）
③『第一次大極殿院復原検討会記録 14』（29 年 3 月）（内部資料）

【委託者・受託経費】
委託者：国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所
受託経費：37,405 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	長門鋳銭所跡出土木簡の保存処理を経ての総合的研究(②-1))		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	渡辺晃宏（副部長）

【スタッフ】
渡辺晃宏（副部長）、馬場基（主任研究員）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター主任研究員）、桑田訓也、山本祥隆（史料研究室研究員）、星野安治（埋蔵文化財センター年代学研究室研究員）、中村一郎（企画調整部写真室主任）

【年度実績概要】
山口県下関市に所在する長門鋳銭所跡から 22 年に出土した木簡数百点（推定）について、科学的な保存処理を実施した上で釈文を確定し、その歴史的な意義を明らかにするための事業である。27 年度に木簡 50 点について実施し、28 年度はその成果を受けて、さらに木簡 50 点を対象とした。
調査は概ね以下の手順で行った。

①保存処理前の状態（水漬け状態）について、肉眼による文字の釈読及び木の形状や加工の観察などを行い、それらを踏まえた調書（記帳）を作成。
②同上について、可視光線（カラー）、赤外線の 2 種類の写真をデジタルカメラで撮影。データは、奈文研と下関市教育委員会の双方に保管している。
③同上について、釈文の検討を最新鋭の赤外線テレビカメラ装置を用いて実施し、釈文案を作成。
④同上について、埋蔵文化財センター年代学研究室において、顕微鏡観察による樹種の絞り込み及び同定を実施。50 点中 31 点については、委託主体と相談の上で切片を採取しプレパラートを作成した。
⑤①～④の終了後、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室において、科学的な保存処理を実施。保存処理は、高級アルコール含浸の上、真空凍結乾燥を施した。
⑥保存処理後の状態について、②と同じ要領で写真撮影を実施。
⑦同上について、③と同じ要領で釈文を再検討し、最終的に釈文を確定。

「秦白万呂」

以上の調査の結果、人名や数量が記された削屑など、27 年度の成果に加えて、銭貨鋳造の現場管理・運営の様相を彷彿とさせる豊かな内容が読み取れ、全国有数の古代官衙遺跡出土木簡群であることを明確にできた。長門鋳銭所跡出土の個々の木簡の釈読を確定してその歴史的価値を明らかにする一方、貴重な資料を確実に後世に残すための最善の科学的保存処理を実施することができた。
具体的な調査成果については、委託主体である下関市教育委員会に業務完了報告書の形で報告した。今後先方と相談の上、研究成果の公表方法を検討していきたい。

【実績値】
保存処理 50 点
記録作成 174 点（可視光線写真 62 点、赤外線写真 62 点、記帳 50 点）

【委託者・受託経費】
委託者：下関市（山口県）
受託経費：2,155 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	鳥取県鳥取市大桝遺跡出土文字資料の保存処理等の総合的研究(②-1))		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	渡辺晃宏（副部長）

【スタッフ】
渡辺晃宏（副部長)、高妻洋成（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長)、馬場基（主任研究員)、山本崇（主任研究員)、桑田訓也（史料研究室研究員)、山本祥隆（史料研究室研究員)、星野安治（埋蔵文化財センター年代学研究室研究員)、藤間温子（史料研究室アソシエイトフェロー)、松田和貴（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー)

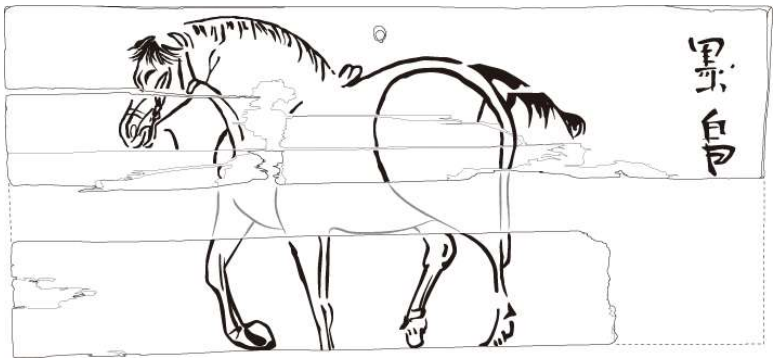
【年度実績概要】
鳥取県鳥取市に所在する大桝遺跡から出土した木簡の 3 点について（うち 1 点は絵馬)、科学的な保存処理を実施した上で釈文を確定し、その歴史的な意義を明らかにするための事業である。

事業は概ね以下の手順で行った。

① 保存処理前の状態（水漬け状態）における、肉眼による釈読、及び材の形状や加工痕跡の観察などを行い、それらを踏まえた記帳ノートを作成した。
② 可視光線（カラー)、赤外線の 2 種類のデジタル撮影を実施した。墨痕がなく文字が浮き上がりでしか残らないものについては、斜光による撮影を併用した。データは奈文研と公益財団法人鳥取県埋蔵文化財センターの双方で同じものを保管している。
③ 釈文の検討を最新鋭の赤外線テレビカメラ装置を用いて実施し、釈文案を作成した。
④ 埋蔵文化財センター年代学研究室において、顕微鏡観察による樹種の絞り込み、及び樹種同定を実施した。可能な資料については、委託主体の了解を得た後、切片を採取し、プレパラートを作成した。
⑤ ①～④の終了後、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室において、科学的な保存処理を実施した。保存処理方法は、高級アルコールを含浸させた上で、真空凍結乾燥を行う方法によった。
⑥ 保存処理後の状況を、②と同じ要領で、可視光線（カラー)、赤外線の 2 種類のデジタル撮影を実施した。
⑦ ③と同じ要領で釈文を再検討し、最終的な釈文を決定した。

以上の調査の結果、大桝遺跡出土木簡が、鳥取県内や山陰地方でも有数の古代官衙遺跡出土木簡群であることを明確にすることができた。大桝遺跡出土のそれぞれの木簡の読みを確定し、その歴史的価値を明らかにする一方で、貴重な資料を確実に将来に伝えるため、現在取り得る最善の方法による科学的保存処理を実施し、安定した状態とすることができた。

なお、絵馬については当初の復元とは異なり、間に別材がもう一つあったと見る方がよいことがわかり、二条大路濠状遺構 SD5300 出土の絵馬と極めてよく似た意匠の資料であることが明らかになった（右図)。



大桝遺跡出土絵馬復元図（鳥取県教育文化財団作成）

具体的な調査成果については、委託主体である公益財団法人鳥取県教育文化財団に業務完了報告書の形で報告した。

【実績値】
保存処理 3 点
記録作成（可視光写真 6 点、赤外線写真 6 点、記帳 3 点）

【委託者・受託経費】
委託者：公益財団法人鳥取県教育文化財団
受託経費： 184 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-4

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	鳥取県鳥取市青谷横木遺跡出土木簡の保存処理等総合的研究(②-1))		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	渡辺晃宏（副部長）

【スタッフ】
渡辺晃宏（副部長）、高妻洋成（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長）、馬場基（主任研究員）、山本崇（主任研究員）、桑田訓也（史料研究室研究員）、山本祥隆（史料研究室研究員）、星野安治（埋蔵文化財センター年代学研究室研究員）、藤間温子（史料研究室アソシエイトフェロー）、松田和貴（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

鳥取県鳥取市に所在する青谷横木遺跡から出土した木簡のうち 36 点について、科学的な保存処理を実施した上で釈文を確定し、その歴史的な意義を明らかにするための事業である。

事業は概ね以下の手順で行った。

① 保存処理前の状態（水漬け状態）における、肉眼による釈読、及び材の形状や加工痕跡の観察などを行い、それらを踏まえた記帳ノートを作成した。
② 可視光線（カラー）、赤外線の 2 種類のデジタル撮影を実施した。墨痕がなく文字が浮き上がりでしか残らないものについては、斜光による撮影を併用した。データは奈文研と鳥取県埋蔵文化財センターの双方で同じものを保管している。
③ 釈文の検討を最新鋭の赤外線テレビカメラ装置を用いて実施し、釈文案を作成した。
④ 埋蔵文化財センター年代学研究室において、顕微鏡観察による樹種の絞り込み、及び樹種同定を実施した。
可能な資料については、委託主体の了解を得た後、切片を採取し、プレパラートを作成した。
⑤ ①～④の終了後、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室において、科学的な保存処理を実施した。保存処理方法は、高級アルコールを含浸させた上で、真空凍結乾燥を行う方法によった。
⑥ 保存処理後の状況を、②と同じ要領で、可視光線（カラー）、赤外線の 2 種類のデジタル撮影を実施した。
⑦ ③と同じ要領で釈文を再検討し、最終的な釈文を決定した。

真空凍結乾燥機から取り出したばかりの木簡

以上の調査の結果、青谷横木遺跡出土木簡が、鳥取県内や山陰地方にとどまらず、全国的にみても有数の古代官衙遺跡出土木簡群であることを明確にすることができた。青谷横木遺跡出土のそれぞれの木簡の読みを確定し、その歴史的価値を明らかにする一方で、貴重な資料を確実に将来に伝えるため、現在取り得る最善の方法による科学的保存処理を実施し、安定した状態とすることができた。

具体的な調査成果については、委託主体である鳥取県埋蔵文化財センターに業務完了報告書の形で報告した。

【実績値】
保存処理　36 点
記録作成 108 点（可視光写真 36 点、赤外線写真 36 点、記帳 36 点）
論文等 1 本（渡辺晃宏「青谷横木遺跡出土木簡と古代の鳥取」鳥取古代フォーラム〈10 月 8 日〉）

【委託者・受託経費】
委託者：鳥取県埋蔵文化財センター
受託経費： 797 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-5

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	鳥取県鳥取市大桷遺跡出土大型呪符木簡他の保存処理等の総合的研究(②-1))		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	渡辺晃宏（副部長）

【スタッフ】
渡辺晃宏（副部長）、高妻洋成（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長）、馬場基（主任研究員）、山本崇（主任研究員）、桑田訓也（史料研究室研究員）、山本祥隆（史料研究室研究員）、星野安治（埋蔵文化財センター年代学研究室研究員）、藤間温子（部史料研究室アソシエイトフェロー）、松田和貴（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

鳥取県鳥取市に所在する大桷遺跡は、古代の木簡が出土する遺跡として知られるが、木簡と共伴して大型の呪符が出土した。この資料は、大きさに加えて、ほぼ全面にあったとみられる墨が全く残らず、墨のあった部分が白く抜けた状態で残る、極めて特異な状態にある点に大きな特徴がある。まずはどのような墨痕があったかを確定させ、その上で細心の注意を払った科学的保存処理を行う必要があり、奈文研で受託してこれを実施することとした。但し、材が大型で分厚いため、単年度での実施は困難と判断したため、行程を区切っての受託となった。28 年度は科学的保存処理のうち、脱水工程までを完了した。なお、大桷遺跡出土木簡について、別途受託契約を結んで実施している保存処理事業始動後に確認された木簡 2 点についても、大型呪符木簡に関する本受託事業と一括して実施し、これらについては 28 年度中に科学的保存処理を終えている。

事業は概ね以下の手順で行った。

① 保存処理前の状態（水漬け状態）における、肉眼による墨のあった部分の観察、及び材の形状や加工痕跡の観察などを行った。

② 可視光線（カラー）、赤外線の 2 種類のデジタル撮影を実施した。墨痕がなく文字が白く抜けた状態で残るのみであるため、斜光による撮影を併用した。データは奈文研と公益財団法人鳥取県教育文化財団の双方で同じものを保管している。

③ 埋蔵文化財センター年代学研究室において、顕微鏡観察による樹種の絞り込み、及び樹種同定を実施した。また、委託主体の了解を得た後、切片を採取し、プレパラートを作成した。

④ ①～③の終了後、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室において、科学的な保存処理工程に入り、28 年度は、
・処理前記録作成(写真撮影、軟 X 線透過撮影など)
・処理前のクリーニング(泥や砂の除去)
・脱水工程(第三ブチルアルコール水溶液への浸漬)
の 3 つの工程を終了し、脱水工程までを完了することができた。これ以後の工程については、29 年度に改めて受託契約を結んだ上で実施の予定である。

8 世紀に遡る呪符はあまり類例が多くなく、大桷遺跡のこの呪符はその中でも特異な事例といえ、その実態解明は、古代の精神世界の解明に上で大きなインパクトをもつものとなることが期待される。

なお、具体的な調査成果は、委託主体である公益財団法人鳥取教育文化財団に業務完了報告書の形で報告した。

公表は 29 年に科学的保存処理の全工程を終えてからとなる見込みである。

大桷遺跡出土大型呪符
（鳥取県教育文化財団作成）

【実績値】
保存処理（脱水工程まで）1 点、保存処理（完了）2 点
記録作成 45 点（可視光写真 22 点、赤外線写真 22 点、記帳 3 点）

【委託者・受託経費】
委託者：公益財団法人鳥取県教育文化財団
受託経費： 199 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-6

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	木之本廃寺、藤原京左京五条三坊（脇本宅）発掘調査(②-1))		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	玉田芳英（部長）

【スタッフ】
森川実（都城発掘調査部主任研究員)、前川歩（遺構研究室研究員)、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員）

【年度実績概要】
○個人住宅の新築工事に伴い発掘調査を実施した。調査区は藤原京左京五条三坊東南坪にあたり、周辺は木之本廃寺の推定地である。
・調査地：奈良県橿原市下八釣町 127
・調査期間： 5 月 17 日～5 月 24 日
・調査面積：27 ㎡（東西 9m、南北 3m）
○調査成果
・検出した主な遺構は、東西溝 3 基、斜行溝 1 条、井戸 1 基である。溝はいずれも埋土に瓦器を含み、中世以降の遺構と考えられる。井戸は、近世以降と推定される。

調査区全景（北西から）

【実績値】
・出土遺物：瓦 1 箱、土器 1 箱、石器・石製品 3 点、建築部材 3 点。
・記録作成数：遺構実測図 1 枚、写真 18 枚、メモ写真 32 枚。

【委託者・受託経費】
委託者：橿原市（奈良県）
受託経費： 659 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-7

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	史跡　飛鳥寺跡に隣接する県道「橿原神宮東口停車場飛鳥線」の厳重立会調査(②-1))		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	玉田芳英（部長）

【スタッフ】
諫早直人（考古第一研究室研究員）

【年度実績概要】
○本調査は水路工事に伴い、掘削が生じる箇所の遺構の有無を確認するために実施した。調査地は史跡飛鳥寺跡に北接する県道「橿原神宮東口停車場飛鳥線」にあたる。
・調査地：奈良県高市郡明日香村飛鳥 212 地先
・調査期間： 6 月 8 日～10 日
・調査面積：24.7 ㎡
○調査所見
・埋設管設置のため長さ 15m、幅 1.5m の範囲を GL-1.0m（西端集水桝部分は GL-1.5m）まで掘削したが、顕著な遺構は確認できなかった。

調査区全景（西から）

【実績値】
・記録作成数：写真 45 枚。

【委託者・受託経費】
委託者：奈良県中和土木事務所
受託経費： 81 千円

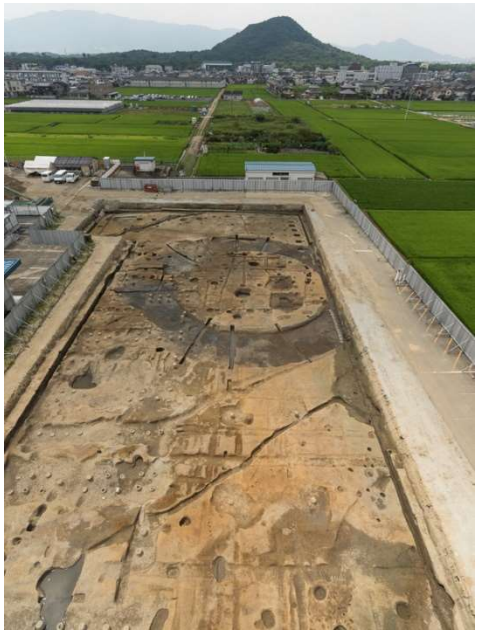
【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-8

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	奈良職業能力開発促進センター本館取壊しに伴う藤原京跡（右京九条二・三坊)、瀬田遺跡発掘調査(②-1))		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	玉田芳英（部長）

【スタッフ】
森川実（都城発掘調査部主任研究員)、清野陽一（考古第三研究室研究員)、前川歩（遺構研究室研究員)、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員)

【年度実績概要】
○奈良職業能力開発促進センター本館の建て替えにともなう発掘調査を、27 年度からの継続事業として実施した。調査地は、藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡にあたる。
・調査地：橿原市城殿町。
・調査期間：27 年 11 月 25 日～10 月 5 日。
・調査面積：2,019 ㎡。
○調査成果
・藤原宮期
① 条坊関連遺構　藤原京西二坊大路東側溝 1 条を検出した。
② 九条二坊西北坪　坪内道路の側溝 2 条、掘立柱建物 1 棟、土坑・L 字形溝等を検出。坪内道路の検出により、二分の一町以下の占地で土地利用されていることが判明した。
③ 九条三坊東北坪　一町（以上）を占地する大規模施設で、南北塀 4 条、掘立柱建物 7 棟などを検出した。うち 2 棟は大型掘立柱建物である。
・弥生時代
① 円形周溝墓　調査区中央部で大型円形周溝墓 1 基を検出し、周溝内から弥生土器多数が出土。出土土器は弥生時代終末期のもので、陸橋をそなえた前方後円形の周溝墓としては大和盆地最古例となり、前方後円墳の出現を考えるうえで大きな成果となった。
② 方形周溝墓　調査区東北部にて方形周溝墓２基の周溝を検出。
③ その他　土坑 5 基、斜行溝 3 条を検出。土坑からは弥生土器多数が出土した。
・縄文時代　弥生時代から平安時代までの遺構検出面の下位に堆積していた黒褐色粘土層から、後期末から晩期の土器や石器が出土した。縄文土器は、東南方で行われた既往の調査でも出土しており、遺跡の範囲が今回の調査地点にまで及んでいることが判明した。
・古墳時代　調査区西南部にて斜行溝 1 条を検出。
・平安時代　調査区中央部において井戸 1 基を検出。


調査区全景（東から）

【実績値】
・現地説明会来場者数：1,315 人
・出土遺物：軒瓦 7 点、丸瓦・平瓦コンテナ 3 箱、土器コンテナ 109 箱、木製品・木質遺物コンテナ 26 箱、鉄製品 9 点、石器・石製品コンテナ 3 箱ほか
・記録作成数：遺構実測図 152 枚、写真 399 枚、メモ写真 2,386 枚
・論文等数：4 件（①～④)。
①金宇大・栗山雅夫「藤原京右京九条二・三坊，瀬田遺跡の調査」飛鳥藤原第 187 次調査現地見学会資料（5 月）
②山本崇「発掘調査の概要　藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡の調査」『奈文研ニュース』No. 61（6 月）
③森川実「発掘調査の概要　藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡の調査」『奈文研ニュース』No. 62（9 月）
④森川実ほか 2017「藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡の調査－飛鳥藤原第 187 次」『奈良文化財研究所紀要 2017』(29 年 6 月予定)

【委託者・受託経費】
委託者：独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
受託経費：22,694 千円（契約金額 56,178 千円。27 年度：33,297 千円）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-9

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	特別史跡藤原宮跡（高殿町道路拡幅）発掘調査(②-1))		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	玉田芳英（部長）

【スタッフ】
山本崇（都城発掘調査部主任研究員)、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員）

【年度実績概要】
○橿原市高殿町の道路拡幅に伴う特別史跡藤原宮跡の現状変更にかかる発掘調査（第 188-7 次）である。調査区を北区・南区の 2 箇所に分けた。調査地は、藤原宮東方官衙南地区（北区)、及び東南官衙地区（南区）にあたる。
・調査地：橿原市城殿町
・調査期間： 10 月 12 日～12 月 21 日
・調査面積：北区 49 ㎡、南区 248 ㎡。合計 297 ㎡
・出土遺物：土器・瓦・石器・種実・馬歯など
○調査成果
・北区からは、近代以降の土坑・桶埋納遺構などを検出したのみで、藤原宮期の遺構は検出していない。
・南区からは、藤原宮期の土器を多く含む南北溝、同じく宮期に属し南北溝より古い桁行 6 間梁行 2 間以上の南北棟掘立柱建物 2 棟を検出したほか、掘立柱塀ないし建物と思われる柱穴を多数検出した。南北溝は官衙を区画する区画溝と思われ、この時期を含め、藤原宮期に少なくとも 3 回の建て替えが認められる。加えて、宮期以前に属する塀もしくは建物、6 世紀前半頃の土器を多く含む溝などを検出した。
・推定された先行東二坊坊間路の側溝は調査区内では確認できなかったが、従来様相が明らかでなかった官衙地区の一端を解明するという点で、重要な知見を得た。なお、検出できなかった先行東二坊坊間路の西側溝は、調査区のすぐ西側に位置している可能性が高い。

飛鳥藤原第 188-7 次調査南区
遺構検出状況（北から）

【実績値】
・出土遺物：軒丸瓦 2 点、丸・平瓦コンテナ 1 箱、土器コンテナ 27 箱、木器・木製品 1 点、種実 1 点、馬歯 1 点ほか。
・記録作成数：実測図 30 枚、デジタル写真 63 枚、デジタルメモ写真 325 枚。
・論文等数：1 件（①)。
①山本崇ほか「藤原宮東方官衙南地区・東南官衙地区の調査―第 188-7 次」『奈良文化財研究所紀要 2017』(29 年 6 月予定)

【委託者・受託経費】
委託者：橿原市（奈良県）
受託経費：8,430 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-10

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	大和紀伊平野農業水利事業に係る埋蔵文化財発掘調査(②-1))		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	玉田芳英（部長）

【スタッフ】
石田由紀子（考古第三研究室研究員）、尾野善裕（考古第二研究室長）、廣瀬覚（都城発掘調査部主任研究員）、大林潤（都城発掘調査部主任研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員）

【年度実績概要】
【年度実績概要】
○水路改修に伴い発掘調査を実施した。調査地は藤原宮外濠と六条大路の間にある外周帯にあたる。
・遺跡名：藤原宮南方（藤原宮外周帯）
・調査期間：29 年 1 月 10 日～2 月 1 日
・調査面積：約 635.7 ㎡（全長 135m）
○調査成果
・調査区全体にわたって既設水路による削平が著しく、調査区東部では攪乱が古墳時代以前の堆積層にまで及んでおり、古代の整地層は確認できなかった。古代の整地層が残存していた調査区西端で、重複する 2 条の東西溝の南肩を検出した。東西溝 1 は、底面の幅 30～80 ㎝、深さ 30 ㎝で、流路と思われる。埋土から、藤原宮造営期の土器や瓦が多く出土。東西溝 2 は、東西溝 1 埋没後の溝で、幅 1.2m以上、深さ 20 ㎝以上。西へ 60mの地点で実施した飛鳥藤原第 29－6 次調査で検出した藤原宮南面大垣外濠の位置と合致するので、外濠の南肩もしくは、外濠埋め立て後の落ち込み埋土等の可能性がある。
・調査区東端の西一坊坊間路東側溝想定位置で、溝の可能性がある遺構を調査区南壁で検出したが、既設水路による削平のため、調査区南壁で断面を検出したにとどまる。
・調査区東側で古墳時代の土坑を1基検出。埋土から吉備型甕が出土。
・古墳時代以前の堆積層上面で、自然流路を4条検出。うち3条は旧地形に沿って斜行する。
・出土遺物としては、弥生時代～近代までの土器、古代～近代までの瓦、銭貨（天保二朱銀 1 点、寛永通宝 4 点、一銭銅貨 1 点、不明 1 点）等がある。

東西溝 1・2 検出状況（西から）

【実績値】
・出土遺物：軒平瓦 2 点、丸・平瓦コンテナ 20 箱、土器コンテナ 7 箱、木器・木製品 6 点、銭貨 7 点ほか
・記録作成数：遺構実測図 18 枚、土層断面図 8 枚、デジタル写真（4×5）35 枚、デジタルメモ写真 282 枚

【委託者・受託経費】
委託者：奈良県
受託経費：1,539 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-11

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	藤原京左京七条一坊（別所町集会所）発掘調査業務(②-1))		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	玉田芳英（部長）

【スタッフ】
大林潤（都城発掘調査部主任研究員）、尾野善裕（考古第二研究室長）、石田由紀子（考古第三研究室研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員）

【年度実績概要】
本調査は、橿原市別所町集会所の建て替えに伴い実施した発掘調査である。調査地は藤原京六条大路にあたる。

調査地：橿原市別所町
調査期間： 29 年 2 月 20 日～24 日
調査面積：6 ㎡
調査成果：
・地表下約 0.7ｍで、南北溝の東肩とみられる落ち込みを検出した。溝の深さは 1.0m。埋土からは中世の瓦器片が出土した。調査地が別所町集落の西端にあたることから、この集落の環濠の可能性が考えられる。
・なお、古代に遡る遺構は確認できなかった。
出土遺物：瓦、土器

図　調査区全景（南西から）

【実績値】
出土遺物：丸・平瓦コンテナ 1 箱、土器コンテナ 1 箱
記録作成数：遺構実測図 2 枚、写真（大判）8 枚、写真（デジタルメモ）26 枚

【委託者・受託経費】
委託者：橿原市長
受託経費：459 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F-12

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	常総市水損文書の真空凍結乾燥処置に関する研究(②-1))		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	高妻洋成（保存修復科学研究室長）

【スタッフ】
中島志保（アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

27 年 9 月関東・東北豪雨により被災した常総市の水損文書のうち自然乾燥では復元が困難と認められた文書（段ボール箱 61 箱）を受け入れ、真空凍結乾燥をおこなった。

通常、水損文書の真空凍結乾燥は水漬けになっているものを凍結した後、真空凍結乾燥を実施する。今回、常総市より受け入れた水損文書は、被災そのものの発見が大きく遅れたため、腐敗が進行していたことから、エタノール浸漬による殺菌処置が行なわれていたものであった。エタノール濃度が高くなると、凍結しなくなるだけでなく、コールドトラップでも捕捉できなかったエタノールが真空ポンプのオイル中に混入し、真空ポンプの故障につながりかねない。さらには、真空ポンプ稼働中にオイルに混入したエタノールがミストとして大気中に放出されることも懸念されるとともに、このミストへの引火による火災の危険性も高まる。当初は、1 か月程度の乾燥期間を想定していたが、上述の危険性をできる限り低減するため、乾燥初期において－20℃での真空凍結乾燥を継続するとともに、コールドトラップに捕捉したエタノールと水の混合液をこまめに融解・排出することにより、慎重な真空凍結乾燥をおこなった。

約 2 カ月の乾燥時間を費やし、真空凍結乾燥処置を終了することができた。

【実績値】
水損文書：段ボール箱 61 箱（1 箱約 10kg 相当）（水損により、固着しており正確な件数は不明）

【委託者・受託経費】
委託者：常総市（茨城県）
受託経費： 151 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3531F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務(③-1))		
【担当部課】	研究支援推進部	【事業責任者】	伴　佳英（研究支援課長）

【スタッフ】
江川　正(宮跡等活用支援係長)、今西康益（宮跡等活用支援係係員)、辻本信一（宮跡等活用支援係係員)、帯谷亜矢子(宮跡等活用支援係事務補佐員)

【年度実績概要】
特別史跡平城宮跡地内及び藤原宮跡地内における不具合対応策提案及び整備管理業務の実施
平城宮跡地内及び藤原宮跡地内において文化庁が実施する事業を補助し、遺構の保存、公開・活用への環境整備の円滑な進捗を図るもの。実施期間　4 月 1 日から 29 年 3 月 31 日（休日を除く）
1 特別史跡平城宮跡地内及び藤原宮跡地内における不具合対応策提案業務の実施
－1　環境維持、宮跡内施設等の安全確保のための対策提案
○復原施設、遺構表示、便益施設設備の状況観察及び故障等不具合へ対応策提案、対応手配等協力
① 平城宮跡北面大垣整備地排水対応
② 第一次大極殿免震装置点検
③ 朱雀門風鐸等点検
④ 東院庭園建物・橋等点検
⑤ 宮跡内植栽管理への助言
⑥ 平城宮跡国有地管理への助言
⑦ 藤原宮跡国有地管理への助言　他
－2　緊急事案発生への対応提案
○事件、事故等緊急事案対応への応策提案、対応手配等協力
① 平城宮跡内危険箇所表示損傷対応
② 第一次大極殿北方排水機能復旧対応　他
2 特別史跡平城宮跡地内及び藤原宮跡地内における整備管理業務の実施
－1　平城宮跡及び藤原宮跡における草刈り業務（別途業務外注）管理の実施
○計画及び実施工程等の調整
○施工箇所の点検・確認
○事前の調整（地元自治会等への説明会同席、要望への反映）
○周辺住民等からの要望・苦情の聴取
○聴取内容、施工箇所変更などの業者への伝達
－2　平城宮跡及び藤原宮跡における整備、改修・修繕等の実施にかかる調整対応を実施
○計画及び実施工程等の調整、施工箇所の確認
① 東院庭園西建物屋根改修工事
② 平城宮跡地内防犯設備設置工事
③ 第一次大極殿高御座修理
④ 東院庭園隅楼二重屋根修理
⑤ 平城宮跡北面大垣遺構表示修理
⑥ 平城宮跡東院南方水路安全柵設置
⑦ 遺構展示館照明改修工事
⑧ 平城宮跡（植栽剪定）
⑨ 藤原宮跡（植栽剪定）
⑩ 藤原宮跡見学者用便所修理
⑪ 藤原宮跡民有地等境界柵整備　他

【実績値】
1－1　不具合対応策提案及び整備管理業務の実施（対応策提案件数　72 件）
1－2　緊急事案発生への対応提案（対応提案件数　3 件）
2－1　草刈り業務管理の実施　平城宮跡 406,396 ㎡・藤原宮跡 670,345 ㎡、(地元要望調整等対応件数　51 件）
2－2　計画及び実施工程等の調整、施工箇所の確認（調整対応件数　46 件）

【委託者・受託経費】
委託者：文化庁
受託経費：13,480 千円

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 7110

大項目	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	1.　業務改善の取組
事業名	(1) 組織体制の見直し

【年度計画】
・理事長の裁量によって一定数の職員を配置できる仕組みを検討し、特に 2019 年 ICOM 京都大会、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた組織体制の見直しを行う。
・国際業務を担う優秀な人材の採用並びに職員の人材養成を行い、職員の能力の向上のための支援を実施する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平

【実績・成果】
・28年10月1日付けで本部事務局長に京都国立博物館副館長を併任させ、2019年ICOM京都大会の実施に向けた組織体制の構築の検討を開始した。
・機構における定年退職者の知識・経験等を活用することができる仕組みを構築するため、任期付職員制度の見直しを行った。
・28年度定年退職者3名を、29年4月1日付けで任期付職員として採用した。
・高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材を確保するため、26年度に専門職制度を創設し、東京国立博物館、奈良文化財研究所に各1名、国際業務を担当する職員を配置している。

【補足事項】
・上記専門職制度で採用・配置される職員は、契約期間に定めがない職員である。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	任期付職員制度の見直しを図り、28年度定年退職者3名を、29年4月1日付で任期付職員として採用した。引き続き、任期付職員制度を活用し、2019年ICOM京都大会等に向けた組織体制の見直しを行う。

【中期計画記載事項】
組織の機能向上のため、組織・体制等の見直しを行う。特に、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、機構の事業全体を通じて、各施設横断的に国際業務を戦略的に推進する体制を整備する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	任期付職員制度の見直しを図り、28年度定年退職者3名を、29年4月1日付で任期付職員として採用した。引き続き、理事長の裁量によって、一定数の職員を配置できる仕組みを検討する。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 7120

中項目	1.　業務改善の取組
事業名	(2) 人件費管理等の適正化

【年度計画】
国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また人件費改革の取組について、今後の独立行政法人制度の見直し等を踏まえて検討する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平

【実績・成果】
・人事給与統合システムが20年4月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。また、人事給与統合システムを利用し、人件費のシミュレーション等を行うことにより、人件費に関する計画を円滑かつ詳細に企画・立案することができた。
・役職員の報酬額については、毎年度、総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）、平成15年9月9日策定」において、個別の額を公表しており、また、法人ウェブサイト上においても掲載している。今後も引き続き公表することとしている。
・人件費改革の取組については、28年度に独立行政法人制度の見直しがなかったため、検討していない。

【補足事項】
・当法人の給与規程は、国家公務員の職員給与を規定している一般職の給与に関する法律等に準拠している。また、国と異なる諸手当はない。
・ラスパイレス指数は、27年度は、事務・技術職員が98.3、研究職員が99.3となっており、その水準維持に努めた。
なお、28年度のラスパイレス指数は29年9月に総務省ウェブサイトにて公表予定である。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	人件費のシミュレーションを行い、概ね順調に人件費に関する計画を遂行できた。

【中期計画記載事項】
国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また人件費改革の取組について、今後の独立行政法人制度の見直し等を踏まえて検討する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	今後の独立行政法人制度の見直し等を踏まえて、引き続き、人件費管理の取り組みを検討、実施する。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 7130

中項目	1. 業務改善の取組
事業名	(3) 契約・調達方法の適正化

【年度計画】
①契約監視委員会を実施する。
②施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課、アジア太平洋無形文化遺産研究センター総務担当	事業責任者	事務局長　栗原　祐司

【実績・成果】
①「独立行政法人における調達等合理化契約の取組の推進について（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定)」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が平成 28 年度に締結した契約の点検・見直しを行った。
第 1 回契約監視委員会（28 年 11 月 21 日開催）
第 2 回契約監視委員会（29 年 6 月 28 日開催予定）
②東京国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン・黒田記念館カフェ、正門プラザ（ミュージアムショップ））、京都国立博物館（南門カフェ、平成知新館（ミュージアムショップ・レストラン））、奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）、奈良文化財研究所（飛鳥資料館ミュージアムショップ）については企画競争を実施済み。今後も、賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。奈良文化財研究所平城宮跡資料館ミュージアムショップについては、27 年度に引き続き 28 年度も随契事前確認公募を実施した。
③・29 年 2 月に機構内の会計系職員を対象とした研修を行った。（27 人が参加）
・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10 日間以上」から自主的措置として 20 日間以上確保するように引き続き努めている。
・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。

一般競争入札件数

年度	27 年度	28 年度	増減
件数	161 件	156 件	△5 件

【補足事項】

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画通り取組を実施している。

【中期計画記載事項】
「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づき、引き続き取組を着実に実施し、文化財の購入等、随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行い、随意契約によることができる事由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画通り取組を実施している。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 7140

中項目	1. 業務改善の取組
事業名	(4) 共同調達等の取組の推進

【年度計画】
本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所について、上野地区（東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館）における再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買の共同調達を引き続き実施する。他施設についても引き続き検討を進める。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課、アジア太平洋無形文化遺産研究センター総務担当	事業責任者	事務局長　栗原　祐司

【実績・成果】
・本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所について、引き続き上野地区（東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館）における再生PPC用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買の共同調達を実施した。また、新たに便器洗浄機器賃貸借、複写機賃貸借及び保守業務について共同調達を開始した（便器洗浄機賃貸借：東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館。複写機賃貸借及び保守業務：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、国立科学博物館）。
・京都国立博物館では、京都国立近代美術館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所と新たに共同調達に関する協定を締結した（29年度よりPPC用紙及びトイレットペーパーについて実施）。
・九州国立博物館では、九州地区の大学とPPC用紙及びトイレットペーパーについて共同調達の検討を進めている。

【補足事項】

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画通り取組を実施している。

【中期計画記載事項】
各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について、周辺の他機関等との共同調達等の取組を推進する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画通り取組を実施している。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 7151

中項目	1.　業務改善の取組
事業名	(5) 一般管理費等の削減　①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化

【年度計画】
1)共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を引き続き図る。
2)機構共通のネットワーク及びシステムにより、業務の効率的な運用及び情報の共有化を引き続き推進する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平

【実績・成果】
1)共通的な事務の一元化と事務の効率化のため、機構共通の業務システムである、グループウェア、財務会計システム、人事給与統合システム、web給与明細システムの運用を継続した。
2)業務の効率的な運用と情報共有化のため、機構共通の業務システム及び基盤となるネットワークの運用を継続した。特に情報共有については、グループウェア上の機構内全職員に共有すべき重要情報を整理統合したコンテンツ「機構内共有情報」を29年3月27日に設け、「行事予定一覧」や「機構内研究関連情報」等の共有を効率的かつ分かりやすく行える体制とし、情報の共有化の推進と強化を行った。

【補足事項】

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
一般管理費	831百万円	中期目標期間中15%以上効率化	-		681	607	832	1,080
業務経費	5,417百万円	中期目標期間中5%以上効率化	-		5,369	6,213	6,319	6,580

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
機構共通の業務システムの運用を継続し、事務の効率化を引き続き図った。
情報の共有化については、28年度から新たにグループウェア上に「行事予定一覧」や「機構内研究関連情報」等を共有する仕組みを設け、機構全職員への情報共有を継続的・効率的に行う体制を強化した。

【中期計画記載事項】
中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項(2)及びⅨ4.に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。このため、事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
具体的には下記の措置を講じる。
①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化（略）

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
機構共通の業務システムの運用を継続し、事務の効率化を引き続き図った。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 7152

中項目	1.　業務改善の取組
事業名	(5) 一般管理費等の削減　②計画的なアウトソーシング

【年度計画】
以下の業務の外部委託を継続して実施する。
（東京国立博物館）
・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
・資料館業務の一部
・施設内店舗業務
（京都国立博物館）
・看視案内業務及び設備保全業務の一部
・受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務
（奈良国立博物館）
・建物設備の運転・管理業務
・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
（九州国立博物館）
・建物設備の運転・管理業務等
・警備業務、看視案内業務及び清掃業務
（東京文化財研究所・奈良文化財研究所）
・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　栗原　祐司

【実績・成果】
・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、構内樹木等維持管理業務、清掃業務、各種事務補助作業等について民間委託を実施している。
・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また、研究所は警備業務の全てを民間委託している。
・博物館の来館者サービスに関しては、売札業務、受付・案内業務、託児業務、ロケーション撮影対応業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。
・東京国立博物館では、新たに茶室及び大講堂の施設貸出業務について民間委託を開始した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画通り外部委託を実施している。

【中期計画記載事項】
（略）事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
　具体的には下記の措置を講じる。
（略）②計画的なアウトソーシング

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画通り外部委託を実施している。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 7153

中項目	1. 業務改善の取組
事業名	(5) 一般管理費等の削減　③使用資源の減少

【年度計画】
・省エネルギー　光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。
・廃棄物減量化　使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。
・リサイクルの推進　廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課、アジア太平洋無形文化遺産研究センター総務担当	事業責任者	事務局長　栗原　祐司

【実績・成果】
・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転等を行った。
・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議でのiPad活用による文書のペーパーレス化を実施した。
・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集、リサイクル業者への古紙売り払い、再生紙の発注等）
・使用資源の推移等

光熱水使用量

事項	27年度	28年度	差額	増減率
電気（kwh）	24,981,326	25,475,017	493,691	1.98%
ガス（m^3）	1,888,670	1,961,450	72,780	3.85%
水道（m^3）	143,075	144,711	1,636	1.14%

※主な増加要因
電気使用量　東京国立博物館において夜間開館日を年間23日から94日へと拡大したため。
ガス使用量　東京文化財研究所では27年度は空調設備改修のために空調機の停止・運転制限を行っていたが、28年度はそのような特殊要因がなく収蔵庫・研究室等の温湿度管理の適正な維持に必要な運転を行ったため。
水道使用量　九州国立博物館において入館者数が増加したため。

廃棄物排出量　(kg)

事項	27年度	28年度	差額	増減率（%）
一般廃棄物	225,151	225,453	302	0.13%

※主な増加要因
東京国立博物館において、飲食を伴う大規模なイベントが27年度と比較して増加したため。

【補足事項】

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
光熱水量								
電気量(kwh)	25,475,017	−	−		24,277,289	25,749,324	26,425,896	24,981,029
ガス量(m^3)	1,961,450	−	−		1,583,761	1,912,122	1,904,708	1,888,670
水道量(m^3)	144,711	−	−		148,672	153,108	148,365	143,070
廃棄物排出量(kg)	225,453	−	−		245,438	238,041	241,900	225,151

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	各施設においては計画通り節減に努めており、光熱水使用量及び廃棄物排出量の増加は当年度の特殊要因によるところが大きい。

【中期計画記載事項】
（略）このため、事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
具体的には下記の措置を講じる。
（略）③使用資源の減少・省エネルギー・廃棄物減量化・リサイクルの推進

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	各施設においては計画通り節減に努めており、光熱水使用量及び廃棄物排出量の増加は当年度の特殊要因によるところが大きい。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 7200

中項目	2.　業務の電子化
事業名	業務の電子化

【年度計画】
機構ウェブサイトにおいて、機構に関する情報の提供を引き続き行い、政府の方針に沿ってオープンデータを推進し、各事務システムの継続運用とバックアップ・インフラ増強に努める。

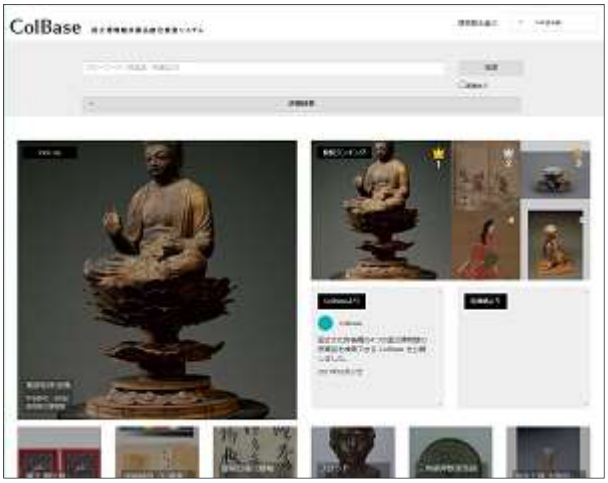
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平

【実績・成果】
・引き続き機構ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行った。
・機構内の博物館4館の各館所蔵品データを横断的に検索する「国立博物館所蔵品統合検索システム」（略称：ColBase）を29年3月27日に公開した。本システム上のコンテンツの利用については「政府標準利用規約（第2.0版）」準拠とし、商業利用を含む二次利用を可能とするものである。また国際的に普及しているクリエイティブコモンズ（NPO法人）によるCC-BYライセンスと互換性がある。これにより政府が推進するオープンデータ政策にも合致することになる。
・機構共通の各事務システム（グループウェア「サイボウズ」、財務会計システム「GrowOne」、人事給与統合システム「U-PDS」、web給与明細システム「U-PHS HR」）及びその基盤ネットワーク「機構VPN(Virtual Private Network)」を継続運用した。
・グループウェアのバックアップサーバーを奈良文化財研究所に設置し、緊急時に備えた準備を進めた。（28年6月上旬）

【補足事項】
・「国立博物館所蔵品統合検索システム」登録データ数
（公開時点及び28年度末時点）：
日本語基本データ数：133,518件
英語基本データ数　　28,769件

内訳：

	4館合計	東博	京博	奈良博	九博
日本語	133,518	124,676	5,932	1,889	1,021
英語	28,769	20,941	5,932	1,852	44



ColBase トップページ

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	国立博物館所蔵品統合検索システム（ColBase）を公開し、4館所蔵品の横断検索機能を機構として初めて提供するとともに、商業利用も含むコンテンツの二次利用を可能とする政府の方針に沿ったオープンデータの推進の取り組みを進めることができた。 そのほか、機構ウェブサイトにおける一般への情報提供、機構内各事務システムの継続運用、バックアップサーバ設置等については、計画通り実施した。

【中期計画記載事項】
機構に関する情報の提供、オープンデータの推進、業務・システムの最適化等を図ることとし、ＩＴ技術を活用した業務の効率化に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画どおり、機構に関する情報の提供、オープンデータの推進、業務・システムの最適化等を図り、ＩＴ技術を活用した業務の効率化の取り組みを順調に進めることができた。特に、中期計画初年度として、オープンデータの推進の一環として、コンテンツの二次利用を可能とする国立博物館所蔵品統合検索システム（ColBase）を公開することができた。今後は、システムの調整、データの整備、他機関との連携を継続して進めていくものである。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 7300

中項目	3.　予算執行の効率化
事業名	予算執行の効率化

【年度計画】
　運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務を設定するとともに、収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にする。

担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長　瀬倉信康

【実績・成果】
・「独立行政法人の中期計画、中長期計画及び事業計画に係る予算等について」（中央省庁等改革推進本部事務局 平成12年4月策定，平成27年3月総務省行政管理局修正）の記載（「業務経費については、中期目標等、中期計画等の業務運営の効率化に関する項や業務の質の向上に関する項において具体的に記載される業務内容との対応関係が明らかになるように定めるものとする。」）に基づき、28年度の収益化単位は中期目標、中期計画記載事項と一致させ、法人業務の成果を予算的にも国民に分かりやすいものへと変更した。

【補足事項】
・27年度も運営費交付金収益化基準は業務達成基準を原則としていた。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画通り取組を実施している。

【中期計画記載事項】
　運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画通り取組を実施している。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 8110

大項目	Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	1.　自己収入拡大への取組
事業名	(1) 自己収入拡大への取組

【年度計画】
機構全体において、展示事業等収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　栗原　祐司

【実績・成果】
自己収入については、下表のとおり1,714,563千円となり、目標を上回った。

	目標値	平成 28 年度
自己収入	1,538,510 千円	1,714,563 千円

※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。
※受託研究・受託事業を除く。

【補足事項】

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
自己収入額 （展示事業等収入）	1,714,563千円	1,538,510千円	B		1,586,683	1,240,226	1,730,218	1,817,119

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画通り取組を実施しており、目標を上回ることができた。

【中期計画記載事項】
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、(略) 競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画通り取組を実施しており、目標を上回ることができた。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 8120

中項目	1.　自己収入拡大への取組
事業名	(2) 外部資金の獲得

【年度計画】
機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　栗原　祐司

【実績・成果】
寄附金については、下表のとおり 753,812 千円となり、目標値を上回った。

	目標値	平成 28 年度
寄附金	439,574 千円	753,812 千円

※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。

【補足事項】

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
寄付金等額 （その他寄付金等）	753,812千円	439,574千円	A		199,376	172,318	789,808	795,744

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	計画通り取組を実施しており、目標を大幅に上回ることができた。

【中期計画記載事項】
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、（中略）競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	計画通り取組を実施しており、目標を大幅に上回ることができた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 8130A

中項目	1.　自己収入拡大への取組
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
(博物館4施設)
①講座・講演会等を開催する。
②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	総務課長　竹之内勝典

【実績・成果】(博物館4施設)
①月例講演会等の他、当館主催や外部利用による講演会を実施した。
②撮影件数増加のためインターネットロケーション検索サイト（ロケなび！）への登録を継続した。
③主に入館者の拡大と施設の有効利用を目的として、コンサートや寄席、野外シネマなど33件のイベントを実施し、約35,000人の参加があった。特に、若年の新規来館者の獲得を目指した「博物館で野外シネマ」を昨年度に引き続いて実施し、延べ17,000人（4回実施）の来場があった。また、「博物館でアジアの旅」では、アジア民族楽器の演奏会を東洋館の展示室内で行うなど、新たな展示の楽しみ方を示すことができた。さらに、国際交流イベントとして「留学生の日」を実施し、無料観覧（総合文化展のみ）のほか、茶会、英語ガイド、ガイドツアーなどを行い676人が来場した。

【補足事項】
①来館者に展示観覧と合わせてコンサート等を楽しんでいただけるよう、イベントの開催時間を開館時間中に設定することに努めた。
②撮影件数の更なる増加のため、インターネットロケーション検索サイト（ロケなび！）の申し込みプランに引き続き登録しており、問い合わせが絶えない状態である。
・ロケ担当者からのニーズに対応するため、ロケハン（撮影下見）用の案内シートを各施設の開館状況に応じて更新した。
・ロケスタッフへのきめ細かな対応と、更なるサービス向上の一環として、ロケ弁（弁当）業者の斡旋を引き続き実施した。また台東区からロケ弁当業者の情報を提供してもらうことで、より手厚いサービス提供を図った。
③企業等のパーティー、撮影(映画、ドラマ、雑誌等)、茶室・講堂の貸出による施設の有効利用(それに伴う収入増)を図った。
・企業等のパーティーによる収入は、9件77,505千円となった。
・撮影による収入は、325件32,317千円となった。(27年度実績286件 26,518千円)
・重要文化財である表慶館を特別展が開催されていない時期にユニークベニューとして積極的に活用し、大型イベントの誘致に成功した。
・27年7月より業務効率化・民間の接客対応サービスのノウハウを取り入れることを目的として撮影業務を民間企業に業務委託した。

企業のイベントによる施設貸出の模様（法隆寺宝物館）

「博物館で野外シネマ」の模様

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
施設の有効利用件数	747件	－	－		637	676	664	652
うち有償利用件数	529件	－	－		342	393	402	434

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 施設の有効活用件数を前年度比14.6%増とすることができた。 『博物館で野外シネマ』では、アンケート回答者のうち32%が東京国立博物館について「存在を知らなかった」「来館したいと思っていなかった」と答えているが、実施後の再来館意向は「強く思う」「まあ思う」を合わせて94%となっており、非来館者や来館頻度の少ない層に対して来館のきっかけを提供するとともに、再来館を促す高い訴求力が認められた。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 案件ごとに適宜判断を行いながら、保有資産の外部への貸出を進めることができ中期計画を順調に実施することができた。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 8130B

中項目	1.　自己収入拡大への取組
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
(博物館 4 施設)
①講座・講演会等を開催する。
②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　植田義雄

【実績・成果】
①展覧会に関する講演会、土曜講座の他に、外部よりゲストを招いて公開対談「新春・京博こと始め2017」を開催した。
②講堂等の利用案内を京都ユニークベニューガイド(編集・発行：京都文化交流コンベンションビューロー)へ掲載し、保有資産の有効利用の推進を図った。また平成知新館グランドロビーのユニークベニューに関する資料を作成し、関係団体、学校等外部に配布した。
③従前の「京都・らくご博物館」、「音燈華コンサート」等の他に、留学生を対象に日本文化への理解を深めるため、「留学生の日」を設け、平成知新館名品ギャラリー無料観覧及び茶室「堪庵」での茶道体験（呈茶）を行った。
また、博物館に無関心な層の獲得を目指して開催した「開館120周年カウントダウン」、「京キャラ博・京都ほんまもん祭」では、合わせて8,000人超の来館者を得ることができた。

【補足事項】
①講座・講演会等
・「新春・京博こと始め2017」(当館館長と画家　山口晃氏の対談)
平成29年1月2日　場所：平成知新館講堂　参加人数：204名
②外部への会場提供
・映像(テレビ、映画等)・商品カタログ等の撮影(平成知新館、庭園、茶室)、茶会の開催(茶室)、会議・講演会等の開催(講堂)、式典・パーティ等の開催(平成知新館グランドロビー、庭園)
③コンサート等のイベント
・「京都・らくご博物館」…5月13日　参加人数：135名、8月5日　参加人数155名、10月21日　参加人数128名
平成29年1月27日　参加人数：134名
・「留学生の日」…9月9日　場所：平成知新館、茶室　参加者数：33名
・「開館120周年記念カウントダウン」…12月31日　場所：平成知新館、平成知新館講堂、庭園　参加人数：1,000名
・「京キャラ博・京都ほんまもん祭」(京都府内を集めたイベントおよび京都物産展)
29年3月18日　場所：平成知新館、庭園　参加人数：7,245名

新春・京博こと始め 2017

留学生の日

開館 120 周年記念カウントダウン

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
施設の有効利用件数	105件	－	－		59	28	63	112
うち有償利用件数	93件	－	－		46	25	57	104

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
講堂等の利用案内について、京都ユニークベニューガイド(編集・発行：京都文化交流コンベンションビューロー)への掲載、新たな資料作成等を行い、外部に対して積極的に広報を行った。また、入館者拡大のために、無関心層を取り込むための新たなイベント(京キャラ博等)を試みた。
件数についても、過去4年間の平均を上回っており、計画通りに有効活用を推進することができた。

【中期計画記載事項】
(略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
新たな広報手段の活用及び入館者数拡大のための新規イベントを企画し、本来業務に支障のない範囲で実施した。その結果、中期計画通りに順調に成果を上げている。
来年度以降についても、施設の有効利用の推進を図っていく予定である。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 8130C

中項目	1.　自己収入拡大への取組
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（博物館 4 施設）
①講座・講演会等を開催する。
②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　室溪　浩

【実績・成果】
（博物館4施設）
①公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。
②小学生を対象に世界遺産学習を実施した。
③地元自治体等と連携し、敷地内でコンサート等のイベントを実施した。

【補足事項】
①講座・講演会
　公開講座(13回)、サンデートーク(12回)、正倉院展ボランティア解説(97回)、特別鑑賞会(10回)、文化財保存修理所特別公開（1回）等
②世界遺産学習(22校)
③イベントの実施
・講堂：親と子のワークショップ「空とぶ鉢のおはなし絵巻をつくろう！」、特別展「忍性」子ども無料日イベント「きく！みる！ふれる！東征伝絵巻」、第68回正倉院展親子鑑賞会、特別陳列「お水取り」関連企画『お水取り「講話」と「粥」の会』、文化財保存修理所特別公開、お水取り展鑑賞とお松明
・地下回廊：ワークショップ「描いて飾ろう文殊菩薩」、親子で楽しむイベント「仏像のカブリモノ」「東大寺大仏の穴くぐり」、奈良トライアングルミュージアムズワークショップ「写仏散華づくり」
・仏教美術資料研究センター：「正倉院展特別セミナー」
・庭園・茶室：案内ツアー（2回)、「おん祭と春日信仰の美術」茶会
○会場提供
・講堂：能楽学会「世阿弥忌セミナー」、講演会「東大寺と奈良町周辺の文化財を訪ねて」
・仏教美術資料研究センター：吉桑道子「宇宙に祈る」ゴスペルコンサート
・庭園：コンサート 音燈華「ジェスカ・グランペール」
・茶室：茶会
・敷地内：なら燈花会、野点のお茶席、奈良県柿の日消費拡大イベント、「フェラーリ・カヴァルケードインターナショナル2016」、春日若宮おん祭執行に係る敷地提供、なら瑠璃会等

文化財保存修理所特別公開

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
施設の有効利用件数	113件	－	－		139	144	117	117
うち有償利用件数	27件	－	－		39	43	34	33

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	近隣社寺や地元自治体等と連携して、イベント『お水取り「講話」と「粥」の会』を行ったり、なら燈花会等の会場提供を行うことで、博物館の認知の向上及び、施設の有効活用ができた。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	コンサート会場等として施設を提供することにより、博物館の認知の向上及び、自己収入を獲得することができており、計画どおり順調に施設を有効利用し成果をあげている。

【書式A】　施設名　九州国立博物館　処理番号　8130D

中項目	1.　自己収入拡大への取組
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（博物館 4 施設）
①講座・講演会等を開催する。
②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	交流課	事業責任者	交流事業室事務主査　岩橋神奈子

【実績・成果】
①特別展およびトピック展等に関する講演会・講座等を開催した。
②ミュージアムホールおよび茶室、研究室等の外部団体への貸出を積極的に行った。
③落語家による「みゅーじあむ寄席」の開催や、ミュージアムコンサート等を行い、施設の有効利用を図った。

【補足事項】
（博物館4施設）
①展示関連の講演会等の開催
1）特別展及び文化交流展（トピック展）関連イベント
・特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連記念講演会「神宿る島と祈りの記憶−祭祀遺跡の発掘調査譚−」
（29年1月21日開催　参加者数：229人）
・トピック展「海の王都 原の辻遺跡と壱岐の至宝」関連講演会「『魏志』倭人伝に記された一支国の世界」
（11月26日開催　参加者数：34人）
②外部団体への施設の貸出
有田焼創業400年企画展の誘致
・9月14日～25日　日本遺産認定記念「日本磁器のふるさと 肥前」パネル展（佐賀県文化課主催）
・9月20日～25日　きんしゃい有田珠玉の器紀行（有田焼展示販売）（佐賀県有田焼創業400年事業実行委員会主催）
・11月25日～27日　恋する器と本 有田焼書店（有田焼展示販売）（有田観光協会主催）
②施設利用の実績　撮影利用　16件（うち有償0件）
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートの開催
・みゅーじあむ寄席「夢で会いましょう」（8月7日、参加者数：283人）
・ミュージアムコンサート「東山魁夷が愛したモーツァルト」（8月11日、参加者数：350人）

トピック展関連講演会の様子

恋する器と本 有田焼展示の様子

みゅーじあむ寄席の様子

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
施設の有効利用件数	355件	−	−		246	269	321	392
うち有償利用件数	116件	−	−		86	122	120	118

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
特別展「京都　高山寺と明恵上人」の混雑対策のため、ミュージアムホールとエントランスを長期間使用することができなかったため、貸出件数自体は27年度に比して伸びなかったものの、特別展・トピック展示と関連した展示物販等に伴う施設の貸与を積極的に実施し、自己収入の増加に貢献した。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画に沿って、会議・昼食利用のための会議室の貸与及び展示・講演会のためのミュージアムホールの貸与など、有効利用の推進を順調に履行できた。

【書式A】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 8130E

中項目	1.　自己収入拡大への取組
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（文化財研究所 2 施設）
　セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

担当部課	研究支援推進部	事業責任者	部長　外間 尹隆

【実績・成果】
・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。
・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを28年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に東京文化財研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。
・当研究所の本来業務に支障のない範囲で外部機関へ施設の有償貸付を実施した。

【補足事項】
・第50回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」

オープンレクチャーの様子

・有償貸付例：文化財保存修復学会公開シンポジウム「文化財を伝える―展示技術と保存修復学」開催（29年1月29日、一般財団法人文化財保存修復学会）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
施設の有効利用件数	185件	－	－		181	177	164	186
うち有償利用件数	9件	－	－		20	23	12	7

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	施設の有効利用の促進を図るべく、当研究所の会議室及びセミナー室の有償貸付を実施した。当研究所の本来業務に支障のない範囲で外部機関への有償貸付を9件実施し、適正な施設利用を図った。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	28年度からの中期計画期間も施設の有効利用の促進を図る計画であり、初年度である28年度も計画どおり実施した。29年度も同様に、当研究所の会議室及びセミナー室の貸与等継続して行う予定である。

【書式A】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 8130F

中項目	1.　自己収入拡大への取組
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（文化財研究所2施設）
セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

担当部課	研究支援推進部	事業責任者	研究支援課長　伴　佳英

【実績・成果】

施　設　名	28年度
平城宮跡資料館　講堂	129件　（内　有償貸与 17件）
平城宮跡資料館　小講堂	130件　（内　有償貸与 22件）
飛鳥資料館　講堂	21件　（内　有償貸与 0件）
その他（仮庁舎・収蔵庫等）	16件　（内　有償貸与 13件）
合　　計	296件　（内　有償貸与 52件）

・ウェブサイト上での施設利用紹介等により、一般利用申し出に対する有効利用を推進し、有償貸付等を本来業務に支障の無い範囲で実施した。

・平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ（売店）の運営について、外部委託を継続した。

【補足事項】
27年度実績

施　設　名	27年度
平城宮跡資料館　講堂	103件　（内　有償貸与　17件）
平城宮跡資料館　小講堂	118件　（内　有償貸与　12件）
飛鳥資料館　講堂	16件　（内　有償貸与　0件）
その他（仮庁舎・収蔵庫等）	19件　（内　有償貸与　14件）
合　　計	256件　（内　有償貸与　43件）

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
施設の有効利用件数	296件	－	－		1,328	1,142	286	256
うち有償利用件数	52件	－	－		68	37	26	43

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
・26年度以降は寄宿舎施設の取り壊しのため、有償利用件数が減少しているが、寄宿舎施設以外については増加傾向に有り、有償利用件数が27年度より増加した。
・29年度以降についても、現状の分析及び利用者のニーズ等、その結果をもとに、施設の有効利用の推進を本来業務に支障の無い範囲で実施する。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
・28年度も引き続き、一般利用申し出に対する有効利用の推進等を行い、利用件数及び収入が増加した。今中期計画においても、本来業務に支障の無い範囲で実施しながら、前中期目標期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 8300

中項目	3.　決算情報・セグメント情報の充実等
事業名	決算情報・セグメント情報の充実等

【年度計画】
決算情報・セグメント情報の公表の充実について検討する。

担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長　瀬倉信康

【実績・成果】
決算情報・セグメント情報の充実について検討した結果、28年度に実施した27年度決算については「独立行政法人会計基準」の27年1月改訂に従い以下の通り公表情報の充実を図った。
・財務諸表付属明細書「セグメント情報」については、「臨時損失等」「行政サービス実施コスト」欄を新設し、公表情報を充実化した。
・決算報告書については、機構全体の決算報告に加えてセグメント（各施設）毎の情報を公表した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画通り取組を実施している。

【中期計画記載事項】
機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	計画通り取組を実施している。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 8400

大項目	Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画
中項目	1.　予算　　2.　収支計画　　3.　資金計画
事業名	予算、収支計画、資金計画

【年度計画】
1. 予算　別紙のとおり
2. 収支計画　別紙のとおり
3. 資金計画　別紙のとおり

担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長　瀬倉信康

【実績・成果】
・別紙「予算」に記載の予算額に基づき、28年4月1日付で当初予算配分を実施し、早期執行可能な体制を整備した。
・年度内に新たに発生した法人全体又は各施設に関わる業務で緊急性且つ必要性が高いと認められた事業に関しては、理事長了解の下、予め本部で留保していた予算（理事長裁量経費）を該当施設へ速やかに予算配分することで業務遂行に支障をきたさない運営を実施した。
・人件費にかかる予算は本部一括管理とし、役員会への上程を通して機構内で情報共有することで、厳格な執行管理を実施した。
・第5回役員会（28年12月2日）において、本部で一元管理している予算の執行状況を報告し、予算を各施設へ再配分することで効率的な予算管理を実施した。
・獲得した外部資金の中には精算払のものもあり、資金繰りの悪化が予想される施設には予め資金の貸与を行うことで法人全体として効率的な資金管理を実施した。
・運営費交付金は四半期ごとの入金であるが、予め国へ四半期ごとの必要額を伝えることにより、計画的な資金管理を実施した。

【補足事項】
・人件費予算の本部一括管理に関しては、28年度から変更した。27年度までの各施設ごとの管理から本部一括管理にすることで無駄のない効率的な運用が図られた。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 概ね当初計画に沿った管理が行われている。また、年度内に起こった不測の事態や軽微な計画変更にも速やかに対応した。

【中期計画記載事項】
管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化並びに積極的な自己収入の増加に向けた取組を踏まえた予算及び収支計画による運営を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画通り取組を実施している。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9100

大項目	Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	1.　内部統制
事業名	内部統制

【年度計画】
　内部統制、リスク管理等に関する諸規程を整備し、運用する。また、内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行うとともに、各種研修を実施し、職員の意識並びに資質の向上を図る。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平

【実績・成果】
（内部統制、リスク管理等に関する諸規程の整備）
・「独立行政法人国立文化財機構中期計画等の策定及び評価に関する規程」等諸規程の整備を進めた。
（内部統制、リスク管理等に関する諸規程の運用）
・内部統制委員会を2回開催した。（10月31日、29年3月2日）
・リスク管理委員会を2回開催した。（10月31日、29年3月2日）
・洗い出したリスクの内3件について、リスク管理計画を策定した。
（内部監査及び監事監査等のモニタリング）
・内部監査を以下の日程で本部事務局及び各施設を対象に順次行った。
　会計監査　　10月11日～11月29日（全施設）
　給与簿監査　10月11日～27日（奈良国立博物館、京都国立博物館、九州国立博物館）
・保有個人情報管理監査を次の日程で行った。
　29年2月23日～24日　アジア太平洋無形文化遺産研究センター、九州国立博物館
・監事監査を以下の日程で行った。
　定期監査（業務）　6月14日
　定期監査（会計）　①月次監査　毎月　②決算時の監査　6月14日
　会計臨時監査　29年2月23日～24日　アジア太平洋無形文化遺産研究センター、九州国立博物館
（研修の実施）
・職員の啓発や能力向上による内部統制能力強化のため各種研修を実施した。（処理番号9430参照）

【補足事項】
内部統制
・「内部統制基本方針」等の内部統制に係る方針等の整備も行った。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	業務方法書に規定された、内部統制、リスク管理等に関する諸規程の整備を進めた。 運用においては、内部統制員会とリスク管理委員会を各2回開催し、内部統制とリスク管理の課題を整理し、基本方針や規程の整備を進めることができた。リスク管理委員会においては、洗い出したリスクの内3件について、リスク管理計画を策定した。 また、内部監査及び監事監査等・各種研修を積極的に実施した。

【中期計画記載事項】
　コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境や規定を整備し、運用する。また、内部監査等により定期的にそれらの整備状況・有効性をモニタリング・検証するとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、必要に応じて内部統制に関する見直しを行う。さらに、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	今中期計画内での内部統制環境や規定の整備を求められているところであるが、中期計画初年度として、体制の立ち上げや諸規程の整備について、上記のとおり十分に実施することができた。 内部監査や研修については、第2回の内部統制委員会で審議し承認された計画に従って、29年度も取り組みを行うこととする。 また、29年度以降に事業継続計画の策定を行う必要がある。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9210

中項目	2.　その他
事業名	(1) 自己評価

【年度計画】
運営委員会、外部評価委員会の開催等、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平

【実績・成果】
・平成27年度の当機構における各事業、調査研究等について自己点検評価を行い、報告書にまとめた。
・上記自己点検評価報告書は、下記外部評価委員会に提出し、外部有識者から評価をいただいた。
　外部評価委員会
　　研究所・センター調査研究等部会：5月13日
　　博物館調査研究等部会・総会：5月24日
・外部有識者の意見等を踏まえ「平成27年度自己評価書」を作成し、文部科学大臣に提出した。
・運営委員会（7月25日）を開催し、機構の管理運営の重要事項についてご意見をいただいた。また、27年度の運営委員会でいただいた意見についての、組織・事務・事業等への改善反映状況について報告を行った。

【補足事項】

運営委員会(7 月 25 日)

外部評価委員会 研究所･センター調査研究等部会（5 月 13 日）

外部評価委員会 総会（5 月 24 日）

・自己点検評価において、研究所・センターの書式の見直しを行った。また、博物館の特別展用の書式を見直し、「学術的意義」「教育普及」等の定性的な評価事項の記載欄を設け、質に関する記述を充実させることとした。
　両書式とも、28年度事業の自己点検評価から使用することとした。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	外部評価委員会等を開催し、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施した。 自己点検評価の分量が多く、職員の負担になっているので改善が必要との外部有識者の意見を踏まえ、自己点検評価の書式の見直しを行うなど、結果を組織・事務・事業等の改善に反映させることができた。

【中期計画記載事項】
外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年１回以上事業に関する自己評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画で定める「事業評価の在り方の検討」については、中期計画初年度である28年度は自己点検評価の研究所・センター事業の書式の見直しと博物館の特別展用書式の改善を行った。 また、自己評価のほか、運営委員会、外部評価委員会を開催し、自己評価の結果を組織・事務・事業等の改善に反映させることができた。 29年度以降も、事業評価の在り方について検討を進めるとともに、自己評価を引き続き実施し、事業等の改善への反映に努める。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9220

中項目	2. その他
事業名	(2) 情報セキュリティ対策

【年度計画】
情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群・ガイドライン等を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。
また、自己点検、監査を実施し、その結果に基づいて情報セキュリティ対策を改善する。

担当部課	情報システム・セキュリティ委員会	事業責任者	最高情報セキュリティ責任者(CISO)

【実績・成果】
・「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準(平成26年度版)」(26年5月19日、情報セキュリティ政策会議)を踏まえ、26～27年度にかけて見直した情報セキュリティ関係規程等を施行した。併せて見直した各施設の関連規則の改正等についても施行した。(28年4月1日施行)
・構情報システム・セキュリティ管理規程の詳細として作成した「独立行政法人国立文化財機構情報セキュリティ対策基準」の運用を開始した。(28年4月1日)
・最高情報セキュリティ責任者(CISO)を設置した。(28年4月1日)
・情報システム・セキュリティ委員会を設置した。(28年4月1日)
・独立行政法人国立文化財機構情報システム緊急対応チーム(NICH-CERT:NICH Computer Emergency Response Team)を整備した。(28年4月1日)
・「独立行政法人国立文化財機構情報セキュリティ対策基準」に基づく実施手順の整備について検討を進め、手順1件を作成した。(28年12月19日)
・標的型攻撃メール対応訓練を2回実施した。(28年11月7日、28日)
・情報セキュリティ監査は、外部機関に委託して実施した。(28年12月～29年2月)
・情報セキュリティ対策の自己点検を実施した。(29年3月依頼、5月とりまとめ予定)
・情報システム・ネットワークにおける情報セキュリティ対策については、関連規程等に基づき、政府や関係機関からの情報に注視しながら適宜必要な対策を講じた。機構内各施設における情報セキュリティ対策の実施にあたっては、NICH-CERTにて情報共有、検討を行った。
・メールシステムの機構内統合について検討を進めた。
・監査法人による監査の一環として、システム監査を実施した。(29年2月8日)

【補足事項】
・情報システム・セキュリティ委員会を2回開催した。(第1回：5月16日、第2回：12月19日)
・NICH-CERT連絡会を4回開催した。(第1回：5月16日、第2回：7月26日、第3回：9月28日、第4回：12月7日)
・情報セキュリティ監査は、28年度は新規程施行初年度にあたるため、政府統一基準への準拠性監査を実施した。その結果、重大な不備は存在しなかった。
・情報セキュリティ対策の自己点検の点検項目は、政府統一基準順守事項とした。
・耐障害性向上のため、各施設用VPNルータ予備器を設置した。(29年2～3月)
・監査法人によるシステム監査では特に指摘事項はなかった。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	(判定根拠) 計画どおり、情報セキュリティをとりまく社会情勢の変化とそれに伴う政府からの要請に応じ、情報システム・情報セキュリティを管理運用するための体制を構築できた。関係規程等に基づき必要な情報セキュリティ対策を実施しながら、新体制初年度として実施手順等の整備・検討を進めた。

【中期計画記載事項】
情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。
また、自己点検、監査を通じて情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し、その結果に基づいて改善する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	(判定根拠) 中期計画どおり、政府統一基準を踏まえた見直しを行い、体制を強化した。特に中期計画初年度として、情報セキュリティ関係規程等の施行、CISO、情報システム・セキュリティ委員会、NICH-CERTを設置して、体制を新たにした。情報セキュリティ対策は、適切に実施した。 (課題と対応) 政府統一基準が26年度版から28年度版へ変更され、機構においても規程等の改正検討を要する。また、社会情勢として情報セキュリティに関する危機とその対応業務が激増しており、体制と人員について継続的な検討を要する。

【書式A】　　施設名　本部事務局　　処理番号　9300

中項目	3.　施設設備に関する計画
事業名	施設設備に関する計画

【年度計画】

別紙のとおり施設設備に関する計画に沿った整備を推進する。

（別紙）　　施設設備に関する計画（単位：百万円）

施設設備の内容	予　定　額	財　　源
・東京国立博物館 仮収蔵庫等整備及び本館リニューアル工事 （平成 28 年度～32 年度） 柳瀬荘黄林閣屋根茅葺工事　（28 年度）	1,057 1,012 45	施設整備費補助金
・京都国立博物館 本館収蔵庫等改修及び本館免震改修等工事 （平成 28 年度～32 年度）	248 248	施設整備費補助金
・奈良文化財研究所 本庁舎建替工事　（平成 28 年度～29 年度）	30 30	施設整備費補助金

担当部課	本部事務局　環境整備課	事業責任者	課長　若林　賢一

【実績・成果】

（東京国立博物館）

・28年度当初予算より、仮設収蔵庫建設に伴う建物設計(10月完了)を行い、建設用地の埋蔵文化財発掘調査を実施(29年3月完了)し、完了後の29年度第一四半期より建物本体工事を開始する。

・柳瀬荘黄林閣(重要文化財)の茅葺屋根の部分葺き替え改修を実施(29年2月完了)

（京都国立博物館）

・東収蔵庫の減築整備を実施中。(30年3月31日完了予定)

・文化財保存修理所燻蒸設備更新のため既存燻蒸設撤去工事を実施した。(29年3月完了)

・文化財保存修理所燻蒸設備更新の設計、更新の実施。(30年3月完了予定)

（奈良国立博物館）

○なら仏像館の観覧環境及び展示機能充実のため、内装、照明・空調設備及び展示ケース・展示台を更新した。展示ケース及び展示台は今後起こりうる地震に対応すべく免震機能を有するものとしている。(27度予算を繰り越し、28年4月末に竣工)

（奈良文化財研究所）

・新庁舎建設工事の変更契約を28年5月に行い着工した。(30年3月完了予定)

【補足事項】

（東京国立博物館）

・平成29年度本館改修に先立ち老朽状況、整備配管ルート等の調査を館内予算にて実施する予定。

（京都国立博物館）

・東収蔵庫の減築整備の準備工事を実施。文化財保存修理所燻蒸設備更新の設計を実施中。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	・予算確保は概ね達成されているが、整備スケジュールの遅滞や執行体制の整備が不十分であることから、B判定。

【中期計画記載事項】

施設設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙 4 のとおりの計画に沿った整備を推進する。

（別紙 4）　　施設設備に関する計画（単位：百万円）

施設設備の内容	予　定　額	財　　源
・東京国立博物館 仮収蔵庫等整備及び本館リニューアル工事 （平成 28 年度～32 年度） 柳瀬荘黄林閣屋根茅葺工事　（28 年度）	18,657 18,612 45	施設整備費補助金
・京都国立博物館 本館収蔵庫等改修及び本館免震改修等工事 （平成 28 年度～32 年度） 文化財保存修理所燻蒸設備の更新	4,352 4,266 86	施設整備費補助金
・奈良文化財研究所 本庁舎建替工事　（平成 28 年度～29 年度）	1,530 1,530	施設整備費補助金

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	・予算確保は概ね達成されているが、整備スケジュールの遅滞や執行体制の整備が不十分であることから、B判定。 　また、今後の施設整備課題と予算確保の不一致等の諸課題について、中長期的な視野に基づいた一層の取り組みが必要である。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9410

中項目	4.　人事に関する計画
事業名	(1) 中長期的な人事計画の策定 (2) 評価制度の導入

【年度計画】
(1) 中長期的な人事計画を策定する。その際、理事長の裁量によって、一定数の職員を配置できる仕組みを検討する。
(2) 職員の能力向上と組織のパフォーマンス向上を目的とした評価制度を導入する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平

【実績・成果】
(1) 中長期的な人事計画の策定
・人事選考委員会において、研究職員の人事の在り方（採用、施設間異動、他機関への異動、女性職員の幹部登用）について検討した。
・事務系職員の人事について、各施設の副館長等にヒアリングを行った。

(2) 評価制度の導入
・26年度から職員の能力や業績等をより適切に評価できるように、新たな評価制度の検討を開始した。
・28年度においては、27年度に引き続き、新評価制度導入に向けたスケジュール案、導入目的、評価対象、評価方法、評価結果の活用等の制度構築を検討し、諸会議での意見交換を行った。

【補足事項】
(2) 評価制度の導入
・評価対象者及び評価者に対する研修等を実施し、29年10月から施行を行う予定である。
・評価制度の概要は以下のとおりである
　○目的は、職員一人一人の主体的な能力開発、計画的な人材育成、組織の成長・発展に繋がることを目的とする。
　○評価対象者は、研究職員を含む常勤職員とする。
　○業績（結果）評価のみ行う。職務行動（業績の過程）評価は行わず、職員の行動指針という位置付けとする。
　○評価期間は4月から翌年3月までとし、4月から9月を前期、10月から翌年3月を後期とし、それぞれ評価・面談を実施する。
　○目標管理型の評価制度とし、評価対象者と評価者の面談や評価結果のフィードバックを制度化する。
　○評価結果については、主に人材育成に活用し、職員個人の成長、組織の発展に繋げる。なお、給与等の査定に活用はするが、直結させるものではない。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中長期的な人事計画の策定については、人事選考委員会における議論やヒアリングを踏まえ検討を開始した。29年度も引き続き検討を行う。 評価制度については、制度の概要、実施までのスケジュール等を定めた。今後は、評価者研修などを通じて評価の目的等の理解を図るとともに、個人と組織の成長・発展に繋げられる形骸化しない制度とすることが課題である。

【中期計画記載事項】
(1) 方針
①中長期的な人事計画等を策定し、理事長の裁量によって一定数の職員を配置できる仕組を導入する。(略)

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	引き続き、中長期的な人事計画を策定について検討していく。 評価制度については、制度の概要、実施までのスケジュール等を定めた。今後は、評価者研修などを通じて評価の目的等の理解を図るとともに、個人と組織の成長・発展に繋げられる形骸化しない制度とすることが課題である。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9420

中項目	4.　人事に関する計画
事業名	(3) 能力や適性に応じた採用・人事の実施 (4) 女性の活躍の推進

【年度計画】
(3) 性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を行う。
(4) 女性の活躍を推進し、制度改正を含めた就業環境の整備及び教育・研修を実施する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平

【実績・成果】
(3) 能力や適性に応じた採用・人事の実施
・19年度から人事交流または国立大学法人等職員採用試験に頼らず、機構が独自に採用できる制度を導入している。当制度を活用し28年度においては、事務職員2名の採用の他、技能・労務職員3名の採用を行った。
・20年度から常勤の研究職員に準じた人事制度（アソシエイトフェロー制度）を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う者又は専門的知識を有する者を採用することが可能となった。28年度は、当該制度を利用し、東京国立博物館で6名、京都国立博物館で2名、東京文化財研究所で7名、奈良文化財研究所で9名、アジア太平洋無形文化遺産研究センターで4名の計28名を採用した。
・以上より28年度の機構独自の作用人数は、事務職員4名、技能・労務職員3名、アソシエイトフェロー28名の計35名となった。

(4) 女性の活躍の推進
・育児・介護休業法及び男女雇用機会均等法の改正に伴い、機構における関係規程を改正した。
・人事担当理事名にて全職員あてに、ハラスメントの防止にかかる注意喚起の通知を行った。
・人事選考委員会において、人事担当理事よりハラスメントの防止にかかる注意喚起を行った。
・人事選考委員会において、女性の研究職員にかかる活躍推進について検討した。
・7月21日に、ハラスメント防止を目的とした研修を開催し、外部講師による専門的見地からのアドバイスによりハラスメントに対する理解を深め、発生防止に向けた意識の向上を図った。

【補足事項】

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	今年度の採用については、採用や人事を行うにあたっては、性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じて行っている。 女性の活躍の推進については、28年度に実施したハラスメント防止の注意喚起、研修等を、引き続き実施する。

【中期計画記載事項】
(1) 方針
②性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力、適性に応じた採用及び人事配置を行い、職員の多様な働き方を促進する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	引き続き、性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力、適性に応じた採用及び人事配置を行う。 女性の活躍の推進については、引き続き、就業環境の整備及び教育・研修を実施する。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9430

中項目	4.　人事に関する計画
事業名	(5) 研修及び人事交流等の検討

【年度計画】
グローバル化、多様化に対応するため、研修及び人事交流等の検討を進める。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平

【実績・成果】
・機構職員としての資質向上を図るため、新任職員やその他の職員を対象とした各種研修を行った。
・また、試行ではあるが、本部・東京国立博物館を対象に英会話研修を実施した。
・その他、他機関等外部研修の機会を利用して、職員の職務遂行能力の発展に寄与した。

研修名称	日程	受講対象者	受講者数
＜階層別＞			
新任職員研修会	7月20日～22日	27年度以降の新任職員等	45名
＜分野別＞			
研究倫理教育研修（e-ラーニング等）	8月8日～9月9日他（各施設で実施）	研究者番号を持つ研究員、事務担当者等	約300名
施設系職員研修会	29年1月26日～27日	機構内の施設系職員	13名
会計事務研修会	29年2月2日～3日	機構内の会計系職員	27名
＜能力開発＞			
産業医による講習会	7月14日	27年度以降の新任職員等、本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所職員及び近隣独立行政法人職員	約80名
ハラスメント防止に関する研修	7月21日	27年度以降の新任職員等、ハラスメント防止等委員会委員及び相談員等	約80名
情報セキュリティ研修	7月21日	27年度以降の新任職員等、本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所職員及び近隣独立行政法人職員	45名
接遇研修	7月22日	27年度以降の新任職員等	45名
コンプライアンス教育研修（科研費説明会と併せて実施）	9月27日他（各施設で実施）	研究者番号を持つ研究員、事務担当者等	約260名

・事務系職員、研究系職員とも、各施設間における人事異動を行った。また、事務系職員は、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学、滋賀医科大学、東京都台東区、文化庁と人事交流を行っている。

【補足事項】
・新任職員及び人事交流者に対しては、機構職員としての必要な業務・組織等についての基礎的知識及び業務要領を修得させることで、資質の向上を図り、お客様からの苦情への対応方法等を業務に反映させることに繋げている。
・ハラスメント防止を目的とした研修を開催し、外部講師による専門的見地からのアドバイスによりハラスメントに対する理解を深め、発生防止に向けた意識の向上を図った。

【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
研修機会の提供	－	－	－		6	5	7	13

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	・対象者を限定したものを含めて、機構全体の研修プログラムを9件実施した。階層別研修等の拡充について引き続き検討が必要である。 ・他機関との人事交流により、優秀かつ多様な人材の確保を実施した。また、機構内における配置転換等により人事を活性化し中堅職員や幹部職員候補の育成を図ることができた。引き続き人事交流とともにプロパー職員の採用・人材の育成を計画的に実施していく。

【中期計画記載事項】
(1) 方針
④職員のキャリアパスの形成に寄与するために、研修・人事交流等を多角的に企画・立案する。特にグローバル化・多様化する社会に対応できる人材の育成を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	他機関との人事交流により、優秀かつ多様な人材の確保を実施した。また、機構内における配置転換等により人事を活性化し中堅職員や幹部職員候補の育成を図ることができた。引き続き、研修・人事交流等を多角的に企画・立案する。

Ⅲ　施設概要

【東京国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	１２０，２７０（黒田記念館、柳瀬荘含む）		
建物	建築面積		２２，４３８
	延面積		７２，２２２
展示館	展示面積	計	１８，１９９
	収蔵庫面積	計	７，８３６
	本館	建	６，６０２
		延	２２，４１６
		展示面積	６，５７３
		収蔵庫面積	４，０２８
	東洋館	建	２，８９２
		延	１２，５３１
		展示面積	４，２５０
		収蔵庫面積	１，３７３
	平成館	建	５，５４２
		延	１９，４０６
		展示面積	４，４７１
		収蔵庫面積	２，１１９
	法隆寺宝物館	建	１，９３５
		延	４，０３１
		展示面積	１，４６２
		収蔵庫面積	２９１
	表慶館	建	１，１３０
	※休館中	延	２，０７７
		展示面積	１，１７９
		収蔵庫面積	－
	黒田記念館	建	７２４
		延	１，９９６
		展示面積	２６４
		収蔵庫面積	２５
	その他	建	３，６１３
		延	９，７６５

【京都国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	５３，１８２		
建物	建築面積		１３，５１７
	延面積		３１，８２８
展示館	展示面積	計	５，６５７
	収蔵庫面積	計	５，４２１
	平成知新館(新平常展示館)	建	５，５６８
		延	１７，９９７
		展示面積	３，５８７
		収蔵庫面積	２，７１０
	明治古都館(特別展示館)	建	３，０１５
		延	３，０１５
		展示面積	２，０７０
		収蔵庫面積	８０３
	旧管理棟	建	５９０
		延	１，９５４
	資料棟	建	４１４
		延	１，１２５
	文化財保存修理所	建	７２８
		延	２，８５６
	技術資料参考館	建	１０１
		延	３０４
	東収蔵庫	建	１，０８４
		延	１，９９６
		収蔵庫面積	１，４１２
	北収蔵庫	建	３１０
		延	６８２
		収蔵庫面積	４９６
	その他	建	１，７０７
		延	１，８９９

【奈良国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	７８，７６０		
建物	建築面積		６，７６９
	延面積		１９，１１６
展示館	展示面積	計	４，０７９
	収蔵庫面積	計	１，５５８
	なら仏像館(本館)	建	１，５１２
		延	１，５１２
		展示面積	１，２６１
	青銅器館(本館付属棟)	建	３４１
		延	６６４
		展示面積	４７０
	東新館	建	１，８２５
		延	６，３８９
		展示面積	８７５
		収蔵庫面積	１，３９４
	西新館	建	１，６４９
		延	５，３９６
		展示面積	１，４７３
	仏教美術資料研究センター	建	７１８
		延	７１８
	文化財保存修理所	建	３１９
		延	１，０３６
	地下回廊	延	２，１５２
		収蔵庫面積	１６４
	その他	建	４０５
		延	１，２４９

【九州国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	１６６，４７７		
			（法人　１０，７９８ 県　１５５，６７９）
建物	建築面積		１４，６２３
	延面積		３０，６７５
			（法人　９，３００ 県　５，７８０ 共用　１５，５９５）
展示館	展示面積	計	５，４４４
			（法人　３，８４４ 県　１，３７５ 共用　２２５）
	収蔵庫面積	計	４，５１８
			（法人　２，７４４ 県　１，３３５ 共用　４３９）

【東京文化財研究所】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	４，１８１	
建物	建築面積	２，２５８
	延面積	１０，５１６

【奈良文化財研究所】

土地・建物　　(㎡)

	土地面積	建物	
本館地区	８，８６０	建築面積 延面積	現在、建替中
平城宮跡資料館地区	（文化庁所属の国有地を無償使用）	建築面 延面積	１３，３２８ ２１，３９５
都城発掘調査部 （飛鳥・藤原地区）	２０，５１５	建築面積 延面積	６，０１６ ９，４７７
飛鳥資料館地区	１７，０９３	建築面積 延面積	２，６５７ ４，４０４

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

土地・建物　　(㎡)

建物	建築面積 延面積	２４４．６７ ２４４．６７
総室数		４室

※建物は大阪府堺市より借用。

Ⅳ　財務諸表

平成２８年度

（第 10 期事業年度）

財　務　諸　表

独立行政法人国立文化財機構

目　　次

１．貸借対照表

２．損益計算書

３．キャッシュ・フロー計算書

４．行政サービス実施コスト計算書

５．利益の処分に関する書類

６．注記事項（重要な会計方針等）

７．附属明細書

貸 借 対 照 表

平成29年3月31日現在

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

科目	金額		科目	金額	
（資産の部）			（負債の部）		
Ⅰ 流動資産			Ⅰ 流動負債		
現金及び預金		3,162,135,383	運営費交付金債務		366,803,210
たな卸資産		41,584,311	預り寄附金		1,435,797,231
立替金		30,577,757	未払金		2,948,332,475
前払費用		5,447,475	未払費用		69,789,530
未収金		2,116,901,299	前受金		2,663,450
その他の流動資産		6,222,975	預り金		180,729,720
流動資産合計		5,362,869,200	その他の流動負債		1,269,250
			流動負債合計		5,005,384,866
Ⅱ 固定資産			Ⅱ 固定負債		
1有形固定資産			資産見返負債		
建物	87,285,680,443		資産見返運営費交付金	2,725,411,679	
減価償却累計額	−35,161,392,219	52,124,288,224	資産見返寄附金	137,037,920	
構築物	4,093,400,527		資産見返物品受贈額	25,355,022	
減価償却累計額	−2,524,442,044	1,568,958,483	資産見返その他補助金	97,887,846	
機械・装置	700,849,030		建設仮勘定見返運営費交付金	25,776,594	
減価償却累計額	−332,593,531	368,255,499	建設仮勘定見返施設費	3,503,557,026	
車両運搬具	66,187,246		資産見返負債合計	6,515,026,087	
減価償却累計額	−54,729,046	11,458,200	引当金		
工具器具備品	7,697,881,233		退職給付引当金	2,822,574	
減価償却累計額	−5,558,798,519	2,139,082,714	その他の固定負債		
収蔵品		113,376,744,633	長期未払金	26,824,503	
土地		44,410,675,104	固定負債合計		6,544,673,164
建設仮勘定		3,528,675,720	負債合計		11,550,058,030
有形固定資産合計		217,528,138,577			
			（純資産の部）		
2無形固定資産			Ⅰ 資本金		
ソフトウエア		96,543,524	政府出資金		104,713,813,740
電話加入権		4,233,600	資本金合計		104,713,813,740
その他の無形固定資産		2,541,523			
無形固定資産合計		103,318,647	Ⅱ 資本剰余金		
			資本剰余金		144,365,982,612
3投資その他の資産			損益外減価償却累計額（−）		−38,425,596,556
保証金		180,000	損益外減損損失累計額（−）		−3,376,800
投資その他の資産合計		180,000	資本剰余金合計		105,937,009,256
固定資産合計		217,631,637,224			
			Ⅲ 利益剰余金		
			前中期目標期間繰越積立金		629,212,850
			当期未処分利益		164,412,548
			（うち当期総利益164,412,548円）		
			利益剰余金合計		793,625,398
			純資産合計		211,444,448,394
資産合計		222,994,506,424	負債純資産合計		222,994,506,424

（注）運営費交付金から充当されるべき退職給付の見積額は1,934,285,513円であります。

（注）当期の運営費交付金による財源措置が手当されない賞与の見積額は225,859,050円であります。

損益計算書

（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

経常費用			
業務費			
人件費		3,369,035,376	
業務経費			
収集保管業務費	376,443,836		
展覧業務費	1,830,752,659		
教育普及業務費	77,894,589		
博物館研究業務費	242,330,556		
博物館支援業務費	118,591,789		
基礎研究業務費	321,984,029		
応用研究業務費	116,573,513		
国際遺産保護業務費	88,192,192		
情報公開業務費	249,017,179		
研修協力業務費	86,438,250		
受託業務費	651,928,138	4,160,146,730	
減価償却費		622,521,993	8,151,704,099
一般管理費			
人件費	946,557,930		
一般管理経費	975,847,116		
減価償却費	84,198,991	2,006,604,037	
財務費用		1,874,726	
雑損		909,976	2,009,388,739
経常費用合計			10,161,092,838
経常収益			
運営費交付金収益		6,419,042,445	
受託収入			
政府関係・地方自治体受託収入	646,782,584		
その他受託収入	12,258,150	659,040,734	
入場料収入		909,297,791	
展示事業等附帯収入		505,376,830	
財産利用収入		285,547,094	
寄附金収益		299,299,774	
施設費収益		284,994,564	
その他補助金収益		181,611,829	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金戻入	626,052,351		
資産見返寄附金戻入	30,812,972		
資産見返物品受贈額戻入	1,860,023		
資産見返その他補助金戻入	18,794,669		
建仮見返施設費戻入	31,995,290	709,515,305	
財務収益			
受取利息		899,141	
雑益		15,464,559	
経常収益合計			10,270,090,066
経常利益			108,997,228
臨時損失			
固定資産除却損			5,107,409
			5,107,409
臨時利益			
資産見返運営費交付金戻入			1,162,118
資産見返寄附金戻入			3,945,291
			5,107,409
当期純利益			108,997,228
前中期目標期間繰越積立金取崩額			55,415,320
当期総利益			164,412,548

（注）ファイナンス・リース取引が損益に与える影響額は852,133円であり、当該損益を除いた当期総利益は165,264,681円であります。

キャッシュ・フロー計算書

（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　業務活動によるキャッシュ・フロー	
人件費支出	−4,352,411,369
業務支出	−5,028,370,601
科学研究費支出	−280,339,097
消費税等支払額	−235,124,500
運営費交付金収入	8,387,941,000
科学研究費収入	285,070,518
展示事業等収入	1,370,872,710
財産利用収入	281,800,101
受託収入	652,392,326
寄附金収入	753,811,841
その他補助金による収入	184,002,720
その他の業務収入	2,463,410
小計	2,022,109,059
利息の受取額	593
利息の支払額	−1,727,043
国庫納付金の支払額	−369,160,465
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,651,222,144
Ⅱ　投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金預入による支出	−432,725,297
有形固定資産の取得による支出	−3,285,735,445
無形固定資産の取得による支出	−41,449,240
施設費による収入	1,190,375,460
その他投資活動による収入	140,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	−2,569,394,522
Ⅲ　財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の支払による支出	−26,829,204
財務活動によるキャッシュ・フロー	−26,829,204
Ⅳ　資金減少額	−945,001,582
Ⅴ　資金期首残高	3,674,411,668
Ⅵ　資金期末残高	2,729,410,086

（注記事項）

（1）資金の期末残高の貸借対照表科目の内訳

現金及び預金勘定		3,162,135,383 円
うち定期預金（控除）		432,725,297
資金期末残高		2,729,410,086

（2）重要な非資金取引

①現物寄附の受入

収蔵品		716,172,442
工具器具備品		26,077,896
	合計	742,250,338

②ファイナンス・リースによる資産取得　33,151,137

行政サービス実施コスト計算書

（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　業務費用		
損益計算書上の費用		
業務費	8,151,704,099	
一般管理費	2,006,604,037	
財務費用	1,874,726	
雑損	909,976	
臨時損失	5,107,409	10,166,200,247
（控除）		
受託収入	−659,040,734	
入場料収入	−909,297,791	
展示事業附帯収入	−423,463,008	
財産利用収入	−285,547,094	
寄附金収益	−299,299,774	
財務収益	−899,141	
雑益	−15,464,559	
資産見返寄附金戻入	−34,758,263	−2,627,770,364
Ⅱ　損益外減価償却相当額		3,329,629,959
Ⅲ　損益外除売却差額相当額		9,768,588
Ⅳ　引当外賞与見積額		5,498,513
Ⅴ　引当外退職給付増加見積額		−76,902,080
Ⅵ　機会費用		
国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用	139,450,486	
政府出資等の機会費用	129,592,699	269,043,185
Ⅶ　行政サービス実施コスト		11,075,468,048

（注記）

・引当外退職給付増加見積額には、国からの出向職員にかかる者が12名、8,739,030円が含まれております。

・国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用については、国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和33年1月7日付大蔵省管財局長通知蔵管第1号）及び堺市行政財産の目的外使用に関する条例（昭和39年5月29日付条例第36号）により計算しております。

・政府出資等の機会費用の計算利率については、10年もの長期国債の平成29年3月末利回りを参考に0.065％としております。

利益の処分に関する書類

独立行政法人国立文化財機構　　（単位:円）

Ⅰ　当期未処分利益		164,412,548
当期総利益	164,412,548	
Ⅱ　利益処分額		
積立金	106,881,115	
独立行政法人通則法		
第44条第3項により		
主務大臣の承認を受けた額		
業務拡充積立金	57,531,433	164,412,548

注記事項

Ⅰ．重要な会計方針

１．運営費交付金収益の計上基準

人件費のうちの役員給与、管理部門の職員給与、法定福利費並びに管理部門の経費（特に指定するものを除く）、減価償却費及び財務費用については、業務の実施が運営費交付金と期間的に対応しているため期間進行基準（一定の期間の経過を業務の進行とみなし、運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

人件費のうちの退職手当並びに事業部門の職員給与、法定福利費並びに事業部門の経費及び管理部門の経費のうち特に指定するものについては、業務達成基準（当該業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

その他計画外の発生費用については、費用進行基準（発生費用の額を限度として運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

（重要な会計方針の変更）

運営費交付金収益の計上基準については、前事業年度まで改訂前の「独立行政法人会計基準」第８１（注解 60）に基づく業務達成基準を採用しておりましたが、独立行政法人会計基準等の改訂に伴い、当事業年度より、改訂後の第８１（注解 60、注解 61）に基づく業務達成基準を採用しております。なお、業務の進行状況と運営費交付金の対応関係が明確である活動を除く管理部門の活動については期間進行基準を採用しております。

これにより、経常利益、当期純利益、行政サービス実施コストに与える影響はありません。

２．減価償却の会計処理方法

（１）有形固定資産（リース資産を除く）

定額法により行っております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物	２年～５８年
構築物	２年～６３年
機械・装置	２年～１７年
車両運搬具	２年～　７年
工具器具備品	２年～２０年

また、特定の償却資産（独立行政法人会計基準第８７）の減価償却相当額については、損益外減価償却累計額として資本剰余金を減額しております。

（２）無形固定資産（リース資産を除く）

定額法により行っております。なお、機構内利用のソフトウエアについては、機構内における利用可能期間（５年）に基づいております。

（３）リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

３．賞与に係る引当金及び見積額の計上方法

役職員の賞与については運営費交付金により財源措置がなされるため、賞与に係る引当金は計上しておりません。

また、行政サービス実施コスト計算書における引当外賞与見積額は、当事業年度の引当外賞与見積額から前事業年度の同見積額を控除した額を計上しております。

４．退職給付に係る引当金及び見積額の計上方法

運営費交付金による財源措置のない有期雇用職員（アソシエイトフェロー）の退職給付に備えるため、当事業年度末に係る自己都合要支給額を計上しております。

その他の役職員の退職給付については、運営費交付金により財源措置がなされるため、退職給付に係る引当金は計上しておりません。

また、行政サービス実施コスト計算書における引当外退職給付増加見積額は、会計基準第３８に基づき計算された退職一時金に係る退職給付引当金（期末自己都合要支給額）の当期増加額に基づき計上しております。

５．たな卸資産の評価基準及び評価方法

（１）貯蔵品等･･･最終仕入原価法を採用しております。

（２）未成受託研究支出金･･･個別法による低価法を採用しております。

６．収蔵品の評価方法

国からの承継分については、承継時の物品目録上の価額をもって評価しており、新規取得分については取得時の価額をもって評価しております。

７．行政サービス実施コスト計算書における機会費用の計上方法

（１）国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用の計算方法

国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和３３年１月７日付大蔵省管財局長通知蔵管第１号）及び堺市行政財産の目的外使用に関する条例（昭和３９年５月２９日付条例第３６号）により計算しております。

（２）政府出資等の機会費用の計算に使用した利率

１０年利付国債の平成２９年３月末利回りを参考にして０．０６５％で計算しております。

８．消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

（表示方法の変更）

損益計算書の業務経費の区分について、前事業年度までは独立行政法人国立文化財機構法の業務の範囲及び業務方法書に沿った、調査研究業務費、情報公開業務費、研修業務費、国際研究協力業務費、展示出版業務費、展覧業務費、教育普及業務費、受託業務費に区分しておりましたが、当事業年度より中期目標及び中期計画の業務区分との対応関係をより明確にするため、収集保管業務費、展覧業務費、教育普及業務費、博物館研究業務費、博物館支援業務費、基礎研究業務費、応用研究業務費、国際遺産保護業務費、情報公開業務費、研修協力業務費、受託業務費の区分に変更しております。

なお、当事業年度の業務経費を変更前の区分に組替えた場合の各数値は、調査研究業務費 1,236 百万円、情報公開業務費 130 百万円、研修業務費 29 百万円、国際研究協力業務費 71 百万円、展示出版業務費 98 百万円、展覧業務費 1,861 百万円、教育普及業務費 77 百万円、受託業務費 651 百万円であります。

Ⅱ．固定資産の減損

該当なし

Ⅲ．重要な債務負担行為

京都国立博物館本館収蔵庫改修工事	143,035,200 円
奈良文化財研究所本庁舎建替工事	1,511,671,964 円
合　　計	1,654,707,164 円

Ⅳ．金融商品関係

１．金融商品の状況に関する事項

当機構は、資金運用については短期的な預金に限定しております。また、活動資金は事業収入及び運営費交付金等によりまかなっているため、資金調達はありません。

２．金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：円）

	貸借対照表計上額	時　　価	差　　額
(1)現金及び預金	3,162,135,383	3,162,135,383	―
(2)未収金	2,116,901,299	2,116,901,299	―
(3)未払金	(2,948,332,475)	(2,948,332,475)	―

（注１）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券等に関する事項

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注２）負債に計上されているものは、（　）で示しております。

Ⅴ．賃貸等不動産関係

当機構は、東京都その他の地域において、賃貸等不動産を保有しておりますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

Ⅵ．資産除去債務関係

石綿（アスベスト）関係

当機構では、石綿関連法令により使用等が規制されている石綿が、奈良文化財研究所収蔵庫３棟の天井材、東京国立博物館黒田記念館の床材に使用されております。

これらの石綿は全て封じ込め済みであり、建物の解体時に石綿の除去義務が発生しますが当該資産の具体的な解体計画はなく、今後も、現状のまま継続的に使用する予定であります。加えて計画策定には国による認可及び予算措置が必要であり機構単独の意思決定ではなし得ない状況にあるため、資産除去債務を合理的に見積ることができません。このため、貸借対照表に資産除去債務を計上しておりません。

Ⅶ. 退職給付に係る注記

１．採用している退職給付制度の概要

当機構では、運営費交付金による財源措置のない有期雇用職員（アソシエイトフェロー）の退職給付に充てるため、非積立型の退職一時金制度を採用しております。当該制度では、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しており、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

２．確定給付制度

（１）簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

（単位：円）

区　　分	平成28年4月1日～29年3月31日
期首における退職給付引当金	6,916,414
退職給付費用	4,627,084
退職給付の支払額	△8,720,924
期末における退職給付引当金	2,822,574

（２）退職給付に関連する損益

（単位：円）

区　　分	平成28年4月1日～29年3月31日
簡便法で計算した退職給付費用	4,627,084

附　属　明　細　書

第10期

自：平成28年 4月 1日
至：平成29年 3月31日

独立行政法人　国立文化財機構

第10期　附属明細書

自：平成28年 4月 1日
至：平成29年 3月31日

１．　固定資産の取得、処分、減価償却費（「第８７ 特定の償却資産の減価に係る会計処理」及び「第９１ 資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。）及び減損損失累計額の明細

２．　たな卸資産の明細

３．　有価証券の明細

４．　長期貸付金の明細

５．　長期借入金及び債券の明細

６．　引当金の明細

７．　退職給付引当金の明細

８．　資産除去債務の明細

９．　法令に基づく引当金等の明細

１０．　保証債務の明細

１１．　資本金及び資本剰余金の明細

１２．　積立金の明細

１３．　目的積立金の取崩しの明細

１４．　運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

１５．　運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

１６．　科学研究費補助金の明細

１７．　役員及び職員の給与の明細

１８．　セグメント情報

１９．　主な資産、負債、費用及び収益の明細

1. 固定資産の取得、処分、減価償却費(「第87 特定の償却資産の減価に係る会計処理」及び「第91 資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。)及び減損損失累計額の明細

(単位:円)

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額			差引当期末残高	摘要
							当期償却額		当期損益内	当期損益外		
有形固定資産(償却費損益内)	建物	2,576,206,410	176,845,735	0	2,753,052,145	1,398,506,146	130,303,543	0	0	0	1,354,545,999	
	構築物	150,141,329	2,039,040	0	152,180,369	94,766,393	11,509,830	0	0	0	57,413,976	
	機械・装置	45,908,382	0	0	45,908,382	12,610,452	3,334,093	0	0	0	33,297,930	
	車両運搬具	54,858,291	4,429,968	0	59,288,259	47,830,071	4,961,211	0	0	0	11,458,188	
	工具器具備品	4,993,805,803	200,134,375	38,580,362	5,155,359,816	3,655,246,518	518,057,984	0	0	0	1,500,113,298	
	計	7,820,920,215	383,449,118	38,580,362	8,165,788,971	5,208,959,580	668,166,661	0	0	0	2,956,829,391	
有形固定資産(償却費損益外)	建物	83,507,466,568	1,047,367,510	22,205,780	84,532,628,298	33,762,886,073	2,983,338,559	0	0	0	50,769,742,225	
	構築物	3,941,220,158	0	0	3,941,220,158	2,429,675,651	125,930,182	0	0	0	1,511,544,507	
	機械・装置	654,940,648	0	0	654,940,648	319,983,079	68,241,237	0	0	0	334,957,569	
	車両運搬具	6,898,987	0	0	6,898,987	6,898,975	45,218	0	0	0	12	
	工具器具備品	2,430,030,327	0	3,266,378	2,426,763,949	1,903,552,001	152,074,763	0	0	0	523,211,948	
	計	90,540,556,688	1,047,367,510	25,472,158	91,562,452,040	38,422,995,779	3,329,629,959	0	0	0	53,139,456,261	
非償却資産	工具器具備品	111,436,667	4,320,801	0	115,757,468	0	0	0	0	0	115,757,468	
	収蔵品	111,168,696,191	2,208,062,442	14,000	113,376,744,633	0	0	0	0	0	113,376,744,633	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	2,425,853,424	2,301,795,096	1,198,972,800	3,528,675,720	0	0	0	0	0	3,528,675,720	(注)
	計	158,116,661,386	4,514,178,339	1,198,986,800	161,431,852,925	0	0	0	0	0	161,431,852,925	
有形固定資産合計	建物	86,083,672,978	1,224,213,245	22,205,780	87,285,680,443	35,161,392,219	3,113,642,102	0	0	0	52,124,288,224	
	構築物	4,091,361,487	2,039,040	0	4,093,400,527	2,524,442,044	137,440,012	0	0	0	1,568,958,483	
	機械・装置	700,849,030	0	0	700,849,030	332,593,531	71,575,330	0	0	0	368,255,499	
	車両運搬具	61,757,278	4,429,968	0	66,187,246	54,729,046	5,006,429	0	0	0	11,458,200	
	工具器具備品	7,535,272,797	204,455,176	41,846,740	7,697,881,233	5,558,798,519	670,132,747	0	0	0	2,139,082,714	
	収蔵品	111,168,696,191	2,208,062,442	14,000	113,376,744,633	0	0	0	0	0	113,376,744,633	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	2,425,853,424	2,301,795,096	1,198,972,800	3,528,675,720	0	0	0	0	0	3,528,675,720	
	計	256,478,138,289	5,944,994,967	1,263,039,320	261,160,093,936	43,631,955,359	3,997,796,620	0	0	0	217,528,138,577	
無形固定資産(償却費損益内)	ソフトウエア	514,211,346	11,630,520	0	525,841,866	429,298,342	38,554,323	0	0	0	96,543,524	
	計	514,211,346	11,630,520	0	525,841,866	429,298,342	38,554,323	0	0	0	96,543,524	
無形固定資産(償却費損益外)	ソフトウエア	2,600,777	0	0	2,600,777	2,600,777	0	0	0	0	0	
	計	2,600,777	0	0	2,600,777	2,600,777	0	0	0	0	0	
無形固定資産(非償却)	電話加入権	7,610,400	0	0	7,610,400	0	0	3,376,800	0	0	4,233,600	
	特許権仮勘定	628,200	29,700	0	657,900	0	0	0	0	0	657,900	
	その他無形固定資産	1,008,823	874,800	0	1,883,623	0	0	0	0	0	1,883,623	
	計	9,247,423	904,500	0	10,151,923	0	0	3,376,800	0	0	6,775,123	
無形固定資産合計	ソフトウエア	516,812,123	11,630,520	0	528,442,643	431,899,119	38,554,323	0	0	0	96,543,524	
	電話加入権	7,610,400	0	0	7,610,400	0	0	3,376,800	0	0	4,233,600	
	特許権仮勘定	628,200	29,700	0	657,900	0	0	0	0	0	657,900	
	その他無形固定資産	1,008,823	874,800	0	1,883,623	0	0	0	0	0	1,883,623	
	計	526,059,546	12,535,020	0	538,594,566	431,899,119	38,554,323	3,376,800	0	0	103,318,647	
投資その他の資産	保証金	320,000	0	140,000	180,000	0	0	0	0	0	180,000	
	計	320,000	0	140,000	180,000	0	0	0	0	0	180,000	

(注)当期増加額のうち103,140,000円は東京国立博物館仮設収蔵庫等整備工事によるもの、46,828,800円は京都国立博物館本館収蔵庫改修等工事によるもの、649,306,800円は奈良国立博物館なら仏像館免震展示ケース等整備工事によるもの、91,800,000円は奈良国立博物館X線室改修その他工事によるもの、1,410,719,496円は奈良文化財研究所本庁舎建替工事によるものであります。

2. たな卸資産の明細

（単位:円）

種　類	期首残高	当期増加額		当期減少額		期末残高	摘　要
		当期購入・製造・振替	その他	払出・振替	その他		
貯蔵品等	35,437,316	27,153,550	0	21,006,555	0	41,584,311	
未成受託研究支出金	27,899,334	0	0	27,899,334	0	0	
計	63,336,650	27,153,550	0	48,905,889	0	41,584,311	

3. 有価証券の明細

当該年度は有価証券を保有していないため、記載を省略しております。

4. 長期貸付金の明細

当該年度は長期貸付金に関して該当がないため、記載を省略しております。

5. 長期借入金及び債券の明細

当該年度は長期借入金及び債券に関して該当がないため、記載を省略しております。

6. 引当金の明細

当該年度は退職給付引当金以外の引当金を計上していないため、記載を省略しております。

7. 退職給付引当金の明細

（単位:円）

区　　分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘　要
退職給付債務合計額	6,916,414	922,315	5,016,155	2,822,574	
退職一時金に係る債務	6,916,414	922,315	5,016,155	2,822,574	
退職給付引当金	6,916,414	922,315	5,016,155	2,822,574	

8. 資産除去債務の明細

当該年度は資産除去債務を計上していないため、記載を省略しております。

9. 法令に基づく引当金等の明細

当該年度は法令に基づく引当金等を計上していないため、記載を省略しております。

10. 保証債務の明細

当該年度は保証債務に関して該当がないため、記載を省略しております。

11. 資本金及び資本剰余金の明細

（単位:円）

区分		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘要
資本金	政府出資金	104,713,813,740	0	0	104,713,813,740	
	計	104,713,813,740	0	0	104,713,813,740	
資本剰余金	施設費補助金	35,123,504,149	1,047,367,510	0	36,170,871,659	施設費による特定資産の取得
	目的積立金	515,342,463	0	0	515,342,463	
	運営費交付金	17,472,911,811	1,277,190,000	0	18,750,101,811	運営費交付金による収蔵品の取得
	寄附金等	364,443,250	214,700,000	0	579,143,250	寄附金による収蔵品の取得
	贈与	89,906,442,881	720,493,059	0	90,626,935,940	寄贈品の受け入れ
	収蔵品編入	12,057,638	184	0	12,057,822	
	損益外固定資産除売却差額	−2,262,984,175	−25,486,158	0	−2,288,470,333	出資財産の除却 政府出資により取得した特定資産の除却
	計	141,131,718,017	3,234,264,595	0	144,365,982,612	
	損益外減価償却累計額	−35,111,684,167	−3,329,629,959	−15,717,570	−38,425,596,556	出資財産の減価償却相当
	損益外減損損失累計額	−3,376,800	0	0	−3,376,800	
	差引計	106,016,657,050	−95,365,364	−15,717,570	105,937,009,256	

12. 積立金の明細

（単位:円）

区　　分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘　　要
通則法44条1項積立金	279,841,009	773,947,626	1,053,788,635	0	注1、注2
前中期目標期間繰越積立金	630,809,100	684,628,170	686,224,420	629,212,850	注3
業務拡充積立金	4,002,276	0	4,002,276	0	注4
計	914,652,385	1,458,575,796	1,744,015,331	629,212,850	

（注記）

1 通則法44条1項積立金の当期増加額は、平成27年度利益処分及び中期目標期間終了に伴う積立金への振替によるものです。

平成27年度利益処分による増加額	139,136,250 円
中期目標期間終了に伴う前中期目標期間繰越積立金及び業務拡充積立金の振替額	634,811,376 円

2 通則法44条1項積立金の当期減少額は、積立金の処分によるものです。

国庫納付額	369,160,465 円
前中期目標期間繰越積立金の承認額	684,628,170 円

3 前中期目標期間繰越積立金の当期減少額は、受託研究費購入資産に係る減価償却費相当分等に係る取崩し等によるものです。

4 業務拡充積立金の当期減少額は、中期目標期間終了に伴う積立金への振替によるものです。

13. 目的積立金の取崩しの明細

（単位:円）

区分		金額	摘要
目的積立金取崩額	前中期目標期間繰越積立金取崩額	55,415,320	注1
	計	55,415,320	
その他	前中期目標期間繰越積立金取崩額	630,809,100	注2
	業務拡充積立金取崩額	4,002,276	注2
	計	634,811,376	
	合計	690,226,696	

（注記）

1 前中期目標期間繰越積立金取崩額の内訳は次のとおりです。

ファイナンスリース損益に係る取崩し額	141,321 円
受託研究費及び使途不特定寄附金購入資産に係る減価償却相当分取崩し額	1,519,632 円
たな卸資産及び前渡金に係る損益影響額相当分取崩し額	37,477,549 円
業務拡充積立金相当分取崩し額	16,276,818 円

2 中期目標期間終了に伴う積立金への振替によるものです。

14. 運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

(1)運営費交付金債務の増減の明細　　(単位:円)

期首残高	交付金当期交付額	当期振替額					期末残高
		運営費交付金収益	資産見返運営費交付金	建仮見返運営費交付金	資本剰余金	小計	
0	8,387,941,000	6,419,042,445	324,875,645	29,700	1,277,190,000	8,021,137,790	366,803,210

(2)運営費交付金債務の当期振替額及び主な使途の明細

①運営費交付金収益への振替額及び主な使途の明細　　(単位:円)

区分	運営費交付金収益	運営費交付金の主な使途	
		費用	主な使途
業務達成基準による振替額			
国立博物館等の事業	3,026,092,895	2,988,519,747	人件費:1,770,899,275円、 業務費:1,217,620,472円、その他:0円
文化財研究所等の事業	2,084,425,038	2,076,761,057	人件費:1,354,157,213円、 業務費:722,603,844円、その他:0円
共通	41,741,118	41,741,118	退職手当:41,741,118円、 業務費:0円、その他:0円
期間進行基準による振替額	1,266,783,394	1,229,517,681	人件費:823,837,562円、 一般管理費:404,537,423円、 その他:1,142,696円
合計	6,419,042,445	6,336,539,603	

②資産見返運営費交付金及び資本剰余金への振替額並びに主な使途の明細　　(単位:円)

セグメント	資産見返運営費交付金への振替		資本剰余金への振替	
	振替額	主な使途	振替額	主な使途
国立博物館等の事業	265,434,930	奈良国立博物館X線室改修その他工事 89,675,640円 九州国立博物館空調設備改修工事 30,240,000円 九州国立博物館監視ｶﾒﾗ設備改修工事 25,920,000円 その他　119,599,290円	1,277,190,000	陳列品購入 東京国立博物館　501,650,000円 京都国立博物館　130,088,000円 奈良国立博物館　5,040,000円 九州国立博物館　640,412,000円
文化財研究所等の事業	57,795,119	奈良文化財研究所CT画像再構成装置 7,214,400円 奈良文化財研究所3Dﾏｯﾋﾟﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ 6,284,250円 奈良文化財研究所ﾌｧｲﾙｻｰﾊﾞ 4,093,200円 その他　40,203,269円	0	
共通	1,645,596	博物館収蔵品共有ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｻｰﾊﾞ 990,036円 人事給与ｼｽﾃﾑ用ﾊｰﾄﾞｳｪｱ 655,560円	0	
合計	324,875,645		1,277,190,000	

(3)運営費交付金債務残高の明細　　(単位:円)

運営費交付金債務残高		使 用 見 込 み
業務達成基準を採用した業務に係る分	366,803,210	○翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高と使用見込みの明細は別表1のとおりです。
期間進行基準を採用した業務に係る分	－	○翌事業年度への繰越額はない。
計	366,803,210	

別表1　翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高と使用見込みの明細

セグメント	業務名称	施設名	繰越事由、債務残高及び使用見込み
国立博物館等の事業	収集保管業務	東京国立博物館	文化財修理前渡金6,222千円に対応する債務の繰越。翌期に全額使用予定。
		京都国立博物館	文化財購入について、手続きに必要な日数を確保することが困難であったことから、翌期に7,312千円使用予定。
		九州国立博物館	文化財購入について、手続きに必要な日数を確保することが困難であったことから、翌期に23,000千円使用予定。
			展示室、収蔵庫等特別清掃について、展示替え等スケジュールの変更により実施が困難であったことから、翌期に14,000千円使用予定。
	展覧業務	東京国立博物館	多言語化対応業務が、Wi-Fi設置事前調査に時間を要したことにより年度内の完了が困難であったことから、翌期に19,480千円使用予定。
			特別展会場用展示ケースについて、設計要件の検討に時間を要し、年度内の納品が困難であったことから、翌期に60,000千円使用予定。
			法隆寺宝物館照明設備について、事前調査や設計作業に時間を要し、年度内の納品が困難であったことから、翌期に20,000千円使用予定。
			東洋館LED設備について、設計要件の検討や設計調製に時間を要し、年度内の納品が困難であったことから、翌期に4,800千円使用予定。
		京都国立博物館	開館120周年関連業務について、平成29年度を事業の核と位置づけ、平成28年度は準備業務に充てることとしたため、翌期に6,659千円使用予定。
			平成知新館特別展会場化整備業務について、特別展会場化の検証作業が不十分であり翌期に追加実施することとしたため、翌期に29,038千円使用予定。
		九州国立博物館	タイ展について、輸送等契約の見直しにより完了が翌期になったことから、翌期に7,000千円使用予定。
			文化財輸送業務について、輸送時期が翌期になったことから、翌期に6,000千円使用予定。
	博物館研究業務	京都国立博物館	情報基盤整備業務について、対象棟屋が文化庁移転候補地となったこと等により、設計検討を見直すこととなったため、翌期に14,280千円使用予定。
	一般管理費	東京国立博物館	埋蔵文化財調査報告書作成業務につき、試掘の結果、想定より広範囲の調査が必要となり、業務が完了しなかったことから、翌期に39,852千円使用予定。
			平成館西側EV更新業務について、停止時期の検討、他の工事との調整などにより完了が翌期となったことから、翌期に23,000千円使用予定。
文化財研究所等の事業	基礎研究業務	奈良文化財研究所	「名勝旧大乗院庭園発掘調査報告」刊行について、重要資料の新発見により改稿が必要となったことから、翌期に5,279千円使用予定。
	国際遺産保護業務	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	ウェブサイト翻訳・校閲業務について、担当職員が不在となり年度内の納品が困難となったことから、翌期に877千円使用予定。
	情報公開業務	奈良文化財研究所	情報セキュリティ対策としてVPN接続システム更新を計画していたが、文化庁施設との接続が必要となり計画変更したことから、翌期に4,217千円使用予定。
共通	一般管理費	国立文化財機構	退職手当について役員等が再任となったことから、退職時に20,783千円使用予定。
		本部事務局	財務会計システム更新について、業務への影響を考慮し導入時期を再検討したことから、翌期に55,000千円使用予定。

15. 運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

15－1 施設費の明細　　（単位:円）

区　分	当期交付額	左の会計処理内訳			摘　要
		建設仮勘定見返施設費	資本剰余金	その他	
東京国立博物館 法隆寺宝物館展示機能 充実整備等工事	4,773,600	0	0	4,773,600	
東京国立博物館 柳瀬荘黄林閣屋根茅葺工事	44,780,040	0	0	44,780,040	
東京国立博物館 仮設収蔵庫等整備工事	289,314,720	103,140,000	0	186,174,720	
京都国立博物館 本館収蔵庫改修工事	89,468,820	46,828,800	0	42,640,020	
奈良国立博物館 なら仏像館免震展示ケース等 整備工事	649,306,800	0	649,306,800	0	
奈良文化財研究所 本庁舎建替工事	1,417,345,680	1,410,719,496	0	6,626,184	
計	2,494,989,660	1,560,688,296	649,306,800	284,994,564	

(注)その他の内訳は、施設費収益:284,994,564円です。

15－2 補助金等の明細　　（単位:円）

区　分	当期交付額	左の会計処理内訳			摘　要
		建設仮勘定見返補助金	資産見返補助金	収益計上	
国立文化財機構 文化芸術振興費補助金	149,310,345	0	0	149,310,345	
東京国立博物館 文化芸術振興費補助金	24,177,861	0	0	24,177,861	
京都国立博物館 文化芸術振興費補助金	3,123,623	0	0	3,123,623	
アジア太平洋無形文化 遺産研究センター 政府開発援助ユネスコ活動費補助金	5,000,000	0	0	5,000,000	
計	181,611,829	0	0	181,611,829	

(注)収益計上の内訳は、その他補助金収益:181,611,829円です。

16. 科学研究費補助金の明細

（単位：円）

種　　目	当　期　受　入　額	件　数	摘要
科　学　研　究　費 新　学　術　領　域　研　究	（　800,000） 240,000	 1	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　（　Ｓ　）	（　23,530,000） 7,059,000	 2	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　（　Ａ　）	（　62,705,580） 18,931,674	 42	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　（　Ｂ　）	（　75,137,351） 22,395,076	 88	
科　学　研　究　費 基　盤　研　究　（　Ｃ　）	（　30,712,786） 9,554,193	 39	
科　学　研　究　費 挑　戦　的　萌　芽　研　究	（　3,400,000） 1,020,000	 6	
科　学　研　究　費 若　手　研　究　（　Ａ　）	（　24,250,000） 6,660,000	 8	
科　学　研　究　費 若　手　研　究　（　Ｂ　）	（　27,684,478） 8,118,783	 33	
科　学　研　究　費 研究活動スタート支援	（　1,000,000） 300,000	 1	
科　学　研　究　費 奨　励　研　究	（　4,050,323） 735,096	 5	
研究成果公開促進費 デ　ー　タ　ベ　ー　ス	（　8,800,000） 0	 3	
特　別　研　究　員　奨　励　費	（　900,000） 270,000	 1	
国際共同研究加速基金 国　際　共　同　研　究　強　化	（　22,100,000） 6,630,000	 2	
計	（　285,070,518） 81,913,822	 231	

（注）当期受入額は間接経費相当額を記載し、直接研究費相当額は外数として（　　）書きで記載しております。

17. 役員及び職員の給与の明細

（単位:千円，人）

区　分	報酬又は給与		退職手当	
	支給額	支給人員	支給額	支給人員
役員	（ 3,840 ） 49,600	（ 3 ） 4	（ 0 ） 15,000	（ 0 ） 1
職員	（ 803,073 ） 2,645,684	（ 452 ） 335	（ 9,057 ） 289,215	（ 17 ） 13
合計	（ 806,913 ） 2,695,284	（ 455 ） 339	（ 9,057 ） 304,215	（ 17 ） 14

（1） 支給人員数は、報酬又は給与については平成28年4月～平成29年3月の平均支給人員数を記載しております。
また、退職手当については総支給人員数を記載しております。

（2） 役員報酬基準の概要　　理事長　984,000円（報酬月額）
理事2名　834,000円（報酬月額）
その他諸手当については、独立行政法人国立文化財機構役員報酬規程に基づき支給しております。
非常勤役員の報酬は、理事80,000円、監事120,000円を月額として支給しております。

（3） 役員退職手当基準の概要　　役員の退職手当は、独立行政法人国立文化財機構役員退職手当規程に基づき支給しております。

（4） 職員給与基準の概要　　職員の給与は、基本給及び諸手当としております。
基本給は、一般職の職員の給与に関する法律（昭和25年法律第95号）及び人事院規則を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員給与規程等に基づき支給しております。

（5） 職員退職手当基準の概要　　職員の退職手当は、国家公務員退職手当法を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員退職手当規程に基づき支給しております。

（6） 非常勤の役員及び職員に係るものは、上段括弧書外数で記載しております。

（7） 上記の金額には、法定福利費は含まれておりません。

（8） 中期計画における予算上の人件費には、非常勤の役員・職員に係る給与は含まれておりません。

18. セグメント情報　（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

独立行政法人 国立文化財機構　　（単位：円）

区分	国立博物館等	文化財研究所等	計	共　通	合　計
Ⅰ事業費用,事業収益及び事業損益					
事業費用					
業務費	5,193,792,626	2,957,911,473	8,151,704,099	0	8,151,704,099
人件費	1,969,407,167	1,399,628,209	3,369,035,376	0	3,369,035,376
業務経費	2,746,657,565	1,413,489,165	4,160,146,730	0	4,160,146,730
収集保管業務費	376,443,836	0	376,443,836	0	376,443,836
展覧業務費	1,830,752,659	0	1,830,752,659	0	1,830,752,659
教育普及業務費	77,894,589	0	77,894,589	0	77,894,589
博物館研究業務費	242,330,556	0	242,330,556	0	242,330,556
博物館支援業務費	118,591,789	0	118,591,789	0	118,591,789
基礎研究業務費	0	321,984,029	321,984,029	0	321,984,029
応用研究業務費	0	116,573,513	116,573,513	0	116,573,513
国際遺産保護業務費	0	88,192,192	88,192,192	0	88,192,192
情報公開業務費	0	249,017,179	249,017,179	0	249,017,179
研修協力業務費	0	86,438,250	86,438,250	0	86,438,250
受託業務費	100,644,136	551,284,002	651,928,138	0	651,928,138
減価償却費	477,727,894	144,794,099	622,521,993	0	622,521,993
一般管理費	1,222,852,846	444,635,317	1,667,488,163	339,115,874	2,006,604,037
人件費	419,419,063	274,499,073	693,918,136	252,639,794	946,557,930
一般管理経費	730,006,860	166,014,294	896,021,154	79,825,962	975,847,116
減価償却費	73,426,923	4,121,950	77,548,873	6,650,118	84,198,991
財務費用	696,089	1,178,637	1,874,726	0	1,874,726
雑損	905,711	4,265	909,976	0	909,976
事業費用計	6,418,247,272	3,403,729,692	9,821,976,964	339,115,874	10,161,092,838
事業収益					
運営費交付金収益	3,602,416,299	2,481,873,337	6,084,289,636	334,752,809	6,419,042,445
受託収入	103,906,154	555,134,580	659,040,734	0	659,040,734
入場料収入	906,322,781	2,975,010	909,297,791	0	909,297,791
展示事業等附帯収入	451,419,724	53,240,235	504,659,959	716,871	505,376,830
財産利用収入	275,984,227	9,562,867	285,547,094	0	285,547,094
寄附金収益	180,550,280	109,243,434	289,793,714	9,506,060	299,299,774
施設費収益	278,368,380	6,626,184	284,994,564	0	284,994,564
その他補助金収益	126,498,431	55,113,398	181,611,829	0	181,611,829
資産見返負債戻入	562,547,438	140,317,749	702,865,187	6,650,118	709,515,305
財務収益	561	32	593	898,548	899,141
雑益	5,885,824	3,323,832	9,209,656	6,254,903	15,464,559
事業収益計	6,493,900,099	3,417,410,658	9,911,310,757	358,779,309	10,270,090,066
事業損益	75,652,827	13,680,966	89,333,793	19,663,435	108,997,228
Ⅱ臨時損失等					
臨時損失	838,264	4,269,145	5,107,409	0	5,107,409
臨時損失計	838,264	4,269,145	5,107,409	0	5,107,409
臨時利益	838,264	4,269,145	5,107,409	0	5,107,409
臨時利益計	838,264	4,269,145	5,107,409	0	5,107,409
当期純利益	75,652,827	13,680,966	89,333,793	19,663,435	108,997,228
目的積立金取崩額	52,278,717	3,136,603	55,415,320	0	55,415,320
当期総利益	127,931,544	16,817,569	144,749,113	19,663,435	164,412,548
Ⅲ行政サービス実施コスト					
業務費用					
損益計算書上の費用	6,419,085,536	3,407,998,837	9,827,084,373	339,115,874	10,166,200,247
（控除）自己収入	−1,881,404,874	−699,761,654	−2,581,166,528	−46,603,836	−2,627,770,364
業務費用合計	4,537,680,662	2,708,237,183	7,245,917,845	292,512,038	7,538,429,883
損益外減価償却相当額	3,045,298,903	280,840,992	3,326,139,895	3,490,064	3,329,629,959
損益外除売却差額相当額	9,766,278	2,310	9,768,588	0	9,768,588
引当外賞与見積額	5,095,205	1,925,847	7,021,052	−1,522,539	5,498,513
引当外退職給付増加見積額	−39,601,106	−20,507,546	−60,108,652	−16,793,428	−76,902,080
機会費用					
国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用	0	139,450,486	139,450,486	0	139,450,486
政府出資又は地方公共団体等の機会費用	121,349,654	8,277,924	129,627,578	−34,879	129,592,699
行政サービス実施コスト	7,679,589,596	3,118,227,196	10,797,816,792	277,651,256	11,075,468,048
Ⅳ総資産					
流動資産	1,952,070,275	719,738,271	2,671,808,546	2,691,060,654	5,362,869,200
固定資産	203,686,645,294	13,908,962,689	217,595,607,983	36,029,241	217,631,637,224
建物	46,596,562,859	5,501,066,114	52,097,628,973	26,659,251	52,124,288,224
収蔵品	113,215,770,066	160,974,567	113,376,744,633	0	113,376,744,633
土地	40,238,675,104	4,172,000,000	44,410,675,104	0	44,410,675,104
その他の固定資産	3,635,637,265	4,074,922,008	7,710,559,273	9,369,990	7,719,929,263
総資産計	205,638,715,569	14,628,700,960	220,267,416,529	2,727,089,895	222,994,506,424

（注）

1．事業の種類の区分方法及び事業の内容

独立行政法人会計基準等の改訂に伴い、当事業年度より、中期目標等における一定の事業等のまとまりごとの区分に基づくセグメント情報を開示しております。

なお、前事業年度のセグメント情報を、当事業年度の区分により作成すること及び当事業年度のセグメント情報を、前事業年度の区分により作成することは実務上困難なため、当該情報については開示を行っておりません。

（1）国立博物館等の事業

有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信等の事業を行っております。

東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館を設置し、事業を行っております。

（2）文化財研究所等の事業

文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施等の事業を行っております。

東京文化財研究所、奈良文化財研究所及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターにおいて、事業を行っております。

2．事業費用等の配分方法の変更

間接業務費のうち文化財防災ネットワーク等に係る費用については、前事業年度まで配賦不能費用及び配賦不能収益として「法人共通」に記載しておりましたが、独立行政法人会計基準等の改訂に伴い、当事業年度より各セグメントに配分する方法に変更しております。

これにより、前事業年度と同一の方法によった場合と比べて、事業損益及び当期純損益が、「国立博物館等」で52百万円減少し、「共通」で52百万円増加しております。

また、行政サービス実施コストが、「国立博物館等」で52百万円増加し、「共通」で52百万円減少しております。

3．事業費用のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は339,115,874円であり、全て本部事務局に係る費用であります。

4．事業収益のうち国又は地方公共団体による財源措置等は、運営費交付金収益、施設費収益、その他補助金収益であります。

なお、事業収益のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は358,779,309円であり、すべて本部事務局に係る収益であります。

5．総資産のうち共通の項目に含めた金額は2,727,089,895円であり、全て本部事務局に係る資産であります。

６．施設別の事業費用，事業収益及び事業損益等の情報は以下のとおりであります。

独立行政法人 国立文化財機構　　（単位：円）

区分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	計	本部事務局	合　計
Ⅰ事業費用，事業収益及び事業損益										
事業費用										
業務費	2,176,015,066	887,804,441	845,624,059	1,232,150,259	990,426,649	1,881,659,024	85,825,800	8,099,505,298	52,198,801	8,151,704,099
人件費	1,007,005,126	333,705,390	283,274,486	343,585,600	470,483,562	912,178,851	16,965,796	3,367,198,811	1,836,565	3,369,035,376
業務経費	1,084,093,932	381,352,601	520,527,584	710,321,212	452,217,933	892,708,336	68,562,896	4,109,784,494	50,362,236	4,160,146,730
収集保管業務費	106,498,602	95,092,639	20,994,840	153,857,755	0	0	0	376,443,836	0	376,443,836
展覧業務費	698,641,058	229,987,820	444,207,503	457,916,278	0	0	0	1,830,752,659	0	1,830,752,659
教育普及業務費	57,094,423	6,966,355	11,296,211	2,537,600	0	0	0	77,894,589	0	77,894,589
博物館研究業務費	116,043,838	43,089,015	42,060,276	41,137,427	0	0	0	242,330,556	0	242,330,556
博物館支援業務費	60,945,561	6,216,772	1,968,754	28,046,970	0	0	0	97,178,057	21,413,732	118,591,789
基礎研究業務費	0	0	0	0	52,386,058	269,597,971	0	321,984,029	0	321,984,029
応用研究業務費	0	0	0	0	81,063,688	35,509,825	0	116,573,513	0	116,573,513
国際遺産保護業務費	0	0	0	0	50,055,991	20,953,302	17,182,899	88,192,192	0	88,192,192
情報公開業務費	0	0	0	0	55,613,424	193,403,755	0	249,017,179	0	249,017,179
研修協力業務費	0	0	0	0	56,356,379	30,081,871	0	86,438,250	0	86,438,250
受託業務費	44,870,450	0	0	26,825,182	156,742,393	343,161,612	51,379,997	622,979,634	28,948,504	651,928,138
減価償却費	84,916,008	172,746,450	41,821,989	178,243,447	67,725,154	76,771,837	297,108	622,521,993	0	622,521,993
一般管理費	631,341,277	246,351,565	207,870,284	137,289,720	220,711,419	187,742,233	36,181,665	1,667,488,163	339,115,874	2,006,604,037
人件費	171,695,699	86,712,337	105,564,494	55,446,533	121,409,197	121,702,715	31,387,161	693,918,136	252,639,794	946,557,930
一般管理経費	428,603,968	150,993,521	85,830,735	64,578,636	98,404,552	62,827,348	4,782,394	896,021,154	79,825,962	975,847,116
減価償却費	31,041,610	8,645,707	16,475,055	17,264,551	897,670	3,212,170	12,110	77,548,873	6,650,118	84,198,991
財務費用	0	0	0	696,089	64,682	1,113,955	0	1,874,726	0	1,874,726
雑損	903,510	0	2,201	0	4,265	0	0	909,976	0	909,976
事業費用計	2,808,259,853	1,134,156,006	1,053,496,544	1,370,136,068	1,211,207,015	2,070,515,212	122,007,465	9,769,778,163	391,314,675	10,161,092,838
事業収益										
運営費交付金収益	1,391,303,772	654,261,927	585,900,796	970,949,804	904,628,621	1,521,886,216	55,358,500	6,084,289,636	334,752,809	6,419,042,445
受託収入	47,853,518	0	0	26,825,182	158,106,951	345,647,632	51,379,997	629,813,280	29,227,454	659,040,734
入場料収入	465,475,376	105,410,261	199,341,285	136,095,859	0	2,975,010	0	909,297,791	0	909,297,791
展示事業等附帯収入	256,213,612	63,590,793	102,627,503	28,987,816	13,242,006	39,998,229	0	504,659,959	716,871	505,376,830
財産利用収入	201,079,304	47,014,513	23,580,486	4,309,924	3,009,354	6,553,513	0	285,547,094	0	285,547,094
寄附金収益	88,581,554	21,580,523	54,379,835	16,008,368	54,327,680	45,120,169	9,795,585	289,793,714	9,506,060	299,299,774
施設費収益	235,728,360	42,640,020	0	0	0	6,626,184	0	284,994,564	0	284,994,564
その他補助金収益	55,027,077	17,017,702	6,158,026	25,045,329	22,011,398	28,102,000	5,000,000	158,361,532	23,250,297	181,611,829
資産見返負債戻入	115,957,618	181,392,157	90,292,334	174,905,329	65,501,112	74,507,419	309,218	702,865,187	6,650,118	709,515,305
財務収益	432	101	28	0	0	32	0	593	898,548	899,141
雑益	2,863,815	2,740,074	138,935	143,000	1,359,763	1,964,069	0	9,209,656	6,254,903	15,464,559
事業収益計	2,860,084,438	1,135,648,071	1,062,419,228	1,383,270,611	1,222,186,885	2,073,380,473	121,843,300	9,858,833,006	411,257,060	10,270,090,066
事業損益	51,824,585	1,492,065	8,922,684	13,134,543	10,979,870	2,865,261	−164,165	89,054,843	19,942,385	108,997,228
Ⅱ臨時損失等										
臨時損失	838,264	0	0	0	3,920,859	348,286	0	5,107,409	0	5,107,409
臨時損失計	838,264	0	0	0	3,920,859	348,286	0	5,107,409	0	5,107,409
臨時利益	838,264	0	0	0	3,920,859	348,286	0	5,107,409	0	5,107,409
臨時利益計	838,264	0	0	0	3,920,859	348,286	0	5,107,409	0	5,107,409
当期純利益	51,824,585	1,492,065	8,922,684	13,134,543	10,979,870	2,865,261	−164,165	89,054,843	19,942,385	108,997,228
目的積立金取崩額	31,064,985	8,949,667	5,082,832	7,181,233	−67,301	3,203,904	0	55,415,320	0	55,415,320
当期総利益	82,889,570	10,441,732	14,005,516	20,315,776	10,912,569	6,069,165	−164,165	144,470,163	19,942,385	164,412,548
Ⅲ行政サービス実施コスト										
業務費用										
損益計算書上の費用	2,809,098,117	1,134,156,006	1,053,496,544	1,370,136,068	1,215,127,874	2,070,863,498	122,007,465	9,774,885,572	391,314,675	10,166,200,247
（控除）自己収入	−1,051,461,467	−236,988,955	−386,127,877	−206,826,575	−224,866,223	−413,719,849	−61,175,582	−2,581,166,528	−46,603,836	−2,627,770,364
業務費用合計	1,757,636,650	897,167,051	667,368,667	1,163,309,493	990,261,651	1,657,143,649	60,831,883	7,193,719,044	344,710,839	7,538,429,883
損益外減価償却相当額	1,071,281,047	1,079,267,862	434,050,406	460,699,588	118,704,784	162,136,208	0	3,326,139,895	3,490,064	3,329,629,959
損益外除売却差額相当額	14,000	9,752,278	0	0	0	2,310	0	9,768,588	0	9,768,588
引当外賞与見積額	5,146,898	−3,477,852	1,038,539	2,387,620	3,731,332	−1,031,662	−773,823	7,021,052	−1,522,539	5,498,513
引当外退職給付増加見積額	−17,188,608	−20,516,741	10,064,870	−11,960,627	12,430,878	−17,271,838	−15,666,586	−60,108,652	−16,793,428	−76,902,080
機会費用										
国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用	0	0	0	0	0	138,660,486	790,000	139,450,486	0	139,450,486
政府出資又は地方公共団体等の機会費用	56,468,671	32,055,092	16,857,013	15,968,878	3,628,348	4,649,576	0	129,627,578	−34,879	129,592,699
行政サービス実施コスト	2,873,358,658	1,994,247,690	1,129,379,495	1,630,404,952	1,128,756,993	1,944,288,729	45,181,474	10,745,617,991	329,850,057	11,075,468,048
Ⅳ総資産										
流動資産	934,863,187	328,252,258	342,293,701	346,661,129	255,618,700	384,060,078	80,059,493	2,671,808,546	2,691,060,654	5,362,869,200
固定資産	92,989,441,518	52,924,286,993	31,124,689,836	26,648,226,947	5,652,702,401	8,255,493,833	766,455	217,595,607,983	36,029,241	217,631,637,224
建物	15,230,393,940	16,511,362,548	6,401,386,062	8,453,420,309	2,754,667,950	2,746,398,164	0	52,097,628,973	26,659,251	52,124,288,224
収蔵品	49,758,540,790	25,801,119,588	20,429,007,484	17,227,102,204	0	160,974,567	0	113,376,744,633	0	113,376,744,633
土地	26,832,788,000	9,071,896,900	3,875,010,204	458,980,000	2,650,000,000	1,522,000,000	0	44,410,675,104	0	44,410,675,104
その他の固定資産	1,167,718,788	1,539,907,957	419,286,086	508,724,434	248,034,451	3,826,121,102	766,455	7,710,559,273	9,369,990	7,719,929,263
総資産計	93,924,304,705	53,252,539,251	31,466,983,537	26,994,888,076	5,908,321,101	8,639,553,911	80,825,948	220,267,416,529	2,727,089,895	222,994,506,424

19. 主な資産、負債、費用及び収益の明細

19－1 未払金の明細 （単位:円）

取引先	未払金の内訳	金額
㈱鴻池組	奈良文化財研究所本庁舎新営その他工事	544,590,000
㈱日立製作所 関西支社	文化財用高エネルギーX線CT装置	500,264,100
株式会社読売新聞東京本社	特別展「春日大社」共催者への配分額送金他	106,651,309
加藤建設株式会社	東京国立博物館仮設収蔵庫(仮称)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	99,792,000
株式会社奥村組 関西支店	奈良国立博物館X線室改修その他工事他	56,252,880
鹿島建物総合管理株式会社	九州国立博物館空調設備(プレート式熱交換器)改修工事一式他	42,433,562
アズビル・三冷・太平 東京国立博物館共同企業体	施設保守管理業務(1～3月)他	41,022,072
㈱トーエネック	奈良文化財研究所本庁舎新営その他電気設備工事他	36,698,400
金剛㈱大阪支店	可搬式大型六角展示ケース2台の製造	22,744,800
株式会社フクシ・エンタープライズ	東京国立博物館等の展示場における来館者応対等業務 3月分他	19,639,937
その他		1,478,243,415
合計		2,948,332,475

19－2 資産見返運営費交付金の明細 （単位:円）

区分	金額
建物	1,291,291,380
構築物	34,395,832
機械・装置	33,297,928
車両運搬具	8,034,029
工具器具備品	1,264,021,484
ソフトウエア	92,312,923
差入敷金・保証金	1,831,303
その他無形固定資産	226,800
合計	2,725,411,679

19－3 建設仮勘定見返施設費の明細 （単位:円）

区分	金額
東京国立博物館仮設収蔵庫等整備工事	103,140,000
京都国立博物館本館収蔵庫改修等工事	101,908,800
奈良文化財研究所本庁舎建替工事	3,298,508,226
合計	3,503,557,026

平成２８年度

（第 10 期事業年度）

決 算 報 告 書

独立行政法人国立文化財機構

平成28年度　決算報告書

（単位：円）

区　　分	国立博物館等				文化財研究所等				合　計			
	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考
収　入												
運営費交付金	5,843,941,000	5,837,848,000	−6,093,000		2,544,000,000	2,550,093,000	6,093,000		8,387,941,000	8,387,941,000	0	
施設整備費補助金	1,304,867,000	1,077,643,980	−227,223,020	（注記）1	29,514,000	1,417,345,680	1,387,831,680	（注記）1	1,334,381,000	2,494,989,660	1,160,608,660	（注記）1
文化芸術振興費補助金	−	126,498,431	126,498,431	（注記）2	−	50,113,398	50,113,398	（注記）2	−	176,611,829	176,611,829	（注記）2
政府開発援助ユネスコ活動費補助金	−	0	0		−	5,000,000	5,000,000	（注記）3	−	5,000,000	5,000,000	（注記）3
展示事業等収入	1,409,766,000	1,645,567,035	235,801,035	（注記）4	64,965,000	68,996,062	4,031,062		1,474,731,000	1,714,563,097	239,832,097	（注記）4
受託収入	28,696,000	103,906,154	75,210,154	（注記）5	548,153,000	555,134,580	6,981,580		576,849,000	659,040,734	82,191,734	（注記）5
その他寄附金等	338,066,000	640,632,571	302,566,571	（注記）6	12,465,000	113,179,270	100,714,270	（注記）6	350,531,000	753,811,841	403,280,841	（注記）6
計	8,925,336,000	9,432,096,171	506,760,171		3,199,097,000	4,759,861,990	1,560,764,990		12,124,433,000	14,191,958,161	2,067,525,161	
支　出												
運営事業費	7,253,707,000	7,047,050,417	−206,656,583		2,608,965,000	2,592,816,811	−16,148,189		9,862,672,000	9,639,867,228	−222,804,772	
管理経費	1,514,008,000	1,245,722,279	−268,285,721		477,954,000	432,259,011	−45,694,989		1,991,962,000	1,677,981,290	−313,980,710	
人件費	763,917,000	626,828,410	−137,088,590	（注記）7	288,273,000	220,043,697	−68,229,303	（注記）7	1,052,190,000	846,872,107	−205,317,893	（注記）7
一般管理費	750,091,000	618,893,869	−131,197,131	（注記）8	189,681,000	212,215,314	22,534,314	（注記）9	939,772,000	831,109,183	−108,662,817	（注記）8
業務経費	5,739,699,000	5,801,328,138	61,629,138		2,131,011,000	2,160,557,800	29,546,800		7,870,710,000	7,961,885,938	91,175,938	
人件費	1,388,165,000	1,494,387,086	106,222,086		1,031,747,000	1,050,083,087	18,336,087		2,419,912,000	2,544,470,173	124,558,173	
収集保管事業費	2,099,737,000	1,720,167,641	−379,569,359	（注記）10	0	0	0		2,099,737,000	1,720,167,641	−379,569,359	（注記）10
展覧事業費	1,730,312,000	2,045,676,836	315,364,836	（注記）11	0	0	0		1,730,312,000	2,045,676,836	315,364,836	（注記）11
教育普及事業費	91,281,000	101,634,473	10,353,473	（注記）12	0	0	0		91,281,000	101,634,473	10,353,473	（注記）12
博物館研究事業費	394,387,000	394,835,515	448,515		0	0	0		394,387,000	394,835,515	448,515	
博物館支援事業費	35,817,000	44,626,587	8,809,587	（注記）13	0	0	0		35,817,000	44,626,587	8,809,587	（注記）13
基礎研究事業費	0	0	0		480,152,000	465,345,535	−14,806,465		480,152,000	465,345,535	−14,806,465	
応用研究事業費	0	0	0		107,291,000	171,001,196	63,710,196	（注記）14	107,291,000	171,001,196	63,710,196	（注記）14
国際遺産保護事業費	0	0	0		163,211,000	115,070,987	−48,140,013	（注記）14	163,211,000	115,070,987	−48,140,013	（注記）14
情報公開事業費	0	0	0		329,940,000	323,701,557	−6,238,443		329,940,000	323,701,557	−6,238,443	
研修協力事業費	0	0	0		18,670,000	35,355,438	16,685,438	（注記）15	18,670,000	35,355,438	16,685,438	（注記）15
施設整備費	1,304,867,000	1,077,643,980	−227,223,020	（注記）1	29,514,000	1,417,345,680	1,387,831,680	（注記）1	1,334,381,000	2,494,989,660	1,160,608,660	（注記）1
文化芸術振興費	−	126,498,431	126,498,431	（注記）2	−	50,113,398	50,113,398	（注記）2	−	176,611,829	176,611,829	（注記）2
政府開発援助ユネスコ活動費	−	0	0		−	5,000,000	5,000,000	（注記）3	−	5,000,000	5,000,000	（注記）3
受託事業費	28,696,000	100,644,136	71,948,136	（注記）5	548,153,000	554,217,965	6,064,965		576,849,000	654,862,101	78,013,101	（注記）5
その他寄附金等	338,066,000	347,347,613	9,281,613		12,465,000	123,883,163	111,418,163	（注記）6	350,531,000	471,230,776	120,699,776	（注記）16
計	8,925,336,000	8,699,184,577	−226,151,423		3,199,097,000	4,743,377,017	1,544,280,017		12,124,433,000	13,442,561,594	1,318,128,594	

（注記）

1. 過年度予算の平成28年度への繰越と平成28年度予算の平成29年度への繰越の差額によるものであります。

2. 文化庁による美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業及び地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業によるものであります。

3. 文部科学省によるアジア太平洋地域における無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する基礎的調査事業によるものであります。

4. 展示事業等収入の差額は、入場者数が見込みより増えたこと、イベント等の建物貸付収入が増えたこと等によるものであります。

5. 受託収入及び受託事業費について、予算額と決算額の差額は、当初の受入見込みになかった受託調査研究等の契約があったためであります。

6. 文化財保存活用基金及び賛助会等の寄附金によるものであります。

7. 一般管理人件費の差額は、退職手当の予算計上区分の相違及び、退職手当が一部平成29年度以降に繰り越しされたことによるものであります。

8. 一般管理費の差額は、消費税支払額が見込より大幅に減少したこと等によるものであります。

9. 一般管理費の差額は、施設整備等に係る経費が見込より増加したことによるものであります。

10. 収集保管事業費の差額は、収蔵品購入等に係る予算の一部繰越及び事業の一部を寄附金で実施したことによるものであります。

11. 展覧事業費の差額は、夜間開館対応、多言語化対応等に伴う経費が増加したこと等によるものであります。

12. 教育普及事業費の差額は、自己収入による事業拡充によるものであります。

13. 博物館支援事業費の差額は、自己収入による事業拡充によるものであります。

14. 応用研究事業費及び国際遺産保護事業費の差額は、事業実施に伴う予算の組み替えによるものであります。

15. 研修協力事業費の差額は、事業実施に伴う予算の組み替えによるものであります。

16. その他寄附金等の差額は、寄附金等財源による事業拡充によるものであります。

17. 損益計算書の計上金額と決算金額の集計区分の相違の概要

（1）博物館収蔵品の取得支出1,437,890,000円は決算報告書上、収集保管事業費に表示されております。

（2）有期雇用職員に係る人件費は損益計算書上、人件費として計上されておりますが、決算報告書上、下記の各事業経費に表示されております。
一般管理経費99,685,823円、収集保管業務費101,128,096円、展覧業務費218,205,486円、教育普及業務費34,246,809円、博物館研究業務費67,915,261円、博物館支援業務費49,583,000円、
基礎研究業務費174,307,063円、応用研究業務費44,973,724円、国際遺産保護業務費38,103,957円、情報公開業務費73,065,392円、研修協力業務費19,094,986円。

（3）損益計算書に計上されている一般管理経費のうち283,783,884円、収集保管業務費のうち1,210,680円は決算報告書上、施設整備費に計上されております。

（4）損益計算書に計上されている教育普及業務費のうち3,123,623円、博物館支援業務費のうち123,374,808円、研修協力業務費のうち50,113,398円は決算報告書上、
文化芸術振興費補助金に計上されております。

（5）損益計算書に計上されている国際遺産保護業務費のうち5,000,000円は決算報告書上、ユネスコ活動費補助金に計上されております。

（6）損益計算書に計上されている一般管理経費のうち18,567,468円、業務人件費のうち3,941,429円、収集保管業務費のうち66,665,451円、展覧業務費のうち69,580,970円、教育普及業務費のうち8,214,902円、
博物館研究業務費のうち9,883,293円、博物館支援業務費のうち43,860円、基礎研究業務費のうち32,131,969円、応用研究業務費のうち10,556,150円、国際遺産保護業務費のうち10,061,425円、
情報公開業務費のうち21,894,099円、研修協力業務費のうち20,950,000円は決算報告書上、寄附金に計上されております。

平成２８年度

（第10期事業年度）

事 業 報 告 書

独立行政法人国立文化財機構

目　次

１．国民の皆様へ

２．法人の基本情報
(1) 目的、業務内容、沿革、設立に係る根拠法、主務大臣、組織図その他法人の概要
(2) 事務所の所在地
(3) 資本金の額及び出資者ごとの出資額
(4) 役員の氏名、役職、任期、担当及び経歴
(5) 常勤職員の数及び平均年齢並びに法人への出向者数

３．財務諸表の要約
(1) 要約した財務諸表
　① 貸借対照表
　② 損益計算書
　③ キャッシュ･フロー計算書
　④ 行政サービス実施コスト計算書
(2) 財務諸表の科目の説明

４．財務情報
(1) 財務諸表の概要
　① 資産、負債、経常費用、経常収益、当期総損益、キャッシュ･フローなどの主要な財務データの経年比較・分析
　② セグメント総資産の経年比較・分析
　③ セグメント事業損益の経年比較・分析
　④ 積立金の申請、目的積立金の取崩内容
　⑤ 行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析
(2) 重要な施設等の整備等の状況
　① 当事業年度中に完成した主要施設等
　② 当事業年度において継続中の施設等の新設・拡充
　③ 当該事業年度中に処分した主要施設等
(3) 予算及び決算の概要
(4) 経費削減及び効率化に関する目標及びその達成状況
　① 経費削減及び効率化目標
　② 経費削減及び効率化目標の達成度合いを測る財務諸表等の科目（費用等）の経年比較

５．事業の説明
(1) 財源の内訳
　① 内訳（補助金、運営費交付金、借入金、債券発行等）
　② 自己収入の明細（自己収入の概要、収入先等）
(2) 財務情報及び業務の実績の説明

６．事業等のまとまりごとの予算・決算の概況

独立行政法人国立文化財機構　平成 28 年度事業報告書

１．国民の皆様へ

私ども独立行政法人国立文化財機構（以下「機構」といいます。）は、平成 19 年 4 月に独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合されて設立されました。国の文化財保護行政を総合的に支え、社会の要請に機動的・効果的に対応することを目的とし、歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点として、収蔵品の整備と次代への継承、文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信及び文化財に関する調査・研究の推進等を任務としております。

博物館においては、今年度も 366 万人という多くのお客様をお迎えすることができました。平常展示において東京国立博物館 76 万人、京都国立博物館 19 万人、奈良国立博物館 15 万人、九州国立博物館 39 万人と、四館で 149 万人のお客様にご来館いただいたことに加え、特別展示にも数多くのお客様にご来館いただきました。また、国からの交付金や皆様からのご寄附により、四館で 63 件の文化財を購入できたほか、四館で 318 件の文化財をご寄贈いただき、収蔵品を充実させることができました。

研究所・センターにおいては、東京文化財研究所では基礎的・探求的な調査研究や文化遺産保護に関する国際協働事業などを着実に実施したほか、奈良文化財研究所では国や地方公共団体が行う文化財関連事業を継続的に支援したことに加え、藤原宮跡発掘調査において、律令国家研究に欠くことのできない重要な遺構を検出するなどの成果がありました。アジア太平洋無形文化遺産研究センターでは引き続きアジア太平洋地域における無形文化遺産の調査研究を推進しました。

施設整備の面では、奈良国立博物館なら仏像館の改修工事を終えました。新しくなりました展示室とともに、仏教美術の魅力や奥深さを皆様にお伝えしていきたいと考えております。ぜひご来館ください。

今後は継続中の奈良文化財研究所本庁舎建替工事の外、東京国立博物館仮設収蔵庫等整備工事を本格化し、老朽化の著しい建物や設備の整備を計画的に進めるとともに、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、国内外の皆様に日本の文化財の魅力を発信できる環境の整備を進めて参ります。

私ども機構は、国の文化財行政の土台をしっかりと支えていくという大きな使命の下、引き続き、文化財の収集保管、展示公開、調査研究、そして国際協力という四つの大きな柱を機能させ、更なる活性化を推進して参ります。

私どもの事業実施に、引き続き皆様の温かいご支援ご協力をお願い申し上げます。

２.法人の基本情報

(1) 目的、業務内容、沿革、設立に係る根拠法、主務大臣、組織図その他法人の概要

① 法人の目的

独立行政法人国立文化財機構は、博物館を設置して有形文化財（文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第二条第一項第一号に規定する有形文化財をいう。以下同じ。）を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、文化財（同項に規定する文化財をいう。以下同じ。）に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図ることを目的としております。（独立行政法人国立文化財機構法第三条）

② 業務内容

当機構は、独立行政法人国立文化財機構法第三条の目的を達成するため以下の業務を行います。

1）博物館を設置すること。
2）有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供すること。
3）前号の業務に関連する講演会の開催、出版物の刊行その他の教育及び普及の事業を行うこと。
4）第一号の博物館を文化財の保存又は活用を目的とする事業の利用に供すること。
5）文化財に関する調査及び研究を行うこと。
6）前号に掲げる業務に係る成果を普及し、及びその活用を促進すること。
7）文化財に関する情報及び資料を収集し、整理し、及び提供すること。
8）第二号、第三号及び前三号の業務に関し、地方公共団体並びに博物館、文化財に関する調査及び研究を行う研究所その他これらに類する施設（次号において「地方公共団体等」という。）の職員に対する研修を行うこと。
9）第二号、第三号及び第五号から第七号までの業務に関し、地方公共団体等の求めに応じて援助及び助言を行うこと。
10）前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

③ 沿革

平成19年4月　独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合し、独立行政法人国立文化財機構として設立
平成23年10月　アジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置

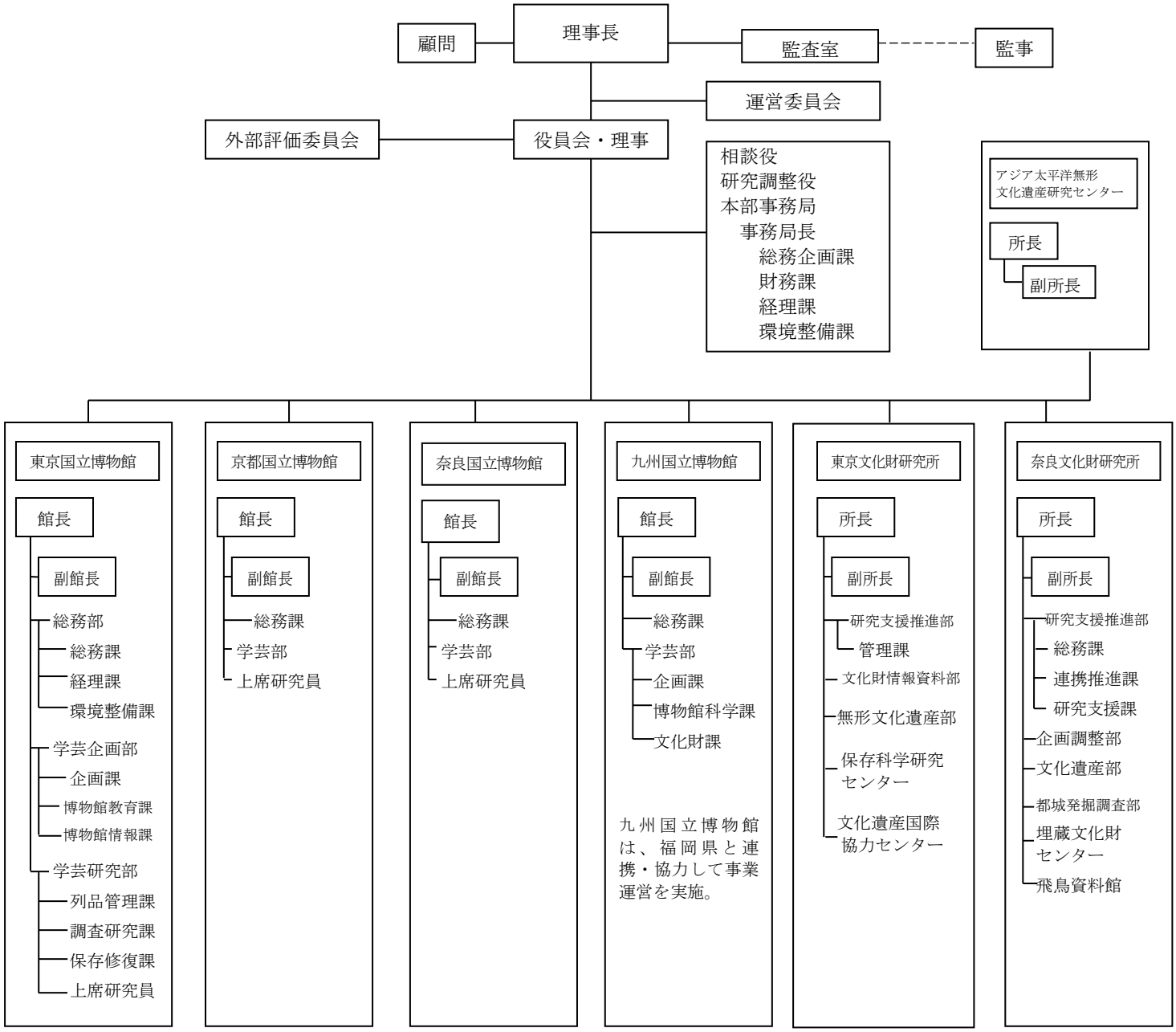
④ 設立根拠法

独立行政法人国立文化財機構法（平成11年法律第178号）

⑤ 主務大臣（主務省所管課等）

文部科学大臣（文化庁文化財部美術学芸課）

⑥ 組織図（平成 29 年 3 月 31 日現在）



⑦ その他法人の概要

機構は、ともに文化財の保存及び活用という同一の目的を有する独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所の二つの法人の統合により、平成 19 年 4 月に発足いたしました。

統一的なマネジメントの下で、貴重な国民的財産である文化財の保存・活用を一層効果的かつ効率的に推進するため、各施設はそれぞれ次のような役割を果たしています。

1）東京国立博物館

我が国の人文系の総合的な博物館として、日本を中心として広くアジア諸地域にわたる文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

2）京都国立博物館

京都に都が置かれた平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

3）奈良国立博物館

仏教美術及び奈良を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

4）九州国立博物館

日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

5）東京文化財研究所

我が国の文化財の研究を、基礎的なものから先端的・実践的なものまで多様な手法により行い、成果を積極的に公表・活用するとともに、世界の文化財保護に関する国際的な研究交流等を実施する国際協力の拠点としての役割を担っています。

6）奈良文化財研究所

平城宮跡に隣接し、遺跡・建造物・庭園等の土地に結びついた文化財及び南都諸大寺及び近畿周辺を中心とした古社寺等における文化財の保存・活用を図るために発掘・調査・研究を行うとともに、全国各地の発掘調査等に対する協力・助言等を行っています。

7）アジア太平洋無形文化遺産研究センター

アジア太平洋地域における危機に瀕した無形文化遺産保護のための調査活動や、無形文化遺産保護の国際的動向に関する情報収集と配信を行っています。

(2) 事務所（従たる事業所を含む）の所在地

本部：東京都台東区上野公園 13－9

支部：東京都台東区上野公園 13－9（東京国立博物館）
東京都台東区上野公園 13－43（東京文化財研究所）
京都府京都市東山区茶屋町 527（京都国立博物館）
奈良県奈良市登大路町 50（奈良国立博物館）
奈良県奈良佐紀町 247－1（奈良文化財研究所）
福岡県太宰府市石坂 4－7－2（九州国立博物館）
大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町 2 丁 堺市博物館内
（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

(3) 資本金の額及び出資者ごとの出資額(前事業年度末からのそれぞれの増減を含む)

（単位：百万円）

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
政府出資金	104,714	0	0	104,714
資本金合計	104,714	0	0	104,714

(4) 役員の氏名、役職、任期、担当及び経歴

役 職	氏 名	任 期	担 当	経 歴
理事長 (常勤)	佐々木丞平	自 平成19年4月1日 至 平成29年3月31日		昭和45年4月 京都府教育委員会 昭和47年4月 文化庁入庁 昭和56年4月 京都大学助教授 平成 3年3月 京都大学文学部教授 平成12年4月 京都大学附属図書館長(併任) 平成12年11月 京都大学 大学文書館長 平成17年3月 退職 平成17年4月 (独)国立博物館理事 ((兼)京都国立博物館長) 平成19年3月 退職 (統合のため)
理 事 (常勤)	松村 恵司	自 平成23年10月1日 至 平成29年3月31日	文化財の調査・研究・保存修復、ナショナルセンター機能担当	昭和52年10月 奈良国立文化財研究所 昭和62年10月 文化庁入庁 平成 7年4月 奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第二調査室長 平成18年4月 (独)文化財研究所奈良文化財研究所都城発掘調査部上席研究員・考古第一研究室長 平成20年4月 (独)国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部長 平成21年4月 文化庁文化財部文化財鑑査官 平成23年3月 退職
理 事 (常勤)	池原 充洋	自 平成26年4月1日 至 平成29年3月31日	総務、財務、危機管理担当	昭和57年4月 文部省入省 平成11年7月 文部科学省初等中等教育局特殊教育課長 平成16年1月 文化庁長官官房国際課長 平成18年4月 文部科学省研究開発局参事官 平成22年7月 文部科学省大臣官房国際課長 平成24年4月 国立大学法人埼玉大学理事・事務局長
理 事 (非常勤)	渡邉 妙子	自 平成26年7月1日 至 平成29年3月31日	対外広報担当	昭和31年4月 株式会社国連社 昭和32年6月 株式会社第一銀行 昭和41年8月 財団法人佐野美術館 平成12年6月 財団法人佐野美術館長 現在に至る
監 事 (非常勤)	久留島典子	自 平成27年4月1日 至 平成32年度財務諸表承認日		昭和56年4月 東京大学史料編纂所助手 平成 4年4月 東京大学史料編纂所助教授 平成11年4月 東京大学史料編纂所教授 現在に至る 平成14年 4月 東京大学総長補佐 平成25年4月 国立大学法人東京大学史料編纂所長 平成27年4月 国立大学法人東京大学副学長 現在に至る 国立大学法人東京大学附属図書館長 現在に至る
監 事 (非常勤)	中元 文徳	自 平成26年7月1日 至 平成32年度財務諸表承認日		昭和50年3月 監査法人中央会計事務所 平成15年9月 公認会計士中元文徳事務所代表 現在に至る 平成16年4月 国立大学法人金沢大学監事 平成21年4月 熊本学園大学会計専門職大学院専任教授 現在に至る 平成24年4月 国立大学法人総合研究大学院大学監事 現在に至る

(5) 常勤職員の数（前事業年度末からの増減を含む。）及び平均年齢並びに法人への出向者数

常勤職員は平成28年度末現在343人（前期末比5人増)、平均年齢は45歳（前期末に同じ）です。このうち、国等からの出向者は11人、民間からの出向者は0人、平成29年3月31日退職者は△14人です。

３.財務諸表の要約

(1) 要約した財務諸表

① 貸借対照表

平成 29 年 3 月 31 日　（単位：百万円）

資産の部	金　額	負債の部	金　額
流動資産		流動負債	
現金及び預金	3,162	未払金	2,948
未収金	2,117	その他	2,057
その他	84	流動負債合計	5,005
流動資産合計	5,363		
		固定負債	
固定資産		資産見返負債	6,515
有形固定資産		その他の固定負債	30
建物	52,124	固定負債合計	6,545
収蔵品	113,377	負債合計	11,550
土地	44,411	純資産の部	
工具器具備品	2,139	資本金	104,714
建設仮勘定	3,529	資本剰余金	105,937
その他	1,949	利益剰余金	794
無形固定資産	103	純資産合計	211,445
固定資産合計	217,632		
資産合計	222,995	負債純資産合計	222,995

② 損益計算書

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日　（単位：百万円）

	金　額
経常費用(A)	10,161
業務費	
人件費	3,369
業務経費	4,160
減価償却費	623
一般管理費	
人件費	947
一般管理経費	976
減価償却費	84
その他	2
経常収益(B)	10,270
運営費交付金収益	6,419
受託収入	659
入場料収入	909
展示事業等収入	505
財産利用収入	286
寄附金収益	299
施設費収益	285
資産見返負債戻入	710
その他	198
臨時損失(C)	－5
臨時利益(D)	5
前中期目標期間繰越積立金取崩額(E)	55
当期総利益(B－A＋C＋D＋E)	164

③ キャッシュ・フロー計算書

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日　　（単位：百万円）

	金　額
Ⅰ業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	1,651
人件費支出	－4,352
運営費交付金収入	8,388
自己収入等	3,528
その他の支出	－5,915
その他収入	2
Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	－2,569
Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー(C)	－27
Ⅳ資金増加額（又は減少額）(D＝A＋B＋C)	－945
Ⅴ資金期首残高(E)	3,674
Ⅵ資金期末残高(F＝D＋E)	2,729

④ 行政サービス実施コスト計算書

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日　　（単位：百万円）

	金　額
Ⅰ業務費用	7,538
損益計算書上の費用	10,166
（控除）自己収入等	－2,628
（その他の行政サービス実施コスト）	
Ⅱ損益外減価償却相当額	3,330
Ⅲ損益外除売却差額相当額	10
Ⅳ引当外賞与見積額	5
Ⅴ引当外退職給付増加見積額	－77
Ⅵ機会費用	269
Ⅶ行政サービス実施コスト	11,075

(2) 財務諸表の科目の説明

①貸借対照表

現金及び預金　　：現金、銀行預金（定期預金含む）

未収金　　：受託事業実施のための立替金、施設利用料の未受領分など

その他（流動資産）　：販売用図録などのたな卸資産、前払保険料、前払費用など

有形固定資産　　：土地、建物、大型研究機器、車両、収蔵品など長期にわたって使用する固定資産で無形固定資産以外のもの

建設仮勘定　　：建設中の建物の建設等のため支出した相当額など

無形固定資産　　：ソフトウエア、電話加入権など

その他（固定資産）　：保証金、長期前払費用

運営費交付金債務　：運営費交付金のうち翌年度に繰り越すものの相当額

未払金　　：退職給付（アソシエイトフェローを除く）、購入代金などの未払金で１年以内に支払期限が到来するもの

その他（流動負債）　：住民税納付のための給与控除預り金など

資産見返負債　　：運営費交付金などにより取得した固定資産（償却資産）の取得額のうちの未償却額

その他（固定負債）　：リース長期未払金など

政府出資金　　：国から出資された土地、建物等の相当額

資本剰余金　　：運営費交付金、施設費、目的積立金、寄附金などで取得した建物、収

蔵品の相当額

利益剰余金　　：剰余金の累計額

②損益計算書

業務費　　：業務の実施に要した経費

人件費　　：給与、賞与、法定福利費等の経費

減価償却費　　：固定資産の取得額をその耐用年数にわたって費用として配分する経費

運営費交付金収益等：運営費交付金、補助金等のうち、当期の収益として認識した相当額

資産見返負債戻入　：固定資産の償却時に当該資産の見返勘定を戻入したことによる収益

臨時損失　　：固定資産除却損

臨時利益　　：運営費交付金及び寄附による備品の除却により資産見返運営費交付金等を戻入したことによる利益

前中期目標期間繰越積立金取崩額：前中期目標期間に受託研究費で取得した研究機器の当該年度の減価償却費相当額

③キャッシュ・フロー計算書

業務活動によるキャッシュ・フロー：通常業務の実施に係る資金の状態。サービス提供等による収入、原材料、商品又はサービス購入による支出、人件費支出等

投資活動によるキャッシュ・フロー：将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態で、固定資産の取得・売却等による収入・支出

財務活動によるキャッシュ・フロー：増資等による資金の収入・支出、債券の発行・償還及び借入れ・返済による収入・支出等、資金の調達及び返済等

④行政サービス実施コスト計算書

業務費用　　：損益計算書における一切の費用から運営費交付金、施設整備費補助金等の国からの措置に基づく収益を控除した相当額

損益外減価償却相当額：建物などで減価に対応すべき収益の獲得が予定されないとされた資産の減価償却費相当額（損益計算書には反映されていないが、減価償却累計額は貸借対照表に反映）

損益外除売却差額相当額：上記のような建物などを除売却した場合の損益計算書には反映されない除売却損相当額

損益外減損損失相当額：独立行政法人が中期計画等で想定した業務を行ったにもかかわらず生じた減損損失相当額

引当外賞与見積額・引当外退職給付増加見積額：財源措置が運営費交付金により行われる場合の賞与引当金増加見積額・退職給付引当金増加見積額（損益計算書には反映されていないが、貸借対照表に注記）

機会費用　　：政府から出資された土地・建物等の出資額及び政府から譲与を受け資本剰余金となっている収蔵品等の相当額を市場で運用すると仮定した場合に得られたと考えられる運用益相当額

４.財務情報

(1) 財務諸表の概要

① 資産、負債、経常費用、経常収益、当期総損益、キャッシュ･フローなどの主要な財務データの経年比較・分析

主要な財務データの経年比較　（単位：百万円）

区　　分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
資産	220,156	220,058	220,040	221,434	222,995
負債	15,469	9,747	8,780	9,650	11,550
利益剰余金（又は繰越欠損金）	752	778	1,000	1,054	794
純資産	204,687	210,311	211,260	211,784	211,444
経常費用	8,746	9,257	10,154	10,421	10,161
経常収益	8,820	9,280	10,377	10,521	10,270
当期総利益	67	31	225	139	164
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,171	2,056	1,988	2,642	1,651
投資活動によるキャッシュ･フロー	2,206	－5,310	－3,277	－2,804	-2,569
財務活動によるキャッシュ・フロー	－13	－14	－34	－35	-27
資金期末残高	8,462	5,193	3,870	3,674	2,729

（資産）

平成28年度末現在の資産合計は、2,229億94百万円と前年度比15億60百万円（0.7%）の増加となりました。流動資産が53億62百万円と同8億53百万円(18.9%)、固定資産が2,176億31百万円と同7億7百万円（0.3%）増加しました。流動資産の増加は、奈良文化財研究所本庁舎建替工事（以下「本庁舎建替工事」という）に係る施設整備費補助金等の未収金が21億16百万円と同13億79百万円（186.9%）増加したこと、第３中期目標期間の終了に伴い積立金国庫納付を3億69百万円行ったことが主な要因です。固定資産の増加は、奈良国立博物館なら仏像館完成等により建物が872億85百万円と同12億2百万円（1.4%）増加したこと、減価償却が同40億36百万円すすんだこと、収蔵品が1,133億76百万円と同22億8百万円(2.0%)増加したこと、本庁舎建替工事等に係る建設仮勘定が35億28百万円と同11億2百万円（45.5%）増加したことが主な要因です。

（負債）

平成28年度末現在の負債合計は、115億50百万円と前年度比19億円（19.7%）の増加となりました。流動負債が50億5百万円と同11億20百万円（28.8%)、固定負債が65億44百万円と同7億79百万円（13.5%）増加しました。流動負債の増加は、本庁舎建替工事等により未払金が29億48百万円と同5億26百万円（21.7%）増加したこと、運営費交付金債務繰越額3億67百万円が発生したことが主な要因です。固定負債の増加は、本庁舎建替工事等により建設仮勘定見返施設費が35億3百万円と同11億30百万円（47.6%）増加した一方、減価償却に伴い資産見返負債の戻入が行われたことが主な要因です。

（純資産）

平成28年度末現在の純資産合計は、2,114億44百万円と前年度比3億39百万円（0.2%）の減少となりました。資本剰余金が1,059億37百万円と同79百万円(0.1%)

減少、積立金国庫納付等に伴い利益剰余金が 7 億 93 百万円と同 2 億 60 百万円(24.7%)減少しました。資本剰余金の減少は、資産増加に伴う増加 32 億 34 百万円と損益外の減価償却に伴う減少 33 億 13 百万円の差し引きによるものです。

（経常費用）

平成 28 年度の経常費用は 101 億 61 百万円と前年度比 2 億 60 百万円（2.5%）の減少となりました。業務費が 81 億 51 百万円と同 1 億 20 百万円（1.5%）減少、一般管理費が 20 億 6 百万円と同 1 億 40 百万円（6.5%）減少しました。業務費は、九州国立博物館での事業見直し等により業務経費が 41 億 60 百万円と同 75 百万円（1.8%）減少したこと、減価償却費が 6 億 22 百万円と同 39 百万円（5.9%）減少したことが主な要因です。一般管理費は、定年退職や役員等の任期満了に伴う退職手当等により人件費が 9 億 46 百万円と同 63 百万円（7.2%）増加したこと、前年度京都国立博物館で施設整備に伴う修繕費が発生していたこと等により一般管理経費が 9 億 75 百万円と同 2 億円（17.0%）減少したことが主な要因です。

（経常収益）

平成 28 年度の経常収益は 102 億 70 百万円と前年度比 2 億 50 百万円（2.4%）の減少となりました。国からの運営費交付金が削減されていることや中期目標期間初年度のため繰越事業がなかったこと等により、運営費交付金の収益化額が 64 億 19 百万円と同 2 億 1 百万円（3.0%）減少したこと、東京国立博物館及び京都国立博物館において共催展入場料収入が伸び悩み、入場料収入が 9 億 9 百万円と同 1 億 80 百万円（16.6%）減少したことが主な要因です。

（当期総利益）

以上による経常利益 1 億 8 百万円に、臨時損失 5 百万円と臨時利益 5 百万円を差し引きし、前中期目標期間繰越積立金取崩額 55 百万円を加え、平成 28 年度当期総利益は前年度比 25 百万円（18.2%）増加の 1 億 64 百万円となりました。臨時損失及び臨時利益は工具器具備品等の除却に伴う除却損と戻入益です。前中期目標期間繰越積立金取崩額は、たな卸資産及び前渡金に係る利益の繰延分として積立てた額 37 百万円、業務拡充積立金相当分 16 百万円の取崩が主な要因です。

（業務活動によるキャッシュ・フロー）

平成 28 年度の業務活動によるキャッシュ・フローでは、収入が 16 億 51 百万円と前年度比 9 億 91 百万円（37.5%）減少しました。人件費支出が 43 億 52 百万円と同 2 億 38 百万円（5.8%）増加したこと、消費税等支払額が 2 億 35 百万円と同 1 億 40 百万円（149.7%）増加したこと、運営費交付金収入が 83 億 87 百万円と同 52 百万円（0.6%）減少したこと、展示事業等収入が 13 億 70 百万円と同 94 百万円（6.5%）減少したこと、国庫納付金を 3 億 69 百万円支払ったことが主な要因です。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

平成 28 年度の投資活動によるキャッシュ・フローでは、支出が 25 億 69 百万円と前年度比 2 億 34 百万円（8.4%）減少しました。有形固定資産の取得による支出が 32 億 85 百万円と同 29 億 55 百万円（47.4%）減少したこと、施設費による収入が 11 億 90 百万円と同 18 億 52 百万円（60.9%）減少したこと、定期預金を 4 億 33 百万円預け入れたことが主な要因です。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

平成 28 年度の財務活動によるキャッシュ・フローでは、支出が 26 百万円と前年度比 8 百万円（23.2%）減少しました。当該区分は、リース債務の支払による支出のみであり、同支払の減少によるものです。

③　セグメント総資産の経年比較・分析

セグメント総資産の経年比較　（単位：百万円）

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
国立博物館等の事業	198,547	206,975	206,237	206,342	205,639
文化財研究所等の事業	12,677	12,471	12,386	13,793	14,628
共　通	8,932	611	1,417	1,299	2,727
合　　計	220,156	220,058	220,040	221,434	222,994

（参考）施設別総資産の経年比較　（単位：百万円）

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
東京国立博物館	89,786	92,548	93,585	94,163	93,924
京都国立博物館	51,806	56,092	54,385	53,928	53,253
奈良国立博物館	30,512	31,725	31,607	31,296	31,467
九州国立博物館	26,443	26,610	26,660	26,955	26,995
東京文化財研究所	6,605	6,508	6,216	6,245	5,908
奈良文化財研究所	6,016	5,897	6,092	7,472	8,639
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	56	66	78	76	81
共　通	8,932	611	1,417	1,299	2,727
合　　計	220,156	220,058	220,040	221,434	222,994

総資産は 2,229 億 94 百万円と前年度比 15 億 60 百万円（0.7%）増加しました。国立博物館等の事業では同 7 億 3 百万円（0.3%）の減少、文化財研究所等の事業では同 8 億 35 百万円（6.0%）の増加となりました。

以下、施設別に概況について報告いたします。

東京国立博物館においては 939 億 24 百万円と同 2 億 38 百万円（0.3%）減少しました。主な資産としては、減価償却により建物が 152 億 30 百万円と同 10 億 15 百万円（6.2%）減少、収蔵品が 497 億 58 百万円と同 7 億 90 百万円（1.6%）増加しました。

京都国立博物館においては 532 億 52 百万円と同 6 億 75 百万円（1.3%）減少しました。主な資産としては、減価償却により建物が 165 億 11 百万円と同 9 億 68 百万円（5.5%）減少、収蔵品が 258 億 1 百万円と同 6 億 3 百万円（2.4%）増加しました。

奈良国立博物館においては 314 億 66 百万円と同 1 億 71 百万円（0.5%）増加しました。主な資産としては、なら仏像館の完成により建物が 64 億 1 百万円と同 7 億 11 百万円（12.5%）増加、建設仮勘定の振替によりその他の固定資産が 4 億 19 百万円と同 4 億 86 百万円（53.7%）減少しました。

九州国立博物館においては 269 億 94 百万円と同 39 百万円（0.1%）増加しました。主な資産としては、減価償却により建物が 84 億 53 百万円と同 3 億 90 百万円（4.4%）減少、収蔵品が 172 億 27 百万円と同 7 億 54 百万円（4.6%）増加しました。

東京文化財研究所においては 59 億 8 百万円と同 3 億 36 百万円（5.4%）減少しま

した。主な資産としては、減価償却により建物が 27 億 54 百万円と同 99 百万円(3.5%)減少、積立金国庫納付等の現預金減少により流動資産が 2 億 55 百万円と同 1 億 65 百万円（39.3%）減少しました。

奈良文化財研究所においては 86 億 39 百万円と同 11 億 67 百万円（15.6%）増加しました。主な資産としては、本庁舎建替工事に伴う建設仮勘定の増加により、その他の固定資産が 38 億 26 百万円と同 13 億 53 百万円（54.7%）増加しました。

アジア太平洋無形文化遺産研究センターにおいては、総資産が 80 百万円となりました。建物は借用しており、資産のほとんどは現金預金及び未収金となります。

共通は、機構本部事務局その他の資産であり、27 億 27 百万円と同 14 億 27 百万円（109.9%）増加しました。主な資産としては、施設整備費補助金の未収金等により流動資産が 26 億 91 百万円と同 14 億 36 百万円（114.5%）増加しました。

④　セグメント事業損益の経年比較・分析

セグメント事業損益の経年比較　（単位：百万円）

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
国立博物館等の事業	60	2	112	62	75
文化財研究所等の事業	12	4	13	21	14
共通	2	18	98	16	20
合　　計	74	23	223	99	109

（参考）施設別事業損益の経年比較　（単位：百万円）

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
東京国立博物館	20	2	25	41	52
京都国立博物館	5	2	72	4	1
奈良国立博物館	0	1	−0	13	9
九州国立博物館	35	−3	15	4	13
東京文化財研究所	10	4	6	18	11
奈良文化財研究所	1	0	5	1	3
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	1	0	2	2	−0
共通	2	18	98	16	20
合　　計	74	23	223	99	109

事業損益は 1 億 8 百万円の利益と前年度比 9 百万円（9.6%）増加しました。国立博物館等の事業では同 13 百万円（21.0%）の増加、文化財研究所等の事業では同 7 百万円（33.3%）の減少となりました。

以下、施設別に概況について報告いたします。

東京国立博物館においては、51 百万円の利益と同 10 百万円（25.8%）増加しました。これは事業費用が 28 億 8 百万円と同 1 億 41 百万円（5.3%）増加、事業収益が 28 億 60 百万円と同 1 億 51 百万円（5.6%）増加したことの差し引きによります。事業費用の増加は、仮設収蔵庫建設に伴う埋蔵文化財調査等により一般管理経費が 4 億 28 百万円と同 1 億 21 百万円（39.6%）増加したことが主な要因です。事業収益の増加についても同様の理由により施設費収益が 2 億 35 百万円と同 1 億 93 百万円（458.8%）増加したことが主な要因です。

京都国立博物館においては、1 百万円の利益と同 2 百万円(64.4%)減少しました。これは事業費用が 11 億 34 百万円と同 2 億 75 百万円（19.6%）減少、事業収益が 11

億35百万円と同2億78百万円（19.7%）減少したことの差し引きによります。事業費用の減少は、昨年度に文化財保存修理所改修工事により増加していた一般管理経費が1億50百万円と同2億29百万円（60.3%）減少したことが主な要因です。事業収益の減少は同様の理由により施設費収益が42百万円と同92百万円（68.5%）、資産見返負債戻入が1億81百万円と同1億28百万円（41.5%）減少したことが主な要因です。

奈良国立博物館においては、8百万円の利益と同4百万円(31.3%)減少しました。これは事業費用が10億53百万円と同21百万円（2.1%）増加、事業収益が10億62百万円と同17百万円（1.7%）増加したことの差し引きによります。事業費用の増加は、常勤職員退職手当等により一般人件費が1億5百万円と同16百万円（18.4%）増加したことが主な要因です。事業収益の増加は、入場料収入が1億99百万円と同18百万円（8.6%）減少したこと、なら仏像館完成に伴い資産見返負債戻入が90百万円と同30百万円（50.4%）増加したことの差し引きが主な要因です。入場料収入については、なら仏像館がリニューアルオープンしたことに伴い平常展入場料収入が同17百万円増加しましたが、自主企画展入場料収入(正倉院展)が同19百万円減少、共催展入場料収入が同16百万円減少したことにより差し引きで減少となりました。

九州国立博物館においては、13百万円の利益と同8百万円（201.9%）増加しました。これは事業費用が13億70百万円と同1億62百万円（10.6%）減少、事業収益が13億83百万円と同1億53百万円(10.0%)減少したことの差し引きによります。事業費用の減少は、運営費交付金による事業を見直したこと等により業務経費が7億10百万円と同1億28百万円（15.3%）減少したこと、昨年度開館10周年事業経費が発生していたこと等により一般管理経費が64百万円と同45百万円（41.2%）減少したことが主な要因です。事業収益の減少も同様の理由により運営費交付金収益が9億70百万円と同1億66百万円（14.6%）減少したことが主な要因です。

東京文化財研究所においては、10百万円の利益と同7百万円（40.4%）減少しました。これは事業費用が12億11百万円と同1億82百万円（13.1%）減少、事業収益が12億22百万円と同1億90百万円（13.5%）減少したことの差し引きによります。事業費用の減少は、退職手当の減少等により業務人件費が4億70百万円と同83百万円（15.0%）、受託研究の減少等により業務経費が4億52百万円と同81百万円（15.2%）減少したことが主な要因です。事業収益の減少は、受託研究の減少により受託収入が1億58百万円と同1億円（38.9%）減少したこと、運営費交付金収益が9億4百万円と同96百万円（9.7%）減少したことが主な要因です。

奈良文化財研究所においては、2百万円の利益と同2百万円（335.0%）増加しました。これは事業費用が20億70百万円と同1億42百万円（7.4%）増加したこと、事業収益が20億73百万円と同1億44百万円（7.5%）増加したことの差し引きによります。事業費用の増加は、受託研究の増加等により業務経費が8億92百万円と同1億64百万円（22.6%）増加したことが主な要因です。事業収益の増加は、受託研究の増加により受託収入が3億45百万円と同1億19百万円（52.7%）増加したことが主な要因です。

アジア太平洋無形文化遺産研究センターにおいては、16万円の損失となりました。これは、事業費用が1億22百万円と同30百万円（33.6%）増加、事業収益が1億21百万円と同28百万円（30.8%）増加したことの差し引きによります。

共通は、本部事務局その他の損益で19百万円の利益と同4百万円（26.1%）増加

しました。これは、事業費用が 3 億 91 百万円と同 25 百万円（7.0%）増加し、事業収益が 4 億 11 百万円と同 29 百万円（7.8%）増加したことの差し引きによります。事業費用の増加は、退職手当の増加により一般人件費が 2 億 52 百万円と同 41 百万円（19.6%）増加したことが主な要因です。事業収益の増加は、同様の理由により運営費交付金収益が 3 億 34 百万円と同 18 百万円(5.8%)増加したことが主な要因です。

④ 積立金の申請、目的積立金の取崩内容

当期未処分利益 1 億 64 百万円については、経常利益 1 億 8 百万円について目的積立金として申請する予定です。前中期目標期間繰越積立金取崩額 55 百万円は、たな卸資産及び前渡金に係る利益の繰延分として積立てた額 37 百万円、業務拡充積立金相当分 16 百万円の取崩などです。

⑤ 行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析

行政サービス実施コストの経年比較　（単位：百万円）

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
業務費用	6,463	6,847	7,780	7,873	7,538
損益計算書上の費用	8,801	9,282	10,157	10,570	10,166
（控除）自己収入等	−2,338	−2,434	−2,377	-2,697	-2,628
損益外減価償却相当額	2,882	3,265	3,617	4,120	3,330
損益外除売却差額相当額	35	151	1	28	10
損益外減損損失相当額	−	295	−	−	−
引当外賞与見積額	5	21	−1	14	5
引当外退職給付増加見積額	105	−76	−97	-94	-77
機会費用	1,207	1,398	922	138	269
行政サービス実施コスト	10,697	11,900	12,222	12,080	11,075

平成 28 年度の行政サービス実施コストは 110 億 75 百万円と、前年度比 10 億 4 百万円（8.3%）減少しました。これは、業務費用が 75 億 38 百万円と同 3 億 35 百万円(4.3%)、損益外減価償却相当額が 33 億 29 百万円と同 7 億 90 百万円(19.2%)、損益外除売却差額相当額が 9 百万円と同 18 百万円（65.7%）、引当外賞与見積額が 5 百万円と同 8 百万円（60.9%）減少したこと、引当外退職給付増加見積額が△76 百万円と同 17 百万円（18.5%）、機会費用が 2 億 69 百万円と同 1 億 31 百万円（95.0%）増加したことの差し引きによります。

(2) 重要な施設等の整備等の状況

① 当事業年度中に完成した主要施設等

＜東京国立博物館＞

柳瀬荘黄林閣屋根茅葺工事

＜奈良国立博物館＞

なら仏像館免震展示ケース等整備工事

② 当事業年度において継続中の主要施設等の新設・拡充

＜東京国立博物館＞

仮設収蔵庫等整備工事

＜京都国立博物館＞
本館収蔵庫改修等工事
＜奈良文化財研究所＞
本庁舎建替工事

③ 当事業年度中に処分した主要施設等
該当なし

(3) 予算及び決算の概要

① 国立文化財機構（過去５ヵ年の推移）　（単位：百万円）

区　分	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		差額理由
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	
《収入》											
運営費交付金	7,602	7,366	8,392	8,392	8,239	8,239	8,441	8,441	8,387	8,387	
施設整備費補助金	6,884	10,273	2,854	6,830	2,990	3,157	2,921	2,757	1,335	2,495	繰越予算
文化芸術振興費補助金	－	－	－	5	－	205	－	179	－	177	文化庁補助金交付決定
政府開発援助ユネスコ活動費補助金	－	－	－	10	－	8	－	5	－	5	文部科学省補助金交付決定
展示事業等収入	1,309	1,587	1,322	1,240	1,323	1,730	1,323	1,817	1,475	1,715	展示事業附帯収入増加
受託収入	26	634	26	625	26	541	26	630	577	659	当初見込外契約の増加
その他寄附金等	－	200	－	172	－	790	－	796	350	754	賛助会等
合　計	15,821	20,060	12,594	17,274	12,578	14,670	12,710	14,625	12,124	14,192	
《支出》											
運営事業費	8,911	8,856	9,714	9,720	9,562	10,288	9,763	10,982	9,862	9,640	
・人件費	3,078	2,806	2,781	2,900	3,101	3,137	3,250	3,322	3,472	3,391	退職手当繰越等
・業務経費	5,833	6,050	6,933	6,820	6,461	7,151	6,513	7,660	6,390	6,249	消費税納付額減少等
施設整備費	6,884	10,273	2,854	6,830	2,990	3,157	2,921	2,757	1,335	2,495	
文化芸術振興費	－	－	－	5	－	205	－	179	－	177	
政府開発援助ユネスコ活動費	－	－	－	10	－	8	－	5	－	5	
受託事業費	26	620	26	611	26	539	26	627	577	655	
その他寄附金等	－	－	－	－	－	－	－	－	350	471	事業拡充
合　計	15,821	19,749	12,594	17,176	12,578	14,197	12,710	14,551	12,124	13,443	

(4) 経費削減及び効率化に関する目標及びその達成状況

① 経費削減及び効率化目標

機構においては、当中期目標期間終了年度における一般管理費を、前中期目標期間の最終年度に比べて、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き 5 年期間中で一般管理費 15%以上の削減を目標としております。

この目標を達成するため、具体的には下記の措置を講じています。

1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化

2) 計画的なアウトソーシング

3) 使用資源の減少

・省エネルギー

・廃棄物減量化
・リサイクルの推進

② 経費削減及び効率化目標の達成度合いを測る財務諸表等の科目（費用等）の経年比較

一般管理費の経年比較　（単位：百万円）

区　分	前中期目標期間終了年度		当中期目標期間									
	金額	比率	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度		平成 32 年度	
			金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
一般管理費	1,080	100%	831	76.9%								

※比率は対前中期目標期間終了年度

５．事業の説明

(1) 財源の内訳

① 内訳（補助金、運営費交付金、借入金、債券発行等）

機構の経常収益は 102 億 70 百万円で、その内訳は、運営費交付金収益 64 億 19 百万円（62.5%）、受託収入 6 億 59 百万円（6.4%）、入場料収入 9 億 9 百万円（8.9%）、展示事業等附帯収入 5 億 5 百万円（4.9%）、財産利用収入 2 億 85 百万円（2.8%）、寄附金収益 2 億 99 百万円（2.9%）、施設費収益 2 億 84 百万円（2.8%）、その他補助金収益 1 億 81 百万円（1.8%）、資産見返負債戻入 7 億 9 百万円（6.9%）等です。

② 自己収入の明細（自己収入の概要、収入先等）

機構では、年間を通じて博物館を開館し、収蔵品を観覧に供する外、年複数回の特別展覧会を開催し、今年度は 9 億 9 百万円の入場料収入を得ています。この外に展示事業等附帯収入として 5 億 5 百万円を得ています。主な内訳としては、年間パスポート販売 1 億 38 百万円、ミュージアムショップやレストランの販売手数料収入 56 百万円、科学研究費補助金間接経費収入 81 百万円などです。また財産利用収入として 2 億 85 百万円を得ています。主な内訳としては、文化財画像利用等に伴う版権・特許権使用料 53 百万円、ショップやレストラン等の建物年間貸付料 60 百万円、イベント等の建物貸付料 75 百万円などです。

(2) 財務情報及び業務の実績の説明

① 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信（国立博物館等の事業）

ア 有形文化財の収集・保管、次代への継承（収集保管事業）

収集保管事業は、文化財機構が設置する東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館（以下総称して「国立博物館」という。）において、収集保管のための施設設備を適切に維持管理するとともに、建物の歴史文化的価値を考慮に入れたメンテナンスサイクルを構築すること、調査研究の成果に基づき体系的・通史的にバランスのとれた有形文化財（美術工芸品）（以下①において「有形文化財」という。）を計画的に収集すること、有形文化財の状態に応じた適切な保存展示環境や管理に必要なデータを整えるとともに必要な修理等を施すことにより、有形文化財の収集・保管、次代への継承を行うことを目的としています。

事業に要した費用は 3 億 76 百万円です。その財源は運営費交付金 2 億 16 百万円及び自己収入等 1 億 60 百万円です。

イ 展覧事業（展覧事業）

展覧事業は、国立博物館が保管する有形文化財（以下「収蔵品等」という。）についての専門的な調査研究に基づき、収蔵品等の状態に留意しつつ可能な限り多くを平常展で展示し、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与すること、収蔵品等以外の文化財を含めた調査研究の成果を基にした特定テーマの特別展や国際文化交流の進展を目的とした特別展を計画的に開催し、文化財のより広い深い理解に寄与すること、施設やサービス、運営等の観覧環境の向上に努め、外国人を含めた来館者の満足度を高めることにより、有形文化財を活用し、歴史・伝統文化を国内外へ発信することを目的としています。

事業に要した費用は 18 億 30 百万円です。その財源は運営費交付金 8 億 3 百万円及び自己収入等 10 億 27 百万円です。

ウ 教育普及活動等（教育普及事業）

教育普及事業は、講演会等の実施や各種図録の出版、学校との連携事業の実施、ボランティアの受入れ、展覧事業及び各種事業に関する広報、ウェブサイトにおける収蔵品等情報の公開等により、収集保管事業や展覧事業等の国立博物館の多様な業務を広く普及することを目的としています。

事業に要した費用は 77 百万円です。その財源は運営費交付金 19 百万円及び自己収入等 58 百万円です。

エ 有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究（博物館研究事業）

博物館研究事業は、有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等その他事業を行うための基礎となる調査研究活動の計画的な実施、国内外の博物館等との学術交流の進展に資することを目的としたシンポジウム等の開催や学術交流等を通じて、有形文化財の保存と活用を促進し、有形文化財の次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与することを目的としています。

事業に要した費用は 2 億 42 百万円です。その財源は運営費交付金 1 億 52 百万円及び自己収入等 90 百万円です。

オ 国内外の博物館活動への寄与（博物館支援事業）

博物館支援事業は、国内外の博物館等への有形文化財の貸与、専門的・技術的な協力等を行うことにより、国立の文化施設として国内外の博物館活動に寄与することを目的としています。

事業に要した費用は 1 億 18 百万円です。その財源は運営費交付金 25 百万円及び自己収入等 93 百万円です。

② 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施（文化財研究所等の事業）

ア 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究（基礎研究事業）

基礎研究事業は、有形文化財（美術工芸品、建造物）（以下②において「有形文化財」という。）及び伝統的建造物群に関する調査研究、無形文化財・無形民俗文化財等に関する調査研究、記念物・文化的景観・埋蔵文化財に関する調査研究を行い、文化財をよりよい状態で将来に継承するための新たな知見の開拓につながる研究基盤等の蓄積を行うことを目的としています。

事業に要した費用は 3 億 21 百万円です。その財源は運営費交付金 2 億 95 百万円及び自己収入等 26 百万円です。

イ 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究（応用研究事業）

応用研究事業は、文化財の調査研究に最先端の科学技術を積極的に応用することにより、

文化財の調査手法や文化財の保存修復及び保存技術等に関する研究の進展を図り、文化財をよりよい状態で将来に継承するための調査研究の精度を高めることを目的としています。

事業に要した費用は 1 億 16 百万円です。その財源は運営費交付金 1 億 10 百万円及び自己収入等 6 百万円です。

ウ 文化遺産保護に関する国際協働（国際遺産保護事業）

国際遺産保護事業は、「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律」及び同法に基づく「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針」に掲げる国立文化財機構の役割を踏まえ、文化遺産保護の国際協力を推進するとともに、国際協力推進体制について中核的な役割を果たすこと、及びアジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究を行うことにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献することを目的としています。

事業に要した費用は 88 百万円です。その財源は運営費交付金 76 百万円及び寄附金等 12 百万円です。

エ 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用（情報公開事業）

情報公開事業は、文化財に関する情報及び図書・雑誌等を収集・整理し、公開すること、調査研究の成果を刊行物や講演会等を通じて広く公表するとともに平城宮跡資料館・飛鳥資料館等の公開施設において公開すること、調査研究に関する論文等についてウェブサイトでの公開を進めることにより、文化財に関する研究の進展や行政事務の効率化に資することを目的としています。

事業に要した費用は 2 億 49 百万円です。その財源は運営費交付金 2 億 10 百万円及び自己収入等 39 百万円です。

オ 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等（研修協力事業）

研修協力事業は、地方公共団体等の職員を対象とした有形文化財・記念物等の保存及び修復に関する研修並びに埋蔵文化財等に関する各種研修について、研修項目、課程等の体系を示し、地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定し実施すること、文化財に関する国・地方公共団体の行政事務や博物館の業務等に関する依頼等について専門的・技術的見地から協力等を行うことにより、我が国の文化財の調査研究の質的向上に寄与することを目的としています。

事業に要した費用は 86 百万円です。その財源は運営費交付金 29 百万円及びその他補助金等 57 百万円です。

③ 受託事業

受託事業は、有形文化財の保護並びに文化財に関する専門的又は技術的事項に関する調査研究等を行う唯一の国立機関として、国や地方公共団体等の要請に応じ、我が国の文化財保護行政を推進するうえで必要な調査研究や発掘調査等の事業を適切に実施することを目的としています。

事業に要した費用は 6 億 51 百万円です。その財源は受託収入のみです。

６．事業等のまとまりごとの予算・決算の概況

平成 28 年度事業等のまとまりごとの予算・決算の概況　（単位：百万円）

区　分	国立博物館等		文化財研究所等		合　計		差額理由
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	
《収入》							
運営費交付金	5,843	5,837	2,544	2,550	8,387	8,387	
施設整備費補助金	1,305	1,078	30	1,417	1,335	2,495	繰越予算
文化芸術振興費補助金	－	127	－	50	－	177	文化庁補助金交付決定
政府開発援助ユネスコ活動費補助金	－	0	－	5	－	5	文部科学省補助金交付決定
展示事業等収入	1,410	1,646	65	69	1,475	1,715	財産利用収入等増加
受託収入	29	104	548	555	577	659	当初見込み以外の契約
その他寄附金等	338	640	12	114	350	754	賛助会等
合　計	8,925	9,432	3,199	4,760	12,124	14,192	
《支出》							
運営事業費	7,253	7,047	2,609	2,593	9,862	9,640	
管理経費	1,514	1,246	478	432	1,992	1,678	
人件費	764	627	288	220	1,052	847	退職手当
一般管理費	750	619	190	212	940	831	消費税納付額減少等
業務経費	5,739	5,801	2,131	2,161	7,870	7,962	
人件費	1,388	1,494	1,032	1,050	2,420	2,544	
収集保管事業費	2,100	1,720	0	0	2,100	1,720	寄附金による事業の実施
展覧事業費	1,730	2,046	0	0	1,730	2,046	夜間開館等
教育普及事業費	91	102	0	0	91	102	自己収入による事業拡充
博物館研究事業費	394	395	0	0	394	395	
博物館支援事業費	36	44	0	0	36	44	自己収入による事業拡充
基礎研究事業費	0	0	480	466	480	466	
応用研究事業費	0	0	107	171	107	171	予算組替
国際遺産保護事業費	0	0	163	115	163	115	予算組替
情報公開事業費	0	0	330	324	330	324	
研修協力事業費	0	0	19	35	19	35	予算組替
施設整備費	1,305	1,078	30	1,417	1,335	2,495	
文化芸術振興費	－	127	－	50	－	177	
政府開発援助ユネスコ活動費	－	0	－	5	－	5	
受託事業費	29	101	548	554	577	655	
その他寄附金等	338	347	12	124	350	471	事業拡充
合　計	8,925	8,700	3,199	4,743	12,124	13,443	

以　上

Ⅴ　評価

独立行政法人国立文化財機構の
平成２８年度における業務の実績に関する評価

平成２９年８月

文部科学大臣

様式１－１－１　中期目標管理法人　年度評価　評価の概要

１．評価対象に関する事項		
法人名	独立行政法人国立文化財機構	
評価対象事業年度	年度評価	平成 28 年度（第 4 期）
	中期目標期間	平成 28～32 年度

２．評価の実施者に関する事項				
主務大臣		文部科学大臣		
	法人所管部局	文化庁文化財部美術学芸課	担当課、責任者	美術学芸課、圓入由美
	評価点検部局	大臣官房政策課	担当課、責任者	政策課、岡村直子

３．評価の実施に関する事項
・監事ヒアリングを実施し、監査の実施状況について確認するとともに法人の業務運営に係る意見交換を行った（平成２９年７月１８日） ・法人ヒアリングを実施し、２８年度自己評価について説明を受けるとともに意見交換を行った（平成２９年７月２５日） ・独立行政法人国立文化財機構の評価等に関する有識者会議委員とともに東京国立博物館に赴き展示、収蔵、保存・修復の状況について調査した（平成２９年８月３日） ・有識者会議委員に評価結果案を諮り、意見を聴取した（書面審議予定）。

４．その他評価に関する重要事項
特になし。

５．独立行政法人国立文化財機構の評価等に関する有識者会議　委員名簿	
坂　井　　秀　弥	奈良大学文学部教授（専門分野：考古学）
佐　野　　みどり	学習院大学文学部教授（専門分野：日本絵画史）
園　田　　直　子	国立民族学博物館文化資源研究センター教授（専門分野:保存科学）
竹　本　　幹　夫	早稲田大学文学部教授（専門分野:演劇学）
筑　紫　　みずえ	㈱グッドバンカー代表取締役社長
丸　山　　伸　彦	武蔵大学人文学部教授（専門分野：染織史）
宮　島　　博　和	公認会計士

様式１－１－２　中期目標管理法人　年度評価　総合評定

１．全体の評定						
評定※ （S、A、B、C、D）	B	（参考）本中期目標期間中における過年度の総合評定の状況				
		２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
		B				
評定に至った理由	法人全体の評価に示すとおり、全体として中期計画及び年度計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。					

２．法人全体に対する評価	
法人全体の評価	東京、京都、奈良、九州（福岡・太宰府）の四つの国立博物館は、国民共有の貴重な財産である有形文化財を収集し、適切な環境で保管し又必要な修復等を行っている。平常展は来館者数、陳列替等の計画値を達成しており、また特別展も計画回数以上に開催し、目標数を上回る来館者の実績が上がっている。これらの活動を支える調査研究、教育活動、情報の発信等も所期の成果を挙げているものと認められる。 東京及び奈良の文化財研究所は、文化財に関する基礎的・体系的及び科学的・先端的な調査研究を行うとともに、新たな調査手法の研究開発等を継続して行っている。いずれの調査研究も、年度計画に従い着実に実施されていると認められる。さらに、これらに関する情報・資料の収集・整備及び成果の公開並びに国際協力の推進についても、計画に従い着実に実施されている。 アジア太平洋無形文化遺産センターは、日本国政府とユネスコの協定に基づく活動を計画的に実施している。 業務運営の効率化、財務内容の改善、施設・設備に関する計画及び人事に関する計画については、年度計画に従い着実に実施されている。
全体の評定を行う上で特に考慮すべき事項	特に全体の評価に影響を与える事象は無かった。

３．項目別評価における主要な課題、改善事項など	
項目別評定で指摘した課題、改善事項	特になし。
その他改善事項	特になし。
主務大臣による改善命令を検討すべき事項	特になし。

４．その他事項	
監事等からの意見	特になし。
その他特記事項	特になし。

※　S：中期目標管理法人の活動により、全体として中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる。A：中期目標管理法人の活動により、全体として中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる。
B：全体としておおむね中期計画における所期の目標を達成していると認められる。C：全体として中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する。D：全体として中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める。

様式１－１－３　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定総括表

中期目標（中期計画）	年度評価※ 28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	項目別調書№.	備考
Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項							
１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	－					－	
（１）有形文化財の収集・保管、次代への継承	－					－	
①国立博物館の施設設備の整備	B					1−1−(1)	
②有形文化財の収集等	B					1−1−(2)	
③有形文化財の管理・保存・修理等	－					－	
有形文化財の管理、保存	B					1−1−(3)	
有形文化財の修理等	B					1−1−(4)	
（２）展覧事業	－					－	
①展覧事業（平常展・特別展等）	B					1−2−(1)	
②観覧環境の向上等	B					1−2−(2)	
（３）教育・普及活動	－					－	
①教育活動の充実等	B					1−3−(1)	
②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実	B					1−3−(2)	
（４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	－					－	
①有形文化財に関連する調査研究	B					1−4−(1)	
②国内外の博物館等との学術交流等	B					1−4−(2)	
③調査研究成果の公表	B					1−4−(3)	
（５）国内外の博物館活動への寄与	－					－	
（３）文化遺産保護に関する国際協働	－					－	
①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進	B					1−8−(1)	
②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	B					1−8−(2)	
（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	A					1−9	
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	－					－	
①地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	B					1-10-(1)	
②平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力	A					1-10-(2)	
③文化財等の防災・救援等への寄与	A					1-10-(3)	
Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項							
組織体制の見直し	B					2-1-(1)	
人件費管理等の適正化	B					2-1-(2)	
契約・調達方法の適正化	B					2-1-(3)	
一般管理費の削減	B					2-1-(4)	
業務の電子化	B					2-2	
予算執行の効率化	B					2-3	
Ⅲ　財務内容の改善に関する事項							
自己収入拡大への取組	B					3−1	
決算情報・セグメント情報の充実等	B					3−2	

	①国内外の博物館等への有形文化財の貸与	B					1−5−(1)		Ⅳ 予算、収支計画及び資金計画								
	②国内外の博物館等への援助・助言等	B					1−5−(2)		予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	B					4−1	
	２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	−					−		Ⅴ その他の事項								
	（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	B					1−6		内部統制	B					5−1	
	（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	−					−		自己評価・情報セキュリティ対策	B					5−2	
	① 文化財の調査手法に関する研究開発の推進	B					1−7−(1)		施設設備に関する計画	B					5−3	
	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究	B					1−7−(2)		人事に関する計画	B					5−4	

※評定は、「文部科学省所管の独立行政法人の評価に関する基準」（平成２７年６月文部科学大臣決定）に基づく。詳細は下記の通り。

Ｓ：中期目標管理法人の活動により、中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 120%以上で、かつ質的に顕著な成果が得られていると認められる場合）。
Ａ：中期目標管理法人の活動により、中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 120%以上とする。）。
Ｂ：中期計画における所期の目標を達成していると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 100%以上 120%未満）。
Ｃ：中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 80%以上 100%未満）。
Ｄ：中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 80%未満、又は主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合）。

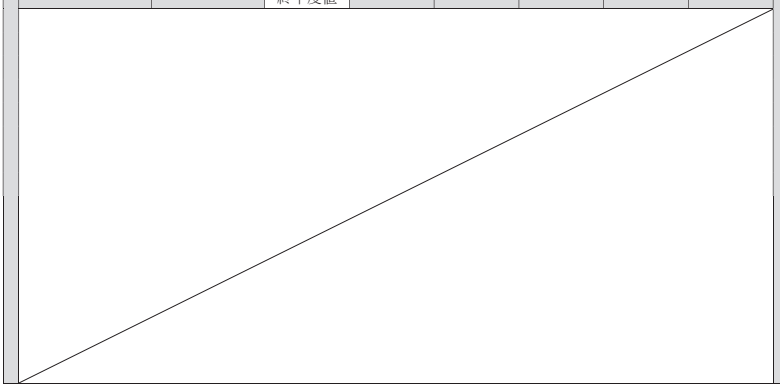
様式１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－１－（１）	Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （１）有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①国立博物館の施設設備の整備				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第１２条 第１号	業務に関連する政策・施策	１２　文化による心豊かな社会の実現 １２－２　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号　０３６６

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等	達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度



②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	1,304,867				
決算額（千円）	1,077,644				
参考決算額（千円）					
経常費用（千円）					
経常利益（千円）					
行政サービス実施コスト（千円）					
従事人員数（人）	85				

※予算額は個別に計上することができないため、年度当初の施設整備費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、施設整備費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差は、過年度予算の平成 28 年度への繰り越しと平成 28 年度予算の平成 29 年度への繰越の差額によるもの。
※従事人員数は東京国立博物館の総務部及び京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館の各総務課の常勤事務職員の人数を計上している。

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価						
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
				業務実績	自己評価	
１　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （１）有形文化財の収集・保管、次代への継承	１　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （１）有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①博物館の施設設備の整備 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。	１　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （１）有形文化財の収集・保管，次代への継承 ①博物館の施設設備の整備 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。	【指標】 中期目標の期間の最終年度（平成32年度）までに，収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルを確立すること。 〈目標水準の考え方〉 「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）平成27年3月」において，文部科学省は，各独立行政法人に対して，平成28年度までのできるだけ早い時期に行動計画を，平成32年度までに個別施設計画を策定するよう促すこととされている。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成28年度自己点検評価報告書 個別表 Ｐ１～４　1-(1)-① ＜主要な業務実績＞ ４館とも、メンテナンスサイクルの構築に伴う現状の把握や個々の施設の現況調査とそれらに基づく優先度設定等の具体の作業を進捗させた。 ・中庭に新棟と屋根を建設し、建物全体を免震構造とすること、創建当時の姿を適切に保持することなどを基本計画に盛り込んだ。（京博） ・東収蔵庫減築工事により各種控室対応を行う準備工事及び棚の再利用も含めた棚解体を実施した。明治古都館（本館）基本計画は引き続き審議を行う。（京博） ・なら仏像館展示室改修に伴い全ての照明をLED化した。また、熱源の一つである吸収式冷温水機を1台更新した。エントランス拡張整備計画の図面上の見直しを行うとともに、屋外舗装に使用しているピンコロ石の凹凸解消に向け、研磨処理試験施工を行った。（奈良博） ・監視カメラについて、特別展の開催していない時期に、展示室、エントランスを中心に監視カメラ設備をアナログ仕様からデジタル仕様に更新した。長期修繕計画の検討委員会を立ち上げ、10年整備計画を策定するとともに、30年以降の詳細な実施計画の検討を行った。（九博）	＜自己評価書参照箇所＞ 平成28年度自己点検評価報告書個別表 Ｐ１～４　1-(1)-① ＜評定と根拠＞ 評定：B ４館とも、メンテナンスサイクルの構築に伴う現状の把握や個々の施設の現況調査とそれらに基づく優先度設定等の具体の作業を進捗させた。 京都国立博物館では、東収蔵庫減築工事により各種控室対応を行う準備工事及び棚の再利用も含めた棚解体を実施した。 九州国立博物館では、監視カメラの一部更新等を行い、長期保守計画を見据えた将来への投資を行うことができた。また収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けて検討を行い、10年修繕計画を策定した。 以上のことからＢ判定とした。 ＜課題と対応＞ 各館、各所でのメンテナンスサイクルの構築へ向けた取り組みを着実に実施しているが、実際のメンテナンスサイクル始動のためには、内部予算での必要最低限度の整備と施設整備補助金による段階的な更新整備の持続が必要不可欠であり、そのための推進体制の整備や予算要求の仕組み等の課題に対して取り組めておらず、今後検討を要する。	評定　B ＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 東京国立博物館（以下「東博」という。）、京都国立博物館（以下「京博」という。）、奈良国立博物館（以下「奈良博」という。）及び九州国立博物館（以下「九博」という。）４館とも、メンテナンスサイクルの構築に伴う現状の把握や個々の施設の現況調査とそれらに基づく優先度設定等の具体の作業を進捗させている。 ＜今後の課題・指摘事項＞ メンテナンスサイクルの構築へ向けた推進体制の整備や予算要求の仕組みを今後さらに検討し、更なる成果の積み上げに取り組んでいただきたい。 ＜有識者からの意見＞ ・恒常的メンテナンスサイクル確立のための予算要求の仕組み整備を発令すべきか。更新整備持続のための体制づくりは各博物館の課題となる。 ・収蔵・展示施設の老朽化への対応、耐震対策、セキュリティ強化、これからの課題にひきつづき計画的に取り組むとともに、長期的視点でのメンテナンスサイクルを検討する必要がある。そのため、予算要求は課題として残る。

４．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－１－（２）	Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （１）有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第１２条 第２号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
収蔵品件数（件）	（東博）	実績値	－	116,932	117,190				
	（京博）	実績値	－	7,532	7,794				
	（奈良博）	実績値	－	1,883	1,886				
	（九博）	実績値	－	525	583				
	（4館計）	実績値	－	126,872	127,453				
文化財購入費（百万円）	（東博）	実績値	－	226	662				
	（京博）	実績値	－	798	130				
	（奈良博）	実績値	－	140	5				
	（九博）	実績値	－	609	640				
	（4館計）	実績値	－	1,773	1,444				
寄託品件数（件）	（東博）	実績値	－	3,072	3,075				
	（京博）	実績値	－	6,112	6,189				
	（奈良博）	実績値	－	1,956	1,958				
	（九博）	実績値	－	885	905				
	（4館計）	実績値	－	12,056	12,127				

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	1,271,145				
決算額（千円）	1,437,890				
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	97				

※予算額は、４国立博物館の年度当初の文化財購入費の予算額を計上している。
※決算額は、４国立博物館の文化財購入費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は４国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
1　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （1）有形文化財の収集・保管，次代への継承	1　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （1）有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等	1　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （1）有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集各博物館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。 また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 2)寄贈・寄託品の受入れ等 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。また、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。	【中期目標・計画上の評価指標】 ・有形文化財（美術工芸品）の収集に関する取組状況（収集件数、文化財購入費、寄贈・寄託品件数） 〈目標水準の考え方〉 ・　国立博物館が購入する価値の高い有形文化財（美術工芸品）は，所有者等との直接交渉が必要であり，予算等との関係からも必ずしも計画どおりに購入できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P5～12　1.－(1)－② 平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表 P1～31　1.－(1)－② ＜主要な業務実績＞ 4館とも、各館の収集方針に沿って文化財の収集を行った。購入及び寄贈・寄託の受入においては、規程に従い、「鑑査会議」(東博・九博)、「陳列品鑑査会」(京博・奈良博)での審議を経て行っている。 ・収蔵品件数　127,453 件 28 年度新収品　525 件（うち購入 63 件、寄贈 318 件、編入 144 件）　※27 年度新収品 1,106 件 ・文化財購入費　1438 百万円　※27 年度 1,773 百万円（335 百万円減） ・寄託品件数　12,127 件 28 年度新規寄託 345 件、返却 243 件。 ※27 年度　12,056 件（71 件増） 各指標の詳細はアウトプット情報を参照。 購入 ・購入件数は 63 件（27 年度購入件数 43 件）であった。 ・購入文化財のうち代表的なものは、彩色画として 2 点しか知られていない 12 世紀の准胝仏母像の一つであり、最も院政期の仏画らしい優美さを示す優品である重要文化財「准胝仏母像」（東博）や、和様の書を大成した藤原行成筆の唯一現存する書状であり、東博所蔵の国宝「白氏詩巻」(B-2533）と本書状を合わせ、書を研究する上で最も重要な作品といえる重要文化財「書状」（東博）、重要文化財に指定された大小挿は本件を含めて 4 件しかなく、その存在は極めて貴重である重要文化財「金熨斗刻鞘大小挿」（京博）など。 寄贈 ・寄贈を受けた「玄奘三蔵像」は、現存作例のみでなく図像などでも類例のほとんどないこの種の画像の受容を考える上で、貴重な作例である。（東博） ・寄贈を受けた金工 29 件のうち 20 件は、大阪府の愛刀家蒐集一族からの寄贈で、「重要文化財「短刀　銘吉光（名物秋田藤四郎）」、「重要文化財　短刀　銘相州住秋広／永和二」、「重要文化財　短刀　銘左／筑州住」といずれも貴重な作品を含んでいる。29 年度には、同愛刀家が蒐集した名刀の数々を一同に展示する特集展示を平成知新館において開催予定である。（京博） ・「絹本著色仏涅槃図」の寄贈を受けた（奈良博） ・書跡分野では墨蹟「不生」1 件の寄贈があった。盤珪永琢は、長崎に渡来した黄檗僧・道者超元に悟りを認められ、以後「不生禅」を提唱した近世前期の名僧。本作品は、盤珪永琢の禅を象徴する「不生」の 2 字を自筆で横に大書したものである。（九博） 寄託 ・「鵜飼図屏風」など絵画 1 件、書跡 1 件、東洋陶磁 1 件の重要文化財の寄託を受けた。（東博） ・重要文化財「仏涅槃図」、重要文化財「普応国師像」の寄託を受けた。（京博） ・重要文化財「絹本著色八字文殊菩薩像及八大童子　善財童子像」の寄託を受けた。（奈良博）	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書　個別表 P5～12　1.－(1)－② ＜評定と根拠＞ 評定：B 4館とも、各館の収集方針に従い、国指定文化財を含む価値の高い文化財を多数収集した。 各館の特色に沿ったコレクションの形成をバランスよく行っており、収蔵品件数は、購入のほか寄贈の受け入れ等により順調に増加している。 内容や件数について、以下のとおり購入・寄贈・寄託それぞれについて大きな成果を挙げることができたため B 評定とした。 寄附金の活用や積立金により購入件数・質ともに高水準の実績を上げることができた。 寄贈については、重要文化財を含む計 318 件もの受入があり、質・量ともに順調である。 寄託については、重要文化財の新規受入を含む 102 件の増加となった。 寄託者・寄贈者とのこれまでの地道な信頼関係により、順調に寄贈寄託を受けることができた。博物館が担うべき文化財保存の役割を果たしつつ、文化財の調査を通じて所蔵者との良好な関係を継続することにより、博物館における展示及び調査研究の充実に繋げることができている。 ＜課題と対応＞ 文化財の調査等を通じた所蔵者との良好な関係の維持・発展により、今後も更に寄贈や寄託の充実を図っていく。	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 4館とも、各館の収集方針に沿って、国指定文化財を含む価値の高い文化財を多数収集している。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 文化財の調査等を通じて所蔵者との良好な関係を維持・発展していく必要がある。

4．その他参考情報

特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－１－（３）	Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （１）有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財（美術工芸品）の管理・保存・修理等 収蔵品の管理、保存				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第１２条 第２号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
各年度における収蔵施設の収容率(%)	（東博）	実績値	－	－	180				
	（京博）	実績値	－	－	100				
	（奈良博）	実績値	－	－	99				
	（九博）	実績値	－	－	80				
	（4館計）	実績値	－	－	-				
資料等のデジタル化件数（件）	（東博）	実績値	24,471	30,013	25,334				
	（京博）	実績値	3,816	5,966	5,820				
	（奈良博）	実績値	5,373	3,875	3,081				
	（3館計）	実績値	33,660	39,854	34,235				

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	1,304,867				
決算額（千円）	1,077,644				
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	97				

※予算額は、決算報告書・施設整備費の予算額を計上している。
※決算額は、決算報告書・施設整備費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、各年度間の繰越等によるものである。
※従事人員数は４国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
有形文化財（美術工芸品）の管理・保存・修理等 有形文化財（美術工芸品）の状態に応じて，収蔵施設の収容率，温湿度等の環境を一定の基準で管理し，必要に応じて改善等の措置に要する予算等の計画を策定すること。	③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 2)有形文化財の保存 3)有形文化財の修理 4)文化財修理施設等の運営	有形文化財の管理 収蔵品・寄託品等の管理を徹底するとともに、それらの増加に伴い収蔵等に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品・寄託品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を蓄積して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。	【指標】 ・収蔵施設等の改善等に係る取組状況 （各年度における収蔵施設の収容率） 〔目標水準の考え方〕 ・有形文化財の収蔵施設は，接触・転倒等の事故を防ぐとともに，文化財を適切な環境で保管するため，温湿度，照度，生物生息及び空気汚染等への対策を確実に行うことが求められている。このうち収容能力は収蔵品の増加に伴い不足していくことが避けられない。収容率は収蔵品数に大きく影響されるが購入・寄託・寄贈等による増加数の予測が困難であることから数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P13～24　1.－(1)－③－1)～1.－(1)－③－3) 平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表 P32～33　1.－(1)－③－1)～1.－(1)－③－3) ＜主要な業務実績＞ ・収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行った。 ・定期的に寄託品の所在確認作業を行った。 ・収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像は画像管理システムに随時登録し、データ整備を推進した。（4館） ・「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新した。（東博・京博・奈博） ・収蔵品等の生物被害等を防止するため、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）の徹底を図った。また、収蔵品を中心とした保存カルテを作成した。（4館） ・歴史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用・公開するための作業を進め、134 件を編入した。（東博） ・収蔵する和古書・漢籍について 20,224 件、洋古書について 5,110 件のデジタル撮影を行なった。（東博） ・平成知新館収蔵庫内の収蔵スペースを確保するため、29 年度設置予定の試作棚の製作を外部に依頼し、収蔵施設の充実、改善に向けた検討を行った。（京博） ・梱包用資材置き場を収蔵庫（資料庫 C）として転用した。（奈良博）	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P13～24　1.－(1)－③－1)～1.－(1)－③－3) ＜評定と根拠＞ 評定：B 収蔵品の管理・保存は、4館とも収蔵品・寄託品等の管理を徹底するとともに、それらの増加に伴い収蔵等に必要な施設設備の充実、改善を図った。 また、収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像は画像管理システムに随時登録し、データ整備を推進した。 博物館にとって収蔵品・寄託品の増加への対応は喫緊の課題であり、収蔵スペースの確保については、各館とも安全かつ効率的な収納について検討を継続し、対応している。 ＜課題と対応＞ 特になし	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 4館とも必要な施設設備の充実や改善に向けた検討を随時行っており、また画像管理システムへの登録等、文化財のデータ整備を推進している。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・収蔵品の増加にともなう収蔵施設の整備では、各館で工夫が見られる。博物館環境の整備、IPM の徹底への努力は地道であるが、作品の活用を支える基礎的な活動であり、大いに評価する。 ・公開されたデータベースは、確かに高精細ながら全体にならしてしまうと、分野ごとの公開された点数は少ない。

４．その他参考情報

特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－１－（４）	Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （１）有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財（美術工芸品）の管理・保存・修理等 有形文化財の修理等				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第１２条 第２号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

② 主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
修理件数（本格修理）（件）	（東博）	実績値	－	86	68				
	（京博）	実績値	－	12	14				
	（奈良博）	実績値	－	11	7				
	（九博）	実績値	－	22	18				
	（合計）	実績値	－	131	107				
修理のデータベース化件数	（東博）	実績値	－	90	61				
	（京博）	実績値	－	113	151				
	（奈良博）	実績値	－	66	62				
	（九博）	実績値	－	－	－				
	（合計）	実績値	－	269	274				

② 主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	114,262				
決算額（千円）	119,130				
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	45				

※予算額は、年度当初の文化財修理費の予算額を計上している。
※決算額は、文化財修理を外注した決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、契約差額である。
※従事人員数は４国立博物館の常勤管理・保存・修理担当職員の人数を計上している。

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
				業務実績	自己評価	
１　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （１）有形文化財の収集・保管，次代への継承 ③　有形文化財（美術工芸品）の管理・保存・修理等	１　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （１）有形文化財の収集・保管，次代への継承 ③　有形文化財（美術工芸品）の管理・保存・修理等	１　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （１）有形文化財の収集・保管，次代への継承 ③　有形文化財（美術工芸品）の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理 3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携のもと、緊急性の高いものから順次、計画的に修理する。 3)-2 科学的な技術を取り入れた修理 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 4)文化財修理施設等の運営 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。	【指標】 ・有形文化財（美術工芸品）の修理に関する取組状況 （修理件数，修理のデータベース化件数） （目標水準の考え方） ・有形文化財は，その状態に応じて，適切な時期に適切な処置を施さなければ，その価値を将来にわたって継承することができないことから修理等に関する方針を設け，それにしたがって計画的に取り組むべきである。 ・有形文化財に当たっては，専門的かつ高度な技術を要する外部の修復業者等との契約が必要であるが，予算措置の状況や相手方とのスケジュールの都合上，計画通りに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P25～36　1.-(1)-③-3)、　1.-(1)-③-4) 平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表 P34～51　　1.-(1)-③-3)、　1.-(1)-③-4) ＜主要な業務実績＞ 4 館とも、各館の修理計画に基づいて収蔵品の修理を行った。 ・修理件数（本格修理）　107 件 詳細はアウトプット情報を参照。 ・緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施した。(4 館) ・作品の劣化予防のために 500 件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから 68 件の本格修理を実施した。うち国宝 2 件、未指定品 2 件は寄附金による本格修理である。また、28 年度は国宝「埴輪　桂甲の武人」の修理に着手した（修理前調査開始）。(東博) ・重要文化財熊野懐紙附属品の応急修理を行い、劣化の予防に努めた。(京博) ・データベース構築のために、27 年度に修理が完了した 61 件の修理内容についてデジタル化を実施し、その成果をもとに『東京国立博物館文化財修理報告書 XVII』を刊行した。(東博) ・文化財保存修理所の窓枠のゴム等が劣化しつつあるため、点検を実施し必要に応じて交換を進めた。(奈良博) ・保存修復施設 2 の空調改善の検討を行い、空気が循環し易いよう給気拡散シートを設置した。また、27 年度に中二階を設置した当館保存修復施設 1 の温室度改善の検討を行い、空調センサーを増設した。(九博)	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書個別表 P25～36　1.-(1)-③-3)、　1.-(1)-③-4) ＜評定と根拠＞ 評定：B 緊急性の高い収蔵品等から計画的に本格修理を実施し、劣化予防の応急修理も行っている。また、最新の科学機器の活用を全館で行い、計画的な修理へ役立てている。収蔵品等の修理においては、寄附金や助成金を活用しており、各館とも適切に修理を実施することができた。 また、修理のデータベース化についても、収蔵品修理資料のデータベース化の調査、修理報告書サーバの更新等各種整備を継続して実施することができた。 ＜課題と対応＞ 特になし。	評定：B ＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 各館とも修理計画に基づいて、緊急性の高い収蔵品等から計画的に収蔵品の修理を実施し、目標値以上の修理実績をだしている。 また文化財保存修理書等の老朽化対策や空調改善の対策等も計画的に実施できている。、 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・計画的な修理は、学芸、保存科学、修復技術、それぞれの専門家の連携のもと、実施できている。今後、災害など突発的な事態への対応拠点としてのニーズがますます高まると思われ、その対策への準備がのぞまれる ・人材育成、設備、修理に要する和紙、裂など資材の確保等、将来に向けての長期的施策が必要。

４．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－２－（１）	Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （２）展覧事業 ①平常展、②特別展等				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第１２条 第２号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

① 主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
博物館の年間総来館者数(人)	（東博）	実績値	－	1,994,508	1,907,647				
	（京博）	実績値	－	653,336	384,340				
	（奈良博）	実績値	－	455,859	449,322				
	（九博）	実績値	－	884,128	922,468				
	（合計）	実績値	－	3,987,831	3,663,777				
平常展来館者数(人) ※基準値は、前中期目標期間実績の年度平均※	（東博）	計画値	－	362,470	512,186				
		実績値	－	747,944	761,709				
		達成度	－	206.3%	148.7%				
	（京博）	計画値	－	123,089	166,600				
		実績値	－	205,526	186,162				
		達成度	－	167.0%	111.7%				
		実績値		※1,699	※11,417				
	（奈良博）	計画値	－	69,600	118,173				
		実績値	－	95,208	145,676				
		達成度	－	136.8%	123.3%				
	（九博）	計画値	－	380,690	387,744				
		実績値	－	412,621	393,590				
		達成度	－	108.4%	101.5%				
	（合計）	実績値	－	1,462,998	1,498,554				
平常展展示替件数(件)	（東博）	計画値	－	5,500	6,009				
		実績値	－	6,930	8,538				
		達成度	－	126.0%	142.1%				

② 主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	1,730,312				
決算額（千円）	2,045,677				
経常費用（千円）	－				
経常利益（千円）	－				
行政サービス実施コスト（千円）	－				
従事人員数（人）	97				

※予算額は個別に計上することができないため、展覧事業費予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、展覧事業費決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、夜間開館対応、多言語化対応等に伴う経費が増加したため。
※従事人員数は４国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

	（京博）	計画値	―	700	919				
		実績値	―	1,145	943				
		達成度	―	163.6%	102.6%				
	（奈良博）	計画値	―	180	314				
		実績値	―	286	427				
		達成度	―	158.9%	136.0%				
	（九博）	計画値	―	600	1,253				
		実績値	―	1,513	1,654				
		達成度	―	252.2%	132.0%				
平常展展示総件数(件)	（東博）	計画値	―	7,200	－				
		実績値	―	8,911	10,918				
		達成度	―	123.8%	－				
	（京博）	計画値	―	1,000	－				
		実績値	―	1,438	1,068				
		達成度	―	143.8%	－				
	（奈良博）	計画値	―	600	－				
		実績値	―	620	664				
		達成度	―	103.3%	－				
	（九博）	計画値	―	700	－				
		実績値	―	2,628	2,208				
		達成度	―	375.4%	－				
平常展来館者アンケート満足度(%)	（東博）	計画値	80%	80%	74%				
		実績値	―	82%	71%				
		達成度	―	102.5%	96.0%				
	（京博）	計画値	80%	80%	79%				
		実績値	―	83%	75%				
		達成度	―	103.8%	95.0%				
	（奈良博）	計画値	80%	80%	79%				
		実績値	―	78%	88.9%				
		達成度	―	97.5%	112.5%				
	（九博）	計画値	80%	80%	67%				
		実績値	―	72%	73.8%				
		達成度	―	90.0%	110.1%				
特別展来館者数(人)	（東博）	実績値	―	1,246,564	1,145,938				
	（京博）	実績値	―	446,111	186,761				
	（奈良博）	実績値	―	360,651	303,646				
	（九博）	実績値	―	471,507	528,878				
	（合計）	実績値	―	2,524,833	2,165,223				
特別展開催回数(回)	（東博）	計画値	3～4	3～4	3～4				
		実績値	―	6	13				

※海外展を含む		達成度	―	150.0%	300.0%				
	（京博）	計画値	2～3	2～3	1～2				
		実績値	―	3	2				
		達成度	―	100.0%	100.0%				
	（奈良博）	計画値	2～3	2～3	2～3				
		実績値	―	4	3				
		達成度	―	133.3%	100.0%				
	（九博）	計画値	2～3	2～3	2～3				
		実績値	―	4	5				
		達成度	―	133.4%	166.7%				
	（合計）	実績値	―	17	22				
特別展来館者アンケート満足度(%)	（東博）	計画値	80%	80	71				
		実績値	―	100	87.9				
		達成度	―	125.0	123.8				
	（京博）	計画値	80%	80	89				
		実績値	―	100	78.1				
		達成度	―	125	114				
	（奈良博）	計画値	80%	80	80				
		実績値	―	100	86.4				
		達成度	―	125	108				
	（九博）	計画値	80%	80	86				
		実績値	―	92	85.9				
		達成度	―	115	100				
海外展回数(回)（※2）	（東博）	実績値	―	1	5				
	（京博）	実績値	―	0	0				
	（奈良博）	実績値	―	1	0				
	（九博）	実績値	―	0	1				
	（合計）	実績値	―	2	5				

（※）京都国立博物館の庭園解放来館者数（総来館者数に含む）

（※2）海外展「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」は東博・九博共同開催のため、各館１回とし、合計回数は１とする
海外展「菩薩の世界：醍醐寺芸術珍宝展」及び海外展「梵音東渡－日本醍醐寺国宝展」については
主催名義を都合上機構としているが、東博が担当しているため、実績値は東博にカウントしている。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
（2）展覧事業 ①　平常展 収蔵品等の状態に留意しつつ，できるだけ多くそれらを平常展で展示し，日本の歴史や日本美術の流れを概観できるよう努めること。 ②　特別展等 調査研究の成果を基にした特定のテーマの特別展や，国際文化交流の進展を目的する特別展等（外国における展覧事業も含む）を，計画的に開催することとし，その質の向上に努めること。 ③　観覧環境の向上等 外国人を含めた来訪者の増加にも資するよう，来館者の満足度を満たす多言語化，バリアフリー化，ユニバーサルデザイン化等を推進するとともに開館時間の延長等，混雑時の対応やミュ	（2）展覧事業 展覧事業については、我が国の博物館の中核的拠点として、国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、かつ国際文化交流にも配慮しながら、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にして、質の高い魅力あるものを目指す。また、2019年ICOM京都大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた政府の文化政策と連動した活動を実施する。 さらに、見やすさ分かりやすさに配慮した展示や解説、並びに音声ガイド等の導入により、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化についての理解を深められるよう工夫するとともに、展覧事業について常に点検・評価を行い、改善を図る。 ①平常展	（2）展覧事業 東京、京都、奈良、九州４館それぞれの特色を活かし、国内はもとより、海外からも訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。 ①平常展 展観事業の中核と位置づけ、各博物館の特色を十分発揮したテーマ別展示等を実施するとともに、展示に関する説明の充実に努め、国内外からの来館者の増加を図る。 ②特別展等 1)特別展	【中期目標・計画上の評価指標】 ・平常展の来館者数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上） ・平常展の展示替件数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上） ・平常展の来館者アンケート（満足度が前中期目標の期間の実績以上） ・（関連指標）平常展の展示総件数 【中期目標・計画上の評価指標】 ・特別展に関する取組状況（特別展の開催回数、特別展の来館者数） ・特別展の来館者アンケート（満足度が前中期目標の期間の実績以上）	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成28年度自己点検評価報告書 個別表 P37～70　1.-(2)-①、② 平成28年度自己点検評価報告書 統計表 P149～168 a 、P258～282 e ＜主要な業務実績＞ ・博物館の年間総来館者数 28年度合計3,663,777人 ※27年度3,987,891（約32万人、8.13%減） 内訳はアウトプット情報を参照 （平常展） ・平常展来館者数　1,498,554人 内訳はアウトプット情報を参照 ・平常展陳列替件数 ・平常展陳列総件数 ・平常展来館者アンケート満足度 それぞれアウトプット情報を参照 ・施設改修のため約１年半の間、休館していた「なら仏像館」が４月２９日に開館し、来館者に心地良い観覧環境を提供することができるようになった。（奈良博） ・４月に発生した熊本地震および九州地域の風評被害のために、前半期落ち込んだものの、九博の文化交流展らしい５本の多彩なトピック展を開催した。（九博） ・定期的な陳列替を実施し、テーマ性を持った特集陳列等を随時開催し平常展の充実に努めた。（４館） ・満足度調査等を実施し、集計結果をもとに環境改善に努めた。 （特別展） ・特別展来館者数　2,165,223人 ・特別展開催回数　22回（海外展含む）	＜自己評価書参照箇所＞ 平成28年度自己点検評価報告書　個別表 P37～70　1.-(2)-①、② ＜評定と根拠＞ 評定：B ・博物館の年間総来館者数は、3,663,777人を記録した。この来館者数は近年と同水準であり、国民のニーズを踏まえて質の高い展示等を実施したことを反映している。 （平常展） 各館の特色を十分に活かし、テーマ別、時代順等の展示を行った。 ・平常展来館者数については、東京国立博物館において、前年度より約１．３万人増の761,709人もの来館者を得た。奈良国立博物館でも休館していたなら仏像館の開館に伴い、計画を大きく上回る来館者数を達成するなど入館者数を伸ばすことができた。 ・平常展陳列替件数については、４館で目標値を大幅に上回るなど、順調な結果となっている。 また、テーマ性を持った特集陳列等を随時開催し平常展の充実に努めた。 ・平常展来館者アンケート満足度は奈良博、九博では目標を上回った。 ・作品キャプションに英語・中国語・韓国語訳を付し多言語化を進めた。（４館） （特別展） ・特別展開催回数は、アウトプット指標に掲載の年度計画上の展覧会を全て実施し、予定の開催回数をこなした。 ・特別展来館者数は、28年度評価対象であ	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ ４館とも来館者への見やすさわかりやすさに配慮するため定期的な陳列替を実施し、テーマ性をもって特集陳列等を随時開催し平常展の充実に努めている。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 平常展、特別展における来場者の満足度向上に向けた検討の継続が必要。 ＜有識者からの意見＞ ・特別展重視の姿勢は国立博物館のあり方としては、海外の例と比較して異常と思う。採算性重視という国の基本姿勢に問題がある。 ・充実した内容の展示を行っていることは大いに評価できる。

ージアムショップやレストラン等のサービスの改善等，来館者に配慮した運営を行うものとする	平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。 ③ 特別展等 1) 特別展 特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 特別展の来館者数	2)海外展		・特別展来館者アンケート満足度 内訳はアウトプット情報を参照 ・東京国立博物館・九州国立博物館の特別展「黄金のアフガニスタン －守りぬかれたシルクロードの秘宝－」では、平山郁夫氏らの呼びかけにより日本で「文化財難民」として保護・保管され、この機にアフガニスタンに返還されることとなったアフガニスタンからの流出文化財の中から15件が出品された。 ・京都国立博物館の、特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」では、坂本龍馬直筆の手紙のほかに、遺品として有名な血染めの掛軸や屏風、坂本家の家紋入りの紋服、土佐でもらった小栗流の剣術免状、近江屋で使った海獣葡萄鏡等を一部屋に集めて展示した。さらに、奈良国立博物館の特別展「国宝　信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」では高精細デジタルカメラや蛍光エックス線分析器等を用いた光学的調査の成果に基づいて制作した信貴山縁起絵巻の復元模写を展示し、制作当初の彩色を視覚的に提示した。九州国立博物館の特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」では沖ノ島出土品と大和の出土品を初めて体系的に陳列し、沖ノ島祭祀が成立した要因について、歴史的背景と思想的背景の両側面から絞り込むことで整理し、沖ノ島祭祀を日本の国家形成史の中で位置づけることができた。(4館) ・平常展・特別展ではアンケートを実施して来館者の満足度を把握し、会期中の対応や次の展覧会への改善へ活かした。（4館） ・複製の利用や展示構成の工夫により観覧者の理解が深まるよう展示・解説の工夫を行った。（4館） （海外展） ・海外展回数　5件 ・中国国家博物院にて、海外展「15－19世	る14件中13件の展覧会で目標値を上回り全体として順調である。 東京国立博物館の特別展特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―」では来館者数で目標値を若干下回ったが、約20万人もの来館者が来ており、またギリシャ国内40か所以上の国立博物館群から厳選された300件を超える古代ギリシャの貴重な作品を展示する日本でかつてない規模の試みの展覧会であった。 ・奈良国立博物館では、忍性を主役にした初めての大規模展覧会を開催した。国宝18件、重要文化財35件を含む重要作品が一堂に観覧でき、中には「東征伝絵巻」（唐招提寺蔵、重文）の全巻全場面公開や、3つの忍性骨蔵器が史上初めて揃って展示されるなど、本展ならではの貴重な作品公開が実現した。 ・事前調査や普段の調査研究の成果を反映した質の高い展覧会を企画し、実施した。 ・特別展アンケートの集計結果は、九州国立博物館の特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」の満足度94.2%など、多くの展覧会で高い満足度となった。 （海外展） ・計画通り実施し、日本の歴史と伝統文化を海外で紹介できた。特に、特別展「菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝展」は中国上海博物館と陝西歴史博物館で開催し、真言宗の代表的寺院である醍醐寺の文化財15万点の中から、国宝7件、重要文化財15件を含む65件という海外展としてはかつてない規模の展覧会となり、予想を大幅に上回る入場者があった。また、日韓国交正常化50周年に関連して急きょ海外展「韓日国宝半跏思惟像の出会い」を韓国国立中央博物館で開催した。 ＜課題と対応＞	

		については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。			紀日中韓絵画精品展」を開催した。(東博)・台北・國立故宮博物院南院にて海外展「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」を開催し、東博・九博の収蔵品からの国宝・重要文化財・重要美術 68 件を含む 151 点の優品を、「祭祀と生活」・「皇権と佛法」・「貴族の世界」・「武家の文化」・「市民の創造」、及び「伝承と創造」の６章に分けて展示し、約 5000 年にわたる豊富で多様な日本の芸術文化を紹介した（東博・九博）	・来館者満足度については、人気の高い展覧会だと混雑具合で低下するため、混雑をできるだけ解消できるよう、動線や案内表示を来館者に分かりやすく表示する必要がある。	

４．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－２－（２）	Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （２）展覧事業 ③観覧環境の向上等				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第１２条 第２号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

①　主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
来館者アンケート満足度（%）	（東博）	実績値	80	70.4					
	（京博）	実績値	80	40.2					
	（奈良博）	実績値	80	68					
	（九博）	実績値	80	77.2					
	（合計）	実績値	－	－					
外国人アンケートの満足度（%）	（東博）	実績値	－	69.7					
	（京博）	実績値	－	69.3					
	（奈良博）	実績値	－	67.7					
	（九博）	実績値	－	78.8					
	（合計）	実績値	－	－					

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	1,730,312				
決算額（千円）	2,045,677				
参考決算額（千円）	34,180				
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	85				

※予算額は個別に計上することができないため、年度当初の展覧事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、展覧事業費の決算額を計上している。
※参考決算額は、上記決算額のうち、４国立博物館の平常展に要するチラシ、パンフレット等の作成費を計上している。
※予算額と決算額の差額は、夜間会館対応、多言語化対応等に伴う経費が増加したこと等による。
※従事人員数は東京国立博物館の総務部及び京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館の各総務課の常勤事務職員の人数を計上している。

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価						
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価 業務実績	法人の業務実績・自己評価 自己評価	主務大臣による評価
２ 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図ること。 （３）快適な観覧環境の提供 国民に親しまれ、他の館の見本となる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や観覧料金及び開館時間の弾力化などの利用者の要望を踏まえた管理運営を行い、来館者の期待に応えること。	２ 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。 （３）快適な観覧環境の提供 国民に親しまれる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。	２ 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （３） 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実 ② 来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営 ③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実	【指標】 ・観覧環境に関する来館者アンケート（上位評価が 80%を超えること） 【関連指標】 ・関係法令に基づくバリアフリー施設の設置状況 ・多言語表記に関する外国人アンケート 〈目標水準の考え方〉 ・来館者アンケートは，展覧事業だけでなく，テナント事業者が運営するショップ，レストラン等も含め，幅広い観点で実施し，観覧環境の向上に資するものとする。 ・多言語表記は，展示の解説パネル等のみならず，導線や各種施設，サービスの提供に関するものも含め，アンケートに基づく改善に努める。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P71～79　1.-(2)-③ 平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表 P258～266 e　1.-(2)-③ ＜主要な業務実績＞ 施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、高齢者、障がい者、外国人等の利用に配慮した快適な観覧環境を提供した。 ・多言語（6～7 言語）による案内パンフレットの製作・配布を行った。（4 館） ・特別展音声ガイドの貸出を行った。（4 館） ・平常展音声ガイドは 4 言語（京博）、3 言語（奈良博）、3 言語（九博）での提供を行った。 ・スマートフォンアプリ「トーハクなび」（日・英）「法隆寺宝物館 30 分ナビ」を引き続き提供し、ログ解析および利用者の使用状況把握を行った。さらに、「トーハクなび」は 2 月 28 日からは中国語・韓国語に翻訳した音声ガイドの貸し出しサービスも開始した。（東博） ・育児中の来館者のために託児サービスを提供した。（東博） ・平常展及び各特別展時において外国人を含む来館者アンケートを実施し、その結果を観覧環境改善に活かした。（4 館） ・ミュージアムショップと協力し、オリジナルグッズの開発を行った。（4 館） ・特別展に関連したメニューを提供した（4 館）	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P71～79　1.-(2)-③ ＜評定と根拠＞ 評定：B 各館施設のバリアフリー化は一定の水準に達しており、更に、我が国を代表する施設として多様な来館者に対応すべく、検討・工夫を継続して行っている。 来館者アンケートを実施し、随時館の運営に反映している。特に特別展の混雑対策には継続して取り組んでおり、来館者のニーズ等を踏まえ展覧会ごとに観覧料金及び開館時間の弾力化などに取り組んだ。 ミュージアムショップ・レストランにおいて、オリジナルグッズの開発や、特別展に関連したメニューを提供するなどの取組みを行った。 英中韓の３か国語の多言語化に取り組み、外国人来館者のサービス向上を図った。 ＜課題と対応＞ 混雑対策については、引き続き検討を重ね、来館者に分かりやすい表示や、動線確保に努める。	評定　B ＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 多様な来館者の利用に配慮し、施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進する等、快適な観覧環境の提供に向けた取り組みを実施している。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 混雑対策の検討など、今後も国民に親しまれるような快適な観覧環境の提供に努めていただきたい。 ＜有識者からの意見＞ ・昨年度指摘した、展示のパネル・キャプションの外国語対応が遅れていたが、かなり進んだことは評価できる。29 年度の「源信展」では英中韓の表記が完備され、改善されている。 ・多言語化、障害者対策にひきつづきとりくむ必要がある。 ・今後もより良い観覧環境の確保に向け努められたい。

４．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－３－（１）	Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （３）教育・普及活動 ①教育活動の充実等				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第１２条 第３号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

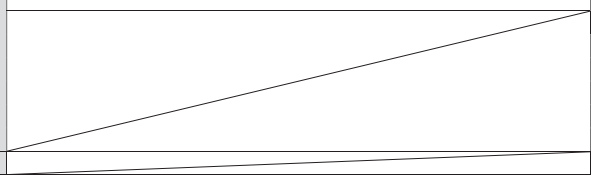
① 主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
講演会回数(回)	（東博）	計画値	－	－	128				
		実績値	－	146	160				
		達成度	－	－	125%				
	（京博）	計画値	－	－	26				
		実績値	－	39	45				
		達成度	－	－	173%				
	（奈良博）	計画値	－	－	28				
		実績値	－	28	26				
		達成度	－	－	92.9%				
	（九博）	計画値	－	－	90				
		実績値	－	87	77				
		達成度	－	300	85.6%				
	（合計）	実績値	－	－	308				
講演会等参加人数(回)	（東博）	実績値	－	18,080	21,453				
	（京博）	実績値	－	4,845	5,132				
	（奈良博）	実績値	－	3,974	3,518				
	（九博）	実績値	－	6,212	5,369				
	（合計）	実績値	－	33,111	35472				
キャンパスメンバーズ加入校数(件)	（東博）	実績値	－	48	52				
	（京博）	実績値	－	29	27				
	（奈良博）	実績値	－	27	25				
	（九博）	実績値	－	25	25				
	（合計）	実績値	－	129	129				

② 主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	91,281				
決算額（千円）	101,634				
経常費用（千円）	－				
経常利益（千円）	－				
行政サービス実施コスト（千円）	－				
従事人員数（人）	39				

※予算額は個別に計上することができないため、決算報告書・教育普及事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、決算報告書・教育普及事業費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、自己収入による事業拡大による。
※従事人員数は東京国立博物館の学芸企画部博物館教育課及び京都国立博物館、奈良国立博物館の各学芸部、九州国立博物館の学芸部企画課の常勤研究職員の人数を計上している。



ボランティア数(人)	(東博)	実績値	―	173	169				
	(京博)	実績値	―	214	215				
	(奈良博)	実績値	―	157	150				
	(九博)	実績値	―	352	307				
	(合計)	実績値	―	896	841				
賛助会等加入件数(件)	(東博)	実績値	―	464	455				
	(京博)	実績値	―	368	370				
	(奈良博)	実績値	―	74	73				
	(合計)	実績値	―	906	890				
友の会・パスポート加入者数	(東博)友の会	実績値	―	2,041	2,337				
	パスポート	実績値	―	18,157	23,778				
	ベーシック	実績値	―	2,789	2,369				
	小計	実績値	―	22,987	28,484				
	(京博)パスポート	実績値	―	7,108	5,493				
	(奈良博)パスポート	実績値	―	3,591	3,739				
	(九博)友の会	実績値	―	206	268				
	パスポート	実績値	―	5,571	5,748				
	小計	実績値	―	5,777	6,016				
	(合計)	実績値	―	39,463	43,732				
体験型プログラム等実施回数(回)	(東博)	実績値	―	1,042	827				
	(京博)	実績値	―	268	553				
	(奈良博)	実績値	―	23	21				
	(九博)	実績値	―	639	2,143				
	(合計)	実績値	―	1,972	3,544				
体験型プログラム等参加者数(人)	(東博)	実績値		198,393	199,167				
	(京博)	実績値		16,200	21,333				
	(奈良博)	実績値		380	384				
	(九博)	実績値		8,860	7,796				
	(合計)	実績値		223,833	228,680				

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価		
（3）教育普及活動等 講演会，ギャラリートーク等（以下「講演会等」という。）を開催し，来館者等を対象とする教育・普及活動の充実と向上に努めること。 講演会等のほか，体験型プログラムや学校との連携事業等の実施により，幅広い層を対象とした多彩な学習機会を提供すること。 その他教育普及活動として，ボランティアの受入れや博物館支援者増加への取組に努めること。	（3）教育・普及活動 ①教育活動の充実等 日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。 なお、講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。 1)学習機会の提供 2)ボランティア活動の支援 3)大学との連携事業等の実施 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 5)博物館支援者増加への取組	（3）教育・普及活動 日本の歴史・伝統文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業を実施する。 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 2)ボランティア活動の支援 3)大学との連携事業等の実施 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与 5)博物館支援者増加への取組	【中期目標・計画上の評価指標】 ・講演会等の開催回数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上） ・(関連指標)講演会等の参加者数 ・(関連指標)児童生徒を対象とした教育普及活動の実施実績 【中期目標・計画上の評価指標】 ・(関連指標)ボランティアの受入人数 【中期目標・計画上の評価指標】 ・（関連指標）大学生、大学院生を対象とした教育普及活動の実施実績	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P80～105　1.-(3)-① 平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表 P56～99　1.-(3)-①　P169～172 b ＜主要な業務実績＞ 学習機会の提供 特別展・平常展に関連した講演会・ギャラリートーク等のほか、ガイドツアー、体験型プログラムなど、幅広い層に楽しむ機会を提供した。 ・講演会の参加者数　35,472 人 内訳はアウトプット情報を参照 ・キャンパスメンバーズ加入校数　129 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・「博物館でお花見を」「博物館でアジアの旅」等、「敷居が高い」というイメージを払拭すべく親しみやすくわかりやすい内容のガイドツアーを企画し（東博）、歴史や文化についてわかりやすく理解してもらうため、講演会・土曜講座・夏期講座等を継続して実施し（京博）、仏教美術等に関するサンデートーク（奈良博）を実施し、「文化財防災ネットワーク推進事業」等シンポジウムを合計 4 回実施した（九博）。 ボランティア活動の支援 各館でボランティアの自主企画等を支援し、研修を行うことなどにより活動を充実させた。 ・ボランティア数　841 人 内訳はアウトプット情報を参照 ・文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生のボランティア（17 名）に対して、研究員がスクーリング 20 回を実施した。（京博）	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P80～105　1.-(3)-① ＜評定と根拠＞ 評定：B 講座・講演会をはじめ、ハンズオンコーナーの新設や、体験型プログラムなど多様なプログラムを各館で提供し、目標を大きく上回る参加者を得ている。 また、教育普及活動において、被災地支援につながる活動も実施した。 講演会、ギャラリートークの参加者数については、順調に目標を達成している。 キャンパスメンバーズの加入校数については、継続的な取組みの結果、前年度を維持した。 ボランティア数については昨年度より減少したが、ボランティアの各部会同士の横のつながりを意識したイベント等を開催でき、それぞれのグループ活動の充実、資質の向上等を図るための取り組みを着実に実行できた。 賛助会等加入件数については、順調に加入者数が増え、支援者の増加となっている。 友の会・パスポート加入者数については展覧会の来館者数増加に伴って増加している。 企業との連携については、共同企画や広報協力を実施し、博物館の認知度向上につなげた。	評定	B
						＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 講座・講演会を実施するほかに、ハンズオンコーナーの新設や体験型プログラムなど多様なプログラムにより教育機会を提供していることが参加者数の増加にもつながっている。 ＜今後の課題・指摘事項＞ さらなる来館者の増加とともにリピーターの拡大にも努めていただきたい。		

					・ボランティアによる自主企画として、敷地内の茶室庭園の案内ツアーや親子イベントを実施した。（奈良博） 博物館支援者の増加 各種会員制度によるリピーターの拡大、及び支援者の増加に努めた。 ・賛助会等加入件数　890 件 ・友の会・パスポート加入者数　43,732 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・会員制度の改定に向けた検討を行い、29 年度より新たに「国立博物館メンバーズパス（4 館共通）」及び東京国立博物館オリジナル制度「メンバーズプレミアムパス」「友の会」を導入することとなった。 ・上野文化施設地区共通入場券を 26 年度に引き続き発売することや（東博）、広報協力（京博・奈良博・九博）を実施し、博物館の認知度向上につなげた。 ・京都市内 4 美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で組織する「京都市内 4 館連携協力協議会」での連携事業として、4 館相互割引、広報のための合同パンフレットの製作、連携フォーラムやスタンプラリーなどを実施した。（京博） ・保存修理事業者を対象とする研修会を、関係機関と連携協力して実施した。 ・文化財保存修理所内の工房と連携し研修会を行った。また、修理所内の工房の視察を受け入れ情報交換を行った。（京博・奈良博・九博） ・ＮＰＯ法人ミュージアムサポートセンターと連携しＩＰＭ普及のための連絡会議や研修会を実施した。また、文化財保存交流セミナーを実施した。（九博） ・インターンシップの受け入れを行った。（4 館）	大学との連携事業等については、各種の事業を継続して実施している。 ＜課題と対応＞ 新たな会員制度「国立博物館メンバーズパス」を導入したことについて、周知を行いさらなる会員の増加、リピーターの拡大を図る必要がある。	

４．その他参考情報
特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－３－（２）	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （３）教育普及活動等 ②文化財情報の発信と広報の充実				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第１２条 第７号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
ウェブサイトアクセス件数(件)	（東博）	実績値	5,380,118	6,724,460	6,433,867				
	（京博）	実績値	2,274,464	3,172,381	3,334,335				
	（奈良博）	実績値	953,946	1,112,057	1,167,926				
	（九博）	実績値	1,696,500	2,217,391	2,117,092				
	「e国宝」	実績値	－	1,788,265	2,854,622				

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	394,387				
決算額（千円）	394,836				
参考決算額（千円）	31,662				
経常費用（千円）	－	－	－	－	
経常利益（千円）	－	－	－	－	
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	
従事人員数（人）	50				

※予算額は個別に計上することができないため、博物館研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、博物館研究事業費の決算額を計上している。
※参考決算額は、上記決算額のうち、４国立博物館の文化財情報の発信と広報の経費を計上している。
※従事人員数は東京国立博物館の学芸企画部企画課、学芸企画部博物館情報課及び京都国立博物館、奈良国立博物館の各学芸部、九州国立博物館の学芸部企画課の人数を計上している。

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
②有形文化財（美術工芸品）に関する情報の発信と広報の充実 展覧事業及び各種事業に関し，積極的な広報に努めるとともに，ウェブサイトにおいて収蔵等する有形文化財（美術工芸品）に関する情報を公開し，その質的向上と量的拡充に努め，アクセスの増加を図ること	②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 文化財に関する情報の発信に努めるとともに、展覧事業及び各種事業に関し、積極的な広報を行う。 1)有形文化財に関する情報の発信 2)資料の収集と公開 3)広報活動の充実	②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信 2)資料の収集と公開 3)広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実	（主な定量的指標） ウェブサイトのアクセス件数（前中期目標の期間の実績以上）（その他の指標） ・ウェブサイトアクセス件数 （目標水準の考え方） ・　国立博物館では，展覧事業及び各種事業に関する広報を目的としてウェブサイトの充実を図っている。また，収蔵等する有形文化財（美術工芸品）に関する情報（文字情報，画像情報）を整理し，データベース等を構築し，ウェブサイトにおいて公開している。これらの情報を一般に公開することは，国民共有の財産を広く周知する上で重要であり，また，学術研究の進展等にも資すると考えられることから，近隣施設との連携等を含めた効率的かつ効果的な広報戦略の実施	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表　P106～126　1.-(3)-② 平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表　P100～126　1.-(3)-② ＜主要な業務実績＞ ・収蔵品のデジタル画像を資料館およびインターネットで公開した。また、収蔵品の国宝・重要文化財について、5 言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e 国宝）を継続して公開した。iOS、Android それぞれのアプリ版「e 国宝」も継続して公開した。(4 館) ①　デジタル化の推進 ・昨年度図書館振興財団の助成で撮影したシーボルト旧蔵本の画像を追加し、タイトルの日本語訳をつけて「シーボルト旧蔵本デジタル・アーカイブ」において公開した。(東博) ・開館以後、受贈申込を受けていた個人からの寄贈図書を、すべて整備・登録し終えた。(田中建夫寄贈図書 11,618 点（25 年度)、麻生優寄贈図書 14,371 点（26 年度)、石井進寄贈図書 2,729 点（28 年度）)（九博) ・当機構設立 10 周年を記念してロゴマークを作成した。(本部事務局) ・年間スケジュールリーフレットを制作し、送付及び館内配布した。(4 館) ・トラりんを活用した PR を積極的に展開した結果、インターネットミュージアム主催「ミュージアムキャラクターアワード 2016」にて、第 1 位を獲得することが	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表　P106～126　1.-(3)-② ＜評定と根拠＞ 評定：B 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行った。 各館ウェブサイトアクセス件数合計は 13,053,220 件にも上り、各館とも目標を大幅に超えた。アクセス件数向上のために、サイトレイアウトを見やすくし（東博、京博)、外国語による案内を掲載し（奈良博)、駐車場情報を掲載する（九博）など各館の取り組みが功を奏した。 広報については、各館ともゆるキャラ（東博・京博）や文化大使（奈良博）などを用い、また、アンテナショップからの情報発信（九博）など多様なメディアを通して積極的に行っている。 ＜課題と対応＞ 特になし	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 収蔵品のデジタル化の推進やスマートフォン向けのアプリの公開、ツイッターを使用した情報発信等、様々な方法で情報公開・発信に努めている。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・公開されたデータベースは、アップデートされた点数が少なく、画像も小さくて閲覧しづらい。メトロポリタン美術館などの公開画像に比して、明らかに見劣りがする。 ・情報発信メディアの多様化と広報の充実が堅調である。

				などに戦略的に取り組み，ウェブサイトのアクセス件数の増加を図ることとし，数値目標は前中期目標の期間の実績以上とする。	できた、博物館の認知度向上を図ることができた。（京博） ・奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良市観光協会との連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。（奈良博） ウェブサイトの内容の充実を図り、アクセス件数（アウトプット情報を参照）の向上を図った。（アクセス件数：13,053,220 件） ・ウェブサイトアクセス件数向上のため、ウェブサイトトップページのレイアウトに修正を加え、特集陳列等の情報を目立たせるようにした。また、開館 120 周年記念事業を紹介するウェブページを作成し、12 月 28 日より公開した（京博） ・駐車場の混雑や対策のため、ウェブサイト、ツイッターにて駐車場空き情報を継続して提供した。（九博）		

４．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－４－（１）	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ①有形文化財に関連する調査研究				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第５号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東博）	実績値	－	116	97				
	（京博）	実績値	－	34	38				
	（奈良博）	実績値	－	27	29				
	（九博）	実績値	－	20	40				
	（合計）	実績値	－	197	204				

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	394,387				
決算額（千円）	394,836				
経常費用（千円）	－	－	－	－	
経常利益（千円）	－	－	－	－	
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	
従事人員数（人）	97				

※予算額は個別に計上することができないため、博物館研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、博物館研究事業費の決算額を計上している。
※従事人員数は４国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 国立博物館における事業は調査研究の成果に基づき実施されるものであることを踏まえ，有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等その他事業を行うために必要な調査研究を計画的に行い，その成果の反映により各種事業の進展を図る。また，国立の文化施設として中核的な役割を担うことができるよう，国内外の博物館等との学術交流の進展に資するシンポジウム等の開催及び学術交流等を行う。	（4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 文化財に関する調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次代への継承及び我が国の文化の向上に寄与する。 ①有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究	4）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 文化財の保存と活用を推進するとともに、次代へ継承し、我が国の文化の向上に資するため、以下の調査研究を行い、展覧事業・教育活動等並びに定期刊行物等において、その成果を発信する。 ①有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 1）収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究 2）特別展等の開催に伴う調査研究 3）文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査研究 ②その他有形文化財に関連する調査研究 1）有形文化財の保存環境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究 2）博物館情報、文化財情報に関する調査研究	【指標】 なし	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P127～266　1.-(4)-①、② 平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表 P202～256　c　②～⑧ ＜主要な業務実績＞ ・各博物館とも、調査研究の成果を踏まえた特別展や特集陳列などの展示を実施した。 ・「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築 後期青銅器時代末期（前 13 世紀）の建築遺構を発掘し、物の記録と予備的な分析を実施した結果、エジプトとの接触を示す土器群が見出され、エジプト第 19 王朝のパレスチナ北部への進出と、在地の都市国家社会がエジプト人と接触していたことを示す新たな知見を得ることができた。（東博） ・特集陳列「生誕 300 年　与謝蕪村」（8 月 23 日～10 月 2 日）に関わる調査研究 調査の過程で、昭和 3 年（1928）にモノクロ写真が書籍掲載されて以来所在不明だった「東坡宝山昼眠図」（個人蔵）が再発見された。この作品以外に使用例の確認されていない朱文方印「澱南之人」は、蕪村の出生地が摂津国であることを裏付ける研究上の新資料としても注目される。（京博） ・特集陳列「伊藤若冲」に関連する調査研究 初公開となった「六歌仙図押絵貼屏風」（個人蔵）については、最晩年の作例が複数知られる類作との表現上の相違点を指摘し、それらに先行する初発的性格を明らかにした。近年注目が集まる若冲の歌仙絵研究においても意義ある成果と言える。（京博） ・南都の古代・中世の彫刻に関する調査と研究 館内外において多数の彫刻の調査・撮影を行った。調査の結果、X 線透過撮影により法隆寺観音菩薩立像の鉄を含む成分比が判明し、白鳳期の銅造彫刻制作工房のグルーピングを考えるに資する成果を得た。（奈良博） ・石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究 石棺内面全面に赤色顔料を塗布する地域や、蓋の合わせ面のみ、蓋内面のみ、蓋内面以外の内外面全面など部分的にしか塗布しない地域もみとめられ、塗布範囲に地域性が認められることが判明した。この地域性には年代差だけでなく、石棺材や石棺形態との関連性も認められた。（九博） ・収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究 正倉院展の後、電子顕微鏡にて展示ケース内の塵埃を観察し、単位面積当たりの塵埃量を測定した。調査結果を踏まえ、気密性向上のためのメンテナンスを実施した。（奈良博） ・みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム 文化庁文化芸術振興費補助金の 3 年計画の最終年度である 28 年度は、国立博物館を核に広域にわたる地域連携によるネットワーク構築強化を進めた。（九博） ・学術雑誌等への論文掲載数 204 件 内訳はアウトプット情報を参照	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P127～266　1.-(4)-①、② ＜評定と根拠＞ 評定：B 有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国の文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を進めた。 ・「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築においては、継続的に実施しているテル・レヘシュの発掘調査を基軸に、古代パレスチナ史の新たな一面を解明することに成功した。成果は一次資料にもとづく極めて重要な知見を含むもので、古代西アジアに関連する諸分野で注目されるものと期待できる。 ・特集陳列「伊藤若冲」に関連する調査研究では、生誕 300 年という節目の年に、京都を代表する画家である伊藤若冲の作品を特集展示し、図録等を通してその魅力をわかりやすく紹介した。その準備段階における調査研究で、山水図および歌仙絵という若冲研究上注目される領域において新知見を得たことは、所期の想定を超える成果と言える。展示・図録にはこうした調査研究の成果が反映されている。また、作品調査は新規寄託品の受け入れにも結び付いた。 ・みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアムでは、国立博物館を核に広域にわたる地域連携によるネットワーク構築強化を進めたことにより、4 月に発生した熊本地震で、被災状況調査や被災文化財救援事業への連携協力がスムーズに実現できた。 ＜課題と対応＞ 特になし	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 調査研究の成果を踏まえた特別展や特集陳列などの展示を実施するなど我が国の文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を進めた。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・科学研究費助成事業など外部資金もあわせて、幅広いテーマでの調査研究が進んでいる。 ・研究成果は十分で、重要な発見も少なくなかった。

４．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－４－（２）	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ②国内外の博物館等との学術交流等				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第１２条 第５号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
海外研究者招へい数(人)	（東博）	実績値	－	11	73				
	（京博）	実績値	－	2	2				
	（奈良博）	実績値	－	13	9				
	（九博）	実績値	－	51	43				
	（合計）	実績値	－	77	127				
研究員派遣数(人)	（東博）	実績値	－	47	60				
	（京博）	実績値	－	17	21				
	（奈良博）	実績値	－	20	16				
	（九博）	実績値	－	77	67				
	（合計）	実績値	－	161	164				

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	394,387				
決算額（千円）	394,836				
参考決算額（千円）	25,568				
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	42				

※予算額は個別に計上することができないため、博物館研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、博物館研究事業費の決算額を計上している。
※参考決算額は、上記決算額のうち、４国立博物館の国際シンポジウム開催に要する旅費等を計上している。
※従業人員数は東京国立博物館の学芸企画部企画課及び京都国立博物館、奈良国立博物館の各学芸部、九州国立博物館の学芸部企画課の常勤研究職員の人数を計上している。

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
（４）有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 国立博物館における事業は調査研究の成果に基づき実施されるものであることを踏まえ，有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等その他事業を行うために必要な調査研究を計画的に行い，その成果の反映により各種事業の進展を図る。また，国立の文化施設として中核的な役割を担うことができるよう，国内外の博物館等との学術交流の進展に資するシンポジウム等の開催及び学術交流等を行う。	③国内外の博物館等との学術交流等	③国内外の博物館等との学術交流等 1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。 2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 4)2019 年 ICOM（国際博物館会議）京都大会に向けた活動を促進する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書　個別表 P267～270　1.－(4)-③ 平成 28 年度自己点検評価報告書　統計表 P173～201　c-① ＜主要な業務実績＞ 海外研究者の招へい、研究員の海外派遣を通して、海外の博物館・研究者との交流を行った。 ・海外研究者招へい数　127 人 ・研究員派遣数　164 人 内訳はアウトプット情報を参照 ・国際シンポジウムを東京国立博物館、九州国立博物館で各 1 回開催した。 ・文化庁支援事業として、北米・欧州ミュージアム日本専門家連携・交流事業の一環である日本専門家会議（29 年 1 月 27 日）及び国際シンポジウム「日本美術をみせる―リニューアルとリノベーション―」(29 年 1 月 28 日～29 日）を開催した。（東博） ・ICOM ミラノ大会、第 1 回ユネスコハイレベル博物館フォーラム等、国際会議への参加を通して、ICOM 京都大会への参加を呼びかけた。（４館） ・学術交流協定に基づく研究員の交流を継続して行った。（東博、奈良博、九博） ・メトロポリタン美術館アジア美術部アシスタント・キュレーター　ピンチク・モニカ氏を招聘し国内の漆工の研究者 6 名及び当館研究員 1 名にて、中世漆工を中心とした国際研究会交流会を開催した。（京博）	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書　個別表 P267～270　1.－(4)-③ ＜評定と根拠＞ 評定：B 海外研究者招へい数は、外部資金活用等により、４館とも合計で前中期最終年度実績を上回った。 研究員派遣数は、４館合計で前中期最終年度実績を上回っており、順調である。 国際シンポジウムや国際研究セミナー等を各館で実施し、学術交流協定により、情報交換とネットワークの強化を実現している。 中国、韓国、米国、タイ等などの博物館美術館等から研究者を招聘し、専門的な内容の講演会を実施し、今後の学術協定の締結や特別展開催に向け、有意義なものとするなど、交流を推進できた。 ＜課題と対応＞ 特になし	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 東京国立博物館、九州国立博物館で国際シンポジウムを開催するなど海外研究者の招へい等を通して海外の博物館・研究者との交流を行った。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし ＜有識者からの意見＞ ・研究者招へい・派遣は順調に遂行している。国際的な講演・研究集会・シンポジウムに関する説明があれば、なおよい。 ・積極的に推進されていることを、評価したい。 ・意義深い学術交流が行われた。問題はとくにない。

４．その他参考情報

特になし

様式１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報

１－４－（３）	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （４）有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 ③調査研究成果の公表

当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第１２条 第６号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
定期刊行物等の刊行数(件)	（東博）	実績値	16	16	16				
	（京博）	実績値	11	11	10				
	（奈良博）	実績値	5	4	6				
	（九博）	実績値	5	5	5				
	（合計）	実績値	37	36	37				
特別展の開催回数(回)	（東博）	実績値	－	6	8				
	（京博）	実績値	－	3	2				
	（奈良博）	実績値	－	3	3				
	（九博）	実績値	－	4	4				
	（合計）	実績値	－	16	17				
テーマ別展示の開催件数(件)	（東博）	実績値	－	31	33				
	（京博）	実績値	－	7	9				
	（奈良博）	実績値	－	4	4				
	（九博）	実績値	－	8	6				
	（合計）	実績値	－	50	52				
講演会等の開催回数(回)	（東博）	実績値	－	146	160				
	（京博）	実績値	－	39	45				
	（奈良博）	実績値	－	28	26				
	（九博）	実績値	－	87	77				
	（合計）	実績値	－	300	308				

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	394,387				
決算額（千円）	394,836				
参考決算額（千円）	16,274				
経常費用（千円）	－	－	－	－	
経常利益（千円）	－	－	－	－	
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	
従事人員数（人）	97				

※予算額は個別に計上することができないため、博物館研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、博物館研究事業費の決算額を計上している。
※参考決算額は、上記決算額のうち、紀要等調査研究に係る印刷物作成の決算額を計上している。
※従事人員数は４国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
4）有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究 国立博物館における事業は調査研究の成果に基づき実施されるものであることを踏まえ，有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等その他事業を行うために必要な調査研究を計画的に行い，その成果の反映により各種事業の進展を図る。 また，国立の文化施設として中核的な役割を担うことができるよう，国内外の博物館等との学術交流の進展に資するシンポジウム等の開催及び学術交流等を行う。	我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。 さらに、2019年ICOM京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する	④調査研究成果の公表 （東京国立博物館、京都国立博物館） 1）文化財修理報告書を刊行する。 （奈良国立博物館、九州国立博物館） 1）文化財修理に関する印刷物を刊行する。 （東京国立博物館） 1）「東京国立博物館情報アーカイブ」等の運用をし、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。 2）紀要・図版目録等を刊行する。 3）法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。 4）研究誌『MUSEUM』を刊行する。（年6回） （京都国立博物館） 1）研究紀要『学叢』を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分の概要を順次ウェブサイトで公開する。 2）社寺調査報告書等を刊行する。 （奈良国立博物館） 1）研究紀要『鹿園雑集』を刊行するとともに、学術研究公開の一環としてウェブサイトで公開する。 2）東京文化財研究所と共同で実施している絵画作品などの光学的調査について、報告書を刊行する。 （九州国立博物館） 1）研究紀要『東風西声』を刊行する。 2）保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。	【指標】 ・調査研究の成果に基づき，定期刊行物等を前中期目標期間の実績以上刊行する。 【関連指標】 ・調査研究活動の成果の多様な方法による公開等の取組状況 （特別展の開催回数，テーマ別展示の開催件数，講演会等の開催回数） 〈目標水準の考え方〉 ・国立博物館における有形文化財に関する調査研究は，収蔵品の収集活動，保存修理，展覧事業の企画等に資することを第一義的な目的としており，研究成果が具体的な事業等にどのように反映できたかを評価指標とする。また展覧事業に関連し，論文等として学術的な成果物を公表することにより，広範囲の学術研究の進展にも資することができること	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成28年度自己点検評価報告書　個別表 P271～274　1.-(4)-④ 平成28年度自己点検評価報告書　統計表 P208～247　c-③～⑥ ＜主要な業務実績＞ 博物館における調査研究成果の発信として、図版目録や研究紀要、展覧会図録等の各種刊行物を発行した。 ・研究誌「MUSEUM」を6回、研究紀要を1冊、特別展等図録を6冊、調査概報と図版目録を各1冊発行し、その他のリーフレット等や特集陳列印刷物9件も発行した。（東博） ・研究紀要を1冊、特別展覧会等図録を2冊、特集陳列にて図録4冊刊行した。（京博） ・研究紀要1冊、調査報告書1冊刊行した。（奈良博） ・研究紀要を1冊、博物館科学紹介本1冊、報告書1冊、特別展等・トピック展図録を7冊刊行した。（九博） ・東京国立博物館・京都国立博物館で文化財修理報告書を発行した。 ・特集印刷物（リーフレット）ＰＤＦファイル版のウェブサイトを公開した。（東博）	＜自己評価書参照箇所＞ 平成28年度自己点検評価報告書　個別表 P271～274　1.-(4)-④ ＜評定と根拠＞ 評定：B 研究紀要、展覧会図録、文化財修理報告書やその他のリーフレット等について、多数刊行し、調査研究成果の公表を順調に行った。 印刷物ＰＤＦファイル版のウェブサイト公開等の取り組みを行った。 ＜課題と対応＞ 特になし。	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 研究誌や図版目録、研究紀要、展覧会図録等の各種刊行物を発行するなど博物館における調査研究成果の公表に努めた。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。

			から，関連指標として特別展，テーマ別展示，講演会等の開催回数若しくは件数を設定する。			

４．その他参考情報

特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－５－（１）	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （５）国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第４号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
文化財の貸与件数(件)	（東博）	実績値	－	991	946				
	（京博）	実績値	－	303	367				
	（奈良博）	実績値	－	145	165				
	（九博）	実績値	－	90	83				
	（合計）	実績値	－	1,529	1,561				

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	13,701				
決算額（千円）	11,791				
経常費用（千円）	－	－	－	－	
経常利益（千円）	－	－	－	－	
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	
従事人員数（人）	97				

※予算額は個別に計上することができないため、考古相互貸借事業の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、考古相互貸借事業の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は４国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
（５）国内外の博物館活動への寄与 国内外からの博物館等からの有形文化財（美術工芸品）の貸与等の依頼に対し，国宝・重要文化財の場合は文化財保護法の規定にのっとり適切に対処するとともに，各文化財の保管・展示状況，コンディション，貸出先の施設の状況等を総合的に勘案し，積極的に応じること	（５）国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与 収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。	（５）国内外の博物館活動への寄与 ①国内外の博物館等への有形文化財の貸与	【指標】 ・有形文化財（美術工芸品）の貸与に関する取組状況（有形文化財（美術工芸品）の貸与件数） （目標水準の考え方） ・有形文化財（美術工芸品）の貸与については，適切な保管・展示環境が維持されることを必要条件とし，さらに国宝・重要文化財については，法令等にのっとり文化庁の許可等が必要であるため，依頼内容に応じてその都度検討することとなる。したがって，あらかじめ貸与に関する目標値を設定することになじまないため，貸与件数をモニタリングし評価する。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書　個別表 P275～278　1.-(5)-① 平成 28 年度自己点検評価報告書　統計表 P128～129　1.-(5)-① ＜主要な業務実績＞ 所蔵品・寄託品の貸与については、国内外の博物館等からの要請に対し、文化財の保存状況を見極めながら、積極的に対応した。 ・文化財の貸与件数　1,561 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・考古資料相互貸借事業を２県立博物館（東博）、１市博物館、１市埋蔵文化財センター、１教育委員会（奈良博）を相手方として、それぞれ実施した。 ・展示期間や会場の温湿度の設定、警備体制、虫害対策等など貸与先の環境と作品の状態を総合的に判断した上で貸出を行っている。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書　個別表 P275～278　1.-(5)-① ＜評定と根拠＞ 評定：B 貸与先からの要請に４館が積極的に対応した結果、文化財の貸与件数は、昨年度より増加した。海外への貸与も行っている。また、考古資料相互貸借事業も継続して行っている。 ・貸与先の環境と作品の状態を確認し、収蔵品の保存状況に配慮し貸出を行っている。 ＜課題と対応＞ 特になし。	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 国内外の博物館等からの要請に対し、文化財の保存状況を見極めながら所蔵品・寄託品を貸与した。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・東博が所蔵する考古資料については、出土地での展示要望が強いことから、地元博物館に対する展示環境等に関する指導助言を行いながら、積極的に対応することを期待する。	

４．その他参考情報

特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－５－（２）	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （５）国内外の博物館活動への寄与 ②国内外の博物館等への援助・助言等				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第３号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
公私立博物館等に対する援助・助言件数(件)	（東博）	実績値	－	139	120				
	（京博）	実績値	－	65	112				
	（奈良博）	実績値	－	58	62				
	（九博）	実績値	－	67	87				
	（合計）	実績値	－	329	381				

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	－	－	－	－	－
決算額（千円）	－	－	－	－	－
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	97				

※公立博物館・美術館に対する援助・助言に係る外注額が少額なため、予算額・決算額は個別に計上することができない。
※従事人員数は４国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
国内外からの博物館等からの専門的・技術的な協力等の依頼に対し，可能な限り積極的に応じること。	②国内外の博物館等への援助・助言等 国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める	②国内外の博物館等への援助・助言等	【指標】 国内外の博物館等への援助・助言等に関する取組状況（専門的・技術的な援助・助言の件数，行政，公私立博物館等の各種委員等への就任件数，依頼事項への対応件数等） 〈目標水準の考え方〉 ・国内外の博物館等における展覧会の企画，運営を始め，博物館等の業務に関する専門的・技術的な協力の依頼については，内容に応じてその都度検討することとなる。したがって，あらかじめ援助・助言に関する目標値を設定することになじまないため，援助・助言件数をモニタリングし評価する。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書　個別表　P279～282　1.-(5)-② 平成 28 年度自己点検評価報告書　統計表　P130　1.-(5)-② ＜主要な業務実績＞ 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、援助・助言を行った。 ・公私立博物館等に対する援助・助言件数　381 件 内訳はアウトプット指標に掲載 当該実績件数は、文化財の調査や保存修理に関する援助・助言、講演会やセミナー等における講演等での協力、さらに、文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業・会議への協力を含めたものである。(4 館) また、新規貸与館６館に対する環境調査(東博)、岐阜県「美濃桃山陶と無形文化財」講演や児童対象ワークショップにおける水墨画について解説(京博)、東大寺や仁和寺における文化財調査への参加、唐招提寺・伊豆山神社・知恩院などでの収蔵施設の環境に関する助言（奈博）や「古文書保存基礎講座」、IPM セミナー、IPM 研修 及び IPM コーディネータ研修（九博）等も行った。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書　個別表　P279～282　1.-(5)-② ＜評定と根拠＞ 評定：B 公私立博物館等から４館への要請に対して例年多数の助言・協力を行っており、28 年度においても昨年度を大幅に上回った。 ＜課題と対応＞ 特になし。	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努めている。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・文化財等防災ネットワークの形成強化に期待したい。

４．その他参考情報

特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－６	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施 （１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第５号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（九博）	実績値	－	1	2				
	（東文研）	実績値	－	17	13				
	（奈文研）	実績値	－	102	37				
	（合計）	実績値	－	120	52				
報告書等の刊行数（件）	（九博）	実績値	－	－	2				
	（東文研）	実績値	－	－	3				
	（奈文研）	実績値	－	－	16				
	（合計）	実績値	－	－	21				

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	480,152				
決算額（千円）	465,346				
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	88				

※予算額は個別に計上することができないため、基礎研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、基礎研究事業費の決算額を計上している。
※従事人員数は２文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究，協力事業等の実施 （１）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 ①　有形文化財（美術工芸品，建造物）及び伝統的建造物群に関する調査研究 ②　無形文化財，無形民俗文化財等に関する調査研究 ③　記念物，文化的景観，埋蔵文化財に関する調査研究	文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施 貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査研究を行う。 １）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 ①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 ②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究 ③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究	①有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 1）我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究 2）建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究 3）歴史資料・書跡資料に関する調査研究 ②無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 1）重要無形文化財の保存・活用に関する調査研究等 2）重要無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究等 3）無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等 ③記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 1）史跡・名勝の保	〈主な定量的指標〉 特になし 〈関連する評価指標〉 ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	＜実績報告書等参照箇所＞ ・平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P201 1-(4) P283～311 2.-(1) ・平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表 P202～256 共通資料 c-②～⑧ ＜主要な業務実績＞ 26 件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。うち主要な研究テーマは以下のとおり。 ・文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究（東文研） ・歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究（奈文研） ・無形文化財の保存・活用に関する調査研究（東文研） ・藤原宮跡の発掘調査（大極殿院）（奈文研） ・平城京右京一条二坊四坪・西一坊大路・一条南大路の発掘調査（奈文研） ・飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等（奈文研） ・東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究（奈文研） ・東大寺東塔院跡の発掘調査（奈文研） ・文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究（奈文研） ・日本東洋美術史の資料学的研究（東文研） ・水中遺跡の保存活用に関する調査研究（九博） 主な研究成果は以下のとおり。 ・文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究（東文研） 調査研究の成果データの国際標準化に向けての調整・準備及び美術資料のデータ化と蓄積を進めた。また、国内外の関連機関との研究協議を行った。	＜自己評価書参照箇所＞ ・平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P201 1-(4) P283～311 2.-(1) ＜評定と根拠＞ 評定：B 設定した研究テーマは、中期計画に沿ったものである。 また、それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施され、国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与した。 特に「文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究」（東文研）では、調査研究の成果データの国際標準化に向けての調整・準備及び美術資料のデータ化と蓄積を進めた。また、国内外の関連機関との研究協議を行った。また、「東大寺東塔院跡の発掘調査」（奈文研）では、塔基壇南面・西面において鎌倉時代再建塔の基壇を確認し、また塔基壇北面・南面では再建塔基壇の内部に良好な状態で遺存していた奈良時代創建塔の基壇を確認した。これにより、両塔の基壇規模や構造の復元に資する詳細なデータを取得し、奈良時代の創建から南北朝時代の廃絶に至る東塔の歴史に関する知見を深めることができた。また、回廊南門の痕跡や土橋状遺構などを検出し、東塔院全体の構成やその変遷を明らかにするための貴重な	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 研究テーマを設定し、調査研究を実施するとともに、調査研究の成果データの国際標準化に向けての調整・準備及び美術資料のデータ化と蓄積を進めた。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・有形文化財、無形文化財をはじめ、記念物、文化的景観、埋蔵文化財を対象に、総合的に研究が進み、それぞれにおいて成果がでている。 ・水中遺跡の調査研究については、奈良文化財研究所との連携も有効だと思われる。 ・日本の水中遺跡の保護については、海外と比べて大きく遅れており、文化庁で現在進行中の調査研究を受けて、文化財機構内において組織の立ち上げなど、さらに充実させることが必要である。 ・多面的な研究が着実に行われている。	

			存・活用に関する調査研究 2) 古代日本の都城遺跡に関する調査研究 3) 重要文化的景観等の保存・活用に関する調査研究 4) 全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究 5) 水中文化遺産に関する調査研究		・東大寺東塔院跡の発掘調査（奈文研） 塔基壇南面・西面において鎌倉時代再建塔の基壇を確認し、また塔基壇北面・南面で は再建塔基壇の内部に良好な状態で遺存していた奈良時代創建塔の基壇を確認した。 ・我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）（奈文研） 「近世城跡の近現代」をテーマとし、近代以降の近世城跡の変容のうち、サクラの植栽、旧藩主を祀る神社の創建、城跡公園の成立、模擬天守の設置、近代施設や近代庭園の立地などを具体的に取り上げ、それらの歴史的位置づけをどのように認識すべきかについて報告した。 ・水中遺跡の保存活用に関する調査研究（九博） 日本国内における水中遺跡保護体制の確立を目的として、国内外の水中遺跡の保存と活用に関する取組を調査し、これらの成果をシンポジウム等で発表を行った。事業成果報告書を作成した。 ・学術雑誌等への論文掲載数 52 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・報告書等の刊行数 21 件 内訳はアウトプット情報を参照	資料を得た。 ＜課題と対応＞ 特になし。	

４．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－７－（１）	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施 （２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 ①文化財の調査手法に関する研究開発の推進				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第５号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	0	0				
	（奈文研）	実績値	－	11	30				
	（合計）	実績値	－	11	30				
報告書等の刊行数（件）	（東文研）	実績値	－	－	1				
	（奈文研）	実績値	－	－	0				
	（合計）	実績値	－	－	1				

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	107,291				
決算額（千円）	171,001				
経常費用（千円）	－	－	－	－	
経常利益（千円）	－	－	－	－	
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	
従事人員数（人）	88				

※予算額は個別に計上することができないため、応用研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、応用研究事業費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は２文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 ① 文化財の調査手法に関する研究開発 文化財の価値や保存に関する研究の進展を図ることとし，可搬型分析機器を用いた調査方法，デジタル画像の形成方法等，埋蔵文化財の探査・計測等の調査手法，年輪年代学による木造文化財の年代確定，動植物遺存体等の調査手法に関する研究に重点的に取り組むものとする。	（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 文化財の価値や保存に関する研究の進展を図るため、下記の研究開発及び調査研究に取り組む。 ①文化財の調査手法に関する研究開発 文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 1)デジタル画像の形成方法等の研究開発 文化財の現状及び経年劣化等の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成や３Ｄ記録製作等について研究開発を進める。 2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の探査・計測等の調査手法に関する研究開発を進める。 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 年輪年代調査による木造文化財の年代確定に資するため、年輪データの地域性に関する研究を進める。また、年輪年代の非破壊調査等の新たな手法に関する研究開発を進める。 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発 過去の生活・生業活動の解明等を図るため、分析に必要不可欠な現生の動植物標本を収集・整理するとともに、発掘調査等で出土した動植物遺存体等の調査手法に関する研究開発を進める。	（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 ①文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1)デジタル画像の形成方法等の研究開発 2)埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発 3)年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発 4)動植物遺存体の分析方法の研究開発	〈主な定量的指標〉 特になし （関連する評価指標） ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P312～315　2.-(2)-① 平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表 P202～256　共通資料 c-②～⑧ ＜主要な業務実績＞ 以下 4 件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 ・文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究（東文研） ・埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発（奈文研） ・年輪年代学研究（奈文研） ・動植物遺存体の分析方法の研究開発（奈文研） 主な研究成果は以下のとおり。 ・文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究（東文研） デジタル画像の形成方法の研究開発や他機関と連携による情報共有・公開情報の作成を行った。また、文化財の写真を業務や調査研究で扱う学芸員や研究者、大学院生などに対する普及啓発を図った。 ・埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発（奈文研） 恭仁宮跡（宝幢想定地、京都府）での探査及び、平城宮、東大寺、飛鳥・藤原地域等における、コンピュータービジョン SLAM 等（カメラを用いた 3 次元計測技術）を応用した手法による遺構計測を実施した。熊本地震で被災した熊本城の石垣崩落状況計測・記録のための準備調査を行った。以上について、日本文化財科学会第 33 回大会およびフランス CNRS にて講演した。 ・年輪年代学研究（奈文研） 出土品、建造物、美術工芸品等の多岐に亘る木造文化財を対象とした年輪年代及び樹種同定調査を実施した。また、マイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置を用いて、木造彫刻や美術工芸品等の非破壊調査を行い、その成果を英文査読誌に発表した。 ・動植物 遺存体の分析方法の研究開発（奈文研） 中沢遺跡（岩手県）、などの遺跡から出土した動物遺存体や骨角製品を分析した。また、藤原宮朝堂院朝庭などにおいて、古環境復原のための調査を行った。日本動物考古学会などで研究発表を行った。 ・学術雑誌等への論文掲載数　30 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・報告書等の刊行数　1 件 内訳はアウトプット情報を参照	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P312～315　2.-(2)-① ＜評定と根拠＞ 評定：A 設定した研究テーマは、中期計画に沿ったものである。 また、それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施され、文化財の調査手法に関する研究・開発を推進した。 さらに、以下のような顕著な成果があったため、評定をＡとした。 「埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発」においては、恭仁宮跡（宝幢想定地、京都府）での探査及び、平城宮、東大寺、飛鳥・藤原地域等における、コンピュータービジョン SLAM 等（カメラを用いた 3 次元計測技術）を応用した手法による遺構計測を実施した。熊本地震で被災した熊本城の石垣崩落状況計測・記録のための準備調査を行った。以上について、日本文化財科学会第 33 回大会およびフランス CNRS にて講演した。 「年輪年代学研究」では、出土品、建造物、美術工芸品等の多岐に亘る木造文化財を対象とした年輪年代及び樹種同定調査を実施した。調査の結果、国宝薬師寺東塔の年輪年代を明らかにした。また、マイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置を用いて、木造彫刻や美術工芸品等の非破壊調査を行い、その成果を英文査読誌に発表した。従来は調査対象から薄切片を採取してプレパラートを作成し、顕微鏡で観察していた樹種同定方法に代わる新しい手法として、ナノ（1/1000μm）レベルの高分解能を持つ最新鋭のＸ線ＣＴ装置（ベルギー製）を用いた非破壊による樹種同定方法の技術開発に着手した。 動植物遺存体の分析方法の研究開発（奈文研）では、中沢遺跡（岩手県）、などの遺跡から出土した動物遺存体や骨角製品を分析した。また、藤原宮朝堂院朝庭などにおいて、古環境復原のための調査を行った。 現生標本の収集と公開では、ニホンジカの角の切断標本などを作製するとともに、三次元計測による立体的な骨格図譜の Web サイトを拡充・更新した。日本動物考古学会などで研究発表を行った。 ＜課題と対応＞ 特になし。	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価では A 評定であるが、今後の課題・指摘事項の欄に示す点について、さらなる改善を期待したい。 ＜評価すべき実績＞ デジタル画像の形成方法の研究開発や他機関と連携による情報共有・公開情報の作成を行った。 文化財の写真を業務や調査研究で扱う学芸員や研究者、大学院生などに対する普及啓発を図った。 ＜今後の課題・指摘事項＞ A 評定の基準に対し、当該事項は中期計画及び年度計画において定量的な評価指標を設定しておらず、提出された資料では定性的評価の根拠も十分な説明がされていないため、B 評価とした。 ＜有識者からの意見＞ ・科学技術を応用した文化財の調査手法の研究開発は、国立文化財機構ならではの基盤的研究である。 ・埋蔵文化財の発掘調査を支援する奈良文化財研究所における計測・年代測定・動物遺存体などの研究開発が継続的に進められていることは評価される。 ・埋蔵文化財研究を中心に成果があった。

４．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－７－（２）	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．　文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施 （２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 ②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第５号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	15	18				
	（奈文研）	実績値	－	2	4				
	（合計）	実績値	－	17	22				
報告書等の刊行数（件）	（東文研）	実績値		－	4				
	（奈文研）	実績値		－	1				
	（合計）	実績値		－	5				

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	107,291				
決算額（千円）	171,001				
経常費用（千円）	－	－	－	－	
経常利益（千円）	－	－	－	－	
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	
従事人員数（人）	88				

※予算額は個別に計上することができないため、応用研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、応用研究事業費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は２文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価		
（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 ② 文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究	（2）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 ②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。 以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。	②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 1) 生物被害の予防と対策に関する調査研究 2) 文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 3) 可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究 4) 屋外文化財の劣化対策に関する調査研究 5) 文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 6) 考古遺物の保存処理法に関する調査研究 7) 遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究 8) 建造物の彩色に関する調査研究	〈主な定量的指標〉 特になし （関連する評価指標） ・具体的な研究成果（評価指標） ・論文等数（モニタリング指標） ・報告書等の刊行数（モニタリング指標）	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P316～326　2.-(2)-② 平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表 P202～256　共通資料 c-②～⑧ ＜主要な業務実績＞ 以下、11 件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 ・文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究/保存と活用のための展示環境の研究/文化財の材質・構造・状態調査に関する研究/屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究/文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究/近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究/高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究（東文研） ・考古遺物の保存処理法に関する調査研究/遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究/建造物彩色に関する研究/高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究（奈文研） 主な研究成果は以下のとおり。 ・文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究（東文研） 虫害のある歴史的建造物について、処理効果を判定するための害虫生息調査を日光山内の社寺において実施した。その際、従来の粘着性トラップ調査に加えて、飛翔性昆虫を衝突させて捕獲するフライト・インターセプション・トラップ（FIT）を新たに適用し、現地での実証実験を行った。また、石人山古墳にある石棺表面に繁茂する緑色着生生物について、次世代シーケンス解析を用いて群集構造を明らかにし、成果を学術雑誌を通して発信した。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P316～326　2.-(2)-② ＜評定と根拠＞ 評定：B 設定した研究テーマは、中期計画に沿ったものである。 また、それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施され、最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究としての課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与した。 特に、「文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究」において、歴史的建造物に対する環境低負荷型の殺虫方法の実施に向けた害虫生息調査において新規手法を取り入れて遂行し、処理後の評価を行う調査研究を計画の通り実施した。簡易・迅速な新しい生物モニタリング手法に関する基礎研究についても当初の計画通り研究を遂行することが出来た。生物被害痕跡のクリーニング技術の開発に向けた基礎研究についても成果を得ることが出来た。 「文化財の材質・構造・状態調査に関する研究」では、各種の可搬型分析機器を用いた分析調査を行ったことにより、日本絵画で用いられている顔料についての研究成果が得られた（論文 1 件、学会発表 1 件、報告書 1 件）。新たに導入した可搬型Ｘ線回折装置を活用することにより、金属製品に見られる腐食生成物の詳細な分析、及び	評定	B
						＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・科学技術を応用した文化財の保存修復及び保存技術に関する調査研究は、国立文化財機構ならではの基盤的研究である。 ・基盤研究充実のための人員配置および予算措置が必要。 ・多様な開発がなされている。 ・計画通りに研究が進展した。	

		9) 近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究 10) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究		た。 ・文化財の材質・構造・状態調査に関する研究（東文研） 新たに導入した可搬型Ｘ線回折分析装置を用いて、煉瓦造建造物（INAX ライブミュージアム）に析出している塩類のその場分析を実施した。また、この分析結果と据置型分析装置を用いて分析した結果とを比較することにより、可搬型Ｘ線回折分析装置を用いたその場分析の有用性の評価を行った。 ・高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究（東文研） 高松塚古墳壁画について、28 年度も修理施設内での害虫等生息調査、浮遊菌・付着菌量調査、温湿度推移のモニタリングを継続し、安全な保存空間の維持に努めた。空調制御プロセスの解析を、構築した計測システムによって行った。 キトラ古墳壁画について、取り外した漆喰の再構成が終了し、8 月に天井・南壁・西壁、12 月に北壁・東壁を四神の館に搬送した。搬送に伴う壁画の状態の確認を行い、四神の館における現在の壁画状態についても継続的に観察を行っている。 ・学術雑誌等への論文掲載数　22 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・報告書等の刊行数　5 件 内訳はアウトプット情報を参照	建造物に見られる析出塩類のその場分析（論文 1 件）を実施することができた。 ＜課題と対応＞ 特になし。	

4．その他参考情報

特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－８－（１）	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施 （３）文化遺産保護に関する国際協働 ①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第５号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
国際情報の収集等事業の実施件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	3				
	（奈文研）	実績値	－	－	3				
	（合　計）	実績値	－	－	6				
研修・ワークショップ等の参加者の満足度（%）	（東文研）	実績値	－	－	100				
	（奈文研）	実績値	－	－	－				
共同研究等の実施件数(件)	（東文研）	実績値	－	－	1				
	（奈文研)）	実績値	－	－	2				
	（合　計）	実績値	－	－	3				

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	163,211				
決算額（千円）	115,071				
経常費用（千円）	－	－	－	－	
経常利益（千円）	－	－	－	－	
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	
従事人員数（人）	88				

※予算額は個別に計上することができないため、決算報告書・国際遺産保護事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、決算報告書・国際遺産保護事業費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。。
※従事人員数は２文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
（３）文化遺産保護に関する国際協働 文化遺産の保護に関する国際的な協力については，「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律」及び同法に基づく「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針（平成 26 年２月 21 日　外務省・文部科学省告示第１号）（以下「基本方針」という。）」等に従い行うこととし，以下のとおり目標を定める。 ①　文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 基本方針第１の４（２）教育研究機関等の役割の③に掲げる文化財機構の役割を踏まえつつ，文化遺産国際協力を推進するとともに，国際協力推進体制について中核的な役割を担うこと。	（３）文化遺産保護に関する国際協働 ①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。 1）文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 2）文化遺産保護協力事業の推進 3）文化遺産の保存・修復に関する人材育成等	（３）文化遺産保護に関する国際協働 ①文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 1）文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 2）文化遺産保護協力事業の推進 3）文化遺産の保存・修復に関する人材育成等	【指標】 ・　文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数，諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の参加者の満足度，諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数） 〈目標水準の考え方〉 以下の基本方針に掲げる事項に対し，具体的な事業を企画し，これを達成することとする。国等の要請や相手国との連携の必要性から，計画通りに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P327～335　2.-(3)-① 平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表 P140 ＜主要な業務実績＞ ・第 40 回ユネスコ世界遺産委員会（イスタンブール）、ACCU 奈良主催国際会議「アジア太平洋地域における文化遺産保護人材養成の実情と課題」等の国際会議に出席し、文化財保護に関する国際情報収集を行った。また、文化遺産保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、『各国の文化財保護法令シリーズ[21]トルコ』を１冊刊行した。（東文研） ・アンコール歴史遺跡開発保存国際調整委員会第 26 回技術委員会（シェムリアップ（カンボジア）、６月 22 日～23 日）に研究員 3 名が出席して発表を行い、今後の活動に向けての意見交換を行った。（奈文研） ・英国セインズベリー日本芸術研究所にてセミナーを共催した。また、英国ヨーク大学考古学情報サービスにて考古学デジタル情報ワークショップを共催した（奈文研） ・カンボジア・アンコールのタ・ネイ遺跡を対象とする保存整備計画立案に関するワークショップをアンコール地域保存管理機構（APSARA）と共催した。また、これに先立ち国際調整委員会 ICC 総会に参加した（東文研） ・ミャンマーのバガン遺跡を訪れ、寺院壁画保存に向けた煉瓦造建造物外壁の調査準備と保存修復方法の検討会を実施した。（東文研） ・国際研修「紙の保存と修復」を８月～９	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P327～335　2.-(3)-① ＜評定と根拠＞ 評定：B 文化財保護に関する国際協力に関して、事業を有機的・総合的に展開し、文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与した。 ・世界遺産委員会を初めとする国際会議に出席するなど、文化財保護に関する国際情報の収集・分析を行い、適切かつ迅速に情報発信を行った。国内外において充実した研究交流とネットワークの強化が実施できた。また国内の選定保存技術の調査を積極的に進め、効果的に情報発信を行った結果、海外また国内からも高い評価を得ることができ、次年度に向け発展的に継続するための基盤整備ができた。 ・カンボジア、ミャンマーにおいては、現地機関主体による遺跡保存整備を技術面で支援するという基本的考え方のもと、必要な現地作業を実施することができた。カンボジア：アプサラ機構と共同で西トップ遺跡北祠堂の調査・解体修理事業を継続した。28 年度に北祠堂の解体修復がほぼ完成した。 ＜課題と対応＞ 特になし。	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 世界遺産委員会を始めとする国際会議に出席するなど、諸外国と文化的交流事業を行い、我が国の国際支援に寄与している。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・在外日本古美術品保存修復協力事業、国際研修「紙の保存と修復」は、とくに国際的評価が高い事業として評価できる。 ・さらに推進していくべきである。		

					月に東文研で開催し、日本の紙本文化財修復に使用する材料、道具、日本の文化財修復制度に関する講義、及び巻子修復（画像参照）、和綴じ冊子作製、掛軸・屏風の取り扱い実習を行った。（東文研） ・カンボジア：アプサラ機構と共同で西トップ遺跡北祠堂の調査・解体修理事業を継続した。28 年度に北祠堂の解体修復がほぼ完成した。（奈文研） ・ユネスコアジア文化センター（ＡＣＣＵ）が行った集団研修「遺跡（遺構・遺物）の調査と保護」等の事業に協力し、文化遺産の調査研究・保護に関する実践的な知識や技術を移転し、人材育成を行った。（奈文研）		

４．その他参考情報
特になし

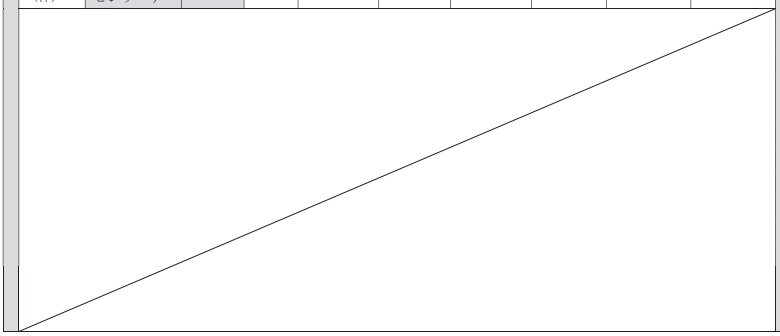
様式１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－８－（２）	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施 （３）文化遺産保護に関する国際協働 ②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第５号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
国際協力事業の実施件数（件）	（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）	実績値	－	－	5				



②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	62,396				
決算額（千円）	83,255				
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	1				

※予算額は、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの受託事業費等の予算額を計上している。
※決算額は、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの受託事業費等の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、当初の受入見込みになかった受託事業等があったことによる。
※従事人員数は、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
（３）文化遺産保護に関する国際協働 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関し，ユネスコと日本国政府の間の協定に基づき設立されたアジア太平洋無形文化遺産研究センターについて，以下のとおり目標を定める。 ①　文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 基本方針第１の４（２）教育研究機関等の役割の③に掲げる文化財機構の役割を踏まえつつ，文化遺産国際協力を推進するとともに，国際協力推進体制について中核的な役割を担うこと。	（３）文化遺産保護に関する国際協働 ②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 アジア太平洋地域において活動する研究者・研究機関と連携のもと、無形文化遺産保護の実践及び方法論についての国際会議やシンポジウム及び専門家会合並びに出版等の事業を通じた研究の活性化、研究情報の収集及びその活用戦略の検討と開発を通じて、当該地域における無形文化遺産保護のための研究を促進する。特に、自然災害等によって危機に瀕した無形文化遺産に注意を払い、その実態や保護事例についての調査研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。	（３）文化遺産保護に関する国際協働 ②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究 アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究拠点として、以下の事業を行う。 ・同地域における無形文化遺産保護分野の研究ついての総合的情報収集、及びその成果に基づく無形文化遺産保護調査研究データベースの充実 ・無形文化遺産保護に関する研究の活性化に資する国際会議の開催 ・無形文化遺産保護の理解と促進に資するシンポジウムの開催 ・同地域における危機に瀕する無形文化遺産保護に向けた政策等の調査研究及びワークショップ ・国際会議への出席やユネスコとの連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集	【指標】 ・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際協力事業の実施件数） 〈目標水準の考え方〉 ・以下の基本方針に掲げる事項に対し，具体的な事業を企画し，これを達成することする。国等の要請や相手国との連携の必要性から，計画通りに実施できるとは限らない。したがって数値目標は設定せず，上記の取組状況をモニタリングし総合的に評価する。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P336　2.-(3)-② 平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表 P141　2.-(3)-② ＜主要な業務実績＞ アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関し、以下の調査研究等を行った。 ・現地研究者・研究機関と協力し、域内 11 ヶ国を対象とした国単位での体系的文献サーヴェイを実施し、その情報を研究データベースに追加した。 ・国際専門家会合「2016 Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region」を開催。アジア太平洋地域の 14 ヶ国より 25 名の専門家が参加した。 ・「無形文化遺産国際シンポジウムー技と心を受け継ぐー」を堺市と開催し、無形文化遺産保護の理解と促進に努めた。 ・大メコン圏における無形文化遺産保護に関する法制度研究事業の最終ワークショップ「IRCI Final International Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region」を開催した(ベトナム・ハノイ)。 ・「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備的調査」を、東京文化財研究所無形文化遺産部の協力を得て、２８年度からの新規事業として開始した。現地調査をアジア３ヵ国・オセアニア３ヵ国で、ワーキンググープ会合を国内で３回それぞれ実施した。 ・第６回無形文化遺産条約締約国会議（フランス・パリ）等に出席し、国際的動向の情報収集を行った。 年度計画記載事項以外に、以下の取組を行った。 ・概要を日英で発行し、ウェブサイトの定期的な更新を行う等、情報発信に努めた。 （参考） 学会、研究会での発表件数　２件 調査研究刊行物発行件数　６件 シンポジウム開催件数　１件	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P336　2.-(3)-② ＜評定と根拠＞ 評定：B アジア太平洋地域で喫緊の課題である無形文化遺産保護に取り組んだ。域内での事例が少ない無形文化遺産保護の研究に積極的に取り組むとともに、新規事業では災害と無形文化遺産を関連付ける新しい視点を提供し、対象国より高い関心を集めた。各事業で着実に情報収集・調査を進めており、所期の計画を上回る数の国々で今後の協力に向けた基盤形成ができた。法制度研究では受託事業のワークショップをもとにツールキット案が作成され、事業終了後も各国での活用が期待される。国内外の機関・研究者と連携することにより、限られた人員のなか、効率的に事業を推進することができた。事業対象国の現地機関との関係構築が進展し、継続的事業実施に求められる体制が整った。 以上のとおり、年度計画を達成したのみならず、新たな調査研究「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備的調査」を開始したことや、情報発信の充実に務めるなど、活動の充実を図った。 よって、一連の活動を通して、アジア太平洋地域における無形文化遺産の調査研究センターとして、無形文化遺産保護の国際的充実に資することができたと評価できる。 ＜課題と対応＞ 予算については、文化庁の受託事業が事業経費の中核を占めており、毎年度申請が必要であるため、継続的な予算獲得に努める。	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ アジア太平洋地域における無形文化財遺産の保護のために各国の研究情報をデータベースに追加するなど無形文化遺産保護の国際的充実に資する業務を実施した。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・無形文化財に関する保存事業を中心に調査研究が行われた。競争的資金で研究を進める形になっており、研究の継続性に若干不安がある。

4．その他参考情報

特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－９	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施 （４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第５号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

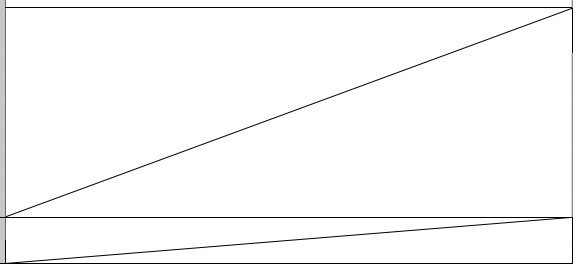
①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
閲覧室開室日数（日）	（東文研）	実績値	－	－	137				
	（奈文研）	実績値	－	－	243				
閲覧室利用人数（人）	（東文研）	実績値	－	－	923				
	（奈文研）	実績値	－	－	475				
文化財情報受入総数（件）（東文研）	図書	実績値	－	104,577	114,509				
	雑誌	実績値	－	128,778	158,763				
	その他	実績値	－	35,046	36,348				
	計	実績値	－	268,401	309,620				
文化財情報受入総数（件）（奈文研）	図書	実績値	－	351,586	361,275				
	雑誌	実績値	－	89,734	93,623				
	その他	実績値	－	－	－				
	計	実績値	－	441,320	454,898				
文化財データベース公開件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	22				
	（奈文研）	実績値	－	－	25				
データベース件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	1,164,416				
	（奈文研）	実績値	－	－	1,341,997				
ウェブサイトアクセス件数（件）	（東文研）	実績値	－	1,941,504	1,591,403				
	（奈文研）	実績値	－	605,211	4,990,661				
定期刊行物刊行件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	12				
	（奈文研）	実績値	－	－	10				
	（合　計）	実績値	－	－	22				
学術ジャーナル公開件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	1,510				
	（奈文研）	実績値	－	－	4,389				
講演会等開催数（件）	（東文研）	実績値	－	－	5				
	（奈文研）	実績値	－	－	12				
	（合　計）	実績値	－	－	17				
講演会等の来場者数（人）	（東文研）	実績値	－	－	798				
	（奈文研）	実績値	－	－	6,400				
	（合　計）	実績値	－	－	7,198				

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	329,940				
決算額（千円）	323,702				
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	89				

※予算額は個別に計上することができないため、決算報告書・情報公開事業費予算額の合計額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、決算報告書・情報公開事業費決算額の合計額を計上している。
※従事人員数は２文化財研究所の全常勤研究職員の人数に、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの研究職員の人数を加えた人数を計上している。



3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	A
（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 研究の進展や行政事務の効率化等に資することを目的として，文化財に関する情報及び図書・雑誌等を収集・整理し，公開すること。	（4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元する。 ①文化財情報基盤の整備・充実 文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。なお、文化財に関するデータベースの公開件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。 ②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 ③ 展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。	4）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 ①文化財情報基盤の整備・充実 文化財関係の情報を収集して発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。 ②調査研究成果の発信 文化財に関する調査研究の成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトを充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。 ③ 展示公開施設の充実 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。	【指標】 図書，雑誌等の公開に関する取組状況（資料閲覧室・図書資料室の開室日数，利用者数，文化財に関する資料・図書等の総件数） 文化財に関するデータベースの公開件数（前中期目標の期間の実績以上） 【関連指標】 ・データベースのデータ件数 ・データベース等へのアクセス件数 〈目標水準の考え方〉 文化財に関する専門図書等の公開施設を設け，書誌情報等による検索サービスを提供し，利用者の利便性の向上と増加に努めること。なお，当該施設は文化財に関する希少な資料・図書等を収集・整理し公開するものである。一般図書とは異なりその利用に当たっては制限が必要となることとなり，あらかじめ数値目標を設定せず，上記の取組をモニタリングし総合的に評価する。 文化財に関する各種データベースを構築して，情報通信回線を通じて公開し，利用者の利便性の向上と増加に努めること。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P337～345　2.-(4) 平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表 P142～144　共通資料 a-①～③ ＜主要な業務実績＞ ① ・全所的文化財情報を発信するため4半期ごとにアーカイブズWG協議会を開催した（東文研） ・音声視聴覚ブースを設置し、公開に向けて当研究所無形文化遺産部が所蔵する音声映像資料の資料閲覧室での視聴に対応するよう環境を整えるとともに、『音盤目録』を Web 上での公開と活用を見据えてデジタル化を行った。（東文研） ・文化財情報電子化の研究を行い、GIS（地理情報システム）を活用した遺跡情報の分析に関する研究発表 2 件と全国遺跡報告総覧に関する研究発表 5 件（うち 3 件は口頭発表）を行った。（奈文研） ・購入及び寄贈により発掘調査報告書を始めとした歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心とする資料の収集を行い、目録の整備を行った。また、資料の情報をデータ化し、データベースに蓄積してインターネット上で公開した。（奈文研） ③ ・文化財に関する調査研究の成果について、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多元的に発信した。（東文研、奈文研） ・定期刊行物の刊行を行った。(東文研)(奈文研) ・広く一般から聴講を募集し、オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」を開催した。(東文研) ・ウェブサイトの主要コンテンツである「東文研総合検索システム」をポータルとするウェブデータベースについて、プロジェクト「専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充」と連携、4 件を新規に公開、既存ウェブデータベースへデータを追加した。(東文研) ・29 年 3 月に既存の無線 LAN アクセスポイントに個人認証システムを導入、セキュリティの強化を図った。(東文研) ③ ・平城宮跡資料館における展示公開 来館者数はアウトプット情報を参照 夏期企画展「ナント！おいしい！？平城京！！」など特別展を開催し、企画展・講演会を目標以上に開催した。(奈文研) ・飛鳥資料館における展示公開 来館者数はアウトプット情報を参照 春期特別展「文化財を撮る―写真が遺す歴史」など特別展を開催し、企画展・講演会を目標以上に開催した。(奈文研) ・藤原宮跡資料室における展示公開 来館者数はアウトプット情報を参照 発掘調査の速報展示などを通年で実施した。(奈文研) ・平城宮跡解説ボランティアを組織・運営して、来訪者に対して、第一次大極殿等の文化庁施設、平城宮跡資料館の定点解説のほか、予約及び当日受付した来訪者を対象に「ツアーガイド」として宮跡内各施設に同行し解説を行い、平城宮跡の理解を広げることに貢献した。(奈文研)	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P337～345　2.-(4) ＜評定と根拠＞ 評定：A ウェブサイト、刊行物、研究成果公開施設における展示等により、調査・研究成果の発信を順調に行うことができた。 ・閲覧室のレファレンス機能を無形文化財の音声・映像視聴に及ぶことを見据え環境整備に着手するとともに、海外発信を念頭に置き研究所の成果刊行物のなかから英文をともなう在外修復の報告書を選定し、掲載作品を収蔵する海外の美術館に公開の許諾申請を進めた。(東文研) ・文化財情報に関する基礎研究を積み重ねながら、継続性が重視されるデータベースの充実を着実に進めており、それが新規のデータベース公開につながっている。(奈文研) ・仮庁舎ということもあり、書庫がかなり狭隘な状況になりつつある中、30 年度の新庁舎への書庫移転を見据えた資料管理を検討し、スペースの有効活用を行うことにより、新着資料の受入に努力をした。(奈文研) ・平城宮跡資料館、飛鳥資料館では、特別展のみならず企画展を実施し、藤原宮跡資料室でも通年の速報展示を実施し、展示を充実させた。 平城宮跡資料館については、特別展・企画展 4 件、飛鳥資料館については、特別展・企画展 4 件を開催し、歴史的な地域の特性を活かした展示を行った。 ・ウェブデータベースの機能改善や、情報発信機能の向上につながるストレージシステムの強化など、順調に取組を進めることができた。次年度以降も、運営費交付金や外部資金による他プロジェクトと連携し、効率的に調査研究を実施する。また、情報システムセキュリティの確保に留意しつつ、調査研究及びウェブを活用した成果公開のための情報基盤の整備を行うとともに、国内外での事例調査を実施し、ウェブにより発信する文化財情報データベースをさらに拡充する。(東文研) ・新たな展示の手法やパネル等の表現について模索しつつ、新たな参観者層の掘り起こしを図ることができた。今後、平城宮跡展示館の開館とその後の平城宮跡資料館の展示内容の改変を見据えながら、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示等を充実させ、来館者の理解を促進するという平城宮跡資料館の計画を着実に実施していく。(奈文研) ＜課題と対応＞ 特になし。	＜評定に至った理由＞ 評価すべき実績の欄に示す通り、中期計画及び年度計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 音声視聴覚ブースの設置やＧＩＳを活用した遺跡情報の分析に関する研究発表を行うなど情報資料の収集・整理及び調査研究成果の公開・活用に努めている。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・日本全国の発掘調査報告書等をデジタル化して公開する「全国遺跡報告総覧」の事業は、世界屈指の発掘情報を十分活用するために必須であり、それに関する研究を進めることは、一部にとどまっている公開を全国展開するうえで重要である。 ・公開が進んでいることを評価したい。 ・研究の深化とデータベース構築が一体化して、高度な研究上の進展が認められる。

４．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－１０－（１）	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施 （５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 ①地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第５号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
文化財研修（東文研）	件数	実績値	1	2	1				
	受講者数	実績値	30	32	27				
	研修成果活用実績	実績値	80以上	－	100				
文化財研修（奈文研）	件数	実績値	13	15	15				
	受講者数	実績値	156	177	167				
	研修成果活用実績	達成度	80以上	－	100				
専門的・技術的な援助・助言（件）	（東文研）	実績値	－	－	793				
	（奈文研）	実績値	－	－	405				
	（合計）	実績値	－	－	1,198				

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	18,670				
決算額（千円）	35,355				
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	88				

※予算額は個別に計上することができないため、決算報告書・研修協力事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、決算報告書・研修協力事業費の決算額を計上している。
※従事人員数は２文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 地方公共団体等の職員を対象とした有形文化財・記念物等の保存及び修復に関する研修並びに埋蔵文化財等に関する各種研修について，研修項目，課程等の体系を示し，地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施すること。	（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 我が国の文化財に関する調査研究の中核として、これまでの調査研究の成果を活かし、文化財担当者を対象とした各種研修について、研修項目、課程等の体系を示し、地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施し、文化財保護に携わる人材を育成する。 また、我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行う。 ①文化財に関する研修の実施 ②文化財に関する協力・助言等 ④連携大学院教育の推進	5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 ①文化財に関する研修の実施 1）文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。 2）研修の体系を整理するとともに、研修受講生を対象としたアンケート項目を見直したうえでの調査及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況及びニーズに関するアンケート調査を行う。 ②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1）地方公共団体等からの要請に応じ、	【指標】 ・研修の実施件数（前中期目標の期間の実績以上） ・研修の受講者数（前中期目標の期間の実績以上） ・研修成果の活用状況（アンケートによる研修成果の活用実績が 80%以上） 〈目標水準の考え方〉 ・地方公共団体等における文化財に係る専門人材の資質の向上は，我が国全体の文化財行政等の基盤を支える観点から重要である。中期目標の期間においては，各研修の目的，項目及び課程等の研修体系を策定するとともに，アンケートにより地方公共団体等の要望や研修成果の活用状況を調査し，適宜研修プログラム等に反映する。 【指標】 ・専門的・技術的な援助・助言の取	＜実績報告書等参照箇所＞ ・平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P344～359、P365～366　2.-(5)-①,②,④ ・平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表 P145～147　2.-(5)-①,②	＜自己評価書参照箇所＞ ・平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P344～359、P365～366　2.-(5)-①,②,④	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 地方公共団体等への協力・助言を 1,198 件実施し、また各博物館等の学芸員を対象とした研修を自然科学的見地でのカリキュラム構成で行うなど文化的保護に携わる人材育成に努めている。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・東日本大震災の復興事業に伴う埋蔵文化財調査に対する支援は評価される。今後の継続を期待する。 ・国立博物館・文化財研究所としての指導的役割を良く果たした。
				＜主要な業務実績＞ 協力・助言については、以下のような内容で 1,198 件実施した。 ・文化財の収集、保管に関する指導助言（東文研）11 件 ・無形文化遺産に関する助言（東文研）10 件 ・文化財の虫菌害に関する調査・助言（東文研）41 件 ・文化財の修復及び整備に関する調査・助言（東文研）58 件 ・文化財の材質・構造に関する調査・助言（東文研）15 件 ・美術館・博物館等の環境調査と援助・助言（東文研）658 件 ・地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言（奈文研）339 件 ・地方公共団体が行う平城京域の発掘調査等への協力・援助（奈文研）45 件 ・地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言（奈文研）13 件 ・東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力（奈文研）8 件 研修に関して主な実績は以下のとおり。 ・博物館・美術館等保存担当学芸員研修を実施し、27 名が受講した。（東文研）	＜評定と根拠＞ 評定：B 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、多岐にわたる領域について、文化財に関する多数の協力・助言を行った。 「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」では、数年に渡り、勤務館において資料保存に携り、設備や問題点を把握している学芸員を対象とした研修会を行っている。自然科学的見地でのカリキュラム構成で保存に特化した研修を行っているのは他では例を見ない。受講者、また受講者の所属長を対象としたアンケートにより、研修に対するニーズを把握し、絶え間ないカリキュラムの検討と必要な改正に努めた。研修終了後も受講者に対して助言等を行い、またフォローアップ研修等を通じて、最新の資料保存に関する知見等を提供する機会を設けた。実施件数、活用実績は目標値を上回った。 ＜課題と対応＞ 特になし。	

		文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。 2）蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。 3）東日本大震災の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。 ④連携大学院教育の推進 1）東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進	組状況（行政，公私立博物館等の各種委員等への就任件数，依頼事項への対応件数等） 〈目標水準の考え方〉 ・行政機関が実施する発掘調査や史跡整備事業を始め，博物館等の業務に関する専門的・技術的な協力の依頼については，内容に応じて都度検討することとなる。したがって，あらかじめ援助・助言に関する目標値を設定することになじまないため，援助・助言件数をモニタリングし総合的に評価する。	研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から満足との回答を得ており、充実した研修が実施できた。 ・遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門研修 13 課程・特別研修 2 課程の研修を実施し、延べ 167 名が受講した。なお、研修受講者に対するアンケート調査では、全員から「有意義であった」「役に立った」との回答を得た。（奈文研） ・東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進を行った。（東文研） ・京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進を行った。（奈文研）		

4．その他参考情報

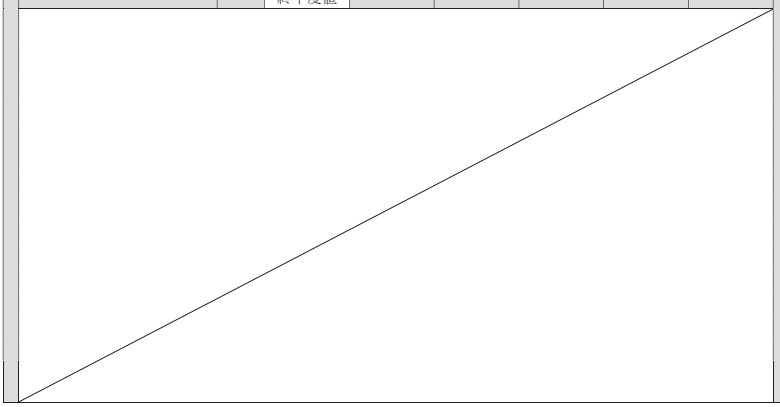
特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－１０－（２）	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施 （５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 ②平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第５号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等	達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度



②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	548,153				
決算額（千円）	559,218				
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	88				

※予算額は個別に計上することができないため、決算報告書・文化財研究所等の受託事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、決算報告書・文化財研究所等の文化芸術振興費（１－１０－（３）に計上している文化財防災ネットワーク推進事業を除く）、政府開発援助ユネスコ活動費、受託事業費の決算額の合計額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、政府開発援助ユネスコ活動費は当初予定されていない事業であること、受託事業費では当初の受入見込みになかった受託発掘調査、受託調査研究の契約が多数あったことによる。
※従事人員数は２文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

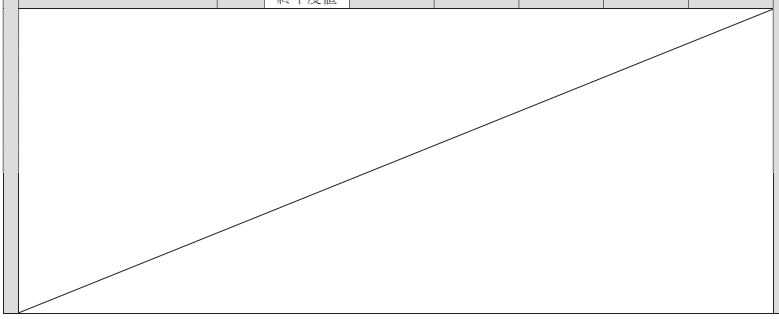
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	A
（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 文化財に関する国・地方公共団体の行政事務や博物館の業務等に関する依頼等について，可能な限り専門的・技術的見地から適切な協力等を行うこと。	（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 我が国の文化財に関する調査研究の中核として、これまでの調査研究の成果を活かし、文化財担当者を対象とした各種研修について、研修項目、課程等の体系を示し、地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施し、文化財保護に携わる人材を育成する。 また、我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行う。 ③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。 また、ＮＰＯ法人	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備・公開、管理事業への協力 ・国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原等への協力 ・国土交通省が建設する平城宮跡展示館の展示への協力 ・国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の開園への協力 2)ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各	【指標】 なし	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P360～364　2.-(5)-③ 平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表 P169～172　共通資料ｂ ＜主要な業務実績＞ 宮跡内の現状等について、文化庁、国土交通省等に情報提供及び助言の協力を行った。（奈文研） ①消防訓練実施への協力 ②宮跡内イベント開催への協力 ③文化庁平城宮跡整備計画への資料提供等 ④国土交通省平城宮跡歴史公園整備計画への資料提供等 ⑤平城宮跡保存・活用連絡協議会（協議会・連絡会）28 年度への参加 ⑥平城宮跡保存・活用連絡協議会ワーキング　28 年度への参加 ⑦平城宮跡遺構展示館の露出展示改善に関する検討委員会（第６・７回）への参加 ⑧平城宮跡及び藤原宮跡等の保存整備に関する検討委員会への参加 ⑨平城宮跡安全・安心連絡協議会への参加 ⑩発生事案の報告及び対応 ・国土交通省が行う平城宮跡展示館の建設に当たって、立会調査を１件行った。 ・国土交通省が行う平城宮跡及び二条大路、朱雀大路の整備に先立つ発掘調査を５箇所の調査区で行った。 ・国土交通省が行う第一次大極殿院の整備工事に当たって、立会調査を１件行った。 ・国土交通省が行う平城宮跡展示館、朱雀	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P360～364　2.-(5)-③ ＜評定と根拠＞ 評定：Ａ 文化庁施設の公開・利用等の連絡調整、発掘調査等の連絡調整、文化庁施設の整備・維持管理及び修繕等の相談に対応している。また、文化庁施設（復原施設・便益施設等）の計画的整備に対しても、必要な情報提供及び助言等の協力を行っている。今後も、国土交通省平城宮跡歴史公園整備計画等への必要な情報提供及び助言等を行い、公開・活用事業に継続的な協力を行っていく。 国土交通省による整備設計と整備工事に対し、発掘調査や立会調査、指導・助言などを適切に行い、平城宮跡の保護と活用に十分寄与することができた。また細部の検討が続く第一次大極殿の復原に対し、出土事例の収集と製作技法を含めた建築金具のデザインを中心とする検討を、適時に効率よく進めることができた。 国土交通省が行う平城宮跡展示館の詳覧ゾーン実施設計を適切に監修し、29 年度には本格化する展示施工に関して、必要な展示品採寸、パネル原稿作成を計画通り行うことができ、また、実施設計へのフィードバックを行うことができた。 文化庁と国土交通省の双方と連携して、キトラ古墳周辺地区の開園にあたり貢献した。奈文研の知見を最大限に生かした成果	＜評定に至った理由＞ 評価すべき実績の欄に示す通り、中期計画及び年度計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 各施設の公開・利用等の宮跡内の現状等について、多様な視点から文化庁、国土交通省等に情報提供及び助言を行うなど平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力に努めている。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・奈文研飛鳥資料館の手拭い・ブックカバーなどのオリジナルグッズはデザインや色・素材が優れていた。 ・現在、観光拠点化はまだ途上というべきだが、２９年度中にはかなりの進展が見込まれよう。

		平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。	種ボランティア活動への協力		大路周辺、二条大路周辺、第一次大極殿院周辺の整備設計あるいは整備工事に対する指導・助言を 10 回以上行った。 ・第一次大極殿院の復元に向けて、出土金具を中心とする資料収集を進め、所内検討会を１度開催した。 ・第一次大極殿院の建築金具の復元に向けて、有識者会議を２回開催した。 ・第一次大極殿院の復元研究報告書の作成にむけて準備を進めた。 ・文化庁が行う特別史跡平城宮跡の管理に対して、適時に適切な助言を行った。	として高く評価できる。この施設は飛鳥観光の拠点となる施設であり、文化財に対する理解を深める場としても重要な施設と位置づけられ、当研究所の行う壁画古墳関連の調査研究を紹介する場としても活用が見込める。また、飛鳥資料館と連携して壁画に関連する展示を行うなど、相乗効果により観光客の集客を促し、地域活性化につなげることも期待できる。 ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークとの共催・後援事業において、人員及び会場提供に協力しつつ、平城宮跡の清掃や普及活動を行った。ＮＰＯ法人の歴史講座等の支援や、周辺自治会が企画する講座への講師派遣を通じて、広く情報発信を行うことが出来た。 ＜課題と対応＞ 特になし。	

４．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－１　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報					
１－１０－（３）	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 ２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施 （５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 ③文化財等の防災・救援等への寄与				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第５号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ							
①主要なアウトプット（アウトカム）情報							
指標等	達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
							

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）					
	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度
予算額（千円）	149,310				
決算額（千円）	149,310				
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	97				

※予算額は個別に計上することができないため、文化財防災ネットワーク推進事業費の予算額を計上している。
※従事人員数は４国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価		
（5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 文化財に関する国・地方公共団体の行政事務や博物館の業務等に関する依頼等について，可能な限り専門的・技術的見地から適切な協力等を行うこと。	5）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 我が国の文化財に関する調査研究の中核として、これまでの調査研究の成果を活かし、文化財担当者を対象とした各種研修について、研修項目、課程等の体系を示し、地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施し、文化財保護に携わる人材を育成する。 また、我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行う。 ⑤文化財等の防災・救援等への寄与 巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、	⑤文化財等の防災・救援等への寄与 1)体制づくり 有事における文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりに向けた検討を行う 2)調査研究等の実施 ア　文化財等の防災・救援に関する調査研究を行い、情報の収集と発信を行う。 イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、安定化処置及び修理、保存環境等に関する研究を実施し、指針の策定を目指す。 ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を実施する。 3)人材育成等の実施 文化財等の防災・救援に関する指導・助言、研修、啓発・普及活動として、シンポジウム、講演会、研究集会、地方公共団体担当者等への研修会、地域の防災体制構築のための人材育	【指標】 なし	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P367～370　2.-(5)-⑤ 平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表 P173～257　共通資料 c-①、④、d ＜主要な業務実績＞ ・文化遺産防災ネットワーク推進会議や文化遺産防災ネットワーク有識者会議等を開催した。 ・28 府県の博物館協会事務局・教育委員会文化財所管課等の担当者と面談し、府県内の文化財防災体制の現状等について聞き取り調査を実施し、文化財防災ネットワーク推進事業の紹介及び防災体制の確立に向けた意見交換を進めた。 ・第 3 回全国史料ネット研究交流集会を愛媛資料ネットと共に主催し、21 団体が報告を行った。 ・47 都道府県の地域防災計画を閲覧調査し、文化財に関する記述について数県で改定を行っている状況を把握した。 ・都道府県・市町村指定文化財のリストについて、無形・有形文化財それぞれに作成していたデータベースの統合を目指し、データ項目を分析・整理した。また、文化財保護に関連する条例を収集し、データベース化や公開に向けての設計等を行った。 ・被災した遺跡出土の動植物遺存体を含めた自然史標本に関する所在情報の収集をおこなったほか、防災・減災に向けた保管・管理体制を検討した。 ・災害痕跡データベースの構築・公開のため、全国の発掘調査報告書ならびに発掘調査現場での情報収集を行い、GIS データベースシステム構築を進めた。大容量デ	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P367～370　2.-(5)-⑤ ＜評定と根拠＞ 評定：A 文化遺産防災ネットワーク推進会議は、28 年度にも新規に 1 団体が加盟し、徐々に拡大している。 4 月に発生した熊本地震を受けて、熊本に重点化した情報収集やレスキュー活動の指導助言を実施した。これによって、被災地での文化財救出体制が速やかに構築され、29 年 3 月現在で実施件数 28 件、文化財件数約 6,200 件の救出につながった。 国立博物館所蔵品統合検索システムについては、目標であった一般公開を達成した。 漆工芸品・油彩画・アクリル画等に関する安定化処理技術において、先進的な開発を進めることができた。 無形文化遺産については、予防・防災を目的とした動態記録作成の有効性・活用について更なる検討を進めていく。 非常災害時における文化財等のレスキューについて普及・啓発を行うとともに、実際の活動の担い手となる人材を育成するために、文化財行政担当者・博物館関係者及び一般市民向けの公開シンポジウムや研修を実施し、いずれも高い反響を呼び、	評定　A ＜評定に至った理由＞ 評価すべき実績の欄に示す通り、中期計画及び年度計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 4 月に発生した熊本地震を受けて、熊本に重点化した情報収集やレスキュー活動の指導助言をしたことにより、被災地での文化財救出体制が速やかに構築された。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・文化財防災ネットワークは今後ますます重要性が増すと思われる。ネットワーク全体の連携体制としての活動実現に課題を残している。 ・東日本大震災や熊本地震における文化財の修復に関して有益な援助が行われている。 ・元々防災に関する能力は高く、ノウハウも蓄積されている。

	機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。 1)体制づくり 有事における文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりに向けた検討を行う。 2)調査研究等の実施 ア　文化財等の防災・救援に関する調査研究を行い、情報の収集と発信を行う。 イ　保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、保存環境、安定化処置及び修理等に関する研究を行う。 ウ　無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を行う。 3)人材育成等の実施 文化財等の防災・救援に関する指導・助言、研修、啓発・普及活動を実施する。	成等を実施する。		ータを搭載した GIS システムの動作確認を進め、国土地理院情報検索システム等との連動性を確保した。 ・災害に備えて文化財に関するデータを各博物館相互に保管する方法を検討し、国立 4 博物館所蔵品のデータを集約した「国立博物館所蔵品統合検索システム（ColBase）」を開発し、29 年 3 月 27 日に一般公開した。 ・和歌山県有田郡湯浅町及び広川町等の協力を得て、町誌等の既存資料をもとに文化遺産の分野横断的な総合的リストを作成し、文化遺産保全地図の作成を進めた。 ・平時における悉皆調査手法の開発及び関係諸機関とのネットワーク形成のため、福岡県うきは市と登録有形文化財河北家住宅所蔵の動産文化財を対象に、市民と協働した地域歴史遺産保全活動モデルの構築に取り組み、「うきは市文化財サポーター育成講座」（全 8 回、総参加者数：延べ 92 名）を開講した。 ・津波や水害などで被災した美術工芸品に対する安定化処理技術を確立するため、漆器及び油彩画を対象に研究を行った。 ・空調の無い一時保管場所での適切な保管方法や、救出された水濡れした文化財のカビ対処法を重点的に検討した。 ・先進的安定化処理技術の研究成果を公開するため、2 件の報告書を発行し、1 件の研究会を開催した。 ・東日本大震災被災地域における無形文化遺産の動態記録を作成した。 ・特別講演会「歴史と共に考える文化財の防災・減災」など 5 件の講演会・シンポジウムを開催した。 ・水損紙資料の応急措置研修など 3 件の研修を実施し、体制構築に関わる知識と資料のレスキュー技術の習得を促すことができた。	好評を博した。 ＜課題と対応＞ 熊本地震に際しては、各機関の協力の下で文化財救出体制の構築に貢献できた一方、ネットワーク全体の連携体制としての活動実現には課題を残した。参画団体及び有識者と十分な意見交換を図り、最終的な事業完了のイメージを固めていく必要がある。 文化財及び条例に関するデータベースの構築については、データ量が膨大であるために 29 年度以降も継続的な収集・整理作業が必要とされるとともに、データ更新の方法の確立も必要不可欠であるので、継続して取り組んでいく。 被災した有形文化財及び無形文化遺産の保存については、被災対象・被災状況によって対処法が全く異なるため、情報収集・研究データの蓄積・マニュアル化を継続して行っていく。 機構職員が被災地での文化財等レスキュー活動を通じて得たノウハウは、国内外の文化財行政担当者・博物館関係者にとって、今後発生する可能性のある大規模自然災害への対処における指針の一つとなりうるため、被災資料の応急処置や環境保全といった実践的な分野における研修や研究会を、今後も重点的に継続していく。	

４．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－２　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報			
２－１－（１）	Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項 １．　業務改善の取組 （１）組織体制の見直し		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度	（参考情報）

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価						
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
				業務実績	自己評価	
Ⅳ　業務運営の効率化に関する事項 １．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し 　組織の機能向上のため，不断の組織・体制の見直しを行うものとする。特に，第 25 回世界博物館大会（2019 年 ICOM 京都大会）及び 2020 年東京大会の開催等を踏まえ，法人の事業全体を通じて，横断的に国際業務を推進する体制の整備に努めることとする。	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．業務改善の取組 （１）組織体制の見直し 組織の機能向上のため、組織・体制等の見直しを行う。特に、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、機構の事業全体を通じて、各施設横断的に国際業務を戦略的に推進する体制を整備する。	（１）組織体制の見直し ・理事長の裁量によって一定数の職員を配置できる仕組みを検討し、特に 2019 年 ICOM 京都大会、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた組織体制の見直しを行う。 ・国際業務を担う優秀な人材の採用並びに職員の人材養成を行い、職員の能力の向上のための支援を実施する。	〈主な定量的指標〉 特になし。 〈その他の指標〉 特になし。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P424 ＜主要な業務実績＞ ・28 年 10 月 1 日付けで本部事務局長に京都国立博物館副館長を併任させ、2019 年 ICOM 京都大会の実施に向けた組織体制の構築の検討を開始した。 ・機構における定年退職者の知識・経験等を活用することができる仕組みを構築するため、任期付職員制度の見直しを行った。 ・高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材を確保するため、26 年度に専門職制度を創設し、東京国立博物館、奈良文化財研究所に各 1 名、国際業務を担当する職員を配置している。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P424 ＜評定と根拠＞ 評定：B 任期付職員制度の見直しを図り、28 年度定年退職者 3 名。について、29 年度 4 月 1 日付で任期付職員として採用するために、採用手続きを行った。引き続き、任期付職員制度を活用し、2019 年 ICOM 京都大会等に向けた組織体制の見直しを行う。 ＜課題と対応＞ 特になし。	評定　B ＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 特になし。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。

４．その他参考情報
特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報			
２－１－（２）	Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項 １．　業務改善の取組 （２）．人件費管理等の適正化		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度	（参考情報）

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価		
Ⅳ　業務運営の効率化に関する事項 １．業務改善の取組 （２）人件費管理の適正化 給与水準については，公務員の給与改定に関する動向等を踏まえ，国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し検証した上で，その適正化に取り組むとともに，検証結果や取組状況を公表すること。	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．業務改善の取組 （２）人件費管理等の適正化 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。	（２）人件費管理の適正化 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また人件費改革の取組について、今後の独立行政法人制度の見直し等を踏まえて検討する。	〈主な定量的指標〉 特になし。 〈その他の指標〉 特になし。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P425 ＜主要な業務実績＞ ・人事給与統合システムが 20 年 4 月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。また、人事給与統合システムを利用し、人件費のシミュレーション等を行うことにより、人件費に関する計画を円滑かつ詳細に企画・立案することができた。 ・役職員の報酬額については、毎年度、総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）、平成 15 年 9 月 9 日策定」において、個別の額を公表しており、また、法人ウェブサイト上においても掲載している。今後も引き続き公表することとしている。 ・人件費改革の取組については、28 年度に独立行政法人制度の見直しがなかったため、検討していない。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P425 ＜評定と根拠＞ 評定：B 人件費のシミュレーションを行い、概ね順調に人件費に関する計画を遂行できた。 ＜課題と対応＞ 特になし。	評定	B
						＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 人事給与統合システムを利用し、人件費のシミュレーション当を行うことにより、人件費に関する計画を円滑かつ詳細に企画・立案した。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。		

４．その他参考情報
特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報			
２－１－（３）	Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項 １．　業務改善の取組 （３）．契約・調達方法の適正化、（４）共同調達等の取組の推進		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度	（参考情報）

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価		
Ⅳ　業務運営の効率化に関する事項 １．業務改善の取組 （３）契約・調達方法の適正化 契約については，「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）に基づく取組を着実に実施し，「調達等合理化計画」に沿って，一層の競争性，公正性及び透明性の確保に努め，契約の適正化を推進すること。 （４）共同調達等の取組の推進 周辺の機関と連	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．業務改善の取組 （３）契約・調達方法の適正化 「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）に基づき、引き続き取組を着実に実施し、文化財の購入等、随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行い、随意契約によることができ	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．業務改善の取組 （３）契約・調達方法の適正化 ①契約監視委員会を実施する。 ②施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。 （４）共同調達等の取組の推進本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所について、上野地区（東京藝	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P426～427 ＜主要な業務実績＞ ・①「独立行政法人における調達等合理化契約の取組の推進について（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が平成 28 年度に締結した契約の点検・見直しを行った。 ・②東博（ミュージアムショップ・レストラン他、京博（南門カフェ他）、奈博（ミュージアムショップ・レストラン）、奈文研（飛鳥資料館ミュージアムショップ）については企画競争を実施済み。今後も、賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。奈文研平城宮跡資料館ミュージアムショップについては、27 年度に引き続き 28 年度も随契事前確認公募を実施した。 ・③29 年 2 月に機構内の会計系職員を対象とした研修を行った。(27 人が参加) ・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10 日間以上」から自主的措置として 20 日間以上確保するように引き続き努めている。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P426～427 ＜評定と根拠＞ 評定：B 契約方式等、契約に係る規程類整備については、特殊な契約を除き順調に整備等がなされている。その他の事項についても、適正に対応している。 ＜課題と対応＞ 特になし。	評定	B
						＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 公告期間をこれまでの「10 日間以上」から自主的措置として、20 日間以上確保するように努めており、各博物館のミュージアムショップやレストランにおいて企画競争を実施、新たに便器洗浄機器賃貸借、複写機賃貸借及び保守業務について共同調達の開始、また、会計業務に携わる職員への研修を行うなど、一層の競争性，公正性及び透明性の確保に努め、契約の適正化を推進している。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。		

	携し，コピー用紙等の消耗品や役務について，共同して調達する取組を年度計画等に具体的な対象品目等を定めた上で進めるものとする。	る事由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施する。 （4）共同調達等の取組の推進 各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について、周辺の他機関等との共同調達等の取組を推進する。	術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館）における再生 PPC 用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買の共同調達を引き続き実施する。他施設についても引き続き検討を進める。		・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。 ・本部事務局、東博、東文研について、引き続き上野地区における再生 PPC 用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買の共同調達を実施した。また、新たに便器洗浄機器賃貸借、複写機賃貸借及び保守業務について共同調達を開始した。 ・京博では、京都国立近代美術館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所と新たに共同調達に関する協定を締結した（29 年度より PPC 用紙及びトイレットペーパーについて実施）。 ・九博では、九州地区の大学と PPC 用紙及びトイレットペーパーについて共同調達の検討を進めている。		

4．その他参考情報

【契約に係る規程類】
①独立行政法人国立文化財機構会計規程
②独立行政法人国立文化財機構会計規程の特例を定める規程
③独立行政法人国立文化財機構予算、決算及び出納事務取扱細則
④独立行政法人国立文化財機構契約事務取扱細則
⑤独立行政法人国立文化財機構施設等設計業務プロポーザル実施細則
⑥独立行政法人国立文化財機構工事に関する競争参加資格審査委員会及び総合評価審査委員会に関する取扱細則
⑦独立行政法人国立文化財機構における大型設備等の調達に係る仕様策定等に関する取扱要項
⑧独立行政法人国立文化財機構契約情報公表要項
⑩契約情報公表に必要な事項に関する取扱
⑪独立行政法人国立文化財機構修理契約委員会要項
⑫独立行政法人国立文化財機構契約監視委員会要項
⑭標準型プロポーザル方式の実施要項
⑮公募型及び簡易公募型プロポーザル方式の実施要項
⑯調査の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑰研究開発の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑱広報の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑲情報システムの調達に関する入札に係る総合評価落札方式
⑳独立行政法人国立文化財機構における「企画競争・公募」ならびに「総合評価落札方式」に関するマニュアルについて
㉑平成 28 年度独立行政法人国立文化財機構調達等合理化計画
【審査体制】

①内部のチェック体制
各施設に分任契約担当役を設置し、各施設において契約処理並びに適正な契約が行われているかをチェックする体制を整備している。特に随意契約の場合、契約が適正かを十分に精査し契約を行うよう本部から指導を行っており、また新たな随意契約を締結する場合は、調達合理化等検討会に事前報告し点検を受けることとしている。
東京国立博物館における 1 千万円を超える物品調達の場合の例
[購入依頼]：購入依頼者が所属課長の承認を得て購入依頼書を契約担当へ送付→契約担当係員チェック→同主任チェック→同係長チェック→経理課室長チェック→経理課長チェック→総務部長（分任契約担当役）決裁により発注を決定　（必要に応じ仕様策定等を実施：実施した場合は購入依頼と同様にチェック・決裁）
[予定価格]：契約担当係員が予定価格調書を作成し、購入依頼と同様にチェック・決裁
[一般競争入札]→[契約者決定]→[契約書作成]：契約担当係員が作成し、購入依頼と同様にチェック・決裁→[契約書締結]
[物品の納品検収]：検査職員が物品の内容が契約と相違ないかチェック→[検査調書作成]
[支払い]：契約担当係員が支払伝票を作成し、購入依頼と同様に係員から室長のチェック→経理課長（分任出納命令役）決裁し支払いを決定→経理課室長（分任出納役）→[契約者への支払い]
②内部でのチェック対象案件の抽出方法
　各施設において契約された契約のうち、契約金額や案件等から抽出した契約に係る書類等を監事監査並びに内部監査においてチェックを実施し、適正な契約処理が行われているか等の確認を実施している。

１．当事務及び事業に関する基本情報			
２－１－（４）	Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項 １．　業務改善の取組 （５）一般管理費等の削減		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度	（参考情報） 27 年度実績値に対する 28 年度実績値の減少（増加）率
一般管理費（物件費）（千円）		実績値	中期目標期間中15%以上効率化	1,079,716	831,109					23.03%減
業務経費（物件費）（千円）		実績値	中期目標期間中5%以上効率化	6,580,389	5,417,416					17.67%減
光熱水量	電気量（kwh）	実績値	－	24,981,326	25,475,017					1.98%増
	ガス量（㎥）	実績値	－	1,888,670	1,961,450					3.85%増
	水道量（㎥）	実績値	－	143,075	144,711					1.14%増
廃棄物排出量（kg）		実績値	－	225,151	225,453					0.13%増

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
（５）一般管理費等の削減 「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」（平成 25 年 12 月 24 日閣議決定）等を踏まえ，国民に対して提供するサービスの質の維持向上に十分配慮しつつ，自主的・戦略的な業務運営を行い，最大限の成果を挙げていくために，調達の合理化を推進するなど一層の業務の効率化を推進することとする。具体には，文化財購入費等効率化になじまない特殊要因を除き，中期目標の期間中，一般管理費については１５%以上，業務経費については５%以上の効率化を図ることとする。	（５）一般管理費等の削減 中期目標の期間中、一般管理費については１５%以上、業務経費については５%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項（２）及びⅨ４．に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。このため、事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。 具体的には下記の措置を講じる。 ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 ②計画的なアウトソーシング ③使用資源の減少 ・省エネルギー ・廃棄物減量化 ・リサイクルの推進	（５）一般管理費等の削減 ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化 1）共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を引き続き図る。 2）機構共通のネットワーク及びシステムにより、業務の効率的な運用及び情報の共有化を引き続き推進する。 ②計画的なアウトソーシング 以下の業務の外部委託を継続して実施する。 （東京国立博物館） ・警備及び監視案内の一部並びに売札及び清掃業務 （京都国立博物館） ・監視案内業務及び設備保全業務の一部 ・受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務 （奈良国立博物館） ・建物設備の運転・管理業務 ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務 （九州国立博物館） ・建物設備の運転・管理業務等 ・警備業務、看視案内業務及び清掃業務 （東京文化財研究所・奈良文化財研究所） ・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等 ③使用資源の減少 ・省エネルギー 光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続	（主な定量的指標） 文化財購入費等効率化になじまない特殊要因を除き，中期目標の期間中，一般管理費については１５%以上，業務経費については５%以上の効率化を図ること	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P428～430 ＜主要な業務実績＞ 共通的な事務の一元化による業務の効率化、計画的なアウトソーシング、使用資源の減少に努めた。詳細は以下のとおり。 ○中期目標期間中の業務の効率化 ・共通的な事務の一元化 機構内で共通のグループウェアや財務会計システム、人事給与システムを本部主導で運営した。平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P428 参照 ・計画的なアウトソーシング 個別表 P429 参照 ・エネルギー使用量 個別表 P430、上記指標参照 ・廃棄物の減量化 個別表 P430 参照 ○一般管理費の削減 一般管理費（物件費）について、決算報告書による平成 27 年度支出額は 1,079,716 千円、平成 28 年度支出額は 831,109 千円であり、248,607 千円(23.03%)の減少となった。 ○事業費の削減 業務経費（物件費）について、決算報告書による平成 27 年度支出額は 6,580,389 千円、平成 28 年度支出額は 5,417,416 千円であり、1,162,973 千円(17.67%)の減少となっている。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P428～430 ＜評定と根拠＞ 評定：B 効率化について、可能なものについて実施済である。 平成 27 年度と比較したエネルギー使用量については、節減に努めたものの、夜間開館実施日の増加に伴いエネルギー使用時間が増えたことにより前年度より増加している。引き続き削減に取り組んで行く。 一般管理費の削減については、順調に進んでいる。また、事業費の削減についても計画どおり順調に削減している。 ＜課題と対応＞ 特になし。	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 共通的な事務の一元化による業務の効率化、計画的なアウトソーシング、使用資源の減少に努めており、一般管理費において平成 28 年度支出額は 831,109 千円であり、前年度から 248,607 千円(23.03%)の減少となっている。また事業費では平成 28 年度支出額は 5,417,416 千円であり、前年度から 1,162,973 千円(17.67%)の減少となっている。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。

			き節減に努める。 ・廃棄物減量化 使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。 ・リサイクルの推進 廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。				

4．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－２　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）

1．当事務及び事業に関する基本情報			
２－２	Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項 ２．業務の電子化		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

2．主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度	（参考情報）

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価						
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
				業務実績	自己評価	評定 B
２．業務の電子化 文化財機構に関する情報の提供，オープンデータの推進，業務・システムの最適化等を図ることとし，ＩＴ技術を活用した業務の効率化に努める。	２．業務の電子化 機構に関する情報の提供、オープンデータの推進、業務・システムの最適化等を図ることとし、ＩＴ技術を活用した業務の効率化に努める。	２．業務の電子化 機構ウェブサイトにおいて、機構に関する情報の提供を引き続き行い、政府の方針に沿ってオープンデータを推進し、各事業システムの継続運用とバックアップ・インフラ増強に努める。	〈主な定量的指標〉 特になし。 〈その他の指標〉 特になし。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P431 ＜主要な業務実績＞ ・引き続き機構ウェブサイトを運用し、機構に関する情報の提供を行った。 ・機構内の博物館 4 館の各館所蔵品データを横断的に検索する「国立博物館所蔵品統合検索システム」（略称：ColBase）を 29 年 3 月 27 日に公開した。これにより政府が推進するオープンデータ政策にも合致することになる。 ・機構共通の各事務システム（グループウェア「サイボウズ」、財務会計システム「GrowOne」、人事給与統合システム「U-PDS」、web 給与明細システム「U-PHS HR」）及びその基盤ネットワーク「機構 VPN(Virtual Private Network)」を継続運用した。 ・グループウェアのバックアップサーバーを奈良文化財研究所に設置し、緊急時に備えた準備を進めた。（28 年 6 月上旬）	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P431 ＜評定と根拠＞ 評定：A 国立博物館所蔵品統合検索システム（ColBase）を公開し、4 館所蔵品の横断検索機能を機構として初めて提供するとともに、商業利用も含むコンテンツの二次利用を可能とする政府の方針に沿ったオープンデータの推進の取り組みを進めることができた。 そのほか、機構ウェブサイトにおける一般への情報提供、機構内各事務システムの継続運用、バックアップサーバー設置等については、計画通り実施した。 ＜課題と対応＞ 特になし	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価では A 評定であるが、今後の課題・指摘事項の欄に示す点について、さらなる改善を期待したい。 ＜評価すべき実績＞ 構内の博物館 4 館の各館所蔵品データを横断的に検索する「国立博物館所蔵品統合検索システム」を公開するなど文化財機構に関する情報の提供，オープンデータの推進に努めている。 ＜今後の課題・指摘事項＞ A 評定の基準に対し、当該事項は中期計画及び年度計画において定量的な評価指標を設定しておらず、提出された資料では定性的評価の根拠も十分な説明がされていないため、B 評価とした。

4．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－２　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報			
２－３	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 ３．予算執行の効率化		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度	（参考情報）

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価						
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
				業務実績	自己評価	
３．予算執行の効率化 独立行政法人会計基準の改訂等により，運営費交付金の会計処理として，業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ，収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。	３．予算執行の効率化 運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。	３．予算執行の効率化 運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務を設定するとともに、収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にする。	〈主な定量的指標〉 特になし。 〈その他の指標〉 特になし。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P432 ＜主要な業務実績＞ ・「独立行政法人の中期計画、中長期計画及び事業計画に係る予算等について」（中央省庁等改革推進本部事務局 平成 12 年 4 月策定，平成 27 年 3 月総務省行政管理局修正）の記載（「業務経費については、中期目標等、中期計画等の業務運営の効率化に関する項や業務の質の向上に関する項において具体的に記載される業務内容との対応関係が明らかになるように定めるものとする。」）に基づき、28 年度の収益化単位は中期目標、中期計画記載事項と一致させ、法人業務の成果を予算的にも国民に分かりやすいものへと変更した。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書個別表 P432 ＜評定と根拠＞ 評定：B 計画通り取組を実施している ＜課題と対応＞ 特になし。	評定　B ＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 特になし。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。

４．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－２　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）

１．当事務及び事業に関する基本情報			
３－１	Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 自己収入拡大への取組		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ										
評価対象となる指標			達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度	（参考情報）
自己収入額（千円）	－	実績値	1,538,510	1,817,119	1,714,563					受託研究・受託事業を除く
寄付金等額	－	実績値	439,574	795,744	753,812					
施設の有効利用件数	（東博）	実績値	－	652	747					
うち有償利用件数		実績値	－	434	529					
施設の有効利用件数	（京博）	実績値	－	112	105					
うち有償利用件数		実績値	－	104	93					
施設の有効利用件数	（奈良博）	実績値	－	117	113					
うち有償利用件数		実績値	－	33	27					
施設の有効利用件数	（九博）	実績値	－	392	355					
うち有償利用件数		実績値	－	118	116					
施設の有効利用件数	（東文研）	実績値	－	186	185					
うち有償利用件数		実績値	－	7	9					
施設の有効利用件数	（奈文研）	実績値	－	256	296					
うち有償利用件数		実績値	－	43	52					
施設の有効利用件数	機構合計	実績値	－	1,715	1,801					
うち有償利用件数	機構合計	実績値	－	739	826					

．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
１．自己収入拡大への取組 展覧事業のサービスの向上に努め，安定的な自己収入の確保を図るとともに，業務の質の向上等に必要な資金の充実を図るため，会員制度の充実，寄附金等の外部資金の募集，保有財産の有効利用の推進，競争的資金の獲得等多様な取組を進めることとし，前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得るものとする。	１．自己収入拡大への取組 展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。	１．自己収入拡大への取組 （１）機構全体において、展示事業等収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。 （２）機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。 （３）保有資産の有効利用の推進 （博物館４施設） ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。 （文化財研究所２施設） セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。	中期目標・計画上の評価指標】 ・展示事業等収入額 （前中期目標の期間の実績の年度平均以上） ・(関連指標)その他寄附金等収入額	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P433～440 平成 28 年度自己点検評価報告書 統計表 P148 ＜主要な業務実績＞ 自己収入については、1,714,563 千円となり、目標を上回った。 寄附金については、753,812 千円となり、目標値を上回った。 【実物資産の保有状況】 平成 28 年 4 月 1 日現在 東京国立博物館 土地120,270㎡、建物(延面積)72,222㎡ 京都国立博物館 土地53,182㎡、建物(延面積)31,828㎡ 奈良国立博物館 土地78,760㎡、建物(延面積)19,116㎡ 九州国立博物館 土地166,477㎡(うち九博10,798㎡) 建物(延面積)30,675㎡(うち九博9,300㎡) ※九州国立博物館は、福岡県と分有しており、福岡県は土地 155,679 ㎡、建物 5,780 ㎡を分有している。また、建物のうち 15,595 ㎡は共有面積である。 東京文化財研究所 土地4,181㎡、建物(延面積)10,516㎡ 奈良文化財研究所 土地46,468㎡、建物(延面積)35,276㎡ 保有資産の有効利用の推進 28年度の貸付総件数は1,801件に上り、多数の貸付が実施されている。 詳細は上記自己点検評価報告書参照 ・月例講演会等の他、館主催や外部利用による講演会を実施した。(東博) ・撮影件数増加のためインターネットロケーション検索サイト（ロケなび！）への登録を継続した。(東博) ・主に入館者の拡大と施設の有効利用を目的として、コンサートや寄席、野外シネマなど 33 件のイベントを実施し、約 35,000 人の参加があった。特に、若年の新規来館者の獲得を目指した「博物館で野外シネマ」を昨年度に引き続いて実施し、延べ 17,000 人（4 回実施）の来場があった。また、「博物館でアジアの旅」では、アジア民族楽器の演奏会を東洋館の展示室内で行うなど、新たな展示の楽しみ方を示すことができた。さらに、国際交流イベントとして「留学生の日」を実施し、無料観覧（総合文化展のみ）のほか、茶会、英語ガイド、ガイドツアーなどを行い 676 人が来場した。(東博) ・外部よりゲストを招いて公開対談「新春・京博こと始め 2017」を開催した。(京博) ・講堂等の利用案内を京都ユニークベニューガイド(編集・発行:京都文化交流コンベンションビューロー)へ掲載し、保有資産の有効利用の推進を図った。また平成知新館グランドロビーのユニークベニューに関する資料を作成し、関係団体、学校等外部に配布した。(京博) ・留学生を対象に日本文化への理解を深めるため、「留学生の日」を設け、平成知新館名品ギャラリー無料観覧及び茶室「堪庵」での茶道体験（呈茶）を行った。また、博物館に無関心な層の獲得を目指して開催した「開館 120 周年カウントダウン」、「京キャラ博・京都ほんまもん祭」では、合わせて 8,000 人超の来館者を得ることができた。(京博) ・公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。(奈良博) ・小学生を対象に世界遺産学習を実施した。(奈良博)	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P433～440 ＜評定と根拠＞ 評定：B 実物資産、金融資産、知的財産とも適切に管理され、有効に利用されている。また、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等も積極的に行っている。 ＜課題と対応＞ 特になし。	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 実物資産、金融資産、知的財産とも適切に管理され、有効に利用し、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等も積極的に行うなど、自己収入入拡大の取組に努めている。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・各館において、さまざまな取り組み、工夫がある。 ・さまざまな新しい試みにより、自己収入の拡大に積極的に取り組んでいることを感じる。 ・取り組みが一層進展した。 ・自己収入の拡大は、有料事業に求めるのではなく、寄付金収入の増大化を積極的に進めるべきであり、そのためには国立機関への寄付についての税制優遇措置など、行政側の支援が不可欠。

					・地元自治体等と連携し、敷地内でコンサート等のイベントを実施した。（奈良博） ・特別展およびトピック展等に関する講演会・講座等を開催した。（九博） ・ミュージアムホールおよび茶室、研究室等の外部団体への貸出を積極的に行った。（九博） ・落語家による「みゅーじあむ寄席」の開催や、ミュージアムコンサート等を行い、施設の有効利用を図った。（九博） ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを28年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に東京文化財研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。（東文研） ・セミナー室、会議室等を本来業務に支障のない範囲で外部機関へ施設の有償貸付を実施した。（東文研） ・ウェブサイト上での施設利用紹介等により、一般利用申し出に対する有効利用を推進し、有償貸付等を本来業務に支障の無い範囲で実施した。（奈文研） ・平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ（売店）の運営について、外部委託を継続した。（奈文研）		

4．その他参考情報
特になし

様式１－１－４－２　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）

1．当事務及び事業に関する基本情報			
３－２	Ⅲ　財務内容の改善に関する事項 ３．決算情報・セグメント情報の充実等		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

2．主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度	（参考情報）

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価						
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
				業務実績	自己評価	
３．決算情報・セグメント情報の充実等 文化財機構の財務内容等の一層の透明性を確保し，活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し，理解促進を図る観点から，事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。	３．決算情報・セグメント情報の充実等 機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。	３．決算情報・セグメント情報の充実等 決算情報・セグメント情報の公表の充実について検討する。	（主な定量的指標） 特になし。 （その他の指標） 特になし。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P441 ＜主要な業務実績＞ ・決算情報・セグメント情報の充実について検討した結果、28 年度に実施した 27 年度決算については「独立行政法人会計基準」の 27 年 1 月改訂に従い以下の通り公表情報の充実を図った。 ・財務諸表付属明細書「セグメント情報」については、「臨時損失等」「行政サービス実施コスト」欄を新設し、公表情報を充実化した。 ・決算報告書については、機構全体の決算報告に加えてセグメント（各施設）毎の情報を公表した。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P441 ＜評定と根拠＞ 評定：B 計画通り取組を実施している ＜課題と対応＞ 特になし。	評定　B ＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 特になし。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。

4．その他参考情報
特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報			
４－１	Ⅳ　予算、収支計画及び資金計画 1．予算　2．収支計画　3．資金計画		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度	（参考情報）

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
３．予算執行の効率化 独立行政法人会計基準の改訂等により，運営費交付金の会計処理として，業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ，収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。	Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画 管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化並びに積極的な自己収入の増加に向けた取組を踏まえた予算及び収支計画による運営を行う。	Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画 １．予算 ２．収支計画 ３．資金計画	〈主な定量的指標〉 特になし。 〈その他の指標〉 特になし。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P442 ＜主要な業務実績＞ ・28 年 4 月 1 日付で当初予算配分を実施し、早期執行可能な体制を整備した。 ・年度内に新たに発生した法人全体又は各施設に関わる業務で緊急性且つ必要性が高いと認められた事業に関しては、理事長了解の下、予め本部で留保していた予算（理事長裁量経費）を該当施設へ速やかに予算配分することで業務遂行に支障をきたさない運営を実施した。 ・人件費にかかる予算は本部一括管理とし、役員会への上程を通して機構内で情報共有することで、厳格な執行管理を実施した。 ・第 5 回役員会（28 年 12 月 2 日）において、本部で一元管理している予算の執行状況を報告し、予算を各施設へ再配分することで効率的な予算管理を実施した。 ・獲得した外部資金の中には精算払のものもあり、資金繰りの悪化が予想される施設には予め資金の貸与を行うことで法人全体として効率的な資金管理を実施した。 ・運営費交付金は四半期ごとの入金であるが、予め国へ四半期ごとの必要額を伝えることにより、計画的な資金管理を実施した。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書　個別表 P442 ＜評定と根拠＞ 評定：B 概ね当初計画に沿った管理が行われている。また、年度内に起こった不測の事態や軽微な計画変更にも速やかに対応した。 ＜課題と対応＞ 特になし。	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 人件費にかかる予算は本部一括管理として、役員会への上程を通して機構内で情報共有することで、厳格な執行管理を実施するとともに、役員会において、本部で一元管理している予算の執行状況を報告し、予算を各施設へ再配分することで効率的な予算管理を実施した。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。	

４．その他参考情報

特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報			
５－１	Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．内部統制		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度	（参考情報）

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
Ⅵ　その他業務運営に関する事項 １．内部統制 法令等を遵守するとともに，コンプライアンスの徹底，経営層による意思決定，内部規定整備・運用，リスクマネジメント等を含めた内部統制環境を整備・運用し不断の見直しを行う。また，整備状況やこれらが有効に機能していること等について定期的に内部監査等によりモニタリング・検証するとともに，監事による監査機能・体制を強化する。	Ⅸ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．内部統制 コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境や規定を整備し、運用する。また、内部監査等により定期的にそれらの整備状況・有効性をモニタリング・検証するとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、必要に応じて内部統制に関する見直しを行う。さらに、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善を行う。	Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置 １．内部統制 内部統制、リスク管理等に関する諸規程を整備し、運用する。また、内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行うとともに、各種研修を実施し、職員の意識並びに資質の向上を図る。	〈主な定量的指標〉 特になし。 〈その他の指標〉 特になし。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P443 ＜主要な業務実績＞ （内部統制、リスク管理等に関する諸規程の整備） ・「独立行政法人国立文化財機構中期計画等の策定及び評価に関する規程」等諸規程の整備を進めた。 （内部統制、リスク管理等に関する諸規程の運用） ・内部統制委員会を２回開催した。(10 月 31 日、29 年３月２日) ・リスク管理委員会を２回開催した。(10 月 31 日、29 年３月２日) ・洗い出したリスクの内３件について、リスク管理計画を策定した。 （内部監査及び監事監査等のモニタリング） ・内部監査を以下の日程で本部事務局及び各施設を対象に順次行った。 会計監査　10 月 11 日～11 月 29 日（全施設） 給与簿監査　10 月 11 日～27 日（奈良国立博物館、京都国立博物館、九州国立博物館） ・保有個人情報管理監査を次の日程で行った。 29 年２月 23 日～24 日　アジア太平洋無形文化遺産研究センター、九州国立博物館 ・監事監査を以下の日程で行った。 定期監査（業務）　６月 14 日 定期監査（会計）　①月次監査　毎月 ②決算時の監査　６月 14 日 会計臨時監査　29 年２月 23 日～24 日 アジア太平洋無形文化遺産研究センター、九州国立博物館 （研修の実施） ・職員の啓発や能力向上による内部統制能力強化のため各種研修を実施した。 ・「内部統制基本方針」等の内部統制に係る方針等の整備も行った。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P443 ＜評定と根拠＞ 評定：B 業務方法書に規定された、内部統制、リスク管理等に関する諸規程の整備を進めた。 運用においては、内部統制委員会とリスク管理委員会を各２回開催し、内部統制とリスク管理の課題を整理し、基本方針や規程の整備を進めることができた。リスク管理委員会においては、洗い出したリスクの内３件について、リスク管理計画を策定した。また、内部監査及び監事監査等・各種研修を積極的に実施した。 ＜課題と対応＞ 特になし。	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 特になし。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。

４．その他参考情報

特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報			
５－２	Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置 ２．その他　自己評価・情報セキュリティ対策		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度	（参考情報）

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価		
２．その他 （１）自己評価 外部有識者を含めた客観的な自己評価を行うこととし，その結果を組織，事務，事業等の改善に反映させるものとする。 （２）情報セキュリティ対策 情報セキュリティ対策については，政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえ，情報セキュリティ・ポリシーを適時適切に見直すとともに，これに基づき情報セキュリティ対策を講じ，情報システムに対するサイバー攻撃への防御力，攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。 また，対策の実施状況を毎年度把握し，ＰＤＣＡサイクルにより情報セキュリティ対策の改善を図る。	２．その他 （１）自己評価 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年１回以上事業に関する自己評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。 （２）情報セキュリティ対策 情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。 また、自己点検、監査を通じて情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し、その結果に基づいて改善する。	Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置 ２．その他 （１）自己評価 運営委員会、外部評価委員会の開催等、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。 （２）情報セキュリティ対策 情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群・ガイドライン等を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。 また、自己点検、監査を実施し、その結果に基づいて情報セキュリティ対策を改善する。	〈主な定量的指標〉 特になし。 〈その他の指標〉 特になし。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P444～445 ＜主要な業務実績＞ ・平成 27 年度の当機構における各事業、調査研究等について自己点検評価を行い、報告書にまとめた。 ・上記自己点検評価報告書は、下記外部評価委員会に提出し、外部有識者から評価をいただいた。 外部評価委員会 研究所・センター調査研究等部会：5 月 13 日 博物館調査研究等部会・総会：5 月 24 日 ・外部有識者の意見等を踏まえ「平成 27 年度自己評価書」を作成し、文部科学大臣に提出した。 ・運営委員会（7 月 25 日）を開催し、機構の管理運営の重要事項についてご意見をいただいた。また、27 年度の運営委員会でいただいた意見についての、組織・事務・事業等への改善反映状況について報告を行った。 ・「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準(平成 26 年度版)」(26 年 5 月 19 日、情報セキュリティ政策会議)を踏まえ、26～27 年度にかけて見直した情報セキュリティ関係規程等を施行した。併せて見直した各施設の関連規則の改正等についても施行した。(28 年 4 月 1 日施行) ・情報システム・セキュリティ管理規程の詳細として作成した「独立行政法人国立文化財機構情報セキュリティ対策基準」の運用を開始した。(28 年 4 月 1 日) ・最高情報セキュリティ責任者（CISO）を設置した。(28 年 4 月 1 日) ・情報システム・セキュリティ委員会を設置した。(28 年 4 月 1 日) ・独立行政法人国立文化財機構情報システム緊急対応チーム（NICH-CERT:NICH Computer Emergency Response Team）を整備した。(28 年 4 月 1 日) ・「独立行政法人国立文化財機構情報セキュリティ対策基準」に基づく実施手順の整備について検討を進め、手順 1 件を作成した。(28 年 12 月 19 日) ・標的型攻撃メール対応訓練を 2 回実施した。(28 年 11 月 7 日、28 日) ・情報セキュリティ監査は、外部機関に委託して実施した。(28 年 12 月～29 年 2 月) ・情報セキュリティ対策の自己点検を実施した。(29 年 3 月依頼、5 月とりまとめ予定) ・情報システム・ネットワークにおける情報セキュリティ対策については、関連規程等に基づき、政府や関係機関からの情報に注視しながら適宜必要な対策を講じた。機構内各施設における情報セキュリティ対策の実施にあたっては、 NICH-CERT にて情報共有、検討を行った。 ・メールシステムの機構内統合について検討を進めた。 ・監査法人による監査の一環として、システム監査を実施した。(29 年 2 月 8 日)	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P444～445 ＜評定と根拠＞ 評定：B 外部評価委員会等を開催し、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施した。 自己点検評価の分量が多く、職員の負担になっているので改善が必要との外部有識者の意見を踏まえ、自己点検評価の書式の見直しを行うなど、結果を組織・事務・事業等の改善に反映させることができた。 計画どおり、情報セキュリティをとりまく社会情勢の変化とそれに伴う政府からの要請に応じ、情報システム・情報セキュリティを管理運用するための体制を構築できた。関係規程等に基づき必要な情報セキュリティ対策を実施しながら、新体制初年度として実施手順等の整備・検討を進めた。 ＜課題と対応＞ 特になし。	評定　B ＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 外部評価委員会等を開催し、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、自己点検評価の分量が多く、職員の負担になっているので改善が必要との外部有識者の意見を踏まえ、自己点検評価の書式の見直しを行うなど、結果を組織・事務・事業等の改善の反映に努めた。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・情報セキュリティに関する問題が近年急増しており、体制や人員をはじめとする対策の検討と整備が急がれる。 ・長期的施策の対象として重点化すべきである。 ・情報セキュリティの確保とＷｅｂサイト閲覧の快適さの確保の両立はかなり難しい課題ではないか。魅力的なサイトほど狙われやすい。今後の工夫に期待したい。

４．その他参考情報
特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報			
５－３	Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置 ３．施設設備に関する計画		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度	（参考情報）

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価						
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
				業務実績	自己評価	評定 B
４．保有資産の処分保有資産の見直し等については，「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本視点について」（平成 26 年 9 月 2 日付け総管査第 263 号総務省行政管理局通知）に基づき，保有の必要性を不断に見直し，保有の必要性が認められないものについては，不要財産として国庫納付等を行うこととする。	３．施設設備に関する計画 施設設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、以下のとおりの計画に沿った整備を推進する。 ・東京国立博物館 仮収蔵庫等整備及び本館リニューアル工事　（平成 28 年度～32 年度） 柳瀬荘黄林閣屋根茅葺工事　（28 年度） ・京都国立博物館 本館収蔵庫等改修及び本館免震改修等工事　（平成 28 年度～32 年度） ・奈良文化財研究所 本庁舎建替工事（平成 28 年度～29 年度）	３．施設設備に関する計画 以下のとおり施設設備に関する計画に沿った整備を推進する。 ・東京国立博物館 仮収蔵庫等整備及び本館リニューアル工事　（平成 28 年度～32 年度） 柳瀬荘黄林閣屋根茅葺工事　（28 年度） ・京都国立博物館 本館収蔵庫等改修及び本館免震改修等工事　（平成 28 年度～32 年度） ・奈良文化財研究所 本庁舎建替工事（平成 28 年度～29 年度）	〈主な定量的指標〉 特になし。 〈その他の指標〉 特になし。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P446 ＜主要な業務実績＞ （東京国立博物館） ・28 年度当初予算より、仮設収蔵庫建設に伴う建物設計（10 月完了）を行い、建設用地の埋蔵文化財発掘調査を実施（29 年 3 月完了）し、完了後の 29 年度第一四半期より建物本体工事を開始する。 ・柳瀬荘黄林閣（重要文化財）の茅葺屋根の部分葺き替え改修を実施（29 年 2 月完了） （京都国立博物館） ・東収蔵庫の減築整備を実施中。（30 年 3 月 31 日完了予定） ・文化財保存修理所燻蒸設備更新のため既存燻蒸設撤去工事を実施した。（29 年 3 月完了） ・文化財保存修理所燻蒸設備更新の設計、更新の実施。（30 年 3 月完了予定） （奈良国立博物館） ・なら仏像館の観覧環境及び展示機能充実のため、内装、照明・空調設備及び展示ケース・展示台を更新した。展示ケース及び展示台は今後起こりうる地震に対応すべく免震機能を有するものとしている。（27 度予算を繰り越し、28 年 4 月末に竣工） （奈良文化財研究所） ・新庁舎建設工事の変更契約を 28 年 5 月に行い着工した。（30 年 3 月完了予定）	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P446 ＜評定と根拠＞ 評定：B 計画どおりに進捗している。 ＜課題と対応＞ 整備スケジュールの遅滞や執行体制の整備が不十分である。	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 特になし。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 施設整備を計画通り行うために執行体制の整備が必要。 ＜有識者からの意見＞ ・施設の老朽化、収蔵施設の拡充、これらの課題に対して長期的視点での検討が必要となる。 ・計画通りに進行しているとしながら、整備スケジュールの遅滞があり、執行体制の不備にその原因があるかに見える。

４．その他参考情報
特になし

１．当事務及び事業に関する基本情報			
５－４	Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置 ４．人事に関する計画		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成２９年度行政事業レビューシート 事業番号 0366

２．主要な経年データ

評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	２８年度	２９年度	３０年度	３１年度	３２年度	（参考情報）

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
（２）人件費管理の適正化 給与水準については，公務員の給与改定に関する動向等を踏まえ，国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し検証した上で，その適正化に取り組むとともに，検証結果や取組状況を公表すること。	４．人事に関する計画 ①中長期的な人事計画等を策定し、理事長の裁量によって一定数の職員を配置できる仕組を導入する。また、国家公務員の制度改革や社会一般の動向を勘案しつつ、職員個々の能力向上を通じて、組織のパフォーマンスを高めるための制度を導入する。 ②性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力、適性に応じた採用及び人事配置を行い、職員の多様な働き方を促進する。	４．人事に関する計画 （１）中長期的な人事計画を策定する。その際、理事長の裁量によって、一定数の職員を配置できる仕組みを検討する。 （２）職員の能力向上と組織のパフォーマンス向上を目的とした評価制度を導入する。 （３）性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を行う。 （４）女性の活躍を推進し、制度改正を	〈主な定量的指標〉 特になし。 〈その他の指標〉 特になし。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P447～449 ＜主要な業務実績＞ (1) 中長期的な人事計画の策定 ・人事選考委員会において、研究職員の人事の在り方（採用、施設間異動、他機関への異動、女性職員の幹部登用）について検討した。 ・事務系職員の人事について、各施設の副館長等にヒアリングを行った。 (2) 評価制度の導入 ・26 年度から職員の能力や業績等をより適切に評価できるように、新たな評価制度の検討を開始した。 ・28 年度においては、27 年度に引き続き、新評価制度導入に向けたスケジュール案、導入目的、評価対象、評価方法、評価結果の活用等の制度構築を検討し、諸会議での意見交換を行った。 (3) 能力や適性に応じた採用・人事の実施 ・19 年度から人事交流または国立大学法人等職員採用試験に頼らず、機構が独自に	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 28 年度自己点検評価報告書 個別表 P447～449 ＜評定と根拠＞ 評定：B 中長期的な人事計画の策定については、人事選考委員会における議論やヒアリングを踏まえ検討を開始した。29 年度も引き続き検討を行う。 採用や人事を行うにあたっては、性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じて行っている。 女性の活躍の推進については、28 年度に実施したハラスメント防止の注意喚起、研修等を、引き続き実施する。 ＜課題と対応＞ 評価制度については、制度の概要、実施までのスケジュール等を定めた。今後は、評価者研修などを通じて評価の目的等の理解を図るとともに、個人と組織の成長・発展に繋げられる形骸化しない制度とする	＜評定に至った理由＞ 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 ＜評価すべき実績＞ 職員の能力向上と組織のパフォーマンス向上を目的とした評価制度を導入するため、制度の概要や実施までのスケジュール等を定めた。 ＜今後の課題・指摘事項＞ 特になし。 ＜有識者からの意見＞ ・研究職においても有期雇用職員の比率がかなり高くなっており、将来の博物館・研究所を担う人材確保に大きな不安を感じる。 長期的見通しの下、適正な数の人員配置がなされるべきである。 ・人事上のしわ寄せは研究職よりも事務職に行くことが多いが、事務職が手薄になると組織が回らなくなる。そうした不安はないのか。評価書からはその辺りが判りにくい。

	③多様性を受容できる組織風土の醸成を図るため、例えば女性や障がいのある方の活躍を推進するなどし、それを支える就業環境の整備や教育・研修を実施する。 ④職員のキャリアパスの形成に寄与するために、研修・人事交流等を多角的に企画・立案する。特にグローバル化・多様化する社会に対応できる人材の育成を図る。 （２）人員に係る指標 給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。 中期目標期間中の人件費総額見込額 １３，６４４百万円 但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。	含めた就業環境の整備及び教育・研修を実施する。 （５）グローバル化、多様化に対応するため、研修及び人事交流等の検討を進める。		採用できる制度を導入している。当制度を活用し 28 年度においては、事務職員 2 名の採用の他、技能・労務職員 3 名の採用を行った。 ・20 年度から常勤の研究職員に準じた人事制度（アソシエイトフェロー制度）を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う者又は専門的知識を有する者を採用することが可能となった。28 年度は、当該制度を利用し、東京国立博物館で 7 名、京都国立博物館で 2 名、東京文化財研究所で 8 名、奈良文化財研究所で 9 名の計 26 名を採用した。 ・以上より 28 年度の機構独自の採用人数は、事務職員 2 名、技能・労務職員 3 名、アソシエイトフェロー26 名の計 31 名となった。 (4) 女性の活躍の推進 ・育児・介護休業法及び男女雇用機会均等法の改正に伴い、機構における関係規程を改正した。 ・人事担当理事名にて全職員あてに、ハラスメントの防止にかかる注意喚起の通知を行った。 ・人事選考委員会において、人事担当理事よりハラスメントの防止にかかる注意喚起を行った。 ・人事選考委員会において、女性の研究職員にかかる活躍推進について検討した。 ・7 月 21 日に、ハラスメント防止を目的とした研修を開催し、外部講師による専門的見地からのアドバイスによりハラスメントに対する理解を深め、発生防止に向けた意識の向上を図った。	ことが課題である。	

４．その他参考情報

特になし

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会報告書

－平成 28 度－

平成２９年６月２９日

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

目次

1. 外部評価委員会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

2. 外部評価委員会委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

博物館調査研究等部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

研究所・センター調査研究等部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

はじめに

本委員会は、国立文化財機構（以下、「機構」という。）における平成28年度事業及び自己点検評価について、研究所・センター調査研究等部会、博物館調査研究等部会、総会の3回に分けて開催し、評価の適正性や、各事業内容及び業務運営の効率化等について、外部有識者による評価を実施した。評価にあたっては、定性的・定量的評価を基に客観性のある評価に努めた。

総　評

（平成 28 度実績の概観）

・平成 28 年度も機構は全体として、日本の文化財保護における中核的な組織として、基礎的な業務から先端的なものまで、幅広く実施してきており、その実績は高く評価されるべきである。

・自己点検では、社会的に有益な優れた成果を挙げたり、国民的な注目・理解を集めた事業については、もっと積極的に優れた自己評価をしてもよい。

・これからの時代に適切に対応すべく、博物館施設設備のメンテナンスサイクルの確立に向かい計画が順調に進められていると認められる。

・２８年度は、各館とも積極的に資料収集が進められたことを評価したい。

・基本的な活動として、収蔵品の調査研究、収蔵品に限らない数多くの調査研究に取り組み、その実績を多くの報告書や展示図録に反映させており、着実な成果を上げていることが認められる。

・京都国立博物館（以下、京博）や奈良国立博物館（以下、奈良博）が寄託された個人蔵の重要文化財や、東京国立博物館（以下、東博）におけるアジア諸国を含む広範な地域の資料購入など、貴重な有形文化財の収集を積極的に行っている。次代への継承や一般への公表にはデータベース化やデジタル化が不可欠であるが、資料自体の保存と併行して、その事業が着実に進められている点も高く評価できる。

・平成 28 年度の来館者数（平常展と特別展合計）は 366 万人となり前年度の 398 万人から若干の減少となった。

・一方、平常展における入館者の数が、東博および奈良博で増加している点は評価されると考える。入館者の数を特別展に頼るのではなく、数多くの所蔵品を活かした通常の展示により入館者の期待に応える展示を実施することが、国の博物館の基本の姿であると考えるからである。

・博物館ごとに展開している平常展は、今後ますます増えると予測されるインバウンド観光のなかで、日本文化を提示する恰好の媒体として評価かつ重視したい。その展示替え件数が年度計画を大きく上回っている博物館にそうした意識があるとすれば頼もしいことである。

・特別展については、放送局や新聞社と共催することにより、その健闘ぶりが目立ち、多くの展覧会で目標値を上回る来館者を数え、中には 2 倍以上に達する特別展もあった。

・各種講演会の回数やギャラリートークの実施回数等の充実度は大いに評価できる。文化財の保存や継承のための未来の人材育成のためにもこうした活動全体の充実はますます必要になると思う。
・東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れた、外国語による解説パネルの設置について、予定よりも早く全館で100%を達成した。
・海外の博物館関係者の招へいや日本の研究者の派遣は順調に行われている。
・海外の研究者の招聘や海外への職員派遣など、海外の博物館との交流を通し、博物館活動への寄与を認められる。海外展についても、その入館者等の数字から活動に寄与していると判断出来る。
・28年4月には、熊本においても大地震が発生し、文化遺産防災ネットワークは、相次ぐ災害の中で重要な意味を持っていることを再確認した。
・熊本の震災被害のなかで、九州国立博物館（以下、九博）が資料修理の拠点となっていると聞く時、九州に国立博物館があってよかったと思うと同時に、博物館の過大な負担にならないか、長期的に何が必要か検討を望みたい。
・機構の財政基盤は国（文化庁と文部科学省など）の政策や方針に大きく依存するが、我が国の文化芸術立国の視点からすると国による機構への財務支援は十分とは言えない。　特に2020年の東京オリンピック・パラリンピック開始に向け、国のスポーツ関連予算が急増している（平成24年度を100として平成28年度、136）なのに対して、文化関係予算の伸びは殆ど無いに等しい。

（国立文化財機構をとりまく状況について）

・今後に望まれるより質の高い観光において、博物館施設は地域の歴史文化の周知と理解にとって決定的に重要な役割を果たすことを、改めて確認しておきたい。
・各国立博物館を含む機構の予算は、先進各国の比較すべき関連予算と比べても、日本の近隣国の関連予算と比べても非常に少ない。
・現状では、限られた予算と人員の範囲内で、多岐にわたる事業を展開せざるを得ない状況にある。事業全体の思い切った見直しをはかり、成果が十分にみられない業務は縮小・廃止し、効率化の見込める新規業務に切り替えをはかっていくことも検討してほしい。
・機構は、大変な努力により事業目標を順調に達成し、自己収入を増加させてきた。しかし、運営費交付金の一律削減がそれ以上に進む状況にある。単なる収益事業ではなく、経済利益の原理と即応しない文化・文化財を専門とする法人に対しては、特段の配慮があるべきと考える。
・機構各職員の尽力により、外部資金である科学研究費や寄附金の獲得額を伸ばしていることは喜ばしいことであるが、欧米の博物館運営のような寄附による博物館運営のあり方について、今後、国民に一層広く知らしめる必要があろう。
・事業の推進には、新たなシステムの整備とともに、人的整備も必要となる。現在、東博で

働く研究員は 55 名ほどとのことであるが、欧米の大規模博物館と比較したならば 1/10 にも満たない人員であり、予算とともに人員の確保についても、迫られた課題である。
・歴史的文化財の保護と保存、そして次世代への継承は、わが国にとっては国策としてもいいほどの非常に大きな意味を持っており、機構が果たすべき役割は大きい。
・わが国の歴史的文化財に関する情報の国内外への発信は極めて重要である。関連情報の国外への発信は重要であり、海外とくにアジアの各種博物館への寄与は大切である。
・地方公立博物館の相次ぐ閉館や、社寺管理者の高齢化に伴う文化財保管の困難化の問題は、相変わらず深刻である。国立博物館は、こうした文化財が海外や民間へ流出することを防ぎ、国・地方の宝を守るべく、従来にも増して、資料の寄贈や寄託はもとより、購入も積極的に進める必要を迫られている。
・文化遺産防災ネットワーク推進会議・有識者会議や全国史料ネット研究交流集会が重ねられていることについて 、その努力を高く評価する。今後とも拡充に努めていただきたい。
・2019 年に開催されるＩＣＯＭ（国際博物館会議）大会の日本（京都）招致は、我が国の博物館及び博物館学の歴史の上で、記念すべき事象である。
・インバウンドが年間２０００万人を超え、国は２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックを控えて、いっそうの外国人観光客の増加を目指す。その意味で各館内での多言語表記の充実は、たとえ政府の要請が一部のきっかけだったとしても、時代の流れに的確に対応したもので好ましい。さらに施設を点検し、外国人にもわかりやすい表記、見学方法、図録の解説などを望む。

（国立文化財機構の将来について）
・博物館は、文化財公開の拠点施設であり、それを担う「学芸員」は、文化財と国民とをつなぐ重要な「核」となっている。文化財を扱うプロである「学芸員」の専門性や重要性を、再評価する時期なのかもしれない。
・今後、ＩＣＯＭ大会の実現に向けて、事務局となる京博はもとより、国立各館には一層のリーダシップが求められる。
・また、日本の博物館の国際化のために、海外への多言語発信は重要となるし、海外の研究者・技術者への支援や交流も、更なる活性化が必要である。
・国民に、より親しみが持てる機構（博物館）づくりを目指して、各館は、今後も地道な活動を一つ一つ積み上げていって欲しい。こうした地道な活動の上に、国民の文化が成り立っているということを国（政府）にも是非ご理解いただき、積極的支援がなされることを期待したい。
・欧米の有名な美術館や博物館は巨額の寄付金によって賄われているといわれており、長期的な視点で、寄付金収入をどうしたら飛躍的に伸ばせるのか、文化財機構において積極的な寄付金獲得施策を更に調査、検討するよう望みたい。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1)　有形文化財の収集・保管、次代への継承

（概観）

・博物館の施設整備については各館毎にメンテナンスサイクルを構築し、施設の老朽化や耐震並びにセキュリティー対策の強化に取り組んでおり、予算の充当も適切に計画されていることは心強い。

・国立博物館は、文化財が海外や民間へ流出することを防ぎ、国・地方の宝を守るべく、従来にも増して、資料の寄贈や寄託はもとより、購入も積極的に進める必要を迫られている。各館ともに限られた財源のなかで、収蔵作品の充実を図り、重要性や緊急性に応じて、文化財の応急修理や本格修理に適切に取組んでいる。寄贈・寄託の受入れについては従来の実績を大幅に増加しており、博物館への信頼の表れと評価したい。

（特記事項）

・各館によって新規収蔵品の件数と予算枠にかなりのばらつきが生じるという問題に関しては、今年度は奈良博が少なかったが、機構全体で必要な予算枠を確保し、各館の方針と要請に従って予算を配分する体制ができつつある。

・各館とも館蔵品の修理は計画的に行われているが、資料保存の基礎となる、保存カルテの作成やＩＰＭの徹底化も重要な業務である。また、財政事情が厳しい中、寄附金を活用して国宝・重要文化財の修理が大きく進んだことも評価したい。

（希望事項）

・優品の購入はタイミングに支配されるけれども、よい情報が集まるようにアンテナをつねに張り巡らせておくことが望ましい。

(2)展覧事業

（概観）

・各館とも特別展・平常展をはじめ、文化財と接する多様な機会を国民・来館者に提供した。特に、平成 28 年度は大規模な展覧会が多く開催され、企画の適時性、内容の充実、国際性、来館者数において目覚ましい成果を上げるとともに、特色のある教育活動が充実してきたことが注目される。

・東博は５年連続で増加を続け、全体の半数を支えている。館の説明によるとインバウンド効果が大きいとのことだが、展示替えの頻度を増やしたり、イベントを企画したりといった各館の努力の賜であることは間違いない。

・ストーリー性や時代の中での位置付け、資料間の関連性を呈示しているものもみられるようになった。

・来館者確保の上で、マスコミによる広報の重要性を窺い知ることが出来る。
・来館者のための快適な観覧環境の提供については、案内サービスやガイドの拡充、バリアフリー化、外国語案内の充実、更にはショップやレストランにおけるサービスの工夫などに努め、また、来館者の満足度アンケート調査なども行い、質の向上に努めており、こうした努力は高く評価できる。
・近年の博物館入館者数の低迷を打破する一方策としての海外観光客の呼び込みと、東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れた、外国語による解説パネルの設置について、予定よりも早く全館で100%を達成したことも評価したい。
・また「トーハクなび」のような外国語による音声ガイドも、是非、各館で推進して頂きたいシステムである。
・従来から、海外の日本資料を国内に持ってきて展示することは行われているが、日本の資料を海外に持って行って海外展を開催する試みは多くはないので、日本の優れた文化財をもとに歴史を海外に知ってもらい、国際交流を推進するためにも、是非継続して欲しい。

（特記事項）

・東博での一事例なのかもしれないが、一つの展覧会をワーキンググループ内で意見を出し合いながら作ってゆくという説明に耳新しいものがあった。
・平常展で大切な館蔵品の充実は着実に進み、館の特色を前面に出して開催している。各館とも平常展の来館者が増加していることは喜ばしく、展示替えも積極的に行っている。
・博物館ごとに展開している平常展は、今後ますます増えると予測されるインバウンド観光のなかで、日本文化を提示する恰好の媒体として評価かつ重視したい。
・資料の保護と見やすさという点で、LED 照明の導入は評価できる。ただし、館によって照明の当て方に差異がみられ、資料がかえって観にくくなっている場合もあった
・東博の「平安の秘仏」展や奈良博の「忍性」展はマイナーな対象の展覧会だ。実現には勇気が要っただろうが、企画と熱意に賛意を示したい。
・東博の特別展「黄金のアフガニスタン」は、現代政治・政情による文化財被害問題を広く社会に発信し、理解が広がる上で大きな役割を果たした。現代性・社会性のあるこうした企画の実現を今後とも期待する。
・「黄金のアフガニスタン」も含め、こうした国際的な取り組みは、機構のグローバル化を進める上で極めて有意義であり、今後もこのような国境を越えた取り組みが期待される。
・これまで国立４館の特別展においては、内容の解説よりも、国宝や重文などの指定資料を展示として呈示することに重きをおく「逸品主義」のイメージが拭いきれなかった。しかし一方で、ストーリー性や時代の中での位置付け、資料間の関連性を呈示しているものもみられるようになった。資料内に鹿が描かれていることに着目させ、みるポイントを強調した東博の「春日大社」、快慶を中心に据えながら慶派全体にも目配りをした奈良博の「快慶」、同時期の他地域資料と相互の関係性も重視した九博の「宗像・沖ノ島」などがその例である

（希望事項）

・次年度以降もまた、強弱のリズムをつけた魅力的な活動や観覧環境の改善につとめ、近年、増加している外国人観光客にとっても期待を裏切らない充実した平常陳列をお願いしたい。
・人気のある特別展では、混雑のため入館・入室待ちに過度の待ち時間を入館者に強いる場合がある。混雑解消や待ち時間対策のため有効な方法を、さらに模索していただきたい。
・新聞社等との共催の 大型の展示が多いが、集客効率の重視に偏重せず、展示内容によっては、入館者の多さではなく、その展示において期待する入館者の層がどの位充実して集まっていたかを重視することも考慮する必要があると思う。
・来館者アンケートについて、常時ボックスを置いておいて、書きたい人だけが書くという方式だと、よほど満足した方、あるいはよほど不満足の方しか答えていないのではないか。東京国立博物館ではタッチパネル調査も導入されているようだが、さらに回答率を高めるために気軽に答えられる方法を工夫していただきたい。

(3) 教育・普及活動

（概観）

・今日の博物館活動において、教育・普及活動は真摯に取り組むべき重要な課題である。
・国民が積極的に博物館の所蔵品を利用し、あるいは現代美術やデザインの現場で活用できる環境づくりについて昨年度に意見を述べたが、今年度は各館ともに所蔵作品のデジタル画像によるデータベース作りが促進され、ダウンロードも提供されているという報告があった。
・東博がインスタグラムを始めるなど、積極的に取り組んでいるが、若年層対策としてもさらに一段のウェブ発信が求められる時代となっている。
・ウェブサイトやモバイルサイトの積極的な活用は高く評価される。各館ともホームページへのアクセス件数が大幅に伸びており、人々の関心の高さがうかがえる。
・29 年 3 月から「国立博物館所蔵品統合検索システム」の運用が開始され、外国語の説明が付されたことは、情報発信の面で高く評価したい。こうした成果も反映して、ウェブサイトのアクセス件数も順調に伸びており、きめ細かな情報発信が望まれる。
・講演会の開催、キャンパスメンバーズ事業、ボランティアの活用などによる教育・普及活動はますます充実しているように思われる。
・各種講演会の回数やギャラリートークの実施回数等の充実度は大いに評価できる。
・各館とも講演会やシンポジウム、ガイドツアー、ギャラリートーク、スクールプログラムなど、おもしろそうなイベントが頻度高く開かれており、限られた人員で工夫されておられることと推察する。
・博物館スタッフによる講演会・ギャラリートークは、日常の調査研究成果の要点を来館者に分かりやすく伝える技能向上に資するものであり、その蓄積が重要である。
・東博では、ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究、新来館者の定着に向けた実証的調査

分析を行うとともに、視覚障がい者の鑑賞開発に取り組んだことを評価したい。
・京博の「文化財ソムリエ」、「京博ナビゲーター」や奈良博のボランティア活動を活用した「世界遺産学習」、九博の高等学校所有の考古資料の活用、潜在的利用者とつくる新しい博物館の活動「きゅーはく女子考古部」についての調査研究などに引き続き着実な成果が認められる。
・有形文化財や展覧会についての教育・普及活動は当然であるが、今後は学芸員および学芸業務そのものに対する理解を得るための活動も考えてみるべきだろう。

（特記事項）

・ウェブ発信はインバウンドの集客にもストレートに効果をあげる。動画や画像は言語を超えて訴求できる。
・九博で実施されている「高等学校が所蔵する考古資料に関する研究」は、各都道府県の高等学校が保存する資料の確認だけでなく、各高等学校における資料の再発見、再認識へとつながり、教育・普及活動の活性化に大いに役立つと思われる。
・東博や京博に、公式キャラクターが登場したことも、子どもは近寄りがたいと思われがちだった国立博物館のイメージの柔軟化に一役買っているものと思われる。
・九博で行っている入場無料の「あじっぱ」や、平常展示に設けられている「文化財を守り伝える博物館」の展示室、「宗像・沖ノ島」の際に実施していた衣装体験などは、教育・普及活動上の積極的な取り組みである。
・より根本的には、国連、ユネスコの掲げる SDGｓに文化遺産が如何に貢献しうるか、あらゆる機会を通じてその理解を促す試みに励んでいただきたい。

（希望事項）

・とりわけ学生や生徒を対象とした取り組みは、館にとって手数はかかるだろうけれども、次世代育成のために一層の強化をお願いしたい。
・ボランティアの活用が重要であり、各館とも意欲的にボランティアとの連携を進めている。しかしながらボランティアの人数が増えてくるとボランティアの管理や育成といったマネジメントが、館側の新たな負担になる。将来的には「ボランティア・マネジメント」専門のボランティアを養成してはいかがかと思う。
・周辺の大学や高校との連携などを足場として、できるだけ定期的に（ウェブを）更新してほしい。
・（保育サービスは）恒常的に開設することは難しいかもしれないが、短時間の預かりサービスが可能になると乳幼児連れの父母が、小学生の子どもを連れて観覧することが可能になる。
・さまざまな学校教育に携わる教員に向けて、文化財学習の多様な展開方法のメニューを提供するような、教員向けの普及活動を展開していただきたい。
・文化財の修理状況の公開といったバックヤードの展覧は参加者にプレミアム感を持たせ、興味を倍増させるから、より推進してほしい。

・キャンパスメンバーズやインターンシップ制度などを通した、大学生の博物館利用の促進等の継続も願いたい。
・ミュージアムシアターと体験コーナーの内容を刷新し、研究成果をわかりやすく公開する場と位置付けて、あらためて広報などに努めてはどうだろうか。

(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

(概観)

・国立博物館各館、各文化財研究所とも、有形文化財に関する調査と研究ならびに収集・保管・展覧事業を積極的に推進している。それらの調査や研究は、学術的にしっかりした内容のものであるべきであると同時に、教育普及活動にも関わり、わが国の今後の方向性の確立や、国民のよりよい、文化的により豊かな生活のサポートにも役立つような、実践的内容も伴うものであるなら、一層推進の価値が高いと思われる。
・各地方自治体と文化財の調査と保存において、大きな成果をあげており、高く評価できる。
・ICOM 大会や東京五輪といった大きなイベントにより博物館へどう誘導するかは、展示事業を中心とする市民に向けた博物館の役割を、より大がかりな観光システムの中に如何に位置付けるかに係る。
・2019 年に開催されるＩＣＯＭ（国際博物館会議）大会の先駆けとして、東博を中心とする国立博物館において、各種の国際会議や国際シンポジウムが開催されたことは、重要な意義があったと言える。今後、ＩＣＯＭ大会の実現に向けて、事務局となる京博はもとより、国立各館には一層のリーダシップが求められる。
・海外における日本美術への関心はけっして高いとはいえず、分野も偏っているように思われるが、ウェブを用いた国民や海外への発信はますますアクセス件数が増えている。
・研究紀要は学芸員の本分である調査研究の成果を発表する重要なツールだ。各館とも定期的にしっかりした紀要を発行しており、資料としても価値があることから声を大にして評価していい。
・図録も研究発表の機会であり、重要だ。京博の伊藤若冲に関する図録は内容が濃く、研究成果も豊富である。多数の販売実績にもつながって増収にも結び付いた。

(特記事項)

・調査研究に当たっては、各博物館内、機構内の研究職員にとどまらず、他の研究機関、その他大学など、当該の調査・研究に関わる専門研究者の参加をもとめることで、質の向上を図ることが期待される。
・発信・普及事業はさらに多彩に展開していただきたいが、職員の勤務条件への負担が過大にならないような配慮も必要である。
・学芸員および学芸業務そのものを可視化、広くアピールする方策を探りたい。
・日本の博物館の国際化のために、海外への多言語発信は重要となるし、海外の研究者・技術者への支援や交流も、更なる活性化が必要である。

（希望事項）

・中国・韓国の博物館との学術的・人的交流、情報交換を重ねており、今後ともその充実に期待する。
・博物館の収蔵品や研究所の資料・図書などの目録・データ的な情報のインターネットによる発信・公開をさらに展開していただきたい。
・２０２０年の東京オリンピックの際の世界からの来訪者に向けて、日本の歴史・伝統文化を紹介するための展示や研究成果の多言語的な発信に、さらに戦略的に取り組んでいただきたい。
・研究の効率化のためには、機関ごとに、担当する地域や調査・研究の統一をはかったり、内容を分担しあったりしていくことが可能か、検討する余地はあると考える。

(5) 国内外の博物館活動への寄与

（概観）

・国立４館は、国内外博物館への資料貸借の他、文化財の調査・保存修理・運営・IPM セミナーなど、博物館活動全般について幅広い関与を行っており、中核機関としての役割を十分に果たしている。
・機構内博物館はいずれも内外に美術館・博物館に対して、所蔵品（有形文化財）の貸与や展示の指導など、援助、助言を行い、その連携関係を進めることで、国内外の博物館活動に寄与しているといえる。
・中国・韓国の博物館との学術的・人的交流、情報交換を重ねており、今後ともその充実に期待する。
・わが国の歴史的文化財に関する情報の国内外への発信は極めて重要である。関連情報の国外への発信は重要であり、海外とくにアジアの各種博物館への寄与は大切である。国内へは、そのような歴史的・文化的価値を、どのように公開し、どのように守り、それをどのようにして地域の活性化に生かすべきかといった実践的情報の発信が重要であり、地方の博物館へのサポートは一層充実すべきであろう。
・海外展開催をはじめ、アジアにおける博物館事業展開の牽引者としての役割発揮の努力を評価する。
・海外展の帰国記念展の件も、作品保持の点からその実現は難しい点もあるだろうが、一考に値する提案であるに違いない。
・他館や地方の博物館、美術館では展示作品に困っている所もある。「宝の持ち腐れ」にならないように、それぞれの館が全国の博物館や美術館と連絡を取り合って、文化財の貸し出しを行うことは大きな意義がある。

（特記事項）

・今後に望まれるより質の高い観光において、博物館施設は地域の歴史文化の周知と理解に

とって決定的に重要な役割を果たすことを、改めて確認しておきたい。
・奈良博、九博における継続的な海外の美術館博物館との交流・協力の実績は評価出来ようが、アジア諸国に重点がおかれているところに幾分の恨みがある。今後の課題として検討されよう。
・九博では文化財保存についての指導、助言、研修などが精力的に行われており、九州地域の中核館として信頼を集め、その役割を十分に果たしている。
・文化遺産防災ネットワークは、相次ぐ災害の中で重要な意味を持っていることを再確認した。28年４月に発生した熊本地震を受けて、この１年で約6,200件に上る文化財が救出されたことは、高く評価したい。

（希望事項）

・国内中核博物館として、展覧会、教育普及、広報活動に先駆的試みを望む。
・博物館収蔵品や研究所収蔵の遺物・史資料などを、保存に支障のない範囲で、他の地方自治体・大学・民間などの博物館や研究機関での展示に積極的に貸し出していただきたい。
・機構は、各国立博物館における展覧会の開催や、ウェブサイトの充実等に加えて、さまざまな方法で国内外の関連するネットワークを広げ、発信者であると同時に積極的な助言者、推進者の役割をも果たすべきであろう。
・今後とも共同の調査研究にも取り組む姿勢を持つことが期待される。
・４館は全国の中核的な博物館であることを絶えず自覚し、先頭に立って研鑽に励むとともに、できるだけ培ったノウハウを広めて、日本全体の博物館、美術館の活動の充実に結び付くよう手を差し伸べてもらいたい。
・文化財防災シンポジウムに合わせ、ブルーシールド組織の国内委員会の設立が検討されているようであるが、2019年のＩＣＯＭ京都大会に向けての設立が望まれるところである。
・機構についても、東京文化財研究所（以下、東文研）が実施している東南アジア・西アジア諸国の保存修復事業、「紙の保存と修復」の研修、奈良文化財研究所（以下、奈文研）のカンボジア・アンコール遺跡群の調査・保存事業、文化財防災ネットワーク推進会議による都道府県・市町村博物館等の資料のデータベース統合化、無形文化遺産の防災と継承に関する研究などは、継続性が求められる事業である。予算獲得のためには重要性を周知していく必要があるので、国際的なものを含めた幅広い広報に努めてもらいたい。

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

（概観）

・文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究は、近年日本の多くの地域で取り組が始められている文化的景観の保護推進に必要不可欠であり、今後の成果が期待され、その継続的な調査研究が必要である。

・東文研および奈文研では、文化財の調査研究を積極的に推進している。全国の自治体およびアジアにおける文化財調査研究センターとして指導的立場にあり、今後一層その維持・充実に努めていただきたい。

・東文研・奈文研ともに多くの新知見や新研究の報告がなされたが、とくに東文研における松澤宥に関する資料調査という戦後美術のアーカイヴ構築に向けて新しい一歩が踏み出されたことを率直に喜びたい。

・無形遺産保護に関して韓国と新たな交流関係をスタートさせた点、昨今の日韓関係の上からもきわめて好ましい成果といえる。国際協働の面でも評価したい。

・藤原宮跡の７基の柱跡の発掘のニュースは、メディアの報道も多数におよび、人々の興味関心をおおいに集めた。とくに当時の儀式の立体的な仕様が素人にも想像でき、歴史をリアルに感じることができた。

（特記事項）

・奈文研による東大寺東塔院跡および藤原宮跡の発掘調査が多大な成果を収めたことは自己評価の通り。

・奈文研が継続的に実施している奈良県橿原市の藤原宮朝堂院跡の発掘調査で、「続日本紀」に記載された元日朝賀の重要儀式の遺構が発見されたことは極めて重要な成果で「Ｓ」は当然だ。実際に立っていたであろう幢幡の復元も、遺構の用途や目的などについて国民の理解を深めるために役立っており、文化財行政を国民にいっそう身近にさせたといえる。

・限られたスタッフながら、東文研文化遺産国際協力センターによるアジア諸国とくにカンボジア、アルメニア、イラン等への協力にはきわめて顕著な成果を認める。とくにイランとの新たな協定締結が将来の可能性に大きな手掛かりを与えそうで、期待したい。

・東文研が中心になって進める無形文化財の保存・継承に関する調査研究は、地味だが今のうちに実施すべき喫緊の取り組みであり、東日本大震災被災地を含めて地元の教育委員会やＮＰＯなどと協力して精力的に進めていることは大いに意義深いし、勇気づけられる。

（希望事項）

・九博で実施されている「水中遺跡の保存活用に関する調査研究」は、国立博物館 4 館と各文化財研究所・センターにおいても行われている新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究のひとつであり、海に囲まれたわが国としては非常に重要な調査

研究である。今後、できれば他館や他の研究所・センターとの協力も試み、一層発展させることが期待される。
・限られた人員・予算の制約下で多くの成果を達成している実像を、国民向けにわかりやすい形で発信していただきたい。
・世界文化遺産・世界の記憶・世界無形文化遺産や民俗文化財・文化的景観・登録文化財・日本遺産など、新しいタイプの文化財の調査・研究や展示にも、配慮をお願いしたい。
・研究成果は研究者だけのものではなく、マスコミやマスメディア等を通して広く国民に周知されるべきものと考える。

(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

(概観)

・東文研および奈文研では、文化財の調査法および文化財の保存・修復技術の開拓など基盤的・応用的研究の推進と蓄積に努めていることを評価する。また、その技術は全国およびアジア各国への普及に努めている。
・温風殺虫処理法の研究、セロファンテープなどの粘着テープの除去処理の研究、高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究の進展など、多くの工夫がなされたことが報告された。
・機構内の研究所・センターでは、科学技術を応用した研究開発に取り組んでおり、「埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発」とともに、マイクロフォーカスX線CT装置を用いての木造彫刻や美術工芸品等の非破壊調査に見るべき成果が認められる。これら科学技術を応用した研究開発の成果は、考古学、建築史、美術史等の研究に寄与することが期待され、今後とも研究の継続が必要である。
・保存科学や、科学的な文化財調査方法の開発の面では、大きな成果を挙げており、また他の公共団体や調査・研究機関からの多くの依頼に答えて注目される調査成果を挙げており、高く評価したい。

(特記事項)

・奈文研における年輪年代学の進展、とくに薬師寺東塔に関する新たな知見は建築史学上特筆されてよい。　また東文研では生物劣化の現象解明に著しい成果が見られ、今後の文化財建造物劣化防止に新たな手法が期待されそうである。
・東文研の「春日権現験記」の光学調査は、高精細な画像で当時の絵画の技術に迫る意欲的な研究だ。
・飛翔性昆虫を衝突させて捕獲するＦＩＴという独自の殺虫方法の研究を東文研が実施して十分な成果を挙げたとことも興味深い。
・奈文研が年輪年代学で解体修理中の奈良・薬師寺東塔（国宝）の部材を調査し、西暦７２０～７３０年に伐採されたことを突き止めた。東塔が前代の都・藤原京から移築されたとの説もあったが、今回の調査結果はこれを否定し、現在地で７３０年頃に新築され

たことを立証した歴史的な意義は極めて大きく、全国的に報道されて話題も提供した。
・デジタルカメラによる安価な三次元画像の取得、ドローンを使用した容易な地形図の作成などは、きわめて意欲的な手法であり、今後、他機関での調査手法に大きな影響を及ぼしていくものと考えられる。

（希望事項）

・今後需要が高まることが確実と思われる煉瓦造建造物の保存修復に関する調査研究に著しい進捗が見られることは喜ばしいが、まだその成果は部分的なところにとどまっているようで、海外事例の収集分析を含め、日本の拠点としての取り組みを進めてほしい。
・科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究は、機構の複数の機関で推進されているが、近年、新たに出現した最新技術の応用に関する試みは少ないように思われ、新たなチャレンジが期待される。

(3)　文化遺産保護に関する国際協働

（概観）

・東文研、奈文研とも世界各国の研究機関と協働し、国際的な会議にも積極的にかかわっていることは頼もしい。文化遺産の保護や研究に大きく貢献し、日本の文化財の研究や保護のグローバル化に役立っている。
・国際会議やシンポジウム等への出席による研究成果の積極的な発信は高く評価できる。国際協働についても、海外に対する日本の保存修復技術の伝達と、欧米における最新の研究情報の収集がバランスよく行われており、活発な活動が実施されているとみてよい。
・大規模な国際協働事業はしばらくの間望めないとしても、今年度は紙の保存と修復に関する研修が京都とメキシコで開催され、100％の高い満足度を得たという頼もしい報告があった。このような地道な活動を継続的に行うことで、国際的な評価を得ることができると思われ、いっそうの発展が望まれる。
・国内外の保存修理事業者のための研修プログラムの充実等も含め、各国立博物館および文化財研究所ならびにセンターは、文化財保護に関する国内・国際協力の推進に努めている。アジア各国をはじめ、世界の国々は、これまでわが国が培ってきた文化財保護の経験と能力に大いに期待しており、とくに国際協力は今後も積極的に推進するべきであろう。
・文化財の保存・修復事業や調査・研究・展示を通した国際協力の面では、文化財研究所・博物館ならではの高いレベルの協力事業が多角的に推進されており、高く評価したい。
・アジア太平洋無形文化遺産研究センターでは、国際会議や専門家会合を通じて、広くアジア太平洋の諸地域の専門家との情報交換・収集を重ねていることを評価する。
・コンソーシアムアは１０周年を過ぎてなお文化庁委託の単年度事業でしかなく、せっかくの蓄積を効果的に活用するにはいささか不安定な体制がいまだ続いている。データベースの充実など継続性の高い事業はコンソーシアムからセンターに取り込んだ予算と人

員措置が望まれるのではないか。

（特記事項）

・東文研はネパール地震の被災文化財の保存支援などに力を発揮し、紙の保存と修復の取り組みでは外国の高い評価を得ている。

・奈文研は継続しているカンボジアの寺院遺跡での修復事業を着実に進め、日本に研究者を招くなどして成果を挙げている。

・アジア太平洋地域無形文化遺産研究センターは「無形文化遺産保護に関する調査研究」の拠点として発足し、このほどセンター長が常勤ポストになったことは一歩前進といえるが、他方事業予算を相変わらず文化庁からの受託やユネスコ国内の助成金に頼らざるを得ない現状は、中・韓 C２センターとの役割分担、言い換えれば国際責任の面からも、はやく脱却する必要があろう。

・２０１６年の世界遺産委員会には東京・奈良両文化財研究所から情報収集に出向いているが、そこから得た成果に関する情報発信は一部の雑誌取材記事以外ほとんどなされていないのではないか。

・イギリスのセインズベリー日本芸術研究所との共同研究等、わが国との交流に積極的な海外の研究機関との協力は、アジアを超えて推進すべきであろう。

（希望事項）

・人的貢献はともかく、この活動に必要な充分な資金を保証するのは日本政府そのものだろう。

・東文研と奈文研との間、あるいは他の研究機関との間で、得られた情報を共有できる機会があればよい。

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

（概観）

・データベース化は着実に進んでおり、広く研究者にデータや資料、図書を公開して研究の進展に資する状況だ。アクセス件数も順調に伸びている。定期刊行物や報告書の発行、講演会や現地説明会の数多くの実施など、積極的に国民に成果を提供しているのはナショナルセンターとしての責務をしっかりこなしていることを示す。

・埋蔵文化財分野では、遺跡の発掘調査報告書の発行数が従来よりも制約され、おもに行政組織にのみ配布されるために、その利用が難しい傾向が生じつつあった。その中で、奈良文化財研究所が進めるウェブサイト上での全国遺跡発掘調査報告書のレポジトリ公開はきわめて重要な事業であり、高い利用率で活用されている。

・木簡を含む平城宮跡関係の発掘資料の豊富さと徹底した整理手法、また全国の報告書データベースは、何物にも代えがたい奈文研の誇るべき実績として、今後さらなる充実を図ってほしい。

・詳細な「春日験記絵巻」の図録、一般に受け入れやすい『平城京のごみ図鑑』の刊行な

ど、研究機関ならではの魅力と意義に富んだ刊行物に光るものがあった。
・博物館・文化財研究所のホームページによるアーカイブズ・データベースの情報発信サービスは、多数のアクセスを得ており、高く評価できる。

（特記事項）

・奈文研での資料館展示、現地説明会、講演会などのイベントへの市民参加がきわめて好調。スタッフの努力のたまものであり、上記のような膨大なデータの公表と合わせて世界遺産「奈良の文化財」の真骨頂といえるが、現在の物理的環境は決してそれにふさわしい施設とはいいがたい。
・得られた知見を積極的に公開し、広く共有する情報とすべきことは言うまでもないが、その際、出版、刊行という旧来の方法をもう一度考えてみるべきではないか。書籍にして出版にするという方法は、情報の伝達、共有化の手段としていまなお有効だと思うからである。
・情報資料の収集と整備は十分に行われているが、刊行物が多く、機構から周知したい重要な情報がどれなのか、見えにくくなっている。

（希望事項）

・著作権は発行主体にあり、一層その重要性の理解を求めて、今後とも充実に努めていただきたい。
・東文研には、その成立にあたって「美術研究所」としての性格が自明なこととして付与されていたことをいま改めて省み、その公開や活用に当たっての在り方に関して機構内での真摯な取り組みがなされることを期待する。
・データの横断的検索を可能とする方向や、機構内でのリンクも、さらに充実化を進めていただきたい。

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

（概観）

・地方公共団体の経済力の低下などにより、需要と供給の関係に齟齬が生じているようだ。研究所の存在意義にも関わる重要な事業であり、地道に継続しながら、当面、事態が改善されるよう少しずつでも活動していってほしい。
・奈良県明日香村の極彩色壁画古墳・キトラ古墳一帯の国営公園で、国交省の壁画体験館「四神の館」がオープンした。同古墳と壁画の素晴らしさを最新の科学技術を駆使し、鮮やかな映像も上映して、わかりやすく伝えている。ハード面とソフト面で奈文研が全面協力して優れた展示・保存施設にしており、飛鳥時代を知る絶好の施設になった。
・文化財防災ネットワーク推進のために、その本部と推進会議を設置したことは意義深く、震災被災県等への協力も継続しているが、年月を経て、やや忘れられつつあるところもある。地方公共団体の関連機関による協力は重要であり、機構の果たすべき役割は非常に大きい。

・機構が各種団体などと協力して文化財防災ネットワーク事業を推進していることは、被災地自治体にとって心強い。いつ、どこで、文化財に被害をもたらす大きな自然災害が起きるかわからないから、他の自治体にとってもありがたい事業だ。東日本大震災を機に進められているこの取り組みが一過性で終わることなく、未来に向けていっそう力を入れ、迅速な文化財救出を行う体制が一刻も早く確立されることを望む。

（特記事項）

・奈文研は本庁舎建設中で仮住まいにもかかわらず、多彩な文化財担当者研修のプログラムを実施した。「研修を受けたい」という多くの要望にできるだけ応えており、高く評価したい。受講者の満足度は１００％だった。

・奈文研では、遺跡の発掘調査技術および保存・修復に関する技術の開発に当たるとともに、全国自治体の埋蔵文化財担当者へ技術向上のための研修を長年行ってきた。全国の埋蔵文化財保護体制が整備されてから年数を経た結果、担当者の世代交代が急速に進んでおり、その技術継承が課題となっている。

・東文研の学芸員研修は、学芸員がどちらかというと弱いとされる自然科学的な見地での保存に特化したカリキュラムを入れ、自立を促す試みで注目したい。

（希望事項）

・研修の充実はきわめて重要であるが、参加者数に変動がある。参加経費の増額に自治体等が耐えられない事態も出ており、何らかの対応策を検討する必要があろう。

・文化財担当の専門職員や学芸員の文化財保護に対する意識や技術の質的向上に、機構からの助言や研修の果たす役割は大きく、成果を上げるものの、特に都市部における開発と文化財の保存の問題は深刻であり、この問題の解決には、専門職員でない、文化財にかかわる担当事務職員を含めての研修が必要急務であると考える。

・大学における高等教育との連携は、機構の文化財に関する高い調査・研究能力を活かして、文化財研究の裾野拡大や後継者育成を進める上でも、さらに積極的に展開していただきたい。

・４館・２研究所・センターの研究・学芸系職員の協力体制をさらに強化して、機構全体のスケールメリットを活かした調査・研究・学芸事業をさらに有機的に推進していただきたい。そのために、たとえば機構全体の横断型研究に、戦略的な予算配分を行ってもよいのではないか。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

（概観）

・業務運営の効率化を図るとともに、限られた予算、人員の中で、各博物館は真摯な努力を重ね、国民の　期待に応え得る文化財の保存とその活用を図ることに努めたことは、昨年に引続き認められ評価して良い。

・博物館の調査研究、展示企画立案・運営の諸業務にアソシエイトフェローが参加して、業務の円滑・充実化に努め、なおかつ若手専門家の技能向上に活かされている。しかし、一方では、近年、諸業務の増大が著しい中で、任期付雇用の拡充に多くを依存する状況は、十分適切であるとは思われない。正規職員の任用拡充が必要である。

・特別展での入館者の増加、平常陳列の充実にも工夫や研究の成果が反映する平易な展示が理解され入館者の増加に結び付いているといえる。また、自己収入実績額が目標額を上回ったことが報告されたもの喜ばしい。

・財政難の中、寄付金が目標の 1.7 倍も獲得出来たことは喜ばしい限りであるが、欧米のような寄付金による博物館運営に至るには、まだまだ長い道のりが必要とされよう。

（特記事項）

・文化財機構はコスト削減の地道な努力を積み重ねていると判断できる。

・共通的な事務の一元化など、業務運営の効率化は重要であり、機構はそれを推進している。ただし、このような効率化が、各博物館、研究所、センター間の相互理解を低め、無責任で機械的な組織を生まぬように十分配慮しながら、業務運営の効率化を進めるべきである。

（希望事項）

・アウトソーシングに関して、教育や啓蒙目的のイベントも民間委託できるものがあるのではないか。専門的な知識が必要な業務は学芸員の手に委ねなければならないだろうが、告知や受付、資料準備などは外注がたやすい。また普遍的なテーマ（たとえば「博物館とは？」）や継続的な内容であれば講師・ガイド役も委託できる。

・効率化を図ることは大切だが、質の低下を招かないようにしていただきたい。

・交付金事業に加えてその研究活動の可能性を広げるため、科学研究費助成事業の取扱機関として認定されていない現状を克服する道を探る努力を引き続き行って行くことは昨年度に同じである。

・人件費は対国家公務員指数で適正に維持されている。ただ、機構の特色から特殊な要素もあり、柔軟な対応も求められよう。職員の士気向上に水を差すことのないように配慮することが必要だ。

・現状では、限られた予算と人員の範囲内で、多岐にわたる事業を展開せざるを得ない状況にある。事業全体の思い切った見直しをはかり、成果が十分にみられない業務は縮小・廃止し、効率化の見込める新規業務に切り替えをはかっていくことも検討してほしい。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

（概観）

・平常展の入場料収入が着実に増えているのは喜ばしい。

・改善目標の第一に挙げられている「自己収入拡大への取組」について、寄付金の増額を果たす一方、28 年度は目標値を上回っているものの、26、27 両年度の収入額には届いていない。

・各館とも施設の有効利用、有償利用とも増加傾向を強めており、高く評価できる。どの施設も空間としてのポテンシャルが高く、今後も活用の余地がありそうだ。多様な活用によって、博物館本体への興味、関心が高まり、来館につながる効果も期待できる。

・保有資産をコンサートや企業等のパーティー、茶会などに多角的に提供し、収入を得たことも施設の有効利用という面で称賛される。こういう試みは施設への新たな理解者の拡大にもつながるから、いっそう取り組んでいただきたい。

・保有資産を有効活用した取り組みはこれからの博物館の方向のひとつと思われるが、使用する側が、 博物館施設としての一定の品位を保ち 、博物館施設として多くの人が納得のいく使われ方を保つ必要があると思われる。

（特記事項）

・寄付金等を含む外部資金の獲得に関しては、重要項目として、機構全体で取り組み、財源の多様化を図るべきである。

・日本人と興味の所在が異なる外国人来館者にとっては、むしろ平常展の資料の方が、関心を引きやすいはずである。従来行ってきた、国内大手メディアとの共催によって日本人向けに広報をかけていく手法だけではなく、外国人の目に触れやすい海外用情報源（メディアよりも実効性の見込める、ガイドブック・動画サイト・観光情報誌など）への働きかけによって、平常展への導入をはかり、年間を通じて来館者数を平準化していく手法も取った方がよい。

・経費削減が叫ばれ、さまざまな面でスリム化がはかられることは必要である。昨年度に報告された目的積立金の承認について、実際の金額の説明があった。国庫納付額にくらべてわずかな金額であり、期待のもてるようなものではなかったが、損失のないよう有益に使っていってほしい。

（希望事項）

・博物館は国際的定義（ＩＣＯＭ規約）からしても非営利の機関であり、独立採算は到底あり得ない施設である。機構の健全な事業運営の上で、運営費交付金のこれ以上の削減については、国（政府）で再検討し、文化国家としての責務を果たして頂きたい。

・出版界では、東博所蔵資料の画像利用について、高額であるとして利用を避ける傾向があり、学術的重要性が社会発信されにくい状況があるように思われる。文化財は国民的財産であり、その学術的重要性の周知を図る意味でも、もっと利用されやすい価格設定

を行うべきであろう。利用件数を増加することで収入減を避けることが可能である。

・各国立博物館、文化財研究所は自己収入の増大ならびに、自己保有資産の有効利用の推進に努めている。しかし、各国立博物館を含む機構の予算は、先進各国の比較すべき関連予算と比べても、日本の近隣国の関連予算と比べても非常に少ない。かつて日中韓各国の国立博物館予算の比較等が行われたことがあり、参考になったが、再度、近年の予算比較を行い、非常に低い日本の関連予算の問題を確認し、政府は大いに改善に努めるべきである。

・自己収入の目標額を上回る成果が（現在のところ引き続き）上げられているが、これもある程度以上は限界がある。展示場のキャパシティーを超えた観覧者の入場は（入場者が多すぎて）、観覧者が目指す展示品を十分に見る事も出来ないという本末転倒の事態を招く恐れは是非とも避けなくてはならのであるから、そこには受け入れられる入場者も限界があるということだ。いたずらに 30 万、40 万の入場者を目論む特別展・企画展を開催することには慎重でありたいということである。

・科学研究費や民間の研究助成などの外部資金の獲得について、さらに積極的に取り組んでいただきたい。

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

（概観）

・中期目標及び計画において、ICOM 大会、あるいはオリンピックを、我が国の文化発信の好機ととらえるとの認識がある一方、業務運営上、期間中の一般管理費等の削減が数値をもって打ち出されている。これで相容れる事業の実施が図れるのか、もし、二つの大イベントによる需要がそのとき限りのものという認識を前提としているとすれば、懸念がぬぐえない。

・文化施設では、一般の経済活動とは異なり、文化・文化財の維持には、適切な経費の範囲があり、独立行政法人文化財機構の必要範囲の業務に関しての予算は、交付金で保証しておくべきであると考える。

・文化関係予算がフランスと比較すると１０分の１というのは実に寂しい限り。国はこの文化予算の貧困さを反省し、豊かな文化国家を目指す努力を惜しんではならない。

・常勤職員数の抑制のために行われている退職後のスタッフの不補充と任期制研究員の採用は常態化している。しかもそうした雇用条件の人材のなかに、博物館、研究機関の根幹を担う活動を行っている者もいる。４博物館・２研究所は、能動的に文化や学術活動の取り組む人材を長い時間をかけて育成しうる場として、主導的に立場にあることを自覚し、変革期の設計図をじっくりと描いていただけるよう継続して主張する。

（特記事項）

・調査研究に顕著なことだが、外部の競争的資金の獲得が強く求められている。しかしそうした資金は安定的ではなく、国が必要と認める基礎的データの蓄積など継続性を強く求められる事業がそうした資金に依存することは望ましくない。

・寄附を募って自前でファンドを立ち上げ、それを研究経費にまわすという方法も考えられる。

（希望事項）

・ＩＲＣＩは、アジア太平洋圏の無形文化遺産の保護に関して国際的に重要な役割を果たしている。にもかかわらず、その運営ついては外部資金に依存せざるを得ない状況のようであり、改善が必要であろう。

・機構は、大変な努力により事業目標を順調に達成し、自己収入を増加させてきた。しかし、運営費交付金の一律削減がそれ以上に進む状況にある。単なる収益事業ではなく、経済利益の原理と即応しない文化・文化財を専門とする法人に対しては、特段の配慮があるべきと考える。

・東京オリンピック・パラリンピックに向けて日本文化の紹介が大いに期待されるから、それを実現するためにも充実した予算を確保してほしい。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

（概観）

・個人情報保護法が改定され、匿名性を保持したデータであれば、第三者提供ができるなどビッグデータ活用が可能になった。文化財機構としても来館者データを活用した運営や企画が実現しやすくなったといえる。

・機構は、芸術系、歴史系、さらには情報系の若手職員を必要としており、バランスのいい人事計画の推進は非常に重要である。それらの職員の採用に際して、英語力等の語学力を重視することが今後の関連活動の一層の国際化のためには重要である。

・内部統制、リスク管理等に関する諸規程の整備が進められ、業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置がなされていることが認められる。コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境や規定を整備し、着実な運用を図ることは今後とも意識し実行して行くべきである。

・わが国の博物館は、諸外国の国立博物館に比較して、予算規模とともに職員定数についても全く少ないと言わざるを得ない。適正な機構運営のためには、これ以上の人員削減や人件費の圧縮は決して望ましいことではない。

（特記事項）

・任期付き非常勤のアソシエイトフェロー・客員研究員・特任研究員・研究補佐員などの比率が高くなってきており、将来の研究体制維持に危機を感じる。常勤の研究・学芸職を増やす努力をお願いしたい。

・任期付き非常勤の若いアソシエイトフェロー・研究補佐員などが、優秀であるにもかかわらず「使い捨て」になることのないように、人事面での配慮が求められよう。

・外国語対応は重要であるが、専門用語の問題などがあるため、通常の外注翻訳業者では、ニュアンスまで含めたきちんとした文章が作成できない。経費節減と用語統一のため、機関ごとではなく、機構全体をカバーする要員として、各外国語に対応できる職員の配置をした方がよいであろう。

（希望事項）

・本機構が行う自己点検評価は、目標や計画に対する業務実施結果の充足度を判定したものといえるが、そこには計画に対する予算措置の過不足や、アソシエイトフェロー問題を含む人員配置の妥当性を測るツール、ないしはモニタリングの指標が用意されているとはいいがたい。

・日本国内の研究所、博物館の活動の地道さにくらべて、中国、韓国、シンガポールなどのアジアの他の地域は世界の注目を集める華やかな活動を展開している印象がある。ときにそれらと比較をし、メディアを通じて近代的設備を整えた 100 年以上の歴史をもつ日本の博物館の存在意義を国民に強く訴え、バランスのとれたレガシーの活用と保存を今後も発展させていってほしい。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

委員長	小　林　　忠	（学習院大学名誉教授・岡田美術館館長）
副委員長	河　合　正　朝	（慶應義塾大学名誉教授・千葉市美術館館長）
委員	鮎　川　眞　昭	（公認会計士）
委員	石　川　日出志	（明治大学文学部教授）
委員	岡　田　保　良	（国士舘大学イラク古代文化研究所教授）
委員	齋　藤　　努	（国立歴史民俗博物館研究部教授）
委員	榊　原　　悟	（岡崎市美術博物館館長）
委員	坂　本　弘　子	（朝日新聞社執行役員名古屋本社代表）
委員	佐　藤　　信	（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
委員	玉　蟲　敏　子	（武蔵野美術大学造形学部教授）
委員	名児耶　　明	（公益財団法人五島美術館副館長）
委員	浜　田　弘　明	（桜美林大学教授）
委員	藤　田　治　彦	（大阪大学名誉教授）
委員	柳　林　　修	（元読売新聞編集委員）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　博物館調査研究等部会

部会長	河　合　正　朝	（慶應義塾大学名誉教授・千葉市美術館館長）
委員	榊　原　　悟	（岡崎市美術博物館館長）
委員	名児耶　　明	（公益財団法人五島美術館副館長）
委員	浜　田　弘　明	（桜美林大学教授）
委員	藤　田　治　彦	（大阪大学名誉教授）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　研究所・センター調査研究等部会

部会長	佐　藤　　信	（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
委員	石　川　日出志	（明治大学文学部教授）
委員	岡　田　保　良	（国士舘大学イラク古代文化研究所教授）
委員	齋　藤　　努	（国立歴史民俗博物館研究部教授）
委員	玉　蟲　敏　子	（武蔵野美術大学造形学部教授）
委員	柳　林　　修	（元読売新聞編集委員）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

河合　正朝

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1)　有形文化財の収集・保管、次代への継承

各館は、それぞれのもつ特徴を活かしつつ、その方針に従って収集を行い、一定の成果を上げている。収集資料の調査研究、保存、整理等は適切に行われており、次世代に向けての継承は良好に進まれているものと判断される。一方、資料の保存、活用のための整備に鑑みると、一層の財源確保が強く望まれる。その点からすると、各館とも寄贈、寄託に関しては、工夫を凝らした努力が引き続き必要である。

(2)展覧事業

各博物館のもつ特徴、目指すところ、地域性等を考慮し、また日頃の調査研究の成果を反映することを心がけつつ、企画展（特別展）を企画、実施している。そのうちの幾つかは、多くの入館者を獲得することが出来たことが報告されている。一方、この委員会でも度々言及されたが、平常陳列の重要性に関しても、各館に相応の努力の跡が認められるが、特に、東博において顕著な成果が上がっていることを評価したい。なお、すでに指摘されていることであるが、今日の博物館において、ミュージアムショップやレストランの存在意義は大きく、各館にはこれに対する新たなる取り組みも要請されるなど、博物館利用者に対して、魅力的かつ快適な環境づくりが必要である。

(3) 教育・普及活動

今日の博物館活動において、教育・普及活動は真摯に取り組むべき重要な課題である。東博では、ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究、新来館者の定着に向けた実証的調査分析を行うとともに、文化財を分かりやすく理解するためのギャラリートークなど行うなど、入館に対する学習機会の提供に努めたこと、また、視覚障がい者の鑑賞開発に取り組んだことを評価したい。京博の「文化財ソムリエ」、「京博ナビゲーター」や奈良博のボランティア活動を活用した「世界遺産学習」、九博の高等学校所有の考古資料の活用、潜在的利用者とつくる新しい博物館の活動「きゅーはく女子考古部」についての調査研究などに引き続き着実な成果が認められる。

(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

各館ともに、前年度に引き続き適切な課題に基づく調査研究を行い、上述の（1）、（2）、（3）に記したような着実な成果を上げていると言ってよかろう。その調査研究に当たっては、各博物館内、機構内の研究職員にとどまらず、他の研究機関、その他大学など、当該の調査・研究に関わる専門研究者の参加をもとめることで、質の向上を図ることが期待される。

(5) 国内外の博物館活動への寄与

奈良博、九博における継続的な海外の美術館博物館との交流・協力の実績は評価出来ようが、アジア諸国に重点がおかれているところに幾分の恨みがある。今後の課題として検討されよう。機構内博物館はいずれも内外に美術館・博物館に対して、所蔵品（有形文化財）の貸与や展示の指導など、援助、助言をすることで、その連携関係を進めることで、国内外の博物館活動に寄与しているといえる。今後とも共同の調査研究にも取り組む姿勢を持つことが期待される。

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

東文研で、７件の取り組み。奈文研で１８件が実施され、東文研では、近・現代美術に関する調査研究と資料集成、無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化財遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化に成果が認められる。奈文研では、遺跡整備・活用研究集会の開催と報告書の刊行、藤原宮跡の発掘調査、飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究などに認められるべき成果が上げられた。文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究は、近年日本の多くの地域で取り組が始められている文化的景観の保護推進に必要不可欠であり、今後の成果が期待され、その継続的な調査研究が必要である。

(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

機構内の研究所・センターでは、科学技術を応用した研究開発に取り組んでおり、「埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発」とともに、マイクロフォーカス X 線 CT 装置を用いての木造彫刻や美術工芸品等の非破壊調査に見るべき成果が認められる。これら科学技術を応用した研究開発の成果は、考古学、建築史、美術史等の研究に寄与することが期待され、今後とも研究の継続が必要である。

(3)　文化遺産保護に関する国際協働

研究所・センターでは、文化財の保存・修復事業や調査・研究・展示を通しての国際協力事業がすでに継続的に行われており、国際貢献としてアジア各地から高い評価を受けていることは、昨年度の当機構外部評価委員会報告書にも明記されるところである。しかし、既にしばしば指摘されていることであるが、これには大きな予算処置が必要であり、機構全体として取り組むべき課題として、今後とも真摯な検討を継続し良好な解決に向かっての努力を重ねて行かなくてはならないだろう。

(4)　文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

研究所・センターにとどまることなく博物館についても課題とのなるべき事項である。研究所・センターでは、収蔵資料のデジタル化や研究成果の発信に（現状での限界を感じつつも）努力し、一定の成果を上げていることを評価したい。東文研における、文化財情報基盤の整備にかかわる継続的な取り組み、そこで得られたデーターの横断的検索を可能とする方向での努力も評価したい。一方、東文研が、元来美術（史）アーカイブのナショナルセンターであったことに鑑みると、それに相応しい予算処置と人的手当て等がなされているとは考えられない。東文研には、その成立にあたって「美術研究所」としての性格が自明なこととして付与されていたことをいま改めて省み、その公開や活用に当たっての在り方に関して機構内での真摯な取り組みがなされることを期待する。

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

国・地方公共団体・博物館・美術館等に対する協力・助言等では、多分野において機構ならではの高いレベルでの成果を上げていることは、昨年度の報告に述べた通りである。しかし、一方、文化財担当の専門職員や学芸員の文化財保護に対する意識や技術の質的向上に、機構からの助言や研修の果たす役割は大きく、成果を上げるものの、特に都市部における開発と文化財の保存の問題は深刻であり、この問題の解決には、専門職員でない、文化財にかかわる担当事務職員を含めての研修が必要急務であると考える。公共性という名目での開発によって、文化財の破壊は都市部において確実に進められており、地方自治体の設置する文化財保護審議会乃至は文化財専門委員会の委員のなかにいる一部御用学者（？）は、記録保存を勧めることで、文化財の破壊を黙視しているケースも少なくない。この点についての対応も、是非、機構にあっては指導力を発揮されることを期待している。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

業務運営の効率化を図るとともに、限られた予算、人員の中で、各博物館は真摯な努力を重ね、国民の期待に応え得る文化財の保存とその活用を図ることに努めたことは、昨年に引続き認められ評価して良い。運営の効率はややもすると業務の質の低下を招くことがあるが、その点には注意してほしい。

特別展での入館者の増加、平常陳列の充実にも工夫や研究の成果が反映する平易な展示が理解され入館者の増加に結び付いているといえる。また、自己収入実績額が目標額を上回ったことが報告されたもの喜ばしい。希望事項としては、交付金事業に加えてその研究活動の可能性を広げるため、科学研究費助成事業の取扱機関として認定されていない現状を克服する道を探る努力を引き続き行って行くことは昨年度に同じである。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

前述（Ⅱ）に述べたように、自己収入の目標額を上回る成果が（現在のところ引き続き）上げられているが、これもある程度以上は限界がある。展示場のキャパシティーを超えた観覧者の入場は（入場者が多すぎて）、観覧者が目指す展示品を十分に見る事も出来ないという本末転倒の事態を招く恐れは是非とも避けなくてはならのであるから、そこには受け入れられる入場者も限界があるということだ。いたずらに 30 万、40 万の入場者を目論む特別展・企画展を開催することには慎重でありたいということである。となると寄付金等を含む外部資金の獲得に関しては、重要項目として、機構全体で取り組み、財源の多様化を図るべきである。と同時に、自己収入の増加分は、機構内で独自に使える法的、あるいは所管庁との折衝によって、機構にとって有効な処置を図るべきである。

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

人件費の削減が進められるなかで、専門職常勤職員の採用をはかる試みがなされたことが昨年度報告されたが、本年度もそれが実施されたのであろうか？その報告はなかったことに疑念が残る。優秀な人材の育成は、博物館、研究所のいわば生命線である。この点に関しては正規職員採用の増加を視座に入れた人事計画が、引き続き真摯に取り組まれなくてはならない。

年度内に起こった不測の事態や軽微な計画変更に対して、支障をきたさない速やかな（運営）対応が可能になるような、予算（理事長裁量経費）の適切な活用がなされたことは評価されよう。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

業務方法書に規定された、内部統制、リスク管理等に関する諸規程の整備が進められ、業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置がなされていることが認められる。コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境や規定を整備し、着実な運用を図ることは今後とも意識し実行して行くべきである。また、各種研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善を行って行くかなくてはならない。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

機構全体として、各機関とも当初立てた目標のおおよそを実行し、それぞれに着実に成果を上げていることが認められる。このことを第一に評価する。」

Ⅳでも指摘したことであるが、優秀な人材の確保は、機構全体におよぶ生命線である。今後とも正規常勤職員の採用を視座に入れた人事計画が肝要であり、それについても、中途半端な、悪く言えば、まやかし的な職名とも取られかねない、アソシエイトフローについては、その能力に従って、正規職員としての採用を進めるべきと考える。この点に関しては、機構において十分に検討して頂きたい。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名
鮎川　眞昭

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1)　有形文化財の収集・保管、次代への継承

① 博物館の施設整備については各館毎にメンテナンスサイクルを構築し、施設の老朽化や耐震並びにセキュリティー対策の強化に取り組んでおり、予算の充当も適切に計画されていることは心強い。

② 文化財購入件数と金額は各館ごとのばらつきが大きく、東博と九博は6億円を超えているが他の2館では1億円前後である。これは各館ごとの独自判断によるものであり、従来の方針通りといえる。

③ 収蔵品に関するデータのデジタル化やデータベース化など、データの蓄積とＩＴ導入などの措置、更に収蔵品の保存環境の改善と修理技術の向上のための努力も継続しておこなわれており、所期の成果が挙げられていると思う。

(2)展覧事業

① 平成28年度の来館者数（平常展と特別展合計）は366万人となり前年度の398万人から若干の減少となった。　九博が増加となった以外は全館共に減少した結果である。　今年度は400万人を達成することを期待していたが達成は来年度に持ち越しとなった。この数値目標の達成に向けて来年度以降も積極的な取り組みを期待している。

② このうち平常展で見ると、平成28年度の平常展来館者数は全体では149万人で、前年度の146万人に比して微増となっている。内訳では奈良博のみ増加（95千人から145千人）となっているが他の館はみな微減となっているためである。

③ 特別展で見ると、来館者数は前年度252万人に対して今年度は216万人と36万人減少する結果となった。これは京博と東博の減少が影響しているためである。特に京博での減少が大きく、また減少が平成27年度、28年度と継続している点、原因と対策の検討が必要と思われる。全般的に、今年度においては過去の阿修羅展や高松塚古墳展のような爆発的人気を呼ぶ特別展はなかったため、前年比、横ばいから若干の減少傾向となったものと思われる。

④ その一方で、今年度の特別展の中で特に成功したものとして「黄金のアフガニスタン」展と「平安の秘仏」展が挙げられる。魅力ある特別展の開催のため更なる目新しい構想と企画、創意工夫が期待される。

⑤ 今年度の特別展の中で特筆すべきものとして当初計画になかった日韓共同の「二つの半跏思惟像」展がある。「黄金のアフガニスタン」も含め、こうした国際的な取り組みは、機構のグローバル化を進める上で極めて有意義であり、今後もこのような国境を越えた取り組みが期待される。

⑥ 海外展（中国（上海ほか）で開催された「醍醐寺」展など）も多大な数の来館者を集めた企画であり、同様の観点から高く評価できる試みであると思う。

⑦　来館者のための快適な観覧環境の提供については、案内サービスやガイドの拡充、バリアフリー化、外国語案内の充実、更にはショップやレストランにおけるサービスの工夫などに努め、また、来館者の満足度アンケート調査なども行い、質の向上に努めており、こうした努力は高く評価できる。

(3) 教育・普及活動

① 各種講演会、シンポジウム、ファミリー向け企画（親と子のギャラリーなど）体験型プログラム、スクールプログラムなど様々な活動が展開されており、これらの幅広い取組みの成果が期待される。 我が国の文化・芸術の次世代の担い手となる小学生から高校生、更には大学生までを対象に多角的なアプローチが行われており、こうした地道な活動に大いに期待が持てる。

② 文化財の保存、修理修復に関わる若い技術関係者を対象とした人材育成プログラムを充実させることは特に重要であり、文化財機構を中心として既に専門家育成のための研修や「インターン制」をはじめ、外国の関係者との交流など多くの取り組みが進行中であり、こうした試みには十分な予算が充てられるべきと考える。

(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

文化財機構にはこうした調査研究のための組織、人員、施設が充実しており、この分野で十分な成果が挙げられているので、懸念すべき点は少ないと思います。私として特段コメントすべき点はありません。

(5) 国内外の博物館活動への寄与

文化財機構が我が国を代表するリーディング機関として、国内外の博物館と学術交流を進め、研究成果の公表と相互利用を図り、また他の博物館への有形文化財の貸与や指導助言などを行うことは当然の責務と言えます。文化財機構にはこうした指導的役割を果たすための組織、人員、施設が充実しており、この役割は十分果たされているので、懸念すべき点は少ないと思われる。

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

文化財機構にはこうした調査研究のための組織、人員、施設が充実しており、この分野で十分な成果が挙げられているので、懸念すべき点は少ないと思われる。

(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

文化財機構にはこうした調査研究のための組織、人員、施設が充実しており、この分野でも十分な成果が挙げられているので、懸念すべき点は少ないと思われる。

(3)　文化遺産保護に関する国際協働

文化財機構にはこうした役割を果たすための組織、人員、施設が充実しており、この分野で十分な成果が挙げられているので、懸念すべき点は少ないと思われる。

(4)　文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

文化財機構にはこうした調査研究のための組織、人員、施設が充実しており、この分野で十分な成果が挙げられているので、懸念すべき点は少ないと思われる。

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

文化財機構にはこうした調査研究のための組織、人員、施設が充実しており、この分野で十分な成果が挙げられているので、懸念すべき点は少ないと思われる。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

① 組織体制の見直しというテーマのもとに、定年退職者3名の再雇用（任期付職員）を行っており、この制度の見直しも行っている。一般企業においても人手不足の社会環境下で、定年延長や再雇用制度（嘱託など）が導入されている。 機構においても積極的にキャリアのある有能な人材の活用のためシニア再雇用制度を再検討の上、できるだけ活用すべきと思われる。

② 機構における人件費の削減については中期経営計画において「国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し検証した上でその適正化に取り組むこと・・・・」とされている。そして27年度における文化財機構の給与水準を見ると、ラスパイレス指数は事務技術職が98.3%，研究職は99.3%となったことが報告されている。 ただし、28年度の指数はあきらかにされておらず、今後発表されることになっている。 ここでは人件費について、検証するとともに公表することが求められているだけで、国家公務員給与水準以下であることは必ずしも求められていないと解される。したがって、文化財機構の運営上、独自に適切な水準の設定が可能となるような方策を考えるべきではないかと思われる。

③ 契約・調達方法の適正化としては「独立行政法人の調達等合理化契約の取り組みの推進について」（平成27年5月25日付 総務大臣決定）に従い、「契約監視委員会」を設け、外部からの検証を受ける体制が採られている。これにより外部調達の透明性と公正性の確保に努めるとともに、調達コストの適正化をはかっているが、この体制は有効に機能しており、相当の効果が挙げられているものと考えられる。

④ 一般管理費の削減のため、今年度も継続して機構は以下の具体策に取り組んでいる。

- 共通的事務を一元化して業務効率化を図ること（具体的には財務会計システムやweb給与システム、機構VPMの導入など）。
- 計画的に一定の外注可能な業務をアウトソーシングして経費削減につなげること。（博物館の施設管理運営や来館者対応業務等の民間競争入札による業務委託など）
- 使用資源の節約、削減（省エネ、廃棄物減量、リサイクルなど）を行うこと。

こうした努力により平成28年度の一般管理費は総会資料によれば、前年の1,080百万円から855百万円に削減されている。ただし、電気・ガス料金などは当期中の不可抗力的な増加要因があったことから必ずしも減少してはいない。こうしたコスト削減には限界があり、一律のコストカットにはむりがある。また、競争入札をしても業務のアウトソーシングによるコスト削減はそれほど単純にはいかない場合もある。 いずれにせよ、文化財機構はコスト削減の地道な努力を積み重ねていると判断できる。

Ⅲ財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

① 自己収入の増大も文化財機構の経営目標として設定され、総会資料において目標額と実績額が記載されている。自己収入は集客力を高める工夫、来館者の増加をはかる努力が実り、平成25年度の自己収入実績額、1,240百万円と比べると大幅に増加している。

当年度においても、自己収入実績額（1,716百万円）は、目標額（1,538百万円）をも大幅に上回った。しかし、前年度実績（1,817百万円）には及ばず若干の減少という結果となっている。 評価委員の立場からは更に自己収入の内訳と増減分析、その変動要因の分析をし、その結果の開示を望みたい。

② 自己収入の財源としてもう１つの大きなものは、外部資金の獲得（寄付金）である。 寄付金は過去4事業年度を見ると以下の通りである。 平成25年度（172百万円）、平成26年度（789百万円）平成27年度（795百万円））、平成28年度（753百万円）。このように平成26年度に一気に7億円台を達成したが、その後、過去3年間は横這いとなり、7億円の水準に留まっている。寄付金も文化財機構の財源の新しい柱としてさらに強化するべきものと考えられる。 欧米の有名な美術館や博物館は巨額の寄付金によって賄われているといわれており、長期的な視点で、寄付金収入をどうしたら飛躍的に伸ばせるのか（賛助会員の制度は既に検討されているが）、文化財機構において積極的な寄付金獲得施策を更に調査、検討するよう望みたい。

③ 保有資産の有効利用については様々な取り組みと活用方法が検討され実施されており、そうした努力は高く評価される。 ただ、有効利用については文化、教育 研究の側面に重点が置かれており、自己収入の獲得手段としての側面はあまり重視されていないように見受けられる。 この意味でより積極的な収益確保の計画や取り組みを期待したい。

Ⅳ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

① 今年度数値で見ると文化財機構に対する運営費交付金の額は、8,387百万円であり、そのうち収益化額は6,403百万円（運営費交付金収益として計上される）、資産化額は1,601百万円、残りが繰越し383百万円となっている。 機構の財政基盤は国（文化庁と文部科学省など）の政策や方針に大きく依存するが、我が国の文化芸術立国の視点からすると国による機構への財務支援は十分とは言えない。 特に2020年の東京オリンピック・パラリンピック開始に向け、国のスポーツ関連予算が急増している（平成24年度を100として平成28年度、136）なのに対して、文化関係予算の伸びは殆ど無いに等しい（平成28年度は100.7）。文化財機構のみを見ると平成24年度を100とした場合、25年度に113.9となりその後横這い状態が続き平成28年度でも113.9となっている。 このように国家予算の増額はあまり期待できないという現実がある。

② このために自助努力での収入拡大が求められるが,これまでの指摘通り、来館者数を増加させ、入場料収入と付帯事業収入の拡大を目指すことが必要となる。 現在の会計システムでは、毎年開催される特別展毎に個別収支計算が出来る仕組みが出来ており、これによって各特別展の入場料収入額とこれに係る運営経費、その結果としての個別展ごとの収益性（損益）が明瞭に把握できる。特別展は必ずしも収益性の追求のみを目的するものではなく、場合によっては学術的あるいは啓蒙的な観点から損失を覚悟して行うケースもある。しかし、こうした例外を除き、特別展においては、原則として、それぞれ個別に経済合理性が求められるという基本スタンスが必要であり、例外的なケースについてはその開催についての合理的説明責任が伴うことを徹底する必要がある。

④ また、平常展についても同様に収支計算をすることが可能であり、東京、京都、奈良、九州の4博物館の平常展がどのような収支実績となっているかのデータの把握が必要と考える。 また、平常展における自助努力によって、収益改善がなされた金額は、結果的にそれが運営費交付金額の減少に繋がらないよう、外部に働きかける必要がある。

⑤ 保有資産の活用による自己収入の増大も対策の一つであり、施設を様々なイベントや講演会、セミナーやシンポジウムなどの場として提供し利用料収入を得ること（ミュージアム・ショップやレストランのテナント家賃の獲得も含め）は収益財源確保になる。こうした資産活用を拡大し、それらが結果的にどれだけ収益に貢献したかを把握する体制を整備することも必要となる。

Ⅴ その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

内部監査、監事監査の実施、内部統制委員会、リスク管理委員会の開催などの措置が採られており、特段の問題は無いものと考える。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

情報セキュリティー対策（政府機関の情報セキュリティー対策のための統一基準に基づくもの）、施設設備計画の策定等に関して特段のコメントはない。
また、人事評価制度、女性の活躍推進、研修と人事交流などの人事制度についても特段のコメントはない。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

石川　日出志

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

⑴　有形文化財の収集・保管、次代への継承

・博物館建物・機器等の現状調査およびそれに基づくメンテナンスサイクルの構築を着実に実行し、有形文化財の収集・保管、次世代への継承に、適切に努力している。
・購入・寄贈・寄託による有形文化財の収集、収蔵品のデジタル画像化によるデータ整備に、各館とも努力を重ねていると評価する。

⑵展覧事業

・各館とも、特別展の開催数、入館者数とも目標値を大きく越える実績を達成しており、その努力を評価するが、その一方で、特別展の開催数が目標値をあまりに大きく越えるのは、博物館の業務全体のアンバランスを生み出すことも危惧されることに留意したい。
・入館者アンケート満足度の目標値を89・86%と過大に設定している事例があるが、展観では多様な理解・受け止め方が自然であり、満足度の数値だけを求める姿勢に繋がらないよう留意する必要があるのではないか。
・東京国立博物館の特別展「黄金のアフガニスタン」は、現代政治・政情による文化財被害問題を広く社会に発信し、理解が広がる上で大きな役割を果たした。現代性・社会性のあるこうした企画の実現を今後とも期待する。

⑶ 教育・普及活動

・各館とも、展示会にともなう講演会、体験プログラム、ギャラリートークなどの教育・普及事業での努力と実績を評価する。とくに博物館スタッフによる講演会・ギャラリートークは、日常の調査研究成果の要点を来館者に分かりやすく伝える技能向上に資するものであり、その蓄積が重要である。

⑷ 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

・海外展開催をはじめ、アジアにおける博物館事業展開の牽引者としての役割発揮の努力を評価する。
・中国・韓国の博物館との学術的・人的交流、情報交換を重ねており、今後ともその充実に期待する。

⑸ 国内外の博物館活動への寄与

・海外展開催をはじめ、アジアにおける博物館事業展開の牽引者としての役割発揮の努力を評価する。
・中国・韓国の博物館との学術的・人的交流、情報交換を重ねており、今後ともその充実に期待する。
（前項と同じ記載）

2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

⑴　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

・東京文化財研究所および奈良文化財研究所では、文化財の調査研究を積極的に推進している。全国の自治体およびアジアにおける文化財調査研究センターとして指導的立場にあり、今後一層その維持・充実に努めていただきたい。

⑵　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

・東京文化財研究所および奈良文化財研究所では、文化財の調査法および文化財の保存・修復技術の開拓など基盤的・応用的研究の推進と蓄積に努めていることを評価する。また、その技術は全国およびアジア各国への普及に努めている。

⑶　文化遺産保護に関する国際協働

・アジア太平洋無形文化遺産研究センターでは、国際会議や専門家会合を通じて、広くアジア太平洋の諸地域の専門家との情報交換・収集を重ねていることを評価する。

⑷ 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

・埋蔵文化財分野では、遺跡の発掘調査報告書の発行数が従来よりも制約され、おもに行政組織にのみ配布されるために、その利用が難しい傾向が生じつつあった。その中で、奈良文化財研究所が進めるウェブサイト上での全国遺跡発掘調査報告書のレポジトリ公開はきわめて重要な事業であり、きわめて高い利用があり活用されている。著作権は発行主体にあり、一層その重要性の理解を求めて、今後とも充実に努めていただきたい。

⑸ 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

・奈良文化財研究所では、遺跡の発掘調査技術および保存・修復に関する技術の開発に当たるとともに、全国自治体の埋蔵文化財担当者へ技術向上のための研修を長年行ってきた。全国の埋蔵文化財保護体制が整備されてから年数を経た結果、担当者の世代交代が急速に進んでおり、その技術継承が課題となっている。その意味では研修の充実はきわめて重要であるが、参加者数に変動がある。参加経費の増額に自治体等が耐えられない事態も出ており、何らかの対応策を検討する必要があろう。
・阪神淡路大震災および東日本大震災等における被災文化財のレスキュー活動の実践や、その実践経験に基づいて今後の被災文化財保全に向けた取り組みが、蓄積を増しつつある。その中で、文化遺産防災ネットワーク推進会議・有識者会議や全国史料ネット研究交流会が重ねられていることについて、その努力を高く評価する。今後とも拡充に努めていただきたい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

・博物館の調査研究、展示企画立案・運営の諸業務にアソシエイトフェローが参加して、業務の円滑・充実化に努め、なおかつ若手専門家の技能向上に活かされている。しかし、一方では、近年、諸業務の増大が著しい中で、任期付雇用の拡充に多くを依存する状況は、十分適切であるとは思われない。正規職員の任用拡充が必要である。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

・特別展の内容の充実に努めるとともに、開催回数も目標値を大きく越えている。博物館・研究所所蔵資料の調査・研究との両立を図りながら、継続して努力していただきたい。
・出版界では、東京国立博物館所蔵資料の画像利用について、高額であるとして利用を避ける傾向があり、学術的重要性が社会発信されにくい状況があるように思われる。文化財は国民的財産であり、その学術的重要性の周知を図る意味でも、もっと利用されやすい価格設定を行うべきであろう。利用件数を増加することで収入減を避けることが可能である。

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

・ＩＲＣＩは、アジア太平洋圏の無形文化遺産の保護に関して国際的に重要な役割を果たしている。にもかかわらず、その運営ついては外部資金に依存せざるを得ない状況のようであり、改善が必要であろう。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置
その他（総合的な事項、自己点検評価について等） ・定量的評価について、来館者満足度目標値を 0.1%下回ったためにC評価とした例（総会用資料 p. 48）や、来館者数目標値を 0.2%下回ったためにC評価とした例（同 p. 52）がある。厳しく自己評価する姿勢は適切であるが、数値評価としては統計学的には誤差範囲内であり意味がない。1～2%の揺れ幅を許容した上で厳正な評価を行うのが適切であろう。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

岡田保良

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1)　有形文化財の収集・保管、次代への継承

・デジタル技術の進化により、収集、収蔵資料の記録・データベース化が飛躍的に進み（(1)-③-3））、合わせて情報の検索や発信システムも進化し続けている（(3)-②-1））。それらを一連のシステムとしてとらえる評価、報告のあり方があってもよいのではないか。

・熊本の震災被害のなかで、九博が資料修理の拠点となっていると聞く時、九州に国立博物館があってよかったと思うと同時に、博物館の過大な負担にならないか、長期的に何が必要か検討を望みたい。

(2)展覧事業

・東博での一事例なのかもしれないが、一つの展覧会をワーキンググループ内で意見を出し合いながら作ってゆくという説明に耳新しいものがあった。

・博物館ごとに展開している平常展は、今後ますます増えると予測されるインバウンド観光のなかで、日本文化を提示する恰好の媒体として評価かつ重視したい。その展示替え件数が年度計画を大きく上回っている博物館にそうした意識があるとすれば頼もしいことである。

(3) 教育・普及活動

最近話題になった学芸員への誹謗ともいえる国会での発言について、触れないわけにはいかない。注意したいのはその発言の趣旨から推して、その対象は博物館学芸員に限ったことではないのではないか。国土の開発行為の様々な局面でブレーキをかける役回りの文化財行政担当者にすべからく関わる問題と受け取るべき、と考える。そうした点を踏まえ、学芸員活動の周知を図るべきことは当然としても、より根本的には、国連、ユネスコの掲げる SDGｓに文化遺産が如何に貢献しうるか、あらゆる機会を通じてその理解を促す試みに励んでいただきたい。

(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

報告会の中で、ICOM 大会や東京五輪にむけて、という前置きが何度か聞かれたが、そうしたイベントが当機構にどのような需要を誘引するのか、来館者や利用者の見込みはどうか、といった分析はまだ十分でないようだ。このことは、展示事業を中心とする市民に向けた博物館の役割を、より大がかりな観光システムの中に如何に位置付けるかに係る。文化財保護の当事者が依然として「観光」という言葉をネガティブにとらえているとすれば、そこは克服する必要があるだろう。

(5) 国内外の博物館活動への寄与

・今後に望まれるより質の高い観光において、博物館施設は地域の歴史文化の周知と理解にとって決定的に重要な役割を果たすことを、改めて確認しておきたい。

・近年好評を博している海外展の多くは、入念な企画に基づきしばしば複数の施設から収蔵品が集められる。国内でも貴重な企画である場合、会議で意見があったように、それらの「帰国展」の開催にも留意したい。

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

・無形遺産保護に関して韓国と新たな交流関係をスタートさせた点、昨今の日韓関係の上からもきわめて好ましい成果といえる。国際協働の面でも評価したい。

・奈文研による東大寺東塔院跡および藤原宮跡の発掘調査が多大な成果を収めたことは自己評価の通り。このような文化遺産中枢の地でもなお考古学の力量を確かめる調査ができたことを、素直に評価したい。また「記念物に関する調査・研究」では、近世城郭の整備・観光化が各地で進む中、そのありうべき指針について成果を得たようで、各地でその適用が図られるのかどうか、注目したい。

・限られたスタッフながら、東文研国際協力センターによるアジア諸国とくにカンボジア、アルメニア、イラン等への協力にはきわめて顕著な成果を認める。とくにイランとの新たな協定締結が将来の可能性に大きな手掛かりを与えそうで、期待したい。

(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

・奈文研における年輪年代学の進展、とくに薬師寺東塔に関する新たな知見は建築史学上特筆されてよい。また東文研では生物劣化の現象解明に著しい成果が見られ、今後の文化財建造物劣化防止に新たな手法が期待されそうである。

・今後需要が高まることが確実と思われる煉瓦造建造物の保存修復に関する調査研究に著しい進捗が見られることは喜ばしいが、まだその成果は部分的なところにとどまっているようで、海外事例の収集分析を含め、日本の拠点としての取り組みを進めてほしい。

(3)　文化遺産保護に関する国際協働

・中期目標には、平成 25 年度策定の「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針」に従うべしとあり、東文研国際協力センターを中核として「国際協働の総合的な推進」をはかるとともに「コンソーシアムを中心とした我が国の国際協力推進体制を支えていく」とし、とくに対外情報の収集と蓄積の面ではコンソーシアムの役割が一段と増していると見受けられる。しかし、コンソーシアムアは１０周年を過ぎてなお文化庁委託の単年度事業でしかなく、せっかくの蓄積を効果的に活用するにはいささか不安定な体制がいまだ続いている。データベースの充実など継続性の高い事業はコンソーシアムからセンターに取り込んだ予算と人員措置が望まれるのではないか。

・アジア太平洋地域無形文化遺産研究センターは「無形文化遺産保護に関する調査研究」の拠点として発足し、このほどセンター長が常勤ポストになったことは一歩前進といえるが、他方事業予算を相変わらず文化庁からの受託やユネスコ国内の助成金に頼らざるを得ない現状は、中・韓Ｃ２センターとの役割分担、言い換えれば国際責任の面からも、はやく脱却する必要があろう。上位機関への注文でもあるが、とくに長期継続する基礎的事業について優先的に考慮してほしい。

・2016 年の世界遺産委員会には東京・奈良両文化財研究所から情報収集に出向いているが、そこから得た成果に関する情報発信は一部の雑誌取材記事以外ほとんどなされていないのではないか。その目的、機関として継続する意味は何か、国内での注目度は高いと思われるので一考の余地がありそうだ。

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

・東文研の専門的アーカイブの拡充が進んでいる点は高評価で当然としても、上記(3)の国際協働、あるいは日本人による学術調査など海外協力事業に関する情報収集とそのウェブ上での公開は、現在のところコンソーシアムの会員サイトに委ねているようだ。そういう棲み分けを続けるなら、この部分は広く公開をはかり、東文研のサイトからもアクセスできる配慮が望まれる。

・木簡を含む平城宮跡関係の発掘資料の豊富さと徹底した整理手法、また全国の報告書データベースは、何物にも代えがたい奈文研の誇るべき実績として、今後さらなる充実を図ってほしい。今回の現地視察を通じて改めて実感したところである。

・報告によるところ、奈文研での資料館展示、現地説明会、講演会などのイベントへの市民参加がきわめて好調。スタッフの努力のたまものであり、上記のような膨大なデータの公表と合わせて世界遺産「奈良の文化財」の真骨頂といえるが、現在の物理的環境は決してそれにふさわしい施設とはいいがたい。まもなく竣工する新施設がそれらに応えるべきものであってほしいものである。

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
・東文研受託事業の多くは「地方公共団体等」というものの国(文化庁)からの委託ではないのか。依頼元をここに明示するか、報告書後段の受託事業一覧の対応ページを示すことが望ましい（p.75）。
・奈良、飛鳥地区等での発掘援助が多彩な成果をあげており、中でも藤原京域で発掘された弥生最末期の周溝墓の話題は確かに特筆ものだが、こうした遺構自体の学術性を援助事業の独創性や発展性評価（S）の指標にしてよいものか、若干戸惑いを覚える。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
年度および中期計画に、「2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて」組織体制の見直し、人材養成などがうたわれているが、二つのイベントは全く質の異なる性格を持つものであり、それぞれへの対応はおのずと差があるはずだ。とくに ICOM 大会は、機構自体が運営責任を負うものではないとはいえ、機構にとってどのようなインパクトをもたらすかは注視すべきと思うが、今回の報告からそこまでは読み取れない。博物館業務周辺に国際標準や国際倫理がよりいっそうクローズアップされることが予想され、業務運営上の対応が求められよう。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置
改善目標の第一に挙げられている「自己収入拡大への取組」について、寄付金の増額を果たす一方、28 年度は目標値を上回っているものの、26、27 両年度の収入額には届いていない。その実態をどう理解すればよいか、単純な問題ではないにせよ、研究事業を大きな柱とする本機構にとってその自助努力には限界があると推察される。また運営交付金算定ルール（中期計画 別紙 1）から推して増収額が直ちに機構の予算増に反映されない（らしい）という現行のシステムを見直す必要はないか、かねてからの指摘にある状況は依然変わっていないようである。

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画
・中期目標及び計画において、ICOM 大会、あるいはオリンピックを、我が国の文化発信の好機ととらえるとの認識がある一方、業務運営上、期間中の一般管理費等の削減が数値をもって打ち出されている。これで相容れる事業の実施が図れるのか、もし、二つの大イベントによる需要がそのとき限りのものという認識を前提としているとすれば、懸念がぬぐえない。
・調査研究に顕著なことだが、外部の競争的資金の獲得が強く求められている。しかしそうした資金は安定的ではなく、国が必要と認める基礎的データの蓄積など継続性を強く求められる事業がそうした資金に依存することは望ましくない。事業予算規模がまだ小さな無形遺産センターでは、中韓はじめアジア各地との連携の上で公約のようにもなっている長期的な計画の実行に深刻な事態を惹き起こしかねない。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置
本機構が行う自己点検評価は、目標や計画に対する業務実施結果の充足度を判定したものといえるが、そこには計画に対する予算措置の過不足や、アソシエイトフェロー問題を含む人員配置の妥当性を測るツール、ないしはモニタリングの指標が用意されているとはいいがたい。外部の評価者が立ち入ってよい領域なのかどうかも不分明なのだが、今回の評価プロセスにおいて、いまさらながらではあるが不透明感を禁じえなかったことを記しておきたい。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

自己点検評価に基づくこのような外部評価の作業は、今回の場合、平成28年度から5か年にわたる中期目標、中期計画を基礎にして委員各氏の声が寄せられる仕組みだが、時にはさらに上位でかつ現在も生きている、国あるいは省庁レベルの方針にも意を払いたい。「文化芸術の振興に関する基本的な方針」（平成27)、「文化芸術立国中期プラン ～ 2020年に日本が，「世界の文化芸術の交流のハブ」となる ～」（平成26)、「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する基本的な方針」（平成26）などに、注目すべき国の指針が示されている。ただいずれの指針にも、必要な人的資源と予算措置についてはほとんど言及がない。他方文化庁は主要国の文化予算の実情について「諸外国の文化政策に関する調査研究」（平成 28 年度一部改訂）を行い、わが国の文化予算の貧弱さが浮き彫りにされた。調査の目的は「わが国の

今後の施策の立案および充実に資すること」と明記されている。関係者は重々承知のことと思うが、効率化ばかりを求める国に対し、評価者の立場から改めて善処を促したい視点である。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

齋藤　努

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1)　有形文化財の収集・保管、次代への継承

京博や奈良博が寄託された個人蔵の重要文化財や、東博におけるアジア諸国を含む広範な地域の資料購入など、貴重な有形文化財の収集を積極的に行っている。次代への継承や一般への公表にはデータベース化やデジタル化が不可欠であるが、資料自体の保存と併行して、その事業が着実に進められている点も高く評価できる。

資料の保全と次世代の技術者養成を兼ねて、東博が３名の修理技術アソシエイトフェローを配置するという方法は、限られた予算の中で、相乗的に高い効果を得ようとするものであり、機構内に留まらず、広く他機関の参考になるものと考える。

東博のX線CTスキャナーは、人員の少ない中で、館内だけではなく館外の調査にも活用されるようになってきた。同装置は他機関でも所有されてはいるものの、今後調査委希望の依頼も増えていくと、すべてには対応しきれなくなることも予想されるので、より適切な取捨選択を行うためのルール作りが必要であろう。

(2)展覧事業

入場者数そのものには不確定要素があり、予測しきれない部分も多いので、特に評価の対象とはしないが、概ね良い実績を上げている。

これまで国立４館の特別展においては、内容の解説よりも、国宝や重文などの指定資料を展示として呈示することに重きをおく「逸品主義」のイメージが拭いきれなかった。近年の展示でも、残念ながら、まだそうした展示がある。しかし一方で、それに留まらず、ストーリー性や時代の中での位置付け、資料間の関連性を呈示しているものもみられるようになった。資料内に鹿が描かれていることに着目させ、みるポイントを強調した東博の「春日大社」、快慶を中心に据えながら慶派全体にも目配りをした奈良博の「快慶」、同時期の他地域資料と相互の関係性も重視した九博の「宗像・沖ノ島」などがその例である（残念ながら京博の特別展示は観る機会に恵まれなかった）。これらは、展示担当者の意識が、来館者の要請を受けて変化してきたことのあらわれと考えられる。

平成27年度にも指摘があった、特別展・共催展に比べて平常展への入場者が少ない、という問題については、前者から後者への誘導という方法を取るようにしてはどうかと思われる。例えば、奈良博の「快慶」展のあとに仏像館へ足を運んでもらうようにすれば、同施設内にある慶派の仏像や、他の様式の仏像を比較することも可能である。

京博は、現在展示に使用できる建物が一棟しかないため、大規模な特別展などの前には、準備のため、まったく展示をみることができない期間が生じてしまう（知らずに来館した外国人客がとまどっていた）。京都という観光地の中にあるのに、このままでは非常にもったいない。来館者が少ない時間帯に、職員によって個別の展示解説なども行われていたようだが、負担は極力抑えたままで、来館者の満足につなげられるような方法は考えられないか。

資料の保護と見やすさという点で、LED照明の導入は評価できる。ただし、館によって照明の当て方に差異がみられ、資料がかえって観にくくなっている場合もあったので、展示業者だけではなく、照明を専門とする業者の導入も検討した方がよい。

(3) 教育・普及活動

近年は、特別展示の内容に合わせた体験型コーナーや、展示担当者による一般来館者向けのギャラリートークがよく行われているので、それに準ずる形式のものが企画できないか、考えてみてもよい。

九博で行っている入場無料の「あじっぱ」や、平常展示に設けられている「文化財を守り伝える博物館」の展示室、「宗像・沖ノ島」の際に実施していた衣装体験などは、教育・普及活動上の積極的な取り組みである。

東博で実施しているミュージアムシアターは、プログラム内容や解説が非常に優れているにも関わらず、あまり来場者がいない。また東洋館全体としても、本館、平成館、表慶館に比べて入場者が少ない傾向にある。しかし、東洋館には体験を行えるコーナーもあり、入場者獲得にあたって必ずしも不利な条件ばかりとはいえない。ミュージアムシアターと体験コーナーの内容を刷新し、研究成果をわかりやすく公開する場と位置付けて、あらためて広報などに努めてはどうだろうか。

(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

各地方自治体と文化財の調査と保存において、大きな成果をあげており、高く評価できる。これまでの経緯や今後の計画もあるので、直ちに体制を変えることは難しいが、研究の効率化のためには、機関ごとに、担当する地域や調査・研究の統一をはかったり、内容を分担しあったりしていくことが可能か、検討する余地はあると考える。

(5) 国内外の博物館活動への寄与

国立４館は、国内外博物館への資料貸借の他、文化財の調査・保存修理・運営・IPM セミナーなど、博物館活動全般について幅広い関与を行っており、中核機関としての役割を十分に果たしている。

国立文化財機構についても、東文研が実施している東南アジア・西アジア諸国の保存修復事業、「紙の保存と修復」の研修、奈文研のカンボジア・アンコール遺跡群の調査・保存事業、文化財防災ネットワーク推進会議による都道府県・市町村博物館等の資料のデータベース統合化、無形文化遺産の防災と継承に関する研究などは、継続性が求められる事業である。予算獲得のためには重要性を周知していく必要があるので、国際的なものを含めた幅広い広報に努めてもらいたい。

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

調査研究の成果を示すにはいくつかのやり方がある。最もわかりやすいのは、論文、報告書などの刊行物、アーカイブスの公開であり、それに準ずる形として、研究会、シンポジウム、学会などでの口頭発表、調査結果に基づく文化財指定などがあるだろう。その点からみると、美術工芸品と建造物（法隆寺古材）については、もう少し具体的な内容のわかる成果報告がほしい。

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

文化財の保存・修復を実施する際の前提となる、新規な手法（フライト・インターセプション・トラップ、セロファンテープ等の除去法、緑青焼け資料の修復法、壁画表面のクリーニング法など）を開発し、適用している点が高く評価できる。

デジタルカメラによる安価な三次元画像の取得、ドローンを使用した容易な地形図の作成などは、きわめて意欲的な手法であり、今後、他機関での調査手法に大きな影響を及ぼしていくものと考えられる。

(3) 文化遺産保護に関する国際協働

国際会議やシンポジウム等への出席による研究成果の積極的な発信は高く評価できる。

国際協働についても、海外に対する日本の保存修復技術の伝達と、欧米における最新の研究情報の収集がバランスよく行われており、活発な活動が実施されているとみてよい。欲をいえば、東文研と奈文研との間、あるいは他の研究機関との間で、得られた情報を共有できる機会があれば、さらによかった。

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

情報資料の収集と整備は十分に行われているが、刊行物が多く、機構から周知したい重要な情報がどれなのか、見えにくくなっている。また、そうした情報の大部分は、見過ごされてしまいがちになってしまうと考えられる。ウェブサイトを有効活用し、広報によって周知をはかるようにすれば、外部の人が、多くの情報の中から必要なものを容易に見つけ出せるようになるとともに、出版経費の削減も可能になるのではないだろうか。

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

調査のために各地方公共団体を訪れると、現場の状況と要請に即した、文化財に対する調査・保存・修復・整備・活用などが、文化財研究所等によって適切に行われており、その質的内容も年々向上していることが実感される。刊行物によって基礎知識や方法論の普及活動が実施されている点からみても、顕著な適時性・発展性を認めることができる。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

現状では、限られた予算と人員の範囲内で、多岐にわたる事業を展開せざるを得ない状況にある。事業全体の思い切った見直しをはかり、成果が十分にみられない業務は縮小・廃止し、効率化の見込める新規業務に切り替えをはかっていくことも検討してほしい。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

博物館では、特別展で多くの来館者を呼び込むことによって収益を得ており、平常展のみの時期との落差が大きい。そのため、年間来館者数を年度ごとに増やしていこうとすると、特別展の企画内容を派手にしていかざるを得ず、いずれ頭打ちになってしまう危険性も予想できる。

しかし、日本人と興味の所在が異なる外国人来館者にとっては、むしろ平常展の資料の方が、関心を引きやすいはずである。従来行ってきた、国内大手メディアとの共催によって日本人向けに広報をかけていく手法だけではなく、外国人の目に触れやすい海外用情報源（メディアよりも実効性の見込める、ガイドブック・動画サイト・観光情報誌など）への働きかけによって、平常展への導入をはかり、年間を通じて来館者数を平準化していく手法も取った方がよい。

Ⅳ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

実務的事業が主体になっているため、研究的な側面に避ける時間が減少しがちになってしまう。しかし、実務的事業で関わった資料を研究対象にするなど、効率的な方法を捻出することは可能なはずである。事業運営費や博物館の入館料収入だけではなく、科研費等の研究的外部資金を積極的に取得することによって、予算増を目指すべきである。また、寄附を募って自前でファンドを立ち上げ、それを研究経費にまわすという方法も考えられる。

研究に関わる職員は、本来は期限なしの常勤が望ましい。しかし、年限を区切った研究計画を策定し、その間だけ大学院生などをアソシエイトフェローとして雇用することで、研究推進と同時に後進の人材育成も行うということも、視野に入れておいた方がよい。

Ⅴ その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

外国語対応は重要であるが、専門用語の問題などがあるため、通常の外注翻訳業者では、ニュアンスまで含めたきちんとした文章が作成できない。経費節減と用語統一のため、機関ごとではなく、機構全体をカバーする要員として、各外国語に対応できる職員の配置をした方がよいであろう。

各機関に導入されている最新の研究用大型機器は、運用や維持に多大な労力を要するが、必ずしも十分な人員が配置されているわけではない。それらを専門に扱うための人員増が望ましい。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

昨年度もみられたが、機関ごとに自己評価基準がやや異なっているようである。事前に統一をはかっておいた方がよい。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名
榊原　悟

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1)　有形文化財の収集・保管、次代への継承

有形文化財の収集保管は、文化財機構に課せられた最も重要な責務というべきで、各館限られた予算の下で、よくその使命を果たしたことに敬意を表したい。今後は、各館それぞれの特色を生かすためにさらなる積極的な収集を期待するものだが、当然のことながらそのための予算の裏付けをはかることを強く強く望む。

(2)展覧事業

新聞社などマスコミ事業部との大規模な展覧会も集客のことを考えれば必要かも知れないが、各館、特集陳列、特別陳列、トピック展示と名称はさまざまな地道な調査・研究にもとづく展覧会が開かれた点に注目すると共に、これを評価したい。今後ともそうした展示を切に願う。

(3) 教育・普及活動

有形文化財や展覧会についての教育・普及活動は当然であるが、今後は学芸員および学芸業務そのものに対する理解を得るための活動も考えてみるべきだろう。

(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

各館、館蔵品（寄託品も）をベースにおいた教育普及活動を積極的に実施しているようで、その活動をさらに持続させたいが、同時に 1-(3) でも述べたように学芸員および学芸業務そのものを可視化、広くアピールする方策を探りたい。

(5) 国内外の博物館活動への寄与

国内中核博物館として、展覧会、教育普及、広報活動に先駆的試みを望む。館の成り立ちや規模は地方の公立博物館とは自ずから異なるものの、そうした先駆的試みは、大いに参考になると思われるからである。

また、評価委員会総会でも話題となった海外展の帰国記念展の件も、作品保持の点からその実現は難しい点もあるだろうが、一考に値する提案であるに違いない。

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

社寺や個人所蔵の文化財に対する基礎的調査・研究も４国立博物館が率先、指導すべき業務で各館それぞれ特色を生かして取り組んでいることが認められるが、さらに強力に推進されたい。

(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

そもこの２の (1) ～ (5) に挙げた事業は、人員、設備等、他の博物館に較べ圧倒的に充実している国立文化財機構に属した４博物館、２研究所が率先して取り組むべき業務。なかでも水中考古学の成果を大いに期待したい。

(3)　文化遺産保護に関する国際協働

国立文化財機構がこの分野で挙げた成果に敬意を表したいが、この問題は、一文化財機構に留まるもの

ではなく、広く日本そのものが取り組むべきものであろう。人的貢献はともかく、この活動に必要な充分な資金を保証するのは日本政府そのものだろう。

(4)　文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

(1) などで得られた知見を積極的に公開し、広く共有する情報とすべきことは言うまでもないが、その際、出版、刊行という旧来の方法をもう一度考えてみるべきではないか。書籍にして出版にするという方法は、情報の伝達、共有化の手段としていまなお有効だと思うからである。例えば、名古屋市博物が、名古屋市博物館資料叢書として観光を続けている「猿猴庵の本」など特筆すべき事業で大いに参考にすべきだろう。

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

前年度の総会でも述べたが、都会と地方、４国立博物館の所在県とそれ以外の県など文化財の需要、鑑賞における地域格差は著しく、今後この格差は広がりこそすれ縮まることはないと思われる。そのための方策として地方における４国立博物館の出開帳的展覧会を期待する。限られた人員の中でその実現は難しいだろうが、そうしたことで少しでも格差を縮めるめきだろう。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

限られた予算、人員の中でむしろ懸命の努力をしていると評価したい。

むしろ、博物館の学芸業務には、そもそも「効率化」にはなじまない仕事もあることを知るべきだろう。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

外部資金の導入を言うべきかも知れないが、Ⅳの問題も含め、それを言う前に、乏しい予算の中で各館それぞれよく工夫している点を評価する。この国の文教予算は悲しいほどに少ない。

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

展覧会のみならず、研究、新知見の開示を日常的かつ通常的業務として謳う限り、学芸員それぞれにしかるべき研究費を手当てするのは当然で、むしろしない方がどうかしている（決して無駄遣いを認めているわけではない。念のため）。通常経費として研究費を計上すべきである。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

学芸業務の性格を考えれば常勤職員を増やすべき。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

短期的な効率化をはかるより、長期的、継承的な観点からすべてを見直すべきだろう。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

坂本　弘子

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

１．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

⑴　有形文化財の収集・保管、次代への継承

購入についても寄贈・寄託についても優れた作品を収集している。とりわけ京都国立博物館は、重要文化財指定の金熨斗刻鞘大小拵を購入したほか、愛刀家から寄贈された重要文化財を含む２０件の名刀を受け入れ、昨今の刀剣ブームのなかで注目を集める新コレクションとなった。２９年度には特別展示も企画しているとのことで、公開が待たれる。

⑵展覧事業

①平常展

【来館者数】年々来館者が増加し、２８年度は１４９万８５５４人を記録した。人口が減少している日本においては画期的な成果と高く評価する。とりわけ東京国立博物館は５年連続で増加を続け、全体の半数を支えている。館の説明によるとインバウンド効果が大きいとのことだが、展示替えの頻度を増やしたり、イベントを企画したりといった各館の努力の賜であることは間違いない。また館それぞれが持てる価値や魅力を掘り起こして発信しており、今後もメリハリをつけながら新しい企画にチャレンジしていただきたい。

【アンケート】来館者アンケートにより満足度の調査が館ごとに行われているが、回答数、実施期間、実施方法などの調査関連データが十分に明示されていない。４館全体の目標値７４％を上回ったとあるが、常時ボックスを置いておいて、書きたい人だけが書くという方式で、回答率が１０％未満とのこと。よほど満足した方、あるいはよほど不満足の方しか答えていないのではないか。また東京国立博物館ではタッチパネル調査も導入されているようだが、さらに回答率を高めるために気軽に答えられる方法を工夫していただきたい。

②特別展

【来館者数】東京国立博物館の「平安の秘仏展」「春日大社展」「古代ギリシャ展」、奈良国立博物館「正倉院展」、九州国立博物館の「兵馬俑展」など２０万人前後を集めた人気企画がいくつもあり、とりわけ寺社に関連する日本文化の発信に力を発揮した１年だった。しかし特別展全体の来館者は前年より３６万人ほど減少する結果となり、特別展入場料収入も前年より２億円ほど少なくなった。特別展はテーマ次第で収益が大きく変動するうえ、収益のみを目的として特別展を企画するわけではないだろうから、常に右肩上がりの数字を期待することは無理があるだろう。しかし博物館の魅力を証明するためには入場者の人数はわかりやすく客観的な指標でもある。共催メディアの取り組み次第で成果も変動するとはいえ、企画そのものが「足を運ばずにはいられない」魅力にあふれていることをまずは期待する。

【アンケート】上記の平常展でも記したが、特別展で行われた満足度調査についても、全体の回答数と調査手法が不明。付記情報として必要ではないか。

③海外展

総会の議論のなかで「すばらしい海外展を開いても、日本の人々に情報が伝わっていない」という指摘があり、「日本のメディアによる国内向け報道が少ない」という意見が出た。課題として考えられるもっとも大きな要因は「メディア各社には在外の博物館を日常的にウオッチしている記者がおらず、最新の動向についての感度が高くない」という点であり、二つ目が「海外展への評価の基準が漠然としておりニュース判断が難しい」という点であろう。海外展についての情報は館からメディアに流しているという説明ではあったが、無料であったり、期間が長かったり、といった海外展ならではの特徴があるため、入館者

数や売り上げといった数値的なデータを使って国内展と比較しながらニュース価値を決めるという作業がしづらい。こうした場合、メディアとしては著名な研究者ら専門家の評価を仰ぐ、あるいは現地メディアの反応を探る必要があり、即座に記事化できないという事情もある。海外展が客観的にみて好評であると理解を得るには、こうした専門家らのコメントや現地メディアの報道ぶりなどもふくめて情報発信をしていただけると、メディア側の判断の助けになると考えられる。

(3) 教育・普及活動

【ボランティア】各館とも講演会やシンポジウム、ガイドツアー、ギャラリートーク、スクールプログラムなど、おもしろそうなイベントが頻度高く開かれており、限られた人員で工夫されておられることと推察する。とりわけ学生や生徒を対象とした取り組みは、館にとって手数はかかるだろうけれども、次世代育成のために一層の強化をお願いしたい。そのためにもボランティアの活用が重要であり、各館とも意欲的にボランティアとの連携を進めている。しかしながらボランティアの人数が増えてくるとボランティアの管理や育成といったマネジメントが、館側の新たな負担になる。将来的には「ボランティア・マネジメント」専門のボランティアを養成してはいかがかと思う。機構全体で共有できるノウハウの蓄積もできるのではないか。

【ウェブ対応】東京国立博物館がインスタグラムを始めるなど、積極的に取り組んでいるが、若年層対策としてもさらに一段のウェブ発信が求められる時代となっている。周辺の大学や高校との連携などを足場として、できるだけ定期的に（可能なら毎日）更新してほしい。ウェブ発信はインバウンドの集客にもストレートに効果をあげる。動画や画像は言語を超えて訴求できる。

【保育サービス】恒常的に開設することは難しいかもしれないが、短時間の預かりサービスが可能になると乳幼児連れの父母が、小学生の子どもを連れて観覧することが可能になる。また若い親世代が気軽に立ち寄れるスペースとして博物館を認識してくれる。期間限定、あるいは催事限定で予約制にすることも可能かと思う。

(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

(5) 国内外の博物館活動への寄与

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

藤原宮跡の７基の柱跡の発掘のニュースは、メディアの報道も多数におよび、人々の興味関心をおおいに集めた。とくに当時の儀式の立体的な仕様が素人にも想像でき、歴史をリアルに感じることができた。視覚的にわかりやすいという点も、メディアが取り上げやすかった理由であろう。研究所からの情報発信を今後もおおいに期待したい。

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

(3) 文化遺産保護に関する国際協働

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

【民間委託】アウトソーシングに関して、教育や啓蒙目的のイベントも民間委託できるものがあるのではないか。専門的な知識が必要な業務は学芸員の手に委ねなければならないだろうが、告知や受付、資料準備などは外注がたやすい。また普遍的なテーマ（たとえば「博物館とは？」）や継続的な内容であれば講師・ガイド役も委託できる。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

【保有資産の活用】各館とも施設の有効利用、有償利用とも増加傾向を強めており、高く評価できる。どの施設も空間としてのポテンシャルが高く、今後も活用の余地がありそうだ。多様な活用によって、博物館本体への興味、関心が高まり、来館につながる効果も期待できる。

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

【データ対応】個人情報保護法が改定され、匿名性を保持したデータであれば、第三者提供ができるなどビッグデータ活用が可能になった。文化財機構としても来館者データを活用した運営や企画が実現しやすくなったといえる。これまでのアンケート調査は顧客満足などの業務改善や、機構としての業務評価基準として使うために実施してきたが、今後は「攻め」のデータとして生かし、さらなる来館者増や収益増のための経営資産となる可能性もある。民間ビジネスではないので、大きなリスクを負うような対応は必要ないが、年間３６６万人の来館者はデータ資産となりうる価値があると認識し、どのような姿勢であるべきなのか検討しておくとよい。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

佐藤　信

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1)　有形文化財の収集・保管、次代への継承

○展示や調査・研究などを通して、日本各地の多様な文化財の保存・継承やその解明に大きな成果を挙げていることは、高く評価される。収蔵品の整備・展示や文化財の調査・研究の成果を、さらに国民にわかりやすく発信する努力を展開していただきたい。

○全国の博物館のセンターとして、海外をふくめて地方自治体・大学・民間などの他博物館における展示や展示技術などへの協力・普及の事業をさらに展開していただきたい。

(2)展覧事業

○回数を増した特別展や、平常展、企画展示・シンポジウム・講座・列品解説・コンサート・イベントなどが多角的に展開され、展示説明の多言語化を図るなど、文化財と接する多様な機会を国民・来館者に提供していることは、高く評価したい。

○特別展・常設展をふくめて、研究・調査成果をふまえた学術的にレベルの高い展示を、国民にわかりやすく展開していただきたい。

○展覧に向けた調査・研究にあたっては、機構内学芸スタッフの共同研究とともに、他機関・多分野の研究者との共同研究をも、計画的に展開していただきたい。

○博物館収蔵品や研究所収蔵の遺物・史資料などを、保存に支障のない範囲で、他の地方自治体・大学・民間などの博物館や研究機関での展示に積極的に貸し出していただきたい。

○人気のある特別展では、混雑のため入館・入室待ちに過度の待ち時間を入館者に強いる場合がある。混雑解消や待ち時間対策のため有効な方法を、さらに模索していただきたい。

(3) 教育・普及活動

○高等教育や中等教育・初等教育の学校教育とさらに連携を深めて、若い世代が本物の文化財と親しむ機会が増えるように、積極的に教育・普及活動を展開していただきたい。

○さまざまな学校教育に携わる教員に向けて、文化財学習の多様な展開方法のメニューを提供するような、教員向けの普及活動を展開していただきたい。

(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

○文化財の修理・保管・展示技術などの事業や基礎的な調査・研究では、４博物館・２研究所・センターの機構全体による、それぞれの機関の特徴・強みを活かした、さらに有機的な連携・協力の体制を作っていただきたい。

○博物館の収蔵品や研究所の資料・図書などの目録・データ的な情報のインターネットによる発信・公開をさらに展開していただきたい。

○２０２０年の東京オリンピックの際の世界からの来訪者に向けて、日本の歴史・伝統文化を紹介するための展示や研究成果の多言語的な発信に、さらに戦略的に取り組んでいただきたい。

○発信・普及事業はさらに多彩に展開していただきたいが、職員の勤務条件への負担が過大にならないような配慮も必要である。

(5) 国内外の博物館活動への寄与

○全国の博物館のセンターとして、海外をふくめて地方自治体・大学・民間などの他博物館における展示や展示技術などへの協力・普及の事業をさらに展開していただきたい。

○博物館収蔵品や研究所収蔵の遺物・史資料などを、保存に支障のない範囲で、他の地方自治体・大学・

民間などの博物館や研究機関での展示に積極的に貸し出していただきたい。

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

○基礎的・先端的な文化財の調査・研究に、大変大きな成果を挙げていることを、高く評価したい。とくに、限られた人員・予算の制約下で多くの成果を達成している実像を、国民向けにわかりやすい形で発信していただきたい。

○世界文化遺産・世界の記憶・世界無形文化遺産や民俗文化財・文化的景観・登録文化財・日本遺産など、新しいタイプの文化財の調査・研究や展示にも、配慮をお願いしたい。

○考古学・日本史学・保存科学・美術史・遺跡学・建築史・庭園史・写真学など、関連する多様な学界の最先端の研究成果と連携して、文化財の意義をタイムリーに発信するタイプの調査・研究・展示を進めていただきたい。

○機構ならではの知見として、文化財の総合的な把握・調査・研究をもとにした「文化財学」「博物館型の研究統合」の実例的な研究成果を、ぜひ発信していただきたい。

○東日本大震災の「文化財レスキュー」事業での成果をふまえて、文化財防災ネットワークの推進や「文化財防災計画」策定に向けて、機構のノウハウを積極的に活用していただきたい。熊本の地震災害による文化財被害への対応にも、積極的な協力を進めていただきたい。

(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

○保存科学や、科学的な文化財調査方法の開発の面では、大きな成果を挙げており、また他の公共団体や調査・研究機関からの多くの依頼に答えて注目される調査成果を挙げており、高く評価したい。こうした有益な研究分野に対して、人員・機材・予算面での配慮が必要であろう。

(3)　文化遺産保護に関する国際協働

○文化財の保存・修復事業や調査・研究・展示を通した国際協力の面では、文化財研究所・博物館ならではの高いレベルの協力事業が多角的に推進されており、高く評価したい。機構としても、さらに多様な国際協力を展開されることを期待したい。

○調査・研究・展示（海外展など）をめぐる海外の博物館・研究所との協力・交流が多角的に展開されていることは、高く評価できる。さらに、組織的に協力関係の強化を進めていただきたい。

(4)　文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

○博物館・文化財研究所のホームページによるアーカイブズ・データベースの情報発信サービスは、多数のアクセスを得ており、高く評価できる。データの横断的検索を可能とする方向や、機構内でのリンクも、さらに充実化を進めていただきたい。

○調査研究成果を、研究者・専門家向けのみでなく、一般国民に対しても分かりやすい形で出版やホームページなどで公表するなど、発信を進めていただきたい。

○機構の４館・２研究所・センターのニュース・たより・パンフレット・年報・紀要・報告書などの冊子体の出版物を、インターネットでも閲覧できるようにする事業を、さらに進めていただきたい。

○電子媒体だけでなく、４館・２研究所が所蔵する膨大な図書資料・写真資料などを、研究者・市民が閲覧出来る体制と、機構内横断型の情報提供体制を、さらに充実させていただきたい。

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

○国・地方公共団体・博物館・美術館等に対する協力・助言では、委託事業をはじめとして多分野において機構ならではの高いレベルで大きな実績を挙げており、高く評価したい。

○大学における高等教育との連携は、国立文化財機構の文化財に関する高い調査・研究能力を活かして、文化財研究の裾野拡大や後継者育成を進める上でも、さらに積極的に展開していただきたい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

○文化財の展覧や調査・研究事業では、４博物館・２研究所・センターの機構全体による、それぞれの機関の特徴・強みを活かした、さらに有機的な連携・協力の体制を作っていただきたい。

○４館・２研究所・センターとも、限られた人員・予算の制約下で、高い学術的レベルの優れた展示・調査・研究・協力・発信の成果を多方面で挙げていることを高く評価したい。そうした費用対効果の面での「効率性」をどのように進展させ、評価するかが課題となると思う。

○４館・２研究所・センターの研究・学芸系職員の協力体制をさらに強化して、機構全体のスケールメリットを活かした調査・研究・学芸事業をさらに有機的に推進していただきたい。そのために、たとえば機構全体の横断型研究に、戦略的な予算配分を行ってもよいのではないか。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

○科学研究費や民間の研究助成などの外部資金の獲得について、さらに積極的に取り組んでいただきたい。

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

○機構は、大変な努力により事業目標を順調に達成し、自己収入を増加させてきた。しかし、運営費交付金の一律削減がそれ以上に進む状況にある。単なる収益事業ではなく、経済利益の原理と即応しない文化・文化財を専門とする法人に対しては、特段の配慮があるべきと考える。自己収入の目的積立金化がさらに十分認められ努力が報われる制度が実現するように、努力・発信していただきたい。

○外部資金や寄付金の積極的な受容に向けて、「ふるさと納税」のような形での寄付金についての税制優遇制度は実現できないか。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

○研究・学芸職の優秀な人材を、世代構成に配慮しつつ獲得・育成できるように、また多忙ななかで余裕ある研究環境を整備できるように、さらに予算的配慮をお願いしたい。

○任期付き非常勤のアソシエイトフェロー・客員研究員・特任研究員・研究補佐員などの比率が高くなってきており、将来の研究体制維持に危機を感じる。常勤の研究・学芸職を増やす努力をお願いしたい。

○任期付き非常勤の若いアソシエイトフェロー・研究補佐員などが、優秀であるにもかかわらず「使い捨て」になることのないように、人事面での配慮が求められよう。

○機構内の博物館・研究所・センターなどの間での、研究・学芸職や事務職における人事の交流があってもよいのではないか。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

○自己点検では、社会的に有益な優れた成果を挙げたり、国民的な注目・理解を集めた事業については、もっと積極的にＳの自己評価をしてもよいのではないかと感じた。

○外部評価委員会の手続きの一部簡素化が図られたことは、良かったと思う。さらに、機構・各機関の調査・研究のあり方や将来像についての実質的・戦略的な質疑・議論が行える時間が得られるとよいと思った。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

玉蟲　敏子

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1)　有形文化財の収集・保管、次代への継承

28 年度は、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館とも、収蔵品の購入、寄贈が従来どおり進んだが、とくに東京国立博物館において、展示の目玉ともなる優品が購入されたことは、喜ばしい活動であった。優品の購入はタイミングに支配されるけれども、よい情報が集まるようにアンテナをつねに張り巡らせておくことが望ましい。

(2)展覧事業

国内外に日本・東洋美術の豊饒さが発信された昨年に比べて、28 年度は従来の地道な活動にもどった感をもっていたが、実際のところ九州では多数の観客を動員する展覧会が開かれた。大展覧会によって開拓された愛好層が、国民の間に着実に形成されているようであり、さらに深化するよう今後も丁寧な活動を続けてほしい。

また、中国の上海博物館や陝西歴史博物館においても「醍醐寺芸術珍宝展」が開催され、集客数が国内の開催でも大成功といえる 30～40 万人にものぼったことが報告されているが、このような活動は、注目すべき海外における話題ということができ、日本のメディアがもっと取り上げていいように思われる。次年度以降もまた、強弱のリズムをつけた魅力的な活動や観覧環境の改善につとめ、近年、増加している外国人観光客にとっても期待を裏切らない充実した平常陳列をお願いしたい。一般愛好者に支持されやすいシンボル的な目玉づくりも有益なのではないだろうか。

(3) 教育・普及活動

講演会の開催、キャンパスメンバーズ事業、ボランティアの活用などによる教育・普及活動はますます充実しているように思われる。国民が積極的に博物館の所蔵品を利用し、あるいは現代美術やデザインの現場で活用できる環境づくりについて昨年度に意見を述べたが、今年度は各館ともに所蔵作品のデジタル画像によるデータベース作りが促進され、ダウンロードも提供されているという報告があった。もっとも進んでいる米国・メトロポリタン美術館の全面開放の例を参照し、世界の博物館・美術館における画像提供の潮流に乗り遅れないよう、諸般の事情を解決しながら一層の館蔵品の普及活動に取り組んでいってほしい。とりわけ上記した目玉といえる館蔵品については、自由な使用を積極的に認めてよいのではないか。

(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

この件に関しては報告数が多くはなかったが、国内外の博物館等との学術交流が着実に行われていることを知ることができた。海外における日本美術への関心はけっして高いとはいえず、分野も偏っているように思われるが、ウェブを用いた国民や海外への発信はますますアクセス件数が増えている。親しまれる博物館として、国民や海外のユーザーの期待に応えることができるよう、情報収集・整備、データ利用の簡素化などの調査研究に、今まで以上に取り組んでほしい。

(5) 国内外の博物館活動への寄与

この件に関しても報告数は少なかったが、従来通りの援助や助言などの地道な活動が展開されている。最近は活発に求められることが少ないかもしれないが、そのこと自体が、これまでの活動の成果が浸透していることを示しているのではないか。

2．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

ここ数年続く大震災などの自然災害への対応経験を活かし、面的にひろげるとともに堅固な体制づくり

を推進する文化遺産防災ネットワーク推進本部の活動に目覚ましいものがあった。日本の研究機関が総合力を活かして文化遺産の救済・救援に取り組む姿は、国民にとっても支持されるものと思われる。メディアは短所の報告ばかりでなく、こうした長所ともいえる活動の紹介にもいっそう、力を入れるべきなのではないか。

(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

東京・奈良ともに多くの新知見や新研究の報告がなされたが、とくに東京における松澤宥に関する資料調査という戦後美術のアーカイヴ構築に向けて新しい一歩が踏み出されたことを率直に喜びたい。奈良に関しては目覚ましい新知見にあふれた一年であったようであるが、とりわけ「S」の定性評価が示された藤原宮朝堂院朝庭の７本の幢幡の遺構とその解釈についての新たな報告には瞠目させられた。メディアの注目や国民の関心も高く、このような学術的成果はまさしく研究機関の王道といえるのではなかろうか。

(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

この分野の独創性は、伝統的に日本の科学技術の水準を示しているが、28 年度も、温風殺虫処理法の研究、セロファンテープなどの粘着テープの除去処理の研究、高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究の進展など、多くの工夫がなされたことが報告された。今後もこのような豊かな発想にもとづく基礎研究の進展が保証されていくことの重要性を訴えたい。

(3)　文化遺産保護に関する国際協働

28 年度は、中国・敦煌壁画の保存修復事業が終了し、今後の再開の目途も立っていないという残念な報告があったが、技術的にも内容的にも豊富な経験をもつ日本の研究が世界的に過小評価されていくのではないかという危惧をもった。大規模な国際協働事業はしばらくの間望めないとしても、今年度は紙の保存と修復に関する研修が京都とメキシコで開催され、100%の高い満足度を得たという頼もしい報告があった。このような地道な活動を継続的に行うことで、国際的な評価を得ることができると思われ、いっそうの発展が望まれる。何らかの機会を得てメディアでも紹介されていくべきではなかろうか。

(4)　文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

データベースの構築、各種の出版物の刊行など基本的な事業が、滞りなく継続された１年であった。詳細な「春日験記絵巻」の図録、一般に受け入れやすい『平城京のごみ図鑑』の刊行など、研究機関ならではの魅力と意義に富んだ刊行物に光るものがあった。今後は、その素晴らしさが周知され、若い世代の教育に活かされていくことを期待したい。

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

東京・奈良ともに研究所が行ってきた基本的な事業であり、参加者の満足度も高いという評価が得られている。しかしながら、地方公共団体の経済力の低下などにより、需要と供給の関係に齟齬が生じているようだ。研究所の存在意義にも関わる重要な事業であり、地道に継続しながら、当面、事態が改善されるよう少しずつでも活動していってほしい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

毎年の繰り返しになるが、奈良、東京の２研究所、国立４博物館とも懸命な努力を図っており、その上で数多くの魅力的な展示や優れた研究活動が行われている。しかしながら、内側からの努力は最早、限界に達している。2020 年開催予定の東京オリンピックなどが、状況を好転させる起爆剤となるよう期待したいところだが、文化遺産の保存と活用の均衡について無理解な大臣の発言もあったように、理解のギャップがなかなか埋められないようだ。メディアとともに工夫を凝らして、節度ある開放のあり方に国民の理解が得られるよう努めていただきたいと思う。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

経費削減が叫ばれ、さまざまな面でスリム化がはかられることは必要である。昨年度に報告された目的積立金の承認について、実際の金額の説明があった。国庫納付額にくらべてわずかな金額であり、期待のもてるようなものではなかったが、損失のないよう有益に使っていってほしい。

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

毎年、指摘していることだが、常勤職員数の抑制のために行われている退職後のスタッフの不補充と任期制研究員の採用は常態化している。しかもそうした雇用条件の人材のなかに、博物館、研究機関の根幹を担う活動を行っている者もいる。若い研究者にも希望の持てるように、繰り返しになるが４博物館・２研究所は、能動的に文化や学術活動の取り組む人材を長い時間をかけて育成しうる場として、主導的に立場にあることを自覚し、変革期の設計図をじっくりと描いていただけるよう継続して主張する。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

日本国内の研究所、博物館の活動の地道さにくらべて、中国、韓国、シンガポールなどのアジアの他の地域は世界の注目を集める華やかな活動を展開している印象がある。ときにそれらと比較をし、メディアを通じて近代的設備を整えた 100 年以上の歴史をもつ日本の博物館の存在意義を国民に強く訴え、バランスのとれたレガシーの活用と保存を今後も発展させていってほしい。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

自己点検評価基準がある程度整理され、報告もシンプルにまとめられてわかりやすかったことを感想として述べておきたい。総合的な事項としては、今後も研究所や国立四館が、生活レベルで国民が文化やアート&デザインに親しむことのできる場として成長していくことを望みたい。とりわけ、内向き志向といわれる若い世代の自国文化に対する関心は、近年の戦国武将ブームや刀剣ブームなどで盛り上がりを見せている。こういった関心の芽生えを傍観せず、歴史的な文化遺産を現代生活においても親しみやすくなるよう、さまざまな知恵を凝らして、活動していってほしいと思う。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

名児耶　明

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1)　有形文化財の収集・保管、次代への継承

これからの時代に適切に対応すべく、博物館施設設備のメンテナンスサイクルの確立に向かい計画が順調に進められていると認められる。そして、有形文化財の収集については、東京国立博物館における重要文化財の藤原行成の現存唯一の「書状」の購入等、４館ともにそれぞれの館の収集の目的にそって成果をあげていると評価できる。また、寄贈、寄託をうける文化財についても、展示の充実に必要な部分を埋めるべく順調に進められていると認められる。そして、収集文化財も含め、それらに関する情報収集、収蔵品や寄託品の所在確認など次世代に向けての取り組みも、奈良国立博物館の資料のデジタル化に目標値を下回ったとあるが、おおむね計画通り進んでいると判断出来る。次世代のために、今後も文化財資料の充実、修理等のメインテナンス、資料のデータベースの構築に向けて計画通り実施されることを期待する。

(2)展覧事業

平常展における入館者の数が、東京国立博物館および奈良国立博物館で増加している点は評価されると考える。入館者の数を特別展に頼るのではなく、数多くの所蔵品を活かした通常の展示により入館者の期待に応える展示を実施することが、国の博物館の基本の姿であると考えるからである。そうした展示であれば、諸外国からの来館者に対し、充実した対応が可能となり、時間的にも余裕を持って展示計画が出来るであろう。これは、館蔵品の情報収集の調査研究結果も反映させることともなると思われる。なお、平常展の評価のひとつに展示替えされた作品の多さがあるが、これは平常展の展示の充実とは直接関連づけるものではない気がする。展示数ではなく何を必要として充実した内容の展示になっているかが重要ではないかと思う。展示替えの作品数での評価に一考が必要かと思われる。

特別展の実施については、各館ともに目標とする展示回数と同じか、それを上回っており、予想以上の成果として捉えているが、特別展の回数の多さと入館者数だけではなく、回数は少なくとも内容の充実を計って特別展準備等に力を注いでもよいと思う。海外展については、国内での報道は少ないが、実績を着実に上げていると判断出来る。

(3) 教育・普及活動

各種講演会の回数やギャラリートークの実施回数等の充実度は大いに評価できる。４館に違いはあるが、それぞれの館の特色を活かした体験型のプログラムの実施回数も多く、参加者もかなりの数となっている。文化財の保存や継承のための未来の人材育成のためにもこうした活動全体の充実はますます必要になると思う。ただし、職員への負担が多くなり、実施内容の質の低下がおきないような配慮も考えておいていただきたい。

(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

基本的な活動として、収蔵品の調査研究、収蔵品に限らない数多くの調査研究に取り組み、その実績を多くの報告書や展示図録に反映させており、着実な成果を上げていることが認められる。また、特別展を機会としての作品調査、研究が数多く報告され、展示の充実を図っている点も評価できる。科学研究費等の外部資金も積極的に獲得し、熱心に取り組む様子も感じられる。

(5) 国内外の博物館活動への寄与

海外の研究者の招聘や海外への職員派遣など、海外の博物館との交流を通し、博物館活動への寄与を認められる。海外展についても、その入館者等の数字から活動に寄与していると判断出来る。

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

文化財研究所全般にわたり、有形文化財（美術工芸分野）、無形文化財、無形民俗文化財、記念物、文化的景観、埋蔵文化財の各分野の調査研究は、目標を達成するかそれ以上の成果があると認められ、報告書も充実している。今後もこうした体制をつづけてもらいたい。

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

現代の高い科学技術を活用し、多くの研究が、自己点検評価で目標を達成するか目標以上となっているが、報告書などからも着実な成果をあげていると認められる。

(3) 文化遺産保護に関する国際協働

「無形文化遺産国際シンポジウム」の開催等、海外の博物館・美術館との研究者の交流を通じて文化財の保護に関しての事業を展開しているが、今後の博物館活動が、世界に目を向ける必要に迫られていることを考慮するともう少し、積極的な事業展開があってもよいかと考える。

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

文化財に関する情報資料の収集は、地道ではあるが必要かつ継続すべき活動である。また、ウェブサイトほか先進技術を駆使してそれらの情報を整理、公開活用されるための努力が認められるが、これらの成果がより身近に一般研究者にも広く伝わるためのさらなる努力を願いたい。

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

文化財防災ネットワーク推進本部を中心とした各種の催しは、安定した活動として定着している。熊本地震への対応や継続する東日本大震災の復興に伴う案件など、着実に成果をあげていると思われる。それらに関する研修等は、将来の文化財保護に携わる人材確保のためにも、その活動はおおいに評価できる。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

業務の改善のために行われている、人事や修理契約委員会の設置、事務業務に関わる消耗品の節約対策等、施設にかかる費用の節約等に対する努力は認められる。今後も努力は必要と思うが、業務の質の低下に繋がらないように望みたい。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

自己収入の拡大に向けての取り組みで、計画を上回っている実績を評価したい。また、保有資産を有効活用した取り組みはこれからの博物館の方向のひとつと思われるが、使用する側が、博物館施設としての一定の品位を保ち、博物館施設として多くの人が納得のいく使われ方を保つ必要があると思われる。その整理が必要ではないかと思う。

Ⅳ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

予算を効率的に運用した結果が評価される。また、特別展の入場料が減少しているが、平常展や展示事業附帯収入等が好調で、努力の結果が現れていることは大いに評価できる。文化施設では、一般の経済活動とは異なり、文化・文化財の維持には、適切な経費の範囲があり、独立行政法人文化財機構の必要範囲の業務に関しての予算は、交付金で保証しておくべきであると考える。

Ⅴ その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

内部統制、リスク管理、等に関する諸規定を整備する努力、そのための各種研修を実施するなどの点が大いに評価できる。自己評価の実施や情報セキュリティー対策のための委員会をはじめ、各対策のための活動も評価できる。施設の整備や人事関連の対策も目標達成のために評価できる。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）
　全体に、現体制の中で各種成果をあげていることを認める。新聞社等と共催した大型の展示が多いが、集客効率の重視に偏重せず、展示内容によっては、入館者の多さではなく、その展示において期待する入館者の層がどの位充実して集まっていたかを重視することも考慮する必要があると思う。
自己評価の評定の実際の自己評価も適切な判断であったと思われる。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

浜　田　弘　明

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1)　有形文化財の収集・保管、次代への継承

自己評価の大半が基準のＢと示され、１件のみＣ評価があるものの、Ａ評定も散見されることから、ほぼ計画は達成されていると言える。

東京国立博物館（以下、東博）と京都国立博物館（以下、京博）では、本館の改修計画が進められているが、2019 年のＩＣＯＭ京都大会、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの開催と歩調を合わせて推進されることを期待したい。

地方公立博物館の相次ぐ閉館や、社寺管理者の高齢化に伴う文化財保管の困難化の問題は、相変わらず深刻である。国立博物館は、こうした文化財が海外や民間へ流出することを防ぎ、国・地方の宝を守るべく、従来にも増して、資料の寄贈や寄託はもとより、購入も積極的に進める必要を迫られている。そんな中、昨年度は、各館とも積極的に資料収集が進められたことを評価したい。引き続き、相応の資料購入予算を確保するとともに、収蔵スペースを新規に確保することも欠かせない課題である。

収蔵資料のデジタル・データベース化作業は順調に進んでおり、文化財情報システムはもとより、28 年度末から奈良国立博物館（以下、奈良博）が収蔵品・画像データベースの画像ダウンロードの無償化を開始したことは、国民への資料公開手段として重要な事業であり、更なる推進を期待したい。

資料保存の基礎となる、保存カルテの作成やＩＰＭの徹底化も重要な業務である。また、財政事情が厳しい中、寄附金を活用して国宝・重要文化財の修理が大きく進んだことも評価したい。

(2)展覧事業

ほぼ計画は達成されていると評価できる。常設展示の入館者を増やすことは、どこの博物館も苦心を強いられるところであるが、東博はこの５年間、それが右肩上がりとなっていることは注目すべき評価点である。この背景となっているのは、年 8,500 件にも上る常設展示替え、「博物館に初もうで」の取り組み、子供向けイベントの実施など、地道な作業を続けた賜物であると評価できる。また東博では、28 年度に特別展が 12 回も開催され、他館では真似の出来ない頑張りようであった。

近年の博物館入館者数の低迷を打破する一方策としての海外観光客の呼び込みと、東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れた、外国語による解説パネルの設置について、予定よりも早く全館で 100%を達成したことも評価したい。また「トーハクなび」のような外国語による音声ガイドも、是非、各館で推進して頂きたいシステムである。

特別展については、放送局や新聞社と共催することにより、その健闘ぶりが目立ち、多くの展覧会で目標値を上回る来館者を数え、中には 2 倍以上に達する特別展もあった。問題は少なからずあるかと思われるが、来館者確保の上で、マスコミによる広報の重要性を窺い知ることが出来る。ただ、目標値の設定については、経験値によるものということなので、今後は、博物館学的見地から経営論的手法等を取り入れた科学的な数値設定をすることが望まれる。もちろん、評者自身もその手法の開発について検討したい。東博の「古代ギリシャ展」の来館者数達成率が 99.8%で評価Ｃとなっているが、これは数量的評価の弊害で、Ｂとして全く問題ないものと考える。

また、従来から、海外の日本資料を国内に持ってきて展示することは行われているが、日本の資料を海外に持って行って海外展を開催する試みは多くはないので、日本の優れた文化財をもとに歴史を海外に知ってもらい、国際交流を推進するためにも、是非継続して欲しい。

今日の博物館において、ミュージアムショップやレストランの存在意義は大きいが、オリジナルグッズ

の開発や、特別展にちなんだ特別メニューの開発などは、従来、国立博物館に関心を向けなかった新規利用者の開拓のためには、意外に重要なことと思われる。

(3) 教育・普及活動

ほぼ計画は達成されていると評価できる。次世代を担う子どもの博物館利用促進に向けた取り組みは重要で、各館で実施している「スクールプログラム」をはじめ、東博の「親と子のギャラリー」「キッズデー」の開催、京博の「文化財に親しむ授業」、奈良博の「世界遺産学習」、九州国立博物館（以下、九博）の「きゅーはくきゃらばん」などの取り組みのグレードアップを期待したい。京博の「京博ナビゲーター」の活動も定着化した様子が見られ、継続性を期待したい。

また、東博や京博に、公式キャラクターが登場したことも、子どもは近寄りがたいと思われがちだった国立博物館のイメージの柔軟化に一役買っているものと思われる。国立博物館のソフト戦略として、子どもの博物館への関心が一層高まることを期待したい。

さらには、若者を博物館に呼び込むために、ウェブサイトを活用した更なる情報発信にも、今後を期待するとともに、キャンパスメンバーズやインターンシップ制度などを通した、大学生の博物館利用の促進等の継続も願いたい。

29 年 3 月から「国立博物館所蔵品統合検索システム」の運用が開始され、外国語の説明が付されたことは、情報発信の面で高く評価したい。こうした成果も反映して、ウェブサイトのアクセス件数も順調に伸びており、きめ細かな情報発信が望まれる。

(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

ほぼ計画は達成されていると評価できる。各館の研究成果が紀要等を通して発信され、海外の博物館との交流も順調に進んでいることが確認される。

2019 年に開催されるＩＣＯＭ（国際博物館会議）大会の日本（京都）招致は、我が国の博物館及び博物館学の歴史の上で、記念すべき事象である。その先駆けとして、東博を中心とする国立博物館において、各種の国際会議や国際シンポジウムが開催されたことは、重要な意義があったと言える。今後、ＩＣＯＭ大会の実現に向けて、事務局となる京博はもとより、国立各館には一層のリーダシップが求められる。

また、日本の博物館の国際化のために、海外への多言語発信は重要となるし、海外の研究者・技術者への支援や交流も、更なる活性化が必要である。

(5) 国内外の博物館活動への寄与

計画はほぼ達成されていると評価できる。博物館「冬の時代」と言われる中で、当機構が地方公共団体等に果たす役割はより大きくなっており、全国の文化財担当者や、学芸員に対する技術研修の促進に期待したい。

文化遺産防災ネットワークは、相次ぐ災害の中で重要な意味を持っていることを再確認した。28 年４月に発生した熊本地震を受けて、この１年で約 6,200 件に上る文化財が救出されたことは、高く評価したい。また、東日本大震災被災地への文化財等救援・復旧・復興事業にも、引き続き力を入れて行く必要がある。

文化財防災シンポジウムに合わせ、ブルーシールド組織の国内委員会の設立が検討されているようであるが、2019 年のＩＣＯＭ京都大会に向けての設立が望まれるところである。

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

ほぼ計画は達成されていると評価できる。当機構は、わが国の物質文化研究の拠点として重要な役割を果たしている。調査研究の柱とも言うべき、有形文化財に関わる調査研究に多数取り組み、その成果が論文等で多数公表されていることは喜ばしいことである。

しかし、研究成果は研究者だけのものではなく、マスコミやマスメディア等を通して広く国民に周知されるべきものと考える。社会的認知を得るような基礎的・探求的な調査研究となって行くことを期待したい。

⑵　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

計画はほぼ達成されていると評価できる。当機構は、国内屈指の情報機器や分析装置を有しており、科学技術を的確に応用し、文化財の調査・保存・修復の向上に大きく寄与している。マスコミでも大きく報道された、高松塚古墳壁画の修理・公開は、そのトピックと言えよう。

⑶　文化遺産保護に関する国際協働

計画はほぼ達成されていると評価できる。高い保存・修復技術を持つ当機構の使命として、アジア地域を中心とする文化財保護への技術支援と人材育成の更なる促進に期待したい。

⑷　文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

計画はほぼ達成されていると評価できる。当機構の研究成果が、国内はもとより、多言語発信により広く世界に向けて公開されることは、今後より重要となる。さらには、専門家のみならず広く国民に理解されるよう平易な形で、ウェブサイトを含め、公開講座や展示等を通して発信して行くことも重要と思われる。

⑸ 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

計画はほぼ達成されていると評価できる。博物館「冬の時代」と言われる中で、当機構が地方公共団体等に果たす役割はより大きくなっており、全国の文化財担当者や、学芸員に対する技術研修の促進に期待したい。
28年4月には、熊本においても大地震が発生し、文化遺産防災ネットワークは、相次ぐ災害の中で重要な意味を持っていることを再確認した。また、東日本大震災被災地への文化財等救援・復旧・復興事業にも、引き続き力を入れて行く必要がある。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

2019年ＩＣＯＭ京都大会に向けて、組織体制の見直しは必要なことで、着実に進められることを期待したい。
経費の削減が進む厳しい状況下にも関わらず、各館の努力の跡を窺い知ることが出来、健闘していると言える。とくに財政難の中、寄付金が目標の1.7倍も獲得出来たことは喜ばしい限りであるが、欧米のような寄付金による博物館運営に至るには、まだまだ長い道のりが必要とされよう。
また、一部ながら、自己収入の剰余金が独自に活用できることとなったことは喜ばしいことであるが、この仕組みについては、自己運用が出来るようにするためには大きな改善が必要であると思われる。
その他、施設の目的外使用とはなるが、映画やドラマ撮影での利用は、博物館のＰＲ効果という面では期待できるので、利用の促進を願う。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

博物館は国際的定義（ＩＣＯＭ規約）からしても非営利の機関であり、独立採算は到底あり得ない施設である。機構の健全な事業運営の上で、運営費交付金のこれ以上の削減については、国（政府）で再検討し、文化国家としての責務を果たして頂きたい。
機構各職員の尽力により、外部資金である科学研究費や寄附金の獲得額を伸ばしていることは喜ばしいことであるが、欧米の博物館運営のような寄附による博物館運営のあり方について、今後、国民に一層広

く知らしめる必要があろう。

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

昨年度の評価においても述べたが、健全な事業運営の上で、機構の総予算の削減は、もう限界であると言わざるを得ない。国内最大規模の東京国立博物館でさえも、諸外国の国立博物館に比較すると、その予算規模・職員定数は極めて少ないと言わざるを得ず、国（政府）には、博物館への理解を一層深めて欲しいと願うばかりである。

国民に、より親しみが持てる機構（博物館）づくりを目指して、各館は、今後も地道な活動を一つ一つ積み上げていって欲しい。こうした地道な活動の上に、国民の文化が成り立っているということを国（政府）にも是非ご理解いただき、積極的支援がなされることを期待したい。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

わが国の博物館は、諸外国の国立博物館に比較して、予算規模とともに職員定数についても全く少ないと言わざるを得ない。適正な機構運営のためには、これ以上の人員削減や人件費の圧縮は決して望ましいことではない。

事業の推進には、新たなシステムの整備とともに、人的整備も必要となる。現在、東博で働く研究員は55名ほどとのことであるが、欧米の大規模博物館と比較したならば1/10にも満たない人員であり、予算とともに人員の確保についても、迫られた課題である。

人事制度に、機構独自の専門職制度を創設し、契約期間に定めの無い職員が採用されたことは大きな前進であると考える。しかしながら、アソシエイトフェロー制度に関しては、契約期間に定めのある職員であり、今後、終身雇用の専任化への移行が当面の課題と思われる。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

国民に、より親しみが持てる国立博物館づくりを目指して、今後も引き続き、地道な活動を一つ一つ積み上げていって欲しい。こうした地道な活動の上に、国民の文化が成り立っているということを国（政府）にも是非理解いただき、ことに積極的財政的支援がなされることを期待したい。

博物館は、文化財公開の拠点施設であり、それを担う「学芸員」は、文化財と国民とをつなぐ重要な「核」となっている。文化財を扱うプロである「学芸員」の専門性や重要性を、再評価する時期なのかもしれない。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

藤　田　治　彦

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1)　有形文化財の収集・保管、次代への継承

有形文化財に関しては、国立文化財機構は歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点として、国立博物館各館における収蔵品の整備等を推進するなどして、十分な働きをしている。わが国は、アジアではもっとも歴史的文化財の保存と継承を着実に行い、無形文化財をも含めた伝統文化の保存・継承では世界的にも進んだ国である。歴史的文化財の保護と保存、そして次世代への継承は、わが国にとっては国策としてもいいほどの非常に大きな意味を持っており、国立文化財機構が果たすべき役割は大きい。

(2)展覧事業

展覧会事業としては、東京国立博物館における特集展示「藤原行成の書 その流行と伝承」や、京都国立博物館における「海北友松」展など、国立博物館４館において、重要な展覧会が開催されている。

(3) 教育・普及活動

九州国立博物館で実施されている「高等学校が所蔵する考古資料に関する研究」は、各都道府県の高等学校が保存する資料の確認だけでなく、各高等学校における資料の再発見、再認識へとつながり、教育・普及活動の活性化に大いに役立つと思われる。他の国立博物館でもさまざま教育・普及活動が行われており、とくに熊本県、福島県など、大きな災害とそれによるさまざまな活動の低迷に苦しむ地方の若者ならびに高齢者の活性化につながるような教育・普及活動に力を入れることは、複数の意味で有意義であろう。

(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

国立博物館各館、各文化財研究所とも、有形文化財に関する調査と研究ならびに収集・保管・展覧事業を積極的に推進している。それらの調査や研究は、学術的にしっかりした内容のものであるべきであると同時に、教育普及活動にも関わり、わが国の今後の方向性の確立や、国民のよりよい、文化的により豊かな生活のサポートにも役立つような、実践的内容も伴うものであるなら、一層推進の価値が高いと思われる。

(5) 国内外の博物館活動への寄与

わが国の歴史的文化財に関する情報の国内外への発信は極めて重要である。関連情報の国外への発信は重要であり、海外とくにアジアの各種博物館への寄与は大切である。国内へは、そのような歴史的・文化的価値を、どのように公開し、どのように守り、それをどのようにして地域の活性化に生かすべきかといった実践的情報の発信が重要であり、地方の博物館へのサポートは一層充実すべきであろう。国立文化財機構は、各国立博物館における展覧会の開催や、ウェブサイトの充実等に加えて、さまざまな方法で国内外の関連するネットワークを広げ、発信者であると同時に積極的な助言者、推進者の役割をも果たすべきであろう。

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

(1)　新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

九州国立博物館で実施されている「水中遺跡の保存活用に関する調査研究」は、国立博物館４館と各文化財研究所・センターにおいても行われている新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究のひとつであり、海に囲まれたわが国としては非常に重要な調査研究である。今後、できれば他館や他の研究所・センターとの協力も試み、一層発展させることが期待される。

(2)　科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究は、国立文化財機構の複数の機関で推進されているが、近年、新たに出現した最新技術の応用に関する試みは少ないように思われ、新たなチャレンジが期待される。

(3)　文化遺産保護に関する国際協働

国内外の保存修理事業者のための研修プログラムの充実等も含め、各国立博物館および文化財研究所ならびにセンターは、文化財保護に関する国内・国際協力の推進に努めている。アジア各国をはじめ、世界の国々は、これまでわが国が培ってきた文化財保護の経験と能力に大いに期待しており、とくに国際協力は今後も積極的に推進するべきであろう。イギリスのセインズベリー日本芸術研究所との共同研究等、わが国との交流に積極的な海外の研究機関との協力は、アジアを超えて推進すべきであろう。

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

東京文化財研究所、奈良文化財研究所などにおける情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用は、近年、かなり積極的に推進されるようになっており、一層の充実が期待される。

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

国立文化財機構は、地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上をよく考え、実施している。文化財防災ネットワーク推進のために、その本部と推進会議を設置したことは意義深く、震災被災県等への協力も継続しているが、年月を経て、やや忘れられつつあるところもある。地方公共団体の関連機関による協力は重要であり、国立文化財機構の果たすべき役割は非常に大きい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

共通的な事務の一元化など、業務運営の効率化は重要であり、国立文化財機構はそれを推進している。ただし、このような効率化が、各博物館、研究所、センター間の相互理解を低め、無責任で機械的な組織を生まぬように十分配慮しながら、業務運営の効率化を進めるべきである。マネジメント強化は業務運営の効率化に資するところ大であろうと想像される。マネジメント強化による成果等については、外部有識者等によって評価ないし確認されるべきであろう。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

各国立博物館、文化財研究所は自己収入の増大ならびに、自己保有資産の有効利用の推進に努めている。しかし、各国立博物館を含む国立文化財機構の予算は、先進各国の比較すべき関連予算と比べても、日本の近隣国の関連予算と比べても非常に少ない。かつて日中韓各国の国立博物館予算の比較等が行われたことがあり、参考になったが、再度、近年の予算比較を行い、非常に低い日本の関連予算の問題を確認し、政府は大いに改善に努めるべきである。

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

国立文化財機構は、芸術系、歴史系、さらには情報系の若手職員を必要としており、バランスのいい人事計画の推進は非常に重要である。それらの職員の採用に際して、英語力等の語学力を重視することが今後の関連活動の一層の国際化のためには重要である。上記のようにわが国の文化予算は、欧米諸国と比べても、近隣諸国と比べても、非常に低く、国際化の充実のためにも予算は必要であり、将来的には、それがより望ましい収支計画及び資金計画につながるだろうと思われる。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

施設設備に関する中長期の計画は行われているが、近隣諸国における国立博物館、国立研究所の充実を鑑み、目標を定め、その他の業務運営に関する目標とともに達成すべきであろう。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

自己点検評価は着実になされている。B（所期の目標を達成している）が非常に多いが、A(所期の目標を上回る成果が得られている)に相当する事業も実際にはもう少し多いように思われる。所期の目標を多少でも上回っている場合は遠慮なく A と評価することによって、B が標準というよりは、A と B が標準になることによって、多忙な業務のなかで行われている自己点検評価報告書の作成が、国立文化財機構の業績向上あるいは評価の向上にさらにつながることが期待される。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

柳林　修

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1．有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1)　有形文化財の収集・保管、次代への継承

有形文化財を収集して適切に保管し、将来へしっかりと継承することは、国立文化財機構を構成する各機関にとって基本的で重要な使命である。とくに国立博物館にとっては館蔵品の充実が平常展（常設展）の魅力向上につながるから重点的に取り組む必要があり、各館は限られた予算の中で、それぞれの特徴に基づき、適切に実施していて高く評価される。ただ、奈良国立博物館（以下、奈良博）だけが極端に少ない購入金額だったのは惜しまれるが、貴重な古い伝法灌頂の資料を購入したのは喜ばしい。各館が来年度以降、これまで以上に収集の充実化を図ることを期待し、それら新収蔵品を国民に今まで以上に積極的に紹介してアピールしてもらいたい。外国のように目玉の文化財の収集にも心掛けてもらいたい。

寄贈、寄託件数では、京都国立博物館（以下、京博）の積極的な取り組みが目を引く。修理資料などのデータベース化も順調だ。次世代に確実に伝えていく基礎的な資料であり、研究で多角的に利活用するために必要であることからいっそう力を入れてほしい。

(2)展覧事業

限られた予算と人員の中で、各博物館とも平常展を展覧事業の中心と位置付けて充実を図り、特別展は来館者の関心に応えて収入増を目指す企画として積極的に行っており、その努力に敬意を表したい。

平常展で大切な館蔵品の充実は着実に進み、館の特色を前面に出して開催している。各館とも平常展の来館者が増加していることは喜ばしく、展示替えも積極的に行っている。ただ来館者アンケートでは、東京国立博物館（以下、東博）と京博が満足度の目標値を下回った。アンケートの分析をしっかり行い、積極的に改善策を講じることで来館者の満足度アップに生かしてほしい。

東博の「平安の秘仏」展や奈良博の「忍性」展はマイナーな対象の展覧会だ。実現には勇気が要っただろうが、企画と熱意に賛意を示したい。京博の「禅」展も内容が濃く、興味深かった。しかし、墨跡中心の展示だっただけに、その釈文がほしかった。来館者が立ち止まり、流れが滞るとの理由で行われなかったようだが、一部の重要作品だけでもいい。内容を知りたかった。九州国立博物館（以下、九博）の「東山魁夷」展は目標の２倍近い来館者で東山画伯の根強い人気を示した。展覧会の中には、巡回展のため図録の作品番号と会場の順路が異なっていた。巡回展ではとくに図録を点検し、「来館者ファースト」で作り直す配慮がほしい。東博の「黄金のアフガニスタン」展は目標の２倍以上の来館者があったが赤字。聞くとチャリティーで、アフガニスタンの文化財保護に寄付金を出していた。胸を張って、その経緯を表記すべきだ。人気の特別展では相変わらず長時間の待ち時間が生じた。各館共通の積年の課題であり、各館が協力して有効な対応策の実行をお願いしたい。満足度にも影響する。

インバウンドが年間２０００万人を超え、国は２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックを控えて、いっそうの外国人観光客の増加を目指す。その意味で各館内での多言語表記の充実は、たとえ政府の要請が一部のきっかけだったとしても、時代の流れに的確に対応したもので好ましい。さらに施設を点検し、外国人にもわかりやすい表記、見学方法、図録の解説などを望む。インバウンド対策は日本の博物館や文化財行政について世界の評価基準に影響を与える。ここ数年が勝負時と思う。外国旅行で大英博物館やルーヴル美術館などがツアーコースに入っている場合があるが、外国人が日本を訪れる時は国立博物館がコースに入っているのだろうか。積極的な取り組みをしてもよい。

展覧会のいっそうの充実は喫緊の課題だ。限られた予算と余裕のない人員だが奮闘をお願いしたい。知恵と工夫と優れたパーソンパワーで乗り越えてもらいたい。難局は乗り越えられる。

(3) 教育・普及活動

教育・普及活動はいっそうの重要性を持ち始めた。博物館は、子供たちに日本の文化や歴史を、優れた文化財を基に知ってもらう絶好の場所だからだ。大人になってからの多くの来館に結び付けることができる。本物を見せることで、机上の学習とは全然違う教育効果が得られる。大切な感動をもたらす。もちろん大人にとっての教育・普及活動も大切だ。大臣発言で「観光マインドがない」と話題になった学芸員だが、内にこもらず、今まで以上に積極的に教育・普及活動に携わることが必要だ。

各館とも積極的な取り組みが見て取れる。とくに東博は「博物館で初もうで」「博物館でお花見を」といった四季折々の来館者へのアプローチが奏功し、来館者の増加に結び付けた。各館とも多彩な講演会や講座はもちろん、さまざまな工夫の催しがいっぱいだ。さらに学校と連携し、子供たちや教員を対象にしたプログラムも意欲的だ。文化財の修理状況の公開といったバックヤードの展覧は参加者にプレミアム感を持たせ、興味を倍増させるから、より推進してほしい。

ただ、たくさん実施するという量にこだわらないでいただきたい。開催によって、学芸員や職員が過重な勤務になることは極力避けるべきだ。学芸員にとっての本分は調査・研究であるからだ。

ウェブサイトやモバイルサイトの積極的な活用は高く評価される。各館ともホームページへのアクセス件数が大幅に伸びており、人々の関心の高さがうかがえる。

グーグル・アーツ＆カルチャーに京博が参加した。東博はすでに参加しており、グーグル・ストリートビューも行われている。この方法は、世界にそれぞれの館のことを知ってもらう手段として有効だ。採用した館は「バーチャルは本物にかなわない。来館して本物を楽しんでほしい」「世界中に館を知ってもらうメリットがある」と期待する。これは正しいことだが、このツールを利用して人々がサイトだけで満足し、来館者が減ることはないだろうかと心配する。費用はどれくらいかかるのだろうか、無料だろうか。このツールを取り入れた功罪を検証し、さらにプラス面での発展した取り組みを期待する。

(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

海外の博物館関係者の招へいや日本の研究者の派遣は順調に行われており、喜ばしい。２０１９年に日本で行われるＩＣＯＭ京都大会に向けてのネットワークの構築や研究者間の絆づくりのためにも力を入れてほしい。展覧会事業においても交流の活発化はプラスになる。

研究紀要は学芸員の本分である調査研究の成果を発表する重要なツールだ。各館とも定期的にしっかりした紀要を発行しており、資料としても価値があることから声を大にして評価していい。図録も研究発表の機会であり、重要だ。京博の伊東若冲に関する図録は内容が濃く、研究成果も豊富である。多数の販売実績にもつながって増収にも結び付いた。喜ばしい。図録をどれだけ発行するかの判断は難しいが、状況を的確に見極めて対応し、展覧会の記録として的確に残してほしい。

一つ、気にかかったことがあった。東博で下半期の所蔵資料の整理が「館の業務方針」で中止になったとか、大幅に縮小されたとかの記述が複数あり、「研究目標を達成できなった」「資料整理等が不十分に終わった」とかの表記があったことだ。このためか、評定が「C」や「D」になっている。このことの理由が十分に説明されていない。しっかり検証し、今後に影響がないようにしてもらいたい。

(5) 国内外の博物館活動への寄与

各博物館とも貴重な文化財を所蔵している。それらを常時、展示できるわけではないが、一方で他館や地方の博物館、美術館では展示作品に困っている所もある。「宝の持ち腐れ」にならないように、それぞれの館が全国の博物館や美術館と連絡を取り合って、文化財の貸し出しを行うことは大きな意義がある。地方の文化的要求に応える手段でもある。また、他館、とくに地方の中小の博物館や美術館にとって、国立博物館のノウハウに学ぶべきものは多いから積極的に指導、助言は行われるべきだが、そういう相互の協力態勢が機能していることが理解できる。とくに九博では文化財保存についての指導、助言、研修などが精力的に行われており、九州地域の中核館として信頼を集め、その役割を十分に果たしている。４館は全国の中核的な博物館であることを絶えず自覚し、先頭に立って研鑽に励むとともに、できるだけ培ったノウハウを広めて、日本全体の博物館、美術館の活動の充実に結び付くよう手を差し伸べてもらいたい。

２．文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

奈良文化財研究所（以下、奈文研）が継続的に実施している奈良県橿原市の藤原宮朝堂院跡の発掘調査で、「続日本紀」に記載された元日朝賀の重要儀式の遺構が発見されたことは極めて重要な成果で「S」は当然だ。継続的な調査の積み重ねと地道な研究が結実したもので、眼前に古代の儀式がほうふつとする成果は国民への文化財行政の価値と理解を大きく進展させた。マスコミ報道も大きく行われ、今後の調査への弾みになったことは喜ばしい。実際に立っていたであろう幢幡の復元も、遺構の用途や目的などについて国民の理解を深めるために役立っており、文化財行政を国民にいっそう身近にさせたといえる。

東京文化財研究所（東文研）が中心になって進める無形文化財の保存・継承に関する調査研究は、地味だが今のうちに実施すべき喫緊の取り組みであり、東日本大震災被災地を含めて地元の教育委員会やＮＰＯなどと協力して精力的に進めていることは大いに意義深いし、勇気づけられる。以前のオープンリールやハイエイトといった記録媒体のデジタル化は一刻も早く取り組まなければならないことであり、さらなる記録作成を着実に進めていただきたいし、それを一部でもいいので公開してもらいたい。

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

東文研の「春日権現験記」の光学調査は、高精細な画像で当時の絵画の技術に迫る意欲的な研究だ。また、飛翔性昆虫を衝突させて捕獲するＦＩＴという独自の殺虫方法の研究を東文研が実施して十分な成果を挙げたとことも興味深い。早期の実用化を期待する。ＩＰＭという環境にやさしい文化財保存の取り組みが重視されて久しいが、ＦＩＴは建造物保存などの面で大きな役割が果たせそうだ。

奈文研が年輪年代学で解体修理中の奈良・薬師寺東塔（国宝）の部材を調査し、西暦７２０～７３０年に伐採されたことを突き止めた。東塔が前代の都・藤原京から移築されたとの説もあったが、今回の調査結果はこれを否定し、現在地で７３０年頃に新築されたことを立証した。歴史的な意義は極めて大きく、全国的に報道されて話題も提供した。年輪年代学という地道な研究が改めて注目されたことは喜ばしい。

奈良県明日香村の高松塚古墳の国宝壁画の修理は、当初、石室解体（２００７年）から１０年で終了するとの想定だった。しかし、残念ながら終了の目途は立っていない。科学技術を使った調査や研究、保存処理が懸命に行われていて壁画はある程度美しさを取り戻した。しかし、壁画のある凝灰岩の保存処理が難しいという。壁画保存の技術の進展が期待され、世界の壁画保存にも役立つ技術の確立が期待されているだけに、東文研、奈文研のいっそうの取り組みに大きな期待を寄せたい。一連の事業には多額の費用がかかっている。１０年たった今、改めて英知を結集して壁画修理の完了を早期に実現させ、その成果を広く国民に公開すべきと思う。

最新の科学技術を文化財に活用すれば、驚くような知見が得られることもある。両研究所では分析装置や検出機器などの先端装置をしっかり使うことで研究や保存に着実な前進をはかってもらいたい。

(3) 文化遺産保護に関する国際協働

東文研、奈文研とも世界各国の研究機関と協働し、国際的な会議にも積極的にかかわっていることは頼もしい。文化遺産の保護や研究に大きく貢献し、日本の文化財の研究や保護のグローバル化に役立っている。東文研はネパール地震の被災文化財の保存支援などに力を発揮し、紙の保存と修復の取り組みでは外国の高い評価を得ている。奈文研は継続しているカンボジアの寺院遺跡での修復事業を着実に進め、日本に研究者を招くなどして成果を挙げている。一方、アジア太平洋無形文化遺産研究センター（ＩＲＣＩ）は国立文化財機構の理解で所長が常勤となり、職員も充実化しているのは朗報だ。アジア太平洋地域での調査や研究に成果を収めており、今後がいっそう期待できる。東文研との協力も進めてもらい、継続的で確実な事業実現のため、しっかりした予算獲得を求めたい。機構もバックアップしていただきたい。

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

データベース化は着実に進んでおり、広く研究者にデータや資料、図書を公開して研究の進展に資する状況だ。アクセス件数も順調に伸びている。定期刊行物や報告書の発行、講演会や現地説明会の数多くの実施など、積極的に国民に成果を提供しているのはナショナルセンターとしての責務をしっかりこなしていることを示す。特に奈文研の平城宮跡資料館、飛鳥資料館は多彩な数多くの展覧会で研究成果を紹介。多くの人々が訪れており、文化財への関心を高めるのに効果を挙げていて、その努力に敬意を表する。

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

他の博物館や美術館、地方自治体職員に対する研修や指導は積極的に行われている。ナショナルセンターとして当然の活動である。東文研の学芸員研修は、学芸員がどちらかというと弱いとされる自然科学的な見地での保存に特化したカリキュラムを入れ、自立を促す試みで注目したい。奈文研は本庁舎建設中で仮住まいにもかかわらず、多彩な文化財担当者研修のプログラムを実施。「研修を受けたい」という多くの要望にできるだけ応えており、高く評価したい。受講者の満足度は１００％だった。２０１８年に新庁舎が完成すれば研修がさらに充実したものになるであろう。奈文研のノウハウが全国に浸透し、文化財研究や保護、文化財行政の発展に結び付くことを期待している。

機構が各種団体などと協力して文化財防災ネットワーク事業を推進していることは、被災地自治体にとって心強い。いつ、どこで、文化財に被害をもたらす大きな自然災害が起きるかわからないから、他の自治体にとってもありがたい事業だ。東日本大震災を機に進められているこの取り組みが一過性で終わることなく、未来に向けていっそう力を入れ、迅速な文化財救出を行う体制が一刻も早く確立されることを望む。将来を見据えた若手の人材育成も大切で、「備えあれば憂いなし」の実現を求めたい。

奈良県明日香村の極彩色壁画古墳・キトラ古墳一帯の国営公園で、国交省の壁画体験館「四神の館」がオープンした。同古墳と壁画の素晴らしさを最新の科学技術を駆使し、鮮やかな映像も上映して、わかりやすく伝えている。ハード面とソフト面で奈文研が全面協力して優れた展示・保存施設にしており、飛鳥時代を知る絶好の施設になった。入場無料で、教育や生涯学習の面でも大いに利用でき、国交省との見事なマッチングが結実した。飛鳥の観光スポットとしても注目を浴びる。その存在を積極的にアピールし、周辺市町村と連携していっそうの活用策を考えてほしい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

国からの運営費交付金が漸減している厳しい予算状況や、それによって人員も非常に苦しい中で、各博物館や研究所、センターは工夫を凝らし、それぞれの使命を達成すべく、素晴らしい努力をしている。優れた展覧会、調査・研究・保存の取り組み、教育への活用などだ。効率化を図ることは大切だが、質の低下を招かないようにしていただきたい。定年退職者３人を任期付き職員として採用したことは、優れた専門性の知識を生かし、次世代に引き継ぐ意味でも価値ある試みだ。２０１９年のＩＣＯＭ京都大会を成功裏に収めるためにも有効な人材活用に取り組んでいただきたい。

人件費は対国家公務員指数で適正に維持されている。ただ、機構の特色から特殊な要素もあり、柔軟な対応も求められよう。職員の士気向上に水を差すことのないように配慮することが必要だ。契約監視委員会を機能させ、文化財購入などでの公正性、透明性のある合理的な調達も実施しており、４博物館、２研究所、１センターが近隣の研究機関、大学などと共同調達を実施したり計画したりしていることは好ましい。大いに進めてほしい。計画的なアウトソーシングや節電、節水、ペーパーレス化、電子化など、できることは着実に進めており、業務に支障が出ない範囲で継続すべきだ。見直しを毎年行い、どの方法で、どれくらいすれば適正化なのかを絶えず検証すべきである。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

自己収入拡大の取り組みが重要なことは論を待たない。運営費交付金が漸減していることを考えれば当然だ。平成２８年度は目標１５億３０００万円を上回る１７億１０００万円（暫定値）を得た。充実した展覧事業の成果といえる。とくに平常展の入場料収入が着実に増えているのは喜ばしい。外部資金も目標の４億３０００万円を大幅に上回る７億５３０００万円だった。関係者の努力に頭が下がる。会員制度の充実や寄付金募集などに積極的に取り組んだ表れと言えよう。さらに保有資産をコンサートや企業等のパーティー、茶会などに多角的に提供し、収入を得たことも施設の有効利用という面で称賛される。こういう試みは施設への新たな理解者の拡大にもつながるから、いっそう取り組んでいただきたい。しかし、あくまでも本来の業務に支障がない範囲内で行われるべきである。

Ⅳ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

運営費交付金が漸減する中、多彩な研究・調査・保存活動を行うために、自己収入の獲得がますます重要になっている。現にそれは多大な努力を伴って増加しており、敬意を表するが、自己収入の増大が運営費交付金の削減につながるのであれば極めておかしいことである。

４博物館、２研究所、１センターは、営利目的の企業とは違う。そのあたりの業務内容を鑑みての運営費交付金の増額を要求してほしい。２０１９年のＩＣＯＭ京都大会では日本の博物館の状況を正直に世界に伝えるべきであり、先進国の博物館や美術館、文化財研究所といった文化関係の機関に比べて日本の機関の予算が少ない現状を改善するため、ＩＣＯＭ京都大会を絶好の機会にすべきだ。

また、東京オリンピック・パラリンピックに向けて日本文化の紹介が大いに期待されるから、それを実現するためにも充実した予算を確保してほしい。スポーツ関係予算が大きく増えていく中で、文化関係予算にしわ寄せがあっては決してならない。政府はもちろんだが、文化関係に詳しい国会議員にも理解を求めることが必要だ。それは決して恥ずかしいことではなく、当然の取り組みである。

日本文化を正しく、わかりやすく国の内外に伝えることは相互理解を促進し、ひいては平和、共存社会の確立に役立つ。文化は平和大使である。文化関係予算がフランスと比較すると１０分の１というのは実に寂しい限り。国はこの文化予算の貧困さを反省し、豊かな文化国家を目指す努力を惜しんではならない。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

科学研究費助成金など外部資金を調達することで、調査・研究の枠を広げることができるから、いっそうの充実を図ってほしい。東文研は２７件６７００万円、奈文研は５６件１億６０００万円の科研費を受けたという。各博物館でも科研費の活用はあるようだが実情がわかるような発信が求められる。成果を広く発信することで次の科研費採用への道筋がより開けると思う。ＩＲＣＩが科研費申請を３件行ったが不採用になったという。歴史が浅いからだろうか。予算と人員が少ないなかで科研費は極めて有効な資金源であるから、機構や他の機関がアドバイスするなどしてＩＲＣＩを後押ししてほしい。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

５月３０日に行われた外部評価委員会総会で、総会用資料に研究所・センター部会の資料掲載がまったくといっていいほどなく、質疑・応答が総会用資料を基に行われたため博物館部会に偏った。

総会用資料を調べたところ、報告１７１件のうち、国立博物館が１４２件、文化財機構が６件、本部事務局が１５件、法人全体が６件、研究所が２件だった。それぞれの部会用資料はほぼ同分量で配布されており、総会用資料になぜ研究所・センター部会の資料が２件しか掲載されていないかと疑問に思った。

以前からこのような形式を取っており、踏襲された結果だが、総会用資料だから両部会の資料が平等に掲載されるべきだろう。そうすれば研究所・センター部会に対する質疑・応答も出てくる。研究所・センター部会の関係者も質疑・応答に対応するために出てきているが、手持ち無沙汰のようだった。

総会終了間際に博物館部会の委員が東文研の取り組みについて質問したが、総会用資料に載っていればある程度理解が進んだと思う内容だった。研究所・センター部会の活動や取り組みについても、総会用資料にもっと掲載されるべきであろう。その辺りについて一考願いたい。また、報告書の内容が多岐にわたり、作成にあたる担当者の苦労や心労はかなりのものと推察した。もう少し内容を整理して簡略化できないものだろうかと思った。これまでの自己点検評価報告書の内容を白紙から吟味、検討し、スマートな重複のないような報告書の新しい形式を模索してもいいのではないだろうか。

今回、研究所・センター調査研究等部会は４月２７～２８日に奈良県で視察を行い、現地で外部評価委員会の討議もすることができた。奈文研や国立文化財機構の関係者の努力や配慮に感謝したい。現地で奈文研の仕事ぶりや施設、機器などを見ながら現場の研究者や職員と話し合うことで、報告書の中身が身近になるし、実際の活動がしっかり把握できたことはうれしい。現場の並々ならぬ奮闘ぶりが肌を通じて理解できたのはなによりだ。前回の東文研の視察に続いて貴重な機会だった。感謝申し上げる。こうした現地調査を何年かに一回は実施してほしい。また、博物館の視察もお願いしたい。総会では博物館についても評価するからだ。現場の一線の関係者の生の声を聞きたい。より適切な評価につながるだろう。

Ⅵ 日誌

（法人全体及び７施設共通事項）

年　月　日	記　　事
28.　4. 15	第１回役員会（京都国立博物館）
28.　5. 13	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（研究所・センター調査研究等部会・東京文化財研究所）
28.　5. 16	第１回情報システム・セキュリティ委員会(東京国立博物館)
28.　5. 24	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（博物館調査研究等部会・東京国立博物館）
28.　5. 24	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（総会・東京国立博物館）
28.　6. 10	第２回役員会（東京国立博物館）
28.　6. 10	監査法人の監査結果（平成 27 年度）通知
28.　6. 14	平成 27 年度定期監査（東京国立博物館）
28.　6. 30	独立行政法人国立文化財機構の第 8 期事業年度財務諸表の提出
28.　6. 30	独立行政法人国立文化財機構の平成 27 年度自己評価書の提出
28.　6. 30	独立行政法人国立文化財機構の第３期中期目標期間自己評価書の提出
28.　7. 20	平成 28 年度独立行政法人国立文化財機構新任職員研修会（個人情報保護及びハラスメントに関する講演も同時実施）（東京国立博物館）（～７月 22 日）
28.　7. 19	第３回役員会（東京文化財研究所）
28.　7. 25	独立行政法人国立文化財機構運営委員会（東京国立博物館）
28.　9. 30	第４回役員会（奈良文化財研究所）
28.　9.　8	第１回７施設連絡協議会(東京国立博物館)
28. 12. 19	第２回情報システム・セキュリティ委員会(東京国立博物館)
28. 12.　2	第５回役員会（東京国立博物館）
29.　1. 20	第６回役員会（九州国立博物館）
29.　2. 27	第２回７施設連絡協議会(東京国立博物館)
29.　3. 24	第７回役員会（東京国立博物館）

（東京国立博物館）

年　月　日	記　　事
28. 4. 5	東京･春･音楽祭 2016「東博でバッハ vol.30」有希 マヌエラ・ヤンケ（ヴァイオリン）
28. 4.11	特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」開会式及びアフガニスタン流出文化財返還式、特別内覧会
28. 4.12	高円宮妃殿下　特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」お成り
28. 4.13	東京･春･音楽祭 2016「東博でバッハ vol.31」エマヌエーレ・セグレ（ギター）
28. 4.26	寛仁親王妃信子殿下　特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」お成り
28. 4.28	特別展「生誕 150 年 黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」10 万人セレモニー
28. 5. 7	上野ミュージアムウィーク「国際博物館の日」記念事業 2016（～5 月 22 日）
28. 5.11	天皇皇后両陛下　特別展「生誕 150 年 黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」行幸啓
28. 5.15	国際博物館の日記念ツアー三館園連携事業「上野の山でトラめぐり」
28. 5.17	日伊国交樹立 150 周年記念　特別公開「新発見！天正遣欧少年使節 伊東マンショの肖像」オープニングセレモニー及び特別内覧会
28. 5.17	高円宮妃殿下　日伊国交樹立 150 周年記念　特別公開「新発見！天正遣欧少年使節 伊東マンショの肖像」お成り
28. 5.18	国際博物館の日　総合文化展無料観覧日
28. 5.31	特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」10 万人セレモニー
28. 6. 5	初夏東博寄席 2016　金原亭馬生 他
28. 6. 7	彬子女王殿下　特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」お成り
28. 6. 8	天皇皇后両陛下　特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」行幸啓
29. 6.12	東京国立博物館　初夏のコンサート　岡田 博美（ピアノ）他
28. 6.19	ファミリーコンサート　東京クラリネットクワイヤー
28. 6.20	特別展「古代ギリシャ―時空を超えた旅―」開会式及び特別内覧会
28. 6.21	日韓国交正常化 50 周年記念　特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」開幕記念式典及び特別内覧会
28. 7. 4	天皇皇后両陛下　日韓国交正常化 50 周年記念　特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」行幸啓
28. 7.15	博物館で野外シネマ 映画「時をかける少女」（2006 年、細田守監督）（～7 月 16 日）
28. 8. 1	平成 28 年度キャンパスメンバーズ教育連携事業「博物館学講座」（～8 月 5 日）
28. 8.15	トーハクキッズデー
28. 8.24	仕事帰りに東博寄席　柳家小満ん 他
28. 8.30	「博物館でアジアの旅」（～10 月 23 日）
28. 9.10	上野の山文化ゾーンフェスティバル　講演会シリーズ「和紙の魅力」
28. 9.12	特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」開会式及び特別内覧会

28. 9.14　古箏・馬頭琴の演奏　ウー・ファン（古箏）他
28. 9.16　東京国立博物館評議員会
28. 9.20　柳瀬荘アートプロジェクト（～10 月 1 日）
28. 9.22　東京国立博物館　秋のコンサート　ゴラン・フェリペツ（ピアノ）
28. 9.26　シタールの演奏　サワン・ジョシ他
28.10. 8　留学生の日
28.10. 8　上野の山文化ゾーンフェスティバル　講演会シリーズ「東博における翻訳」
28.10.10　中国伝統芸術ショー（中国太陽雑技団）
28.10.14　博物館で野外シネマ 映画「秒速 5 センチメートル」（2007 年、新海誠監督）（～10 月 15 日）
28.10.17　臨済禅師 1150 年・白隠禅師 250 年遠諱記念　特別展「禅―心をかたちに―」開会式及び特別内覧会
28.10.25　秋の庭園開放（～12 月 4 日）
28.10.29　まちなかコンサート　コントラバスアンサンブル　白井菜々子（コントラバス）他
28.10.31　「生誕百年記念　小林斗盦 篆刻の軌跡―印の世界と中国書画コレクション―」開会式及び特別内覧会
28.11. 3　創エネ・あかりパーク 2016 に伴うライトアップ（～11 月 5 日）
28.11. 4　特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」10 万人セレモニー
28.11. 9　東大寺講演会
28.11.14　初代町田久成館長像寄贈・除幕式
28.11.15　第 13 回「台東区の伝統工芸職人展」（～11 月 20 日）
28.11.18　臨済禅師 1150 年・白隠禅師 250 年遠諱記念　特別展「禅―心をかたちに―」10 万人セレモニー
28.12.22　特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」20 万人セレモニー
29. 1. 2　博物館に初もうで 2017（～1 月 29 日）
29. 1. 2　博物館に初もうで 2017 新春イベント　和太鼓（批魅鼓）
29. 1. 2　博物館に初もうで 2017 新春イベント曲独楽・落語（三増紋之助他）
29. 1. 2　博物館に初もうで 2017 新春イベント獅子舞（東部葛西囃子睦会中村社中）
29. 1. 2　博物館に初もうで 2017 新春イベントニューイヤーオペラコンサート（カンターレ 2020）
29. 1. 3　博物館に初もうで 2017 新春イベント和太鼓（白梅太鼓）
29. 1. 3　博物館に初もうで 2017 新春イベント曲独楽・落語（三増紋之助他）
29. 1. 3　博物館に初もうで 2017 新春イベントクラリネット（ジュリアンズ）
29. 1. 3　博物館に初もうで 2017 新春イベント獅子舞（東部葛西囃子睦会中村社中）
29. 1. 8　新春東博寄席　金原亭馬生 他
29. 1.16　高円宮妃殿下　特別展「春日大社　千年の至宝」お成り
29. 1.18　上野「文化の杜」新構想の推進に向けた連絡会議
29. 1.27　国際シンポジウム専門家会議
29. 1.28　国際シンポジウム「日本美術をみせる-リニューアルとリノベーション-」（～1 月 29 日）
29. 1.30　国際シンポジウムワークショップ（～2 月 5 日）

29. 2. 6　秋篠宮同妃両殿下、眞子内親王殿下　特別展「春日大社　千年の至宝」お成り
29. 2.16　皇太子同妃両殿下　特別展「春日大社　千年の至宝」行啓
29. 2.16　特別展「春日大社　千年の至宝」10 万人セレモニー
29. 2.18　天皇皇后両陛下　特別展「春日大社　千年の至宝」行幸啓
29. 2.24　フライデー・ナイト・ミュージアム@上野
29. 2.25　寛仁親王妃信子殿下　特別展「春日大社　千年の至宝」お成り
29. 3. 7　彬子女王殿下　特別展「春日大社　千年の至宝」お成り
29. 3.10　東京国立博物館×東京･春･音楽祭　夜の音巡り～桜の街の音楽会スペシャル
29. 3.14　博物館でお花見を（～4 月 9 日）
29. 3.15　春の庭園開放（～5 月 7 日）
29. 3.22　東京･春･音楽祭 2017「東博でバッハ vol.32」御喜美江（アコーディオン）
29. 3.25　東京･春･音楽祭 2017「東博でバッハ vol.33」イェンス＝ペーター・マインツ（チェロ）
29. 3.28　東京･春･音楽祭 2017「東博でバッハ vol.34」北村朋幹（チェンバロ）
29. 3.31　東京･春･音楽祭 2017　桜の街の音楽会　ヴァイオリン・ソロ　林はるか（ヴァイオリン）
29. 3.31　フライデー・ナイト・ミュージアム@上野

（京都国立博物館）

年	月	日	記　　事
28.	4.	2	居合（～3 日）
28.	4.	6	テロ対策訓練
28.	4.	11	特別展覧会　「禅－心をかたちに」開会式、内覧会
28.	4.	12	特別展覧会　「禅－心をかたちに－」（～5 月 22 日の開館日）
28.	4.	12	特別展覧会　「禅－心をかたちに－ワークショップ」（～5 月 22 日）
28.	4.	12	特別展「禅に関するロビー講話」（～5 月 20 日までの 12 日間）
28.	4.	16	記念講演会「禅における＜心＞のかたち」
28.	4.	17	座禅会（～5 月 19 日までの 6 日間）
28.	4.	23	土曜講座「禅画と墨蹟－近世の禅林美術」
28.	4.	24	特別展覧会関連講演会　「禅と水墨画　雪舟と白隠を中心として」
28.	4.	29	特別展覧会関連イベント「声明―禅の祈り」
28.	4.	30	土曜講座「頂相彫刻の特質」
28.	5.	3	四頭茶会
28.	5.	4	記念シンポジウム　「日本国内における禅宗文化の受容と伝播」
28.	5.	7	土曜講座「仏師の古文書」
28.	5.	10	特別展「禅」来場者 5 万人セレモニー
28.	5.	13	京都・らくご博物館(春)～新緑寄席～
28.	5.	14	土曜講座「喫茶の広まりと寺院」
28.	5.	15	狂言　『にせ地獄』『でんでん虫』
28.	5.	18	Hijiya Music Club　コンサート
28.	5.	21	土曜講座「画僧の系譜－明兆から雪村まで－」
28.	6.	18	土曜講座「江戸幕府と京都の寺社復興」
28.	6.	25	ミュージアムキッズ！全国フェア 2016in せんだい「スタンプでうちわをデザインしよう!」（～6 月 26 日）
28.	6.	25	土曜講座「清時代の山水図屏風について」
28.	7.	2	土曜講座「家康ゆかりの女性と知恩院－母・於大と千姫－」
28.	7.	9	土曜講座「知恩院所蔵の古文書手鑑」
28.	7.	16	土曜講座「御所解文様を読みとく－きものに隠された物語－」
28.	7.	23	土曜講座「廻船問屋の土蔵が伝える木・竹・漆の文化財」
28.	7.	27	夏期講座「名品を旅する」（～7 月 29 日）
28.	8.	5	教員を対象とした研修　「大阪府高等学校美術工芸教育研究会　博物館・美大研修」
28.	8.	5	京都・らくご博物館（夏）～納涼寄席～
28.	8.	6	教員を対象とした研修　「文化財を教室に！－複製を活用した事例紹介と交流会－」
28.	8.	6	土曜講座「丹後の寺社縁起」
28.	8.	20	土曜講座「中世丹後の人と絵画－大陸の風、みやこの風－」
28.	8.	27	土曜講座「丹後のみほとけたち」
28.	9.	2	保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会
28.	9.	3	土曜講座「中世陶器の魅力」
28.	9.	7	日本展示学会　「2016 年度展示論講座－博物館の展示－」（～9 月 9 日）

28. 9. 9　留学生の日
28. 9. 10　土曜講座「描かれた『奥の細道』－蕪村から小野竹喬までー」
28. 9. 17　土曜講座「文化財の自然科学的研究と新しい技術」
28. 9. 24　土曜講座「梵鐘－今日もお寺の鐘がなるー」
28. 10. 1　土曜講座「桃山の茶陶－懐石の器ー」
28. 10. 1　ヒジヤミュージッククラブオータムコンサート 2016
28. 10. 5　普通救命講習
28. 10. 7　皇太子殿下行啓
28. 10. 8　音燈華コンサート
28. 10. 14　特別展覧会「没後 150 年　坂本龍馬」開会式、内覧会
28. 10. 15　特別展覧会「没後 150 年　坂本龍馬」（～11 月 27 日）
28. 10. 15　土曜講座「坂本竜馬の手紙を読む」
28. 10. 16　『時代劇は死なず　ちゃんばら美学考』上映会＋トークイベント
28. 10. 16　ミュージアムキッズフェア in みなみそうま「ドキドキ!刀にふれてみよう」
28. 10. 21　京都・らくご博物館（秋）～錦秋寄席～
28. 10. 22　土曜講座「坂本龍馬の愛刀と幕末の刀剣事情」
28. 10. 24　天皇皇后両陛下行幸啓
28. 10. 29　土曜講座「龍馬と坂本家」
28. 10. 29　児童生徒を対象とした鑑賞会「伊藤若冲　生誕 300 年記念　若冲　おしゃべり鑑賞会」
28. 11. 1　修理所巡回、修理者協議会
28. 11. 3　特別トークショー「刀剣乱舞-ONLINE-」
28. 11. 4　社会科教員のための向上講座「『坂本龍馬』について」
28. 11. 5　ミュージアム・ユースの交流会
28. 11. 5　土曜講座「龍馬と薩長盟約」
28. 11. 9　特別展「坂本龍馬」来場者 5 万人セレモニー
28. 11. 12　公開シンポジウム「文化財を防災から守る 2：今、そこにある危機　関西地域の災害と文化財」
28. 11. 12　土曜講座「幻の名陶　亀山焼」
28. 11. 15　月琴コンサート
28. 11. 19　土曜講座「パークス事件と残された刀」
28. 11. 22　平成 28 年度京都府文化財所有者等連絡協議会研修会
28. 11. 24　BSC 賞授賞式「平成知新館」
28. 11. 26　土曜講座「対談：林市郎右衛門と龍馬」
28. 12. 13　文化財防災ネットワーク推進事業　「中部・近畿文化財関係者による文化財防災連絡会議」
28. 12. 17　土曜講座「若冲のユーモア」
28. 12. 17　プチ・ミュージアムストリート 2016in せんだい「スタンプデ年賀状を作ろう!」
28. 12. 24　土曜講座「博物館の国際会議とは？－ICOM2016 ミラノ大会から 2019 京都大会へー」
28. 12. 31　開館 120 周年記念カウントダウン
29. 1. 2　新春・京博こと始め 2017「山口晃×佐々木丞平　覗いてみよう、山口晃の頭の中」

29. 1. 2　ヒジヤミュージッククラブ新春コンサート
29. 1. 3　餅つき大会
29. 1. 7　土曜講座「若冲の屏風に登場する動物たち」
29. 1. 8　芸舞妓　春の舞
29. 1. 14　土曜講座「十二類絵巻の魅力－言葉と絵と動物たち－」
29. 1. 21　土曜講座「泉湧寺ゆかりの仏像」
29. 1. 23　総合防火訓練
29. 1. 27　京都・らくご博物館（冬）～特別企画・ざこば一門会～
29. 1. 28　土曜講座「俊芿律師と泉湧寺」
29. 2. 4　土曜講座「涅槃図を楽しむ」
29. 2. 11　土曜講座「蔵王権現はなぜ数多く伝わるのか－三徳山と金峯山の事例から－」
29. 2. 18　土曜講座「梵鐘－今日もお寺の鐘がなる 2－」
29. 2. 25　土曜講座「文化財の複製と教育普及」
29. 3. 4　土曜講座「雛人形の美－京の雅と江戸の粋－」
29. 3. 11　土曜講座「万里小路宣房の法華経」
29. 3. 11　京都国立博物館 120 周年記念コンサート「－文化財を守り未来へ継承！3.11 を決意の日に！－」
29. 3. 18　京キャラ博・京都ほんまもん祭
29. 3. 25　開館 120 周年記念呈茶（～3 月 26 日）

（奈良国立博物館）

年　月　日	記　　事
28.　4.　8	特別展「国宝　信貴山縁起絵巻　朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」 開会式、特別招待日　（会期 4 月 9 日～5 月 22 日）
28.　4.　9	特別展「国宝　信貴山縁起絵巻」関連イベント　「『しぎとらくん』が奈良博にやってくる！」（4 月 9 日、4 月 16 日、4 月 30 日）
28.　4. 10	春の庭園散策ツアー（4 月 10 日、4 月 16 日）
28.　4. 12	賛助会員特別鑑賞会
28.　4. 17	サンデートーク「空海の舎利信仰の源流を求めて」
28.　4. 22	朝護孫子寺による講話「毘沙門天王信仰の欲と徳」
28.　4. 23	公開講座「後白河法皇の信仰世界－神仏との交歓－」
28.　4. 29	なら仏像館リニューアルオープン
28.　4. 30	親と子のワークショップ「『空とぶ鉢』のお話し絵巻をつくろう！」
28.　5.　5	名品展無料観覧日（こどもの日）
28.　5.　7	公開講座「信貴山縁起絵巻と朝護孫子寺の毘沙門天王信仰」
28.　5. 10	朝護孫子寺による講話「信貴山の毘沙門天王」
28.　5. 12	朝護孫子寺による講話「福の神様　毘沙門天王」
28.　5. 13	春季仏像供養法要
28.　5. 15	サンデートーク「大峯山寺蔵王権現像と平安・鎌倉時代の金銅仏制作」
28.　5. 18	名品展無料観覧日（国際博物館の日）
28.　5. 20	特別展「国宝　信貴山縁起絵巻　朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」来場者 5 万人セレモニー
28.　5. 21	公開講座「信貴山縁起絵巻について」
28.　6.　7	特別陳列「和紙－近代和紙の誕生－」（～7 月 3 日） 第 1 回陳列品鑑査会
28.　6. 18	座談会「近代和紙の誕生」 紙漉き実演（6 月 18 日～6 月 19 日）
28.　6. 19	サンデートーク「白鳳期菩薩像にみる特異な着衣形式について」
28.　7.　8	夏季仏像供養法要
28.　7. 17	サンデートーク「文化財を科学するⅢ」
28.　7. 22	生誕 800 年記念特別展「忍性　－救済に捧げた生涯－」 開会式、特別招待日（会期 7 月 23 日～9 月 19 日）
28.　7. 26	賛助会員特別鑑賞会
28.　7. 30	『忍性展』子ども無料日イベント「描いて飾ろう文殊菩薩～忍性のきもちになって～」
28.　7. 31	『忍性展』子ども無料日イベント「きく！みる！ふれる！東征伝絵巻」
28.　8.　1	第 1 回評議員会
28.　8.　6	公開講座「日本仏教史上における忍性－鎌倉版マザー・テレサ」
28.　8. 17	夏季講座「律宗の歴史と美術－鑑真から忍性へ」（～8 月 19 日まで）
28.　8. 21	サンデートーク「再発見された平安時代の古文書二通　－民部省符と東大寺注進状案」

28. 8. 27　公開講座「忍性と極楽寺の仏像」
28. 9. 10　公開講座「三つの忍性墓について」
28. 9. 18　サンデートーク「南都絵所の仕事」
28. 9. 19　名品展無料観覧日（敬老の日）
28. 9. 26　正倉院展無障碍祈願法要
28. 9. 28　秋季仏像供養法要
28. 10. 5　第2回陳列品鑑査会
28. 10. 16　サンデートーク「世界の火葬から」
28. 10. 21　特別展「第68回 正倉院展」
開会式、特別招待日（会期10月22日～11月7日）
28. 10. 22　公開講座「正倉院宝物の平脱・平文」
28. 10. 23　第68回正倉院展 親子鑑賞会
28. 10. 24　賛助会員特別鑑賞会
28. 10. 29　公開講座「正倉院に納められた銭貨をめぐって」
28. 10. 31　特別展「第68回 正倉院展」来場者10万人セレモニー
28. 11. 1　第3回陳列品鑑査会
留学生の日
28. 11. 3　正倉院学術シンポジウム2016「正倉院正倉」
28. 11. 5　公開講座「正倉院の荘厳具－大幡に寄せて－」
28. 11. 19　奈良トライアングルミュージアムズワークショップ「写仏散華づくり」
名品展無料観覧日（関西文化の日）（～11月20日）
28. 11. 20　サンデートーク「平安時代の宮中仏事」
28. 11. 26　秋の庭園散策
28. 12. 4　奈良トライアングルミュージアムズ東京セミナー「冬の奈良と奈良国立博物館の楽しみ」
28. 12. 9　正倉院展満願法要
28. 12. 10　特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」（～平成29年1月15日）
28. 12. 13　第4回陳列品鑑査会
28. 12. 17　名品展無料観覧日（おん祭お渡り式の日）
おん祭と春日信仰の美術「茶会」
28. 12. 18　サンデートーク「仏像調査からわかること　その４　－圓教寺奥乃院の諸尊－」
28. 12. 23　特集展示「新たに修理された文化財」（～平成29年1月15日）
28. 12. 27　第5回陳列品鑑査会
29. 1. 8　サンデートーク「海を渡った鏡」
29. 1. 12　文化財保存修理所特別公開
29. 1. 15　公開講座「奈良奉行と春日若宮祭礼」
29. 1. 25　冬季仏像供養法要
29. 1. 27　第63回文化財防火デー消防訓練
29. 2. 3　名品展無料観覧日（節分の日）
29. 2. 4　コンサート「Daiwa Sakura presents『冬の桜』」
29. 2. 7　特別陳列「お水取り」（～3月14日）

29. 2. 9　第6回陳列品鑑査会
29. 2. 11　お水取り「講話」と「粥」の会
29. 2. 17　買取等協議会、買取等評価会
29. 2. 18　公開講座「修二会（お水取り）」
29. 2. 19　サンデートーク「法螺話」
29. 3. 7　第2回評議員会
29. 3. 12　「奈良国立博物館文化大使　笑い飯 哲夫のおもしろ仏教講座」
29. 3. 19　サンデートーク「奈良県技師が生んだ名建築　仏教美術資料研究センター（旧奈良県物産陳列所）の魅力」

（九州国立博物館）

年	月	日	記事
28.	4.	7	特別展「始皇帝と大兵馬俑」５万人セレモニー
28.	4.	15	きゅーはくカフェコンサート
28.	4.	16	熊本地震（4 月 14 日発生）による交通機関不通のため休館
28.	4.	17	第 58 回はじめての茶道体験
28.	4.	24	第 1 回みゅーじあむ寄席「柳家さん喬独演会＆研究員とのトークイベント」
28.	4.	29	ミュージアムコンサート「はらのむしのうたげ」
28.	5.	7	なりきり学芸員体験
28.	5.	12	特別展「始皇帝と大兵馬俑」１０万人セレモニー
28.	5.	12	スーパーハイビジョンシアター１００万人突破
28.	5.	14	第 1 回　ガムランワークショップ
28.	5.	14	ガムランワークショップ連続講座（第 1 回）
28.	5.	18	文化交流展無料観覧日（国際博物館の日）
28.	5.	21	なりきり考古学者体験
28.	5.	22	第 65 回親子で茶道体験
28.	5.	26	第 35 回全国美術館会議総会（～5 月 27 日）
28.	5.	27	きゅーはくカフェコンサート
28.	5.	28	きゅーはくミュージアムコンサート“WONDERFUL WORLD”木下航志ソロライブ
28.	5.	29	第 59 回はじめての茶道体験
28.	6.	2	特別展「始皇帝と大兵馬俑」１５万人セレモニー
28.	6.	10	きゅーはくカフェコンサート
28.	6.	11	なりきり学芸員体験
28.	6.	18	第 2 回　ガムランワークショップ
28.	6.	18	ガムランワークショップ連続講座（第 2 回）
28.	6.	19	第 60 回はじめての茶道体験
28.	6.	26	きゅーはくミュージアムコンサート「はらのむしとゴスペル」
28.	6.	26	第 66 回親子で茶道体験
28.	6.	28	博多祇園山笠関連展示「もうすぐ飾り山笠がやってくる」（～8 月 10 日）
28.	7.	2	きゅーはくミュージアムコンサート　やっぴい博士のサイエンスラボ もうすぐ夏休みスペシャル「星と宇宙のタイムトラベル」
28.	7.	2	きゅーはくミュージアムコンサート　「星と宇宙のタイムトラベル」関連ワークショップ「作ってみよう☆小さなプラネタリウム」
28.	7.	8	「きゅーはくカフェコンサート」with ゆかた de 太宰府～古都の夏～
28.	7.	9	第 3 回　ガムランワークショップ
28.	7.	9	ガムランワークショップ連続講座（第 3 回）
28.	7.	10	韓国伝統芸能へのいざない
28.	7.	12	トピック展示「火縄銃の世界」（～9 月 4 日）
28.	7.	12	熊本地震復興応援イベント「熊本県・大分県観光ＰＲ展示」（～7 月 24 日）
28.	7.	15	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」開会式および内覧会
28.	7.	15	衆議院文部科学委員会視察
28.	7.	16	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」開催（～8 月 28 日）
28.	7.	17	第 67 回親子で茶道体験
28.	7.	17	熊本地震復興応援イベント「くまモン隊ステージ in きゅーはく」
28.	7.	20	トピック展示「全国高等学校考古名品展」（～9 月 25 日）

28. 7. 23　きゅーはく子ども向け夏休みイベント　いこうよ！あじっぱ夏祭り（～7 月 24 日）
28. 7. 24　第 61 回はじめての茶道体験　with ゆかた de 太宰府～古都の夏～
28. 7. 31　第 4 回　ガムランワークショップ
28. 7. 31　ガムランワークショップ連続講座（第 4 回）
28. 8. 4　日中友好文化交流会日中書画展開会式
28. 8. 4　日中友好文化交流会　日中書画展（～8 月 7 日）
28. 8. 5　特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」５万人セレモニー
28. 8. 6　考古学者になろう！弥生人になろう！拓本作りと古代の衣装体験
全国高等学校考古学フォーラム 2016
28. 8. 7　第 2 回みゅーじあむ寄席「夢で会いましょう」
ドイツ連邦議会副議長視察
28. 8. 9　ツイッター―の配信開始
28. 8. 11　きゅーはくミュージアムコンサート「東山魁夷が愛したモーツァルト」
28. 8. 20　第 62 回はじめての茶道体験
28. 8. 21　第 68 回親子で茶道体験
28. 8. 23　第 1 回評議員会
28. 8. 23　特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」１０万人セレモニー
28. 8. 25　飾り山笠御神入れ
28. 8. 26　きゅーはくカフェコンサート
28. 8. 27　なりきり考古学者体験　スペシャル・バージョン！
水中考古学フォーラム「世界の水中遺跡を考える」　～保護と活用について～
28. 9. 11　きゅーはくミュージアムコンサート
やっぴぃ博士のサイエンスラボ　「アニマルマジック～生き物は偉大なるエンジニア～」
28. 9. 11　第 69 回親子で茶道体験
28. 9. 13　全館停電日
28. 9. 14　トピック展示「有田焼創業 400 年記念　旧家の暮らしを彩った器－古伊万里」（～11 月 6 日）
28. 9. 14　トピック展示「有田焼創業 400 年記念　旧家の暮らしを彩った器－古伊万里」プレスプレビュー
28. 9. 17　熊本地震復興応援イベント第 2 弾「清和文楽公演」
28. 9. 17　なりきり考古学者体験　スペシャルバージョン！
28. 9. 18　第 63 回はじめての茶道体験
28. 9. 19　文化交流展無料観覧日（敬老の日）
28. 9. 21　文化庁次長視察
28. 9. 25　太宰府　古都の光（１７時半以降　文化交流展無料観覧）
28. 9. 30　きゅーはくカフェコンサート
28. 10. 1　ガムランワークショップ連続講座（第 5 回）
28. 10. 2　第 70 回親子で茶道体験
九州国立博物館杯第 5 回さいふごま大会
28. 10. 3　特別展「京都　高山寺と明恵上人－特別公開　鳥獣戯画－」開会式および内覧会
28. 10. 4　特別展「京都　高山寺と明恵上人－特別公開　鳥獣戯画－」開催（～11 月 20 日）
28. 10. 8　なりきり学芸員体験
28. 10. 9　第 64 回はじめての茶道体験
28. 10. 11　トピック展示「海の王都・原の辻遺跡と壱岐の至宝～東アジアの交流の歴史～」（～12 月 4 日）

28. 11. 3　文化交流展無料観覧日（留学生の日）※留学生のみ
第 7 回留学生イベント　留学生向け「文化交流ツアーin 九博」
28. 11. 4　特別展「京都　高山寺と明恵上人－特別公開　鳥獣戯画－」１０万人セレモニー
28. 11. 9　秋篠宮同妃両殿下お成り
28. 11. 15　トピック展示「きらめきで飾る－螺鈿の優品をあつめて－」（～12 月 23 日）
28. 11. 19　なりきり考古学者体験
28. 11. 20　文化交流展無料観覧日（家族の日）※中学生以下のお子様とご一緒にお越しの方 2 名まで
28. 11. 22　瀋陽故宮博物院学術文化交流協定締結
28. 11. 27　第 71 回親子で茶道体験
28. 12. 2　きゅーはくカフェコンサート
28. 12. 4　独立行政法人 国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」公開シンポジウム　地域と共に考える文化財の防災・減災Ⅲ「熊本地震と文化財レスキュー」
28. 12. 6　日米文化交流会議（カルコン）美術対話委員会シンポジウム
「世界と日本美術(アート）～2000 年以降の動向を中心に～」
28. 12. 10　なりきり学芸員体験
28. 12. 10　第 72 回親子で茶道体験
28. 12. 11　第 65 回はじめての茶道体験
28. 12. 18　「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録記念イベント
戸畑祇園大山笠展示及び記念セレモニー
28. 12. 20　「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録記念イベント戸畑祇園大山笠展示（～29 年 2 月 19 日）
28. 12. 26　特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」開会式および内覧会
29. 1. 1　特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」開催（～3 月 5 日）
29. 1. 1　特別展示「初音の調度」（～1 月 29 日）
29. 1. 1　正月企画「2017 人の笑顔で作る富士山モザイクアート展示」（～1 月 9 日）
29. 1. 1　元旦限定！九博オリジナル「初夢おはじき」プレゼント
29. 1. 2　開運アトラクション「にぎわい座」新春公演
29. 1. 3　幸運をつかもう！「鷹匠フライトショー」
29. 1. 3　正月企画「古代人による古代米梅ヶ枝餅のふるまい」
29. 1. 3　正月企画「古代米甘酒の試飲販売」
29. 1. 21　なりきり考古学者体験
29. 1. 21　第 66 回はじめての茶道体験
29. 1. 21　バックヤードツアー特別公開「博物館科学・文化財保存修復施設」
29. 1. 22　第 73 回親子で茶道体験
九州国立博物館杯第 6 回さいふごま大会
29. 2. 6　消防避難訓練（職員向け）
29. 2. 10　きゅーはくカフェコンサート
29. 2. 12　平成 28 年度日中韓文化遺産フォーラム「水中文化遺産の保護と活用」
29. 2. 17　特別展「宗像と大和朝廷」５万人セレモニー
29. 2. 18　九州国立博物館「大宰府学研究」事業・熊本県「古代山城に関する研究会」事業合同シンポジウム「徹底追及！大宰府と古代山城の誕生」（～2 月 19 日）
29. 2. 18　なりきり考古学者体験
29. 2. 21　筑紫地区小学校児童画展（～2 月 26 日）
29. 2. 21　手すり（館外北側斜面に設置）及び桜の贈呈式、植樹式
29. 2. 25　第 74 回親子で茶道体験

29. 2. 25 やっぴぃ博士のサイエンスラボミッションやっぴぃ博士と海のフシギを調査せよ!!
29. 2. 26 第 67 回はじめての茶道体験
第 9 回九博子どもフェスタ〜博物館って ともだちだ！〜
29. 2. 28 第 2 回評議員会
29. 2. 28 平成 28 年度筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見〜うつりゆく風景〜」（〜3 月 5 日）
29. 3. 4 きゅーはく女子考古部 presents 古代の宴へようこそ！
29. 3. 5 第 5 回　ガムランワークショップ
29. 3. 14 きゅーはく夜の博物館を灯す光のオブジェをつくろう（〜3 月 19 日）
29. 3. 18 なりきり学芸員体験
第 3 回みゅーじあむ寄席「虫も目覚める春がきた！」
29. 3. 19 第 75 回親子で茶道体験
29. 3. 20 第 68 回はじめての茶道体験
29. 3. 24 きゅーはくカフェコンサート

（東京文化財研究所）

年　月　日	記　　事
28.　4.　5	総合研究会第1回「黒田清輝の画業－フランス／日本の移動の観点から」
28.　4. 21	文化財情報資料部研究会第1回「黒田清輝宛五姓田義松書簡を読む―作家像、東京美術学校、明治洋画史―」
28.　5. 14	研究会「アート・アーカイブの今」
28.　5. 26	拠点交流事業（太平洋島しょ国）：第1回「カヌーサミット」
28.　5. 27	東京文化財研究所新任職員研修19名
28.　5. 31	文化財情報資料部研究会第 2 回「滋賀・鶏足寺七仏薬師如来像の造像をめぐる一考察」
28.　6.　7	総合研究会第2回「気候変動に立ち向かう文化遺産」
28.　6. 10	染織品の保存と修復に関する研究会Ⅰ「染織品の保存と展示」（東京国立博物館）
28.　6. 16	保存担当学芸員フォローアップ研修
28.　6. 20	一般社団法人日本分析機器工業会15名　施設見学
28.　6. 24	国際交流基金平成28年度中央アジアシンポジウム招へい15名　施設見学
28.　6. 28	文化財情報資料部研究会第3回「栗原玉葉に関する基礎研究―その生涯と作品について―」
28.　7.　5	総合研究会第3回「売立目録のデジタル化事業について」
28.　7.　6	ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」基礎編「日本の紙本・絹本文化財」（ベルリン国立博物館アジア美術館）（～7月8日）
28.　7. 10	第40回世界遺産委員会参加（トルコ・イスタンブール）（～7月15日、17日）
28.　7. 11	博物館・美術館等保存担当学芸員研修（～7月22日）
28.　7. 11	ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」応用編「掛軸の修復」（ベルリン国立博物館アジア美術館）（～7月15日）
28.　8. 29	国際研修「紙の保存と修復」（～9月16日）
28.　8. 30	研究発表：「韓日無形遺産研究交流成果発表会」（韓国国立無形遺産院）
28.　8. 30	文化財情報資料部研究会第4回「黒田清輝宛、養母黒田貞子書簡の翻刻と解題」
28.　8. 31	「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」事業実行委員会11名　施設見学
28.　9.　6	第1回情報セキュリティ研修「東京文化財研究所のネットワークセキュリティの現状」
28.　9. 14	ICCROM国際研修「紙の保存と修復」研修生10名、通訳1名　研修及び施設見学
28.　9. 18	近代産業遺産（美術工芸品）に関する海外事例調査事業：ヨーロッパ調査（～10月7日）
28.　9. 21	金沢美術工芸大学芸術学専攻2年生15名、引率教員2名　施設見学
28.　9. 25	文化遺産国際協力コンソーシアム設立10周年記念シンポジウム「文化遺産からつながる未来」及び特別講演会「ミャンマーにおける文化遺産保護の現状と課題」（共催・文化庁、国際交流基金アジアセンター）
28.　9. 26	文化遺産国際協力コンソーシアム特別講演会登壇者2名　施設見学
28. 10.　3	文化財情報資料部研究会第5回「広島で地球を針治療する――ロベルト・ヴィリャヌエヴァ、キャリア最後の エコ・アート」

28. 10. 4　拠点交流事業（ネパール）：コカナのシカリ祭を対象とする無形文化遺産調査（～10月9日）
28. 10. 17　無形文化遺産の伝承に関する研究会Ⅲ「現在に伝わる明治の超絶技巧」（共催・泉屋博古館）（～10月18日）
28. 10. 25　文化財情報資料部研究会第6回「慶長期後半から寛永期前半にかけて流行した漆器文様・技法―絵画資料と伝世漆器との対話―」
28. 10. 25　専門家交流（ミャンマー）：建築構造物の被災状況等に関する調査（～11月10日）
28. 11. 1　第2回情報セキュリティ研修「マルウェアについて」
28. 11. 4　第５０回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」（～11月5日）
28. 11. 7　株式会社乃村工藝社23名　施設見学
28. 11. 9　国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」（CNCPC-INAH）（～11月25日）
28. 11. 17　文化庁美術工芸品修理技術者講習会32名　施設見学
28. 11. 20　専門家交流（シリア）：シンポジウム「シリア内戦と文化遺産―世界遺産パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援―」（東京国立博物館）
28. 11. 23　専門家交流（シリア）：シンポジウム「シリア内戦と文化遺産―世界遺産パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援―」（奈良・東大寺金鐘ホール）
28. 11. 30　ワークショップ「漆工品の保存と修復」応用編「漆工品の調査と保存・展示環境」（ケルン市博物館東洋美術館）（～12月3日）
28. 11. 30　JALプロジェクト「海外における日本美術関係資料担当者との交流会」
28. 12. 5　共立女子大学家政学部2名　施設見学
28. 12. 6　ワークショップ「漆工品の保存と修復」応用編「呂色上げと加飾技法」（ケルン市博物館東洋美術館）（～12月10日）
28. 12. 8　文化財情報資料部研究会第7回「黒田清輝宛山本芳翠書簡　翻刻と解題」
28. 12. 9　第11回無形民俗文化財研究協議会「無形文化遺産と防災―リスクマネジメントと復興サポート」
28. 12. 20　ワークショップ「文化財写真に関するワークショップ」
28. 12. 22　第3回情報セキュリティ研修「迷惑メール対策～あなたはいつも狙われている～」
28. 12. 22　総合防災訓練
29. 1. 10　総合研究会第4回「壁画と保存修復の世界」
29. 1. 12　文化財情報資料部研究会第8回「WordPressを利用した動的ウェブサイトの構築と効果：ウェブ版「物故者記事」および「美術界年史（彙報）」を事例として」「栗原玉葉の画業におけるキリスト教画題作品の意義」
29. 1. 13　牧園大學校微生物ナノ素材学科3年生8名　施設見学
29. 1. 18　第11回無形文化遺産部公開学術講座「麻のきもの　絹のきもの」（共催・文化学園服飾博物館）
29. 1. 23　染織品の保存と修復に関する研究会Ⅱ「染織品の展示と修復」（京都国立博物館）
29. 1. 31　文化財情報資料部研究会第9回「《模型千円札》をめぐる赤瀬川原平の理論形成に関する予備的考察」
29. 2. 7　総合研究会第5回「近代化遺産の世界」
29. 2. 13　公益財団法人文化財建造物保存技術協会6名、公益財団法人和歌山県文化財センター1名、京都府1名、株式会社文化財保存計画協会1名、財団法人京都伝統建築技術協

会1名　施設見学

29. 2. 13　研究会「考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築」

29. 2. 15　専門家交流（ミャンマー）：壁画の被災状況等に関する調査（～2 月 20 日、22 日～28 日）

29. 2. 20　「保存と活用のための展示環境」に関する研究会″次世代の美術館・博物館照明方針を考える－LED・有機 EL 照明の活用に向けて－″

29. 2. 21　拠点交流事業（ネパール）：研究会「2015 年ネパール地震の被災文化遺産の修復」

29. 2. 23　第 30 回近代文化遺産の保存理念と修復理念に関する研究会

29. 2. 24　文化財情報資料部研究会第 10 回「甲賀市藤栄神社所蔵の十字形洋剣に対する検討」

29. 3. 4　公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」（～3 月 5 日）

29. 3. 5　近代産業遺産（美術工芸品）に関する海外事例調査事業：アメリカ調査（～3 月 16 日）

29. 3. 9　安全衛生講習会

29. 3. 20　拠点交流事業（太平洋島しょ国）：カヌー文化研究会

29. 3. 27　凸版印刷株式会社 2 名　施設見学

29. 3. 28　文化財情報資料部研究会第 11 回「遊行上人縁起絵の諸相」

29. 3. 29　研究会「イラン文化遺産セミナー」

29. 3. 29　エントランスロビーパネル展示「無形文化遺産の防災」

（奈良文化財研究所）

年　月　日	記　　事
28.　4.　9	第 14 回平城宮跡クリーン大会実施
28.　4. 26	飛鳥資料館春期特別展「文化財を撮る―写真が遺す歴史」（～7 月 3 日）
28.　5. 15	藤原京右京九条二・三坊の発掘調査（飛鳥藤原第 187 次調査）の現地見学会
28.　5. 21	「プラネタリウムで考古学～星空とキトラ古墳のナゾにせまる～（多摩六都科学館）
28.　6.　6	文化財担当者専門研修「建築遺構調査課程」（～6 月 10 日）
28.　6. 11	平城京二条大路・朱雀大路跡の発掘調査(平城第 566 次調査)の現地見学会
28.　6. 18	奈良文化財研究所　第１１８回公開講演会
28.　6. 20	文化財担当者専門研修「古書歴史資料調査基礎課程」（～6 月 24 日）
28.　7. 25	文化財担当者専門研修「人骨・動物骨調査課程」（～7 月 29 日）
28.　7. 26	平成 28 年度飛鳥資料館夏期企画展「第 7 回写真コンテスト 飛鳥の石」（～8 月 31 日）
28.　7. 30	文化的景観研究集会（～7 月 31 日）
28.　8. 29	文化財担当者専門研修「地質考古調査課程」（～9 月 2 日）
28.　9.　3	講演会　英国発！グローバル考古学
28.　9.　6	文化財担当者専門研修「遺跡情報記録調査課程」（～9 月 9 日）
28.　9. 12	文化財担当者専門研修「文化的景観調査計画課程」（～9 月 16 日）
28.　9. 17	東院庭園観月会
28.　9. 24	「キトラ古墳壁画体験館四神の館」開館
28.　9. 24	国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第 15 回）について（～9 月 30 日）
28.　9. 24	キトラ古墳壁画の公開について（第 1 回）（～10 月 23 日）
28.　9. 26	文化財担当者専門研修「地質・年代調査課程」（～9 月 30 日）
28. 10.　2	藤原宮朝堂院朝庭の発掘調査（飛鳥藤原第 189 次調査）の現地説明会
28. 10.　7	飛鳥資料館秋期特別展「祈りをこめた小塔」（～12 月 4 日） ※講演会（11 月 26 日）　※ギャリートーク１回実施
28. 10.　8	東大寺東塔院跡発掘現場説明会
28. 10. 11	文化財担当者専門研修「保存科学Ⅰ（金属製遺物）課程」（～10 月 19 日）
28. 10. 15	平城宮跡資料館秋期特別展「地下の正倉院展 式部省木簡の世界―役人の勤務評価と昇進―」（～11 月 27 日）※ギャラリートーク 3 回実施
28. 11.　5	奈良文化財研究所　第１１９回公開講演会
28. 11. 13	第 8 回東京講演会「飛鳥むかしむかし」
28. 11. 14	文化財担当者専門研修「土器・陶磁器調査課程」（～11 月 18 日）
28. 11. 23	シンポジウム「シリア内戦と文化遺産―世界遺産パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援―」
28. 11. 23	遺跡見学＆乾拓体験会
28. 11. 28	全国遺跡報告総覧シンポジウム
28. 11. 28	文化財担当者専門研修「文化財写真課程」（～12 月 8 日）
28. 12.　8	文化財担当者専門研修「報告書作成課程」（～12 月 16 日）
28. 12.　9	第 20 回古代官衙・集落研究集会「郡庁域の空間構成」（～12 月 10 日）
28. 12. 16	平成 28 年度 遺跡整備・活用研究集会

29. 1. 16　文化財担当者専門研修「中近世城郭調査整備課程」（～1 月 20 日）
29. 1. 21　国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第 16 回）について（～1 月 27 日）
29. 1. 22　キトラ古墳壁画の公開について（第 2 回）（～2 月 19 日）
29. 1. 24　平成 28 年度飛鳥資料館冬期企画展 「飛鳥むかしむかし 早川和子原画展」（～3 月 20 日）
29. 1. 28　藤原宮大極殿院の発掘調査（飛鳥藤原第 190 次調査）の現地説明会
29. 2. 4　平城宮跡資料館春期企画展「発掘速報展 平城 2016」（～4 月 2 日）
※ギャラリートーク４回実施
29. 2. 4　第 17 回古代瓦研究会シンポジウム（～2 月 5 日）
29. 2. 13　文化財担当者専門研修「保存科学Ⅳ（遺構・石造文化財）課程」（～2 月 17 日）
29. 3. 3　保存科学研究集会 2016「文化財調査におけるイメージング技術の諸問題」
29. 3. 7　文化財担当者特別研修「デジタル写真課程」（～3 月 10 日）
29. 3. 13　文化財担当者特別研修「報告書公開活用課程」（～3 月 15 日）

（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

年　月　日	記　　事
28. 4. 12	マハー・チャクリ・シリントーン王女人類学センター（タイ）　13名　来所
28. 5. 12	中国C2センター（CRIHAP）・ユネスコ北京事務所主催“Workshop on Capacity Building for Transmission and Sustainable Development of Traditional Craftsmanship”への参加（深セン,中国）（～5月16日）
28. 5. 30	無形文化遺産保護条約第6回締約国会議への参加（～6月1日）（パリ,フランス）
28. 6. 3	無形文化遺産分野C2センター第4回調整会議への参加（パリ、フランス）
28. 7. 3	国際博物館会議（International Council of Museums：ICOM）ミラノ大会への参加（～7月9日）
28. 9. 28	アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）第5回運営理事会（大阪国際会議場）
28. 10. 10	「2016年度北東アジア無形文化遺産保護会議：無形文化遺産の保護の理解増進におけるメディアの役割」（～10月12日）への参加（ウランバートル、モンゴル）
28. 11. 18	“2016 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region”（サンスクエア堺）（～11月19日）
28. 11. 19	無形文化遺産国際シンポジウム - 技と心を受け継ぐ - （サンスクエア堺）
28. 11. 28	シンガポールNational Heritage Board 3名との会合（東京国立博物館）
28. 12. 15	“Working Group Session for IRCI Final Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region”（ Vietnam National Institute of Culture and Arts Studies (VICAS),ハノイ、ベトナム）（～12月16日）
28. 12. 15	韓国C2センター（ICHCAP）第9回運営理事会（ソウル,韓国）への参加
29. 2. 23	中国C2センター（CRIHAP）第6回運営理事会（北京, 中国）への参加
29. 3. 1	文化遺産国際協力コンソーシアム（東京文化財研究所）にて発表
29. 3. 5	カンボジア文化芸術省総合局副局長〔無形文化遺産担当〕　3名来所
29. 3. 13	ICOMOS University Forum Workshop on Authenticity and Reconstruction（パリ、フランス）への参加（～3月15日）

Ⅶ 運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図・役職員名簿

独立行政法人国立文化財機構運営委員会委員名簿

（平成 29 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
石　澤　　良　昭	上智大学アジア人材養成研究センター所長	委員長
清　水　　眞　澄	三井記念美術館長	副委員長
安　藤　　裕　康	独立行政法人国際交流基金理事長	
今　村　　峯　雄	国立歴史民俗博物館名誉教授 総合研究大学院大学名誉教授	
風　岡　　典　之	宮内庁長官	
神　居　　文　彰	平等院住職	
唐　池　　恒　二	九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長	
佐　藤　　宗　諄	奈良女子大学名誉教授	
佐　藤　　禎　一	国際医療福祉大学大学院教授	
白　石　　太一郎	大阪府立近つ飛鳥博物館長	
田　辺　　征　夫	公益財団法人大阪府文化財センター理事長	
檀　　ふ　み	女優	
林　田　　ス　マ	公益財団法人大野城まどかぴあ館長	
藤　井　　譲　治	京都大学名誉教授	
馬　渕　　明　子	独立行政法人国立美術館理事長	

・各館の評議員会評議員名簿

東京国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 29 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
大　沼　　淳	学校法人文化学園理事長	会長
浦　井　正　明	寛永寺長臈	副会長
阿　部　充　夫	東京国立博物館名誉館長	
江　本　敏　男	東京都立上野高等学校長	
小　寺　正　樹	台東区立忍岡中学校長	
小　西　祐　一	台東区立根岸小学校長	
嶋　田　実名子	個人情報保護委員会委員	
中　井　敬　三	東京都教育委員会教育長	
野　木　肇　雄	東日本旅客鉄道株式会社上野駅長	
服　部　征　夫	台東区長	
福　原　義　春	株式会社資生堂名誉会長	
二　木　忠　男	上野観光連盟会長	
馬　渕　明　子	独立行政法人国立美術館国立西洋美術館長	
宮　田　亮　平	東京藝術大学長	
室　瀬　和　美	漆芸家・重要無形文化財「蒔絵」保持者	
山　田　五　郎	編集者・評論家	
リサ・ステッグマイヤー	タレント	
林　原　行　雄	立命館大学経済学部客員教授	

京都国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 29 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
藤　井　　譲　治	京都大学名誉教授／石川県立歴史博物館長	会長
柳　原　　正　樹	独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館長	副会長
池　坊　　専　好	華道家元池坊次期家元	
神　居　　文　彰	平等院住職	
後　藤　　典　生	高台寺執事長	
鈴　鹿　　可奈子	株式会社聖護院八ツ橋総本店専務取締役	
住　友　吉左衛門	公益財団法人住友財団理事長	
高　橋　　隆　博	関西大学名誉教授／関西大学なにわ大阪研究センター特別顧問	
竹　下　　景　子	俳優	
辻　　弘　嗣	株式会社京都ホテル顧問	
中　本　　晃	株式会社島津製作所代表取締役会長	
藤　田　　裕　之	京都市副市長	
森　口　　邦　彦	染織作家　重要無形文化財「友禅」保持者	
湯　山　　賢　一	独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館長	
冷　泉　　貴実子	公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事	

奈良国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 29 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
森　本　　公　誠	東大寺長老	会長
田　辺　　征　夫	公益財団法人大阪府文化財センター理事長	副会長
植　野　　康　夫	株式会社南都銀行取締役会長	
大　野　　玄　妙	聖徳宗管長・法隆寺住職	
花山院　　弘　匡	春日大社宮司	
河　瀬　　直　美	映画監督	
栄　原　　永遠男	大阪歴史博物館長	
佐々木　　丞　平	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館長	
杉　本　　一　樹	宮内庁正倉院事務所長	
多　川　　俊　映	興福寺貫首	
檀　　ふ　み	女優	
東　野　　治　之	奈良大学文学部教授	
中　野　　聖　子	株式会社ホテルサンルート奈良代表取締役社長	
村　田　　崇	奈良県地域振興部長	
松　村　　恵　司	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所長	
山　口　　昌　紀	近鉄グループホールディングス株式会社 取締役相談役	

九州国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 29 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
唐　池　　恒　二	九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長	会長
高　倉　　洋　彰	西南学院大学名誉教授	副会長
阿　川　　佐和子	文筆家	
芦　刈　　茂	太宰府市長	
今泉　　今右衛門	陶芸作家	
大　曲　　昭　恵	福岡県副知事	
王　　貞　治	福岡ソフトバンクホークス株式会社取締役会長	
太　田　　瑞穂子	国際ソロプチミストアメリカ日本南リジョン（九州・沖縄地区）ガバナー	
川　崎　　隆　生	株式会社西日本新聞社代表取締役社長	
高　良　　倉　吉	琉球大学名誉教授	
城　本　　勝	ＮＨＫ福岡放送局長	
西高辻　　信　良	太宰府天満宮宮司	
林　田　　ス　マ	公益財団法人大野城まどかぴあ館長	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会委員名簿

（平成 29 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
小　林　　忠	学習院大学名誉教授･岡田美術館館長	委員長
河　合　　正　朝	慶應義塾大学名誉教授・千葉市美術館館長	副委員長
鮎　川　　眞　昭	公認会計士	
石　川　　日出志	明治大学文学部教授	
岡　田　　保　良	国士舘大学イラク古代文化研究所教授	
齋　藤　　努	国立歴史民俗博物館研究部教授	
榊　原　　悟	岡崎市美術博物館館長	
坂　本　　弘　子	朝日新聞社執行役員名古屋本社代表	
佐　藤　　信	東京大学大学院人文社会系研究科教授	
玉　蟲　　敏　子	武蔵野美術大学造形学部教授	
名児耶　　明	公益財団法人五島美術館 常務理事・副館長兼学芸部長	
浜　田　　弘　明	桜美林大学教授	
藤　田　　治　彦	大阪大学大学院文学研究科教授	
柳　林　　修	元読売新聞編集委員	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

博物館調査研究等部会委員名簿

（平成 29 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
河　合　　正　朝	慶應義塾大学名誉教授 千葉市美術館館長	部会長
榊　原　　悟	岡崎市美術博物館館長	
名児耶　　明	公益財団法人五島美術館 常務理事・副館長兼学芸部長	
浜　田　　弘　明	桜美林大学教授	
藤　田　　治　彦	大阪大学大学院文学研究科教授	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

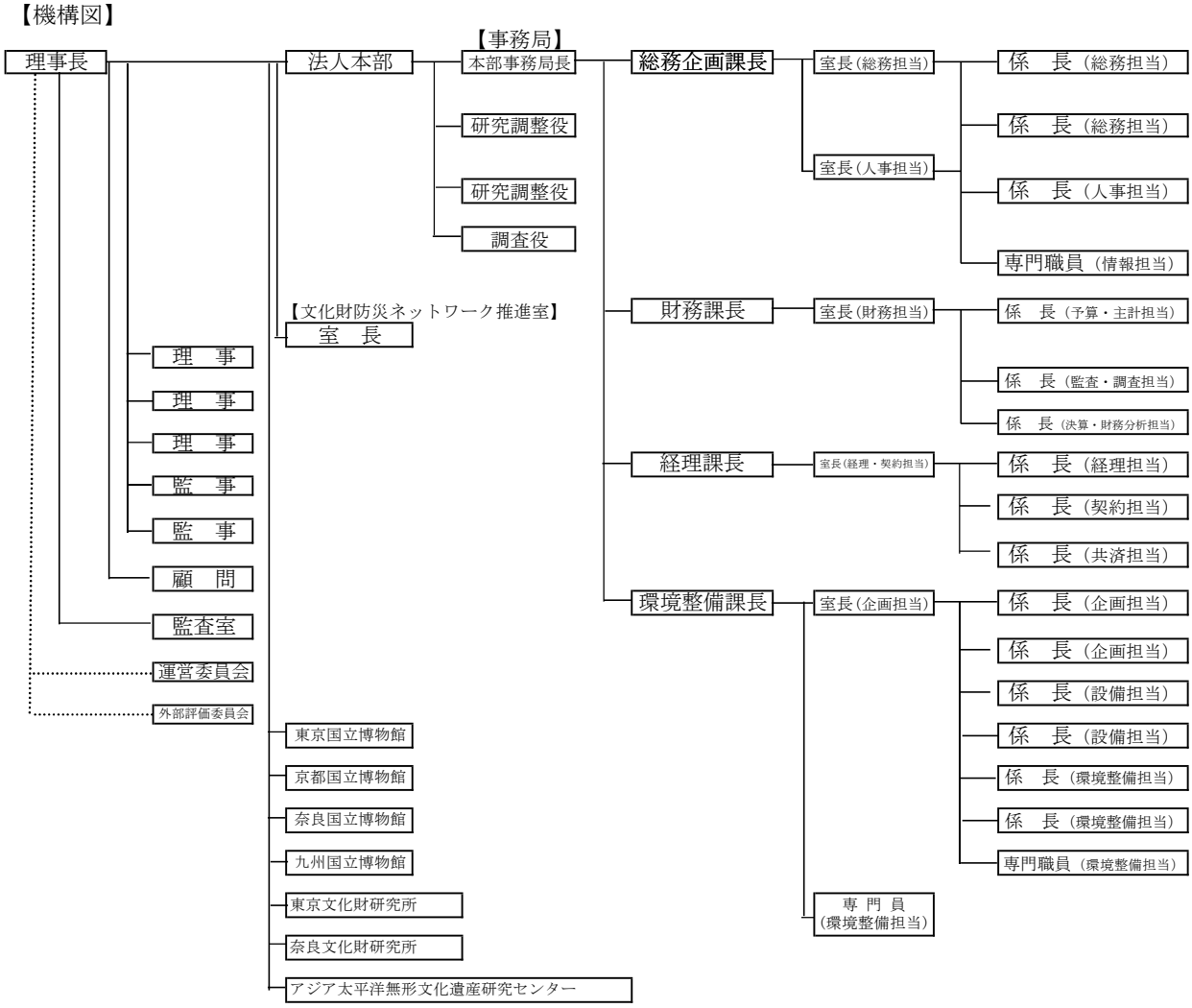
研究所・センター調査研究等部会委員名簿

（平成 29 年 3 月 31 日現在、敬称略）

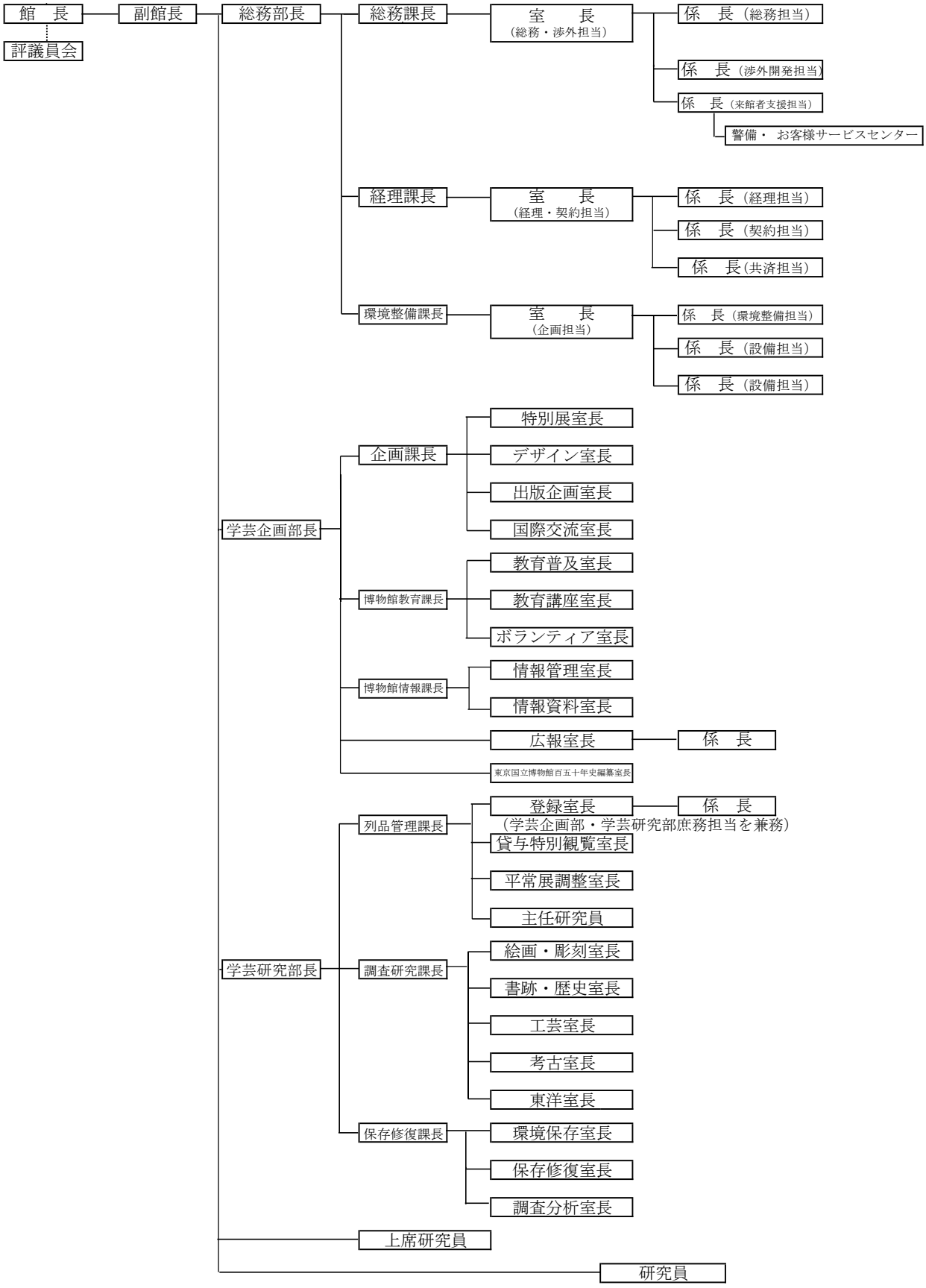
氏　　名	現　　職	備　考
佐　藤　　信	東京大学大学院人文社会系研究科教授	部会長
石　川　　日出志	明治大学文学部教授	
岡　田　　保　良	国士舘大学イラク古代文化研究所教授	
齋　藤　　努	国立歴史民俗博物館研究部教授	
玉　蟲　　敏　子	武蔵野美術大学造形学部教授	
柳　林　　修	元読売新聞編集委員	

独立行政法人国立文化財機構　組織図　　平成29年3月31日現在

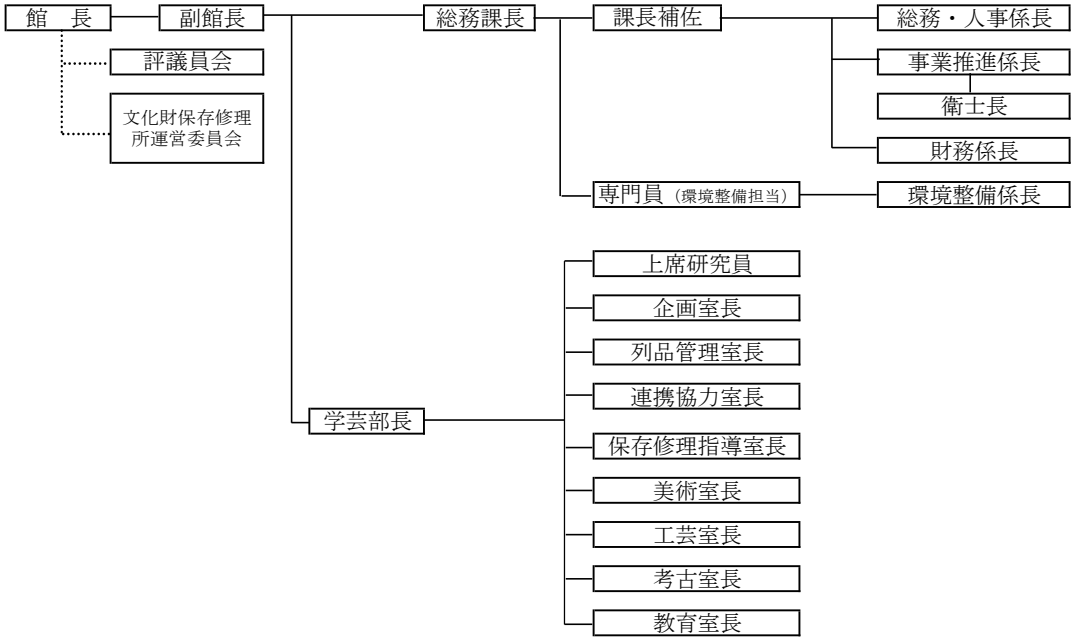
【機構図】



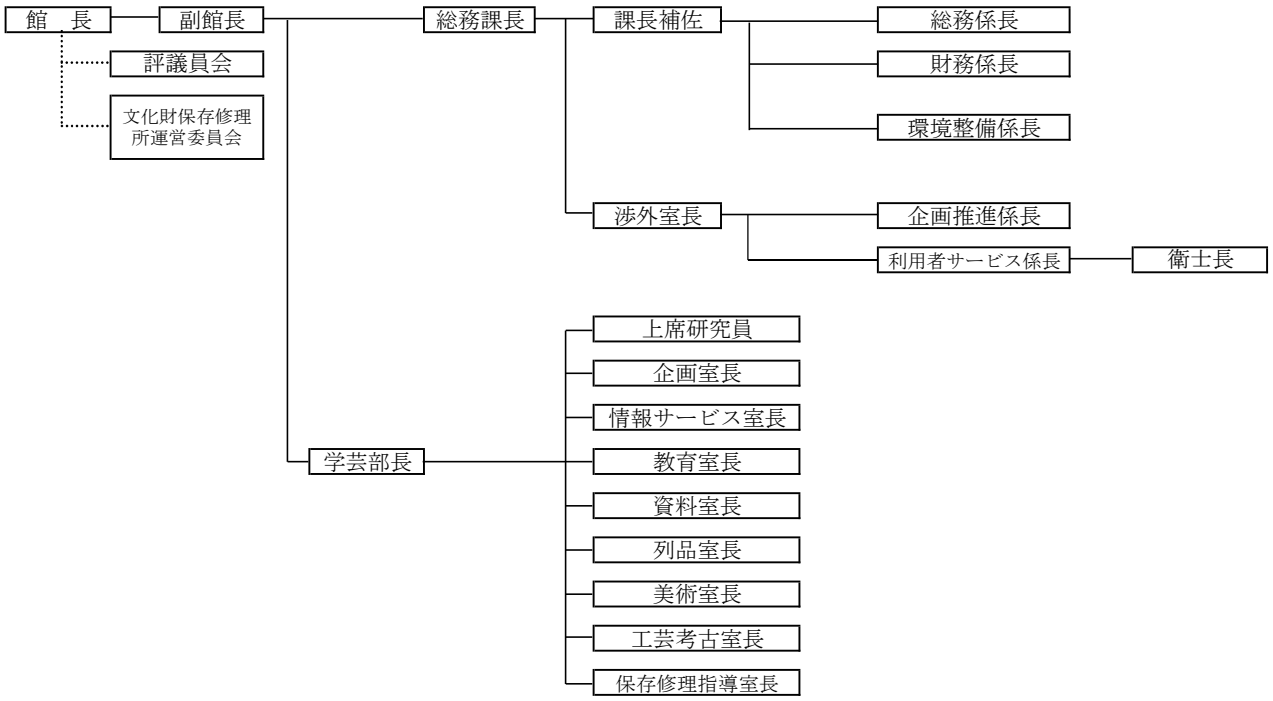
【東京国立博物館】


館　長
副館長
評議員会
総務部長
総務課長
室　長
（総務・渉外担当）
係　長（総務担当）
係　長（渉外開発担当）
係　長（来館者支援担当）
警備・ お客様サービスセンター
経理課長
室　長
（経理・契約担当）
係　長（経理担当）
係　長（契約担当）
係　長（共済担当）
環境整備課長
室　長
（企画担当）
係　長（環境整備担当）
係　長（設備担当）
係　長（設備担当）
学芸企画部長
企画課長
特別展室長
デザイン室長
出版企画室長
国際交流室長
博物館教育課長
教育普及室長
教育講座室長
ボランティア室長
博物館情報課長
情報管理室長
情報資料室長
広報室長
係　長
東京国立博物館百五十年史編纂室長
学芸研究部長
列品管理課長
登録室長
係　長
（学芸企画部・学芸研究部庶務担当を兼務）
貸与特別観覧室長
平常展調整室長
主任研究員
調査研究課長
絵画・彫刻室長
書跡・歴史室長
工芸室長
考古室長
東洋室長
保存修復課長
環境保存室長
保存修復室長
調査分析室長
上席研究員
研究員

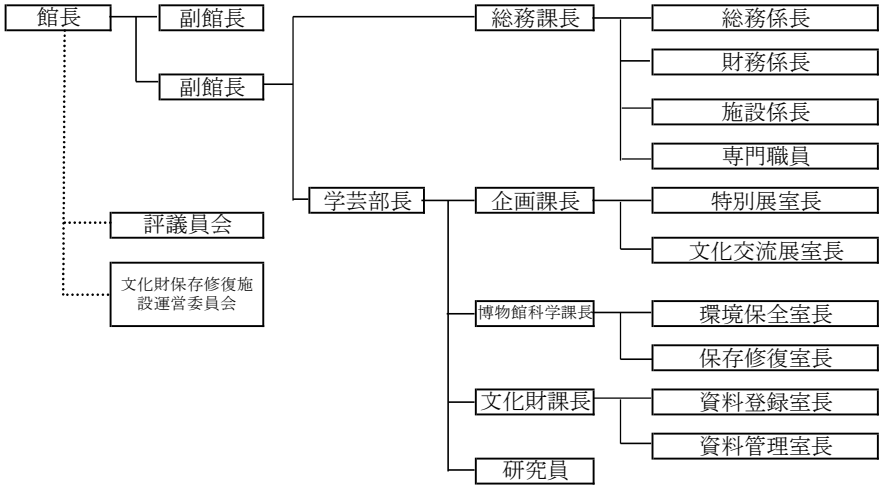
【京都国立博物館】



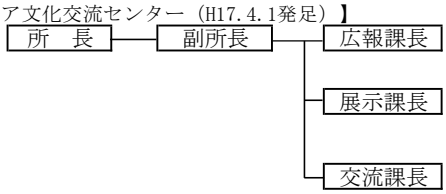
【奈良国立博物館】



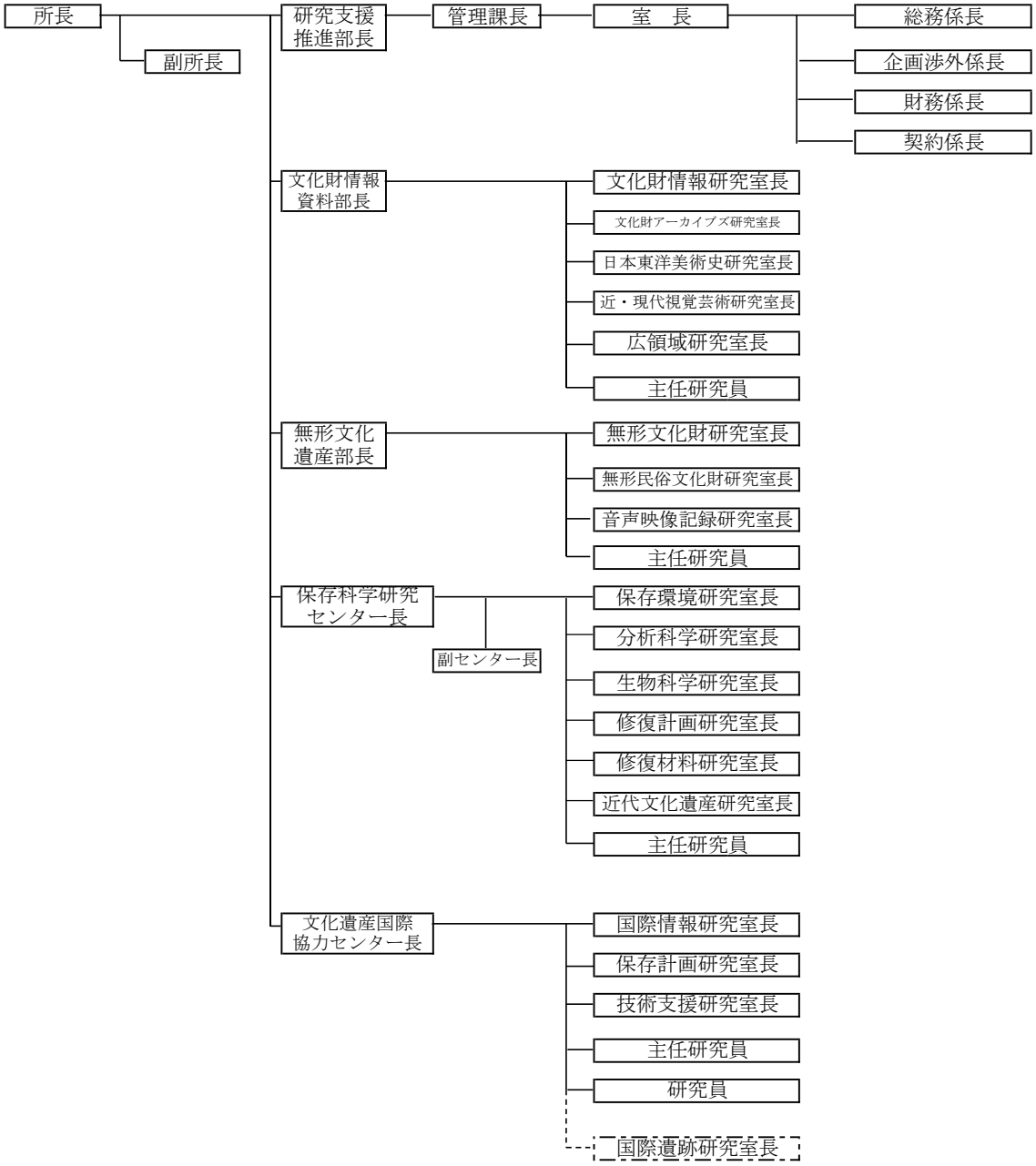
【九州国立博物館】



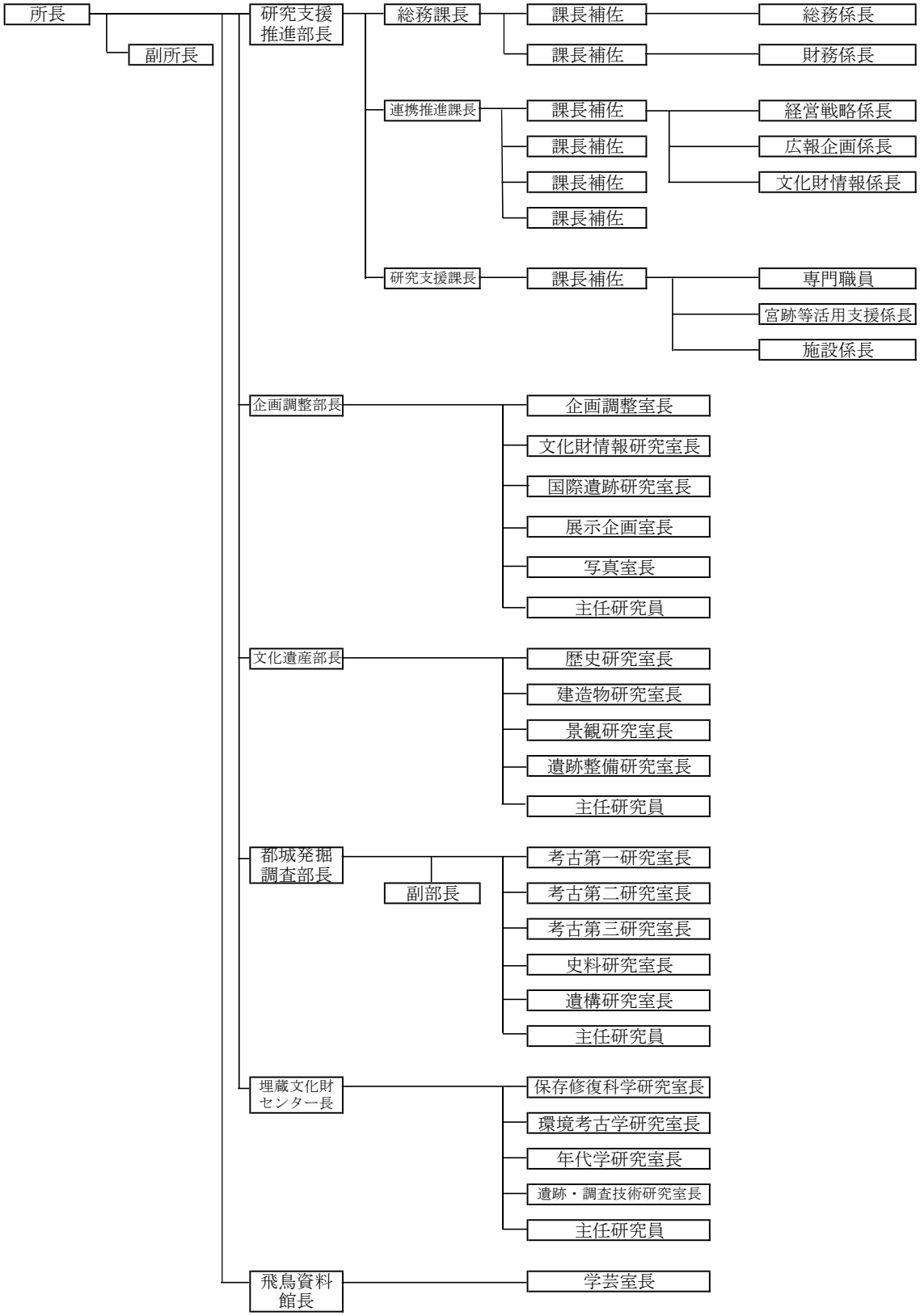
【福岡県立アジア文化交流センター（H17.4.1発足）】



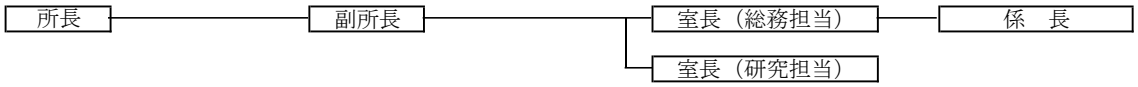
【東京文化財研究所】


所長
副所長
研究支援推進部長
管理課長
室　長
総務係長
企画渉外係長
財務係長
契約係長
文化財情報資料部長
文化財情報研究室長
文化財アーカイブズ研究室長
日本東洋美術史研究室長
近・現代視覚芸術研究室長
広領域研究室長
主任研究員
無形文化遺産部長
無形文化財研究室長
無形民俗文化財研究室長
音声映像記録研究室長
主任研究員
保存科学研究センター長
副センター長
保存環境研究室長
分析科学研究室長
生物科学研究室長
修復計画研究室長
修復材料研究室長
近代文化遺産研究室長
主任研究員
文化遺産国際協力センター長
国際情報研究室長
保存計画研究室長
技術支援研究室長
主任研究員
研究員
国際遺跡研究室長

【奈良文化財研究所】



【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】



平成28年度　自己点検評価報告書統計表

平成２８年度　自己点検評価報告書　統計表

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

1-(1)-② 有形文化財の収集等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1-(1)-②-1 収蔵品一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1-(1)-②-2 (参考)収蔵品・寄託品件数合計(過去５ヵ年) ・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
1-(1)-②-3 平成 28 年度新収品一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
1-(1)-②-4 平成 28 年度新収品一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
【東京国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
【京都国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
【奈良国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
【九州国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
1-(1)-②-5 有形文化財（美術工芸品）に関する取組状況（文化財購入費）・・・・・・・・・・・ 30
1-(1)-②-6 寄託品一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
1-(1)-②-7 寄託品増減表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
1-(1)-②-8 登録美術品一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
1-(1)-③有形文化財の管理・保存・修理等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
1-(1)-③-1 各収蔵庫、展示場の温湿度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数
（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
1-(1)-③-3 保存カルテ作成件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
1-(1)-③-4 本格修理件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
1-(1)-③-5 修理概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
【東京国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
【京都国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
【奈良国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
【九州国立博物館】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
1-(1)-③-6 文化財修理データのデータベース化件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

1-(2) 展覧事業

1-(2)-① 平常展・② 特別展等
1-(2)-①・②-1 来館者数推移(入館料別)（過去５ヵ年） (p.149 ◎共通資料 a-①)
1-(2)-①・②-2 来館者数推移(展覧会別)（過去５ヵ年） (p.150 ◎共通資料 a-②)
1-(2)-①・②-3 平常展・特別展・海外展 (p.152 ◎共通資料 a-③)
1-(2)-①-4 平常展の展示替件数 (p.152 ◎共通資料 a-③)
1-(2)-①-5 平常展の展示総件数 (p.152 ◎共通資料 a-③)
1-(2)-①-6 平常展来館者アンケート (p.258 ◎共通資料 e)
1-(2)-②-7 特別展来館者アンケート (p.258 ◎共通資料 e)
1-(2)-①-8 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置・・・・・・・・ 52
1-(2)-③ 観覧環境の向上等
1-(2)-③-1 観覧環境に関する来館者アンケート (p.258 ◎共通資料 e)
1-(2)-③-2 多言語表記に関する外国人アンケート (p.258 ◎共通資料 e)
1-(2)-③-3 バリアフリー施設・設備の設置状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
1-(2)-③-4 音声ガイド実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55

1-(3) 教育・普及活動
1-(3)-① 教育普及活動の充実等
1-(3)-①-1 学習機会の提供(過去５ヵ年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
1-(3)-①-4 大学生・大学院生を対象とした教育事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
1-(3)-①-6 留学生の日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
1-(3)-①-7 ボランティア受入実績 (p.169 ◎共通資料 b)
1-(3)-①-8 友の会・パスポート等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
1-(3)-①-9 賛助会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
1-(3)-①-10 渉外活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実
1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数
（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数） (p.32 1-(1)-①-3)
1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 100
1-(3)-②-3 特別観覧件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 101
1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 101
1-(3)-②-5 広報実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 102
1-(3)-②-6 広報刊行物一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数 (p.257 ◎共通資料 d)
1-(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究
1-(4)-① 有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究
1-(4)-①-1 調査研究テーマ一覧 (p.202 ◎共通資料 c-②)
1-(4)-①-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p.208 ◎共通資料 c-③)
1-(4)-①-3 論文等発表実績一覧 (p.227 ◎共通資料 c-⑤)
1-(4)-①-4 科学研究費助成事業による調査研究 (p.248 ◎共通資料 c-⑦)
1-(4)-①-1 客員研究員一覧 (p.254 ◎共通資料 c-⑧)
1-(4)-② その他の有形文化財に関連する調査研究
1-(4)-②-1 調査研究テーマ一覧 (p.202 ◎共通資料 c-②)
1-(4)-②-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p.208 ◎共通資料 c-③)
1-(4)-②-3 論文等発表実績一覧 (p.227 ◎共通資料 c-⑤)
1-(4)-②-4 科学研究費助成事業による調査研究 (p.248 ◎共通資料 c-⑦)
1-(4)-②-5 客員研究員一覧 (p.254 ◎共通資料 c-⑧)
1-(4)-③ 国内外の博物館等との学術交流等
1-(4)-③-1 調査研究成果の公表 (p.173 ◎共通資料 c-①)
1-(4)-④ 調査研究成果の公表
1-(4)-④-1 調査研究刊行物一覧 (p.244 ◎共通資料 c-⑥)
1-(4)-④-2 平常展・特別展・海外展 (p.208 ◎共通資料 c-③)
1-(4)-④-3 講座・講演会等の開催実績 (p.57 1-(3)-①-2)
1-(5) 国内外の博物館活動への寄与
1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与
1-(5)-①-1 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
1-(5)-①-3 海外への列品貸与・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129

1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等
1-(5)-②-1 国内外の博物館等への援助・助言等に関する取組状況・・・・・・・・・・・・・・・ 130

2 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
2-(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究
2-(1)-1 調査研究テーマ一覧 (p.202 ◎共通資料 c-②)
2-(1)-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p.208 ◎共通資料 c-③)
2-(1)-3 論文等発表実績一覧 (p.227 ◎共通資料 c-⑤)
2-(1)-4 調査研究刊行物一覧 (p.244 ◎共通資料 c-⑥)
2-(1)-5 科学研究費助成事業による調査研究 (p.248 ◎共通資料 c-⑦)
2-(1)-6 客員研究員一覧 (p.254 ◎共通資料 c-⑧)
2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
2-(2)-1 調査研究テーマ一覧 (p.202 ◎共通資料 c-②)
2-(2)-2 学会、研究会等発表実績一覧 (p.208 ◎共通資料 c-③)
2-(2)-3 論文等発表実績一覧 (p.227 ◎共通資料 c-⑤)
2-(2)-4 調査研究刊行物一覧 (p.244 ◎共通資料 c-⑥)
2-(2)-5 科学研究費助成事業による調査研究 (p.248 ◎共通資料 c-⑦)
2-(2)-6 客員研究員一覧 (p.254 ◎共通資料 c-⑧)
2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働
2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進
2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 140
2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 140
2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究
2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況(刊行物件数) (p.244 ◎共通資料 c-⑥)
2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 141
2-(3)-②-3 研究交流実績一覧 (p.173 ◎共通資料 c-①)
2-(3)-②-4 調査研究テーマ一覧 (p.202 ◎共通資料 c-②)
2-(3)-②-5 学会、研究会等発表実績一覧 (p.208 ◎共通資料 c-③)
2-(3)-②-6 シンポジウム開催実績一覧 (p.225 ◎共通資料 c-④)
2-(3)-②-7 論文等発表実績一覧 (p.227 ◎共通資料 c-⑤)
2-(3)-②-8 調査研究刊行物一覧 (p.244 ◎共通資料 c-⑥)
2-(3)-②-9 ウェブサイトアクセス件数 (p.257 ◎共通資料 d)
2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用
2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実
2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 142
2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 142
2-(4)-② 調査研究成果の発信
2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧 (p.244 ◎共通資料 c-⑥)
2-(4)-②-2 講演会等の開催実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 143

2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧 (p.225 ◎共通資料 c-④)
2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数 (p.257 ◎共通資料 d)
2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数・・・・・・・ 144
2-(4)-③ 展示公開施設の充実
2-(4)-③-1 来館者数推移(入館料別)(過去５ヵ年) (p.149 ◎共通資料 a-①)
2-(4)-③-2 来館者数推移(展覧会別)(過去５ヵ年) (p.150 ◎共通資料 a-②)
2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展 (p.152 ◎共通資料 a-③)
2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
2-(5)-① 文化財に関する研修の実施
2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 145
2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等
2-(5)-②-1 専門的・技術的な協力・助言の取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 147
2-(5)-③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力
2-(5)-③-1 ボランティア受入実績 (p.169 ◎共通資料 b)
2-(5)-⑤ 文化財等の防災・救援等への寄与
2-(5)-⑤-1 研究交流実績一覧 (p.173 ◎共通資料 c-①1)・3))
2-(5)-⑤-2 シンポジウム開催実績一覧 (p.225 ◎共通資料 c-④)
2-(5)-⑤-3 ウェブサイトアクセス件数 (p.257 ◎共通資料 d)
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
1.業務改善の取組
1-(5) 一般管理費等の削減
1-(5)-① 施設の有効利用件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 148
◎共通資料
a 展示
a-① 来館者数推移(入館料別)(過去５ヵ年) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 149
a-②来館者数推移(展覧会別)(過去５ヵ年) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 150
a-③平常展・特別展・海外展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 152
b ボランティア受入実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 169
c 調査研究
c-① 研究交流実績一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 173
1) 海外研究者招聘・受入実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 173
2) 他機関の共同研究への参画実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
3) 研究者海外派遣実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 187
c-② 調査研究テーマ一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 202
c-③ 学会、研究会等発表実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 208
c-④ シンポジウム開催実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 225
c-⑤ 論文等発表実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 227
c-⑥ 調査研究刊行物一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 244
c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 248
c-⑧ 客員研究員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 254
d ウェブサイトアクセス件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 257
e 平成２８年度平常展・特別展アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 258

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

1-(1)-②　有形文化財の収集等

1-(1)-②-1　収蔵品一覧表

（単位：件）　平成29年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	127,453	132	983	117,190	88	636	7,794	28	198	1,886	13	112	583	3	37
絵画	13,646	35	209	11,164	21	101	2,075	9	57	298	4	42	109	1	9
書跡	3,413	36	177	1,846	14	60	1,369	16	81	147	5	29	51	1	7
彫刻	1,424	1	47	1,107	0	22	148	0	3	146	1	16	23	0	6
建築	78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
金工	17,113	3	59	16,412	1	17	520	2	29	163	0	11	18	0	2
刀剣	3,478	20	57	3,453	19	57				16	0	0	9	1	0
陶磁	4,289	0	19	2,951	0	12	1,216	0	3	81	0	0	41	0	4
漆工	4,620	6	30	3,856	4	19	503	0	2	102	2	5	159	0	4
染織	4,757	2	27	3,697	0	19	929	1	7	93	1	1	38	0	0
考古	30,075	4	76	28,594	4	55	690	0	11	734	0	8	57	0	2
民族資料	1,375	0	0	1,264	0	0	0	0	0	101	0	0	10	0	0
歴史資料	6,603	0	10	6,246	0	4	295	0	4	0	0	0	62	0	2
和書	17,560	0	2	17,560	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋 絵画	689	4	31	689	4	31									
東洋 書跡	1,694	10	12	1,694	10	12									
東洋 彫刻	808	0	20	808	0	20									
東洋 金工	1,034	0	0	1,034	0	0									
東洋 陶磁	3,051	0	10	3,051	0	10									
東洋 漆工	529	0	4	529	0	4									
東洋 染織	608	0	1	608	0	1									
東洋 考古	5,933	0	2	5,933	0	2									
東洋 民族	3,533	0	0	3,533	0	0									
法隆寺献納宝物	322	11	184	322	11	184									
黒田記念館収蔵品	816	0	2	816	0	2									
準歴史資料(含和書)	2	0	2	2	0	2									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり
　京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の作品も「日本」に含む
＊列品に編入されていない資料については、「準歴史資料(含和書)」の項目にしるし、列品化整理中の資料と分けて表示している。
＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。
＊28年度、東京国立博物館については、収蔵品数の再確認の結果、過誤修正を行った。

1-(1)-②-1（参考）

【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）

平成29年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
[文化遺産部]	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
森薀資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
塚原家寄贈資料(歴史資料)	3箱
[都城発掘調査部（平城地区）]	
平城宮跡大膳職推定地出土木簡（重要文化財）	39点
平城宮跡内裏北外郭官衙出土木簡（重要文化財）	1,785点
平城宮跡内膳司推定地出土木簡（重要文化財）	483点
平城宮跡造酒司出土木簡（重要文化財）	568点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	30660箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	35158箱
平城宮・京出土瓦類	1002038箱
平城宮・京出土木簡	252171点
塚原家寄贈資料(考古資料)	7箱
[都城発掘調査部(飛鳥･藤原地区)]	
軒丸瓦・軒平瓦	約36,157点
丸瓦・平瓦　　土嚢袋	約167,847袋
丸瓦・平瓦　　整理箱	約39,074箱
土器　　整理箱	約16,533箱
土製品	約15,053点
木器・木製品	約34,081点
木簡	約35,156点
建築部材	約2,983点
金属製品	約19,879点
石器・石製品	約14,316点
漏刻復原模型	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
[飛鳥資料館]	
高松塚古墳出土品(海獣葡萄鏡 銀製太刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺)(重要文化財)	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復原	1点
飛鳥京復原模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト５号古墳石室	1点
十二支拓本（表装済み・収納箱あり）	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	1式

保管及び所蔵文化財・資料名	数
武人復原	1点
山田寺灯籠復原	1点
具注歴木簡レプリカ	1点
天皇木簡レプリカ	1点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
キトラ古墳出土品金銅製鐶座金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品銀鐶付六花形飾金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀製鞘尻金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀装把レプリカ	1点
キトラ古墳出土品鉄地銀張金象嵌帯執金具レプリカ	3点
キトラ古墳出土品琥珀玉レプリカ	4点
キトラ古墳出土品金銅製鐶座金具復元品	10点
キトラ古墳出土品銅釘復元品	一括
キトラ古墳出土品銀鐶付六花形飾金具復元品	10点
キトラ古墳出土品円環棺金具復元品	10点
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点
鍛冶工房風景想定復元図	1点
銅造観音菩薩立像（夢違観音）複製品	1体
隅田八幡宮人物画像鏡複製品	1点
山田寺仏頭複製品	1点
金銅小野毛人墓誌複製品	1点
筑前国嶋郡川辺里大宝２年戸籍残簡複製品	2点
人頭石（光永寺）複製品	1点
鬱淵寺銅造観音菩薩立像複製品	1点
重要文化財圀勝寺銅壺鋳造模型（下道圀依母婦人骨蔵器）	1点
四十八体仏如来坐像複製	1点
丙寅年銘菩薩半跏像複製品	1具
於美阿志神社石塔婆のうち供養具	一括
牽牛子塚古墳出土品	一括
マルコ山古墳出土品	一式
高松塚古墳壁画漆喰印刷複製	一式
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点一式
飛鳥池遺跡出土木簡複製品	13点
暗文土師器復原制作品（脇田宗孝氏制作）	5点
一町長法寺押出仏複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　蛇行状鉄器複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　馬鈴複製品	1点
扶桑略記　巻二十一～二十八	7冊
[埋蔵文化センター]	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	一式
東貝塚	一式
室浜貝塚	一式
福浦島貝塚	一式
里浜貝塚	一式
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
現生動物標本	一式
年輪年代学用木材標本	一式

1-(1)-② -2（参考）

収蔵品・寄託品件数合計（過去5ヵ年）

（単位：件） 平成29年3月31日現在

		平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品・寄託品合計	国立博物館 計	135,044	317	2,136	136,215	323	2,143	137,610	325	2,162	138,897	333	2,380	139,580	327	2,172
	東京国立博物館	116,925	136	884	118,172	140	878	119,332	143	890	120,004	142	892	120,265	143	894
	京都国立博物館	12,622	112	789	12,613	114	801	13,110	113	803	13,644	119	1,003	13,983	114	818
	奈良国立博物館	3,785	66	431	3,856	66	432	3,861	66	435	3,839	67	439	3,844	65	411
	九州国立博物館	1,712	3	32	1,574	3	32	1,307	3	34	1,410	5	46	1,488	5	49
収蔵品	国立博物館 計	123,378	130	950	124,729	130	952	125,766	130	954	126,872	131	963	127,453	132	983
	東京国立博物館	114,362	87	631	115,653	87	633	116,268	87	634	116,932	87	634	117,190	88	636
	京都国立博物館	6,708	27	179	6,721	27	179	7,109	27	180	7,532	28	183	7,794	28	198
	奈良国立博物館	1,834	13	111	1,862	13	111	1,877	13	111	1,883	13	112	1,886	13	112
	九州国立博物館	474	3	29	493	3	29	512	3	29	525	3	34	583	3	37
寄託品	国立博物館 計	11,666	187	1,186	11,486	193	1,191	11,844	195	1,208	12,025	202	1,417	12,127	195	1,189
	東京国立博物館	2,563	49	253	2,519	53	245	3,064	56	256	3,072	55	258	3,075	55	258
	京都国立博物館	5,914	85	610	5,892	87	622	6,001	86	623	6,112	91	820	6,189	86	620
	奈良国立博物館	1,951	53	320	1,994	53	321	1,984	53	324	1,956	54	327	1,958	52	299
	九州国立博物館	1,238	0	3	1,081	0	3	795	0	5	885	2	12	905	2	12

1-(1)-②-3 平成28年度新収品一覧表

（単位：件）　平成29年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	525			199			265			3			58		
計	63	318	144	11	44	144	14	251	0	2	1	0	36	22	0
絵画	13	36	0	1	3	0	3	23	0	0	1	0	9	9	0
書跡	7	42	0	2	6	0	1	35	0	2	0	0	2	1	0
彫刻	1	3	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	1	32	0	0	0	0	1	29	0	0	0	0	0	3	0
刀剣	0	2	0	0	0	0			0	0	0	0	0	2	0
陶磁	6	143	0	0	0	0	3	142	0	0	0	0	3	1	0
漆工	2	7	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0	1	0	0
染織	4	8	0	0	0	0	2	8	0	0	0	0	2	0	0
考古	4	6	4	0	3	4	0	0	0	0	0	0	4	3	0
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	17	8	134	0	1	134	2	5	0	0	0	0	15	2	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	4	0	0	4	0									
東洋 書跡	1	0	0	1	0	0									
東洋 彫刻	0	0	0	0	0	0									
東洋 金工	0	0	0	0	0	0									
東洋 陶磁	1	0	0	1	0	0									
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0									
東洋 染織	6	0	0	6	0	0									
東洋 考古	0	0	5	0	0	5									
東洋 民族	0	27	0	0	27	0									
法隆寺献納宝物	0	0	1	0	0	1									
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

＊京都国立博物館における寄贈3件分については、すでに受入済みの作品の附属品となったため、1-(1)-②-1収蔵品一覧表等にはカウントしていない。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収品一覧表

（単位：件）

	平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	576			1,351			1,037			1,106			525		
小計	26	153	397	23	513	815	47	484	506	43	563	500	63	318	144
絵画	9	10	0	6	11	28	13	52	0	14	10	0	13	36	0
書跡	3	36	0	2	12	1	3	28	0	5	29	0	7	42	0
彫刻	1	2	0	2	1	0	3	1	0	0	2	0	1	3	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	0	0	0	2	417	155	5	71	0	5	48	0	1	32	0
刀剣	0	0	0	0	2	38	0	0	0	0	11	0	0	2	0
陶磁	1	61	0	1	1	15	0	86	0	5	211	0	6	143	0
漆工	1	0	0	1	29	33	8	162	0	3	135	0	2	7	0
染織	1	1	0	3	5	65	4	7	0	2	4	0	4	8	0
考古	4	23	0	1	1	109	5	12	0	0	11	0	4	6	4
民族資料	0	0	0	0	0	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	6	1	397	3	1	334	2	0	506	0	16	500	17	8	134
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
東洋 書跡	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
東洋 彫刻	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0
東洋 金工	0	16	0	0	29	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0
東洋 陶磁	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	5	0	1	0	0
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 染織	0	0	0	2	1	0	4	0	0	8	2	0	6	0	0
東洋 考古	0	0	0	0	0	10	0	62	0	0	48	0	0	0	5
東洋 民族	0	0	0	0	0	15	0	1	0	0	22	0	0	27	0
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1-(1)-②-4 平成28年度新収品一覧

【東京国立博物館】(199件)

(1) 購入 (11件)

＜絵画＞ (1件)

1　○名　　称　准胝仏母像（じゅんていぶつもぞう）
　　○指　　定　重要文化財
　　○時　　代　平安時代・12世紀
　　○品　　質　絹本着色
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　縦104.0cm 横43.2cm
　　○作品概要　掛幅装。金銅軸。三目十八臂の准胝仏母像を描く。准胝は他に七倶胝仏母、准胝観音とも呼ばれ、除災・延命・除病・求児等のために行われる准胝法の本尊として用いられた。胎蔵現図曼荼羅遍智院向かって左端に、本図と同様の三目十八臂像が描かれる。准胝関係の経典は正倉院文書中にも見出せるが、本格的な信仰としては醍醐寺開山の聖宝による貞観18年（876）の准胝観音像造立からとみられている。以後は聖宝の流れを汲む東密小野流周辺を中心にして信仰されたようである。
　記録上は最澄請来の七倶胝仏母像様一巻があるが、現存作例としては、本図及び当館所蔵の八臂像（いずれも重要文化財、12世紀）、京都・広隆寺の13世紀の十八臂像（重要文化財）、大阪・細見美術財団の13世紀と14世紀の十八臂像などが知られている。

＜書跡＞ (2件)

2　○名　　称　書状（しょじょう）
　　○作 者 等　藤原行成（972～1027）筆
　　○指　　定　重要文化財
　　○時　　代　平安時代・寛仁4年（1020）
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1幅（附属1幅）
　　○寸 法 等　縦30.5cm 横48.5cm
　　○作品概要　掛幅装。木軸。唯一現存する藤原行成の書状である。「行成」の草書を組み合わせた草名（のちの花押）で始まるが、この草名が記された遺品としても唯一のもの。「赴鎮」は大宰権帥を兼任して大宰府に赴くこと、「献五節舞姫」は、行成の娘が五節舞姫に選ばれたこと、さらに「不慮昇進」が行成の権大納言への昇進を示している。これらの内容と、当館所蔵「白氏詩巻」（国宝、B-2533）との書風比較により、藤原行成が寛仁4年（1020）に記した書状であることがわかる。
「昇進」した際にたくさんの人々が「来賀」したが手紙の相手は来てくれなかったと述べている。後半部分が失われており宛先はわからないが、「光臨」などの語句の前を闕字にしており、相手に敬意を表していると思われる。
　書状であるにもかかわらず、端正・流麗に筆を運んでおり、楷書行書草書の配置や墨付きの濃淡も絶妙なバランスである。平安時代の末期、『今鏡』（巻５、ふぢなみの中、みづぐき）に、行成の書状を持たないものはいないと書かれており、行成の書状は人気があった。その人気を証明するような美しい書状である。
　尊円親王（1298～1356）筆の建武元年（1334）の添状が附属している（重要文化財の附）。「殊勝之権跡手本也。秘蔵者也。建武元年八月六日尊円（花押）」と雲紙の短冊型料紙に記している。この添状が、本書状を示すものかどうかは定かではないが、能書帝・伏見天皇の皇子であり青蓮院流の祖として活躍する尊円親王が「権跡」（藤原行成の書）を賞賛しており貴重である。

3　○名　　称　無量義経十功徳品第三断簡（愛知切）（むりょうぎきょうじゅうくどくほんだいさんだんかん（あいちぎれ））
　　○作 者 等　伝藤原行成（972～1027）筆
　　○時　　代　平安時代・11世紀
　　○品　　質　彩箋墨書
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　本紙　縦25.6cm　横48.6cm
　　○作品概要　掛幅装。平安時代中期に書写された『無量義経』の断簡で、雁皮紙に丁字吹きを施し、金泥で界線を引いた上に、金揉箔を一面に撒いた料紙を用いる。経文はやや細みで、行書を交えた典雅な和様で書写している。「愛知切」の名は、本経と同じ体裁をもつ『観普賢経』が早くから分割されて手鑑などに貼られ、その伝称筆者といわれる小野道風の出生地に因んで付けられたものである。したがって、もとは開結をともなう法華経の一部であった可能性がある。なお、当館では『観普賢経』のうち2行分を貼りこんだ経切手鑑を所蔵している。
　本幅は、新出の断簡で、1紙分の26行がまとまっており、伝藤原行成筆とされている。その料紙と筆跡などよりみて、11世紀初の書写と推定される。
　料紙の丁子吹きは、丁子の煎汁を吹き染めした技法で、平安時代中期から後期にかけて行われた。愛知切はその代表例である。その料紙の装飾と相まって、文字の美しさや筆勢が優れている点で、平安時代随一の経切であるといえる。

＜東洋書跡＞ (1件)

4　○名　　称　行書陶淵明帰去来図画賛軸（ぎょうしょとうえんめいききょらいずがさんじく）
　　○作 者 等　詹仲和（生没年不詳）筆
　　○時　　代　明時代・正徳7年（1512）
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　縦37.8cm 横88.0cm
　　○作品概要　掛幅装。陶淵明（365～427）像に、詹仲和の款を伴う行書「帰去来辞」が続く。策杖の陶淵明像は、16世紀に広く流布した、李公麟（1049～1106）系統の白描「陶淵明事蹟図巻」（伝朱徳潤筆京都個人蔵本など）の「帰去来」段の図像と同種である。

＜東洋陶磁＞ (1件)

5　○名　　称　青花雲龍文方壺（せいかうんりゅうもんほうこ）
　　○作 者 等　景徳鎮窯
　　○時　　代　明時代・嘉靖年間(1522～66年)
　　○品　　質　磁製
　　○員　　数　2口
　　○寸 法 等　高20.1cm
　　○作品概要　夾雑物を含む硬質白磁胎。青銅器の方壺に由来する形で、器壁は厚く、全体に歪みが生じている。頸に雷文、肩には如意頭を逆さにしたハート形の文様を巡らし、胴部に五爪の龍を2頭ずつ配する。裾にはラマ式蓮弁文を巡らし、底中央に青花の楷書で二重方圏内に「大明嘉靖年製」銘を施す。下絵付けのコバルトの発色はやや灰色を帯びて濃い。

＜東洋染織＞ (6件)

6　○名　　称　白木綿地立涌メダイヨン文様更紗（鬼手）（しろもめんじたてわくめだいよんもんようさらさ（おにで））
　　○時　　代　18世紀
　　○品　　質　木綿、木版更紗

○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 248.0cm 横 172.0cm
○作品概要　手紡ぎのやや太い木綿糸で平織にした木綿地に染めた鬼手更紗。木版で全体に二種の花文様を入れた立涌文様を表わし、その中央に円形のメダイヨンを木版で染める。周囲には花菱を繋いだ文様をめぐらしてボーダーとし、その両辺に花葉文様のボーダーがやはり木版で染められている。以上のようなデザインは 18 世紀にインド・グジャラートで染められた木版更紗の典型的なものである。インドでは、テント用天蓋（キャノピー）や覆い布として使用された。茶木綿の裏地が付いており、日本に舶載された後、煎茶などの場において、敷物として用いられた可能性がある。太い木綿糸で織られた木版更紗は 18 世紀から 19 世紀にかけてインドから日本に輸入された。日本では「鬼手」と称され、インド茜と木版による素朴な色合いと文様が茶人に愛好されたが、その多くは裁断されて、風呂敷や茶道具の包みなどに用いられた。

7　○名　　称　白木綿地花唐草シヴァ神文様更紗（しろもめんじはなからくさしヴぁしんもんようさらさ）
○時　　代　19 世紀
○品　　質　木綿、木版更紗
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 163.0cm 横 125.0cm
○作品概要　やや太めの粗い木綿地に木版で文様を染めた更紗。中央部の花唐草文様は 18 世紀から 19 世紀にかけてインド南東のマスリパタム（現 マチリパトナム）で製作された木版更紗に見られる典型的なデザインである。両面に蝋で防染を施した後に藍や茜で浸染し、白地が際立つように染められている。珍しいのは、その周囲をめぐらすボーダー部分に、シヴァ神がやはり木版捺染によって囲んでいる部分である。シヴァ神は、頭上に三日月の髪飾りを戴き、左手にトリシューラと称される三叉の鉾を持ち、首に蛇を巻き、裸体に腰巻をつけた姿で描かれ、典型的なシヴァ神の図像を表わす。シヴァ神を染めたボーダーをはさむように、花唐草文様の細いボーダーが木版で染められる。寺院の壁掛か祭壇の敷物として用いられていたと考えられる。

8　○名　　称　白木綿地火焔菱鋸歯文様更紗（しろもめんじかえんひしきょしもんようさらさ）
○時　　代　19 世紀
○品　　質　木綿、手描更紗
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 256.0cm 横 111.0cm
○作品概要　18 世紀後半から 19 世紀にかけてインド南東海岸・コロマンデルコーストで製作された手描更紗。茜染を主体とし、一部、藍や黄色などの染料で挿し色をする。主文様には、花菱を襷形に連続させた文様を染めるが、その細部を見るとタイ向け輸出更紗に見られるような小さな火焔形が細密な蝋描きによって白く染め抜かれており、タイ輸出向けデザインが一部に取り入れられていることがうかがえる。一方、両端のボーダーには、インドネシア・スマトラ島向け輸出更紗に見出される大胆な鋸歯文がデザインされている。インドネシア向け輸出更紗にはこのように他国向けデザインを主文様に取り入れた更紗が見られることから、本品もやはり、スマトラ島向け輸出更紗と考えられる。スマトラ島では、腰衣（カイン・スマギ）として使用された。

9　○名　　称　白木綿地菱メダイヨン花唐草ペイズリー文様更紗（しろもめんじひしめだいよんはなからくさぺいずりーもんようさらさ）
○時　　代　18 世紀末～19 世紀初
○品　　質　木綿、木版更紗
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 180.0cm 横 210.0cm
○作品概要　インド南東部の都市・マスリパタムで 18 世紀以降、盛んに生産された木版更紗。白木綿地を縦に 2 枚剥ぎ合わせた大きな覆い布である。花を込めた菱文様を連続させた文様を主文様とし、その中央に子持ち四弁花を入れたメダイヨンを染める。上下のボーダー部分には大きなペイズリー文様を５回半反復して木版で染める。その周囲の地を埋める赤で染めた細かい唐草文様は、マスリパタム（現マチリパトナム）の木版更紗に典型的なデザインである。主文様の周囲には幾重にも花唐草文様をめぐらす。それらも全て木版捺染である。さらに外縁には白地に花唐草文様を染める。イスラム美術に欠かせないアラベスク風の花唐草文様や菱のような幾何学形文様で全体を覆う、厳格な技術に裏付けられた緊密な木版捺染で染めた更紗は、ペルシャ向け輸出更紗の典型的な作例である。

10　○名　　称　ヨーロッパ更紗夜具 緑木綿地花文様（蝋引更紗）（よーろっぱさらさやぐ みどりもめんじはなもんよう（ろうびきさらさ））
○時　　代　19 世紀
○品　　質　木綿、木版更紗
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 183.0cm 横 148.5cm
○作品概要　上面を鏡仕立てにした袋状になっており、本来は中に綿をつめて布団として用いられていたと考えられる。鏡部分は、萌黄地に花唐草文様を木版捺染にした更紗であるが、そのデザインからフランスで製作されたいわゆるヨーロッパ更紗である。表面に薄く蝋引きし平滑に磨き上げたいわゆる「蝋引更紗」で、江戸時代にも 19 世紀には輸入されていたことが当館所蔵の『端物切本帳』からもうかがえる。しかしこの更紗のように地紋に細かい唐草文を表わし、上紋に花文を華やかにあしらったデザインは捺染の工程を繰り返した上等の更紗であることが分かる。2 幅分を手縫いで繋いで布団表とする。布団の額の部分および裏面の部分には萌黄色の木綿が用いられており、麻の仕立て糸が一部残る。布団に仕立てたのは日本であろう。

11　○名　　称　サロン白木綿地スエズ運河オランダ海軍船文様バティック（さろんしろもめんじすえずうんがおらんだかいぐんせんもんようばてぃっく）
○時　　代　19 世紀末～20 世紀初頭
○品　　質　木綿、蝋手描バティック
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 103.5cm 横 200.5cm
○作品概要　ジャワ北部海岸で染められたバティック（蝋描ジャワ更紗）。文様の配置からサロン（筒形腰衣）として用いられていたものである。白の木綿地に藍の濃淡で文様を染めるが、腰衣の前方にくるクパラ部分には花束の文様を、腰にまわすパダン部分にはスエズ運河に浮かぶオランダ海軍船を４艘浮かべ、その周囲に魚・蟹・海老など海に住む生物や草花文様を楽しげに散らす。スエズ運河を運行するオランダ海軍船の図様は様式化され、碇を下ろした 4 艘の船を配したデザインは他にも例が見られる。

(2) 寄贈（44 件）
＜絵画＞（3 件）

1　○名　　称　玄奘三蔵像（げんじょうさんぞうぞう）
○時　　代　鎌倉時代・14 世紀
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 134.4cm 横 56.2cm
○作品概要　掛幅装。大きな笈に多数の経巻をつめて背負い、髑髏の首飾りをつけて、経文を唱えながら歩む僧侶の姿を描いている。細部には簡略化や形式化が見られるが、当館所蔵の重文の玄奘三蔵像と図像、彩色、衣服の文様などほぼ同じ様相を示す。現存作例のみでなく図像などでも類例のほとんどないこの種の画像の受容を考える上で貴重な作例である。

2　○名　　称　雀の発心（すずめのほっしん）
○時　　代　室町時代～安土桃山時代・16 世紀
○品　　質　紙本着色

○員　　数　1巻
○寸 法 等　縦 15.8cm　横 970.8cm
○作品概要　巻子装。室町時代以降愛好された御伽草子絵巻の一種。「雀草紙」、「小藤太物語」とも呼ばれる。自らの子どもを蛇に食われた小藤太という雀が、多くの鳥たちと和歌を交わした末に出家し、念仏三昧の日々を送るという物語。縦の法量が通常の絵巻の半分程度の「小絵」と呼ばれる作例で、こうした形態は室町時代の絵巻に見られるものである。ほぼ同文の本文を持つ作例に慶應義塾大学図書館蔵「鳥歌合絵巻」がある。これと比較すると、本作には第 10 紙と 11 紙の間に 2 紙分の欠失が認められる。

3　○名　　称　源信明図　三十六歌仙扁額の内（みなもとのさねあきらず　さんじゅうろっかせんへんがくのうち）
○作 者 等　筆者不詳
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　板金地着色
○員　　数　1面
○寸 法 等　縦 55.2cm 横 35.2cm
○作品概要　額装扁額。狩衣に折烏帽子姿で上畳に座し、左手を額にあて歌想を練る三十六歌仙の一人源信明を描く。上部にある 2 枚を連続させて雲間の月や藤などを金銀泥の下絵とした色紙形には、「右　源信明朝臣　恋しさはおなしこゝろにあらすとも　今夜の月を君ミさらめや」と記されている。

＜書跡＞（6 件）

4　○名　　称　色紙三十六歌仙図屏風（しきしさんじゅうろっかせんずびょうぶ）
○作 者 等　近衛信尹（1565～1614）、松花堂昭乗（1584～1639）ほか筆
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　6 曲 1 双
○寸 法 等　各 縦 149.3cm 横 56.1cm
○作品概要　屏風装。三十六歌仙の図と和歌を記した色紙形 36 枚を貼り交ぜた屏風。平安時代中期の公卿・藤原公任（966～1041）が撰出した『三十六人撰』をもとに『三十六人歌集』や三十六歌仙図が作られていた。本屏風は、歌合形式で左右に分けて貼り交ぜたものである。
屏風裏の貼り紙に、絵は本阿弥光悦筆とあり、書は、光悦筆 10 枚、小堀遠州筆 10 枚、烏丸光広筆 5 枚、松花堂昭乗筆 5 枚、近衛信尹筆 6 枚と記されている。それらの筆者についてはまだ検討の余地があるが、少なくとも近衛信尹と松花堂昭乗の分は真筆と考えられる。

5　○名　　称　表野家伝来書状巻（ひょうのけでんらいしょじょうかん）
○作 者 等　狩野探幽（1602～74）、高野山春深（生没年不詳）ほか各筆
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2 巻
○寸 法 等　① 縦 15cm 横 71.3cm ； ② 縦 15.7cm 横 23.3cm ； ③ 縦 14.4cm 横 29.2cm ； ④ 縦 31.1cm 横 45.4cm ； ⑤ 縦 32.9cm 横 44.8cm ； ⑥ 縦 27.1cm 横 38.7cm ； ⑦上 縦 15.9cm 横 42.1cm ； ⑦下 縦 15.9cm 横 42.1cm ； ⑧上 縦 17.2cm 横 47.8cm ； ⑧下 縦 16.6cm 横 47.8cm ； ⑨上 縦 15.3cm 横 44cm ； ⑨下 縦 15.6cm 横 44cm ； ⑩上 縦 15.9cm 横 45.1cm ； ⑩下 縦 15.9cm 横 45.1cm
○作品概要　巻子装。木軸。書状 10 通を 2 巻に装訂している。もとは戸棚に貼付してあったものを、故表野篤氏が巻子装にした。巻一：①9 月 22 日付春深書状（玄佐宛）、②2 月 27 日付春深書状（玄佐宛）、③7 月 12 日付探幽書状（春深宛、B-1374-1 の原本）
巻二：④卯月 18 日付半井仲庵書状（春深宛）、⑤卯月 4 日付根来五左衛門書状（春深宛）、⑥孟春 16 日付玄佐書状（春深宛）、⑦五月晦日付玄佐書状（春深宛）、⑧10 月 21 日付書状（春深宛）、⑨2 月 12 日付春深書状（玄佐宛）、⑩霜月 16 日付探幽書状（春深宛）

6　○名　　称　行書七言絶句（ぎょうしょしちごんぜっく）
○作 者 等　西川春洞（1847～1915）筆
○時　　代　明治 36 年(1903)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　6 幅
○寸 法 等　各 縦 129.2cm 横 39.8cm
○作品概要　掛幅装。木軸。中国・宋時代の范成大や元時代の趙孟頫などの七言絶句を六幅にそれぞれ一首ずつ行書で揮毫する。

7　○名　　称　前赤壁賦屏風（ぜんせきへきふびょうぶ）
○作 者 等　西川春洞（1847～1915）筆
○時　　代　明治 43 年(1910)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　6 曲 1 双
○寸 法 等　本紙各 縦 136.5cm 横 51.0cm
○作品概要　屏風装。中国・北宋時代の蘇軾作「前赤壁賦」を六曲一双の屏風に揮毫する。

8　○名　　称　石山切（伊勢集）料紙（いしやまぎれ　いせしゅう　りょうし）
○時　　代　平安時代・天永 3 年（1112）頃
○品　　質　彩箋
○員　　数　1 葉
○寸 法 等　縦 20.2cm　横 15.9cm
○作品概要　未表装。「石山切」は、平安時代後期の天永 3 年（1121）3 月に、白河法皇の 60 歳の賀に際して調進された調度手本と考えられている「本願寺本三十六人家集」39 帖のうち、「貫之集」下および「伊勢集」の 2 帖が昭和 4 年（1929）に分割され、断簡となったもの。「石山切」の名称は、本願寺がもと所在した摂津の石山（現在の大阪城付近）にちなんで名付けられた。分割された 2 年後の昭和 6 年には「本願寺本三十六人家集」37 帖は国宝に指定されている。
これは分割された伊勢集の帖末にあった墨書のない頁であるが、本文が書かれた頁と同じ種類の装飾および材質の料紙である。宮廷の紙屋院で製作した漉き返し紙である紙屋紙と、舶載の縹色の唐紙などを破継ぎした美麗な料紙となっている。「本願寺本三十六人家集」のなかでも紙屋紙の使用は稀で、伊勢集、能宣集上、忠見集の 3 帖の継紙の一部に数例がみられるのみであり、きわめて貴重な料紙である。

9　○名　　称　詩書屏風（ししょびょうぶ）
○作 者 等　亀田鵬斎（1752～1826）筆
○時　　代　江戸時代・文政 6 年（1822）
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　6 曲 1 双
○寸 法 等　各　縦 131.1cm　横 298.4cm
○作品概要　屏風装。亀田鵬斎が草書で書いた七言絶句 3 句を右隻に、七言律詩 3 句を左隻に収める。各詩はいずれも鵬齋の詩文をまとめた「鵬齋先生詩鈔」「善身堂詩鈔」などに収録されていないが、各詩には鵬齋の詩に頻出する語句や、独特な筆線が確認できるとともに、それぞれに印章と落款がみられる。左隻の詩文の末には「鵬齋老人時年七十二」とあり、晩年の 72 歳の筆跡であることが判明する。

＜考古＞(3 件)

10 ○名　　称　深鉢形土器（ふかばちがたどき）
○作 者 等　東京都東久留米市前沢出土
○時　　代　縄文時代(中期)・前 3000～前 2000 年
○品　　質　土製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　口径 15.4cm 底径 6.5cm 高 25.7cm
○作品概要　西関東における縄文時代中期中葉の勝坂 3 式土器。底部は平底をなし、胴部から口縁部が外傾して立ち上がる深鉢形土器。口縁部は無文、胴部上半に隆帯で文様帯を上下限し、これに刻み目を施した隆帯を垂下させて区画する。3 単位ある区画内には、渦巻文を貼り付けて三叉文を施すものを 2 単位、抽象文を施すものを 1 単位配置する。

11 ○名　　称　深鉢形土器（ふかばちがたどき）
○作 者 等　東京都東久留米市出土
○時　　代　縄文時代(中期)・前 3000～前 2000 年
○品　　質　土製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　口径 26.8cm 高 29.7cm
○作品概要　南関東における縄文時代中期後半の加曾利 E2 式並行期の連弧文土器。底部は平底で、胴部下半が内湾し、上半もまたゆるく内湾して口縁部にいたる深鉢形土器。口縁部には三条の沈線を巡らせ交互刺突文を施す。胴部上半には三条の沈線による重弧文を 2 段配置し、その下に懸垂文を施す。地文は撚糸文。

12 ○名　　称　磨製石斧（ませいせきふ）
○作 者 等　東京都東久留米市出土
○時　　代　縄文時代(中期)・前 3000～前 2000 年
○品　　質　(1)砂岩　(2)凝灰岩　(3)砂岩
○員　　数　3 個
○寸 法 等　(1cm) 長 11.8cm ； 幅 3.2cm 厚 3cm 重量 119.4cm ；(2cm) 長 12.7cm ； 幅 5.1cm 厚 2.5cm 重量 247.9cm ；(3cm) 長 16.6cm ； 幅 6.2cm 厚 2.9cm
○作品概要　(1)伐採具ないし木工具である磨製石斧である。頭部が細く棒状で、断面形が円形となる乳棒状磨製石斧である。縄文時代前期中葉より出現し列島に広く分布する。
(2)、(3)伐採具ないし木工具である磨製石斧である。頭部および両側面に稜をもち、断面形が隅丸長方形となる定角式磨製石斧である。縄文時代中期より出現し、関東および中部地方では後期以降磨製石斧の主要を占める。頭部や両側縁に整形の際の敲打痕がわずかに残り、刃部の一部を欠く。

＜歴史資料＞(1 件)

13 ○名　　称　転合庵ほか茶室資料（てんごうあん　ちゃしつしりょう）
○時　　代　江戸～昭和時代・19～20 世紀
○員　　数　一括（19 件 43 点）
○作品概要　塩原又策氏が所蔵していた茶室・転合庵は関東大震災によって倒壊し、数奇屋大工・山岸氏によって昭和 5 年（1930）に再建された（昭和 38 年(1963)に塩原千代氏より当館に寄贈)。本資料は、その再建時の関係資料や図面を含み、山岸家が関わった茶室の資料や、収集した茶室資料など全 19 件 43 点である。

＜東洋絵画＞(4 件)

14 ○名　　称　チャクラサンヴァラ父母仏曼荼羅（ちゃくらさんばらぶもぶつまんだら）
○時　　代　17-18 世紀
○品　　質　綿布著色、絹
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 120.3cm、横 74.8cm
○作品概要　額装。明妃ヴァジュラヴァーラーヒ（金剛亥母）を抱いた 4 面 12 臂のチャクラサンヴァラ（勝楽尊）を主尊とするチベット曼荼羅の一種。主尊を置いた八葉蓮華を中心に、周囲にかけて、四門を備えた方形や蓮華形によって区画を設け、その内外に諸尊及び父母仏を多数配置する。上部中央に、部主であるヴァイロチャナ（毘盧遮那仏）と明妃、下部中央にアモガパサ（不空羂索観音）を、それぞれ他の諸尊より大きめに描く。
画面の周囲には、五鈷杵の文様を刺繍によって表した絹製の縁取りを巡らせ、上縁部に吊り下げ用の紐帯 2 本を縫合しており、寺院に奉納し、懸架して用いたタンカの作例であることがわかる。

15 ○名　　称　ヤマーンタカ及び諸尊像（やまーんたかおよびしょそんぞう）
○時　　代　18 世紀頃
○品　　質　綿布著色
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 82.7cm、横 58.2cm
○作品概要　額装。8 面 20 臂 16 足のヤマーンタカ（大威徳明王）を大きく描き、下部にダルマパラ（護法神）を 4 体描く。画面向かって左上にチベット仏教ゲルク派の祖師であるツォンカパ(1357-1419)、右上に触地印を結ぶ釈迦仏を配置する。ツォンカパの両脇には蓮華が伸び、華の上に文殊菩薩を象徴する剣と経典をのせる。
黄色の帽子を戴くツォンカパの描写や、ツォンカパとヤマーンタカの関係性などから、ゲルク派のタンカの遺例と考えられる。

16 ○名　　称　釈迦仏坐像及び本生図（しゃかぶつざぞうおよびほんじょうず）
○時　　代　18-19 世紀
○品　　質　綿布著色
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 81.9cm、横 58.8cm
○作品概要　額装。チベット仏教においてしばしば制作された釈迦絵伝の一種。
大ぶりの光背を負って蓮華座に結跏趺坐し、与願施無畏印を結ぶ釈迦仏を中心として、周囲に 44 場面のジャータカ（本生譚）を画面一杯に描く。釈迦仏の頭上の円形の中には、釈迦の部主であるヴァイロチャナ（毘盧遮那仏）と明妃がヤブユムの姿で描かれる。

17 ○名　　称　インド細密画（いんどさいみつが）
○時　　代　15～19 世紀
○品　　質　紙本着色ほか
○員　　数　一括（89 件）
○作品概要　細密画はいずれも厚紙に水彩（部分的に金銀彩）をしたものであり、その内容は音楽を主題としたもの、神話を主題としたもの、肖像画などから構成されている。

本コレクションのは1.ジャイナ教経典写本、2.宮廷細密画、3.マルワ民画、4.写本類（断片を含む）、5.貝葉経と多岐に渡り、インド細密画の起源をなす経典挿絵から各地の藩王国宮廷における作品、民間への波及により生まれた作品など、インド細密画の世界全体を概観するに足る内容を持っている。

特にダティア派の画家によって1770-1780年頃に描かれた「サットサイシリーズ」が10枚含まれており、本コレクションの代表作である。「サットサイシリーズ」は藩王国オルチャのマハラジャが主人公の恋物語。本来200位の場面から構成されていたと考えられるがまとまったコレクションは知られておらず貴重である。

＜東洋民族＞(27件)

18 ○名　　称　ワヤン・クリ　ブトロ・グル
○時　　代　20世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、金箔、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長81.1cm 像高49.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜き、水牛の角の操作棒をつけている。本体部分に彩色。可動部はなく、操作棒1本で操作する。着衣部分の鏨は輪郭線を破線や列点状になぞることを基本とする。
インドのシヴァ神に当たる、宇宙を支配する神ブトロ・グルを表現している。顔は黒色、体は金色。目は切れ長。宝冠をかぶり、靴を履く。腕は4本あり、2本の腕は胸の前で交差させて印を結ぶ。残る2本の腕のうち、一方の腕の傍らに矢があり、他方の手には三叉戟が握られている。超能力を持つ牛ルムブ・アンディニの背に立つ。

19 ○名　　称　ワヤン・クリ　ウモ
○時　　代　20世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、真鍮、金箔、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長58.5cm 像高36.2cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に真鍮の軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。鏨による毛髪の表現が細かく、また着衣の裾の部分でも細かい鏨を組み合わせて文様を表現している。宇宙を支配する神ブトロ・グルの妻ウモを表現している。顔・体とも金色。目は切れ長。顔はややうつむく。帽子、胸飾、腕輪、靴を身に着け、長髪が腰まで伸びている。

20 ○名　　称　ワヤン・クリ　ナロド
○時　　代　20世紀後半
○品　　質　水牛の革、骨、木、竹、金箔、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長60.1cm 像高38.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹に木製、両手に竹製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。比較的小さい鏨を用い、輪郭を点線や破線で表現している。
ブトロ・グルの右腕で、グルをいさめることもあるナドロを表現している。顔はピンク色、体は金色。目は弓形。あごひげを生やし、帽子、上衣、靴を身に着け、腰にはクリスを差す。

21 ○名　　称　ワヤン・クリ　インドロ
○時　　代　20世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長77.6cm 像高52.2cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣部分では比較的大きめの鏨を用い、輪郭を点線で表現している。
天界を守護する神インドロを表している。顔は黒色、体は金色。目は円い。あごひげを生やし、宝冠、上衣、靴を身に着け、腰にクリス（短剣）を差す。

22 ○名　　称　ワヤン・クリ　スルヨ
○時　　代　20世紀
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長69.0cm 像高48.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に軸材（前方の肘のみ水牛の骨、ほか3か所は水牛の革）を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣部分では鏨による点線や破線で輪郭を表現する。
太陽神スルヨを表現している。顔・体とも金色。目は切れ長。あごひげを生やし、帽子、肩衣、長い上衣、靴を身に着け、腰にクリス（短剣）を差す。

23 ○名　　称　ワヤン・クリ　ブロモ
○時　　代　20世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長82.0cm 像高59.3cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣部分では鏨による点線や破線で文様の輪郭を表現する。
火の神ブロモを表している。顔はピンク色、体は金色。目はアーモンド形。宝冠、赤い上衣、靴を身に着け、腰にクリス（短剣）を差す。

24 ○名　　称　ワヤン・クリ　スマル
○時　　代　20世紀前半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長60.2cm 像高38.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣部分では鏨による点線や破線で輪郭を表現している。
道化のスマル（ブトロ・グルの兄）を表現している。顔は金色、体は黒色。サロンと腕輪、指輪を身に着ける。

25 ○名　　称　ワヤン・クリ　ガレン
○時　　代　20世紀前半
○品　　質　水牛の革、角、骨、真鍮、人毛、彩色

○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 60.4cm 像高 40.5cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に軸材（前方の肩・肘が真鍮、後方の肩・肘が水牛の骨）を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。人毛による髷を頭頂に糸で縫い付けている。着衣部分では比較的粗い鏨を用いて点線や破線で輪郭を表現する。
道化ガレン（スマルの長男）を表現している。顔は金色、体は黒色。サロンと耳飾り、腕輪、指輪を身に着け、腰にクリス（短剣）を 2 本差す。

26 ○名　　称　ワヤン・クリ　ペトル
○時　　代　20 世紀前半
○品　　質　水牛の革、角、真鍮、人毛、絹、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 77.4cm 像高 57.2cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に真鍮を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。人毛による髷を頭頂に糸で縫い付けている。後方の手に絹製の三角形の布を縫い付けている。着衣部分では鏨による点線や破線で輪郭を表現している。
道化ペトル（スマルの次男）を表現している。顔は金色、体は黒色。サロンと耳飾り、腕輪、指輪を身に着ける。

27 ○名　　称　ワヤン・クリ　バゴン
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 57.4cm 像高 37.6cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。髷が水牛の革で別づくりされ、水牛の骨で頭頂に固定されている。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。鏨は比較的大きいが、着衣の部分では細かい鏨を組み合わせて文様を表現している。
道化バゴンを表現している。顔・体とも緑灰色。サロンと耳飾り、腕輪、指輪を身に着ける。

28 ○名　　称　ワヤン・クリ　トゴグ
○時　　代　20 世紀前半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 66.7cm 像高 45.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。（@彩色の時点）本体部分に彩色。着衣部分では鏨による点線や破線で輪郭を表現している。
放浪の神トゴグ（ブトロ・グルを三男、スマルを次男とする 3 人兄弟の長男）を表現している。顔・体ともピンク色。サロンと耳飾り、腕輪、指輪を身に着け、腰に 2 本のクリス（短剣）を差す。

29 ○名　　称　ワヤン・クリ　ヨモディパティ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、竹、真鍮、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 81.0cm 像高 59.4cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に軸材（両肩が真鍮、両肘が水牛の骨）を貫通させて組み立てる。体幹に水牛の角製、両手に竹製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣部分では比較的太い鏨で、点線や破線により輪郭を表現している。
死の世界をつかさどる神ヨモディパティを表す。顔はピンク色、体は金色。目は円い。あごひげを生やし、帽子、上衣、肩衣、靴を身に着け、腰に短剣を差す。

30 ○名　　称　ワヤン・クリ　シリハン
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、角、竹、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 54.4cm 像高 31.7cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に竹製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣部分では鏨による点線や破線で輪郭を表現している。
シリハンと呼ばれ、ワヤン・クリの上演において、ダラン（演者）の指示により劇中で様々な役柄を与えられる女性像。顔・体とも金色。目は切れ長。ややうつむいている。髷を結うが、長髪を後方に垂らしている。腕輪を身に着ける。

31 ○名　　称　ワヤン・クリ　シリハン
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、角、骨、プラスティック、金箔、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 53.0cm 像高 33.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹に水牛の角製、両手にプラスティック製（補修あり）の操作棒をつけている。本体部分に彩色。頭髪を表現する鏨は細かい。着衣部分では鏨による点線や破線で輪郭を表現している。
シリハンと呼ばれ、ワヤン・クリの上演において、ダラン（演者）の指示により劇中で様々な役柄を与えられる女性像。顔・体とも金色。目は切れ長。顔はややうつむく。髷を結うが、長髪を後方に垂らしている。腕輪、胸飾を身に着ける。

32 ○名　　称　ワヤン・クリ　シリハン
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、角、骨、プラスティック、金箔、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 51.0cm 像高 33.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹に水牛の角製、両手にプラスティック製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。鏨による点線や破線で輪郭を表現している。髪や着衣の裾では細かい鏨を用いる。
シリハンと呼ばれ、ワヤン・クリの上演において、ダラン（演者）の指示により劇中で様々な役柄を与えられる女性像。顔は白色、体は金色。目は切れ長。髷を結うが、長髪を後方に垂らしている。腕輪を身に着け、肩衣を掛ける。

33 ○名　　称　ワヤン・クリ　シリハン
○時　　代　20 世紀

○品　　質　水牛の革、角、骨、金箔、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 53.4cm 像高 34.8cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。髪の毛と着衣の裾の部分では、細かい鏨を組み合わせて文様を構成している。
シリハンと呼ばれ、ワヤン・クリの上演において、ダラン（演者）の指示により劇中で様々な役柄を与えられる女性像。顔・体とも金色。目は切れ長。髷を結うが、長髪を後方に垂らしている。腕輪を身に着け、肩衣を掛ける。

34 ○名　　称　ワヤン・クリ　シリハン
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、角、骨、金箔、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 53.1cm 像高 35.1cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣の裾では細かい鏨を組み合わせて文様を表現している。
シリハンと呼ばれ、ワヤン・クリの上演において、ダラン（演者）の指示により劇中で様々な役柄を与えられる女性像。顔は白色、体が金色。目は切れ長。顔を上に上げている。髷を結うが、長髪を肩まで伸ばす。腕輪を身に着ける。

35 ○名　　称　ワヤン・クリ　チャキル
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、骨、金箔、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 70.5cm 像高 47.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣の裾の部分では細かい鏨を組み合わせて文様を表現している。
チャキルを表す。ラクササ（怪物）の一種で、チャキルとは鋲の意味で、牙のことを指している。特定のキャラクターではなく、主人公に打ち取られる役として用いられる人形。顔はピンク色、体は金色。目は弓形で、口には大きな牙がある。クリス（短剣）を 2 本差す。

36 ○名　　称　ワヤン・クリ　ラクササ
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、角、骨、金泥、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 88.4cm 像高 63.2cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。着衣部分では鏨を組み合わせて文様を構成している。
口元に牙があり、ラクササ（怪物）の特徴を示す。顔はピンク色、体は金色。目は円い。宝冠や身なりから、ラクササの王の地位にあることを示す。

37 ○名　　称　ワヤン・クリ　ランブットグニ
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、木、竹、真鍮、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 77.0cm 像高 58.3cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 3 つを、関節部分の孔に軸材（肩が真鍮、両肘が紐）を貫通させて組み立てる。体幹に木と竹製、前方の手に竹製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。比較的粗い鏨で輪郭を表現する。
燃えるような赤い髪の毛を持っているが、特定の役柄名は持たない。顔・体とも淡褐色。目は円い。口元に牙があり、ラクササ（怪物）の特徴を示す。髪は炎の形をし、赤い。木（籐）の操作棒は、揺らして用いるためである。

38 ○名　　称　ワヤン・クリ　プヌク
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 68.4cm 像高 47.3cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 3 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。（＠透の鏨について観察）
プヌクと呼ばれるラクササ（怪物）の一種を表現している。特定の役柄名は持たない。顔・体とも暗紫色。目は丸く大きい。口元に牙があり、ラクササ（怪物）の特徴を示す。腕輪、指輪を身に着ける。

39 ○名　　称　ワヤン・クリ　ジン
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、角、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 55.5cm 像高 36.2cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜き、水牛の角の操作棒をつけている。本体部分に彩色。可動部はなく、操作棒 1 本で操作する。鏨は最低限にとどめ、輪郭を表現するのみ。
亡霊ジンを表現する。役柄名は持たない。顔・体とも暗紫色。目は大きく丸い。大きな牙を持つ。片手を額の近くに上げ、片手を腰に当てた姿勢。全裸。

40 ○名　　称　ワヤン・クリ　ジン
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、角、骨、金泥、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 55.6cm 総高 36.5cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品 5 つを、関節部分の孔に水牛の骨を削り出して作った軸材を貫通させて組み立てる。体幹と両手に水牛の角製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。
亡霊ジンを表現する。役柄名は持たない。顔・体ともピンク色。目は巨大で丸い。口に大きな牙を持つ。全裸だが耳飾りをつける。

41 ○名　　称　ワヤン・クリ　ジン
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、竹、彩色
○員　　数　1体

○寸 法 等　全長 58.3cm 像高 41.5cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜き、竹製の操作棒をつけている。本体部分に彩色。可動部はなく、操作棒 1 本で操作する。髪の毛の部分で、鏨を組み合わせて巻き髪を表現。ほかの部分では鏨による点線や破線で輪郭を表現している。
亡霊ジンを表現する。役柄名は持たない。顔・体とも暗紫色。目は丸く、口に牙がある。

42 ○名　　称　ワヤン・クリ　ジン
○時　　代　20 世紀
○品　　質　水牛の革、角、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 55.2cm 像高 37.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜き、水牛の角の操作棒をつけている。本体部分に彩色。可動部はなく、操作棒 1 本で操作する。粗い鏨による点線や破線で輪郭のみを表現している。
亡霊ジンを表現する。役柄名は持たない。顔・体とも淡いピンク色。目は丸く、口に牙がある。頭頂部が禿げ上がっている。髪の毛は髷を結わず後方に垂らす。片手に刀を持つ。

43 ○名　　称　ワヤン・ゴレ　ウマルモヨ
○時　　代　20 世紀
○品　　質　木、竹、布、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 67.5cm 像高 46.2cm
○作品概要　胴部と上腕、上腕と前腕・手をそれぞれ糸でつなげ、両手には操作棒を糸でつなげている。操作棒は胴部を縦に貫通した孔を下から上に通過して、先端に頭部を載せる。胴部には腰に当たる部分にくびれがあり、下衣の上端はこのくびれに縛り付ける。　胴部の下半、下衣によって隠される部分にインクによる注記「MARMOYO／マルモヨ」がある。
将軍ウマルモヨを表現する。ペルシャの「アミル・ハムザ物語」に由来する「メナク物語」を人形劇化した、イスラムの聖人に関する物語ワヤン・メナク（wayang menak）で用いられる。ウマルモヨは主人公ジャエンロノ配下の将軍で従兄弟。ジャエンロノはアミル・ハムザともいい、イスラム教の開祖ムハンマドの叔父にあたる。

44 ○名　　称　ワヤン・ゴレ　ジウェン
○時　　代　20 世紀
○品　　質　木、竹、布、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 67.5cm 像高 49.2cm
○作品概要　胴部と上腕、上腕と前腕・手をそれぞれ糸でつなげ、両手には操作棒を糸でつなげている。操作棒は胴部を縦に貫通した孔を下から上に通過して、先端に頭部を載せる。胴部には腰に当たる部分にくびれがあり、下衣の上端はこのくびれに縛り付ける。頭には帽子をかぶる。
ペルシャの「アミル・ハムザ物語」に由来する「メナク物語」を人形劇化した、イスラムの聖人に関する物語ワヤン・メナク（wayang menak）で用いられる道化のキャラクターの 1 つ、ジウェンを表現している。

(3) 編入（144 件）
＜考古＞(4 件)

1 ○名　　称　外容器（がいようき）
○作 者 等　香川県三豊市高瀬町北原遺跡（猫坂古墓）出土
○時　　代　奈良時代・8 世紀
○品　　質　陶製
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 29.5cm 最大径 30.2cm
○作品概要　蓋と身からなる骨蔵器を収めるための須恵器の外容器。
蓋は宝珠形のつまみを持ち、緩やかに湾曲する。身は底部に背の低い高台が付き緩やかに湾曲しつつ外に開く。いずれもロクロによる成形とナデ整形を施す以外無文だが、内外に赤色顔料が塗布されている。底中央に 5 ミリほどの穿孔あり。
作品には「震災の為削除」の札が付されており、関東大震災後に削除されたと考えられる（列品番号の記載なし）。
北原遺跡（猫坂古墓）出土品として『高瀬町史』(高瀬町編集･発行　平成 17 年 2 月刊行)に挿図入りで掲載されている。

2 ○名　　称　銅板残片（どうばんざんぺん）
○作 者 等　香川県三豊市高瀬町北原遺跡（猫坂古墓）出土
○時　　代　奈良時代・8 世紀
○品　　質　銅製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　縦 8.4cm 横 8.5cm
○作品概要　隅丸方形状を呈する銅板。わずかに湾曲し、端部が一部丸く加工されている。
内面に布目状の圧痕と繊維が一部に付着する。同様の布目は銅製骨蔵器（E-14464 ）の内面にも認められるため、当該作品が銅製骨蔵器内に収められていたと考えられる。
北原遺跡（猫坂古墓）出土品として『高瀬町史』(高瀬町編集･発行　平成 17 年 2 月刊行)に記載されている。

3 ○名　　称　経筒蓋（きょうづつふた）
○作 者 等　岐阜県瑞浪市土岐町桜堂　桜堂経塚出土
○時　　代　平安時代・12 世紀
○品　　質　陶製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　径 20.3cm 高 6.9cm
○作品概要　陶製経筒の蓋。全体の 3 分の 1 程度を欠き、3 破片の接合と樹脂による補修が施されている。ロクロによる成形ながらも不整円形を呈する。器面は粗いケズリの調整痕が目立ち、緑釉が厚く施されている。中央に円柱状のツマミが付く。
内面に「宗一五一七」と墨書されており、埋蔵物録や列品記載簿に記載された番号から、当該作品が E-14746 で登録されていたものが、昭和 44 年に誤記削除されたと考えられる。

4 ○名　　称　石櫃（いしびつ）
○作 者 等　山形県南陽市宮内字別所出土
○時　　代　平安時代・12 世紀
○品　　質　石製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大長 60.0cm 最大幅 40.0cm 最大長（内刳）38.0cm 最大幅（内刳）21.0cm 最大高（内刳）20.0cm
○作品概要　凝灰岩製の石櫃の身で外容器の一部。

楕円形に加工され、内部が隅丸方形に刳られている。内外面にわたり加工痕が粗く残されている。
明治 31 年埋蔵物録の「山形県東置賜郡宮内町所有別所山ニ於テ発掘ノ石櫃其ノ他買上ノ件」に掲載されている計測図の特徴や計測値から当該石櫃と同一のものと考えられる。E-14396 として登録されていたものが、昭和 44 年に誤記削除されたと考えられる。

＜歴史資料＞(134 件)

5 ○名　　称　歴史資料（れきししりょう）
○時　　代　江戸～昭和時代・17～20 世紀
○員　　数　134 件
○作品概要　「歴史資料(P)」と称される分野は、昭和 13 年(1938)旧歴史部の解体に伴い、当時の列品から「学芸課資料」として再編成された資料群を基礎としている。構成としては、江戸幕府からの引継ぎ資料や、当館の前身といえる書籍館、浅草文庫、内務省博覧会事務局収集資料も多く含まれ、その内容は多様である。今回編入分には、ジョサイア・コンドル設計による旧本館の図面類や、すでに重要文化財に指定されている今井八九郎関係資料などが含まれる。

＜東洋考古＞(5 件)

6 ○名　　称　長頸壺（ちょうけいこ）
○時　　代　三国時代(新羅)・5 世紀後半
○品　　質　土器
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 32.4cm 口径 18.4cm～18.8cm 胴径 27.7cm
○作品概要　三国時代新羅の王都・慶州に見られる、5 世紀後半の典型的な丸底の長頸壺。
丸底に叩き出したのちにロクロ上で丁寧に表面をなで、2 条 1 組の沈線によって作り出した突帯で、肩部と腹部の境界を明示する。やや外傾しつつ直線的に立ち上がる口頸部は、2 条突帯によって口縁部と頸部を分け、頸部は沈線 2 条によって上下分割する。頸部の付け根にも突帯をめぐらす。口縁端部は水平で、やや凹面をなす。
肩部に 2 組、腹部に 2 組、頸部の 1 段につき 2 組ずつ、櫛描波状文をめぐらす。
白ペンキで「LA34」の注記がある。注記のしかたが、徳川頼貞氏寄贈の銅駝坊陳列館旧蔵品のそれと同様であることから、徳川コレクションの寄贈（昭和 2 年）の際に登録から漏れたものとみなされる。また、「1160」と記されたラベルが貼付されている。

7 ○名　　称　長頸壺（ちょうけいこ）
○時　　代　三国時代(新羅)・5 世紀後半
○品　　質　土器
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 31.3cm 口径 19.4cm～19.7cm 胴径 28.0cm
○作品概要　三国時代新羅の王都・慶州に見られる、5 世紀後半の典型的な丸底の長頸壺。
丸底に叩き出したのちにロクロ上で丁寧に表面をなで、2 条 1 組の沈線によって作り出した突帯で、肩部と腹部の境界を明示する。やや外傾しつつ直線的に立ち上がる口頸部は、2 条突帯によって口縁部と頸部を分け、頸部は沈線 2 条によって上下分割する。頸部の付け根にも突帯をめぐらす。口縁端部は水平で、やや凹面をなす。
肩部に 2 組、腹部に 2 組、頸部の 1 段につき 2 組ずつ、櫛描波状文をめぐらす。
白ペンキで「LA33」の注記がある。注記のしかたが、徳川頼貞氏寄贈の銅駝坊陳列館旧蔵品のそれと同様であることから、徳川コレクションの寄贈（昭和 2 年）の際に登録から漏れたものとみなされる。また、「1161」と記されたラベルが貼付され、「11580」の注記がある。

8 ○名　　称　短頸壺（たんけいこ）
○時　　代　三国時代(新羅)・5～6 世紀
○品　　質　土器
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 42.0cm 口径 18.4cm～18.9cm 胴径 40.8cm
○作品概要　三国時代新羅に見られる、典型的な丸底球胴の短頸壺である。
胴は叩き出しののち、丁寧になでられている。口縁部は曲線的に短く開き、端部は垂直面をなす。
「LA.37」の注記があるほか、ラベルが貼られた痕跡がある。注記が徳川頼貞氏寄贈の銅駝坊陳列館旧蔵品のそれと同様であることから、徳川コレクションの寄贈（昭和 2 年）の際に登録から漏れたものとみなされる。

9 ○名　　称　甕（かめ）
○時　　代　三国時代(新羅)・5～6 世紀
○品　　質　土器
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 25.5cm 口径 18.1cm～19.0cm 胴径 26.2cm 底径 11.8cm～12.2cm
○作品概要　三国時代新羅に見られる、典型的な甕である。やや上げ底になるように叩き出し、胴部はやや張る。口縁部は強く外方に開き、端部は外傾する凹面をなす。
胴部外面下位には格子叩き目を残し、胴中央は沈線をめぐらすほかは装飾はない。
注記やラベルなどの痕跡は見られないが、製作技法や付着している土壌などの特徴は、徳川頼貞氏寄贈の銅駝坊陳列館旧蔵品のそれと共通していることから、徳川コレクションの寄贈（昭和 2 年）の際に登録から漏れたものとみなされる。

10 ○名　　称　浮彫断片（うきぼりだんぺん）
○作 者 等　エジプト、テル・エル・アマルナ出土
○時　　代　新王国時代（第 18 王朝アクエンアテン王治世）・前 1351～前 1334 年頃
○品　　質　アラバスター
○員　　数　1 個
○寸 法 等　縦 14.7cm 横 11.4cm 奥行き 16.5cm
○作品概要　アクエンアテン王の王名枠（カルトゥーシュ）の一部と、丸い形状の浮彫の断片が残る。

＜法隆寺献納宝物＞（1 件）

11 ○名　　称　幡芯板(木簡転用材)（ばんのしんいた(もっかんてんようざい)）
○時　　代　飛鳥～奈良時代・７～８世紀
○品　　質　木製墨書
○員　　数　8 枚
○寸 法 等　①縦 30.2cm 横 2.7cm,②縦 24.0cm 横 4.0cm,③縦 23.8cm 横 2.6cm,④縦 23.5cm 横 2.5cm,⑤縦 18.5cm 横 2.2cm,⑥縦 17.6cm 横 1.8cm,⑦縦 17.1cm 横 3.5cm,⑧縦 16.5cm 横 3.0cm
○作品概要　169 枚の存在が確認された幡芯板は、幡がたわむのを防ぐため、幡身一坪目の頂部に渡した木材であり、明治 12 年『列品録』の「法隆寺献納宝物ノ塵芥櫃」中に記載された「幡木材片　壱括」に相当すると考えられる。これらのうち 8 枚は、表裏に墨書があり、いずれも木簡を転用したもので、その書風より７世紀末から８世紀前半までに作成された可能性が高い。現状では幡芯板の形状に削り直されているが、伝来品としてはわが国最古級の木簡資料である。墨書の内容は、「千字文」や、中宮寺や法起寺と関係するとみられる尼僧の名前、さらに塩などの売買記録など、古代の寺院生活を検討する上で、貴重な情報を提供するものである。

【京都国立博物館】(計 265 件)

(1) 購入(14 件)

＜絵画＞(3 件)

1　○名　　称　蝦蟇河豚相撲図（がまふぐずもうず）
　　○作 者 等　伊藤若冲筆
　　○時　　代　江戸時代(18 世紀)
　　○品　　質　紙本墨画
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　縦 101.3cm、横 43.0 cm
　　○作品概要　若冲の水墨画は数多く現存しているが、本作は主題の珍しさにおいてほかに類を見ないきわめてユニークな作品である。京都ゆかりの画家の優品として、また、一般への訴求力も強く、古美術への関心を高める効果が大いに期待できる。

2　○名　　称　耕作図屏風（こうさくずびょうぶ）
　　○作 者 等　狩野永良筆
　　○時　　代　江戸時代（18 世紀）
　　○品　　質　紙本着色
　　○員　　数　6 曲 1 隻
　　○寸 法 等　縦 165.3、横 347.8 cm
　　○作品概要　狩野永良（1741～71）は、狩野山楽（1559～1635）を祖とし、江戸時代を通じて京都を活動の拠点とした京狩野家の第 6 代当主である。本作は、数少ない永良の大作として貴重であるばかりでなく、他に類を見ない優れた風俗描写は知られざる画家の一側面をも示している。

3　○名　　称　墨花争奇図巻（ぼっかそうきずかん）
　　○作 者 等　大岡春卜筆
　　○時　　代　江戸時代　宝暦 7 年（1757）
　　○品　　質　紙本墨画
　　○員　　数　2 巻
　　○寸 法 等　上巻　縦 28.8×横 1238.0 cm、下巻　縦 28.8×横 1468.0 cm
　　○作品概要　大岡春卜（1680～1763）は大坂に住した画家。本作は 2 巻からなる巻子作品で、上巻巻頭に黄檗僧・無染浄善（1693～1764）が題字を記し、以下 2 巻にわたって春卜がおもに花鳥を中心としたモチーフを断続的に描いている。図にはそれぞれ賛が付されており、上巻は高僧が、下巻は学者が主に名を連ねている。着賛者の総勢 26 名にのぼる。また、各巻末尾にそれぞれ桂洲道倫（1714～94）、岡白駒（1692～1767）が跋を記す。本作は、春卜の京都における活動とその意義を示す重要作である。

＜書跡＞(1 件)

4　○名　　称　賀茂御祖神社関係文書（かもみおやじんじゃかんけいもんじょ）
　　○時　　代　鎌倉～江戸時代（12～17 世紀）
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　5 巻
　　○寸 法 等　巻第一　縦 30.3cm　全長 664.8cm、巻第二　縦 31.8cm　全長 459.6cm、巻第三　縦 27.4cm　全長 926.6cm、巻第四　縦 32.0cm　全長 420.6cm、巻第五　縦 31.1cm　全長 941.5cm、
　　○作品概要　賀茂御祖神社（下鴨神社）に伝来、散逸した古文書。文治四年（1188）九月十九日付の越中国寒江庄田畠散用注進状より、寛永九年（1632）五月二十四日付の御蔭社正殿清祓にいたる全四十七通が五巻に成巻されている。

＜彫刻＞(1 件)

5　○名　　称　行道面　菩薩（ぎょうどうめん　ぼさつ）
　　○時　　代　鎌倉～南北朝時代（14 世紀）
　　○品　　質　木造漆箔彩色
　　○員　　数　1 面
　　○寸 法 等　面長 22.7cm、面幅 19.4cm、高 15.1cm
　　○作品概要　行道は寺院における儀礼などに際して、仮面をつけて境内などを練り歩くもので、おそくとも平安時代初期にはじまった。それに用いられる仮面には、獅子頭、八部衆、十二天など多くの種類がある。本面のように中世にさかのぼり出来栄えもよい行道面は、なかなか市中に出回ることが少なく、極めて貴重なものである。

＜金工＞(1 件)

6　○名　　称　重要文化財　金熨斗刻鞘大小拵（きんのしきざみさやだいしょうこしらえ）
　　○時　　代　江戸時代（17 世紀）
　　○品　　質　木製、青漆塗、金の薄板巻き
　　○員　　数　1 腰
　　○寸 法 等　（大）総長 96.0cm　総反 3.6 cm 柄長 23.0 cm　鞘長 73.4 cm　鐔縦 7.7 cm　鐔横 7.4 cm
　　（小）総長 50.6 cm　総反 0.6 cm 柄長 13.2 cm　鞘長 37.0 cm　鐔縦 4.9 cm　鐔横 3.85 cm
　　○作品概要　印籠風の俵型の模様を一定の幅で刻んだ、いわゆる「印籠刻」の鞘で、腰元は緑色の青漆を塗り、先に金の薄板を薄く延ばした熨斗板を張り「金熨斗」としている。大小はそれぞれの柄の作りや、金熨斗や青漆の色合い、金熨斗の削ぎ方が逆であることなど、やや統一を欠くところもあるが、大きく時代を隔てる要素は看取されない。豪壮な印象を与える印籠刻や、渋めの緑色とあざやかな金色を片身替りに対比させた意匠など、桃山の雰囲気を色濃く残す一方で、彫金には一種の洗練がうかがわれ、桃山様式を示す江戸時代前期の作とみなされる。重要文化財に指定された大小拵は本件を含めて 4 件しかなく、その存在は極めて貴重である。

＜陶磁＞(3 件)

7 ○名　　称　色絵松梅文徳利（いろえしょうばいもんとっくり）
　○時　　代　江戸時代（18 世紀）
　○品　　質　色絵陶器
　○員　　数　1 口
　○寸 法 等　高 18.5cm　口径 3.8cm　底径 9cm
　○作品概要　赤・青・緑・金の四色で上絵付された陶器の徳利である。撫で肩で、瓢形を意識し、中央にくぼみを設けた形となっている。器面全体に細かな貫入がみられ、胴部には松と梅が鮮やかな色絵で描かれている。底部には「御菩薩池」の印が捺され、「極の手」と墨書されている。いわゆる、古清水と総称される京焼陶器の一つである。

8 ○名　　称　五彩印判手楼閣山水文大皿（ごさいいんばんてろうかくさんすいもんおおざら）
　○時　　代　中国・明時代（17 世紀）

○品　　質　色絵磁器
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　高 11.0　口径 43.8　高台径 21.3
○作品概要　中国・漳州窯で焼かれた五彩の皿である。呉州青絵、青呉州ともいわれ、広義の意味では呉須赤絵とも呼ばれてきたものである。本作品は、素地となる白磁の胎土は粗く、底部には粗い砂粒が付着し、釉薬はやや灰色がかかっている。見込み中央には、二重圏線のなかに、蓬莱山であろうか、いずれにしても神仙思想を題材としたものと思われる山や楼閣が吹き出しや重ねられるように描かれ、その周りに四つの窓と印判が描かれている。

9
○名　　称　五彩花鳥文魁文字鉢（ごさいかちょうもんさきがけもじばち）
○時　　代　中国・明時代（17 世紀）
○品　　質　色絵磁器
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 11.0　口径 20.0　高台径 9.5
○作品概要　中国・漳州窯で焼かれた五彩の鉢である。呉州赤絵とも呼ばれる。景徳鎮窯の赤絵の技法をもとに、日本を含めた海外に向け、大量生産されたものである。素地となる白磁の胎土は粗く、高台に砂が付着しているなど、漳州窯で焼かれた作品の特徴がよく現れている。外面には蓮池水禽、花鳥などが描かれて、内面見込みには「魁」の文字が、赤、緑、黒などの上絵具で描かれている。

＜漆工＞(1 件)
10 ○名　　称　水葵蒔絵螺鈿菓子箪笥（みずあおいまきえらでんかしだんす）
○時　　代　江戸時代(18 世紀)
○品　　質　木製、漆塗、蒔絵、螺鈿、鉛板
○員　　数　1 基
○寸 法 等　幅 14.4cm　奥行 14.4cm　高 18.0cm
○作品概要　菓子箪笥は、茶道の薄茶の席で、引き出しに納めた干菓子を客人たちが取り回して楽しむための器物であり、通常は天板に提げ鐶をつけた慳貪蓋造りの小型箪笥である。江戸時代後期にならないと一般化しないようだが、本品は、箪笥としては珍しい正方形である点や、引き出しの側面や背面にも蒔絵を施す点が、食べ物を収める重箱に通じるため、小型である点もあわせて、菓子箪笥として作られたものと推定される。
光琳風蒔絵の典型例である。

＜染織＞(2 件)
11○名　　称　有職雛　直衣姿（ゆうしきびな　のうしすがた）
○時　　代　江戸時代（19 世紀）
○品　　質　頭・手先：桐塑胡粉塗　衣裳：絹
○員　　数　1 対
○寸 法 等　男雛：高 29.0 ㎝（烏帽子含む）　女雛：高 24.0 ㎝
○作品概要　有職雛とは、宮中での衣服の調進や衣文（着付）を家職とする、山科家または高倉家が調整に関与したとされる雛人形で、公家および公家と通婚関係を有する武家などを中心に伝来する雛人形である。京都で製作され、公家文化の余芳を伝える有職雛は、京都文化の蒐集をかかげる京都国立博物館にまことにふさわしい作品である。

12○名　　称　雛道具　貝桶・合貝（ひなどうぐ　かいおけ・あわせがい）
○時　　代　江戸時代（19 世紀）
○品　　質　木胎紙貼着色　貝に着色
○員　　数　1 対
○寸 法 等　貝桶：高 13.4 ㎝　貝：幅 3.0 ㎝程度
○作品概要　雛道具は雛人形のために製作された小型の調度である。本品は、通例の貝桶同様、形状は六角柱形で印籠蓋づくり。芯は薄い木胎で、表面に紙を貼り、金地に濃彩の物語絵を描く。合貝は蛤と思われる貝殻の内側に銀箔を貼り、花、鳥、歌仙をいずれも濃彩で描く。二枚が揃っているものが 20 組、1 枚のみのものが 24 枚付属する。

＜歴史資料＞(2 件)
13○名　　称　甲寅記事画巻　平山省斎題（こういんきじずかん　ひらやましょうさいだい）
○作 者 等　平山省斎筆
○時　　代　江戸時代（19 世紀）
○品　　質　紙本着色
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　縦 29.5cm　全長 1870.0 ㎝
○作品概要　嘉永 6 年（1853）6 月にペリー提督が率いる米国艦隊が相模国（現神奈川県）の浦賀沖に現れ、幕府に開国を要求した。いわゆる黒船来航である。日本が幕末に入ったのはこの時からとされる。本作品は、翌安政元年（甲寅年・1854）の二度目の様子を描いた 18m を越える長い絵巻物であり、アメリカ側は横浜に上陸し幕府と交渉の末、日米和親条約が締結されたがその際の様子を描いた記録的絵画である。また、数多いペリー来航を描いた絵巻のうちでも出色の作品であり、保存状態も極めて良好である。

14○名　　称　異国船図巻（いこくせんずかん）
○作 者 等　作者不詳
○時　　代　江戸時代（19 世紀）
○品　　質　紙本墨画・紙本著色・木版多色刷
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　縦 34.0cm　全長 819cm
○作品概要　ペリー来航図関係の絵巻の参考資料と見られるもの。多様な内容を含むもので貼りつないで簡易な巻物に仕立てられている。19 世紀半ば当時の様々な情報が込められた歴史史料として研究に役立つものであり、また幕末関連の展示にも有効に活用できる作品である。

(2) 寄贈(251 件)
＜絵画＞(23 件)
1 ○名　　称　喝石岩図（かっせきがんず）
○作 者 等　信春印
○時　　代　桃山時代（16 世紀）
○品　　質　紙本着色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　45.3×63.6 ㎝
○作品概要　虚堂智愚がその法嗣・南浦紹明（大応国師）と「喝石岩」の前で対面する様子を描く。「喝石岩」は、径山を開いた法欽のもとを訪れた恵崇が呪文によって割ったといういわれをもつ岩。画面には長谷川等伯（1539～1610）が若い頃に用いた「信春」印が捺されるが、筆者についてはなお検討を要する。

2 ○名　　称　王羲之図（おうぎしず）

○作 者 等　雲谷等顔筆
○時　　代　桃山～江戸時代（17 世紀）
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　119.4×51.3 ㎝
○作品概要　樹木の下で巻紙に書をしたためる人物は、東晋の書家・王羲之を描いたものと思われる。印章の欠損状況から、雲谷等顔（1547～1618）の晩年の作とわかる。幕末～明治期の国学者・小杉榲邨の旧蔵品。

3 ○名　　称　花鳥図屏風（かちょうずびょうぶ）
○作 者 等　不詳
○時　　代　桃山時代（16 世紀）
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　4 曲 1 隻
○寸 法 等　136.7×257.4 ㎝
○作品概要　やや幅広の 4 曲屏風という変則的な形状だが、引手跡等はなく当初からの姿かと考えられる。1 双屏風の右隻が残ったものだろう。巨大な松の表現には狩野永徳による大画方式の影響が顕著で、近い時代の狩野派画家による制作と見られる。

4 ○名　　称　七日の月図（なのかのつきず）
○作 者 等　榊原文翠筆
○時　　代　明治 22 年（1889）
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1 幅
○作品概要　はじめ谷文晁に学び、のちやまと絵を得意とした榊原文翠（1825～1909）の作品。暮方の空に浮かぶ七日月を描くシンプルな作品だが、兎をデザインした一文字も含め描表装である。共箱。

5 ○名　　称　群鶴図屏風（ぐんけいずびょうぶ）
○作 者 等　狩野美信（洞春）筆
○時　　代　江戸時代（18 世紀）
○品　　質　紙本金地着色
○員　　数　6 曲 1 双
○寸 法 等　各 170.2×362.6 ㎝
○作品概要　表絵師筆頭格・駿河台狩野家の 4 代目・狩野美信（1747～97）の作品。法眼に叙せられた天明 5 年（1785）以降の作とわかる。珍しいアネハヅルを描く点などに、同時代の博物学的関心が狩野派絵師にも及んでいたことが明瞭である。

6 ○名　　称　嵐山雪景図屏風（あらしやませっけいずびょうぶ）
○作 者 等　森寛斎筆
○時　　代　明治 13 年（1901）
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　6 曲 1 隻
○寸 法 等　124.9×264.2 ㎝
○作品概要　嵐山を背景に、大堰川と渡月橋を望む景観が描かれている。大堰川に筏が浮かべられる点など、和歌との結び付きを特色とする近世以前の名所絵の流れを汲む。円山派を学んだ森寛斎（1814～94）らしい描法が見られる作品である。

7 ○名　　称　南蛮屏風（なんばんびょうぶ）
○作 者 等　不詳
○時　　代　江戸時代（17 世紀）
○品　　質　紙本着色
○員　　数　6 曲 1 隻
○寸 法 等　152.2×361.0 ㎝
○作品概要　いわゆる内膳本系統の図様を踏襲する南蛮屏風である。1 双屏風のうち、異国を出帆する南蛮船を描く左隻のみが残ったものと思しい。制作時期は 17 世紀半ば頃まで下がると見られる。

8 ○名　　称　銅版画ガラス絵貼交屏風（どうばんががらすえはりまぜびょうぶ）
○作 者 等　不詳
○時　　代　江戸時代（18～19 世紀）
○品　　質　紙本銅版・木版、ガラス絵
○員　　数　6 曲 1 双
○作品概要　舶載された西洋銅版画および中国製版本等を貼り交ぜ、各扇にガラス絵を嵌め込んだ屏風である。屏風に仕立てられた時期は 18 世紀にまで上がる可能性があり、江戸時代における外来文化受容という点で高い資料的価値がある。

9～22
○名　　称　柿本人麿像（かきのもとのひとまろぞう）など
○時　　代　室町時代～江戸時代
○品　　質　紙本著色・絹本著色など
○員　　数　14 件
○作品概要　京都市の古美術蒐集家が五十年近く、自らマーケットに足を運び、築いたコレクション。室町期の「柿本人麿像」から、池大雅の墨画など、幅広い分野に渡る中近世の佳品によって構成される。細目は以下の通り。

１	柿本人麿像	１幅
２	岩屋草紙断簡	１幅
３	伊勢物語絵断簡（おのが世々）	１幅
４	一行阿闍梨像	１幅
５	達磨図	１幅
６	東山名所図屏風　幸野楳嶺筆	６曲１隻
７	花鳥図　岡本秋暉筆	１幅
８	墨蘭図　池大雅筆	１幅
９	墨菊図　池大雅筆	１幅

10 富士山図　富岡鉄斎筆　　１面
11 富士山図　富岡鉄斎筆　　１幅
12 煙草盆（北斎版木製）　　１基
13 版画美人図　　１幅
14 故事人物図　　１幅

23〇名　　称　人物図（じんぶつず）
〇作 者 等　高其佩筆
〇時　　代　中国・清時代（19 世紀）
〇品　　質　紙本墨画淡彩
〇員　　数　1 幅
〇寸 法 等　縦 132.7cm、横 57.4cm
〇作品概要　仙人らしき人物を指に墨をつけて描いた指頭画。その名手とされた高其佩（1660-1734）の落款をもつが、描線や落款の字体から真筆とはみなしがたい。ただし、日本に伝わった指頭画として、日本での高其佩人気の高さをうかがわせる点で興味深いものがある。

＜書跡＞(35 件)

24〇名　　称　八代集（はちだいしゅう）
〇時　　代　江戸時代（18 世紀）
〇品　　質　紙本墨書
〇員　　数　14 冊
〇寸 法 等　（各）縦 24.3 ㎝、横 18.2 ㎝
〇作品概要　『古今和歌集』より『新古今和歌集』にいたる八つの勅撰和歌集、すなわち「八代集」の新写本。いずれの冊にも書写奥書はないが、料紙と字すがたから、江戸時代中期の写本とみてよい。本文に書き入れの痕跡はないため、学習というより調度として作られたと思われる。金泥で景物を描き、外題箋を貼った各冊の表紙は、『信長公記』（重要文化財、建勲神社蔵）との共通点も多く、作成の周辺事情を考えるうえで興味深い。

25〇名　　称　連歌・狂歌（れんが・きょうか）
〇作 者 等　伝松永貞徳筆
〇時　　代　江戸時代（18 世紀）
〇品　　質　紙本墨書
〇員　　数　1 幅
〇寸 法 等　縦 28.1 ㎝、41.2 ㎝
〇作品概要　「印可開之会」を題とした連歌、狂歌を一紙にしたためたもの。筆者は江戸時代の歌人として著名な松永貞徳（1571～1653）、およびその門弟・安原貞室（1610～73）と伝えるが、全文一筆であり、時代は下がると考えたほうがよい。箱書きによれば、大正２年（1913）に奥村康安太郎より、貞徳ゆかりの花咲稲荷へと寄進された。

26～58
〇名　　称　明正天皇宸翰消息（めいしょうてんのうしんかんしょうそく）など
〇時　　代　平安時代～江戸時代（12～19 世紀）
〇品　　質　紙本墨書など
〇員　　数　33 件
〇作品概要　京都市の古美術蒐集家が五十年近く、自らマーケットに足を運び、築いたコレクション。宸翰（天皇自筆の書）、文書・記録、和歌・文学と三つの分野から構成され、はっきりとした目的意識のもと、蒐集が行われていたことがうかがえる。公家（九条家）や社寺（毘沙門堂・東寺・松尾大社など）の旧蔵品が多く含まれ、「東寺関係文書」のように、存在は知られていたが長らく所在不明であったものなど、いずれもが学術的に貴重である。細目は以下の通り。

１ 後光厳天皇宸翰消息（以何可酬此忠節）　１幅
２ 明正天皇宸翰消息（修学院観音へ）　１幅
３ 明正天皇宸翰消息（きのふ江戸より）　１幅
４ 時代不同歌合色紙（紀貫之・左京大夫顕輔）　後西天皇宸翰　１幅
５ 百人一首色紙（柿本人丸）　後西天皇宸翰　１幅
６ 後桜町天皇宸翰消息（御機けむよくめて度）　１幅
７ 後桜町天皇宸翰消息（御機けむよくめて度さ）　１幅
８ 後桜町天皇宸翰消息（一封のやう）　１幅
９ 後桜町天皇宸翰消息（きのふの一封）　１幅
10 光格天皇宸翰消息（御月次御製御下付）　１幅
11 光格天皇宸翰消息（与程暑光相催）　１幅
12 光格天皇女房奉書　文化四年二月十日付　１通
13 聖教紙背文書　２幅１通
14 東寺関係文書　５通
15 高木家文書　４通
16 為成仮名消息　正月十六日付（紙背あり）　１巻
17 某消息　十二月一日付（紙背あり）　１幅
18 兼有消息　四月廿五日付（紙背あり）　１幅
19 二階堂貞藤消息　三月八日付（紙背あり）　１幅
20 某仮名置文　正和五年五月廿二日付　１幅
21 二階堂行元奉書　延文二年五月八日付　１幅
22 壇所等指図案　１幅
23 裏松重光書状　二月十一日付　１幅
24 上杉謙信書状　極月五日付（宛所欠）　１幅
25 古田織部消息　正月廿四日付（折紙）　１幅
26 小堀政一消息　十四日付　１幅
27 沢庵宗彭消息　閏十一月五日付　１幅
28 新井白石書状　九月廿一日付　１幅
29 東寺年中行事　観応三年六月三日賢宝書写奥書あり　１巻
30 白氏文集巻第四断簡（両朱閣）　１幅
31 栄華物語巻第十二断簡（おりにあひたる）　１幅
32 八条宮智仁親王詠草（対鶴争齢）　１幅
33 装飾料紙　うち一枚に「光悦」印あり　６枚

＜彫刻＞(2 件)

59○名　　称　神像（しんぞう）
○作 者 等　不明
○時　　大　江戸時代
○品　　質　木造彩色
○員　　数　5 躯
○寸 法 等　像高 100～120 センチ
○作品概要　京都市下京区の花咲稲荷神社に伝来した５躯の神像で、いずれも江戸時代中期・１７世紀後半から１８世紀ころの製作と考えられる。同社は歌人として有名な松永貞徳の邸宅跡に築かれたもので、祭神は貞徳自身の信仰に基づくと伝えられる。５躯の神像は、それぞれ①宇賀御魂神（うがのみたま・稲荷神）②素盞嗚尊（すさのをのみこと）③大市比売④大己貴（おおなむち）⑤猿田比古、と伝えられている。狐に乗る①、鼻の長い⑤は伝承通りと考えられるが、神像に一般的な姿の②③④像は、像容からは神名を確定できない。

60○名　　称　狂言面　武悪（ぎょうどうめん　ぶあく）
○作 者 等　不明
○時　　代　江戸時代
○品　　質　木造彩色
○員　　数　１面
○寸 法 等　面長 20.3 センチ
○作品概要　大阪貝塚市の旧商家である廣海家に伝来した狂言面の武悪。目を大きく見開くが、瞼が厚く目尻が下がり、上目づかいにあらわわされている。大きな上歯で下唇を噛み、顔を赤くしていきむ姿は恐ろしげでもあり、滑稽でもある。狂言面を代表する面のひとつで、その異相から、鬼や閻魔などに用いられる。本作はしっかりとした面打師によるものと思われるが、やや定型化しており江戸時代中ごろ・１７世紀後半～１８世紀の作かと考えられる。

＜金工＞(29 件)

61○名　　称　春田家文書
○時　　代　江戸時代～近代
○品　　質　紙本墨書、彩色
○員　　数　一括
○作品概要　奈良の甲冑師として代々の系譜をなした春田家に伝わった文書の一括史料。家系に関する記録や甲冑の注文状、図案などからなる。

62○名　　称　脇差　銘備州長船康光　應永十六年十月日　附 黒漆塗鞘半太刀拵
○時　　代　室町時代　応永 16(1409)
○品　　質　刀身および拵
○員　　数　1 具
○作品概要　備前長船の刀工である康光の作品。康光は盛光、家助、師光などとともに、応永期に作刀したいわゆる応永備前を代表する刀工である。

63～64
○名　　称　薙刀直シ刀（菊紋） ほか
○時　　代　鎌倉時代～江戸時代　13～19 世紀
○品　　質　刀身、鞘
○員　　数　2 件
○作品概要　薙刀を仕立て直して刀としたもので、茎に菊紋が刻される。この刻銘から、後鳥羽上皇が作刀させた一連の刀剣「菊御作」との関連が想起される。

65～67
○名　　称　刀　銘陸奥会津住藤原道辰　文政八酉年秋　ほか
○時　　代　江戸時代　　17～19 世紀文政 8(1825)
○品　　質　刀身
○員　　数　3 件
○作品概要　藤原道辰は江戸時代末期から幕末にかけて 6 代続いた陸奥の刀工。本作は文政 8 年の年期から、4 代道辰の作かと推測される。

68～69
○名　　称　短刀　銘大阪住高橋晴雲子信秀七十五歳作　於京都帝国大学鍛之大正六年十二月吉日 ほか
○時　　代　大正時代
○品　　質　刀身、鉄鏡
○員　　数　2 件
○作品概要　標題作の高橋信秀は出雲で作刀を始め後に大阪で活動した。本件は大正 6 年(1917)に京都帝国大学で制作されたものである。

70○名　　称　重要文化財　短刀銘吉光（名物秋田藤四郎）
○時　　代　鎌倉時代 13 世紀
○品　　質　刀身
○員　　数　1 口
○作品概要　吉光は鎌倉中期の京都・粟田口派の名工で、本品のような短刀を得意とした。　秋田城介所持であったためこの名がある。

71～85
○名　　称　重要文化財　短刀　銘相州住秋廣／永和二 附金梨地桐紋蒔絵短刀拵　ほか
○時　　代　平安時代～江戸時代 12～19 世紀
○品　　質　刀身、刀装具など
○員　　数　15 件
○作品概要　個人の刀剣コレクション。このうち標題作は国光に始まり正宗、貞宗と続いた相州鍛冶の正統の秋廣作で、有銘では秋廣秋広唯一の重要文化財。

86～89
○名　　称　重要文化財　短刀　銘左／筑州住　ほか
○時　　代　南北朝時代～江戸時代 14～17 世紀
○品　　質　刀身、刀装具など
○員　　数　4 件
○作品概要　個人の刀剣コレクション。このうち標題作は筑前福岡の名工、左文字の傑作として名高い。

＜陶磁＞(142 件)

80～231

○名　　称　青花牡丹唐草文盤（せいかぼたんからくさもんばん）ほか
○時　　代　明時代、清時代、高麗時代、江戸時代～昭和時代（17～20 世紀）
○品　　質　土器、陶器、磁器
○員　　数　142 件
○作品概要　大阪府貝塚市商家に伝わった文化財から、「青花牡丹唐草文盤」、「青花山水船文大皿」など、明時代から清時代にかけての中国磁器の碗、皿、鉢といった食膳具をはじめ、「染付唐獅子牡丹文輪花隅丸角大皿」、「青樂杜丹文皿　樂長入作」、「金彩色絵竜田川向付　白井半七作」などの肥前磁器や京焼等の関西の諸窯、作家の作品など、幕末から昭和にかけての商家の生活様式を把握できる陶磁器 142 件。

＜漆工＞(7 件)

232～238

○名　　称　扇流し蒔絵吸物膳（おうぎながしまきえすいものぜん）ほか
○時　　代　江戸～大正（19-～20 世紀）
○品　　質　木製、漆塗、蒔絵／箔絵／漆絵、竹
○員　　数　7 件
○作品概要　大阪の旧家に伝わった文化財から、蒔絵や漆絵箔絵の膳椀、近代の職人による茶棚や縁高、中村宗哲家による会席道具一式など、幕末から明治にかけて活躍した関西圏の豪商の暮らしぶりを伝える漆工および木竹工品。

＜染織＞(8 件)

239 ○名　　称　桃図雛屏風（春暖）　高橋秋華筆
○時　　代　大正～昭和時代　二十世紀
○品　　質　絹本着色金泥
○員　　数　二曲一双
○作品概要　総：縦 26.8cm　横 26.0cm　本紙：縦 24.8cm　横 23.6cm。各隻に花盛りの桃樹二本を描く。画題や雛道具ほどの大きさから考えて、人形に添わせるために製作されたものであろう。大阪府貝塚の豪商廣海家伝来。

240 ○名　　称　源氏物語図屏風
○時　　代　江戸時代　十八世紀
○品　　質　紙本着色金泥。
○員　　数　六曲一隻
○作品概要　総：縦 65.6cm　205.8cm　本紙：縦 55.4cm　横 190.0cm。小屏風。金雲で区切られた画面に、源氏物語から紅葉賀、蓬生、初音などの場面を取り出して描く。大阪府貝塚の豪商廣海家伝来。

241 ○名　　称　入舟図屏風
○時　　代　江戸～明治時代　十九世紀
○品　　質　紙本着色金泥。
○員　　数　六曲一隻
○作品概要　総：縦 48.0cm　288.0cm　本紙：縦 49.8cm　横 270.0cm。小屏風。金霞の中に汀の葦の葉陰から入舟の帆が遠近に見える様子を描く。大阪府貝塚の豪商廣海家伝来。

242 ○名　　称　立雛　古今頭
○時　　代　江戸時代　十九世紀
○品　　質　頭部：木胎胡粉塗毛植え　体部：紙胎裂貼
○員　　数　一対
○作品概要　男雛高 46.0ｃｍ　女雛高 35.5cm。大型の立雛。男雛の上衣および女雛の長着は、赤地平絹に松竹梅鶴亀に高砂の翁と媼の描絵。男雛の袴と女雛の帯は、萌葱縞地入子菱に花唐草文様金襴。京都新町三井家の大番頭、浅井家伝来。

243 ○名　　称　古式古今雛
○時　　代　江戸時代　十八世紀
○品　　質　頭部・手先：木胎胡粉塗毛植え　体部：裂貼
○員　　数　一対
○作品概要　男雛高 53.0cm（烏帽子含む）、48.0cm　女雛高 53.8cm（天冠含む）、42.5cm。大型の古式古今雛。男雛は古今雛風の束帯装束。白小袖、白地窠に霰文様表袴、赤地小葵文様単衣、白下襲、経紺緯紅の織色の無文の袍、平緒を着用。冠をかぶり、笏を手にし、黒塗唐草蒔絵太刀をはく。檜扇付属。女雛は、享保雛風の襲装束。白地小葵文様小袖、紅平絹長袴、萌葱地小葵文様単、紺地雲龍文様金入錦の表着、白地桐鳳凰描絵懸裳を着用。 京都新町三井家の大番頭、浅井家伝来。

244 ○名　　称　雛道具
○時　　代　江戸～明治時代　十九～二十世紀
○品　　質　木胎漆塗、一部に蒔絵。
○員　　数　一式
○作品概要　①黒塗懸盤（飯椀、汁椀、壺椀、平椀、高杯、箸）２組。②黒塗長持２荷。③黒塗挟箱２荷。④葛籠２合。⑤黒塗菊唐草蒔絵鏡建（柄鏡・柄鏡箱）１基。⑥黒塗菊唐草蒔絵耳盥１口。⑦黒塗菊唐草蒔絵鏡巣１合。⑧黒塗菊唐草蒔絵鼻紙台１基。⑨黒塗虫籠蒔絵小箱１合。⑩牡丹唐草蒔絵提重（重箱、錫瓶、皿）１式。⑪碁盤（黒塗碁笥・碁石）１式。⑫紫裾濃花鳥描絵几帳１張。長持・挟箱・葛籠には蚊帳、夜具、着物などの内容品を納める。京都新町三井家の大番頭、浅井家伝来。

245 ○名　　称　抱人形
○時　　代　明治時代　明治 17 年（1884）
○品　　質　頭部・体部・手足：練物成型　衣裳：絹
○員　　数　一躯
○作品概要　高 53.5cm。着せ替えができる抱人形で、紅の下着に、黒地と紺地の格子文様の振袖ニ領をかさね、紅の付紐で結び、首に淡桃色の涎掛けを付ける。背中心に亀甲形の背守を縫い、付紐には赤地金襴の守袋と縮緬押絵の狆形迷子札を提げる。京都新町三井家の大番頭、浅井家伝来。所用者が判明し、製作年代が確定できる。

246 ○名　　称　子ども祝着
○時　　代　明治～昭和時代
○品　　質　絹
○員　　数　五領
○作品概要　①黒斜子地扇取り熨斗目松飛鶴文様描絵振袖。白平絹の袷下着附属。背中心に男児の針目の背守。金入錦守袋附属。②藤色曙染縮緬地源氏物語文様友禅染繍振袖。背中心に女児の針目の背守。縮緬押絵守袋附属。③桃色地菊唐草文様型友禅染振袖。淡紅色紋縮緬の袷下着附属。背中心に

女児の針目の背守。④縹色縮緬地流水花束文様友禅染振袖。背中心に女児の針目の背守。金入錦守袋附属。⑤紺平絹地熨斗目御所人形文様友禅染振袖。背中心に男児の針目の背守。縮緬押絵守袋附属。京都新町三井家の大番頭、浅井家伝来。各領おおよその製作年代が判明する。

＜歴史資料＞(5 件)

247 ○名　　称　回転弾倉式拳銃　附　革製ホルダー1 点
○時　　代　19 世紀（1860 年代）
○品　　質　鉄・真鍮・木
○員　　数　1 丁
○寸 法 等　全長 26.0 ㎝
○作品概要　米国スミスアンドウエッソン社製の拳銃。1862 年から製造が開始され、南北戦争時に良く使用されたという。坂本龍馬が所持していた短銃と同じモデルである。近年大阪府下で発見され、地元警察署の許可を得て京都国立博物館所蔵となった。オリジナルの革製ホルダーも付属する。銃身は経年による錆化が著しい。龍馬は慶応 2 年（1866）1 月 23 日の深夜に伏見寺田屋で伏見奉行所捕吏の襲撃を受けたのだが、その際に下関で高杉晋作からもらった「ピストール」を発砲して反撃したと手紙に書いている。龍馬の拳銃は失われたが、その様子を知ることができる歴史資料である。生産開始から間もなく日本に伝わったことも分る。

248 ○名　　称　カメラ　ソルントン・ピッカード
○時　　代　1900 年代中期
○員　　数　1 式
○寸 法 等　L210㎜×W80㎜（243㎜）×H210㎜（255㎜）
○作品概要　ベッドを倒して蛇腹を繰り出す形式の箱形一眼レフカメラ（フィールドカメラ）、
木製。シャッターは布幕ローラーブラインドシャッター（ソールトンシャッター）が付属する。「ALTRINCHAM　Thornton-Pickard　ENGLAND」の表記有り。カメラ名称はなし。ガラス乾板用カメラ。キャビネ判（115㎜×158㎜）、手札判（110㎜×85㎜）に対応。

249 ○名　　称　カメラ　ツァイス・イコン　トロナ
○時　　代　1920 年代以降
○員　　数　1 式
○寸 法 等　L43㎜（150㎜）×W80㎜×H121㎜
○作品概要　フォールディングカメラ黒革張。折り畳み式蛇腹。レンズは、カール ツアイス イエナ　テッサー F4.5 10.5㎝が付属する。ガラス乾板用カメラ。65㎜×90㎜に対応。

250 ○名　　称　絞り調整機構付フード　ライカ　VALAU
○員　　数　1 個
○寸 法 等　Φ41㎜×H14㎜
○作品概要　引伸機　フォコマートⅠ型（M 乙 130）の付属品。ライカレンズ　エルマー5㎝用レンズフード、絞り調節機能付。1、2, 3, 4, 6, 10 のメモリが 2 箇所に刻印されており、切欠部にレンズの絞りメモリに合わせて取り付ける。

251 ○名　　称　スターライコンリング
○時　　代　1900 年代中期
○寸 法 等　A:Φ40㎜×H9㎜
B:Φ44㎜×15㎜
C:Φ41㎜×15㎜
○作品概要　引伸機　スターライコンⅡ型（M 乙 131）付属品。レンズ取り付け用のリング。A サイズ、B サイズ、C サイズの 3 種類ある。
A サイズ：バヨネット式マウント。ドイツのステルナー4.5 及同型
B サイズ:ねじこみ式マウント。ローザ 4.5 及同型
C サイズ:ねじこみ式マウント。コンタクス及同型

【奈良国立博物館】(計 3 件)

（1）購入 (2 件)

＜書跡＞ (2 件)

1　○名　　称　西大寺伝法灌頂私記　末（さいだいじでんぽうかんじょうしき　まつ）
○時　　代　南北朝時代　14 世紀
○品　　質　紙本墨書　巻子装
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　縦 27.4 ㎝　長 660.3 ㎝
○作品概要　『西大寺伝法灌頂私記』は、西大寺の叡尊が正嘉 2 年（1258）3 月に弟子の日浄坊惣持と円真房栄真に伝法灌頂を授けた際の儀式次第をまとめたもの。本品はこの『私記』2 巻のうち後半（「末」巻）を書写したもので、奥書等がないため書写年は不明であるが、書風から 14 世紀頃と推定している。『私記』の前半は江戸時代の写本によりすでに内容が知られているが、後半の本品は新出資料であり、これで初めて『私記』の全容が明らかとなる。伝法灌頂は密教における秘儀であり、西大寺におけるその実態を伝える資料として極めて高い学術的価値を有する。

2　○名　　称　般若心経および維摩経問答（法隆寺伝来）　（はんにゃしんぎょうおよびゆいまきょうもんどう・ほうりゅうじでんらい）
○時　　代　鎌倉時代　13～14 世紀
○品　　質　紙本墨書　巻子装
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　縦 32.0 ㎝　長 313.5 ㎝
○作品概要　般若心経 2 巻分と維摩経問答を台紙上に貼り込んだもの。奥書に「法隆寺心経会時也」「嘉禄二年正月十三日」などとあり、法隆寺において数百から数万巻におよぶ般若心経を読誦・供養する法会で書写されたものと分かる。史料上確認出来る法隆寺の心経会は本品の約 100 年後であり、貴重な最古例となる。維摩経問答は、維摩経に関する問答に表白が付記されたもので、奥書に「建永元年六月金善口得業御房〈法隆寺／東院〉書了」とある。法隆寺内における教学的活動を伝える史料として貴重な品である。

（2）寄贈 (1 件)

＜絵画＞ (1 件)

1　○名　　称　絹本著色仏涅槃図　（けんぽんちゃくしょくぶつねはんず）
○時　　代　南北朝時代　14 世紀
○品　　質　絹本著色　掛幅装
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　〔本紙〕縦 128.6 ㎝　長 57.3 ㎝　〔表装〕縦 200.7 ㎝　横 78.6 ㎝
○作品概要　釈迦の入滅の情景を描く仏涅槃図の優品。沙羅樹林の景観が大きい一方で釈迦を小さく描くところや、仏弟子から動物まで 100 を超える多くの

会衆が描かれる点で、宋画の影響が強い鎌倉時代後半以降の作であり、人物の誇張された表情などから本品は南北朝時代、14 世紀半ばの作と判断される。表具裏の墨書から「大和国高安村」（奈良県斑鳩町高安）の涅槃講の本尊として掛けられたもので、火災で損傷したものを元禄 16 年（1703）に修理したと分かる。絵画としての作行に加えて、江戸時代の修復技量の高さを示す資料として、そして大和の涅槃講の実態を伝える遺品としても高い価値をもつ。本品を守ってきた涅槃講がこのたび解散し、維持管理が困難となった事情により寄贈に至った品である。

【九州国立博物館】（計 58 件）

（1）購入（36 件）

＜絵画＞（9 件）

1　○名　　称　星曼荼羅（ほしまんだら）
　　○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
　　○品　　質　絹本著色
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　本紙：縦 92.4cm　横 41.3cm　　表具：縦 177.2cm　横 59.2cm　軸長 64.2cm
　　○作品概要　掛軸装。閻魔天を主尊として、道教に由来する 57 尊を描いた星曼荼羅の一種。真言宗小野流の覚禅（1143～1213～?）による図像集『覚禅鈔』の記述との一致から、除病延命などを目的とする修法、閻魔天供に用いられたと考えられる。ほぼ同図様の作例が複数現存することから、本図の図像が一定の流布をみたこと、またその中でも制作が鎌倉時代にさかのぼる本図は祖本にもっとも近しいと推測される。
星曼荼羅の遺例が少ないなか、道教と仏教の混交を示し、なおかつ閻魔天信仰の要素も合わせもつ本図は稀少である。史料により具体的な使用の場が想定される点も、中世における道教美術の受容およびその展開を考える上で大変意義深い。

2　○名　　称　寒山拾得図（かんざんじっとくず）
　　○作 者 等　藝愛筆
　　○時　　代　室町時代・16 世紀
　　○品　　質　紙本墨画
　　○員　　数　2 幅
　　○寸 法 等　本紙　右：縦 33.6cm　横 18.4cm　　左：縦 34.3cm　横 18.4cm
　　表具　右：縦 103.3cm　横 29.2cm　軸長 33.8cm　　左：縦 102.4cm　横 29.2cm　軸長 33.8cm
　　○作品概要　掛幅装。左幅には崖下に立ち右手に筆をとる寒山を、右幅には背後を振り向き右手で岩上に墨をする拾得を描く。
その表現は、伸びやかな筆使いが特徴で、風を受ける袖や手繰られた袖などの着衣を、丸みを帯びたやや太い筆線で描く表現が注目される。
作者は、表現と印章から判断して、室町時代後期の 16 世紀前半から中葉に活躍した藝愛と考えられる。小品ではあるが、筆致と用墨をよくコントロールして、独特の形態感覚をもつ水墨画を描き上げる藝愛の特質をよく示す作品である。

3　○名　　称　夕霧図屏風（ゆうぎりずびょうぶ）
　　○時　　代　江戸時代・17 世紀
　　○品　　質　紙本金地著色
　　○員　　数　6 曲 1 隻
　　○寸 法 等　本紙：縦 148.2cm　横 344.2cm　　折畳時：縦 164.8cm　幅 61.0cm　厚 10.2cm
　　○作品概要　山里の秋の風景を表わす金地著色の屏風。本図は、『源氏物語』第 39 帖「夕霧」、光源氏の子息・夕霧が小野の山荘に落葉宮を訪ねる場面で、「源氏物語扇面貼交屏風」（広島・浄土寺蔵）をはじめ同場面を絵画化した類例は多い。なかでも本図は人物を省略した「留守模様」の手法をとる点で特徴的である。画風は、室町時代を最盛期として江戸時代初期頃まで制作されたやまと絵屏風の様式に近似する。遣明船などで国外へ輸出された中世やまと絵屏風を類推するための資料として、高い価値を持つ。

4　○名　　称　泰西風俗図屏風（たいせいふうぞくずびょうぶ）
　　○時　　代　安土桃山～江戸時代　17 世紀初期
　　○品　　質　紙本著色　屏風装
　　○員　　数　6 曲 1 隻
　　○寸 法 等　本紙：縦 101.7cm　横 262.2cm　　折畳時：縦 114.5cm　幅 48.5cm　厚 9.6cm
　　○作品概要　田園風景のなかに西洋風の人物を描く初期洋風画。技法的には、絵具の濃淡で立体感を表わし、樹木・人物には影を付け、全体的に輪郭線に頼らず、色面とハイライトでモチーフを描写するなど、17 世紀のイエズス会による西洋絵画教育の影響をうかがわせる。本作品は、10 件ほどしか現存しない大画面構成の初期洋風画屏風の一例で、そのなかでも特に優れた描写と良好な保存状態をもつ優品である。なかでも本図の画風は、黒田家旧蔵本（現・福岡市美術館本、重要文化財）に描写が酷似している。近世初期に来日したヨーロッパ人との交流を通して、日本で隆盛した「南蛮美術」の大作である。下村観山旧蔵品。

5　○名　　称　老人読書図（ろうじんどくしょず）
　　○作 者 等　伝信方筆
　　○時　　代　江戸時代　17 世紀前半
　　○品　　質　紙本著色　額装
　　○員　　数　1 面
　　○寸 法 等　本紙：縦 24.5cm　横 55.0cm　　額装：縦 60.8cm　横 81.6cm
　　○作品概要　灰褐色を塗りこめた無地の背景に、読書する白髪の男性の上半身を描く。画面左下にはヨーロッパの紋章風の印章がある。本図と同様の絵画様式、ならびに同じ印章と「信方」という墨書を持つ「師父二童子図」（兵庫・神戸市立博物館蔵）、「日教上人像」（兵庫・青蓮寺蔵）があり、本図もこの「信方」なる筆者によるものと考えられる。人物は線描に頼らない西洋絵画の技法で描かれており、イエズス会が 17 世紀に開校した西洋絵画の画学校で学んだ画家による、初期洋風画人物図の代表作のひとつとみなされる。

6　○名　　称　花鳥図屏風（かちょうずびょうぶ）
　　○時　　代　中国（マカオ）　17～18 世紀
　　○品　　質　紙本著色　屏風装
　　○員　　数　4 曲 1 隻
　　○寸 法 等　第 1 扇：縦 149.0cm　横 45.8cm　　第 2 扇：縦 149.0cm　横 46.2cm　　第 3 扇：縦 149.0cm　横 46.0cm　　第 4 扇：縦 149.0cm　横 46.0cm
　　折畳時：縦 149.8cm　横 49.5cm　厚 11.0cm
　　○作品概要　多種の花木が咲き、川が流れる庭を舞台に、様々な鳥や動物が描かれる。鳳凰、鶴、虎と豹の番など東洋的な図様がいる一方で、ドラゴンや『イソップ物語』の挿絵銅版画を転用した西洋的モチーフが混じる。技法としても盛上技法を用いた金雲が画面を装飾しており、東西折衷的な表現が見られる。本作品は、17 世紀から 19 世紀にかけて日本の屏風絵に倣って西欧世界で制作されたビオンボ（屏風）のうち、成立年代が特に早い。日本や中国などの東洋絵画のモチーフ・構図・技法と西洋絵画由来の主題・モチーフの混交が明確に指摘できる、重要な新出作品であり、大航海時代の文化交流の様相を映し出す鏡と呼ぶべき希少な作例である。

7　○名　　称　花鳥図巻（かちょうずかん）
　　○作 者 等　孫億筆
　　○時　　代　中国・清時代　康熙 51 年(1712)
　　○品　　質　絹本著色　巻子装

○員　　数　1巻
○寸 法 等　縦 35.6cm　長 719.5cm
○作品概要　約 20 種類 50 羽の鳥類と約 50 種類の植物を、継ぎ目のない料絹に鮮明な彩色を用いて細緻に表わす。作者は中国・福州（福建省）で活躍した画家・孫億(1638～1712?)。康熙 51 年(1712)の年記があり、画家の最晩年の基準作である。琉球国王・尚敬(1700～1751)の次男・読谷山（ゆんたんざ）王子朝憲(尚和、1745～1811)の旧蔵品。琉球王府で活躍した座間味庸昌(殷元良、1718～1767)や屋慶名政賀(呉著温、1737～1800)などの画家たちが学んだ由緒もあるため、本図は琉球における中国絵画受容の根幹を規定した作品と意義付けられる。

8　○名　　称　海棠白頭翁・萱草百合図（かいどうはくとうおう・かんぞうゆりず）
○作 者 等　沈南蘋筆
○時　　代　中国・清時代　乾隆 12 年(1747)
○品　　質　絹本著色　掛幅装
○員　　数　2幅
○寸 法 等　海棠白頭翁図　本紙：横 53.2cm　縦 102.1cm　表具：横 67.3cm　縦 206.3cm　軸長：72.4cm
萱草百合図　本紙：横 53.2cm　縦 102.1cm　表具：横 67.4cm　縦 206.3cm　軸長：72.4cm
○作品概要　海棠白頭翁図は、海棠に白頭 3 羽が留まるさま、萱草百合図は、水墨で表わされた背の高い岩を中心に 1 株の薔薇と 2 株の萱草、小禽を著色で描く。花鳥は鮮やかな彩色と繊細な描線で表されている。いずれも画中に沈南蘋(1683～1760？)の落款・印章があり、前者には乾隆 12 年(1747)の年記が見える。江戸時代の写生的な花鳥図に特に大きな影響を与えた南蘋だが、現に海棠白頭翁図を模した黒川亀玉筆海棠白頭翁図（千葉市美術館所蔵）や諸葛監筆海棠白頭翁図（個人蔵）が現存する。萱草百合図も『沈南蘋画百幅』（長崎県立長崎図書館所蔵）に「宜男百合図」が挙げられている。いずれも南蘋画の強い規範性と日本での受容を示す貴重な作例である。

9　○名　　称　紙織八馬図（ししょくはちばず）
○時　　代　韓国・朝鮮時代　18～19 世紀
○品　　質　紙本著色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦 105.7cm　横 54.2cm　　表具：縦 195.6cm　横 70.3cm　軸長 79.0cm
○作品概要　木々の茂る岩場の水辺に、8 頭の馬とそれを眺める樹下の高士、馬を世話する人物を描く。本図は絵を描いた料紙を縦糸に、無地の料紙を横糸にして織り込む紙織画の技法を用いる。本紙墨書には「癸丑秋八月」「五白姜涛画」とあり、その制作年代は絵画の様式からみて朝鮮時代・正祖 17 年(乾隆 58 年、1793)に相当する可能性がある。作者は朝鮮時代の文献に該当する画家が見当たらないため、後考にまちたい。このような紙織画は現在 10 件を超える作例が確認されている。そのなかでも、料紙を横幅 1cm あたり約 8 つに裁断して織り込む本図は、最も細やかな枡目をもつ作品の 1 つである。

＜書跡＞（2 件）

10　○名　　称　継色紙「われみても」（つぎしきし　われみても）
○指　　定　重要文化財
○作 者 等　伝紀貫之筆
○時　　代　平安時代　10-11 世紀
○品　　質　彩箋墨書　掛幅装
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦 13.5cm　横 37.7cm　　表具：縦 105.0cm　横 41.0cm　軸長 45.5cm
○作品概要　平安時代中期の書写になる「継色紙」は、当初は粘葉装の枡形の冊子本であったが、後世その優美な筆跡が愛好され、分割されて古筆切となった。当初の冊子の 3 頁分を貼り継いで掛幅装とした本作品は、『古今和歌集』巻第 17 に所収される読み人知らずの 1 首「我みても久しくなりぬ住江の　岸の姫松いく夜経ぬらん」を、濃い藍と薄い縹の料紙 2 頁に、連綿を積極的に用いて揮毫する。その書きぶりである「散らし書き」は、行頭を揃えない各行が紙上に揺らいで余白を意味あるものに変え、高い芸術性が見て取れる。また、本作品は、江戸時代前期、後水尾院の上覧に供されて紀貫之筆とのお墨付きを得、京都大工頭・中井家に伝来したことが付属資料から判明する。近世における作品の伝来の姿と古筆尊重の気風が如実に確認でき、歴史的価値も高い。国立博物館として収蔵するに相応しい平安古筆の逸品である。

11　○名　　称　偈頌（げじゅ）
○作 者 等　石室善玖（1294～1389）筆
○時　　代　南北朝時代・永和 3 年(1377)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦 32.0cm　横 75.0cm　　表具：縦 117.5cm　横 86.3cm　軸長 91.3cm
○作品概要　掛幅装。筆者の石室善玖は南北朝時代を代表する臨済僧の一人。筑前国に生まれ、25 歳で中国・元に渡り、古林清茂の法を嗣いだ。帰国後は、建仁寺・南禅寺など諸大寺を歴住し、また、古林清茂の門下（金剛幢下）らしく詩文にも秀でた。本作品は、20 年来（1262～1329）の知己である臨済僧・無價掌珍（生卒不詳、聖福寺 51 世）から贈られた偈頌に対して、隠栖先の建長寺金龍庵内の岩隠軒で永和 3 年(1377)に唱和し揮毫した偈頌である。肥前松浦家伝来。

＜陶磁＞（3 件）

12　○名　　称　藁灰釉茶碗（わらばいゆうちゃわん）
○作 者 等　上野
○時　　代　江戸時代　17 世紀
○品　　質　陶器
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 9.2cm　口径 14.7cm　高台径 5.3cm
○作品概要　口縁は外反し、胴部は高台脇から逆ハの字状に伸び、角度を変えてやや直立気味に上方に至る。高台は削り出しで二段に作る。釉は藁灰釉で、外面は白濁し、正面に大きく釉だれがある。見込み中央に茶溜りの窪みがあるなど、当初から桃山様式を意識した茶陶として作られたことが窺い知られる。上野は、17 世紀初頭、現在の福岡県田川郡福智町上野で朝鮮半島出身の陶工尊楷が窯を開いたのに始まり、初期の釜ノ口窯では桃山茶陶の様式を強く残した優品を生み出したことで知られる。陶土や作陶、釉薬のいずれも上野の特徴をそなえた、大振りの茶碗である。

13　○名　　称　青花吹墨玉兎文皿（せいかふきずみぎょくともんざら）
○作 者 等　景徳鎮窯
○時　　代　中国・明時代末期頃　17 世紀
○品　　質　染付磁器
○員　　数　1枚
○寸 法 等　高 3.9cm　口径 28.5cm　高台径 18.8cm
○作品概要　轆轤成形により、平底でやや外側に向って立ち上がり、大きく折れて広がり鍔縁状の口縁とする。見込に吹墨の技法で兎文と短冊に「玉兎」と記した文様をあらわす。口縁部の外側と内側の先端部に呉須で一重の圏線を廻らし、その内側に蓮弁のような文様を描く。側面には、口縁部に呉須で一重の圏線を廻らし、その内側に蔓草のような文様を二方に描く。高台内無文。
明時代末期に中国・景徳鎮窯で作られた古染付の皿で、草創期の伊万里焼は本作品のような皿を模倣した染付磁器を数多く生産した。京都画壇で活躍した田近竹邨（1864～1922）の旧蔵品で、大正 12 年(1923)4 月の同氏の遺愛品入札会に出品された。

14 ○名　　称　色絵紅葉流水文皿（いろえこうようりゅうすいもんざら）
○作 者 等　鍋島藩窯
○時　　代　江戸時代　18 世紀
○品　　質　色絵磁器
○員　　数　5 枚
○寸 法 等　高 4.7cm　口径 15.1cm　高台径 8.0cm
○作品概要　轆轤成形により、高台を高めに作り、腰から口縁にかけて曲線を描いて立ち上がり、木盃形とする。見込には、墨弾きの技法と呉須の濃淡により流水文をあらわし、その波間に散り落ちるような紅葉文を、赤色の線描きと、内側を赤・薄赤・黄・緑色の上絵具で塗込めて描く。側面には、呉須で七宝文を三方に描き、高台は櫛高台とする。本作品は 5 枚揃いで、いずれも均一に文様が施されているため、仲立ち紙を用いて下書きを転写したと考えられる。
巧みな文様表現が示す技術力の高さは隆盛期の鍋島焼のものであり、色鍋島あることからも、染付磁器が生産の主流となった徳川吉宗の治世以前と作品と考えられる。5 枚揃いで伝世した点も貴重である。

＜漆工＞（1 件）

15 ○名　　称　牡丹唐草螺鈿卓（ぼたんからくさらでんしょく）
○時　　代　高麗～朝鮮王朝時代・14～15 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 基
○寸 法 等　縦 26.8cm　横 47.5cm　総高 13.2cm
○作品概要　長方形の天板に低い脚を付けた小形の卓で、天板の左右両端にはゆるやかな筆返しを設ける。総体黒漆塗、天板中央にややいびつな四稜花形の窓枠を取り、枠内に牡丹唐草を螺鈿と金属線で表す。本品はその文様および技法の特徴から、高麗時代から朝鮮王朝時代にかかる時期に製作されたと考えられ、両時代にかかる過渡的作例として従来位置づけられてきた。現在、こうした作例は、わずかしか知られておらず、大変貴重な存在である。また、朝鮮王朝時代の螺鈿器は日本へ舶載されて大いに人気を博し、安土桃山時代には朝鮮風の螺鈿器も制作されるなど、日本の螺鈿にも大きな影響を与えた。

＜染織＞（2 件）

16 ○名　　称　緑地山道文金更紗茶具敷（みどりじやまみちもんきんさらさちゃぐしき）
○作 者 等　布地：インド　　仕立て：日本
○時　　代　布地：表地　17～18 世紀　　裏地　18～19 世紀前半　　仕立て：江戸時代末～明治時代　19 世紀～20 世紀
○品　　質　[表]緑地山道文金更紗　木綿単糸平織　[裏]黄・紅地縞織　経糸絹・緯糸木綿交織　平織
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　長 199.5cm　幅 115.0cm
○作品概要　緑地山道文金更紗を表に、裏には黄色と紅色を交互に配した縞織を添わせ、間に無地の木綿を挟んで縫い綴じた敷物。表地の中央部には萌黄色と深緑色の山道模様(鋸歯文)を交互に配し、周囲には赤地に花弁文を配した縁取りを表す。山道模様の境界線には赤地に淡藍(緑)と白色の水玉模様の縁取りがなされ、四辺の赤地花弁文の縁は細い花唐草文で飾られる。模様全体の輪郭に金箔を重ねる。裏地は経に絹糸、緯に太めの木綿糸を用いた交織で、黄地と赤地の縞をつくる。

17 ○名　　称　人物・動物文更紗祭礼布（じんぶつ･どうぶつもんさらささいれいふ）
○作 者 等　インド・コロマンデル海岸
○時　　代　インドネシア・スラウェシ島トラジャ　18 世紀後半～19 世紀前半
○品　　質　木綿単糸平織　(経:S・20 本/cm　緯:S・28 本/cm)　片面染め　媒染模様染め・蠟防染模様染め(手描き)
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 102.0cm　横 382.0cm
○作品概要　南スラウェシの古都パロポから 50 キロ離れたトラジャ地方に伝わったインド更紗。横長の 1 枚の木綿布にイスラム建築風の 4 つの花弁形アーチを描き、それぞれの空間には草模様を散らし、右からラージャ(貴族の男性)とその伴侶、2 人の曲芸師、曲芸団の演技を見物するラージャ、象上の輿に乗るラージャを描く。4 つの空間を仕切る柱は、淡藍、白、赤の羽絣模様で彩られ、柱頭には一対の獅子が表される。柱頭の上方には大きな 8 弁の花模様を中心に花唐草が伸びだし、アーチ全体を充填している。

＜考古＞（4 件）

18 ○名　　称　壺形土器（つぼがたどき）
○作 者 等　不明（土器型式から東北地方北部と推定）
○時　　代　縄文時代　前 2000 年～前 1000 年
○品　　質　土製
○員　　数　1 点
○寸 法 等　高 28.0cm　最大径 20.5cm
○作品概要　口縁部に 4 つの橋状把手を持つ壺形の土器。体部には４つの大きな渦巻文が施されている。文様部は部分的に赤彩が行なわれ、生地の白色とのコントラストが大変美しい。上半部２箇所において土器製作時の粘土紐接合部で割れている。文様等の特徴から、縄文時代後期前葉の東北地方北部に分布する十腰内(ﾄｺｼﾅｲ)Ⅰ式土器と考えられる。この土器文化期では、洗骨した遺骨を壺に納めて埋葬する再葬墓が流行した。遺骨を納め易くするため、壺の肩部付近を水平方向に切断する場合があった。本品に認められる水平方向の 2 箇所の割れは、再葬に伴う切断である可能性が高い。

19 ○名　　称　注口土器（ちゅうこうどき）
○作 者 等　伝岩手県三戸郡五戸町蛯川
○時　　代　縄文時代　前 2000 年～前 1000 年
○品　　質　土製
○員　　数　1 点
○寸 法 等　高 29.6cm　口径 11.0cm　最大幅 25.4cm　底径 5.0cm
○作品概要　本体部は長頸の壺形で、肩部に注ぎ口が付く。頸部から胴部上半にかけて、凸帯および磨消縄文を施す。文様上には瘤状突起を規則的に配している。その器形や文様から東北地方に分布する新地式土器と考えられ、同型式の土器の中でも大形で、ほぼ完存する例として貴重である。注口土器は、縄文時代後半期の東日本地域で盛行した。同時期に土偶、石剣、石棒、石刀等の呪術具も流行することから、その用途を酒類等の液体を用いた呪術に使用した道具と考えられることもある。これら呪術具は、やがて九州にも伝わり、独自の呪術具を誕生させるなど、九州の縄文文化に多大な影響を与えた。

20 ○名　　称　飛騨地方採集石器・石製品（ひだちほうさいしゅうせっき・せきせいひん）
○作 者 等　主に飛騨地方
○時　　代　主に縄文時代　前 10000 年～前 400 年
○品　　質　石製
○員　　数　８１０点
○寸 法 等　石鏃を中心に、石錐、磨製石斧、打製石斧、石錘、御物石器、石冠、異形石棒等を含む。
○作品概要　岐阜県高山市在住の星文達守氏が永年にわたり収集してきた飛騨地方の縄文時代の石器・石製品を主体とする考古資料である。コレクションの

中心となる石鏃は、地元の石材である下呂石やチャートを用いて製作されたものだけでなく、長野県で産出する黒曜石を用いたものもあり、石器石材から当時の交流圏を推定することができる。また、御物石器、石冠、異形石棒など縄文時代を代表する呪術具も含まれている。中でも御物石器は飛騨地方に特有のもので市場に出ることが滅多に無い貴重なものである。石冠には九州でも出土する型式のものも含まれている。多くは採取場所が記されており、資料的価値も高いものとなっている。

21 ○名　　称　双龍環頭大刀（そうりゅうかんとうたち）
○時　　代　古墳時代・7 世紀
○品　　質　金銅製
○員　　数　1 振
○寸 法 等　全長 113.5cm　柄長 26.3cm　鞘長 86.7cm　環頭幅 10.7cm　鞘幅 7.1cm　厚 1.9cm
○作品概要　柄頭だけでなく鞘の栴も良好に遺存し、全体の形状がよく分かる点で希少な古墳時代の環頭大刀である。柄頭、鍔、鞘の飾金具および責金具は金銅製で、鉄製の刀身や鞘木も部分的に残る。柄頭には透かし彫りにより２匹の龍が向かい合わせで玉を食む姿が表され、柄や鞘にはＳ字形または蕨形のモチーフで飾られる。双龍環頭大刀は、朝鮮半島の新羅などの影響を受けて６世紀に古墳の副葬品として登場し、本品は龍文様の退化などから７世紀にまで製作年代が下ると推定される。古墳時代の対外交流をうかがい知る考古資料として非常に重要である。

＜歴史資料＞（15 件）

22 ○名　　称　豊臣秀吉朱印状（とよとみひでよししゅいんじょう）
○時　　代　安土桃山時代　天正 20 年(1592)
○品　　質　紙本墨書　巻子装
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　本紙：縦 23.4cm　横 64.5cm　　表装：縦 28.4cm　横 91.0cm　軸長 29.8cm
○作品概要　本作品は天正 20 年(1592)、宗義智(1568～1615)に宛てて出された豊臣秀吉(1537～98)の朱印状。6 月 3 日付。朝鮮に派遣される代官 7 人に通訳を 1 人ずつ帯同させることを命じる内容である。「文禄の役」において、漢城(ソウル)陥落後、秀吉の朝鮮統治の方針を示すものである。本朱印状は、義智に宛てられたことから、宗家に伝来したと考えられるが、研究史上、原文書の所在は不明とされてきた。明治時代の史料集に掲載されており、書写されたことは分かっていたが、その後散逸したと見られ、長らく所在が不明であった。編纂史料でのみ存在が知られていた重要史料の原文書として、本朱印状は非常に価値が高い。

23 ○名　　称　チャッピ「グレゴリオ 13 世伝」（ちゃっぴ ぐれごりおじゅうさんせいでん）
○作 者 等　マルコ・アントニオ・チャッピ著
○時　　代　イタリア　1596 年
○品　　質　紙本印刷　洋装本
○員　　数　1 冊
○寸 法 等　縦 22.1cm　横 15.5cm　厚 2.4cm
○作品概要　本書はローマ教皇グレゴリオ 13 世(1502～1585、在位 1572～1585)の業績と生涯を述べた伝記である。1596 年刊行、初版(1591 年刊行)を訂正増補したものである。挿図を全く掲載していない初版本と比べると、1596 年版は 41 点の木版画の挿図を掲載しており、注目に値する。本書には、日本に建設されたキリスト教の 4 つの建築物（豊後臼杵のノヴィシアド、豊後府内のコレジオ、安土と長崎のセミナリオ）に関する記述や、天正遣欧使節のローマ教皇謁見の場面の説明がある。これらは、日本のキリスト教伝来期の様相を伝えると同時に、日本がヨーロッパに如何に紹介されたかを指し示すものである。本資料は、日本国内では数箇所の機関が所蔵するにとどまり、非常に希少な資料である。

24 ○名　　称　徳川家康書状（とくがわいえやすしょじょう）
○時　　代　安土桃山時代・慶長 3 年(1598)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 17.6cm　横 46.8cm　　表具：縦 99.8cm　横 49.9cm　軸長：54.7cm
○作品概要　掛幅装。慶長 3 年(1598)1 月 30 日付、太田一吉(？～1617)宛、徳川家康(1542～1616)の書状。太田一吉は、慶長の役（丁酉倭乱）にて、総大将格の小早川秀俊(秀秋)(1582～1602)の目付として朝鮮に渡海した。慶長 2 年 10 月頃、加藤清正(1562～1611)らにより蔚山で築城が開始されるが、明・朝鮮軍は蔚山城を攻撃、太田は籠城を開始した。年が明け、1 月 2 日、黒田らの援軍が到着、4 日に明・朝鮮軍は撤退した。太田は慶長 2 年の末、家康に籠城の旨を伝えたと見え、家康は本書状で太田が蔚山城を堅く守ったことを称賛する。一方、家康自身は、慶長 2 年末に暇を下されて江戸に逗留中だが、近々上洛することを伝えている。本書状によって、慶長の役での蔚山城籠城の様子を垣間見ることができる。

25 ○名　　称　片桐且元書状（かたぎりかつもとしょじょう）
○時　　代　江戸時代・慶長 14 年(1609)頃
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 32.4cm　横 49.6cm　　表具：縦 109.3cm　横 57.3cm
○作品概要　掛幅装。片桐且元(1556～1615)が、彫金師の後藤長乗(1562～1616)に宛てた書状。長乗の兄・徳乗(1550～1631)が極めた「判金」に豊臣家が極印を打つことについて駿府の許可を得たことなど、「判金」製造に係る内容を持つ。「判金」とは、豊臣秀頼による方広寺大仏・大仏殿の再建事業(慶長 13～17 年、1608-12)に伴って製造された“大仏大判”と考えられる。再建事業は且元が工事の総奉行となり、秀頼は工事費を負担したが、その費用には、軍資金として大坂城に備蓄された分銅金が利用され、4 万枚もの大仏大判が鋳造されたという。本書状ではその製造について、豊臣家が駿府の徳川家康と密接に連絡を取りながら進めたことが知られ、政権移行期における両家の政治的関係性が窺える好史料といえる。

26 ○名　　称　稲富流鉄砲秘伝書（いなどめりゅうてっぽうひでんしょ）
○作 者 等　野間喜左衛門尉重秀
○時　　代　江戸時代　慶長 18 年(1613)
○品　　質　紙本著色・墨書　　折帖・折畳装
○員　　数　7 帖 1 舗
○寸 法 等　(1)縦 24.4cm　横 381.8cm　(2)縦 24.2cm　横 422.9cm　(3)縦 24.1cm　横 486.5cm　(4)縦 24.4cm　横 508.3cm
(5)縦 24.6cm　横 1102.6cm　(6)縦 24.5cm　横 1627.8cm　(7)縦 24.5cm　横 1814.5cm　(8)縦 48.7cm　横 116.8cm
○作品概要　稲富一夢(祐直、理斎、1552～1611)を祖とする稲富流砲術の秘伝書。稲富流は近世の代表的な砲術流派で、その秘伝書の内容は鉄砲の起源から、射撃の心得、得物による射撃方法・姿勢、玉の種類、玉目による鉄砲の仕様、火薬原料の配合、照準具の説明など、鉄砲に関する諸事にわたっている。福岡藩黒田家や米沢藩上杉家、彦根藩井伊家など名立たる大名家に採用され、地域的にも階層的にも多くの武士に広く受容された。
本資料は後欠の 2 帖以外に残る奥書から、慶長 18 年(1613)9 月に野間喜左衛門尉重秀が渡辺三郎兵衛に伝授したものと分かる。稲富一夢の没後に近い時期の秘伝書であり、すでに当時の砲術が多様な武士層にまで及んでいた実態を示す好資料といえる。

27 ○名　　称　鍼灸秘伝書（しんきゅうひでんしょ）
○作 者 等　足立元意筆
○時　　代　江戸時代　17 世紀
○品　　質　紙本墨書　袋綴装
○員　　数　1 冊
○寸 法 等　縦 23.6cm　横 16.8cm
○作品概要　戦国時代から江戸時代前期に制作された東洋医学に基づいた鍼灸の秘伝書。前欠ではあるが図を大変豊富に収める。残存する冒頭には、明代の

「五輪八廓説」や「五輪所属主病之図」を載せ、次いで鍼灸の施術法として、ツボを図示した人体図(灸針図)をはじめとする 20 の図を注釈・解説とともに収める。さらには「五臓ノ虫之図次第」として、肝・心・肺・腎・脾の五臓に潜み病気を引き起こす原因の虫として、16 の虫の図を載せている。そして巻末には、梵字様の図形の字画に、薬師如来・観世音菩薩・阿弥陀如来・釋迦如来・大日如来と東・南・西・北・中、および肝・心・肺・腎・脾の五臓の関係性を観念的に対応させた図解を以って内容を終えている。

28 ○名　　称　宋紫石画譜（そうしせきがふ）
○作 者 等　宋紫石（1715～1786）画、副孟義編、版元　江戸・須原屋茂兵衛
○時　　代　江戸時代・明和 2 年(1765)刊
○品　　質　紙本墨刷・一部彩色刷
○員　　数　3 冊
○寸 法 等　各冊：縦 26.6cm　横 17.8cm
○作品概要　袋綴じ装。江戸時代に細密な花鳥画を流行させた清人画家・沈南蘋の画風を後進に教え広めるため編纂された図譜集。上巻(天)に沈南蘋の絵、中巻(地)に江戸の南蘋派画家・宋紫石、下巻(人)に高乾・伊孚九・南陽晋(諸葛晋)・費漢源・鄭培ら来日清人画家の画の写しを集める。江戸時代に来日した清人画家による南蘋派の絵画および文人画の流布を知る上で重要な史料である。

29 ○名　　称　中山伝信録（ちゅうざんでんしんろく）
○作 者 等　徐葆光（?～1723）著
○時　　代　江戸時代・明和 3 年(1766)刊
○品　　質　紙本墨刷
○員　　数　6 冊
○寸 法 等　第一巻：縦 26.3cm　横 17.5cm　第二巻：縦 26.3cm　横 17.5cm　第三巻：縦 26.3cm　横 17.5cm
第四巻：縦 26.2cm　横 17.5cm　第五巻：縦 26.2cm　横 17.5cm　第六巻：縦 26.4cm　横 17.5cm
○作品概要　袋綴じ装(四つ目綴じ)。本作品は、徐葆光(?-1723)の『中山伝信録』を日本において重刻したもの。明和 3 年 5 月、京都の版元、文錦堂の林伊兵衛が出版した。著者の徐葆光は江蘇省出身の官僚で、康熙 58 年(1719)6 月 1 日、冊封副使として、歴代最多の 649 名の一行とともに、琉球に来島した。滞在中、徐葆光は琉球各地を巡遊し、中山王の系譜から、琉球の地理、王府の制度や儀礼、琉球の風俗に至るまで調査したという。第一巻は航海に関する内容。第二巻は冊封の儀礼に関する内容。第三巻は中山王の系譜についての内容。第四巻は地理に関する内容。第五巻は制度に関する内容。第六巻は琉球の風俗や琉球語に関する内容である。江戸でも出版され、琉球に関する知識が広く伝えられた。

30 ○名　　称　琉球談（りゅうきゅうばなし）
○作 者 等　森島中良（1754～1808）著
○時　　代　江戸時代・寛政 2 年(1790)刊
○品　　質　紙本墨刷
○員　　数　1 冊
○寸 法 等　縦 22.4cm　横 15.6cm
○作品概要　袋綴じ装（四つ目綴じ）。『琉球談』は寛政 2 年（1790）、同 3 年、同 7 年、同 9 年、刊行年不明なものも含めて、多くの版本が普及した著作物である。本作品は寛政 2 年の初版本で、序文は前野達、跋文は須原屋市兵衛による。著者の森島中良は蘭学者、戯作者で、幕府医官の桂川国訓(1728～1783)の次男で、医学者・蘭学者の桂川甫周(1754～1809)の弟である。本書は、明和 3 年(1766)に和刻本が刊行された『中山伝信録』(徐葆光(?-1723)著、康熙 60 年(1721 年)刊)に注目し、日本と琉球との関わりを記した内容や風俗の記事を読み下し、加筆したもので、それらを人々が親しみやすいように紹介する。本作品から、蘭学者が琉球を如何に紹介したか、江戸時代の人々が琉球に対してどのような認識を持っていたかが窺える。

31 ○名　　称　シャルルヴォア「日本の歴史」(しゃるるう゛ぉあ　にっぽんのれきし)
○作 者 等　ピエール・フランソア・グザヴィエ・ド・シャルルヴォア著
○時　　代　フランス　1736 年
○品　　質　紙本印刷　洋装本
○員　　数　2 冊
○寸 法 等　第 1 巻：縦 25.8cm　横 20.5cm　厚 4.8cm　　第 2 巻：縦 25.8cm　横 20.5cm　厚 4.9cm
○作品概要　本書は日本のキリスト教伝来期におけるイエズス会の活動を記述するとともに、日本人の生活や慣習などについても、多くの図版を交えて解説する。図版中、注目に値するのは、安土城とその城下町の図である。天正遣欧使節がローマ教皇グレゴリオ 13 世に献上した「安土図屏風」は所在が不明であるが、この図版が、「安土図屏風」と何らかの関連性を持つのであれば、本資料の価値は高い。シャルルヴォアは日本に滞在することはなかったが、本書を著すにあたって数多くの文献を参照した。そのため、本書を通じてヨーロッパの日本観を垣間見ることができる。日本文化をヨーロッパに紹介し、日本知識の形成に資した点で、本資料は高く評価される。

32 ○名　　称　蝦夷地図（えぞちず）
○時　　代　江戸時代　18 世紀
○品　　質　紙本墨書　折畳装
○員　　数　1 鋪
○寸 法 等　縦 49.2cm　横 91.1cm
○作品概要　北海道島を中心に、南は下北半島・津軽半島など青森県域から、北は「さんたん」「唐ふと」「れぶん」と記した大陸までを描いた絵図。北海道島の沿岸部には「松前」「箱舘」「江指」のほか、「宇須（有珠）」「しらをい」「くすり（釧路）」「そうや」「てしお」「石狩」など、現在もみられる多くの地名を書き込むが、形状は、概ね正確な道南部を除き、実際の地形と大きくかけ離れている。このため北海道島の全形が全く整っておらず、いわゆる初期蝦夷図に分類される。
なお青森県側には「南部大膳亮」「津軽采女」「津軽土佐守」の領主名が認められ、そこから正徳 2 年(1712)から享保 10 年(1725)の製作年代が想定される。

33 ○名　　称　新訂万国全図（しんていばんこくぜんず）
○作 者 等　高橋景保作
○時　　代　江戸時代　文化 7 年（1810）成立、文化 13 年（1816）刊
○品　　質　紙本印刷筆彩　折畳装　表紙絹張り
○員　　数　1 鋪
○寸 法 等　縦 116.1cm　横 199.2cm
○作品概要　江戸幕府天文方の高橋景保(1785～1829)が製作した両半球世界図。文化 4 年(1807)に世界地図作成の幕命を受けた景保は、アロースミスの世界図を原図として、天文学者の間重富や長崎通詞の馬場貞由の協力を得て、文化 7 年(1810)に手書きの「新訂万国全図」を完成させた。それを東アジア一帯について改訂し、銅版画家・亜欧堂田善による銅版彫刻をもって、文化 13 年(1816)に印刷刊行したのが本図である。
本図では日本を基準に「西半球」・「東半球」の名称を定め、図上でも日本を中心として左に「西半球」、右に「東半球」を配している。また図左上の副図は、京都を零度とする子午線を通した日本中心の半球図とするなど、翻訳版ではない日本製官版としての独自性がみられる。

34 ○名　　称　佐州金銀採製全図（さしゅうきんぎんさいせいぜんず）
○作 者 等　如龍齋筆
○時　　代　江戸時代　嘉永 6 年(1853)写
○品　　質　紙本著色　巻子装

○員　　数　1巻
○寸 法 等　本紙：縦 30.0cm　横 2591.9cm　　表装：縦 30.0cm　横 2664.0cm　軸長 32.5cm
○作品概要　江戸時代の佐渡金銀山、特に相川金銀山における稼業の様子を描いた絵巻。採鉱、選鉱、金銀銅の製錬、小判への加工の工程、および砂金の採取を図説する。
国内外に多くの残存例が知られるいわゆる佐渡金銀山絵巻だが、本作品は 1.「金銀採製全図」を冠する名称、2.巻頭が「惣目録」から始まる、3.文化 14 年(1817)に導入された水車による鉱石の粉砕場面が描かれる、という諸点から、文政 2 年(1819)から幕末期にかけて描かれたタイプに属する。その中でも嘉永 6 年(1853)という制作年代が明記されることは特筆され、さらに描写の丁寧さや彩色の豊かさ、注記の細かさ等においても、他の良本に劣らぬ内容を持つ。

35 ○名　　称　リンデン伯「日本の思い出」（りんでんはく　にっぽんのおもいで）
○作 者 等　リンデン伯 ヨハン・マウリッツ著　　オランダ・ハーグ
○時　　代　オランダ　1860～66 年刊
○品　　質　紙本印刷　未製本
○員　　数　10 冊
○寸 法 等　図：縦 53.9cm　横 71.8cm　　扉・序文・解説：縦 70.7cm　横 54.2cm
○作品概要　オランダ国王ウィレム 3 世の侍従長リンデン伯爵（1807～64）が、安政 2 年(1855)に来日し、長崎に滞在した時の印象を、帰国後に画集としてまとめたもの。製作はハーグのミーリング王立石版印刷工場で行われ、1860 年から 66 年にかけて 10 回の配本で印刷刊行された。オランダ国旗がはためく出島、金比羅山や出島から眺めた長崎の街並み、唐寺、ジャンク船や御座船など様々な船で賑わう長崎港といった、近世の長崎らしい光景を色鮮やかに描き出す。
幕末長崎の姿は写真資料にも多く伝わるが、色彩を伴う点は写真資料には無い、多色刷り石版印刷による本作品の特徴といえる。
図版と解説文が完存し、かつ配本当時の状態をとどめる点、大変貴重である。

36 ○名　　称　琉球使節江戸登城行列図（りゅうきゅうしせつえどとじょうぎょうれつず）
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　紙本著色
○員　　数　2 巻
○寸 法 等　上巻：（本紙）縦 35.7cm　横 2255.0cm　（表具）縦 35.7cm　横 2328.3cm
下巻：（本紙）縦 35.6cm　横 1881.4cm　（表具）縦 35.6cm　横 1955.9cm
○作品概要　巻子装。本図は、琉球国王尚育(1813～1847、1835 即位)の襲封を江戸幕府将軍・徳川家斉に謝恩するため、天保 3 年(1832)に日本に派遣された琉球使節（謝恩使）の江戸城登城行列を描いたもの。行列の全体を 2 巻に収め、上巻に琉球使節を、下巻には薩摩藩士の行列を描く。描写は人物の表情や行列道具など細部まで丁寧であり、かつ色彩豊かである。琉球使節は、朝鮮通信使とともに、大規模な外交使節として社会的な関心も高く、来日時には多くの刊行物や記録画が作成された。使節を描いた肉筆画作品も複数が確認されているが、画題となる使節の年次が明らかで、登城行列の全体を描いた図は、天保 3 年謝恩使についてはこれまで未確認であり、大変稀少性が高い。

(2) 寄贈（22 件）
＜絵画＞（9 件）
1 ○名　　称　渡唐天神像（ととうてんじんぞう）
○時　　代　室町時代・15～16 世紀
○品　　質　紙本著色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 61.1cm　横 23.4cm　　表具：縦 133.0cm　横 30.1cm　軸長 40.3cm
○作品概要　掛幅装。仙冠道服を着けて、左肩から右腰に鞄をさげ、一枝の梅花を右脇にもつ渡唐天神像を描く。細部に注意を払った細やかな描写を特徴とする。菅原道真が中国の高名な禅僧・無準師範に参禅して弟子になったという「渡唐天神」の伝説を造形化する。正面向きに直立する本像の姿は、東福寺の画僧・明兆の後継者によって制作された最も古い形式を踏襲する。

2 ○名　　称　渡唐天神像（ととうてんじんぞう）
○時　　代　室町-安土桃山時代・16 世紀
○品　　質　紙本著色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 44.8cm　横 23.4cm　　表具：縦 126.3cm　横 34.5cm　軸長 39.9cm
○作品概要　掛幅装。仙冠道服を着けて、左肩から右腰に鞄をさげ、一枝の梅花を右脇にもつ渡唐天神像を描く。その表現の最大の特徴は、各所に施された金泥の文様である。菅原道真が中国の高名な禅僧・無準師範に参禅して弟子になったという「渡唐天神」の伝説を造形化する。室町時代を通じて盛んに制作されたこの主題のなかでも、本像の腕を振る姿は、狩野元信(1477～1559)とその後継者によって描かれた形式を踏襲している。

3 ○名　　称　渡唐天神像（ととうてんじんぞう）
○作 者 等　方梅厓書（了庵桂悟賛文）
○時　　代　明時代・16 世紀
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 58.3cm　横 29.8cm　　表具：縦 139.4cm　横 42.2cm　軸長 47.8cm
○作品概要　掛幅装。半透明の黒い頭巾をかぶり水色の道服を着けて、左肩から右腰に鞄をさげる渡唐天神像を描く。右脇には梅花を抱えている。輪郭線に沿って隈をつけたややアクの強い顔貌や、腕・裾のまとまりのよい形態感を特徴とするため、本像は中国における制作と考えられる。上部の賛文は、永正 8 年(1511)の遣明使で正使をつとめた東福寺の高僧・了庵桂悟(1425～1514)の詩文を、中国・寧波（浙江省）の文人・方梅厓（16 世紀中葉に活躍）が書写したもの。文化交流の観点からも大きな意義をもつ重要な作品である。

4 ○名　　称　渡唐天神像（ととうてんじんぞう）
○作 者 等　道晃入道親王（1612～79）筆・賛
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 83.8cm　横 29.3cm　　表具：縦 175.3cm　横 42.9cm　軸長 48.3cm
○作品概要　掛幅装。頭巾を被って道服をつけ、一枝の梅花を右脇に持った渡唐天神像を描き、その上方に中世において菅原道真の詠とされた和歌 2 首を賛した作品。落款から、画と賛の筆者は、江戸時代前期の天台僧・道晃入道親王と判明する。道晃は、後陽成天皇の第 13 皇子に生まれ、和歌・書画・茶道にすぐれた。本作品はその質から、江戸前期の宮廷文化圏で活躍した道晃が、たしなみの一つとして制作したものと推考される。

5 ○名　　称　渡唐天神像（ととうてんじんぞう）
○作 者 等　伝狩野山楽（1559～1635）筆
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 85.7cm　横 36.8cm　　表具：縦 172.9cm　横 50.1cm　軸長 55.0cm

○作品概要　掛幅装。無背景を背に正面を向き、青色の頭巾と薄浅黄地に花菱紋を織り出した道服を着け、左肩から右腰に袈裟袋をさげる渡唐天神像を描く。組んだ両腕を体の中心よりやや左に振り、一枝の紅梅を右腕に挟む。腕を少し振る姿は、狩野元信(1477～1559)やその後継者らによって描かれた形式を踏襲した、典型的なものである。大倉好斎(1795～1862)の極書には、狩野山楽(1559～1635)筆としているが、線描は山楽の躍動感ある筆線と異なる。ただし、狩野派に学んだ画家による制作と考えられる。

6　○名　　称　束帯天神像（そくたいてんじんぞう）
○作 者 等　高泉性潡（1633～95）賛
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 84.8cm　横 35.9cm　　表具：縦 165.3cm　横 48.4cm　軸長 52.6cm
○作品概要　掛幅装。松と梅を背景に畳に座した貴人姿の束帯天神像をおおらかに描き、その上方に江戸時代前期の黄檗僧・高泉性潡が賛した作品。賛は、中世の天神信仰において無私の人格の菅原道真が松と梅を愛した話を踏まえた内容を、穂先のよく利いた中国書法で草卒に揮毫する。
長崎に渡来しのちに萬福寺第５世をつとめた黄檗僧が、天神信仰を踏まえて着賛している点が特筆される。類例に「束帯天神像」（土佐光起筆・高泉性潡賛、東京・常盤山文庫蔵）が知られる程度と希少である。

7　○名　　称　御橋・霧降滝・裏見滝図（みはし･きりふりのたき･うらみのたきず）
○作 者 等　伝土佐光成（1646-1710）筆
○時　　代　江戸時代・17-18 世紀
○品　　質　絹本著色
○員　　数　3 幅
○寸 法 等　本紙：(御橋図)　縦 94.5cm　横 34.8cm　　(霧降滝図)　縦 94.5cm　横 35.5cm　　(裏見滝図)　縦 94.5cm　横 35.5cm
表具：(御橋図)　縦 177.7cm　横 48.2cm　軸長 52.9cm　　(霧降滝図)　縦 177.7cm　横 48.2cm　軸長 52.9cm
(裏見滝図)　縦 177.7cm　横 48.2cm　軸長 52.9cm
○作品概要　掛幅装。日光の開祖･勝道上人ゆかりの神橋と東照宮本殿を描いた中幅に、霧降滝と裏見滝という日光の名瀑を主題とする左右幅を組み合わせ、いずれも金色の瑞雲がたなびく聖地として表わした三幅対である。本作品は、江戸以降に描かれた日光の名所を主題とした作例としては成立時期が早い点が注目される。近世前期に宮廷絵所預を務めた土佐光起(1617-1691)の確立した近世やまと絵様式を踏襲する佳品である。

8　○名　　称　渡唐天神像（ととうてんじんぞう）
○作 者 等　白隠慧鶴（1686～1769）筆・自賛
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 69.3cm　横 17.2cm　　表具：縦 147.0cm　横 29.2cm　軸長 34.7cm
○作品概要　掛幅装。画面上半分に『菅神入宋授衣記』(『群書類従』第 2 輯)中の天神の神詠歌をもとにし（詠歌は末尾が「梅の一枝」)、画面下半分には、梅の一枝を捧げ持って画面向かって左へ体を振った立ち姿の渡唐天神像を文字絵で表わす。天神の顔と梅のみ細い線で描き、冠や着衣は「南無天満大自在天神」の名号からなる。白隠慧鶴は同種の「渡唐天神像」を制作しており、本図も白隠の文字絵による渡唐天神像の典型作と位置づけられる。

9　○名　　称　渡唐天神像（ととうてんじんぞう）
○作 者 等　森寛斎（1814～1894）筆
○時　　代　江戸-明治時代・19 世紀
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 93.2cm　横 34.1cm　　表具：縦 188.7cm　横 48.1cm　軸長 53.7cm
○作品概要　掛幅装。無背景を背に正面を向き、両手に一枝の白梅を持つ渡唐天神像を描く。バランスがよく自然な人体の描写、端正な顔貌表現は、円山派の特徴をしめす。筆者の森寛斎自身、道真の威徳を偲び毎月 25 日に自宅で菅公祭を行なっていたことが知られ、落款の「謹寫」はそうした画家の本主題に対する思いが反映されていると考えられる。本図のように、腰に太刀を佩いた姿の渡唐天神像では珍しい。渡唐天神像の近世的展開を示す一例として位置づけられる。

＜彫刻＞（1 件）

10　○名　　称　仏頭（ぶっとう）
○作 者 等　中国山西省雲岡石窟
○時　　代　中国・北魏時代　5 世紀末～6 世紀初
○品　　質　砂岩製　彩色。
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 39.4cm　幅 16.5cm　奥行 16.0cm
○作品概要　高浮彫の仏像の頭部。面部は面長で、弓形の眉、切れ長の目を持ち、口元は微笑を浮かべる。肉髻はやや大きく、螺髪を表さない。中国山西省雲岡石窟の将来とされる。雲岡石窟は 5 世紀後半に開鑿され、北魏の洛陽遷都（494）後の 6 世紀前半まで造営が続けられた。造営時期はおおよそ 3 期に分けられ、開鑿当初はインド風の仏像が作られたが、第 2 期以後は中国風の造形へと変化した。本作品は面長の面部や頭髪の形式などから、中国化の進んだ第 2 期から第 3 期頃の制作とみられる。

＜書跡＞（1 件）

11　○名　　称　墨蹟「不生」（ぼくせき　ふしょう）
○作 者 等　盤珪永琢筆
○時　　代　江戸時代　17 世紀
○品　　質　紙本墨書　掛幅装
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 13.5cm　横 37.7cm　　表装：縦 116.0　横 59.0　軸長 64.0
○作品概要　筆者の盤珪永琢（1622～93）は、長崎に来日した黄檗僧・道者超元（1602～62）に、その悟りが釈迦以来の正統なものであると認められた、江戸時代初期の臨済僧。本作品は、その禅の極致を表す「不生」の 2 字を濃墨で揮毫したものである。不生とは、人間誰しもが生まれながらに備わった仏の心のことで、その心のままでいれば活きた仏であると説く。その書は、漢時代に起源をもつ章草という草書体で記され、関防には黄檗墨蹟に通有の「臨済正宗」印が押される。こうした点から、中国明時代の禅文化や中国の書の歴史に通じた筆者像が見て取れる。なお、盤珪永琢が「不生」と揮毫した墨蹟には、隷書体（八分隷）のものが通例で、草書体の本作品は珍しく、貴重である。

＜金工＞（3 件）

12　○名　　称　五鈷鈴（ごこれい）
○作 者 等　東北タイ
○時　　代　タイ・スコータイ時代・13-14 世紀
○品　　質　白銅・鋳造。

○員　　数　1口
○寸 法 等　総高 16.8cm　鈴身口径 8.5cm　舌長 5.2cm
○作品概要　白銅製の鋳造五鈷鈴。杵部と鈴身部は別鋳としており、当地の仏具をはじめとする各種の銅製鋳造品にしばしばみられる蝋型鋳造による制作考えられる。鈷は、把上より垂直に伸びる中鈷と、逆刺を伴う 4 つの脇鈷からなる五鈷形をなす。杵の中央に敷茄子状の無文の鼓形を設け、その上下に大小の蛤刃状の突起をめぐらす作風は、バンコク国立博物館やピマーイ国立博物館をはじめ、タイ各地の博物館に収蔵されている 13－15 世紀の同形密教法具に通有の形式である。また、別鋳の鈴身は素文ながら上下に段をめぐらし、更に縁を駒の爪状につくりだす。鈴身の内側には環を設け、そこから本体と同じ材質でつくられた舌を吊り下げる。

13　○名　　称　羯磨（かつま）
○時　　代　南北朝時代・14 世紀
○品　　質　銅・鋳造、鍍金。
○員　　数　1口
○寸 法 等　縦横各 13.7cm
○作品概要　轂と呼ばれる円形の座を中心に、二本の三鈷杵を十字に組んだ形姿を基本とする密教法具である。表裏ともに、轂の中央に据えた鬼目の周囲に三十二弁からなる菊花弁帯をめぐらす。そこから伸びる鈷は、根元の蓮葩を強く約し、その上の八弁からなる蓮弁は極めて立体的で鎬立つ。また、逆刺を伴う脇鈷は内側に匙面をとりつつ大きく張り出し、さらに鋭く鎬を立てる。さらに、鍍金はやや赤みを帯びるが、鬼目と鎬上以外は今なお鍍金層が極めて厚く残る。

14　○名　　称　三鈷柄（さんこづか）
○時　　代　室町時代・15-16 世紀
○品　　質　銅・鋳造、鍍金。
○員　　数　1柄
○寸 法 等　総長 14.5cm
○作品概要　三鈷杵をかたどった、いわゆる聖柄のかたちをなす。上方の鈷部は、中鈷の代わりに剣の茎を挿し込むための受けをつくりだし、その基部には、茎を留めるための孔をひとつ開ける。脇鈷は逆刺を伴い中程で大きく屈曲するかたちをとり、鈷の側面に浅い樋を設ける。また、下方の柄頭側は脇鈷が中鈷に鋳付く。把部は中央に楕円形をなした二重の鬼目を設け、その上下には大ぶりな連珠を伴う鈕で約した間弁付きの二重花弁を巡らす。藥は縦筋に細かく刻み、更に藥頭には魚々子鏨を用いて細かい連珠を打ち回す。

＜刀剣＞（2 件）

15　○名　　称　刀（かたな）
○作 者 等　同田貫上野介
○時　　代　安土桃山-江戸時代初期　16 世紀末期-17 世紀初期
○品　　質　鉄・鍛造
○員　　数　1口
○寸 法 等　全長 93.0cm　刃長 70.5cm　反 1.4cm
○作品概要　鎬造、先の伸びる大鋒。反りやや浅く身幅広め、重ね厚い。表裏に刀身彫刻は伴わない。総体やや白け立ち、鍛は板目に杢目がかり肌立つ。肌は匂出来。刃文は直刃。茎は生ぶで、角棟、刃上がりの栗尻、鑢目は切。目釘孔を 1 つ開ける。銘は指表に刀工銘「九州肥後同田貫上野介」を大きく刻む。同田貫は、南北朝時代に菊池氏が山城国より招いた来派の刀工、延寿太郎国村の末裔とされる刀工一派。その作風は華美を抑えた実用本位のもので、頑丈で切れ味のよいことで知られる。玉名で作刀した同田貫の初代が正国(のち上野介)で、本品のように「上野介」銘を切る作例としては、「上野介」、「九州同田貫上野介」、「肥州菊池住同田貫上野介」などがあり、主に文禄から慶長年間にかけての作刀が確認できる。

16　○名　　称　脇差（わきざし）
○作 者 等　藤原正良（?～1760）
○時　　代　江戸時代中期・17 世紀後半-18 世紀前半
○品　　質　鉄・鍛造
○員　　数　1口
○寸 法 等　総長 50.2cm　刃長 36.6cm　反り 0.7cm
○作品概要　鎬造、大鋒、庵棟。反り浅く身幅広め、重ね極めて厚い。表裏ともに棒樋を鎟下で掻き流す。鍛は板目よく約み、肌は地沸厚い大沸出来。刃文は広直刃に焼き出し、上に向かって互の目まじりに大きく湾れ、物打あたりで焼き幅を広くとる。茎はやや隅丸の角棟、刃上がりの入山形で、鑢目は筋違、目釘孔を 1 つ開ける。指表やや棟寄りに刀工銘「薩摩國出水藤原正良」を刻む。

＜陶磁＞（1 件）

17　○名　　称　白磁日月壺（はくじじつげつこ）
○作 者 等　中国江西省（推定）
○時　　代　南宋-元時代・13-14 世紀
○品　　質　白磁製
○員　　数　1合
○寸 法 等　総高 77.3cm　底径 11.0cm
○作品概要　日月壺とは南宋から元時代にかけて中国江西省で流行した細長い白磁の壺であり、墓への副葬ないし葬送儀礼のために作られた。日月壺は龍文と太陽文をもつもの、および虎文と月文をもつものとで対をなす。前者の例に該当する本作品はもともと一対であった日月壺のうちのひとつである。龍文と太陽文のほか、器身の中位に廻らされた立ち姿の人物像 12 体と伏臥する人物像 1 体、蓋の頂部にある鳥形の装飾などからは、南宋から元時代にかけて江西省で流行した地域色の濃厚な道教との関連が窺い知れる。南宋から元時代にかけての中国南部各地で成立・展開した多様な葬送儀礼の一様相を示す好例である。

＜考古＞（3 件）

18　○名　　称　石刀（せきとう）
○時　　代　縄文時代・前 2000 年-前 400 年
○品　　質　石製
○員　　数　1点
○寸 法 等　最大長 26.2cm　最大幅 3.3cm　最大厚 1.9cm
○作品概要　完形。部分的に線刻が施された簡素な作りの石刀である。石刀は、縄文時代を代表する祭祀具で、主に東日本地域から出土する。本品の箱書きにある出土地には天林北遺跡があり、これまで多数の石製祭祀具が出土している。本品が出土していたとしても違和感はない。中部地方出土の石刀は数が限られており、完形での遺存例も少ない。石刀の起源については、先行する骨刀に系譜を求める意見がある一方で、中国大陸北方の青銅刀子の影響を受けて成立したとする意見もある。今後、縄文時代の文化交流を考える上で貴重な資料である。

19　○名　　称　大分県丹生川遺跡出土品（おおいたけんにゅうがわいせきしゅつどひん）
○作 者 等　大分県大分市大字坂ノ市　丹生川遺跡
○時　　代　1～5：弥生時代　前 2-前 1 世紀　　6：古代-中世　8-15 世紀
○品　　質　1～5：頁岩製。

6：鉄製。
○員　　数　6 点
○寸 法 等　1：長 12.0cm　幅 4.2cm　厚 1.6cm
2：長 6.4cm　幅 3.6cm　厚 1.1cm
3：長 4.4cm　幅 1.6cm
4：長 3.7cm　幅 2.3cm
5：残存長 3.2cm　残存幅 3.0cm
6：長 11.2cm　幅 6.0cm
○作品概要　昭和 36 年(1961)当時、弥生時代前期から中期の水田遺跡と考えられていた丹生川遺跡において、行政による埋蔵文化財保護体制が十分に整わない中、開発行為が行われた際に太田亘（郷土史研究家、当時坂ノ市町文化財専門委員長）によって採集された資料である。1・2 の扁平片刃石斧、3・4 の磨製石鏃ともに、農耕社会に伴う新しい技術・文化が日本列島内に伝播する過程を示す典型資料であり、弥生時代の人々の生活を語る上で欠かせない基本資料である。5 は小破片のため全形を知り得ないが、表面を研磨しているため、磨製石器であると判断できる。6 の狩股式鉄鏃は、共伴する土器がなく、詳しい出土状況もわからないため、時代を絞り込むことが難しい。

20　○名　　称　土馬（どば）
○作 者 等　伝奈良県
○時　　代　奈良時代　8 世紀
○品　　質　土製
○員　　数　１点
○寸 法 等　高 7.0cm　縦 12.3cm　横 12.3cm
○作品概要　「都城型」と分類される土馬で、三日月形の馬面が確認できる。馬面の両側面には、線刻で目が描かれている。体部には目立った装飾はなく、抽象化が進んだ形式的な造形と評価できる。土馬は律令祭祀で用いられる祭具の一つであり、井戸や流路などの水辺での出土数が多い。祭祀の際に土馬を意図的に破壊する事例が目立ち、本品で見られる右後脚の欠損も、奈良時代の祭祀行為により生じたと見られる。奈良時代の欠損部位は、発見後の修復で復元されている。

＜歴史資料＞（2 件）

21　○名　　称　両替天秤・分銅（りょうがえてんびん･ふんどう）
○時　　代　江戸時代　17～19 世紀
○品　　質　天秤：真鍮製　　分銅：銅鋳造
○員　　数　１組・25 点
○寸 法 等　天秤竿(針口含む)：高 12.2cm　長 35.7cm　　天秤皿：(左)高 2.9cm　口径 14.0cm　(右)高 2.8cm　口径 14.0cm
分銅：縦 1.8cm～1.3cm
○作品概要　江戸時代の商家において両替や取引に用いられた両替用の秤量器で、天秤 1 組、両替用分銅 24 点、竿秤用分銅 1 点からなる。天秤皿の見込み中央に打たれた極印「極中堀与一郎（花押）」や、両替分銅に刻まれた「後藤」の文字、および同家の花押と五三桐紋は、幕府公定の秤量器であることを示している。
残存する両替分銅 24 点は、全体の形状、刻印などから大きく 4 種類に分類することができる。最も残存状況の良い一群は 30 両以下 2 匁までおよび 4 分の 13 点、次いで 20 両以下 2 匁までの 9 点、および 20 両の 1 点と、1 両の 1 点とに分類され、それぞれ製作年代が異なるものと考えられる。竿秤用分銅は近代以降に下る可能性もある。

22　○名　　称　広開土王碑拓本（こうかいどおうひたくほん）
○作 者 等　原碑:中国吉林省集安市
○時　　代　原碑:三国時代・414 年　採拓:民国時代・1934 年頃
○品　　質　紙本墨拓
○員　　数　4 面
○寸 法 等　第 1 面：(上半分)縦 264.3cm　横 145.0cm-148.0cm、(下半分)縦 275.0cm　横 145.0cm
第 2 面：縦 528.0cm　横 100.0cm-122.0cm
第 3 面：縦 532.0cm　横 178.0cm
第 4 面：縦 530.0cm　横 120.0cm
○作品概要　高句麗の全盛期を現出させた広開土王（在位 391～412 年）の勲績を後世に示すため建てられた広開土王碑の拓本。広開土王碑拓本のなかには、文字をより明瞭にするため、碑面の風化部分に石灰を埋めて採拓した「石灰拓本」が 1885 年前後より出現する。埋めた石灰は時間の経過によって剥落し、拓本の余白の大きさや一部の文字の形状に影響した。本資料は裏面に石灰の粉がわずかに残っていることから、石灰拓本であることが明らかである。また、余白の大きさや特定の文字の形状から 1934 年前後に採拓されたものと考えられる。原碑 4 面すべての拓本が揃い、文字の状態によって採拓時期を特定することができることに加えて、入手経緯も明らかであることから、歴史資料として極めて貴重である。

1-(1)-②-5 有形文化財(美術工芸品)に関する取組状況(文化財購入費)

平成29年3月31日

	平成28年度 合計金額(千円)	総件数	内訳					
			運営費交付金(千円)	件数	寄附金(千円)	件数	目的積立金(千円)	件数
国立文化財機構	1,437,890	63	1,277,190	63	160,700	(2)	0	0
東京国立博物館＊	662,350	11	501,650	11	160,700	(2)	0	0
京都国立博物館	130,088	14	130,088	14	0	0	0	0
奈良国立博物館	5,040	2	5,040	2	0	0	0	0
九州国立博物館	640,412	36	640,412	36	0	0	0	0

＊東京国立博物館の寄附金財源による購入2件分は、運営費交付金と寄附金の両方を財源として購入した文化財のため、
実際の文化財購入は11件となる。

1-(1)-②-6 寄託品一覧表

（単位：件）　平成29年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	12,127	195	1,189	3,075	55	258	6,189	86	620	1,958	52	299	905	2	12
絵画	3,411	57	413	473	13	65	2,231	28	244	557	16	101	150	0	3
書跡	1,683	67	271	393	10	30	878	41	203	350	15	35	62	1	3
彫刻	930	9	195	245	3	37	263	1	69	416	5	87	6	0	2
建築	5	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0
金工	961	14	84	133	5	18	523	2	35	210	7	30	95	0	1
刀剣	255	8	65	232	8	56				16	0	9	7	0	0
陶磁	1,258	1	7	128	0	3	846	1	3	8	0	0	276	0	1
漆工	722	15	55	97	6	15	481	4	15	118	5	24	26	0	1
染織	859	7	38	287	2	4	497	3	31	47	2	3	28	0	0
考古	949	13	34	169	4	13	424	6	10	236	2	10	120	1	1
民族資料	114	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0
歴史資料	72	0	10	5	0	0	43	0	10	0	0	0	24	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	170	2	11	170	2	11									
東洋 書跡	39	1	3	39	1	3									
東洋 彫刻	31	0	0	31	0	0									
東洋 金工	5	0	1	5	0	1									
東洋 陶磁	137	1	1	137	1	1									
東洋 漆工	30	0	1	30	0	1									
東洋 染織	7	0	0	7	0	0									
東洋 考古	486	0	0	486	0	0									
東洋 民族	3	0	0	3	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規定による「旧東洋課所掌分」あり。京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-②-7 寄託品増減表

（単位：件）　平成29年3月31日現在

	国立博物館				東京国立博物館				京都国立博物館				奈良国立博物館				九州国立博物館			
	27年度	28年度			27年度	28年度			27年度	28年度			27年度＊	28年度			27年度	28年度		
	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計
合計	12,025	345	243	12,127	3,072	37	34	3,075	6,112	227	150	6,189	1,956	37	35	1,958	885	44	24	905
絵画	3,368	111	68	3,411	478	3	8	473	2,202	76	47	2,231	529	29	1	557	159	3	12	150
書跡	1,704	21	42	1,683	395	2	4	393	902	14	38	878	349	1	0	350	58	4	0	62
彫刻	930	9	9	930	246	1	2	245	262	6	5	263	416	1	1	416	6	1	1	6
建築	5	0	0	5	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2
金工	971	18	28	961	133	0	0	133	535	12	24	523	210	3	3	210	93	3	1	95
刀剣	260	24	29	255	213	19	0	232					45	0	29	16	2	5	0	7
陶磁	1,197	90	29	1,258	136	1	9	128	776	89	19	846	8	0	0	8	277	0	1	276
漆工	714	21	13	722	98	0	1	97	468	18	5	481	115	3	0	118	33	0	7	26
染織	859	3	3	859	286	1	0	287	497	2	2	497	47	0	0	47	29	0	1	28
考古	931	31	13	949	172	0	3	169	427	5	8	424	237	0	1	236	95	26	1	120
民族資料	114	0	0	114	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0	109
歴史資料	67	7	2	72	5	0	0	5	40	5	2	43	0	0	0	0	22	2	0	24
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	170	1	1	170	170	1	1	170												
東洋 書跡	39	0	0	39	39	0	0	39												
東洋 彫刻	31	0	0	31	31	0	0	31												
東洋 金工	5	0	0	5	5	0	0	5												
東洋 陶磁	129	9	1	137	129	9	1	137												
東洋 漆工	33	0	3	30	33	0	3	30												
東洋 染織	9	0	2	7	9	0	2	7												
東洋 考古	486	0	0	486	486	0	0	486												
東洋 民族	3	0	0	3	3	0	0	3												

＊27年度の4館合計値及び奈良国立博物館の数値は、奈良国立博物館における28年度のカウント方法の見直しに合わせた数値となっている。

1-(1)-②-8 登録美術品一覧表

（単位：件）　平成29年3月31日現在

3	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	28	0	2	26	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0
絵画	4	0	2	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡	18	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 陶磁	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
複合資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

1-(1)-③　有形文化財の管理・保存・修理等

1-(1)-③-1 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
本館	展覧会場	09：00～17：00	16～28℃	13～88%
	収蔵庫	09：30～17：00	15～27℃	23～78%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	19～28℃	40～66%
	収蔵庫	09：30～17：00	21～26℃	48～64%
東洋館	展覧会場	09：30～17：00	15～30℃	28～63%
	収蔵庫	09：30～17：00	10～28℃	42～70%
法隆寺宝物館	展覧会場	24時間運転	21～25℃	43～60%
	収蔵庫	24時間運転	21～24℃	47～57%
黒田記念館	展覧会場	24時間運転	19～24℃	43～68%
	収蔵庫	24時間運転	21～22℃	54～59%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
明治古都館	展覧会場	8：30～18：00 （停止期間あり）	13～28℃	50～60%
（特別展示館）	収蔵庫	8：30～17：30	14～26℃	50～60%
平成知新館	展覧会場	9：00～17：00	19～25℃	50～60%
（新平常展示館）	収蔵庫	9：00～17：00	18～24℃	50～60%
北収蔵庫		9：00～17：30	14～27℃	50～60%
東収蔵庫		9：00～17：30	16～26℃	50～60%
文化財保存修理所		9：00～17：30	20～25℃	50～60%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）			湿度（年間）
			冬	夏	中	
なら仏像館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
青銅器館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	8:30～19:00	22～26℃	55±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
収蔵庫	8:40～21:30	22～24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

平成29年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館
画像	400件	画像	5,820件	画像	3,081件	（完了）
和古書・漢籍	20,224件			文字	4,936件	
洋古書	5,110件					

1-(1)-③-3 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】　　平成29年3月31日現在

合計		1,325		
計		列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時
		594	172	559
絵画		214	2	139
書跡		38	1	3
彫刻		19	0	5
建築		0	0	0
金工		41	1	4
刀剣		37	141	27
陶磁		41	0	23
漆工		25	1	1
染織		20	16	27
考古		41	4	2
歴史資料		12	0	54
民族資料		22	0	2
和書		15	3	10
東洋	絵画	10	0	2
	書跡	8	0	0
	彫刻	1	0	3
	金工	0	0	0
	陶磁	8	1	0
	漆工	7	0	0
	染織	3	1	19
	考古	2	1	1
	民族	0	0	2
法隆寺献納宝物		1	0	16
その他（黒田含）		29	0	219

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	159	96	81
絵画	79	34	5
書跡	27	15	4
彫刻	2	11	0
建築	0	0	0
金工	7	7	0
刀剣		0	0
陶磁	5	0	0
漆工	12	6	0
染織	6	1	6
考古	7	22	0
民族資料	0	0	0
歴史資料	14	0	6
和書	0	0	0
その他	0	0	60

1-(1)-③-4 本格修理件数

平成29年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合　計		107	68 (10)	14	7	18
絵　画		18	6	4	4	4
書　跡		8	2	2	2	2
彫　刻		0	0	0	0	0
建　築		0	0	0	0	0
金　工		3	3	0	0	0
刀　剣		2	2	0	0	0
陶　磁		2	2	0	0	0
漆　工		2	1	1	0	0
染　織		27	18	3	0	6
考　古		28	23 (10)	4	1	0
歴史資料		6	0	0	0	6
和　書		2	2	0	0	0
民族資料		0	0	0	0	0
東洋	絵　画	1	1			
	書　跡	0	0			
	彫　刻	0	0			
	金　工	0	0			
	陶　磁	3	3			
	漆　工	1	1			
	染　織	1	1			
	考　古	1	1			
	民　族	0	0			
法隆寺献納宝物		0	0			
黒田記念館収蔵品		0	0			
館史資料(収蔵品外)		2	2			

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費、内数。

1-(1)-③-5 修理概況
【東京国立博物館】 (68件)

〈絵画〉(6件)

1 ○列品番号 A-56
○名　　称 牧馬図屏風(ぼくばずびょうぶ)
○指　　定 重文
○指定年月 平成17年(2005)6月9日　絵第2014号
○時　　代 安土桃山時代
○年代世紀 16c
○品　　質 紙本着色
○員　　数 6曲1双
○寸 法 等 156.6×342.5 ㎝
○施工会社 ㈱岡墨光堂
○修理内容 1. 屏風装を解体する。 2. 絵具層の剥落止めを行なう。 3. 表打ちを行ない、画面を保護する。 4. 旧裏打紙、補紙を除去する。 5. 欠損部に補紙を、亀裂部分に補強紙をあてる。 6. 補紙に補彩を行なう。 7. 新規裏打ちを行なう。 8. 屏風下地を新調し、下地に本紙、裂、裏貼紙を貼り込む。 9. 襲木や金具を新調する。

2 ○列品番号 A-9880
○名　　称 アイヌ風俗図(あいぬふうぞくず)
○時　　代 江戸時代
○年代世紀 19c
○品　　質 紙本着色
○員　　数 2面
○寸 法 等 縦121.2横60.6cm
○施工会社 ㈱修護
○修理内容 1. 解体する。 2. 剥落止めの後、クリーニングを行なう。 3. 本紙の破れを繕い、欠失部分には補紙を施す。 4. 旧裏打紙を除去し、新たに裏打ちを行なう。 5. 骨下地を新調し、本紙を張り込む。 6. 縁を新調し、裏面に額金具を設置する。

3 ○列品番号 A-11128
○名　　称 南蛮屏風(なんばんびょうぶ)
○時　　代 江戸時代
○年代世紀 17c
○品　　質 紙本金地着色
○員　　数 6曲1双
○寸 法 等 154.8×371.5 ㎝
○施工会社 ㈱半田九清堂
○修理内容 1. 屏風装を解体する。 2. 絵具層の剥落止めの後、クリーニングを行なう。 3. 表打ちを行ない、画面を保護し、旧裏打紙、補紙を除去する。 4. 新たに補紙、裏打ちを行なう。 5. 仮張りをした後、補紙に補彩を行なう。 6. 骨下地を新調し、下張りを行ない、裏貼紙、本紙、裂を貼り込む。 7. 新調した表装裂、襲木、金具を取り付けて、屏風装に仕立てる。

4 ○列品番号 A-12327
○名　　称 山水図
○指　　定 重文
○時　　代 室町時代
○年代世紀 15c
○品　　質 紙本墨画淡彩
○員　　数 1幅
○寸 法 等 93.9 ×34.0cm
○施工会社 ㈱岡墨光堂
○修理内容 1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂、牙軸を修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。

5 ○列品番号 A-12435
○名　　称 柿本人麻呂像(かきのもとのひとまろぞう)
○時　　代 室町時代
○年代世紀 15c
○品　　質 絹本着色
○員　　数 1幅
○寸 法 等 75.4×38.3cm
○施工会社 アソシエイトフェロー、国宝修理装こう師連盟関東支部
○修理内容 1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。描線のある旧補絹の除去については検討して進める。4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補絹部分に補彩を施す。 6. 表装裂、牙軸は再使用して、掛幅装に仕立てる。 7. 軸木、金具、紐、桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。極のみ新箱に戻す。

6 ○列品番号 A-12439
○名　　称 年中行事図屏風(ねんじゅうぎょうじずびょうぶ)
○時　　代 江戸時代
○年代世紀 17c
○品　　質 紙本金地着色
○員　　数 1幅
○寸 法 等 154.6 ×386cm
○施工会社 アソシエイトフェロー、国宝修理装こう師連盟関東支部
○修理内容 1. 屏風装を解体する。 2. 剥落止め、表打ちを施して、旧裏打紙と旧補紙を除去する。 3. 補紙を施し、肌裏打ち、増裏打ちを行なう。 4. 仮張りをし、補紙に補彩を施す。 5. 下地を新調、本紙、裏張紙を張り込む。 6. 縁裂、尾背、縁木を新調し、屏風装に仕立てる。 7. 旧裏打紙、旧下地、旧金具などを保管する保存箱を作製する。

〈東洋絵画〉(1件)

7 ○列品番号 TA-315
○名　　称 四睡図(しすいず)
○指　　定 重文
○指定年月 昭和57年 (1982) 6月5日　絵第1830号

○時　代　元時代
○年代世紀　14c
○品　質　紙本墨画
○員　数　1幅
○寸 法 等　本紙77.8 ×34.3cm
○施工会社　㈱岡墨光堂
○修理内容　1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂、牙軸は修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。

〈書跡〉(2件)

8　○列品番号　B-3178
○名　称　医心方(いしんぽう)
○指　定　国宝
○指定年月　昭和59年（1984）6月6日　書第2399号
○時　代　平安時代～江戸時代
○年代世紀　12c～17c
○品　質　紙本墨書
○員　数　30巻、1冊
○寸 法 等
○施工会社　保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー、㈱修護、㈱半田九清堂
○修理内容　1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙および旧補紙を除去するが、補筆のある旧補紙は残す。 4. 本紙の欠損部に補紙を施す。 5. 傷みの著しい巻頭などは、必要に応じて新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 6. 表紙、軸首は修理して再使用し、巻子装に仕立てる。 7. 包裂、桐製保存箱を新調する。（平成27年度から平成28年度にかけて12巻、1冊、それ以後は年度ごとに6巻ずつ仕上げる。）

9　○列品番号　B-2404
○名　称　熊野懐紙(くまのかいし)
○指　定　重文
○指定年月　昭和34年（1959）6月27日　書第1925号
○時　代　鎌倉時代
○年代世紀　正治2年(1200)
○品　質　紙本墨書
○員　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦29.6 横50.1
○施工会社　㈱半田九清堂
○修理内容　1. 表装を解体する。 2. 剥落止めの後、クリーニングを行なう。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行なう。 5. 表装裂、牙軸を修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 6. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。

〈金工〉(3件)

10　○列品番号　E-15247
○名　称　坏(つき)
○時　代　平安時代
○年代世紀　11～12c
○品　質　陶製
○員　数　2個
○寸 法 等　①口径10.1 高3.3　②口径9.6 高3.3
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失箇所を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

11　○列品番号　E-15473
○名　称　土製皿(どせいさら)
○時　代　平安時代
○年代世紀　12c
○品　質　土製
○員　数　1個
○寸 法 等　口径9.0 高1.5
○施工会社　㈱小西美術工藝社
○修理内容　1. 短側面の金銅板を黒柿板より取り外す。2. 黒柿板の内面を和李、形状を修正する。3. 取り外した金銅板の形状を修正する。4. 金銅鋲を復元し、欠失箇所に補填する。5. 必要に応じて金銅病の緩みを修正する。

12　○列品番号　E-19840
○名　称　梅花文印櫃(ばいかもんいんびつ)
○時　代　昭和4年(1929)
○年代世紀
○品　質　黒柿、銅製鍍金
○員　数　1口
○寸 法 等　幅12.1 奥行16.5 高15.8
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 接合する。 3. 補填、復元する。 4. 補彩する。

〈刀剣〉(2件)

13　○列品番号　F-19539-2
○名　称　潤塗千段巻塗打刀(うるみぬりせんだんまきぬりのうちがたな)
○時　代　江戸時代
○年代世紀　19c
○品　質
○員　数　1口
○寸 法 等　総長97.6 柄長22.3 鞘長75.4
○施工会社　㈱小西美術工藝社
○修理内容　1. 栗形を鞘の塗膜が剥離しないように取り外す。 2. 鞘の色調・光沢に合わせた角黒漆塗の瓦金をつくり、外した栗形とともに取り付ける。 3. 鞘の塗膜の剥落箇所を周囲の色調・光沢に合わせた漆で補填する。 4. 柄糸の経年状態を参考にして古色をつけた白平打の下緒を復元し取り付ける。

14 ○列品番号　F-20203
○名　　称　刀
○指　　定　重文
○時　　代　（刀身）鎌倉時代・13 世紀　（刀装）江戸～明治時代・19 世紀
○年代世紀
○品　　質　鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 65.0 反り 2.2 柄長 22.8 鞘長 70.2
○施工会社　高山一之
○修理内容　1. 白鞘を作製する。2. 原品と同様の鋼を新規作製する。3。継木(つなぎ)を作製する。

〈陶磁〉（2 件）

15 ○列品番号　G-3966
○名　　称　色絵牡丹文小皿
○時　　代　第二尚氏時代
○年代世紀　19c
○品　　質　陶製
○員　　数　2 口
○寸 法 等　①高 3.5　最大径 12.5　②高 3.5　最大径 12.3
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

16 ○列品番号　G-4218
○名　　称　大燈籠(だいとうろう)
○時　　代　明治時代
○年代世紀　明治 41 年(1908)
○品　　質　陶製
○員　　数　1 基
○寸 法 等　総高 130.0　基礎高 14.0　竿高 53.0　火袋高 66.0　傘高 47.0　宝珠高 67.0 ㎝
○施工会社　文化財修理工房明舎
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 亀裂を補強する。 3. 欠失部に補填、補彩を行なう。 4. 補強材を設置する。5. もとの位置にある土台部分をクリーニングする。
6.　もとの位置でもとの形に組み立て直す。

〈東洋陶磁〉（3 件）

17 ○列品番号　TG-346
○名　　称　緑釉温酒尊(りょくゆうおんしゅそん)
○時　　代　前漢～後漢時代
○年代世紀　前 1～2 世紀
○品　　質　陶製
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 26.8　径 22.2～22.6
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する(身のみ）。 2. クリーニングする（身・蓋）。 3. 接合する(身のみ）。 4. 欠失部分を補填、復元する（身・蓋）。 5. 補填箇所に補彩する（身・蓋）。 6. 保存箱を新調する。

18 ○列品番号　TG-973
○名　　称　五彩獅子文有蓋壺(ごさいししもんゆうがいこ)
○時　　代　清時代
○年代世紀　17～18c
○品　　質　磁製
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 34.0 口径 12.0 底径 14.0（推定値）
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 接合する。 3. 欠失部分を補填、復元する。 4. 補填箇所に補彩する。 5. 保存箱（桐製、四方桟箱）を新調する。

19 ○列品番号　TG-2075
○名　　称　五彩人物文長方合子(ごさいじんぶつもんちょうほうごうす)
○時　　代　明時代
○年代世紀　万暦年間(1573～1620)
○品　　質　磁製
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 10.3 長径 28.8 短径 20.0
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. 解体する 2. 旧補彩をクリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分に充填・補彩する。

〈漆工〉（1 件）

20 ○列品番号　H-4699
○名　　称　桔梗蒔絵螺鈿聖龕(ききょうまきえらでんせいがん)
○時　　代　安土桃山～江戸時代
○年代世紀　16～17c
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 基
○寸 法 等　縦 18.3　横 15.2　厚 3.0
○施工会社　㈱小西美術工藝社
○修理内容　1. 旧修理を切削除去する。 2. 養生を行ないながらクリーニングを行なう。 3. 剥離した螺鈿や漆塗膜を、可能な限り平滑となるよう漆等を含浸させて圧着する。欠失塗膜部に補填した漆下地を、当初面と同一面になるように平滑に切削整形する。 4. 亀裂開口部の空隙に漆下地等を充填する。 5. クリーニングによって露出し脆弱化した漆塗膜を強化するため、必要に応じて漆を塗布したのち、完全に拭き取る作業を最小限行なう。漆下地による補填を行なった箇所は、周縁部との色艶をあわせるように、適宜漆を局所的に摺り重ねる。

〈東洋漆工〉(1件)

21 ○列品番号　TH-116
○名　　称　龍涛堆朱箪笥(りゅうとうついしゅたんす)
○時　　代　清時代
○年代世紀　18c
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　幅39.1　奥行19.7　高30.3
○員　　数　1基
○施工会社　㈱小西美術工藝社
○修理内容　1. 表面全体に付着した埃や汚れを落とす。 2. 堆朱層の亀裂や浮きに漆を含浸し、接着強化をはかる。 3. 剥落している堆朱片を、本来の位置に接着する。 4. 堆朱層の欠失部は復元を行なわず、錆下地による表面の強化と色合わせにとどめる。

〈染織〉(18件)

22 ○列品番号　I-337-10
○名　　称　紺地目結文綟纐平絹腰ヒ残欠(こんじめゆいもんこうけちへいけんようひざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、平絹
○員　　数　1条
○寸 法 等　26.0×11.9
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. クリーニングする。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

23 ○列品番号　I-337-11
○名　　称　淡茶地唐花文夾繧繝(うすちゃじからはなもんきょうけちのら)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、羅
○員　　数　1条
○寸 法 等　37.2×4.7
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. I-337-12 とともに中性紙のウィンドウマット装にする。

24 ○列品番号　I-337-12
○名　　称　淡茶地唐花文夾繧繝(うすちゃじからはなもんきょうけちのら)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、羅
○員　　数　1枚
○寸 法 等　31.6×4.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. I-337-11 とともに中性紙のウィンドウマット装にする。

25 ○列品番号　I-337-37
○名　　称　赤地花弁文臈纐平絹(あかじかきもんろうけちへいけん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　40.7×14.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

26 ○列品番号　I-337-38
○名　　称　赤地花弁文臈纐平絹(あかじかきもんろうけちへいけん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　36.0×25.7
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

27 ○列品番号　I-337-56
○名　　称　淡青地草花文臈纐平絹腰ヒ残欠(うすあおじそうかもんろうけちへいけんようひざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、平絹
○員　　数　1条
○寸 法 等　23.4×14.1
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

28 ○列品番号　I-337-156
○名　　称　青緑地六弁花鳥文錦(あおみどりじろくべんかちょうもんきん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　41.0×23.3
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー

○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

29 ○列品番号　I-337-174
○名　称　紫地花鳥連珠七宝繋文錦天蓋垂飾残欠(むらさきじかちょうれんじゅしっぽうつなぎもんきんてんがいすいしょくざんけつ)
○時　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　質　絹製、錦
○員　数　1枚
○寸 法 等　23.1×13.1
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. I-337-175 とともに低加圧式ウィンドウマット装にする。

30 ○列品番号　I-337-175
○名　称　淡縹地葡萄唐草文綾天蓋垂飾残欠(うすはなだじぶどうからくさもんあやてんがいすいしょくざんけつ)
○時　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　質　絹製、綾・錦
○員　数　1枚
○寸 法 等　23.7×12.9
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. I-337-174 とともに低加圧式ウィンドウマット装にする。

31 ○列品番号　I-337-177
○名　称　緑地狩猟連珠唐草円文錦(みどりじしゅりょうれんじゅからくさえんもんにしき)
○時　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　質　絹製、錦
○員　数　1枚
○寸 法 等　35.7×29.3
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

32 ○列品番号　I-337-219
○名　称　黄地唐花文錦幡足垂端飾残欠(きじからはなもんきんばんそくすいたんかざりざんけつ)
○時　代　奈良時代
○年代世紀　天平勝宝9年（757）
○品　質　絹製、錦・紙
○員　数　1枚
○寸 法 等　12.6×11.0
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. I-337-220 とともに低加圧式ウィンドウマット装にする。

33 ○列品番号　I-337-220
○名　称　赤地唐花文錦幡足垂端飾残欠(あかじからはなもんきんばんそくすいたんかざりざんけつ)
○時　代　奈良時代
○年代世紀　天平勝宝9年（757）
○品　質　絹製、錦・紙
○員　数　1枚
○寸 法 等　13.1×11.8
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. I-337-219 とともに低加圧式ウィンドウマット装にする。

34 ○列品番号　I-337-221
○名　称　紫地唐花文錦幡足垂端飾残欠(むらさきじからはなもんきんばんそくすいたんかざりざんけつ)
○時　代　奈良時代
○年代世紀　天平勝宝9年（757）
○品　質　絹製（錦）・紙製
○員　数　1枚
○寸 法 等　12.0×11.1
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. I-337-222 とともに低加圧式ウィンドウマット装にする。

35 ○列品番号　I-337-222
○名　称　赤地唐花文錦幡足垂端飾残欠(あかじからはなもんきんばんそくすいたんかざりざんけつ)
○時　代　奈良時代
○年代世紀　天平勝宝9年（757）
○品　質　絹製、錦・紙
○員　数　1枚
○寸 法 等　13.0×11.7
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. I-337-223 とともに低加圧式ウィンドウマット装にする。

36 ○列品番号　I-337-223
○名　称　緑地花鳥獣文錦幡足垂端飾残欠(みどりじかちょうじゅうもんきんばんそくすいたんかざりざんけつ)
○時　代　奈良時代

○年代世紀　天平勝宝9年（757）
○品　　質　絹製、錦・紙
○員　　数　1枚
○寸 法 等　12.8×11.7
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. I-337-224とともに低加圧式ウィンドウマット装にする。

37 ○列品番号　I-337-224
○名　　称　白茶地花文錦幡足垂端飾残欠(しろちゃじかもんきんばんそくすいたんかざりざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　天平勝宝9年（757）
○品　　質　絹製、錦・紙
○員　　数　1枚
○寸 法 等　13.5×11.8
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラス板を外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. I-337-223とともに低加圧式ウィンドウマット装にする。

38 ○列品番号　I-2061
○名　　称　小忌衣 浅葱天鵞絨地菊水模様(おみごろも　あさぎびろーどじきくすいもよう)
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　19c
○品　　質　天鵞絨地に切付・刺繍
○員　　数　1領
○寸 法 等　丈156.5　裄63.6
○施工会社　㈱松鶴堂
○修理内容　1. 引解（解体）にする。 2. 縫い付けによる裏打ちをする。 3. 刺繍の綴付、蛇腹状の襟の仕立て直しを行なう。

39 ○列品番号　I-4072
○名　　称　小袖 白黒紅染分綸子地熨斗藤模様(こそで しろくろべにそめわけりんずじのしふじもよう)
○指　　定　重文
○指定年月　昭和57年(1982)6月5日　工第2480号
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　17c
○品　　質　絹製　綸子地に刺繍・絞り・摺箔
○員　　数　1領
○寸 法 等　丈140.8 裄64.0
○施工会社　㈱松鶴堂
○修理内容　1. もとの縫い目に留意しながら解体し、表裂と裏裂を分ける。 2. 糸印や穴をつまんだ部分など、後世の使用で追加された部分については、作品に支障がない範囲で除去する。 3. 白地の部分に当てる似寄りの綸子地を新調し、横切れの箇所に地模様を合わせながら裏から綸子をあてて縫い留める。 4. 肩山の切れなど、黒紅地の部分の横切れについては、似寄りの綸子地を黒紅地に染めた後、裏から当てて縫い留める。 5. 裏地を新調し、中綿を入れて、小袖の状態に戻す。

〈東洋染織〉（1件）

40 ○列品番号　TI-418-1
○名　　称　コート　濃紺ヴェルヴェット地花弁文様金銀糸刺繍(のうこんう゛ぇるう゛ぇっとじかきもんようきんぎんししゅう)
○年代世紀　19c
○品　　質　絹製ヴェルヴット地に金属糸とスパンコールで刺繍、宝石で装飾
○員　　数　1着
○寸 法 等　丈110.0　肩幅44.0　袖長56.0
○施工会社　㈱染技連
○修理内容　1. 部分的に解体する。 2. 損傷箇所に補修裂をあてて、縫いとめる。 3. 刺繍などのほつれをとめる。 4. 黄緑地の縁裂を新調して縫い合わせる。 5. 保存箱を新調する。

〈考古〉（23件）

41 ○列品番号　J-61
○名　　称　須恵器 提瓶(すえき ていへい)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　直径5.9 残存高15.1
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 接合する。 3. 欠失部分を補填、復元する。 4. 補填箇所を補彩する。

42 ○列品番号　J-3097
○名　　称　須恵器 有蓋長頸壺(すえき ゆうがいちょうけいこ)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1合
○寸 法 等　法量:高26 口径9 最大径14
○施工会社　繭山　隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

43 ○列品番号　J-3734
○名　　称　壺(つぼ)
○時　　代　弥生時代(中期)
○年代世紀　前2～前1c
○品　　質　土製
○員　　数　1個

○寸 法 等　口径20.5 底径5.6 器高23.8
○施工会社　繭山　隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

44 ○列品番号　J-5683
○名　　称　鉄鍬先(てつくわさき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　5～6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1個
○寸 法 等　長20 幅25 厚さ1.5
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 欠失部分のうち、可能な部分のみ補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

45 ○列品番号　J-6084
○名　　称　須恵器 脚付埦(すえき きゃくつきわん)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径8.9 器高8.7
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所を補彩する。

46 ○列品番号　J-6478
○名　　称　陶棺(とうかん)
○時　　代　古墳(飛鳥)時代
○年代世紀　7c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　棺身 高62.1 長172.7 幅48.5 ； 棺蓋 高23.6 幅65.1 長90.9
○施工会社　アトリエ多摩
○修理内容　1. 旧補強用セメントを除去し、解体する。 2. 旧補填部分を除去し、クリーニングする。 3. 再度接合し、欠失部分は合成樹脂で補填する。 4.補填箇所に補彩を施す。 5. 展示・保管・移動用の台座を作製する。

47 ○列品番号　J-7646
○名　　称　須恵器 広口壺(すえき ひろぐちつぼ)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径16.3 器高24.0
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所を補彩する。

48 ○列品番号　J-7671
○名　　称　土師器 広口壺(はじき ひろぐちつぼ)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　残存高22.6
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所を補彩する。

49 ○列品番号　J-9869
○名　　称　蟹目釘(かにめくぎ)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1個
○寸 法 等　長4.1、軸部径0.3、頭部径0.5
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩する。 3. 樹脂を含浸して、補強する。

50 ○列品番号　J-11977
○名　　称　壺形土器(つぼがたどき)
○時　　代　続縄文時代(前期)
○年代世紀　前2～前1c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高34.1 口径10.5 底径8
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 補填して復元し、外面を強化する。 3. 補填箇所に補彩する。

51 ○列品番号　J-14180
○名　　称　須恵器 提瓶(すえき ていへい)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個

○寸 法 等　口径 8.9 器高 23.5
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所を補彩する。

52 ○列品番号　J-14399
○名　　称　須恵器 脚付短頸壺(すえき きゃくつきたんけいこ)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　口径 8.2 器高 14.2
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所を補彩する。

53 ○列品番号　J-34388
○名　　称　須恵器　提瓶(すえき ていへい)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　口径 10.5 器高 24.0
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所を補彩する。

54 ○列品番号　J-34391
○名　　称　刀子(とうす)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　長 13.0、刀身部幅 1.7、棟部幅 0.6、茎部長 5.4
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩する。 3. 樹脂含浸して、補強する。

55 ○列品番号　J-34392
○名　　称　刀子(とうす)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　残存長 10.7、刀身部幅 1.5、棟部幅 0.6、茎部残存長 3.9
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩する。 3. 接合する 4. 樹脂含浸して、補強する。 5. 接合部分を補填し、補填箇所を補彩する。

56 ○列品番号　J-34947
○名　　称　人面付壺形土器(じんめんつきつぼがたどき)
○時　　代　弥生時代(中期)
○年代世紀　前 2～前 1c
○品　　質　土製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　現存高 68.4 口径 14.3
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

57 ○列品番号　J-34961
○名　　称　壺形土器(つぼがたどき)
○時　　代　弥生時代(中期)
○年代世紀　前 2～前 1 世紀
○品　　質　土製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 19.7 底径 8.2
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

58 ○列品番号　J-36697
○名　　称　埴輪　桂甲の武人(こくほう　はにわ　けいこうのぶじん)
○指　　定　国宝
○指定年月　昭和 49 年 (1974) 6 月 8 日　考第 35 号
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　土製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 130.5　最大幅 39.5
○施工会社　繭山　隆司
○修理内容　1. 修理前調査を行なう。 2. 旧接合部分を外し、全体を解体する。 3. 残存する赤色等顔料を残しながら旧接合部分の石膏や汚れを洗浄する。 4. オリジナルの断片を新規に接合する。 5. 欠失部に補填を行なう。 6. 新規補填箇所に補彩を行なう。

59 ○列品番号　J-37240
○名　　称　青白磁合子(せいはくじごうす)
○時　　代　平安時代

○年代世紀　12c
○品　　質　磁製
○員　　数　1合
○寸 法 等　蓋 口径4.2 高1.3 ； 身 口径4.2 高
○施工会社　繭山　隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

60 ○列品番号　J-37834
○名　　称　深鉢形土器(ふかばちがたどき)
○時　　代　縄文時代(中期)
○年代世紀　前3000～前2000年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径51.5 器高66.0
○施工会社　繭山　隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

61 ○列品番号　J-38857-4
○名　　称　土師器 小型坩形土器(はじき こがたかんがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径11.5 高5.5
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

62 ○列品番号　J-39038
○名　　称　銅鐸(どうたく)
○時　　代　弥生時代(後期)
○年代世紀　1～3c
○品　　質　青銅製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高86.5 舞径20.8×18.5 裾径(現存部)34.0×32.0
○施工会社　公益財団法人　元興寺文化財研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 津市教育委員会所蔵の同一個体破片を三次元計測して模造した破片を接合する。 5. 欠損した箇所を補填・復元する。 6. 補填箇所に彩色する。

63 ○列品番号　J-39374
○名　　称　漆塗籠棺残片(うるしぬりかごかんざんぺん)
○時　　代　古墳(飛鳥)時代
○年代世紀　7c
○品　　質　籠製漆塗
○員　　数　1括
○寸 法 等　厚1、桟部約1.5
○施工会社　高妻洋成
○修理内容　1. 構造調査、成分分析を行なう。 2. 樹脂含浸・強化・乾燥を行なう。 3. 表面を強化する。

〈東洋考古〉(1件)

64 ○列品番号　TJ-4978
○名　　称　緑釉鳥(りょくゆうとり)
○時　　代　楽浪
○年代世紀　1～3c
○品　　質　陶器
○員　　数　1個
○寸 法 等　高9.8 長さ14.8 幅5.2
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. 接合部分を解体する。 2. 旧補彩部分を除去し、全体をクリーニングする。 3. 再度接合する。 4. 欠失部分に充填、補彩する。

〈和書〉(2件)

65 ○列品番号　QA-4381
○名　　称　信濃国図(しなののくにず)
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　19c写
○品　　質　紙本着色
○員　　数　1鋪
○寸 法 等　本紙 縦141.4 横203.8
○施工会社　㈲山口墨仁堂
○修理内容　1.本紙の剥落止めを行った後、裏打ち紙を除去する。 2.本紙の紙質に合わせた補修紙を作成し、欠損箇所に補紙を施す。 3.美濃紙にて裏打ちを行う。 4.表紙は補修して再使用する。 5.もとの折り目で畳むと負担がかかるため、最後の1回の折りはなしとした。表紙を取り付け、折り畳み装に仕立てる。

66 ○列品番号　QA-4382
○名　　称　備前国図(びぜんのくにず)
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　19c
○品　　質　着色、折仕立
○員　　数　1鋪
○寸 法 等　縦187.2 横194.3
○施工会社　㈱墨仁堂
○修理内容　1. 本紙の剥落止めを行ない、裏打紙を除去する。 2. 本紙の紙質に合わせた補修紙を作製し、欠失箇所に補紙を施す。 3. 新規裏打ちを行ない、表紙を補修して再使用する。 4. もとの折り目で畳み、表紙を取り付ける。

〈館史資料〉（2件）

67 ○列品番号　館史資料-680
○名　　称　重要雑録　明治二十七～二十九年(じゅうようざつろく　めいじにじゅうしちからにじゅうくねん)
○時　　代　明治 27～29 年（1894～96）
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 冊
○寸 法 等　縦 27.5 横 18.6
○施工会社　㈲東京修復保存センター
○修理内容　1.冊子本を解装する。 2.各頁ごとに折れや皺をのばす。 3.欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。 4.表紙は新調し、題箋、ラベルなどは再使用する。 5.封筒や付箋は、補紙などを施し、もとの場所に貼り付ける。6. 冊子本に仕立てる。

68 ○列品番号　館史資料-681
○名　　称　重要雑録　明治三十～三十二年(じゅうようざつろく　めいじさんじゅうからさんじゅうにねん)
○時　　代　明治 30～32 年（1897～99）
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 冊
○寸 法 等　縦 27.5 横 18.6
○施工会社　㈲東京修復保存センター
○修理内容　1.冊子本を解装する。 2.各頁ごとに折れや皺をのばす。 3.欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。 4.表紙は新調し、題箋、ラベルなどは再使用する。 5.封筒や付箋は、補紙などを施し、もとの場所に貼り付ける。6. 冊子本に仕立てる。

【京都国立博物館】（14件）

＜絵画＞（4件）

1 ○名　　称　維摩居士像
○指　　定　重要文化財
○時　　代　中国・南宋　13 世紀
○品　　質　絹本墨画
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 89.0cm　横 51.3cm
○施工会社　株式会社光影堂
○修理内容　・修理前に写真撮影を行い、現状を調査する。 ・本紙と表装裂地を取り外し、裏打紙を除去する。・本紙の汚れを除去する。 ・肌裏紙を除去し、新調する。・折れている箇所などに折れ伏せを入れる。・肌裏紙を除去し、新調する。・折れている箇所などに折れ伏せを入れる。・本紙と表装裂地を付廻す。・総裏を打ち、仮張りして十分に乾燥させる。・太巻添軸、二重箱を新調し、包裂に包み収納する。・修理後の写真撮影を行い、修理報告書を作成する。

2 ○名　　称　山水図　原在中筆
○指　　定　未指定
○時　　代　文政 3 年（1820）
○品　　質　紙本淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 39.7cm　横 75.2cm
○施工会社　株式会社光影堂
○修理内容　・解体修理により、肌裏紙を除去。新たに肌裏打を施す。・濾過水にて本紙の汚れを除去する。・表装裂地を新調する。軸端は木軸とする。・太巻とし、桐箱を新調する。

3 ○名　　称　仏涅槃図
○時　　代　平安～鎌倉時代（12～13 世紀）
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 99cm、横 67.6 cm　表具 縦 194.0 cm 横 89.8 cm
○施工会社
○修理内容　・剥落止めとクリーニングを行い、露出した裏彩色に表補絹を行う。・乾式肌上法により本紙にあてられた肌裏紙を除去し、補絹を行う。・肌裏を打ち、表から補絹箇所に地色あわせの補彩を行う。・増裏を打ち、折伏を入れる。・本紙の色調に合う表装裂を新調する。（金軸再利用）・本紙と表装裂地の付廻しをおこなう。・中裏と総裏を入れ、仮張りの状態で長期間乾燥させる。・表装に仕立てる。・修理過程の記録を残し、報告書を作成する。・修理年度は 2 カ年とする。・箱は新調しない。

4 ○名　　称　軍装行列図
○時　　代　明治 10 年前後
○品　　質　紙本淡彩
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 63.9cm　横 139cm
○施工会社　株式会社宇佐美修徳堂
○修理内容　・調査を行う。（採寸、修理前後の調査、撮影）・旧裏打ち紙を除去する。本紙を間接洗浄する・虫損痕などの損傷箇所には似寄の和紙で繕いを行う。・本紙を薄美濃紙で裏打ち（肌裏打ち）を行う。・本紙の裏打ち紙は上下共役 1 分残す。・巻頭紙、巻末紙を付ける。・本紙に厚みを付ける為に美栖紙で裏打ち（増裏打ち）を行う　・巻子装に仕立てる。・中性紙の箱をつくり納める。

＜書跡＞（2件）

5 ○名　　称　絹本著色桜図　土佐光起筆（国宝一品経懐紙付属品）
○時　　代　江戸時代（17 世紀）
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 45cm　横 60.4cm
○施工会社　株式会社光影堂
○修理内容　・乾燥した状態で本紙表面の汚れを除去する。・旧肌裏紙以外の裏打紙を除去する。・濾過水を用い、本紙の汚れを除去する。・膠水溶液にて、絵具層の剥落止を行う。・本紙の旧肌裏紙を除去する。・小麦澱粉糊にて肌裏打を施す。・古糊を用い、一層目の増裏打を施す。・将来折れの発生が懸念される箇所に、必要に応じて折れ伏せを入れる。・古糊を用い、二層目の増裏打を施す。・本紙と表装裂地を大和三段表装の形に付廻す。・古糊を用い、中裏打を施す。・古糊を用いて総裏を打ち、仮

張りして取り付け、仕上げる。・桐太巻軸、桐屋郎箱、四方帙を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。

6　○名　　称　重要文化財　大手鑑（八十葉）
　○時　　代　奈良～室町時代（8～16 世紀）
　○品　　質　両面折帖装
　○員　　数　1 帖
　○寸 法 等　縦 44.6cm、横 60.8cm
　○施工会社　株式会社松鶴堂
　○修理内容　・修理前に本紙現状の写真撮影を行い、本紙表面及び損傷状況、装丁の調査・記録を行う。・墨、朱、金銀泥、顔料等の耐久性を確認し、必要に応じて膠水による剥落止めを施す。・各本紙を画帖本体から取り外し、現在の肌裏紙を除去する。・旧補修紙等を取り除く。・各本紙の損傷状況に応じてクリーニングを行い、経年による酸化物等の汚れを除去する。・解装後に本紙の材質、折目痕等の痕跡、裏面の状況等に応じて本紙補修を施す。・本紙に美濃紙による肌裏打ちを施し、仮張り乾燥を行う。鳥の子紙を貼り合わせて画帖台紙を作製する。画帖台紙に本紙を貼り込む。・二つ折りにした画帖台紙の一面を貼り合わせ、互い違いに開くように連結する。・かい合う本紙同紙の擦れを軽減するため、台紙のノドを除く三方に覆輪を取り付ける。・見返しの金箔台紙を再用する。・新たに表紙を作製する。表紙裂は金襴にて新調し、金具は現在のものを再用する。・画帖台紙に見返し及び表紙を取付け、元通りの画帖仕立てとする。・桐製の保存箱及び包裂を新調し、画帖を収納する。・修理後に写真撮影を行う。・修理報告書を作成する。
　（28 年度より 4 ヶ年事業）

＜漆工＞（1 件）

7　○名　　称　黒漆雲龍螺鈿琵琶
　○時　　代　琉球　17 世紀
　○品　　質　木造、漆塗、蒔絵、螺鈿、金銅製金具
　○員　　数　1 基
　○寸 法 等　全長 82.5cm　幅 32cm　海老尾高さ 21.6cm
　○施工会社　北村繁
　○修理内容　・修理前の写真撮影を行う。・作業中に剥落の恐れがある螺鈿や漆塗膜を和紙片で養生する。・クリーニングを行う。　・剥離した螺鈿や漆塗膜を圧着する。　・漆塗の表面を漆固めで強化する。・螺鈿の欠失部の周囲は際錆を施す。・象牙製の覆手と細い柱は膠や麦漆などで所定の位置に接着する。・浮き上がった捍撥の皮を可能な範囲で平滑になるように接着する。・槽の覆輪を確認し、必要に応じて補強する。・修理後の写真撮影を行う。
　（28 年度より 2 ヶ年事業）

＜染織＞（3 件）

8　○名　　称　船越広東
　○時　　代　中国または東南アジア　16-17 世紀
　○品　　質　絹
　○員　　数　1 裂
　○寸 法 等　縦 70cm　横 55.1cm
　○施工会社　株式会社　染技連
　○修理内容　・間接的に水分を与えながら、折り皺をのばすとともに、作品のクリーニングを行う。・作品を広げたまま中性紙製の紙管に巻く形に改装して折り皺を解消し、作品への安全性を確認した布でくるむ。・旧畳紙は紙管の中に納める形を基本に、作品とともに保存できる形態とする。・収蔵庫内で確認しやすい場所に作品番号および名称を記す。

9　○名　　称　笹蔓緞子
　○時　　代　中国・明　15 世紀
　○品　　質　絹
　○員　　数　1 裂
　○寸 法 等　縦 24cm　横 18.5cm
　○施工会社　株式会社　染技連
　○修理内容　・作品および名称小札を台紙および表紙から取り外す。・間接的に水分を与えながら、作品のクリーニングを行う。・本作品を収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。・収蔵庫内で確認しやすい場所に作品番号および名称を記す。

10　○名　　称　日野広東
　○時　　代　インド・ムガール　16-17 世紀
　○品　　質　絹・木綿
　○員　　数　1 裂
　○寸 法 等　縦 27.5cm　横 20.2cm
　○施工会社　株式会社　染技連
　○修理内容　・作品および旧畳紙・名称小札を台紙および表紙から取り外す。・間接的に水分を与えながら、作品のクリーニングを行う。・生地端のほつれに、部分的な補強裏打ちを行う。・本作品のみを収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。・収蔵庫内で確認しやすい場所に作品番号および名称を記す。

＜考古＞（4 件）

11　○名　　称　丹波南桑田郡鹿谷村発掘古刀轡祝瓮撮本（附属品）
　○時　　代　明治 14 年
　○品　　質　紙本
　○員　　数　3 点
　○寸 法 等　①縦 24.5 cm 横 33.3 cm ②縦 24.5 cm 横 33.4 cm ③縦 26.0 cm 横 37.0 cm
　○施工会社　株式会社宇佐美修徳堂
　○修理内容　・調査を行う。（採寸、修理前後の調査、撮影）本紙を間接洗浄する。・各本紙の周囲には楮紙にて「手紙」を付ける。巻頭紙、巻末紙を付けて、各本紙の左右の間隔は約８分あける。・虫損痕などの損傷箇所には似寄の和紙で繕いを行う。・本紙を薄美濃紙で裏打ちを行う。・本紙に厚みを加えるために美栖紙で裏打ちを行う。本紙と表紙を組み立てる。・巻子装に仕立てる。・中性紙の箱をつくって納める。

12　○名　　称　隼人石拓本
　○時　　代　原品：奈良時代 採拓：昭和時代
　○品　　質　紙本墨
　○員　　数　2 枚
　○寸 法 等　作品①縦 111.5 cm 横 47.8 cm　作品②縦 92.5 cm 横 37.3 cm
　○施工会社　株式会社宇佐美修徳堂
　○修理内容　・調査を行う。（採寸、修理前後の調査、撮影）本紙を間接洗浄する。・作品①のみ軸装に仕立てる。・作品②は、美濃紙で裏打ち（２回）を行う。

13　〇名　　称　唐招提寺鴟尾銘拓本
　　〇時　　代　原品：奈良時代 採拓：昭和時代
　　〇品　　質　紙本墨
　　〇員　　数　1 枚
　　〇寸 法 等　縦 69㎝　横 32.4㎝
　　〇施工会社　株式会社宇佐美修徳堂
　　〇修理内容　調査を行う。（採寸、修理前後の調査、撮影）本紙を間接洗浄する。本紙は、美濃紙で裏打ち（２回）を行う。

14　〇名　　称　元明天皇陵石碑拓本
　　〇時　　代　原品：奈良時代 採拓：昭和時代
　　〇品　　質　紙本墨
　　〇員　　数　1 枚
　　〇寸 法 等　縦 31.5㎝　横 35.2㎝
　　〇施工会社　株式会社宇佐美修徳堂
　　〇修理内容　・調査を行う。（採寸、修理前後の調査、撮影）本紙を間接洗浄する。・本紙は、美濃紙で裏打ち（２回）を行う。

【奈良国立博物館】（7件）

＜絵画＞(4 件)

1　〇名　　称　絹本著色山越阿弥陀図（けんぽんちゃくしょくやまごしあみだず）
　　〇員　　数　1 幅
　　〇時　　代　鎌倉時代　14 世紀
　　〇品　　質　絹本著色
　　〇寸 法 等　縦 146.9 ㎝　横 94.3 ㎝
　　〇施工会社　(株)文化財保存
　　〇修理内容　解体修理。表装を解体し、裏打紙を取り替える本格修理を行う。過去の修理や損傷の状態について詳細な損傷図を作成し、旧補絹の除去及び再使用については修理過程で綿密に検討する。軸装を解体の上、クリーニングを施し、剥落止めを行う。表打ちをし、可能な範囲で旧肌裏紙、旧補絹を除去。新たな補絹、肌裏紙を施し、折れ伏せを行う。軸首は再使用、表装裂、太巻、印籠蓋箱、四方帙は新調。（継続 3 か年事業のうちの第 3 年目）

2　〇名　　称　絹本著色釈迦十六善神像（けんぽんちゃくしょくしゃかじゅうろくぜんじんぞう）
　　〇員　　数　1 幅
　　〇時　　代　鎌倉時代　13 世紀
　　〇品　　質　絹本著色
　　〇寸 法 等　縦 176.5 ㎝　横 122.4 ㎝
　　〇施工会社　(株)文化財保存
　　〇修理内容　解体修理。本紙料絹の欠失、強い横折れ、裏打紙の劣化などの構造的な不具合を改善し、画面の鑑賞性の向上と本紙の柔軟性回復を目的として、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。本紙処置を行う前に、顕微鏡等を用いて入念な調査を実施し、デジタル画像データを用いた詳細な損傷図を作成。濾過水を噴霧して吸取紙に汚れを吸収させるクリーニングを施す。旧肌裏紙の除去に際しては乾式肌上げ法を採用する。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剥落止めの処置を行う。旧補絹は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。新調した裏打紙をあて、折れを軽減するために折れ伏せを施す。表装裂・上下軸木・啄木は新調し、軸首は歪みを調整のうえ再使用。桐太巻添軸・桐印籠箱・裂貼四方帙を新調し、包裂に包んで納品。修理前中後の記録を整理し、報告書を作成する。（継続 3 か年事業のうちの第 1 年目）

3　〇名　　称　絹本著色玄奘三蔵像（けんぽんちゃくしょくげんじょうさんぞうぞう）
　　〇員　　数　1 幅
　　〇時　　代　鎌倉時代　13 世紀
　　〇品　　質　絹本著色
　　〇寸 法 等　縦 142.4 ㎝　横 55.5 ㎝
　　〇施工会社　(株)文化財保存
　　〇修理内容　解体修理。本紙料絹の欠失や強い横折れなどの構造的な不具合を改善し、画面の鑑賞性の向上と軸装の柔軟性回復を目的として、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。本紙処置を行う前に、顕微鏡等を用いて入念な調査を実施し、デジタル画像データを用いた詳細な損傷図を作成。濾過水を噴霧して吸取紙に汚れを吸収させるクリーニングを施す。旧肌裏紙の除去に際しては乾式肌上げ法を採用する。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剥落止めの処置を行う。旧補絹は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。新調した裏打紙をあて、折れを軽減するために折れ伏せを施す。表装は全て新調。桐太巻添軸・桐印籠箱・裂貼四方帙を新調し、包裂に包んで納品。修理前中後の記録を整理し、報告書を作成する。（継続 2 か年事業のうちの第 1 年目）

4　〇名　　称　絹本著色明空法師像（けんぽんちゃくしょくみょうくうほうしぞう）
　　〇指　　定　重要文化財
　　〇員　　数　1 幅
　　〇時　　代　鎌倉時代　13 世紀
　　〇品　　質　絹本著色
　　〇寸 法 等　縦 168.5 ㎝　横 100.2 ㎝
　　〇施工会社　(株)文化財保存
　　〇修理内容　解体修理。本紙料絹の欠失や折れ、裏打紙の劣化などの構造的な不具合を改善するために、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。欠失箇所の周囲を中心に認められる塗布物については、合成樹脂である可能性があり、事前に十分な調査を行った上で除去方法を検討する。表装解体後、濾過水の噴霧によるクリーニングを施し、乾式肌上げ法によって旧肌裏紙を除去。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剥落止めを行う。旧補絹は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。横折れを軽減するために折れ伏せを施し、新たに裏打紙をあてる。表装裂は再使用して二段仏表具の形に付け廻し、軸首・鐶も再使用。上下軸・啄木は新調。径を太くした桐製太巻添軸を新調し、二重箱は再使用とする。（継続 2 ヶ年事業のうちの第 2 年目）

＜書跡＞(2 件)

5　〇名　　称　神泉苑請雨経法道場図（しんせんえんしょううきょうほうどうじょうず）
　　〇指　　定　重要文化財
　　〇員　　数　1 幅
　　〇時　　代　鎌倉時代　13 世紀
　　〇品　　質　紙本墨書画淡彩
　　〇寸 法 等　縦 139.8㎝　横 86.1㎝
　　〇施工会社　(株)文化財保存
　　〇修理内容　解体修理。1.軸装を解体し、肌裏紙以外の裏打紙を取り外す。2.本紙表面の埃や付着物を除去し、濾過水を用いて汚れを溶かし出したうえで、剥落止めを施し、肌裏紙および旧補修紙を除去する。3.本紙のみになった状態で、採寸、継ぎ直し箇所の確認、折り畳み痕の記録、写真撮影、紙質調査など、入念な調査と記録を実施する。4.新たな補紙で欠失箇所を補うとともに、旧修理時にずれた料紙を正しく継ぎ直す。5.肌裏紙と増裏紙を打った後、必要と判断される箇所には折れ伏せを施す。6.本紙裏面の墨書・朱印については、表装後には見えなくなるため、十分な現状記録をするとともに、裏打ち方法にも工夫を施す。7.表装裂は新調する（料紙

のずれを正すと現在の裂が合わなくなるため)。8.中裏打ち、総裏打ちを施し、補修紙を当てた箇所に補彩する。9.軸端は再使用し、軸木、鐶、掛緒は新調する。保存上の観点から太巻添軸を作成し、桐箱と裂貼四方帙、それに包裂も新たに作成する。(1ヶ年事業)

6　○名　　称　法華経(色紙経)(ほけきょう〔しきしきょう〕)
　○指　　定　重要文化財
　○員　　数　8巻
　○時　　代　平安時代　12世紀
　○品　　質　色紙墨書
　○寸 法 等　(巻第一)縦24.8㎝　長922.8㎝　(巻第二)縦24.8㎝　長1078.5㎝　(巻第三)縦24.8㎝　長1016.2㎝　(巻第四)縦24.8㎝　長884.9㎝　(巻第五)24.8㎝　長961.1㎝　(巻第六)24.8㎝　長935.3㎝　(巻第七)24.8㎝　長868.1㎝　(巻第八)縦24.8㎝　長764.3㎝
　○施工会社　(株)文化財保存
　○修理内容　解体修理。事前調査を行った後、全体を解体する。旧補紙は除去し、その糊跡についても本紙に負担のない範囲で除去する。本紙表面に付着するほこりなど汚れも除去する。水濡れによる汚れは、直接水分を与えず、染色に影響のない範囲で間接的に湿り気を与え軽減させる。暴れ・折れ・皺等にも直接水分を与えず、間接的に湿りを与えて伸ばしプレス乾燥させ、修整する。強い折れには、適宜折れ伏せを施す。紙質調査を行った上で、適切な補修紙を作成し、欠失箇所を補填する。金泥・墨書・朱の状態を確認し、必要に応じ膠水溶液で剥落止めを施す。表紙・見返しの損傷箇所も補修紙により補填し、再利用する。八双・巻緒・軸首・軸木は可能な限り再利用するが、解体後不具合があった場合は新調を検討する。軸付紙は新調し、巻子装に仕立てる。包裂は新調する。保存箱は桐桟蓋二段重ねの中箱と桐台指外箱を新調する。(継続3ヶ年事業のうちの第2年目)

<考古>(1件)

7　○名　　称　三角縁三神三獣鏡(奈良県佐味田宝塚古墳出土品)(さんかくぶちさんしんさんじゅうきょう〔ならけんさみだたからづかこふんしゅつどひん〕)
　○指　　定　重要文化財
　○員　　数　1面
　○時　　代　古墳時代　4世紀
　○品　　質　青銅製　鋳造品
　○寸 法 等　径21.2㎝
　○施工会社　(公財)元興寺文化財研究所
　○修理内容　1.写真撮影、X線撮影、肉眼観察等で処理前の状態を記録。2.泥や錆、古い接着剤等を除去し、有機溶剤等による洗浄を行う。3.防錆薬剤による安定化処理および合成樹脂の減圧含浸処理を実施する。4.美観に配慮した接合、補填、成形等を行う。5.樹脂のツヤ消し、修復部の着色等の仕上げを行う。6.保管台の作成を行う。7.使用した薬剤や作業工程、各工程の期間や作業写真など、修理に関する情報を整理する。そして情報をまとめた報告書を最低3部作成し、保管台とあわせて納品する。(1ヶ年事業)

【九州国立博物館】(18件)

<絵画>(4件)

1　○名　　称　白衣観音図(びゃくえかんのんず)　1幅
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　鎌倉時代・13-14世紀
　○品　　質　絹本墨画淡彩
　○寸 法 等　本紙:縦88.2㎝　横37.6㎝　表具:縦181.1㎝　横51.6㎝
　○施工会社　株式会社文化財保存
　○修理内容　1.本紙表面に付着している埃を柔らかい毛の筆などで払って除去する。2.上下軸を取り外し、軸装から解体する。3.膠や布海苔等の適切な材料を選択して、墨や朱印に対して剥落止めを行う。4.本紙を表装裂から取り外す。5.本紙表面から濾過水を噴霧して水溶性の汚れを除去する。6.墨や彩色、朱印の定着状況を確認し、状態に応じて自社濾過水にて1～2%に調整した膠を用いて剥落止めを行う。7.常温抽出布海苔とレーヨン紙を使用して本紙に表打ちを施す。8.筆を用いて自社濾過水にて少量の水分を与え、ピンセットを用いて繊維をほぐしながら肌裏紙を除去する。9.筆を用いて自社濾過水にて少量の水分を与え、ピンセットを用いて旧補絹の除去を行う。10.料絹の織り目と合わせた電子線劣化絹を、料絹の色調に合わせて染色して欠失箇所に補填を施す。11.薄楮紙と小麦澱粉糊を使用して肌裏打ちを行う。12.美栖紙と古糊を使用して1回目の増裏打ちを行う。13.表装裂の裏打紙を除去し、薄楮紙と小麦澱粉糊を使用して肌裏打ちを行う。14.断裂、折れが生じている箇所、今後折れを生じそうな箇所に、極細く切った楮紙の帯にて折れ伏せを施す。15.美栖紙と古糊を使用して本紙の2回目の増裏打ちと表装裂の増裏打ちを行い、仮張りをする。16.仮張りした本紙と表装裂を三段表具の形に付廻しをする。17.美栖紙と古糊を使用して中裏打ちを行い、仮張りをする。18.仮張りから外し、耳折りをする。19.宇陀紙と古糊を使用して総裏打ちを行い、表張りをして十分な乾燥期間をおく。20.補絹箇所のみに本紙の地色に合わせて補彩を施す。21.裏摺りを施して伏せ張りし、十分な乾燥期間をおく。22.軸首を再使用し、上下軸、啄木等の材料は新調して掛軸装に仕立てる。23.包裂、桐太巻添軸、桐印能箱を新調し、収納する。

2　○名　　称　山水図(さんすいず)　1巻
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　室町時代・15-16世紀
　○品　　質　絹本墨画淡彩
　○寸 法 等　本紙:縦19.5㎝　横549.0㎝
　○施工会社　株式会社文化財保存
　○修理内容　1.本紙表面に付着している埃を柔らかい毛の筆などで払って除去する。2.　軸木・表紙を取り外し、巻子装を解体する。3.膠や布海苔等の適切な材料を選択して、墨や彩色に対して剥落止めを行う。4.湿式にて肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。5.本紙表面から濾過水を噴霧して水溶性の汚れを除去する。6.墨や彩色の定着状況を確認し、状態に応じて自社濾過水にて1～2%に調整した膠を用いて剥落止めを行う。7.湿式にて肌裏紙の除去を行う。この際、完全に本紙に湿りを与えるのではなく、肌裏紙の除去を丁寧かつ慎重に行う。8.筆を用いて自社濾過水にて少量の水分を与え、ピンセットを用いて旧補紙の除去を行う。9.繊維組成分析の結果をもとに本紙補修に適した補修紙を作製する。10.本紙の欠損箇所と周囲に合わせて補修紙を整形し、補紙を行う。補修紙を使用して本紙天地に足し紙を付ける。11.薄楮紙と小麦澱粉糊を使用して肌裏打ちを行う。12.美栖紙と古糊を使用して増裏打ちを行う。13.表紙見返しの裏打紙を除去し、薄楮紙と小麦澱粉糊を使用して肌裏打ちを行う。14.断裂、折れが生じている箇所、今後折れを生じそうな箇所に、極細く切った楮紙の帯にて折れ伏せを施す。15.混合紙(雁皮7:楮3)、小麦澱粉糊と高温抽出布海苔の混合糊を使用して総裏打ちを行い、表張りをして十分な乾燥期間をおく。16.補紙箇所のみに本紙の地色に合わせて補彩を施す。17.伏せ張りし、十分な乾燥期間をおく。18.本紙を継ぎ合わせる。19.軸首を再使用し、軸木・八双、紐等の材料は新調して巻子装に仕立てる。20.包裂、桐太巻添軸、桐印能箱を新調し、収納する。

3　○名　　称　山水図(さんすいず)　1幅(28年度より継続・12ヶ月計画)
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　室町時代・16世紀
　○品　　質　紙本墨画
　○寸 法 等　本紙:縦85.6㎝　横31.5㎝　表具:縦167.4㎝　横43.6㎝　軸長48.4㎝
　○施工会社　株式会社文化財保存
　○修理内容　1.　本紙表面に付着している埃を柔らかい毛の筆などで払って除去する。2.上下軸を取り外し、軸装から解体する。3.膠や布海苔等の適切な材料を選択して、墨に対して剥落止めを行う。4.本紙を表装裂から取り外す。5.本紙表面から濾過水を噴霧して水溶性の汚れを除去する。6.墨の定着状況を確認し、状態に応じて自社濾過水にて1～2%に調整した膠を用いて剥落止めを行う。7.繊維組成分析の結果をもとに本紙補修に適した補修紙を作製する。8.湿式にて肌裏紙の除去を行う。この際、完全に本紙に湿りを与えるのではなく、肌裏紙の除去を丁寧かつ慎重に行う。9.本紙の欠損箇所と周囲に合わせて補修紙を整形し、補紙を行う。10.薄楮紙と小麦澱粉糊を使用して肌裏打ちを行う。11.美栖紙と古糊を使用して1回目の増裏打ちを行う。12.表装裂の裏打紙を除去し、薄楮紙と小麦澱粉糊を使用して肌裏打ちを行う。13.断裂、折れが生じている箇所、今後折れを生じそうな箇所に、極細く切った楮紙の帯にて折れ伏せを施す。14.美栖紙と古糊を使用して本紙の2

回目の増裏打ちと表装裂の増裏打ちを行い、仮張りをする。15.仮張りした本紙と表装裂を三段表具の形に付廻しをする。16.美栖紙と古糊を使用して中裏打ちを行い、仮張りをする。17.仮張りから外し、耳折りをする。18.宇陀紙と古糊を使用して総裏打ちを行い、表張りをして十分な乾燥期間をおく。19.補紙箇所のみに本紙の地色に合わせて補彩を施す。20.裏摺りを施して伏せ張りし、十分な乾燥期間をおく。21.軸首を再使用し、上下軸、啄木等の材料は新調して掛軸装に仕立てる。22.包裂、桐太巻添軸、桐印籠箱を新調し、収納する。28年度は1～8を施工。

4　○名　　称　隠元隆琦像　喜多元規筆・隠元隆琦賛(いんげんりゅうきぞう　きたげんきひつ　いんげんりゅうきさん)　1幅（27年度より継続・18ヶ月計画）
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　江戸時代・17世紀
　○品　　質　紙本著色
　○寸 法 等　縦 119.3 ㎝ 横 48.8 ㎝
　○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
　○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、本紙料紙の情報について記録を行った後、掛軸装を解体し、少量の湿りにて肌裏紙以の旧裏打紙を除去する。2.筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸い取り紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。3.経年の劣化による膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている絵具層に免膠水溶液1～3%を用い剥落止めを行う。4.最小限の湿りを裏面より与え短時間で肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。5.本紙欠失箇所に対して、裏面より補修を行う。6.肌裏打ち後、染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所および今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。7.表装裂地は新調し、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打を行う。仮張り後、新糊と古糊を混ぜた糊にて本紙と裂地との付け廻しを行う。8.本紙と裂の付け廻し後、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、二段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.補修箇所に補彩を施す。10.軸首は再使用し、中軸、発装、紐等を新調し軸装に仕立てる。11.桐太巻添軸を新調し、太く巻いて保存する。中箱は桐印籠箱を新調し、掛軸を納める。28年度は8～11を施工。

＜書跡＞（２件）

5　○名　　称　大方広仏華厳経巻第十五(泉福寺焼経)（だいほうこうぶつけごんきょうまきだいじゅうご（せんぶくじやぎょう）　1巻（28年度より2ヵ年計画）
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　平安時代・12世紀
　○品　　質　藍紙墨書
　○寸 法 等　本紙：縦25.5㎝　全長1279.1㎝
　○施工会社　修理工房　宰匠株式会社
　○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や本紙のあらゆる情報について記録を行った後、焼損部分の断片状の剥落をレーヨン紙にて保護、養生しながら展開し、料紙の継ぎ部分を外す。2.焼損によって天地小口が収縮し、中央部分との均衡が崩れたことを原因とする暴れや皺を改善し、巻子として安全に巻くために、ゴアテックス等を用いて部分ごとに水分量を調整しながら本紙に湿りを与え、プレス乾燥させ平らに整える。3.本紙の紙質、状態に合わせた補修紙を作製し本紙欠失箇所に補修を行う。焼損の著しい箇所に関しては、欠失箇所に加えて周辺の劣化が見られる部分の補強も検討する。折れなどの脆弱な箇所には必要に応じて薄楮紙などを使用した補強を行う。原則裏打ちは施さないが、巻頭の損傷の著しいものに関しては裏打ちによる補強も検討する。4.本紙の紙質、状態に合わせた補修紙を作製し本紙欠失箇所に補修を行う。5.各料紙を元通りに継ぎ直し、新調した表紙、軸巻紙、軸木、軸首、紐を取り付けて巻子装に仕立てる。6.　今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐ為に、頭切桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。新調した羽二重の包裂に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し納める。28年度は１～3を施工。

6　○名　　称　朱舜水追悼文稿（しゅしゅんすいついとうぶんこう）　1巻
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　江戸時代・天知2年（1682）
　○品　　質　紙本墨書
　○寸 法 等　本紙:縦26.3㎝　横160.0㎝(第1紙90.0㎝　第2紙70.0㎝)　表具:縦26.3㎝　横187.4㎝　軸長28.4㎝
　○施工会社　修理工房　宰匠株式会社
　○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や紙のあらゆる情報について記録を行った後、本紙に負担がかからないように掛軸装を解体し、少量の湿り（湿式）にて肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。2.筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸取紙上に本紙を載せ、濾過水（水道水をポリプロピレン及び活性炭フィルターに通し、鉄分と塩素分を除去した水）を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。その際、現状の作品の風合いを損なわないようにするため、過度なクリーニングは行わず、必要最低限のクリーニングに留めることとする。3.膠着力の低下と、表面の擦れ等により不安定になっている墨書に、免膠水溶液1～2%を用い、剥落止めを行う。膠水溶液の塗布は必要最低限に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意を払って行う。4.必要最低限の湿りを与え（湿式）、肌裏紙の除去を行う。肌裏紙・補修紙を除去した後、薄い布海苔抽出液を用いて、本紙表面を養生、固定接着する。5.本紙と同質の繊維による補修紙を自社にて作製し、新糊（小麦澱粉糊）を用いて補修を行う。本紙と補修紙の重なりによる凹凸が最小限になるように削り補修を行う。6.薄美濃紙（美濃：長谷川製）を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。7.肌裏打ち後、さらに増裏紙においても本紙の色調を整えるために天然染料を用いて染色した美栖紙（吉野：上窪製）にて古糊（新糊を10年間涼暗所で保管した糊）を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。さらに楮と雁皮の混合紙を用い、新糊と布海苔抽出液の混合糊にて総裏打ちを行う。本紙と同質の繊維による軸巻紙を自社にて作製し、軸首は再使用し、中軸（京都：速水製）、覆い表紙を新調し、元と同じ巻子に仕立てる。8.　今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐために、桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。羽二重の包裂に包み、新調した桐屋郎箱に納入する。

＜染織＞（６件）

7　○名　　称　壁掛け（パランポア）　白地花樹文様更紗　（かげかけ（ぱらんぽあ）しろじかじゅもんようさらさ）　1枚（27年度より3ヵ年計画）
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　18-19世紀（インド・コロマンデル海岸）
　○品　　質　木綿
　○寸 法 等　幅　200.0 ㎝　長さ　282.0 ㎝
　○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
　○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.中央の縫い続きで縫いが離れている箇所は、旧線で継ぎを補足する。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。28年度は4を施工

8　○名　　称　装飾布　藍地植物文様更紗（そうしょくふ　あいじしょくぶつもんようさらさ）　1枚（27年度より3ヵ年計画）
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　15-16世紀
　○品　　質　木綿
　○寸 法 等　幅　99.0cm 長さ　262.0cm
　○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
　○修理内容　1.写真撮影を行い、生地の状態を調査する。仕立てや旧補修などはないことから、解体は行わない。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.生地整えについては、検討した上で行う。残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。4.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。5.欠損端口の補修を想定する。6.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。7.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。　28年度は3を施工

9 ○名　　称　装飾布　白地人物文様更紗(人形手)（そうしょくふ　しろじじんぶつもんようさらさ(にんぎょうで)）　1枚（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　17-18世紀　（インドネシア　スラウェシ島トラジャ伝来）
○品　　質　木綿
○寸 法 等　幅　105 cm 長さ　490 cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.仕立てはないため、接合および組立工程はなし。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8. 現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 28年度は3～4を施工

10 ○名　　称　サリー断片　赤地立木人物文様紋織（さりーだんぺん　あかじたちきじんぶつもんようもんおり）　1枚（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　19-20世紀
○品　　質　木綿、撚金糸、絹
○寸 法 等　幅　110 cm 長さ　171.5 cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.補修後の生地の両端は元の針穴を辿って旧状に仕立てる。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 28年度は4を施工

11 ○名　　称　サリー　白地人物ペーズリー文様紋織（さりー　しろじじんぶつぺーずりーもんようもんおり）　1枚（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　19-20世紀
○品　　質　木綿、金銀糸、絹、ミラー
○寸 法 等　幅　115 cm 長さ　488 cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.仕立てはないため、接合および組立工程はなし。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 28年度は3～4を施工

12 ○名　　称　茜地山水松鶴文更紗（あかねじさんすいまつつるもんさらさ）　1枚　（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　17-18世紀　（インド・コロマンデル海岸）
○品　　質　木綿
○寸 法 等　縦 312.0 cm　横 224.0 cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.仕立てはないため、接合および組立工程はなし。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 28年度は3～4を施

＜歴史資料＞（ 6件 ）

13 ○名　　称　重要文化財 対馬宗家関係資料（つしまそうけかんけいしりょう）　18箱12巻（26年度より4ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・18世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　本紙　縦18.0-34.5 cm　横45.5-56.9 cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、継を外し、巻子装を解体する。2.筆や刷毛を用いてドライクリーニングを行い、本紙表面に付着した埃等を除去する。3.墨線の調査を行い、水によるクリーニングの作業に対して危険な状態になる可能性がある墨線に対して、兎膠水溶液1～2%を用い、剥落止めを行う。4.本紙下に吸い取り紙を敷き、濾過水を本紙表面より噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。5.クリーニング後の本紙表面の調査を行い、経年変化による劣化により膠着力が低下している墨線に対して1～2%膠水溶液を用い、剥落止めを行う。6.レーヨン紙にて本紙表面の養生を行った後、最小限の湿りを裏面より与えることで肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。7.虫損による料紙欠失箇所に、裏面より本紙基調色に染色した本紙と同繊維の補修紙を作製し、補修を施す。表紙裂も同様に欠失箇所に似寄りの組織の平絹具引き加工を施して補絹を施す。8.本紙に薄美濃紙（染色は天然染料にて行う）を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。9.表紙裂と見返しを、新糊と布海苔の混合糊にて合わせ、仮張りし十分な乾燥期間をおく。10.折れ伏せ後、楮と雁皮の混合紙を用いて、新糊と布海苔の混合糊にて総裏打ちを行う。総裏打ち後は仮張りし、十分な乾燥期間をおく。11.表紙裂の地色を基調色とし、補絹箇所に補彩を施す。12.各料紙を継ぎ、巻末に新調の軸巻紙を取り付ける。軸木、紐は再使用し、巻子装に仕立てる。13.桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。新調した包み裂に本紙を包み、中性紙箱を新調し納める。28年度は巻7～9を施工。

14 ○名　　称　大内義隆大府宣（おおうちよしたかだいふせん）1通
○所 蔵 者　福岡県立アジア文化交流センター
○時　　代　室町時代・16世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　縦 32.8cm 横 46.8 cm
○施工会社　修理工房　宰匠株式会社
○修理内容　1.本紙の状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や紙のあらゆる情報について記録を行う。2.筆や刷毛などによるドライクリーニングを行う。3.膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている墨書に対して、牛膠水溶液1～ 2%を用い、墨層の剥落止めを行う。4.DIIPS法にて本紙と同質の繊維による補修紙を自社にて製作し、本紙欠失箇所に、新糊（小麦澱粉糊）を用いて補修を行う。5.ゴアテックスを使用して、軽い湿りを入れてフラットニングし、繊維の毛羽立ちを押さえるとともに、本紙を平らな状態にする。6.平置きにすることで今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐことができ、また保存と活用を考えた上でも、折り畳みや巻きによる保存は行わず、平置きにて保存することが望ましいと考える。中性紙マット・中性紙保存箱等を新調し、畳に包んだ本

紙を平の状態にて納入する。

15 ○名　　称　進貢船図（しんこうせんず）1幅
○所 蔵 者　福岡県立アジア文化交流センター
○時　　代　江戸時代・19世紀
○品　　質　紙本著色
○寸 法 等　本紙：縦　59.5cm 横　33.8cm　表具：縦　136.7cm　横　43.4cm
○施工会社　修理工房　宰匠株式会社
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法・損傷状態等を写真や記録に詳細に記録する。紙質検査等、料紙の様々な情報について記録を行う。上記調査後、本紙に負担がかからないように掛軸装を解体し、少量の湿り（湿式）にて肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。2.筆や刷毛等を用いてドライクリーニングを行った後、吸取紙上に本紙を載せ、漉過水（水道水をポリプロピレン及び活性炭フィルターに通し、鉄分と塩素分を除去した水）を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて、汚れの除去を行う。3. 膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている絵具層に対して、牛膠水溶液1-2%を用いて剥落止めを行う。4.肌裏除去については、間接的に湿りを与え（湿式）、最小限の湿りにて肌裏紙の除去を行う。この際、完全に本紙に湿りを与えるのではなく、シンパテックス等を用いて徐々に湿りを与え、本紙の様子を確認しながら慎重に肌裏除去を行う。5.目視では本紙欠失箇所は見られないが、本紙の周囲に対し、本紙と同質の繊維による補修紙を自社にて製作し、新糊（小麦澱粉糊）を用いて補紙を行う。

16 ○名　　称　自首里王城至那覇港之図（しゅりおうじょうよりなはこうにいたるのず）　1幅
○所 蔵 者　福岡県立アジア文化交流センター
○時　　代　明治時代・19世紀
○品　　質　紙本淡彩
○寸 法 等　本紙：縦　198.5cm　横　59.3cm　表具：縦　228.6cm　横　73.6cm
○施工会社　修理工房　宰匠株式会社
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法・損傷状態等を写真や記録に詳細に記録する。2.筆や刷毛等を用いてドライクリーニングを行った後、吸取紙上に本紙を載せ、濾過水（水道水をポリプロピレン及び活性炭フィルターに通し、鉄分と塩素分を除去した水）を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて、汚れの除去を行う。3.膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている彩色層に対して、兎膠水溶液 1-2%を用いて剥落止めを行う.4.肌裏除去については、間接的に湿りを与え（湿式）、最小限の湿りにて肌裏紙の除去を行う。5.目視では本紙欠失箇所は見られないが、本紙の周囲に対し、本紙と同質の繊維による補修紙を自社にて製作し、新糊（小麦澱粉糊）を用いて補紙を行う。6.本紙の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙（美濃・長谷川製）を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。7.表装裂地は再使用し、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と裂との付け廻しを行う。8.本紙と裂の付け廻し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。9.補修箇所に、料紙の持っている色合い（地色）を基本とし、それに加え現在の経年変化した本紙の状態を加味した色合いに補彩を施す。10.軸首は元の木軸を再使用し、上下軸木、啄木、打込鐶等を新調し、掛軸装に仕立てる。11.今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐため、桐太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻いて保存する。新調した羽二重の包裂に本紙を包み、桐屋野郎箱を新調し、納める。

17 ○名　　称　万国総図・民族図譜（ばんこくそうず・みんぞくずふ）　2幅
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・17世紀
○品　　質　紙本墨刷手彩色
○寸 法 等　【万国総図】本紙:縦128.8cm　横55.4cm　表具:縦194.5cm　横58.4cm　軸張:64.2cm　軸径:2.6cm
【民族図譜】本紙:縦128.5cm　横55.6cm　表具:縦194.5cm　横58.4cm　軸張:64.2cm　軸径:2.6cm
○施工会社　修理工房　宰匠株式会社
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態等を写真・記録に詳細に留め、紙質検査等、料紙のさまざまな情報についても記録する。上記調査後、本紙欠落箇所周囲を養生した後、掛軸装を解体し、少量の湿りを与えて本紙周囲の表装紙を除去する。2.筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸取紙上に本紙を載せ、濾過水（水道水をポリプロピレン及び活性炭フィルターに通し、鉄分と塩素分を除去した水）を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。3.膠着力の低下と、表面の擦れによって不安定になっている絵具層に対して、兎膠水溶液 1～3%を用いて剥落止めを行う。4.本紙・裏打紙に間接的に湿りを与え、本紙の状態を確認しながら最小限の湿りにて旧裏打紙及び旧補修紙を除去する。5.本紙の紙質、状態に合わせた補修紙を作製し新糊（小麦澱粉糊）を用いて本紙欠失箇所に補修を行う。6.本紙の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙（美濃：長谷川製）にて新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ち後、美栖紙（吉野：上窪製）にて古糊（新糊を10年間涼暗所で保管した糊）を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する可能性のある箇所に、細く裁断した薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。7.新調した表装裂（もしくは紙）に、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と表装裂（紙）との付け廻しを行う。8.付け廻し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻絹（京都：広信織物製）、二段目以降には宇陀紙（吉野：福西製）を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.新たに補填した箇所には料紙の持つ色合い（地色）を基本とし、それに加え現在の経年変化した本紙の状態を加味した色合いに補彩を施す。10.軸首（京都：速水製）は所有者と協議の上新調し、上下軸木、啄木、打込鐶等（京都：速水製）を新調し、掛軸装に仕立てる。11.今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐため、桐太巻添軸（京都：黒田製）を新調し、掛軸を太く巻いて保存する。

18 ○名　　称　重要文化財（一部）東大寺等関係文書（とうだいじとうかんけいもんじょ）　1巻3通（28年度より2ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　【巻子】平安時代・天暦8年(954)-長保4年(1002)
【一紙文書】平安時代・久安4年(1148)、鎌倉時代・宝治3年(1249)、文永8年(1271)
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　巻子:縦29.1cm 横758.6cm　久安4年文書:縦32.2cm　横52.5cm　宝治3年文書:縦34.3cm　横53.0cm　文永8年文書:縦30.8cm　横52.7cm
紙付軸:縦32.3cm　横18.8cm　軸長34.2cm
○施工会社　修理工房　宰匠株式会社
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態等を写真・記録に詳細に留め、紙質検査等、料紙のさまざまな情報についても記録する。上記調査後、巻子は本紙継ぎ箇所に少量の湿りを与えて文書一通毎に解体する。2.膠着力の低下と、表面の擦れ等により不安定になっている墨書及び朱印に、兎膠水溶液 1～2%を用い、剥落止めを行う。3.筆や刷毛等によるドライクリーニングをおこなう。4.ゴアテックス等を用いて最小限の湿りを間接的に与え、旧補修紙の除去を行う。5.旧補修紙のないものについては、ゴアテックス等を用いて最小限の水蒸気による湿りを間接的に与え、軽い荷重をかけて乾燥させることで平らに整形する。6.各々の本紙の紙質、状態に合わせた補修紙をそれぞれ自社にて作製し、新糊（小麦澱粉糊）を用いて本紙欠失箇所に補修を行う。7.各々の本紙の紙質、状態に合わせた補修紙をそれぞれ自社にて作製し、新糊（小麦澱粉糊）を用いて本紙欠失箇所に補修を行う。8.基本的に裏打ちは施さないが、本紙料紙の劣化が著しく、本紙のみでは形態の保持が困難と判断される箇所については、薄く整形した補修紙もしくは天具帖等による薄楮紙をあてる、若しくは裏打ちを施すことで補強する。9.各本紙を元の順番に継ぎ直し、補修した軸巻き紙と接続する。軸棒は再使用するが失われたと思われる軸頭は復元しない。装丁形態については、修理内容及び過程を踏まえ、所有者と十分な協議の上、決定する。10.巻子は、今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐため桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻いて保存する。巻頭には覆い表紙を新調して巻き、紐でとめる。新調した羽二重の包裂に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し、納める。一紙文書は、修理方針で述べたように、装丁によって、畳紙を新調して納め、中性紙保存箱に納入する、若しくは太巻添軸を新調し巻子とともに二幅入桐屋郎箱に納入する。　　28年度は1～6を施工。

1-(1)-③-6 文化財修理データのデータベース化件数

平成29年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合　計		274	61	151　(4,837)	62　(814)
絵　画		112	5	86 (1,962)	21 (272)
書　跡		35	1	24 (1,081)	10 (183)
彫　刻		42	0	23 (1,310)	19 (227)
建　築		0	0	0 (15)	0 (1)
金　工		2	1	1 (2)	0 (4)
刀　剣		1	1	0 (0)	0 (0)
陶　磁		0	0	0 (1)	0 (0)
漆　工		11	1	0 (39)	10 (81)
染　織		31	25	4 (180)	2 (12)
考　古		15	14	1 (14)	0 (0)
歴史資料		10	0	10 (193)	0 (31)
和　書		2	2	0 (0)	0 (0)
民族資料		5	5	0 (3)	0 (2)
その他		2	0	2 (37)	0 (1)
東洋	絵　画	2	2		
	書　跡	0	0		
	彫　刻	0	0		
	金　工	0	0		
	陶　磁	0	0		
	漆　工	0	0		
	染　織	1	1		
	考　古	2	2		
	民　族	0	0		
法隆寺献納宝物		0	0		
黒田記念館収蔵品		0	0		
館史資料(収蔵品外)		1	1		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、（　）内は当年度までの新規入力件数の累計。

※ 京都国立博物館の（　）内の記載については、24年度統計表まで、追加・更新件数を含む当年度のデータ入力の件数を記載していたが、25年度以降上記に統一している。

1-(2) 展覧事業

1-(2)-① 平常展

1-(2)-② 特別展等

1-(2)-①・②-1 来館者数推移（入館料別）（過去５ヵ年） （後述の資料に記載）◎共通資料a-①

1-(2)-①・②-2 来館者数推移（展覧会別）（過去５ヵ年） （後述の資料に記載）◎共通資料a-②

1-(2)-①・②-3 平常展・特別展・海外展 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-4 平常展の展示替件数 （後述の資料に記載）◎共通資料 a-③

1-(2)-①-5 平常展の展示総件数 （後述の資料に記載）◎共通資料 a-③

1-(2)-①-6 平常展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料 e

1-(2)-①-7 特別展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料 e

1-(2)-①-8 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

平成29年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
100%	100%	100%	100%
142件(外国語)	50件(外国語)	73件(外国語)	46件(外国語)
142件(日本語)	50件(日本語)	73件(日本語)	46件(日本語)

パネル等（パネルと同内容の配布資料・音声ガイドを含む）

【東京国立博物館】計142件(外国語)/142件(日本語)

【東京国立博物館】計142件(外国語)/142件(日本語)

・総合文化展（特集を除く） 99件（外国語）／99件（日本語） 含国宝室
・特集 33件（外国語）／33件（日本語）
・黒田記念館 10件（外国語）／10件（日本語）

【京都国立博物館】計50件(外国語)/ 50件(日本語)

・名品ギャラリー（特集陳列等を除く） 42件（外国語）／42件（日本語）
・特集陳列「徳川家康没後四百年記念 徳川将軍家と京都の寺社-知恩院を中心に-」 1件（外国語）／1件（日本語）
・特集陳列「丹後の仏教美術」「生誕300年 与謝蕪村」 2件（外国語）／2件（日本語）
・特集陳列「生誕300年 伊藤若冲」「とりづくし-干支を愛でる-」2件（外国語）／2件（日本語）
・特集陳列「皇室の御寺　泉涌寺」 1件（外国語）／1件（日本語）
・特別公開「修理完成記念　鳥取・三佛寺の蔵王権現立像」 1件（外国語）／1件（日本語）
・特集陳列「雛まつりと人形」 1件（外国語）／1件（日本語）

※26年9月より導入した4言語（日・英・中・韓）の音声ガイドを引き続き提供した。

【奈良国立博物館】計73件(外国語)/73件(日本語)

・名品展（珠玉の仏たち） 7件（外国語）／ 7件（日本語）*1
・名品展（珠玉の仏像美術） 4件（外国語）／ 4件（日本語）
・名品展（青銅器館） 12件（外国語）／12件（日本語）
・特別陳列「和紙 ―近代和紙の誕生―」 4件（外国語）／4件（日本語）
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」 5件（外国語）／ 5件（日本語）
・特集展示「新たに修理された文化財」 6件（外国語）／ 6件（日本語）
・特別陳列「お水取り」 2件（外国語）／ 2件（日本語）
・模型展示「仏像の手の形（印相）」 9件（外国語）／ 9件（日本語）
・模型展示「仏像の制作過程」 14件（外国語）／14件（日本語）
・パネル展示「奈良国立博物館の概要」 3件（外国語）／3件（日本語）*2
・パネル展示「奈良国立博物館の歴史」 3件（外国語）／4件（日本語）*2
・パネル展示「仏像の見方」 4件（外国語）／4件（日本語）*2

*1 平成28年4月よりなら仏像館において3言語（英・中・韓）の音声ガイドを提供した。

*2 英・仏・中・韓の4カ国語を併記

【九州国立博物館】計 46 件(外国語)/46 件(日本語)
・文化交流展示（トピック展示・特別公開を除く）　40 件(外国語)/40 件(日本語)
・文化交流展示　トピック展示・特別公開等
＊3 言語（英・中・韓）音声ガイドを提供した。

うち 「火縄銃の世界」	1 件(外国語)/ 1 件(日本語)
「全国高等学校考古名品展」	1 件(外国語)/ 1 件(日本語)
有田焼創業 400 年記念「古伊万里 ―旧家の暮らしを彩った器―」	1 件(外国語)/ 1 件(日本語)
「海の王都・原の辻遺跡と壱岐の至宝 ―東アジア諸国との交流の歴史」	1 件(外国語)/ 1 件(日本語)
「きらめきで飾る―螺鈿の優品をあつめて―」	1 件(外国語)/ 1 件(日本語)
新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」	1 件(外国語)/ 1 件(日本語)

1-(2)-③ 観覧環境の向上等

1-(2)-③-1 観覧環境に関する来館者アンケート　（後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③-2 多言語表記に関する外国人アンケート　（後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③-3バリアフリー施設・設備の設置状況

平成29年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
トイレ(多目的トイレ、車いす対応)	14ヵ所 （本館5、平成館2、東洋館1、法隆寺宝物館1、資料館1、黒田記念館2、表慶館2（要介添え））	8ヵ所 （平成知新館4、明治古都館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、屋外トイレ1、文化財保存修理所1）	3ヵ所 （東新館1、地下回廊2）	7ヵ所 （本体建物）
エレベータ(手すり、押しボタン、車いす対応)	10基 （本館1、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1、黒田記念館2、表慶館1）	5基 （平成知新館4） 昇降装置1基 （旧管理棟1）	4基 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1）	2基 （本体建物）
スロープ	5ヵ所 （本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館）	4ヵ所 （平成知新館1、明治古都館1、南門施設1、文化財保存修理所1）	3ヵ所 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1）	1ヵ所 （通用口）
ハンディキャップ優先駐車	2台	2台	足の不自由な方に対して有	23台
車椅子	28台 （正門・正門プラザ4、本館4、東洋館2、平成館15、法隆寺宝物館2、資料館1）	22台 （検札4、平成知新館8、倉庫保管10）	15台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー　2台 ○ベビーシート　15ヵ所 ○ベビーチェア　12ヵ所 ○授乳室　1ヵ所	○ベビーカー　6台 ○ベビーシート　12ヵ所 ○ベビーチェア　11ヵ所 ○授乳室　2ヵ所	○ベビーシート　2ヵ所 ○ベビーキープ　1ヵ所 ○おむつ交換台　1ヵ所	○ベビーカー　11台 ○ベビーシート　15ヵ所 ○ベビーチェア　6ヵ所 ○幼児用補助便座　6ヵ所 ○授乳室　1ヵ所
自動扉	61台(多目的トイレ含む)	33台(多目的トイレ含む)	13台	19台(多目的トイレ含む)
28年度整備事項	来館者用エレベーターへ以前から要望のあった椅子を設置		視覚障害者用点字鋲の設置（なら仏像館エントランス）	乳幼児設備のある公共施設として、太宰府市「赤ちゃんの駅」事業に登録した。

1-(2)-③-4 音声ガイド実施状況

平成29年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
28年度計（台）：	177,522台	28年度計（台）：	36,584台	28年度計（台）：	42,210台	28年度計（台）：	98,845台
・特別展「生誕150年 黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」28年度期間（4.1～5.15） （全期間28.3.23～5.15：22,477台）	20,419台	・特別展 「臨済禅師1150年　白隠禅師250年遠諱記念　禅―心をかたちに―」（日本語版）	11,199台	・特別展 「国宝　信貴山縁起絵巻　朝護孫子寺と毘沙門天信仰の至宝」（日本語版・一般向け）	5,428台	・文化交流展示	11,083台
・特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」	24,689台	・特別展「没後150年　坂本龍馬」（日本語版）	10,020台	・生誕800年記念特別展 「忍性－救済に捧げた生涯－」（日本語版・一般向け）	2,263台	うち英語版	3,021台
・特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」	―	・名品ギャラリー		・特別展「第68回正倉院展」		うち中国語版	3,877台
・特別展「古代ギリシャ―時空を超えた旅―」	33,000台	日本語版	7,465台	日本語版・一般向け	29,995台	うち韓国語版	4,185台
・特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」	33,192台	英語版	1,293台	英語版・一般向け	174台	・特別展「始皇帝と大兵馬俑」28年度期間（4.1～6.12） （全期間28.3.15～6.12：40,813台）	34,885台
・臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展「禅―心をかたちに―」	25,407台	中国語版	6,065台	日本語版・子供向け	770台	・特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」	18,100台
・特別展「春日大社　千年の至宝」	40,815台	韓国語版	542台	・なら仏像館名品展		・特別展「京都　高山寺と明恵上人　－特別公開　鳥獣戯画－」	25,258台
				（英語版）	571台	・特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」	9,519台
（参考）今年度ダウンロード件数				（中国語版）	2,893台		
・「トーハクなび」（件）				（韓国語版）	116台		
Android版	3,434件						
iOS版	7,970件						
アプリ端末貸出（日英）	1,900件						
音声ガイド貸出（中韓）	518件						
・「法隆寺宝物館30分ナビ」iOSアプリ	1,040件						

1-(3) 教育・普及活動等

1-(3)-① 教育活動の充実

1-(3)-①-1 学習機会の提供（過去5ヵ年）

平成29年3月31日現在

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
○講演会等の回数					
東京国立博物館					
講演会等　実施回数	126回	131回	127回	146回	160回
講演会等　参加者数	13,193人	15,777人	14,419人	18,080人	21,453人
①講演会	31回	30回	30回	23回	32回
	6,952人	7,184人	6,735人	6,023人	9,153人
アンケート結果	82%	84%	92%	89%	88%
（内訳）					
・月例講演会等	12回	12回	12回	12回	12回
	1,791人	1,951人	1,893人	2,369人	2,793人
アンケート結果	82%	80%	88%	94%	89%
・記念講演会	12回	11回	13回	9回	14回
	3,682人	3,368人	3,651人	3,005人	5,048人
アンケート結果	85%	88%	85%	93%	93%
・シンポジウム	―	―	―	1回	2回（3日）
	―	―	―	284人	579人
アンケート結果	―	―	―	89%	―
・テーマ別講演会	4回	6回	4回	1回	1回
	1,051人	1,709人	1,096人	365人	210人
アンケート結果	77%	84%	96%	86%	94%
・その他講演会	3回	1回	1回	0回	3回
	428人	156人	95人	0人	523人
アンケート結果	78%	83%	98%	0	92%
②列品解説（ギャラリートーク等）	90回	98回	94回	120回	125回
	5,805人	8,205人	7,326人	11,669人	11,123人
③連続講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	303人	354人	320人	352人	947人
アンケート結果	75%	95%	87%	97%	97%
④公開講座	4回	2回	2回	2回	2回
	133人	34人	38人	36人	230人
アンケート結果	94%	97%	97%	98%	100%
京都国立博物館					
講演会等　実施回数	19回	21回	36回	39回	45回
講演会等　参加者数	3,150人	2,062人	4,596人	4,845人	5,132人
①土曜講座	16回	10回	31回	32回	38回
	2,682人	1,257人	3,888人	3,721人	4,123人
アンケート結果	84%	87%	80%	83%	82%
②記念講演会	1回	1回	1回	1回	1回
	215人	190人	193人	200人	190人
アンケート結果	89%	88%	-	-	―
③夏期講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	213人	219人	206人	206人	210人
アンケート結果	92%	91%	89%	80%	94%
④社会科教員のための向上講座	1回	1回	1回	1回	1回
	40人	30人	66人	91人	69人
⑤セミナー・シンポジウム等	―	―	2回	4回	4回
	―	―	243人	627人	540人
⑥ギャラリートーク	―	8回	―	―	―
	―	366人	―	―	―
⑦ギャラリートーク	―	8回	―	―	―
	―	366人	―	―	―
奈良国立博物館					
講演会等　実施回数	29回	26回	27回	28 回	26回
講演会等　参加者数	3,454人	3,219人	3,525人	3,974人	3,518人
①特別展等講座	16回	13回	14回	15回	13回
	2,172人	1,682人	1,986人	2,123人	1,972人
アンケート結果	85%	85%	86%	79%	87%
②夏季講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	438人	587人	561人	609人	555人
アンケート結果	95%	95%	91%	95%	89%
③サンデートーク	12回	12回	12回	12回	12回
	844人	950人	978人	1,242人	991人
アンケート結果	85%	85%	87%	85%	88%
九州国立博物館					
講演会等　実施回数	102回	90回	82回	87回	77回
講演会等　参加者数	8,354人	7,276人	4,694人	6,212人	5,369人
①特別展記念講演会	5回	5回	4回	3回	3回
	966人	1,108人	980人	710人	675人
アンケート結果	―	―	―	―	-
②講演及びシンポジウム	45回	38回	26回	38回	25回
	4,918人	4,450人	2,132人	4,096人	3,293人
アンケート結果	―	―	―	―	-
③ミュージアムトーク	52回	47回	52回	46回	49回
	2,470人	1,718人	1,582人	1,406人	1,401人
○キャンパスメンバーズ					
東京国立博物館	38校	43校	44校	48校	52校
京都国立博物館	30校	29校	29校	29校	27校
奈良国立博物館	27校	26校	27校	27校	25校
九州国立博物館	24校	24校	24校	25校	25校

1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数 ※1	**回数計**	**160回**	**回数計**	**45回**	**回数計**	**26回**	**回数計**	**77回**
	参加者計	**21,453人**	**参加者計**	**5,132人**	**参加者計**	**3,518人**	**参加者計**	**5,369人**
	講演会	32回 9,153人	土曜講座	38回 4, 123人	特別展等講座	13回 1, 972人	特別展記念講演会	3回 675人
	列品解説（ギャラリートーク等）	125回 11,123人	記念講演会	1回 190人	夏季講座	1回 555人	講演及びシンポジウム	25回 3, 293人
	連続講座	1回 947人	夏期講座（3日）	1回 210人	サンデートーク	12回 991人	ミュージアムトーク	49回 1, 401人
	公開講座	2回 230人	社会科教員のための向上講座	1回 69人				
			セミナー・シンポジウム等	4回 540人				
	その他展示に関連するイベント	14回 2,425人	その他展示に関連するイベント	—回 —回	その他展示に関連するイベント	14回 1, 261人	その他展示に関連するイベント	23回 2, 701人

※1実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1) 講演会　　32回　　9,153人

①月例講演会

12回　　2,793人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
1	4月2日	中国陶磁の色と形	矢島律子（町田市立歴史博物館）	190人	2人	91.10%
2	5月21日	ヴェネツィア：1585年	小佐野重利（東京大学大学院人文社会系研究科教授）	275人	1人	85.70%
3	6月18日	中国の漆工の歴史	猪熊兼樹（出版企画室主任研究員）	157人	1人	95.40%
4	7月30日	国宝・飢鬼草紙と六道の美術	土屋貴裕（平常展調整室主任研究員）	364人	1人	97.90%
5	8月20日	夏休み 子ども質問箱　おしえて！日本の美術	瀬谷愛(保存修復室主任研究員) 三田覚之(教育普及室研究員) 勝木言一郎（教育講座室長）	110人	1人	85.70%
6	9月10日	和紙の魅力　技術記録と料紙の変遷	高橋裕次(保存修復課長)	250人	2人	83.00%
7	10月8日	留学生の日「東博における翻訳」	君波妙子（国際交流室アソシエイトフェロー）	110人	2人	63.80%
8	11月19日	小林斗盦の篆刻の世界	孫慰祖(上海博物館研究員)	319人	2人	83.80%
9	12月10日	中国の女帝と石仏	勝木言一郎（教育講座室長）	189人	2人	94.00%
10	29年1月21日	謎の青銅器、銅鐸	井上洋一(学芸企画部長)	254人	2人	97.00%
11	29年2月25日	金春流の歴史と数奇なる能面・能装束の伝来	小山弓弦葉（工芸室長）	228人	2人	93.70%
12	29年3月11日	仏教文化の東伝ー中国そして日本へー	松本伸之（副館長）	347人	2人	94.40%

②記念講演会

14回　　5,048人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
1	4月16日	黒田清輝展「黒田清輝とフランス—日本近代絵画にもたらしたもの」	三浦篤(東京大学／本展ゲストキュレーター)	261人	2人	97.10%
2	4月17日	アフガニスタン展「私とアフガニスタン」	松浪健四郎(日本体育大学理事長／日本・アフガニスタン協会理事長／スポーツ史家)	199人	2人	83.10%
3	4月23日	アフガニスタン展「私とアフガニスタン」	前田耕作(アフガニスタン文化研究所長／和光大学名誉教授)	390人	2人	92.30%
4	5月28日	アフガニスタン展「世界遺産を護れ！-迫る危機をのりこえて-」	井上洋一(学芸企画部長)	287人	1人	97.40%
5	6月25日	ギリシャ展「ギリシャ美術を巡る旅　-神々と人間の出会うところ-」	芳賀京子(東北大学准教授/展覧会監修者)	328人	1人	94.70%
6	7月25日	ギリシャ展「古代ギリシャ　ナイトミュージアム」	藤村シシン(作家・古代ギリシャ研究家) 白井克也(考古室長)	371人	1人	97.60%
7	10月15日	平安の秘仏展「滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち展「滋賀・櫟野寺の仏像をめぐって」	丸山士郎（特別展室長）	362人	2人	78.50%
8	10月29日	禅—心をかたちに—展「禅の美術」	救仁郷秀明（列品管理課長）	340人	2人	91.00%

9	11月3日	禅―心をかたちに―展「白隠 VS 雪舟 達磨図を語る」	山下裕二（美術史家、明治学院大学教授） 山口晃(画家)	355人	2人	93.60%
10	11月12日	禅―心をかたちに―展「禅寺の四ツ頭茶礼」	臨済宗大本山建長寺 禅文化委員会　三笠景子（東洋室主任研究員）	380人	2人	96.10%
11	29年1月25日	春日大社展「南都楽所の演奏会①」	花山院弘匡（春日大社宮司）	680人	2人	90.10%
12	29年1月25日	春日大社展「南都楽所の演奏会②」	花山院弘匡（春日大社宮司）	380人	2人	93.50%
13	29年2月9日	春日大社展「奈良と春日大社の魅力」	花山院弘匡（春日大社宮司） さだまさし（シンガーソングライター／小説家）	350人	2人	96.70%
14	29年2月12日	春日大社展「春日の歴史と神様にささげた究極の宝」	花山院弘匡（春日大社宮司） 相川七瀬(シンガーソングライター)	365人	2人	96.60%

③シンポジウム

2回　　579人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員(人)	"良い"の割合
1	10月1日	現代のピラミッドを創る―大エジプト博物館（ＧＥＭ）の挑戦	116人	―	-%
2	29年1月28・29日	日本美術をみせる―リニューアルとリノベーション―	463人	―	

④テーマ別講演会

1回　　210人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員(人)	"良い"の割合
1	29年2月4日	書道博連携講演会「董其昌とその時代―明末清初の連綿趣味－」・鍋島稲子（台東区立書道博物館主任研究員）富田淳（企画課長）	210人	2人	94.10%

⑤その他講演会

3回　　523人

	実施日	内容	参加者数(人)	担当研究員(人)	"良い"の割合
1	4月9日	桜セミナー「絵画に見られる桜の種類を読み解く」　勝木俊雄(森林総合研究所主任研究員)	204人	2人	91.80%
2	11月9日	東大寺講演会「東大寺境内に生きる小さな生命たち～環境保全の二面性～」・狭川普文師(華厳宗管長・東大寺別當) 「大仏のが来た道を西へたどる」・勝木言一郎(教育講座室長)	285人	人	
3	3月7日	上野「文化の杜」市民大学トークセッション　TALK03「ミュージアムの展示の裏側―理解と感動を深める演出」矢野賀一(デザイン室主任研究員)鈴木仁(恩賜上野動物園教育普及係長)有賀暢迪(国立科学博物館理工学研究部研究員)	34人	人	

2)　列品解説（ギャラリートーク等）　　125回　　11,123人

①列品解説

52回　　5,350人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
1	4月6日	博物館でお花見を桜ギャラリートーク「日本の暮らしに咲く桜」	小山弓弦葉（工芸室長）	88人	2人
2	4月12日	保存と修理　絵画修理の現場から	瀬谷愛（保存修復室主任研究員） 平河智恵(保存修復室アソシエイトフェロー) 下田純平(保存修復室アソシエイトフェロー)	90人	2人
3	4月15日	新鮮な光で「縄文の女神」を楽しむ	木下史青（デザイン室長） 品川欣也(特別展室主任研究員)	141人	2人
4	4月19日	工芸・考古作品の修理	酒井元樹（保存修復室研究員） 野中昭美(保存修復室アソシエイトフェロー)	80人	2人
5	4月26日	篆書・隷書の展開	六人部克典(登録室アソシエイトフェロー)	93人	2人
6	5月13日	かわいさ発見！金銅仏入門	三田覚之（教育普及室研究員）	119人	1人
7	5月17日	模造された聖観音菩薩立像	鷲塚麻季（列品管理課主任研究員）	90人	1人
8	5月18日	国際博物館の日記念ガイダンス「トーハクへようこそ」	小林牧(博物館教育課長)	128人	1人
9	5月31日	東京国立博物館の七宝作品について	末兼俊彦（平常展調整室主任研究員）	149人	1人
10	6月7日	経塚出土の瓦経	井出浩正（考古室研究員）	117人	1人
11	6月28日	伊東マンショの肖像と日伊交流	瀬谷愛（保存修復室主任研究員）	120人	1人
12	7月5日	中世日本の絵画と蘇軾	救仁郷秀明(列品管理課長)	101人	1人
13	7月12日	百済の文様磚	白井克也（考古室長）	84人	1人
14	7月26日	海北塚式須恵器について	河野正訓（考古室研究員）	100人	1人
15	8月9日	海北塚古墳出土の金属製品	古谷毅(列品管理課主任研究員)	76人	1人
16	8月15日	トーハクキッズデーギャラリートーク「仏像のお話」	丸山士郎(特別展室長)	75人	1人
17	8月15日	トーハクキッズデーギャラリートーク「美術の裏側のお話」	三田覚之（教育普及室研究員）	55人	1人
18	8月15日	トーハクキッズデーギャラリートーク「動く置物のお話」	末兼俊彦(平常展調整室研究員)	50人	1人
19	8月15日	トーハクキッズデーギャラリートーク「地獄と極楽のお話」	沖松健次郎(絵画・彫刻室主任研究員)	66人	1人
20	8月23日	鎮墓獣の話　西晋から唐まで	市元塁(特別展室研究員)	64人	1人
21	8月30日	三跡・藤原行成の尊重	恵美千鶴子(150年史編纂室主任研究員)	136人	1人
22	9月6日	縄文時代の石の道具	飯田茂雄(考古室アソシエイトフェロー)	107人	2人
23	9月13日	古代キプロスの魅力	小野塚拓造（東洋室研究員）	101人	2人
24	9月27日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「中国陶磁1000年をめぐる旅」	三笠景子（東洋室研究員）	140人	2人
25	9月28日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「アジアをリードした中国の染織技術」	小山弓弦葉（工芸室長）	145人	2人
26	9月29日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「悠久の青銅器と神獣ウォッチング」	市元塁（特別展室研究員）	125人	2人
27	10月4日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「中国空想動物園」	勝木言一郎(教育講座室長)	164人	2人

28	10月5日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「中国家具をめぐる旅」	猪熊兼樹（出版企画室主任研究員）	130人	2人
29	10月6日	博物館でアジアの旅ガイドツアー「幸せの形　-吉祥エピソード-」	富田淳（学芸企画部長）	174人	2人
30	10月18日	美術情報の調べ方について	住広昭子（博物館情報課情報資料室）	70人	2人
31	10月25日	普賢菩薩像の新図様	沖松健次郎（絵画・彫刻室主任研究員）	97人	2人
32	11月1日	長谷川等伯筆瀟湘八景図屏風	小野真由美（貸与特別観覧室主任研究員）	173人	2人
33	11月15日	インドネシアのワヤン	白井克也（考古室長）	91人	2人
34	11月18日	はじめてのトーハク	小林牧（博物館教育課長）	51人	2人
35	11月22日	歌仙絵―王朝歌人たちのおもかげ	土屋貴裕（平常展調整室主任研究員）	130人	2人
36	12月6日	南の島の暮らし	猪熊兼樹（出版企画室主任研究員）	40人	2人
37	12月13日	中国地方東部の古墳文化	河野正訓(考古室研究員)	107人	2人
38	12月20日	明治20年代の文化財調査	三輪紫都香 (登録室アソシエイトフェロー)	81人	2人
39	1月7日	古代の染織製天蓋	澤田むつ代（客員研究員）	75人	2人
40	1月24日	董其昌とその時代―明末清初の連綿趣味―	富田淳(学芸研究部長)	190人	2人
41	1月27日	陶辺を語る―中国唐、宋の青磁	三笠景子（東洋室主任研究員）	57人	2人
42	1月31日	あなたも博物館でボランティア	鈴木みどり(ボランティア室長)	33人	2人
43	2月14日	如意輪観音菩薩坐像に隠された信仰	西木政統 (絵画・彫刻室アソシエイトフェロー)	198人	2人
44	2月17日	必見！法隆寺献納宝物―金銀の輝き	松本伸之(副館長)	91人	2人
45	2月28日	東方へ伝わった天使	勝木言一郎(教育講座室長)	120人	2人
46	3月7日	博物図譜の世界	高橋裕次(保存修復課長)	132人	2人
47	3月16日	春の香り	田邊留美子 (登録室アソシエイトフェロー)	55人	2人
48	3月22日	鑑賞ガイド	勝木言一郎(教育講座室長)	58人	2人
49	3月24日	特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」	高橋裕次(保存修復課長)	45人	2人
50	3月28日	保存と修理　絵画修理の現場から	平河智恵 (保存修復室アソシエイトフェロー) 下田純平 (保存修復室アソシエイトフェロー)	103人	2人
51	3月29日	屏風に咲く桜	小野真由美（貸与特別観覧室主任研究員）	200人	2人
52	3月31日	鑑賞ガイド	小林牧(博物館教育課長)	45人	2人

②特別展関連ギャラリートーク

31回　　4,083人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
1	7月25日	古代ギリシャ－時空を超えた旅－キッズデー　ギャラリートーク「動物」・白井克也(考古室長)	130	1人
2	7月25日	古代ギリシャ－時空を超えた旅－キッズデー　ギャラリートーク「人のかたち」・白井克也(考古室長)	140	1人
3	7月25日	古代ギリシャ－時空を超えた旅－キッズデー　ギャラリートーク「古代オリンピック」・瀬谷愛(保存修復室主任研究員)	110	1人
4	7月25日	古代ギリシャ－時空を超えた旅－キッズデー　ギャラリートーク「パルテノン神殿」・瀬谷愛(保存修復室主任研究員)	75	1人
5	10月19日	禅―心をかたちに-展禅トーク・松原行樹（円覚寺派正福寺住職）	230	2人
6	10月19日	禅―心をかたちに-展写禅語・福田充徳（円覚寺宗務部員）	66	2人
7	10月19日	禅―心をかたちに-展禅トーク・松原行樹（円覚寺派正福寺住職）	262	2人
8	10月19日	禅―心をかたちに-展写禅語・福田充徳（円覚寺宗務部員）	62	2人
9	10月28日	禅―心をかたちに-展禅トーク・北折真一（妙心寺派天龍院住職）	180	2人
10	10月28日	禅―心をかたちに-展写禅語・富岡孝彰（妙心寺派円通寺）山崎正紘(興聖寺派興禅寺)	64	2人
11	10月28日	禅―心をかたちに-展禅トーク・富岡孝宗（南禅寺派梅洞寺住職）	209	2人
12	10月28日	禅―心をかたちに-展写禅語・富岡孝彰（妙心寺派円通寺）山崎正紘(興聖寺派興禅寺)	60	2人
13	10月28日	禅―心をかたちに-展禅トーク・富岡孝宗（南禅寺派梅洞寺住職）	164	2人
14	11月3日	禅―心をかたちに-展写禅語・河又宗道（南禅寺派月洲寺）津幡天青(単立海蔵院)	65	2人
15	11月3日	禅―心をかたちに-展写禅語・森昌寛(妙心寺派松泉寺副住職)	69	2人
16	11月5日	禅―心をかたちに-展禅トーク・山本文渓（大徳寺派桂徳院住職）	275	2人
17	11月5日	禅―心をかたちに-展写禅語・河又宗道（南禅寺派月洲寺）澤秀道(妙心寺派東淵寺)	66	2人
18	11月5日	尺八コンサート・一朝軒(筑前博多)	370	2人
19	11月5日	禅―心をかたちに-展写禅語・山本義寛（大徳寺派宋雲院）澤秀道(妙心寺派東淵寺)	75	2人
20	11月5日	禅―心をかたちに-展写禅語・山本義寛（大徳寺派宋雲院）	201	2人
21	11月6日	禅―心をかたちに-展坐禅会・中山宗祐（東京禅センター）向井真人(東京禅センター)亀慈廣（東京禅センター）富岡孝彰(東京禅センター)坂本太樹（東京禅センター）稲田健昌(東京禅センター)	54	人
22	11月6日	禅―心をかたちに-展坐禅会・中山宗祐（東京禅センター）向井真人(東京禅センター)亀慈廣（東京禅センター）富岡孝彰(東京禅センター)坂本太樹（東京禅センター）稲田健昌(東京禅センター)	77	人

23	11月6日	禅―心をかたちに-展坐禅会・中山宗祐（東京禅センター）向井真人(東京禅センター)亀慈廣（東京禅センター） 富岡孝彰(東京禅センター)坂本太樹（東京禅センター）稲田健昌(東京禅センター)	70	人
24	11月9日	禅―心をかたちに-展禅トーク・松原信樹（妙心寺派龍源寺住職）	144	2人
25	11月9日	禅―心をかたちに-展写禅語・津幡天青（単立海蔵院）太田宗慶(妙心寺派報恩寺)	65	2人
26	11月9日	禅―心をかたちに-展禅トーク・北折真一（妙心寺派天龍院住職）	149	2人
27	11月9日	禅―心をかたちに-展写禅語・森昌寛（妙心寺派松泉寺副住職）太田宗慶(妙心寺派報恩寺)	89	2人
28	11月24日	禅―心をかたちに-展禅トーク・笠龍桂（東学寺住職）	177	2人
29	11月24日	禅―心をかたちに-展写禅語・菅原義久（報国寺住職）	93	2人
30	11月24日	禅―心をかたちに-展禅トーク・永井宗直（満願寺住職）	217	2人
31	11月24日	禅―心をかたちに-展写禅語・岩田真哉（崇禅寺住職）	75	2人

③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク

42回　1,690人

	実施日	回数	テーマ	氏名	参加者(人)
1	12月8日、12月11日、12月22日、29年1月8日、1月14日、1月24日	6	古代エジプトの秘密、ミイラ	権祥海	250人
2	12月10日、12月15日、29年1月7日、1月12日、1月19日、1月20日	6	下村観山「弱法師」を読み解く	下岡史奈	291人
3	12月14日、12月18日、12月21日、29年1月11日、1月18日、1月25日	6	法隆寺の押出仏	辻角香代	151人
4	29年1月5日、1月15日、1月22日、1月26日、2月2日、2月5日	6	英一蝶の『富士山図』を観よう	水谷文美	242人
5	29年1月28日、2月17日、2月21日、2月22日、3月1日、3月10日	6	奈良時代の乾漆像「日航菩薩坐像」に迫る	樫原千寿帆	306人
6	29年1月29日、2月1日、2月8日、2月15日、2月24日、2月28日	6	アイヌの飾太刀にみる祈りの造形	石坂玲	173人
7	29年2月9日、2月11日、2月16日、2月23日、2月25日、3月2日	6	「突線鈕5式銅鐸」をじっくり見てみよう	宮澤大	277人

3)　連続講座「仏像三昧」　計1回(3日)　1回　947人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
1	10月21日	第1講「仏像入門１　如来・菩薩」 講師：西木政統（絵画・彫刻室アソシエイトフェロー） 第2講「仏像入門２　明王・天部」 講師：浅湫毅（京都国立博物館連携協力室長）	326人	2人	95.20%
	10月22日	第3講「九州の仏像―太宰府と宇佐の古代彫刻―」 講師：末吉武史（福岡市博物館学芸員） 第4講「関西の仏像―天台彫刻を中心に―」 講師：寺島典人（大津市歴史博物館学芸員）	294人	2人	97.30%
	10月23日	第5講「関東の仏像―鎌倉彫刻史と禅宗を中心に―」 講師：瀬谷貴之（神奈川県立金沢文庫主任学芸員） 第6講「東北の仏像―古代から平泉藤原氏の時代へ―」 講師：酒井昌一郎（仙台市博物館学芸員）	327人	2人	97.90%

4)　公開講座　2回　230人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	“良い”の割合
1	8月2日	博物館セミナー・教育連携事業「博物館学講座」「博物館の役割」・松本伸之(副館長)「博物館の運営」・竹之内勝典(総務課長)「博物館の情報システム」・村田良二(博物館情報室長)「特別展の仕組み」・品川欣也(特別展室主任研究員)「文化財の保存と修理」・高橋裕次(保存修復課長)「博物館の教育事業」・小林牧(博物館教育課長)	170人	1人	
2	29年3月23日	バックヤードツアー「保存と修理の現場へ行こう」(1) 講師：高橋裕次（保存修復課長）、荒木臣紀（調査分析室長）、和田浩（環境保存室長）、酒井元樹（保存修復室研究員）、瀬谷愛（保存修復室研究員）、野中昭美（保存修復室アソシエイトフェロー）、大森逸子（保存修復室事務補佐員）	60人	2人	100.00%

5)　その他展示に関連する事業　14回　2,425人

	実施日	内容	会場	参加者数	担当研究員
1	5月15日	上野の山でトラめぐり	恩賜上野動物園・国立科学博物館・東京国立博物館	24人	2人

2	9月28日	シタールの演奏(1)	東洋館1室	260人	人
3	9月28日	シタールの演奏(2)	東洋館1室	180人	人
4	9月29日	博物館でアジアの旅夜YOGA 仏像と過ごすタベ(1)・渡辺美保	東洋館1室	19人	2人
5	10月4日	博物館でアジアの旅イブニングトーク「壇蜜さんと楽しむ中国美術の旅」・壇蜜　富田淳(学芸研究部長)	東洋館ミュージアムシアター	83人	2人
6	10月5日	博物館でアジアの旅博物館で初めての太極拳・谷口光子	東洋館1室	18人	2人
7	10月6日	博物館でアジアの旅夜YOGA 仏像と過ごすタベ(2)・渡辺美保	東洋館1室	19人	2人
8	10月9日	古箏と馬頭琴の演奏(1)	東洋館1室	330人	人
9	10月9日	古箏と馬頭琴の演奏(2)	東洋館1室	340人	人
10	10月10日	中国伝統芸能ショー(1)	東洋館前屋外ステージ	530人	人
11	10月10日	中国伝統芸能ショー(2)	東洋館前屋外ステージ	570人	人
12	11月26日	おとなワークショップ「篆刻体験　自分だけの印をつくろう！」	本館地下教育普及スペース	19人	5人
13	2月25日	おとなワークショップ「ひいな遊び―立雛を作ろう!―」	本館地下教育普及スペース	19人	4人
14	3月26日	桜ワークショップ（おとな）「友禅染に挑戦」	本館地下教育普及スペース	14人	3人

【京都国立博物館】

1)　土曜講座　　38回　　4,123人

特別展覧会関連などの講座

	開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	4月23日	禅画と墨蹟―近世の禅林美術―	花園大学　文学部教授　福島恒徳	120人
2	4月30日	頂相彫刻の特質	東京国立博物館　研究員　浅見龍介	92人
3	5月7日	仏師の古文書	主任研究員　羽田聡	98人
4	5月14日	喫茶の広まりと寺院	研究員　降矢哲男	182人
5	5月21日	画僧の系譜ー明兆から雪村までー	上席研究員　山本英男	172人
6	6月18日	江戸幕府と京都の寺社復興	奈良大学　文学部教授　河内将芳	147人
7	6月25日	清時代の山水図屏風について	主任研究員　呉孟晋	54人
8	7月2日	家康ゆかりの女性と知恩院 ―母・於大と千姫―	佛教大学歴史学部教授・総本山知恩院史料編纂所編纂員　今堀太逸	122人
9	7月9日	知恩院所蔵の古文書手鑑	主任研究員　羽田聡	53人
10	7月16日	御所解文様を読みとく　―きものに隠された物語―	教育室長　山川曉	68人
11	7月23日	廻船問屋の土蔵が伝える木・竹・漆の文化財	主任研究員　永島明子	40人
12	8月6日	丹後の寺社縁起	京丹後市役所商工観光部　主任　小山元孝	82人
13	8月20日	中世丹後の人と絵画―大陸の風、みやこの風―	研究員　井並林太郎	58人
14	8月27日	丹後のみほとけたち	連携協力室長　淺湫毅	126人
15	9月3日	中世陶器の魅力	研究員　降矢哲男	94人
16	9月10日	描かれた『奥の細道』―蕪村から小野竹喬まで	静岡県立美術館館長、東京大学名誉教授　芳賀徹	178人
17	9月17日	文化財の自然科学的研究と新しい技術	アソシエイトフェロー　池田素子	72人
18	9月24日	梵鐘 - 今日もお寺の鐘がなる	企画室長　伊藤信二	45人
19	10月1日	桃山の茶陶　ー懐石の器ー	九州国立博物館　副館長　伊藤嘉章	73人
20	10月15日	坂本龍馬の手紙を読む	列品管理室長　　宮川禎一	200人
21	10月22日	坂本龍馬の愛刀と幕末の刀剣事情	東京国立博物館　研究員　末兼俊彦	200人
22	10月29日	龍馬と坂本家	高知県立坂本龍馬記念館　学芸課長　前田由紀枝	169人
23	11月5日	龍馬と薩長盟約	佛教大学　歴史学部教授　青山忠正	176人
24	11月12日	幻の名陶　亀山焼	長崎市　文化観光部　出島復元整備室　学芸員山口美由紀	45人
25	11月19日	パークス事件と残された刀	列品管理室長　　宮川禎一	96人
26	11月26日	対談：林市郎右衛門と龍馬	NPO法人　京都龍馬会理事長 赤尾博章 列品管理室長　　宮川禎一	86人
27	12月17日	若冲のユーモア	研究員　福士雄也	199人
28	12月24日	博物館の国際会議とは？　ーICOM2016ミラノ大会から2019京都大会へー	教育室長　山川曉	38人
29	29年1月7日	若冲の屏風に登場する動物たち	京都市立動物園副園長　坂本英房	196人
30	29年1月14日	十二類絵巻の魅力―言葉と絵と動物たち―	研究員　井並林太郎	86人

31	29年1月21日	泉涌寺ゆかりの仏像	連携協力室長　淺湫毅	96人
32	29年1月28日	俊芿律師と泉涌寺	泉涌寺　心照殿　学芸員　西谷功	89人
33	29年2月4日	涅槃図を楽しむ	保存修理指導室長　大原　嘉豊	130人
34	29年2月11日	蔵王権現はなぜ数多く伝わるのか－三徳山と金峯山の事例から－	大阪大学大学院文学研究科教授　藤岡穣	130人
35	29年2月18日	梵鐘－今日もお寺の鐘がなる 2	企画室長　伊藤信二	71人
36	29年2月25日	文化財の複製と教育普及	研究員　水谷亜希	65人
37	29年3月4日	雛人形の美―京の雅と江戸の粋―	吉徳資料室　室長　林直輝	105人
38	29年3月11日	万里小路宣房の法華経	主任研究員　羽田聡	70人

2)　記念講演会　　1回　　190人

	実施日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	29年4月16日	禅における＜心＞のかたち	花園大学国際禅学研究所　所長　野口善敬氏	190人

3)　夏期講座　　1回　　210人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	7月27日	第1講「河鍋暁斎筆《大和美人図屏風》明治のなかの江戸」	研究員　福士雄也	210人
		第2講「モネ《睡蓮》連作と水」	実践女子大学文学部美学美術史学科教授 六人部昭典	
		第3講「狩野芳崖筆《悲母観音》近代日本画の誕生」	東京藝術大学大学美術館准教授 古田亮	
	7月28日	第1講「夢窓疎石の庭」	京都造形芸術大学歴史遺産学科教授 仲隆裕	
		見学　天龍寺・臨川寺		
	7月29日	第1講「国宝になった中国美術」	研究員 呉孟晋	
		第2講「狩野元信筆《渦山倒瓶図》―晩年期の最高傑作―」	上席研究員 山本英男	
		第3講「名品を旅する　志野茶碗の魅力」	副館長 伊藤嘉章	

4)　社会科教員のための向上講座　　1回　　69人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	11月4日	講演「「坂本龍馬」について」	列品管理室長　宮川　禎一	69人
		館内実地研修　「坂本龍馬」展		

5)　セミナー・シンポジウム等　　4回　　540人

	開講日	テーマ・講師	参加者数(人)
1	4月24日	特別展覧会関連講演会　「禅と水墨画　雪舟と白隠を中心として」 講師：明治学院大学教授　山下裕二氏、臨済宗妙心寺派龍雲寺住職　細川晋輔氏	188人
2	5月4日	記念シンポジウム「日本国内における禅宗文化の受容と伝播」 講師：東京大学資料編纂所助教　川本慎自氏「禅宗寺院における典籍学習のかたち」 　成城大学文学部教授　相澤正彦氏「室町時代における水墨画の広がり―禅・文人・権力」 　京都大学大学院教授　根立研介氏「禅宗寺院彫刻と仏師―院派仏師の動向を中心に―」	120人
3	11月3日	「特別トークショー」『刀剣乱舞-ONLINE-』 講師：原作プロデューサー・小坂崇氣氏、東京国立博物館研究員・末兼俊彦氏	200人
4	11月12日	公開シンポジウム「文化財を防災から守る２：今、そこにある危機　関西地域の災害と文化財」 第1部　身近な災害　関西地域における災害の危険性 「身近な災害：関西で起こりうる災害と文化財の被害―直下型地震とこれに伴う都市火災の危険性とその対策事例―」 大窪健之（立命館大学理工学部教授・立命館大学歴史都市防災研究所長） 「木津川流域の災害―水と土砂の闘い」芝野康之（木津川市教育委員会文化財保護課） 第2部　災害と文化財　過去の経験から 「局所型地震と博物館―新潟県中越大震災の事例から―」田邊幹（新潟県立歴史博物館） 「水害から文化財を守る―和歌山県の取り組み―」藤隆宏（和歌山県立文書館） 第3部　来るべき災害への備え（座談会）	32人

6)　その他展示に関連する事業　　― 回　　― 人

【奈良国立博物館】

1)　特別展等講座　　13回　　1,972人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月23日	「後白河法皇の信仰世界―神仏との交歓―」	京都府立大学准教授　横内裕人	171人
2	5月 7日	「信貴山縁起絵巻と朝護孫子寺の毘沙門天王信仰」	学芸部教育室長　谷口耕生	194人
3	5月21日	「信貴山縁起絵巻について」	奈良県学芸統括参与　梶谷亮治	194人
4	6月18日	①「文化財修理支援業務の紹介と高知で行われた近代和紙の開発」 ②「手すき和紙の製造現場について」 ③座談会	①高知県立紙産業技術センター主任研究員 有吉正明 ②長谷川和紙工房　手すき和紙製作者　長谷川聡 ③有吉正明、長谷川聡、湯山賢一	194人

5	8月 6日	「日本仏教史上における忍性－鎌倉版マザー・テレサ」	山形大学人文学部教授　松尾剛次	194人
6	8月27日	「忍性と極楽寺の仏像」	学芸部研究員　山口隆介	155人
7	9月10日	「三つの忍性墓について」	学芸部列品室長　吉澤悟	178人
8	10月22日	「正倉院宝物の平脱・平文」	元宮内庁正倉院事務所保存課長　木村法光	112人
9	10月29日	「正倉院に納められた銭貨をめぐって」	宮内庁正倉院事務所保存課調査室研究員 細川晋太郎	119人
10	11月 3日	①「正倉と正倉院宝物」 ②「正倉院正倉整備工事の成果」 ③「奈良時代平瓦から見た正倉院正倉」 ④「平安時代の御物と御蔵」 ⑤パネルディスカッション	①宮内庁正倉院事務所長　杉本一樹 ②公益財団法人文化財建造物保存技術協会 事業部参事　春日井道彦 ③九州大学総合研究博物館教授　岩永省三 ④学芸部研究員　斎木涼子 ⑤杉本一樹、春日井道彦、岩永省三、斎木涼子	197人
11	11月 5日	「正倉院の荘厳具－大幡に寄せて－」	学芸部工芸考古室長　清水健	117人
12	29年1月 5日	「奈良奉行と春日若宮祭礼」	氷室神社文化興隆財団代表理事　大宮守友	61人
13	29年2月18日	「修二会（お水取り）」	東大寺長老　筒井寛昭	86人

2)　夏季講座　第45回「律宗の歴史と美術―鑑真から忍性へ」

1回　555人

	開講日	テーマ	講師	参加者数
1	8月17日	「戒律伝来」	奈良大学教授　東野治之	555人
		「忍性の生涯」	京都橘大学学長　細川涼一	
		「忍性　―救済に捧げた生涯―　―展覧会紹介―」	学芸部列品室長　吉澤悟	
	8月18日	「泉涌寺における宋代律宗の儀礼と文化」	大正大学教授　加島勝	
		「考古学から考える叡尊・忍性・律宗集団」	情報サービス室長　岩井共二	
		「律宗の祖師像・祖師絵伝」	列品室長　吉澤悟	
	8月19日	「南都律宗の彫刻」	文化庁主任文化財調査官　奥健夫	
		「聖武天皇の受戒と正倉院宝物献納」	学芸部長　内藤栄	

3)　サンデートーク　12回　991人

	実施日	テーマ	解説者	参加者数(人)
1	4月17日	「空海の舎利信仰の源流を求めて」	学芸部長　内藤栄	149人
2	5月15日	「大峯山寺蔵王権現像と平安・鎌倉時代の金銅仏制作」	学芸部研究員　山口隆介	115人
3	6月19日	「白鳳期菩薩像にみる特異な着衣形式について」	学芸部情報サービス室長　岩井共二	76人
4	7月17日	「文化財を科学するⅢ」	学芸部保存修理指導室長　鳥越俊行	70人
5	8月21日	「再発見された平安時代の古文書二通 ―民部省符と東大寺注進状案―」	学芸部企画室長　野尻忠	63人
6	9月18日	「南都絵所の仕事」	学芸部研究員　北澤菜月	99人
7	10月16日	「世界の火葬から」	学芸部列品室長　吉澤悟	88人
8	11月20日	「平安時代の宮中仏事」	学芸部研究員　斎木涼子	73人
9	12月18日	「仏像調査からわかること その４－圓教寺奥乃院の諸尊－」	上席研究員　岩田茂樹	78人
10	29年1月8日	「海を渡った鏡」	学芸部主任研究員　中川あや	73人
11	29年2月19日	「法螺話」	学芸部工芸考古室長　清水健	62人
12	29年3月19日	「奈良県技師が生んだ名建築　仏教美術資料研究センター（旧奈良県物産陳列所）の魅力」	学芸部資料室長　宮崎幹子	45人

4)　その他展示に関連するイベント　14回　1,261人

	実施日	内容	会場	参加者
1	4月22日	朝護孫子寺の貫主による講話「毘沙門天王信仰の欲と徳」	講堂	150人
2	4月30日	親と子のワークショップ「空とぶ鉢のおはなし絵巻をつくろう！」	講堂	105人
3	5月10日	朝護孫子寺の貫主による講話「信貴山の毘沙門天王」	講堂	130人

4	5月12日	朝護孫子寺の貫主による講話「福の神様毘沙門天王」	講堂	141人
5	6月18日～6月19日	特別陳列「和紙－近代和紙の誕生－」関連イベント　「紙漉き実演」	西新館1Fピロティ	―
6	7月30日	ワークショップ「描いて飾ろう文殊菩薩」	地下回廊	69人
7	7月31日	特別展「忍性」子ども無料日イベント「きく！みる！ふれる！東征伝絵巻」	講堂	58人
8	10月23日	第68回正倉院展親子鑑賞会	講堂・展示室	152人
9	12月4日	奈良トライアングルミュージアムズ東京セミナー「冬の奈良と奈良国立博物館の楽しみ」	奈良まほろば館	60人
10	12月17日	おん祭と春日信仰の美術「茶会」	茶室・庭園・西新館南側ピロティ	62人
11	12月23日	奈良国立博物館文化財修復プレミアム・ミュージアム・ビューイング	講堂・展示室・茶室・庭園・仏教美術資料研究センター	24人
12	1月12日	文化財保存修理所特別公開	講堂・文化財保存修理所	119人
13	2月11日	『お水取り「講話」と「粥」の会』	講堂・茶室控室・展示室	37人
14	3月3日	「お水取り展鑑賞とお松明」	講堂・展示室	154人

【九州国立博物館】

1)特別展記念講演会　　3回　　675人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	7月16日	東山魁夷　自然と人、そして町「東山魁夷の生涯と芸術」	茨城県近代美術館長　尾崎正明	211人
2	10月9日	京都　高山寺と明恵上人　特別公開 鳥獣戯画「鳥獣人物戯画の謎」	学習院大学教授　佐野みどり	235人
3	29年1月21日	宗像・沖ノ島と大和朝廷「神宿る島と祈りの記憶－祭祀遺跡の発掘調査譚－」	福岡大学名誉教授　小田富士雄 国立慶州博物館館長　ユ・ビョンハ	229人

2)講演及びシンポジウム等　　25回　　3,293人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月15日	しっとこ九博「始皇帝と大兵馬俑」解説講座	東京国立博物館主任研究員　市元塁	78人
2	5月14日	アクロス文化学び塾 「徹底分析　始皇帝と兵馬俑」	学芸部企画課主任研究員　川村佳男	69人
3	5月15日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連講演会 「はじめての兵馬俑」	東京国立博物館主任研究員　市元塁	184人
4	6月5日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連講演会 「始皇帝の考古学」	学芸部企画課主任研究員　川村佳男	140人
5	6月19日	一般社団法人歴史と自然をまもる会設立50周年記念事業 記念講演「正倉院宝物から見た海外交流」 記念フォーラム「アジアと福岡の歴史的点描」	前宮内庁正倉院保存課、京都市芸術大学教授、佐賀大学教授　木村法光	90人
6	6月20日	平成28年度　福岡歴史観光市民大学 「書の楽しみ」	館長　島谷弘幸	110人
7	7月18日	独立行政法人 国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」 特別講演会 歴史と共に考える文化財の防災・減災 開会挨拶 基調講演「正倉院の管理について　－同じ場所で、これまでずっと－」 講演「正倉院と自然災害－宝庫修理の歴史から－」 「近衛家の歴史と文化財」 「東山御文庫と図書寮文庫－バックアップと疎開で守った資料－」 「明治維新と廃仏毀釈」 「関東大震災、第二次世界大戦時の文化財－東京国立博物館の歴史における災害－」 「歴史資料を未来につなぐということ－大名家文書と在地文書、熊本震災の経験から－」 閉会挨拶	館長　島谷弘幸 宮内庁正倉院事務所長　杉本一樹 宮内庁正倉院事務所　飯田剛彦 京都国立博物館　羽田聡 宮内庁書陵部図書課図書寮文庫 田代圭一 奈良国立博物館　野尻忠 東京国立博物館　恵美千鶴子 熊本大学・熊本大学付属永青文庫研究センター　稲葉継陽 国立文化財機構防災ネットワーク推進室長 岡田健	340人
8	8月5日	しっとこ九博 「東山魁夷　自然と人、そして町」解説講座	学芸部特任研究員　臺信祐爾	35人
9	8月6日	全国高等学校考古学フォーラム2016	参加校 埼玉県立伊奈学園総合高等学校 岐阜県立関高等学校 奈良県立橿原高等学校 福岡県立嘉穂高等学校	100人

10	8月27日	水中考古学フォーラム「世界の水中遺跡を考える」 趣旨説明 講演「オランダの水中文化財遺産保護：国際協力調査の可能性」 「日豪共有水中文化遺産：その保護と活用について」 「アジア・太平洋地域の水中遺産の保護の現状と課題」 討論「日本と世界の水中遺跡保護の現状」	学芸部長　小泉惠英 オランダ文化遺産庁海事考古学局長 Martijn Manders（マータイン マンダース） オーストラリア環境庁海事遺産局長補佐 Andrew Viduka（アンドリュー ヴィドゥーカ） グアム大学人類学部准教授 Bill Jeffery（ビル ジェフリー） 福岡県文化財保護課長　赤司善彦	45人
11	10月14日	特別公開　鳥獣戯画解説講座 （筑紫野歴史博物館）	学芸部企画課研究員　森實久美子	71人
12	10月16日	特別展「京都 高山寺と明恵上人」関連講演会「京都 高山寺と明恵上人の魅力」	学芸部企画課研究員　森實久美子	156人
13	10月24日	平成28年度　福岡歴史観光市民大学 「16世紀の西国大名とアジア」	展示課研究員　一瀬　智	110人
14	11月26日	トピック展「海の王都 原の辻遺跡と壱岐の至宝」 関連講演会『魏志』倭人伝に記されたー支国の世界	壱岐市立一支国博物館学芸員　松見裕二	34人
15	12月4日	独立行政法人 国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」 公開シンポジウム　地域と共に考える文化財の防災・減災Ⅲ 熊本地震と文化財レスキュー 開会挨拶 第1部　対談 「熊本地震を考える」 第2部　報告 「熊本地震による文化財の被災とレスキュー中間報告」 ・レスキュー事業の概要 文化財レスキュー事業の立ち上げについて 文化財の大規模被災－初動からレスキュー、復旧スキームへ－ 九州救援対策本部の活動 ・レスキューの事例報告 熊本被災史料レスキューネットワークの取り組み 熊本県立美術館の取り組み 熊本県博物館ネットワークセンターの取り組み 熊本市立熊本博物館の取り組み レスキューの実施と救出資料への対応について 第3部　パネルディスカッション 「熊本文化財レスキューから学ぶ」 閉会挨拶	総合司会：学芸部特任研究員　本田光子 館長　島谷弘幸 NPO法人 宮城歴史資料保全ネットワーク理事長・宮城学院女子大学長　平川新 NPO法人 文化財保存支援機構理事長・前九州国立博物館長　三輪嘉六 文化庁　朝賀浩 熊本県教育庁　平井貴 学芸部長　小泉惠英 熊本大学・熊本被災史料レスキューネットワーク　稲葉継陽 熊本県立美術館　有木芳隆、山田貴司 熊本県博物館ネットワークセンター 國本信夫 熊本市立熊本博物館 竹原明理、甲斐由香里、木山貴満 博物館科学課アソシエイトフェロー 三角菜緒 司会：学芸部長　小泉惠英 パネリスト：文化庁　朝賀浩 熊本大学・熊本被災史料レスキューネットワーク　稲葉継陽 国立文化財機構防災ネットワーク推進室 岡田健 熊本県教育庁　平井貴 熊本市立熊本博物館　和田仁 副館長　伊藤嘉章	200人
16	12月6日	日米文化教育交流会議（カルコン）美術対話委員会シンポジウム 「世界と日本美術アート～２０００年以降の動向を中心に～」 主催者挨拶 第１部 ≪プレゼンテーション≫ 「今回のシンポジウムの意義」「海外における日本美術紹介」 「２０００年以降の日本の取組」 「カルコンADC の現状と今後の課題」 「ボストン美術館を中心とした近年の米国における日本美術に関する動向 「現代アートを中心とした近年の海外（米国）における日本のアートに対する関心の動向」 「シアトル美術館の収蔵品と現代アート展示について」 第２部 ≪パネルディスカッション≫	館長　島谷 弘幸 館長　島谷 弘幸 ボストン美術館上級学芸員　アン・ニシムラ・モース 上智大学国際教養学部教授、美術批評家 林 道郎 シアトル美術館日本・韓国美術担当学芸員 シャオジン・ウー モデレーター：館長　島谷 弘幸 パネリスト： 国際交流基金文化事業部長、審議役 伊東 正伸 根津美術館特別学芸員　白原由起子 上智大学国際教養学部教授、美術批評家 林 道郎 メトロポリタン美術館日本美術担当学芸員 ジョン・カーペンター サンフランシスコ・アジア美術館アート＆プログラムス担当副館長 ロバート・ミンツ シアトル美術館日本・韓国美術担当学芸員 シャオジン・ウー オブザーバー： 国立文化財機構本部事務局長、京都国立博物館副館長　栗原 祐司 ボストン美術館上級学芸員 アン・ニシムラ・モース 京都国立博物館国際交流担当フェロー マリサ・リンネ	150人

17	12月10日	MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館 「紅白梅図屏風（原寸大レプリカ）」美術セミナー	MOA美術館学芸員　米井善明	150人
18	12月17日	九州国立博物館特別展入場券付きスペシャル講座「玄界灘の覇者・宗像君の実像に迫る」	展示課研究員　小嶋　篤	16人
19	29年1月8日	九州国立博物館を愛する会　１０周年記念講演 九博ふるさとセミナー 第1部　宗像・沖ノ島と大和朝廷 第2部　大宰府の役人と文房具	展示課研究員　小嶋　篤 九州歴史資料館学芸調査室室長 小田和利	148人
20	29年1月13日	しっとこ九博 「宗像・沖ノ島と大和朝廷」解説講座	展示課研究員　小嶋　篤	46人
21	29年2月4日	宗像・沖ノ島と大和朝廷関連 リレー講座「交差する日本神話とアジアの歴史」	國學院大學教授　笹生衛 展示課研究員　小嶋篤	215人
22	29年2月12日	日中韓文化遺産フォーラム 開会挨拶 韓国における水中文化遺産の保護と活用の取組の歴史 新安沈没船にみる活用とその意義 中国の水中遺産の保護と活用の体制 南海１号沈没船の引き上げと今後の活用について 日本の水中遺産保護・活用の現状と課題 鷹島海底遺跡における水中考古学の歴史 討論会「日中韓の水中文化遺産」	司会　学芸部長　小泉恵英 文化庁長官　宮田亮平 国立海洋文化財研究所　李　貴永 国立海洋文化財研究所　金　炳董 西安交通大学　リュウ・リーナ 国家文物局水下文化遺産保護中心 ソン・チェン 文化庁文化財部記念物課　禰宜田佳男 琉球大学文学部教授　池田栄史 討論司会：福岡県教育庁文化財保護課長 赤司善彦 李　貴永、金　炳董、リュウ・リーナ、ソン・チェン、禰宜田佳男、池田栄史、博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	173人
23	29年2月18日	九州国立博物館「大宰府学研究」事業・熊本県「古代山城に関する研究会」事業　合同シンポジウム「徹底追究！大宰府と古代山城の誕生」 基調講演「大宰府と古代山城の誕生」 研究発表　第Ⅰ部　大宰府の器 発表１「西海道の土器編年研究」 発表２「西海道北部の土器生産」 発表３「西海道南部の土器生産」	福岡県教育庁総務部文化財保護課　赤司善彦 大分市教育委員会文化財課　長　直信 大野城市教育委員会ふるさと文化財課 石木秀啓 指宿市教育委員会社会教育課　松崎大嗣	183人
24	29年2月19日	九州国立博物館「大宰府学研究」事業・熊本県「古代山城に関する研究会」事業　合同シンポジウム「徹底追究！大宰府と古代山城の誕生」 研究発表　第Ⅱ部　古代山城の築城 発表４「古代山城の年代論－朝鮮半島と日本列島－」 発表５「大宰府造営の年代論」 発表６「有明海沿岸における古代山城の年代論」 発表７「瀬戸内海沿岸における古代山城の年代論」 シンポジウム「徹底追究！大宰府と古代山城の誕生」	古代山城研究会　向井一雄 福岡県教育庁総務部文化財保護課 杉原敏之 熊本県教育委員会　矢野裕介 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 南健太郎 コーディネーター： 福岡県教育庁総務部文化財保護課　赤司善彦 パネラー： 大分市教育委員会文化財課　長　直信 大野城市教育委員会ふるさと文化財課　石木秀啓 指宿市教育委員会社会教育課　松崎大嗣 古代山城研究会　向井一雄 福岡県教育庁総務部文化財保護課　杉原敏之 熊本県教育委員会　矢野裕介 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター　南健太郎	200人
25	29年3月25日	本田光子特任研究員最終講演会 「市民と共に　地域と共に」九博バックヤード生活を終えて -基盤作りの一端に携わった１４年-	特任研究員　本田光子	250人

3)　ミュージアムトーク　　49回 参加者総数　　1,401人

・担当研究員数　　延べ 49人

・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。
（原則として毎週火曜日の午後3時より15～30分間）

	開催日	テーマ	解説者	参加者数（人）
1	4月5日	芦屋鋳物師の世界	文化財課資料登録室研究員　望月規史	25人
2	4月12日	王の墓だとなぜわかる？	展示課展示調整室主任研究員　今井涼子	35人
3	4月19日	文化財を守りゆく博物館	博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	20人
4	4月26日	シルクロードの美術	特任研究員室特任研究員　臺信祐爾	30人
5	5月3日	文書と字姿（もんじょとじすがた）	文化財課資料登録室長　丸山猶計	70人
6	5月10日	九博の中世文書	展示課展示調整室研究員　一瀬智	20人
7	5月17日	神まつりの痕跡	展示課情報サービス室研究員　小嶋篤	40人
8	5月24日	博物館の裏方の仕事、大公開！	博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか	40人
9	5月31日	文化財の科学調査	博物館科学課アソシエイトフェロー 赤田昌倫	20人

10	6月7日	装飾古墳	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	50人
11	6月14日	室町時代の狩野派	文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀	20人
12	6月21日	見えないものを観る	博物館科学課アソシエイトフェロー 金旻貞	20人
13	6月28日	媽祖の話	展示課長　楠井隆志	40人
14	7月5日	海に眠る瓦の謎	博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	20人
15	7月12日	博物館の科学	博物館科学課環境保全室研究員 秋山純子	15人
16	7月20日	全国高等学校考古名品展	展示課展示調整室主任研究員　岸本圭	30人
17	7月26日	火縄銃の世界	文化財課資料登録室研究員　望月規史	20人
18	8月2日	発掘された出島	展示課展示調整室主任研究員　今井涼子	30人
19	8月9日	中世美術にみる四季の表現	企画課特別展室主任研究員　鷲頭　桂	25人
20	8月16日	石庖丁について	交流課交流事業室主任研究員　進村真之	30人
21	8月23日	高校考古開催中	展示課展示調整室主任研究員　今井涼子	25人
22	8月30日	近世の長崎－唐館を中心に－	博物館科学課アソシエイトフェロー 三角菜緒	20人
23	9月6日	密教図像の世界	企画課文化交流展室研究員　森實久美子	35人
24	9月14日	キリスト教の信仰と禁教	企画課特別展室研究員　松浦晃佑	30人
25	9月21日	旧家の暮らしを彩った器－古伊万里	企画課アソシエイトフェロー 酒井田千明	40人
26	9月27日	陶磁器の話	展示課展示調整室主任研究員　岸本圭	18人
27	10月4日	殿さまが見つけた朝鮮鐘	文化財課資料登録室研究員　望月規史	20人
28	10月11日	海の王都　原の辻遺跡と壱岐の至宝	交流課交流事業室主任研究員　進村真之	30人
29	10月18日	江戸時代に輸入された更紗について	企画課特別展室長　原田あゆみ	20人
30	10月25日	アジアの甍	展示課情報サービス室研究員　小嶋篤	20人
31	11月1日	海事考古学者のお話し	博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	25人
	11月9日	骨や甲羅を使った古代の占い	企画課特別展室主任研究員　川村佳男	中止
32	11月15日	観世音寺阿弥陀如来立像の話	展示課長　楠井隆志	35人
33	11月22日	螺鈿のたのしみ	文化財課資料登録室主任研究員 川畑憲子	30人
34	11月29日	文化財のX線CT調査～漆工芸品の大解剖～	博物館科学課アソシエイトフェロー 赤田昌倫	20人
35	12月6日	博物館の裏方の仕事、大公開！　パート２	博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか	20人
36	12月13日	博物館資料の科学調査について	博物館科学課環境保全室研究員 秋山純子	18人
37	12月20日	田中丸コレクションの名品	企画課アソシエイトフェロー 酒井田千明	15人
38	1月11日	国宝　初音の調度について	副館長　伊藤嘉章	60人
39	29年1月17日	鷹匠の歴史	展示課主任研究員　岸本　圭	35人
40	29年1月24日	ウンスンカルタ	企画課特別展室研究員　松浦晃佑	20人
41	29年1月31日	舎利と羅漢	企画課文化交流展室研究員　森實久美子	30人
42	29年2月7日	江戸美術に見る理想の風景	企画課特別展室主任研究員　鷲頭　桂	20人
43	29年2月14日	伊能忠敬の日本地図	展示課展示調整室研究員　一瀬智	25人
44	29年2月21日	縄文時代の装身具	博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	30人
45	29年2月28日	宮地嶽古墳と火葬墓	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	50人
46	29年3月7日	近世の長崎－唐館と蘭館－	博物館科学課アソシエイトフェロー 三角菜緒	40人
47	29年3月14日	イスラムの陶器	特任研究室特任研究員　臺信祐爾	25人
48	29年3月22日	禅宗の書に込めた思い	文化財課資料登録室長　丸山猶計	15人
49	29年3月28日	正倉院宝物とは何だろう	展示課展示調整室主任研究員　今井涼子	30人

4)　その他展示に関連するイベント　　23回　　2,701人

	展覧会名等	期間	内容	会場	参加者数（人）	備考
1	文化交流展	4月29日	ミュージアムコンサート 「はらのむしのうたげ」	エントランス、他	279人	
2		6月18日	作ってみよう「ひのしゅ」お面ワーク ショップ	エントランス	120人	
3		6月26日	きゅーはくミュージアムコンサート 「はらのむしとゴスペル」	ミュージアムホール	190人	
4		9月14日～25日	トピック展「古伊万里－旧家の暮らしを彩った器－」関連イベント日本遺産認定記念『日本磁器のふるさと　肥前』パネル展	エントランス	－	参加者数（参考）： 19,626人（入口設置カウンター通過人数）

5		9月20日～25日	トピック展「古伊万里－旧家の暮らしを彩った器－」関連イベント有田焼創業400年事業　ARITA SERECTION 特別企画展『きんしゃい有田珠玉の器紀行』	ミュージアムホール	－	
6		11月27日	トピック展「海の王都 原の辻遺跡と壱岐の至宝」関連ワークショップ（貝殻キャンドルづくり、勾玉づくり）	エントランス／研修室	250人	
7	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	3月15日～6月12日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」 兵馬俑トリックアート	エントランス	－	参加者数（参考）： 318,485人（入口設置カウンター通過人数）
8		3月27日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント Eテレ「びじゅチューン！井上涼×兵馬俑」	ミュージアムホール	482人	
9		3月29日～4月28日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 山手線キングダム展（前期）	エントランス	－	参加者数（参考）： 76,807人（入口設置カウンター通過人数）
10		4月1日～10日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 8Kスーパーハイビジョン上映会	文化交流展示室内スーパーハイビジョンシアター	－	参加者数（参考）：7,031人（入口設置カウンター通過人数）
11		4月17日	九州国立博物館杯第5回さいふごま大会（始皇帝と大兵馬俑記念）　＊熊本地震により中止	ミュージアムホール	－	
12		4月24日～6月12日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連パネル展示　始皇帝の『直道』をゆく	エントランス	－	参加者数（参考）： 204,938人（入口設置カウンター通過人数）
13		5月5日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連 こどもの日特別企画！ワークショップ 「紙で工作！兵馬俑に変身！」	エントランス	100人	
14		5月6日～6月12日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 山手線キングダム展（後期）	エントランス	－	参加者数（参考）： 155,257人（入口設置カウンター通過人数）
15	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」	7月30日	特別展「東山魁夷自然と人、そして町」関連記録映像上映会＆トーク「東山魁夷山雲濤声～唐招提寺障壁画の記録～」	ミュージアムホール	280人	
16		8月11日	特別展「東山魁夷自然と人、そして町」関連ミュージアムコンサート「東山魁夷が愛したモーツァルト」	ミュージアムホール	350人	
17	特別展「京都　高山寺と明恵上人」	8月7日	特別展「京都高山寺と明恵上人」プレ企画 第2回みゅーじあむ寄席「夢で会いましょう」	ミュージアムホール	283人	
18		10月2日	九州国立博物館杯第5回さいふごま大会（京都　高山寺と明恵上人記念）プレイベント ＊4/17始皇帝と大兵馬俑記念が熊本地震により中止のため今回が第5回	ミュージアムホール	60人	
19		10月15日	特別展「京都高山寺と明恵上人」関連 トークイベント能「春日龍神」と明恵上人	ミュージアムホール	237人	
20	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」	29年1月1日～2月19日	特別展　「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連 「沖ノ島写真展」	エントランス	－	参加者数（参考）： 128,847人（入口設置カウンター通過人数）
21		29年1月7日～9日	むなかたの幸　満福祭	エントランス／屋外	－	参加者数（参考）： 12,258人（入口設置カウンター通過人数）
22		29年1月22日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連 九州国立博物館杯第6回さいふごま大会	ミュージアムホール	70人	
23		29年2月7日～12日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連 「沖ノ島紹介パネル展」	エントランス	－	参加者数（参考）： 16,992人（入口設置カウンター通過人数）

1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数 ※1 ※2	**回数計**	**1,079回**	**回数計**	**580回**	**回数計**	**76回**	**回数計**	**2,196回**
	参加者計	**207,375人**	**参加者計**	**23,315人**	**参加者計**	**3,809人**	**参加者計**	**8,777人**
	体験型プログラム等	827回 199,167人	体験型プログラム等	553回 21,333人	体験型プログラム等	21回 384人	体験型プログラム等	2,143回 7,796人
	学校との連携事業	252回 8,208人	学校との連携事業	27回 1,982人	学校との連携事業	55回 3,425人	学校との連携事業	53回 981人
	児童生徒を対象とした刊行物	4件 40,000部	児童生徒を対象とした刊行物	3件 41,300部	児童生徒を対象とした刊行物	— —	児童生徒を対象とした刊行物	2件 145,000部
	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	1件 770台	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —

※1一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする

※2実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1)体験型プログラム等　　827回　　199,167人

①ハンズオン展示等

688回　187,028人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	総合文化展（東洋館）関連「アジアの占い体験」	東洋館6室	344回	28,609人	実際に体験した人数
2	通年	総合文化展（本館）「トーハクでデザイン」「トーハクで〇〇ができるまで」「トーハクで国宝をさぐろう」「トーハクをまわそう」	本館19室	344回	158,419人	実際に体験した人数

②ワークショップ

51回　12,021人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	4月2日・3日	桜ワークショップ　春らんまん　桜ぬりえ	本館2階ラウンジ	2回	1,145人	「博物館でお花見を」関連事業として実施①563人②582人
2	4月29日・30日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！」	平成館考古展示室	2回	53人	①31人②22人
3	4月29日・30日	子どもツアー「トーハク劇場へようこそ！」	平成館考古展示室	2回	32人	①23人②9人
4	7月23日・24日	ファミリーワークショップ「からだが動くエビをつくってみよう」	本館地下教育普及スペース、本館13室	2回	48人	①22人②26人
5	8月14日・15日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！」	平成館考古展示室	2回	81人	①31人②50人
6	8月14日・15日	子どもツアー「トーハク劇場へようこそ！」	平成館考古展示室	2回	175人	8月15日はキッズデーイベントとして実施①85人②90人
7	8月15日	みんなで作る貼り交ぜ屏風（ぬり絵）	本館特別4室	1回	303人	キッズデーイベントとして実施
8	8月15日	ワークシートに挑戦&オリジナル缶バッジつくり	本館特別4室	1回	247人	キッズデーイベントとして実施
9	8月23日	ファミリーツアー「博物館のうら側探検ツアー」	保存修復関係施設等	2回	44人	親と子のギャラリー「美術の裏側探検隊」関連事業として実施　①22人②22人
10	9月29日～10月10日（13日間）	着てみてポーズ！ 中国・韓国・日本の伝統衣装（衣装体験）	東洋館エントランス	13回	1,110人	「博物館でアジアの旅」関連事業として実施
11	10月8日（4日間）	アジアンぬりえ	東洋館2室	4回	753人	「博物館でアジアの旅」関連事業として実施
12	10月8日・9日	ワークショップ「中国伝統の剪紙（切り紙）体験」	本館地下教育普及スペース	2回	44人	「博物館でアジアの旅」関連事業として実施①20人②24人
13	10月8日	ナイト・ミュージアム　親子で東洋館探検！	東洋館	1回	81人	「博物館でアジアの旅」関連事業として実施
14	10月22日	ファミリーワークショップ「屏風体験！」	九条館	2回	40人	キヤノン株式会社と共催①21人②19人
15	11月26日	ファミリーワークショップ「篆刻体験　自分だけの印をつくろう！」	本館地下教育普及スペース	1回	18人	

16	12月18日・23日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！」	平成館考古展示室	2回	56人	①28人②28人
17	12月18日・23日	子どもツアー「トーハク劇場へようこそ！」	平成館考古展示室	2回	15人	①11人②4人
18	1月2・3日	博物館に初もうでカレンダー付ワークシート	本館2階便殿前	2回	6,000人	ワークシート配布数
19	2月25日	ファミリーワークショップ「ひいな遊び―立雛を作ろう!―」	本館地下教育普及スペース	1回	14人	
20	3月23・24・25・26日	桜ワークショップ　春らんまん　桜ぬりえ	本館2階ラウンジ	4回	1,744人	①278人②357人③358人④751人
21	3月26日	桜ワークショップ（ファミリー）「友禅染に挑戦」	本館地下教育普及スペース	1回	18人	

③その他の体験型プログラム　　―回　　―人

④児童生徒を対象とした展示

86回　　―人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	4月12日～5月22日	「親と子のギャラリー　あつまれ！トラのなかまたち」	平成館企画展示室	37回	―	人数カウントを行っておらず参加者数不明
2	7月5日～8月28日	「親と子のギャラリー　美術のうら側探検隊」	本館特別2室	49回	―	期間中の本館入館者数（参考）：152,548人

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

2回　　118人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	5月5日	特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」ナイトミュージアム	表慶館	1回	118人	1日
2	8月15日	トーハクキッズデー	本館、平成館考古展示室	1回	―	1日。人数カウントを行っておらず参加者数不明

2)学校との連携事業　　252回　　8,208人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

227回　　7,910人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	スクールプログラム	本館地下教育普及スペース、大講堂、展示室等	225回	7,903人	225校
2	5月12日、2月10日	盲学校のためのスクールプログラム	本館地下教育普及スペース、展示室等	2回	7人	2校

②出前授業等　　―回　　―人

③職場体験

19回　　63人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	職場体験の受け入れ	本館、東洋館ほか	19回	63人	19校、延べ55日

④教員を対象とした研修

6回　　235人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月22日	特別展「黒田清輝」教員研修	小講堂	1回	65人	
2	7月27日～29日	全国美術工芸教育研究会「博物館・藝大研修」	本館地下教育普及スペース、展示室	1回	41人	
3	8月3日	「スクールプログラム」教員研修	本館地下教育普及スペース	1回	19人	
4	8月3日	鑑賞教育研究会	本館地下教育普及スペース	1回	5人	
5	8月25日	「盲学校のためのスクールプログラム」教員研修	本館地下みどりのライオンほか	1回	19人	全国盲学校　図工・美術研究会の盲学校教員を対象とした研修
6	8月25日	特別展「禅」教員研修	大講堂	1回	86人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

―回　　―人

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　4件　　40,000部

	名　　称	発行部数	備　考
1	特別展「「古代ギリシャ―時空を超えた旅―」ジュニアガイド	10,000部	
2	特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」ジュニアガイド	10,000部	
3	親と子のギャラリー「美術のうら側探検隊」ワークシート	10,000部	
4	特別展「春日大社　千年の至宝」ジュニアガイド	10,000部	

②音声ガイド　　― 件　　― 台

③その他メディア　　― 件　　― 台

【京都国立博物館】

1)体験型プログラム等　　553回　　21,333人

①ハンズオン展示等

471回　　― 人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	さわって発見！ミュージアム・カート	京都国立博物館平成知新館	197回	―	開館日の毎日(4月12日～5月22、10月15日～11月27日と年始を除く)、参加者数カウント不可
2	通年	デジタル絵巻	京都国立博物館平成知新館	274回	―	開館日の毎日、参加者数カウント不可

②ワークショップ

78回　　21,232人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	4月12日～5月22日の開館日	“くじ”で出会う　禅の言葉	京都国立博物館平成知新館	36回	11,547人	特別展覧会「禅―心をかたちに―」ワークショップ
2	10月15日～11月27日の開館日	龍馬さんからお手紙です！	京都国立博物館平成知新館	38回	8,725人	特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」ワークショップ
3	6月25日・26日	スタンプでうちわをデザインしよう！	仙台卸商センター産業見本市会館サンフェスタ（宮城県仙台市）	2回	742人	「ミュージアムキッズ！全国フェア2016」（こどもひかりプロジェクト主催）
4	10月16日	ドキドキ！刀にふれてみよう	南相馬市博物館（福島県南相馬市）	1回	140人	「ミュージアムキッズフェアinみなみそうま」（こどもひかりプロジェクト主催）
5	12月17日	スタンプで年賀状を作ろう！	せんだいメディアテーク（宮城県仙台市）	1回	78人	「プチ・ミュージアムストリート2016」（こどもひかりプロジェクト主催）

③その他の体験型プログラム

3回　　43人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	6月25日・26日	トラりん登場！	仙台卸商センター産業見本市会館サンフェスタ	1回	―	「ミュージアムキッズ！全国フェア2016」（こどもひかりプロジェクト主催）にて、博物館の紹介及び館蔵品の解説を実施した。参加者数カウント不可
2	10月16日	トラりん登場！	南相馬市博物館（福島県南相馬市）	1回	―	「ミュージアムキッズフェアinみなみそうま」（こどもひかりプロジェクト主催）、参加者数カウント不可
3	1月1日	トラりんからの年賀状	郵送	1回	43人	「スタンプで年賀状を作ろう！」（12月17日、せんだいメディアテーク）にて、トラりん（京都国立博物館公式キャラクター）宛の年賀状を作成した子どもに年賀状を送付した。

④児童生徒を対象とした展示　　― 回　　― 回

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

1回　　58人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	10月29日	伊藤若冲 生誕300年記念　若冲 おしゃべり鑑賞会	堀川御池ギャラリー	1回	58人	

2)学校との連携事業　　27回　　1,982人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

7回　　344人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月26日	羽衣学園高等学校	京都国立博物館	1回	30人	特別展覧会の解説、博物館の仕事紹介、自由観覧
2	5月19日	佐賀市立金泉中学校	京都国立博物館	1回	6人	博物館の歴史、博物館の仕事紹介、自由観覧
3	9月10日	京都府立鴨沂高等学校	京都国立博物館	1回	21人	博物館の歴史、名品ギャラリー解説、ワークショップ、自由観覧
4	9月28日	京都市立八瀬小学校	京都国立博物館	1回	14人	博物館の歴史、名品ギャラリー解説、自由観覧
5	11月17日	岡山県立岡山操山中学校	京都国立博物館	1回	3人	刀剣について質問対応、自由観覧
6	1月11日	大谷高等学校	京都国立博物館	1回	266人	博物館の歴史、名品ギャラリー解説、自由観覧
7	3月9日	仙台の中学校	京都国立博物館	1回	4人	京都の歴史について質問対応、自由観覧

②出前授業等

7回　　931人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月7日・8日	文化財に親しむ授業　京都市立洛北中学校　1年生	京都市立洛北中学校	1回	360人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
2	7月6日	文化財に親しむ授業　京都市立唐橋小学校　6年生	京都市立唐橋小学校	1回	79人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
3	9月6日	文化財に親しむ授業　京都市立紫明小学校　6年生	京都市立紫明小学校	1回	41人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
4	10月12日	文化財に親しむ授業　京都市立洛西中学校　2年生	京都市立洛西中学校	1回	96人	教材：雪舟筆「四季花鳥図屏風」、講師：文化財ソムリエ
5	10月25日	文化財に親しむ授業　京都市立粟陵中学校　3年生	京都市立粟陵中学校	1回	140人	教材：雪舟筆「四季花鳥図屏風」、講師：文化財ソムリエ
6	11月29日	文化財に親しむ授業　京都市立下鴨中学校　2年生	京都市立下鴨中学校	1回	124人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
7	12月14日	文化財に親しむ授業　京都市立東山泉小中学校7年生	京都市立東山泉小中学校	1回	91人	教材：雪舟筆「天橋立図」、講師：文化財ソムリエ

③職場体験　　― 回　　― 人

④教員を対象とした研修

3回　　106人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月6日	文化財を教室に！－複製を活用した事例紹介と交流会―	京都国立博物館	1回	24人	発表者：浪江知世（京都市立朱雀中学校教諭）、板谷寿美（京都大学大学院／文化財ソムリエ）、水谷亜希（京都国立博物館 研究員）
2	8月5日	大阪府高等学校美術工芸教育研究会　博物館・美大研修	京都国立博物館	1回	13人	講義：「見つめる・感じる・考える　染めと織りの世界」山川曉（京都国立博物館 教育室長）
3	11月4日	社会科教員のための向上講座（（小）社会科授業実践力向上講座（中・高・総）社会科教員指導力向上講座）	京都国立博物館	1回	69人	講義：「坂本龍馬展について」宮川禎一（京都国立博物館 上席研究員） 主催：京都市教育委員会・京都市小学校社会科教育研究会・京都市中学校教育研究会社会科部会

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

10回　　601人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月5日	むしむしお絵かき＜墨絵へん＞	兵庫県立人と自然の博物館	1回	15人	「ひとはくKidsサンデー」（兵庫県立人と自然の博物館主催）にて共同でプログラムを実施した
2	8月28日	なつやすみスペシャル！まいぶんくらぶ「国宝！風神雷神図がやってくる」	泉南市埋蔵文化財センター（大阪府）	1回	62人	複製を活用したプログラムへの助言・当日の補助を行った
3	11月28日	福知山高等学校・附属中学校	福知山高等学校・附属中学校（京都府）	1回	120人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った

4	12月10日	鑑賞の授業	九州国立博物館	3回	100人	『MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館』(MOA美術館「MOA美術館児童作品展in九州国立博物館」実行委員会主催、九州国立博物館共催)にて、博物館の紹介及び館蔵品の解説を実施した。
5	12月20日・21日	トラりんがきゅーはくにやってくる！	三重県立四日市高等学校	1回	90人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
6	1月31日	三重県立四日市高等学校	京都市立烏丸中学校	1回	48人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
7	2月2日	鑑賞の授業	京都市立洛水中学校	1回	66人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
8	2月14日	京都市立烏丸中学校	京都市立洛西中学校	1回	100人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物

3件　41,300部

	名　称	発行部数	備　考
1	特集陳列「丹後の仏教美術」鑑賞ガイド「トラりんと見てみよう！　丹後に伝わる祈りのかたち」	8,000部	7月発行、観覧者（子ども～大人）対象
2	特集陳列「とりづくし」鑑賞ガイド「トラりんと見てみよう！　美術のなかのとりたち」	13,300部	12月発行、観覧者（子ども～大人）対象
3	博物館Dictionary No.188～197	20,000部	4月、6月、7月、8月、10月、11月、29年1月、2月発行、観覧者（子ども～大人）対象

②音声ガイド　―件　―台

③その他メディア　4件

	名　称	発行部数	備　考
1	虎BLOG	―	公式キャラクター「トラりん」のブログを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
2	トラりんTwitter	―	公式キャラクター「トラりん」のTwitterを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
3	トラりんFacebook	―	公式キャラクター「トラりん」のFacebookを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
4	TeachJapan.orgとの連携	―	サンフランシスコ・アジア美術館（アメリカ）とパートナーシップを結び、日本文化を紹介する教育用サイト「TeachJapan.org」の立上げに協力、京都国立博物館の「博物館ディクショナリー」の英語版ページへのリンクを貼ることで、英語圏の教員へのアピールを行った。

【奈良国立博物館】

1)体験型プログラム等　21回　384人

①ハンズオン展示等　―回　―回

②ワークショップ

3回　232人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	4月30日	親と子のワークショップ「空とぶ鉢のおはなし絵巻をつくろう！」	講堂	1回	105人	
2	7月30日	ワークショップ「描いて飾ろう文殊菩薩」	地下回廊	1回	69人	
3	7月31日	特別展「忍性」子ども無料日イベント「きく！みる！ふれる！東征伝絵巻」	講堂	1回	58人	

③その他の体験型プログラム　―回　―人

④児童生徒を対象とした展示　17回　―人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	10月22日～11月7日	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	展覧会特設会場（読売新聞社ブース）	17回	―	27年度受賞作品を展示

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　1回　152人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	10月23日	第68回正倉院展　親子鑑賞会	講堂	1回	152人	

2)学校との連携事業　　55回　　3,425人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

24回　　1,701人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月～2月	学校プログラム	講堂	24回	1,701人	24校（ボランティアによるスライド学習、なら仏像館案内）

②出前授業等　　― 回　　― 人

③職場体験　　3回　　7人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月7日～7月8日	職場体験（奈良県立青翔中学校）	全館	1回	2人	
2	9月14日～9月16日	職場体験（奈良市立春日中学校）	全館	1回	3人	
3	11月30日～12月2日	職場体験（奈良市立若草中学校）	全館	1回	2人	

④教員を対象とした研修　　2回　　80人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月2日	奈良県教職員研修	講堂	1回	60人	ボランティアによるスライド学習、なら仏像館案内
2	8月5日	奈良市世界遺産学習教員研修	全館	1回	20人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

26回　　1,637人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月23日	近畿ブロック少年少女北方領土研修	講堂	1回	95人	ボランティアによるスライド学習、なら仏像館案内
2	6月～1月	奈良市世界遺産学習	講堂	25回	1,542人	ボランティアによるスライド学習、なら仏像館案内

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　― 件　　― 部

②音声ガイド　　1件　　770台

	名　　称	台数	備　　考
1	第68回正倉院展(日本版・子供向け)	770台	利用台数

③その他メディア　　― 件

【九州国立博物館】

1)体験型プログラム等　　2,143回　　7,796人

①ハンズオン展示（あじっぱ・あじ庵・あじぎゃら）等

1,485回　　― 人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月1日～4月17日	芦屋鋳物師（いもじ）の世界 － 中世鋳金の美と受け継がれた技 -「芦屋釜」ハンズオン展示	文化交流展示室第9室	14回	―	展示日数
2	4月1日～29年3月31日	遣唐使船復元コーナー	文化交流展示室第8室	311回	―	開館日数(通年展示)
3	4月1日～29年3月31日	「火焔土器」ハンズオン展示	文化交流展示室第1室	311回	―	展示日数
4	4月1日～29年3月31日	「四季の移ろい」「縁起」、他	あじっぱ	311回	―	開館日数
5	4月1日～29年3月31日	「竹でできた楽器」「カルタ」「おひなさま」、他	あじ庵	311回	―	開館日数
6	7月12日～9月4日	トピック展「火縄銃の世界」「火縄銃」ハンズオン展示	文化交流展示室第11室	49回	―	開催日数
7	7月20日～9月25日	トピック展「全国高等学校考古名品展」「瞳のある土偶」ハンズオン展示	文化交流展示室第3室	60回	―	開催日数
8	8月22日～10月30日	「かくれんぼ」他	あじぎゃら	62回	―	展示日数
9	29年1月1日～3月5日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」体験コーナー（貝輪レプリカ、イモガイ現生品）	展覧会会場	56回	―	開催日数

②ワークショップ

35回　　475人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	5月5日	「始皇帝と大兵馬俑」展ワークショップ「紙で工作！兵馬俑に変身！」	1階エントランスミュージアムホール	4回	167人	
2	5月7日 6月11日 10月8日 12月10日	なりきり学芸員体験	あじぎゃら	8回	35人	小学校３年生以上（大人も可）、各回6人
3	5月21日 8月27日 9月17日 11月19日 29年1月21日	なりきり考古学者体験	あじぎゃら	11回	60人	小学校４年生以上（大人も可）、各回5人

4	12月4日	なりきり文化財カメラマン体験	写場	1回	7人	高校生
5	12月17日	松菊里型竪穴式住居組立ワークショップ	エントランス	1回	14人	「きゅーはく女子考古部」の活動
6	5月14日 6月18日 7月9日 7月31日 10月1日 29年3月5日	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	10回	192人	連続講座6人×4回、単発講座28人×6回

③その他の体験型プログラム　　522回　　7,321人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	4月1日～6月12日	「始皇帝と大兵馬俑」展体験コーナー「秦の単位で身体測定」	展覧会会場	63回	―	開催日数
2	4月1日～ 29年3月31日	南蛮人になってみよう	あじっぱ	311回	―	開館日数
3	5月1日	装飾古墳をデザインしよう （きゅーはくきゃらばん）	熊本県立装飾古墳館	1回	64人	
4	6月19日	民族楽器を体験しよう （きゅーはくきゃらばん）	九州芸文館	1回	180人	
5	6月25日,26日	こどもひかりプロジェクトミュージアムキッズ！全国フェア（きゅーはくきゃらばん）	仙台卸商センター産業見本市会館サンフェスタ	1回	1,470人	
6	7月20日～ 9月25日	トピック展「全国高等学校考古名品展」高校考古部体験	文化交流展示室第3室	60回	―	開催日数
7	7月23日,24日	あじっぱ夏祭り	ミュージアムホール	1回	599人	
8	8月6日	アジアの文化に触れてみよう （きゅーはくきゃらばん）	壱岐市立一支国博物館	1回	111人	
9	8月27日	アジアの文化に触れてみよう （きゅーはくきゃらばん）	福岡県立福岡視覚特別支援学校	1回	10人	
10	10月1日	アジアの楽器に触れてみよう （きゅーはくきゃらばん）	太宰府政庁跡	1回	100人	
11	10月15日,16日	拓本をとってみよう （きゅーはくきゃらばん）	南相馬市博物館	1回	85人	
12	10月22日,23日	アンクルンを鳴らしてみよう （きゅーはくきゃらばん）	JR博多シティ	1回	1,215人	
13	11月5日	鬼瓦作り （きゅーはくきゃらばん）	兵庫県立考古博物館	1回	80人	
14	11月6日	貝で布に色をつけよう （きゅーはくきゃらばん）	兵庫県立人と自然の物館	1回	32人	
15	11月21日	アジアの文化に触れてみよう （きゅーはくきゃらばん）	大野城市立平野中学校	1回	40人	
16	11月23日	アジアの文化に触れてみよう （きゅーはくきゃらばん）	福岡県立少年自然の家「玄海の家」	1回	100人	
17	12月17日	オリジナル灯篭作り （きゅーはくきゃらばん）	仙台メディアテーク	1回	40人	
18	12月17日～ 29年1月10日	「松菊里型竪穴式住居」体験	エントランス	15回	―	展示日数
19	29年1月1日～ 3月5日	「宗像・沖ノ島と大和朝廷」展写真撮影及び古代服「貴頭衣」試着コーナー	展覧会会場入口	56回	―	開催日数
20	29年2月11、12日	アジアの衣装を着てみよう （きゅーはくきゃらばん）	名古屋市博物館	1回	700人	
21	29年2月22日	鬼瓦作り、中国のコマ回し （きゅーはくきゃらばん）	福岡県立社会教育センター	1回	30人	
22	29年2月26日	九博こどもフェスタ	ミュージアムホール	1回	2,465人	カウンター通過人数

④児童生徒を対象とした展示　　101回　　― 人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	10月4日～ 11月20日	特別展「京都　高山寺と明恵上人－特別公開鳥獣戯画」 明恵上人についてのわかりやすい解説パネル	展覧会会場	45回	―	開催日数
2	29年1月1日～ 3月5日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」 わかりやすい解説パネル	展覧会会場	56回	―	開催日数

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　　― 回　　― 人

2)学校との連携事業　　53回　　981人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

18回　　625人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月21日	宇美町立原田小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	96人	
2	5月26日	北九州視覚特別支援学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	30人	
3	6月11日	崇城大学芸術学部	研修室・ 文化交流展示室	1回	15人	
4	6月15日	太宰府市立太宰府中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	24人	
5	6月23日	東佐賀病院	研修室・ 文化交流展示室	1回	30人	

6	6月29日	熊本大学教育学部	研修室・ 文化交流展示室	1回	23人	
7	8月4日	長崎国際大学人間社会学部	研修室・ 文化交流展示室	1回	20人	
8	11月2日	豊前市立合岩中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	46人	
9	11月7日	行橋市立行橋中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	189人	
10	11月8日	豊前市立三毛門小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	41人	
11	11月20日	福智町立方城中学校ＰＴＡ	研修室・ 文化交流展示室	1回	20人	
12	1月18日	大野城市立大野東中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	6人	
13	1月25日	春日市立春日中学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	6人	
14	2月10日	豊前市立宇島小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	34人	
15	2月17日	福岡聴覚特別支援学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	8人	
16	2月21日	筑紫野市筑紫野南小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	6人	
17	2月23日	筑紫野市筑山小学校	研修室・ 文化交流展示室	1回	6人	
18	3月8日	心身障がいセンターリハビリテーション	研修室・ 文化交流展示室	1回	25人	

②出前授業等

6回　179人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月6日	春日市立須玖小学校	須玖小学校	1回	78人	
2	5月9日	佐賀市立新栄小学校	新栄小学校	1回	53人	
3	5月25日、 9月14日	太宰府市立太宰府中学校	太宰府中学校	2回	24人	
4	11月21日、 11月30日	大野城市立平野中学校	平野中学校	2回	24人	

③職場体験

17回　87人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月～9月 1月～2月	県内中学校17校	全館	17回	87人	延べ35日間

④教員を対象とした研修

4回　73人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月2日	福岡県教育センター	研修室・ミュージアムホール	1回	22人	
2	8月25日	福岡県教育センター	研修室・文化交流展示室	1回	40人	
3	8月10日～12日、 8月15日～17日	県内公立高校10校	体験型施設あじっぱ	2回	11人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

8回　17人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	12月4日～ 29年3月19日	ジュニア学芸員体験	会議室・あじっぱ・あじぎゃら	8回	17人	
2	―	学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し	―	47件	―	貸出数は87パック

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　2件　145,000部

	名　称	発行部数	備　考
1	特別展「始皇帝と大兵馬俑」ジュニアガイド「めざせ！始皇帝博士」	65,000部	福岡市、太宰府市の小学3～5年生に事前配布、及び中学生以下の特別展来場者に配布
2	特別展「京都 高山寺と明恵上人」冊子「レジェンド・オブ・明恵」	80,000部	1階エントランスホール（展覧会入場待ち列横）にて配布

②音声ガイド　　― 件　　― 台

③その他メディア　　1件　　1,331回

	名　　称	ダウンロード数	備　　考
1	「京都 高山寺と明恵上人」展冊子「レジェンド・オブ・明恵」WEBダウンロード	1,331回	

1-(3)-①-4　大学生・大学院生を対象とした教育事業

平成29年3月31日現在

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	インターンシップ	22 人	インターンシップ	3 人	インターンシップ	3 人	インターンシップ	4 人
	大学との連携講座	― 件 ― 人	大学との連携講座	1 件 6 人	大学との連携講座	2 件 10 人	大学との連携講座	1 件 40 人
	見学対応	14 回 480 人	見学対応	2 回 35 人	見学対応	― 回 ― 人	見学対応	6 回 243 人
	その他	1 回 36 人	その他	22 回 52 人	その他	― 回 ― 人	その他	11 回 136 人

【東京国立博物館】

1)　インターンシップ　　22 人

受入期間	7月10日～28年3月31日		
受入部署	学芸企画部　情報管理室、150年史編纂室、博物館教育課、教育普及室、教育講座室、出版企画室 学芸研究部　保存修復課 総務部　総務課		
参加者数	22 人	学校数	16 大学／　0 専門学校
担当研究員数	9 人		
事業内容	博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的とした就業体験プログラム。学生は受入部署において、10～30日間の活動を行った。		

2)　大学等との連携講座　　― 件　　― 人

3)　見学対応　　14 回　　480 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	480 人	学校数	14 大学／　0 専門学校
担当研究員数	4人		
事業内容	鑑賞の支援および、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、東京国立博物館の展示や活動についてのガイダンスを実施した。		

4)　その他　　1 回　　36 人

期　　間	8月1日～8月5日		
回　　数	1回		
開催場所	平成館大講堂、平成館小講堂、他		
参加者数	36 人	学校数	23 大学／　専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	キャンパスメンバーズ　博物館セミナー　教育連携事業「博物館学講座」		

【京都国立博物館】

1)　インターンシップ　　3 人

受入期間	8月15日～8月26日、9月6日～9月16日		
受入部署	学芸部　保存修理指導室		
参加者数	3 人	学校数	2 大学／　0 専門学校
担当研究員数	3 人		
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、国宝修理装潢師連盟の協力を得て、文化財修復に関わる加盟大学院生3名のインターンを文化財保存修理所にて受け入れた。11月28日には平成知新館4F研修室にて3名による報告会を行った。（出席者29名）		

2)　大学等との連携講座　　1 件　　6 人

内　　容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	京都国立博物館
受入人数	6 人
担当研究員数	4 人

3)　見学対応　　2 回　　35 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	35 人	学校数	2 大学／　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	鑑賞の手助け、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、京都国立博物館の展示や事業についての解説を含めたガイダンスを実施した。		

4) その他　　22 回　　52 人

期　　間	9月2日		
回　　数	1		
開催場所	京都国立博物館　文化財保存修理所		
参加者数	13 人	学校数	6 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を実施した。実際の修理現場の見学・説明といった研修を行い、学生の意欲や目的意識の向上を図った。		

期　　間	5月18日、5月25日、6月1日、6月22日、6月29日、7月13日、7月20日、8月24日、8月31日、9月14日、9月21日、9月28日、10月19日、11月2日、11月9日、11月30日、12月7日、29年1月11日、2月8日、2月22日		
回　　数	20		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	17 人	学校数	4 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	4 人		
事業内容	「文化財ソムリエに向けたスクーリング」 京都市内の小中学校で訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内の大学で日本文化を専門に学ぶ大学生、大学院生。		

期　　間	11月5日		
回　　数	1		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	22 人	学校数	7 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	「ミュージアム・ユースの交流会」 ミュージアムで活動する大学生同士の交流と、館種を超えたミュージアム関係者の情報交換を行った。 発表者：渡辺浩美（高梁市成羽美術館副館長）、竹田健一郎（國學院大學／こどもひかりユース）、八重樫あすか（宮城女子大学／こどもひかりユース）、濱本彩萌（龍谷大学大学院／文化財ソムリエ）、佐々木 翠（龍谷大学大学院／文化財ソムリエ）		

【奈良国立博物館】

1) インターンシップ　　3 人

受入期間	8月10日、8月12日、8月16日～8月18日（計5日間）		
受入部署	総務課		
参加者数	3 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	1人（職員）		
事業内容	立命館大学とのインターンシップに関する覚書に基づき、将来博物館の運営業務（事務系）への就職を検討している学生を募集し、3名の学生を受け入れ、管理運営に関する就業体験や課題の企画発表等を行った。		

2) 大学等との連携講座　　2 件　　10 人

内　　容	奈良女子大学大学院人間文化研究科との連携講座
実施日	前期、後期
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
受入人数	3 人　（前期1人、後期2人）
担当研究員数	1 人

内　　容	神戸大学大学院人文学研究科との連携講座
実施日	通年
開催場所	神戸大学、奈良国立博物館
受入人数	7 人
担当研究員数	2 人

3) 見学対応　　― 回　　― 人

4) その他　　― 回　　― 人

【九州国立博物館】

1) インターンシップ　　4 人

受入期間	8月22日～27日（5日間）		
受入部署	学芸部博物館科学課		
参加者数	4 人	学校数	3 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	3 人		
事業内容	文化財修理の基本となる作業を体験できる貴重な機会を提供した。		

2)　大学等との連携講座　　1 件　　40 人

内　　容	放送大学の面接授業
実施日	11月12日、13日
開催場所	九州国立博物館
受入人数	40 人
担当研究員数	8 人

3)　見学対応　　6 回　　243 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	243 人	学校数	6 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	3 人		
事業内容	当館の概要についての講義、展示室の解説等を実施した。		

4)　その他　　11 回　　136 人

期　　間	4月27日		
回　　数	1回		
開催場所	筑紫女学園大学		
参加者数	60 人	学校数	大学／　　0 専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	バックヤードツアー		

期　　間	7月27日～8月8日（10日間）		
回　　数	1回		
開催場所	全館		
参加者数	17 人	学校数	13 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	博物館実習		

期　　間	4月15日、5月27日、6月10日、7月8日、8月26日、9月30日、12月2日、2月10日、3月24日		
回　　数	9回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）		
参加者数	59 人	学校数	大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	カフェコンサート		

1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ

平成29年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
52校	27校（※）	25校（※）	25校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入19校

【【東京国立博物館】

①加入校数（52校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	9,651人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,229人	20年4月1日	
3	文化学園（文化学園大学，文化ファッション大学院大学,文化学園大学短期大学部,文化服装学院,文化服装学院広島校，文化外国語専門学校）	7,805人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	6,642人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	4,634人	20年4月1日	
6	東京大学	34,460人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,600人	20年4月1日	
8	杉野学園（杉野服飾大学,杉野服飾大学短期大学部,ドレスメーカー学	1,225人	20年4月1日	
9	大正大学	5,441人	20年4月1日	
10	東海大学	33,244人	20年4月1日	
11	青山学院大学・青山学院女子短期大学	22,280人	20年4月1日	
12	ハリウッド大学院大学・ハリウッドビューティ専門学校	533人	20年4月1日	
13	多摩美術大学	5,249人	20年4月1日	
14	立教大学	23,393人	20年4月1日	
15	首都大学東京	9,952人	20年4月1日	
16	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	3,781人	20年4月1日	
17	東京造形大学	1,924人	20年4月1日	
18	法政大学	38,624人	20年4月1日	
19	筑波大学	21,076人	20年4月1日	
20	昭和女子大学・昭和女子大学短期大学部	6,200人	20年4月1日	
21	実践女子大学・実践女子短期大学	4,938人	20年5月1日	
22	東洋大学	31,833人	20年6月1日	
23	東洋美術学校	1,155人	20年6月1日	
24	日本大学（芸術学部）	4,394人	20年6月1日	
25	文教大学	9,600人	20年7月1日	
26	上智学院（上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校）	16,673人	20年10月1日	
27	国際基督教大学	3,165人	21年4月1日	
28	学習院女子大学	1,900人	21年11月1日	
29	獨協大学	9,396人	22年4月1日	
30	学習院大学	9,336人	22年4月1日	
31	東京工業大学	12,148人	22年7月1日	
32	日本女子大学	8,645人	23年4月1日	
33	二松学舎大学	2,980人	23年5月1日	
34	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	7,068人	23年6月1日	
35	神奈川大学	19,083人	24年6月1日	
36	日本工業大学	4,975人	24年7月1日	
37	東京女子大学	4,468人	24年8月1日	
38	尚美学園大学	3,283人	25年4月1日	
39	中央大学	31,746人	25年6月1日	
40	麗澤大学	2,858人	25年6月1日	
41	慶応義塾大学	44,991人	25年8月1日	
42	一橋大学	6,910人	25年11月1日	
43	共立女子大学・共立女子短期大学	5,521人	26年4月1日	
44	成城大学　文芸学部	1,975人	26年4月1日	
45	日本文化大學	800人	27年4月1日	
46	鶴見大学　文学部　文学研究科	1,433人	27年5月1日	
47	十文字学園女子大学・十文字学園女子大学短期大学部	3,508人	27年6月1日	
48	早稲田大学　文化構想学部　多元文化論系	562人	27年6月1日	
49	東京外国語大学	4,895人	28年4月1日	
50	横浜国立大学	10,792人	28年4月1日	
51	國學院大學	12,599人	28年4月1日	
52	聖心女子大学	2,620人	28年5月1日	

※キャンパスメンバーズ対象人数が学生＋教員数のため、学生数には教員の人数も含む。

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズ教育連携事業	
期　　間	5月6日、7月29日（2日間）
開催場所	平成館小講堂
参加者数	38人
担当研究員数	1人
事業内容	クリエイティブデザイン専攻3年生を対象にした授業「セールスプロモーション」に協力。キャンパスメンバーズの活性化策を提案させる授業を実施。初回では東博の概要と鑑賞方法、現在の来館者像とキャンパスメンバーズの取組や課題などの講義を行った。2回目はキャンパスメンバーズ加入校学生の入館率向上について東博職員に向けてプレゼンテーションを行った。

【京都国立博物館】

①　加入校数（27校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	佛教大学	18,349人	19年4月1日	奈良博との2館併用	
2	就実大学人文科学部	1,034人	20年4月1日	奈良博との2館併用	
3	学校法人同志社	40,110人	19年4月1日	奈良博との2館併用	
4	奈良大学	3,847人	19年5月1日	奈良博との2館併用	
5	学校法人　関西大学	30,635人	23年6月1日	奈良博との2館併用	
6	学校法人　京都産業大学	14,372人	24年8月1日	H28より京博のみ	
7	帝塚山大学・附属高等学校	3,528人	18年6月1日	奈良博との2館併用	
8	奈良女子大学	2,692人	18年6月1日	奈良博との2館併用	
9	京都造形芸術大学	9,835人	18年6月1日	京博のみ	
10	京都工芸繊維大学	4,077人	19年6月1日	奈良博との2館併用	
11	京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学	779人	18年7月1日	奈良博との2館併用	
12	京都精華大学	3,464人	18年7月1日	奈良博との2館併用	
13	龍谷大学・龍谷短期大学	20,596人	18年7月1日	奈良博との2館併用	
14	京都女子大学・京都女子短期大学	7,575人	18年7月1日	京博のみ	
15	京都橘大学	4,859人	18年7月1日	奈良博との2館併用	
16	京都教育大学・附属高等学校	2,357人	20年7月1日	奈良博との2館併用	
17	成安造形大学	803人	18年8月1日	京博のみ	
18	京都市立芸術大学	1,078人	20年8月1日	京博のみ	
19	京都大学	23,391人	18年9月1日	奈良博との2館併用	
20	近畿大学文芸学部	2,187人	18年9月1日	奈良博との2館併用	
21	花園大学	2,077人	18年11月1日	京博のみ	
22	奈良先端科学技術大学院大学	1,161人	19年12月1日	奈良博との2館併用	
23	大谷大学・大谷短期大学	3,414人	18年12月1日	京博のみ	
24	大阪大学	24,555人	20年12月1日	奈良博との2館併用	
25	京都外国語大学・京都外国語短期大学	4,793人	21年8月1日	奈良博との2館併用	
26	京都府立大学	2,136人	23年7月1日	京博のみ	
27	立命館大学	36,132人	26年4月1日	奈良博との2館併用	

奈良国立博物館】

①加入校数（25校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良教育大学	1,382人	18年4月4日	奈良博のみ	
2	奈良学園大学　（奈良文化高等学校、奈良学園高等学校、奈良学園大学奈良文化女子短期大学部、奈良学園登美ヶ丘高等学校）	2,519 人	18 年 10 月 1 日	同上	
3	奈良佐保短期大学	290人	18 年 11 月 29 日	同上	
4	天理大学	3,262人	20 年 7 月 1 日	同上	
5	奈良県立大学	654人	21年4月1日	同上	
6	奈良工業高等専門学校	1,072人	23年7月1日	同上	
7	帝塚山大学	3,829人	18 年 5 月 8 日	京博との2館併用	
8	奈良女子大学	2,692人	18年5月15日	同上	
9	京都嵯峨芸術大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部	779人	18年6月9日	同上	
10	京都精華大学	3,464人	18年6月28日	同上	
11	京都橘大学	4,859人	18年6月30日	同上	
12	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	20,596人	18年6月30日	同上	
13	京都大学	23,391人	18年8月22日	同上	
14	近畿大学文芸学部、近畿大学大学院総合文化研究科	2,171人	18年8月24日	同上	
15	佛教大学	18,349人	19年4月1日	同上	
16	奈良大学	3,847人	19 年 5 月 2 日	同上	
17	京都工芸繊維大学	4,077人	19年6月1日	同上	
18	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	40,110人	19年6月1日	同上	
19	奈良先端科学技術大学院大学	1,161人	19年11月7日	同上	
20	就実大学　人文科学部	1,034人	20年4月1日	同上	
21	京都教育大学、京都教育大学附属高等学校	2,357人	20年7月1日	同上	
22	大阪大学、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校	24,555人	20年12月1日	同上	
23	京都外国語大学、京都外国語短期大学	4,793人	21年8月1日	同上	
24	関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部	33,440人	23年6月1日	同上	
25	立命館大学	36,132人	26年4月1日	同上	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズカード	
内　　容	キャンパスメンバーズ加入大学の学生のリピート来館を促すことを目的にキャンパスメンバーズカードを作成、 来館毎にスタンプを押印し、３回目と６回目に当館のオリジナルグッズを進呈するスタンプラリーを実施。 キャンパスメンバーズカードと併せて、告知のポスターとカード立てを作成しキャンパスメンバーズ加入大学に配布。

【九州国立博物館】

①　加入校数（25校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州産業大学	10,627人	28年4月1日	
2	九州情報大学	440人	28年4月1日	
3	九州大学	19,174人	26年4月1日	
4	久留米大学	6,887人	28年4月1日	
5	西南学院大学	8,392人	28年4月1日	
6	第一薬科大学	1,173人	28年4月1日	
7	筑紫女学園大学	2,637人	27年4月1日	
8	日本赤十字九州国際看護大学	477人	26年4月1日	
9	日本経済大学（福岡キャンパス）	2,685人	26年5月1日	
10	福岡教育大学	5,703人	26年4月1日	
11	福岡国際大学	298人	28年4月1日	
12	福岡女子大学	1,065人	27年4月1日	
13	福岡大学	21,014人	28年4月1日	
14	放送大学福岡学習センター	2,330人	26年4月1日	
15	早稲田大学大学院情報生産システム研究科（北九州キャンパス）	376人	26年4月1日	
16	九州造形短期大学	270人	28年4月1日	
17	筑紫女学園大学短期大学部	286人	27年4月1日	
18	福岡女子短期大学	492人	28年4月1日	
19	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	150人	28年4月1日	
20	久留米大学附設高等学校	595人	28年4月1日	
21	西南学院高等学校	1,322人	28年4月1日	
22	筑紫女学園高等学校	1,437人	27年4月1日	
23	筑紫台高等学校	1,900人	27年4月1日	
24	福岡大学附属大濠高等学校	1,951人	28年4月1日	
25	福岡大学附属若葉高等学校	1,128人	28年4月1日	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：きゅーはくカフェコンサート	
内　　容	カフェコンサート（福岡女子短期大学の学生による演奏）
実施期間	4月15日、5月27日、6月10日、7月8日、8月26日、9月30日、12月2日、29年2月10日、3月24日
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）

事業名：「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業（文化芸術振興費補助金）」学芸員技術研修会	
内　　容	研修会（九州産業大学の学生および学芸員を対象）
実施期間	9月21日
開催場所	研修室および文化交流展示室

事業名：バックヤードツアー	
内　　容	バックヤードの見学、案内
実施期間	4月27日
開催場所	九州国立博物館内

1-(3)-①-6 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 10月8日(土) 9：30～17：00	○参加者数　676人《887人》 ・無料観覧（総合文化展のみ） ・ボランティアによる茶会 参加者数：30人 ・気軽にお茶体験 参加者：134人 ・ボランティアによる英語ガイド 参加者数：431人 ・ボランティアによるガイドツアー 参加者数：156人	・留学生アンケート回答者数16人 （回収率16%） ・来館頻度：初めて94%、2回目以降6% ・認知経路：ポスター・チラシ 36%、友人・教師24%　他 ・出身国：中国37.5%　他 ・また博物館に来たいか：ぜひ来たい 28.5%来たい64.2%、たぶん来ない7%、来ない0%
京都国立博物館 9月9日(金) 無料観覧9：30～20：00 茶道体験10:30～16:30	○参加者数　33人《185人》 留学生　30人《185人》 同伴者　3人《0人》 ・名品ギャラリー無料観覧 ・無料茶道体験 参加者数　29人	・留学生アンケート回答者数4人（男1、女3） （回収率12%） ・来館頻度：初めて75%、2回目以降25% ・「留学生の日」：初めて100% ・認知経路：HPを見て25%、友人・教師25%　他50% ・展示内容：とても良かった50%、良かった50% ・茶道体験：とても良かった25%、無回答75% ・出身国：中国100% ・現住所：京都市内75%、大阪府1人
奈良国立博物館 11月1日(火) 9：00～18:00 (正倉院展会期中のため9：00開館)	○来館者数　11,549人《16,352人》 留学生　49人《94人》 ・「正倉院展」(特別展)及び「名品展」の無料観覧	・アンケート実施せず （正倉院展開催中につき実施困難）
九州国立博物館 11月3日(木・祝) 9：30～17：00	○来館者数 文化交流展(平常展)　1,626人《4,039人》 留学生　13人《　16人》 ※同伴者のカウントはなし ・文化交流展（平常展）のみ無料観覧 ・留学生限定文化交流ツアーin九博	・文化交流ツアー参加者アンケート 回答13人（回収率93%） ・1年間の来館頻度：1回15%、2回15%、3回39%、4回23%、5回8% ・認知経路：ホームページ15%、友達から39%、学校から31%、メール15% ・満足度：とても楽しかった61%、楽しかった39% ・スタッフの対応について：とてもよかった84%、よかった8%、普通だった8%

＊来館者数、参加者数等：《　》内は平成27年度

1-(3)-①-7　ボランティア受入実績　　（後述の資料に記載）◎共通資料b

1-(3)-①-8 友の会・パスポート等

1) 会員数

友の会　　平成29年3月31日現在

館名＼区分	友の会会員数 (年会費10,300円) ※継続：9,800円/東京国立博物館
東京国立博物館	2,337人
九州国立博物館	268人

パスポート　　平成29年3月31日現在

館名＼区分（年会費）	パスポート会員数	一般(4,100円)	一般(3,100円)	29歳以下(3,000円)	学生(2,500円)	学生(2,100円)	家族(6,200円)
東京国立博物館	23,778人	22,176人	―	614人	988人	―	―
京都国立博物館	5,493人	―	5,327人	―	―	166人	―
奈良国立博物館	3,739人	―	3,597人	―	―	106人	36人
九州国立博物館	5,748人		3,660人			2,088人	

ベーシック(26年4月1日より新設)　　平成29年3月31日現在

館名＼区分（年会費）	ベーシック会員数	一般(1,500円)	29歳以下(1,100円)	学生(900円)
東京国立博物館	2,369人	2,027人	268人	74人

2) 友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

『東京国立博物館ニュース』、東大寺講演会開催案内送付、コンサートの鑑賞割引、当館ミュージアムショップの商品の一部割引、レストラン・カフェでの飲食料金の割引、総合文化展招待券の配布。

【九州国立博物館】

季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展示ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

1-(3)-①-9 賛助会

1) 会員数

平成29年3月31日現在

館名	東京国立博物館	京都国立博物館		奈良国立博物館
		（一般社団法人清風会）	（ミュージアム・パートナー）	
件数	455件	362人	8件	73件
内訳	プレミアム会員(個人)：3人 特別会員(団体)：19団体 特別会員(個人)：8人 維持会員(団体)：45団体 維持会員(個人)：380人	賛助会員（団体）：32人 特別会員（団体）：25人 特別会員（個人）：39人 普通会員（団体）：13人 普通会員（個人）：253人	団体会員：7件 個人会員：1件	特別支援会員：4団体 特別会員：4団体 一般会員(団体)：15団体 一般会員(個人)：50人

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

①当館総合文化展、特別展（維持会員および特別会員個人は展覧会毎に1回）の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
④『東京国立博物館ニュース』（年6回）の配布
⑤当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑥当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

【京都国立博物館】

①『京都国立博物館だより』（年4回）の配布
②当館平常展（平成知新館名品ギャラリー）、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】

①当館平常展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③展覧会図録の1冊贈呈
④『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
⑤当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑥当館レストランでの飲食料金の割引
⑦当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
・4月12日（火）　特別展「国宝　信貴山縁起絵巻」
　特別鑑賞会　参加人数49名
・7月26日（火）　特別展「忍性　―救済に捧げた生涯―」
　特別鑑賞会　参加人数33名
・10月24日（月）　特別展「第68回正倉院展」
　特別鑑賞会　参加人数120名

1-(3)-①-10 渉外活動

平成 29 年 3 月 31 日現在

【東京国立博物館】

1) 会場提供　1 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）
1	11 月 10 日 ～11 月 15 日	展示会	台東区主催によるイベント（伝統工芸職人展）	平成館ラウンジ	13,085

2) 館主催・協力イベント　33 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	タイトル	会場	出席者数（人）	備考
1	4 月 5 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2016「東博でバッハ vol.30」 有希 マヌエラ・ヤンケ	法隆寺宝物館	115	東京・春・音楽祭実行委員会共催
2	4 月 13 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2016「東博でバッハ vol.31」 エマヌエーレ・セグレ	法隆寺宝物館	96	東京・春・音楽祭実行委員会共催
3	6 月 5 日	イベント	初夏東博寄席	平成館大講堂	299	当館主催
4	6 月 12 日	音楽会	東京国立博物館　初夏のコンサート	平成館ラウンジ	234	サロン・ド・ソネット共催
5	6 月 19 日	音楽会	ファミリーコンサート	平成館ラウンジ	480 （2 回計）	東京クラリネット･クワイアー共催 上野のれん会、東京国立博物館協力会協賛
6	7 月 15 日 7 月 16 日	イベント	博物館で野外シネマ 映画「時をかける少女」 （2006 年、細田守監督）	本館前	6,827 （2 回計）	当館主催
7	8 月 15 日	音楽会	日本の楽器のコンサート	本館エントランス	500	当館主催
8	8 月 24 日	イベント	仕事帰りに東博寄席	平成館大講堂	97	当館主催
9	9 月 10 日	講演会	上野の山文化ゾーンフェスティバル 講演会シリーズ「和紙の魅力」	平成館大講堂	250	上野の山文化ゾーン連絡協議会
10	9 月 20 日 ～10 月 1 日	イベント	柳瀬荘アートプロジェクト	柳瀬荘	197	日本大学芸術学部共催
11	9 月 22 日	音楽会	東京国立博物館　秋のコンサート	平成館ラウンジ	223	サロン・ド・ソネット共催
12	9 月 26 日	音楽会	アジアの旅　シタールの演奏	東洋館	440 （2 回計）	当館主催
13	9 月 28 日	音楽会	アジアの旅　古箏・馬頭琴の演奏	東洋館	670 （2 回計）	当館主催
14	10 月 8 日	講演会	上野の山文化ゾーンフェスティバル 講演会シリーズ「東博における翻訳」	平成館大講堂	110	上野の山文化ゾーン連絡協議会
15	10 月 10 日	イベント	アジアの旅　中国伝統芸術ショー	東洋館前	1,100 （2 回計）	当館主催
16	10 月 14 日 10 月 15 日	イベント	博物館で野外シネマ 映画「秒速 5 センチメートル」（2007 年、新海誠監督）	本館前	10,500 （2 回計）	当館主催
17	10 月 29 日	音楽会	Music Weeks in TOKYO 2016 まちなかコンサート	法隆寺宝物館	300	東京文化会館他共催
18	11 月 3 日 ～11 月 5 日	イベント	創エネ･あかりパーク 2016 に伴うライトアップ	本館前庭	―	「創エネ・あかりパーク 2016」実行委員会共催
19	11 月 9 日	講演会	東大寺講演会	平成館大講堂	285	東大寺共催
20	29 年 1 月 2 日	イベント	和太鼓（批魅鼓）	本館前	1,296	当館主催
21	29 年 1 月 2 日	イベント	曲独楽・落語（三増紋之助・三遊亭歌奴）	平成館大講堂	935	当館主催
22	29 年 1 月 2 日	イベント	獅子舞（東部葛西囃子睦会中村社中）	本館前	1,430	当館主催
23	29 年 1 月 2 日	イベント	ニューイヤーオペラコンサート(カンターレ 2020)	本館前	957	当館主催
24	29 年 1 月 3 日	イベント	和太鼓（白梅太鼓）	本館前	1,628	当館主催
25	29 年 1 月 3 日	イベント	曲独楽・落語（三増紋之助・三遊亭歌奴）	平成館ラウンジ	785	当館主催
26	29 年 1 月 3 日	イベント	クラリネット（ジュリアンズ）	平成館ラウンジ	723	当館主催
27	29 年 1 月 3 日	イベント	獅子舞（東部葛西囃子睦会中村社中）	本館前	1,311	当館主催
28	29 年 1 月 8 日	イベント	新春東博寄席	平成館大講堂	358	当館主催
29	29 年 3 月 10 日	音楽会	東京国立博物館×東京･春･音楽祭　夜の音巡り～桜の街の音楽会スペシャル	本館池前　他	650 （4 回計）	東京・春・音楽祭実行委員会共催
30	29 年 3 月 22 日	音楽会	東京･春･音楽祭 201「東博でバッハ vol.32」 御喜美江	法隆寺宝物館	111	東京・春・音楽祭実行委員会共催
31	29 年 3 月 25 日	イベント	東京･春･音楽祭 2017「東博でバッハ vol.33」 イェンス＝ペーター・マインツ	平成館ラウンジ	240	東京・春・音楽祭実行委員会共催

	期間	種類（イベント、講演会等）	タイトル	会場	出席者数（人）	備考
32	29年3月28日	イベント	東京･春･音楽祭 2017「東博でバッハ vol.34」北村朋幹	平成館ラウンジ	147	東京・春・音楽祭実行委員会共催
33	28年3月31日	イベント	東京･春･音楽祭 2017　桜の街の音楽会　ヴァイオリン・ソロ	法隆寺宝物館エントランス	300	東京・春・音楽祭実行委員会共催

【京都国立博物館】

1）会場提供　　86件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月6日	撮影	写真撮影（結婚式前撮り）	茶室	4	（株）ラリアンス
2	4月14日	研修	修理技術者資格制度　新任者研修会	研修室	15	国宝修理装こう師連盟
3	4月16日	茶席	茶会	茶室	5	上月　宗佳
4	4月19日	撮影	写真撮影（結婚式前撮り）	茶室	5	（株）elle pupa
5	4月20日	講義･交流会	三古都R.C.合同懇親会	講堂、グランドロビー	141	京都ロータリークラブ
6	4月27日	茶席	茶会	茶室	5	（株）Small J
7	4月27日	講義	展覧会解説	講堂	43	東武トップツアーズ（株）
8	5月5日	撮影	写真撮影（成人式前撮り）	茶室	12	オンディーヌ京都烏丸店
9	5月13日	審査会	修理技術者資格制度　登録審査	研修室・会議室	15	国宝修理装こう師連盟
10	5月15日	茶席	茶会	茶室	5	上月　宗佳
11	5月20日	茶席	茶会	茶室	9	（株）Small J
12	5月21日	撮影	写真撮影（商品撮影）	茶室	11	（有）京都きもの町
13	5月29日	撮影	写真撮影講習会	茶室	30	京都新聞文化センター
14	5月30日	撮影	写真撮影（商品撮影）	平成知新館・レストラン	6	パブリック（株）
15	6月1日	茶席	茶会	茶室	9	（株）Small J
16	6月3日	講義	シアター鑑賞、建築解説	講堂	16	ウィスコンシン州立大学ミルウォーキー校
17	6月7日	演奏会	演奏会	茶室	15	荒井　康人
18	6月9日	茶席	茶会	茶室	50	香道　泉御流
19	6月11日	イベント	結婚式・披露宴	本館前広場、技術資料参考館、グランドロビー	59	株式会社キュー
20	6月17日	茶席	茶会	茶室	9	（株）Small J
21	6月22日	特別鑑賞会	懇親会、鑑賞会	講堂、グランドロビー	40	（株）聖護院八ツ橋総本店
22	6月26日	茶席	茶会	茶室	5	上月　宗佳
23	7月8日	講習会	修理技術者資格制度　講習会	研修室・会議室	40	国宝修理装こう師連盟
24	7月17日	茶席	中国茶事	茶室	10	うつわ京都やまほん
25	7月19日	撮影	写真撮影（商品撮影）	本館前広場	5	アルファルファ
26	8月1日・10日・23日・30日・31日・9月7日・8日	練習会	合唱団稽古	講堂	93	さわかみオペラ芸術振興一般財団法人
27	8月7日	イベント	野外オペラ「トゥーランドット」プレイベント『オペラって、こんなにおもしろい！』	講堂、接客室	219	さわかみオペラ芸術振興一般財団法人
28	8月8日	撮影	日経ビジネスオンライン取材	茶室	4	南條　正典
29	8月27日	撮影	写真撮影（舞妓撮影会）	茶室	4	今井　貴弘
30	8月28日	講義	庭園学講座	講堂	80	京都造形芸術大学
31	9月2日	勉強会	京都美術クラブ勉強会	講堂	50	京都美術青年会
32	9月7日～9日	講義	展示論講座	研修室、会議室、講堂、接客室	118	日本展示学会
33	9月8日	撮影	写真撮影（和服カタログ）	茶室	5	（株）瑞穂
34	9月9日	イベント	VIDAL SASSOON SPECIAL EVENT	講堂	50	京都理容美容専修学校
35	9月12日	撮影	ドラマ撮影	明治古都館前広場、噴水前広場、グランドロビー、接客室1・2	30	株式会社松竹撮影所
36	9月14日	会議	修理技術者資格制度　準備委員会	研修室・会議室	10	国宝修理装こう師連盟
37	9月27日	講義	埼玉大学教育学部付属中学校州修学旅行	講堂	200	株式会社　湯旅
38	10月1日～2日	茶席	茶会	茶室	100	梶　高明
39	10月3日	交流会	歓迎レセプション	グランドロビー、水盤上テラス、本館前広場、噴水広場、接客室、屋外テラス	500	STS フォーラム支援京都実行委員会
40	10月5日	資格試験	修理技術者資格制度　1次試験	研修室・会議室	20	国宝修理装こう師連盟

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
41	10 月 5 日・9 日	研修	従事者研修	講堂、大会議室	60	株式会社ザ・アール大阪支店
42	10 月 9 日～10 日	茶席	歌会・茶会・書筆展	茶室	70	山茶花社
43	10 月 16 日	演奏会	篠笛の演奏と体験会	茶室	20	榊原　恭子
44	10 月 17 日	撮影	写真撮影	茶室	10	京都フラワーツーリズム
45	10 月 31 日	撮影	製品カタログ用写真	1F ロビー、ホワイエ、接客室	7	タキヤ株式会社
46	11 月 2 日	撮影	取材場所	茶室	7	（株）ユース・プラニング・センター
47	11 月 2 日	資格試験	修理技術者資格制度　2 次試験	研修室・会議室	20	国宝修理装こう師連盟
48	11 月 3 日	講義	展覧会解説	講堂	9	株式会社三越伊勢丹旅行
49	11 月 4 日～5 日	茶席	茶会	茶室	200	五条坂茶わん坂ネットワーク
50	11 月 5 日	講義	展覧会解説	講堂	34	株式会社三越伊勢丹旅行
51	11 月 6 日	茶席	茶会	茶室	5	上月　宗佳
52	11 月 9 日	講義	建築解説・展示解説	講堂	70	ケイミュー株式会社（JTB）
53	11 月 11 日	撮影	写真撮影（結婚式前撮り）	茶室	4	（株）ラリアンス
54	11 月 14 日	撮影	ドラマ撮影	明治古都館前広場	45	東映株式会社
55	11 月 16 日	交流会	ワインスクール	グランドロビー、接客室	79	自由が丘ワインスクール
56	11 月 17 日～20 日	イベント	太閤まつり広報ブース設営	正門前通路	4	東山南部地域活性化委員会
57	11 月 18 日	撮影	写真撮影（結婚式前撮り）	茶室	4	（株）ラリアンス
58	11 月 20 日	撮影	写真撮影（A-Style 取材）	茶室	6	（有）ディー・アーキテグノ
59	11 月 22 日	研修	H28 年度研修会	講堂	100	京都府文化財所有者等連絡協議会
60	11 月 23 日	撮影	写真撮影（ヨガ）	茶室	15	PATARI
61	11 月 23 日	茶席	茶会	茶室	14	歩々佳風
62	11 月 25 日～26 日	講習会	講習会	研修室、会議室	15	国宝修理装こう師連盟
63	11 月 26 日	撮影	写真撮影（コスプレ）	茶室	8	福井　香月
64	11 月 27 日	茶席	茶会	茶室	5	菊地原　節子
65	12 月 3 日	撮影	写真撮影（島原菊川太夫）	茶室	4	祇園新地　甲部お茶屋
66	12 月 4 日	茶席	茶会	茶室	7	（株）Small J
67	12 月 5 日	交流会	懇親会	グランドロビー	100	京信ジュニア・オーナー・クラブ
68	12 月 11 日	茶席	茶会	茶室	5	上月　宗佳
69	12 月 13 日	撮影	TV-CM 撮影	噴水広場	15	株式会社高映企画
70	12 月 16 日	研修会	H28 年度京博連加盟施設職員研修会	講堂	200	京都市内博物館施設連絡協議会
71	12 月 16 日	講習会	研究例会	講堂	30	西陣織物研究会
72	12 月 17 日	茶席	茶会・演奏会	茶室	10	「お茶と音楽のハーモニー」実行委員会
73	12 月 18 日	茶席	茶会	茶室	45	春秋山荘
74	29 年 1 月 15 日	演奏会	オーディション	講堂	200	日本イタリア協会
75	29 年 1 月 20 日	茶席	茶会	茶室	6	（株）Small J
76	29 年 1 月 21 日～22 日、2 月 4 日～5 日	茶席	茶会	茶室	30	（株）NHK 文化センター京都支社
77	29 年 1 月 23 日	撮影	カタログ撮影	グランドロビー、明治古都館前、噴水広場、正門前	10	有限会社 K's Plus
78	29 年 2 月 6 日	茶席	茶会	茶室	19	陳　剛
79	29 年 2 月 14 日	撮影	取材場所	茶室	4	（株）ウェッジ
80	29 年 2 月 26 日	演奏会	オーディション	講堂	204	公益財団法人　さわかみオペラ芸術振興財団
81	29 年 3 月 3 日	講義	展示解説	講堂	30	株式会社 J-MIND
82	29 年 3 月 5 日	撮影	写真撮影（芸舞妓）	茶室、正門前広場	25	（株）ライカカメラ
83	29 年 3 月 17 日	撮影	商品撮影	茶室	11	（有）京都きもの町
84	29 年 3 月 20 日	撮影	写真撮影（花魁）	茶室	10	エニシモ撮影会
85	29 年 3 月 24 日	茶席	茶会	茶室	5	（株）Small J
86	29 年 3 月 30 日～31 日	茶席	茶会	茶室	5	（株）Small J

2) 館主催・協力イベント　30件

	期間	種類（イベント、講演会等）	タイトル	会場	出席者（人）	備考
1	4月12日、15日、19日、22日、26日、29日、5月3日、6日、10日、13日、17日、20日	イベント	ロビー講話	グランドロビー	12日間計 3,224	主催：当館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞
2	4月17日、21日、5月1日、5日、12日、19日	イベント	坐禅会	講堂	6日間計 1,247	主催：当館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞
3	4月27日	イベント	京都春の禅寺一斉公開事業PR	京都美風コーナー（京都駅ビルインフォメーション前）	100	主催：公益社団法人京都市観光協会
4	4月29日 5月8日	イベント	声明―禅の祈り	講堂	180 180	主催：当館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞
5	5月3日	イベント	四頭茶会	講堂	180	主催：当館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞
6	5月13日	落語	京都・らくご博物館（春）～新緑寄席～	講堂	135	協力：米朝事務所
7	5月15日	イベント	狂言「にせ地蔵」「でんでん虫」	講堂	180	主催：当館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞
8	5月18日	音楽会	Hijiya Music Club コンサート	講堂	192	主催：土屋医院
9	8月5日	落語	京都・らくご博物館（夏）～納涼寄席～	講堂	155	協力：米朝事務所
10	9月7~9日	講演会	日本展示学会　2016年度展示論講座―博物館の展示	講堂、会議室	32	主催：日本展示学会　共催：京都国立博物館
11	10月1日	音楽会	ヒジヤミュージッククラブオータムコンサート2016	講堂	122	主催：土屋医院
12	10月8日	音楽会	音燈華コンサート	正門前広場・噴水広場	538	共催：大和ハウス
13	10月16日	イベント	京都国際映画祭共催企画「時代劇は死なず ちゃんばら美学考」上映会＋トークイベント	講堂	180	共催：京都国際映画祭実行委員会
14	10月21日	落語	京都・らくご博物館（秋）～錦秋寄席～	講堂	128	協力：米朝事務所
15	11月3日	イベント	「刀剣乱舞DAY」特別トークショー	講堂	200	主催：当館、読売新聞社、読売テレビ
16	11月15日	音楽会	月琴コンサート	講堂	146	主催：当館、読売新聞社、読売テレビ
17	11月22日	講演会	平成28年度京都府文化財所有者等連絡協議会研修会	講堂	132	主催：京都府文化財所有者等連絡協議会
18	12月10日	イベント	「MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館」コラボ企画　トラりんがきゅーはくにやってくる！	九州国立博物館 ミュージアムホール	100	主催：MOA美術館「MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館」実行委員会 共催：九州国立博物館
19	12月13日	会議	文化財防災ネットワーク推進事業　中部・近畿文化財関係者による文化財防災連絡会議	講堂	74	主催：当館、奈良国立博物館、奈良文化財研究所
20	12月13日～14日	研修	関西博物館連盟第１５６回例会・幹事会・研修会	講堂、会議室	12	主催：関西博物館連盟
21	12月31日	イベント	開館120周年記念カウントダウン	講堂、庭園	1000	共催：大和ハウス
22	29年1月2日	対談	新春・京博こと始め2017「山口晃×佐々木丞平 覗いてみよう、山口晃の頭の中」	講堂	204	主催：当館、凸版印刷社
23	29年1月2日	音楽会	ヒジヤミュージッククラブ新春コンサート	講堂	220	主催：当館、共催：土屋医院
24	29年1月3日	イベント	親子で餅つき大会	庭園	250	主催：当館
25	29年1月8日	イベント	芸舞妓　春の舞	グランドロビー	400	主催：当館
26	29年1月27日	落語	京都・らくご博物館（冬）～特別企画・ざこば一門会～	講堂	134	協力：米朝事務所
27	29年2月4日	イベント	京あるき　in 東京	KITTE1階アトリウム	100	主催：京都市、京都商工会議所、（公社）京都市観光協会、京都創生再生フォーラム
28	3月11日	コンサート	京都国立博物館120周年記念コンサート　―文化財を守り未来へ継承！　3.11を決意の日に―	明治古都館	200	主催：京都国立博物館120周年記念コンサート実行委員会

	期間	種類（イベント、講演会等）	タイトル	会場	出席者（人）	備考
29	3 月 18 日	イベント	京キャラ博・京都ほんまもん祭	庭園、明治古都館	7,245	主催：当館、京都府、京都府商工会連合会、京都府商工会議所連合会、主管：株式会社キュー
30	3 月 25 日、26 日	イベント	開館 120 周年記念呈茶	茶室	169	主催：当館

【奈良国立博物館】

1）会場提供　23 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月26日～4月27日	茶会	茶会	茶室	10	裏千家教授小林順子
2	7月3日	コンサート	吉桑道子「宇宙に祈る」ゴスペルコンサート	仏教美術資料研究センター	70	吉桑道子「宇宙に祈る」ゴスペルコンサート実行委員会
3	7月6日	講演会	「東大寺と奈良町周辺の文化財を訪ねて」	講堂	49	岐阜県文化財保護協会
4	8月6日～8月7日	コンサート	音燈華　ジュスカ・グランペール（ギター・バイオリンの演奏）	庭園・西新館南ピロティ	872	寧屋舎中合同会社
5	8月8日	会議	能楽学会常任委員会	会議室	18	能楽学会
6	8月8日	セミナー	能楽に関する研究会「世阿弥忌セミナー」	講堂	91	能楽学会
7	8月27日～8月28日	敷地提供	24 時間テレビ募金会場	新館玄関前ピロティ	—	読売テレビ 24 時間テレビ事務局
8	9月29日	講演会	「奈良古典芸能フェスティバル」参加者への「なら仏像館」解説と見学	講堂・展示室	12	京都観光企画（株）
9	10月21日～11月7日	休憩所	休憩所及び甘味の販売	新館西側敷地	—	(株)鶴屋吉信
10	10月21日～11月7日	キャンペーン	正倉院展図録、グッズ等の販売	西新館・地下回廊	—	(財)仏教美術協会
11	10月22日～11月7日	茶席	正倉院展「野点のお茶席」	西新館南側ピロティ・庭園	13,448	結の会
12	10月22日～11月7日	休憩所	休憩所及びフード・ドリンクの販売	新館西側敷地	—	㈲日本クリーンシステムズ
13	10月22日～11月7日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	—	校倉な会
14	10月22日～11月7日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	—	なら和み館
15	10月22日～11月7日	キャンペーン	郵便切手・はがき類の販売	新館西側敷地	—	奈良中央郵便局
16	11月7日	視察調査	正倉院展の概要説明聴取	会議室	17	福岡県議会文教委員会
17	11月13日	イベント	「フェラーリ・カヴァルケードインターナショナル 2016」	なら仏像館西側敷地	—	Ferrari spa
18	12月17日	敷地提供	春日若宮おん祭執行に係る敷地提供	一の鳥居付近の敷地	—	春日大社
19	29年1月18日	講演会	春日大社神職による講演	講堂	70	
20	29年2月8日	講義	特別講義「お水取りと奈良時代の文化」	講堂・展示室	197	
21	29年2月9日	茶会	第四回珠光茶会	茶室	100	
22	29年2月10日	講演会	「総合的な学習の時間」のための鹿愛護会による講演	講堂	86	
23	29年3月26日	茶会	茶会	茶室	50	

2）館主催・協力イベント　52 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月2日～4月3日	イベント	庭園定点解説	庭園	—	
2	4月7日～5月22日	展示	特別展「信貴山縁起絵巻」の信貴山真華流のいけばな展示	西新館 1F ロビー	—	
3	4月9日・16日・30日	イベント	「しぎとらくん」が奈良博にやってくる！	新館前広場	821	
4	4月10日・16日	イベント	春の庭園散策ツアー	庭園	73	
5	4月11日	鑑賞会	休館日内覧会講堂解説	講堂・展示室	37	クラブツーリズム

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
6	4月12日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	49	
7	4月13日	鑑賞会	わいずクラブ特別鑑賞会	講堂・展示室	131	読売新聞
8	4月13日～4月14日	鑑賞会	タクシー・ホテル等関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	68	
9	4月22日	イベント	朝護孫子寺の貫主による講話「毘沙門天王信仰の欲と徳」	講堂	150	
10	4月23日	鑑賞会	夜間特別鑑賞会	講堂・展示室	190	JR東海ツアーズ
11	4月30日	イベント	親と子のワークショップ「空とぶ鉢のおはなし絵巻をつくろう！」	講堂	105	
12	5月10日	イベント	朝護孫子寺の貫主による講話「信貴山の毘沙門天王」	講堂	130	
13	5月12日	イベント	朝護孫子寺の貫主による講話「福の神様毘沙門天王」	講堂	141	
14	5月14日	鑑賞会	夜間特別鑑賞会	講堂・展示室	40	JR東海ツアーズ
15	5月18日	鑑賞会	わいずクラブなら仏像館解説付き小ツアー	なら仏像館	110	読売新聞
16	6月11日～6月12日	講演会	アート・ドキュメンテーション学会シンポジウム及び年次大会	講堂	90	アート・ドキュメンテーション学会
17	6月18日～6月19日	イベント	特別陳列「和紙－近代和紙の誕生－」関連イベント　「紙漉き実演」	西新館1Fピロティ	―	
18	7月16日～9月25日	イベント	ライトアッププロムナード・なら2016	なら仏像館・仏教美術資料研究センター外観	―	ライトアッププロムナード・なら実行委員会
19	7月16日～8月28日	イベント	ライトアッププロムナード・なら2016「浴衣レンタル＆記念撮影」	当館敷地	―	ライトアッププロムナード・なら実行委員会
20	7月26日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	33	
21	7月27日	鑑賞会	タクシー・ホテル等関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	38	
22	7月30日	イベント	ワークショップ「描いて飾ろう文殊菩薩」	地下回廊	69	
23	7月30日～7月31日	イベント	親子で楽しむイベント「仏像のカブリモノ」「東大寺大仏の穴くぐり」「なら仏像館親子ツアー」	地下回廊・なら仏像館	435	
24	7月31日	イベント	特別展「忍性」子ども無料日イベント「きく！みる！ふれる！東征伝絵巻」	講堂	58	
25	8月5日～8月14日	観光イベント	なら燈花会オブジェ等を配置	当館敷地	―	なら燈花会の会
26	9月3日～9月4日	講演会	中世都市研究会奈良大会	講堂	267	中世都市研究会奈良大会実行委員会
27	9月18日～9月19日	イベント	春日大社第60次式年造替記念事業第1回春日野音楽祭	新館前広場	―	春日野音楽祭実行委員会
28	10月12日	夜間貸切観覧	「なら仏像館」夜間貸切観覧	展示室	121	日本脈管学会総会
29	10月20日～11月7日	展示	正倉院展　法華寺御流のいけばな展示	西新館1Fロビー	―	
30	10月22日～11月7日	観光イベント	正倉院展「あるくん奈良スタンプラリー」	当館敷地	―	
31	10月23日	鑑賞会	第68回正倉院展親子鑑賞会	講堂・展示室	152	
32	10月24日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	120	
33	10月25日～10月26日	鑑賞会	タクシー・ホテル等関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	175	
34	10月26日	観光イベント	「柿の日」に因み、奈良県特産物である柿を配布し、「奈良の柿」をPR	新館前広場	―	奈良県農林部・奈良県農業協同組合
35	10月29日	セミナー	正倉院展特別セミナー	仏教美術資料研究センター	85	
36	11月1日	特別観覧	留学生の日	展示室	49	
37	11月3日	シンポジウム	正倉院学術シンポジウム2016「正倉院正倉」	東大寺総合文化センター金鐘ホール	197	
38	11月19日	イベント	奈良トライアングルミュージアムズワークショップ「写仏散華づくり」	地下回廊	77	
39	11月19日～11月20日	特別鑑賞	関西文化の日	なら仏像館	2,573	
40	11月26日	イベント	秋の庭園散策ツアー	庭園	30	
41	12月4日	セミナー	奈良トライアングルミュージアムズ東京セミナー「冬の奈良と奈良国立博物館の楽しみ」	奈良まほろば館	60	
42	12月17日	茶会	おん祭と春日信仰の美術「茶会」	茶室・庭園・西新館南側ピロティ	62	主催：裏千家　泉本宗悠

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
43	12 月 23 日	特別鑑賞会	奈良国立博物館文化財修復プレミアム・ミュージアム・ビューイング	講堂・展示室・茶室・庭園・仏教美術資料研究センター	24	
44	29 年 1 月 2 日～ 1 月 3 日	イベント	「新春企画　博物館からのお年玉！」	なら仏像館	500	
45	29 年 1 月 12 日	特別公開	「文化財保存修理所特別公開」	講堂・文化財保存修理所	119	
46	29 年 2 月 4 日	コンサート	Daiwa Sakura Aid　Presents「冬の桜」	仏教美術資料研究センター	97	
47	29 年 2 月 8 日～ 2 月 14 日	イベント	なら瑠璃絵オブジェの設置	西新館北側池前	－	
48	29 年 2 月 11 日	講演・鑑賞	『お水取り「講話」と「粥」の会』	講堂・茶室控室・展示室	37	
49	29 年 2 月 13 日	講演会	しあわせ回廊なら瑠璃絵特別講演会	講堂	115	
50	29 年 3 月 1 日 ～11 日、13 日、14 日	特別鑑賞	お水取り展中の定期観光バス向けボランティア解説	展示室	130	
51	29 年 3 月 3 日	講演・鑑賞鑑賞	「お水取り展鑑賞とお松明」	講堂・展示室	154	
52	29 年 3 月 12 日	イベント	「笑い飯哲夫のおもしろ仏教講座」	講堂	140	

【九州国立博物館】

1) 会場提供　10 件（イベント、講演会等）

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	3 月 29 日～ 4 月 3 日	展示会	コミュニケーション・アート展	ミュージアムホール	－	主催：NPO 法人コミュニケーション・アート
2	4 月 3 日	講演会	ゴッホ講演会「太陽が燃え尽きる時」	研修室	80	主催：NPO 法人コミュニケーション・アート
—	4 月 16 日	イベント	アイヌの星座ワークショップ in 福岡	研修室	－	＊熊本地震のため中止
3	5 月 14 日、15 日	イベント	ひびきのこづえワークショップ 虫をつくろう３	研修室	150	主催：NPO 法人太宰府アートのたね
4	6 月 4 日	講演会	全国邪馬台国連絡協議会九州支部第 3 回九州地区大会「倭人伝の国々～王たちの登場～」	ミュージアムホール	100	主催：全国邪馬台国連絡協議会九州支部、ふくおかアジア文化塾、九州・アジア文化芸術フォーラム
5	6 月 7 日～ 12 日	展示会	個展（木塗削板画展）	研修室	－	福山稔英
6	9 月 20 日～ 25 日	展示会	きんしゃい有田珠玉の器紀行	ミュージアムホール	－	主催：佐賀県有田焼創業 400 年事業実行委員会
7	11 月 23 日	講演会	シンポジウム「九州の海と島々」 ～その歴史と文化を探る～	ミュージアムホール	150	主催：「九州の海と島の歴史」研究会
8	11 月 25 日～ 27 日	展示会	恋する器と本　有田焼書店	ミュージアムホール	1,600	主催：佐賀県有田町商工観光課
9	11 月 26 日	イベント	有田焼書店デモンストレーション	エントランス	－	主催：佐賀県有田町商工観光課
10	1 月 20 日	講演会	赤米フォーラム　in 九州国立博物館 古代からのメッセージ赤米のねがい 「赤米から考える日本を誇る伝統文化の保存と継承」	ミュージアムホール	80	主催：長崎県対馬市、対馬氏教育委員会、鹿児島県南種子町、南種子町教育委員会、岡山県総社市、総社市教育委員会、豆酘赤米行事保存会、宝満神社赤米お田植え祭り保存会、総社市本庄国司神社赤米保存会、総社市新庄国司神社赤米保存会、福岡県太宰府市、太宰府市教育委員会

実施なし：１件

2) 館主催・協力イベント　164 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	3 月 15 日～ 6 月 12 日	イベント	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 兵馬俑トリックアート	エントランス	318,485	主催：九州国立博物館
2	3 月 27 日	イベント	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント Ｅテレ「びじゅチューン！井上涼×兵馬俑」	ミュージアムホール	482	主催：九州国立博物館

	期間	種類 (イベント、講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
3	3月29日～ 4月28日	イベント	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 山手線キングダム展（前期）	エントランス	76,807	主催：九州国立博物館
4	4月1日～ 10日	イベント	特別展「始皇帝と大兵馬俑」 8Kスーパーハイビジョン上映会	文化交流展示室内スーパーハイビジョンシアター	7,031	主催：九州国立博物館
5	4月　9日、 10日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 登山シーズン到来！ちくしの山特集 ①天拝山の歴史 ②写経埋納法会 ③戦国の花・高橋紹運 ④宝満山の修験道	ミュージアムホール	130	主催：九州国立博物館
6	4月15日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	90	主催：九州国立博物館
—	4月17日	イベント	特別展「始皇帝と大兵馬俑」記念 九州国立博物館杯第5回さいぶごま大会	ミュージアムホール	—	主催：九州国立博物館 ＊熊本地震のため中止
—	4月17日	イベント	第58回はじめての茶道体験	茶室	—	主催：九州国立博物館 ＊熊本地震のため中止
—	4月17日	イベント	太宰府門前真舞祭	屋外レストラン前広場	—	主催： 太宰府門前真舞祭実行委員会 ＊熊本地震のため中止
7	4月23日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 登山シーズン到来！ちくしの山特集 ①天拝山の歴史 ②写経埋納法会 ③戦国の花・高橋紹運 ④宝満山の修験道	ミュージアムホール	70	主催：九州国立博物館
8	4月24日～ 6月12日	イベント	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連展示 始皇帝の『直道』をゆく	エントランス	204,938	主催：九州国立博物館
9	4月24日	イベント	第1回みゅーじあむ寄席「柳家さん喬独演会 ＆研究員とのトークイベント」	ミュージアムホール	245	主催：九州国立博物館
10	4月29日	イベント	ミュージアムコンサート 「はらのむしのうたげ」	エントランス、他	279	主催：九州国立博物館
—	4月30日～ 5月1日	イベント	玖珠町ジャンボ鯉のぼり展示	エントランス	—	主催：大分県玖珠町役場商工観光振興課商工観光係 ＊熊本地震のため中止
11	5月3日～ 5日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 「古より伝わる子への祈り」 ①神功皇后伝説－宇美八幡宮子安祭－ ②北野天満宮御神幸行事 ③ふくおかの成育儀礼と成人儀礼	ミュージアムホール	160	主催：九州国立博物館
12	5月5日	イベント	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント こどもの日特別企画！ ワークショップ「紙で工作！兵馬俑に変身！」	エントランスホール	100	主催：九州国立博物館
13	5月6日～ 6月12日	イベント	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 山手線キングダム展（後期）	エントランス	155,257	主催：九州国立博物館
14	5月7日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	11	主催：九州国立博物館
15	5月14日	イベント	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	14	主催：九州国立博物館
16	5月14日	イベント	ガムランワークショップ連続講座（第1回）	ミュージアムホール	3	主催：九州国立博物館
17	5月15日	講演会	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連講演会 講演会「はじめての兵馬俑」	ミュージアムホール	184	主催：九州国立博物館
18	5月21日	イベント	なりきり考古学者体験	あじっぱ	12	主催：九州国立博物館
19	5月21日、 22日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 「古（いにしえ）より伝わる子への祈り」 ①稚児風流水田天満宮 ②志式神社の早魚神事 ③大分の獅子舞大分八幡宮	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
20	5月22日	イベント	第65回親子で茶道体験	茶室	46	主催：九州国立博物館
21	5月27日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	80	主催：九州国立博物館
22	5月28日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート “WONDERFUL WORLD”木下航志ソロライブ	ミュージアムホール	280	主催：九州国立博物館
23	5月29日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 「古より伝わる子への祈り」 ①稚児風流水田天満宮 ②志式神社の早魚神事 ③大分の獅子舞大分八幡宮	ミュージアムホール	60	主催：九州国立博物館
24	5月29日	イベント	第59回はじめての茶道体験	茶室	12	主催：九州国立博物館
25	6月5日	講演会	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連講演会 講演会「始皇帝の考古学」	ミュージアムホール	140	主催：九州国立博物館

	期間	種類 (イベント、講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
26	6月10日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	150	主催：九州国立博物館
27	6月11日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	11	主催：九州国立博物館
28	6月11日、 12日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 「豊穣への祈りと感謝」 ①筑紫神社の粥ト ②太宰府天満宮の農耕神事 ③豊前神楽	ミュージアムホール	160	主催：九州国立博物館
29	6月18日	イベント	作ってみよう「ひのしゅ」お面ワークショップ	エントランス	120	主催：九州国立博物館
30	6月18日	イベント	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	15	主催：九州国立博物館
31	6月18日	イベント	ガムランワークショップ連続講座（第2回）	ミュージアムホール	4	主催：九州国立博物館
32	6月19日	講演会	一般社団法人歴史と自然をまもる会設立50周年記念事業 記念講演「正倉院宝物から見た海外交流」 記念フォーラム「アジアと福岡の歴史的点描」	ミュージアムホール	90	主催：一般社団法人歴史と自然をまもる会
33	6月19日	イベント	第60回はじめての茶道体験	茶室	7	主催：九州国立博物館
34	6月25日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 「豊穣への祈りと感謝」 ①筑紫神社の粥ト ②太宰府天満宮の農耕神事 ③豊前神楽	ミュージアムホール	40	主催：九州国立博物館
35	6月26日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート 「はらのむしとゴスペル」	ミュージアムホール	190	主催：九州国立博物館
36	6月26日	イベント	第66回親子で茶道体験	茶室	62	主催：九州国立博物館
37	6月28日～ 8月10日	イベント	博多祇園山笠関連展示 「もうすぐ飾り山笠がやってくる」	エントランス	118,426	主催：九州国立博物館
38	7月2日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート やっぴい博士のサイエンスラボ もうすぐ夏休みスペシャル 「星と宇宙のタイムトラベル」	ミュージアムホール	130	主催：九州国立博物館
39	7月2日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート 「星と宇宙のタイムトラベル」関連WS 「作ってみよう☆小さなプラネタリウム」	研修室	69	主催：九州国立博物館
40	7月3日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 「ふるさとの夏」 ①筑紫野の瓜封じと丑湯まつり ②だざいふの夏祭り ③細男舞・神相撲－八幡古表神社－	ミュージアムホール	50	主催：九州国立博物館
41	7月8日	イベント	「きゅーはくカフェコンサート」with ゆかた de 太宰府～古都の夏～	エントランス	70	主催：九州国立博物館
42	7月9日	イベント	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	25	主催：九州国立博物館
43	7月9日	イベント	ガムランワークショップ連続講座（第3回）	ミュージアムホール	7	主催：九州国立博物館
44	7月10日	イベント	韓国伝統芸能へのいざない	ミュージアムホール	200	主催：公益財団法人九州国立博物館振興財団、国際交流伽耶舞楽団
45	7月12日～ 24日	イベント	熊本地震復興応援イベント 「熊本県・大分県観光ＰＲ展示」	エントランス	40,998	主催：九州国立博物館
46	7月16日	講演会	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」関連イベント 記念講演会「東山魁夷の生涯と芸術」	ミュージアムホール	211	主催：九州国立博物館
47	7月17日	イベント	第67回親子で茶道体験	茶室	54	主催：九州国立博物館
48	7月17日	イベント	熊本地震復興応援イベント 「くまモン隊ステージ in きゅーはく」	ミュージアムホール	390	主催：九州国立博物館
49	7月18日	講演会	独立行政法人国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」特別講演会 歴史と共に考える文化財の防災・減災	ミュージアムホール	340	主催：九州国立博物館
50	7月23日、 24日	イベント	きゅーはく子ども向け夏休みイベント いこうよ！あじっぱ夏祭り	ミュージアムホール	599	主催：九州国立博物館
51	7月24日	イベント	第61回はじめての茶道体験　with ゆかた de 太宰府～古都の夏～	茶室	13	主催：九州国立博物館
52	7月24日	イベント	ボランティアイベント「折り紙ワークショップ」	エントランス	200	主催：九州国立博物館
53	7月30日	イベント	ボランティアイベント「さげもんまり作り」	研修室	32	主催：九州国立博物館
54	7月30日	イベント	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」関連イベント記録映像上映会＆トーク「東山魁夷山雲濤声～唐招提寺障壁画の記録～」	ミュージアムホール	280	主催：九州国立博物館
55	7月31日	イベント	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	24	主催：九州国立博物館
56	7月31日	イベント	ガムランワークショップ連続講座（第4回）	ミュージアムホール	7	主催：九州国立博物館

	期間	種類 (イベント、講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
57	8月4日	イベント	日中友好文化交流会日中書画展開会式	ミュージアムホール	340	主催：公益財団法人九州国立博物館振興財団、一般社団法人日中協会、九州日中文化協会
58	8月4日～ 7日	イベント	日中友好文化交流会　日中書画展	ミュージアムホール エントランス	20,958	主催：公益財団法人九州国立博物館振興財団、一般社団法人日中協会、九州日中文化協会
59	8月6日	講演会	トピック展「全国高等学校考古名品展 2016」関連イベント 全国高等学校考古学フォーラム 2016	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
60	8月6日	イベント	考古学者になろう！弥生人になろう！ 拓本作りと古代の衣装体験	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
61	8月7日	イベント	特別展「京都高山寺と明恵上人」プレ企画 第2回みゅーじあむ寄席「夢で会いましょう」	ミュージアムホール	283	主催：九州国立博物館
62	8月9日～ 21日	イベント	紡ぎ継がれる思いーしあわせの刺繍ー展	エントランス	78,744	主催：九州国立博物館
63	8月11日	イベント	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」関連イベント きゅーはくミュージアムコンサート 「東山魁夷が愛したモーツァルト」	ミュージアムホール	350	主催：九州国立博物館
64	8月13日、 14日	イベント	紋切り型でオリジナルうちわをつくろう！	エントランス	120	主催：九州国立博物館
65	8月14日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 ～九州の神楽特集～ ①山家宝満宮に伝わる山家岩戸神楽 ②豊前神楽 ③筑前里神楽 ④高千穂の夜神楽	ミュージアムホール	50	主催：九州国立博物館
66	8月20日	イベント	第62回はじめての茶道体験	茶室	9	主催：九州国立博物館
67	8月20日、 21日	イベント	吉野ヶ里 Days in 九博	ミュージアムホール	1,001	主催：佐賀県立博物館、国営海の中道海浜公園事務局（国営吉野ケ里歴史公園）、吉野ヶ里歴史公園マネジメント共同企業体、吉野ヶ里公園管理センター
68	8月21日	イベント	第68回親子で茶道体験	茶室	40	主催：九州国立博物館
69	8月23日～ 9月4日	イベント	東九州神楽人の祭展「特別展示」	ミュージアムホール、エントランス	52,977	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局、おんせん県おおいた福岡事務所、宮崎県観光推進課記紀編さん記念事業推進室、宮崎県福岡事務所
70	8月25日	イベント	飾り山笠御神入れ	エントランス	ー	主催：九州国立博物館
71	8月26日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	140	主催：九州国立博物館
72	8月27日	講演会	水中考古学フォーラム『世界の水中遺跡を考える』～保護と活用について～	研修室	45	主催：九州国立博物館、文化庁
73	8月27日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 「九州の神楽特集」 ①山家宝満宮に伝わる山家岩戸神楽 ②豊前神楽 ③筑前里神楽 ④高千穂の夜神楽	ミュージアムホール	60	主催：九州国立博物館
74	8月27日	イベント	なりきり考古学者体験 スペシャル・バージョン！	4階文化交流展室内	9	主催：九州国立博物館
75	9月3日	イベント	東九州神楽人の祭展「神楽公演」 神楽の集いー京築・庄内・新田ー	ミュージアムホール エントランス	500	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局、おんせん県おおいた福岡事務所、宮崎県観光推進課記紀編さん記念事業推進室、宮崎県福岡事務所
76	9月3日、 4日	イベント	東九州神楽人の祭展 神楽体験ワークショップ 「御幣づくりワークショップ」（新田神楽）	研修室	ー	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局、おんせん県おおいた福岡事務所、宮崎県観光推進課記紀編さん記念事業推進室、宮崎県福岡事務所
77	9月3日、 4日	イベント	東九州神楽人の祭展 神楽体験ワークショップ 「神楽記念撮影コーナー」（各公演団体）	エントランス	ー	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局、おんせん県おおいた福岡事務所、宮崎県観光推進課記紀編さん記念事業推進室、宮崎県福岡事務所

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
78	9月4日	イベント	東九州神楽人の祭展 神楽体験ワークショップ 「神楽装束体験」（庄内神楽）	エントランス	－	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局、おんせん県おおいた福岡事務所、宮崎県観光推進課記紀編さん記念事業推進室、宮崎県福岡事務所
—	9月4日	イベント	東九州神楽人の祭展「神楽公演」 神楽の集い－京築・庄内・新田－	ミュージアムホール エントランス	－	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局、おんせん県おおいた福岡事務所、宮崎県観光推進課記紀編さん記念事業推進室、宮崎県福岡事務所 ＊台風のため中止
79	9月4日	イベント	西都太宰府映像アーカイブス上映会 「九州の神楽特集」	ミュージアムホール	40	主催：九州国立博物館
80	9月11日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート やっぴぃ博士のサイエンスラボ　「アニマルマジック～生き物は偉大なるエンジニア～」	ミュージアムホール	150	主催：九州国立博物館
81	9月11日	イベント	第69回親子で茶道体験	茶室	55	主催：九州国立博物館
82	9月14日～25日	イベント	トピック展「古伊万里－旧家の暮らしを彩った器－」関連イベント 日本遺産認定記念「日本磁器のふるさと　肥前」パネル展示	エントランス	19,626	主催：佐賀県文化課
83	9月17日	イベント	熊本地震復興応援イベント第2弾 「清和文楽公演」	ミュージアムホール	230	主催：九州国立博物館
84	9月17日	イベント	なりきり考古学者体験スペシャルバージョン！	4階文化交流展室内	11	主催：九州国立博物館
85	9月18日	イベント	第63回はじめての茶道体験	茶室	14	主催：九州国立博物館
86	9月30日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	45	主催：九州国立博物館
87	10月1日	イベント	ガムランワークショップ連続講座（第5回）	ミュージアムホール	19	主催：九州国立博物館
88	10月2日	イベント	特別展「京都高山寺と明恵上人」プレイベント 九州国立博物館杯第5回さいふごま大会	ミュージアムホール	60	主催：九州国立博物館
89	10月2日	イベント	第70回親子で茶道体験	茶室	61	主催：九州国立博物館
90	10月8日、9日	イベント	福岡県観光温泉地協会　出前温泉「足湯」	館外	400	主催：福岡県観光温泉地協会
91	10月8日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	3	主催：九州国立博物館
92	10月9日	講演会	特別展「京都高山寺と明恵上人」関連イベント 特別講演会「鳥獣人物戯画の謎」	ミュージアムホール	235	主催：九州国立博物館
93	10月9日	イベント	第64回はじめての茶道体験	茶室	9	主催：九州国立博物館
94	10月15日	イベント	特別展「京都高山寺と明恵上人」関連イベント トークイベント　能「春日龍神」と明恵上人	ミュージアムホール	237	主催：九州国立博物館
95	10月16日	講演会	特別展「京都高山寺と明恵上人」関連イベント 講演会「京都高山寺と明恵上人の魅力」	ミュージアムホール	156	主催：九州国立博物館
96	11月3日	イベント	第7回留学生イベント 留学生向け「文化交流ツアーin九博」	館内	14	主催：九州国立博物館
97	11月19日	イベント	なりきり考古学者体験	4階文化交流展室内	13	主催：九州国立博物館
98	11月26日	講演会	トピック展「海の王都原の辻遺跡と壱岐の至宝」関連講演会 『魏志』倭人伝に記された 一支国の世界	研修室	34	主催：九州国立博物館
99	11月26日、27日	イベント	ボランティアワークショップ エコバッグ作り	エントランス	20	主催：九州国立博物館
100	11月27日	イベント	第71回親子で茶道体験	茶室	60	主催：九州国立博物館
101	11月27日	イベント	トピック展「海の王都原の辻遺跡と壱岐の至宝」関連ワークショップ 貝殻キャンドルづくり、勾玉づくり	エントランスおよび研修室	250	主催：九州国立博物館
102	12月2日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	50	主催：九州国立博物館
103	12月4日	講演会	独立行政法人 国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」公開シンポジウム 地域と共に考える文化財の防災・減災Ⅲ 熊本地震と文化財レスキュー	ミュージアムホール	200	主催：九州国立博物館
104	12月6日	講演会	日米文化教育交流会議（カルコン）美術対話委員会シンポジウム 「世界と日本美術アート～２０００年以降の動向を中心に～」	ミュージアムホール	150	主催：文化庁、カルコン美術対話委員会

	期間	種類 (イベント、講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
105	12月6日～ 11日	イベント	ＭＯＡ美術館児童作品展 in 九州国立博物館	エントランス	11,666	主催：MOA美術館、「MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館」実行委員会
106	12月10日	イベント	「紅梅梅図屏風風（原寸大レプリカ）」美術セミナー MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館「九州国立博物館長賞」表彰式 MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館コラボ企画　トラりんがきゅーはくにやってくる！	ミュージアムホール	150	主催：MOA美術館、「MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館」実行委員会
107	12月10日	イベント	MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館「ジェルキャンドルをつくろう！」	研修室	40	主催：「MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館」実行委員会事務局
108	12月10日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	10	主催：九州国立博物館
109	12月10日	イベント	第72回親子で茶道体験	茶室	57	主催：九州国立博物館
110	12月11日	イベント	第65回はじめての茶道体験	茶室	18	主催：九州国立博物館
111	12月14日、 16日	講演会	第6回文化財ＩＰＭコーディネーター資格取得のための講習会と試験	ミュージアムホール 研修室	66	主催：公益財団法人文化財虫菌害研究所
112	12月17日～ 29年1月7日	イベント	「組み立て式竪穴住居」の展示	エントランス	41,512	主催：九州国立博物館
113	12月18日	イベント	「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録記念イベント 戸畑祇園大山笠展示及び記念セレモニー	エントランス	200	主催：福岡県観光振興課
114	12月18日	イベント	「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録記念フォーラム	ミュージアムホール	120	主催：福岡県文化財保護課
115	12月20日～ 29年2月19日	イベント	「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録記念イベント 戸畑祇園大山笠展示	エントランス	111,115	主催：福岡県文化財保護課
116	29年1月1日 ～2月19日	イベント	特別展　「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連イベント「沖ノ島写真展」	エントランス	128,847	主催：九州国立博物館
117	29年1月1日 ～2月5日	展示	新春公開！ 鷹匠埴輪がやってくる！	文化交流展示室	－	主催：九州国立博物館
118	29年1月1日 ～9日	イベント	正月企画「2017人の笑顔で作る富士山モザイクアート展示」	エントランス	34,391	主催：九州国立博物館
119	29年1月1日	イベント	元旦限定！九博オリジナル「初夢おはじき」プレゼント	文化交流展示室前	300	主催：九州国立博物館
120	29年1月2日	イベント	開運アトラクション「にぎわい座」新春公演	エントランス	240	主催：九州国立博物館
121	29年1月3日	イベント	幸運をつかもう！「鷹匠フライトショー」	館外	340	主催：九州国立博物館
122	29年1月3日	イベント	正月企画「古代人による古代米梅ヶ枝餅のふるまい」	研修室	466	主催：九州国立博物館
123	29年1月3日	イベント	正月企画「古代米甘酒の試飲販売」	研修室	663	主催：九州国立博物館
124	29年1月7日 ～9日	イベント	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連イベント「むなかたの幸　まんぷく（満・福）祭～むなめし・むなこれ大集合！～」	エントランス、館外	12,258	主催：九州国立博物館、宗像市
125	29年1月11日	イベント	UBEビエンナーレPR展@九州国立博物館	エントランス	25,710	主催：山口県宇部市
126	29年1月15日	イベント	UBEビエンナーレPR展@九州国立博物館 関連ワークショップ 「かげを楽しむポットをつくろう！」	研修室	25	主催：山口県宇部市
127	29年1月15日	イベント	宗像三女神を祀る奉納の舞～浅野瑞穂～	ミュージアムホール	230	主催：公益財団法人九州国立博物館振興財団
128	29年1月21日	講演会	特別展　「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連イベント 記念講演会「神宿る島と祈りの記憶－祭祀遺跡の発掘調査譚－」	ミュージアムホール	229	主催：九州国立博物館
129	29年1月21日	イベント	なりきり考古学者体験	4階文化交流展室内	15	主催：九州国立博物館
130	29年1月21日	イベント	第66回はじめての茶道体験	茶室	14	主催：九州国立博物館
131	29年1月21日	イベント	バックヤードツアー特別公開 「博物館科学・文化財保存修復施設」	館内	41	主催：九州国立博物館
132	29年1月22日	イベント	UBEビエンナーレPR展@九州国立博物館 関連ワークショップ 「ちょこっとあじっぱクイズラリー」	エントランス	64	主催：山口県宇部市
133	29年1月22日	イベント	第73回親子で茶道体験	茶室	61	主催：九州国立博物館
134	29年1月22日	イベント	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」記念 九州国立博物館杯第6回さいふごま大会	ミュージアムホール	70	主催：九州国立博物館
135	29年1月28日	イベント	ボランティアイベント さげもんまり作り	研修室	23	主催：九州国立博物館
136	29年1月29日	イベント	藤本隆宏トークショー～「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群を世界遺産に～	ミュージアムホール	201	主催：九州・沖縄文化力推進会議、福岡県、九州国立博物館

	期間	種類 (イベント、講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 （人）	備考
137	29年2月4日	講演会	特別展 「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連イベント リレー講座 「交差する日本神話とアジアの歴史」	ミュージアムホール	215	主催：九州国立博物館
138	29年2月4日	イベント	ボランティアイベント 新聞紙で作るこいぬ	研修室	9	主催：九州国立博物館
139	29年2月5日	イベント	博多にわか笑演会in九州国立博物館	ミュージアムホール	190	主催：博多仁和加振興会
140	29年2月5日	イベント	ボランティアイベント きゅーはくでおはなし絵本をつくろう	研修室	13	主催：九州国立博物館
141	29年2月7日 ～12日	イベント	特別展 「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連イベント「沖ノ島紹介パネル展」	エントランス	16,992	主催：九州国立博物館
142	29年2月10日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	45	主催：九州国立博物館
143	29年2月12日	講演会	日中韓文化遺産フォーラム 「水中文化遺産の保護と活用」	ミュージアムホール	173	主催：九州国立博物館
144	29年2月15日 ～19日	イベント	九州国立博物館「大宰府学研究」事業・熊本県「古代山城に関する研究会」事業関連パネル展	エントランス	21,251	主催：九州国立博物館、福岡県、熊本県教育委員会
145	29年2月18日、 19日	講演会	九州国立博物館「大宰府学研究」事業・熊本県「古代山城に関する研究会」事業　合同シンポジウム「徹底追究！大宰府と古代山城の誕生」	エントランス	383	主催：九州国立博物館、福岡県、熊本県教育委員会
146	29年2月18日	イベント	なりきり考古学者体験	あじっぱ	11	主催：九州国立博物館
147	29年2月20日	イベント	、「大公開！沖ノ島展の舞台裏　プレミアム座談会＆内覧会」	研修室	24	主催：九州国立博物館
148	29年2月21日 ～26日	イベント	筑紫地区小学校児童画展	エントランス	25,722	主催：九州国立博物館を愛する会、九州国立博物館、公益財団法人九州国立博物館振興財団
149	29年2月24日	イベント	博多伝統芸能「博多芸妓の世界」	ミュージアムホール	320	主催：公益財団法人九州国立博物館振興財団
150	29年2月25日	イベント	第74回親子で茶道体験	茶室	60	主催：九州国立博物館
151	29年2月25日	イベント	やっぴぃ博士のサイエンスラボ ミッション やっぴぃ博士と海のフシギを調査せよ!!	ミュージアムホール	260	主催：九州国立博物館
152	29年2月26日	イベント	第9回子どもフェスタ	ミュージアムホール	2,465	主催：九州国立博物館を愛する会、九州国立博物館、公益財団法人九州国立博物館振興財団
153	29年2月26日	イベント	第67回はじめての茶道体験	茶室	10	主催：九州国立博物館
154	29年2月28日 ～3月5日	イベント	平成28年度筑紫地区文化財写真展 「ちくし再発見～うつりゆく風景～」	エントランス	23,371	主催：筑紫地区社会教育振興協議会
155	29年3月5日	イベント	きゅーはく女子考古部プレゼンツ 古代の宴へようこそ！	ミュージアムホール	300	主催：九州国立博物館
156	29年3月5日	イベント	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	17	主催：九州国立博物館
157	29年3月14日	イベント	きゅーはく夜の博物館を灯す光のオブジェをつくろう	エントランス	11,343	主催：九州国立博物館
158	29年3月18日	イベント	第3回みゅーじあむ寄席 「虫も目覚める春がきた！」	ミュージアムホール	93	主催：九州国立博物館
159	29年3月18日	イベント	なりきり学芸員体験	ミュージアムホール	11	主催：九州国立博物館
160	29年3月19日	イベント	第75回親子で茶道体験	茶室	61	主催：九州国立博物館
161	29年3月20日	イベント	第68回はじめての茶道体験	茶室	8	主催：九州国立博物館
162	29年3月20日	イベント	第21回九博Dayかるた大会決勝	ミュージアムホール	2,498	主催：九州国立博物館
163	29年3月24日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	45	主催：九州国立博物館
164	29年3月25日	講演会	本田光子特任研究員最終講演会 「市民と共に　地域と共に」九博バックヤード生活を終えて -基盤作りの一端に携わった１４年-	ミュージアムホール	250	主催：九州国立博物館

実施なし：5件

1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実

1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

（前述の資料に記載）1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数）

平成29年3月31日現在

		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
		28年度新規	総数	28年度新規	総数	28年度新規	総数	28年度新規	総数
写真原板(フィルム)		1,085件	323,678件	0件	257,681件	10件	361,503件	0件	23,622件
デジタル撮影		7,883件	75,457件	5,710件	22,136件	4,290件	40,126件	1,517件	11,759件
資料	模造	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	模写	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	計	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
図書	和書	4,909冊	193,384冊	3,047冊	145,331冊	1,990冊	84,156冊	3,973冊	108,076冊
	漢書	225冊	39,894冊	233冊	21,884冊	23冊	5,178冊	冊	冊
	洋書	179冊	13,224冊	13冊	4,523冊	50冊	1,863冊	33冊	2,524冊
	計	5,313冊	246,502冊	3,293冊	171,738冊	2,063冊	91,197冊	4,006冊	110,600冊
映画フィルム		0巻	0巻	0巻	0巻	0巻	30巻	0巻	0巻
スライド		0本	0本	0本	26本	0本	21本	0本	0本
		0コマ	0コマ	0コマ	2,779コマ	0コマ	2,192コマ	0コマ	12コマ
マイクロフィルム		0巻	3,660巻	0巻	643巻	0巻	68巻	0巻	515巻

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
利用者数	4,828人	5,661人	6,118人	5,936人	4,730人
閉架図書（閲覧）	3,571件	3,909件	3,800件	4,521件	4,862件
マイクロフィルム（閲覧）	603件	466件	562件	399件	588件
レファレンスサービス	6,249件	6,802件	4,401件	4,006件	5,014件
コピーサービス	25,419枚	23,801枚	26,200枚	25,395枚	30,818枚

※23年9月1日より、従来からの西門入館利用に加え、正門からの来館者に対し資料館東口からの利用を開始した。以後の利用者数はこれを含む。

1-(3)-②-3 特別観覧件数

申請件数

平成29年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	382	22	360	174	4	170	41	12	29	76	2	74	91	4	87
写真撮影	86	7	79	1	1	0	12	5	7	34	0	34	39	1	38
映画撮影	11	10	1	3	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
テレビ撮影							2	2	0		2	0	2	1	1
ビデオ撮影							1	1	0				1	1	0
模写	7	1	6	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
模造							2	1	1				3	0	3
熟覧	278	4	274	168	0	168	24	3	21	40	0	40	46	1	45

点数

平成29年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	1,856	26	1,830	1,135	5	1,130	93	15	78	397	2	395	231	4	227
写真撮影	321	7	314	1	1	0	27	5	22	188	0	188	105	1	104
映画撮影	15	14	1	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							5	5	0	2	2	0	2	1	1
ビデオ撮影							1	1	0				1	1	0
模写	11	1	10	2	0	2	0	0	0	0	0	0	4	0	4
模造							2	1	1				3	0	3
熟覧	1,509	4	1,505	1,128	0	1,128	58	3	55	207	0	207	116	1	115

1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

平成29年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	1	0	1										1	0	1
	デジタルデータ提供	モノクロ	1,106	882	224				668	636	32	308	185	123	22	1	21
		カラー													108	60	48
	プリントでの提供	モノクロ	111	105	6				108	105	3	3	0	3			
		カラー	1	0	1				0	0	0	1	0	1			
画像再利用			126	93	33							121	89	32	5	4	1

点数

平成29年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	3	0	3										3	0	3
	デジタルデータ提供	モノクロ	4,444	2,492	1,952				2,385	1,975	410	1,559	358	1,201	75	3	72
		カラー													425	156	269
	プリントでの提供	モノクロ	375	208	167				214	208	6	161	0	161			
		カラー	6	0	6				0	0	0	6	0	6			
画像再利用			343	254	89							335	248	87	8	6	2

1-(3)-②-5 広報実績一覧

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

・特別企画「博物館でお花見を」

会期	28年3月15日（火）～4月10日(日)（26日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1,179件発送(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	駅貼り広告(JR 上野、鶯谷駅など、東京メトロ 銀座線・日比谷線　6駅、都営浅草線・大江戸線　3駅、東急東横線渋谷、中目黒、横浜　3駅
新聞・雑誌広告	朝日新聞、毎日新聞、読売新聞各1回、メトロガイド1回
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信など
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、山陰中央新報　ほか
テレビ、ラジオ	TOKYO FM　ほか
雑誌	JR東日本「トランヴェール」1月号、JTBパブリッシング「ノジュール」2月号、、マガジンハウス「アンド・プレミアム」、リクルート「じゃらん」、小学館「Domani」、レッツエンジョイ東京
インターネットメディア	タイムアウト東京ほか
その他	―

・特別企画「博物館でアジアの旅」

会期	9月29日（火）～10月12日(月・祝)（14日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日中国人、若年層（学生など）
重点項目	一般のマスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる情報提供
特記事項	JTBパブリッシング『るるぶ』500号記念とのタイアップ企画、中国語スマートフォンアプリ「Wechat」を活用
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,200件(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	駅貼り広告(JR 上野、鶯谷、千葉、松戸、大宮の5駅、東京メトロ 上野、表参道、六本木、東急東横線渋谷駅、みなとみらい線元町・中華街駅、都営浅草線浅草駅、京王線2駅、JR上野駅・JR八重洲駅ADビジョン
新聞・雑誌広告	朝日新聞夕刊・東京本社版1回、『メトロガイド』1回
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信など
その他	中国人向けスマートフォンアプリ「Wechat」有料記事、『るるぶ』500号記念とのタイアップによるインスタグラム企画、着ぐるみによるイベントプロモートを新規に実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞　ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	朝日新聞デジタル、SANSPO.COM、BIGLOBEニュース、Walker Plus、るるぶニュース（記事・有料バナー広告含む）、「上野が、すき。」、リセマム、コモリブ、中国大使館サイト　ほか
その他	―

・特別公開「国宝土偶　縄文の女神」

会期	28年3月23日～4月17日（25日間）
ターゲット	考古ファン、歴史ファン、土偶ファン

重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	ポスター制作、館内掲出
交通広告	JR上野駅、デジタルサイネージ
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン･SNSでの情報配信、山形県立博物館WEBサイトでの告知
その他	展覧会情報の入ったポストカード（山形県制作）、山形県立博物館のチラシ、有機EL照明のチラシを展示室内で配布。
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	山形新聞　ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	インターネットミュージアム　ほか
その他	

・特別公開「新発見！天正少年遣欧使節　伊東マンショの肖像」

会期	5月17日（火）～7月10日（日）（55日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	ポスター・チラシの制作
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	JR線主要10駅、東京メトロ、都営浅草線主要7駅、京王線・井の頭線主要3駅
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン･SNSでの情報配信
その他	クリスチャン・トゥディ掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	NHKニュース、宮崎テレビ
雑誌	目の眼
インターネットメディア	—
その他	—

・特集「生誕百年記念　小林斗盦　篆刻の軌跡　―印の世界と中国書画コレクション―」

会期	11月1日（火）～12月23日（金祝）（53日間）
ターゲット	書道家、書道ファン
重点項目	篆刻について一般の興味を喚起し、書作品への一般の理解を深める
特記事項	報道内覧会実施　平成28年10月31日、30人出席
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	駅貼り(JR上野・鶯谷)
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	2回

博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ブログ関連記事8回、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、高知新聞など地方紙各紙、ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	芸術新潮、月刊書道界、美術の窓　ほか
インターネットメディア	—
その他	—

・特別企画「博物館で初もうで」

会期	29年1月2日（月休）～1月29日(日)（28日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1,179件発送(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	JR湘南新宿ライン＋上野東京ライン 中吊り広告、山手線・東京メトロ・都営線・京王線・京成線 駅貼り広告 東京駅八重洲北改札前デジタルサイネージ（1ヶ月間）
新聞・雑誌広告	読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、ジャパンタイムズ、ジャパンニュース各1回
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信など
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、東京新聞　ほか
テレビ、ラジオ	J-WAVE　ほか
雑誌	DIME、レッツエンジョイ東京ほか
インターネットメディア	グノシー、TimeOut、Trip Advisor、るるぶ.com、週刊東京ウォーカー、東京都公式SNSほか
その他	—

(2) 特別展、共催展等

・特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの至宝―」

会期	4月12日(火)～6月19日(日)（61日間）
ターゲット	歴史及び美術ファン、シルクロードなど中東文化に興味のある人
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3500件(美術館、博物館、公立施設、大学、図書館、旅行会社、画廊、画材関係　ホテル等) 都内小学校の一部351校に送付、館内配布
交通広告	JR　SWボード29駅30面、メトロUボード13駅21面、京成線B1 62駅×2枚、B3中吊り2750枚、B3窓上550枚、A4割引ﾁﾗｼ8万枚を62駅全て設置、東武日比谷線乗入ドア横B3計170枚、都営三田線ドア横B3計250枚、都営新宿線ドア横B3計310枚、京王線渋谷駅、新宿駅ほかポスター
新聞・雑誌広告	「産経新聞」　全5段モノクロ、「metroplitana」（英語版）表4、カラー、全頁、「Kiite！」２頁分、「正論」カラー、全頁
テレビ広告	フジテレビにてスポットCM、東京サンケイビル1階ビジョン、渋谷Loftビジョン
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回、特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事7回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(読売新聞社、NHK、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式フェイスブック及び話す公式ツイッター、当館ツイッター,フェイスブックでの情報発信　ほか

その他	スペシャルナビゲーターの設定、上野商店会ペナント掲示、上野のれん会とのコラボなど
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	産経新聞、読売新聞、毎日新聞、日経新聞、聖教新聞、The Japan Timesほか
テレビ、ラジオ	めざましテレビ、プレミアの巣窟ほか(フジテレビ)、ぶらぶら美術・博物館(BS日テレ)、アフガニスタン・秘宝の半世紀(NHKBS1)、日曜美術館(NHK)、JAM THE WORLD(J-WAVE)ほか
雑誌	日経おとなのOFF（日経BP）、家庭画報、大人が見たい美術展2016、目の眼、芸術新潮、PEN　ほか
インターネットメディア	ナショナルジオグラフィックWEBサイト　4回連載、サライ.jp、各種ニュースサイト　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	27年11月10日（駐日アフガニスタン・イスラム共和国大使館にて）
人数等	67媒体、100人出席
④報道内覧会	
実施日	4月11日
人数等	113媒体　126人出席

・特別展「古代ギリシャ―時空を超えた旅―」

会期	6月21日（火）～9月19日（月・祝）（80日間）
ターゲット	広く一般の考古学・歴史ファン、古代西洋美術ファン
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	ナイト・ミュージアム、キッズデー関係
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	10,059件(1都6県博物館・美術館・学校・エジプトレストラン、1都3県ギャラリー・ホテル・カルチャーセンター・語学学校等、外国政府観光局) ジュニアガイド：１都３県小中学校に3万部配布
交通広告	大型ボード（JR44駅50面ほか）、東京メトロ電飾（20駅20面） 京王線駅貼り（100枚）、ＪＲ・東京メトロ・京王線デジタルサイネージ 西武線タイアップ（タイアップポスター掲出）ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞（特集3回、作品解説連載10回、社告、文化面など）ほか
テレビ広告	NHKスポット告知
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、フェイスブック、ブログ関連記事10回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト、展覧会公式ツイッター
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞約70件、読売・日経・産経・東京ほか約70件
テレビ、ラジオ	アートシーン、ひるまえほっと（以上NHK）、NHK BSプレミアム、 ラジオ深夜便（NHK）、クロノス（TOKYO FM）ほか
雑誌	サライ、ターザン、和楽、一個人、女性自身、婦人公論、週刊朝日、美術の窓　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、各種ニュースサイト　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	28年3月14日　東洋館ミュージアムシアターにて
人数等	58人出席
④報道内覧会	
実施日	6月20日
人数等	207人出席

・特別展「ほほえみの御仏　二つの半跏思惟像」

会期	6月21日～7月10日（20日間）
ターゲット	仏像ファン
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	韓国国立中央博物館で先行開催
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約4,602件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、カルチャー・センター、ギャラリー、図書館、百貨店、ホテル、美術関連団体、旅行会社ほか
交通広告	大型ボード（JR 49駅49面、東京メトロ13駅21面、私鉄21駅22面）
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞

テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回、特集3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン/SNSでの情報配信、公式ホームページ、ツイッターでの紹介
その他	韓国中央博物館での展覧会関係報道多数あり。
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、日経新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、地方紙各紙　ほか
テレビ、ラジオ	日曜美術館(NHK)、美の巨人たち(テレビ東京)、各局ニュース、NHKワールドラジオジャパン（NHK国際放送局）ほか
雑誌	芸術新潮、和楽、目の眼　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、和楽INTO JAPAN Facebook、中央日報ほか各種ニュースサイト　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	4月20日　平成館大講堂にて
人数等	53人出席
④報道内覧会	
実施日	6月20日＊ギリシャ展と同時開催
人数等	207人出席

・特別展臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展「禅―心をかたちに―」

会期	10月18日（火）　～ 11月27日（日）（36日間）
ターゲット	日本美術ファン、歴史ファン、禅ファン、東博ファン、海外からの観光客
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。海外からの観光客への情報提供。
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約4,000件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	大型ボード（39駅40面）、東京メトロ・東急ドア横ポスター、東京メトロ駅看板20面、JR中吊りポスター、京王線駅貼りポスター、京王線中吊りポスター、東急TOQビジョンほか
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	BSジャパン「禅―心をかたちに―」ほか
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(日本経済新聞社)ウェブサイトでの紹介
その他	英語版A4チラシの作成　、東京メトロタイアップ企画「禅ミステリーラリー」（株式会社メトロアドエージェンシー）の実施、チームラボ新作発表会および特別内覧会の実施（11月8日、177名出席）
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	日経新聞約15回、読売新聞、朝日新聞、東京新聞、中国北京晩報ほか
テレビ、ラジオ	ぶらぶら美術館（BS日テレ）、日曜美術館（NHK）、美の巨人たち（テレビ東京）、 めざましテレビ（ﾌｼﾞTV）ほか
雑誌	Discover Japan、美術手帖、家庭画報、ノジュール、日経おとなのOFF、和楽、東京ウォーカー、歴史人、一個人、男の隠れ家、聚美、目の眼、フリーペーパー「FLYING POSTMAN」ほか多数
インターネットメディア	レッツ・エンジョイ・東京、INTO JAPAN、ライフジャパン、日経電子版など
その他	―
③報道発表会	
実施日	7月8日　平成館大講堂にて
人数等	73人出席
④報道内覧会	
実施日	10月17日（116人出席）、10月26日（186人出席）
人数等	116人出席（10月17日）、186人出席（10月26日）

・特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」

会期	28年9月13日(火)～29年1月9日(月祝)　96日間
ターゲット	日本美術ファン、歴史ファン、仏像ファン
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。

特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約4,000件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	大型ボード（JR山手線24駅30面、メトロ30駅30面）、京王線タイアップ、京成線駅貼り（400枚）、中吊り（4950枚）、チラシ（8000枚）、東急線ドア横（640枚）、東武線ドア横（460枚）ほか
新聞・雑誌広告	読売新聞（社告、特集、イベントインフォなど20回程度）、朝日新聞 9/9朝刊　10段（15段企画内）
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(日本経済新聞社)ウェブサイトでの紹介
その他	有楽町ビックビジョン15秒スポット、「樂（らく）」普及委員会＝みうらじゅん氏、いとうせいこう氏が展覧会のサポーターに就任、リリース配信、ツイッター、フェイスブック、特設サイトでの広報
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、東京新聞　ほか
テレビ、ラジオ	ぶっちゃけ寺(テレビ朝日）、ほか
雑誌	目の眼、芸術新潮、東京ウォーカー、旅の手帖、秋ぴあ、プレシャス、ミセス、男の隠れ家、東京ベイネットワーク、仏像MOOK（エイ出版）、日経Priv.ほか多数
インターネットメディア	サライ.jp、和楽、レッツエンジョイ東京、和樂ＷＥＢ、大人のカルチャーガイド　など
その他	T.M.Revolution ファンクラブ会報掲載
③報道内覧会	
実施日	9月12日
人数等	106人出席

【京都国立博物館】

(1)平常展（名品ギャラリー）

・特集陳列「徳川家康没後四百年記念　徳川将軍家と京都の寺社―知恩院を中心に―」

会期	6月14日（火）～7月18日（日）（31日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、仏教美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約256件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	浄土宗新聞
テレビ、ラジオ	eo光テレビ
雑誌	関西ウォーカー（KADOKAWA）、美術の窓（生活の友社）　ほか計11件
インターネットメディア	婦人画報「きょうとあす」フェイスブック（婦人画報社）
その他	―

・特集陳列「丹後の仏教美術」

会期	7月26日（火）～9月11日（日）（42日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、仏像ファン、仏教美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約256件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）　＊「徳川将軍家と京都の寺社」と同送

交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、ＭＫ新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	美術の窓（生活の友社）、目の眼（目の眼）　ほか計12件
インターネットメディア	阪急電鉄サイト「沿線おでかけ情報」
その他	―

・特集陳列「生誕300年　与謝蕪村」

会期	8月23日（火）～10月2日（日）（36日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、与謝蕪村ファン、俳諧ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約256件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）　＊「徳川将軍家と京都の寺社」と同送
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	日経REVIVE（日経新聞大阪本社）
テレビ、ラジオ	―
雑誌	CREA（文藝春秋）、新美術新聞（美術年鑑社）　ほか計7件
インターネットメディア	阪急電鉄サイト「沿線おでかけ情報」、「サライ.jp」（小学館）
その他	―

・特集陳列「生誕300年　伊藤若冲」

会期	12月13日（火）～29年1月15日（日）（25日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、伊藤若冲ファン、水墨画ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,989件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	ザ・ドキュメンタリー「命の不思議を見つめた絵師～若冲は生きている～（仮）」（ＢＳ朝日）
雑誌	Casa BRUTUS（マガジンハウス）、関西ウォーカー（KADOKAWA）　ほか計30件

インターネットメディア	和楽web「INTO JAPAN」（小学館）、Lmaga.jp（京阪神エルマガジン社）
その他	―

・新春特集陳列「とりづくし―干支を愛でる―」

会期	12月13日（火）～29年1月15日（日）（25日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、年末年始の観光客
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,989件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）　＊「伊藤若冲」チラシ裏面
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅）＊「伊藤若冲」も併記
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、読売新聞　ほか3件
テレビ、ラジオ	―
雑誌	月刊茶の間（宇治田原製茶場）、週刊　女性セブン（小学館）　ほか計8件
インターネットメディア	JR東海「そうだ京都、行こう」、インターネットミュージアム（インターネットミュージアム）
その他	―

・特集陳列「皇室の御寺　泉涌寺」

会期	12月13日（火）～29年2月5日（日）（44日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、日本美術ファン、仏像ファン、書道ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,989件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）　＊「伊藤若冲」チラシ中面
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	在家佛教（在家仏教協会）　ほか計8件
インターネットメディア	―
その他	―

・特集陳列「雛まつりと人形」

会期	29年2月18日（土）～3月20日（月・祝）（27日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、人形ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―

交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	京都新聞、日経REVIVE（日経新聞大阪本社）
テレビ、ラジオ	―
雑誌	週間　女性セブン（小学館）　ほか計12件
インターネットメディア	Lmaga.jp（京阪神エルマガジン社）
その他	―

(2)特別展覧会、共催展等

・特別展覧会「臨済禅師1150年　白隠禅師250年遠諱記念　禅―心をかたちに―」

会期	4月12日（火）～5月22日（日）（36日間）
ターゲット	一般の歴史及び日本美術ファン、仏教美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約2,071件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等)
交通広告	駅貼り広告(JR大阪駅、JR京都駅ほか京阪電車、阪急電鉄主要駅、京都市営地下鉄主要駅)、JR京都駅東改札バナー、JR京都駅サイネージ
新聞・雑誌広告	日本経済新聞タブロイド誌1回
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	日本経済新聞、京都新聞、神戸新聞
テレビ、ラジオ	NHK日曜美術館「禅”円”が語る美とこころ」、eo光テレビ
雑誌	サライ（小学館）、日経おとなのOFF（日経BPマーケティング）　ほか計40件
インターネットメディア	The PAGE（ワードリーフ株式会社）
その他	―
③報道発表会	
実施日	27年11月27日（金）
人数等	59媒体、69人出席（場所：相国寺東京別院）
③報道発表会	
実施日	27年12月14日（月）
人数等	28媒体、40人出席（場所：京都国立博物館）
③報道発表会	
実施日	4月11日（月）
人数等	54媒体、75人出席（場所：京都国立博物館）
④報道内覧会	
実施日	4月11日（月）
人数等	54媒体、75人出席

・特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」

会期	10月15日（土）～11月27日（日）（38日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、幕末ファン、坂本龍馬ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供

特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約2,181件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等)
交通広告	駅貼り広告(JR大阪駅、JR京都駅ほか京阪電車、阪急電鉄主要駅主要駅)、JR京都駅東改札バナー、JR京都駅・市営地下鉄京都駅サイネージ
新聞・雑誌広告	読売新聞6回
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、日本経済新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	時空旅人（三栄書房）、毎日が発見（毎日が発見）　ほか計36件
インターネットメディア	―
その他	NHKほか各局ニュース（行啓）
③報道発表会	
実施日	5月10日（火）
人数等	48媒体、61出席（場所：東京都江戸東京博物館）
③報道発表会	
実施日	6月1日（水）
人数等	29媒体、33出席（場所：京都国立博物館）
③報道発表会	
実施日	9月5日（月）
人数等	12媒体、18人出席（場所：京都国立博物館）
③報道発表会	
実施日	10月14日（金）
人数等	38媒体、55人出席（場所：京都国立博物館）
④報道内覧会	
実施日	10月14日（金）
人数等	38媒体、55人出席

【奈良国立博物館】
(1)名品展(平常展)

・名品展　珠玉の仏たち

会期	4月29日（金）～（常時開催）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生向けに、マスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	外国人向け音声ガイド（英・中・韓）
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,600件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	雑誌1件（ぶらぶら美術・博物館プレミアムアートブック2016-2017）
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、奈良日日新聞、産経新聞、
テレビ、ラジオ	―
雑誌	月刊大和路ならら（地域情報ネットワーク）、旅の手帖（交通新聞社）、週刊文春（文藝春秋）、歴史読本（KADOKAWA）、Arts of Asia（Oriental Art）CLASSY（光文社）

インターネットメディア	―
その他	―

・名品展　珠玉の仏教美術

会期	6月7日（火）～7月3日（日）　／　12月10日（土）～29年3月14日（火）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,600件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・特別陳列「和紙―近代和紙の誕生―」

会期	6月7日（火）～7月3日（日）（24日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、和紙愛好者、文化財関係者
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、和紙愛好者、文化財関係者向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,600件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞夕刊「A＋１」（関西版）
テレビ、ラジオ	―
雑誌	yomiっこ（読売奈良ライフ）、マイ奈良（アサコム奈良ニッセイシャ）、月刊書道界（藤樹社）
インターネットメディア	サライ.jp、cinefil
その他	―

・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」

会期	12月10日（土）～29年1月15日（日）（32日間）
ターゲット	おん祭（12/17）前後および年末年始の春日大社参拝客、一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン
重点項目	おん祭（12/17）前後および年末年始の春日大社参拝客、一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供

特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,600件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	デジタルサーネージ（JR奈良駅）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	奈良新聞、日経新聞　夕刊
テレビ、ラジオ	―
雑誌	日経REVIVE（日経新聞）、マイ奈良（アサコム奈良ニッセイシャ）、ぱーぷる（エヌ・アイ・プランニング）、歴史街道（PHP研究所）、月刊大和路ならら（地域情報ネットワーク）、関西ウォーカー（KADOKAWA）
インターネットメディア	サライ.jp、和樂　公式サイト「ニッポンの美術館イマコレ」、奈良ぶら
その他	―

・特別陳列「お水取り」

会期	29年2月7日（火）～3月14日（火）（34日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、「お水取り」（お松明）を見に来る観光客。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,600件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	デジタルサーネージ（JR奈良駅）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

(2)特別展、共催展等

・特別展「国宝 信貴山縁起絵巻 －朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－」

会期	4月9日（土）～5月22日（日）（39日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、絵巻ファン、
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、絵巻ファン向けに、テレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,600件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（大阪市営地下鉄、近畿日本鉄道、京都地下鉄、京都市バス、阪急サンクス）、チラシ（JR奈良駅、大阪市営地下鉄、近畿日本鉄道）、デジタルサーネージ（JR奈良駅）

新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	東京新聞、朝日新聞夕刊「A＋１」、奈良新聞、産経新聞、京都新聞、神戸新聞、朝日新聞、読売新聞ほか
テレビ、ラジオ	NHK総合テレビ「秋元才加が行く！信貴山縁起絵巻のミステリー」、NHK大阪放送局「ぐるっと関西おひるまえ」、NHK「日曜美術館アートシーン」
雑誌	マイ奈良（アサコム奈良ニッセイシャ）、ぱーぷる（エヌ・アイ・プランニング）、関西ウォーカー（KADOKAWA）、芸術新潮（新潮社）、月刊美術（サン・アート）、サライ（小学館）、月刊大和路ならら（地域情報ネットワーク）、CLASSY（光文社）、週刊トラベルジャーナルほか
インターネットメディア	サライ.jp、マイ・フェイバリット関西、Lmaga.jp、インターネットミュージアム、和樂　公式サイト「ニッポンの美術館イマコレ」ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	28年2月22日
人数等	15媒体、18人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	4月8日
人数等	24媒体、33人出席

・特別展「忍性―救済に捧げた生涯―」

会期	7月23日（土）～9月19日（月・祝）（53日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生および学校関係者
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生および学校関係者向けに、テレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,600件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（近畿日本鉄道、JR西日本）、ステッカー広告（奈良交通バス）、デジタルサーネージ（JR奈良駅）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	中外日報、奈良新聞、産経新聞
テレビ、ラジオ	NHK奈良放送局　「ならナビ」、読売テレビ「奈良国宝巡礼の旅～知られざる救済の僧　忍性の足跡～」、読売テレビ　かんさい情報ネットten.「忍性展ができるまで」、
雑誌	マイ奈良（アサコム奈良ニッセイシャ）、ぱーぷる（エヌ・アイ・プランニング）、月刊大和路ならら（地域情報ネットワーク）、ノジュール（JTBパブリッシング）、芸術新潮（新潮社）、月刊書道界（藤樹社）ほか
インターネットメディア	ART AgendA、ならリビング
その他	―
③報道発表会	
実施日	6月20日
人数等	10媒体、15人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	7月22日
人数等	12媒体、18人出席

・特別展「第68回　正倉院展」

会期	10月22日（土）～11月7日（月）（17日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客

重点項目	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客向けにテレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,600件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（JR西日本、大阪市営地下鉄、京都市営地下鉄、阪急梅田駅、JR大阪駅、JR京都駅、JR金沢駅、JR岡山駅、JR広島駅）、デジタルサーネージ（JR奈良駅）
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	10月17日・19日放送MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」生CM
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、スポーツ報知、北國新聞・富山新聞、朝日新聞夕刊「A＋１」（関西版）
テレビ、ラジオ	読売テレビ「ウェークアップぷらす」「情報ライブ　ミヤネ屋」「かんさい情報ネットten」「正倉院展特番」、NHK奈良「ならナビ」「ニュース８４５なら」、NHK Eテレ「日曜美術館」
雑誌	マイ奈良（アサコム奈良ニッセイシャ）、ぱーぷる（エヌ・アイ・プランニング）、関西ウォーカー（KADOKAWA）、月刊大和路ならら（地域情報ネットワーク）、ならめがね（EditZ）ほか
インターネットメディア	マイ・フェイバリット関西、Lmaga.jp、インターネットミュージアムほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	8月5日
人数等	17媒体、34人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	10月21日
人数等	27媒体、121人出席

【九州国立博物館】
(1)文化交流展（平常展）

・トピック展示「火縄銃の世界」

会期	7月12日(火)～9月4日(日)（49日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、生徒・学生ほかの自学学習
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約156件（学校・公共施設・教育委員会、学校等）
交通広告	バス停広告掲出
新聞・雑誌広告	リビング福岡（フリーペーパー）
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	参道バナー掲出、リビング福岡、シティリビング
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	広報だざいふ、JAFmate、和楽、リビング福岡、シティリビング
インターネットメディア	—
その他	マスコミ内覧会の開催5社出席

・トピック展示「全国高等学校考古名品展2016」

会期	7月20日（水）～9月25日（日）（60日間）
ターゲット	一般の考古学ファンおよび学生、教師
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供

特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約274件（学校・公共施設・出品校および周辺の高等学校等）
交通広告	バス停広告掲出
新聞・雑誌広告	リビング福岡（フリーペーパー）
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	参道バナー掲出、リビング福岡、シティリビング
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、朝日中高生新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	広報だざいふ、JAFmate、ぐらんざ、リビング福岡、シティリビング、九州王国
インターネットメディア	―
その他	マスコミ内覧会の開催5社出席

・トピック展示　有田焼創業400年記念「古伊万里－旧家の暮らしを彩った器」

会期	9月14日（水）～11月6日（日）（50日間）
ターゲット	一般の焼物、美術ファンおよび歴史、考古学ファン他
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	マスコミ内覧会を開催したところ、トピック展示にしては異例の11社が取材し、紙面等でも多く取り上げられた。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約350件（学校・公共施設・キャンパスメンバー校等）
交通広告	JR駅デジタルポスター、バス停広告掲出
新聞・雑誌広告	リビング福岡（フリーペーパー）
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	参道バナー掲出、当館イベントちらし掲載1回
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、熊本日日新聞
テレビ、ラジオ	NHKはっけんＴＶ、ケーブルステーション「つなＧＯＧＯ」
雑誌	広報だざいふ、九州王国、リビング福岡、シティリビング
インターネットメディア	FANFANふくおか
その他	マスコミ内覧会の開催11社出席

・トピック展示「海の王都 原の辻遺跡と壱岐の至宝」

会期	10月11日(火)～12月4日(日)（50日間）
ターゲット	一般の歴史、考古学ファンおよび学生他
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約300件（学校・公共施設・関係団体・キャンパスメンバー校等）
交通広告	バス停広告掲出、参道バナー掲出
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知

その他	参道バナー掲出、当館イベントちらし掲載3回
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞
テレビ、ラジオ	ケーブルステーション「つなＧＯＧＯ」RKBラジオ
雑誌	広報ださいふ、トマールフクオカ、九州王国
インターネットメディア	―
その他	マスコミ内覧会の開催5社出席

・トピック展示「きらめきで飾る―螺鈿の美をあつめて―」

会期	11月15日（火）～12月23日（金・祝）（34日間）
ターゲット	一般の美術工芸品ファン等
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約274件（学校・公共施設・関係団体等）
交通広告	バス停広告掲出、参道バナー掲出
新聞・雑誌広告	リビング福岡（フリーペーパー）
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	参道バナー掲出、当館イベントちらし掲載3回
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	NHKはっけんTV、ケーブルステーション「つなＧＯＧＯ」
雑誌	九州王国、広報ださいふ、ぐらんざ、kirari
インターネットメディア	―
その他	マスコミ内覧会の開催5社出席

・新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」

会期	29年1月1日（日・祝）～1月29日（日）（29日間）
ターゲット	一般の美術工芸品ファン等
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約134件（学校・公共施設・関係団体等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	リビング福岡（フリーペーパー）
テレビ広告	年末年始CM（FBS、TNC、KBC）
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集１回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	年末年始ラジオ（RKB）、参道バナー掲出、当館イベントちらし掲載2回
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、毎日新聞、
テレビ、ラジオ	はっけんTV
雑誌	九州王国、広報ださいふ、ぐらんざ、kirari
インターネットメディア	―
その他	マスコミ内覧会（中止）

(2)特別展、共催展等

・展覧会名：特別展「始皇帝と大兵馬俑」

会期	28年3月15日（火）～6月12日（日）（78日間）
ターゲット	一般の中国史、歴史・考古学ファン等
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DMM送付	約3,600件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・JR）、ポスター駅貼り等（西鉄・JR）、ポスター車内（西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	告知1回、特集1回、送付 約30,000件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	NHK九州放送の番組内で紹介
雑誌	九州王国、太宰府イベント情報、でかなび、ぐらんざ、月刊はかた、女性自身、子連れでchachacha、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーほか
インターネットメディア	―
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載、ジュニアガイドを県内の小学校に配布
③報道発表会	
実施日	27年12月11日（9社出席）
人数等	9媒体、　9人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	28年3月14日
人数等	17媒体、33人出席

・特別展「東山魁夷 自然と人、そして町」

会期	7月16日（土）～8月28日（日）（39日間）
ターゲット	一般の絵画ファン他
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,700件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・JR）、ポスター駅貼り等（西鉄・JR）、ポスター車内（西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	TVQ九州
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	告知1回、特集1回、送付 約30,000件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、日本経済新聞、朝日新聞、読売新聞、熊本日日新聞、新美術新聞、全私学新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送番組での紹介
雑誌	九州王国、月刊はかた、婦人公論、ライフさせぼ、子連れでchachacha、JAFmate、ぐらんざ、日経サイエンス、グラフ福岡、和樂、サライ、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー、福岡県広報誌　等
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	5月13日

人数等	8媒体、16人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	7月15日
人数等	18媒体、31人出席

・特別展「京都　高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―　」

会期	10月4日(火)～11月20日(日)（45日間）
ターゲット	一般の歴史、仏教、美術ファン等
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,700件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・JR）、ポスター駅貼り等（西鉄・JR）、ポスター車内（西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	TVQ九州放送
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	告知1回、特集1回、送付 約30,000件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトおよび特別展公式ホームページ・SNSでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、日本経済新聞、読売新聞、産経新聞、全私学新聞ほか
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送番組、NHK九州放送
雑誌	九州王国、ふくおか経済、九州秋ウォーカー、くるめスタイル、日経インテレッセ、ぐらんざ、福岡walker、グラフふくおか、ながさきpress、日経おとなのOFF、福岡県広報誌
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	7月21日
人数等	9媒体、19人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	10月3日
人数等	27媒体、32人出席

・特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」

会期	29年1月1日(日・祝)～3月5日(日)（56日間）
ターゲット	一般の歴史、考古学ファン他
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,700件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・JR）、ポスター駅貼り等（西鉄・JR）、ポスター車内（西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	TVQ放送
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	告知1回、特集1回、送付 約31,000件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学・県内商業施設等）
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、ツイッターでの告知
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、日本経済新聞、福岡小学生新聞
テレビ、ラジオ	TVQ放送の番組内での紹介、RKB「福岡県庁知らせた課」、県の情報番組コーナー
雑誌	九州冬walker、遊人、月刊イーミル、くるめスタイル、日経大人のOFF
インターネットメディア	―

その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載 ジュニアガイドを県内の小学校に配布
③報道発表会	
実施日	10月28日
人数等	12媒体、18人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	12月26日
人数等	15媒体、37人出席

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

会期	28年4月1日（金）～3月31日（金）（309日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース展示紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

(2)特別展等

・夏期企画展(こども展示)「ナント！おいしい！？平城京！！-奈良の都の食事情-」

会期	7月23日（土）～8月31日（水）（34日間）
ターゲット	高校生以下及びその家族
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞　ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	7月22日

人数等	6媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・秋期特別展「地下の正倉院展 式部省木簡の世界―役人の勤務評価と昇進―」

会期	28年10月15日（土）～11月27日（日）（39日間）
ターゲット	木簡ファン、正倉院展愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞　ほか
テレビ、ラジオ	NHK「Welcome to Amezing Japan　ペルシャの名残を求めて～奈良県奈良市～」（28年12月2日放送） 毎日放送（11月1日放送）
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	28年10月14日
人数等	7媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・ミニ展示「発掘速報展 平城2016」

会期	29年2月4日（土）～4月2日（日）（50日間）
ターゲット	考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	NHK「Welcome to Amezing Japan　ペルシャの名残を求めて～奈良県奈良市～」（28年12月2日放送） 毎日放送（11月1日放送）
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	29年2月3日

人数等	6媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

会期	28年4月1日（金）～29年3月31日（金）（359日間）
ターゲット	特別史跡・藤原宮跡見学者
重点項目	遺跡理解の促進
特記事項	新聞・インターネットメディア等で展示紹介記事掲載
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈良県学習教材デジタルブック、旅行ガイドブック、奈良県ポータルサイト等に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	―
その他	橿原市観光案内所等にリーフレット配置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	産経WEST、産経フォト、毎日新聞ニュース交差点
その他	―

・速報展

①「藤原宮大極殿院の調査（182次）」

②「藤原宮東方官衙北地区の調査（183次）」

③「檜隈寺瓦窯の調査（181-4次）」

④「飛鳥寺出土文字瓦の再調査」

【飛鳥資料館】

(1)平常展

会期	28年4月1日（金）～29年3月31日（金）（309日間）
ターゲット	飛鳥を訪れる観光客、歴史・考古学の愛好家など
重点項目	ホームページ、SNSの更新頻度アップによる告知効果をあげる
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	―
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	るるぶ奈良、奈良散策情報、奈良のミュージアム、DOkka!おでかけ探検隊、まっぷる情報、おしごとはくぶつかん情報館、東海歴史散歩、ミュージアムカフェ　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、日本政府観光局グローバルサイト

その他	―

(2)特別展等

・春期特別展「文化財を撮る―写真が遺す歴史」

会期	28年4月26日（火）～7月3日（日）（60日間）
ターゲット	写真愛好家、歴史・考古学愛好家
重点項目	写真関係雑誌などへの情報提供
特記事項	体験コーナー、体験イベントの実施を告知
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,350件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、産経新聞、奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	NHK奈良、ラジオHONEY FM
雑誌	マイ奈良、なら探索ミュージアム、月刊大和路ならら、ぱーぷる、広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、あをによしなら旅ネット、イベントバンク
その他	―
③報道発表会	
実施日	28年4月25日
人数等	6媒体（場所：飛鳥資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・夏期企画展「第7回写真コンテスト 飛鳥の石」

会期	28年7月26日（火）～9月4日（日）（36日間）
ターゲット	写真愛好家、飛鳥を散策したい観光客
重点項目	写真雑誌、高校写真部などへの情報提供
特記事項	撮影スポットを入れた地図を会場で配布して飛鳥めぐりを誘引する
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,350件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	NHK奈良
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	登竜門、ならめがね、ぱーぷる、マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット
その他	―
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	―

人数等	―

・秋期特別展「祈りをこめた小塔」

会期	28年10月7日（金）～12月4日（日）（52日間）
ターゲット	古美術愛好家
重点項目	SNSを利用して展示途中状況などを告知に利用
特記事項	新たに購入した百万塔をポスターのメインとして公開活用をアピール
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,350件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	奈良のミュージアム、ぱーぷる、マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット
その他	―
③報道発表会	
実施日	28年10月6日
人数等	6媒体（場所：飛鳥資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・冬期企画展 「飛鳥むかしむかし　早川和子原画展」

会期	29年1月24日（火）～3月20日（月）（49日間）
ターゲット	イラスト愛好家、古代史ファン
重点項目	新聞に紹介記事を連載して広報強化
特記事項	作家による解説、似顔絵書きイベントをチラシ掲載して広報
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,350件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、奈良新聞、産経新聞
テレビ、ラジオ	NHK奈良、ラジオ大阪
雑誌	ぱーぷる、月刊大和路ならら、マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット
その他	―
③報道発表会	
実施日	29年1月23日
人数等	6媒体（場所：飛鳥資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

1-(3)-②-6 広報刊行物一覧

【東京国立博物館】

刊行物名	発行部数	配布先
東京国立博物館ニュース738号～743号	隔月刊年6回　各30,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体等に送付 定期郵送希望者　2,468件 （パスポート同時申込 1,070件含） 友の会　2,249件 寄贈　国内1,093件　海外87件（国内外の美術館・博物館・大学・研究所等） 賛助会　452件 キャンパスメンバーズ　52件 （29年3月31日現在）
東京国立博物館「案内と地図」	日本語　28.4　改訂　121,000部 日本語　28.8　増刷　30,000部 英語　28.4　改訂　65,000部 英語　28.8　増刷　20,000部 中国語（簡体字）28.4　改訂　12,000部 中国語（簡体字）28.8　増刷　8,000部 中国語（繁体字）28.4　改訂　10,000部 韓国語　28.4　改訂　47,000部 フランス語　28.4　改訂　10,000部 フランス語　28.8　増刷　4,000部 スペイン語　28.4　改訂　9,000部 ドイツ語　28.4　改訂　5,000部 ドイツ語　28.8　増刷　4,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体、大使館、学校等に送付
東京国立博物館　展示・催しのご案内 2016.4-2017.3	28.3　28年度版　35,000部	館内で来館者に無償配布 観光案内所、マスコミ媒体等に送付

【京都国立博物館】

刊行物名	発行時期	発行部数	配布先
京都国立博物館だより	4、7、10、29年1月	190号（4・5・6月）　30,000部 191号（7・8・9月）　15,000部 192号（10・11・12月）　30,000部 193号（29年1・2・3月）　20,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
Kyoto National Museum Letter Vol.129～132	4、7、10、29年1月	Vol.129（4・5・6月）　8,000部 Vol.130（7・8・9月）　3,000部 Vol.131（10・11・12月）　3,000部 Vol.132（29年1・2・3月）　3,000部	観覧者、京都観光案内所
博物館Dictionary No.188～197	4月、6月、7月、8月、10月、11月、29年1月、2月	20,000部	観覧者（小・中学生対象）
平成28年度年間スケジュール	4月、10月	45,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
特集陳列「徳川将軍家と京都の寺社」「丹後の仏教美術」「与謝蕪村」ポスター	5月	30部	周辺施設、鉄道主要駅ほか
特集陳列「丹後の仏教美術」鑑賞ガイド「トラりんと見てみよう！　丹後に伝わる祈りのかたち」	7月	8,000部	観覧者（子ども～大人対象）
留学生の日2016ポスター・チラシ	8月	ポスター　450部 チラシ　9,000部	観覧者(関西圏の大学、専門学校へ送付)
「京博のお正月2017」ポスター・チラシ	11月	ポスター　2,000部 チラシ　110,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
特集陳列「とりづくし」鑑賞ガイド「トラりんと見てみよう！　美術のなかのとりたち」	12月	13,300部	観覧者（子ども～大人対象）
夜間開館告知ポスター・フライヤー	29年1月	ポスター　200部 フライヤー　30,000部	観覧者、京都駅観光案内所ほか
特集陳列「雛まつりと人形」リーフレット	29年2月	8,000部	観覧者
特集陳列「京博すいぞくかん」チラシ	29年3月	チラシ　20,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
京都国立博物館建築／庭園ガイド英語版	29年3月	3,000部	庭園解放時に有料観覧者に配布及び販売(260円税込)
平成29年度年間スケジュール	29年3月	40,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送

【奈良国立博物館】

刊行物名	発行部数	配布先
奈良国立博物館だより （年4回）	春号　20,000部 夏号　20,000部 秋号　30,000部 冬号　20,000部	美術館・博物館・学校・研究所・郵送希望者等　約1,560件に発送 館内で来館者に配布
奈良国立博物館リーフレット	日本語版　33,000部 英語版　6,000部 フランス語版　1,000部	館内で来館者に配布

	ドイツ語版　1,000部 中国語版　7,000部 韓国語版　2,000部 スペイン語版　1,000部	
奈良国立博物館展示案内	30,000部	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版　80,000部 中国語版　15,000部 韓国語版　10,000部 英語版　20,000部 ドイツ語版　4,000部 フランス語版　4,000部 スペイン語版　4,000部 合計　137,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
文化交流展示室案内マップ	日本語版　11,618部 合計　11,618部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
九州国立博物館概要	日本語版　3,000部 中国語版　300部 韓国語版　300部 英語版　500部 合計　4,100部	・視察者等に配布 ・学校関係へ郵送
季刊情報誌「アジアージュ」	春(40)号　50,000部 夏(41)号　50,000部 秋(42)号　50,000部 冬(43)号　50,000部 合計　200,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、県内市町村 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月発行　各号16,500部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館　展示スケジュールのご案内	23,000部	・館内で来館者に配布
九州国立博物館　わくわく通信	年5回　総数684,000枚	・近郊の小中学校に配布

1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数　　（後述の資料に記載）◎共通資料d

1-(4) 有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

1-(4)-① 有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究

1-(4)-①-1 調査研究テーマ一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-②
1-(4)-①-2 学会、研究会等発表実績一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-③
1-(4)-①-3 論文等発表実績一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑤
1-(4)-①-4 科学研究費助成事業による調査研究	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑦
1-(4)-①-5 客員研究員一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑧

1-(4)-② その他有形文化財に関連する調査研究

1-(4)-②-1 調査研究テーマ一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-②
1-(4)-②-2 学会、研究会等発表実績一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-③
1-(4)-②-3 論文等発表実績一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑤
1-(4)-②-4 科学研究費助成事業による調査研究	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑦
1-(4)-②-5 客員研究員一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑧

1-(4)-③ 国内外の博物館等との学術交流等

1-(4)-③-1 研究交流実績一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-①

1-(4)-④ 調査研究成果の公表

1-(4)-④-1 調査研究刊行物一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑥
1-(4)-④-2 平常展・特別展・海外展	（後述の資料に記載）	◎共通資料a-③
1-(4)-④-3 講座・講演会等の開催実績	（前述の資料に記載）	1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績

1-(5) 国内外の博物館活動への寄与

1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与

1-(5)-①-1国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数

平成29年3月31日現在

		国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数		244	234	10	109	103	6	71	70	1	34	33	1	30	28	2
合　計		1,561	1,348	213	946	750	196	367	365	2	165	161	4	83	72	11
絵画		560	483	77	254	179	75	214	214	0	75	75	0	17	15	2
書跡		109	89	20	52	33	19	36	36	0	16	16	0	5	4	1
彫刻		136	119	17	102	92	10	16	14	2	16	12	4	2	1	1
建築		13	13	0	11	11	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0
金工		85	81	4	55	51	4	17	17	0	12	12	0	1	1	0
刀剣		41	36	5	40	36	4				0	0	0	1	0	1
陶磁		80	65	15	55	43	12	20	20	0	0	0	0	5	2	3
漆工		99	93	6	55	49	6	19	19	0	12	12	0	13	13	0
染織		72	38	34	62	28	34	9	9	0	1	1	0	0	0	0
考古		193	179	14	128	117	11	8	8	0	33	33	0	24	21	3
民族資料		23	23	0	23	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		61	61	0	21	21	0	28	28	0	0	0	0	12	12	0
和書		19	18	1	18	17	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0
東洋	絵画	14	10	4	14	10	4									
	書跡	18	18	0	18	18	0									
	彫刻	3	1	2	3	1	2									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	8	5	3	8	5	3									
	漆工	9	5	4	9	5	4									
	染織	7	1	6	7	1	6									
	考古	2	2	0	2	2	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		2	1	1	2	1	1									
黒田記念館収蔵品		7	7	0	7	7	0									

＊巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
貸与先件数		311	272	274	273	244
合　計		1,814	2,041	1,962	1,530	1,561
絵画		436	461	392	432	560
書跡		91	101	92	81	109
彫刻		224	183	361	313	136
建築		5	4	3	3	13
金工		84	63	94	92	85
刀剣		13	46	10	22	41
陶磁		99	250	257	116	80
漆工		57	121	109	54	99
染織		98	47	35	48	72
考古		327	324	243	201	193
民族資料		2	0	8	37	23
歴史資料		44	68	36	20	61
和書		14	13	13	18	19
東洋	絵画	12	13	42	20	14
	書跡	6	13	13	7	18
	彫刻	27	9	5	6	3
	金工	0	0	4	0	0
	陶磁	29	37	28	13	8
	漆工	3	0	5	2	9
	染織	0	1	7	0	7
	考古	49	47	10	0	2
	民族	0	0	0	0	0
法隆寺献納宝物		0	0	2	33	2
黒田記念館収蔵品		194	240	193	12	7

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数

○収蔵品

平成29年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計(国内+海外)	203	1,215	109	893	45	166	24	84	25	72
国内	193	1,004	103	697	44	164	23	82	23	61
国・国立	32	115	16	58	8	28	3	22	5	7
地方・公立	115	726	67	532	20	103	14	46	14	45
私立団体	46	163	20	107	16	33	6	14	4	9
海外	10	211	6	196	1	2	1	2	2	11

○寄託品

平成29年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計(国内+海外)	107	346	27	53	56	201	19	81	5	11
国内	106	344	27	53	56	201	18	79	5	11
国・国立	15	133	3	14	7	89	3	27	2	3
地方・公立	52	109	16	27	28	63	6	13	2	6
私立団体	39	102	8	12	21	49	9	39	1	2
海外	1	2	0	0	0	0	1	2	0	0

1-(5)-①-3 海外への列品貸与

平成29年3月31日現在

【東京国立博物館】　海外貸与先　6件　　海外貸与文化財196件[うち寄託品 0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
1	常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市）】	14年1月1日 ～29年12月31日	東洋彫刻2件
2	発掘40周年記念特別展「新安海底文化財」	大韓民国国立中央博物館【国立中央博物館（大韓民国）】	7月5日 ～9月23日	絵画2件
3	海外展「日本仏像展」	文化庁、ローマ・クイリナーレ宮美術館【ローマ・クイリナーレ宮美術館リウム（イタリア共和国）】	6月15日 ～9月30日	彫刻2件
4	特別展「絹の世界」	国立絲綢博物館【国立絲綢博物館（中華人民共和国）】	8月15日 ～12月26日	28件 染織24、東洋染織4
5	海外展「15－19世紀日中韓絵画清品展」	中国国家博物館【中国国家博物館（中華人民共和国）】	10月26日 ～12月23日	絵画18件
6	交流展「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」	國立故宮博物院南部院区【國立故宮博物院南部院区】	11月14日 ～29年3月26日	144件 絵画55、書跡19、彫刻8、金工4、刀剣4、陶磁12、漆工6、染織10、考古11、法隆寺献納宝物1、和書1、東洋絵画4、東洋陶磁3、東洋漆工4、東洋染織2

【京都国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 2件[うち寄託品 0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
1	海外展「日本仏像展」	文化庁、ローマ・クイリナーレ宮美術館【ローマ・クイリナーレ宮美術館リウム（イタリア共和国）】	7月29日 ～9月4日	彫刻2

【奈良国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 4件[うち寄託品 2件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
1	海外展「日本仏像展」	文化庁、ローマ・クイリナーレ宮美術館【ローマ・クイリナーレ宮美術館リウム（イタリア共和国）】	5月30日 ～10月5日	彫刻4[2]

【九州国立博物館】　海外貸与先 2件　　海外貸与文化財 11件[うち寄託品 0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
1	福泉博物館開館20周年及び釜山市-福岡市文化財交流20周年記念国際交流展「日本古代文化への招待」	大韓民国釜山市福泉博物館	9月19日 ～ 12月19日	3件 考古3
2	「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」	台北國立故宮博物院南部院區	11月18日 ～ 29年3月31日	8件 絵画2、書跡1、彫刻1、刀剣1、陶磁3

1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績

【東京国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	岡山県立美術館	8月1日～29年3月31日	53	10
2	鳥取県立博物館	8月1日～29年3月31日	36	11

【奈良国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	福岡市博物館、福岡市埋蔵文化財センター	9月1日～29年3月31日	10	8
2	遊佐町教育委員会	9月1日～29年3月31日	1	4

（参考）

その他(収蔵品・寄託品以外)の貸与

【東京国立博物館】

	区分	貸与先	期間	貸与件数（件）	貸与先件数(件)
1	古写真	名古屋城天守閣	10月8日～11月23日	6	1
2	図書	練馬区立牧野記念庭園記念館	2月18日～3月31日	1	1

1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等

1-(5)-②-1 国内外の博物館等への援助・助言等に関する取組状況
（専門的・技術的な援助・助言の件数、行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

平成29年3月31日現在

計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
381件	120件	112件	62件	87件

【東京国立博物館】120件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	東京国立近代美術館	評議員として美術館の運営・事業等に関し助言を行う	4月1日～29年3月31日	学芸企画部長　井上洋一
2	アイヌ国立博物館準備室	アイヌ国立博物館開館に向けての助言を行う	8月3日、29年3月16日	同上
3	マレーシア・イスラム美術館	東京国立博物館のイスラム関係美術所蔵状況および国際交流事業について	29年3月31日	学芸企画部長　井上洋一、調査研究課考古室長　白井克也、企画課国際交流室主任研究員　遠藤楽子、調査研究課東洋室研究員　小野塚拓造
4	文化庁	イタリア共和国ローマ市のクイリナーレ宮美術館における「日本仏像展」の展示作業	7月15日～8月1日	企画課長　浅見龍介
5	丹青研究所	「美術工芸品の公開活用の現状調査事業」ワーキングチームの委員	9月9日～29年3月31日	同上
6	国際交流基金	アメリカ合衆国ナショナルギャラリー等における「日本美術に見る動物の姿」展（仮称）の共同キュレーター	10月4日～29年3月31日	同上
7	一般財団法人アイヌ民族博物館	アイヌ文化伝承者育成事業への協力	29年1月18～19日	企画課特別展室主任研究員　品川欣也
8	照明学会	「美術館・博物館の次世代照明基準に関する研究調査委員会」への委員参加	4月1日～29年3月31日	企画課デザイン室長　木下史青
9	神奈川大学 日本常民文化研究所	神奈川大学非文字資料研究研究センター海外提携機関訪問研究員 ジアダ・リッチ（フランス国立高等研究院）氏に対し、日本の博物館展示デザインについて情報提供を行った。	10月18日	同上
10	那覇市立壺屋焼物博物館	照明更新(監修業務)の現場調整および記録撮影	10月23～24日	同上
11	公益財団法人菊池美術財団　菊池寛実記念　智美術館	館内照明設備の改修工事にかかわる助言	29年2月7日	同上
12	宗教法人 浅草寺	ライトアップ照明設備の改修にかかわる助言	29年2月～3月31日	同上
13	公益財団法人　品川文化振興事業団　0美術館	館内照明設備の改修工事にかかわる監修	29年3月23日～3月31日	同上
14	ルーブル美術館	来館者数の推移と傾向に関わる助言・意見交換	4月1日～12月31日	企画課国際交流室主任研究員 遠藤楽子
15	パリ装飾芸術美術館	国際交流基金協力事業「ジャポニズム」展に関連し、東京国立博物館の所蔵品の概略と貸与・条件等について	29年3月8日	同上
16	埼玉県立歴史と民族の博物館	東京国立博物館での多言語対応について	29年3月	同上
17	さいたま市大宮盆栽美術館	キャプションの英語表記について	12月12日	企画課国際交流室アソシエイトフェロー　君波妙子
18	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会　委員	4月1日～29年3月31日	博物館教育課長　小林牧
19	九州国立博物館	スマートフォンによる鑑賞ガイドに関する助言	7月15日	博物館教育課長　小林牧、博物館教育課教育普及室主任研究員 藤田千織
20	イスラエル聖書博物館	博物館の教育普及事業に関する助言	9月27日	博物館教育課長　小林牧
21	奈良県公園緑地課	飛鳥宮跡保存活用検討委員会　委員	10月1日～29年3月31日	同上
22	宇都宮市立美術館・宇都宮市立博物館	多言語対応に関する助言	11月10日	同上
23	ユネスコアジア文化センター	文化遺産の保護に資する研修2016　教育普及	11月30日	博物館教育課長　小林牧、博物館教育課教育普及室主任研究員 藤田千織
24	京都鉄道博物館	教育普及事業全般に関する助言	12月12日	博物館教育課教育普及室主任研究員　藤田千織
25	静岡大学	博物館という「場」を活用したイベントについての助言	12月26日	同上
26	福山大学海洋生物科学科（博物館教育）	スマートフォンによる鑑賞ガイドに関する助言	29年2月3日	同上
27	九州国立博物館	演劇型教育プログラムに関する助言	29年2月17日	同上
28	秋田市立千秋美術館	スマートフォンによる鑑賞ガイドに関する助言	29年2月21日	同上
29	仙台市科学館	スマートフォンによる鑑賞ガイドに関する助言	29年3月2日	同上
30	韓国国立中央博物館	ボランティア、インターン、職場体験について	6月14日	博物館教育課ボランティア室長 鈴木みどり
31	江戸東京博物館	バリアフリーの取り組みについて	6月24日	同上
32	韓国国立中央博物館	盲学校対応、ユニバーサルデザインについて	9月28日	同上

	機　関	内　容	期　間	担当者
33	韓国国立中央博物館	青年対象のボランティアについて（ボランティア運営、芸大インターン、スクールプログラムについて）	12 月 20 日	同上
34	国立アイヌ民族博物館展示検討委員会　委員	2020 年に開館予定の同館の展示内容を検討し、専門的な立場から助言を行った。	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	博物館情報課長　田良島哲
35	文京区立森鷗外記念館運営協議会委員	委員会に出席し、同館の運営に関して、専門的立場から意見を述べた。	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	同上
36	内閣府　知的財産戦略推進事務局「デジタル・アーカイブの連携に関する実務者協議会」構成員	博物館・図書館・文書館等の間のデジタルアーカイブの連携について、博物館の立場から意見を述べ、併せて最近の動向を把握した。	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	同上
37	国立歴史民俗博物館	企画展示「デジタルで楽しむ歴史資料」展示プロジェクト委員	4 月 27 日、10 月 7 日、29 年 3 月 13 日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
38	文化庁	第１０回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー講師	7 月 4 日、10 月 24 日	同上
39	東京国立近代美術館	「海外日本美術資料専門家（司書）の招聘・研修・交流事業 2016」研修講師	11 月 30 日	博物館情報課長　田良島哲、博物館情報課情報管理室長　村田良二、博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
40	情報科学技術協会	ISO/TC46/SC4　国内委員会委員	29 年 1 月 17 日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
41	国際展覧会オーガナイザー会議	運営委員会委員・アジアの博物館における展覧会運営について	4 月 13 日～4 月 15 日	広報室長　鬼頭智美
42	九州国立博物館	SNS 運用について	5 月 24 日	広報室アソシエイトフェロー奥田緑、広報室長　鬼頭智美
43	国立新美術館	広報対応について	5 月 27 日	広報室長　鬼頭智美
44	国立民族学博物館	平成 28 年度「博物館学集中コース」研修講師	10 月 13 日	同上
45	愛知県教育委員会	愛知県文化財保護審議会委員	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　恵美千鶴子
46	流山市教育委員会	「平成 28 年度第１回鰭ヶ崎三本松古墳調査指導委員会」における古墳調査方法に関する指導助言	7 月 21 日	列品管理課主任研究員　古谷毅
47	流山市教育委員会	「平成 28 年度第 2 回鰭ヶ崎三本松古墳調査指導委員会」における古墳調査方法に関する指導助言	10 月 10 日	同上
48	鹿児島大学総合研究博物館	基盤研究(B)「Ｘ線ＣＴ調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的新研究」におけるＸ線ＣＴ調査の分析方法に関する指導助言	12 月 2 日	同上
49	国立歴史民俗博物館	企画展示「URUSHI ふしぎ物語―人と漆の 9000 年史-（仮称）」展示プロジェクト委員	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	列品管理課登録室長　竹内奈美子
50	日本博物館協会	美術品梱包輸送技能取得士認定制度に関する委員会委員および認定試験委員会委員	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	同上
51	神戸市立博物館、名古屋ボストン美術館	「ボストン美術館所蔵　俺たちの国芳　わたしの国貞」展監修	6 月 18 日～8 月 28 日、9 月 10 日～12 月 11 日	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人
52	美術史学会	『美術史』181 号査読委員	10 月	同上
53	公益財団法人　永青文庫	永青文庫所蔵の武具刀剣類について、保管および展示の指導。	4 月 1 日～29 年 3 月 31 日	列品管理課平常展調整室研究員　末兼俊彦
54	静岡県立美術館	「風景の絶景」展特別講演会「あれから 30 年―日本画収集をふりかえって」講師	4 月 24 日	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也
55	花園大学禅文化研究所	講演会「春日局像と狩野探幽」講師	5 月 20 日	同上
56	NHK ラジオ第２	NHK カルチャーラジオ 芸術その魅力「富士山と日本人の心」講師	10 月 5 日～12 月 28 日	同上
57	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4 月 1 日～29 年 3 月 19 日	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
58	静岡県教育委員会	静岡県文化財保護審議会委員	28 年 1 月 1 日～29 年 12 月 31 日	同上
59	文化庁	調査員（文化財部伝統文化課）	6 月 1 日～29 年 3 月 31 日	同上
60	日本工芸会	第 63 回日本伝統工芸展鑑査委員（染織）	8 月 11～12 日	同上
61	独立行政法人日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	29 年 2 月 15～16 日	同上
62	香川県立ミュージアム	香川県内経塚出土遺物に関する照会	7 月 8 日	調査研究課考古室長　白井克也、調査研究課考古室研究員　井出浩正
63	大野城市教育委員会	大野城市出土考古資料に関する照会	9 月 28 日、9 月 30 日	調査研究課考古室長　白井克也
64	新潟県立歴史博物館	県内で見いだされた新羅土器印花文碗・蓋の真贋に関する照会	29 年 1 月 24 日	同上
65	国立国際美術館	始皇帝と大兵馬俑展の作品展示、撤収	6 月 27 日～6 月 29 日、10 月 2 日～10 月 7 日	企画課特別展室主任研究員　市元塁、調査研究課考古室研究員井出浩正
66	日比谷区立図書文化館	展覧会への入口講座 Vol.20　禅と茶の湯－茶湯道具の変遷とその魅力について	10 月 21 日	調査研究課東洋室主任研究員　三笠景子
67	大和文華館	『特別企画展　朝鮮の絵画と工芸』特別講演講師	11 月 27 日	調査研究課東洋室研究員　植松瑞希
68	練馬区立牧野記念庭園記念館	絵画技法についての助言	5 月 18 日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
69	韓国国立中央博物館	文化財の燻蒸方法について	6 月 15 日	同上
70	バイエルン国立博物館	文化財用 X 線 CT の設計、設置、修理における活用について	7 月 5 日	同上

	機　関	内　容	期　間	担当者
71	大英博物館	文化財の科学的調査と修理について	7月16日	同上
72	練馬区立牧野記念庭園記念館	生物対策の助言	7月21日	同上
73	神奈川県立生命の星・地球博物館	生物対策の助言	7月21日	同上
74	NPO法人文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家養成実践セミナー　レベル２・A　講義「接着剤」講師	9月2日	同上
75	学習院大学資料館	文化財収蔵施設環境についての助言	9月20日	同上
76	国立台湾文学館	ガラス乾板写真の保存と修復について	9月25日	同上
77	韓国国立中央博物館	ガラス乾板写真の保存と修復について	11月16日～11月17日	同上
78	韓国国家記録院	写真の保存、害虫管理、文化財修理について	11月21日	同上
79	朝鮮民族美術館	写真の保存、デジタルアーカイブについて	11月22日	同上
80	文化庁文化財部伝統文化課国立アイヌ民族博物館設立準備室	文化財用X線CTの設計、設置、活用について	12月16日	同上
81	韓国国立慶州博物館	収蔵品の地震対策、Ｘ線ＣＴの活用について	12月21日	同上
82	文化庁	新指定展における、維摩居士像X線CT画像、3次元ﾃﾞｰﾀの作成	29年3月16日～3月30日	保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛
83	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会保存環境ワーキンググループ専門委員	4月1日～29年3月31日	保存修復課環境保存室長　和田浩
84	日本博物館協会	美術品梱包輸送技能取得士認定制度に関する委員会委員および認定試験委員会委員	4月1日～29年3月31日	同上
85	文化庁	美術工芸品の公開活用の現状調査事業に係る技術審査専門委員	7月12日	同上
86	文化庁	美術工芸品の公開活用の現状調査事業ワーキングチーム委員	9月12日～29年3月31日	同上
87	文化庁	第10回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー講師	10月24日	同上
88	三の丸尚蔵館	修理作品企画競争審査委員会　外部委員	4月26日	保存修復課保存修復室長　土屋裕子
89	イタリア・トリブルツィオ財団	伊東マンショの肖像の非破壊絵具分析調査	7月11日	同上
90	NPO法人文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家養成実践セミナー　講義「文化財に関する情報蓄積の重要性―東京国立博物館の保存カルテ作成の実際と課題」講師	9月2日	同上
91	静嘉堂文庫	浮世絵のマウント方法および費用についての助言指導	11月30日	同上
92	ユネスコ	アジア博物館学芸員研修「保存修復について」（「文化遺産の保護に資する研修２０１６」 ―博物館等における文化財の調査・記録・保存修復・活用―）	12月1日	同上
93	秩父の宮記念スポーツ博物館	列品台帳および作品保存についての助言	12月12日	同上
94	杉原千畝記念館（岐阜県八百津町役場）	杉原千畝の「命のビザ」の保存対策　作品の保存環境現地調査およびデータ読み込み作業、保存箱についての検討	12月、29年1月18日	特任研究員　神庭信幸、保存修復課保存修復室長　土屋裕子
95	国際交流基金	ウルグアイにおける日本の修復専門家による現地環境・作品状態の調査、専門的見地からのアドバイス及びワークショップの実施を計画についての助言	29年1月12日	保存修復課保存修復室長　土屋裕子
96	共立女子大学	収蔵品の修理仕様についての指導、修理技術者に対する技術指導	29年1月16～17日	同上
97	文化庁文化財部伝統文化課 国立アイヌ民族博物館設立準備室	新規設置修理室についての助言	29年1月16日	同上
98	ウルグアイ、モンテビデオ県立ファン・マヌエル・ブラネス美術館	国際交流基金文化協力（ウルグアイ絵画修復）による現地への専門家派遣（Las Manolas　カンバス・油彩の修理および日本美術修理に関する講演）	29年3月20日～3月28日	保存修復課保存修復室長　土屋裕子、同アソシエイトフェロー野中昭美、木島隆康、安田真実子
99	鎌倉市教育委員会	鎌倉市文化財専門委員会	6月1日～29年3月31日	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛
100	長野県信濃美術館	長野県信濃美術館開館50周年記念特別講座　もっと知りたい日本美術のこと　四　知ると楽しい仏画の世界	9月10日	同上
101	宮崎県立美術館	開催記念講演会　伊東マンショの肖像と日伊交流	9月19日	同上
102	普光寺文化財保存会設立準備会	講演会　板谷桂舟筆「普光寺山門天井画及び板絵」と板谷家伝来資料	11月6日	同上
103	岩手県文化財審議員工芸担当者	指定候補物件の分析画像の確認	9月24日～9月28日	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　野中昭美
104	東根市公益文化施設まなびあテラス　東根市美術館	展示室内空気環境に関する助言	11月8日～12月1日	同上
105	仙台市立博物館	民族有形文化財の漆塗膜分析に関する助言	29年3月14日	同上
106	奈良国立博物館	上代裂等の修理方法に関する助言	8月2日	客員研究員　沢田むつ代
107	舞鶴市	舞鶴市ユネスコ世界記憶遺産有識者会議委員	24年12月26日～31年3月31日	総務部長　栗原祐司
108	日本博物館協会	調査研究委員会委員	26年7月15日～29年3月31日	同上
109	田川市教育委員会	田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員	27年4月1日～29年3月31日	同上
110	兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館運営委員会委員	27年12月1日～29年3月31日	同上
111	スポーツミュージアム連携・啓発事業実行委員会	スポーツミュージアム連携・啓発事業委員会委員	4月1日～29年3月31日	同上

	機　関	内　容	期　間	担当者
112	文化庁	文化財等災害対策委員会委員	4月1日～29年3月31日	同上
113	日本博物館協会	日本のミュージアムのための国際発信力向上推進事業実行委員会委員	4月1日～29年3月31日	同上
114	「人権ネットを活用した地域活性化事業」実行委員会	「人権ネットを活用した地域活性化事業」実行委員	5月1日～29年3月31日	同上
115	ICOM日本委員会	ICOM日本委員会委員	5月13日～平成30年度総会	同上
116	文化庁	「Tokyo 2020 JAPAN HOUSEにおける日本発信プロジェクト」運営実施業務企画選定委員会委員	4月7日～29年3月31日	総務課長　竹之内 勝典
117	文化庁	「文化情報の基盤構築に向けた調査・検証」請負業務に係る技術審査専門委員	7月20日～29年3月31日	同上
118	文化庁	「国民文化祭に関する調査研究」委託業務の委託先選定に係る技術審査専門委員	11月4日	同上
119	文化庁	「第9回日中韓文化大臣会合､東アジア文化都市サミット及び関連行事」企画選定委員会委員	29年3月13日～29年3月31日	同上
120	文化庁	「国民文化祭に関する調査研究」委託業務の委託先選定に係る技術審査専門委員	3月23日	同上

【京都国立博物館】112件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月～9月	副館長　伊藤嘉章
2	文化庁	美術工芸品買取鑑査会議　委員	4月～9月	同上
3	岐阜県教育委員会	岐阜県文化財保護審議会委員として助言	4月～9月	同上
4	愛知県陶磁美術館	愛知県陶磁美術館委員会に出席し助言	4月～9月	同上
5	京都大学	教育・研究指導	4月～29年3月	学芸部長　山本英男 列品管理室長　宮川禎一 教育室長　山川　暁 保存修理指導室長　大原嘉豊
6	高知県	坂本龍馬記念館ﾘﾆｭｰｱﾙ基本構想検討委員として助言	4月～29年3月	列品管理室長　宮川禎一
7	京都女子大学	非常勤講師	4月～29年3月	学芸部長　山本英男
8	滋賀県	文化財保護審議会委員として助言	4月～30年9月	教育室長　山川　暁
9	祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾装飾品等専門委員会委員として助言	4月～29年3月	同上
10	京都女子大学	非常勤講師	4月～29年1月	同上
11	同志社大学	非常勤講師	4月～9月	保存修理指導室長　大原嘉豊
12	佛教大学	非常勤講師	4月～29年3月	同上
13	法隆寺	美術史班専門委員	4月～29年3月	同上
14	花園大学	非常勤講師	4月～29年3月	保存修理指導室主任研究員　羽田 聡
15	近畿大学	非常勤講師	4月～29年3月	同上
16	奈良大学通信教育部	通信教育部指導教員(非常勤)	4月～29年3月	工芸室研究員　降矢哲男
17	茶道総合資料館	裏千家茶道総合資料館客員研究員として助言	4月～30年3月	同上
18	東京国立博物館	「博物館でお花見を」桜セミナー及び教育関連展示作業に関する業務分担者	4月9日～11日	連携協力室長　淺湫 毅
19	西福寺	作品借用に関連する指導・助言	4月13日	美術室研究員　福士雄也
20	東京都美術館	「若冲展」に関する指導・助言	4月18日～21日	同上
21	奈良国立博物館	文化財保存修理所運営委員会委員として助言	5月17日	副館長　伊藤嘉章
22	野村美術館	平成28年野村美術館定期講演会にて講演	5月20日	教育室長　山川　暁
23	兵庫県立人と自然の博物館	児童対象ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟにおける水墨画について解説	5月24日、6月5日	教育室研究員　水谷亜希
24	比叡山延暦寺	「天台の名宝展」に関する助言	5月28日	副館長　伊藤嘉章 保存修理指導室長　大原嘉豊 保存修理指導室主任研究員　羽田 聡
25	岐阜県博物館	「美濃桃山陶と無形文化財」講演	5月29日	副館長　伊藤嘉章
26	総見寺	愛知県史編さんに伴う作品調査	5月30日	教育室長　山川　暁
27	東北大学	非常勤講師	6月～7月	列品管理室主任研究員　永島明子
28	文化庁	企画選定委員として助言	6月～29年3月	企画室研究員　井並林太郎
29	細見美術館	「若冲展」に関する展示作品に関する確認及び助言	6月2日	美術室研究員　福士雄也
30	野崎家塩業歴史館	漆工品に関する作品調査	6月3日 11月24日～25日 29年1月17日～18日	列品管理室主任研究員　永島明子
31	静岡市教育委員会	文化財保護審議会委員として助言	6月10日、11月9日	連携協力室長　淺湫 毅
32	智山専修学院	「仏教の文化と美術」講師	6月25日	保存修理指導室長　大原嘉豊
33	東京国立博物館	海外展「醍醐寺展」に関する展示及び撤収	6月29日～30日 9月20日～26日	同上
34	東京国立博物館	海外展「醍醐寺展」に関する展示及び撤収	6月30日 9月23日～26日	企画室長　伊藤信二
35	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	博物館建設に伴う展示WGとして指導	7月～29年3月	学芸部長　山本英男
36	越前市教育委員会	文化財保護審議会委員として助言	7月4日	保存修理指導室長　大原嘉豊
37	東京国立博物館	海外展「醍醐寺展」撤収作業	7月11日～16日	連携協力室長　淺湫 毅
38	九州国立博物館	文化財保存修復施設運営委員として助言	7月13日～14日	副館長　伊藤嘉章

	機　関	内　容	期　間	担当者
39	九州国立博物館	特別講演会「歴史と共に考える文化財の防災・減災」講師	7 月 17 日～18 日	保存修理指導室主任研究員　羽田 聡
40	東京国立博物館	海外展「醍醐寺展」に関する展示作業及び撤収	7 月 20 日～26 日 10 月 9 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
41	東京国立博物館	海外展「醍醐寺展」に関する展示作業及び撤収	7 月 21 日～26 日 10 月 9 日	企画室長　伊藤信二
42	文化庁	仁和寺所蔵の文化財調査	7 月 25 日	保存修理指導室主任研究員　羽田 聡
43	大阪府教育委員会	文化財保護審議委員として助言	8 月～30 年 3 月	企画室長　伊藤信二
44	江戸東京博物館	「大妖怪展」に関する展示作業及び撤収	8 月 1 日、30 日	企画室研究員　井並林太郎
45	公益財団法人　大和文華館	評議員として助言	6 月 9 日～9 月	副館長　伊藤嘉章
46	装道礼法きもの学院大阪校	第 81 回装道大学講座　講師	8 月 6 日	教育室長　山川　暁
47	富山県立大学	本法寺所蔵作品に関する調査撮影等の指導	8 月 6 日、 8 月 22 日～24 日	列品管理室アソシエイトフェロー 池田素子
48	公益財団法人日本工芸会	監査委員として助言	8 月 17 日	企画室長　伊藤信二
49	摂河泉地域文化研究所	連続講座「戦国茶道文化と三好氏」　講師	8 月 21 日	工芸室研究員　降矢哲男
50	定光寺	愛知県史編さんに伴う作品調査	8 月 23 日	教育室長　山川　暁
51	越前市生涯学習センター	「越前おもしろ歴史回廊」講師	8 月 27 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
52	泉南市教育委員会	「風神雷神図(高精細複製)」を用いた作品鑑賞講師	8 月 28 日	教育室研究員　水谷亜希
53	文化庁	海外展「日本仏像展」開催に伴う会場運営業務	8 月 28 日～9 月 5 日	連携協力室長　淺湫 毅
54	京都市	大政奉還 150 周年記念プロジェクトについて助言	9 月～11 月	列品管理室長　宮川禎一
55	京都造形芸術大学	非常勤講師	9 月～29 年 3 月	工芸室研究員　降矢哲男
56	立命館大学	非常勤講師	9 月～29 年 3 月	列品管理室アソシエイトフェロー 池田素子
57	三重県教育委員会	明和町指定文化財(仏通禅師所用法衣並びに什物)の調査	9 月 3 日	教育室長　山川　暁
58	東京国立博物館	特別調査会「絵画」の収蔵品に関する調査研究	9 月 6 日～8 日 9 月 6 日～7 日	保存修理指導室長　大原嘉豊 企画室研究員　井並林太郎
59	称名寺	愛知県史編さんに伴う作品調査	9 月 12 日	教育室長　山川　暁
60	名古屋市博物館	愛知県史編さんに伴う作品調査	9 月 12 日	同上
61	東京国立博物館	特別調査会「工芸」の収蔵品に関する調査研究	9 月 13 日～15 日	同上
62	可児市教育委員会	可児市大萱古窯跡群調査・保存・整備指導委員会委員として助言	9 月 13 日	副館長　伊藤嘉章
63	国宝修理装潢師連盟	修理技術者資格制度委員会に出席し助言	9 月 14 日、11 月 2 日	保存修理指導室長　大原嘉豊 保存修理指導室主任研究員　羽田 聡
64	明日の京都文化遺産プラットフォーム	明日の京都文化遺産プラットフォーム　企画・調整委員会委員として助言	10 月～29 年 3 月	副館長　栗原祐司
65	奈良国立博物館	文化財保存修理所運営委員として助言	10 月～29 年 3 月	学芸部長　山本英男
66	京都大学	非常勤講師	10 月～29 年 3 月	列品管理室長　宮川禎一
67	徳川美術館	秋期講座　講師	10 月 1 日	教育室長　山川　暁
68	大谷大学博物館	特別展の展示及び作品撤収	10 月 11 日、11 月 29 日	企画室研究員　井並林太郎
69	智山専修学院	講演「仏教の文化と美術」　講師	10 月 15 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
70	京都国立近代美術館	企画競争審査委員として助言	10 月 18 日	総務課長　植田義雄
71	東京国立博物館	連続講座「仏像三昧」　講師	10 月 21 日～23 日	連携協力室長　淺湫 毅
72	島根県教育委員会	文化財保護審議会委員として助言	10 月 24 日	教育室長　山川　暁
73	東京国立博物館	特別調査会「陶磁」の収蔵品に関する調査研究	10 月 28 日	工芸室研究員　降矢哲男
74	越前市武生公会堂記念館	記念講義「正覚寺の仏画について」　講師	10 月 29 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
75	大和文華館	評議員として助言	11 月～30 年 3 月	学芸部長　山本英男
76	京都市美術館	「若冲の京都」展　作品集荷確認	11 月 7 日	美術室研究員　福士雄也
77	東京文化財研究所	協同研究「遊行上人縁起絵」　調査研究	11 月 9 日 12 月 1 日～3 日 12 月 27 日～28 日 29 年 3 月 28 日～29 日	企画室研究員　井並林太郎
78	新城市設楽原歴史資料館	愛知県史編さんに伴う作品調査	11 月 14 日～11 月 16 日	教育室長　山川　暁
79	日本博物館協会	全国博物館大会「全国博物館フォーラム」講師	11 月 16 日	副館長　栗原祐司
80	長崎歴史文化博物館	長崎県博物館資料価格評価委員として助言	11 月 26 日	列品管理室主任研究員　永島明子
81	滋賀県	新生美術館整備推進専門家会議委員	11 月 28 日	副館長　栗原祐司
82	文化庁	文化情報基盤の構築に向けた懇談会有識者委員	11 月 29 日～29 年 3 月 31 日	同上
83	水俣市立水俣病資料館	先方関係者との意見交換等	12 月 4 日～12 月 5 日	同上
84	森アーツセンターギャラリー	「マリー・アントワネット展」漆器作品の陳列	12 月 16 日	列品管理室主任研究員　永島明子
85	国際日本文化研究センター	協同研究会にて画像資料による帝国域内文化の再検討について助言	12 月 16 日～17 日	列品管理室研究員　呉 孟晋
86	長崎歴史文化博物館	坂本龍馬展記念講演　講師	12 月 17 日	列品管理室長　宮川禎一
87	東京大学史料編纂所	「日本絵画の復元に関する基礎的研究について助言	12 月 17 日	列品管理室アソシエイトフェロー 池田素子
88	延命寺	愛知県史編さんに伴う作品調査	12 月 19 日	教育室長　山川　暁
89	京都女子大学	「教養科目 A(歴史と文化 2)」講師	12 月 22 日	事業推進係アソシエイトフェロー リンネ マリサ
90	神戸市立博物館	購入候補資料評価委員として助言	29 年 1 月 6 日	美術室研究員　福士雄也
91	文化庁	文化財の買取評価員として助言	29 年 1 月 10 日	企画室長　伊藤信二
92	高知県	「坂本龍馬の書状発見」記者発表での書状解説	29 年 1 月 13 日	列品管理室長　宮川禎一
93	日本のミュージアムのための国際発信力向上推進事業事務局	日本のミュージアムのための国際発信力向上推進事業に関する助言	29 年 1 月 13 日	事業推進係アソシエイトフェロー リンネ マリサ
94	東京大学	「中国絵画総合図録　三編」に関する作品調査	29 年 1 月 13 日～15 日	列品管理室研究員　呉 孟晋

	機　関	内　容	期　間	担当者
95	東京大学	東アジア絵画の情報収集における中国絵画　調査撮影に関する協力	29年1月13日～15日	列品管理室研究員　呉 孟晋
96	東京文化財研究所	研究会「染織品の保存と展示」における講演	29年1月23日	教育室長　山川　暁
97	魚町能楽保存会	愛知県史編さんに伴う作品調査	29年1月24日	同上
98	京都大学国際高等教育院	日本語・日本文化研修講演　講師	29年1月25日	同上
99	福井市橘曙覧記念文学館	滋賀県文化財保護審議会（美術工芸品部会）の現地調査	29年1月26日	教育室長　山川　暁
100	福井市橘曙覧記念文学館	愛宕坂茶道美術館の美術品（書跡）の学術調査	29年1月30日 29年2月17日～18日 29年3月17日	保存修理指導室主任研究員　羽田 聡
101	日本国際協力センター	大エジプト博物館合同保存修復プロジェクトに係る技術支援委員として助言	29年1月～30年1月	副館長　栗原祐司
102	京都市元離宮二条城事務所	第10回京都市元離宮二条城保存整備委員会障壁画部会にて助言	29年2月7日	学芸部長　山本英男
103	神奈川大学	第59回「良友」画報研究会　発表	29年2月20日	列品管理室研究員　呉 孟晋
104	岡山大学	「瀬戸内の塩が育んだ近代東アジアネットワーク」講演	29年2月20日	列品管理室研究員　呉 孟晋
105	福井市橘曙覧記念文学館	愛宕坂茶道美術館の美術品（陶磁器）の学術調査	29年2月20日～21日	工芸室研究員　降矢哲男
106	東京文化財研究所	文化財情報資料部研究会での甲賀市藤栄神社所蔵十字形洋剣に関する発表	29年2月24日	列品管理室アソシエイトフェロー 池田素子
107	滋賀県	滋賀県文化財保護審議会にて助言	29年3月8日	教育室長　山川　暁
108	高知県	高知県文化資料収集審査会にて助言	29年3月8日	列品管理室長　宮川禎一
109	橋本関雪記念館	「人形文化について」シンポジウムに関する講演	29年3月8日	教育室長　山川　暁
110	国立文化財機構	文化遺産防災総合シミュレーション調査	29年3月12日～13日	事業推進係アソシエイトフェロー リンネ マリサ
111	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」ワーキング・グループ合同会議	29年3月18日	保存修理指導室長　大原嘉豊
112	東京藝術大学	特別展「雪村―奇想の誕生―」展示指導	29年3月22日	工芸室研究員　降矢哲男

【奈良国立博物館】62件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	読売あをによし賞事務局	読売あをによし賞選考委員会に運営・選考委員として出席し助言	4月3日	館長　湯山賢一
2	東大寺総合文化センター	東大寺経巻聖教原本調査に関する指導・助言	4月18日～21日	館長　湯山賢一 企画室長　野尻　忠 研究員　斎木涼子
3	唐招提寺	文化財収蔵環境に関する指導・助言	4月20日	保存修理指導室長　鳥越俊行 研究員　大江克己
4	公益社団法人　日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員会に委員として出席し助言	4月22日	館長　湯山賢一
5	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会に委員として出席、助言	4月27日	館長　湯山賢一
6	MIHO MUSEUM	MIHO MUSEUM「かざり」展展示に関する指導・助言	4月25日、5月17日、6月9日	工芸考古室長　清水　健
7	奈良県東京事務所	奈良まほろば館にて開催された「リニューアルオープン記念　なら仏像館の仏たち」講師	4月30日	資料室員　佐々木香輔
8	奈良県東京事務所	奈良まほろば館にて開催された「リニューアルオープンしたなら仏像館で仏像に会う」講師	5月7日	情報サービス室長　岩井共二
9	一般社団法人 国宝修理装潢師連盟	評議員会・総会に顧問として出席し助言	5月21日	館長　湯山賢一
10	奈良女子大学	学長選考会議に委員として出席し助言	5月26日、9月5日、9月28日、10月12日、11月22日、29年3月17日	館長　湯山賢一
11	奈良女子大学	経営協議会に出席し委員として助言	6月2日、11月22日、29年3月17日	館長　湯山賢一
12	五條猫塚古墳研究会	五條猫塚古墳出土品調査報告書作成に関する指導・助言	5月28日～5月29日	列品室長　吉澤　悟 主任研究員　岩戸晶子
13	奈良女子大学	奈良女子大学経営協議会に委員として出席し助言	6月2日、11月22日	館長　湯山賢一
14	奈良県東京事務所	広報用パネル設置に伴う指導・助言	6月8日	資料室員　佐々木香輔
15	公益財団法人　大和文華館	評議員会、理事会に委員として出席、助言	6月9日	館長　湯山賢一 学芸部長　内藤　栄
16	松伯美術館	理事会に委員として出席、助言	6月9日	館長　湯山賢一
17	公益財団法人　仏教美術研究上野記念財団	評議員会、理事会に委員として出席し助言	6月12日	館長　湯山賢一
18	京都国立博物館	京都国立博物館文化財保存修理所委員会に委員として出席し助言	6月13日	学芸部長　内藤　栄
19	公益財団法人 仏教美術研究上野記念財団	理事会に出席し理事として助言	6月14日	館長　湯山賢一
20	奈良市	「東アジア文化都市2016奈良市」実行委員会に委員として出席し助言	6月23日	館長　湯山賢一
21	浄土宗　宗務庁	文化財保存環境に関する指導・助言	6月15日	保存修理指導室長　鳥越俊行 研究員　大江克己
22	公益財団法人 仏教美術協会	評議員会に出席し評議員として助言	6月16日	館長　湯山賢一
23	奈良市市民活動部	「東アジア文化都市2016奈良市」準備委員会に出席し委員として助言	6月23日	館長　湯山賢一
24	和歌山県立博物館	協議会委員として書面にて助言	6月27日	館長　湯山賢一
25	那珂ふれあい館	「多可町おもしろ歴史セミナー」にて講演	7月3日	館長　湯山賢一
26	那珂ふれあい館	「杉原紙総合調査委員会」に委員として出席、助言	7月12日、平成29年3月	館長　湯山賢一

	機　関	内　容	期　間	担当者
27	多可町教育委員会	杉原紙総合調査委員会に出席し委員として助言	7月12日、10月6日、29年1月17日	館長　湯山賢一
28	九州国立博物館	九州国立博物館文化財保存修理所委員会に委員として出席し助言	7月13日	学芸部長　内藤　栄
29	奈良女子大学　国際交流センター	サマープログラム「MAHOROBA 2016　TOURISM」内で文化財の保存修理について講演	7月13日	保存修理指導室長　鳥越俊行
30	文化庁	平成28年度日本古美術海外展に出陳する文化財の展示に関する指導・助言	7月13日～8月1日	上席研究員　岩田茂樹
31	九州国立博物館	「歴史と共に考える文化財の防災・減災」にて講演	7月18日	企画室長　野尻　忠
32	公益社団法人ソーシャル･サイエンス・ラボ	英語パフォーマンス甲子園実行委員会に出席し委員として助言	7月23日	館長　湯山賢一
33	仁和寺	仁和寺聖教調査に関する指導・助言	7月25日､7月27日～7月29日	企画室長　野尻　忠 研究員　斎木涼子
34	法隆寺	第66回法隆寺夏季大学にて講演	7月26日	館長　湯山賢一
35	京都国立博物館	写真技師撮影研修補助及び指導	8月15日	資料室員　佐々木香輔
36	神戸市教育委員会	神戸市文化財保護審議会に委員として出席し助言	8月16日	上席研究員　岩田茂樹
37	勧修寺	所蔵文化財の修理に関する助言	9月7日	学芸部長　内藤　栄
38	遊佐町教育委員会	考古資料相互活用事業に関する展示指導・助言	9月28日～9月29日	主任研究員　中川あや
39	読売新聞西部本社	正倉院展レクチャーにて講演	10月1日	工芸考古室長　清水　健
40	京都美術工芸大学	正倉院展出前授業講師	10月3日	学芸部長　内藤　栄
41	八幡市立松花堂庭園・美術館	寄託品の貸出に伴う展示指導・助言	10月26日	工芸考古室長　清水　健
42	文化庁	平成28年度文化庁買取評価会に委員として出席し助言	10月31日	研究員　山口隆介
43	東大寺総合文化センター	「子ども文化財防火教室」にて講演	11月8日	ボランティア室員　鈴木民子
44	奈良文化財研究所	飛鳥資料館運営会議に委員として出席	11月29日	学芸部長　内藤　栄
45	京都国立博物館	「京都国立博物館ポジフィルムスキャニング業務」に関する総合評価審査委員会に委員として出席	11月30日	資料室員　佐々木香輔
46	奈良県	奈良県指定文化財調査に関する指導・助言	12月2日	学芸部長　内藤　栄
47	唐招提寺	文化財保存環境に関する指導・助言	12月2日	保存修理指導室長　鳥越俊行 研究員　大江克己
48	奈良県東京事務所	奈良まほろば館にて開催された「仏像写真ワークショップ～あなただけの仏像の表情を捉えよう！～」講師	12月3日	資料室員　佐々木香輔
49	奈良県東京事務所	奈良トライアングルミュージアムズ東京セミナー講師	12月4日	研究員　田澤　梓
50	北海道博物館	蛍光X線分析結果に関する指導・助言	12月5日～12月6日	保存修理指導室長　鳥越俊行
51	伊豆山神社	文化財保存環境に関する指導・助言	12月8日	研究員　山口隆介 研究員　大江克己
52	八幡市立松花堂庭園・美術館	寄託品の返却に伴う展示指導・助言	12月12日	工芸考古室長　清水　健
53	知恩院	文化財保存環境に関する指導・助言	12月15日	保存修理指導室長　鳥越俊行 研究員　大江克己
54	春日若宮おん祭保存会	春日若宮おん祭「試し之儀」解説	12月17日	列品室長　吉澤　悟
55	唐招提寺	文化財の保管・輸送に関する指導・助言	12月18日	工芸考古室長　清水　健
56	読売新聞大阪本社	平成28年正倉院展短歌・作文コンクール審査会に出席し審査	12月21日	館長　湯山賢一
57	公益財団法人元興寺文化財研究所	文化財修理に関する指導・助言	29年1月10日、1月25日、3月2日	保存修理指導室長　鳥越俊行 列品室長　吉澤　悟 主任研究員　中川あや 研究員　大江克己
58	東京国立博物館	国際シンポジウム「日本美術をみせる―リニューアルとリノベーション―」にて講演	平成29年1月27日	上席研究員　岩田茂樹
59	京都国立博物館	京都国立博物館評議委員会に評議員として出席	平成29年2月3日	館長　湯山賢一
60	京都大学生存圏研究所	彫刻作品の樹種同定に関する指導・助言	平成29年2月8日	保存修理指導室長　鳥越俊行
61	談山神社	寄託品の修理に関する指導・助言	平成29年2月13日	工芸考古室長　清水　健
62	法隆寺	寄託品の修理に関する指導・助言	平成29年2月20日	工芸考古室長　清水　健

【九州国立博物館】87件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第38回大会における保存修復に係る助言	4月8日～9日、5月18日	学芸部特任研究員 本田光子
2	日田市教育委員会	史跡ガランドヤ古墳保存整備における指導・助言	4月22日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
3	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会ワーキング・グループにおける調査研究	4月27日 29年1月25日～26日、29年2月24日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
4	奈良国立博物館	奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会における助言	5月17日	学芸部長　小泉惠英
5	文化庁	水中遺跡調査検討委員会オブザーバー	5月17日～18日	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
6	文化庁	無形文化財（工芸技術）の保存に係る助言	5月19日、29年3月1日	館長　島谷弘幸
7	北海道開拓記念館	科研費研究課題に伴う資料調査	5月20日～22日	博物館科学課研究補佐員 田中麻美
8	北海道開拓記念館	科研費研究課題に伴う資料調査	5月20日～22日、11月23日～26日	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫
9	文化庁	文化審議会文化財分科会第三専門調査会	5月26日～27日	学芸部特任研究員 本田光子

	機　関	内　容	期　間	担当者
10	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事会において運営に係る助言	5 月 30 日	学芸部特任研究員 本田光子
11	鹿児島県博物館協会	講演会講師	5 月 24 日	学芸部特任研究員 本田光子
12	東京大学史料編纂所	一般共同研究「『異国渡海船路積』と『坤輿万国全図』系世界図の研究」にかかる資料調査と研究会	5 月 27 日～28 日 29 年 3 月 27 日～28 日	企画課特別展室研究員 鷲頭桂
13	関市教育委員会	新長谷寺の調査、汾陽寺所蔵　絹本著色仏涅槃図についての講演会講師	6 月 2 日～4 日	企画課文化交流展室研究員 森實久美子
14	東京文化財研究所	研究会講師	6 月 10 日～11 日	企画課特別展室長 原田あゆみ
15	NPO 法人和の文化研究会	第 1 回「和の文化祭」体験講座講師	6 月 11 日	企画課アソシエイトフェロー 酒井田千明
16	京都国立博物館	京都国立博物館文化財保存修理所運営委員会における助言	6 月 13 日	学芸部長　小泉惠英
17	奈良文化財研究所	文化遺産防災総合シミュレーション調査情報共有ミーティング出席	6 月 14 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　三角菜緒
18	公益財団法人文化財虫菌害研究所	第 38 回文化財の虫菌害・保存対策研修会講師	6 月 16 日	学芸部特任研究員 本田光子
19	大学共同利用機関法人人間文化研究機構　国立歴史民俗博物館	共同研究「中世日本の国際交流における海上交通に関する研究」第 1 回研究会における助言	6 月 17 日～19 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
20	国立国際美術館	特別展「始皇帝と大兵馬俑」の展示指導・助言	6 月 26～7 月 3 日、 10 月 2 日～7 日	企画課主任研究員 川村佳男
21	宗像茶道協会	宗像茶道協会協会員研修講師	7 月 3 日	企画課アソシエイトフェロー 酒井田千明
22	文化庁	近代産業遺産(美術工芸品)に関する海外事例調査事業企画選定委員会にて選定に係る採点（運営の指導・助言）	7 月 7 日	文化財課長　冨坂　賢
23	京都大学	「日本所蔵中国青銅器全集」（仮称）編集委員会出席	7 月 16 日	企画課特別展室主任研究員 川村佳男
24	鳥取県立むきばんだ自然公園	考古系教育普及活動についての助言	7 月 20 日	企画課アソシエイトフェロー 西島亜木子
25	宇佐市平和ミュージアム（仮称）建設準備委員会	宇佐市平和ミュージアム（仮称）建設準備委員会における助言	7 月 29 日 、29 年 3 月 17 日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
26	一般財団法人環境文化創造研究所	対談における陪席	8 月 1 日～2 日	学芸部特任研究員 本田光子
27	九州歴史資料館	九州歴史資料館協議会における助言	8 月 2 日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
28	大分県杵築市教育委員会	黒川遺跡出土土器に付着する赤色顔料の選定とそのサンプリング・分析に係る指導	8 月 3 日	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史
29	春日市教育委員会	IPM 研修において IPM のあり方についての指導・助言	8 月 17 日	学芸部特任研究員 本田光子
30	新宮町教育委員会	相島海底遺跡調査指導委員会における助言	8 月 18 日	企画課長兼文化交流展室長 河野一隆
31	新宮町教育委員会	相島海底遺跡調査指導委員会における助言	8 月 18 日	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
32	東京国立博物館	海外展「渡海梵音：醍醐寺芸術珍宝展」にかかる展示替え作業	8 月 20 日～23 日	文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀
33	兵庫県立考古博物館	考古系教育普及活動についての助言	8 月 20 日	企画課アソシエイトフェロー 西島亜木子
34	東京国立博物館	中国の青銅器の展示指導・助言	8 月 29 日	企画課主任研究員 川村佳男
35	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第 39 回大会における保存修復に係る助言	8 月 30 日、 10 月 28 日～29 日	学芸部特任研究員 本田光子
36	東京国立博物館	特別調査会「絵画」の調査	9 月 6 日～7 日	企画課文化交流展室研究員 森實久美子
37	中国青銅器研究会（中国）	研究会への出席	9 月 6 日～10 日	企画課特別展室主任研究員 川村佳男
38	福岡県伝統的工芸品振興協議会	福岡県伝統的工芸品展における作品の審査	9 月 13 日	学芸部特任研究員 本田光子
39	東京国立博物館	模写資料における書の受容鑑賞の歴史に関する研究にかかわる調査	9 月 18 日～19 日	館長　島谷弘幸
40	ふくおか博物館人材育成事業実行委員会	資料保存に係る講師	9 月 21 日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
41	京都国立博物館	土曜講座講師	10 月 1 日	副館長　伊藤嘉章
42	NPO 法人デザイン都市・プロジェクト	伝統文化講座講師	10 月 8 日	企画課アソシエイトフェロー 酒井田千明
43	東京国立博物館	日本文化体験プログラムにおける特別展の展示解説	10 月 21 日～22 日	副館長　伊藤嘉章
44	（株）NHK プロモーション	特別展「茶の湯」展示打合せ、関係者打合せ	10 月 21 日 、10 月 27 日	副館長　伊藤嘉章
45	国立海洋文化財研究所（韓国）	新安沈船 40 周年記念シンポジウムにおける講演	10 月 25 日～29 日	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
46	一般社団法人日本電気協会	講演会講師	29 年 10 月 26 日	館長　島谷弘幸
47	南九州市	南九州市世界記憶遺産推進会議における指導・助言	10 月 31 日	学芸部特任研究員 本田光子

	機　関	内　容	期　間	担当者
48	松浦市教育委員会	シンポジウム出席	11 月 6 日	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
49	公益財団法人日本博物館協会	第 64 回全国博物館大会シンポジウム講師	11 月 17 日	学芸部特任研究員 本田光子
50	福岡県・佐賀県大学図書館協議会福岡地区研究会	IPM 活動についての講演	11 月 18 日	学芸部特任研究員 本田光子
51	長崎歴史文化博物館	れきぶん長崎学講座講師	11 月 20 日	博物館科学課　長崎県研修生 松下久子
52	（株）NHK プロモーション	特別展「茶の湯」作品調査	11 月 22 日 、12 月 24 日	副館長　伊藤嘉章
53	国立自然科学博物館（台湾）	国際会議におけるパネリスト	11 月 25 日～26 日	企画課特別展室アソシエイトフェロー　西島亜木子
54	武雄市	武雄市職員（学芸員）採用試験官	11 月 27 日	企画課長兼文化交流展室長 河野一隆
55	文化庁	美術工芸品買取鑑査会議に出席し助言	11 月 28 日	副館長　伊藤嘉章
56	文化庁	第 6 回カルコン美術対話委員会、公開フォーラム	12 月 5 日～7 日	館長　島谷　弘幸
57	長崎県壱岐市観光連盟	博物館、史跡等への新規顧客開拓に係る助言	12 月 5 日	企画課アソシエイトフェロー 西島亜木子
58	公益財団法人文化財虫菌害研究所	第 6 回 IPM コーディネータ資格取得講習会の講師	12 月 14 日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
59	公益財団法人文化財虫菌害研究所	第 6 回 IPM コーディネータ資格取得講習会の講師	12 月 15 日	学芸部特任研究員 本田光子
60	文化庁	第 6 回ミュージアム・マネジメント研修における講義	12 月 15 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　三角菜緒
61	大谷大学真宗総合研究所	パーリ語貝葉写本包み布に関する調査	12 月 15 日～16 日	企画課特別展室長 原田あゆみ
62	甘木歴史資料館	火縄銃及び刀剣の調査、展示指導	12 月 19 日	文化財課資料登録室研究員 望月規史
63	公益財団法人独立書人団	講演会講師	29 年 1 月 14 日	館長　島谷弘幸
64	京都大学	シンポジウム講師	29 年 1 月 25 日～26 日	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子
65	東京国立博物館	特別調査会「書跡」の調査	29 年 1 月 26 日～27 日	館長　島谷弘幸
66	公益財団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会公開シンポジウムへの出席	29 年 1 月 28 日～29 日	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子
67	公益財団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会公開シンポジウムへの出席	29 年 1 月 29 日～30 日	学芸部特任研究員 本田光子
68	波佐見町教育委員会	波佐見町歴史文化交流館（仮称）建設準備委員会における助言	29 年 1 月 30 日	博物館科学課　長崎県研修生 松下久子
69	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合調整委員会及び総合的防除対策検討委員会の合同委員会への出席し助言	29 年 2 月 6 日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
70	国立民族学博物館	民俗資料の殺虫処理実験に係る打合せ	29 年 2 月 16 日～17 日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
71	文化庁	水中遺跡調査検討委員会における助言	29 年 2 月 17 日	学芸部長　小泉惠英
72	立命館大学	マルチビーム測量による湖底地形測量調査指導	29 年 2 月 17 日～19 日	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
73	福岡県立美術館協議会	福岡県立美術館協議会における助言	29 年 2 月 20 日	学芸部特任研究員 本田光子
74	太宰府市公文書館	太宰府市公文書館委員における助言	29 年 2 月 20 日	学芸部特任研究員 本田光子
75	福岡ロータリークラブ	卓話講師	29 年 2 月 22 日	副館長　伊藤嘉章
76	大分県立歴史博物館	協議会における指導・助言	29 年 2 月 22 日	学芸部特任研究員 本田光子
77	学校法人九州学園	理事会に出席し助言	29 年 2 月 23 日	館長　島谷弘幸
78	公益財団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第 39 回大会に係る保存修復に係る助言	29 年 2 月 28 日 ～3 月 1 日	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子
79	学校法人九州学園	評議員会に出席し助言	29 年 2 月 23 日	館長　島谷弘幸
80	福岡県教育委員会	新・福岡県立美術館基本構想検討委員会における助言	29 年 3 月 5 日	学芸部長　小泉惠英
81	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団	事業評価委員会における助言	29 年 3 月 3 日	学芸部長　小泉惠英
82	文化庁	文化審議会文化財分科会第一専門調査会における助言	29 年 3 月 1 日～3 日	副館長　伊藤嘉章
83	備前歴史フォーラム実行委員会	フォーラムにおける基調報告	29 年 3 月 11 日～12 日	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史
84	南九州市	知覧特攻平和会館保存検討委員会において資料の保存管理に係る助言	29 年 3 月 16 日	学芸部特任研究員 本田光子
85	高知県立高知城歴史博物館	講演会講師	29 年 3 月 18 日	館長　島谷弘幸
86	熊本博物館	熊本博物館協議会における助言	29 年 3 月 27 日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
87	国立歴史民俗博物館	資料保存環境検討委員会における助言	29 年 3 月 30 日	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか

2 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業の実施

2-(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

2-(1)-1 調査研究テーマ一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-②
2-(1)-2 学会、研究会等発表実績一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-③
2-(1)-3 論文等発表実績一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑤
2-(1)-4 調査研究刊行物一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑥
2-(1)-5 科学研究費助成事業による調査研究	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑦
2-(1)-6 客員研究員一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑧

2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

2-(2)-1 調査研究テーマ一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-②
2-(2)-2 学会、研究会等発表実績一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-③
2-(2)-3 論文等発表実績一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑤
2-(2)-4 調査研究刊行物一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑥
2-(2)-5 科学研究費助成事業による調査研究	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑦
2-(2)-6 客員研究員一覧	（後述の資料に記載）	◎共通資料c-⑧

2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働

2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況
（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度）

平成29年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
6件	3件	3件

【東京文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日）	回数（回）	満足度（%）	備考
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業：研修、ワークショップ	29年1月22日～29日	・カンボジア・アンコールのタ・ネイ遺跡関係者	8	2	-	
		29年3月4日～12日	・ネパールの中央・地方行政担当者	9			
2	国際研修「紙の保存と修復」：日本国内研修	8月29日～9月16日	・文化遺産保護の学芸員及び保存修復専門家	19	1	100	
3	国際研修「International Course on Paper Conservation in Latin America」：メキシコ研修	11月9日～11月25日	・文化遺産保護の学芸員及び保存修復専門家	17	1	100	

【奈良文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数	回数	満足度（%）	適用
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2016（集団研修）「遺跡（遺構・遺物）の調査と保護」	8月30日～9月29日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの	31	1	―	
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2016（個別テーマ研修）「博物館等における文化財の調査・記録・保存修復・活用」	11月8日～12月6日	ラオス・カンボジア・ミャンマーの専門家	29	1	―	
3	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（フィリピンで開催）	10月10日～15日	フィリピンの専門家	6	1	―	

2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）

【東京文化財研究所】1件

	名称	機関名	備考
1	陶磁器資料館（ドイツ）所蔵　染付蒔絵鳥籠装飾広口大瓶の修復方法に関する共同研究	ドレスデン国立美術館	

【奈良文化財研究所】　2件

	名称	機関名	備考
1	「日本考古学の国際的研究推進事業」の実施に関する協定	英国セインズベリー日本藝術研究所	
2	発掘調査交流合意書	韓国国立慶州文化財研究所	

2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（刊行物件数）

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数）

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】5件　　平成29年3月31日現在

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日間）	回数（回）	摘要
1	第五回アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会 The Fifth Governing Board of IRCI	9月28日	IRCI運営理事	1日	1回	文化庁受託経費
2	平成28年度IRCI国際専門家会合「アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する最新の研究動向と課題」 2016 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region	11月18日～19日	専門家・研究者	2日	1回	文化庁受託経費
3	無形文化遺産国際シンポジウム―技と心を受け継ぐ― 2016 International Symposium on ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region: Transmitting Art and Spirit of ICH	11月19日	同上	1日	1回	堺市、文化庁共催 文化庁受託経費
4	第3回IRCI国際ワークショップ「大メコン圏における無形文化遺産に関する法制度研究」 IRCI Final Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region	12月17日～19日	同上	3日	1回	12月15日～16日:ワーキンググループ会合 文化庁受託経費
5	「アジア太平洋地域における無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する国際予備調査」事業ワーキンググループ国際会合 Preliminary Research on ICH Safeguarding and Disaster-Risk Management in the Asia-Pacific Region: International Working Group Session	29年1月30日	同上	1日	1回	寄附金（文化財保存活用基金）

2-(3)-②-3　研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-①

2-(3)-②-4　調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

2-(3)-②-5　学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

2-(3)-②-6　シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(3)-②-7　論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

2-(3)-②-8　調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-9　ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）◎共通資料d

2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実

2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況

平成29年3月31日

		東京文化財研究所			奈良文化財研究所		
資料閲覧室・図書資料室の開室日数(日)		137日			243日		
資料閲覧室・図書資料室の利用者数(人)		923人			475人		
		27年度末	28年度追加	28年度末	27年度末	28年度追加	28年度末
文化財に関する資料・図書の受入件総数(件)	図書	104,577件	9,932件	114,509件	351,586件	9,689件	361,275件
	雑誌	128,778件	29,985件	158,763件	89,734件	3,889件	93,623件
	その他(図録・報告書等)	35,046件	1,302件	36,348件	−	−	−
	計	268,401件	41,219件	309,620件	441,320件	13,578件	454,898件

＊奈良文化財研究所においては、図録・報告書等は図書に含む。

2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況

平成29年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
文化財に関するデータベースの公開件数(件)	22件	25件
データベースのデータ件数(件)	1,164,416件	1,341,997件
データベース等へのアクセス件数(件)	1,591,403件	4,206,991件
(ホームページへのアクセス件数(件))	2,567,780件	4,990,661件

2-(4)-② 調査研究成果の発信

2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(4)-②-2 講演会等の開催実績

平成29年3月31日

【東京文化財研究所】　5件　798人

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数（人）	備考
1	「アート・アーカイヴの今」	5月14日	東京文化財研究所	アート・ドキュメンテーション学会国際交流委員会、東京文化財研究所	現代ドイツアーキヴィストを迎え、あらためて「アーカイヴ」の意義と課題を問う講演会を開催した。	181人	
2	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅲ「現在に伝わる明治の超絶技巧」	10月17～18日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	公益財団法人泉屋博古館と共催し、有田焼を中心とした明治工芸に関する研究会を開催した。	96人	
3	第５０回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」	11月4～5日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	美術史研究の成果を一般に公表する講座を開催した。	159人	
4	無形文化遺産部公開学術講座「麻のきもの・絹のきもの」	29年1月18日	文化学園服飾博物館・文化学園クイントサロン	東京文化財研究所、文化学園服飾博物館	「麻」と「絹」に焦点を当てた学術講座を開催した。	177人	
5	「南蛮漆器の多源性を探る」	29年3月4～5日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	南蛮漆器について、最新の研究報告と討議を行う公開研究会を開催した。	185人	

【奈良文化財研究所】　12件　6,400人

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数（人）	備考
1	「プラネタリウムで考古学」の「星空とキトラ古墳のナゾにせまる」	5月21日　他	於多摩六都科学館（東京都）	多摩六都科学館、奈良文化財研究所	奈良県明日香村で発見された「キトラ古墳」には多くのナゾがあり、今回プラネタリウムを使って講演会を開催した。	175人	
2	第118回公開講演会	6月18日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	一般の方々を対象に、奈良文化財研究所の調査研究成果について、講演を行った。	202人	
3	「英国発！グローバル考古学」	9月3日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所・セインズベリー日本藝術研究所	英国における最新の考古科学的手法を用いた 研究を紹介した。	65人	
4	第119回公開講演会	11月5日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	一般の方々を対象に、奈良文化財研究所の調査研究成果について、講演を行った。	234人	
5	第8回東京講演会「飛鳥むかしむかし」	11月13日	一橋講堂	奈良文化財研究所	東京で、奈良文化財研究所の調査研究についての講演会を開催した	447人	
6	飛鳥資料館春期特別展記念講演会「飛鳥の文化財を撮る眼」	5月28日	飛鳥資料館	奈良文化財研究所	画像及び映像の重要性について講演会を行った。	36人	
7	飛鳥資料館秋期特別展記念講演会「祈りをこめた小塔」	11月26日	飛鳥資料館	奈良文化財研究所	新たに収蔵した百万塔とあわせて、国内に伝来した銭弘俶八万四千塔や泥塔などの小塔を展示した。	46人	
8	藤原京右京九条二・三坊の発掘調査（飛鳥藤原第187次）現地見学会	5月15日	於橿原市城殿町発掘調査現場（ポリテクセンター奈良敷地内）	奈良文化財研究所	藤原京右京九条二・三坊の発掘調査（飛鳥藤原第187次）現地見学会を開催した。	1,753人	
9	平城京二条大路・朱雀大路跡の発掘調査(平城第566次調査)現地見学会	6月11日	二条大路南4丁目発掘調査現場	奈良文化財研究所	平城京二条大路・朱雀大路跡の発掘調査(平城第566次調査)の現地見学会を開催した。	505人	

10	藤原宮朝堂院朝庭の発掘調査（飛鳥藤原第189次調査）現地見学会	10月2日	橿原市高殿町発掘調査現場	奈良文化財研究所	藤原京右京九条二・三坊の発掘調査（飛鳥藤原第187次調査）の現地見学会を開催した。	1,315人	
11	東大寺東塔院跡発掘現場説明会	10月8日	東大寺東塔院跡発掘現場	史跡東大寺旧境内発掘調査団（東大寺・奈良県立橿原考古学研究所・奈良文化財研究所）	東大寺東塔院跡発掘現場説明会を開催した。	1,125人	
12	藤原宮大極殿院の発掘調査（飛鳥藤原第190次調査）現地説明会	29年1月28日	橿原市高殿町発掘調査現場	奈良文化財研究所	藤原宮大極殿院の発掘調査（飛鳥藤原第190次調査）の現地説明会を開催した。	497人	

2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通c-④

2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）◎共通d

2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

平成29年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数（件）	1,510件	4,389件

2-(4)-③ 展示公開施設の充実

2-(4)-③-1 来館者数推移（入館料別）（過去５ヵ年）（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

2-(4)-③-2 来館者数推移（展覧会別）（過去５ヵ年）（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展　（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
2-(5)-① 文化財に関する研修の実施
2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績

【東京文化財研究所】　　1件　　受講者 27人

No.	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数（人）	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	7月11日～7月22日	9	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	27人	100%	100%	その他（保存担当学芸員フォローアップ研修、6月16日、103名）

【奈良文化財研究所】　　15件　　受講者 167人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象※	研修内容	参加者数（人）	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	建築遺構調査課程	6月6日～6月10日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	発掘調査で検出される建築遺構や出土建築部材に関して、必要な上部構造の専門的知識や発掘方法などについての研修。	4人	100%	100%	
2	古文書歴史資料調査基礎課程	6月20日～6月24日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	古文書・歴史資料の調査・管理等を担当する立場にあるが、当該分野に関する専門的教育を受けたことのない地方公共団体等の文化財担当者を対象に、基礎的知識の習得を目指す研修。	23人	100%	100%	
3	人骨・動物骨調査課程	7月25日～7月29日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	出土した人骨や動物骨の調査方法、整理作業、報告書作成について、必要な専門知識と技術の習得を目的とする研修。	7人	100%	100%	
4	地質考古調査課程	8月29日～9月2日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	遺跡等の発掘調査で必要とされる、地層・土層・土壌等に関する基礎的な専門知識・技術の習得を目指す。	17人	100%	100%	
5	遺跡情報記録調査課程	9月6日～9月9日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	遺跡・遺物の正確な記録とその保存活用手法として、GISやデータベースの利用、遺跡情報の公開に関する知識の取得を目指す研修。	5人	100%	100%	
6	文化的景観調査計画課程	9月12日～9月16日	4	地方公共団体の文化財担当職員※	文化的景観の保護にこれから取り組む担当者を対象に、文化的景観の歴史・概念、保護制度、調査手法及び保存計画立案等についての基礎知識を習得することを目的とする研修。	10人	100%	100%	
7	地質・年代調査課程	9月26日～9月30日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	地層観察，年代測定試料の取扱いなどの実習やその活用に関する講義を通して，発掘調査に必要となる地質学や年代学の基礎的な知識の習得を目指す研修。	3人	100%	100%	
8	保存科学Ⅰ（金属製遺物）課程	10月11日～10月19日	9	地方公共団体の文化財担当職員※	金属製遺物の材質および劣化状態に応じた保存処理法の策定、仕様書の作成をおこなうことができるよう、金属製遺物の材質および保存処理に関する基礎知識の習得を目的とする研修。	10人	100%	100%	
9	土器・陶磁器調査課程	11月14日～11月18日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	報告書作成に向けて、日本の遺跡から出土する「やきもの（土器・陶磁器）」をいかに分類・整理するか。実物の観察を通して、製作技法を読み取ると共に、時期・産地を推定する鑑識眼を養うための研修。	16人	100%	100%	
10	文化財写真課程	11月28日～12月8日	11	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財の記録の中核をなす記録写真撮影について、様々な文化財分野の写真についての基礎知識と実習による実技を習得できる研修。	12人	100%	100%	

11	報告書作成課程	12月8日 ～12月16日	9	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財調査報告書等の出版物制作に必要な編集と印刷工程の基礎知識とともに、実際の編集作業に必要な実践的な知識や技術、特にデジタル編集のノウハウを実習を通じてを学ぶ研修。	19人	100%	100%	
12	中近世城郭調査整備課程	29年1月16日 ～1月20日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	中近世城郭跡の調査方法と石垣の解体修理など整備方法について、座学と現地研修で基礎的な知識の習得をめざす。	11人	100%	100%	
13	保存科学Ⅳ(遺構・石造文化財)課程	29年2月13日 ～2月17日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	史跡整備における遺構および石造文化財の保存において、劣化の現状に関する知見、ならびに維持管理に要する整備後のモニタリング調査と、その結果に基づく劣化発生の予測をおこなうための劣化状態調査法および環境調査法に関する研修。	11人	100%	100%	
14	デジタル写真課程	29年3月7日 ～3月10日	4	地方公共団体の文化財担当職員※	フィルム写真記録からデジタル写真環境への移行に対応するに必要な基礎的な知識、技術、設備、文化財担当部局・担当者の考え方についての研修。	13人	100%	100%	
15	報告書公開活用課程	29年3月13日 ～3月15日	3	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財調査報告書等の電子化による公開活用について、必要な専門知識と技術の習得を目的とする研修。	6人	100%	100%	

※地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者

2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等

2-(5)-②-1 専門的・技術的な援助・助言の取組状況
（行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

平成29年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
1,198件	793件	405件

【東京文化財研究所】　793件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の収集、保管に関する指導助言	11件
2	無形文化遺産に関する助言	10件
3	文化財の虫菌害に関する調査・助言	41件
4	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	58件
5	文化財の材質・構造に関する調査・助言	15件
6	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	658件

【奈良文化財研究所】　405件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	339件
2	地方公共団体等が行う平城京域発掘調査等への協力・援助	45件
3	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	13件
4	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	8件

2-(5)-③ 平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

2-(5)-③-1　ボランティア受入実績　（後述の資料に記載）◎共通資料b

2-(5)-⑤ 文化財等の防災・救援等への寄与

2-(5)-⑤-1　研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-①1)・3))

2-(5)-⑤-2　シンポジウム開催実績一覧（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(5)-⑤-3　ウェブサイトアクセス件数（後述の資料に記載）◎共通資料d

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務改善の取組

1-(5)一般管理費の削減

1-(5)-① 施設の有効利用件数

平成29年3月31日現在

○件数

（単位：件）

		国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
			計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	総件数	1,801	1,320	747	105	113	355	481	185	296
	うち有償	826	765	529	93	27	116	61	9	52
	うち無償	975	555	218	12	86	239	420	176	244
茶室	総件数	206	206	130	35	5	36			
	うち有償	134	134	81	35	3	15			
	うち無償	72	72	49	0	2	21			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	総件数	1,067	602	282	36	32	252	465	185	280
	うち有償	293	245	114	24	6	101	48	9	39
	うち無償	774	357	168	12	26	151	417	176	241
その他（左記以外の建物、敷地）	総件数	148	132	10	7	64	51	16	0	16
	うち有償	47	34	9	7	18	0	13	0	13
	うち無償	101	98	1	0	46	51	3	0	3
撮影利用	総件数	380	380	325	27	12	16	0	0	0
	うち有償	352	352	325	27	0	0	0	0	0
	うち無償	28	28	0	0	12	16	0	0	0

○有償利用の利用金額

（単位：千円）

	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	133,528	128,595	120,049	4,468	1,320	2,758	4,933	206	4,727
茶室	7,008	7,008	6,082	705	79	142			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	8,840	7,876	4,145	1,015	100	2,616	964	206	758
その他（左記以外の建物、敷地）	84,822	80,853	77,505	2,207	1,141	0	3,969	0	3,969
撮影利用	32,858	32,858	32,317	541	0	0	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

◎共通資料
a 展示

a-① 来館者数推移（入館料別）（過去5ヵ年）

平成29年3月31日現在

年度					24	25	26	27	28
国立文化財機構		総来館者数			3,520,384	2,818,511	3,890,178	4,146,847	3,810,178
	平常展	計			1,109,550	1,011,274	1,372,538	1,536,565	1,577,811
		有料	一般		355,419	373,417	522,569	636,504	653,711
			大学生		34,218	36,886	59,208	76,590	71,850
			小・中・高生		—	546	537	0	0
			友の会		86,938	89,509	123,720	139,076	152,643
		無料	一般（黒田含む）		74,968	47,371	85,285	107,574	108,272
			小・中・高・大生		173,386	166,233	165,340	176,248	183,375
		招待者等			384,621	297,312	415,879	400,573	407,960
	特別展	計			2,410,834	1,807,237	2,517,640	2,610,282	2,232,367
		有料	一般		1,535,741	1,132,319	1,670,944	1,678,816	1,404,313
			高・大生		82,665	66,814	93,348	113,109	76,242
			小・中生		30,770	23,243	22,149	34,820	31,337
			友の会		47,758	44,592	58,421	66,016	56,725
		無料	小・中生・一般		88,927	99,764	102,343	122,894	82,184
		招待者等			624,973	440,505	570,435	594,627	581,566
東京国立博物館		総来館者数			1,555,694	1,322,288	1,913,643	1,994,508	1,907,647
	平常展	計			416,430	484,429	587,528	747,944	761,709
		有料	一般		201,988	250,330	269,639	383,579	381,817
			大学生		22,155	26,117	31,324	42,528	41,159
			小・中・高生		—	—	—	—	—
			友の会		76,333	77,771	96,297	108,147	119,573
		無料	高校生		14,773	18,844	20,345	27,108	24,623
			小・中生		36,660	41,197	50,040	52,386	55,176
		招待者等			63,381	70,170	95,280	87,619	101,677
		黒田記念館（無料）			1,140	—	24,603	46,577	37,684
	特別展	計			1,139,264	837,859	1,326,115	1,246,564	1,145,938
		有料	一般		729,470	561,236	926,279	811,089	733,704
			高・大生		36,874	29,955	51,690	61,790	36,115
			小・中生		—	—	—	—	—
			友の会		11,448	9,585	12,920	11,889	10,714
		無料	小・中生		20,368	14,715	31,503	51,547	26,992
		招待者等			341,104	222,368	303,723	310,249	338,413
京都国立博物館		総来館者数			234,540	148,429	539,134	653,336	384,340
	平常展	計			—	—	265,791	205,526	186,162
		有料	一般		—	—	147,106	124,229	110,054
			大学生		—	—	16,801	21,478	14,192
			小・中・高生		—	—	—	—	—
			友の会		—	—	12,764	15,234	15,248
		無料	高校生		—	—	11,137	15,261	10,773
			小・中生		—	—	—	—	—
		招待者等			—	—	77,983	29,324	35,895
	庭園開放	計			—	—	—	1,699	11,417
		有料	一般		—	—	—	825	5,572
			大学生		—	—	—	—	—
			小・中・高生		—	—	—	—	—
			友の会		—	—	—	93	635
		無料	大学生		—	—	—	56	1,040
			高校生		—	—	—	235	2,117
			小・中生		—	—	—	—	—
		招待者等			—	—	—	490	2,053
	特別展	計			234,540	148,429	273,343	446,111	186,761
		有料	一般		124,569	76,358	190,015	306,503	109,451
			高・大生		13,570	10,734	14,231	18,021	8,885
			小・中生		5,022	3,224	1,683	—	—
			友の会		13,228	9,174	11,978	19,001	10,511
		無料	小・中生		386	1,471	4,571	7,803	7,233
		招待者等			77,765	47,468	50,865	94,783	50,681
奈良国立博物館		総来館者数			450,235	461,690	476,993	455,859	449,322
	平常展	計			145,914	122,075	92,147	95,208	145,676
		有料	一般		56,997	44,307	31,433	30,165	63,886
			大学生		4,754	3,967	3,519	3,204	7,431
			小・中・高生		—	546	537	0	0
			友の会		3,843	2,703	3,344	3,957	5,290
		無料	小・中・高生		48,183	39,249	20,933	18,221	31,133
		招待者等			32,137	31,303	32,381	39,661	37,936
	特別展	計			304,321	339,615	384,846	360,651	303,646
		有料	一般		227,929	258,597	273,574	267,663	219,776
			高・大生		12,304	13,756	13,403	13,852	12,674
			小・中生		8,143	7,622	9,208	9,843	7,685
			友の会		10,291	11,206	14,443	16,265	15,750
		無料	小・中生		—	3,067	0	0	202
		招待者等			45,654	45,367	74,218	53,028	47,559
九州国立博物館		総来館者数			1,107,036	727,603	804,663	884,128	922,468
	平常展	計			460,525	349,848	357,362	412,621	393,590
		有料	一般		91,786	75,827	71,014	93,457	89,006
			大学生		6,831	6,571	7,251	9,072	8,766
			小・中・高生		—	—	—	—	—
			友の会		6,762	9,035	11,315	11,645	11,897
		無料	高校生		26,193	26,305	22,494	26,765	23,788
			小・中生		43,351	38,785	38,507	34,381	33,435
		招待者等			285,602	193,325	206,781	237,301	226,698
	特別展	計			646,511	377,755	447,301	471,507	528,878
		有料	一般		443,965	224,247	271,895	283,603	333,172
			高・大生		19,108	11,482	13,249	18,463	17,722
			小・中生		17,605	12,397	11,258	24,977	23,652
			友の会		12,791	14,627	19,080	18,861	19,750
		招待者等			153,042	115,002	131,819	125,603	134,582
平城宮跡資料館		総来館者数			124,515	108,896	109,188	105,334	102,053
	平常展	無料	一般		64,318	39,502	52,221	50,064	62,210
	特別展	無料	一般		60,197	69,394	56,967	55,270	39,843
藤原宮跡資料室		総来館者数			9,510	7,869	8,461	10,933	8,378
	平常展	計			9,510	7,869	8,461	10,933	8,378
		無料	一般		9,510	7,869	8,461	10,933	8,378
飛鳥資料館		総来館者数			38,854	41,736	38,096	42,749	35,970
	平常展	計			12,853	7,551	9,028	12,570	8,669
		有料	一般		4,648	2,953	3,377	4,249	3,376
			大学生		478	231	313	308	302
		無料	小・中・高生		4,226	1,853	1,884	1,835	1,290
		招待者等			3,501	2,514	3,454	6,178	3,701
	特別展	計			26,001	34,185	29,068	30,179	27,301
		有料	一般		9,808	11,881	9,181	9,958	8,210
			大学生		809	887	775	983	846
		無料	小・中・高生		7,976	11,117	9,302	8,274	7,914
		招待者等			7,408	10,300	9,810	10,964	10,331

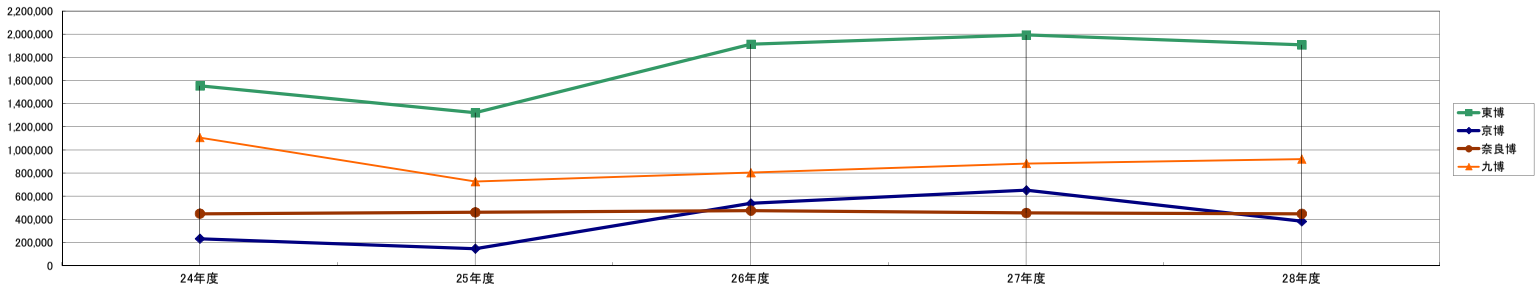
※飛鳥資料館特別展有料高校生入場者数は、ｷﾄﾗ公開(25)のみ有料(大学生)に含み、それ以外は無料(小・中・高生)に含む。
※京都国立博物館における平常展、庭園開放については高校生以下の区別せず。
※京都国立博物館における庭園開放は、平常展に含む。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（24～28年度）

国立文化財機構　合計

	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
合計	総　合　計	3,520,384	総　合　計	2,818,511	総　合　計	3,890,178	総　合　計	4,146,847	総　合　計	3,810,178
	平常展のみの来館者	1,109,550	平常展のみの来館者	1,011,274	平常展のみの来館者	1,372,538	平常展のみの来館者	1,536,565	平常展のみの来館者	1,577,811
	特別（共催）展計	2,410,834	特別（共催）展計	1,807,237	特別（共催）展計	2,517,640	特別（共催）展計	2,610,282	特別（共催）展計	2,232,367

1）国立博物館

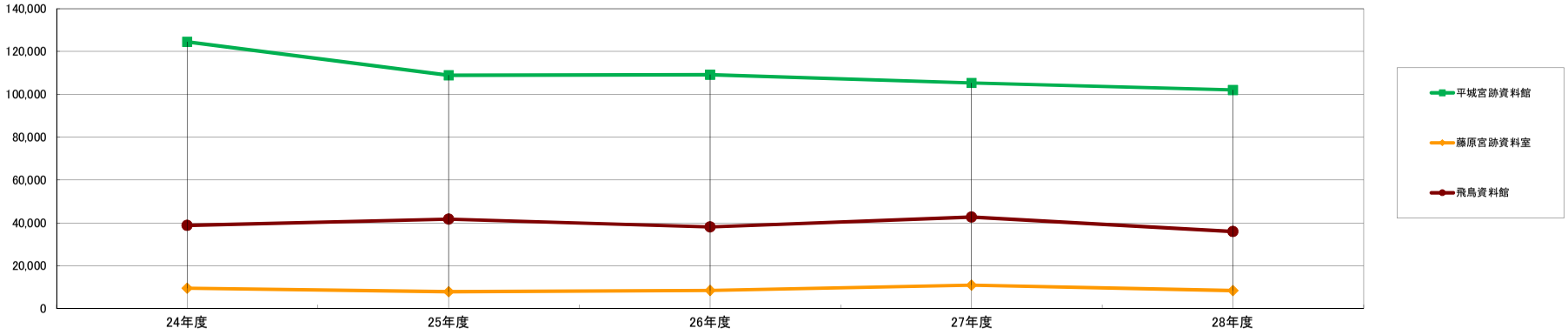


	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
計	総　計	3,347,505	総　計	2,660,010	総　計	3,734,433	総　計	3,987,831	総　計	3,663,777
	平常展のみの来館者	1,022,869	平常展のみの来館者	956,352	平常展のみの来館者	1,302,828	平常展のみの来館者	1,462,998	平常展のみの来館者	1,498,554
	特別（共催）展計	2,324,636	特別（共催）展計	1,703,658	特別（共催）展計	2,431,605	特別（共催）展計	2,524,833	特別（共催）展計	2,165,223
東博	総計（黒田記念館含む）	1,555,694	総計（黒田記念館含む）	1,322,288	総計（黒田記念館含む）	1,913,643	総計（黒田記念館含む）	1,994,508	総計（黒田記念館含む）	1,907,647
	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	416,430	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	484,429	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	587,528	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	747,944	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	761,709
	特別（共催）展計	1,139,264	特別（共催）展計	837,859	特別（共催）展計	1,326,115	特別（共催）展計	1,246,564	特別（共催）展計	1,145,938
	特別展「ボストン美術館　日本美術の至宝」	486,683	特別展「飛騨の円空」	20,544	特別展「栄西と建仁寺」	229,994	特別展「みちのくの仏像」	16,573	特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」	157,589
	特別展「中国山水画の20世紀」	※1（18,415）	特別展「国宝　大神社展」	193,990	特別展「キトラ古墳壁画」	119,268	コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流	72,344	特別公開「国宝土偶　縄文の女神」	※2　－
	特別展「青山杉雨の眼と書」	51,327	特別展「和様の書」	104,577	特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」	402,241	特別展「鳥獣戯画―京都　高山寺の至宝」	239,115	特別展「黄金のアフガニスタン ―守り抜かれたシルクロードの秘宝―」	154,875
	特別展「出雲―聖地の至宝―」	137,646	特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」	※1（62,378）	2014年日中韓国立博物館合同企画特別展「東アジアの華　陶磁名品展」	※1(65,075)	「クレオパトラとエジプトの王妃展」	267,959	日韓国交正常化50周年記念　特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」	78,562
	特別展「中国　王朝の至宝」	141,507	特別展「京都－洛中洛外図と障壁画の美」	278,801	「日本国宝展」	386,708	アート オブ ブルガリ１３０年にわたるイタリアの美の至宝　THE ART OF BVLGARI. 130 YEARS OF ITALIAN　MASTERPIECES	142,000	特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―」	199,567
	特別展「飛騨の円空」	169,578	特別展「クリーブランド美術館展　―名画でたどる日本の美」	104,865	特別展「みちのくの仏像」	162,948	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	483,809	特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」	212,144
	特別展「書聖　王羲之」	152,523	特別展「人間国宝展　-生み出された美、伝えゆくわざ-」	112,960	特別展「3.11大津波と文化財の再生」	※2　－	特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」	24,764	臨済禅師150年・白隠禅師250年遠諱記念特別展「禅―心をかたちに」	133,629
			特別展「支倉常長像と南蛮美術－400年前の日欧交流－」	※2　－	コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流	24,956	特別公開「国宝土偶　縄文の女神」	※2　－	特別展「春日大社－千年の至宝」	209,572
			特別展「栄西と建仁寺」	22,122						
京博	総　計	234,540	総　計	148,429	総　計	539,134	総　計	653,336	総　計	384,340
	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	265,791	平常展のみの来館者	205,526	平常展のみの来館者	186,162
							庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	1,699	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	11,417
	特別（共催）展計	234,540	特別（共催）展計	148,429	特別（共催）展計	273,343	特別（共催）展計	446,111	特別（共催）展計	186,761
	特別展「王朝文化の華　－陽明文庫名宝展－」	101,006	特別展「狩野山楽・山雪」	85,841	特別展「南山城の古寺巡礼」	69,443	特別展覧会　「桃山時代の狩野派－永徳の後継者たち－」	118,186	臨済禅師150年・白隠禅師250年遠諱記念特別展覧会「禅－心をかたちに－」	88,228
	特別展「大出雲展」	79,218	特別展観「遊び」	23,659	特別展「修理完成記念　国宝 鳥獣戯画と高山寺」	203,900	特別展観　第100回大蔵会記念 仏法東漸－仏教の典籍と美術－※3	34,696	特別展覧会　没後150年「坂本龍馬」	98,533
	特別展「宸翰 天皇の書」	24,699	特別展「魅惑の清朝陶磁」	38,929			琳派誕生四〇〇年記念 特別展覧会「琳派京を彩る」	327,925		
	特別展「国宝 十二天像と密教法会の世界」/特別展「成立８００年記念　方丈記」	25,216								
	特別展「狩野山楽・山雪」	4,401								
奈良博	総　計	450,235	総　計	461,690	総　計	476,993	総　計	455,859	総　計	449,322
	平常展のみの来館者	145,914	平常展のみの来館者	122,075	平常展のみの来館者	92,147	平常展のみの来館者	95,208	平常展のみの来館者	145,676
	特別（共催）展計	304,321	特別（共催）展計	339,615	特別（共催）展計	384,846	特別（共催）展計	360,651	特別（共催）展計	303,646
	特別展「解脱上人貞慶　－鎌倉仏教の本流－」	24,317	特別展「當麻寺　－極楽浄土へのあこがれ－」	54,114	特別展「武家のみやこ　鎌倉の仏像－追真とエキゾチシズム－」	37,022	特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展」	10,561	特別展「国宝　信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－」	55,198
	特別展「頼朝と重源」	41,985	特別展「みほとけのかたち～仏像に会う」	39,232	特別展「国宝　醍醐寺のすべて　－密教のほとけと聖教－」	78,476	開館120年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」	128,901	生誕800年記念特別展「忍性　－救済に捧げた生涯－」	39,834
	特別展「第64回正倉院展」	238,019	特別展「第65回正倉院展」	246,269	特別展　「天皇皇后両陛下傘寿記念　第66回正倉院展」	269,348	特別展　第67回正倉院展	221,189	特別展　第68回正倉院展	208,614
九博	総　計	1,107,036	総　計	727,603	総　計	804,663	総　計	884,128	総　計	922,468
	平常展のみの来館者	460,525	平常展のみの来館者	349,848	平常展のみの来館者	357,362	平常展のみの来館者	412,621	平常展のみの来館者	393,590
	特別（共催）展計	646,511	特別（共催）展計	377,755	特別（共催）展計	447,301	特別（共催）展計	471,507	特別（共催）展計	528,878
	特別展「平山郁夫　シルクロードの軌跡」	110,047	特別展「大ベトナム展」	71,192	特別展「華麗なる宮廷文化　近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」	60,808	九州国立博物館開館10周年記念特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波涛―」	77,455	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	158,738
	特別展「美のワンダーランド　十五人の京絵師」	75,415	特別展「中国　王朝の至宝」	77,554	特別展「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美―」	70,794	九州国立博物館開館10周年記念特別展「大英博物館展　―100のモノが語る世界の歴史― A History of the World in 100 Objects」	133,174	特別展「東山魁夷展　自然と人、そして町」	133,002
	特別展「ベルリン国立美術館展」	224,324	特別展「尾張徳川家の至宝」	139,448	特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」	256,070	九州国立博物館開館10周年記念特別展「美の国日本」	160,753	特別展「京都 高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―」	161,172
	特別展「ボストン美術館　日本美術の至宝」	236,725	特別展「国宝　大神社展」	89,561	特水城・大野城・基肄城築造1350年記念特別展「古代日本と百済の交流―大宰府・飛鳥そして公州・扶餘―」/特別展「日本発掘－発掘された日本列島2014－」	59,629	九州国立博物館開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン－守り抜かれたシルクロードの秘宝－」	67,641	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」	75,966
							特別展「始皇帝と大兵馬俑」	32,484		

※1　この特別展は、平常展料金のため、平常展のみの来館者に計上
※2　この特別展、特別公開の会場は平常展の一部で、別途カウントを行っていない。
※3　この特別展観は平常展の一部として開催しているため、特別展計には計上しない。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数(24～28年度)

2) 研究成果公開施設



	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
計	**総　合　計**	**172,879**	**総　合　計**	**158,501**	**総　合　計**	**155,745**	**総　合　計**	**159,016**	**総　合　計**	**146,401**
	平常展のみの来館者	**86,681**	**平常展のみの来館者**	**54,922**	**平常展のみの来館者**	**69,710**	**平常展のみの来館者**	**73,567**	**平常展のみの来館者**	**79,257**
	特別（共催）展計	**86,198**	**特別（共催）展計**	**103,579**	**特別（共催）展計**	**86,035**	**特別（共催）展計**	**85,449**	**特別（共催）展計**	**67,144**
平城宮跡資料館	総　計	124,515	総　計	108,896	総　計	109,188	総　計	105,334	総　計	102,053
	平常展のみの来館者	64,318	平常展のみの来館者	39,502	平常展のみの来館者	52,221	平常展のみの来館者	50,064	平常展のみの来館者	62,210
	特別（共催）展計	60,197	特別（共催）展計	69,394	特別（共催）展計	56,967	特別（共催）展計	55,270	特別（共催）展計	39,843
	企画展「発掘速報展　平城2011/文化財レスキュー展」	34,687	春期企画展「発掘速報展　平城2012」	34,025	ロビー展示「震災復興調査とその支援」26.3.12より継続中	※1－	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1－	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	－
	特別展「地下の正倉院・第一次大極殿院のすべて」	20,356	夏期企画展「平城京どうぶつえん」	18,616	夏期企画展「平城京ビックリはくらんかい－奈良の都のナンバーワン－」	17,712	夏のこども展示「平城京“ごみ”ずかん-ごみは宝-」	18,108	夏のこども展示「ナント！おいしい！？平城京！！—奈良の都の食事情—」	9,532
	春期企画展「発掘速報展　平城2012 」	5,154	秋期特別展「地下の正倉院展 －木簡学ことはじめ」／「平城宮跡発掘調査部設立50周年記念展」	16,753	秋期特別展「地下の正倉院展—木簡を科学する—」／「埋蔵文化財センターの40年」	19,281	秋期特別展「地下の正倉院展 造酒司木簡の世界」	16,830	秋期特別展「地下の正倉院展 式部省木簡の世界—役人の勤務評価と昇進—」	17,653
			ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1－	ミニ展示「発掘速報展　平城2014」（第1期）	9,806	発掘速報ミニ企画展示第1期	10,003	平城宮跡資料館春期企画展「発掘速報展　平城2016」	12,658
					ミニ展示「発掘速報展　平城2014」（第2期）	10,168	発掘速報ミニ企画展示第2期	10,329		
藤原宮跡資料室	総　計	9,510	総　計	7,869	総　計	8,461	総　計	10,933	総　計	8,378
	平常展のみの来館者	9,510	平常展のみの来館者	7,869	平常展のみの来館者	8,461	平常展のみの来館者	10,933	平常展のみの来館者	8,378
	特別（共催）展計		特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0
飛鳥資料館	総　計	38,854	総　計	41,736	総　計	38,096	総　計	42,749	総　計	35,970
	平常展のみの来館者	12,853	平常展のみの来館者	7,551	平常展のみの来館者	9,028	平常展のみの来館者	12,570	平常展のみの来館者	8,669
	特別（共催）展計	26,001	特別（共催）展計	34,185	特別（共催）展計	29,068	特別（共催）展計	30,179	特別（共催）展計	27,301
	特別展「比羅夫がゆく-飛鳥時代の武器と武具・いくさ-」	11,425	第3回写真コンテスト「神々の山　大和三山のある風景」	1,148	春期特別展「いにしえの匠たち－ものづくりからみた飛鳥時代－」	10,597	飛鳥資料館開館40周年　春期特別展「はじまりの御仏たち」	10,725	春期特別展「文化財を撮る—写真が遺す歴史—」	9,974
	第２回飛鳥資料館写真コンテスト展「遙かなる華の都」	5,385	春期企画展「飛鳥寺2013」	9,406	夏期企画展第５回写真コンテスト「飛鳥の甍」	3,505	飛鳥資料館開館40周年　夏期企画展　飛鳥資料館第6回写真コンテスト作品展「ひさかたの天(そら)－いにしえの飛鳥を想ふ－」	4,088	夏期企画展　飛鳥資料館第7回写真コンテスト作品展「飛鳥の石」	3,383
	特別展「花開く都城文化」	5,743	5月～6月ロビーミニ展示※2	2,648	企画展「津田洋　大和の美仏に魅せられて」	2,716	秋期特別展 飛鳥資料館開館40周年　「キトラ古墳と天の科学」	12,862	秋期特別展　「折りをこめた小塔」	9,373
	冬期企画展示「飛鳥の考古学２０１２」	1,537	夏期企画展「飛鳥・藤原京を考古科学する」	2,633	秋期特別展「はぎとり・きりとり・かたどり －大地にきざまれた記憶－」	9,592	冬期企画展「飛鳥の考古学2015-飛鳥の古墳調査最前線－」	2,504	冬期企画展　「飛鳥の考古学2016-飛鳥むかしむかし早川和子原画展-」	4,571
	第３回飛鳥資料館写真コンテスト展「神々の山一大和三山のある風景ー」	1,911	第4回写真コンテスト「飛鳥川の導」※3	2,313	冬期企画展「飛鳥の考古学2014 - 縄文・弥生・古墳から飛鳥へ - 」	2,658				
			ミニ企画展「日光男体山のかがやき-山岳信仰奉賽鏡の世界-」	1,046						
			秋期特別展「飛鳥・藤原京への道」	9,132						
			発見30周年記念　キトラ古墳壁画特別公開	4,008						
			冬期企画展示「飛鳥の考古学２０１３」	1,851						

※1　平常展の一部として実施
※2　「飛鳥寺2013」と同時開催期間は同展と一体でカウントのため、単独開催期間の来館者数2,648人のみ計上。なお、同時開催期間も含めた全期間の来館者数は10,473人
※3　「日光男体山のかがやき」と同時開催期間は同展と一体でカウントのため、単独開催期間の来館者数2,313人のみ計上。なお、同時開催期間も含めた期間の来館者数は3,359人

a-③ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

①開館日数　312 日間（平常展のみの開館日数　32 日間）
②会　　場
(1)本　館　1階、2階
(2)東洋館　1階、2階、3階、4階、5階
(3)法隆寺宝物館　1階、2階
(4)平成館　1階
(5)黒田記念館　(6月13日まで休館)
③展示総件数　10,918件（うち国宝174件、重要文化財859件）
(1)本館・平成館企画展示室　4,590件（うち国宝 83件、重要文化財335件）
(2)東洋館　3,095件（うち国宝　4件、重要文化財 55件）
(3)法隆寺宝物館　476件（うち国宝 15件、重要文化財292件）
(4)平成館考古展示室　2,569件（うち国宝 72件、重要文化財172件）
(5)黒田記念館　188件（うち国宝　0件、重要文化財　5件）
④展示替件数　8,538 件　・　展示替回数　延べ 371 回
⑤入場料金
黒田記念館以外　一般620円、大学生410円
黒田記念館　無料
⑥特集　全33件（●国宝、◎重要文化財、○重要美術品）

場所	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
本館 14 室	七宝―金属を飾る彩り	4 月 12 日 ～6 月 5 日	50 件
＜主な作品＞七宝花蝶文矢立 、七宝宝尽文鍔 、七宝菊水文引手 、七宝扁壺瓶形幾何学文水注 、七宝花蝶文瓶			
七宝は銅など金属胎の器物の表面にガラス釉薬を焼き付け、多彩な色面により文様や図柄を表す技法である。日本では 7 世紀の出土品や８世紀の正倉院宝物の作例が早く、その後いったん途絶えるが、近世に再び盛行し、建具の引手金具や釘隠、印籠や煙管などに、情緒的で味わい深い意匠の妙が発揮された。また明治以降は博覧会出品や海外輸出を旺盛に志向する中で、尾張七宝に代表されるように、技術・表現ともに高度な発達をとげ、並河靖之ら名工を輩出した。本特集では正倉院宝物の模造や、近世期の刀装具・引手・水滴、明治期の七宝作品を展示し、日本の七宝の魅力を紹介した。併せて七宝の行程見本を展示し、教育的効果を図った。			
平成館 企画展示室	親と子のギャラリー　あつまれ！トラのなかまたち	4 月 12 日 ～5 月 22 日	35 件
＜主な作品＞ 龍虎図　狩野常信筆 江戸時代・17 世紀、青磁染付竹に虎図大皿　江戸時代・19 世紀、胸背（ヒュンベ）　朝鮮時代・19 世紀 虎図　円山応挙筆 江戸時代・18 世紀、岩上双虎置物 鈴木長吉作 明治 33 年（1900）			
春の行楽やゴールデンウィークで東博を訪れるファミリー層を対象に、美術鑑賞の楽しさ・面白さを伝えるための特集「親と子のギャラリー」で、国際博物館の日を記念して国立科学博物館、上野動物園との３館園連携企画として実施した。展示は２部構成からなり、第１部で伝説や物語のなかの「トラ」をテーマに、第２部では「トラ」のリアルな描写をめぐって、猫から想像した虎、毛皮などから観察した虎、生きた虎を観察できた明治期の虎などを流れにそって展示した。子どもの理解の助けとなる実物展示（トラのヒゲ、頭骨）や補助的な解説パネルの作成を２館園の協力により行い、作品名称についても通常の列品名のほか、子ども用にわかりやすくした名称を併せて掲示するなど、理解の促進を図った。また、三館園をめぐるツアー「上野の山でトラめぐり」を 2016 年 5 月 15 日に実施した。			
本館 7 室	特別公開「新発見！天正遣欧少年使節 伊東マンショの肖像」	5 月 17 日 ～7 月 10 日	5 件(重文 4 件)
＜主な作品＞伊東マンショの肖像、◎天正遣欧使節記、◎三聖人像、◎三聖人像（模写）、◎聖母像（親指のマリア）			
2016 年の日伊国交 150 周年を記念して、日本とイタリアを結ぶ最初の架け橋である「天正遣欧少年使節」を、ドメニコ・ティントレット筆「伊東マンショの肖像」を中心に紹介する。「伊東マンショの肖像」は、2014 年 3 月にミラノで発行された学術誌に紹介され、日本でも初めてその存在が知られた油彩の肖像画である。1585 年にヴェネツィアを訪問した天正遣欧少年使節の姿を、ルネサンス期ヴェネツィア派の大画家ヤコポ・ティントレットの息子であるドメニコ・ティントレット（1560～1635）が描いたとみられる。本特集では、当館所蔵の「天正遣欧使節記」やキリシタン資料中のイタリア関連作品をともに展示し、16～17 世紀にキリスト教を通じて交流した日伊の姿をみた。　会期中、イタリア文化会館にて関連シンポジウム（5/18）、当館月例講演会にて小佐野重利東京大学教授の講演（5/21）を開催した。「伊東マンショの肖像」は会期後、長崎歴史文化博物館（7/22～8/31）、宮崎県立美術館（9/9～10/16）へ巡回した。			
本館 特別 1・2 室	特集平成 27 年度新収品展Ⅰ	5 月 17 日 ～5 月 29 日	70 件

＜主な作品＞双龍図、ワヤン・クリ　バヌワティ、青磁盤、刀、菩薩立像

平成 27 年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、ご寄贈いただいた分より 70 件を公開した。新収品を通じ、当館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義を示した。

平成館 企画展示室	平成 27 年度新収品展Ⅱ	5 月 31 日 ～7 月 10 日	8 件

＜主な作品＞住吉物語絵巻断簡、玄圃瑤華

平成 27 年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、購入分より 8 件を公開する。新収品を通じ、当館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義を示した。

本館 14 室	根付と置物－象牙彫刻の伝統	6 月 7 日 ～7 月 31 日	78 件

＜主な作品＞面打牙彫根付、常盤牙彫根付、大原女牙彫根付、高砂牙彫根付、牙彫藤原鎌足像、桜桃、草枕

象牙を彫刻する牙彫の置物は、幕末期に流行した精巧な牙彫根付の伝統から、発展したものととらえられる。根付や牙彫置物は、19 世紀に来日した欧米人を中心に人気が高まり、明治前期には牙彫置物が輸出工芸の花形となった。当館の牙彫の根付と置物を一堂に集め、合わせて高円宮コレクションなどの現代作品も展示して、明治以来続く象牙彫刻の伝統と展開をご覧いただいた。

本館 特別 2 室	親と子のギャラリー　美術のうら側探検隊	7 月 5 日 ～8 月 28 日	30 件(国宝 2 件、重文 2 件)

＜主な作品＞埴輪 盾持人 、◎如来坐像 、魔鏡 、難波屋おきた 、●延喜式　巻二十六 、●十六羅漢像（第十三尊者）

赤くベンガラが塗られている金銅仏の像底や、葉などの圧痕がある縄文土器の底、内側に文様がある火事装束、紙背文書など、各分野の作品の普段見ることができない「うら側」に注目する。「うら側」と作品そのものまでを楽しむために展示具を工夫し、作品名称については列品名のほか、子ども用にわかりやすくした名称を併せて示した。ペンライトやレプリカなどを設置、ハンズオン企画も盛り込んだ体験型の展示とし、裏側に秘められた情報、かくれた部分の面白さを知ることで、これまでになかった作品鑑賞の楽しさを感じてもらえる展示となった。

平成館 考古展示室	後期の古墳文化－海北塚古墳展－	7 月 20 日 ～ 10 月 30 日	52 件

＜主な作品＞単龍環頭柄頭 、単鳳環頭柄頭 、獣帯鏡 、銀装矛 、銀製山梔玉 、銀製勾玉 、金銅装パルメット文鏡板 、金銅装花形座雲珠 、金銅装花形座辻金具 、金銅装パルメット文杏葉 、鐘形杏葉 、須恵器 筒形器台

大阪府茨木市に所在する海北塚古墳は、明治 42(1909)年・昭和 10(1935)年出土品のうち、環頭大刀・馬具・須恵器が古墳時代後期（６世紀）の基準資料として学史上有名である。　本特集では、海北塚古墳一括品を中心に、おもに編年研究に採り上げられてきた主要な資料を比較・展示した。また、類例の少ない本古墳出土装飾品も併せて展示することで、典型的な後期古墳文化の具体的内容を様々な角度から紹介した。

東洋館 5・13 室	上海博物館との競演－中国染織　その技と美―	7 月 26 日 ～10 月 23 日	23 件

＜主な作品＞刺繍龍八宝唐草文様壁掛、刺繍朝袍 香色繻子地龍蝙蝠文様、刺繍氅衣 紅繻子地花卉文様

当館イベント「アジアの旅」にあわせて、上海博物館から借用した中国染織と、当館所蔵品とを組み合わせ、元～清時代の中国染織の技と、その技が生み出してきた美の表現を紹介した。東洋館５室においては、稀少価値の高い元末～明初の刺繍大型作品「刺繍龍八宝唐草文様壁掛」を中心に、仏教美術における染織の表現を文様に込められた意味とともに紹介した。一方、東洋館 13 室では、中国染織の大きな特徴の１つである、書画を表現した緙絲や刺繍の作品を展示し、高度な技術に根ざした、染織による花鳥画や山水画、吉祥を主題とした絵画的な掛軸を展示した。宮廷女性の服飾なども合わせて展示し、宮廷や高級官僚の邸宅における室内をイメージするような展示とした。

平成館 企画展示室	清国踏査游記―関野貞・塚本靖が撮影した史跡写真	7 月 26 日 ～9 月 4 日	46 件

＜主な作品＞阿史那忠碑より九嵕山を望む、雲門山石窟第一窟、済寧州南門外運河（「支那写真帖」のうち）

明治 39～40 年（光緒 32～33 年：1906～07）、東京帝国大学の関野貞と塚本靖は平子尚（鐸嶺）と共に清国に渡り、河南・陝西省において文物調査を行なった。明治 40～41 年には関野貞が山東省を、明治 41 年には塚本靖が河北・山西・河南・山東省を踏査して建築、考古、金石、美術、風景など様々な分野の研究に寄与し、清朝末期の状況を現在に伝える多くの写真を撮影した。本展では、清朝末期に関野貞、塚本靖が行った中国調査に焦点をあて、東京国立博物館が収蔵する写真資料からその事跡を紹介した。

本館 14 室	日本の貨幣ー富本銭から大判・小判までー	8 月 2 日 ～9 月 25 日	124 件
＜主な作品＞天正菱大判、和同開珎、蛭藻金、天正長大判、天保大判、慶長小判、元禄小判			
日本で最初の貨幣には、無文銀銭や「富」「本」の 2 字が入る富本銭がある。その後和銅元年（708）の和同開珎以降、250 年の間に銅貨 12 種（皇朝十二銭）が発行されたが、10 世紀末には皇朝銭の鋳造は停止された。中世の中国銭貨の使用をへて、再び貨幣が製造されるようになるのは、室町時代末 16 世紀以降であり、近世期には金銀銅のいわゆる三貨制度のもとに各種の貨幣が製造・流通した。本特集では富本銭から近世期の大判・小判まで、わが国の貨幣の歴史を当館収蔵品で辿った。			
本館 特別 1 室	藤原行成の書　その流行と伝称	8 月 23 日 ～10 月 2 日	26 件(国宝 2 件､重文 3 件)
＜主な作品＞●白氏詩巻 、◎書状 、◎藤原師通願文 、●延喜式　巻三十六			
藤原行成が揮毫した国宝「白氏詩巻」（寛仁２年[1018]）から、もうすぐ 1000 年が過ぎようとしている。本特集はその藤原行成の書を中心に取り上げる。藤原行成の真跡とともに、行成の書をよく真似ている「延喜式」や、藤原師通「願文」（個人蔵、寄託品）をあげながら、「三跡」と称された行成の書がいかに流行したかを示した。また、伝称筆者を藤原行成とする古筆切や、江戸時代の模本なども展示し、藤原行成の書がこれまでどのように尊重されてきたのかを紹介した。			
本館 15 室	壬申検査―博物館草創期の文化財保護活動―	8 月 23 日 ～10 月 16 日	45 件(重文 35 件)
＜主な作品＞古今珎物集覧、◎壬申検査社寺宝物図集:第 12			
明治 5 年(1872)、創立したばかりの文部省博物局(東京国立博物館の前身）が行なった社寺宝物調査（壬申検査）は、日本の文化財保護のはじまりと位置づけられるものである。当館ではこれまで、文化財保護の歴史を紹介する展示はあったが、壬申検査そのものに焦点を当てたことはない。本特集では、壬申検査だけに絞って、調査記録や古写真を展示することで、東京国立博物館の創立当時の文化財保護活動を紹介した。			
東洋館 1 室	上海博物館との競演－中国彫刻―	8 月 30 日 ～29 年 2 月 26 日	40 件
＜主な作品＞如来坐像、勢至菩薩立像、菩薩五尊像、菩薩立像、十一面観音龕			
インドから中国に仏教が伝わったのは紀元前後頃とされる。その後、南北朝時代に入ると、国家的な規模で寺院の造営が行なわれるようになり、仏教は中国でも大いに隆盛した。この展示では、中国彫刻の最盛期である南北朝時代から唐時代の仏像を中心に構成した。今年度は、８月から２月にかけて、上海博物館からの借用品８件を特集して陳列した。			
東洋館 5 室	上海博物館との競演－中国青銅器－	8 月 30 日 ～29 年 2 月 26 日	29 件
＜主な作品＞剛劫尊 、七牛貯貝器 、小克鼎 、蟠螭文鼎 、克鐘			
殷時代から漢時代にかけて展開した中国青銅器の用途および銘文について、おもに先祖の祭礼に用いた容器と楽器によって紹介する。東洋館５室をメイン会場として開催する特集「上海博物館との競演」の一環として、上海博物館の借用品と当館列品によって構成した。また、展示期間の一部が「アジアの旅」と重なるため、優品を取り揃えて「アジアの旅」の高揚に資した。			
東洋館 5 室	上海博物館との競演－中国陶磁－	8 月 30 日 ～29 年 2 月 26 日	34 件(重文 2 件)
＜主な作品＞青磁盤 、青磁盤 、◎青磁輪花鉢 、青花唐草文水差 、玳玻釉点斑文碗 、南宋官窯址採集陶片（郊壇下）			
中国唐時代から清時代に至るおよそ 1300 年のあいだにつくられた陶磁器を紹介する。今回の展示では「上海博物館との競演」と題し、当館所蔵品のなかから選りすぐった作品と、当館の収蔵品にはみられない青磁や元・明・清の景徳鎮窯器など中国・上海博物館からお借りした貴重な作品を一緒に展観した。			
東洋館 8-1・2 室	上海博物館との競演　―中国書画精華・調度―	8 月 30 日 ～10 月 23 日	43 件(国宝 4 件、重文 14 件、重美 1 件)
＜主な作品＞◎李白吟行図、◎四季花鳥図(春)、緙絲仙人図壁掛、緙絲花鳥図壁掛、●瀟湘臥遊図巻、◎五龍図巻、●王勃集巻第二十九･三十、楷書謝賜御書詩表巻、●禅院額字「解空室」、行草書西園雅集図記軸、行書送李愿帰盤谷序軸			
日本に古くから舶載された中国の書画は、日本人特有の美意識のもとに鑑賞され、日本の美術にも大きな影響を与えてきた。明治以降に日本に流入した名品も含め、日本で形成された中国書画コレクションには、本国ではすでに伝存しない貴重な作例も少なくない。このたびは館蔵品の中国書画コレクションの優品を公開するとともに、上海博物館の所蔵品から中国絵画にもとづく中国染織の作例を展示し、書画表現の奥深い世界をお			

楽しみいただいた。

東洋館 8-3 室	上海博物館との競演　―中国書画精華・調度―	8 月 30 日 ～10 月 23 日	6 件

＜主な作品＞紫檀雲龍彫戸棚、紫檀雲龍彫長方卓、紫檀唐花蝙蝠彫椅子

中国家具の最盛期は明清時代とされている。清時代の家具は、濃密な装飾を施した重厚な様式を特徴とし、当時の生活空間を豊麗に演出する役割を果たした。上海博物館が所蔵する上質な清時代の家具を展示した。

平成館 企画展示室	和紙の魅力―技術記録と料紙の変遷―	9 月 13 日 ～ 11 月 6 日	22 件(国宝 3 件、重文 2 件)

＜主な作品＞●円珍戒牒（円珍関係文書の内）、●群書治要　巻第二十六、◎申文

平成 26 年 11 月に「和紙」がユネスコ無形文化遺産に登録された。登録の対象は国の重要無形文化財に指定されている保持団体であり、国の指定は、昭和 38 から 41 年度にかけて行われた全国の主要な伝統的製紙地 40 ヵ所の実態調査にもとづいている。今回の展示では、実態調査の際に文化庁が詳細な技術記録を作成した和紙で、人間国宝である岩野市兵衛（8 代）の「越前奉書」をはじめ、ユネスコ無形文化遺産に登録された島根の「石州半紙」、岐阜の「本美濃紙」などをとりあげた。技術記録のうち和紙の実物、原料、紙漉きの道具や、津和野藩お抱え絵師の描いた天保 15 年「製楮図鑑」、明治 5 年にウィーン万博に出品するために作成された「越前紙漉図説」、さらに奈良から江戸時代にいたる代表的な和紙を展示する。これらの資料によって、それぞれの和紙の特徴である強さ、白さ、しなやかさの理由を解明し、世界に誇る和紙の技術とその魅力をわかりやすく紹介した。

本館 14 室	ドレッサーの贈り物―明治にやってきた欧米のやきものとガラス	9 月 27 日 ～12 月 18 日	48 件

＜主な作品＞多彩釉花唐草貼付文飾壺 、色絵虫魚浮彫飾皿 、青地色絵日本風俗図扁壺 、白色ガラス蛙蜻蛉刻文瓶 、白色ガラス草花刻文碗 、緑彩茶彩葉文脚付瓶

平成 28 年（2016）はイギリス人デザイナー、クリストファー・ドレッサー来日 140 年を迎える年であり、ここで紹介するものはドレッサーにちなんだ作品である。1873 年ウィーン万国博覧会後、日本の出品作品や収集品を積んで伊豆沖で沈没したニール号の悲報を受け、好意で集められたヨーロッパの美術品をドレッサーが日本へ運んできた。このとき博物館に寄贈された陶磁器やガラス、さらにドレッサーの影響を受けてのちに寄贈された欧米の作品など、明治前半期に博物館が受入れた 19 世紀欧米の貴重なガラス・陶磁器コレクションを展観した。ドレッサー関連のガラスについては近年ほとんど展示されたことがなかったが、このたび応急修理、クリーニングを行ない、展示が可能になった。

本館 特別 1・2 室	歌仙絵	10 月 18 日 ～11 月 27 日	53 件(重文 9 件)

＜主な作品＞柿本人麻呂像 、治承三十六人歌合絵　藤原成範 、◎為家本時代不同歌合絵 、時代不同歌合絵　蝉丸 、◎釈教三十六歌仙絵 、◎佐竹本三十六歌仙絵　坂上是則 、◎佐竹本三十六歌仙絵　住吉大明神、◎佐竹本三十六歌仙絵　小野小町 、◎佐竹本三十六歌仙絵　壬生忠峯 、◎佐竹本三十六歌仙絵　藤原元真 、◎上畳本三十六歌仙絵　源宗于、為家本三十六歌仙絵　藤原敦忠

歌仙絵とは優れた歌人の肖像を描く作例である。平安時代中期、藤原公任が編んだ『三十六人撰』に基づく「三十六歌仙絵」、鎌倉時代前期、後鳥羽院が編んだ『時代不同歌合』に基づく「時代不同歌合絵」など、多くの歌仙絵が中近世を通じて生み出され、愛好されてきた。

いにしえの歌人の肖像を描く営みは、平安時代末期にさかのぼる。当時歌聖として崇敬された「柿本人麻呂像」がその始まりである。鎌倉時代には、「似絵」と呼ばれる新たな肖像表現の形式を取り込みながら展開し、和歌を詠む人々の間で広く制作・享受されるようになった。

この特集は、宮廷文化の根幹たる和歌に支えられた、歌仙絵の成立と展開をたどるものである。東京国立博物館が誇る中世歌仙絵コレクションの全貌をご覧いただくとともに、文化庁、京都国立博物館、九州国立博物館、大倉集古館、そして個人のご所蔵家のご協力を得て、歌仙絵の白眉たる佐竹本三十六歌仙絵をはじめ、様々なバリエーションの歌仙絵をご紹介する。豊穣かつ個性豊かな歌仙絵の世界をお楽しみいただいた。

東洋館 8 室	生誕百年記念　小林斗盦　篆刻の軌跡　印の世界と中国書画コレクション	11 月 1 日 ～12 月 23 日	247 件

＜主な作品＞「柔遠能邇」白文円印、「八龍並出」白文印、「独往」朱文印、「退蔵入虚無意象難求思」朱文印、「為五斗米折腰」朱文印、「心月同光」朱文印、篆書朱韓山座右篇軸、隷書張衡霊憲四屏、梅花図軸、菊花老少年図紈扇

川越に生まれた小林斗盦(1916～2007)は、15 歳で書を比田井天来に、篆刻を石井雙石に師事。さらに 25 歳で篆刻を河井荃廬に、29 歳で書を西川寧に師事して、日本人の感性に本格的な中国の技法を盛り込んだ、精緻で格調高い作風を創出した。34 歳の若さで日展の特選を受賞してからは、常に書壇の重鎮として篆刻界を牽引し続けた。　一方、33 歳で文字学を加藤常賢に、37 歳で印学を太田夢庵に学んで、中国の古印や書画の研究に没頭し多くの論考を発表、晩年には『中国篆刻叢刊』40 巻を上梓している。実作と研究における優れた業績から、77 歳で日本芸術院会員、82 歳で文化功労者となり、88 歳の時に篆刻家としてはじめて文化勲章を受章した。　本展は生誕 100 年を記念して、小林斗盦の篆刻・書画や旧蔵にな

る中国の書画などを展示し、91 歳の天寿を全うした小林斗盦の偉大な業績を回顧したものである。 主催：東京国立博物館・読売新聞社 企画協力：謙慎書道会

平成館 考古展示室	吉備・伯耆因幡の古墳文化－中国地方東部の歴史的特質－	11 月 1 日 ～ 29 年 3 月 5 日	25 件

＜主な作品＞特殊器台破片 、長方板革綴短甲 、八ツ手葉形青銅製品 、石枕 、須恵器 子持装飾付脚付壺

岡山県・鳥取県は中国地方東部で中国山地を挟み、古代には吉備・伯耆・因幡と呼ばれた瀬戸内海と日本海側に面した地方である。弥生時代以降、近畿地方西隣において九州地方から新しい文化が伝わる沿岸の回廊として幅広い地方と交流してきた。古墳文化の成立にも大きな影響を及ぼし、古墳時代後半期には近畿・九州両地方の影響を受けた独自な古墳文化も現れた。

このような両地方の特色ある古墳文化を平成 28 年度考古相互貸借事業によって岡山県立博物館・鳥取県立博物館の所蔵品を中心に紹介した。

平成館 企画展示室	南太平洋の生活文化	11 月 15 日 ～12 月 23 日	35 件

＜主な作品＞家屋模型 、ワニ像 、仮面 、貝貨 、冑 、鎧

東京国立博物館には、おもに 19 世紀から 20 世紀にかけて、南太平洋の島々から将来された約 500 件の民族資料が所蔵されている。当時の南太平洋では、伝統的な暮らしと信仰が近代文明の影響を受けて急激に変わりつつあった。そのため、収蔵品のなかには、すでに現地では見られなくなったものもある。本特集陳列では、当館所蔵の貴重な南太平洋民族資料のなかから、伝統的な生活や儀式にかかわる器物・衣類・建築模型などを展示することで、日本に隣接していながらあまり知られていない南太平洋の文化の魅力を紹介した。

本館 14 室	掛袱紗―祝う心を模様にたくす	12 月 20 日 ～ 29 年 2 月 19 日	24 件

＜主な作品＞袱紗 猩々図、袱紗 紺繻子地鯛模様、袱紗 萌黄繻子地桜樹孔雀模様、袱紗 淡紅精好地布袋唐子遊戯図

掛袱紗は、婚礼や長寿を祝う儀において、お祝いの品を贈る際にその上に掛ける覆いである。江戸時代前期から中期にかけて、日本の刺繍技術の発達と共に、吉祥模様を刺繍したさまざまな模様の袱紗が制作された。江戸時代後期になると、進物に袱紗を掛けて贈る習慣が裕福な町人にも普及し、武家方が用いる様式的な模様とは異なり、世情で人気のある説話を模様とした袱紗や、身近な風物を大胆に模様化した袱紗なども制作されるようになった。刺繍だけではなく、友禅染や綴織など絵画表現に適した技術を活かした模様には、江戸時代の人々の、吉事を祝う心が表わされている。広蓋に掛けられた掛袱紗の使用例も再現しつつ、当館所蔵の江戸時代の袱紗を「物語・説話絵」「吉祥模様」「武家模様」「神仏と祭り」の四つのテーマに分けて紹介した。模様の意味を通して江戸時代における祝う心の表現に迫った。

本館 15 室	特集臨時全国宝物取調局の活動―明治中期の文化財調査―	12 月 20 日 ～ 29 年 2 月 19 日	50 件(国宝 2 件、重文 42 件)

＜主な作品＞●紅白芙蓉図、●東京府宝物精細簿 乙、◎鑑査状（紅白芙蓉図）、◎鑑査状番号簿 第四 自第五七四四号至第七四五〇号、書状、◎要甲・要乙資料参攷簿

明治 21 年（1888）に発足した臨時全国宝物取調局は全国の宝物台帳を作成することを目的とし、各地に調査員を派遣して文化財の調査と登録を行なった。大方の調査を終え、明治 30 年（1897）にその残務は東京帝室博物館が引き継いだことから、東京国立博物館には臨時全国宝物取調局の活動に関わる資料が残されており、近年その整理が進んでいる。本展示では当時の文化財調査の工程について作成された記録と、調査の対象となった作品を紹介した。

本館 特別 1・2 室	博物館に初もうで　新年を寿ぐ鳥たち	29 年 1 月 2 日 ～1 月 29 日	68 件(重文 3 件)

＜主な作品＞◎鶏図屏風 、◎竹鶏図 、松梅群鶏図屏風 、旧儀式図画帖「闘鶏御覧」 、花鳥図屏風 、◎舞楽面 崑崙八仙 、梨地桐竹鳳凰文蒔絵宝剣

平成 29 年の干支である酉（とり）に因み、全体構成を「暁の鳥」「祝の鳥」として、鳥を表す美術工芸品を展示した。

「暁の鳥」：十二支の酉は鶏の姿で表現されることが通例である。黎明を告げる鶏は家禽として親しまれ、また闘鶏のような遊戯も楽しまれた。ここでは鶏をモチーフとする作品、そして鶏と人との関わりを表した作品を展示した。

「祝の鳥」：花鳥をモチーフとする美術工芸品には、鷹・孔雀・鶴・鷺・鴛鴦などを表して吉祥的な意味が込められるものがある。また人間の豊かな想像力が生み出した鳳凰やガルーダのような瑞鳥もある。ここでは実在の鳥に限らず、空想鳥を含む鳥を表した作品を展示した。

東洋館 8 室	董其昌とその時代―明末清初の連綿趣味―	29 年 1 月 2 日 ～ 2 月 26 日	52(重文 7 件、重美 1 件)

＜主な作品＞渓山絶塵図、天目喬松図、◎廬山観瀑図、◎安晩帖、書画合璧巻、行草書羅漢賛等書巻

董其昌（1555～1636）は、高級官僚として官途を歩むかたわら、書画に妙腕を発揮した。書ははじめ唐の顔真卿を学び、やがて王羲之ら魏晋の書に遡り、当時の形式化した書を否定して、天真爛漫で平淡な書風を理想とした。画は、元末の四大家から董源に遡り、宋や元の諸家の作風を広く渉猟して、文人画の伝統を継承しつつ、一方では急進的な描法によって奇想派の魁となる作例も残している。董其昌によって提唱された書画の理念は、激動の明末から清初にかけた書画にも濃厚に反映され、さらに清初の康熙帝と乾隆帝が董其昌の書画を愛好したことで、董其昌は300年に及ぶ清朝においても大きな影響を与え続けた。平成28年度は董其昌の没後380年にあたることから、董其昌の書画における業績を顕彰した。台東区立書道博物館との連携企画第14弾。

平成館 企画展示室	春日権現験記絵模本Ⅲ―写しの諸相―	29年1月17日 ～ 3月12日	23件

＜主な作品＞春日権現験記絵(陽明文庫本)巻三 、春日権現験記絵(陽明文庫本)巻十五 、春日権現験記絵(春日本)巻三 、春日権現験記絵(春日本)巻十五 、春日権現験記絵(徳川美術館本)巻三 、春日権現験記絵(徳川美術館本)巻十五、春日権現験記絵(新宮本)巻三 、春日権現験記絵(新宮本)巻十五

奈良県奈良市に鎮座する春日大社は、創建以来多くの人びとの信仰を集めてきた。この春日大社に祀られる神々の利益と霊験を描くのが春日権現験記絵（三の丸尚蔵館所蔵）である。全20巻から成るこの絵巻は、鎌倉時代の後期、高階隆兼という宮廷絵所の絵師が描いたもので、多くの絵巻作品の中でも最高峰のひとつに数えられている。拝観が厳しく制限されていた春日権現験記絵は、江戸時代後期にいたっていくつかの模本が作られることになる。

これまで、春日権現験記絵模本の魅力とともに、春日信仰について様々な角度から紹介する特集をシリーズで行ってきた。この特集は3回目の試みで、今回は「写しの諸相」をテーマとする。本展にあたっては、摂関家筆頭、近衛家熙（1667～1736）の命により渡辺始興 （1683～1755）が描いた陽明文庫本、松平定信の命で作られた春日本、阿波蜂須賀家伝来の徳川美術館本、紀州新宮の丹鶴文庫伝来の新宮本を特別にご出陳いただく。これらに当館所蔵の、紀州（和歌山）藩主徳川治宝（1771～1852）の命によって冷泉為恭（1823～64）らが描いた紀州本をあわせ、それぞれの画面を比較しながら、模写の方法の違いや、それぞれの制作事情について紹介した。

特別展「春日大社　千年の至宝」（1月17日～3月12日）とあわせてご観覧いただいた。

本館 特別1・2室	奈良・金春家伝来の能面・能装束	29年1月31日 ～ 3月26日	75件(重文52件)

＜主な作品＞◎能面　三光尉 、◎能面　翁 、◎能面　長霊癋見 、◎摺箔（子方） 紫地色紙葡萄模様、◎縫箔（子方） 白地桐鳳凰芦桜雪持竹肩裾模様、◎縫箔　紅白段菊芦水鳥模様、◎能面　曲見 、◎能面　小面 、◎縫箔 白地雪持柳扇面肩裾模様、◎厚板 金紅片身替詩歌模様

同時期に開催される特別展にあわせ、春日大社にゆかりの深い、金春家の能面・能装束を特集する。金春家は、能楽シテ方の一流として南北朝時代に活動を始め、大和猿楽四座のなかでも最も歴史が古い。中興の祖・金春禅鳳が室町時代後期に奈良を拠点として風流能の名作を遺した後、安土桃山時代には、第62代金春太夫・安照が豊臣秀吉の絶大なる庇護の下、一時代を築いた。江戸時代以降も、春日大社や興福寺などで祭事能をおこなうなど、奈良に本拠をおいて活動してきた。東京国立博物館には、金春家に伝来した能面４６面と狂言面１面の計４７面を収蔵しており、一括して国の重要文化財に指定されている。また、重要文化財7件を含む能装束類225件を所蔵する。本特集は、中世の能の歴史を物語る金春家伝来の面と能装束の名品を一堂に会する初めての機会となった。

本館 14室	おひなさまと日本の人形	29年2月21日 ～ 4月16日	32件

＜主な作品＞台付機巧輪舞人形 、享保雛 、立雛（次郎左衛門頭） 、衣裳人形 吉弥、初参人形

３月３日は桃の節供。雛祭にちなんで恒例となった特集を行いたい。今回は享保雛や五人囃子とともに、衣裳人形の名品を中心に展示した。また、天児・這子や紙雛にはじまる雛人形の発展を概観できるように展示を行なった。人形の名品を通じ、繊細で美しく、そしてかわいらしいものを尊び、高い技術を駆使して作品を作り上げてきた日本の美意識を、楽しく伝えた。

平成館 考古展示室	須恵器の展開	29年3月7日 ～ 6月11日	24件

＜主な作品＞子持高坏 、角坏 、革袋形提瓶

古墳時代中期・5世紀に朝鮮半島から新しい窯業技術が伝えられ、日本列島で須恵器生産が始まった。技術のみならず、その器形にも朝鮮半島の陶質土器に共通する特徴がみられたが、日本列島での生産が各地で展開する中で、日本列島の独自の特徴も現れてくる。本特集においては、須恵器の登場から奈良時代までの須恵器を展示し、造形の多様性を示した。

平成館 企画展示室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	29年3月22日 ～4月16日	18件(重文1件)

＜主な作品＞◎放犢図 、色絵牡丹文小皿 、五彩獅子文有蓋壺 、朱筋溜塗打刀 、男神坐像

本特集では、東京国立博物館が手がける保存と修理の成果をより分かりやすく紹介するため、近年に解体を含む根本的な修理を終えた絵画、工芸、考古、歴史資料などさまざまな分野から、形態、技法が異なる作品を取り上げた。　作品とともに修理過程で得られた情報もパネルなどを用いて公開し、博物館が担う文化財修理の役割を広く理解していただいた。　本年度は、本格修理完了品として重要文化財「放犢図」や明治18年に沖縄県から一括して購入した陶磁器など16件、対症修理完了品として肉筆浮世絵、神像など4件、計18件を展示した。

(2) 特別展、共催展等（海外展、国立文化財機構主催の海外展を含む）

展覧会名	**特別公開「国宝土偶　縄文の女神」**
会　　期	28年3月23日（水）～4月17日（日）（25日間）
会　　場	平成館 特別展示室第1～4室
主　　催	東京国立博物館、山形県、（公財）山形県産業技術振興機構
特別協賛	―
協　　賛	―
協　　力	―
作品件数	42件
来館者数	カウントなし
入場料金	無料
アンケート結果　満足度	―
担当研究員数	2人
展覧会の内容	「縄文の女神」は、その優美かつ圧倒的な造形力に加え、現存する立像土偶では日本最大の土偶である。この土偶が発見された山形県舟形町西ノ前遺跡では、この他にも大小さまざまな土偶残欠47個がともに出土していて、そのうち41個をあわせて公開した。また本展では、これら土偶のもつ造形的な魅力を存分に楽しんでいただくため、山形県内の企業が力を合わせ、最新の技術を用いて「博物館向次世代展示ケース」を開発した。
講演会等	

展覧会名	**特別展「生誕150年 黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」**
会　　期	28年3月23日（水）～5月15日（日）（50日間）
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、東京文化財研究所、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション
協　　賛	大あいおいニッセイ同和損保、エールフランス航空／KLMオランダ航空日本印刷
協　　力	エア インディア
作品件数	240件
来館者数	182,353人（目標100,000人、達成率：182.4%）
入場料金	一般1400円(1200円／1100円)、大学生1000円(800円／700円)、高校生800円(600円／500円)、中学生以下無料、＊（ ）内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	89.6%
担当研究員数	2人
展覧会の内容	日本美術の近代化のために力を尽くした黒田清輝（1866-1924）の生誕150年を記念した大回顧展。フランスで油絵を学んだ黒田の印象派風の明るい光の表現を取り入れた画風は、日本の洋画界に新風を吹き入れた。また、黒田は東京美術学校で教育を任され、日本洋画のアカデミズムを築いた。この展覧会では師コランやミレーなど、黒田がフランスで出会い導かれた作品を合わせて展示しながら、留学時代の「読書」「婦人像（厨房）」や帰国後の「舞妓」「智・感・情」などの代表作によって、黒田清輝の画業全体を振り返った。
講演会等	「黒田清輝の画業―美術で社会を変える試み」講師：山梨　絵美子（東京文化財研究所企画情報部部長）　平成館大講堂　3月26日（土）288名。「黒田清輝とフランス―日本近代絵画にもたらしたもの」講師：三浦　篤（東京大学教授）平成館大講堂　4月16日（土）261名

展覧会名	**特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」**
会　　期	4月12日（火）～6月19日（日）（61日間）
会　　場	表慶館
主　　催	東京国立博物館、アフガニスタン・イスラム共和国情報文化省、産経新聞、フジテレビジョン
特別協力	文化庁、東京文化財研究所、文化財保護・芸術研究助成財団、日本・アフガニスタン協会
協　　賛	ダイハツ工業、ヤマザキナビスコ
協　　力	ナショナル・ジオグラフィック、日本通運、損害保険ジャパン日本興亜、大伸社、Galaxy
作品件数	246件
来館者数	154,875名（目標70,000人、達成率：221.3%）
入場料金	一般1400円(1200円／1100円)、大学生1000円(800円／700円)、高校生600円(400円／300円) 中学生以下無料。（ ）内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	87.3%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	アフガニスタンは、古くから『文明の十字路』として栄え、シルクロードの拠点として発展した。その北部に点在する古代遺跡で発掘された貴重な文化財は、1979年のソ連軍による介入時に秘密裏に保管された。本展は、この秘宝の再発見を契機に、アフガニスタンの文化遺産復興を支援するために企画された古代アフガニスタンの歴史と文化を紹介する国際巡回展である。日本展では、平山郁夫氏らの呼びかけにより日本で「文化財難民」として保護・保管され、この機にアフガニスタンに返還されることとなったアフガニスタンからの流出文化財の中から15件も出品された。

講演会等	「私とアフガニスタン」講師：松浪　健四郎（日本体育大学理事長）平成館大講堂　4月17日（日）199名。「バクトリアの秘宝を語る」講師：前田　耕作（アフガニスタン文化研究所長／和光大学名誉教授）平成館大講堂　4月23日（土）390名。「世界遺産を護れ！―迫る危機をのりこえて―」講師：井上　洋一（東京国立博物館学芸企画部長）平成館大講堂　5月28日（土）287名。

展覧会名	海外展「韓日国宝半跏思惟像の出会い」
会　　期	5月24日（火）～6月12日（日））（18日間）
会　　場	韓国・国立中央博物館
主催	韓国国立中央博物館、日韓半跏思惟像展示実行委員会、東京国立博物館
作品件数	2件
担当研究員数	3人
来館者数	46,801人
展覧会の内容： 半跏思惟像は、仏教の母国・インドにはじまり、中国、朝鮮半島、日本へと伝わった。日本や朝鮮半島では6世紀から8世紀の間に多くの像がつくられ、奈良の中宮寺門跡に伝わる国宝の半跏思惟像はその代表作である。また、韓国国立中央博物館所蔵の銅製の半跏思惟像は、国宝78号像として広く親しまれている。日本と韓国に同じ姿の優れた仏像が残るのは、両国の古代から続く交流の深さを物語るといえる。この展覧会は2体の半跏思惟像を同時に展覧し、日本と韓国の仏像の美を堪能するまたとない機会となった。なお、本展覧会は東京国立博物館と韓国中央博物館で開催した。	
講演会等：なし	

展覧会名	日韓国交正常化50周年記念　特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」
会　　期	6月21日（火）～7月10日（日）（20日間）
会　　場	本館特別5室
主　　催	日韓半跏思惟像展示実行委員会、東京国立博物館、韓国国立中央博物館、NHK
後　　援	―
協　　賛	外務省、文化庁
協　　力	―
作品件数	2件
来館者数	78,562名
入場料金	一般1000円(900円)、大学生700円(600円)、高校生400円(300円)中学生以下無料　＊(　)内は前売りおよび20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	80.6%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	半跏思惟像は、仏教の母国・インドにはじまり、中国、朝鮮半島、日本へと伝わりました。日本や朝鮮半島では6世紀から8世紀の間に多くの像がつくられ、奈良の中宮寺門跡に伝わる国宝の半跏思惟像はその代表作である。また、韓国国立中央博物館所蔵の銅製の半跏思惟像は、国宝78号像として広く親しまれている。日本と韓国に同じ姿の優れた仏像が残るのは、両国の古代から続く交流の深さを物語るといえる。この展覧会は2体の半跏思惟像を同時に展覧し、日本と韓国の仏像の美を堪能するまたとない機会となった。なお、本展覧会は東京国立博物館と韓国中央博物館で開催した。
講演会等	なし

展覧会名	特別展「古代ギリシャ―時空を越えた旅―」
会　　期	6月21日（火）～9月19日（月）（80日間）
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、ギリシャ共和国文化・スポーツ省、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション
企画協力	東映
協　　賛	あいおいニッセイ同和損保、竹中工務店、日本写真印刷、三菱商事
後　　援	外務省、駐日ギリシャ大使館
作品件数	325件
来館者数	199,567名（目標200,000人、達成率：99.8%）
入場料金	一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)※中学生以下無料 ※(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	83.4%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	ギリシャには時代や地域によりさまざまな美術が花開いた。本展はギリシャ国内40か所以上の国立博物館群から厳選された300件を超える古代ギリシャの貴重な作品を展示する日本でかつてない規模の試みとなった。青きエーゲ海の美しい島々からはじまるギリシャ最古のエーゲ海文明からヘレニズム時代まで、西洋文化の源である古代ギリシャ文明の黎明から最盛期に至るその壮大な歴史の流れを総合的に紹介した。
講演会等	「ギリシャ美術を巡る旅　―神々と人間の出会うところ―」講師：芳賀　京子（東北大学 准教授／本展監修者）平成館大講堂　6月25日（土）328名。ギャラリートーク「動物」・白井克也(考古室長）平成館大講堂7月25日（月）130名。「人のかたち」・白井克也(考古室長）平成館大講堂7月25日（月）　140名。「古代オリンピック」・瀬谷愛(保存修復室主任研究員）平成館大講堂7月25日（月）110名。ギャラリートーク「パルテノン神殿」・瀬谷愛(保存修復室主任研究員）平成館大講堂7月25日（月）75名。「古代ギリシャナイトミュージアム」藤村シシン(作家・古代ギリシャ研究家）　白井克也（考古室長）371名。

展覧会名	特別展「平安の秘仏ー滋賀・檜野寺の大観音とみほとけたち」
会　　期	9月13日(火)～29年1月9日（日）(96日間)
会　　場	本館特別5室

主　　催	東京国立博物館、櫟野寺、読売新聞社
後　　援	TBSラジオ
協　　賛	日本写真印刷
協　　力	日本通運
作品件数	20件
来館者数	212,144名（目標80,000人、達成率：265.2%）
入場料金	一般1000円(900円)、大学生700円(600円)、高校生400円(300円)、中学生以下無料、(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	90.6%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	滋賀県甲賀市に所在する天台宗の古刹、櫟野寺には重要文化財に指定される平安時代の仏像が20体伝来する。本展覧会は、それらが揃って寺外で見られる初めての機会となった。本尊の十一面観音菩薩坐像は像高が3mもある圧巻の作品で、普段は大きく重い扉に閉ざされる秘仏である。他に像高2.2mの薬師如来坐像、11体の観音立像、坂上田村麻呂にまつわる毘沙門天立像、文治3年（1187）に造られたことが知られる地蔵菩薩坐像なども出品され、櫟野寺に伝わる平安彫刻の全貌を紹介した。
講演会等	「滋賀・櫟野寺の仏像をめぐって」講師：丸山士郎（東京国立博物館特別展室長）　平成館大講堂　10月15日（土）362名。

展覧会名	**臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展「禅―心をかたちに―」**
会　　期	10月18日（火）～11月27日（日）（36日間）
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、BSジャパン
特別協賛	
協　　賛	損保ジャパン日本興亜、東レ、トヨタ自動車、日本写真印刷、日本ロレックス
協　　力	大光電機、三菱レイヨン
作品件数	239件
来館者数	133,629名（目標90,000人、達成率：148.5%）
入場料金	一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)、中学生以下無料。(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	85.4%
担当研究員数	4名
展覧会の内容	臨済宗・黄檗宗の源流に位置する臨済義玄禅師の1150年遠諱、ならびに日本臨済宗中興の祖、白隠慧鶴禅師の250年遠諱を記念して開催した。臨済・黄檗両宗十五派の全面的な協力のもと、各本山や末寺、塔頭に伝わる高僧の肖像や墨蹟、仏像、絵画、工芸など、国宝22件、重要文化財102件を含む約240件の多彩な名宝を通じて、禅の真髄に触れていただき、禅僧たちの足跡や禅の教えが日本文化に果たしてきた役割を紹介した。
講演会等	「禅の美術」講師：救仁郷秀明（列品管理課長）平成館大講堂　10月29日（土）340名。「禅寺の四ツ頭茶礼」講師：臨済宗大本山建長寺 禅文化委員会/三笠景子（東洋室主任研究員）　平成館大講堂　11月12日（土）380名。「禅トーク」10月19日（水）492名、10月28日（金）553名、11月5日（土）275名、11月9日（水）154名、11月24日（木）168名。「写禅語」10月19日（水）128名、10月28日（金）124名、11月3日（木）134名、11月5日（土）342名、1月9日（水）293名、1月24日（木）394名 。トークイベント「雪舟 vs 白隠 達磨図に迫る」平成館大講堂　11月3日（木）355名。尺八コンサート「吹禅(すいぜん)のひびき」平成館大講堂　11月5日（土）370名。「坐禅会」11月6日（日）201名。

展覧会名	**海外展「15－19世紀日中韓絵画精品展」**
会　　期	11月5日（土）～12月18日（日）（44日間）
会　　場	中国・中国国家博物館
主　　催	中国国家博物院、東京国立博物館、韓国国立中央博物館
作品件数	52件（うち東京国立博物館18件）
担当研究員数	3人
来館者数	42,153人
展覧会の内容： 本展覧会は、中国、日本、韓国の3つの国の国立博物館が合同で実施する第2回目の国際共同企画展である。今回は3ヶ国の15－19世紀を代表する絵画名品をテーマとし、中国は国家博物館、日本は東京国立博物館、韓国は国立中央博物館の所蔵品から出品した。各館の絵画コレクションから文人絵画、風俗絵画、仏画を精選し、中国の明清時代、日本の室町、江戸、明治時代、そして韓国の朝鮮王朝中後期の絵画芸術を中心に紹介した。	
講演会等：なし	

展覧会名	**海外展「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」**
会　　期	12月10日（土）～2017年3月10日（金）（73日間）
会　　場	台北・國立故宮博物院南院
主　　催	台北・國立故宮博物院南院、東京国立博物館、九州国立博物館
作品件数	151件
担当研究員数	3人
来館者数	93,391人
展覧会の内容： 東京国立博物館と九州国立博物館日本の収蔵品からの国宝、重要文化財68点を含む151点の優品を、「祭祀と生活」・「皇権と佛法」・「貴族の世界」・「武家の文化」・「市民の創造」、及び「伝承と創造」の6章に分けて展示し、約5000年にわたる豊富で多様な日本の芸術文化を紹介した	
講演会等：なし	

展覧会名	**特別展「春日大社　千年の至宝」**
会　　期	平成29年1月17日（火）～3月12日（日）（48日間）

会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、春日大社、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社
特別協賛	―
協　　賛	岡村印刷工業
協　　力	―
作品件数	250件
来館者数	209,572人（目標120,000人、達成率：174.6%）
入場料金	一般1600円(1400円/1300円)、大学生1200円(1000円/900円)、高校生900円(700円/600円)、中学生以下無料、(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	91.2%
担当研究員数	4名
展覧会の内容	春日大社では「式年造替」と呼ばれる社殿の建て替えや修繕が約20年に1度行われ、平成28年（2016）には60回目を迎えた。本展は、この大きな節目に、春日大社に伝来し、社外では拝観できない古神宝の数々とともに、春日の神々への祈りが込められた選りすぐりの名品を展観した。「平安の正倉院」と呼ばれる春日大社に伝来した王朝の精華を伝える古神宝類、祈りを込め奉納された甲冑や刀剣、聖地・春日野や神々の姿を表わした絵画や彫刻などが一堂に会した。
講演会等	記念講演会「春日の歴史と神様にささげた究極の宝」講師：花山院弘匡（春日大社宮司）　平成館大講堂　2月12日（日）。イベント「南都楽所の演奏会」平成館大講堂　1月25日。トークイベント「奈良と春日大社の魅力」　講師：さだまさし（シンガーソングライター・小説家）・花山院弘匡（春日大社宮司）　平成館大講堂　2月9日（木）

《独立行政法人国立文化財機構主催》

展覧会名	**海外展「菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝展」**
会　　期	5月11日（水）～7月10日（日）（61日間）
会　　場	中国・上海博物館
主　　催	中国・上海博物館、醍醐寺、独立行政法人国立文化財機構
作品件数	67件
担当研究員数	4人
来館者数	349,375人
展覧会の内容： 醍醐寺は空海の孫弟子である聖宝（理源大師）（832－909）が、貞観16（874）年に笠取山山上に仏像を安置したことに始まる。延喜7（907）年に醍醐天皇の願によって本格的な造営が始まり、その後近世に至るまで多くの作品がつくられ、いまも文書を中心に約15万点の文化財が残る。本展覧会では、草創期から近世にいたる作品を展示して醍醐寺の歴史と美術を紹介した。	
講演会等：なし	

展覧会名	**海外展「梵音東渡 - 日本醍醐寺国宝展」**
会　　期	7月27日(水)～9月20日（火）（56日間）
会　　場	中国・陝西歴史博物館
主　　催	中国・陝西歴史博物館、醍醐寺、独立行政法人国立文化財機構
作品件数	65件
担当研究員数	4人
来館者数	400,800人（推計）
展覧会の内容： 醍醐寺は空海の孫弟子である聖宝（理源大師）（832－909）が、貞観16（874）年に笠取山山上に仏像を安置したことに始まる。延喜7（907）年に醍醐天皇の願によって本格的な造営が始まり、その後近世に至るまで多くの作品がつくられ、いまも文書を中心に約15万点の文化財が残る。本展覧会は、草創期から近世にいたる作品を展示して醍醐寺の歴史と美術を紹介した。	
講演会等：なし	

【京都国立博物館】

(1)平常展(名品ギャラリー)

①開館日数　309日(名品ギャラリーのみ開館日数：178日、特別展（禅展）のみ開館日数：36日、名品ギャラリー（3階）と特別展（坂本龍馬）開館日数：38日、庭園のみ開館日数：57日)
②展示総件数　1,068件
③展示替件数　943件
④入場料金　一般520円、大学生260円　※庭園のみ開館時は、一般260円
⑤特集陳列等：全9件

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特集陳列	徳川家康没後400年記念 徳川将軍家と京都の寺社―知恩院を中心に―	6月14日～7月18日	21件(重要文化財3件)
特集陳列	丹後の仏教美術	7月26日～9月11日	36件(重要文化財4件、重要美術品1件)
特集陳列	生誕300年 与謝蕪村	8月23日～10月2日	15件（重要文化財3件、重要美術品2件）
特集陳列	絵付けの美　長崎・亀山焼	10月15日～11月27日	42件
特集陳列	とりづくし―干支を愛でる―	12月13日～29年1月15日	17件（重要文化財4件、重要美術品1件）
特集陳列	生誕300年 伊藤若冲	12月13日～29年1月15日	28件
特集陳列	皇室の御寺　泉涌寺	12月13日～29年2月5日	41件（国宝1件、重要文化財12件）
特別公開	修理完成記念　鳥取・三佛寺の蔵王権現立像	29年1月17日～2月19日	1件(重要文化財1件)
特集陳列	雛まつりと人形	29年2月18日～3月20日	47件

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	特別展覧会「禅―心をかたちに―」
会　　期	4月12日～5月22日（36日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、臨済宗黄檗宗連合各派合議所、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞
協　　賛	損保ジャパン日本興亜、東レ、トヨタ自動車、日本写真印刷、みずほ銀行
協　　力	岩谷産業、松栄堂
作品件数	305件（うち国宝19件、重要文化財104件、重要美術品1件）
来館者数	88,228人（目標来館者数70,000人・達成率126.1%）
入場料金	一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円
アンケート結果　満足度	満足度78.1%
講演会等	・記念講演会 4月16日「禅における＜心＞のかたち」花園大学国際禅学研究所　所長　野口善敬氏 ・講演会 4月24日「禅と水墨画　雪舟と白隠を中心として」明治学院大学教授　山下裕二氏、臨済宗妙心寺派龍雲寺住職　細川晋輔氏 ・関連土曜講座 4月23日「禅画と墨蹟―近世の禅林美術―」花園大学文学部教授　福島恒徳氏 4月30日「頂相彫刻の特質」東京国立博物館学芸企画部企画課長　浅見龍介氏 5月7日「仏師の古文書」京都国立博物館学芸部保存修理指導室主任研究員　羽田聡 5月14日「喫茶の広まりと寺院」京都国立博物館連携協力室(兼)工芸室研究員　降矢哲男 5月21日「画僧の系譜―明兆から雪村まで―」京都国立博物館学芸部長　山本英男 ・その他イベント 5月3日「四頭茶会－禅院の茶礼」 4月29日、5月8日「声明－禅の祈り」 5月15日　狂言「にせ地蔵/でんでん虫」 4月17日、4月21日、5月1日、5月5日、5月12日、5月19日　座禅会 毎週火曜日、回収金曜日　ロビー講話

展覧会名	特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」
会　　期	10月15日～11月27日（38日間）
会　　場	平成知新館　2階・1階
主　　催	京都国立博物館、読売新聞社、読売テレビ
協　　賛	清水建設、大和ハウス工業、野崎印刷紙業、パナソニック、非破壊検査
協　　力	日本香堂
作品件数	186件（うち重要文化財1件）
来館者数	98,533人（目標来館者数60,000人・達成率164.2%）
入場料金	一般1,300円、大学生1,100円、高校生800円
アンケート結果　満足度	満足度78.2%
講演会等	・土曜講座 10月15日「坂本龍馬の手紙を読む」京都国立博物館学芸部上席研究員(兼)列貧寒室長　宮川禎一　※ミュージアムズ・フォー関連講座 10月22日「坂本龍馬の愛刀と幕末の刀剣事情」東京国立博物館学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員　末兼俊彦氏 10月29日「龍馬と坂本家」高知県立坂本龍馬記念館　学芸課長　前田由紀枝氏 11月5日「龍馬と薩長盟約」佛教大学　歴史学部教授　青山忠正氏 11月19日「パークス事件と残された刀」京都国立博物館学芸部上席研究員(兼)列品管理室長　宮川禎一 11月26日「対談：林市郎右衛門と龍馬」NPO法人　京都龍馬会理事長　赤尾博章氏、京都国立博物館学芸部上席研究員(兼)列品管理室長　宮川禎一 ・その他イベント 11月3日　特別トークショー　刀剣乱舞-ONLINE-原作プロデューサー小坂崇氣氏、東京国立博物館学芸研究部列品管理課平常展調整室　末兼俊彦氏 11月15日　「月琴コンサート」長崎検番　琴音氏

【奈良国立博物館】

(1)名品展（平常展）

①開館日数：321日(名品展のみの開館日数：212日)
②展示総件数：664件
③展示替件数：427件
④入場料金：一般　520円　大学生　260円
⑤特別陳列等：全129件
名品展
珠玉の仏たち（なら仏像館）136件
珠玉の仏教美術（西新館）278件
特集展示「新たに修理された文化財」（西新館）13件
中国古代青銅器（青銅器館）237件

特別陳列

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別陳列	和紙―近代和紙の誕生―	6月7日～7月3日	20件（重要文化財2件）
特別陳列	おん祭と春日信仰の美術―特集　奈良奉行所のかかわり―	12月10日～29年1月15日	40件
特別陳列	お水取り	29年2月7日～3月14日	69件（重要文化財20件）

(2)特別展、共催展等

展覧会名	**特別展「国宝 信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－」**
会　　期	4月9日(土)～5月22日(日)（39日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、総本山朝護孫子寺、読売新聞社
特別協賛	－
協　　賛	岩谷産業、非破壊検査
特別協力	－
協　　力	信貴山観光協会、日本香堂、仏教美術協会
作品件数	78件（うち国宝8件、重要文化財16件）
来館者数	55,198人(目標来館者数50,000人・達成率110.4%)
入場料金	一般1,300円、高校・大学生900円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	91.6%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	信貴山朝護孫子寺に対する篤い信仰のもとに制作された平安絵巻の傑作・信貴山縁起絵巻の全貌を一堂に紹介する展覧会。会期中、山崎長者巻、延喜加持巻、尼公巻の全三巻全場面を同時公開する史上初の試みとなる。併せて、朝護孫子寺の寺宝及び寺外の関連文化財の数々を展示することで、信貴山毘沙門天王への信仰が生み出した造形の魅力も紹介する。
講演会等	○公開講座 3回　参加者数合計　559人 4月23日(土)「後白河法皇の信仰世界－神仏との交歓－」横内裕人（京都府立大学准教授）/ 参加者数　171人 5月 7日(土)「信貴山縁起絵巻と朝護孫子寺の毘沙門天王信仰」谷口耕生（教育室長）/ 参加者数　194人 5月21日(土)「信貴山縁起絵巻について」梶谷亮治（奈良県学芸統括参与）/ 参加者数　194人 ○朝護孫子寺による講話 3回　参加者数合計　421人 4月22日(金)「毘沙門天王信仰の欲と徳」鈴木貴晶（成福院貫主）/ 参加者数　150人 5月10日(火)「信貴山の毘沙門天王」田中眞瑞（千手院貫主）/ 参加者数　130人 5月12日(木)「福の神様　毘沙門天王」野澤密孝（玉蔵院貫主）/ 参加者数　141人 ○展覧会関連イベント 1回　参加者数合計　105人 4月30日(土)親と子のワークショップ「『空とぶ鉢』のおはなし絵巻を作ろう！」/ 参加者数　105人

展覧会名	**生誕800年記念特別展「忍性　―救済に捧げた生涯―」**
会　　期	7月23日(土)～9月19日(月・祝)（53日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、読売テレビ、読売新聞社
特別協賛	－
協　　賛	－
特別協力	極楽寺（鎌倉）、真言律宗総本山西大寺、神奈川県立金沢文庫
協　　力	凸版印刷、キヤノン、浄土寺（三宅町）、奈良芸術短期大学、奈良教育大学、日本香堂、仏教美術協会
作品件数	118件（うち国宝18件、重要文化財35件）
来館者数	39,834人(目標来館者数30,000人・達成率132.8%)
入場料金	一般1,300円、高校・大学生900円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	92.6%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	奈良生まれの名僧、忍性。鎌倉時代、西大寺の叡尊を師として律宗の興隆に努め、後半生は鎌倉の極楽寺で戒律の復興と救済事業に奔走した。病人や貧者の宿所を作り、食事を与えて命を救い、文殊菩薩を奉じて心の支えとした。ハンセン病患者を背負って毎日町に通ったという話は有名である。本展では忍性の生誕八百年を期に、ゆかりの寺院の名宝・文化財を一堂に集め、その偉業を振り返る。
講演会等	○公開講座 3回　参加者数合計　527人 8月 6日(土)「日本仏教史上における忍性－鎌倉版マザー・テレサ」松尾剛次（山形大学人文学部教授）/ 参加者数　194人 8月27日(土)「忍性と極楽寺の仏像」山口隆介（研究員）/ 参加者数　155人 9月10日(土)「三つの忍性墓について」吉澤 悟（列品室長）/ 参加者数　178人 ○夏季講座 1回　参加者数合計　555人 8月17日（水）～19日（金）夏季講座「律宗の歴史と美術－鑑真から忍性へ」/ 参加者数　555人 ○展覧会関連イベント 2回　参加者数合計　127人 7月30日(土)「描いて飾ろう文殊菩薩～忍性のきもちになって～」/ 参加者数　69人 7月31日(日)「きく！みる！ふれる！東征伝絵巻」石田太一（唐招提寺副執事長）/ 参加者数　58人

展覧会名	第68回正倉院展
会　　期	10月22日（土）～11月7日（月）（17日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館
特別協賛	―
協　　賛	岩谷産業、ＮＴＴ西日本、キヤノン、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、ＪＲ東海、ＪＲ西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管
特別協力	読売新聞社
協　　力	ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房、読売テレビ
作品件数	64件
来館者数	208,614人(目標来館者数180,000人・達成率115.9%)
入場料金	一般1,100円、高校・大学生700円、小・中学生400円
アンケート結果　満足度	74.9%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	8世紀の東アジア文化の至宝である正倉院宝物64件を公開する。
講演会等	○公開講座 3回　参加者数合計　348人 10月22日(土)「正倉院宝物の平脱・平文」木村法光（元宮内庁正倉院事務所保存課長）/ 参加者数　112人 10月29日(土)「正倉院に納められた銭貨をめぐって」細川晋太郎（宮内庁正倉院事務所保存課調査室研究員）/ 参加者数　119人 11月 5日(土)「正倉院の荘厳具―大幡に寄せて―」清水 健（工芸考古室長）/ 参加者数　117人 ○シンポジウム 1回　参加者数合計　197人 11月3日（木・祝）正倉院学術シンポジウム2016「正倉院正倉」/ 参加者数　197人

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①開館日数：311 日(うち平常展のみ開館日数 108 日)
②展示総件数：2,208 件(うち国宝 63 件、重要文化財 204 件)
③展示替件数：1,654 件
④入場料金：一般 430 円、大学生 130 円
⑤トピック展示・特別公開等：全 6 件

展示名称	トピック展示　火縄銃の世界				
開催期間	7 月 12 日(火)～ 9 月 4 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	28 件
内容	国友、堺、薩摩など鉄砲産地の火縄銃や江戸時代初期に鋳造された石火矢、各地の中世遺跡出土の火縄銃関連遺物を紹介した。				
展示名称	トピック展示　全国高等学校考古名品展				
開催期間	7 月 20 日(水)～ 9 月 25 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 3 室	陳列件数（うち指定品件数）	55 件
内容	秋田、千葉、徳島など全国各地の高等学校 8 校が所有する考古資料を、平成 26 年度に続く第 2 弾として紹介した。				
展示名称	トピック展示　有田焼創業 400 年記念　古伊万里 ―旧家の暮らしを彩った器―				
開催期間	9 月 14 日(水)～ 11 月 6 日(日)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室 5 テーマ、 第 10 室・11 室	陳列件数（うち指定品件数）	116 件（うち重文 1 件）
内容	有田焼創業 400 年を記念し、公家、大名家、豪商に伝来する古伊万里と、その流通に関る歴史資料や出土資料を紹介した。				
展示名称	海の王都・原の辻遺跡と壱岐の至宝 ―東アジア諸国との交流の歴史				
開催期間	10 月 11 日(火)～ 12 月 4 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 3 室	陳列件数（うち指定品件数）	73 件（うち重文 63 件）
内容	原の辻遺跡などから出土した作品を中心に、海上交通の拠点として大きな役割を果たしてきた壱岐の文化財を公開した。				
展示名称	きらめきで飾る―螺鈿の優品をあつめて―				
開催期間	11 月 15 日（火）～ 12 月 23 日（金）	開催場所	文化交流展示室 基本展示室 5 テーマ、第 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	77 件(うち国宝 2 件、重文 8 件)
内容	中国、朝鮮半島、日本、琉球で制作された螺鈿の優品を公開した。				
展示名称	新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」				
開催期間	29 年 1 月 1 日(日・祝日)～ 1 月 29 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	40 件（うち国宝 3 件）
内容	恒例企画。徳川美術館が所蔵する国宝「初音の調度」を紹介するほか、野々宮蒔絵硯箱や南部家伝来の婚礼調度を併せて公開。				

(2) 特別展、共催展等（海外展を含む）

展覧会名	特別展「始皇帝と大兵馬俑」
会　　期	3 月 15 日～6 月 12 日（79 日間（年度では 63 日））
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、陝西省文物局、陝西省文物交流中心、NHK 福岡放送局、NHK プラネット九州、西日本新聞社、朝日新聞社
作品件数	124 件
来館者数	191,222 人（目標来館者数 110,000 人、達成率：173.8%）
入場料金	一般 1,600 円（1,400 円）、高大生 1,000 円（800 円）、小中生 600 円（400 円）

アンケート結果　満足度	満足度　87.6%			
講演会等	12回　参加者合計　763,638人			
	記念講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	5月15日	記念講演会「はじめての兵馬俑」	東京国立博物館 市元塁	184人
	講座			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	4月15日	しっとこ九博 「始皇帝と大兵馬俑」解説講座	東京国立博物館学芸企画部企画課　市元塁	78人
	5月14日	アクロス文化学び塾 「徹底分析　始皇帝と兵馬俑」	学芸部企画課主任研究員　川村佳男	69人
	6月5日	講演会「始皇帝の考古学」	学芸部企画課主任研究員　川村佳男	140人
	イベント			
	期日	イベント名	会場	参加者
	3月15日 ～ 6月12日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 「兵馬俑トリックアート」	エントランス	318,485人
	3月27日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント Ｅテレ「びじゅチューン！井上涼×兵馬俑」	ミュージアムホール	482人
	3月29日 ～ 4月28日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 山手線キングダム展（前期）	エントランス	76,807人
	4月1日～ 4月10日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 「8Kスーパーハイビジョン上映会」	ミュージアムホール	7,031人
	4月17日	九州国立博物館杯第５回さいふごま大会　「始皇帝と大兵馬俑」記念 ※熊本地震により中止	ミュージアムホール	―
	4月24日 ～ 6月12日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連パネル展示 「始皇帝の街道を行く」	エントランス	204,938人
	5月5日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連ワークショップ こどもの日特別企画「紙で工作！兵馬俑に変身！」	ミュージアムホール	167人
	5月6日～ 6月12日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連イベント 山手線キングダム展（後期）	エントランス	155,257人

展覧会名	**特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」**
会　　期	７月 16 日～8 月 28 日（39 日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ 九州放送、日本経済新聞社
作品件数	84 件
来館者数	133,002 人（目標来館者数 70,000 人、達成率：190%）
入場料金	一般 1,600 円（1,400 円）、高大生 1,000 円（800 円）、小中生 600 円（400 円）

アンケート結果　満足度	満足度　94.2%			
講演会等	4回　参加者合計　876人			
	記念講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	７月16日	記念講演会「東山魁夷の生涯と芸術」	茨城県近代美術館長　尾崎正明	211人
	講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	8月5日	しっとこ九博「東山魁夷　自然と人、そして町」解説講座	学芸部特任研究員　臺信祐爾	35人
	イベント			
	期日	イベント名	会場	参加者
	７月30日	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」関連イベント 記念映像上映会＆トーク 「東山魁夷　山雲濤声～唐招提寺障壁画の記録～」	ミュージアムホール	280人
	8月11日	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」関連イベント ミュージアムコンサート「東山魁夷が愛したモーツァルト」	エントランス	350人

展覧会名	**特別展「京都 高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―」**
会　　期	10 月 4 日（火）～11 月 20 日（日）（45 日間）

会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、高山寺、西日本新聞社、TVQ 九州放送、朝日新聞社
作品件数	94 件(うち、国宝 7 件、重要文化財 50 件)
来館者数	161,172 人（目標来館者数 120,000 人、達成率：134.3%）
入場料金	一般 1,600 円（1,400 円）、高大生 1,000 円（800 円）、小中生 600 円（400 円）
アンケート結果　満足度	78.8%

講演会等

6回　参加者合計1,042人

特別講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
10月9日	「鳥獣人物戯画の謎」	学習院大学教授　佐野みどり	235人

講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
10月14日	しっとこ九博 「京都 高山寺と明恵上人」	学芸部企画課主任研究員 森實久美子	71人
10月16日	「京都 高山寺と明恵上人の魅力」	企画課文化交流展室研究員 森實久美子	156人

イベント等

期日	イベント名		参加者
8月7日	第２回みゅーじあむ寄席「夢で会いましょう」」 出演：柳家喬太郎（落語家）、森實久美子（学芸部企画課主任研究員）	ミュージアムホール	283人
10月2日	（京都　高山寺と明恵上人記念）プレイベント 九州国立博物館杯第5回さいぶごま大会	ミュージアムホール	60人
10月15日	「能「春日龍神」と明恵上人」出演：塩津圭介（能楽師）、森實久美子（学芸部企画課主任研究員）	ミュージアムホール	237人

展覧会名	**海外展「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」【再掲】**
会　　期	12月10日（土）～29年3月10日（金）（73日間）
会　　場	台北・國立故宮博物院南院
主　　催	台北・國立故宮博物院南院、東京国立博物館、九州国立博物館
作品件数	151件
担当研究員数	3人
来館者数	93,391人

展覧会の内容：

東京国立博物館と九州国立博物館日本の収蔵品からの国宝、重要文化財68点を含む151点の優品を、「祭祀と生活」・「皇権と佛法」・「貴族の世界」・「武家の文化」・「市民の創造」、及び「伝承と創造」の６章に分けて展示し、約5000年にわたる豊富で多様な日本の芸術文化を紹介した

講演会等：なし

展覧会名	**特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」**
会　　期	29 年 1 月 1 日～3 月 5 日（56 日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、宗像大社、西日本新聞社、TVQ 九州放送、日本経済新聞社、朝日新聞社
作品件数	160 件(うち、国宝 31 件、重要文化財 19 件)
来館者数	75,966 人（目標来館者数 40,000 人、達成率：189.9%）
入場料金	一般 1,500 円（1,300 円）、高大生 1,000 円（800 円）、小中生 600 円（400 円）
アンケート結果　満足度	82.9%

講演会等

8回　参加者合計　158,673人

記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
1月21日	「神宿る島と祈りの記憶-祭祀遺跡の発掘調査譚-」	福岡大学名誉教授　小田富士雄 国立慶州博物館長　ユ・ビョンハ	229人

講座

期日	講演会名	所属・講師	参加者
12月17日	九州国立博物館特別展入場券付きスペシャル講座 「玄界灘の覇者・宗像君の実像に迫る」	展示課研究員　小嶋　篤	16人
29年 1月13日	しっとこ九博 「宗像・沖ノ島と大和朝廷」解説講座	展示課研究員　小嶋　篤	46人
29年 2月4日	リレー講座 「交差する日本神話とアジアの歴史」	國學院大学教授　笹生　衛 展示課研究員　小嶋　篤	215人

イベント等

期日	イベント名	会場	参加者
29年1月1日 ～2月19日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連記念 「沖ノ島写真展」	エントランス	128,847人

	29年1月7日 ～1月9日	むなかたの幸　満福祭	エントランス／屋外	12,258人
	29年 １月22日	九州国立博物館杯第6回さいふごま大会 （「宗像・沖ノ島と大和朝廷」記念）	ミュージアムホール	70人
	29年2月7日 ～2月12日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」関連 「沖ノ島紹介パネル展」	エントランス	16,992人

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

①開館日数：310日（平常展のみの開館日数：186日）
②展示総件数：604件
③展示替回数：0回
④入場料金：無料
⑤平常展のみの来館者数：56,503人

(2)特別展、企画展等：3件

展覧会名	夏期企画展(こども展示)「ナント！おいしい！？平城京！！-奈良の都の食事情-」		
会　　期	7月23日（土）～8月31日（水）　(34日間)	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	70件（0件）
来館者数	9,532人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク 3回・参加者数合計62人		

展覧会名	秋期特別展「地下の正倉院展　式部省木簡の世界―役人の勤務評価と昇進―」		
会　　期	10月15日（土）～11月27日（日）　(39日間)	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	200件（0件）
来館者数	17,653人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク3回・参加者数合計183人		

展覧会名	春期企画展「発掘速報展 平城2016」		
会　　期	29年2月4日(土)～4月2日(日)（50日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	88件（0件）
来館者数	13585人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク4回・参加者数合計85人		

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：359日
②展示総件数：534件
③展示替回数：1回
④入場料金：無料
⑤特集陳列等　：2件
⑥平常展来館者数　：8378人

名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
【特集陳列】		
藤原宮大極殿院の調査（第186次）	6月28日～29年 3月31日	土器21、瓦4、塼仏1、凝灰岩片7
飛鳥地域出土の尾張産須恵器	6月28日～29年 3月31日	土器23

【飛鳥資料館】

(1)平常展

①開館日数：309日（平常展のみの開館日数：112日）
②展示総件数：136件
③展示替回数：2回
④入場料金：一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料　※（　）は20名以上の団体
⑤平常展のみの来館者数：8669人

(2)特別展、企画展等：4件

展覧会名	春期特別展「文化財を撮る―写真が遺す歴史」		
会　　期	4月26日（火）～7月3日（日）　(60日間)	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	15件（0件）
来館者数	9,974人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	講演会1回　参加者数合計36人		

展覧会名	平成28年度飛鳥資料館夏期企画展「第7回写真コンテスト 飛鳥の石」		
会　　期	7月26日（火）～ 9月4日（日）　（36日間）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	175件（0件）
来館者数	3,383人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円）　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	ー		

展覧会名	秋期特別展「祈りをこめた小塔」		
会　　期	10月7日（金）～12月4日（52日）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	125件（1件）
来館者数	9,373人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円）　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	ギャラリートーク1回、講演会1回　参加者数合計46人		

展覧会名	冬期企画展 「飛鳥の考古学2016ー飛鳥むかしむかし　早川和子原画展」		
会　　期	29年1月24日（火）～3月20日（月・祝）（49日）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	88件（0件）
来館者数	4571人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円）　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	ギャラリートーク2回　参加者数合計180人		

b ボランティア受入実績

1 受入人数

平成29年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
965人	169人	215人	150人	307人	124人

2 活動内容

【東京国立博物館】 計169人

種別 （登録人数）	概 要
生涯学習ボランティア （157人）	1)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 【教育普及事業の補助】 ・スクールプログラム「はじめての東博」実施（通年） ・学校向けワークショップ補助（通年） ・ファミリー向けワークショップ補助（通年） ・一般向けワークショップ補助（通年） ・工程見本展示鑑賞補助 （通年） ・ギャラリートーク、各種講演会、イベント事業の実施補助(通年) ・教育普及事業の告知(「本日の博物館」シール貼替え・通年) ・東洋館オアシス「アジアの占い体験」実施（通年） ・本館19室みどりのライオン体験コーナー実施（通年） 【保存修復事業の補助（通年）】 【館内案内】 ・本館 1階エントランス、2階、17室(通年実施) ・多言語案内・手話の告知バッジによる来館者の案内・誘導(通年) 【資料印刷・作成】 ・点字パンフレットの印刷（通年） ・東洋館オアシススタンプ台紙の印刷（通年） ・たんけんマップの作成・印刷（通年） 【職場体験実施活動補助】 受入数：19校 生徒数：63人 （中学、高校合計数） 【障がい者対応】 ・バリアフリー対応班の発足（28人） ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版作成(13冊) ・ボランティアによるガイドツアー「たてもの散歩」において手話通訳付ガイドツアー（隔月1回、7回実施） ・博物館案内・各ガイドにおける聴覚障がい者対応のためのコミュニケーションボードの使用（通年） ・触知図を使用した館内案内（通年） ・盲学校のためのスクールプログラムの実施補助（通年） 【各種連携事業】 ・「キッズデー」（8月15日）内プログラム アートスタジオ、刀剣・武士の装いツアー、考古展示室ガイド、キッズデー特設案内所、ワークショップ補助、キッズコーナー補助 ・「留学生の日」(10月8日)内プログラム ボランティアによる茶会、たてもの散歩ツアー、考古展示室ガイド、彫刻ガイド、陶磁ガイド、本館ハイライトツアー、英語ガイド実施、館内案内 ・「博物館でアジアの旅」(9月27日～10月10日)内プログラム たてもの散歩ツアー、彫刻ガイド、東洋館ツアー ・「博物館でお花見を」（平成28年4月1日～4月9日、平成29年3月14日～3月31日内プログラム） 樹木ツアー、本館ハイライトツアー、たてもの散歩ツアー、東洋館ツアー、英語ガイド、近代の美術ガイド、庭園茶室ツアー、法隆寺宝物館、刀剣・武士の装いツアー、アートスタジオ、陶磁ガイド、浮世絵ガイド、お茶会 【ボランティアデー開催】 ・新規ボランティア募集説明会、ボランティアによる活動紹介ツアー、各ガイドツアー、お茶会、ワークショップの実施（12月3・4日） 2)来館者参加型ガイドツアー等の実施369回14,187人 自主企画プログラム（予約ガイド、各種連携事業、留学生の日、ボランティアデーにおける対応を含む。一日複数回実施の場合は、延べ回数） ・樹木ツアー 25回839人参加 ・浮世絵ガイド 29回1,220人 ・本館ハイライトツアー 47回2,394人 ・法隆寺宝物館ガイド 32回1,511人 ・考古展示室ガイド 27回1,003人 ・陶磁ガイド 13回381人 ・庭園茶室ツアー 11回185人

種別 （登録人数）	概　要
	・お茶会　26回380人 ・彫刻ガイド　33回1,400人 ・英語ガイド　29回1,005人（留学生の日の定点ガイド含む） ・こどもたちのアートスタジオ　11回326人 ・たてもの散歩ツアー　29回1,268人 ・近代の美術ガイド　13回500人 ・東洋館ツアー　27回685人 ・刀剣・武士の装いツアー　13回908人 ・ボランティア活動紹介ツアー　4回182人
東京芸術大学大学院インターンシップ（12人）	当館研究員と東京芸術大学大学院生が連携し準備、事業を行った。学生の貴重な経験や研究の一助となり、かつ、来館者にとっても展示についての理解を深めるきっかけとなった。 【ギャラリートーク(研究発表)班】7名 総合文化展展示作品に関するギャラリートークを展示室で行った。【計42回、1690人】 「古代エジプトの秘密、ミイラ」6回、250人 「下村観山『弱法師』を読み解く」6回、291人 「法隆寺の押出仏」6回、151人 「英一蝶の『富士山図』を観よう」6回、242人 「奈良時代の乾漆像『日航菩薩坐像』に迫る！」6回、306人 「アイヌの飾太刀にみる祈りの造形」6回、173人 「『突線5式銅鐸』をじっくり見てみよう」6回、277人 【調査研究班】5名 沖縄の「紅型」をテーマに調査、工程見本の制作、次年度からの展示等準備を行った。 ※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「1（3）①3」大学との連携事業等の実施」の事業である。詳細は処理番号1313Aを参照。

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】　計38回
- ・新規ボランティア研修　3回
- ・活動紹介ツアー研修　8回
- ・バリアフリー班研修　8回
- ・イベント班研修　1回
- ・ワークショップ班研修　3回
- ・スクールプログラム班研修　8回
- ・保存修復班研修　1回
- ・各種自主企画グループ研修　5回
- ・防災訓練　1回

【生涯学習ボランティアに対する解説会の実施】（以下の展示等につき実施）　計5回
- ・特別展「生誕150年　黒田清輝-日本近代絵画の巨匠」1回
- ・特別展「古代ギリシャ　時空を超えた旅」1回
- ・特別展「平安の秘仏　滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」1回
- ・特別展「禅　心をかたちに」1回
- ・特別展「春日大社　千年の至宝」1回

【京都国立博物館】　計215人

種　別 （登録人数）	概　要
京博ナビゲーター（151人）	京博ナビゲーター（ボランティア）が、下記の活動を行った ・ミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動（年始を除く開館日毎日、197日） ・ミュージアム・カートに新しいハンズオン教材を追加した（銅鏡（復元鋳造）・玉眼（天部）） ・特別展覧会「禅－心をかたちに－」ワークショップ「”くじ”で出会う　禅の言葉」（36日、11,547人参加） ・特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」ワークショップ「龍馬さんからお手紙です！」（38日、8,725人参加） ・教育普及活動の補助（夏期講座） そのほか、京博ナビゲーターを対象とした研修会（14回）、感謝会（1回）を実施した。
調査・研究支援ボランティア(31人)	各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
文化財ソムリエ(17人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生が、当館研究員によるスクーリング（20回）を受けたのち、京都市内の小中学校訪問授業において下記の通り講師をつとめた。 6月7日・8日（京都市立洛北中学校）、7月6日（京都市立唐橋小学校）、9月6日（京都市立紫明小学校）、10月12日（京都市立洛西中学校）、10月25日（京都市立栗陵中学校）、11月29日（京都市立下鴨中学校）、12月14日（京都市立東山泉小中学校）
京都・らくご博物館学生ボランティア（16人）	年4回当館主催で開催する「京都・らくご博物館」において、京都女子大学落語研究会の有志が運営に協力した。

【奈良国立博物館】　計150人

種　別　(登録人数)	概　　要
世界遺産グループ（51人）	【世界遺産学習】 奈良市の公立小学校5年生の受け入れ　25校　1,542名 【学校団体案内】 ・幼稚園、小学生、中学生、高校生（外国人含む）　24校　1,701名 【自主企画イベント】 ・親子でたのしむ「なら仏像館」ツアー　2日　16組47名 ・東大寺大仏殿の柱の（実物大模型）穴くぐりにチャレンジ！ 2日　214名 ・仏像に変身して写真を撮りましょう！　2日　221名 【掃除】 ・スタッフルーム　3回
解説グループ(64人)	【通年の活動】 ・青銅器館のデスクでの質問対応と解説　　314日 ・地下回廊・パネル展示のデスクでの質問対応と解説　261日 ・なら仏像館のデスクでの質問対応と解説　　524日 ・西新館名品展のデスクでの質問対応と解説　101日 【展示案内】 ・なら仏像館ミニツアー解説　（12月1日～3月31日）　16回　49名（活動数） ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」の質問対応（12月10日～1月15日　32日　54名（活動数） ・特別陳列｢お水取り｣質問対応（2月７日～3月14日）34日　87名（活動数） ・特別陳列｢お水取り｣ミニ・ツアー解説（3月1日～3月14日）14日　24名（活動数） ・特別陳列｢お水取り｣奈良交通関係団体予約のツアー解説（3月1日～3月14日　13日38名（活動数） ・特別陳列｢お水取り｣上記以外の団体予約のツアー解説（3月1日～3月14日）2件 【その他、予約による解説実施】　24件 【中学生職場体験　館内案内】　　4件 【イベントの補助】 ・親と子のワークショップ「空飛ぶ鉢」のお話し絵巻を作ろう！　受付と補助　1回 【イベントの案内】 ・わいず倶楽部対象　なら仏像館解説付き小ツアー　1回 【掃除】 ・スタッフルーム　3回
サポートグループ（35人）	【教育普及事業の補助】 ・公開講座の受付　　11回 ・サンデートークの受付　12回 ・夏季講座の受付　　3日 【イベントの補助】 ・しぎとら君が奈良博にやってくる！　受付と補助　3回 ・親と子のワークショップ「空飛ぶ鉢」のお話絵巻を作ろう！」受付と補助　1回 ・朝護孫子寺による講話「毘沙門天王信仰の欲と徳」　受付と補助　1回 ・朝護孫子寺による講話「信貴山の毘沙門天王」　受付と補助　1回 ・朝護孫子寺による講話「福の神　毘沙門天王」　受付と補助　1回 ・描いて飾ろう文殊菩薩～忍性のきもちになって～」受付と補助　1回 ・「きく！みる！ふれる！東征伝絵巻（とうせいでんえまき）」受付と補助　1回 ・アンケート調査　受付と補助　6回 ・第68回正倉院展親子鑑賞会　受付と補助　1回 ・奈良トライアングルミュージアムワークショップ　写仏散華づくり　受付と補助　1回 ・｢文化財保存修理所特別公開｣受付と補助　1回 ・お水取り｢講話｣と「粥」の会　受付と補助　1回 ・奈良国立博物館文化大使｢笑い飯哲夫のおもしろ仏教講座｣受付と補助　1回 【イベントの案内】 ・奈良国立博物館プレミアム･ミュージアムビューイング　受付と案内　1回 【館及びボランティア室の業務の補助】 ・第45回夏季講座の配布資料袋詰め作業　1回 ・正倉院学術シンポジウムの配布資料袋詰め作業　1回 ・ボランティア対象の各種研修等の受付　24回 【掃除】 ・スタッフルーム　　4回 【交流チームの活動】 ・社寺旧跡等の見学会の実施　2回　186名（参加） ・第2回ボランティア親睦会　1回　116名（参加） 【庭園チームの活動】 ・春の庭園定点案内　2日（無料日につき､カウント不可） ・春の茶室庭園ツアーの立案と実施　2日　73名（参加） ・秋の茶室庭園ツアーの立案と実施　1日　30名（参加） ・仏教美術資料研究センター公開の立案と実施　2日　433名（参加） 【通信誌チームの活動】 ・ボランティア通信誌「ブリッジ」発行　5回

【ボランティアに対する研修の実施】　計23回
- ・名品展研修　17回
- ・特別展、特別陳列、特集展示の研修　6回

【グループ別の勉強会の実施】計38回
・世界遺産グループ　10回
・解説グループ　18回
・サポートグループ　10回
【各グループ共通の活動】
・第68回正倉院展・講堂ボランティア解説　17日　97回

【九州国立博物館】　計　307人

種　別　(登録人数)	概　　要
展示解説ボランティア (76人)	文化交流展示室での案内、及び展示室内及び展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。 展示案内は予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア (28人)	「あじっぱ」で来館者への対応。 参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内日本語ボランティア (30人)	館内の概要・施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 館内案内は予約団体(一般・学生)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーも毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
外国語案内ボランティア (71人)	英語・韓国語・中国語で、館内のガイド。
環境ボランティア (30人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
イベントボランティア (5人)	お正月、昭和の日、七夕関連のボランティアイベントの企画・立案・実施。
資料整理ボランティア (21人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎゃらでの郷土人形の企画展示。
サポートボランティア (18人)	ボランティア広報紙の作成（年４回）や他部会のボランティアのイベント等の活動のサポート。 ボランティア同士の横のつながりや、他館ボランティアとの交流の構築。
学生ボランティア (6人)	他部会のボランティアの活動のサポート。 各種イベントの企画・立案・実施。

・この他、地域の手話ボランティアグループ　22人が障がい者対応として、また博物館周辺の環境整備活動グループとして35人が活動。
（上記35名は、九州国立博物館を愛する会所属のため、ボランティアではない。）
(研修)全体研修　4回、部会別研修　40回、グループ研修　40回
(対応来館者数) 展示解説(7,028人)、館内案内(4,235人)、バックヤードツアー(2,730人)

【奈良文化財研究所】　計124人

種　別　(登録人数)	概　　要
解説ボランティア（124人）	平城京跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等
平城宮跡資料館夏期企画展の展示研修　1回
〃　　秋期特別展の展示研修　1回
〃　　春期企画展の展示研修　1回

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

平成29年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
357 人	127 人	73 人	2 人	9 人	43 人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	174 人	39 人		135 人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		文化財防災ネットワーク推進本部		
	52 人		4 人		

【東京国立博物館】延べ73人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	金　靖之	中国	上海博物館展覧部館員	日中文人絵画の比較研究のため	27 年 12 月 16 日～12 月 31 日
2	包　燕麗	中国	上海博物館工芸部主任研究館員	東京国立博物館開催「アジアの旅―上海博物館との競演」にかかる作品点検及び展示作業のため	4月6日～4月12日
3	孫　峰	中国	上海博物館文化交流弁公室副研究館員	東京国立博物館開催「アジアの旅―上海博物館との競演」にかかる作品点検及び展示作業のため	4月6日～4月12日
4	周　茂松	中国	山東省淄博市文化広電新聞出版局　局長	展示施設視察、意見交換、協力のため	5月5日～5月7日
5	張　召才	中国	山東省淄博市臨淄区人民政府　副区長	同上	5月5日～5月7日
6	畢　国鵬	中国	山東省淄博市臨淄区文化出版局　局長	同上	5月5日～5月7日
7	韓　偉東	中国	山東省淄博市臨淄区文物管理局　局長	同上	5月5日～5月7日
8	朴　秀桓	韓国	国立中央博物館教育文化交流団子供博物館課学芸員	東京国立博物館・韓国国立中央博物館間の学術交流のため	6月13日～6月26日
9	マシュー・アフロン	米国	フィラデルフィア美術館学芸員	日本・米国間の学術交流及び協力関係の推進のため	6月21日～6月28日
10	趙　明利	中国	陝西歴史博物館陳列展覧部助理工程師（エンジニア）	特別展「醍醐の世界―醍醐寺芸術珍宝展」にかかる作品点検及び輸送作業のため	6月28日～7月2日
11	付　文斌	中国	陝西歴史博物館文物保管部館員	同上	6月28日～7月2日
12	李　鄭	中国	中国国家博物館文物科学技術保護部助理館員	東京国立博物館・中国国家博物館間の協力関係の推進および文化財修復に関する情報交換のため	7月17日～7月20日
13	郝　淑蘭	中国	中国国家博物館文物科学技術保護部副研究員	同上	7月17日～7月20日
14	洪　巍	中国	中国国家博物館文物科学技術保護部館員	同上	7月17日～7月20日
15	谷　嫻子	中国	上海博物館工芸研究部館員	「アジアの旅―上海博物館との競演」展にかかる作品点検及び展示替えのため	7月24日～7月27日
16	張　潔	中国	上海博物館文化交流弁公室館員	同上	7月24日～7月27日
17	孫　峰	中国	上海博物館文化交流弁公室副研究員	特別展「菩提の世界―醍醐寺芸術珍宝展」にかかる作品点検、返却作業のため	7月28日～8月6日
18	師　若予	中国	上海博物館青銅研究部館員	同上	7月28日～8月6日
19	韋　剛	中国	上海博物館展覧部館員	同上	7月28日～8月6日
20	丁　歩平	中国	上海博物館保管部館員	当館で開催している「アジアの旅―上海博物館との競演」にかかる展示替え作業のため	8月27日～8月31日
21	馬　如高	中国	上海博物館文物保護修復中心館員	同上	8月27日～8月31日
22	李　孔融	中国	上海博物館青銅研究部助理館員	同上	8月27日～8月31日
23	金　ウルリム	韓国	国立中央博物館学芸研究室美術部学芸研究官	東京国立博物館・韓国国立中央博物館間の学術交流のため	8月29日～9月11日
24	張　梅	中国	陝西歴史博物館陳列展覧部副研究館員	特別展「梵音東渡―日本醍醐寺国宝展」にかかる作品点検、返却作業のため	10月6日～10月13日
25	付　文斌	中国	陝西歴史博物館文物保管部館員	同上	10月6日～10月13日
26	馬　雲潔	中国	上海博物館教育部館員	当館で開催している「アジアの旅―上海博物館との競演」にかかるワークショップ実施のため	10月7日～10月11日
27	王　月前	中国	中国国家博物館展覧一部研究館員	特別展「15-19世紀日中韓絵画精品展」にかかる作品点検及び輸送のため	10月21日～10月26日
28	劉　剛	中国	上海博物館工芸研究部副研究館員	当館で開催している「アジアの旅―上海博物館との競演」にかかる展示替え作業のため	10月23日～10月26日
29	盧　婷婷	中国	上海博物館保管部館員	同上	10月23日～10月26日
30	ルイ・コップルストーン	英国	学生／大和スカラー　奨学生	研修	10月26日～29年3月31日
31	孫　慰祖	中国	上海博物館青銅研究部研究館員	展覧会「小林斗盦　篆刻の軌跡」にかかる記念講演会のため	11月14日～11月20日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
32	魏　小虎	中国	上海博物館図書館副研究員	東京国立博物館・上海博物館間の学術調査、研究および協力推進のため	11月21日～11月27日
33	張　毅	中国	上海博物館情報センター館員	同上	11月21日～11月27日
34	孫　峰	中国	上海博物館文化交流弁公室副研究館員	同上	11月24日～12月3日
35	楼　婷	中国	中国国立絲綢博物館研究館員	中国国立絲綢博物館開催の特別展「絹の世界」にかかる作品点検、返却作業のため	12月12日～12月15日
36	単　月英	中国	中国国家博物館展覧一部研究館員	特別展「15-19世紀日中韓絵画精品展」にかかる返却作業のため	12月23日～12月29日
37	ジョン・カーペンター	米国	メトロポリタン美術館　メアリー・グリッグス・バーク・キュレーター（日本美術）	北米・欧州ミュージアム連携・交流事業	29 年 1 月 26 日～1 月 30 日
38	アン・ニシムラ・モース	米国	ボストン美術館　ウィリアム・アンド・ヘレン・パウンズ・シニア・キュレーター	同上	29年1月26日～1月30日
39	シネード・ヴィルバー	米国	クリーブランド美術館キュレーター（日本・韓国美術）	同上	29年1月26日～2月3日
40	フェリス・フィッシャー	米国	フィラデルフィア美術館　ザ・ルーサー・W・ブラデー・キュレーター（日本美術）、シニア・キュレーター（東アジア美術）	北米・欧州ミュージアム連携・交流事業	29年1月26日～1月30日
41	アンドレアス・マークス	米国	ミネアポリス美術館　メアリー・グリッグス・バーク日本・韓国美術学芸部長、クラーク日本美術センター館長	同上	29年1月26日～1月30日
42	ローラ・アレン	米国	サンフランシスコ・アジア美術館　学芸部長、キュレーター（日本美術）	同上	29年1月26日～1月30日
43	レイチェル・サンダース	米国	ハーバード大学美術館　アビー・アルドリッチ・ロックフェラー・アソシエイト・キュレーター（アジア美術）	同上	29年1月26日～1月30日
44	ルパート・フォークナー	英国	ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館東洋部日本美術担当主任学芸員	同上	29年1月26日～1月30日
45	アレクサンダー・ホーフマン	ドイツ	ベルリン国立アジア美術館キュレーター（日本美術）	同上	29年1月26日～1月30日
46	メノー・フィツキー	オランダ	アムステルダム国立美術館キュレーター（東アジア美術）	同上	29年1月26日～2月4日
47	ロジーナ・バックランド	スコットランド	スコットランド国立博物館主任学芸員（東・中央アジア）	同上	29年1月26日～2月3日
48	カーン・トリン	スイス	リートベルク美術館キュレーター（日本美術）	同上	29年1月26日～1月30日
49	マルティン・ゾルバーガー	スイス	リートベルク美術館展示デザイナー、コーポレートデザイン課課長	同上	29年1月27日～1月30日
50	ミシェル・モキュエール	フランス	フランス国立ギメ東洋美術館チーフキュレーター（日本セクション）	同上	29年1月26日～1月30日
51	アイヌーラ・ユスーポワ	ロシア	プーシキン美術館東洋絵画主任学芸員	同上	29年1月26日～2月3日
52	モニカ・ビンチク	米国	メトロポリタン美術館アシスタント・キュレーター（日本美術）	同上	29年1月27日～2月3日
53	森嶋由紀	米国	サンフランシスコ・アジア美術館アシスタント・キュレーター（日本美術）	同上	29年1月27日～2月3日
54	ビビアン・リー	米国	ウースター美術館アシスタント・キュレーター（アジア美術）	同上	29年1月27日～2月3日
55	ジーニー・劒持	米国	バージニア大学レアブックスクール アンドリュー・メロン分析書誌学フェロー2014-2017	同上	29年1月27日～2月3日
56	スン・ヨン・サン	米国	ハーバード大学美術館　ハンダーソン・キュレトリアル・フェロー（東アジア美術）	同上	29年1月27日～2月4日
57	ルシアン・スミス	英国	ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館　展示部長補佐	同上	29年1月27日～2月3日
58	レイチェル・バークレイ	英国	ダラム大学東洋博物館キュレーター	同上	29年1月27日～2月3日
59	ウタ・ヴェーリッヒ	ドイツ	リンデン博物館シニア・キュレーター（東アジア）	同上	29年1月27日～2月4日
60	コーラ・ビュルメル	ドイツ	ドレスデン美術館陶磁器コレクションキュレーター	同上	29年1月27日～2月3日
61	アンナ・サヴェルエヴァ	ロシア	エルミタージュ美術館　日本美術コレクション責任者	同上	29年1月27日～2月3日
62	ガリーナ・パブロヴァ	ロシア	ロシア美術館　キュレーター	同上	29年1月27日～2月4日
63	ヴィオレッタ・ラスコフスカ・スモチンスカ	ポーランド	日本美術技術博物館マンガ 国際関係担当	同上	29年1月27日～2月4日
64	エリーネ・ファン・デン・ベルフ	オランダ	プリンセッセホフ陶磁器博物館キュレーター（アジア陶器）	同上	29年1月27日～2月3日
65	ナタリー・ザイツ	オーストラリア	ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館キュレーター（アジア美術）	同上	29年1月27日～2月3日
66	張　東	中国	上海博物館陶磁研究部研究館員	当館で開催している「アジアの旅―上海博物館との競演」にかかる撤収作業のため	29年2月26日～3月3日
67	孫　峰	中国	上海博物館文化交流弁公室副研究館員	同上	29年2月26日～3月3日
68	葛　亮	中国	上海博物館青銅研究部館員	当館で開催している「アジアの旅―上海博物館との競演」にかかる撤収作業のため	29年2月26日～3月3日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
69	石　金鳴	中国	山西博物院院長	東京国立博物館・中国山西博物院間の学術交流のため	29年3月21日～3月26日
70	趙　栄	中国	陝西省文物局局長	東京国立博物館・陝西省文物管理局および関係博物館との展覧会協力、文化交流の推進のため	29年3月28日～4月1日
71	候　寧彬	中国	秦始皇帝陵博物院院長	中国	29年3月28日～4月1日
72	李　挙綱	中国	漢陽陵博物館館長	中国	29年3月28日～4月1日
73	陳　亜冬	中国	陝西歴史博物館	中国	29年3月28日～4月1日

【京都国立博物館】　2人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Sophie　Makariou	フランス	フランス国立ギメ東洋美術館 館長	学術交流協定に関する意見交換、視察、調査他	6月10日
2	Bincsik Monika	フランス	メトロポリタン美術館アジア美術部アシスタント・キュレーター	国際研究交流会における中世漆器の研究会に出席	平成29年3月25日～3月31日

【奈良国立博物館】　延べ　9人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	藺　永新	中国	河南文化信息中心総合科科長文博館員	両博物館における文化財の調査及び保存・展示等の協力関係を推進するため	4月20日～5月19日
2	戚　軍超	中国	河南博物院文物保護研究中心文博館員	同上	4月20日～5月19日
3	金　有植	韓国	慶州博物館学術研究室長	両博物館における文化財の調査研究及び保存・展示等の協力関係を推進するため	6月16日～6月27日
4	兪　炳夏	韓国	慶州博物館館長	第68回正倉院展視察並びに当館職員との意見交換のため	10月20日～10月22日
5	宋　昶勳	韓国	慶州博物館防護書記補	同上	10月20日～10月22日
6	呉　旦敏	中国	上海博物館青銅器研究部副研究員	両機関における文化財の調査研究及び保存・展示等の協力関係を推進するため	11月22日～12月1日
7	孔　品屏	中国	上海博物館青銅器研究部館員	同上	11月22日～12月1日
8	葛　亮	中国	上海博物館青銅器研究部館員	同上	11月22日～12月1日
9	田　孝秀	韓国	慶州博物館学芸研究士	両博物館における文化財の調査研究及び保存・展示等の協力関係を推進するため	11月28日～12月27日

【九州国立博物館】　延べ　43人

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間
1	高田　知仁	タイ王国	サイアム大学教養学部日本語コミュニケーション学科学科長	基盤(B)日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究に係る調査	4月30日～5月7日
2	Boonyarit Chaisuwan	タイ王国	タイ王国文化省芸術局ムアンシン国立歴史公園センターセンター長	同上	4月30日～5月7日
3	智恵I.M.シュタイネック	スイス	チューリッヒ大学東洋学科日本学部門　非常勤講師	基盤(B)「在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究」に係る調査および打合せ	5月5日～8日
4	Anandha CHUCHOTI（ｱﾅﾝ･チューチョート）	タイ王国	タイ王国文化省芸術局芸術局長	博物館施設に係る共同研究および協議	7月30日～8月3日
5	Suporn RATTANAPONG（スポーン・ラッタナポン）	タイ王国	タイ王国文化省芸術局総務部長	同上	7月30日～8月1日
6	Naruporn　SAOWANIT（ナルポーン・サオワニット）	タイ王国	タイ王国文化省芸術局建築部専門官	同上	7月30日～8月3日
7	Thanyarat LAKKHANAWITTHAWAT（タンヤラート・ラッカナウィッタワート）	タイ王国	タイ王国文化省芸術局事業計画課アドバイザー	同上	7月30日～8月3日
8	ドゥアンカモン・ユッタセリー	タイ王国	国立美術館長	同上	7月30日～8月3日
9	クリークムアン・ヨンラヨーン	タイ王国	文化省芸術局デザイナー	同上	7月30日～8月3日
10	タッチャルーン・スワンワッタナ	タイ王国	文化省芸術局国際交流課主任	同上	7月30日～8月3日
11	Martijn Manders	オランダ	オランダ文化遺産庁海事考古学局長	水中考古学フォーラム「世界の水中遺跡を考える」に係る講演	8月26日～27日
12	Andrew Viduka	オーストラリア	オーストラリア環境庁海事遺産局長補佐	同上	8月26日～27日
13	Bill Jeffery	アメリカ	グアム大学人類学部准教授	同上	8月26日～27日
14	ラクチャノック・コッチャノン	タイ王国	バンコク国立博物館長	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流	8月26日～9月1日
15	プーンシー・チェップケーオ	タイ王国	国立博物館事務局研究部長	同上	8月26日～9月1日
16	プアンポーン・シーソムブーン	タイ王国	国立博物館事務局保存科学部研究員	同上	8月26日～9月1日

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間
17	コッチャポーン・タンマチャリヤー	タイ王国	展示造作デザイナー	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流	8月26日～9月1日
18	パッタマー・コートン	タイ王国	バンコク国立美術館 研究員	同上	8月26日～9月1日
19	カマラート・ペンチャオーン	タイ王国	国立博物館事務局 開発促進部研究員	同上	8月26日～9月1日
20	スティサック・アルンシー	タイ王国	芸術局博物館事務局 デザイン課長	同上	8月29日～9月3日
21	サームキット・チャイモンコン	タイ王国	芸術局博物館事務局 博物館推進課長	同上	8月29日～9月3日
22	ワッチャリー・チョムプー	タイ王国	芸術局博物館事務局 学芸員	同上	8月29日～9月3日
23	ピヤレーク・インタチャック	タイ王国	国王在位50周年記念 博物館学芸員	同上	8月29日～9月3日
24	ラッタポン・ケートルオム	タイ王国	国立美術館学芸員	同上	8月29日～9月3日
25	具一會	韓国	国立扶餘博物館長	同上	8月30日～9月1日
26	金善英	韓国	国立扶餘博物館 学芸研究士	同上	8月30日～9月12日
27	安敏子	韓国	国立公州博物館 学芸研究士	同上	8月30日～9月12日
28	閔丙贊	韓国	国立中央博物館	文化庁　平成28年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業	10月19日～22日
29	トーマス・ストラング	カナダ	Canadian Conservation Institute・Senior Conservation Scientist	基盤（A）「彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討」に係る調査および打合せ	10月20日～11月2日
30	智恵I.M.シュタイネック	スイス	チューリッヒ大学東洋学科日本学部門　非常勤講師	基盤（B）「在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究」に係る調査	11月17日～19日
31	李溶振	韓国	国立公州博物館 学芸研究士	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」 作品点検及び陳列作業指導	12月20日～23日
32	金鍾萬	韓国	国立公州博物館長	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」 開会式出席	12月25日～27日
33	南基用	韓国	国立公州博物館係長	同上	12月25日～27日
34	高旭成	韓国	国立中央博物館 企画運営団長	同上	12月25日～27日
35	朴聖媛	韓国	国立中央博物館遺物 管理部学芸研究士	同上	12月25日～27日
36	劉麗娜	中国	西安交通大学法学部副教授	日中韓文化遺産フォーラム：水中文化遺産の保護と活動に係る講演および講演会原稿の執筆	29年2月10日～14日
37	孫鍵	中国	国家文物局水下文化遺産保護中心研究員	同上	29年2月10日～14日
38	朱稚怡	中国	国家文物局弁公室（外事連絡司） 水中文化遺産官員	日中韓文化遺産フォーラムにおける中国からの講演者2名を随行	29年2月10日～14日
39	李貴永	韓国	韓国国立海洋文化財研究所長	日中韓文化遺産フォーラム：水中文化遺産の保護と活動に係る講演および講演会原稿の執筆	29年2月11日～14日
40	金炳萬	韓国	韓国国立海洋文化財研究所 水中発掘課学芸研究官	同上	29年2月11日～14日
41	李仁英	韓国	国立公州博物館 学芸研究士	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」作品点検及び撤収作業指導	29年3月5日～8日
42	ウィパラット・プラディットアーチープ	タイ王国	タイ王国文化省芸術局学芸員	特別展「タイ～仏の国の輝き～」作品輸送・点検・陳列作業指導	29年3月25日～31日
43	タッチャソーン・タンテイウォン	タイ王国	バンコク国立博物館学芸員	同上	29年3月27日～31日

※上記には、他機関が招聘し、九州国立博物館を訪問（滞在）したものや、自己負担での外国人研究者の訪問実績は含んでいない。
※上記には、日本国内の機関（大学、研究所等）に所属する外国人研究者の招聘は含んでいない。

【東京文化財研究所】延べ　39人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Ana Dalila Terrazas Santillán	メキシコ	メキシコ国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復機関保存修復技術者	国際研修「ラテンアメリカにおける紙文化財保存修復国際研修」の準備への協力	3月6日～6月29日
2	Aušra　ČIULADIENĖ	リトアニア	リトアニア科学アカデミーヴルブレフスキ図書館修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」参加のため	8月28日～9月17日
3	Anna　DYMAREK	ポーランド	ヴィドゴシュチュ国立公文書館公文書保存修復技術者	同上	8月27日～9月17日
4	Iva　GOBIĆ VITOLOVIĆ	クロアチア	リエカ国立公文書館保存修復技術部長、保存修復技術主任	同上	8月27日～9月17日
5	Signe Hjerrild　SMEDEMARK	アイスランド	アウルトニ・マグヌッソンアイスランド学術機構保存修復技術者	同上	8月28日～9月17日
6	Seon-Hwa　JEONG	韓国	国立文化財研究所文化財保存科学センター紙保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」参加のため	8月28日～9月17日
7	Laura　MIREBEAU	ニュージーランド	ニュージーランド国立図書館テプナマタウランガ／アレクサンダー・ターンブル図書館本および紙保存修復技術者	同上	8月28日～9月17日
8	Sara　MOHEIELDIN NOURELDIN MOHEIELDIN	エジプト	エジプト考古省エジプト考古学博物館紙保存修復技術者	同上	8月28日～9月17日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
9	Clara Maria PRIETO DE LA FUENTE	スペイン	紙保存修復技術者紙本および写真保存修復技術学教授	国際研修「紙の保存と修復」参加のため	8月28日～9月17日
10	Estelle VAN GEYTS	ベルギー	ブリュッセルラカンブル国立美術学校紙本保存修復技術学教授(非常勤)／紙保存修復技術者	同上	8月28日～9月17日
11	Tendi WANGMO	ブータン	ブータン国立博物館保存修復技術補佐員	同上	8月28日～9月17日
12	Nyunt Han	タイ	東南アジア教育省連合･考古学･美術地域センター上級研究員	文化遺産国際協力コンソーシアム「ミャンマーにおける文化遺産保護の現況と課題」講演のため	9月23日～9月28日
13	Bartosz Markowski	ポーランド	ユネスコ・シリア文化遺産緊急保護プロジェクト専門家	「シリア内戦と文化遺産」シンポジウム講演	11月17日～11月26日
14	Robert Zukowski	ポーランド	ポーランド科学アカデミー考古学・民俗学研究所研究員	同上	11月17日～11月26日
15	Hammam Saad	シリア	パリ・ソルボンヌ大学地中海世界宗教社会高等研究所	同上	11月18日～11月25日
16	Nada al Hassan	フランス	ユネスコ世界遺産委員会アラブ諸国ユニット主任	同上	11月19日～11月24日
17	TRAN Ky Phuong	ベトナム	ベトナム少数民族文化芸術協会特別研究員	考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築」への参加	29年2月12日～2月16日
18	CHHAY Rachna	カンボジア	アンコール地域保存整備機構、アンコール調査記録国際センター、アンコール陶磁器研究室室長	同上	29年2月12日～2月16日
19	PHUSI Nattaya	タイ	タイ王国文化省芸術局・スコータイ第6事務所、考古学者	同上	29年2月12日～2月16日
20	Zaw Myo Kyaw	ミャンマー	宗教文化省考古国立博物館局、発掘・遺物・碑文部、副部長	同上	29年2月12日～2月16日
21	Christine GUTH	イギリス	V&Aシニア・リサーチ・フェロー	「美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開」研究会への参加	29年2月28日～3月16日
22	Ulrike Körber	ポルトガル	ポルトガル・エヴォラ大学美術史博士号取得予定者	同上	29年3月1日～3月23日
23	Marta Weronika Winiarczyk	ポーランド	National Museum in Krakow 紙保存修復技術者助手	在外日本古美術品保存修復協力事業	29年3月5日～3月11日
24	Bijaya Krishna Shrestha	ネパール	クオパ工科大学大学院都市デザイン･修復学科 教授	「歴史的集落/地区の保存とマネジメントに関する研修事業」への招へい	29年3月5日～3月12日
25	Suresh Suras Shrestha	ネパール	ネパール国文化･観光･航空省考古局次官（考古学課長）	同上	29年3月5日～3月12日
26	Barsha Shrestha	ネパール	カリヤビナヤク市主任建築士	同上	29年3月5日～3月12日
27	Krishna Bhola Maharjan	ネパール	キルティプル市主任技術者	同上	29年3月5日～3月12日
28	Prem Kumar Somname	ネパール	パナウティ市都市開発計画課長、主任技術者	同上	29年3月5日～3月12日
29	Bal Krishna Manandhar	ネパール	シャンカラプール市文化遺産課主任技術者	同上	29年3月5日～3月12日
30	Ram Govinda Shrestha	ネパール	バクタプル市文化遺産課長	同上	29年3月5日～3月12日
31	Chandra Shova Shakya	ネパール	ラリトプル副都庁遺産･文化･考古保存課長	同上	29年3月5日～3月12日
32	Kittiporn Chaiboon	タイ	文化省文化振興局 文化研究所研究発展部長・上級専門級文化担当官	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	29年3月13日～3月16日
33	Sukanya Yensuk	タイ	文化省文化振興局無形文化遺産保護部長・専門級文化担当官	同上	29年3月13日～3月16日
34	Peter Nuttall	フィジー	南太平洋大学PaCE-SD研究所研究員	拠点事業、共同研究に基づく研修参加のため	29年3月20日～3月25日
35	Kaiafa Ledua	フィジー	南太平洋大学研究協力者	同上	29年3月20日～3月25日
36	Alison Newell	フィジー	南太平洋大学PaCE-SD研究所研究員	同上	29年3月20日～3月25日
37	Samual Nuttall	フィジー	南太平洋大学PaCE-SD研究所研究協力者	同上	29年3月20日～3月25日
38	Mohammad Hassan Talebian	イラン	イラン文化遺産手工芸観光庁次官	「イラン文化遺産セミナー」への講演	29年3月27日7～4月1日
39	Seyed Mohammad Beheshti	イラン	イラン文化遺産観光研究所所長	同上	29年3月27日7～4月1日

【奈良文化財研究所】延べ135人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	沈榮燮 他５名	韓国	国立慶州文化財研究所・所長	平城宮跡調査、城壁・濠・庭園の発掘・整備担当者との面談	4 月 14 日～4 月 15 日
2	Aktham o. Abbadi 他５名	ヨルダン	観光・古代省 ヨルダン古代部・発掘調査部長	平城宮跡における遺跡保存の見学	4 月 23 日
3	Myo Myint 他１１名（JICA 研修生）	ミャンマー	ホテル観光省計画局・課長	奈良文化財研究所と平城宮跡の概略説明、施設見学	6 月 3 日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
4	BUTGE,Marjorie Grace	アメリカ	カルフォルニア大学・バークレー校	「韓国３王朝の文字文化と新羅と日本における初期の文学」の研究のため（国際交流基金日本研究フェローシップ）	6月14日～12月15日
5	Luo Bei	中国	西南林業大学・講師	西南林業大学との科研費に基づく共同研究の推進	7月25日～7月31日
6	崔亨仙（チェ チャンソン）	韓国	国立慶州文化財研究所・学芸研究士	発掘現場の人材交流	8月22日～10月14日
7	李匡悌 他1名	台湾	台湾中央研究院	発掘現場（東大寺東塔址）・環境考古学研究室・保存修復科学研究室・整理室の見学	8月26日
8	キム サムナン（Kim Samnang）	カンボジア	アプサラ機構･GIS･IT コーディネイター	第８回世界考古学会での研究報告	8月26日～9月3日
9	San Win	ミャンマー	宗教文化省・ミャンマー歴史委員会・会員（非常勤）	同上	8月26日～9月3日
10	Nan Kyi Kyi Khaing	ミャンマー	陶器研究者（所属なし）	同上	8月26日～9月3日
11	Zin Oo	ミャンマー	宗教文化省考古博物館局ピイ考古学フィールドスクール・講師	同上	8月26日～9月3日
12	Hay Mar Min	ミャンマー	宗教文化省考古博物館局ピイ考古学フィールドスクール・講師	同上	8月26日～9月3日
13	Dr. Mandescu Dragos	ルーマニア	第8回世界考古学会議参加者	平城宮跡資料館と平城宮跡の見学（第8回世界考古学会議エクスカーション）	8月31日
14	Prof. Baxter Jane 他3名	アメリカ	第8回世界考古学会議参加者	同上	8月31日
15	Dr. White Peter 他4名	オーストラリア	第8回世界考古学会議参加者	同上	8月31日
16	Dr. Van den Dries Monique 他3名	オランダ	第8回世界考古学会議参加者	同上	8月31日
17	Dr. Forsythe Wes 他5名	イギリス	第8回世界考古学会議参加者	同上	8月31日
18	Mr. Paludan-Muller	ノルウェー	第8回世界考古学会議参加者	同上	8月31日
19	Dr. Garraffoni Rwnata Senna	ブラジル	第8回世界考古学会議参加者	同上	8月31日
20	Ms. Bos Kristen	カナダ	第8回世界考古学会議参加者	同上	8月31日
21	長呉修民 他14名	中国	浙江省古建築設計研究院・院長	平城宮、大極殿、朱雀門における保護と展示利用の現場見学	9月2日
22		アフガニスタン		文化遺産の保護に資する研修2016（集団研修）－遺跡（遺構・遺物）の調査と保護－の講義受講（ACCU）	9月7日,12,13
23	ミタ アフロジャ カーン	バングラディシュ	文化省考古局・クルナ地域事務所長	文化遺産の保護に資する研修2016（集団研修）－遺跡（遺構・遺物）の調査と保護－の講義受講（ACCU）	9月7日,12,13
24	ソナム ギェルツェン	ブータン	内務文化省文化局遺産保護課・考古研究補佐員	同上	9月7日,12,13
25	ケオ チャンファニイ	カンボジア	アンコール地域遺跡保護管理機構アンコール公園遺跡保護局・技官	同上	9月7日,12,13
26	ジャヴァディ メフルダッド	イラン	イラン文化遺産工藝観光機構歴史的建造物・遺跡・都市構成保存事務所・文化遺産担当次長	同上	9月7日,12,13
27	ボウンディラス ホウンヨルド	ラオス	情報文化観光省遺産局考古部・専門職員	同上	9月7日,12,13
28	バヤルサイカーン ジャムスランジャフ	モンゴル	モンゴル国立博物館調査研究センター・甲子学芸主任	同上	9月7日,12,13
29	ライ ギャニン	ネパール	ネパール政府ルンビニ地域開発トラスト遺産管理部・主任監理官	同上	9月7日,12,13
30	シャーペ キリ グウェン パメラ	ニュージーランド	ヘリテージ・ニュージーランド・考古研究員	同上	9月7日,12,13
31	オンガ ジム	パプアニューギニア	パプアニューギニア管理保護・保全公社環境計画・世界遺産部門・世界遺産担当主任監理官	同上	9月7日,12,13
32	ナラヤナ タマラ ディーパニ	スリランカ	国家遺産省考古局アヌラーダプラ考古博物館・考古研究補佐員	同上	9月7日,12,13
33	ボボムローエフ ボボムロ	タジキスタン	国立古代博物館考古課・研究員	同上	9月7日,12,13
34	ティッパンワン ウオンガドサパイボーン	タイ	文化省芸術局第9地域事務所・考古研究員	同上	9月7日,12,13
35	コルマトフ アズビディン	ウズベキスタン	ウズベキスタン科学アカデミー考古学研究所石器時代室・研究補佐員	同上	9月7日,12,13
36	テャン ドアン ミン ホアン	ベトナム	フエ記念物保存センター科学歴史研究部・研究員	文化遺産の保護に資する研修2016（集団研修）－遺跡（遺構・遺物）の調査と保護－の講義受講（ACCU）	9月7日,12,13
37	劉欣寧 他4名	台湾	台湾中央研究院歴史言語研究所・助研究員	共同研究	9月8日～9月9日
38	S.Phoeurng 他2名	カンボジア	文化大臣	奈文研のカンボジアにおける活動について意見交換、資料館・大極殿見学	10月8日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
39	兪炳夏 他１名	韓国	慶州国立博物館	大極殿・免震装置等視察	10月21日
40	コム スレイモム	カンボジア	分化・芸術省博物館局カンボジア国立博物館石像彫刻修復室・学芸員	文化遺産の保護に資する研修2016（個別テーマ研修）－博物館等における文化財の調査・記録・保存修復・活用－の講義受講（ACCU）	11月16日～11月29日
41	マング　バレイ	カンボジア	Kampong Thom州文化芸術局 Kampong thom州立博物館・学芸員	同上	11月16日～11月29日
42	ケオアサ カムセン	ラオス	ラオス国立博物館教育課・次長	同上	11月16日～11月29日
43	ソウバンナラス カンフェト	ラオス	ラオス国立博物館教育課・学芸員	同上	11月16日～11月29日
44	ミー ミー テッ ヌウ	ミャンマー	宗教・文化省考古・国立博物館局国立博物館・副館長	同上	11月16日～11月29日
45	サウ アウン テイン	ミャンマー	Kayin州Hpa-an文化博物館・副館長	同上	11月16日～11月29日
46	姜賢 他４名	韓国	国立文化財研究所建築文化財研究室　学芸研究官	研究交流	11月16日
47	ホマーム・サード 他１名	シリア	ソルボンヌ大学	研究所訪問、平城宮跡資料館見学	11月22日
48	ナーダ・アル＝ハッサン	レバノン	ユネスコ・ベイルート事務所	同上	11月22日
49	ロバート・ズコウスキー 他１名	ポーランド	ポーランド科学アカデミー考古学民族学研究所	同上	11月22日
50	Mohamed Ahmed Soliman 他１名	エジプト	Director of Modern Age Sites, Ministry of Antiquities	遺跡の探査についての情報収集、平城宮跡資料館見学	11月24日
51	田孝秀 他１名	韓国	慶州博物館・学芸研究士	平城宮跡資料館、飛鳥資料館、第一次大極殿見学	12月2日
52	魏周興	中国	河南省文物考古研究院・副院長	共同研究	11月28日～12月2日
53	張小虎	中国	河南省文物考古研究院・副研究員	同上	11月28日～12月2日
54	李輝	中国	河南省文物考古研究院・館員	同上	11月28日～12月2日
55	聂凡	中国	河南省文物考古研究院・館員	同上	11月28日～12月2日
56	馬蕭林	中国	河南省文物局・副局長	同上	11月28日～12月2日
57	陳松長 他５名	中国	湖南大学岳麓書院・教授	木簡の整理から保存までの状況の視察、平城宮跡資料館、第一次大極殿の見学	12月27日
58	Qiu Jian	中国	西南林業大学・教授	西南林業大学との科研費に基づく共同研究の推進	29年1月5日～1月11日
59	Wu Jian Ling	中国	西南林業大学・弁公室主任	同上	29年1月5日～1月11日
60	ローレン・ベル	イギリス	ロンドン大学・学部生	図書資料閲覧	29年1月11日～1月13日
61	李昌熙 他４名	韓国	慶州東国大学校考古美術史学科・助教授	日本古代都城遺跡調査研究及び整備事例研究	29年1月11日
62	サイモン・ケイナー	イギリス	セインズベリー日本芸術研究所・文化遺産センター長	研究所訪問、打ち合わせ	29年1月11日
63	文梨花 他22名	韓国	円光大学校馬韓・百済文化研究所	平城宮跡資料館、第一次・第二次大極殿見学	29年2月1日
64	ゾー・ミョー・チョウ	ミャンマー	宗教・文化省考古・国立博物館局発掘、遺物、碑文部副部長	平城宮跡、飛鳥資料館、山田寺跡視察	29年2月14日,2月15日
65	プシ・ナターヤ	タイ	文化省芸術局スコータイ第６事務所・考古学者	同上	29年2月14日,2月15日
66	テェイ・ラッチャナー	カンボジア	アンコール地域保存整備機構アンコール調査記録国際センター・アンコール陶磁器研究室長	同上	29年2月14日,2月15日
67	チャン・キィ・フォン	ベトナム	ベトナム少数民族文化芸術協会・特別研究員	同上	2月14日,2月15日
68	Gary Crawford 他３名	カナダ	トロント大学・教授	研究所視察	29年3月8日
69	Soum Sophea	カンボジア	プノンペン王立芸術大学・卒業生	共同研究	29年3月20日～3月27日
70	Meas Sreyneath	カンボジア	プノンペン王立芸術大学・卒業生	同上	29年3月20日～3月27日
71	Sonetra Seng	カンボジア	プノンペン王立芸術大学・准教授	同上	29年3月20日～3月27日
72	Sophearith Siyonn	カンボジア	文化芸術省統計計画局・局長	同上	29年3月20日～3月27日
73	Mohammad Hassan Telebian 他１名	イラン	文化遺産手工芸観光庁次官	表敬訪問、平城宮跡資料館見学	29年3月31日
74	PLOKINGHORNE Martin	オーストラリア	フリンダース大学・主任研究員	日本学術振興会外国人招へい研究者	29年3月31日～9月30日

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ52人

※用務先が海外である場合を含む。また国内研究者を海外に派遣したもの延べ7名を含む(用務欄に用務先を記載)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	中林　真樹	日本	堺市産業振興局商工労働部ものづくり支援課	“Workshop on Capacity Building for Transmission and Sustainable Development of Traditional Craftsmanship”（中国・深セン）出席 先方負担	5月12日～16日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
2	永井　靖子	日本	堺市国際課	“Workshop on Capacity Building for Transmission and Sustainable Development of Traditional Craftsmanship”（中国・深セン）出席 文化庁受託経費	5月12日～16日
3	石村　智	日本	東京文化財研究所無形文化遺産部音声映像記録研究室室長	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるフィリピン調査 寄附金（文化財保活用基金）	7月3日～8日
4	Himalchuli GURUNG	中国	Programme Specialist for Culture, UNESCO Beijing Office	「第五回IRCI運営理事会」出席及び関係機関（日本・堺市ほか）訪問 文化庁受託経費	9月27日～10月3日 (9月28日開催)
5	Olympia Esel MOREI	パラオ	Director, Belau National Museum	「第五回IRCI運営理事会」出席（日本・堺市） 文化庁受託経費	9月27日～9月29日 (9月28日開催)
6	Hyunbin PARK	韓国	Senior Researcher, World Heritage Team, Cultural Heritage Administration of Korea	同上	9月27日～9月29日 (9月28日開催)
7	Jin ZHAO	中国	Deputy Director, Division of Mutilateral Affairs, Bureau for External Cultural Relations, Ministry of Culture, P.R. of China	同上	9月27日～9月29日 (9月28日開催)
8	Meredith WILSON	仏領ポリネシア	Research Associate, Stepwise Heritage and Tourism Pty. Ltd.	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるバヌアツ調査 ODAユネスコ補助金	10月17日～23日 (10月20日～22日実施)
9	石村　智	日本	東京文化財研究所無形文化遺産部音声映像記録研究室室長	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるフィジー調査 ODAユネスコ補助金	10月22日～26日
10	Hanafi Bin HUSSIN	マレーシア	Associate Professor, Department of South East Asian Studies, Faculty of Arts and Social Sciences, University of Malaya	“2016 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region”　（日本・堺市） 及び 「無形文化遺産国際シンポジウム―技と心を受け継ぐ―」（日本・堺市）出席 文化庁受託経費	11月16日～20日 (11月18日～19日開催) 及び (11月19日開催)
11	Sokrithy IM	カンボジア	Deputy Director, Angkor International Research Center and Documentation, APSARA National Authority	同上	11月16日～20日 (11月18日～19日開催) 及び (11月19日開催)
12	Janet Elizabeth BLAKE	イラン	Associate Professor, Department of Islamic Law, Faculty of Law Shahid Beheshti University	“2016 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region”　（日本・堺市）出席 文化庁受託経費	11月16日～19日 (11月18日～19日開催)
13	Saruul ARSLAN	モンゴル	ICH Specialist, Centre of Cultural Heritage	同上	11月16日～21日 (11月18日～19日開催)
14	Nang Lao Ngin	ミャンマー	Director, Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Culture, Myanmar	同上	11月16日～20日 (11月18日～19日開催)
15	Anura MANATUNGA	スリランカ	Director/ Professor, Centre for Asian Studies, University of Kelaniya	同上	11月16日～20日 (11月18日～19日開催)
16	Yadab Chandra NIRAULA	ネパール	Chief Librarian, Nepal National Library	同上	11月16日～20日 (11月18日～19日開催)
17	Atousa MOEMENI	イラン	Director General, Scientific Studies and International Cooperation Office of Iranology Foundation	同上	11月16日～20日 (11月18日～19日開催)
18	Meked BESEBES	パラオ	Cultural Anthropologist/ Ethnographer, Bureau of Cultural and Historical Preservation/ Palau Historical Preservation Office, Palau	同上	11月17日～20日 (11月18日～19日開催)
19	Sandra MORRISON	ニュージーランド	Associate Professor, Faculty of Maori and Indigenous Studies, University of Waikato	同上	11月17日～19日 (11月18日～19日開催)
20	Hanhee HAHM	韓国	Professor, Department of Archaeology and Cultural Anthropology, Chonbuk National University	同上	11月17日～20日 (11月18日～19日開催)
21	Don NILES	パプアニューギニア	Acting Director and Senior Ethnomusicologist, Institute of Papua New Guinea Studies	同上	11月16日～23日 (11月18日～19日開催)
22	Cholponai USUBALIEVA-GRYSHCHUK	キルギス	Researcher and Project Coordinator, Aigine Cultural Research Centre	“2016 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region”　（日本・堺市）出席 文化庁受託経費	11月16日～20日 (11月18日～19日開催)
23	Himalchuli GURUNG	中国	Programme Specialist for Culture, UNESCO Beijing Office	同上	11月17日～20日 (11月18日～19日開催)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
24	久保田裕道	日本	東京文化財研究所無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるベトナム調査 寄附金（文化財保活用基金）	12月14日～21日 (12月15日～20日実施)
25	Susan MCINTYRE-TAMWOY	オーストラリア	Associate Director, Extent Heritage Pty Ltd	“Working Group Session for IRCI Final Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region” （ベトナム・ハノイ） 及び “IRCI Final Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region” （ベトナム・ハノイ）出席 文化庁受託経費	12月14日～21日 (12月15日～16日開催) 及び (12月17日～19日開催)
26	河野俊行	日本	九州大学大学院教授	同上	12月14日～19日 (12月15日～16日開催) 及び (12月17日～19日開催
27	Harriet DEACON	イギリス	Visiting Research Fellow, Ferguson Centre for African and Asian Studies, The Open University, UK	同上	12月14日～19日 (12月15日～16日開催) 及び (12月17日～19日開催)
28	Buntha EK	カンボジア	Deputy Director-General, Ministry of Culture and Fine Arts, Cambodia	“IRCI Final Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region” （ベトナム・ハノイ）出席 文化庁受託経費	12月16日～19日 (12月17日～19日開催)
29	Dara KHLOK	カンボジア	Director, International Relations and Development Partners, Ministry of Justice, Cambodia	同上	12月16日～19日 (12月17日～19日開催)
30	Bounyadeth DAOPASITH	ラオス	Head of International Studies Unit, Faculty of Laws and Political Science, National University of Laos	同上	12月16日～19日 (12月17日～19日開催)
31	Nang Lao Ngin	ミャンマー	Director, Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Culture, Myanmar	同上	12月16日～19日 (12月17日～19日開催)
32	Hathairat JIEWJINDA	タイ	Cultural Officer, Professional Level, Department of Cultural Promotion, Ministry of Culture, Thailand	同上	12月16日～19日 (12月17日～19日開催)
33	Katie O’ ROURKE	オーストラリア	Director, Katie O'Rourke Consulting	同上	12月16日～21日 (12月17日～19日開催)
34	Loan Thi TU	ベトナム	Director, Vietnam National Institute of Culture and Arts Studies	同上 先方負担	12月17日～19日開催
35	Hien Thi NGUYEN	ベトナム	Vice Director, Vietnam National Institute of Culture and Arts Studies	同上 先方負担	12月17日～19日開催
36	Huong Thi Thu NGUYEN	ベトナム	Head, Division of Scientific Management and International Cooperation, Vietnam National Institute of Culture and Arts Studies	同上 先方負担	12月17日～19日開催
37	Huong Thi Thanh PHAM	ベトナム	Culture Programme Coordinator a.i., UNESCO Ha Noi Office	同上 先方負担	12月17日～19日開催
38	Tang Duc NGUYEN	ベトナム	National Program Officer in Culture, Ha Noi Office	同上 先方負担	12月17日～19日開催
39	Trang Thi Thu NGUYEN	ベトナム	Chief, Bureau for Intangible Cultural Heritage, Department of Cultural Heritage, Ministry of Culture, Sports and Tourism, Viet Nam	同上 先方負担	12月17日～19日開催
40	Tanyanun VARAPIPONG	タイ	International Affairs Officer, Princess Maha Chakri Sirindhorn Anthropology Centre	同上 先方負担	12月17日～19日開催
41	Rajib SHAW	中国	Executive Director, International Program Office, Integrated Research on Disaster Risk	“Preliminary Research on ICH Safeguarding and Disaster-Risk Management in the Asia-Pacific Region: International Working Group Session” （日本・東京）出席 ODAユネスコ補助金	29年1月30日 (1月30日開催)
42	Soledad Natalia DALISAY	フィリピン	Professor, Chair, Department of Anthropology, University of Philippines-Dilimman	“Preliminary Research on ICH Safeguarding and Disaster-Risk Management in the Asia-Pacific Region: International Working Group Session” （日本・東京）出席 ODAユネスコ補助金	29年1月29日～2月1日 (1月30日開催)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
43	Fatima Gay Jamilosa MOLINA	フィリピン	Part-time Programme Associate, Center for Disaster Preparedness	“Preliminary Research on ICH Safeguarding and Disaster-Risk Management in the Asia-Pacific Region: International Working Group Session”（日本・東京）出席 ODAユネスコ補助金ｓ	29年1月29日～2月1日 (1月30日開催)
44	Elizabeth Fiona Daveta EDWARDS	フィジー	Secretariat, Blue Shield Pasifika	同上	29年1月27日～2月2日 (1月30日開催)
45	Ilaitia Senikuraciri LOLOMA	フィジー	Executive Officer, Special Revitalization Unit, iTaukei Institute of Language and Culture	同上	29年1月27日～2月2日 (1月30日開催)
46	Richard Japuneyo SHING	バヌアツ	Senior Archaeologist, Heritage Section, Vanuatu Cultural Centre	同上	29年1月25日～2月2日 (1月30日開催)
47	Md. Amanullah Bin Mahmood	バングラデシュ	Project Officer, Science, UNESCO Office in Dhaka	同上	29年1月28日～2月2日 (1月30日開催)
48	Rahmatullah Al Mahmud Selim	バングラデシュ	Head of Research, Gaanbangla Television	同上	29年1月29日～2月1日 (1月30日開催)
49	Meredith WILSON	仏領ポリネシア	Research Associate, Stepwise Heritage and Tourism Pty. Ltd.	同上	29年1月27日～2月1日 (1月30日開催)
50	Huy NGUYEN	ベトナム	Technical Specialist, Institute for Sustainable Environmental, Transition-Vietnam	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるマーシャル諸島調査 ODAユネスコ補助金	29年2月12日～19日 (2月14日～17日)
51	Meredith WILSON	仏領ポリネシア	Research Associate, Stepwise Heritage and Tourism Pty. Ltd.	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるミャンマー調査 寄附金（文化財保活用基金）	29年3月10日～3月19日 (3月13日～17日)
52	児玉　茂昭	日本	国立民族学博物館プロジェクト研究員	同上	29年3月11日～3月18日 (3月13日～17日)

【文化財防災ネットワーク推進本部】4人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	高橋暁	サモア	ユネスコ太平洋事務所企画専門官	「文化遺産防災国際シンポジウム-文化遺産を大災害からどう守るか:ブルーシールドの可能性Ⅱ-」および研究会参加のため	29年3月16日～21日
2	アンドレア・キースカンプ	オランダ	オランダ・ブルーシールド国内委員会副委員長	同上	29年3月16日～21日
3	サミュエル・フランコ・アルチェ	グアテマラ	グアテマラ・ICOM-LAC 委員長	同上	29年3月16日～21日
4	ロナルド・ポルチェリ	サモア	ユネスコ太平洋地域事務所嘱託	同上	29年3月16日～21日

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費助成事業の研究分担者等として参画（延べ人数）

平成29年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
114人	59 人	34人	8人	7人	10人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	55 人	29人		26人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 人				

【東京国立博物館】延べ　34人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	九州国立博物館	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－	九州国立博物館学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男	副館長　松本伸之、企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一、特任研究員　谷豊信、保存修復課環境保存室長　和田浩
2	日本学術会議	博物館・美術館等の組織運営に関する研究	東京大学大学院人文社会系研究科教授　小佐野重利	学芸企画部長　井上洋一
3	日本学術会議	文化財の保護と活用に関する研究	大阪大学大学院文学研究科教授　福永伸哉	学芸企画部長　井上洋一
4	京都国立博物館	河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	京都国立博物館長　佐々木丞平	企画課長　浅見龍介、列品管理課平常展調整室研究員　末兼俊彦
5	九州国立博物館	在欧日本仏教美術の包括的調査･デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究	九州国立博物館長　島谷弘幸	企画課長　浅見龍介、企画課特別展室長　丸山士郎、東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　恵美千鶴子
6	大阪大学	５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	大阪大学大学院文学研究科教授　藤岡穣	企画課長　浅見龍介
7	奈良県立橿原考古学研究所	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示･公開に関する総合的研究	奈良県立橿原考古学研究所特別研究員　今尾文昭	企画課特別展室主任研究員　品川欣也
8	関西大学	古代寺院荘厳具の復元的研究～川原寺裏山遺跡出土金属製品を中心として～	関西大学文学部教授　米田文孝	企画課特別展室主任研究員　市元塁
9	京都国立博物館	東アジアにおける繍仏の基礎的研究（KAKEN2528403）	京都国立博物館学芸部企画室長　伊藤信二	企画課出版企画室主任研究員　猪熊兼樹、列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕、同研究員　末兼俊彦
10	東京大学史料編纂所	東京国立博物館所蔵湿板写真ガラス原板に関する基礎的研究（一般共同研究）	企画課国際交流室主任研究員　遠藤楽子	博物館情報課長　田良島哲、東京大学史料編纂所教授　保谷徹、同准教授　箱石大、同助教　稲田奈津子、同技術専門職員　谷昭佳
11	筑波大学	化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究	筑波大学大学院教授　守屋正彦	博物館教育課教育講座室長　勝木言一郎
12	京都大学	中国典籍日本古写本の研究（KAKEN 25244015）	京都大学人文科学研究所教授　高田時雄	博物館情報課長　田良島哲
13	奈良県立橿原考古学研究所	三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究（科学研究費　基盤研究（B））	奈良県立橿原考古学研究所調査課総括研究員　水野敏典	列品管理課主任研究員　古谷毅
14	国立歴史民俗博物館	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質(科学研究費　基盤研究（B）)	国立歴史民俗博物館考古研究系准教授　上野祥史	列品管理課主任研究員　古谷毅
15	島根大学	山陰地方における既掘考古資料の再検討による歴史文化遺産の活用と地域還元(島根大学　研究･学術研究情報機構 戦略的研究推進センター 萌芽研究部門プロジェクト)	島根大学文学部准教授　岩本崇	列品管理課主任研究員　古谷毅
16	九州国立博物館	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究	九州国立博物館学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ	列品管理課平常展調整室研究員　末兼俊彦
17	東京文化財研究所	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究-大航海時代を中心に-	東京文化財研究所文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	列品管理課平常展調整室研究員　末兼俊彦
18	鹿児島大学	住吉派の模写から見る近世御用絵師の絵画制作研究（科研）	鹿児島大学法文教育学域教育学系教授　下原美保	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也
19	実践女子大学	女性南画家（科研）	実践女子大学文学部教授　仲町啓子	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也
20	天理大学	基盤研究B　「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域紙の再構築	天理大学文学部教授　桑原久男	調査研究課東洋室研究員　小野塚拓造
21	筑波大学	被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究	筑波大学芸術系准教授　松井敏也	保存修復課環境保存室長　和田浩
22	日本大学芸術学部	持続可能型保存ネットワークに関する研究	日本大学芸術学部写真学科教授　高橋則英	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
23	奈良文化財研究所	古代における多様な消失原型法の可能性を探る研究	奈良文化財研究所都城発掘調査部主任研究員　丹羽崇史	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
24	愛知県立芸術大学	「月次祭礼図模本」の総合復元研究	愛知県立芸術大学美術学部准教授　岩永てるみ	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛
25	木更津市郷土博物館金のすず､国立歴史民俗博物館	金鈴塚古墳研究（繊維等の織物資料担当）	金のすず研究員　稲葉昭智､国立歴史民俗博物館考古研究系准教授　上野祥史	客員研究員　沢田むつ代

【京都国立博物館】延べ　8人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	奈良文化財研究所	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	副所長　杉山　宏	学芸部連携協力室長　浅湫　毅
2	富山県立大学	富山・本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の総合的研究	工学部教授　原口志津子	学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
3	大阪大学	5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	文学研究科教授　藤岡　穣	学芸部連携協力室長　浅湫　毅
4	大阪大谷大学	多面的把握に基づく新義真言宗系聖教の解明と公開促進を果たす研究	文学部教授　宇都宮啓吾	学芸部保存修理指導室 主任研究員　羽田　聡
5	東京国立博物館	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相	副館長　松本伸之	学芸部企画室長　伊藤　信二
6	東京国立博物館	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究	学芸研究部主任研究員　沖松健次郎	学芸部企画室長　伊藤　信二
7	東京国立博物館	能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究	学芸企画部企画課長　浅見龍介	学芸部連携協力室長　浅湫　毅
8	京都大学	東アジアにおける仏伝の表象	人文科学研究所准教授　稲本泰生	学芸部保存修理指導室長　大原嘉豊

【奈良国立博物館】延べ　7人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大阪大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	教授　井手誠之輔	学芸部教育室長 谷口　耕生
2	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	教授　井手誠之輔	学芸部情報サービス室研究員 北澤　菜月
3	大阪大学	５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	教授　藤岡　穣	学芸部上席研究員　岩田　茂樹
4	京都大学	東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態	准教授　稲本泰生	学芸部教育室長 谷口　耕生
5	京都大学	東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態	准教授　稲本泰生	学芸部情報サービス室長 岩井　共二
6	福岡県立アジア文化交流センター	国宝桜ケ丘銅鐸の総合診断調査と今後の保存活用　－発見５０年目を迎えるにあたって－	主任研究員　進村真之	学芸部保存修理指導室長 鳥越　俊行
7	北海道博物館	アイヌ民族資料のX線CTによる現況調査および長期保存方針の策定に関する基礎的研究	学芸員　杉山智昭	学芸部保存修理指導室長 鳥越　俊行

【九州国立博物館】延べ　10人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	鹿児島大学	X線CT調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的新研究	総合研究博物館准教授 橋本達也	企画課長兼文化交流展室長 河野一隆
2	東京文化財研究所	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発 －旧修理材料や微生物痕の除去－	保存科学研究センター 修復材料研究室長 早川典子	博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
3	奈良大学	X線CTを核にした3Dデータの活用に基づく文化財の新研究基盤創設	文学部教授　今津節生	博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫
4	熊本大学	阿蘇地域を中心とした古墳時代の九州島における情報伝達・文物交流の実証的研究	文学部准教授　杉井健	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史
5	東京外国語大学	東南アジア史の統合的編年プラットフォームの構築： 「長い12・13世紀」を中心に	大学院総合国際学研究院教授 青山亨	企画課特別展室長 原田あゆみ
6	佐賀大学	史学と自然科学の融合研究で探る幕末明治期における地域鉄産業の変貌と展開	シンクロトロン光応用研究センター研究員　脇田久伸	企画課長兼文化交流展室長 河野一隆
7	東京国立博物館	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相	副館長　松本伸之	学芸部　小泉惠英
8	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	大学院人文科学研究院教授 井手誠之輔	文化財課資料管理室主任研究員 畑靖紀
9	京都国立博物館	河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	館長　佐々木丞平	副館長　伊藤嘉章
10	東亜大学	東アジア文化圏の形成に果たした漢代郡県都市に関する学際的研究	人間科学部教授　黄暁芬	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史

【東京文化財研究所】延べ　29人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	早稲田大学	エジプト､ルクソール西岸の新王国時代岩窟墓の形成と発展に関する調査研究	文学学術院教授　近藤二郎	文化遺産国際協力センター研究員 前川佳文
2	奈良文化財研究所	アンコール遺跡群を事例とした考古情報資源共有化に関する研究	企画調整部国際遺跡研究室長 森本晋	特任研究員　川野邊渉
3	九州国立博物館	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討	学芸部博物館科学課長　木川りか	保存科学研究センター分析科学研究室長　犬塚将英
4	九州国立博物館	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討	学芸部博物館科学課長　木川りか	保存科学研究センター主任研究員 佐藤嘉則
5	三重大学	耐震的に脆弱な文化財組積造建造物の被災後の保存修復法	工学研究科教授　花里利一	保存科学研究センター主任研究員 森井順之
6	東北大学	仏像の表象機能に関わる総合的調査研究―空間・荘厳・胎内に着目して	文学研究科名誉教授　有賀祥隆	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英
7	大阪大学	５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	文学研究科教授　藤岡穣	文化財情報資料部主任研究員　皿井舞
8	東京国立博物館	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　沖松健次郎	文化財情報資料部日本東洋美術史研究室長　小林達朗
9	帝京大学	中央アジア､シルクロード拠点都市と地域社会の発展過程に関する考古学的研究	文化財研究所教授　山内和也	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　久米正吾
10	東京藝術大学	光に脆弱な文化財材料の光劣化機構の研究-低酸素環境での劣化挙動と波長依存性-	大学院美術研究科准教授　塚田全彦	文化財情報資料部長　佐野千絵
11	早稲田大学	近松没後義太夫節浄瑠璃作品のデジタル･アーカイブを利用した包括的研究	坪内博士記念演劇博物館名誉教授　鳥越文蔵	無形文化遺産部長　飯島満
12	東京大学	「図書館資料保存論」に関する基礎的研究	大学院経済学研究科(経済学部)講師　小島浩之	文化財情報資料部長　佐野千絵

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
13	大谷大学	モンゴルの世界遺産「大ブルカン・カルドゥン山」に関する学融合的研究	文学部教授　松川節	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子
14	法政大学	能楽および能楽研究の国際的定位と新たな参照標準確立のための基盤研究	能楽研究所教授　山中玲子	特任研究員　高桑いづみ
15	京都大学	真言密教寺院の史料調査に基づく分野横断的綜合研究―新たな仏教思想史の枠組を求めて	文学研究科教授　上島亨	文化財情報資料部主任研究員　皿井舞
16	東京外国語大学	東南アジア史の統合的編年プラットフォームの構築：「長い12・13世紀」を中心に	大学院総合国際学研究院教授　青山亨	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　佐藤桂
17	九州大学	未解読楽譜研究のための情報検索システムの構築	芸術工学研究院教授　矢向正人	特任研究員　高桑いづみ
18	東京藝術大学	バーナード・ベレンソンと矢代幸雄の往復書簡に関する研究	美術学部教授　越川倫明	副所長　山梨　絵美子
19	東京大学史料編纂所	日本絵画の〈復元〉に関する基礎的研究	研究員　鷹野佳世子	保存科学研究センター保存科学研究室長　吉田直人
20	信州大学	平安時代における「国風」的文化現象についての学際的研究	学術研究院人文科学系准教授　佐藤全敏	文化財情報資料部主任研究員　皿井舞
21	大谷大学	モンゴル国カラコルム博物館における歴史研究を基軸とした情報化と国際協働の推進	文学部教授　松川節	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子
22	奈良文化財研究所	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	副所長　杉山洋	無形文化遺産部音声映像記録研究室長　石村智
23	関西外国語大学	ミクロネシアにおける巨石文化の成立と社会複雑化のプロセスを探る考古学的研究	国際言語学部教授　片岡修	無形文化遺産部音声映像記録研究室長　石村智
24	国立民族学博物館	ミュージアムと研究機関の協働による制作者情報の統合	先端人類科学研究部准教授　丸川雄三	文化財情報資料部研究員　橘川英規
25	龍谷大学	文化財建造物の伝統的な塗装彩色材料の再評価と保存・修理・資料活用に関する研究	文学部教授　北野信彦	保存科学研究センター分析科学研究室長　犬塚将英
26	龍谷大学	文化財建造物の伝統的な塗装彩色材料の再評価と保存・修理・資料活用に関する研究	文学部教授　北野信彦	保存科学研究センター保存環境研究室長　吉田直人
27	東京大学	観世家のアーカイブの形成と室町期能楽の新研究	大学院総合文化研究科教授　松岡心平	特任研究員　高桑いづみ
28	愛知県立芸術大学	絵画表現における風土と技術-膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究-	美術学部教授　北田克己	保存科学研究センター修復材料研究室長　早川典子
29	東京国立博物館	ディルムン文明の起源―バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究―	客員研究員　後藤健	文化遺産国際協力センター研究員　安倍雅史

【奈良文化財研究所】延べ　26人

○科学研究費補助金　延べ　23人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	日本目録学の確立と古典学研究支援ツールの拡充 ―天皇家・公家文庫を中心に―	教授　田島　公	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
2	立命館大学	古代中世東アジアの関所と交通政策	教授　鷹取　祐司	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
3	京都工芸繊維大学	近代日本の博覧会における建築展示に関する研究	教授　石田　潤一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　高妻　洋成
4	東京大学	歴史知識情報のオープンデータ化に向けたスキームと情報利活用手法の再構築	教授　久留島　典子	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
5	奈良大学	文字文化からみた東アジア社会の比較研究	教授　角谷　常子	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉 晃宏
6	山口大学	東アジアにおける都城と葬地の政治的・社会的関連に関する比較史的総合研究	教授　橋本　義則	都城発掘調査部考古第二研究室研究員　小田　裕樹
7	京都大学	古代「仏都圏」の社会と文化に関する地域史的・比較史的研究	教授　吉川　真司	都城発掘調査部主任研究員 山本　崇
8	大阪大学	モンゴル東部新発見の突厥碑文調査と遺跡保護に関する考古学・歴史学的研究	教授　大澤　孝	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー 山口　欧志
9	橿原考古学研究所	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究	特別研究員　今尾　文昭	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員 柳田　明進
10	歴史民俗博物館	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質	准教授　上野　祥史	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　諫早　直人
11	元興寺文化財研究所	出土青銅製文化財の保存処理に使用されたアクリル樹脂の劣化について	研究員　植田　直見	埋蔵文化財センター客員研究員 難波　洋三
12	奈良県立橿原考古学研究所	古墳時代中期における甲冑生産組織の研究－「型紙」と製作工程の分析を中心として－	総括研究員　吉村　和昭	企画調整部客員研究員 小林　謙一
13	京都大学	オントロジー指向による考古遺跡情報の知識体系化－東南アジア大陸部を事例に－	研究員　柴山　守	企画調整部部長 森本　晋
14	京都大学	覆屋とその周辺地盤が露出展示遺構の劣化に及ぼす影響に関する検討	教授　鉾井　修一	埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷　草一郎
15	京都大学	古代・中世東西回廊－ミャンマー・タイ跨境における文化交流・交易網の歴史的動態－	研究員　柴山　守	副所長 杉山　洋
16	奈良県立橿原考古学研究所	三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究	係長　水野　敏典	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員 柳田　明進
17	法政大学	物質文化と精神文化の交流と断絶からみた、海峡を繋ぐ「北の内界世界」の総合的研究	教授　小口　雅史	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　田村　朋美

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
18	京都橘大学	ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築	教授　一瀬　和夫	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　諫早　直人
19	帝京大学	中央アジア、シルクロード拠点都市と地域社会の発展過程に関する考古学的研究	教授　山内　和也	都城発掘調査部考古第二研究室研究員　山藤　正敏
20	東北大学	年輪幅・酸素安定同位体比標準年輪曲線ネットワーク構築とそれに基づく木材産地推定	助教　大山　幹成	埋蔵文化財センター年代学研究室研究員　星野　安治
21	東京文化財研究所	ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究	所長　亀井　伸雄	都城発掘調査部遺構研究室研究員　海野　聡
22	大谷大学	モンゴルの世界遺産「大ブルカン・カルドゥン山」に関する学融合的研究	教授　松川　節	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー　山口　欧志
23	お茶の水女子大学	民族考古学と化学分析からさぐる生業活動の諸相	特任准教授　細谷　葵	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　庄田　慎矢

○学術研究助成基金助成金　延べ　3人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	埼玉大学	楽浪郡存続期における鉄器と玉類の流通網及び技術移転に関する包括的研究	准教授　中村　大介	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　田村　朋美
2	東京文化財研究所	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	修復材料研究室長　朽津信明	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷　草一郎
3	奈良女子大学	玉類の生産および流通と社会変化の因果関係に関する考古科学的研究	特任講師　大賀　克彦	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　田村　朋美

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】0人

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

平成29年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
427人	164 人	60人	21人	16人	67人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	239 人	131人		108人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		文化財防災ネットワーク推進本部		
	20 人		4 人		

【東京国立博物館】延べ　60人（科学研究費助成事業、その他助成金を除く）

（参考：科学研究費助成事業、その他助成金を含む合計人数は96人）

○海外交流展経費・招へい共通事業費　44人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	鬼頭　智美	イギリス、アイルランド	4 月 10 日～4 月 18 日	国際展覧会オーガナイザー会議へ出席のため	海外交流展経費	
2	井上　洋一	タイ	4月27日～5月1日	タイ展展示会場の視察及び調査のため	同上	
3	田沢　裕賀	タイ	4月27日～5月1日	同上	同上	
4	楊　鋭	中国	5月9日～5月12日	上海博物館における醍醐寺展開会式に出席する銭谷館長の随行のため	同上	
5	田沢　裕賀	中国	5月10日～5月12日	日中韓絵画精品展展示会場の視察のため	同上	
6	和田　浩	中国	5月10日～5月12日	同上	同上	
7	矢野　賀一	中国	5月10日～5月12日	同上	同上	
8	西木　政統	韓国	5月17日～5月24日	韓国国立中央博物館にて開催する「韓日国宝半跏思惟像の出会い」にかかる作品輸送及び展示作業のため	同上	
9	丸山　士郎	韓国	5月19日～5月24日	韓国国立中央博物館にて開催する「韓日国宝半跏思惟像の出会い」にかかる展示作業のため	同上	
10	井上　洋一	韓国	5月22日～5月23日	韓国国立中央博物館にて開催する「韓日国宝半跏思惟像の出会い」開会式出席のため	同上	
11	丸山　士郎	韓国	6月12日～6月15日	韓日半跏思惟像の出会いにかかる撤収作業及び輸送のため	同上	
12	西木　政統	韓国	6月12日～6月15日	同上	同上	
13	矢野　賀一	ドイツ、オーストリア、スイス	6月17日～6月26日	ヨーロッパの博物館及び美術館の展示に関する調査のため（平成28年度海外派遣）	招へい共通事業費	
14	楊　鋭	中国	7月26日～7月29日	陝西歴史博物館開催の海外展「渡海梵音：醍醐寺芸術珍宝展」の開会式随行のため	海外交流展経費	
15	楊　鋭	中国	8月23日～8月26日	中国国立絲綢博物館開催の特別展「絹の世界」展示作業にかかる通訳のため	同上	
16	猪熊　兼樹	タイ	9月5日～9月12日	タイ展にかかる会議出席及び作品調査のため	同上	
17	末兼　俊彦	タイ	9月5日～9月12日	同上	同上	
18	松本　伸之	中国	9月21日～9月24日	国際館長フォーラム及び中国国立絲綢博物館開催の特別展「絹の世界」開幕式等の出席のため	同上	
19	恵美　千鶴子	韓国	9月21日～9月28日	韓国・国立中央博物館と当館との2016年度学術交流のため	招へい共通事業費	
20	楊　鋭	中国	10月27日～11月6日	国家博物館開催「15-19世紀日中韓絵画精品展」展示作業及び日中韓館長会議にかかる通訳・随行のため	海外交流展経費	
21	井上　洋一	中国	11月3日～11月6日	日中韓館長会議及び「15-19世紀日中韓絵画精品展」開会式出席のため	同上	
22	市元　塁	中国	11月4日～11月7日	国家博物館開催「15-19世紀日中韓絵画精品展」開会式出席及び大三国志展打合せのため	同上	
23	藤瀬　雄輔	タイ	11月13日～11月23日	タイ展出品作品の調査・撮影のため	同上	
24	荒木　臣紀	韓国	11月14日～11月21日	韓国・国立中央博物館と当館との2016年度学術交流のため	招へい共通事業費	
25	末兼　俊彦	タイ	11月15日～11月21日	タイ展出品作品の調査・撮影のため	海外交流展経費	
26	富田　淳	台湾	11月27日～11月29日	特別展「顔真卿と唐時代の書」(仮称)出陳交渉のため	同上	
27	酒井　元樹	台湾	11月29日～12月2日	國立故宮博物院開催「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」にかかる展示作業のため	同上	
28	丸山　士郎	台湾	12月1日～12月5日	國立故宮博物院開催「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」にかかる展示作業のため	海外交流展経費	
29	小山　弓弦葉	タイ	12月20日～12月24日	バンコク国立博物館開催の展覧会にかかる打ち合わせ及びタイ展作品調査のため	同上	
30	矢野　賀一	タイ	12月20日～12月23日	バンコク国立博物館開催の展覧会にかかる視察及び打ち合わせのため	同上	
31	沖松　健次郎	タイ	12月20日～12月23日	同上	同上	
32	井上　洋一	中国	29 年 1 月 23 日～1 月 25 日	展覧会視察及び打ち合わせのため	同上	
33	楊　鋭	中国	29年1月23日～1月25日	同上	同上	
34	小野塚　拓造	中国	29年1月23日～1月25日	同上	同上	
35	白井　克也	米国	29年1月31日～2月4日	作品調査のため	招へい共通事業費	
36	小野塚　拓造	米国	29年1月31日～2月4日	同上	同上	
37	鈴木　希帆	米国	29年1月31日～2月4日	同上	同上	
38	矢野　賀一	米国	29年2月14日～2月17日	日本展開催に伴う展示環境調査及び展覧会打合せのため	海外交流展経費	
39	鬼頭　智美	米国	29年2月26日～3月3日	作品調査並びに特別展「マルセル・デュシャンと日本美術（仮称）」に関する打合せのため	同上	
40	松嶋　雅人	米国	29年2月26日～3月3日	同上	同上	
41	沖松　健次郎	台湾	29年3月6日～3月11日	國立故宮博物院開催「日本美術の粋　東京・九州国立博物館精品展」にかかる撤収作業のため	同上	
42	君波　妙子	中国・韓国	29年3月7日～3月12日	当館と中国・韓国の博物館との学術交流にかかる面談及び視察のため	招へい共通事業費	
43	藤田　千織	中国	29年3月22日～3月28日	中国・上海博物館と当館との2016年度学術交流のため	同上	
44	六人部　克典	中国	29年3月22日～3月28日	同上	同上	

○職員旅費（その他）：延べ16人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	松本　伸之	中国	5 月 9 日～5 月 11 日	上海博物館における醍醐寺展の開会式典に出席のため	副館長裁量経費	
2	松本　伸之	韓国	5月21日～5月23日	韓国国立中央博物館にて開催する「韓日国宝半跏思惟像の出会い」開会式出席のため	同上	
3	和田　浩	ドイツ	6 月 18 日～6 月 23 日	海外美術博物館の展示施設に関する調査のため	環境保全費	
4	松本　伸之	中国	7 月 26 日～7 月 29 日	陝西歴史博物館開催の海外展「渡海梵音：醍醐寺芸術珍宝展」の開会式随行のため	副館長裁量経費	
5	松本　伸之	中国	11月2日～11月7日	展覧会協議、日中韓館長会議、日中韓絵画展開幕式典出席のため	総務課運営費	
6	遠藤　楽子	中国	11月9日～11月12日	ユネスコ博物館長レベル会議の通訳のため	館長裁量経費	
7	矢野　賀一	ドイツ	29 年 2 月 8 日～2 月 12 日	展示室リニューアルに伴う展示環境調査のため	環境保全費	
8	和田　浩	タイ	29年2月14日～2月17日	バンコク国立博物館の施設環境調査のため	同上	
9	金井　裕子	米国	29年2月22日～2月26日	館蔵品に関連する調査研究及びやまと絵研究のため	館内調査研究等	
10	井上　洋一	イタリア	29年2月28日～3月6日	特別展開催に向けての打ち合わせならびに作品調査のため	館長裁量経費	
11	小野塚　拓造	イタリア	29年2月28日～3月6日	同上	同上	
12	富田　淳	中国	29年3月7日～3月12日	特集「上海博物館との競演」にかかる返却作業のため	文化財活用基金	
13	市元　塁	中国	29年3月7日～3月12日	同上	同上	
14	楊　鋭	中国	29年3月7日～3月11日	同上	同上	
15	六人部　克典	中国	29年3月7日～3月12日	同上	同上	
16	小山　弓弦葉	中国	29年3月8日～3月11日	同上	同上	

○科学研究費助成事業：延べ32人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	和田　浩	イタリア	7 月 3 日～7 月 6 日	ICOM 世界大会への参加のため	科学研究費	
2	和田　浩	中国	7月14日～7月18日	中国における文化財輸送時の振動計測のため	科学研究費	
3	高橋　裕次	ドイツ、イタリア	7月24日～7月31日	科学研究費による調査のため	同上	
4	鬼頭　智美	ドイツ、イタリア	7月24日～7月31日	同上	同上	
5	小野塚　拓造	イスラエル	7月29日～8月21日	同上	同上	
6	高橋　裕次	米国	8月10日～8月18日	同上	同上	
7	富田　淳	中国	8月16日～8月23日	同上	同上	
8	関　紀子	中国	8月16日～8月23日	同上	同上	
9	古谷　毅	韓国	8月23日～8月28日	科研調査及び研究会のため	同上	
10	猪熊　兼樹	中国	9月17日～9月23日	科学研究費による調査のため	同上	
11	末兼　俊彦	ポルトガル	9月18日～9月25日	同上	同上	
12	和田　浩	フランス	9月27日～10月2日	ICOM-CC国際会議への参加のため	同上	
13	神庭　信幸	米国	10月23日～10月30日	講演及び科研調査のため	同上	
14	小山　弓弦葉	米国	10月31日～11月7日	科学研究費による作品調査のため	同上	
15	田良島　哲	米国	11月1日～11月6日	科学研究費による調査のため	同上	
16	白井　克也	米国	11月1日～11月6日	同上	同上	
17	富田　淳	中国	11月20日～11月25日	同上	同上	
18	関　紀子	中国	11月20日～11月25日	同上	同上	
19	和田　浩	中国	11月21日～11月23日	中国国家博物館における資料調査のため	同上	
20	矢野　賀一	中国	11月21日～11月23日	同上	同上	
21	鬼頭　智美	米国	12月6日～12月13日	科学研究費による調査のため	同上	
22	丸山　士郎	中国	12月20日～12月21日	故宮博物院特別展「梵天東土 并蒂蓮華」熟覧のため	同上	
23	西木　政統	中国	12月20日～12月21日	同上	同上	
24	古谷　毅	韓国	29 年 2 月 1 日～2 月 5 日	科研調査及び研究会のため	同上	
25	和田　浩	ドイツ	29年2月8日～2月12日	Pinakothek der ModerneおよびMunchner Stadtmuseumにおける調査と情報収集のため	同上	
26	田良島　哲	台湾	29年2月9日～2月12日	科学研究費による調査のため	同上	
27	鬼頭　智美	台湾	29年2月9日～2月12日	同上	同上	
28	楊　鋭	台湾	29年2月9日～2月12日	同上	同上	
29	丸山　士郎	スリランカ	29年2月25日～3月2日	同上	同上	
30	西木　政統	スリランカ	29年2月25日～3月2日	同上	同上	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
31	和田　浩	スペイン	29年3月5日～3月11日	International Safe Transit Association European Packaging Symposiumへの参加及び研究成果発表のため	同上	
32	瀬谷　愛	米国	29年3月24日～3月31日	研究発表及び調査のため	同上	

○その他助成金：延べ4人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	ミウォシュ・ヴォズニ	米国	5 月 30 日～6 月 5 日	ハーバード大学、ボストン美術館における調査のため	公益財団法人出光文化福祉財団助成金	
2	敕仁郷　秀明	ドイツ、オーストリア、スイス、イギリス	6月17日～6月28日	ヨーロッパの博物館及び美術館の展示に関する調査のため	地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業補助金	
3	ミウォシュ・ヴォズニ	イギリス	6月24日～6月28日	ヨーロッパの博物館及び美術館の展示に関する調査のため	地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業補助金	
4	ミウォシュ・ヴォズニ	米国	29年3月23日～3月26日	作品調査及び視察のため	公益財団法人出光文化福祉財団助成金	

【京都国立博物館】延べ　21人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	山本　英男	アメリカ	4月13日～21日	海北友松展作品調査及び出品交渉	寄付金	
2	リンネマリサ	アメリカ	4月14日～21日	海北友松展作品調査補助、戦時写真記録展覧会視察	同上	
3	佐々木　丞平	中国	5月9日～12日	「菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝展」開会式出席及び視察	他機関負担	
4	リンネマリサ	アメリカ	5月24日～31日	アメリカ博物館協会大会にて発表及び2019年ICOM京都大会広報	他機関負担	
5	佐々木　丞平	イタリア	7月2日～11日	ICOMミラノ大会出席	他機関負担	
6	山川　暁	イタリア	7月3日～11日	ICOMミラノ大会及び分科会出席、発表、施設見学	他機関負担	
7	永島　明子	イタリア	7月2日～11日	同上	同上	
8	リンネマリサ	イタリア	7月2日～11日	ICOMミラノ大会出席及び視察	運営費交付金	
9	伊藤　嘉章	イタリア	7月2日～7日	ICOMミラノ大会出席及び視察	同上	
10	淺湫　毅	中国	7月11日～16日	「菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝展」出品作品撤収作業	他機関負担	
11	大原　嘉豊	中国	7月20日～26日	「梵音東海：日本醍醐寺国宝展」の展示作業のため	同上	
12	伊藤　信二	中国	7月21日～26日	同上	同上	
13	佐々木　丞平	中国	7月26日～29日	「梵音東海：日本醍醐寺国宝展」開会式出席及び視察	同上	
14	淺湫　毅	イタリア	8月28日～9月5日	文化庁主催海外展「日本仏像展」開催に伴う会場運営	同上	
15	井並　林太郎	中国	9月17日～23日	寺院・博物館の仏教美術調査	科学研究費助成事業	
16	伊藤　信二	中国	9月18日～26日	寺院・博物館の仏教美術調査、「醍醐寺展」の作品撤収作業	同上	
17	佐々木　丞平	クロアチア	9月20日～26日	「The Best in Heritage」開幕式出席、「京都景観賞」発表	他機関負担	
18	大原　嘉豊	中国	9月20日～26日	「梵音東海：日本醍醐寺国宝展」の展示撤収作業のため	同上	
19	呉　孟晋	中国	11月2日～6日	国際シンポジウム「斉白石芸術的現代性与世界性」参加・発表	同上	
20	呉　孟晋	台湾	12月21日～23日	「公主的雅集：蒙元皇室与書画鑑蔵文化特展」参観及び作品調査	科学研究費助成事業	
21	大原　嘉豊	中国	29年3月8日～10日	「東アジア美術における仏伝の表象」調査研究	科学研究費助成事業	

【奈良国立博物館】延べ　16人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	岩井　共二	中国	8月1日～8月15日	中国河南博物院との協定に基づく学術交流	他機関負担	河南博物院（中国）
2	伊藤　久美	韓国	11月28日～12月26日	韓国国立慶州博物館との協定に基づく学術交流	同上	国立慶州博物館（韓国）
3	北澤　菜月	中国	29年1月11日～1月20日	中国上海博物館との協定に基づく学術交流	同上	上海博物館他（中国）
4	堀内　しきぶ	中国	29年1月11日～1月20日	同上	同上	同上

・その他の調査等のための海外渡航実績

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
5	湯山　賢一	中国	5月9日～5月12日	上海博物館特別展「醍醐寺展」開会式、レセプションに出席	他機関負担	上海博物館、揚州博物館他（中国）
6	堀内　しきぶ	イタリア	7月3日～7月11日	ICOMミラノ大会参加	運営費交付金	Milano Congressi（イタリア）
7	岩田　茂樹	イタリア	7月13日～8月1日	文化庁海外展　作品輸送随行・展示作業	他機関負担	ローマ市立クイリナーレ宮美術館（イタリア）
8	谷口　耕生	アメリカ	8月28日～9月4日	科研費「春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究」に係る仏教美術調査	科学研究費助成事業	ブルックリン美術館、アジアソサエティー他（アメリカ）

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
9	北澤　菜月	アメリカ	8月28日～9月4日	科研費「春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究」に係る仏教美術調査	同上	同上
10	山口　隆介	アメリカ	8月28日～9月4日	同上	同上	同上
11	伊藤　久美	アメリカ	8月28日～9月4日	同上	同上	同上
12	岩田　茂樹	台湾	12月19日～12月22日	古代日本美術の源流に関する調査研究	他機関負担	故宮博物院、国立歴史博物館（台湾）
13	北澤　菜月	台湾	12月24日～12月26日	科研費「作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究」に伴う文化財調査	科学研究費助成事業（分担）	同上
14	田澤　梓	台湾	12月24日～12月26日	メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成「8世紀に制作された鏡の図像の意味－法隆寺献納宝物海磯鏡を中心に」に係る文化財調査	助成金（メトロポリタン東洋美術研究センター）	同上
15	田澤　梓	中国	12月29日～1月2日	同上	同上	上海博物館、龍博物館、蘇州博物館他（中国）
16	谷口　耕生	中国	29年3月8日～3月10日	科研費「作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究」に伴う現地調査	科学研究費助成事業（分担）	上海博物館、浙江省博物館他（中国）

【九州国立博物館】延べ　67人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	臺信裕爾	中国	4月14日～19日	「図書館・文書館所蔵文化財保存に関する高精細画像技術シンポジウム」における招待講演	他機関負担	
2	小泉惠英	韓国	4月17日～19日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」に係る協力依頼・協議および交流事業に係る協議	運営費交付金	
3	島谷弘幸	韓国	4月17日～19日	同上	運営費交付金	
4	岸本圭	韓国	4月17日～21日	同上	他機関負担	アジア文化交流センター負担
5	小嶋篤	韓国	4月17日～21日	同上	他機関負担	アジア文化交流センター負担
6	赤田昌倫	タイ王国	4月27日～30日	日タイ修好130周年特別展「タイ～仏の国の輝き～」展に係る調査および協議	運営費交付金	
7	秋山純子	タイ王国	4月27日～30日	同上	運営費交付金	
8	小泉惠英	タイ王国	4月27日～5月8日	日タイ修好130周年特別展「タイ～仏の国の輝き～」展に係る調査および協議、基盤（B）「日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究」に係る調査	運営費交付金および科学研究費助成事業（分担）	
9	原田あゆみ	タイ王国	4月27日～5月8日	同上	運営費交付金および科学研究費助成事業	
10	望月規史	タイ王国	4月27日～5月8日	同上	運営費交付金および科学研究費助成事業（分担）	
11	島谷弘幸	中国	5月9日～12日	上海博物館での醍醐寺展開会式出席および大明寺視察	他機関負担	
12	川村佳男	中国	5月18日～23日	基盤（B）「極薄青銅器と響銅を対象とした製作技術の比較-東アジア金属工芸史の再構築-」に係る調査および打ち合わせ	科学研究費助成事業	
13	小泉惠英	イタリア	6月23日～29日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業に係る現地調査	受託経費（文化庁）	
14	佐々木蘭貞	イタリア	6月23日～29日	同上	受託経費（文化庁）	
15	島谷弘幸	イタリア	6月30日～7月11日	皇室用美術工芸品の修理の指導／ICOM世界大会出席	他機関負担および運営費交付金	
16	鷲頭桂	ロシア	7月10日～14日	海外ミュージアム日本専門家連携・交流事業に伴う海外調査	他機関負担	
17	楠井隆志	中国	7月19日～24日	海外展「渡海梵音：醍醐寺芸術珍宝展」に係る展示作業	他機関負担	
18	森實久美子	中国	7月21日～27日	同上	他機関負担	
19	進村真之	韓国	8月2日～5日	沖ノ島展に係る協議	他機関負担	アジア文化交流センター負担
20	楠井隆志	イタリア	8月7日～21日	文化庁海外展における在番	他機関負担	
21	八尋智之	韓国	9月12日～18日	学術文化交流事業に基づく研究者等の交流	他機関負担	アジア文化交流センター負担
22	久保田和之	韓国	8月12日～25日	同上	他機関負担	アジア文化交流センター負担
23	進村真之	韓国	8月18日～21日	基盤（B）「国宝桜ヶ丘銅鐸の総合診断調査と今後の保存活用―発見50年目を迎えるにあたって―」に係る学会参加	科学研究費助成事業	
24	小泉惠英	中国	8月18日～21日	瀋陽故宮展に係る打ち合わせ・調査	運営費交付金	
25	川村佳男	中国	8月18日～25日	同上	運営費交付金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
26	落合晴彦	韓国	8月19日～25日	学術文化交流事業に基づく研究者等の交流	運営費交付金	
27	畑靖紀	中国	8月20日～23日	海外展「渡海梵音：醍醐寺芸術珍宝展」に係る展示替え作業	他機関負担	
28	原田あゆみ	中国	8月21日～25日	瀋陽故宮展に係る打ち合わせ・調査	運営費交付金	
29	小嶋篤	韓国	8月28日～31日	資料調査	他機関負担	アジア文化交流センター負担
30	小泉惠英	タイ王国	9月5日～13日	日タイ修好130周年特別展「タイ～仏の国の輝き～」展に係る調査および協議、文化庁海外展「日本美術の流れ（仮称）」展にかかる調査および協議	運営費交付金	
31	原田あゆみ	タイ王国	9月5日～13日	同上	運営費交付金	
32	島谷弘幸	中国	9月12日～16日	博物館事業に係る協議および中国博物館博覧会参加	運営費交付金	
33	河野一隆	中国	9月12日～16日	同上	運営費交付金	
34	原田あゆみ	中国	9月20日～26日	海外展「渡海梵音：醍醐寺芸術珍宝展」に係る撤収作業	他機関負担	
35	鷲頭桂	韓国	9月25日～27日	特別展「高山寺」展に係る集荷作業	運営費交付金	
36	小泉惠英	韓国	9月28日～10月2日	ヨンウォル国際博物館フォーラム出席のため	他機関負担	
37	志賀智史	ベトナム	10月5日～8日	ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流に係る修理事業調査	運営費交付金	
38	鷲頭桂	ポルトガル	10月11日～11月9日	協議および特別展「新・桃山展」に係る展示調査	運営費交付金	
39	酒井田千明	ポルトガル	10月15日～23日	特別展「新・桃山展」作品調査	運営費交付金	
40	畑靖紀	ポルトガル	10月15日～23日	同上	運営費交付金	
41	川村佳男	中国	10月17日～31日	基盤（B）「極薄青銅器と響銅を対象にした制作技術の比較－東アジア金属工芸史の再構築－」に係る学会参加	他機関負担および科学研究費助成事業	
42	志賀智史	ベトナム	10月23日～26日	ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流に係る修理事業調査	運営費交付金	
43	佐々木蘭貞	韓国	10月25日～29日	新案沈没船発掘40周年シンポジウム講演	他機関負担	
44	河野一隆	インドネシア	10月29日～11月2日	基盤（B）「史学と自然科学の融合研究で探る幕末明治期における地域鉄産業の変貌と展開」に係る調査	科学研究費助成事業（分担）	
45	島谷弘幸	中国	11月21日～23日	瀋陽故宮博物院との学術文化交流協定締結のため	運営費交付金	
46	川村佳男	中国	11月21日～23日	同上	運営費交付金	
47	西島亜木子	台湾	11月24日～28日	教育普及国際シンポジウム参加および教育普及に係る調査	他機関負担	
48	望月規史	台湾	11月29日～12月6日	台湾故宮博物院南院展展示作業	他機関負担	
49	島谷弘幸	台湾	12月11日～13日	同上	運営費交付金	
50	伊藤嘉章	台湾	12月11日～13日	同上	運営費交付金	
51	小泉惠英	台湾	12月11日～13日	同上	運営費交付金	
52	井上裕介	台湾	12月11日～13日	同上	運営費交付金	
53	今井涼子	韓国	12月18日～20日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」に係る作品借用	他機関負担	アジア文化交流センター負担
54	原田あゆみ	タイ王国	12月20日～24日	日タイ修好130周年特別展「タイ～仏の国の輝き～」展および文化庁海外展「日本美術の流れ（仮）」に係る協議	運営費交付金	
55	西島亜木子	タイ王国	29年1月16日～21日	日タイ修好130周年特別展「タイ ～仏の国の輝き～」展に係る教育普及調査のため	運営費交付金	
56	望月規史	台湾	29年1月21日～25日	台湾故宮博物院南院展展示替え作業	他機関負担	
57	楠井隆志	台湾	29年2月10日～12日	福岡県知事の故宮博物院および南院處の表敬訪問に係るアテンド	他機関負担	アジア文化交流センター負担
58	秋山純子	タイ王国	29年2月14日～17日	文化庁海外展「日本美術の流れ（仮）」に係る環境調査	運営費交付金	
59	臺信裕爾	韓国	29年2月21日～24日	アジア諸国の文化財防災に関する調査・情報収集	平成28年度文化芸術振興費補助金	
60	三角菜緒	韓国	29年2月21日～24日	同上	平成28年度文化芸術振興費補助金	
61	進村真之	韓国	29年2月21日～24日	同上	平成28年度文化芸術振興費補助金	
62	川村佳男	中国	29年2月22日～25日	基盤（B）「極薄青銅器と響銅を対象にした制作技術の比較－東アジア金属工芸史の再構築－」に係る協議	科学研究費助成事業	
63	島谷弘幸	ドイツ・スイス	29年3月6日～12日	基盤（A）「在欧日本仏教美術の包括的調査・ﾃﾞｼﾞﾀﾙ化とそれに基づくｼﾞｬﾎﾟﾆｽﾞﾑの総合研究」に係る調査	科学研究費助成事業	
64	森實久美子	ドイツ・スイス	29年3月6日～12日	同上	科学研究費助成事業（分担）	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
65	今井涼子	韓国	29年3月8日～10日	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」に係る作品返却	他機関負担	アジア文化交流センター負担
66	小泉惠英	タイ王国	29年3月10日～24日	日タイ修好130周年特別展「タイ ～仏の国の輝き～」展に係る作品借用・輸送作業	運営費交付金	
67	原田あゆみ	タイ王国	29年3月10日～27日	同上	運営費交付金	

【東京文化財研究所】延べ　131人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	安倍　雅史	イラン、アルメニア	9月26日～10月6日	イラン・アルメニアにおける相手国調査	運営交付金	
2	安倍　雅史	イラン	12月20日～12月27日	国立博物館所蔵資料の分析	科学研究費	
3	安倍　雅史	バーレーン	29年1月5日～1月31日	ワーディー・アッ＝サイル古墳群の発掘調査	科学研究費(分担金)	
4	飯島　満	韓国	8月29日～8月31日	韓国国立無形遺産院との共同研究会に参加	運営交付金	
5	石田　真弥	スウェーデン、ドイツ、イギリス、イタリア、ギリシャ	9月18日～10月7日	近代文化遺産(美術工芸品)の保存活用に関する海外事例調査	受託(文化庁) 運営交付金	
6	石村　智	グアム	5月21日～5月29日	太平洋芸術祭でのワークショップ参加および準備	受託(文化庁)	
7	石村　智	フィリピン	7月3日～7月8日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメント」事業で実施するフィリピン調査への参加	他機関負担	
8	石村　智	キリバス共和国	8月16日～8月23日	スカイスケープ科研の調査協力	他機関負担	
9	石村　智	韓国	8月29日～8月31日	韓国国立無形遺産院との共同研究会に参加	運営交付金	
10	石村　智	ネパール	10月4日～10月9日	カトマンズ・コカナにおける無形文化遺産(祭礼)の調査	受託(文化庁)	
11	石村　智	フィジー共和国	10月22日～10月30日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメント」事業で実施するフィジー調査への参加	他機関負担 受託(文化庁)	
12	石村　智	カンボジア	12月10日～12月15日	科研費によるポスト・アンコール期遺跡の調査	科学研究費(分担金)	
13	今石　みぎわ	韓国	8月29日～8月31日	韓国国立無形遺産院との共同研究会に参加	運営交付金	
14	元　喜載	ドイツ	7月3日～7月17日	ワークショップ「日本の紙本絹本文化財の保存と修復」開催	文化財保存活用基金	
15	元　喜載	メキシコ	11月7日～11月27日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営交付金	
16	元　喜載	ドイツ	29年2月27日～3月3日	日本絵画作品の調査	運営交付金	
17	元　喜載	アメリカ	29年3月21日～3月24日	絵画作品調査	運営交付金	
18	江村　知子	ドイツ	12月2日～12月9日	漆工品の保存と修復ワークショップの運営の補佐	文化財保存活用基金	
19	江村　知子	ドイツ	29年2月27日～3月4日	日本絵画作品の調査	運営交付金	
20	江村　知子	アメリカ	29年3月21日～3月24日	絵画作品調査	運営交付金	
21	岡田　健	アメリカ	4月30日～5月9日	アメリカの美術館等所蔵の中国仏教造像及び造像銘の調査	他機関負担	
22	岡田　健	中国	29年1月10日～1月17日	敦煌研究院保護研究所共同研究室の廃止にともなう整理作業､情報収集	運営交付金	
23	小田　桃子	ドイツ	7月3日～7月17日	ワークショップ「日本の紙本絹本文化財の保存と修復」開催	文化財保存活用基金	
24	小田　桃子	台湾	8月9日～8月13日	国際研修「染織品の保存と修復」事業の為の協議	文化財保存活用基金	
25	小田　桃子	メキシコ	11月7日～11月19日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営交付金	
26	加藤　雅人	ドイツ	7月3日～7月16日	ワークショップ「日本の紙本絹本文化財の保存と修復」開催	文化財保存活用基金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
27	加藤　雅人	台湾	8月9日～8月13日	国際研修「染織品の保存と修復」事業の為の協議	文化財保存活用基金	
28	加藤　雅人	メキシコ	11月7日～11月19日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営交付金	
29	加藤　雅人	ドイツ	29年2月27日～3月3日	日本絵画作品の調査	運営交付金	
30	加藤　雅人	アメリカ	29年3月21日～3月24日	絵画作品調査	運営交付金	
31	亀井　伸雄	トルコ	6月18日～6月24日	壁画の保存状態現地調査	運営交付金	
32	亀井　伸雄	ブータン	8月28日～9月5日	科研費事業によるブータン現地調査	科学研究費	
33	亀井　伸雄	ネパール	11月26日～12月2日	歴史的集落の保全に関する会議における講演および現地視察	運営交付金	
34	亀井　伸雄	イギリス、イタリア	29年2月14日～2月22日	欧文日本美術関係文献入力に関する協議・講演　他	運営交付金	
35	亀井　伸雄	ブータン	29年3月4日～3月10日	科研費事業による古民家・集落調査	科学研究費	
36	川野邊　渉	イタリア	11月7日～11月12日	ICCROM理事会出席	他機関負担	
37	菊池　理予	台湾	8月9日～8月13日	国際研修「染織品の保存と修復」事業の為の協議	文化財保存活用基金	
38	菊池　理予	韓国	8月29日～8月31日	韓国国立無形遺産院との共同研究会に参加	運営交付金	
39	北河　大次郎	スウェーデン、ドイツ、イギリス、イタリア、ギリシャ	9月18日～10月7日	近代文化遺産(美術工芸品)の保存活用に関する海外事例調査	受託(文化庁) 運営交付金	
40	北河　大次郎	ミャンマー	10月25日～10月30日	バガン考古遺跡群における建造物の地震被害調査	受託(文化庁)	
41	北河　大次郎	アメリカ	29年3月5日～3月16日	近代産業遺産の保存活用に関する現地調査	受託(文化庁)	
42	橘川　英規	ルーマニア	9月12日～9月18日	2016 EAJRS CONFERENCE IN BUCHAREST での講演及び参加	他機関負担	
43	橘川　英規	アメリカ	29年2月13日～2月20日	アーカイブ視察､The College Art Association: Annual Conference参加　他	科学研究費	
44	橘川　英規	アメリカ	29年3月19日～3月24日	GRI との「日本美術の共同研究推進に関する協定」に関する打合せ及び関連施設視察	運営交付金	
45	金　善旭	ミャンマー	9月24日～9月30日	バガン考古遺跡群における建造物および壁画の地震被害状況調査	運営交付金	
46	金　善旭	ミャンマー	10月27日～11月3日	バガン考古遺跡群における建造物の地震被害調査	受託(文化庁)	
47	金　善旭	ネパール	11月25日～12月2日	ネパール事業に伴う現地調査	受託(文化庁)	
48	久保田　裕道	韓国	8月29日～8月31日	韓国国立無形遺産院との共同研究会に参加	運営交付金	
49	久保田　裕道	ネパール	10月4日～10月9日	カトマンズ・コカナにおける無形文化遺産(祭礼)の調査	受託(文化庁)	
50	久保田　裕道	韓国	11月18日～11月20日	済州チルモリ堂燃燈グッ保存会が開催する国際会議「国家重要無形文化財済州チルモリ堂燃燈グッの発展方向と課題」への参加	他機関負担	
51	久保田　裕道	ベトナム	12月14日～12月21日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメント」事業で実施するベトナム調査への参加	他機関負担	
52	久米　正吾	キルギス共和国	4月21日～5月8日	発掘調査	科学研究費(分担金)	
53	後藤　里架	ドイツ	7月3日～7月17日	ワークショップ「日本の紙本絹本文化財の保存と修復」開催	文化財保存活用基金	
54	後藤　里架	ドイツ	11月27日～12月14日	漆工品の保存と修復ワークショップの運営の補佐	文化財保存活用基金	
55	小林　公治	ポルトガル、スペイン、トルコ	9月17日～10月8日	各国内での調査	科学研究費	
56	佐藤　有希子	アメリカ	9月12日～9月18日	メトロポリタン美術館にて不動明王坐像の熟覧	科学研究費	
57	佐藤　有希子	中国	29年2月15日～2月21日	河北の白玉像と仏教遺跡の調査研究	運営交付金	
58	佐野　千絵	イラン	10月1日～10月6日	イランにおける相手国調査	運営交付金	
59	皿井　舞	イタリア	7月30日～8月11日	「日本仏像展」開催に伴う会場運営業務	他機関負担	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
60	皿井　舞	イタリア	10月27日～10月31日	International Conference of Art Libraries － Registratzion に参加	運営交付金	
61	皿井　舞	アメリカ	29年3月9日～3月17日	日本美術史に関する国際大学院生会議の委員として当該会議に出席するため	他機関負担	
62	塩谷　純	イギリス	29年2月13日～2月18日	欧文日本美術関係文献入力に関する協議・講演	運営交付金	
63	鴫原　由美	ミャンマー	7月18日～7月29日	バガン考古遺跡群の調査、考古・国立博物館局長および駐ミャンマー日本国大使の表敬訪問	運営交付金	
64	鴫原　由美	ドイツ	11月27日～12月14日	漆工品の保存と修復ワークショップの運営の補佐	文化財保存活用基金	
65	鴫原　由美	ミャンマー	29年2月5日～2月21日	漆工品ワークショップの運営、現地調査	運営交付金	
66	鈴木　絢香	グアム	5月25日～5月29日	太平洋芸術祭でのワークショップ参加および準備	受託(文化庁)	
67	鈴木　絢香	フランス	10月22日～10月30日	第40回世界遺産委員会への参加及び近代文化遺産の調査	運営交付金	
68	津田　徹英	イギリス	29年2月13日～2月18日	欧文日本美術関係文献入力に関する協議・講演	運営交付金	
69	友田　正彦	ベトナム	4月14日～4月18日	SEASRIPシンポジウム参加	他機関負担	
70	友田　正彦	ネパール	4月22日～4月26日	現地関係者との打合せ、被災建造物の調査　他	受託(文化庁)	
71	友田　正彦	ネパール	6月13日～6月19日	被災文化遺産に係る現地調査および協議等	受託(文化庁)	
72	友田　正彦	ミャンマー	7月23日～7月29日	バガン考古遺跡群の調査、考古・国立博物館局長および駐ミャンマー日本国大使の表敬訪問	運営交付金	
73	友田　正彦	ブータン	8月28日～9月3日	科研費事業によるブータン現地調査	科学研究費	
74	友田　正彦	ネパール	9月4日～9月9日	拠点交流事業によるネパール現地調査	受託(文化庁)	
75	友田　正彦	イラン、アルメニア	9月26日～10月6日	イラン・アルメニアにおける相手国調査	運営交付金	
76	友田　正彦	タイ王国	10月18日～10月22日	ユネスコ主催「世界遺産サイトにおける煉瓦造遺跡の保存に関する国際シンポジウム」出席	他機関負担	
77	友田　正彦	ミャンマー	10月25日～11月3日	バガン考古遺跡群における建造物の地震被害調査	受託(文化庁)	
78	友田　正彦	ネパール	11月25日～12月2日	ネパール事業に伴う現地調査	受託(文化庁)	
79	友田　正彦	カンボジア	29年1月23日～1月29日	タネイ遺跡保存整備計画策定のためのワークショップ開催及びアンコール国際調整委員会会合出席	運営交付金	
80	友田　正彦	ネパール	29年2月14日～2月19日	「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」に係る現地調査	受託(文化庁)	
81	友田　正彦	ブータン	29年3月4日～3月14日	科研費事業による古民家・集落調査	科学研究費	
82	中村　恵	メキシコ	11月7日～11月14日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営交付金	
83	中山　俊介	トルコ	6月18日～6月24日	壁画の保存状態現地調査	運営交付金	
84	中山　俊介	ドイツ、トルコ	7月6日～7月19日	国際研修の現地視察及び世界遺産委員会出席	運営交付金	
85	中山　俊介	ミャンマー	7月24日～7月29日	ミャンマーの壁画保護に関わる現地調査	運営交付金	
86	中山　俊介	スウェーデン、ドイツ、イギリス	9月18日～9月30日	近代文化遺産(美術工芸品)の保存活用に関する先進事例調査	受託(文化庁)	
87	中山　俊介	フランス、トルコ	10月22日～11月5日	世界遺産委員会継続審議出席/壁画保存事業に関する打ち合わせ	運営交付金	
88	中山　俊介	メキシコ	11月7日～11月14日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営交付金	
89	中山　俊介	ドイツ	11月27日～12月5日	漆工品の保存と修復ワークショップの運営の補佐	文化財保存活用基金	
90	中山　俊介	アメリカ	29年3月5日～3月16日	近代産業遺産の保存活用に関する現地調査	受託(文化庁)	
91	早川　典子	ミャンマー	29年2月5日～2月9日	漆工品ワークショップの運営	運営交付金	
92	早川　泰弘	中国	7月5日～7月8日	国際シンポジウム参加	他機関負担	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
93	林　昌宏	台湾	8月9日～8月13日	国際研修「染織品の保存と修復」事業の為の協議	運営交付金	
94	二神　葉子	トルコ	7月9日～7月19日	第40回世界遺産委員会に係る調査	運営交付金	
95	二神　葉子	モンゴル	8月9日～8月15日	ハン・ヘンティプロジェクトに係る調査	科学研究費(分担金)	
96	二神　葉子	韓国	8月29日～8月31日	韓国国立無形遺産院との共同研究会に参加	運営交付金	
97	二神　葉子	イタリア、フランス	10月17日～10月28日	文化財防災に関する調査/世界遺産委員会への出席	運営交付金 科学研究費	
98	二神　葉子	イタリア	29年2月12日～2月16日	文化財カタログに関する聞き取り調査	運営交付金	
99	古澤　誠	ドイツ	7月6日～7月10日	ベルリンにおいて､実施する国際研修(紙文化財修復に関する研修)の現地視察	運営交付金	
100	前川　佳文	トルコ	6月18日～6月24日	カッパドキア岩窟教会群壁画の状態調査および文化観光省等の訪問	運営交付金	
101	前川　佳文	ミャンマー	7月18日～7月29日	バガン考古遺跡群の調査、考古・国立博物館局長および駐ミャンマー日本国大使の表敬訪問	運営交付金	
102	前川　佳文	イタリア	8月30日～9月16日	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	科学研究費	
103	前川　佳文	ミャンマー	9月24日～9月30日	バガン考古遺跡群における建造物および壁画の地震被害状況調査	運営交付金	
104	前川　佳文	トルコ	10月29日～11月14日	壁画の保存管理体制についての調査	運営交付金	
105	前川　佳文	イタリア	11月28日～12月11日	ポンペイおよびエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	科学研究費	
106	前川　佳文	エジプト	12月27日～1月6日	エジプト､ルクソール西岸の新王国時代岩窟墓の形成と発展に関する調査研究	科学研究費(分担金)	
107	前川　佳文	ミャンマー	29年2月5日～2月28日	担当者との協議、現地調査	運営交付金 受託(文化庁)	
108	増渕　麻里耶	トルコ	6月18日～6月24日	カッパドキア岩窟教会群壁画の状態調査および文化観光省等の訪問	運営交付金	
109	増渕　麻里耶	ミャンマー	7月20日～7月29日	バガン考古遺跡群の調査、考古・国立博物館局長および駐ミャンマー日本国大使の表敬訪問	運営交付金	
110	増渕　麻里耶	イギリス	8月29日～9月7日	鉄製品のサンプリングおよび文献調査	科学研究費	
111	増渕　麻里耶	トルコ	10月25日～11月14日	鉄製品と壁画の保存管理体制についての調査	運営交付金 科学研究費	
112	増渕　麻里耶	イタリア	12月4日～12月11日	ポンペイおよびエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	科学研究費	
113	マルティネス アレハンドロ	ミャンマー	10月27日～11月6日	バガン考古遺跡群における建造物の地震被害調査	受託(文化庁)	
114	マルティネス アレハンドロ	カンボジア	29年1月22日～1月29日	タネイ遺跡保存整備計画策定のためのワークショップ開催及びアンコール国際調整委員会会合出席	運営交付金	
115	マルティネス アレハンドロ	ブータン	29年3月7日～3月14日	科研費事業による古民家・集落調査	科学研究費	
116	森井　順之	イギリス	9月4日～9月10日	第13回石の劣化と保存に関する国際会議での発表	運営交付金	
117	森井　順之	ネパール	12月24日～12月28日	歴史的建造物の常時微動測定、劣化状態調査	科学研究費(分担金)	
118	山田　大樹	ネパール	4月27日～5月8日	現地関係者との打合せ、被災建造物の調査　他	受託(文化庁)	
119	山田　大樹	ネパール	5月28日～6月4日	ネパール考古局等現地機関とのアガンチェン緊急補強案に関する打合せ	受託(文化庁)	
120	山田　大樹	ネパール	7月3日～7月9日	ネパール事業現地調査	受託(文化庁)	
121	山田　大樹	ネパール	8月31日～9月11日	拠点交流事業によるネパール現地調査	受託(文化庁)	
122	山田　大樹	イラン	10月1日～10月14日	イラン相手国調査	運営交付金 科学研究費	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
123	山田　大樹	ネパール	11月23日～12月6日	ネパール事業に伴う現地調査	受託(文化庁)	
124	山田　大樹	イラン	29年1月1日～1月11日	若手(B)イラン科研現地調査	科学研究費	
125	山梨　絵美子	アメリカ	10月15日～10月19日	招へい者グッド長橋広行氏(ピッツバーグ大学図書館)への現地ヒアリングならびにセミナー講師	他機関負担	
126	山梨　絵美子	ドイツ	12月7日～12月14日	漆工品の保存と修復ワークショップの運営の補佐	文化財保存活用基金	
127	山梨　絵美子	アメリカ	29年3月19日～3月23日	矢代幸雄・バーナード・ベレンソン関係資料調査	科学研究費(分担金)	
128	山之上　理加	ドイツ	7月4日～7月8日	ワークショップ「日本の紙本絹本文化財の保存と修復」開催	文化財保存活用基金	
129	山府木　碧	ミャンマー	29年2月5日～2月9日	漆工品ワークショップの運営	運営交付金	
130	山村　みどり	アメリカ	29年2月10日～2月28日	ニューヨーク大学およびアメリカ美術学会での成果発表､対日文化政策等調査	科学研究費	
131	山村　みどり	アメリカ	29年3月5日～3月15日	『Yayoi Kusama Infinity Mirrors』展シンポジウム登壇と米公文書館調査のため	他機関負担	

【奈良文化財研究所】延べ　108人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	杉山　洋	カンボジア	4月5日～4月12日	西トップ遺跡の調査修復	助成金((公財)朝日新聞文化財団)	
2	田村　朋美	中国	4月8日～4月11日	The 24th International Congress on Glass に出席、研究発表	科学研究費助成事業	
3	山藤　正敏	オーストリア	4月23日～4月30日	第10回国際古代近東考古学会への参加	助成金((公財)日本科学協会)	
4	国武　貞克	マレーシア	5月2日～5月8日	先史時代文化財の調査	他機関負担	
5	影山　悦子	フランス	5月2日～5月13日	ソグディアナの考古・美術に関する史料調査、研究者との情報交換	渡航費：他機関負担 滞在費：科学研究費助成事業	
6	脇谷　草一郎	中国	5月6日～5月8日	南京城城壁の劣化状態視察および劣化要因に関する調査	科学研究費助成事業(分担)	
7	海野　聡	イギリス	5月10日～5月16日	イギリスにおける復元建物および歴史的建造物の調査	科学研究費助成事業	
8	今井　晃樹	韓国	5月11日～5月15日	科研費にともなう遺跡・遺物の調査	科学研究費助成事業	
9	加藤　真二	中国	5月12日～5月21日	科研費による霊井関連遺跡出土土器の調査	科学研究費助成事業	
10	杉山　洋	カンボジア	5月14日～5月18日	ポストアンコール期遺跡の調査研究	科学研究費助成事業	
11	諫早　直人	韓国	5月15日～5月21日	「古代東北アジアにおける金工品の生産･流通構造に関する考古学的研究」の類例調査	科学研究費助成事業	
12	丹羽　崇史	中国	5月20日～5月25日	中国考古学会大会への参加	科学研究費助成事業	
13	廣瀬　覚	韓国	5月24日～5月27日	科研費における研究遂行にかかるチャラボン古墳･金山里古墳出土発埴輪の資料調査のため	他機関負担	
14	森本　晋	タイ	5月28日～6月3日	考古学協会ならびに東南アジア考古学会議出席	科学研究費助成事業	
15	杉山　洋	タイ・カンボジア	5月30日～6月2日	SPAFA第2回シンポジウムへの出席およびシェムリアップでの事務所経費の支払い	科学研究費助成事業(運営費交付金：6/1シェムリアップ往復)	
16	森本　晋	スペイン	6月7日～6月13日	第2回ユネスコ・シルクロード・オンライン基盤国際ネットワーク会議出席・発表	運営費交付金、一部他機関負担	
17	丹羽　崇史	アメリカ	6月7日～6月18日	第7回世界東アジア考古学会(SEAA7)での発表、関連資料の調査	科学研究費助成事業	
18	金田　明大	イギリス、スウェーデン、デンマーク、フランス	6月19日～8月23日	科研費(国際共同研究加速基金)による研究のため	科学研究費助成事業	
19	森本　晋	カンボジア	6月20日～6月25日	アンコール地域遺跡調査修復事業国際調整整備委員会出席	科学研究費助成事業	
20	杉山　洋	カンボジア	7月4日～7月10日	ポストアンコール遺跡群の調査研究	助成金((公財)朝日新聞文化財団)	
21	佐藤　由似	カンボジア	7月4日～7月10日	同上	科学研究費助成事業	
22	丹羽　崇史	韓国	7月9日～7月10日	資料見学	科学研究費	
23	森本　晋	トルコ、オーストリア	7月9日～7月25日	ユネスコ世界遺産委員会出席、情報基準資料の調査	運営費交付金	
24	浦　蓉子	韓国	7月14日～7月18日	木器の類例調査	助成金((公財)高梨学術奨励基金)	
25	佐藤　由似	カンボジア	7月25日～7月29日	ポスト・アンコール期に関する調査	科学研究費助成事業	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
26	加藤　真二	中国	8月1日～8月6日	科研費による霊井関連遺跡出土土器の調査	科学研究費助成事業	
27	影山　悦子	ミャンマー	8月6日～8月13日	ミャンマー出土陶磁器の調査	受託(文化庁)	
28	降幡　順子	ミャンマー	8月6日～8月13日	ミャンマー出土陶磁器の調査	科学研究費助成事業(分担)	
29	杉山　洋	ミャンマー、カンボジア	8月6日～8月18日	文明の東西回廊の関連調査(ミャンマーに於ける青磁窯の調査)、カンボジアに於けるポストアンコール遺跡の調査	科学研究費助成事業(分担)	
30	佐藤　由似	ミャンマー、カンボジア	8月6日～8月23日	ミャンマー出土陶磁器の調査、クメール黒褐釉陶器の調査	受託(文化庁)、運営費交付金	
31	山口　欧志	モンゴル	8月8日～8月15日	科学研究費による研究のため	科学研究費助成事業(分担)	
32	杉山　洋	カンボジア	8月9日～9月13日	西トップ遺跡の調査修復	助成金((公財)朝日新聞文化財団)	
33	山藤　正敏	キルギス	8月11日～8月22日	アク・ベシム遺跡出土資料の調査	科学研究費助成事業(分担)	
34	丹羽　崇史	台湾	8月13日～8月16日	鋳型・金属製品の調査、打ち合わせ	助成金((公財)高梨学術奨励基金)	
35	田村　朋美	台湾	8月13日～8月16日	同上	助成金((公財)高梨学術奨励基金)	
36	小田　裕樹	中国	8月13日～8月22日	「東アジアにおける都城と葬地の政治的･社会的関連に関する比較史的総合研究」の一環として、河南省周辺地域お墳墓調査	科学研究費助成事業(分担)	
37	森本　晋	アメリカ	8月15日～8月22日	太平洋近隣友好協会2016年総会合同研究会出席	運営費交付金	
38	小田　裕樹	韓国	8月25日～8月27日	「東アジアにおける都城と葬地の政治的･社会的関連に関する比較史的総合研究」の一環として、韓国・忠南大学での研究発表	科学研究費助成事業(分担)	
39	海野　聡	ブータン	8月29日～9月5日	ブータンにおける歴史的建造物調査	科学研究費助成事業	
40	渡邉　晃宏	イギリス	8月30日～9月5日	「文字文化からみた東アジア社会の比較研究」シンポジウムへの参加(奈良大学角谷常子教授の科研によるロンドン大学でのシンポジウム)	他機関負担	
41	今井　晃樹	中国	9月3日～9月11日	北魏洛陽宮城出土遺物の調査	運営費交付金	
42	栗山　雅夫	中国	9月3日～9月11日	同上	運営費交付金	
43	金田　明大	イギリス、スペイン、オーストリア	9月4日～12月23日	科研費(国際共同研究加速基金)による研究のため	科学研究費助成事業	
44	脇谷　草一郎	イギリス	9月5日～9月11日	ICOMOS-ISCS2016に参加、研究発表をおこなう	運営費交付金	
45	佐藤　由似	カンボジア	9月8日～9月13日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
46	海野　聡	中国	9月8日～9月20日	CIHA(世界美術史国際会議)における招待講演および山西省調査・資料収集	他機関負担、科学研究費	
47	森本　晋	カンボジア	9月9日～9月13日	アンコール遺跡調査資料の調査	他機関負担	
48	浦　蓉子	中国	9月13日～9月25日	中国田螺山遺跡の木製品調査	他機関負担	
49	山口　欧志	モンゴル	9月13日～9月28日	科研費による研究のため	渡航費：他機関科学研究費助成事業 滞在費：科学研究費助成事業	
50	石田　由紀子	中国	9月16日～9月23日	古代の測量技術と尺度に関する資料調査	他機関負担	
51	佐藤　由似	カンボジア	10月3日～10月11日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
52	高妻　洋成	ベトナム	10月6日～10月9日	タンロン皇城遺跡出土土木製遺物の調査と保存に関する技術協力	他機関負担	
53	西山　和宏	フィリピン	10月9日～10月14日	文化遺産ワークショップ2016(ACCU主催)での講師	他機関負担	
54	芝　康次郎	韓国	10月10日～12月2日	国立慶州文化財研究所との発掘交流のため	渡航：運営費交付金 滞在：他機関負担	
55	箱崎　和久	韓国	10月19日～10月22日	皇龍寺址発掘調査40周年記念国際学術大会への参加	他機関負担	
56	鈴木　智大	台湾	10月19日～10月26日	台湾の古建築の建築史的調査	科学研究費助成事業	
57	杉山　洋	カンボジア	10月22日～10月27日	西トップ遺跡の調査修復	助成金((公財)朝日新聞文化財団)	
58	森本　晋	フランス	10月22日～10月30日	アンコール遺跡調査資料、世界遺産委員会出席	科学研究費助成事業	
59	高妻　洋成	オーストリア	10月25日～10月29日	ウィーン世界博物館所蔵大名屋敷の調査	科学研究費助成事業(分担)	
60	中村　一郎	台湾	10月26日～10月28日	中央研究院歴史言語研究所での簡トク撮影、研究交流	科学研究費助成事業	
61	桑田　訓也	台湾	10月26日～10月28日	同上	科学研究費助成事業	
62	杉山　洋	フランス	11月1日～11月6日	ユネスコ主催、世界遺産と博物館国際会議への出席と発表	他機関負担	
63	丹羽　崇史	中国	11月3日～11月6日	国際会議「商周青銅器及鋳造工藝研究」への参加	他機関負担	
64	庄田　慎矢	韓国	11月3日～11月6日	韓国考古学会全国大会に参加するため	科学研究費助成事業(分担)	
65	降幡　順子	モンゴル	11月3日～11月6日	モンゴル地域出土鉛釉陶器の資料調査	科学研究費	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
66	田村　朋美	ウズベキスタン	11月6日～11月12日	ウズベキスタン出土のガラス製遺物等の調査	科学研究費助成事業	
67	影山　悦子	ウズベキスタン	11月6日～11月12日	イスラム以前の壁画等、考古遺物の調査	科学研究費助成事業	
68	森本　晋	タイ	11月11日～11月14日	国際学会「東南アジア大陸部の初期状態と文化関係」出席発表	他機関負担	
69	桑田　訓也	韓国	11月16日～11月19日	研究発表	他機関負担	
70	佐藤　由似	カンボジア	11月17日～11月26日	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築に関する調査､アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金、科学研究費助成事業	
71	国武　貞克	中国	11月18日～11月23日	科学研究費による霊井遺跡出土石器の調査	科学研究費助成事業	
72	加藤　真二	中国	11月18日～11月28日	科学研究費による霊井遺跡出土石器等の調査	科学研究費助成事業	
73	杉山　洋	カンボジア	11月23日～11月25日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金((公財)朝日新聞文化財団)	
74	箱崎　和久	中国	11月26日～12月3日	中国古代寺院遺跡と古代建築の現地調査	科学研究費助成事業	
75	坪井　久子	中国	11月26日～12月3日	同上	科学研究費助成事業	
76	大橋　正浩	中国	11月26日～12月3日	中国社会科学院考古研究所との学術交流における中国都城遺跡の調査	運営費交付金	
77	若杉　智宏	台湾	11月30日～12月2日	天文図資料調査・施設視察	運営費交付金	
78	石橋　茂登	台湾	11月30日～12月3日	同上	運営費交付金	
79	小沼　美結	台湾	11月30日～12月3日	同上	運営費交付金	
80	森本　晋	ドイツ	11月30日～12月4日	第13回バーミヤーン世界遺産保護専門家会議出席	運営費交付金	
81	佐藤　由似	カンボジア	12月3日～12月14日	西トップ遺跡石材修復に関する調査 アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築に関する調査	助成金((公財)朝日新聞文化財団)、科学研究費助成事業	
82	森本　晋	台湾	12月6日～12月9日	台湾中央研究院歴史言語研究所での研究発表と見学	他機関負担	
83	田村　朋美	台湾	12月6日～12月9日	台湾中央研究院歴史言語研究所での研究発表と資料見学	他機関負担	
84	山﨑　健	台湾	12月6日～12月9日	台湾中央研究院歴史言語研究所での研究発表と見学	他機関負担	
85	森本　晋	ミャンマー	12月9日～12月16日	発掘調査法･遺物研究法等の考古技術移転を目的とした拠点交流事業	受託(文化庁)	
86	影山　悦子	ミャンマー	12月9日～12月16日	同上	受託(文化庁)	
87	尾野　善裕	ミャンマー	12月9日～12月16日	発掘調査法･遺物研究法等の考古技術移転を目的とした拠点交ふゅう事業	受託(文化庁)	
88	大澤　正吾	ミャンマー	12月9日～12月16日	同上	受託(文化庁)	
89	林　正憲	韓国	12月12日～12月15日	「日韓古代瓦の生産と流通に関する研究」にかかる調査	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
90	石田　由紀子	韓国	12月12日～12月15日	慶州古代寺院における出土瓦の調査	渡航費：科学研究費助成事業 滞在費：他機関負担	
91	清野　陽一	韓国	12月12日～12月15日	同上	渡航費：科学研究費助成事業 滞在費：他機関負担	
92	石橋　茂登	韓国	12月12日～12月16日	日韓共同研究「日韓古墳・寺院の比較研究」にかかる調査	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
93	廣瀬　覚	韓国	12月12日～12月16日	同上	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
94	諫早　直人	韓国	12月12日～12月16日	同上	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
95	渡邉　晃宏	韓国	12月15日～12月17日	「2016東アジア文化都市　済州」開幕式における講演	渡航費：他機関負担 滞在費：他機関負担	
96	杉山　洋	カンボジア	12月18日～12月25日	西トップ遺跡の調査と修復	科学研究費助成事業	
97	佐藤　由似	カンボジア	12月19日～12月27日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
98	丹羽　崇史	中国	12月28日～29年1月1日	資料調査	助成金((公財)高梨学術奨励基金)	
99	田村　朋美	ベトナム	29年1月8日～1月12日	ハノイ国立博物館所蔵ガラス小玉の科学分析	他機関負担	
100	佐藤　由似	カンボジア	29年1月15日～1月26日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
101	森本　晋	カンボジア	29年1月23日～1月2日	アンコール遺跡調査資料の調査	科学研究費助成事業	
102	金田　明大	イギリス	29年1月23日～3月2日	科学研究費(国際共同研究加速基金)による研究のため	科学研究費助成事業	
103	森本　晋	カンボジア	29年1月31日～2月2日	アンコール文化遺産保護に関する研究	科学研究費助成事業	
104	佐藤　由似	カンボジア、ミャンマー	29年2月3日～2月18日	アンコール文化遺跡保護に関する研究協力 国際協力渠底交流事業　ミャンマー	運営費交付金、受託(文化庁)	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
105	杉山　洋	カンボジア、ミャンマー、ベトナム	29年2月8日～2月17日	カンボジア・ミャンマー・ベトナムにおける東南アジア陶磁の研究	運営費交付金、科学研究費助成事業（分担）	
106	森本　晋	ミャンマー	29年2月9日～2月18日	ミャンマーの窯跡および陶磁器の調査、研修	受託（文化庁）	
107	影山　悦子	ミャンマー	29年2月9日～2月18日	ミャンマーの窯跡および陶磁器の調査、研修	受託（文化庁）	
108	石橋　茂登	台湾	29年2月16日～2月19日	金属工芸・天文関連の資料調査	運営費交付金	
109	今井　晃樹	中国	29年2月18日～2月26日	北魏洛陽宮城出土遺物の調査	運営費交付金	
110	岩戸　晶子	中国	29年2月18日～2月26日	同上	運営費交付金	
111	清野　陽一	中国	29年2月18日～2月26日	同上	運営費交付金	
112	廣瀬　覚	韓国	29年2月19日～2月22日	「朝鮮半島西南部の前方後円墳をめぐる倭と馬韓の交渉史」の研究会への参加	他機関負担	
113	諫早　直人	韓国	29年2月19日～2月22日	同上	他機関負担	
114	丹羽　崇史	中国	29年2月20日～2月23日	河南省文物考古研究院との共同研究報告書出版にともなう協議、資料調査	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
115	神野　恵	中国	29年2月20日～2月23日	同上	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
116	降幡　順子	中国	29年2月20日～2月23日	同上	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
117	森川　実	中国	29年2月20日～2月23日	同上	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
118	佐藤　由似	カンボジア	29年2月21日～2月27日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
119	国武　貞克	イギリス	29年2月23日～3月2日	奈文研とヨーク大学、セインズベリー日本芸術研究所による文化財情報発信（全国遺跡総覧）に関するワークショップ	運営費交付金	
120	高田　祐一	イギリス	29年2月23日～3月2日	同上	運営費交付金	
121	小沼　美結	イギリス	29年2月23日～3月2日	同上	運営費交付金	
122	浦　蓉子	中国	29年2月27日～3月4日	中国田螺山遺跡の木製品調査	他機関科学研究費助成事業	
123	高妻　洋成	モンゴル	29年3月5日～3月11日	モンゴル国の古墳壁画等と高松塚古墳壁画の比較研究調査	受託（文化庁）	
124	石橋　茂登	モンゴル	29年3月5日～3月11日	同上	受託（文化庁）	
125	脇谷　草一郎	モンゴル	29年3月5日～3月11日	同上	受託（文化庁）	
126	田村　朋美	モンゴル	29年3月5日～3月11日	同上	受託（文化庁）	
127	栗山　雅夫	モンゴル	29年3月5日～3月11日	モ同上	受託（文化庁）	
128	大谷　育恵	モンゴル	29年3月5日～3月11日	同上	受託（文化庁）	
129	佐藤　由似	カンボジア	29年3月6日～3月13日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
130	海野　聡	ブータン	29年3月6日～3月16日	ブータンにおける歴史的建造物調査	科学研究費助成事業	
131	丹羽　崇史	韓国	29年3月7日～3月10日	日韓共同研究の一環として、韓国・慶州地域出土土器類の調査	運営費交付金	
132	小田　裕樹	韓国	29年3月7日～3月10日	同上	運営費交付金	
133	内田　和伸	韓国	29年3月7日～3月10日	韓国国立文化財研究所との共同研究	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
134	中島　義晴	韓国	29年3月7日～3月10日	同上	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
135	杉山　洋	カンボジア	29年3月7日～3月11日	カンボジアにおける東西交流遺物の調査	科学研究費助成事業分担	
136	水田　康介	カンボジア	29年3月7日～3月11日	西トップ遺跡の調査と修復修復の現地監査	運営費交付金	
137	前川　歩	ブータン	29年3月7日～3月16日	ブータンにおける歴史的建造物調査	科学研究費助成事業	
138	加藤　真二	中国	29年3月13日～3月18日	鄭州における旧石器遺跡の調査	科学研究費助成事業	
139	森本　晋	ドイツ	29年3月13日～3月20日	東アジア陶磁器資料・パガン壁画資料の調査	運営費交付金	
140	諫早　直人	イギリス	29年3月16日～3月26日	科学研究費「ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築」にかかる調査	科学研究費助成事業（分担）	
141	脇谷　草一郎	中国	29年3月19日～3月21日	南京城城壁の劣化状態視察および劣化要因に関する調査	科学研究費助成事業（分担）	
142	渡邉　晃宏	韓国	29年3月22日～3月24日	国立文化財研究所との共同研究による木簡等の調査	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
143	方　国花	韓国	29年3月22日～3月24日	同上	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
144	高田　祐一	韓国	29年3月22日～3月24日	同上	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
145	山本　祥隆	韓国	29年3月22日～3月24日	国立文化財研究所との共同研究による木簡等の調査	渡航費：運営費交付金 滞在費：他機関負担	
146	佐藤　由似	カンボジア	29年3月22日～3月24日	西トップ遺跡の調査	運営費交付金	
147	森本　晋	カンボジア	29年3月22日～3月26日	外国調査チーム報告会出席・発表	運営費交付金	
148	田村　朋美	アメリカ	29年3月23日～3月26日	X線CT装置の検査	運営費交付金	
149	高妻　洋成	オーストリア	29年3月25日～3月30日	ウィーン世界博物館所蔵大名屋敷の調査	科学研究費助成事業（分担）	

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　20人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	薗田　郁	中国(深セン)	5月12日～16日	“Workshop on Capacity Building for Transmission and Sustainable Development of Traditional Craftsmanship” 出席	受託経費（文化庁）	
2	岩本　渉	フランス(パリ)	5月30日～6月5日	“Sixth Session of the General Assembly of the States Parties to the Convention for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage” 及び “The 4th Annual Coordination Meeting of Category 2 Centres Active in the Field of Intangible Cultural Heritage” 出席	受託経費（文化庁）	
3	児玉　茂昭	フランス(パリ)	5月29日～6月5日	同上	受託経費（文化庁）	
4	岩本　渉	イタリア(ミラノ)	7月3日～7日	「ICOMミラノ大会」出席	受託経費（文化庁）	
5	三島　貴雄	イタリア(ミラノ)	7月3日～8日	同上	運営費交付金	
6	野嶋　洋子	フィリピン	7月3日～8日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるフィリピン調査	寄附金（文化財保存活用基金）	
7	岩本　渉	モンゴル(ウランバートル)	10月9日～12日	“2016 Sub-Regional Meeting for Intangible Cultural Heritage Safeguarding in Northeast Asia: The Role of the Media in Raising Awareness about Intangible Cultural Heritage” 出席	受託経費（文化庁）	
8	杉野　ゆりか	モンゴル(ウランバートル)	10月9日～13日	同上	受託経費（文化庁）	
9	野嶋　洋子	バヌアツ	10月18日～23日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるバヌアツ調査	ODAユネスコ補助金	
10	野嶋　洋子	フィジー	10月23日～28日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるフィジー調査	ODAユネスコ補助金	
11	岩本　渉	韓国(ソウル)	12月14日～16日	「韓国C2センター(ICHCAP)第九回運営理事会」陪席	受託経費（文化庁）	
12	三島　貴雄	韓国(ソウル)	12月14日～16日	同上	受託経費（文化庁）	
13	野嶋　洋子	ベトナム(ハノイ、フエ、ホイアン)	12月13日～21日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるベトナムでの現地調査	寄附金（文化財保存活用基金）	
14	岩本　渉	ベトナム(ハノイ)	12月16日～20日	“Working Group for IRCI Final Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region” 及び “IRCI Final Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region”出席	受託経費（文化庁）	
15	大貫　美佐子	ベトナム(ハノイ)	12月14日～21日	同上	受託経費（文化庁）	
16	古川　幸恵	ベトナム(ハノイ)	12月13日～20日	同上	受託経費（文化庁）	
17	野嶋　洋子	マーシャル諸島	29年2月14日～17日	「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるマーシャル諸島調査	ODAユネスコ補助金	
18	大貫　美佐子	中国(北京)	29年2月22日～23日	「中国C2センター(CRIHAP)第六回運営理事会」陪席	受託経費（文化庁）	
19	杉野　ゆりか	中国(北京)	29年2月22日～24日	同上	受託経費（文化庁）	
20	大貫　美佐子	フランス(パリ)	29年3月12日～17日	“ICOMOS University Forum Workshop on Authenticity and Reconstructions”出席	受託経費（文化庁）	

【文化財防災ネットワーク推進本部】延べ　4人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	三角　菜緒	韓国	29年2月21日～24日	アジア諸国（韓国）の文化財防災に関する調査・情報収集	美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業補助金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
2	臺信　祐爾	韓国	29年2月21日～24日	同上	同上	
3	進村　真之	韓国	29年2月21日～24日	同上	同上	
4	李　廷銀	韓国	29年2月21日～24日	同上	同上	

c-② 調査研究テーマ一覧

平成29年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
196 件	139 件	66 件	22 件	19 件	32 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	56 件	22 件	34 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 件				

【東京国立博物館】　66件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　55件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	特別調査（「法隆寺献納宝物」（第38次））	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
2	特別調査（「書跡」第14回）	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
3	特別調査（「工芸」第8回）	学芸研究部	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
4	特別調査（「彫刻」第6回）	学芸研究部	企画課長　浅見龍介
5	特別調査（「絵画」第1回）	学芸研究部	調査研究課長　田沢裕賀
6	油彩画の材料・技法に関する共同調査	学芸研究部	保存修復室長　土屋裕子
7	東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査	学芸研究部	調査研究課長　田沢裕賀
8	館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	学芸研究部	博物館情報課長　田良島 哲
9	東洋民族資料に関する調査研究	学芸研究部	出版企画室主任研究員　猪熊兼樹
10	特集「藤原行成の書　その流行と伝称」に関連する調査研究	学芸研究部	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　恵美千鶴子
11	特集「上海博物館との競演」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室長　富田淳
12	特集「親と子のギャラリー　美術のうら側探検隊」に関連する調査研究	学芸研究部	博物館教育課長　小林牧
13	特集「ドレッサーの贈り物―明治にやってきた欧米のやきものとガラス」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室主任研究員　三笠景子
14	特集「歌仙絵」に関連する調査研究	学芸研究部	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕
15	特集「生誕百年記念　小林斗盦　篆刻の軌跡」に関連する調査研究	学芸研究部	学芸研究部長　富田淳
16	特集「掛袱紗―祝う心を模様にたくす」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
17	特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」に関連する調査研究	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
18	中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　沖松健次郎
19	能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究(科学研究費助成事業)	学芸研究部	企画課長　浅見龍介
20	日本染織コレクションの形成に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
21	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕
22	古墳時代武装具に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷　毅
23	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	保存修復室主任研究員　瀬谷愛
24	神像表現彫刻における物語性の調査研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	企画課特別展室長　丸山士郎
25	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之
26	清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　関紀子
27	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	客員研究員　沢田むつ代
28	東アジアにおける繍仏の基礎的調査研究(科学研究費助成事業)	学芸研究部	企画課出版企画室主任研究員　猪熊兼樹
29	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相に関する調査研究(科学研究費助成事業)	学芸研究部	副館長　松本伸之
30	大小擢物（絵暦）の美術史及び文化史に関する総合的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	客員研究員　岩崎均史
31	徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美
32	ディルムン文明の起源－バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究－（科学研究費助成事業）	学芸研究部	客員研究員　後藤健
33	東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	博物館教育課教育講座室長　勝木言一郎
34	「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課東洋室研究員 小野塚拓造
35	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	企画課特別展室長　丸山士郎
36	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷毅
37	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－（科学研究費助成事業）	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
38	工芸の展開―金属工芸鋳金における真土型鋳造法の研究―（科学研究費助成事業）	学芸研究部	特任研究員　神庭信幸
39	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究―大航海時代を中心に―（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課平常展調整室研究員　末兼俊彦
40	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課平常展調整室研究員　末兼俊彦
41	住吉派の摸写から見る近世御用絵師の絵画制作研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 山下善也
42	19世紀日本の女性南画家の移動と交友圏（科学研究費助成事業）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 山下善也
43	「月次祭礼図模本」の総合復元研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛
44	曾我蕭白筆「郡仙図屏風」の図像およびその文化的背景に関する研究（出光文化福祉財団）	学芸研究部	企画課国際交流室アソシエイトフェロー　ミウォシュ・ヴォズニ
45	三条西公条をめぐる絵事 ―「詠歌之大概歌仙図」を中心に―（メトロポリタン東洋美術研究センター）	学芸研究部	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美
46	特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室長　丸山士郎
47	特別展「春日大社　千年の至宝」に関する調査研究	学芸研究部	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕
48	特別展「茶の湯」に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室主任研究員　三笠景子

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
49	日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」に関する調査研究	学芸研究部	企画課出版企画室主任研究員　猪熊兼樹
50	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸研究部	企画課デザイン室長　木下史青
51	博物館教育に関する調査研究	学芸研究部	博物館教育課長　小林牧
52	凸版印刷と共同で実施する、ミュージアムシアターでの公開に向けた調査研究	学芸研究部	学芸企画部長　井上洋一
53	ＩＣＴを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	学芸研究部	博物館教育課長　小林牧
54	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析（科学研究費助成事業）	学芸研究部	総務部総務課渉外開発担当係長　関谷泰弘
55	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	企画課特別展室主任研究員　品川欣也

○その他有形文化財に関連する調査研究　11件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	博物館の環境保存に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
2	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築（科学研究費助成事業）	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
3	三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷毅
4	被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
5	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸研究部	博物館情報課情報管理室長　村田良二
6	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	学芸研究部	東京国立博物館百五十年史編纂室長 井上洋一
7	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究	学芸研究部	調査研究課考古室長　白井克也
8	博物館における文化財の情報資源化に関する研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
9	海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部	広報室長　鬼頭智美
10	東京国立博物館所蔵帝室本データベース（科学研究費助成事業）	学芸研究部	博物館情報課長　田良島哲
11	東京国立博物館所蔵写真資料データベース（科学研究費助成事業）	学芸研究部	学芸研究部長　富田淳

【京都国立博物館】 22件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　22件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室主任研究員　羽田　聡
2	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	学芸部	工芸室研究員　降矢哲男
3	ＣＴスキャナ等科学機器を用いた文化財の調査研究	学芸部	列品管理室アソシエイトフェロー　池田素子
4	近畿地区(特に京都)社寺文化財の調査研究　河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究(科学研究費助成事業)	学芸部	連携協力室長　淺湫　毅
5	幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査（科学研究費助成事業）	学芸部	列品管理室主任研究員　永島明子
6	日本の宮廷装束・調度に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸部	教育室長　山川　暁
7	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究(科学研究助成事業)	学芸部	列品管理室主任研究員　呉　孟晋
8	特集陳列「丹後の仏教美術」に関連する調査研究	学芸部	連携協力室長　淺湫　毅
9	特集陳列「徳川将軍家と京都の寺社」に関連する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
10	特集陳列「与謝蕪村」に関連する調査研究	学芸部	美術室研究員　福士雄也
11	特集陳列「皇室の御寺　泉涌寺」に関連する調査研究	学芸部	保存修理指導室主任研究員　羽田　聡
12	特集陳列「伊藤若冲」に関連する調査研究	学芸部	美術室研究員　福士雄也
13	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸部	美術室研究員　福士雄也
14	東アジアにおける繍仏の基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸部	企画室長　伊藤信二
15	特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」に関する調査研究	学芸部	列品管理室長　宮川禎一
16	特別展覧会「海北友松」に関する調査研究	学芸部	学芸部長　山本英男
17	ボランティアによる、ハンズオン教材等を活用した展示作品理解のための事業に関する調査研究（科学研究費助成事業）	学芸部	教育室研究員　水谷亜希
18	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究	学芸部	教育室研究員　水谷亜希
19	３Ｄプリンター等を用いた教育プログラムに関する調査研究	学芸部	列品管理室長　宮川禎一、 教育室長　山川　暁
20	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
21	文化財の保存・修復に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
22	文化財情報に関する調査研究	学芸部	列品管理室長　宮川禎一

【奈良国立博物館】 19件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　15件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	復元模写制作に伴う仏教絵画の光学的調査と研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
2	平安時代の大般若経の総合的調査と、歴史資料としての情報資源化に関する研究(科学研究費助成事業)	学芸部	企画室長　野尻　忠
3	仏教工芸・上代工芸の総合的調査	学芸部	工芸考古室長　清水　健
4	墳墓出土品の調査と研究	学芸部	列品室長　吉澤　悟
5	南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	学芸部	上席研究員　岩田茂樹
6	綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
7	特別陳列「お水取り」に関連する調査研究	学芸部	情報サービス室長　岩井共二
8	特別陳列「和紙－近代和紙の誕生－」に関連する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
9	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に関連する調査研究	学芸部	美術室員　斎木涼子
10	春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究（科学研究費助成事業）	学芸部	学芸部長　内藤　栄

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
11	真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用（科学研究費助成事業）	学芸部	美術室員　斎木涼子
12	生誕８００年記念特別展「忍性 －救済に捧げた生涯－ 」に関する調査研究	学芸部	列品室長　吉澤　悟
13	特別展「第６８回正倉院展」に関する調査研究	学芸部	工芸考古室長　清水　健
14	特別展「快慶　日本人を魅了した仏のかたち」に関する調査研究	学芸部	列品室員　山口隆介
15	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
2	収蔵品・寄託品等に関する文化財修理の観点からの調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
3	収蔵品・寄託品等に関する保存科学の観点からの調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
4	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究	学芸部	資料室長　宮崎幹子

【九州国立博物館】 32件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　23件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究	学芸部 博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
2	日本中近世の工芸、特に茶道具に関する調査研究	学芸部企画課	アソシエイトフェロー　酒井田千明
3	近世キリスト教に関する研究	学芸部企画課	特別展室研究員　松浦晃佑
4	高等学校が所蔵する考古資料に関する研究	展示課	展示調整室主任研究員　今井涼子
5	水中遺跡の保存活用に関する調査研究	学芸部	部長　小泉惠英
6	タイの歴史・美術に関する研究	学芸部企画課	特別展室長　原田あゆみ
7	トピック展示「火縄銃の世界」に関連する調査研究	学芸部文化財課	資料登録室研究員　望月規史
8	トピック展示「きらめきで飾る－螺鈿の美をあつめて－」に関連する調査研究	学芸部文化財課	資料登録室主任研究員　川畑憲子
9	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究(科学研究費助成事業)	学芸部企画課	特別展室長　原田あゆみ
10	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究 (科学研究費助成事業)	九州国立博物館	館長　島谷弘幸
11	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－ (科学研究費助成事業)	学芸部企画課	特別展室主任研究員　川村佳男
12	出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸部文化財課	資料登録室主任研究員　川畑憲子
13	近世西南日本の地域産業と対外交流の研究(科学研究費助成事業)	展示課	展示調整室研究員　一瀬　智
14	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」 に関する調査研究	展示課	情報サービス室研究員　小嶋　篤
15	特別展「タイ～仏の国の輝き～」 に関する調査研究	学芸部企画課	特別展室長　原田あゆみ
16	特別展「世界遺産ラスコー展」 に関する調査研究	学芸部企画課	課長兼文化交流展室長　河野一隆
17	特別展「新・桃山展－大航海時代の日本美術」 に関する調査研究	学芸部企画課	特別展室主任研究員　鷲頭　桂
18	ＮＨＫと共同で実施する高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターでの映像公開に向けた調査研究	学芸部企画課	文化交流展室研究員　森實久美子
19	特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	学芸部企画課	アソシエイトフェロー　西島亜木子
20	学校教育現場との連携を図って作り上げる学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発	交流課	教育普及室主任研究員　久保田和之
21	文化交流展示室に関して現在の展示施設、展示環境や展示方法の調査研究	展示課	課長　楠井隆志
22	潜在的利用者とつくる新しい博物館の活動「きゅーはく女子考古部」についての調査研究	学芸部企画課	アソシエイトフェロー　西島亜木子
23	松菊里型竪穴住居をモデルとした「組み立て式竪穴住居」の調査研究	学芸部企画課	アソシエイトフェロー　西島亜木子

○その他有形文化財に関連する調査研究　9件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の材質・構造等に関する共同研究	学芸部 博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
2	博物館における文化財保存修復に関する研究	学芸部 博物館科学課	保存修復室主任研究員　志賀智史
3	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	学芸部	特任研究員　本田光子
4	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸部 博物館科学課	保存修復室主任研究員　志賀智史
5	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討に係る調査研究（科学研究費助成事業）	学芸部 博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
6	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討（科学研究費助成事業）	学芸部 博物館科学課	環境保全室研究員　秋山純子
7	Ｘ線CTを用いた文化財有機質材料の同定方法の確立（科学研究費助成事業）	学芸部 博物館科学課	アソシエイトフェロー　赤田昌倫
8	みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム（文化庁文化芸術振興費補助金）	学芸部	特任研究員　本田光子
9	熊本被災文化財救援事業（公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団助成金）	学芸部	部長　小泉惠英

【東京文化財研究所】　22件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　7件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英
2	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部	日本東洋美術史研究室長　小林達朗
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部	近・現代視覚芸術研究室長　塩谷純
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部	広領域研究室長　小林公治

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島満
2	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島満
3	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島満

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　7件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	保存科学研究センター	主任研究員　佐藤嘉則
2	保存と活用のための展示環境の研究	保存科学研究センター	保存環境研究室長　吉田直人
3	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター	分析科学研究室長　犬塚将英
4	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	保存科学研究センター	修復計画研究室長　朽津信明
5	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	保存科学研究センター	修復材料研究室長　早川典子
6	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	保存科学研究センター	近代文化遺産研究室長　北河大次郎
7	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	保存科学研究センター	保存科学研究センター長　岡田健

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	主任研究員　江村知子
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　友田正彦
3	保存修復技術の国際的応用に関する研究	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　中山俊介
4	在外日本古美術品保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長　加藤雅人
5	国際研修	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長　加藤雅人

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　2件

○文化財情報基盤の整備・充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英
2	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

【奈良文化財研究所】　34件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　18件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部	部長　林　良彦
2	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川　聡

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　16件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
2	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
3	平城宮東院地区の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
4	平城京跡右京一条二坊四坪・西一坊大路・一条南大路の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
5	東大寺東塔院跡の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
6	藤原宮跡の発掘調査（大極殿院）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
7	藤原宮跡の発掘調査（朝堂院）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
8	飛鳥地域発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
9	平城宮・京跡の出土遺物・遺構の調査研究等	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
10	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
11	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
12	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
13	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	部長　林　良彦

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
14	遺跡データベースの作成と公開	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　金田明大
15	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
16	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	考古第三研究室長　清野孝之

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　7件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　金田明大
2	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	センター長　小池伸彦
3	動植物遺存体の分析方法の研究開発	埋蔵文化財センター	センター長　小池伸彦

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成
2	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成
3	建造物彩色に関する研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成
4	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　4件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部	部長　森本　晋
2	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ遺跡の建築学的・考古学的・保存科学的調査	企画調整部	部長　森本　晋
3	イギリスセインズベリー日本芸術研究所との共同研究	企画調整部	都城発掘調査部長　玉田芳英
4	ユネスコアジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力	企画調整部	部長　森本　晋

(4) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　5件

○平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備等運営への協力	研究支援推進部	研究支援課長　　伴　佳英
2	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原等への協力	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
3	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力	企画調整部	展示企画室長　加藤真二
4	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の開園への協力	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
5	ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	研究支援推進部	連携推進課長　津田保行

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

○アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	所長　岩本　渉

（参考）受託研究一覧

合計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
53 件	11 件	41 件	1 件

【東京文化財研究所】　11件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	文化遺産国際協力拠点交流事業「大洋州諸島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業」	無形文化遺産部
2	日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討	保存科学研究センター
3	絵金屏風の保存修理に関する調査研究	保存科学研究センター
4	万世特攻平和祈念館金属類収蔵品劣化対策事前調査事業	保存科学研究センター
5	近代産業遺産（美術工芸品）に関する海外事例調査事業	文化遺産国際協力センター
6	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	保存科学研究センター
7	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	保存科学研究センター
8	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化遺産国際協力センター
9	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	文化遺産国際協力センター
10	文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)「ミャンマー・バガン遺跡群における地震被害に関する調査」	文化遺産国際協力センター
11	文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)「シリア内戦下における被災文化財に関する調査」	文化遺産国際協力センター

【奈良文化財研究所】　41件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	ミャンマーにおける発掘調査法・遺物研究法等の考古技術移転を目的とした拠点交流事業	企画調整部

2	京都市の文化的景観保存計画策定調査	文化遺産部
3	若桜町若桜伝統的建造物群保存対策調査	文化遺産部
4	出雲市内神社建造物調査	文化遺産部
5	南山城村における文化的景観保存修景事業	文化遺産部
6	平城宮跡歴史公園二条大路発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
7	興福寺南大門西門守屋の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
8	長門鋳銭所跡出土木簡の保存処理を経ての総合的研究	都城発掘調査部　平城地区
9	鳥取県鳥取市大桝遺跡出土文字資料の保存処理等の総合的研究	都城発掘調査部　平城地区
10	平城京跡二条条間路（東二坊）の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
11	鳥取県鳥取市青谷横木遺跡出土木簡の保存処理等総合的研究	都城発掘調査部　平城地区
12	平城京右京三条一坊十坪の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
13	興福寺北円堂院回廊の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
14	平城宮跡歴史公園二条大路東部他発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
15	鳥取県鳥取市大桝遺跡出土大型呪符木簡他の保存処理等の総合的研究	都城発掘調査部　平城地区
16	平城宮跡歴史公園朱雀大路西側溝北部発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
17	平城京左京二条二坊十一坪の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
18	平城京左京一条ニ坊十坪の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
19	奈良職業能力開発促進センター本館取壊しに伴う藤原京跡（右京九条二・三坊）、瀬田遺跡発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
20	木之本廃寺、藤原京左京五条三坊（脇本宅）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
21	史跡　飛鳥寺跡に隣接する県道「橿原神宮東口停車場飛鳥線」の厳重立会調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
22	特別史跡藤原宮跡（高殿町道路拡幅）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
23	特別史跡山田寺跡法面改修に係る試掘調査業務	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
24	大和紀伊平野農業水利事業に係る埋蔵文化財発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
25	特別史跡山田寺跡法面改修工事に係る発掘調査業務	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
26	藤原京左京七条一坊（別所町集会所）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
27	考古資料および文献史料からみた過去の地震・火山災害に関する情報の収集とデータベースの構築・公開	埋蔵文化財センター
28	陸前高田市堂の前貝塚出土の動物遺存体の分析委託業務	埋蔵文化財センター
29	平城宮跡遺構展示館の保存活用に関する調査研究事業	埋蔵文化財センター
30	波怒棄館遺跡出土の動物遺存体の分析	埋蔵文化財センター
31	台の下貝塚出土の動物遺存体の分析	埋蔵文化財センター
32	平成28年度　国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務	埋蔵文化財センター
33	松帆銅鐸・舌の調査研究	埋蔵文化財センター
34	国宝　薬師寺東塔　木材年代測定業務（第３回）	埋蔵文化財センター
35	瑞巌寺周辺の岩窟・石塔の映像記録・測量調査	埋蔵文化財センター
36	法隆寺若草伽藍跡西方の調査出土壁画片の調査	埋蔵文化財センター
37	常総市水損文書の真空凍結乾燥処置に関する研究	埋蔵文化財センター
38	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	研究支援推進部
39	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	企画調整部 都城発掘調査部　平城地区
40	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	文化遺産部 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区 埋蔵文化財センター
41	特別史跡キトラ古墳の保存・活用及び文化庁キトラ古墳壁画保存管理施設（キトラ古墳壁画体験館　四神の館内）の管理・運営業務	文化遺産部 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区 埋蔵文化財センター 飛鳥資料館

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	平成28年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

平成29年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
356件	196件	88件	31件	41件	36件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	158件	47件	111件	0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	2件				

【東京国立博物館】　88件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　71件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の展覧事業･教育活動等に関連する調査研究	「世界遺産を護れ！―迫る危機をのりこえて―」	学芸企画部長　井上洋一	5月28日	東京国立博物館　特別展『黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―』記念講演会
2	同上	「弥生時代の動物絵画」	同上	10月15日	神奈川県埋蔵文化財センター　平成28年度考古学ゼミナール
3	同上	「危機に瀕する世界文化遺産―その保護と活用―」	同上	11月2日	國學院大學栃木短期大学日本文化学科　日本史フィールド講演会
4	同上	「謎の青銅器、銅鐸」	同上	29年1月21日	東京国立博物館　月例講演会
5	同上	はじめての兵馬俑	企画課特別展室主任研究員　市元塁	5月15日	九州国立博物館特別展「始皇帝と大兵馬俑」記念講演会
6	同上	北魏の服装改革に関する考古学的予察	同上	7月23日	日本中国考古学会関東部会
7	同上	Current situation and Issues in archaeological collections at upper secondary schools in Japan	同上	8月29日	WAC-8 KYOTO（第8回世界考古学会議）
8	同上	高校考古の過去・現在・未来～いま、学校所蔵資料の何が課題で､何に取り組もうとしているのか?～	同上	9月2日	博学社連携シンポジウム　学校の「たからもの」を発掘しよう！ 学校所蔵考古歴史資料のこれから
9	同上	「平治物語絵巻」〈三条殿夜討巻〉再考	企画課特別展室主任研究員　金井裕子	10月1日	美術史学会東支部例会
10	同上	「東博における翻訳」	企画課国際交流室アソシエイトフェロー　君波妙子	10月8日	東京国立博物館　月例講演会
11	同上	大仏の来た道を西にたどる	博物館教育課教育講座室長　勝木言一郎	11月9日	東大寺講演会
12	同上	中国の女帝と石仏	同上	12月10日	東京国立博物館　月例講演会
13	同上	帖学派と碑学派	学芸研究部長　富田淳	12月10日	茨城県高等学校教育研究会書道部
14	同上	兵庫・慧日寺の無学祖元像と特峰妙奇像	列品管理課長　救仁郷秀明	29年3月25日	美術史学会（東支部例会）
15	同上	オオヤマトの古墳・宮址と三輪山祭祀	列品管理課主任研究員　古谷毅	6月25日	天理市観光協会･天理市教育委員会、現地発！歴史フォーラム2016　大和の中のヤマト
16	同上	大塚古墳が築かれた時代 -副葬品から見た古墳時代中期における大塚古墳-	同上	10月1日	市川三郷町・山梨県考古学協会、2016年度地域大会 大塚古墳から探る市川三郷の古墳時代
17	同上	久が原に残る遺跡	同上	10月21日	大田区教育委員会、おおた区民大学地域学講座(2016第2期)「久が原、その魅力 - 25,000年前からの軌跡と奇跡 - 」
18	同上	久が原遺跡の歴史的位置-多摩川流域遺跡群の中の荏原台-	同上	29年3月19日	大田区洗足区民センター、第５回さくらフェスティバル 区政70周年記念「もっと知ろう大田区」
19	同上	草花写生図にみる江戸の美意識	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美	10月7日	（公）緑と水の市民カレッジ
20	同上	黒田清輝のABC　第1回 「西洋絵画の衝撃。黒田精輝が抱いた葛藤と使命　～本当に伝えたかったこと」	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、三浦篤（東京大学教授）、山梨絵美子（東京文化財研究所副所長）	4月19日	青山ブックセンター　トークレクチャーシリーズ
21	同上	浮世絵は庶民のエンターテインメント！～200年の時を越え、作品が語りかけてくるものとは	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、高畑勲（スタジオジブリ アニメーション映画監督）	4月27日	Bunkamura 特設会場
22	同上	黒田清輝のABC 第2回 黒田清輝の裏/表　黒田の仕事がもたらしたもの。	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、山田五郎（タレント、コラムニスト）	5月10日	青山ブックセンター　トークレクチャーシリーズ
23	同上	「時をかける少女」と東京国立博物館	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、細田守（アニメーション映画監督）	7月15日	博物館で野外シネマ

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
24	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	日本美術史から読み解く細田守作品の魅力	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、齋藤優一郎（スタジオ地図　プロデューサー/代表取締役）	7月18日	角川シネマ新宿・細田守監督『時をかける少女』公開１０周年リバイバル上映
25	同上	日本絵画史からみた細田守作品	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人・細田守（アニメーション映画監督）	10月30日	第29回東京国際映画祭・TOHOシネマズ六本木ヒルズ
26	同上	15世紀から19世紀日本の 文人画・風俗画・仏画	調査研究課長　田沢裕賀	11月5日	中国国家博物館
27	同上	日本美術5000年	同上	12月11日	國立故宮博物院
28	同上	醍醐寺的美術	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　沖松健次郎	6月11日	上海博物館「菩提的世界　醍醐寺芸術珍宝展」関連講座
29	同上	菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝	調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー　西木政統	4月24日	上海博物館　ボランティア向けスライドトーク
30	同上	滋賀・鶏足寺七仏薬師如来像の造像をめぐる一考察	同上	5月31日	東京文化財研究所　文化財情報資料部研究会
31	同上	「日本美術の流れ」の楽しみかた	同上	9月30日	東京国立博物館　エムアイカードイベント
32	同上	蘇る「辻が花」	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	9月29日	調布市東部公民館
33	同上	金春家伝来の能面・能装束について	同上	29年2月25日	東京国立博物館　月例講演会
34	同上	能絵鑑で能装束の変遷を探る	同上	29年3月16日	国立能楽堂講演会
35	同上	日本出土馬韓土器	調査研究課考古室長　白井克也	8月30日	2016年馬韓研究院国際学術会議「東北アジアから見た馬韓土器」
36	同上	交流する縄文土器	調査研究課考古室研究員　井出浩正	11月13日	茅野市尖石縄文考古館第4回縄文ゼミナール
37	同上	古墳時代中期の技術移転ー農具を中心にー	調査研究課考古室研究員　河野正訓	4月9日	第83回文化財と技術の研究会
38	同上	はにわ講座	同上	9月1日	まりこふんの本「はにわ」発売記念　古墳にコーフンするためにはにわのキモチになってみよう！
39	同上	大室古墳群と積石塚	同上	10月21日	第78回なみはや歴史講座
40	同上	山陽西部	同上	11月27日	中国四国前方後円墳研究会 第19回研究集会
41	同上	考古資料収集家とコレクションの形成 -北海道の事例-	調査研究課考古室アソシエイトフェロー　飯田茂雄	12月17日	先史時代における置戸産黒耀石の利用解明を目的とした調査に関する研究会
42	同上	テル・レヘシュにおけるローマ時代村落の性格	調査研究課東洋室研究員　小野塚拓造	5月14日	基盤研究(A)ユダヤ・イスラーム宗教共同体の期限と特性に関する文明史的研究　（代表：市川裕）研究集会
43	同上	“Garden Paintings by Qiu Ying: Depictions of Old Famous Gardens at Suzhou in Ming Dynasty,”	調査研究課東洋室研究員　植松瑞希	7月6日	International Symposium: Contextualizing Gardens and Painting in East Asia（京都工芸繊維大学）
44	同上	X線CT撮影条件と画像解析法　-プロジェクション数について	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、同調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛	6月25日	文化財保存修復学会第３８回大会、東海大学
45	同上	祐天寺蔵祐天上人長悦像の修復とＣＴ撮像調査の有効性についての一考察	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、牧野隆夫	6月26日	文化財保存修復学会第３８回大会、東海大学
46	同上	東京国立博物館における立体作品の対症修理の取り組み	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　野中昭美、同保存修復室長　土屋裕子、保存修復課長　高橋裕次、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛、同調査分析室長　荒木臣紀、特任研究員　神庭信幸	6月25～26日	文化財保存修復学会第38回大会
47	同上	大津波プロジェクト第2回ワークショップー仮設陸前高田市博物館(旧生出小学校)ー「アクリル画と油彩画の安定化処理」	保存修復課保存修復室長　土屋裕子	8月1日	日本博物館協会（津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会
48	同上	2016年度文化財保存修復学会公開シンポジウム「文化財を伝える―展示技術と保存修復学」で「展示手法に応じた修理」講演	同上	29年1月29日	文化財保存修復学会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
49	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	大津波プロジェクト第4回ワークショップ―東京会場―「アクリル画の脱塩―ブロッティング法による試み―」	保存修復課保存修復室長　土屋裕子	29年2月2日	日本博物館協会（津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会
50	同上	「Conservación y restauración del arte japonés - Restauración de una pintura Kakejiku-」（邦題：「日本美術の保存と修理―掛軸絵画の修理―）	同上	29年3月22日	Conferencias sobre restauración.　Contro Cultural Rafael Barradas del Museo Juan Manuel Blanes（ウルグアイモンテビデオ県立ファン・マヌエル・ブラネス美術館主宰　修理関連講演会）
51	中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究（科学研究費助成事業）	座談会　聖徳太子絵伝と絵解き文化	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕、阿部泰郎（名古屋大学）、鷹巣純（愛知教育大学）、吉原浩人（早稲田大学）	10月9日	安城絵解きフォーラム「聖徳太子絵伝と日本の絵解き文化」
52	同上	絵画による仏事空間の荘厳に関する考察―延久元年本聖徳太子絵伝を起点として	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　沖松健次郎	4月23日	筑波大学芸術学美術史学会
53	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究（科学研究費助成事業）	国宝・餓鬼草紙と六道の美術	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕	7月30日	東京国立博物館月例講演会
54	同上	白描歌仙絵の再検討―歌仙絵の起源、および「似絵」をめぐる諸問題―	同上	29年2月19日	美術史学会西支部大会／大和文華館特別展「白描の美－図像・歌仙・物語－」シンポジウム『白描画再考―日本絵画史におけるその意義―』
55	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容に関する研究（科学研究費助成事業）	一遍聖絵の成立と中世律宗	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	7月23日	美術史学会東支部例会
56	同上	鎌倉時代の周防国と松崎天神縁起絵巻	同上	29年2月18日	第9回松崎天神縁起絵巻研究会
57	同上	叡尊教団、一遍、聖戒と聖徳太子像	同上	29年3月25日	ハーバード大学美術館聖徳太子二歳像共同研究ワークショップ
58	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究（科学研究費助成事業）	法隆寺献納宝物の幡と木簡について	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之	12月3日	木簡学会
59	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する研究（科学研究費助成事業）	土屋隆史「盛矢具に付着する織物の仕様とその地域的特長について」に対する補足説明及びコメント	客員研究員　沢田むつ代	4月9日	文化財と技術研究会
60	同上	南あわじ市・松帆銅鐸に用いられた組紐について	同上	6月28日	南あわじ市教育委員会調査会
61	同上	厳島神社所蔵「錦包み太刀」に用いられている錦について	同上	11月17日	錦包み太刀等の復元研究会
62	同上	古代の染織製天蓋	同上	29年1月17日	東京国立博物館ギャラリートーク
63	e.「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築（科学研究費助成事業）	東京国立博物館所蔵資料から見るイランの古代美術	調査研究課東洋室研究員　小野塚拓造	10月29日	イラン・イスラム共和国 第16回考古学セミナー
64	a.特別展「平安の秘仏 - 滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」に関する調査研究	仏像入門１　如来・菩薩	調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー　西木政統	10月21日	東京国立博物館　連続講座「仏像三昧」
65	同上	滋賀・櫟野寺に伝わる仏像の魅力	同上	11月12日	よみうりカルチャー錦糸町
66	博物館環境デザインに関する調査研究	特集 照明デザインのさらなる地平をめざして　座談会Ⅲ「美術館照明のこれから」	企画課デザイン室長　木下史青、有本和彦（ITL）、大城盛孝（エルテック）	5月11日	照明学会
67	同上	『LEDを用いた展示空間のデザイン』　（平成28年度保存担当学芸員フォローアップ研修　－展示照明用白色LEDの開発と評価に関する最新の動向－）	企画課デザイン室長　木下史青	6月14日	照明学会（於：東文研）
68	同上	第1講座 『光で見せる展示デザイン』	同上	12月21日	仏教文化講座第733回（主催：浅草寺、明治安田生命保険相互会社）
69	同上	「有機ELを活用した照明・展示について ～縄文の女神より～」	企画課デザイン室長　木下史青、尾越国三（パイオニア株式会社）、川上元美（プロダクトデザイナー）	29年1月10日	Organic LED YAMAGATA 連動セミナー　新しいあかりのかたち　～Organic LEDの可能性～　（主催：公益財団法人山形県産業技術振興機構）
70	同上	次世代の美術館・博物照明技指針　美術館・博物照明の具体的指針、仕様基準	企画課デザイン室長　木下史青	29年2月20日	「保存と活用のための展示環境」に関する研究会（主催：東京文化財研究所）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
71	Museum Management	How can local cultural institutions be united? A case study on the Ueno Passport as a tool for local cultural connection	Yasuhiro Sekiya	7月5日	Museum Management

○その他有形文化財に関連する調査研究　17件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	博物館の環境保存に関する調査研究	持続可能型保存ネットワークに関する研究-日本国内ダゲレオタイプ保存ネットワークの例	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、山口孝子、三木麻里、高橋則英	6月26日	文化財保存修復学会第３８回大会、東海大学
2	同上	緊急時における写真保存方法について	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀	9月25日	About the photograph emergency recovery workshop
3	同上	巨大写真コレクションの保存と活用	同上	11月17日	韓国国立中央博物館
4	同上	被災文化財の一時保管施設における生物被害対策	保存修復課環境保存室長 和田浩	10月13日	公益財団法人文化財虫菌害研究所主催第36回文化財防虫防菌処理実務講習会
5	同上	文物保存環境溫濕度規範	同上	11月4日	台北國立故宮博物院主催第三屆博物館保存修護工作坊－文物保存與永續發展
6	同上	展櫃微環境設計與微氣候控制	同上	11月4日	台北國立故宮博物院主催第三屆博物館保存修護工作坊－文物保存與永續發展
7	同上	博物館展示施設における温湿度ロガー設置面の素材と採取データ精度の相関分析	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　井上素子	6月25日	文化財保存修復学会第38回大会
8	a.美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築(科学研究費助成事業)	美術品輸送車両上で発生する振動周波数の解析	保存修復課環境保存室長 和田浩	6月4～5日	日本文化財科学会
9	同上	東日本大震災被災資料と被災地域の復興	同上	6月5日	日本展示学会
10	同上	首都高速道路走行時に美術品輸送車両上で発生する加速度の評価	同上	6月25日	文化財保存修復学会
11	同上	美術品輸送用トラックの荷台で計測された加速度の評価	同上	7月7日	日本包装学会
12	同上	文化財梱包・輸送の科学	同上	10月24日	文化庁主催第10回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー
13	同上	中国における美術品長距離輸送時の環境調査	同上	11月29日	全日本包装技術研究大会
14	同上	キトラ古墳壁画の輸送環境調査報告-振動について-	同上	12月19日	文化庁主催古墳壁画の保存活用に関する検討会第21回
15	同上	The Investigation of Shock and Vibration of Tracks During Transport for Museum Objects	同上	29年3月8日	International Safe Transit Association European Packaging Symposium
16	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	『もの』としての文化財写真	博物館情報課長　田良島哲	6月11日	アート・ドキュメンテーション学会 年次大会　シンポジウム「文化財と写真～現物と複製 その境界を越えて～」
17	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	関東大震災、第二次世界大戦時の文化財－東京国立博物館の歴史における災害－	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　恵美千鶴子	7月18日	文化財防災ネットワーク推進事業特別講演会

【京都国立博物館】31件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　31件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	中近世服飾品へのまなざし―博物館という場から―	教育室長　山川　暁	4月23日	第35回国際服飾学会
2	同上	名物裂のふるさと　－金襴を中心に－	同上	5月20日	野村美術館定期講演会
3	同上	キモノに込めた祈り　－打敷の世界－	同上	8月6日	装道大学講座
4	同上	徳川家康と桃山ファッション	同上	10月1日	徳川美術館
5	同上	「越前の仏画から見える世界」	保存修理指導室長 大原嘉豊	8月27日	越前市生涯学習センター
6	同上	「『源氏物語』の中の「極楽の曼陀羅」―紫式部が見た阿弥陀浄土図とは？―」	同上	9月12日	宇治市源氏物語ミュージアム
7	同上	「正覚寺の仏画について」	同上	10月29日	越前市武生公会堂
8	同上	「釈迦金棺出現図に関する問題―科学調査を踏まえて―」	同上	12月23日	京都大学人文科学研究所

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
9	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	「六波羅蜜寺の仏像」	連携協力室長　淺湫　毅	5月29日	京都国立博物館清風会総会
10	同上	「仏像入門２　明王・天部」	同上	10月21日	東京国立博物館連続講座
11	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	「定朝と円派・院派の仏像」	連携協力室長　淺湫　毅	29年3月17日	高槻市立しろあと歴史館　「連続講座　仏像に出会う６　仏師からみる仏像の歴史」
12	同上	伊藤若冲の色と技	美術室研究員 福士雄也	6月29日	京染・色染科学研究会（於からすま京都ホテル）
13	同上	与謝蕪村の絵画	同上	9月2日	京都古美術青年会講座（於京都国立博物館講堂）
14	同上	若冲のユーモア―水墨画を中心に	同上	12月3日	NHK文化センター京都教室
15	同上	The Birth of the Ubiquitous Landscape in Japanese Lacquers	列品管理室主任研究員 永島明子	7月5日	ICOM大会ICDAD部会
16	同上	「近衛家の歴史と文化財」	保存修理指導室 主任研究員　羽田　聡	７月18日	文化財防災ネットワーク推進事業シンポジウム
17	同上	「野崎家における王冶梅の画業」	列品管理室主任研究員 呉　孟晋	29年3月15日	公益財団法人福武財団2016年度瀬戸内海文化研究・活動支援助成に基づくシンポジウム
18	同上	「遊行上人縁起絵諸本の絵相について」	企画室研究員 井並林太郎	29年3月28日	東京文化財研究所　文化財情報資料部 研究会「遊行上人縁起絵の諸相」
19	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究	“The Modernity of Nagao Uzan’s Connoisseurship”	列品管理室主任研究員 呉孟晋	6月25日	AAS in Kyoto
20	同上	「須磨弥吉郎対斉白石芸術的看法:以二戦後須磨所写的評論為主」	同上	11月3日	北京画院「斉白石芸術的現代性与世界性」学術研討会
21	同上	「華僑の学芸員として」	同上	11月9日	神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部講義「グローバル・コミュニケーション入門」
22	同上	「京都ゆかりの中国絵画を探る」	同上	12月9日	NHKカルチャー京都教室講座「京から美を探る」
23	日本の宮廷装束・調度に関する基礎的研究	Kyoto a Treasure House of Traditional Japanese Costume	教育室長　山川　暁	7月4日	ICOM 2016 Milano, Costume Committee Paper Session
24	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	「戦国茶道文化と三好氏」大東市立生涯学習センターアクロス	工芸室研究員　降矢哲男	8月21日	連続講座「いまよみがえる三好長慶の世界」
25	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究	見つめる・感じる・考える　ー染めと織りの世界ー	教育室長　山川　暁	8月5日	高等学校美術工芸研究会
26	同上	名画を楽しもう！ ―仏涅槃図　長谷川等伯筆―	教育室研究員　水谷　亜希	4月2日	こども芸術教室 Kidz Lab. presents『Nehan Lab. ネハンラボ』
27	同上	博物館における教育普及について	同上	7月7日	立命館大学「博物館概論」
28	同上	博物館を活用する	同上	8月5日	高等学校美術工芸研究会
29	同上	雪舟筆「天橋立図」の授業アイデア 俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」の授業例（京都市立京都御池中学校・森亮子先生の実践例の紹介）	同上	8月6日	文化財を教室に！ー複製を活用した事例紹介と交流会　（文化財に親しむ授業実行委員会主催）
30	同上	文化財ソムリエの活動紹介	同上	11月5日	ミュージアム・ユースの交流会（こどもひかりプロジェクト・文化財に親しむ授業実行委員会主催）
31	同上	文化財に親しむ授業（文化財ソムリエの訪問授業・先生への複製貸出）	同上	29年2月5日	こどもひかりプロジェクト 研究交流会 in SENDAI 2017 地域で育つ子どもたちのために、ミュージアムがなすべきこと

〇その他有形文化財に関連する調査研究　0件

【奈良国立博物館】　41件

〇有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　40件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	和紙の変遷と杉原紙	館長　湯山賢一	7月3日	多可町文化遺産活用実行委員会、多可町教育委員会「多可町おもしろ歴史セミナー」
2	同上	和紙の歴史Ⅱ	同上	7月26日	第66回法隆寺夏季大学
3	同上	古代の紙	同上	12月17日	万葉文化館「万葉古代学講座」

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
4	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	古文書修理の歴史と理念	館長　湯山賢一	29年1月28日	京都大学総合博物館特別展「日本の表装」土曜連続講演会
5	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	奇跡の正倉院　成立と展開、現代における意味	学芸部長　内藤栄	4月23日	菊池寛実記念　智美術館
6	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	忍性の信仰と生涯	同上	7月5日	真言律宗布教師研修会
7	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	聖武天皇の受戒と正倉院宝物献納	同上	8月19日	奈良国立博物館　第四十五回夏季講座「律宗の歴史と美術―鑑真から忍性へ」
8	同上	正倉院の工芸―遣唐使は何を持ちかえったか―	同上	8月27日	奈良女子大学なら学（公開講座）
9	同上	正倉院宝物から読み解く聖武天皇像と今年の正倉院展の見どころ	同上	9月15日	奈良学ナイトレッスン
10	同上	せいぶ正倉院講座	同上	11月2日	講演会（於：奈良市西部公民館）
11	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	仏舎利の荘厳	同上	12月10日	歴史講座「鎌倉時代の信仰と美術２」
12	同上	初公開の獅子・狛犬について　～日本の狛犬の流れのなかで～	上席研究員　岩田茂樹	6月5日	春日大社第六〇次式年造替記念講座
13	同上	なら仏像館と奈良の仏像	同上	6月19日	奈良学セミナー「奈良の歴史と文化」
14	同上	圓教寺奥の院の諸尊	同上	12月18日	奈良国立博物館サンデートーク
15	同上	白鳳期菩薩像にみる特異な着衣形式について	情報サービス室長　岩井共二	6月19日	奈良国立博物館サンデートーク
16	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	第３回目　正倉院の献物箱：宝物を納めた箱もまた宝物	工芸考古室長　清水健	6月19日	２０１６年度　智美術サロン「宝物の眠る場所　Part１」
17	同上	正倉院宝物――１２６０年の道程とその鑑賞	同上	10月1日	正倉院展レクチャー福岡
18	同上	正倉院の荘厳具――大幡に寄せて――	同上	11月5日	「第６８回　正倉院展」公開講座
19	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	法螺話	工芸考古室長　清水健	2月19日	奈良国立博物館サンデートーク
20	同上	奈良国立博物館における木彫像の樹種同定調査	保存修理指導室長　鳥越俊行 研究員　大江克己	6月25日 6月26日	文化財保存修復学会
21	同上	明治維新と廃仏毀釈	企画室長　野尻忠	7月18日	特別講演会「歴史と共に考える文化財の防災・減災」
22	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院文書　―天平の息吹を感じるウラ話―	同上	8月21日	「智美術サロン2016　宝物の眠る場所Ⅰ　正倉院　第五回」
23	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	額田寺伽藍並条里図について ～地域史再発見～ PART 2	同上	11月27日	於：大和郡山市昭和地区公民館
24	同上	信貴山縁起絵巻と朝護孫子寺の毘沙門天王信仰	教育室長　谷口耕生	5月7日	特別展『国宝 信貴山縁起絵巻―朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝』公開講座
25	同上	仏画の表装	同上	12月18日	シンポジウム「表装と日本文化」）於：京都文化博物館
26	同上	奈良県技師が生んだ名建築　仏教美術センター（旧奈良県物産陳列館）の魅力	資料室長　宮崎幹子	3月19日	奈良国立博物館サンデートーク
27	同上	海を渡った鏡	主任研究員　中川あや	1月8日	奈良国立博物館サンデートーク
28	同上	内侍所神鏡をめぐる儀礼	研究員　斎木涼子	6月4日	第十八回洛北史学会大会「儀礼研究の可能性―王権・宗教・外交―」
29	同上	平安時代の御物と御蔵	同上	11月3日	正倉院学術シンポジウム二〇一六

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
30	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	平安時代の宮中仏事	研究員　斎木涼子	11月20日	奈良国立博物館サンデートーク
31	同上	大峯山寺蔵王権現像と平安・鎌倉時代の金銅仏制作	研究員　山口隆介	5月17日	奈良国立博物館サンデートーク
32	同上	忍性と極楽寺の仏像	同上	8月27日	公開講座（ 於：奈良国立博物館）
33	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	善円の軌跡と造像	研究員　山口隆介	10月1日	市民教養講座「歴史講座」（鎌倉時代の信仰と美術２）
34	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	古墳時代中期短甲の革綴技術に関する概念の相違	研究員　大江克己	6月4日 6月4日	日本文化財科学会
35	同上	応力変化を視座にする出土金属製品の構造解釈	同上	8月20日	兵庫県考古学談話会
36	同上	金属製品をめぐる技術について～科学的保存処理の技術と金工技術～	同上	12月13日	国際研究集会「古代日韓の装飾と技術」
37	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	明恵をめぐる絵巻制作―「華厳宗祖師絵伝」を中心に―	研究員　伊藤久美	6月25日	龍谷大学アジア仏教文化研究センター二〇一六年度学術講演会「明恵と高山寺」
38	同上	律宗の祖師像・祖師絵伝	同上	8月18日	夏季講座「律宗の歴史と美術―鑑真から忍性へ」
39	同上	「華厳宗祖師絵伝」について	同上	12月19日	（講演）　於：韓国・国立慶州博物館
40	同上	冬の奈良と奈良国立博物館の楽しみ―工芸品を中心に―	研究員　田澤　梓	12月4日	奈良トライアングルミュージアムズ東京セミナー

〇その他有形文化財に関連する調査研究　1件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	中国戦国時代の青銅剣に対するＸ線ＣＴ調査	保存修理指導室長　鳥越俊行 研究員　大江克己	6月4日 6月4日	日本文化財科学会

【九州国立博物館】　36件

〇有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　21件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	材質調査	X 線 CT 調査による古墳時代甲冑の分析	鹿児島大学　橋本達也、奈良大学　今津節生、企画課課長　河野一隆、博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、展示課主任研究員 岸本圭、展示課 小嶋篤	6月4日	日本文化財科学会33回大会
2	同上	X 線 CT スキャナを用いた国宝「初音の調度」見台の構造調査	博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、徳川美術館　吉川美穂、文化財課主任研究員　川畑憲子、奈良大学　今津節生	6月4日	日本文化財科学会33回大会
3	同上	土井ヶ浜遺跡出土 124 号人骨の X 線 CT による非破壊調査	博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、土井ケ浜遺跡・人類学ミュージアム　大藪由美子、土井ケ浜遺跡・人類学ミュージアム　高椋浩史、博物館科学課非常勤研究員　田中麻美、奈良大学　今津節生	6月4日	日本文化財科学会33回大会
4	同上	中国戦国時代の青銅剣に対するＸ線CT調査	保存修理指導室長　鳥越俊行、泉屋博古館　廣川守、奈良大学　今津節生、博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、奈良国立博物館アソシエイトフェロー　大江克己	6月4日	日本文化財科学会33回大会 ＊奈良博のその他有形文化財に関連する調査研究「中国戦国時代の青銅剣に対するＸ線ＣＴ調査」と同調査研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
5	材質調査	X 線 CT スキャナを用いた蒔絵硯箱の構造研究 ～「小倉山蒔絵硯箱」の構造調査	博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、サントリー美術館　佐々木康之、文化財課主任研究員　川畑憲子、奈良大学 今津節生	6月25日	文化財保存修復学会38回大会
6	同上	X 線 CT スキャナを用いた蒔絵硯箱の構造研究 ～「我宿蒔絵硯箱」の構造調査～	博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、彦根城博物館　奥田晶子、文化財課主任研究員　川畑憲子、奈良大学　今津節生	6月25日	文化財保存修復学会38回大会
7	材質調査	X 線 CT によるアイヌ民族資料「ケマウシペ（行器）」の制作技法および劣化現況に関する調査	北海道博物館　杉山智昭、奈良大学　今津節生、保存修理指導室長　鳥越俊行、博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、元北海道博物館　小林幸雄、平取町立二風谷アイヌ文化博物館　長田佳宏	6月25日	文化財保存修復学会38回大会
8	同上	黒漆楼閣人物螺鈿卓の構造・技法 —X 線 CT とマイクロ X 線 CT を用いた調査—	大西漆芸修復スタジオ　大西智洋、博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、博物館科学課アソシエイトフェロー　金 旻貞、浦添市美術館　宮里正子	6月25日	文化財保存修復学会38回大会
9	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－	Being “Antique Objects” to “Archaeological Materials”: A Chang Seen on Chinese Bronze Artifacts from the Tokyo Imperial Museum before the 1930s	企画課特別展室主任研究員　川村佳男	8月28日	WAC-8 Kyoto Program Committee
10	水中文化遺産	Underwater Cultural Management in International Perspectives	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木　蘭貞	8月29日	世界考古学会議（京都）
11	同上	The use of ROV for defining the area of a site underwater	同上	8月30日	世界考古学会議（京都）
12	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－	清宮旧蔵的青銅器：日本篇	企画課特別展室主任研究員　川村佳男	9月7日	「清宮旧蔵青銅器」項目会議（会場：北京　故宮博物院）
13	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	親子で探ろう！兵馬俑のひみつ	同上	9月10日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」記念講演会（会場：国立国際美術館）
14	同上	始皇帝が夢見た『永遠』－兵馬俑と発掘品から読み解く	同上	9月10日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」記念講演会（会場：国立国際美術館）
15	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－	中国金工品のうつろい　－殷周の青銅器から唐代の金銀器まで－	同上	9月25日	中国工芸名品展－陶磁・金工・漆工－特別講演（会場：大和文華館）
16	同上	也談嶺南系青銅器：以温酒樽為例	同上	10月27日	漢代海上絲綢之路考古与漢文化国際学術研討会（会場：中国広西壮族自治区北海市金昌開元名都大酒店）
17	水中文化遺産	The Past, present, and future of Underwater Cultural Heritage Management in Japan	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木　蘭貞	10月27日	新安沈船発掘40周年記念シンポジウム（木浦市・韓国）
18	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究	「日本に伝わるパーリ語貝葉写本と包裂について」	企画課特別展室長　原田あゆみ	10月29日	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究第3回研究会
19	水中文化遺産	海外における発掘調査・活用事例報告	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木　蘭貞	11月3日	国史跡鷹島神崎遺跡シンポジウム基調講演
20	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－	蛍光Ｘ線分析と元素マッピングによる考古資料の新地平　－漢時代の鍍金銀銅刀を対象に－	企画課特別展室主任研究員川村佳男、東京国立博物館保存修復課環境保存室長　和田浩、東京国立博物館企画課特別展室主任研究員　市元塁、Bruker Nano Dr.Roald Tagle、ブルカー・エイエックス株式会社　水平学	11月19日	日本中国考古学会２０１６年度大会（会場：京都府立大学）
21	教育普及活動に関する調査研究	「楽しくなければ博物館じゃない！九州国立博物館の4つの試み」	企画課アソシエイトフェロー　西島亜木子	11月24日	「2016年博物館教育における国際シンポジウム」（会場：国立自然科学博物館（台湾））

○その他有形文化財に関連する調査研究　15件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	遼代壁画研究	中国所在文化財の高精細画像化について	学芸部特任研究員　臺信祐爾	4月16日	図書館等施設における文化財保存のための高精細画像技術学会

2	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	東日本の前期古墳出土丹塗土器に採用されたベンガラの地域性に関する研究	博物館科学課保存修復室 主任研究員　志賀智史	6月4日 5日	日本文化財科学会33回大会（奈良大学）
3	有形文化財の保存県境・保存修復並びに科学技術を活用した分析等に関する調査研究	「歴史資料に使用された彩色材料の調査研究」	博物館科学課環境保全室 研究員　秋山純子	6月4日 5日	日本文化財科学会
4	アフガニスタン美術史	古代アフガニスタンの歴史と文化	学芸部特任研究員 臺信祐爾	6月5日	九州・シルクロード協会　交流会
5	文化財IPM	博物館展示資料の加湿温風による殺虫処理について-山笠土台部材の処理事例	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、東京文化財研究所　北原博幸、博物館科学課研究員　秋山純子、博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、京都大学　藤井義久、京都大学　藤原裕子、交流課事務主査　岩橋神奈子、博物館科学課研究補佐員　泊智子、博物館科学課研究補佐員　光山文枝、環境文化創造研究所　山崎久美子、カナダ保存研究所　トムストラング、学芸部特任研究員　本田光子、前博物館科学課課長今津節生	6月25日	文化財保存修復学会38回大会
6	同上	太陽光を利用した高温処理システム開発-殺虫条件を満たすための処理空間の創出を目指した試験について-	国立民族学博物館　日高真吾、国立民族学博物館　園田直子、国立民族学博物館　末森薫、国立民族学博物館　西澤昌樹、国立民族学博物館　松田万緒、（公財）元興寺文化財研究所　河村友香子、（公財）元興寺文化財研究所　橋本沙知、文化創造巧芸　和高智美、博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、環境文化創造研究所　川越和四	6月25日	文化財保存修復学会38回大会
7	同上	冷凍庫を利用した木製クレートの予防的低温殺虫処理について	博物館科学課研究員　秋山純子、博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、博物館科学課研究補佐員　泊智子、博物館科学課研究補佐員　光山文枝、環境文化創造研究所　山崎久美子、カナダ保存研究所　トムストラング、学芸部特任研究員　本田光子、前博物館科学課課長今津節生	6月25日	文化財保存修復学会38回大会
8	遼代壁画研究	内蒙古所在遼代壁画高精細画像などの博物館展示への応用	学芸部特任研究員 臺信祐爾	9月9日	北方草原古代壁画芸術保護研究国際シンポジウム
9	文化財IPM	九州国立博物館における新規殺虫処理システムと最近の取り組みについて	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、 環境保全室研究員　秋山純子	10月26日	IPMセミナー
10	同上	温湿度のモニタリング方法と重要性 測定機器、調湿方法、データ管理　（実習）	博物館科学課環境保全室 研究員 秋山純子	10月27日	IPM研修
11	同上	文化財害虫について 文化財害虫の同定（実習） 文化財の虫やカビへの対応法	博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか	10月27日 28日	IPM研修
12	同上	文化財害虫発見記録データ分析 データの見方	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、博物館科学課環境保全室研究員 秋山純子	10月28日	IPM研修
13	西域美術	西域の仏教美術	学芸部特任研究員 臺信祐爾	10月29日	シルクロード東京　文化学術シンポジウム
14	文化財IPM	文化財の生物被害と加害生物およびレベルコントロールについて	博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか	12月14日	（公財）文化財研究所　第６回IPMコーディネータ資格取得講習会
15	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	考古学と科学～赤色顔料の分析から～	博物館科学課保存修復室 主任研究員　志賀智史	平成29年 3月11日	備前歴史フォーラム2016（岡山県備前市）

【東京文化財研究所】　47件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　15件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　7件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	東京文化財研究所における文化財に関する専門的アーカイブの拡充－『日本美術年鑑』のコンテンツを国際的学術基盤へ－	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室研究員　橘川英規	9月15日	EAJRS（日本資料専門家欧州協会、ルーマニア・ブカレスト大学）
2	日本東洋美術史の資料学的研究	詞書の筆跡からみた遊行上人縁起絵―伝世諸本の位相―	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英	29年3月28日	文化財情報資料部研究会　遊行上人縁起絵の調査・研究
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	栗原玉葉の《朝妻桜》に関する考察	文化財情報資料部近・現代視覚芸術研究室アソシエイトフェロー　田所泰	29年1月28日	美術史学会東支部例会
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	螺鈿に使われる貝殻の分析 ―主にヤコウガイ、アワビについて	矢崎 純子，南條 沙也香，文化財情報資料部広領域研究室長　小林 公治，松田 泰典，小松 博	6月11日	宝石学会
5	同上	螺鈿に使われる貝殻の構造的特徴 ―ヤコウガイ、アワビについて	同上	6月26日	文化財保存修復学会
6	同上	慶長期後半から寛永期前半にかけて流行した漆器文様・技法 ―絵画資料と伝世漆器との対話―	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	10月25日	文化財情報資料部研究会
7	同上	甲賀市藤栄神社所蔵の十字形洋剣に対する検討	文化財情報資料部広領域研究室長　小林 公治，永井 晃子、末兼俊彦、池田素子、無形文化遺産部客員研究員　原田一敏	29年2月24日	同上

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　8件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	現在に伝わる明治の超絶技巧	無形文化遺産部研究員　菊池理予	10月17日	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅲ「現在に伝わる明治の超絶技巧」
2	同上	伝統芸能を支える力―人形浄瑠璃文楽を事例として―	無形文化遺産部長　飯島満	11月19日	『無形文化遺産国際シンポジウム―技と心を受け継ぐ―』
3	同上	文化財保護における麻のきもの・絹のきもの	無形文化遺産部研究員　菊池理予	29年1月18日	第11回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「絹のきもの・麻のきもの」
4	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産時代の神楽	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	11月13日	儀礼文化学会
5	同上	箕の製作技術と民俗―全国の事例から	無形文化遺産部研究員　今石みぎわ	12月4日	国指定重要無形民俗文化財「論田・熊無の藤箕製作技術」周知事業
6	同上	九州の神楽とユネスコ無形文化遺産	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	29年3月10日	九州の神楽シンポジウム2017
7	文化遺産国際協力拠点交流事業「大洋州諸島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業」	気候変動が文化遺産に及ぼす影響（ポスター発表）	無形文化遺産部音声映像記録研究室長　石村智	4月16～17日	考古学研究会第62回総会研究集会
8	同上	第一回カヌーサミット開催報告	同上	29年3月26～27日	第34回日本オセアニア学会研究大会・総会

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　23件

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　23件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	文化財の微生物劣化	保存科学研究センター主任研究員　佐藤嘉則	9月27日	日本防菌防黴学会第 43 回年次大会
2	同上	博物館等におけるカビ等の迅速検出法について	同上	10月26日	平成28年度　九州国立博物館IPMセミナー
3	同上	装飾古墳における生物劣化と対策-石室石材の表面状態の保存-	同上	29年1月14日	東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター公開講演会
4	同上	Strain change on surface of wood and Urushi layer under humidity controlled warm air treatment	客員研究員　藤井義久　他	8月20日	2nd International symposium Wood Science and Craftsmanship
5	同上	様々な紙試料におけるカビ調査	保存科学研究センター主任研究員　佐藤嘉則　他	9月26日	日本防菌防黴学会第 43 回年次大会
6	保存と活用のための展示環境の研究	実験用実大展示ケースを用いたケース内空気環境の研究　―展示ケース内温湿度の測定とCFD 解析―	日本学術振興会特別研究員　古田嶋智子　他	6月25～26日	文化財保存修復学会第38回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
7	保存と活用のための展示環境の研究	実験用実大展示ケースを用いたケース内空気環境の研究　―気流性状の測定とCFD 解析―	岡村製作所　須賀政晴　他	同上	同上
8	同上	実験用実大展示ケースを用いたケース内空気環境の研究　―展示ケースのガス濃度評価方法の提案―	客員研究員　呂俊民　他	同上	同上
9	同上	展示台からの酢酸ガス遮蔽材料についての検討	文化財情報資料部長　佐野千絵　他	同上	同上
10	保存と活用のための展示環境の研究	美術館・博物館における展示空間の空気環境に関する研究　その3. 空気清浄化機能を有した実験用展示ケースの評価	客員研究員　呂俊民　他	8月24～26日	2016年度日本建築学会大会
11	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	サントリー美術館所蔵　重要文化財四季花鳥図屏風の彩色材料調査	保存科学研究センター副センター長　早川泰弘　他	6月4～5日	日本文化財科学会第33回大会
12	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	国宝銅造阿弥陀如来坐像の地震対策評価　その1　過去の地震被害および対策	保存科学研究センター主任研究員　森井順之　他	8月25日	2017年度日本建築学会大会（九州）
13	同上	風化形態の違いによる砂岩の侵蝕速度の違い	保存科学研究センター修復計画研究室長　朽津信明　他	10月26～27日	日本応用地質学会平成28年度研究発表会
14	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	緑青および焼緑青が和紙に及ぼす影響 ~灰汁中の銅イオンの存在~	客員研究員　貴田啓子　他	6月25日	文化財保存修復学会第38回大会
15	同上	琉球漆器の堆錦技法に用いる焼漆製作工程の調査研究	保存科学研究センター修復材料研究室長　早川典子　他	同上	同上
16	同上	紙に付着した粘着テープの劣化-有機溶媒を用いた粘着テープおよびテープ痕除去方法の検討ー	同上	同上	同上
17	同上	補採用絵具として使用される棒絵の具類の接着剤について	同上	同上	同上
18	同上	粒度の異なる緑青顔料が和紙の劣化に及ぼす影響	客員研究員　貴田啓子　他	7月14日	マテリアルライフ学会第27回研究発表会
19	同上	Chemical analysis of UV irradiated B-72 by PY-GC/MS and EGA-MS	客員研究員　本多貴之　他	5月10日	Analytical and Applied Pyrolysis, 21th International Symposium
20	同上	Multilateral Chemical Analysis of UV irradiated B-72	同上	10月7日	アメリカ化学会
21	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	近代水道遺産の活用に向けて	保存科学研究センター近代文化遺産研究室長　北河大次郎	10月20日	全国近代化遺産活用連絡協議会
22	同上	事例報告【前橋市を中心とした絹遺産の煉瓦建造物】	保存科学研究センター近代文化遺産研究室アソシエイトフェロー　石田真弥	6月25日	シルクロードネットワーク　新庄フォーラム　2016
23	同上	事例報告【まちの宝を活かしたまちづくり-前橋市を例として】	同上	11月5日	赤煉瓦ネットワーク第26回全国大会2016半田大会

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	保存修復技術の国際的応用に関する研究	バガン遺跡煉瓦造建造物外壁の保存修復について	文化遺産国際協力センター研究員　前川佳文	7月20日	宗教文化省考古国立博物館局バガン支局
2	同上	Maintenance project of Wall Painting in Turkey	同上	10月31日	ガーズィ大学芸術学部
3	同上	同上	同上	11月1日	アンカラ文化観光省
4	同上	Why do we need to work on Cappadocia?	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　増渕麻里耶	11月3日	ネブシェヒル博物館及びネブシェヒル保存修復センター
5	在外日本古美術品保存修復協力事業	画絹の生糸形状が発色に与える影響	元文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　山田祐子　他	6月26日	文化財保存修復学会第38回大会

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　4件

○文化財情報基盤の整備・充実　1件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	図書館に発生したカビとその防除対策事例	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室研究員　橘川英規	10月14日	第36回文化財防虫防菌処理実務講習会

○調査研究成果の発信　3件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報基盤の整備・充実	尾高鮮之助調査撮影記録のデータベース化とその活用事例	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子 他	6月26日	文化財保存修復学会第38回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
2	文化財情報基盤の整備・充実	東京文化財研究所の広域ネットワークを利用した取り組み	文化財情報資料部文化財情報研究室アソシエイトフェロー 福永八朗	10月14日	広帯域ネットワーク利用に関するワークショップ「ADVNET2016」
3	同上	WordPressを利用した動的ウェブサイトの構築と効果：ウェブ版「物故者記事」および「美術界年史（彙報）」を事例として	文化財情報資料部文化財情報研究室研究補佐員　小山田智寛	29年1月12日	文化財情報資料部研究会

【奈良文化財研究所】　111件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　24件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	生駒長福寺の本堂と木札の調査　―木札編―	文化遺産部室長　吉川聡	12月3日	木簡学会　第38回研究集会
2	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	伝統的建造物群保存地区における修理修景	文化遺産部長　林良彦	7月2日	愛知県ヘリテージマネージャー研修会
3	同上	文化財建造物の修理について	同上	12月3日	徳島県文化財マイスター養成研修会
4	同上	横手市松浦家、佐藤家住宅の文化財の価値について	同上	29年3月11日	松浦家、佐藤家住宅重要文化財指定記念講演会
5	同上	修理と修景の実務	同上	10月27日	全国伝統的建造物群保存地区協議会東北ブロック会議記念講演

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　19件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡整備）	キトラ古墳の整備と活用	文化遺産部室長　内田和伸	11月3日	国営飛鳥歴史公園体験学習講座
2	同上	特別史跡キトラ古墳の整備―乾拓板を用いた遺跡の活用―	同上	11月3日	国営飛鳥歴史公園キトラ地区体験学習
3	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	橿原神宮文華殿と森蘊の業績	文化遺産部アソシエイトフェロー　エマニュエル・マレス	6月5日	橿原神宮文化講座
4	同上	The place of Kobori Enshu in the History of Japanese Gardens	同上	10月10日	Kyoto University of Art and Design International Symposium (II) Understanding Japanese Gardens : Spirituality or Science
5	同上	昭和期における歴史的庭園の整備とその後の保存・活用ー森蘊の業績を通してー	同上	11月22日	平成28年度福岡市町村文化財保存整備協議会研修会
6	同上	奈良市における庭園の悉皆的調査ー森蘊が修復・移転・新造した庭ー	同上	平成29年1月27日	奈良文化財研究所第27回総合研究会
7	同上	人は庭園に何を見るのか？	同上	平成29年3月16日	地球の住まい方　オギュスタン・ベルク著『理想の住まい 隠遁から殺風景へ』出版記念研究会
8	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	平城京の飛雲文軒瓦	都城発掘調査部研究員林正憲	平成29年2月4日	第17回古代瓦研究会シンポジウム「8世紀の瓦づくりVI　飛雲文軒瓦の展開」
9	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	遺構からみた郡庁の建築的特徴と空間的特質	都城発掘調査部研究員海野聡	12月9日	第20回古代官衙・集落研究集会「郡庁域の空間構成」
10	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	キトラ古墳の天文図を読み解く	飛鳥資料館学芸室長　石橋茂登	平成29年3月5日	第10回アジア考古学四学会合同講演会
11	藤原宮跡の発掘調査（朝堂院）	藤原宮の幢幡遺構ー大宝元年の元日朝賀と儀仗旗―	都城発掘調査部研究員　大澤正吾	11月13日	奈文研第8回東京講演会飛鳥むかしむかし
12	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	星空とキトラ古墳のナゾにせまる	都城発掘調査部主任研究員 降幡順子	5月21日	多摩六都科学館講演会『プラネタリウムで考古学～キトラ古墳が語るもの～』多摩六都科学館
13	同上	Provenance study for earthenware with colored lead glazes excavated in 7th -8th century, Japan	都城発掘調査部主任研究員 降幡　順子、都城発掘調査部主任研究員　神野　恵、都城発掘調査部長　玉田　芳英	9月1日	WAC-8
14	同上	飛鳥・藤原の木簡を紐解く	都城発掘調査部主任研究員 山本崇	11月13日	奈良文化財研究所第8回東京講演会　飛鳥むかしむかし
15	同上	飛鳥寺の発掘と塔心礎埋納品ー飛鳥寺発掘60年ー	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　諫早直人	11月13日	奈良文化財研究所第8回東京講演会　飛鳥むかしむかし

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
16	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	古代国家機能周縁の集落構造について-山口市鋳銭司地区和西集落における千年村研究 その1-	文化遺産部アソシエイトフェロー　本間智希	8月24日	2016年度　日本建築学会大会〔九州〕
17	同上	Development and Progress of “Cultural Landscapes in Japan”	同上	9月21日	筑波大自然保護特別講座
18	同上	中世日本における境致の概念および庭園との関係　大乗院八景と眺望景観	文化遺産部主任研究員　中島義晴	10月15日	名勝大乗院庭園文化館　第4回庭園研究講座
19	同上	地域のみかた 自然基盤と営みの相互関係	文化遺産部研究員　惠谷浩子	11月13日	生活学校　鹿の舟　第五回講座　「はたらく」

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　75件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　40件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	年輪年代学研究	年輪年代学的手法による木簡研究の可能性［招待有り］	埋蔵文化財センター研究員　星野安治，都城発掘調査部アソシエイトフェロー　浦蓉子，都城発掘調査部研究員　山本祥隆	12月3日	木簡学会　第38回研究集会
2	同上	年輪年代学的手法を用いた木器の接合検討－出土木器研究の新展開－	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　浦蓉子，埋蔵文化財センター研究員　星野安治	6月4日	日本文化財科学会第33回大会（日本文化財科学会第10回ポスター賞）
3	同上	鈴木政吉工場製および手工品ヴァイオリンの非破壊年輪年代測定と産地推定	埋蔵文化財センター主任研究員　大河内隆之，愛知県立芸術大学教授　井上さつき，愛知県立大学准教授　桐山建志，信州大学准教授　安江恒	6月4日	日本文化財科学会第33回大会（口頭）
4	同上	年輪年代調査に基づく宝城坊厨子の造営年代に関する研究	埋蔵文化財センター主任研究員　大河内隆之，横浜国立大学教授　大野敏	6月4日	日本文化財科学会第33回大会（ポスター）
5	同上	鼓の用材樹種についてⅣ X線CTスキャンを用いた検討	京都大学研究員　横山操，埋蔵文化財センター主任研究員大河内隆之，埋蔵文化財センター客員研究員　伊東隆夫	6月4日	日本文化財科学会第33回大会（ポスター）
6	同上	マイクロフォーカスＸ線ＣＴを用いた国産ヴァイオリンの非破壊による年輪年代学的研究　－鈴木政吉の製品と作品を中心に－	埋蔵文化財センター主任研究員　大河内隆之，愛知県立芸術大学教授　井上さつき，愛知県立大学准教授　桐山建志，信州大学准教授　安江恒	6月8日	日本写真学会年次大会（ポスター）
7	同上	ナノＸ線ＣＴを用いた木材の解剖学的構造の観察	埋蔵文化財センター主任研究員　大河内隆之	6月8日	日本写真学会年次大会（ポスター）
8	同上	年輪年代学の視点から見た宝城坊厨子の造営年代について（口頭）	埋蔵文化財センター主任研究員　大河内隆之，横浜国立大学教授　大野敏	8月25日	2016年度　日本建築学会大会〔九州〕
9	同上	Studying the Origins of Wood Remains through Dendrochronological Analysis	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　浦蓉子，埋蔵文化財センター研究員　星野安治	8月30日	8th World Archaeological Congress
10	同上	年輪年代学の新しい可能性を目指して	年代学研究室研究員　星野安治	11月5日	第119回奈良文化財研究所公開講演会
11	同上	年輪年代学的手法を用いた小型木製品の検討－平城宮･京跡出土斎串および木簡の事例－	年代学研究室研究員　星野安治、都城発掘調査部アソシエイトフェロー　浦蓉子、都城発掘調査部研究員　山本祥隆	11月20日	第31回日本植生史学会大会
12	動植物遺存体の分析方法の研究開発	馬の貢進・貝の貢進	埋蔵文化財センター研究員　山崎健	3月4日	第33回条里制・古代都市研究会大会
13	同上	平安時代の都市における動物利用	埋蔵文化財センター客員研究員　丸山真史	3月4日	第33回条里制・古代都市研究会大会
14	同上	藤原宮跡から出土した馬の飼育形態と産地推定	埋蔵文化財センター研究員　山崎健他	6月19日	日本動物考古学会第4回大会
15	同上	動物遺存体からみた古代の食	同上	8月27日	第273回近江貝塚研究会
16	同上	Assistance with Organic Material Remains Discovered in Reconstruction Surveys after the Great East Japan Earthquake	同上	8月29日	The 8th World Archaeological Congress
17	同上	Relation between shell middens and sea-level changes from the Initial to the Middle Jomon period in northeastern Japan	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　松崎哲也	8月29日	The 8th World Archaeological Congress
18	同上	Open-access and application of 3D Bone Atlas Database	埋蔵文化財センター客員研究員　菊地大樹	8月29日	The 8th World Archaeological Congress
19	同上	渥美半島の貝塚からわかる縄文時代の暮らし	埋蔵文化財センター研究員　山崎健	11月23日	第31回国民文化祭あいち2016シンポジウム

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
20	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	How to classification? ? A trial examining the effectiveness of an elliptic Fourier descriptor for Japanese archaeological studies	埋蔵文化財センター室長　金田明大	4月1日	CAA2016Oslo
21	同上	カタチはヒトにどう作用するのか ― 考古学からみた人工物のカタチ	埋蔵文化財センター室長　埋蔵文化財センター室長金田明大	4月17日	日本生物地理学会 2016年度大会シンポジウム
22	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	矢穴の非接触三次元計測による石割技法の検討	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	5月28日	日本考古学協会第82回総会
23	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	三次元データの利用を考える―島内 139 号地下式横穴墓出土状況の計測成果より	埋蔵文化財センター室長　金田明大	6月4日	日本文化財科学会第33回大会
24	同上	遺跡の磁気探査における磁化研究の重要性	埋蔵文化財センター室長　金田明大	6月4日	日本文化財科学会第33回大会
25	同上	多焦点画像処理による歴史芸術文化遺産の詳細記録	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	6月4日	日本文化財科学会第33回大会
26	同上	SfM/MVS を用いた島内 139 号地下式横穴墓出土状況の計測	埋蔵文化財センター室長　金田明大	6月5日	日本文化財科学会第33回大会
27	同上	歴史芸術文化遺産の3Dデジタル資源化とその活用	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	6月11日	アート・ドキュメンテーション学会2016年度年次大会
28	同上	小さな文化遺産のデジタル文化資源化	同上	6月22日	第29回　ARCセミナー
29	同上	SfM-MVSによる文化遺産の計測	同上	7月21日	文化財写真技術研究会
30	同上	Landscape archaeology of Hakusan worship	同上	8月29日	The Eithth World Archaeological Congress, Kyoto
31	同上	Human resource development in the field of digital documentation of cultural heritage in Mongolia.	同上	8月28日	The Eithth World Archaeological Congress, Kyoto
32	同上	Digital documentation of cultural heritage in Mongolia:Past, Present, and Future	同上	9月27日	Archaeological research and preservation eastren Mongolia
33	同上	モンゴル文化遺産のデジタルドキュメンテーション	同上	10月16日	3D考古学の挑戦:考古遺物・遺構の三次元計測における研究の現状と課題
34	同上	東亜考古学会による渤海上京城発掘資料の再検討―三次元計測データに基づく瓦研究―	埋蔵文化財センター客員研究員　中村亜希子	11月20日	日本中国考古学会2016年度大会
35	同上	三次元デジタルドキュメンテーションが拓く文化遺産の新たな世界	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	29年1月21日	立命館土曜講座
36	同上	考古資料の三次元デジタル記録	同上	29年1月27日	奈良文化財研究所第27回総合研究会
37	同上	The Japan GIS database of the Histrical Natural Disaster and Hazards using research data of Archaeological excavation, Geological survey and Histrical documents.	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　村田　泰輔	8月28日	The Eighth World Archaeological Congress. 343-345
38	同上	SfM-MVS for site topological survey and archaeological excavation research	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	9月22～23日	2nd Workshop Digital documentation of cultural heritage in Mongolia
39	同上	A Challenge of the Archaeological Methods in Japan	埋蔵文化財センター室長　金田明大	7月22日	CNRS　Seminer
40	同上	A Resent Challenge of the Archaeological Methods in Japan	同上	2月24日	The Digital Repository of Japanese Archaeological Site Reports: background and prospects for collaboration.

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　35件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	平城宮跡遺構展示館における塩析出抑制を目的とした保存環境の検討	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他２名	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
2	同上	大分市元町石仏における塩類風化の現状と要因の検討（その２）	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他３名	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
3	同上	特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡における劣化対応の経過報告	埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他３名	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
4	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	元町石仏の保存に関する研究ー熱水分移動の数値解析による石仏各部における塩類風化の進行の検討ー	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他４名	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
5	同上	交流インピーダンス法を用いた埋蔵環境下における金属製遺物の腐食速度に関する検討	埋蔵文化財センター研究員 柳田明進 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
6	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	砂岩製文化財の劣化に及ぼす環境因子の影響ー七本官軍墓地下浦砂岩製墓石を例としてー	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター究室長 高妻洋成　ほか１名	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
7	同上	元町石仏の保存に関する研究　部位形状の違いが塩類風化の進行に与える影響	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　他３名	8月24日	2016年度　日本建築学会大会〔九州〕
8	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究　その４　石室内の温度、水分状態が金属製遺物の腐食過程に及ぼす影響	埋蔵文化財センター研究員 柳田明進 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他３名	8月24日	2016年度　日本建築学会大会〔九州〕
9	同上	史跡ガランドヤ１号墳の保存環境に関する研究　仮設覆屋による結露抑制方法の検討	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔	8月24日	2016年度　日本建築学会大会〔九州〕
10	同上	Salt Deterioration at Motomachi stone-cliff Buddha in Oita Prefecture of Japan	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他３名	8月28日	世界考古学会議　第８回大会 WAC-8 Kyoto 2016
11	同上	Experimental research on preservation of buried cultural properties in the stone chamber by means of the simulated tumulus - Effect of environment on corrosion of metal artifacts in the stone chamber	埋蔵文化財センター研究員 柳田明進 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他３名	8月28日	世界考古学会議　第８回大会 WAC-8 Kyoto 2016
12	同上	Effect of burial environment on deterioration on wooden and metal objects at the underwater site	埋蔵文化財センター研究員 柳田明進 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他１名	8月28日	世界考古学会議　第８回大会 WAC-8 Kyoto 2016
13	同上	Study on preservative environments in Tagumaishihatake site	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター研究員 柳田明進 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他１名	8月28日	世界考古学会議　第８回大会 WAC-8 Kyoto 2016
14	同上	Deterioration of remains exhibited in the Excavation Site Exhibition Hall, Heijyo-Kyu Palace Sit	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他２名	8月28日	世界考古学会議　第８回大会 WAC-8 Kyoto 2016
15	同上	Examination of environmental control method to condensation observed inside the stone chamber of Garandoya tumulus	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	8月28日	世界考古学会議　第８回大会 WAC-8 Kyoto 2016
16	同上	Dryingof archaeological sites and relics in Japan	埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	8月7日	20th International Drying Symposium, Plenary Lecture
17	同上	テラヘルツ波で見る古墳壁画	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	11月9日	ハイテク推進セミナー
18	建造物彩色に関する研究	特別史跡平城宮朱雀門の塗装劣化の特徴について	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他１名	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
19	建造物彩色に関する研究	特別史跡平城宮跡第一次大極殿正殿の塗装の現状について	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他１名	6月26日	文化財保存修復学会第38回大会
20	同上	The degradation painting of the First Daigokuden Main Hall and Suzaku-Gate	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他１名	8月28日	世界考古学会議　第８回大会 WAC-8 Kyoto 2016
21	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	Distribution of Plant-ash Glass in Japan: Historical Change of Glass Route along the Silk Road	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	4月30日	24th International Congress on Glass in Shanghai
22	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	「2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良」の成果と、東アジア文化遺産保存学会の活動	埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他2名	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
23	同上	テラヘルツ波イメージング技術による高松塚古墳壁画の層構造調査	埋蔵文化財センター室長　高妻洋成 埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　杉岡奈穂子 他３名	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
24	同上	出土木製遺物の一時保管容器における水質の推移	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　松田和貴 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
25	同上	水蒸気移動による出土鉄製文化財の新規脱塩法の開発（その１）塩化鉄（Ⅱ）の潮解過程における最適条件の検討	埋蔵文化財センター研究員 柳田明進 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	6月4日	日本文化財科学会第３３回大会
26	同上	飛鳥寺塔心礎埋納物の考古科学的研究	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	6月4日	日本文化財科学会第33回大会
27	同上	Archaeometrical analysis of cobalt blue glass beads	同上	8月29日	Wac-8 Kyoto 2016
28	同上	Archaeological and scientific investigation of glass beads excavated in Japan -focusing on cobalt blue glass beads	同上	12月7日	環境考古與文化保存科學, 台湾
29	同上	Sr同位体比による日本出土古代ガラスの産地推定の試み	同上	12月28日	第6回同位体環境学シンポジウム
30	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	星空とキトラ古墳のナゾにせまる	都城発掘調査部主任研究員 降幡順子	5月21日	『プラネタリウムで考古学～星空とキトラ古墳のナゾにせまる～』多摩六都科学館
31	同上	テラヘルツ波イメージング技術による高松塚古墳壁画の層構造調査	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　高妻洋成　他	6月4日	日本文化財科学会第33回大会
32	同上	キトラ古墳の発掘調査	都城発掘調査部長　玉田芳英	10月1日	『プラネタリウムで考古学　キトラ古墳が語るもの～人の巻～』多摩六都科学館
33	同上	キトラ古墳の星空が語るもの	飛鳥資料館室長　石橋茂登・企画調整部　井上直夫	11月8日	『プラネタリウムで考古学～キトラ古墳の星空が語るもの～』多摩六都科学館
34	同上	キトラ古墳と夜空の星々	飛鳥資料館学芸室研究員　若杉智宏	11月19日	『プラネタリウムで考古学～キトラ古墳の星空が語るもの～』多摩六都科学館講演会
35	同上	Experimental research on preservation of buried cultural properties in the stone chamber by means of the simulated tumulus - Effect of environment on corrosion of metal artifacts in the stone chamber'	埋蔵文化財センター研究員 柳田　明進　他	8月28日～9月2日	WAC-8, Doshisha university

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ遺跡の建築学的・考古学的・保存科学的調査	Progress Report on the Research and Restoration Work. Western Prasat Top	企画調整部長　森本晋	6月22日～23日	国際調整委員会発表　第26回ITCC

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
2	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ遺跡の建築学的・考古学的・保存科学的調査	Preliminary Report on the Research and Restoration of the Northern Sanctuary, Western Prasat Top	企画調整部　特任研究員　杉山洋	29年1月24日～25日	国際調整委員会発表　第第23回ICC
3	同上	西トップ遺跡北祠堂調査概報	企画調整部専門職　　佐藤由似	12月17日	東南アジア古代史研究会
4	イギリスセインズベリー日本藝術研究所とその共同研究	英国発グローバル考古学	都城発掘調査部主任研究員　庄田慎矢	9月3日	英国発グローバル考古学
5	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	アンコール歴史遺産開発保存について	企画調整部　特任研究員　杉山洋	6月5日、29年1月24日	アンコール歴史遺跡開発保存国際調整委員会　第26回技術委員会（6/5）、 第27回技術委員会（1/24）

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　5件

○文化財情報基盤の整備・充実　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関するデータベースの充実	発掘調査報告書のデジタルアーカイブ	企画調整部研究員　　高田祐一	6月24日	『奈良文化財研究所紀要2016』
2	同上	「GMLによる遺構情報モデルの符号化の試み」	企画調整部長　森本晋他	10月15日	『地理情報システム学会第25回学術研究発表大会』
3	同上	「全国遺跡報告総覧」プロジェクトの状況発掘調査報告書のデジタルアーカイブの実現に向けて」	企画調整部研究員　　高田祐一	11月17日	『遺跡学研究13』
4	同上	Publishing the Comprehensive Database of Archaeological Site Reports in Japan for the Purpose of Increasing Information Accessibility	同上	7月29日	第8回世界考古学会議
5	同上	全国遺跡報告総覧の公開とその役割について	同上	12月2日	28年度兵庫県埋蔵文化財調査成果連絡会

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　2件

○文化財に関する協力・助言等　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	Assistance with Organic Material Remains Discovered in Reconstruction Surveys after the Great East Japan Earthquake	埋蔵文化財センター環境考古学研究室研究員　山崎健	8月29日	The 8th World Archaeological Congress
2	同上	Support for Reconstruction Efforts after the Great East Japan Earthquake	埋蔵文化財センター環境考古学研究室研究員　山崎健	12月7日	中央研究院歴史語言研究所「環境考古與文化財保存科学」

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　2件

○アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	2016年度無形文化遺産保護研究のマッピング事業に基づいたアジア太平洋地域の無形文化遺産保護研究の分析と課題	アソシエイトフェロー 田中鉄也	29年3月1日	文化遺産国際協力コンソーシアム第53回企画分科会
2	同上	Protection and revitalization of endangered ‘living cultural heritage’ in Post-Conflict States: the community’s reactivation as a part of reconstruction	副所長　大貫美佐子	29年3月13日～15日	ICOMOS University Forum Workshop on Authenticity and Reconstructions

c-④ シンポジウム開催実績一覧

平成29年3月31日現在

<table>
<tr><th>国立文化財機構合計</th><th>博物館計</th><th>東京国立博物館</th><th>京都国立博物館</th><th>奈良国立博物館</th><th>九州国立博物館</th></tr>
<tr><td rowspan="4">14件</td><td>9 件</td><td>2件</td><td>2件</td><td>1件</td><td>4件</td></tr>
<tr><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>3 件</td><td colspan="2">2件</td><td colspan="2">1件</td></tr>
<tr><td colspan="2">アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td><td colspan="3">文化財防災ネットワーク推進本部</td></tr>
<tr><td colspan="2">1 件</td><td colspan="3">1 件</td></tr>
</table>

【東京国立博物館】

○現代のピラミッドを創る―大エジプト博物館（ＧＥＭ）の挑戦
- 開 催 日　28年10月1日
- 開催場所　東京国立博物館平成館大講堂
- 主　　催　東京国立博物館
- 参加人数　116人
- 事業内容　エジプト考古大臣、GEM館長の講演および東京国立博物館、東京文化財研究所やJICAの支援協力の取り組みを紹介した。

○日本美術をみせる―リニューアルとリノベーション―
- 開 催 日　29年2月28日・29日
- 開催場所　東京国立博物館平成館大講堂
- 主　　催　海外ミュージアム日本専門家連携・交流事業実行委員会2016（事務局：東京国立博物館）
- 参加人数　463人
- 事業内容　「日本美術、あるいは日本文化の展示とは何か」、「展示室でみせるのは美術史なのか、芸術なのか」、そしてそれらを「どのようにみせるのか」という潜在的で普遍的な課題に対する事例報告・研究会、発表、並びにパネルディスカッションを実施した。

【京都国立博物館】

○記念シンポジウム　『日本国内における禅宗文化の受容と伝播』
- 開 催 日　5月4日
- 開催場所　京都国立博物館　平成知新館講堂
- 主　　催　京都国立博物館、公益財団法人仏教美術研究上野記念財団
- 参加人数　120人
- 事業内容　特別展覧会「禅　こころをかたちに」にあわせて開催し、３名の講師による発表とパネルディスカッションを行った。

○公開シンポジウム　「文化財を災害から守る２：今、そこにある危機　関西地域の災害と文化財」
- 開 催 日　11月12日
- 開催場所　けいはんなオープンイノベーションセンター２階ミュージアムホール
- 主　　催　京都国立博物館
- 共　　催　奈良国立博物館、京都府
- 参加人数　32人
- 事業内容　関西地域における災害の危険性と文化財を守るための活動について４名の講師による講演を行い、来るべき災害に備えた文化財の防災・減災について議論を行った。

【奈良国立博物館】

○正倉院学術シンポジウム2016「正倉院正倉」
- 開 催 日　11月3日
- 開催場所　東大寺総合文化センター　金鐘ホール
- 主　　催　奈良国立博物館
- 後　　援　読売新聞社
- 参加人数　197名
- 事業内容　平成23年～26年の4箇年にわたって大規模な整備工事が実施された正倉院正倉の新たな学術的知見と、千数百年の歳月を経て伝来した正倉院宝物のすばらしさを内外に発信し、わが国の文化財保護活動に対する理解を広く共有することを目的とし、４名の研究者による研究発表と、パネルディスカッションを行った。

【九州国立博物館】

○公開シンポジウム　独立行政法人 国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」公開シンポジウム
地域と共に考える文化財の防災・減災Ⅲ「熊本地震と文化財レスキュー」
- 開 催 日　12月4日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館
- 参加者数　200人
- 事業内容　第1部　対談「熊本地震を考える」
  第2部　報告「熊本地震による文化財の被災とレスキュー中間報告」
  ・レスキュー事業の概要
  ・レスキューの事例報告
  第3部　パネルディスカッション「熊本文化財レスキューから学ぶ」

○公開シンポジウム　カルコン美術対話委員会シンポジウム「世界と日本美術（アート） ～2000年以降の動向を中心に～」
- 開 催 日　12月6日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　文化庁、カルコン美術対話委員会
- 参加者数　80人
- 事業内容　プレゼンテーション、パネルディスカッション

○国際シンポジウム　平成28年度日中韓文化遺産フォーラム「水中文化遺産の保護と活用」
- 開 催 日　29年2月12日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　文化庁、九州国立博物館
- 参加者数　173人

事業内容　　プレゼンテーション、パネルディスカッション

○合同シンポジウム　九州国立博物館「大宰府学研究」事業・熊本県「古代山城に関する研究会」事業合同シンポジウム
「徹底追及！大宰府と古代山城の誕生」
開 催 日　　29年2月18日、19日
開催場所　　ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館、福岡県、熊本県教育委員会
参加者数　　383人
事業内容　　基調講演「大宰府と古代山城の誕生」
研究発表　第Ⅰ部　大宰府の器
研究発表　第Ⅱ部　古代山城の築城
シンポジウム「徹底追及！大宰府と古代山城の誕生」

【東京文化財研究所】

○文化遺産国際協力コンソーシアム設立10周年記念　「文化遺産からつながる未来」
開 催 日　　28年9月25日
開催場所　　ＴＫＰガーデンシティ品川
主　　催　　文化庁、国際交流基金アジアセンター、文化遺産国際協力コンソーシアム
参加者数　　191人
事業内容　　文化遺産の国際協力における我が国の将来像を考えるシンポジウムを開催した。

○シンポジウム「シリア内戦と文化遺産：世界遺産パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援」
開 催 日　　28年11月20日
開催場所　　東京国立博物館
主　　催　　文化庁、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所
参加者数　　90人
事業内容　　パルミラ遺跡を含む被災したシリアの文化遺産の復興に向けてどのような支援が効果的なのか討議を行うシンポジウムを開催した。

【奈良文化財研究所】

○シンポジウム「シリア内戦と文化遺産―世界遺産パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援―」
開 催 日　　28年11月23日
開催場所　　東大寺 金鐘ホール
主　　催　　文化庁、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、（公財）ユネスコアジア文化センター文化遺産保護協力事務所
参加者数　　220人
事業内容　　国内外の専門家やユネスコ職員が一堂に会し、被災したシリアの文化遺産の復興に向けての効果的な支援について討議を行った。

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○「無形文化遺産国際シンポジウム―技と心を受け継ぐ―」
開 催 日　　28年11月19日
開催場所　　サンスクエア堺　サンスクエアホール
主　　催　　アジア太平洋無形文化遺産研究センター、堺市、文化庁
後　　援　　外務省、日本ユネスコ国内委員会
協　　力　　日本芸術文化振興会国立文楽劇場
参加者数　　203人
事業内容　　基調講演「無形文化遺産と私たち」、パネルディスカッション「技と心を受け継ぐ」、そのほか文楽ミニ公演を行った。

【文化財防災ネットワーク推進本部】

○「文化遺産防災国際シンポジウム -文化遺産を大災害からどう守るか:ブルーシールドの可能性Ⅱ-」
開 催 日　　29年3月18日
開催場所　　東京文化財研究所セミナー室
主　　催　　独立行政法人国立文化財機構　文化財防災ネットワーク推進本部
共　　催　　文化遺産国際協力コンソーシアム、ICOM（国際博物館会議）日本委員会、日本ICOMOS（国際記念物遺跡会議）国内委員会
参加人数　　50人
事業概要　　世界各地のブルーシールドに関する取組みや活動実態等について、海外の専門家や国内の有識者の報告とパネルディスカッションを行った。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

平成 29 年 3 月 31 日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
316 件	204 件	97 件	38 件	29 件	40 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	112 件	34 件	78 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 件				

【東京国立博物館】97件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　84件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	学芸企画部長　井上洋一	「博物館教育の一側面―デジタルデータを応用した新たな鑑賞教育の可能性―」	『中村浩先生古稀記念論文集』	芙蓉書房出版	29 年 3 月	無
2	同上	企画課長　浅見龍介	円空をとりまく環境―飛騨の森林との関係―	『東海地方の円空仏　その造形と足跡をたどる』	岐阜県博物館	9 月 23 日	無
3	同上	企画課特別展室主任研究員　市元塁	高校考古資料の重要性	温故　57 号	甘木歴史資料館	10 月 12 日	無
4	同上	同上	金銅製香炉状品の再検討	『宗像・沖ノ島と大和朝廷』	西日本新聞社、TVQ 九州放送、日本経済新聞社、朝日新聞社	29 年 1 月 1 日	無
5	同上	同上	高校考古の過去・現在・未来	“まち”と“ミュージアム”の文化が結ぶ幸せなかたち 3　博学社連携フォーラム・博学社連携シンポジウム報告書	京都府京都文化博物館	29 年 3 月 18 日	無
6	同上	企画課国際交流室主任研究員　遠藤楽子	「東京国立博物館所蔵ガラス湿板写真原板の基礎的研究と壬申検査関係写真－「日本史資料の研究資源化に関する研究拠点」一般共同研究報告」	東京大学史料編纂所画像史料解析センター通信　76 号	東京大学史料編纂所	29 年 1 月 1 日	無
7	同上	企画課国際交流室アソシエイトフェロー　ミウォシュ・ヴォズニ	曾我蕭白のふたつの寒山拾得図―主題およびその文化的背景の検討を中心に―	『MUSEUM』　第 663 号	東京国立博物館	8 月 15 日	有
8	同上	博物館教育課教育講座室長　勝木言一郎	東京国立博物館セレクション・シルクロードの美術	『東京国立博物館セレクション　シルクロードの美術―大谷探検隊将来品―』	東京国立博物館	29 年 3 月 31 日	無
9	同上	博物館情報課長　田良島哲	大正期の正倉院拝観資格の拡大と帝室博物館総長森鷗外	『MUSEUM』　第 666 号	東京国立博物館	29 年 1 月 15 日	有
10	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　恵美千鶴子	西郷隆盛の書と「七言絶句『官途逃去遠捜奇』」の普及―小林清親筆「西郷隆盛像」との関係から―	『MUSEUM』　第 661 号	東京国立博物館	4 月 15 日	有
11	同上	同上	近代数寄者と書 3　益田鈍翁と「益田本和漢朗詠集」	BIO CITY　66 号	ブックエンド	4 月 5 日	無
12	同上	同上	江戸初期の三筆 1　近衛信尹の大字屏風	BIO CITY　67 号	ブックエンド	7 月 5 日	無
13	同上	同上	「平家納経」に魅せられた人々	正筆　1004 号	正筆会	8 月 1 日	無
14	同上	同上	江戸初期の三筆 2　本阿弥光悦の下絵和歌巻	BIO CITY　68 号	ブックエンド	10 月 4 日	無
15	同上	同上	江戸初期の三筆 3　松花堂昭乗と大師流	BIO CITY　69 号	ブックエンド	29 年 1 月 10 日	無
16	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室アソシエイトフェロー　三輪紫都香	臨時全国宝物取調局の活動とその影響―博物館とその周辺の動向から―	『お茶の水史学』vol.60	お茶の水女子大学文教育学部人文科学科比較歴史学コース内読史会	29 年 3 月	無
17	同上	学芸研究部長　富田淳	特別展「王羲之から空海へ」に寄せて	特別展図録『王羲之から空海へ』	読売新聞社	4 月 12 日	無
18	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	学芸研究部長　富田淳	董其昌の自用印について	『董其昌とその時代―明末清初の連綿趣味―』	公益財団法人台東区芸術文化財団	29 年 1 月 2 日	無
19	同上	同上	董其昌の書画鑑識	『董其昌とその時代―明末清初の連綿趣味―』	公益財団法人台東区芸術文化財団	29 年 1 月 2 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
20	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	学芸研究部長　富田淳	董其昌とその時代	『書法漢学研究』	有限会社アートライフ社	29 年 1 月 25 日	有
21	同上	列品管理課主任研究員 古谷毅	「オオヤマトの古墳・宮址と三輪山祭祀」	『纒向遺跡の成立とその後-三輪山周辺の古墳時代-』（発表要旨）	天理市観光協会・天理市教育委員会	6 月 25 日	無
22	同上	同上	「大塚古墳が築かれた時代 -副葬品から見た古墳時代中期における大塚古墳-」	『山梨考古』第 141 号	山梨県考古学協会	10 月 1 日	無
23	同上	同上	「第２章 総説 日本列島独自の造形が花開く」他３項目	『別冊太陽 古墳時代美術図鑑』（日本のこころ 246）	平凡社	12 月 21 日	無
24	同上	列品管理課登録室長　竹内奈美子	牡丹漆絵三重椀	『國華』1446 号	朝日新聞出版	4 月 20 日	無
25	同上	同上	日本工芸の軌跡－本展鑑賞の一助として	図録『東京・九州國立博物館精品展 日本美術之最』	國立故宮博物院（台湾）	12 月	無
26	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　六人部克典	明末清初の連綿趣味	『董其昌とその時代―明末清初の連綿趣味―』	公益財団法人台東区芸術文化財団	29 年 1 月 2 日	無
27	同上	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美	狩野長信筆　山水図	『國華』1450 号	國華社	8 月 20 日	無
28	同上	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人	細田作品にみる歌川国芳の DNA	『シアターカルチャーマガジン T.』No.34	エイガウォーカー	10 月 15 日	無
29	同上	同上	等伯 富山で絵師の一歩　氷見・蓮乗寺「鬼子母神十羅刹女像」の意味	北陸中日新聞		11 月 19 日	無
30	同上	同上	浮世絵における藍の存在感	『水の文化』55 号	ミツカン水の文化センター	29 年 2 月	無
31	同上	調査研究課長　田沢裕賀	戦国武将と禅僧	特別展図録『禅―心をかたちに―』	東京国立博物館	4 月 12 日	無
32	同上	同上	15-19 世紀の日本絵画　文人画・風俗画・仏画	東方画芸	中国・時代出版伝媒股份有限公司	11 月 3 日	無
33	同上	同上	日本絵画の歴史	図録『東京・九州國立博物館精品展 日本美術之最』	國立故宮博物院（台湾）	12 月	無
34	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也	禅寺の障壁画－絵師飛躍の場として	特別展図録『禅－心をかたちに－』	日本経済新聞社	4 月 12 日	無
35	同上	同上	禅宗寺院と障壁画 ―新たな絵画様式を育む	『聚美』21 号	学研	10 月 4 日	無
36	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　沖松健次郎	《資料紹介》重要文化財　准胝仏母像	『MUSEUM』　第 666 号	東京国立博物館	2 月 15 日	有
37	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	Buddhist Textiles in the Victoria and Albert Museum Collection	Japanese Collections in European Museums V	Bonn, Bier'she Velagsanstalt	4 月	無
38	同上	同上	金春座の歴史と能面・能装束	『金春家伝来の能面・能装束』	東京国立博物館	29 年 1 月 31 日	無
39	同上	調査研究課考古室長　白井克也	日本出土馬韓土器	『東北アジアから見た馬韓土器』	馬韓研究院	8 月 30 日	無
40	同上	調査研究課考古室研究員 井出浩正	(4)山田経塚	『平成 28 年度秋の特別展 むなかたの山岳信仰　ムナカタの考古学 6』	宗像市郷土文化学習交流館	9 月 27 日	無
41	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	調査研究課考古室長研究員　井出浩正、同アソシエイトフェロー　飯田茂雄	東京国立博物館図版目録　経塚遺物篇（東日本）	『東京国立博物館図版目録 経塚遺物篇（東日本）』新訂	東京国立博物館	29 年 3 月 31 日	無
42	同上	調査研究課考古室研究員 河野正訓、古墳にコーフン協会会長　まりこふん	はにわの殿堂を訪ねて　墳活 in 東京国立博物館	はにわ	青月社	9 月 10 日	無
43	同上	調査研究課考古室研究員 河野正訓	山陽西部	前期古墳編年を再考するⅢ～地域の画期と社会変動～	中国四国前方後円墳研究会	11 月 26 日	無
44	同上	同上	ムラの生産、古墳時代年表	別冊太陽 246　古墳時代美術図鑑	平凡社	12 月 16 日	無
45	同上	同上	農具の鉄器化について－鉄器研究者の立場から	考古学研究会シンポジウム記録 10 木製品からみた鉄器化の諸問題	考古学研究会	29 年 1 月 28 日	無
46	同上	同上	山陽西部（補遺）	中四研だより 39	中国四国前方後円墳研究会	29 年 3 月 31 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
47	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	調査研究課考古室研究員 河野正訓、茨木市文化財資料館学芸員 清水邦彦	茨木市安威０号墳から出土した鉄製品（２）	茨木市立文化財資料館館報2	茨木市立文化財資料館	29年 3月31日	無
48	同上	調査研究課考古室アソシエイトフェロー　飯田茂雄、大塚宜明、金成太郎、長井雅史、矢原史希、櫻井宏樹	置戸黒耀石原産地における先史時代の人類活動解明のための基礎研究―黒耀石原産地推定分析を観点として―	札幌学院大学人文学会紀要第100号	札幌学院大学総合研究所	10月	無
49	同上	調査研究課東洋室研究員 植松瑞希	作品解説、「朝鮮山水画鑑賞のご案内」	『特別企画展　朝鮮の絵画と工芸』	大和文華館	11月18日	無
50	同上	同上	「江南都市の文化競争と董其昌の絵画」、「董其昌と奇想派、愛石趣味」	『董其昌とその時代―明末清初の連綿趣味―』	台東区芸術文化財団	29年 1月2日	無
51	同上	同上	小さな庭園空間―明代蘇州における隠居地図像の一類型について	『大和文華』１３１号	大和文華館	29年 3月31日	有
52	同上	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	伊東マンショの肖像	『日伊国交樹立150周年記念　特別公開　新発見！天正遣欧少年使節　伊東マンショの肖像』	東京国立博物館	5月17日	無
53	同上	保存修復課保存修復室研究員　横山梓	表紙解説　重要文化財　色絵月梅図茶壺　仁清	「茶道の研究」 ２０１７年１月号	三徳庵	29年 1月1日	無
54	同上	同上	志野茶碗　銘 橋姫	「茶道の研究」 ２０１７年３月号	三徳庵	29年 3月1日	無
55	東洋民族資料に関する調査研究	調査研究課考古室長　白井克也	田枝豪氏収集のワヤン・クリ	『MUSEUM』　第664号	東京国立博物館	10月15日	有
56	特集「上海博物館との競演」に関連する調査研究	調査研究課東洋室主任研究員　三笠景子	東京国立博物館　特集「上海博物館との競演」に寄せて　汝窯青磁盤の意義	陶説　７６５号	日本陶磁協会	12月1日	無
57	特集「生誕百年記念　小林斗盦　篆刻の軌跡」に関連する調査研究	学芸研究部長　富田淳	懐玉印室コレクションについて	特集図録『生誕百年記念 小林斗盦 篆刻の軌跡』	東京国立博物館・謙慎書道会	11月1日	無
58	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　六人部克典	篆刻家の書画研究	特集図録『生誕百年記念　小林斗盦　篆刻の軌跡』	東京国立博物館、謙慎書道会	11月1日	無
59	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究（科学研究費助成事業）	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕	歌仙絵の成立について	『歌仙絵』	東京国立博物館	10月18日	無
60	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容に関する研究（科学研究費助成事業）	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	忍性と証玄―東征伝絵巻施入をめぐって	『生誕八〇〇年記念　特別展　忍性菩薩―関東興律七五〇年―』	神奈川県立金沢文庫	10月28日	無
61	同上	同上	長野県信濃美術館開館50周年記念特別講座「もっと知りたい日本美術のこと」第4回「知ると楽しい仏画の世界」講演録	『長野県信濃美術館紀要』第11号	長野県信濃美術館	29年 3月15日	無
62	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究（科学研究費助成事業）	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之	法隆寺伝来「古裂」の本格修理に伴う配置復元について	『MUSEUM』　第662号	東京国立博物館	6月15日	有
63	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する研究（科学研究費助成事業）	客員研究員　沢田むつ代	「法隆寺伝来上代裂　纐纈・綾・錦・組紐・刺繍・氈等の残欠―平成二十四年度修理の成果―」	『MUSEUM』　第662号	東京国立博物館	6月15日	有
64	同上	同上	「城の山古墳出土品付着の織物の仕様事例」	『城の山古墳発掘調査報告書（４次～９次調査）』	新潟県胎内市教育委員会	10月	無
65	同上	同上	「金井東裏遺跡出土の挂甲と横矧板鋲留衝角付冑に付着する織物等について」	『金井東裏遺跡 甲着装人骨等詳細調査報告書』	群馬県教育委員会	29年3月	無
66	同上	同上	「島内地下式横穴墓より出土した遺物に付着する繊維について」	『島内地下式横穴墓群Ⅴ 灰塚地下式横穴墓群』	宮崎県えびの市教育委員会	29年3月	無
67	東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究（科学研究費助成事業）	博物館教育課教育講座室長　勝木言一郎	大足石刻宝頂山石窟における父母恩重経変相の図像に関する一考察	「東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究」論文集2017	筑波大学大学院日本美術史研究室	29年 3月31日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
68	「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築（科学研究費助成事業）	調査研究課東洋室研究員 小野塚拓造、月本昭男	発掘調査で明らかになった古代ガリラヤの諸相	科学研究費補助金 「新学術領域研究（研究領域提案型）」現代文明の基層としての古代西アジア文明」ニュースレター Vol. 9	筑波大学	29年3月	無
69	同上	調査研究課東洋室研究員 小野塚拓造、桑原久男、橋本英将、宮崎修二	下ガリラヤ地方における初期シナゴーグの新例 ―テル・レヘシュ第10次発掘調査（2016年）―	日本西アジア考古学会編『第24回西アジア発掘調査報告会報告集 平成28年度考古学が語る古代オリエント』	日本西アジア考古学会	29年3月	無
70	中国典籍日本古写本の研究（科学研究費助成事業）	博物館情報課長　田良島哲	東京国立博物館が所蔵する古筆手鑑所収の漢籍古写本断簡２点	中国典籍日本古写本の研究 Newsletter No.3	京都大学人文科学研究所	9月	無
71	三条西公条をめぐる絵事 ―「詠歌之大概歌仙図」を中心に―（メトロポリタン東洋美術研究センター）	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美	《研究ノート》三条西公条賛「詠歌之大概歌仙図」（陽明文庫所蔵）について	『MUSEUM』　第665号	東京国立博物館、中央公論事業出版	12月15日	有
72	特別展「平安の秘仏 - 滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」に関する調査研究	調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー　西木政統	仏像の大きさ	特別展図録『平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち』	読売新聞社	9月13日	無
73	同上	同上	甲賀様式と櫟野寺の仏像	特別展図録『平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち』	読売新聞社	9月13日	無
74	特別展「禅―心をかたちに」に関連する調査研究	調査研究課東洋室主任研究員　三笠景子	織田有楽にまつわる二つの器―「青磁輪花茶碗」と「玉垣文琳」	特別展図録『禅－心をかたちに－』	日本経済新聞社	4月12日	無
75	同上	同上	禅と茶の湯　茶人織田有楽	聚美　21号	聚美社	10月15日	無
76	特別展「春日大社－千年の至宝」に関連する調査研究	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕	来年新春は東京・上野で春日詣特別展「春日大社　千年の至宝」	春日96号	春日大社	8月1日	無
77	同上	同上	春日大社　神々に捧げられた祈りと美	特別展図録『春日大社　千年の至宝』	東京国立博物館	29年 1月17日	無
78	同上	同上	誓願寺所蔵「春日宮曼荼羅」について	特別展図録『春日大社　千年の至宝』	東京国立博物館	29年 1月17日	無
79	同上	同上	春日宮曼荼羅― 神のいます美しき聖地の風景	目の眼485号	株式会社 目の眼	29年 2月1日	無
80	同上	同上	春日宮曼荼羅鑑賞の手引き―春日野を歩く	特別展図録『春日大社　千年の至宝』	東京国立博物館	29年 1月17日	無
81	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　恵美千鶴子	春日社参詣と春日にまつわる和歌	特別展図録『春日大社　千年の至宝』	東京国立博物館	29年 1月17日	無
82	特別展「茶の湯」に関連する調査研究	調査研究課東洋室主任研究員　三笠景子	表紙解説　大井戸茶碗　有楽井戸	茶道の研究　735号	公益財団法人三徳庵	29年 2月25日	無
83	同上	同上	東京国立博物館　特別展「茶の湯」について	茶の湯文化学会会報	茶の湯文化学会	29年 3月27日	無
84	同上	保存修復課保存修復室研究員　横山梓	特別展「茶の湯」（展覧会概要紹介）	「炎芸術」2017春	阿部出版	29年 2月1日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　13件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	博物館の環境保存に関する調査研究	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀	伝将軍山古墳出土象嵌円頭塚頭蛍光X線分析	埼玉県立さきたま史跡の博物館　紀要10号	埼玉県立さきたま史跡の博物館	29年 3月24日	有
2	同上	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、同アソシエイトフェロー　宮田将寛	二つの双羊尊―エックス線C撮影と画像解析について	根津美術館紀要「此君」第8号	公益財団法人根津美術館	29年 3月30日	有
3	同上	保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛	伝埼玉将軍山古墳出土象嵌円頭大刀柄頭のX線CT調査について	埼玉県立さきたま史跡の博物館　紀要10号	埼玉県立さきたま史跡の博物館	29年 3月24日	有
4	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	遺物の保存環境	日本文化財科学会誌第71号	日本文化財科学会	8月1日	有
5	同上	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　井上素子	博物館展示施設における温湿度ロガー設置面の素材と採取データ精度の相関分析	文化財保存修復学会第38回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月25日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
6	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築(科学研究費助成事業)	保存修復課環境保存室長 和田浩	美術品輸送車両上で発生する振動周波数の解析	日本文化財科学会第33回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月4日	無
7	同上	同上	首都高速道路走行時に美術品輸送車両上で発生する加速度の評価	文化財保存修復学会第38回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月25日	無
8	同上	同上	美術品輸送用トラックの荷台で計測された加速度の評価	日本包装学会第25回年次大会研究発表会予稿集	日本包装学会	7月7日	無
9	同上	同上	中国における美術品長距離輸送時の環境調査	第54回全日本包装技術研究大会予稿集	全日本包装技術研究大会	11月29日	無
10	被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究(科学研究費助成事業)	同上	東日本大震災被災資料と被災地域の復興	第35回日本展示学会研究大会大阪大会研究発表梗概集	日本展示学会	6月5日	無
11	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	博物館情報課情報管理室長　村田良二	文化財情報の構造と組織化について―データベース化の実践をもとに―	東京国立博物館紀要52号	東京国立博物館	29年 3月31日	無
12	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究(科学研究費助成事業？)	調査研究課考古室長　白井克也	東京国立博物館所蔵のギリシャ関係資料	特別展図録『古代ギリシャ―時空を超えた旅―』	朝日新聞社・NHK・NHKプロモーション・東映	6月21日	無
13	海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究(科学研究費助成事業)	広報室長　鬼頭智美	「海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究」研究概要ほか	研究成果報告書	東京国立博物館	29年 3月31日	無

【京都国立博物館】38件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　38件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	美術室研究員 福士雄也	「水墨でたどる　革新者若冲の軌跡」	『芸術新潮』	新潮社	4月25日	無
2	同上	美術室研究員 福士雄也	「伊藤若冲の署名と印章について」	『生誕300年　伊藤若冲』（展覧会図録）	日本経済新聞社ほか	4月22日	無
3	同上	同上	作品解説	『生誕300年　伊藤若冲』（展覧会図録）	日本経済新聞社ほか	4月22日	無
4	同上	同上	「登山する絵師、池大雅」	『岳人』No.837	ネイチュアエンタープライズ	2月15日	
5	同上	保存修理指導室 主任研究員　羽田　聡	「院派仏師とその文書」	『仏教美術論集　第六巻　組織論』	竹林舎	5月	無
6	同上	企画室研究員 井並林太郎	「康永本《本願寺聖人伝絵》考―「稲田興法」段を中心に―」	『学叢』38号	京都国立博物館	5月	無
7	同上	保存修理指導室長 大原嘉豊	共著「釈迦金棺出現図　科学分析調査報告及び復元模写事業概要」	『学叢』38号	京都国立博物館	5月	無
8	同上	同上	「重要文化財　徳川家康坐像　京都・知恩院蔵」美術館だより287	『なにわ』732号	大阪府警察本部警務部教養課 一般財団法人大阪府警察職員互助会	5月	無
9	同上	同上	「観経曼陀羅図」	『華頂』584号	浄土宗総本山知恩院	9月	無
10	同上	同上	「紅玻璃阿弥陀像」	『華頂』585号	同上	10月	無
11	同上	同上	「阿弥陀二十五菩薩来迎図（早来迎）」	『華頂』587号	浄土宗総本山知恩院	12月	無
12	同上	同上	『開創650年記念　正覚寺展』作品解説	記念館特別展覧会図録	越前市武生公会堂	11月	無
13	同上	教育室長　山川　暁	Five Dharma Transmission Robes at the Zen Temple Tofukuji	The Eastern Buddhist 45 1&2	The Eastern Buddhist society	9月	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
14	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	教育室長　山川　暁	中近世服飾品へのまなざし ―博物館という場から― An approach to Japanese medieval and early modern costumes and textiles: A voice from a museum	『国際服飾学会誌　Journal of the International Association of Costume』50 号	国際服飾学会	12月20日	無
15	同上	教育室研究員 水谷亜希	円山応挙筆　双鹿図屏風	『國華』第 1452 号	國華社	10月	有
16	同上	列品管理室主任研究員 永島明子	作品解説	『なにわ』11 月号＜737 号＞	大阪府警本部警務部教養課編集	10月28日	無
17	同上	連携協力室長 淺湫　毅	「観音の聖地、櫟野寺」	『平安の秘仏　滋賀櫟野寺の大観音とみほとけたち』	東京国立博物館 読売新聞社	9月	無
18	特別展覧会「禅　心をかたちに」展に関する調査研究	学芸部長　山本英男 列品管理室主任研究員 永島明子 呉孟晋 連携協力室長 淺湫　毅 教育室長　山川　暁 保存修理指導室長 大原嘉豊　保存修理指導室 主任研究員　羽田　聡 美術室研究員 福士雄也 工芸室研究員　降矢哲男　東京国立博物館 浅見龍介　末兼俊彦	作品解説	『禅―心をかたちに―』図録	京都国立博物館 東京国立博物館 日本経済新聞社	４月	無
19	同上	保存修理指導室 主任研究員　羽田　聡	「仏師の古文書」	『禅―心をかたちに―』図録	同上	４月	無
20	同上	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「羅漢から祖師へ：「二祖慧可像」（静岡・方広寺蔵）について」	『禅―心をかたちに―』図録	同上	４月	無
21	同上	教育室長　山川　暁	「禅の袈裟がつなぐもの」	『禅―心をかたちに―』図録	同上	４月	無
22	同上	連携協力室長 淺湫　毅	「禅の守護神―多彩なるその世界」	『禅―心をかたちに―』図録	同上	４月	無
23	同上	工芸室研究員　降矢哲男	「喫茶文化の受容と寺院の関わり」	『禅―心をかたちに―』図録	同上	４月	無
24	特集陳列「徳川将軍家と京都の寺社―知恩院を中心に―」に関する調査研究	保存修理指導室長 大原嘉豊 保存修理指導室 主任研究員　羽田　聡 企画室研究員　井並林太郎　東京国立博物館 浅見龍介	作品解説	『徳川将軍家と京都の寺社―知恩院を中心に―』図録	京都国立博物館	6月	無
25	特集陳列「丹後の仏教美術」に関する調査研究	連携協力室長 淺湫　毅 保存修理指導室長 大原嘉豊 保存修理指導室 主任研究員　羽田　聡 企画室長　伊藤信二 企画室研究員 井並林太郎　東京国立博物館 浅見龍介	作品解説	『丹後の仏教美術』図録	京都国立博物館	7月26日	無
26	同上	企画室研究員 井並林太郎	「学芸員談話室（１３）　京都国立博物館　特集陳列「丹後の仏教美術」への道」	『博物館学年報』４８号	同志社大学博物館学芸員課程	3月	
27	特集陳列「与謝蕪村」に関する調査研究	美術室研究員　福士雄也	作品解説	『特集陳列　生誕300年　与謝蕪村』図録	京都国立博物館	8月23日	無
28	特集陳列「伊藤若冲」に関する調査研究	同上	作品解説	『特集陳列　生誕300年　伊藤若冲』図録	京都国立博物館	12月13日	無
29	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「黄檗絵画における「人生の階段」：独湛性瑩をめぐる書画について」	『美術フォーラム２１』３３号	一般社団法人美術フォーラム 21	5月	無
30	同上	同上	「（動向）美術」	『中国年鑑２０１６』	中国研究所	5月	無
31	同上	同上	「美術：「台湾」をいかに描くか」「演劇：民衆から知識人、そして市民へ」	赤松美和子・若松大祐編著『台湾を知るための６０章』	明石書店	8月	無
32	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	工芸室研究員 降矢哲男	「禅院に伝わった唐物の名品」	『目の眼』476 号	目の眼	5月1日	無
33	同上	同上	「京焼の色絵はどのように生まれたか」	『なごみ』438 号	淡交社	6月1日	無
34	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究	教育室研究員 水谷亜希	文化財複製を活用した大学生による訪問授業の実践 京都国立博物館 文化財ソムリエ	『学叢』第 38 号	京都国立博物館	5月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
35	近代京都と宮廷文化に関する調査研究	企画室研究員 井並林太郎	「博覧会と伝統」	『博覧会絵はがきとその時代』	青弓社	10月	無
36	漆工に関する調査研究	列品管理室主任研究員 永島明子	「フランス王室と日本の蒔絵」	『國華』1453 号	國華社	11月20日	有
37	特別展覧会「坂本龍馬」展に関する調査研究	列品管理室長　宮川禎一　企画室長　伊藤信二　美術室研究員　福士雄也	作品解説	『禅―心をかたちに―』図録	京都国立博物館 長崎歴史文化博物館 東京都江戸東京博物館 静岡市美術館	10月	無
38	日本の宮廷装束・調度に関する基礎的研究	教育室長　山川　曉	Kyoto a Treasure House of Traditional Japanese Costume	Museums and Cultural Landscapes: Proceedings of the ICOM Costume Committee Annual Meeting, Milan（電子出版）	ICOM Costume Committee	1月10日	無

【奈良国立博物館】29件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　28件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	湯山賢一（館長）	写経と料紙	四天王寺　第七七四号	海風社	6 月	無
2	同上	同上	「鳥獣人物戯画」の料紙について」	鳥獣戯画　修理から見えてきた世界　国宝鳥獣人物戯画修理報告書	勉誠出版株式会社	9 月	無
3	同上	学芸部長　内藤栄	舎利容器（作品解説）	『聖徳』第二二八号	法隆寺	6 月	無
4	同上	同上	忍性の舎利信仰	生誕八〇〇年記念特別展『忍性―救済に捧げた生涯―』	奈良国立博物館	7 月	無
5	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	聖武天皇の奥―葬儀と一周忌斎会をめぐって―	第六八回『正倉院展』図録（宝物寸描）	奈良国立博物館	10 月	無
6	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	上席研究員　岩田茂樹	（資料紹介）東大寺・双身毘沙門天立像	『ＭＵＳＥＵＭ』645 号	東京国立博物館	12 月	無
7	同上	同上	白鳳彫刻二題―法隆寺夢違観音像と新薬師寺香薬師像、法隆寺伝文殊・勢至菩薩増―	鹿園雑集　第 17 号・第 18 号	奈良国立博物館	1 月	無
8	同上	同上	アメリカ・ロサンゼルス州立美術館所蔵の日本彫刻	春日信仰を中心とした南都における神祈信仰の展開とその遺品に関する総合的研究	奈良国立博物館	3 月	無
9	同上	上席研究員　岩田茂樹 情報サービス室長　岩井共二 保存修理指導室長　鳥越俊行 研究員　山口隆介 研究員　大江克己	奈良・法華寺文殊菩薩騎獅像	鹿園雑集　第 17 号・第 18 号	奈良国立博物館	1 月	無
10	同上	情報サービス室長　岩井共二	作品解説	『神像彫刻重要資料集成　三』	国書刊行会	12 月	無
11	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	工芸考古室長　清水健	正倉院の大幡	『平成２８年　正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10 月	無
12	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	教育室長　谷口耕生	信貴山縁起絵巻と朝護孫子寺の毘沙門天王信仰	『国宝 信貴山縁起絵巻―朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝』	奈良国立博物館	4 月	無
13	同上	同上	極楽寺忍性による東征伝絵巻の施入をめぐって	『忍性―救済に捧げた生涯』	奈良国立博物館	7 月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
14	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	教育室長　谷口耕生 研究員　北澤菜月 研究員　山口隆介 研究員　伊藤久美	在外春日曼荼羅調査研究報告	春日信仰を中心とした南都における神祈信仰の展開とその遺品に関する総合的研究	奈良国立博物館	3月	無
15	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	保存修理指導室長 鳥越俊行 研究員　大江克己	奈良国立博物館における木彫像の樹種同定調査	文化財保存修復学会第 38 回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月	無
16	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	企画室長　野尻忠	明治維新と廃仏毀釈	『歴史と共に考える文化財の防災・減災』（特別講演会予稿集）	九州国立博物館	7月	無
17	同上	同上	大般若経　巻第四百九十四（行信願経）	『聖徳』229 号	法隆寺	7月	無
18	同上	同上	「大般若経（安倍小水麻呂願経）」の基礎的研究	慈光寺所蔵「大般若経（安倍小水麻呂願経）」の調査と研究（科研「平安時代の『大般若波経』」遺品の総合的調査と歴史研究資料としての資料化」成果報告書）	奈良国立博物館	3月	無
19	同上	列品室長　吉澤悟	春日大社（奈良）と香取神宮（千葉）の海獣葡萄鏡の調査	春日信仰を中心とした南都における神祈信仰の展開とその遺品に関する総合的研究	奈良国立博物館	3月	無
20	同上	主任研究員　中川あや	春日東西塔院跡出土の軒瓦	春日信仰を中心とした南都における神祈信仰の展開とその遺品に関する総合的研究	奈良国立博物館	3月	無
21	同上	研究員　北澤菜月	新所蔵の「最勝曼荼羅」について―室町時代興福寺の祈雨本尊―	鹿園雑集　第 17 号・第 18 号	奈良国立博物館	1月	無
22	同上	研究員　斎木涼子	京都大学付属図書館所蔵「奈良与力橋本家律令雑記」に含まれる春日若宮おん祭関連史料の調査	春日信仰を中心とした南都における神祈信仰の展開とその遺品に関する総合的研究	奈良国立博物館	3月	無
23	同上	研究員　山口隆介	極楽寺忍性像及び叡尊像の造立背景に関する試論 ―忍性像の寿像の可能性をめぐって―	『忍性 ―救済に捧げた生涯―』	奈良国立博物館	7月	無
24	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	伊豆山権現立像（奈良国立博物館）	『神像彫刻重要資料集成』第三巻関西編二	国書刊行会	12月	無
25	同上	同上	蔵王権現立像（奈良・大峯山寺）	『神像彫刻重要資料集成』第三巻関西編二	国書刊行会	12月	無
26	同上	研究員　伊藤久美	後白河法皇と蓮華王院宝蔵	『国宝　信貴山縁起絵巻―朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝―』	奈良国立博物館	4月	無
27	同上	同上	忍性の肖像画について	『忍性 ―救済に捧げた生涯―』	奈良国立博物館	7月	無
28	同上	研究員　大江克己	古墳時代中期短甲の革綴技術に関する概念の相違	日本文化財科学会第 33 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　1件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	保存修理指導室長 鳥越俊行 研究員　大江克己	中国戦国時代の青銅剣に対するＸ線ＣＴ調査	日本文化財科学会第 33 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月	無

【九州国立博物館】　40件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　20件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	水中文化遺産	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	水中考古学のいま―発見と保護と研究	西日本文化　No.479	西日本文化協会	7月1日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
2	水中文化遺産	福岡県教育庁 赤司善彦、 博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	海外における水中遺跡保護の現状と取り組み	月刊文化財　No.634	第一法規株式会社	7月1日	無
3	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　ー東アジア金属工芸史の再構築ー	企画課特別展室主任研究員　川村佳男	Being “Antique Objects” to “Archaeological Materials”：A Chang Seen on Chinese Bronze Artifacts from the Tokyo Imperial Museum before the 1930s	The Eighth World Archaeological Congress	WAC-8 Kyoto Program Committee	8月28日	無
4	近世西南日本の地域産業と対外交流の研究	展示課展示調整室研究員 一瀬　智	「江戸時代の海運と伊万里焼の流通」	トピック展示図録「有田焼創業400年記念　古伊万里　旧家の暮らしを彩った器」	九州国立博物館	9月14日	無
5	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　ー東アジア金属工芸史の再構築ー	企画課特別展室主任研究員　川村佳男	也談嶺南系青銅器：以温酒樽為例	漢代海上絲綢之路考古与漢文化国際学術研討会　論文提要集	中国社会科学院考古研究所・広西壮族自治区文化庁・北海市人民政府・中国考古学会	10月27日	無
6	トピック展示「きらめきで飾るー螺鈿の美をあつめてー」に関連する調査研究	文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子	「きらめきを愛でる、アジアの螺鈿」および作品解説	トピック展図録「きらめきで飾る-螺鈿の美をあつめて-」	九州国立博物館	11月15日	無
7	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　ー東アジア金属工芸史の再構築ー	企画課特別展室主任研究員川村佳男、東京国立博物館保存修復課環境保存室長　和田浩、東京国立博物館企画課特別展室主任研究員　市元塁、Bruker Nano Dr.Roald Tagle、ブルカー・エイエックス株式会社　水平学	蛍光X線分析と元素マッピングによる考古資料の新地平ー漢時代の鍍金銀銅刀を対象にー	日本中国考古学会２０１６年度大会発表資料集	日本中国考古学会	11月19日	無
8	漆工に関する調査研究	文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子	花鳥螺鈿箪笥	『國華』1453号	國華社	11月20日	有
9	古墳時代の石製品・石製模造品の研究	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	石製の宝器・儀器	別冊太陽『古墳時代　美術図鑑』	平凡社	12月16日	無
10	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」 に関する調査研究	展示課情報サービス室研究員　小嶋　篤	解説「古代の指輪」	図録『特別展　宗像・沖ノ島と大和朝廷』	九州国立博物館	29年 1月1日	無
11	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」 に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員　川村佳男	解説「アジアに広がる龍の造形」	図録『特別展　宗像・沖ノ島と大和朝廷』	九州国立博物館	29年 1月1日	無
12	高等学校が所蔵する考古資料に関する研究	展示課展示調整室主任研究員　今井涼子	「高校考古―ある博物館の取組み」	『歴史地理教育』2月号	一般社団法人 歴史教育者協議会	29年 1月28日	無
13	中世やまと絵に関する基礎的研究	企画課特別展室主任研究員　鷲頭桂	「当麻寺縁起絵巻」ほか（作品解説）	特別展図録『絵巻マニア列伝』	サントリー美術館	29年3月	無
14	黄檗美術に関する基礎的研究	福岡市美術館長 錦織亮介 企画課特別展室主任研究員　鷲頭桂	福岡市千眼寺所蔵「渡海羅漢図巻」について	『東風西声』第12号	九州国立博物館	29年 3月31日	無
15	インドネシア・スマトラ島パセマ高原に所在する装飾古墳の研究	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	インドネシア･南スマトラのパセマ高原における装飾古墳ー登場と展開についての素描ー	『東風西声』第12号	九州国立博物館	29年 3月31日	無
16	近世日本の対外関係に関する研究	企画課特別展室研究員 松浦晃佑	「南蛮通詞」試論	『東風西声』第12号	九州国立博物館	29年 3月31日	無
17	日本中世・近世史料に関する研究	同上	収蔵品紹介「豊臣秀吉朱印状」	『東風西声』第12号	九州国立博物館	29年 3月31日	無
18	教育普及活動に関する調査研究	企画課アソシエイトフェロー　西島亜木子、企画課研究補佐員　鮫島由佳、企画課研究補佐員　平山絵理子	松菊里型住居をモデルとした「組み立て式竪穴住居」の製作と活用	『東風西声』第12号	九州国立博物館	29年 3月31日	無
19	高等学校が所蔵する考古資料に関する研究	博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、展示課展示調整室主任研究員　今井涼子、企画課アソシエイトフェロー　西島亜木子、博物館科学課研究補佐員　田中麻美、企画課研究補佐員　鮫島由佳、企画課研究補佐員　平山絵理子	真夏のトピック展示「全国高等学校考古名品展2016」における考古資料の3次元データの公開活用	『東風西声』第12号	九州国立博物館	29年 3月31日	無
20	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　ー東アジア金属工芸史の再構築ー	企画課特別展室主任研究員　川村佳男	双羊尊を用いた祭祀儀礼　ーその蒐集史および研究史を踏まえてー	此君　根津美術館研究紀要第8号	根津美術館	29年 3月31日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　20件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	博物館科学課保存修復室 主任研究員　志賀智史	東日本の前期古墳出土丹塗土器に採用されたベンガラの地域性に関する研究	日本文化財科学会 33 回大会発表要旨集	日本文化財科学会	6 月 4 日	無
2	文化財建造物における塗装材料の解析	博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫	文化財建造物における塗装材料の解析	SPring-8/SACLA 利用研究成果集	Spring8	7 月 25 日	有
3	文化財 IPM	博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか	臭化メチル全廃に対応する思想と技術	月刊文化財　No.637	第一法規株式会社	10 月 1 日	無
4	アフガニスタン美術史	学芸部特任研究員 臺信祐爾	古代アフガニスタンの歴史と美術	『九州・シルクロード協会会報シルクロード　2016』　Vol.26	九州・シルクロード協会	10 月 1 日	無
5	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	博物館科学課保存修復室 主任研究員　志賀智史	城の山古墳出土の赤色顔料について	城の山古墳発掘調査報告書（4 次～9 次調査）	新潟県胎内市教育委員会	10 月 20 日	無
6	古墳の生物劣化の研究	Yuka Nagatsuka, Tomohiko Kiyuna, Rika Kigawa, Chie Sano, Junta Sugiyama	Prototheca tumulicola sp., a novel achlorophyllous, yeast-like microalga isolated from the stone chamber interior of the Takamatsuzuka Tumulus	Mycoscience 58, 53-59	Elsevier	11 月 22 日 (online)	有
7	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	博物館科学課保存修復室 主任研究員　志賀智史	玉丘古墳から出土した赤色顔料について	玉丘古墳群Ⅴ	兵庫県加西市教育委員会	29 年 3 月	無
8	材質調査	同上	高三潴遺跡第５次調査K40から出土した連玉の構造調査	高三潴遺跡発掘調査報告書	福岡県久留米市教育委員会	29 年 3 月	無
9	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	同上	城野遺跡１号方形周溝墓から出土した朱の産地推定について	研究紀要　第 31 号	北九州市埋蔵文化財調査室	29 年 3 月	無
10	同上	同上	都塚古墳から出土した赤色顔料について	明日香村文化財調査研究紀要第 16 号	奈良県明日香村教育委員会	29 年 3 月	無
11	同上	同上	考古学と科学～赤色顔料の分析から～	備前焼をサイエンスする～科学と歴史の対話～	岡山県備前市教育委員会	29 年 3 月	無
12	同上	同上	重山古墳群出土の赤色顔料について	重山古墳群発掘調査報告書	鳥取市教育委員会	29 年 3 月	無
13	同上	同上	対田清水谷古墳群出土の石杵に付着する赤色顔料について	対田清水谷古墳群	兵庫県教育委員会	29 年 3 月	無
14	金井東裏遺跡出土の赤色顔料について	同上	金井東裏遺跡出土の赤色顔料について	金井東裏遺跡発掘調査報告書	群馬県埋蔵文化財調査事業団	29 年 3 月	無
15	古墳装飾石棺表面の着生生物の研究	東京文化財研究所　佐藤嘉則、西澤智康、犬塚将英、森井順之、朽津信明、茨木大学　小沼奈那美、博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、	石人山古墳装飾石棺表面に形成した着生生物群集の構造解析	保存科学　56 号	東京文化財研究所	29 年 3 月 23 日	有
16	歴史的木造建造物の生物被害の研究	東京文化財研究所　小峰幸夫、佐藤嘉則、公益財団法人日光社寺文化財保存会　原田正彦、千葉県立中央博物館　斉藤明子、博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、京都大学　藤井義久	日光の歴史的木造建造物における新たなモニタリング手法の実用性と補集テープ調査の集計報告	保存科学　56 号	東京文化財研究所	29 年 3 月 23 日	有
17	温度処理による文化財の殺虫法の研究	京都大学大学院農学研究所竹口彩、藤原裕子、藤井義久、博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、東京芸術大学大学院美術研究科　古田嶋智子、東京文化財研究所佐藤嘉則、犬塚将英	湿度制御した温風処理による漆仕上げ材の表面ひずみの測定	保存科学　56 号	東京文化財研究所	29 年 3 月 23 日	有
18	古墳の生物劣化の研究	株式会社テクノスルガ・ラボ　半田豊、立里臨、東京文化財研究所　佐藤嘉則、佐野千絵、博物館科学課長兼環境保全室長木川りか、株式会社テクノスルガ・ラボ千葉分室杉山純多	高松塚・キトラ両古墳からの主要分離株：Bacillus・Ochrobactrum 両属分離株の分子系統学的位置	保存科学　56 号	東京文化財研究所	29 年 3 月 23 日	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
19	文化財 IPM	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子、博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、博物館科学課アソシエイトフェロー　赤田昌倫、博物館科学課研究補佐員　泊智子、博物館科学課研究補佐員　光山文枝、カナダ保存研究所　トムストラング、学芸部特任研究員　本田光子、前博物館科学課課長　今津節生	九州国立博物館の新たな防虫対策の取り組みについて	『東風西声』第 12 号	九州国立博物館	29 年 3 月 31 日	無
20	熊本県被災文化財救援事業	博物館科学課アソシエイトフェロー　三角菜緒	【中間報告】熊本県災害文化財救援事業における作業マニュアルの策定について－災害時の文化財搬出・搬出前の事前調査・調書作成手順の検討－	『東風西声』第 12 号	九州国立博物館	29 年 3 月 31 日	無

【東京文化財研究所】34件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　13件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　5件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室研究員　安永拓世	展覧会評　我が名は鶴亭	『美術研究』421 号	東京文化財研究所	29 年 3 月	有
2	同上	文化遺産国際協力センター主任研究員　江村知子	光琳の「道崇」印作品について―尾形光琳の江戸滞在と画風転換	『美術研究』421 号	同上	同上	有
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部近・現代視覚芸術研究室アソシエイトフェロー　田所泰	栗原玉葉に関する基礎研究―その生涯と作品について	『美術研究』420 号	同上	12 月	有
4	同上	文化財情報資料部近・現代視覚芸術研究室長　塩谷純	佐竹永湖一文晁派の伝道者として	『明治 21 年の佐竹永湖とその周辺　松戸神社神楽殿の絵画と修復展』図録	松戸市教育委員会	29 年 1 月	無
5	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	南蛮漆器の多源性を探る問題点の把握と提起	『公開研究会　南蛮漆器の多源性を探る予稿集』	東京文化財研究所	29 年 3 月 3 日	無

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　8件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	無形文化財の保存･継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部研究員　菊池理予	染織技術保護における原材料と道具	日韓無形文化遺産研究 II	東京文化財研究所	29 年 3 月 31 日	無
2	同上	無形文化遺産部長　飯島満	七代目豊沢広助『義太夫節と手順』	無形文化遺産研究報告 11	同上	同上	無
3	無形民俗文化財の保存･活用に関する調査研究	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	民俗芸能・祭礼の被災と復興	東日本大震災　神社・祭り―被災の記録と復興―本編	神社新報社	7 月 8 日	無
4	同上	無形文化遺産部研究員　今石みぎわ	Japanese Shipbuilding Skills and Traditions	ICH Courier 29	International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region under the auspices of UNESCO	11 月 1 日	無
5	同上	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	日本の重要無形民俗文化財の現況と実態	国家重要無形文化財済州チルモリ堂燃燈グッの発展方向と課題	済州チルモリ堂燃燈グッ保存会	11 月 19 日	無
6	同上	無形文化遺産部音声映像記録研究室長　石村智	木島正夫による青花紙製作の記録映像	無形文化遺産研究報告 11	東京文化財研究所	29 年 3 月 31 日	無
7	同上	無形文化遺産部研究員　今石みぎわ	無形の民俗文化財としての「民俗技術」とその保護	日韓無形文化遺産研究 II	同上	同上	無
8	無形文化遺産保護に関する研究交流･情報収集	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子	無形文化遺産の保護に関する第 11 回政府間委員会における議論の概要と今後の課題	無形文化遺産研究報告 11	同上	同上	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　18件

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　18件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	保存科学研究センター主任研究員　佐藤嘉則　他	石人山古墳装飾石棺表面に形成した着生生物群集の構造解析	『保存科学』 56 号	東京文化財研究所	29 年 3 月 31 日	有
2	同上	保存科学研究センターアソシエイトフェロー　小峰幸夫　他	日光の歴史的木造建造物における新たなモニタリング手法の実用性と捕集テープ調査の集計報告	同上	同上	同上	有
3	同上	保存科学研究センター客員研究員　間渕創　他	バイオエアロゾル測定を用いた博物館施設におけるゾーニングについて	同上	同上	同上	有
4	同上	保存科学研究センター客員研究員　藤井義久　他	湿度制御した温風処理による漆仕上げ材の表面ひずみの測定	同上	同上	同上	有
5	保存と活用のための展示環境の研究	保存科学研究センター保存環境研究室長　吉田直人　他	彩色材料への直管形蛍光灯と白色LED光照射時における反射スペクトルの比較	同上	同上	同上	有
6	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター副センター長　早川泰弘	国宝慈光寺経における真鍮泥の利用について	同上	同上	同上	有
7	同上	保存科学研究センター分析科学研究室長　犬塚将英　他	文化財の材質調査のための2次元イメージング検出器の開発	同上	同上	同上	有
8	同上	同上	煉瓦造文化財の保存環境と塩類析出に関する調査	同上	同上	同上	有
9	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	保存科学研究センター主任研究員　森井順之　他	Conservation of Wareishi-jizo statue carved on granite cliff on the seashore	Science and Art	A Future for Stone	11 月	有
10	同上	保存科学研究センター修復計画研究室長　朽津信明　他	保存科学から見た被災遺構の保存・活用の歴史	『保存科学』 56 号	東京文化財研究所	29 年 3 月 31 日	有
11	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	保存科学研究センター近代文化遺産研究室アソシエイトフェロー　石田真弥	群馬県内における煉瓦の基準寸法に関する一考察 煉瓦建造物の保存・活用に関する研究-11	日本建築学会　大会学術講演梗概集（九州）	日本建築学会	9 月 13 日	無
12	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	保存科学研究センター近代文化遺産研究室アソシエイトフェロー　石田真弥	内国勧業博覧会出品煉瓦の寸法変遷に関する考察 煉瓦建造物の保存・活用に関する研究-12	日本建築学会研究報告.九州支部	日本建築学会	29 年 3 月 1 日	無
13	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	保存科学研究センター近代文化遺産研究室アソシエイトフェロー　石田真弥	明治・大正期の博覧会出品煉瓦の寸法変遷に関する考察 煉瓦建造物の保存・活用に関する研究-13	2016 年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ	同上	29 年 2 月 20 日	無
14	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	Y. Nagatsuka et al.	Yamadazyma kitorensis f.a., sp. nov. and Zygoascus biomembranicola f.a., sp. nov., novel yeasts from the stone chamber interior of the Kitora tumulus, and five novel combinations in Yamadazyma and Zygoascus for species of Candida	International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology	Microbiology Society	4 月 1 日	有
15	同上	M. Nishijima et al.	Krasilnikoviella muralis gen. nov., sp. nov. , a new member of the family Promicromonosporaceae, isolated from the Takamatsuzuka Tumulus stone chamber interior and reclassification of Promicromonospora flava as Krasilnikoviella flava comb. nov.	International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology	同上	10 月 26 日	有
16	同上	Y. Nagatsuka et al.	Prototheca tumulicola sp. nov., a novel achlorophyllous, yeast-like microalga isolated from the stone chamber interior of the Takamatsuzuka Tumulus	Mycoscience	Elsevier	8 月 30 日	有

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
17	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	J. Sugiyama et al.	Polyphasic insights into the microbiomes of the Takamatsuzuka Tumulus and Kitora Tumulus	Journal of General and Applied Microbiology	Applied Microbiology, Molecular and Cellular Biosciences Research Foundation	29年3月31日	有
18	同上	半田　豊　他	高松塚・キトラ両古墳からの主要細菌分離株：Bacillus・Ochrobactrum両属分離株の分子系統学的位置	『保存科学』 56号	東京文化財研究所	同上	有

(3) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　3件

○文化財情報基盤の整備・充実　1件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室研究員　橘川英規	閉架書庫に発生したカビ対策事例	『保存科学』 56号	東京文化財研究所	29年3月	有

○調査研究成果の発信　2件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部アソシエイトフェロー福永八朗	東京文化財研究所の文化財データベースー刊行物アーカイブを中心とした、アーカイブ・データベースの目的、要件およびその実現の方法について	『美術研究』 419号	東京文化財研究所	6月1日	有
2	同上	文化財情報資料部研究補佐員　小山田智寛　他	ウェブデータベースによる画像情報の公開―尾高鮮之助調査撮影記録を例にー	『保存科学』 56号	同上	29年3月31日	有

【奈良文化財研究所】78件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　37件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　3件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部室長　吉川聡	薬師寺僧の官位とその補任の様相	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	6月24日	無
2	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	都城発掘調査部研究員　鈴木智大	江戸時代中期における北口本宮冨士浅間神社社殿の中興と造営組織	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	6月24日	無
3	同上	都城発掘調査部研究員　海野 聡	現代の町並みにみえる江戸・明治の都市計画	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	6月24日	無

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　34件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	崔享仙	「韓日発掘交流に参加して」	奈文研ニュースNo.63	奈良文化財研究所	12月	無
2	同上	都城発掘調査部研究員 芝康次郎	「日韓発掘交流に参加して」	奈文研ニュースNo.64	奈良文化財研究所	29年3月	無
3	飛鳥地域発掘調査/特別史跡山田寺跡法面改修に係る試掘調査業務	都城発掘調査部アソシエイトフェロー山本亮	山田寺の発掘調査―第188-8次	奈良文化財研究所紀要2017	奈良文化財研究所	29年6月30日	無
4	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡整備）	文化遺産部室長　内田和伸	長安・洛陽両都の遺跡整備状況	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	6月24日	無
5	同上	同上	特別史跡キトラ古墳の整備ー乾拓板の設置と活用についてー	遺跡学研究	日本遺跡学会	11月17日	無
6	同上	同上	平城宮跡の保存と活用	Case Studies of World Heritages: Focused on Wolseong Fortress Excavation in Gyeongju, Korea	国立慶州文化財研究所	8月30日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
7	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡整備）	文化遺産部室長　内田和伸	遺跡における往時の様相の表現方法	平成 27 年度遺跡整備・活用研究集会報告書『デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用』	奈良文化財研究所	12 月 9 日	無
8	同上	同上	デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用について	平成 27 年度遺跡整備・活用研究集会報告書『デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用』	奈良文化財研究所	12 月 9 日	無
9	同上	同上	平城宮跡の保存と活用	ASIA JOINT SYMPOSIUM 2016 in IWATE	岩手大学	10 月 14 日	無
10	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部アソシエイトフェロー　エマニュエル・マレス	森蘊　庭園史研究と作庭は表裏一体	庭 NIWA	建築資料研究社	11 月 1 日	無
11	同上	文化遺産部アソシエイトフェロー　エマニュエル・マレス	小堀遠州の庭 ―歴史と伝説の合間に―	野村美術館紀要 2016	野村美術館	3 月 31 日	無
12	同上	客員研究員　小野健吉	『観光資源としての庭園（1）』	『都林泉名勝図絵』の庭園図描写から」	岡山大学	3 月 31 日	無
13	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部主任研究員　林正憲	平城京の飛雲文軒瓦	第 17 回古代瓦研究会シンポジウム「8 世紀の瓦づくりⅥ飛雲文軒瓦の展開」（発表要旨集）	奈良文化財研究所	29 年 2 月	無
14	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部研究員　海野 聡	遺構からみた郡庁の建築的特徴と空間的特質	『第 20 回古代官衙・集落研究集会郡庁域の空間構成研究報告資料』	奈良文化財研究所	12 月	無
15	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	都城発掘調査部研究員　諫早直人・石橋茂登	「飛鳥寺塔心礎出土刀子」	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	6 月 24 日	無
16	東大寺東塔院跡の発掘調査	都城発掘調査部研究員　山本祥隆　他	東大寺東塔院跡の調査-第 574 次	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
17	藤原宮跡の発掘調査（朝堂院）	都城発掘調査部研究員　大澤正吾　他	藤原宮朝堂院朝庭の調査（飛鳥藤原第 189 次調査）	『奈文研ニュース』No. 63	奈良文化財研究所	12 月	無
18	同上	都城発掘調査部研究員　大澤正吾	藤原宮朝堂院朝庭の調査―第 189 次	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
19	藤原宮跡の発掘調査（大極殿院）	都城発掘調査部研究員　和田一之輔　他	「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 190 次調査）」	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
20	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部主任研究員　廣瀬覚	藤原宮大極殿院出土の墨書竜山石	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
21	同上	都城発掘調査部室長尾野善裕・主任研究員森川実・　研究員　大澤正吾	飛鳥地域出土の美濃須衛・湖西窯産須恵器	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
22	同上	都城発掘調査部主任研究員　山本崇	二〇一五年出土の木簡　奈良・藤原宮跡	木簡研究　第 38 号	木簡学会	11 月	無
23	同上	同上	一九七七年以前出土の木簡（三八）　奈良・藤原京跡右京七条一坊	木簡研究　第 38 号	木簡学会	11 月	無
24	同上	同上	釈文の訂正と追加（一九）　奈良・石神遺跡	木簡研究　第 38 号	木簡学会	11 月	無
25	同上	同上	釈文の訂正と追加（一九）　奈良・坂田寺跡	木簡研究　第 38 号	木簡学会	11 月	無
26	同上	企画調整部技術職員栗山雅夫	Wi-Fi を利用したリモート撮影事例―中判高所撮影とコンデジ狭所撮影―	文化財写真研究 Vol. 7	文化財写真技術研究会	7 月	無
27	同上	同上	遺跡/遺物を撮る―写真で歴史を記録・保存	フィールド写真術	古今書院	12 月	無
28	同上	都城発掘調査部研究員　大澤正吾　他	藤原宮下層運河 SD1901A の総合的検討―飛鳥藤原第 186 次調査の自然科学分析を中心に―	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
29	同上	奈良文化財研究所	飛鳥むかしむかし飛鳥誕生編	朝日選書 549	朝日新聞社	８月１日	無
30	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部研究員　恵谷浩子	文化的景観研究 1－日本における文化的景観の 20 年	ランドスケープ研究 80(3)	日本造園学会	10 月 31 日	無
31	同上	同上	「地域らしさ」への眼差し　－地域のみかたとしての文化的景観－	風景計画学―美しいふるさとづくり―（仮称）	東京農業大学出版会	3 月 10 日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
32	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部アソシエイトフェロー　本間智希	古代国家機能周縁の集落構造について-山口市鋳銭司地区和西集落における千年村研究 その 1-	2016 年度　日本建築学会大会〔九州〕発表集	日本建築学会大会	8 月 10 日	無
33	平城宮東院地区の発掘調査	都城発掘調査部研究員　庄田慎矢	東院地区の発掘調査　ー平城第 584 次	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
34	平城京跡右京一条二坊四坪・西一坊大路・一条南大路の発掘調査	都城発掘調査部研究員　小田裕樹　他	平城京跡右京一条二坊四坪・西一坊大路・一条南大路の発掘調査ー平城第 565 次	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　34 件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　30 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	年輪年代学研究	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　浦蓉子，埋蔵文化財センター研究員　星野安治	祭祀遺構出土斎串の年輪年代学的手法を用いた接合検討	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	6 月 24 日	無
2	同上	埋蔵文化財センター研究員　星野安治	敷粗朶構造物を構成する木材片の樹種	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	6 月 24 日	無
3	同上	都城発掘調査部研究員小田裕樹，都城発掘調査部研究員　芝康次郎，埋蔵文化財センター研究員　星野安治	一面を削った棒	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	6 月 24 日	無
4	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　大河内隆之	宝城坊厨子の年輪年代調査	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	6 月 24 日	無
5	年輪年代学研究	同上	A nondestructive dendrochronological study on japanese wooden shinto art sculptures using micro-focus X-ray Computed Tomography (CT) Reviewing two methods for scanning objects of different sizes	Dendrochronologia38 2016	Italian Institute of Dendrochronology	6 月 24 日	有
6	動植物遺存体の分析方法の研究開発	埋蔵文化財センター客員研究員　上中央子他	平城宮東院地区および西大寺旧境内の花粉分析-第 503 次・第 505 次	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	6 月 24 日	無
7	同上	埋蔵文化財センター客員研究員　丸山真史	大坂城跡 14-2 調査で出土した脊椎動物遺存体	大坂城跡 7	大阪府文化財センター	4 月 30 日	無
8	同上	埋蔵文化財センター研究員　山崎健他	藤原宮造営を担った駄馬の利用実態	古代文化 68-3	古代学協会	12 月 31 日	無
9	同上	同上	西日本における縄文時代の動物遺体―縄文海進最盛期の研究動向―	考古学ジャーナル 694	北隆館	2 月 28 日	無
10	同上	埋蔵文化財センター客員研究員　菊地大樹他	閻家寨遺址出土馬骨研究	考古与文物	陝西省考古研究所	1 月 31 日	有
11	同上	埋蔵文化財センター研究員　山崎健	動物質遺物の同定と素材選択―小札・鉄鏃装具・鉄鉾装具・刀子柄―	金井東裏遺跡 甲着装人骨等詳細調査報告書	群馬県教育委員会	3 月 24 日	無
12	同上	同上	保美貝塚出土の動物遺存体	保美貝塚	田原市教育委員会	3 月 31 日	無
13	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター室長　金田明大	三次元データの利用を考える―島内 139 号地下式横穴墓出土状況の計測成果より	日本文化財科学会第 33 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6 月 1 日	有
14	同上	同上	SfM/MVS を用いた島内 139 号地下式横穴墓出土状況の計測	日本文化財科学会第 33 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6 月 1 日	有
15	同上	同上	遺跡の磁気探査における磁化研究の重要性	日本文化財科学会第 33 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6 月 1 日	有
16	同上	同上	How to classification? :A trial examining the effectiveness of an elliptic Fourier descriptor for Japanese archaeological studies.	ＣＡＡ 2016Abstruct	Computer Analysis and Quantitative Methods in Arcaheology	4 月 1 日	有
17	同上	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー山口欧志	Landscape archaeology of Hakusan worship	The Eighth World Archaeological Congress Book of Abstracts	The Eithth World Archaeological Congress, Kyoto	8 月 28 日	有
18	同上	同上	Human resource development in the field of digital documentation of cultural heritage in Mongolia	The Eighth World Archaeological Congress Book of Abstracts	The Eithth World Archaeological Congress, Kyoto	8 月 28 日	有

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
19	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー 山口欧志	SfM-MVS による文化遺産の計測	文化財写真研究	文化財写真技術研究会	7 月 1 日	有
20	同上	同上	多焦点画像処理による歴史芸術文化遺産の詳細記録	日本文化財科学会第 33 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6 月 4 日	有
21	同上	同上	歴史芸術文化遺産の 3D デジタル資源化とその活用	アート・ドキュメンテーション学会 2016 年度年次大会予稿集	アート・ドキュメンテーション学会	6 月 11 日	有
22	同上	同上	矢穴の非接触三次元計測による石割技法の検討	日本考古学協会第 82 回総会研究発表要旨	日本考古学協会	5 月 28 日	無
23	同上	埋蔵文化財センター客員研究員　中村亜希子	北東アジア、渤海の調査	知の回廊 ： 東京大学総合研究博物館常設展示図録	東京大学総合研究博物館	5 月 27 日	無
24	同上	埋蔵文化財センター室長　金田明大	磁気・レーダー探査成果	大萱古窯跡群発掘調査報告書	岐阜県可児市教育委員会	3 月 25 日	無
25	同上	同上	城の山古墳棺の三次元計測	城の山古墳発掘調査報告書	胎内市教育委員会	10 月 20 日	無
26	同上	同上	SfM/MVS による遺構の計測	文化財の壺 4	文化財方法論研究会	1 月 15 日	無
27	同上	埋蔵文化財センター室長　金田明大	考古遺物の 3 次元モデル作成	文化財の壺 4	文化財方法論研究会	1 月 15 日	無
28	同上	同上	Photoscan を用いた三次元モデル作成その後	文化財の壺 4	文化財方法論研究会	1 月 15 日	無
29	同上	同上	五塚原古墳の探査	向日市埋蔵文化財調査報告書 104	向日市教育委員会	3 月 30 日	無
30	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー 村田　泰輔	The Japan GIS database of the Histrical Natural Disaster and Hazards using research data of Archaeological excavation, Geological survey and Histrical documents.	The Eighth World Archaeological Congress. 343-345	The Eighth World Archaeological Congress.	8 月 28 日	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　4 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 他３名	平城宮跡遺構展示館で汚損を引き起こす含水参加鉄沈殿に関する検討	考古学と自然科学第 72 号	日本文化財科学会	29 年 2 月	無
2	同上	同上	覆屋内温湿度変動が磨崖仏の塩類風化に及ぼす影響の数値解析－元町石仏の保存に関する研究　その１－	日本建築学会論文集	日本建築学会	29 年 3 月 30 日	有
3	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター研究員　田村朋美	鹿児島県城久遺跡群出土のガラス玉の分析	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	6 月 24 日	無
4	同上	埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　他 2 名	「2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良」の成果と、東アジア文化遺産保存学会の活動	日本文化財化学会第３３回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6 月 4 日	無

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　2 件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　2 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	イギリスセインズベリー日本芸術研究所との共同研究	都城発掘調査部主任研究員　神野恵	セインズベリー日本藝術研究所と共同研究	奈良文化財研究所概要 2017	奈良文化財研究所	29 年 7 月	無
2	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ遺跡の建築学的・考古学的・保存科学的調査	企画調整部専門職佐藤由似	「中世カンボジア王都周辺地域に於ける陶磁器の需要と展開」	『中世陶磁器の考古学』 2016, p. 207-228	雄山閣	10 月 25 日	無

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　2 件

○文化財情報基盤の整備・充実　2 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部研究員高田祐一	「発掘調査報告書のデジタルアーカイブ」	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	6 月 24 日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
2	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部研究員高田祐一	「全国遺跡報告総覧」プロジェクトの状況　発掘調査報告書のデジタルアーカイブの実現に向けて」	遺跡学研究 13	日本遺跡学会	11 月 17 日	無

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　3 件

○文化財に関する協力・助言等　3 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助	都城発掘調査部主任研究員　山本崇他	藤原宮跡の調査―第 188-7 次	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
2	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実他	藤原京右京京九条二・三坊、瀬田遺跡の調査　第 187 次	奈良文化財研究所紀要 2017	奈良文化財研究所	29 年 6 月 30 日	無
3	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	奈良文化財研究所	奈良文化財研究所の取組	東日本大震災の復興と埋蔵文化財保護の取組（報告）	文化庁文化財部記念物課	29 年 3 月	無

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

平成29年3月31日現在

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物　5件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	「MUSEUM」661号～666号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等 2,988件(各498件×6)
2	「東京国立博物館紀要」52号	700	美術館・博物館・大学・研究所等　352件
3	「東京国立博物館文化財修理報告」XVII	700	美術館・博物館・大学・研究所等　152件
4	「法隆寺献納宝物特別調査概報」XXXVII　古今目録抄3	1,000	美術館・博物館・大学・研究所等　95件
5	『東京国立博物館図版目録　改訂版経塚遺物（東日本）篇』	800	美術館・博物館・大学・研究所等　163件

○展覧会図録等　17件

	刊行物名		発行部数	配布先
1	特別展 特集図録	『黄金のアフガニスタン －守りぬかれたシルクロードの秘宝－』	―	―
2		『ほほえみの御仏』	―	―
3		『古代ギルシャ展』	―	―
4		『平安の秘仏―滋賀櫟野寺のみほとけたち―』	―	―
5		『禅』	―	―
6		『春日大社展　千年の至宝』	―	―
7	特集印刷物	「伊東マンショの肖像」	20,000	
8		「藤原行成の書　その流行と伝承」	2,000	
9		「ドレッサーからの贈り物――欧米のガラスコレクション」	5,000	
10		「歌仙絵」	2,000	
11		「掛袱紗――祝う心を模様にたくす」	5,000	
12		「金春家伝来の能面・能装束」	3,000	
13		「東京国立博物館コレクションの保存と修理」	8,000	
14		「町田久成」	5,000	
15		「上海博物館との競演」	30,000	
16	その他	『東京国立博物館セレクション　シルクロードの美術』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等498件
17		『日本の考古ガイドブック』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等498件

※東京国立博物館ニュースの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物　2件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	研究紀要「学叢」第38号	820	美術館・博物館・大学等
2	文化財保存修理所　修理報告書14	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等

○展覧会図録等　6件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	特別展覧会『禅　- 心をかたちに - 』	―	美術館・博物館・大学等
2	特別展覧会『没後150年　坂本龍馬』	―	同上
3	特集陳列『徳川家康没後四百年記念　徳川将軍家と京都の寺社―知恩院を中心に―　』	3,000	同上
4	特集陳列『丹後の仏教美術』	1,500	同上
5	特集陳列『生誕300年　与謝蕪村』	2,500	同上
6	特集陳列『生誕300年　伊藤若冲』	7,600	同上

※博物館だより、Newsletterの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【奈良国立博物館】

○調査研究刊行物　2件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	奈良国立博物館研究紀要「鹿園雑集」第17号・18号	700	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	国宝聖徳太子及天台高僧像光学調査報告書	500	美術館・博物館・大学・研究機関等

○名品図録　1件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	なら仏像館名品図録　第四版	8,000	美術館・博物館・大学・研究機関等

○展覧会図録　6件

	刊行物名		発行部数	配布先
1	特別展	特別展『国宝 信貴山縁起絵巻 －朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－』	9,050	美術館・博物館・大学・研究機関等

2		生誕800年記念特別展『忍性―救済に捧げた生涯―』	8,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
3		『第68回正倉院展』	4,550	美術館・博物館・大学・研究機関等
4		『 The 68th Annual Exhibition of Shoso-in Treasures』	2,300	美術館・博物館・大学・研究機関等
5	特別陳列	特別陳列『和紙 ―近代和紙の誕生―』	2,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
6		特別陳列『おん祭と春日信仰の美術―特集　奈良奉行所のかかわり―』	1,250	美術館・博物館・大学・研究機関等

※博物館だよりの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【九州国立博物館】

調査研究刊行物　　8件

	刊 行 物 名	発行部数	配　　布　　先
1	博物館科学の取り組みと設備	2,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	日中韓文化遺産フォーラム報告書（3ヶ国語）	2,100	文化庁、美術館・博物館・大学・研究機関等
3	日中韓文化遺産フォーラム成果パンフレット（英文）	1,000	文化庁、美術館・博物館・大学・研究機関等
4	水中遺跡の保存活用に関する調査研究　報告書	50	文化庁、美術館・博物館・大学・研究機関等
5	九州国立博物館紀要『東風西声』　第12号	1,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
6	平成28年度文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」報告書	800	連携協力機関、九州・山口の美術館・博物館等
7	平成28年度文化芸術振興費補助金「文化財防災ネットワーク推進事業」報告書	800	連携協力機関、九州・山口の美術館・博物館等
8	高田海岸遺跡 ： 沖縄県宮古郡多良間村所在水中遺跡の調査	―	＊多良間村教育委員会（沖縄県）発行

○展覧会図録等　　9件

	刊 行 物 名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展	始皇帝と大兵馬俑	1,750	美術館・博物館・大学・研究機関等
2		東山魁夷　自然と人、そして町	1,470	美術館・博物館・大学・研究機関等
3		京都　高山寺と明恵上人　―特別公開　鳥獣戯画―	2,150	美術館・博物館・大学・研究機関等
4		宗像・沖ノ島と大和朝廷	1,700	美術館・博物館・大学・研究機関等
5		レジェンド・オブ・明恵（リーフレット）	80,000	展示室内等で配布（非売品）
6	トピック展示等	全国高等学校　考古名品展2016	1,600	美術館・博物館・大学・研究機関等
7		古伊万里　－旧家の暮らしを彩った器	1,700	美術館・博物館・大学・研究機関等
8		きらめきで飾る　－螺鈿の美をあつめて－	2,250	美術館・博物館・大学・研究機関等
9	文化交流展印刷物（リーフレット）	火縄銃の世界	8,000	展示室内等で配布（非売品）

※アジアージュの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　　3件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　1件

	刊 行 物 名	発行部数	配　　布　　先
1	『公開研究会　南蛮漆器の多源性を探る予稿集』	500	大学・研究機関・図書館等・研究会参加者

・無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　2件

	刊 行 物 名	発行部数	配　　布　　先
1	『選定保存技術資料集』	500	大学・研究機関・図書館等
2	『日韓無形文化遺産研究Ⅱ』	600	大学・研究機関・図書館等

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　　5 件

・文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	刊 行 物 名	発行部数	配　　布　　先
1	『春日権現験記第一巻・第二巻光学調査報告書』	500	大学・研究機関・図書館等

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『琉球絵画　光学調査報告書』	500	博物館・美術館、大学、図書館等・研究機関（海外約50部）
2	『近代文化遺産の保存理念と修復理念』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『Conservation and Restoration of Western Paper』	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	『万世特攻平和祈念館金属類収蔵品劣化対策事前調査事業　調査報告書』	5	市役所・博物館等

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　　6件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　6件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『各国の文化財保護法令シリーズ[21]トルコ』	300	大学・研究機関・図書館等
2	『世界遺産用語集（改訂版）』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力　平成28年度成果報告書』	50	大学・研究機関・図書館等
4	『Safeguarding of Cultural Heritage in Myanmar』	50	ミャンマー政府機関・国際機関等
5	『Protection and Research on Cultural Heritage in the Chuy Valley, the Kyrgyz repubric』	100	キルギス政府機関・国際機関・研究機関等
6	『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2016』	300	博物館・美術館・研究機関・図書館等

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　　12件

・調査研究成果の発信　12件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『東京文化財研究所年報』2015年度版	500	博物館・美術館・大学・研究機関等
2	『東京文化財研究所概要』2016年度版	2,700	博物館・美術館・大学・研究機関等
3	『東文研ニュース』61号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	『東文研ニュース』62号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
5	『東文研ニュース』63号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
6	『平成27年版　日本美術年鑑』	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
7	『美術研究』419号	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
8	『美術研究』420号	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
9	『美術研究』421号	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
10	『無形文化遺産研究報告』第11号	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
11	『第11回無形民俗文化財研究協議会報告書　無形文化遺産と防災―リスクマネージメントと復興サポート』	700	博物館・美術館・大学・研究機関等
12	『保存科学』56号	650	博物館・美術館・大学・研究機関等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　　16件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『仁和寺史料　目録編〔稿〕三　仁和寺御経蔵聖教目録稿三　第五十一函～第七十六函』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	若桜町若桜一伝統的建造物群保存対策調査報告書一	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　14件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	河南省文物考古研究院・中国文化遺産研究院・日本奈良文化財研究所『鞏義黄冶窯』28年5月	750	研究機関・研究者・学会関係者
2	平成27年度遺跡整備・活用研究集会報告書『デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用』28年12月	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	近世庭園に関する研究１	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	第19回古代官衙・集落研究集会報告書　官衙・集落と土器2　28年12月	600	関係者・協力者等
5	『第20回古代官衙・集落研究集会　郡庁域の空間構成　研究報告資料』28年12月	200	関係者・協力者等
6	『政庁域（郡庁・国庁・宮殿他）遺構集成』（第一分冊　図版編、第二分冊　表編）28年12月	200	関係者・協力者等
7	第17回古代瓦研究会シンポジウム「8世紀の瓦づくりⅥ　飛雲文軒瓦の展開」（発表要旨集）29年2月	350	関係者・協力者等
8	『古代瓦研究Ⅶ　－平城宮式軒瓦の展開1　6225－6663系－　－平城宮式軒瓦の展開2　6282－6721系－』29年2月	600	関係者・協力者等
9	『川と暮らしの距離感　四万十・岐阜』文化的景観スタディーズ03、2017年3月	1000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
10	『京都岡崎の文化的景観　岡崎公園編（仮称）』（普及啓発パンフレット）、奈良文化財研究所景観研究室編著、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課刊行、2017年3月	4000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
11	『営みの基盤－生態学からの文化的景観再考－（第7回文化的景観研究集会報告書）』文化的景観スタディーズ02、恵谷浩子・本間智希編、2016年7月	1000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
12	『地下の正倉院展－式部省木簡の世界－』28年10月	10,000	平城宮跡資料館参観者
13	第18回古代官衙・集落研究集会報告書　官衙・集落と土器　28年12月	600	関係者・協力者等
14	飛鳥・藤原宮発掘調査報告ⅴ－藤原京左京六条三坊の調査―	600	関係者・協力者等

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　　1件

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	特別史跡高松塚古墳の調査報告－高松塚古墳室解体事業にともなう発掘調査	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　　2件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『西トップ遺跡調査修復報告書　北祠堂編1』	500	研究機関
2	『ヴィエルスバイ窯跡調査報告書』	500	研究機関

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　　17件

・調査研究成果の発信　10件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良文化財研究所概要2016	2700	大学・研究機関・図書館等
2	奈良文化財研究所紀要2016	3000	大学・研究機関・図書館等
3～6	奈文研ニュースNo.61～64	各3000	大学・研究機関
7～10	埋蔵文化財ニュースNo166～169	各2500	大学・研究機関・博物館等

・展示公開施設の充実　7件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『ナント！おいしい！？平城京！！』 平城宮跡資料館企画展リーフレット	4000	平城宮跡資料館参観者
2	『地下の正倉院展　式部省木簡の世界』平城宮跡資料館特別展リーフレット	10000	平城宮跡資料館参観者・研究機関・大学
3	『発掘速報展平城２０１６』平城宮跡資料館企画展リーフレット	4000	平城宮跡資料館参観者
4	奈良文化財研究所監修『平城京のごみ図鑑』　河出書房新社	2000	関係者・協力者等、一般販売
5	飛鳥資料館図録第64冊『文化財を撮る－写真が遺す歴史』	2000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
6	飛鳥資料館図録第65冊『祈りをこめた小塔』	2000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	飛鳥資料館図録第66冊『早川和子が描く　飛鳥むかしむかし』	2000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　　1件

・平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『平城宮第一次大極殿院復原検討会記録』14（内部資料）（29年3月）	200	関係者

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物　　6件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『IRCI概要2016(日本語版)』	650 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
2	『IRCI概要2016(英語版)』	550 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
3	『Research for Safeguarding Intangible Cultural Heritage on the Verge of Extinction: Vietnamese ICH Element Dong Ho Woodblock Printing』	100	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
4	『Proceedings of 2016 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region』	200 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
5	『無形文化遺産国際シンポジウム―技と心を受け継ぐ―報告書』	300	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
6	『Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region: Final Report』	データ版で公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

平成29年3月31日現在

件数	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所			アジア太平洋無形文化遺産研究センター
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	
合計	123	40	22	7	3	8	83	27	56	0
科学研究費補助金のみ	37	16	9	2	1	4	21	9	12	0
学術研究助成基金助成金のみ	71	18	8	4	2	4	53	16	37	0
科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究	15	6	5	1	0	0	9	2	7	0

※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。（日本学術振興会特別研究員を除く）
※科学研究費助成事業の研究分担者等として参画しているものについてはc①2）他機関の共同研究への参画実績参照

【東京国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　9件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究	沖松　健次郎	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室主任研究員	基盤研究（A）	9,230
2	博物館における文化財の情報資源化に関する研究	高橋　裕次	学芸研究部保存修復課長	基盤研究（A）	5,330
3	日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	小山　弓弦葉	学芸研究部調査研究課工芸室長	基盤研究（A）	8,320
4	清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究	関　紀子	学芸研究部列品管理課登録室アソシエイトフェロー	基盤研究（B）（海外学術調査）	1,690
5	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究	土屋　貴裕	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員	若手研究（A）	3,770
6	東京国立博物館所蔵写真資料データベース	富田　淳	学芸研究部長	研究成果公開促進費（データベース）　重点	1,900
7	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	和田　浩	学芸研究部保存修復課環境保存室長	基盤研究(B)	6,760
8	大小摺物（絵暦）の美術史及び文化史に関する総合的研究	岩崎　均史	客員研究員	基盤研究(B)	5,200
9	東京国立博物館所蔵帝室本データベース	田良島　哲	学芸企画部博物館情報課長	研究成果公開促進費（データベース）　一般	3,600

2）学術研究助成基金助成金のみ　8件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	神像表現における物語性の研究	丸山　士郎	学芸企画部企画課特別展室長	基盤研究（C）	1,430	4,810〈平成25～28年度〉
2	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究	澤田　むつ代	客員研究員	基盤研究（C）	1,820	4,680〈平成26～28年度〉
3	古墳時代武装具研究の総合化と古代東アジアにおける政治史・文化史的意義の基盤的研究	古谷　毅	学芸研究部列品管理課主任研究員	基盤研究（C）	1,820	4,680〈平成27～29年度〉
4	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究	三田　覚之	学芸企画部博物館教育課教育普及室研究員	若手研究（B）	1,040	3,380〈平成26～28年度〉
5	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析	関谷　泰弘	総務部総務課渉外開発担当係長	若手研究（B）	910	3,900〈平成26～28年度〉
6	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容	瀬谷　愛	学芸研究部保存修復課保存修復室主任研究員	若手研究（B）	1,170	4,030〈平成27～29年度〉
7	徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究	小野　真由美	学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室主任研究員	基盤研究（C）	1,300	4,420〈平成28～30年度〉
8	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析（国際共同研究強化）	関谷　泰弘	総務部総務課係長（渉外開発担当）	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）	14,820	14,820〈平成28～30年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究	鬼頭　智美	学芸企画部企画課広報室長	基盤研究（Ｂ）	2,730	2,080	6,500〈平成26～28年度〉
2	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相	松本　伸之	副館長	基盤研究（Ｂ）	2,210	780	6,500〈平成26～29年度〉
3	能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究	浅見　龍介	学芸企画部企画課長	基盤研究（Ｂ）	4,160	1,430	6,500〈平成26～28年度〉
4	ディルムン文明の起源－バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究－	後藤　健	客員研究員	基盤研究（Ｂ）海外学術調査	1,950	1,170	6,500〈平成26～30年度〉
5	北方寒冷地域における織布技術と布の機能	佐々木　史郎	東京国立博物館付部長	基盤研究（Ｂ）海外学術調査	3,770	1,560	14,150〈平成26～28年度〉

【京都国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	佐々木　丞平	館長	基盤研究（Ａ）	7,020
2	幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査：貝塚廣海惣太郎コレクション	永島　明子	学芸部列品管理室主任研究員	基盤研究（Ｂ）	4,420

2）学術研究助成基金助成金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	実作例に基づく日本の宮廷装束および調度の基礎的研究	山川　曉	学芸部教育室長	基盤研究（Ｃ）	1,040	4,030〈平成27～29年度〉
2	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究	呉　孟晋	学芸部列品管理室主任研究員	若手研究（Ｂ）	910	3,900〈平成27～29年度〉
3	対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究	水谷　亜希	学芸部教育室研究員	若手研究（Ｂ）	1,430	3,900〈平成28～31年度〉
4	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究	福士　雄也	学芸部美術室研究員	若手研究（Ｂ）	1,820	3,770〈平成28～31年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	東アジアにおける繍仏の基礎的研究	伊藤　信二	学芸部企画室長	基盤研究（Ｂ）	5,200	1,170	21,450〈平成25～28年度〉

【奈良国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究	湯山　賢一	館長	基盤研究（Ａ）	5,850

2）学術研究助成基金助成金のみ　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	平安時代の「大般若波羅蜜多経」遺品の総合的調査と歴史研究資料としての資源化	野尻　忠	学芸部企画室長	基盤研究（C）	-	5,070 〈平成25～28年度〉
2	真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用	斎木　涼子	学芸部美術室員	若手研究（B）	650	1,560 〈平成27～28年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【九州国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討	木川　りか	博物館科学課 課長兼環境保全室長	基盤研究（A）	15,210
2	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究	原田　あゆみ	企画課 特別展室長	基盤研究（B）	6,890
3	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究	島谷　弘幸	館長	基盤研究（B）	4,800
4	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－	川村　佳男	企画課特別展室 主任研究員	基盤研究（B）	3,600

2）学術研究助成基金助成金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	志賀　智史	博物館科学課保存修復室 主任研究員	基盤研究（C）	1,300	5,200 〈平成25～28年度〉
2	出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究	川畑　憲子	文化財課資料登録室 主任研究員	基盤研究（C）	2,080	4,810 〈平成27～29年度〉
3	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討	秋山　純子	博物館科学課環境保全室 研究員	基盤研究（C）	1,170	4,680 〈平成27～30年度〉
4	X線CTを用いた文化財有機質材料の同定方法の確立	赤田　昌倫	博物館科学課環境保全室 アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	2,210	4,160 〈平成28～30年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【東京文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　9件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究ー大航海時代を中心にー	小林　公治	文化財情報資料部広領域研究室長	基盤研究(B)	5,460
2	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	前川　佳文	文化遺産国際協力センター研究員	基盤研究(B)海外	4,940
3	ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究	亀井　伸雄	所長	基盤研究(B)海外	6,110
4	染織技術の伝承に関する研究-材料・道具に焦点をあてて-	菊池　理予	無形文化遺産部研究員	若手研究(A)	4,810
5	江戸時代における初期文人画の基礎的研究―中国絵画学習とその地域性について―	安永　拓世	文化財情報資料部研究員	研究活動スタート支援	1,300
6	墨、煤、膠の製法と性状の体系化	宇高　健太郎	保存科学研究センター特別研究員(PD)	特別研究員奨励費	1,430
7	毘沙門天像の成立と展開　―唐・宋・元から平安・鎌倉へ―	佐藤　有希子	文化財情報資料部特別研究員(RPD)	特別研究員奨励費	325
8	彩色材と和紙からなる紙質文化財における和紙の劣化機構	貴田　啓子	保存科学研究センター客員研究員	特別研究員奨励費	1,430
9	2018年出版予定の書籍のための、1989年以降の日本の現代美術の研究	橘川　英規	文化財情報資料部研究員	特別研究員奨励費（外国人特別研究員）	900

2）学術研究助成基金助成金のみ　16件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究	犬塚　将英	保存科学研究センター分析科学研究室長	基盤研究(C)	1,820	4,290（平成28年～30年）
2	黒髪白肌の系譜－上村松園の技法と表現－	大河原　典子	文化遺産国際協力センター客員研究員	基盤研究(C)	1,560	4,680（平成28年～30年）
3	紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	貴田　啓子	保存科学研究センター客員研究員	若手研究(B)	1,690	3,900（平成28年～30年）
4	アイヌと和人の文化交渉史に関する研究―明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に	今石　みぎわ	無形文化遺産部研究員	若手研究(B)	1,560	4,030（平成28年～30年）
5	イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	山田　大樹	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	若手研究(B)	1,560	4,160（平成28年～30年）
6	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	朽津　信明	保存科学研究センター修復計画研究室長	基盤研究(C)	1,040	4,680（平成27年～29年）
7	津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策	佐野　千絵	文化財情報資料部長	基盤研究(C)	1,430	4,550（平成27年～29年）
8	日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究	早川　泰弘	保存科学研究センター副センター長	基盤研究(C)	1,300	4,680（平成27年～29年）
9	リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究	間渕　創	保存科学研究センター客員研究員	若手研究(B)	910	3,900（平成27年成29年）
10	放射光を用いた中央アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発	増渕　麻里耶	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	若手研究(B)	1,300	3,120（平成27年～29年）
11	肥沃な三日月地帯の東翼ザグロス地域における新石器化に関する考古学的研究	安倍　雅史	文化遺産国際協力センター研究員	若手研究（B）	1,591	3,770（平成26年～28年）
12	空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用	二神　葉子	文化財情報資料部文化財情報研究室長	基盤研究(C)	650	4,030（平成26年～28年）
13	平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究	小林　達朗	文化財情報資料部日本東洋美術史研究室長	基盤研究(C)	1,430	4,940（平成26年～28年）
14	平安時代前期における神仏習合の展開とその彫刻に関する研究	皿井　舞	文化財情報資料部主任研究員	基盤研究(C)	910	4,680（平成26年～28年）
15	実演用能装束の保存継承に関する研究 - 能楽の包括的継承の一指針として -	菊池　理予	無形文化遺産部研究員	挑戦的萌芽研究	780	3,640（平成26年～28年）
16	江戸～昭和期の常磐津節演奏家に関する基盤研究	前原　恵美	無形文化遺産部主任研究員	基盤研究(C)	1,323	4,810（平成26年～28年）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発　-旧修理材料や微生物痕の除去-	早川　典子	保存科学研究センター修復材料研究室長	基盤研究(B)	2,210	2,210	13,000（平成26年～30年）
2	墨、煤、膠の製法と性状の体系化 -伝統的製法の再現-	宇高　健太郎	保存科学研究センター特別研究員(PD)	若手研究(A)	2,210	2,210	18,500（平成26年～29年）

【奈良文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　12件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	木簡など出土文字資料の資源化のための機能的情報集約と知の結集	渡邉　晃宏	都城発掘調査部副部長	基盤研究（Ｓ）	39,780
2	マルチチャンネル機器を利用した高速遺跡探査技術の開発	金田　明大	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長	基盤研究（Ａ）	7,020
3	アンコール遺跡群を事例とした考古情報資源共有化に関する研究	森本　晋	企画調整部部長	基盤研究（Ａ）	6,370

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
4	歴史的文字に関する経験知の共有資源化と多元的分析のための人文・情報学融合研究	馬場　基	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（A）	6,240
5	発掘遺構による古代寺院建築史の構築	箱崎　和久	都城発掘調査部遺構研究室長	基盤研究（A）	7,540
6	和同開珎の生産と流通をめぐる総合的研究	松村　恵司	所長	基盤研究（B）	4,160
7	東アジア旧石器・新石器移行期の基礎的研究－河南霊井遺跡出土品の徹底分析－	加藤　真二	企画調整部企画調整室長	基盤研究（B）	5,070
8	日本考古学国際化のための考古学関係用語シソーラス構築と自動英語化の研究	高田　祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	若手研究（A）	5,200
9	対照実験を主軸とした東アジア鋳造技術史解明のための実験考古学的研究	丹羽　崇史	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（A）	4,030
10	中近世日本と東アジアにおける木造建築の変革に関する比較研究	鈴木　智大	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（A）	2,860
11	全国遺跡報告総覧	高田　祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	研究成果公開促進費<データベース>	3,300
12	出土遺物を主とする赤外線撮影の高精度化に関する研究～光源と撮影機材のマッチング～	栗山　雅夫	企画調整部写真室技術職員	奨励研究	700

2）学術研究助成基金助成金のみ　37件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	ツガ年輪による近世以降の建造物の年代測定および用材産地推定手法の確立	藤井　裕之	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	－	3,120 〈平成25～28年度〉
2	古代東アジアにおける食器構成と食事作法の変化に関する比較研究	小田　裕樹	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究（B）	780	3,640 〈平成25～28年度〉
3	古代日本の宮都、寺院出土磚の基礎的研究	中川　二美	都城発掘調査部客員研究員	若手研究（B）	650	3,380 〈平成25～28年度〉
4	大工道具とその加工痕跡から見た建築技術史の研究	番　光	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（B）	－	3,380 〈平成25～28年度〉
5	重要文化的景観の評価方法と保護手法における現状と課題	惠谷　浩子	文化遺産部景観研究室研究員	若手研究（B）	650	3,770 〈平成25～28年度〉
6	近世庭園の様式と地域性に関する基礎的研究－重森編年への検証として	高橋　知奈津	文化遺産部遺跡整備研究室研究員	若手研究（B）	780	3,120 〈平成25～28年度〉
7	中国由来の木彫像の用材観	伊東　隆夫	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	1,300	4,680 〈平成26～28年度〉
8	法隆寺・東大寺宝物に見られる「イラン文化」：エフタルとソグドの影響について	影山　悦子	企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	1,040	2,990 〈平成26～28年度〉
9	「復元学」構築のための基礎的研究	海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室研究員	挑戦的萌芽研究	1,170	3,900 〈平成26～28年度〉
10	古代東北アジアにおける金工品の生産・流通構造にかんする考古学的研究	諫早　直人	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（B）	780	3,640 〈平成26～29年度〉
11	七世紀土器編年からみた古代宮都の変遷に関する考古学的研究	若杉　智宏	飛鳥資料館学芸室研究員	若手研究（B）	520	2,730 〈平成26～29年度〉
12	九州旧石器編年の再構築と集団関係の研究―中九州石器群の再検討	芝　康次郎	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（B）	910	3,770 〈平成26～29年度〉
13	古代都城造営における造瓦体制の復元的研究	石田　由紀子	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究（B）	650	3,640 〈平成26～29年度〉
14	荘厳化を目的とした建築装飾に関する研究	大林　潤	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（B）	260	2,600 〈平成26～30年度〉
15	文化遺産のデジタルドキュメンテーションとこれを活用した景観考古学の展開	山口　欧志	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	1,170	3,900 〈平成26～28年度〉
16	古代における食生活の復元に関する環境考古学的研究	山崎　健	埋蔵文化財センター環境考古研究室研究員	若手研究（B）	1,170	3,900 〈平成26～29年度〉
17	中近世における標準年輪曲線の広域ネットワーク整備による木材産地推定	星野　安治	埋蔵文化財センター年代学研究室研究員	若手研究（B）	910	3,900 〈平成26～29年度〉
18	律令制下の土器生産－須恵器・土師器群別分類の再構築	神野　恵	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	910	4,420 〈平成27～31年度〉
19	奈良時代鉛釉陶器および鉛釉瓦磚の基礎的研究	今井　晃樹	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,300	4,810 〈平成27～29年度〉
20	古代の灯火―先史時代から近世にいたる灯明具に関する研究	深澤　芳樹	都城発掘調査部客員研究員	基盤研究（C）	910	4,810 〈平成27～31年度〉
21	飛鳥時代金属製品の加工技術に関する基礎的研究	石橋　茂登	飛鳥資料館学芸室長	基盤研究（C）	1,560	4,810 〈平成27～31年度〉
22	考古・歴史･地質学的複合解析による災害履歴地図の開発	村田　泰輔	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー	挑戦的萌芽研究	780	3,510 〈平成27～31年度〉
23	水蒸気移動を用いた出土鉄製文化財の新規脱塩法の開発	柳田　明進	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（B）	1,040	3,640 〈平成27～29年度〉
24	金工品の流通と製作技術伝播からみた古代東アジアにおける地域間交流研究	稲田　宇大 （金　宇大）	都城発掘調査部考古第二研究室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	650	2,860 〈平成27～31年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
25	マルチチャンネル機器を利用した高速遺跡探査技術の開発（国際共同研究強化）	金田　明大	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）	13,910	13,910 〈平成27～28年度〉
26	鉛釉陶器の鉛同位体比値と金属元素の価数から考察する生産地と焼成技術の特徴	降幡　順子	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｃ）	1,040	3,770 〈平成28～31年度〉
27	埋蔵環境下における金属製遺物の現地保存法の開発	脇谷　草一郎	埋蔵文化財センター主任研究員	基盤研究（Ｃ）	2,080	3,770 〈平成28～30年度〉
28	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による飛鳥藤原地域出土古代瓦の生産・供給体制の研究	清野　孝之	都城発掘調査部考古第三研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,560	4,680 〈平成28～30年度〉
29	６世紀の埴輪生産からみた「部民制」の実証的研究－奈良盆地を中心に－	廣瀬　覚	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｃ）	2,210	4,680 〈平成28～31年度〉
30	明治～戦前期の木造建築に使われた良材の産地とその年輪データに関する基礎的研究	藤井　裕之	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｃ）	1,430	4,160 〈平成28～30年度〉
31	日本と中国における古建築用語の相互訳および英訳を通した比較研究手法の創生	鈴木　智大	都城発掘調査部遺構研究室研究員	挑戦的萌芽研究	1,300	3,640 〈平成28～30年度〉
32	財政関係木簡による古代地方社会の実態解明	山本　祥隆	都城発掘調査部史料研究室研究員	若手研究（Ｂ）	650	1,950 〈平成28～30年度〉
33	古代都城における木器生産に関する基礎的研究	浦　蓉子	都城発掘調査部考古第一研究室アソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	1,560	4,030 〈平成28～30年度〉
34	二階建ての御殿にみる近世武家住宅の実体と空間の構成	大橋　正浩	都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	1,950	4,160 〈平成28～30年度〉
35	北陸地方の温泉地における共同浴場の建築史的研究	福嶋　啓人	文化遺産部客員研究員	若手研究（Ｂ）	2,080	3,380 〈平成28～29年度〉
36	大工道具にみる東アジア木造建築技術史の基盤構築	李　暉	文化遺産部客員研究員	若手研究（Ｂ）	1,430	4,160 〈平成28～31年度〉
37	地理情報システムを用いた古代日本における移動コスト算出の基礎的研究	清野　陽一	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究（Ｂ）	1,300	3,770 〈平成28～31年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　7件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	中国漢代の木槨・木棺材を用いた年輪年代学の確立と用材選択の意義	光谷　拓実	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｂ）	1,950	780	6,500 〈平成25～29年度〉
2	弥生時代における青銅器生産の総合的研究	難波　洋三	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｂ）	1,950	910	6,500 〈平成25～29年度〉
3	文化財および美術工芸材料のナノ構造と物性・機能の解明	北田　正弘	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｂ）	－	－	6,500 〈平成25～28年度〉
4	東大寺を中心とする南都の未整理文書聖教の復原的調査研究	吉川　聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究（Ｂ）	1,820	1,040	6,500 〈平成26～30年度〉
5	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	杉山　洋	副所長	基盤研究（Ｂ）	2,470	1,430	6,500 〈平成26～29年度〉
6	東アジアにおける「西のガラス」の流通からみた古代の物流に関する考古科学的研究	田村　朋美	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（Ａ）	260	1,030	6,500 〈平成25～28年度〉
7	古代東アジアにおける建築技術の重層性と日本建築の特質	海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（Ａ）	1,430	2,990	6,500 〈平成26～29年度〉

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑧ 客員研究員一覧

平成29年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
134人	40 人	28人	5人	6人	1人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	94 人	44人		50人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 人				

【東京国立博物館】　28人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	松原　茂（公益財団法人根津美術館学芸部長）	当館所蔵の絵画に関する研究
2	岩崎　均史（静岡市東海道広重美術館館長）	当館所蔵の大小絵暦に関する研究
3	宮永 美知代（東京藝術大学美術学部助教）	解剖学・美術解剖学および医学関係の館史資料に関する調査研究
4	東野　治之（奈良大学文学部教授）	法隆寺献納宝物の資料の研究
5	田辺　龍太（一般財団法人切手の博物館主任）	当館所蔵の切手に関する調査研究
6	水上　嘉代子（公益財団法人遠山記念館学芸員）	当館に所蔵される小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究
7	小笠原　小枝	当館所蔵のインド更紗に関する研究
8	大脇　　潔	当館所蔵古瓦の整理および、当館所蔵の藤原宮および藤原京内寺院出土瓦に関する研究
9	金子　浩昌（日本考古学協会会員）	当館所蔵原始・古代骨角製品に関する研究
10	湊　信幸（元東京国立博物館副館長）	当館所蔵の絵画に関する研究
11	鍋島　稲子（台東区立書道博物館主任研究員）	中国書跡の調査研究
12	西岡　康宏（元東京国立博物館副館長）	当館所蔵の東洋漆工に関する研究
13	保坂　裕興（学習院大学大学院人文科学研究科教授）	館史資料アーカイブズ学的研究
14	田中　淑江（共立女子大学家政学部准教授）	当館所蔵の江戸時代を中心とする小袖に関する研究
15	佐々木　利和	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
16	望月　幹夫（元東京国立博物館上席研究員）	当館所蔵の考古資料（原史・有史）に関する調査研究
17	歌田　眞介（東京藝術大学名誉教授）	当館所蔵油彩画の材料・技法および保存状態についての調査・研究
18	稲本　泰生（京都大学人文科学研究所准教授）	東洋彫刻及び大谷探検隊将来西域美術の調査研究
19	澤田　むつ代（元東京国立博物館上席研究員）	法隆寺献納宝物のうち法隆寺裂などの上代切れの保存と修理に関する調査研究
20	松井　敏也（筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授）	文化財の非破壊分析に関する調査研究
21	クライナー・ヨゼフ	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
22	佐藤　サアラ（公益財団法人常盤山文庫主任研究員）	東洋陶磁（宋・元代）に関する研究
23	高濱　秀	当館所蔵の中央ユーラシア青銅器に関する研究
24	加藤　雅久（居住技術研究所主宰）	帝室博物館・復興本館建設における技術史的考察
25	津村 眞輝子（公益財団法人古代オリエント博物館研究部長）	古代西アジアから中央アジアにおけるコインの研究
26	池田　宏（元東京国立博物館上席研究員）	当館所蔵の工芸品、歴史資料に関する調査研究
27	後藤　健（元東京国立博物館上席研究員）	古代文化研究
28	長谷　高志（長谷高史デザイン事務所代表）	情報デザイン、インフォメーションデザインの将来像の研究

【京都国立博物館】　5人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井上一稔（同志社大学文学部教授）	彫刻に関する調査研究
2	宇都宮啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
3	奥平俊六（大阪大学大学院文学研究科教授）	近世絵画に関する調査研究
4	狩野博幸（同志社大学文化情報学部教授）	近世絵画に関する調査研究
5	後藤　真（国立歴史民俗博物館准教授）	文化財情報に関する調査研究

【奈良国立博物館】　6人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	木村法光（元宮内庁正倉院事務所保存課長）	漆工品の調査及び研究
3	清水昭博（帝塚山大学文学部教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
4	根立研介（京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
5	板倉聖哲（東京大学大学院情報学環教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理
6	澤田むつ代（東京国立博物館名誉館員）	染織品の調査および研究

【九州国立博物館】　1人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	今津節生（奈良大学文学部教授）	水中遺跡の保存活用に関する調査研究

【東京文化財研究所】　44人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	三上　豊（和光大学表現学部教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
2	河合大介	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
3	丸川雄三（国立民族学博物館先端人類科学研究部准教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
4	中野照男（成城大学特任教授）	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
5	津村宏臣（同志社大学文化情報学部文化情報学科准教授）	刊行物アーカイブズシステムの運用・評価に関する調査研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
6	近松鴻二（国士舘大学非常勤講師ほか）	黒田清輝宛書簡ならびに記事珠などの判読と確認
7	田中　淳	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
8	片山まび（東京藝術大学美術学部藝術学科准教授）	『売立目録』工芸部門の調査研究
9	星野厚子（東京藝術大学助手）	無形文化財（芸能）に関する調査研究
10	永井美和子（早稲田大学非常勤嘱託（演劇博物館））	無形文化財の記録作成
11	今岡謙太郎（武蔵野美術大学造形学部教授）	無形文化財の記録作成
12	原田一敏（東京藝術大学大学美術館教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
13	荒川正明（学習院大学文学部哲学科（美術史専攻）教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
14	山崎　剛（金沢美術工芸大学教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
15	俵木　悟（成城大学文学部准教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
16	大西秀樹(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター非常勤講師)	音声映像記録に関する調査研究
17	松山直子	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
18	菊池健策（都留文科大学非常勤講師）	無形民俗文化財の調査
19	鎌田紗弓（日本学術振興会特別研究員）	無形文化遺産部所蔵写真資料の整理
20	齋藤裕嗣	無形民俗文化財の調査
21	宮澤京子（有限会社海工房取締役）	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
22	森下愛子（公益財団法人泉屋博古館分館学芸課学芸員）	工芸技術（主に陶芸分野）に関する研究
23	吉澤　望（東京理科大学理工学部建築学科教授）	展示照明としての新世代光源の適用条件検討
24	山内泰樹（山形大学大学院理工学研究科教授）	有期EL光源の展示照明への導入条件の検討
25	酒井清文	文化財の伝統的修復に関する調査研究
26	大場詩野子	絵画修復を中心とした新規修復手法に関する調査研究
27	三浦定俊（公益財団法人文化財虫菌害研究所理事長）	文化財IPMに関する基礎研究および微生物の簡易モニタリング手法の応用研究についての助言・協力
28	藤井義久（京都大学大学院農学研究科教授）	文化財の生物劣化対策の研究
29	間渕　創（三重県総合博物館学芸員）	文化財保存収蔵環境におけるカビの付着菌、浮遊菌の調査
30	横山晋太郎	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
31	長島宏行（一般財団法人日本航空協会）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
32	小堀信幸（公益財団法人日本海事科学振興財団船の科学館）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
33	本多貴之（明治大学理工学部専任講師）	伝統的修復材料に関する分析調査研究
34	堤　一郎（茨城大学教育学部技術教育教室特任教授）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
35	北原博幸（トータルシステム研究所代表）	空気設備及び保存環境に関する測定システム構築の調査研究
36	石﨑武志（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター教授）	光と熱による物性への影響計測
37	呂　俊民	文化財の保存環境の研究
38	吉原大志（三木市教育委員会文化スポーツ振興課市史編纂専門員）	文化財防災体制構築に関する調査研究
39	山本記子（一般社団法人国宝修理装潢師連盟専務理事）	日本画修復に使用される材料および技法の研究
40	貴田啓子	日本における絵画の劣化要因に関する研究
41	石井美恵（佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業、国際研修等に関わる文化財修復技術の研究
42	大河原典子（鎌倉女子大学専任講師）	在外日本古美術品保存修復協力事業の修復研究および技術移転の手法研究
43	杉山恵助（東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復手法研究、国際研修での技術移転方法に関する研究
44	井内千紗（国際短期大学学課専任教員）	文化遺産国際協力に関する調査研究

【奈良文化財研究所】　50人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	小原　嘉記（中京大学国際教養学部准教授）	日本古代・中世の地方支配制度及び中世寺院の研究
2	小浦　久子（神戸芸術工科大学芸術工学部教授）	文化的景観の計画策定に関する研究
3	EDWARDS Walter Drew(中国科学院心理学研究所嘱託)	考古学、文化人類学の研究
4	山下慎吾（魚と山の空間生態研究所代表）	文化的景観と生態系との関係に関する研究
5	巽　淳一郎（京都橘大学文学部教授）	中国河南省文物考古研究所と行う共同研究
6	難波　洋三	考古遺物の調査研究
7	浜田　拓志	文化遺産防災総合シミュレーション調査研究
8	中村　亜希子	遺跡探査のための三次元計測による位置決定及び計測技術と成果の連携に関する研究
9	水野　裕史（熊本大学教育学部講師）	平城宮跡フィールドミュージアムの研究開発
10	小林　謙一	遺跡及びその調査技術の研究
11	羽生　淳子（総合地球環境学研究所研究部教授）	考古学及び環境学の研究
12	登谷　伸宏（京都橘大学文学部助教）	日本建築・都市史の研究
13	李　　暉（奈良県教育委員会文化財保存事務所調査補助員）	建築史に関する研究
14	福嶋　啓人（京都芸術大学芸術学部（通信教育部）非常勤講師）	建造物調査研究
15	小野　健吉（和歌山大學観光学部教授）	庭園史研究・遺跡整備研究
16	青木　敬（國學院大學文学部准教授）	薬師寺東塔の発掘調査研究
17	中川　二美（宗教法人東大寺境内史跡整備計画室研究員）	瓦に関する調査・研究
18	窪寺　茂（建築装飾技術史研究所長）	第一次大極殿院復原のための調査・研究
19	谷本　啓（奈良大学通信教育部非常勤講師）	日本古代史の研究
20	舘野　和己	木簡釈読等に関する研究
21	黒田　洋子（奈良女子大学古代学学術研究センター協力研究員	文字画像データベース構築における研究
22	深澤　芳樹	歴史考古学の研究
23	黒羽　亮太（日本学術振興会特別研究員）	日本古代史の研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
24	上原　眞人（公益財団法人辰馬考古資料館長）	出土木器の研究
25	肥塚　隆保	文化財科学、保存修復科学の研究
26	佐藤　昌憲（京都工芸繊維大学名誉教授）	繊維文化財の調査研究
27	北田　正弘	考古遺物等の調査分析
28	辻本　與志一（株式会社文化財保存）	古墳壁画の保存修理に関する研究
29	澤田　正昭（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター長）	考古遺物及び遺跡の保存科学の研究
30	小椋　大輔（京都大学大学院工学研究科准教授）	文化財の保存展示環境の研究
31	大賀　克彦（奈良女子大学古代学学術センター特任講師）	古代における玉類の生産と流通についての研究
32	福永　　香（独立行政法人情報通信研究機構電磁波計測研究所研究マネージャー）	文化財の非破壊診断調査研究
33	青木　政幸（公益財団法人辰馬考古資料館学芸員）	考古遺物の調査研究
34	丸山　真史（東海大学海洋学部特任講師）	動物考古学の研究
35	茂原　信生（京都大学名誉教授）	自然人類学、動物考古学の研究
36	渡辺　伸行（神戸市立大日丘児童館長）	日本考古学（弥生時代～古代）及び自然災害と考古学の研究
37	大江　文雄	古生物学（魚類系統進化）の研究
38	菊地　大樹（日本学術振興会特別研究員PD）	中国考古学、動物考古学の研究
39	上中　央子	花粉分析、文化財科学、環境考古学、古環境の研究
40	中橋　孝博（九州大学名誉教授）	遺跡出土人骨の研究
41	光谷　拓実	年輪年代学及び木材解剖学の研究
42	伊東　隆夫（京都大学名誉教授）	木材組織学の研究
43	藤井　裕之	年輪年代学の研究
44	児島　大輔（大阪市立美術館学芸員）	美術史（仏教美術・東洋美術）及び年輪年代学の研究
45	山中　敏史	遺跡及びその調査技術の研究
46	西村　康（財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長）	遺跡探査及び測量の研究
47	西口　和彦（元兵庫県立考古博物館調査専門員）	遺跡探査の研究
48	狭川　真一（財団法人元興寺文化財研究所副所長）	遺跡及びその調査技術の研究
49	小澤　毅（三重大学人文学部教授）	遺跡及びその調査技術の研究
50	野口　淳（NPO法人南アジア文化遺産センター事務局長）	三次元計測、遺跡、遺物データベースの研究

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

d ウェブサイトアクセス件数

平成29年3月31日現在

	H24	H25	H26	H27	H28
国立博物館計	7,743,323	6,564,190 (※2)7,449,050	10,236,963 (※2)10,917,717	13,226,289 (※2)13,929,248	13,053,220
東京国立博物館	2,982,729	2,898,885 (※2)3,783,745	4,248,437 (※2)4,929,191	6,724,460 (※2)7,427,419	6,433,867
京都国立博物館	1,837,113	1,562,480	2,964,705	3,172,381	3,334,335
奈良国立博物館	845,202	893,553	1,196,669	1,112,057	1,167,926
九州国立博物館	2,078,279	1,209,272	1,827,152	2,217,391	2,117,092
文化財研究所計	1,655,762 (※2)1,707,271	1,857,638 (※2)1,904,215	2,128,972 (※2)2,412,619	2,546,715 (※2)3,707,015	7,558,441
東京文化財研究所	(※1)1,230,718	1,410,075	1,603,086	1,941,504	2,567,780
奈良文化財研究所	425,044 (※2)476,553	447,563 (※2)494,140	525,886 (※2)809,533	605,211 (※2)1,765,511	4,990,661
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	5,289	5,454	6,200	7,504	7,856
機構本部	260,558	283,412	325,132	292,721	220,638
e国宝	1,420,662	1,676,762	1,515,442	1,788,265	2,854,622
国立博物館所蔵品統合検索システム(ColBase)	―	―	―	―	6,452
文化財防災ネットワーク	―	―	―	102,574	62,004

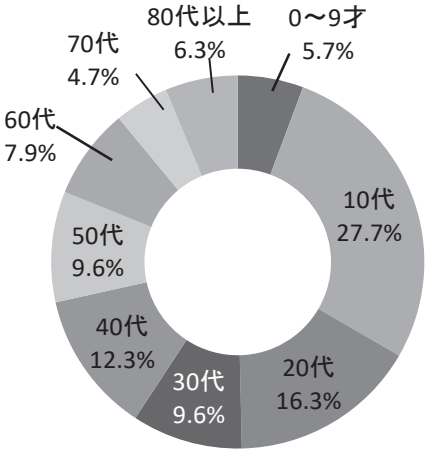
・※1は参考値。サーバの入替の際にアクセスログ保存期間の設定に誤りがあり、24年10月～25年2月のアクセスログが消失したことから、年間アクセス件数は不明である。ログが保存されている7ヵ月間のアクセス件数717,919件の月平均を12倍した値を、参考値として記載している。

・アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数である。
・文化財防災ネットワークは平成27年3月よりサイトを開設、同年4月よりアクセス件数のカウントを開始した。
・28年度より、東京国立博物館及び奈良文化財研究所の数値には、データベースのアクセス件数を含めている。27年度以前の下段※2の数値は、上段の本体サイトアクセス件数にデータベースアクセス件数を含めた数値。(他施設は、27年度以前からデータベースのアクセス件数を含む。)

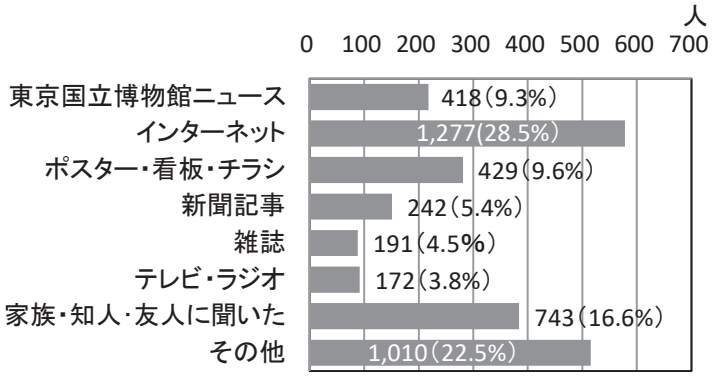
平常展（総合文化展）
アンケート集計結果

開催期間：平成28年4月1日（金）～平成29年3月31日（金）開館日数：312日間
回答者数：2,424人（うちタッチパネルアンケート回答者数：1,627人＜67.1%＞）
来館者数：761,709人
アンケート回収率：0.32%

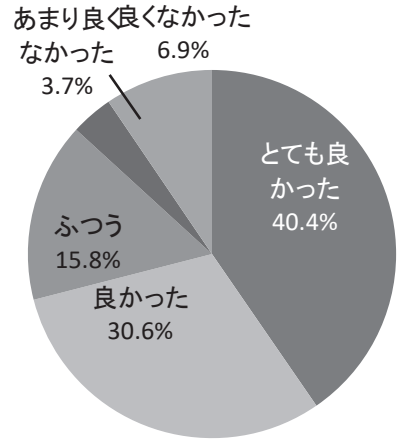
①アンケート回答年齢層



②認知経路 （複数回答）

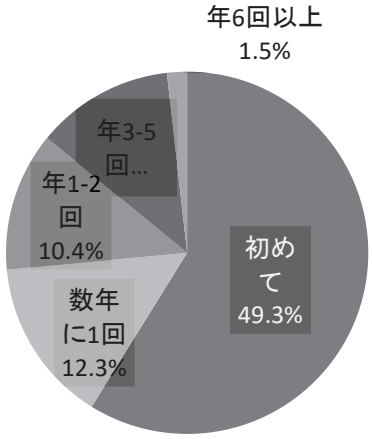


③展示に関する満足度



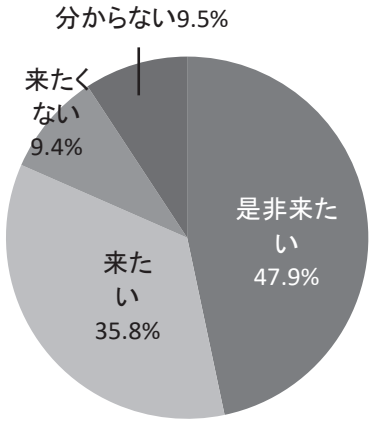
上位合計
71.0%

④来館頻度



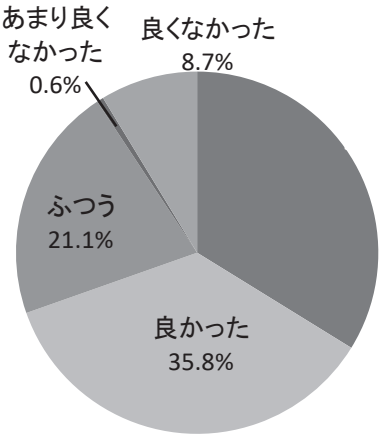
上位合計
61.6%

⑤再来館希望率



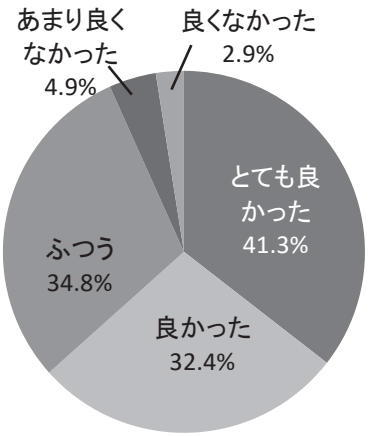
上位合計
83.7%

⑥ミュージアムショップに対する満足度



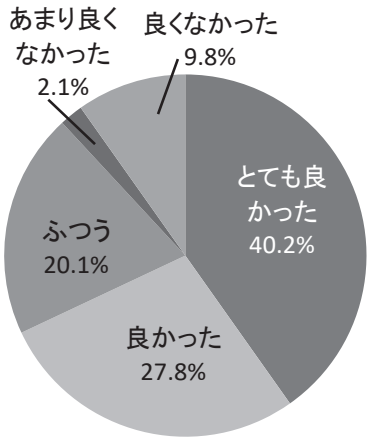
上位合計
69.6%

⑦レストランに対する満足度



上位合計 73.7%

⑧館内スタッフの対応について



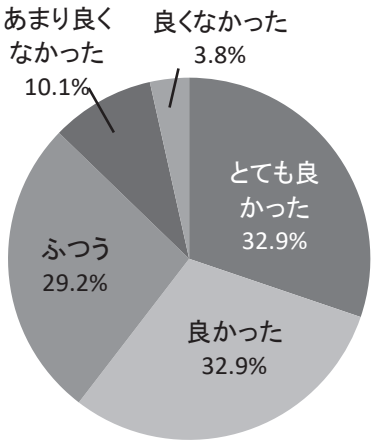
上位合計 68.0%

主な意見・感想

・気負いなく楽しめるようになった。
・スタンプがいっぱいあって楽しかった。
・展示替えがあるので来るたびに新しい発見がある。
・外国語の説明や案内をもっと増やすべき。
・作品を写真撮影できるのがよい反面、撮影禁止のものまで撮られている。
・トーハクなびのダウンロード時間が長すぎて不便。
・ナイトミュージアムや音楽祭、庭園開放などをもっと増やしてほしい。

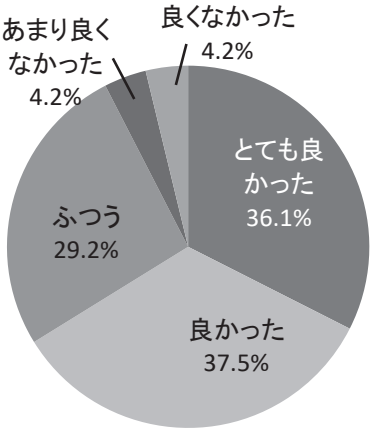
《外国人アンケート集計結果》
回答者数：79人

1.（外国人アンケート）施設の案内・説明・看板について



上位合計 65.8%

2.（外国人アンケート）展示のパネル、キャプションについて



上位合計 73.6%

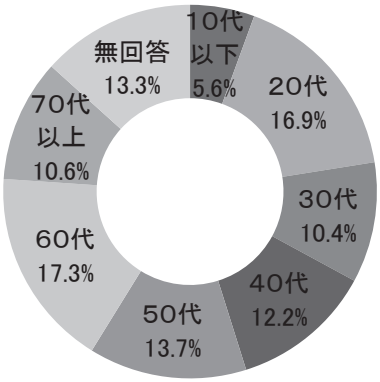
主な意見・感想

・浮世絵の作り方など解説に図解があってよかった。
・子どもに対してもう少し経験を増やせるよう説明・キャプションの詳細を書いて欲しい。
・掛け軸などの巻物や陶磁器の英訳をもっと増やして欲しい。

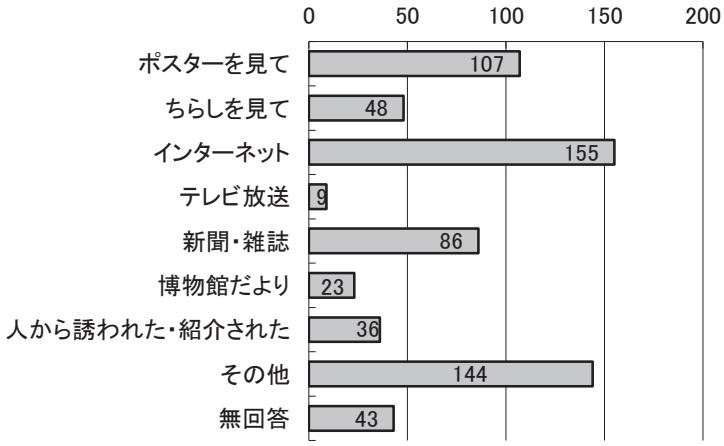
平常展（名品ギャラリー）
アンケート集計結果

開催期間：平成28年4月1日（金）～平成29年3月20日（月）　開館日数：176日間
回答者数：556人
来館者数：185,874人

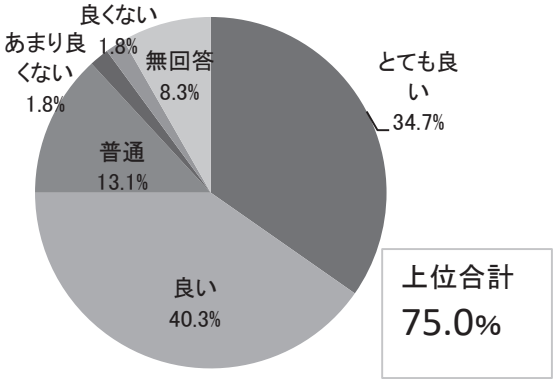
①アンケート回答年齢層



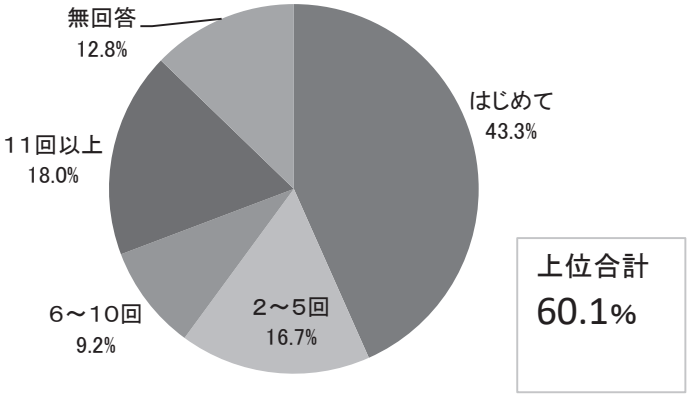
②認知経路（複数回答）



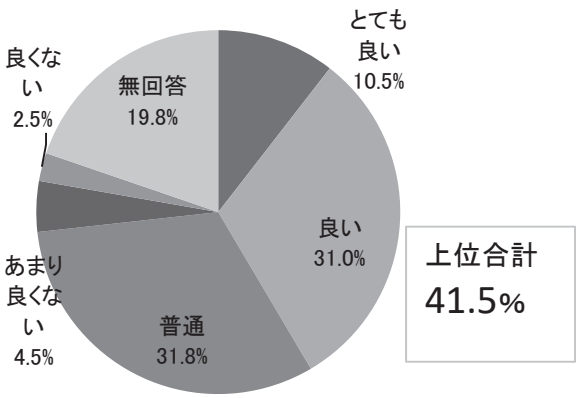
③展示に関する満足度



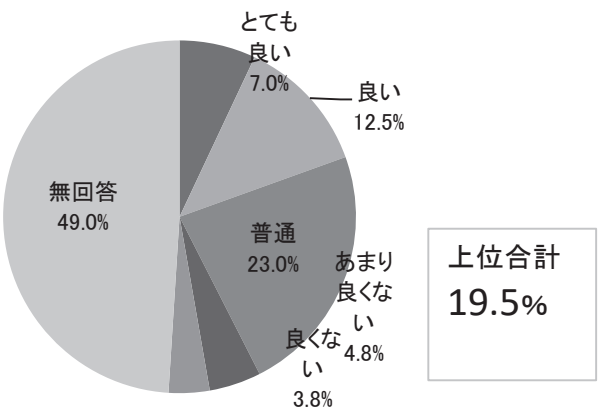
④来館頻度



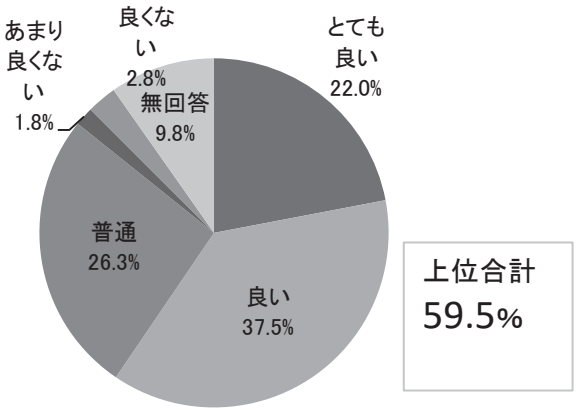
⑤ミュージアムショップに対する満足度（28年度新規）



⑥レストランに対する満足度（28年度新規）



⑦館内スタッフの対応について（28年度新規）

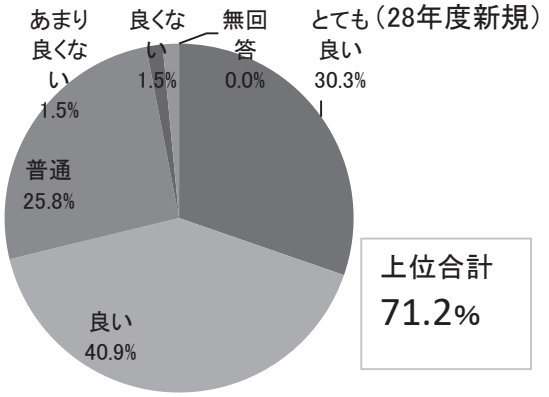


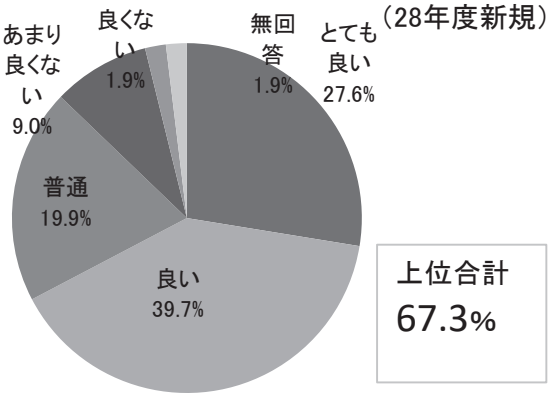
主な意見・感想

・展示方法が素晴らしい。
・英語の解説が少ない。
・展示数が少ない。
・照明が素晴らしい。
・展示品の質が高い。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：90人

1.（外国人アンケート）施設の案内・説明・看板について　2.（外国人アンケート）展示のパネル、キャプションについて





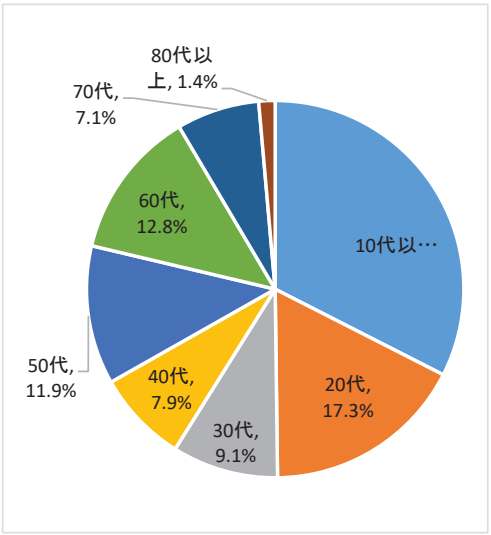
主な意見・感想

・英訳の解説を増やしてほしい。
・英語以外の表記も必要。

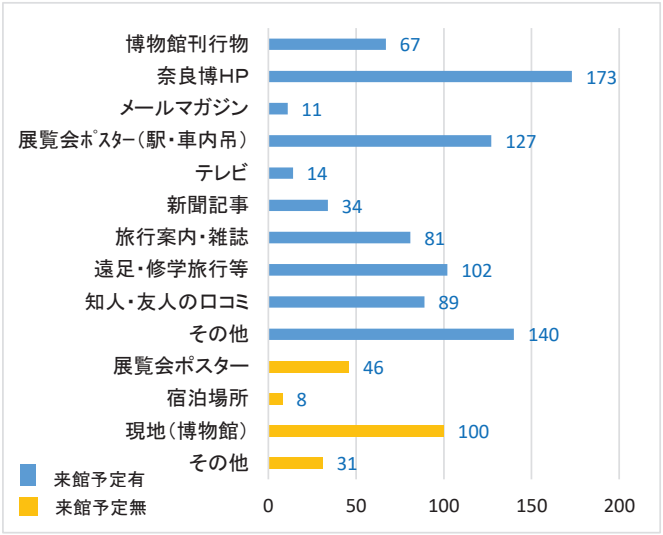
平常展（名品展）
アンケート集計結果

開催期間：平成28年4月1日(金)～平成29年3月31日(金)　開館日数：321日間
回答者数：964人（来館者数：145,676人　アンケート回収率：0.66%）

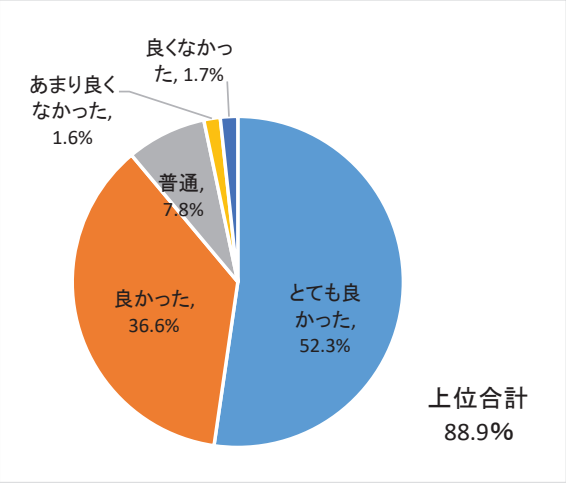
①年齢層



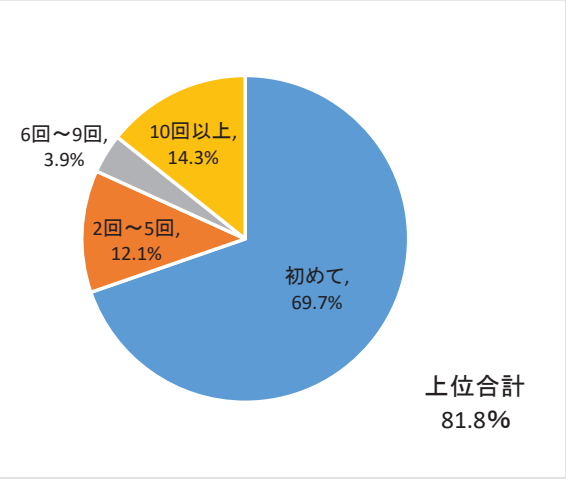
②認知経路（複数回答）



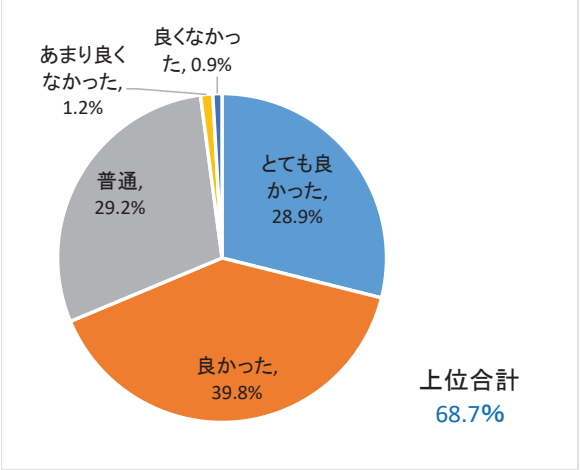
③展示に関する満足度



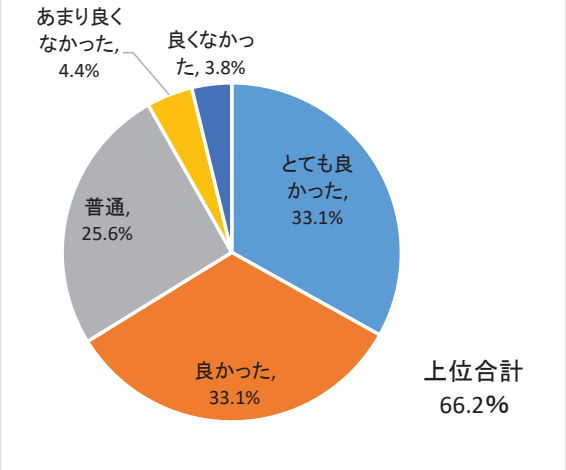
④来館頻度



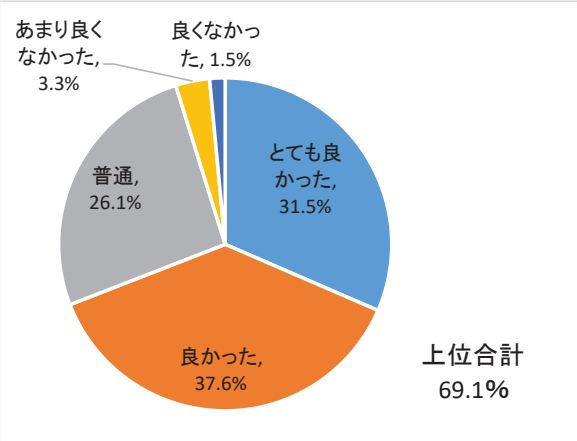
⑤ミュージアムショップに対する満足度



⑥レストランに対する満足度



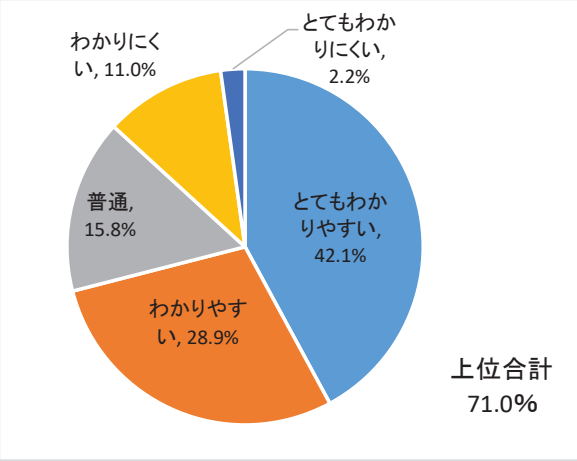
⑦スタッフ対応に関する満足度



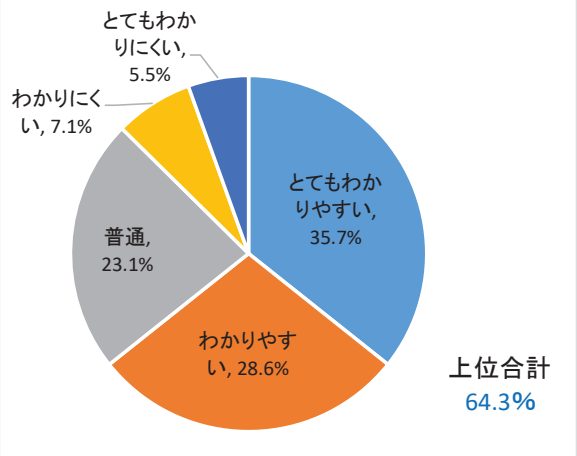
⑧主な意見・感想
・改装後照明が変わったためか仏像の細部や色彩が鮮やかに見え、見慣れた仏像が別物のように見えて感激しました。
・たくさんの仏像を見ることができて、心が落ち着きました。
・寺などでは照明も暗く、近づくこともできず、細部まで鑑賞できない。ここでは詳細を見れて満足した。
・ガラスケースの反射がおさえられて見やすかった。
・ボランティアガイドの方の説明が、親切で行き届いており、ありがたかった。
・キャプション位置が低く、読みにくい。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数:244人

1.（外国人アンケート）
施設の案内・説明・看板について



2.（外国人アンケート）
展示のパネル・キャプションについて

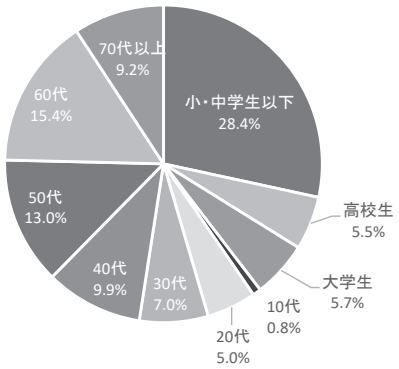


主な意見・感想
・多くの言語での説明がされていて、情報内容も良かった。
・展示や題箋からたくさんのことを学ぶことができた。
・英語解説がもっとあれば、より充実したものになっていただろうと思います。
・なぜ展示物が日本にとって大切なのかを外国人にわかるように基本的な説明がもっとあっていい。
・オーディオガイドの説明は良かったが、もっと情報を加えるべき。
・もし可能であれば、展示室に中国語の解説を増やしてください。

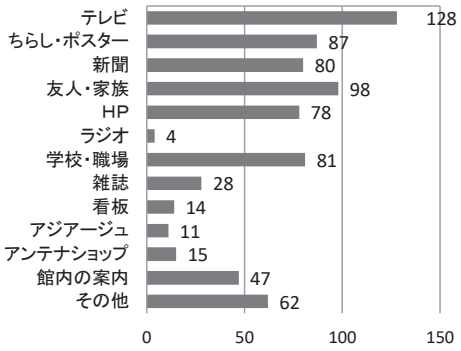
文化交流展　アンケート集計結果

開催期間：平成28年4月1日(金)～29年3月31日(金)　　開館日数:311日間
回答者数：750人　来館者数：393,590人　アンケート回収率：1.9%

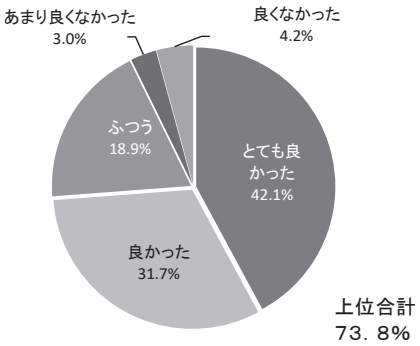
①年齢層



②認知経路（複数回答）

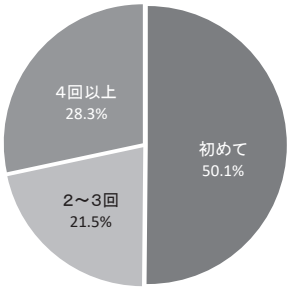


③展示に関する満足度

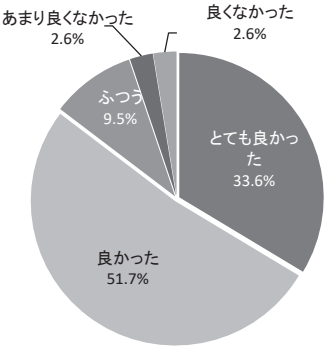


上位合計
73．8%

④来館頻度

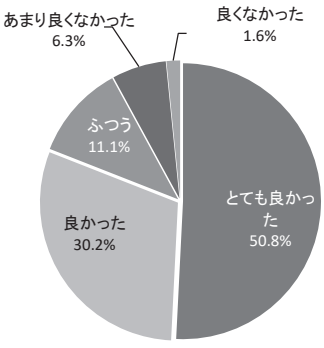


⑤ミュージアムショップに対する満足度



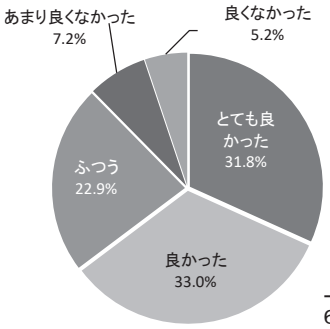
上位合計
85．7%

⑥レストランに対する満足度



上位合計
81．0%

⑦館内スタッフの対応について

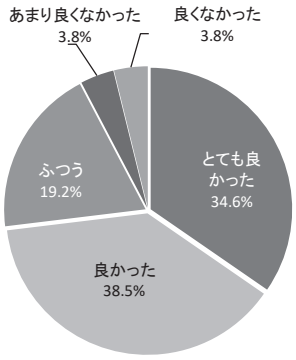


上位合計
64．8%

主な意見・感想
・（火縄銃の展示にて）江戸時代の本物を手にとることができる貴重な体験が出来ました。感動。
・歴史の教科書に載っている展示品も複数あり、興味深くみることが出来ました。
・8Kの画像初めて見ました。日本の工芸の美しさがとても良くわかりました。
・文化財の素材や材質が書いてあると良かった。
・遣唐使船、甕棺の写真を撮ってSNSにアップして展示の面白さをフォロワーの皆に知らせたかった。

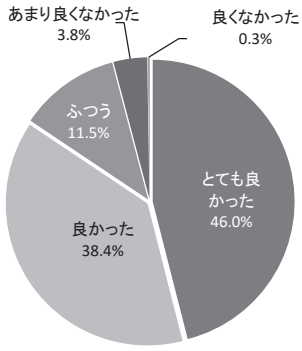
《外国人アンケート集計結果》
回答者数:26人

1．（外国人アンケート）施設の案内・説明・看板について



上位合計
73．1%

2．（外国人アンケート）展示のパネル・キャプションについて



上位合計
84．4%

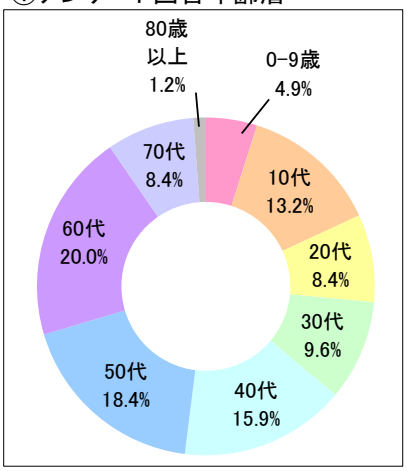
主な意見・感想
・とても楽しめた。展示内容は面白く、レイアウトも美しく素晴らしかった。
・オーディオガイドはとてもよかった。ガイドのポイントがもっとあれば面白かったのに！
・英語の案内が少なすぎる。
・もっと文化財を楽しむために、そして博物館の知名度を上げるために写真撮影を許可してほしい。
・平常展の各部屋への入口の前にこの部屋に何があるか英語で説明したパネルがあるといい。オーディオガイドが苦手な人もいます。
・とても楽しめたし、たくさんのことを学ぶことができた。オーディオガイドがあったので展示物について理解することができた。

東京国立博物館

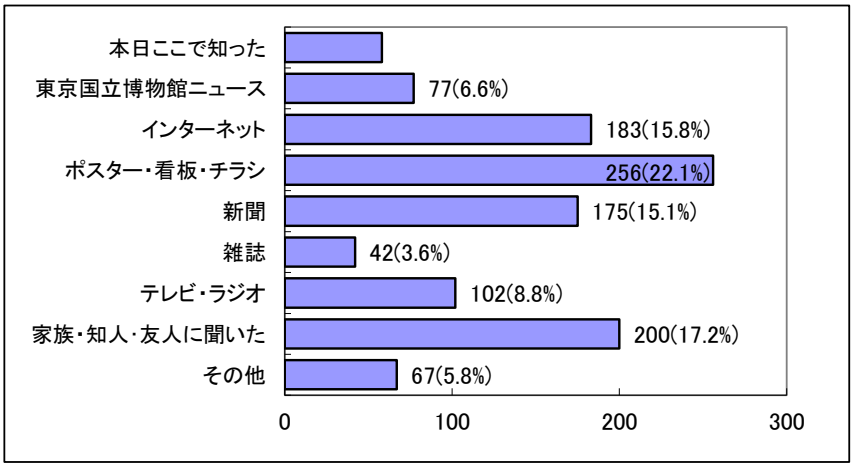
特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」アンケート集計結果

開催期間：平成28年3月23日（水）～ 5月15日（日）（50日間）
回答者数：824人（総入館者数：182,353人　アンケート回収率：0.45%）

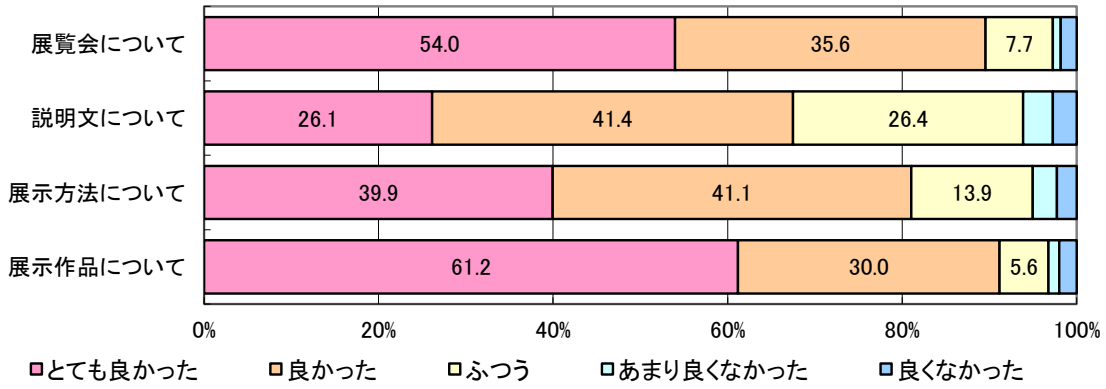
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・教科書で見た名作を鑑賞できた贅沢な展覧会だった。
・黒田ゆかりの画家作品が多く展示されており、
　より本展への理解が深まった。
・説明文の字が大きくて見やすかった。
・絵画が見やすいライティングでよかった。

注：上記数字は以下の通り

	上位合計	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	89.6	0.9	1.8
説明文	67.5	3.4	2.7
展示方法	81.0	2.8	2.3
展示作品	91.2	1.2	2.0

（%）

本展は《湖畔》で広く知られ、日本美術の近代化のために力を尽くした黒田清輝（1866-1924）の生誕150年を記念した大回顧展です。《読書》、《婦人像（厨房）》、《湖畔》、《智・感・情》を含む初期から晩年までの代表作を一堂に展示し、洋画の礎を築いた黒田清輝の画業全体を振り返ります。また今回はオルセー美術館からミレーの《羊飼いの少女》を特別出品。師のコランや影響を受けたピュヴィス・ド・シャヴァンヌ、バスティアン=ルパージュ、そしてモネ、シスレーら同時期の印象派の作品までをあわせて展示し、18歳の黒田がフランス留学で学んだ軌跡をたどります。「近代絵画の巨匠」「アカデミズムの創設者」にとどまらない、個人としての黒田清輝の人生、苦悩、人間関係を掘り下げ、人間・黒田の実像と魅力に迫った本展には、18万人を超える方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して約90%の方々から好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「お花見チケットはとてもいいので、このような割引をもっと増やしてほしい」「グッズの絵葉書が品薄で残念だった」などのご意見も寄せられました。

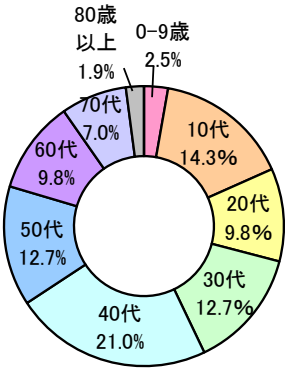
今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

東京国立博物館

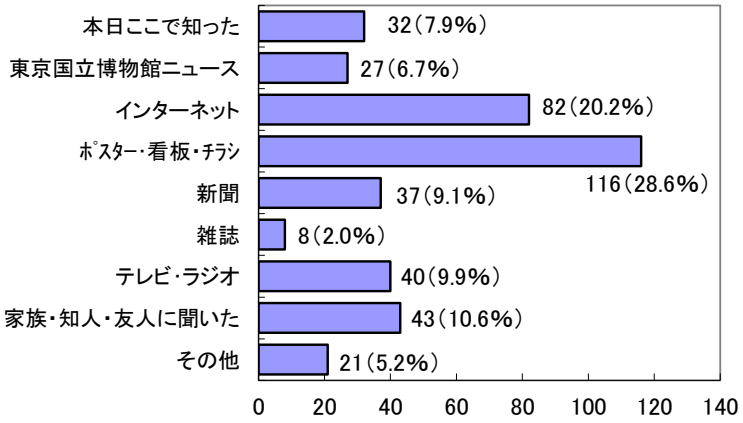
特別展「黄金のアフガニスタン －守りぬかれたシルクロードの秘宝－」アンケート集計結果

開催期間：平成28年4月12日（火）～ 6月19日（日）（61日間）
回答者数：315人（総入館者数：154,875人　アンケート回収率：0.20%）

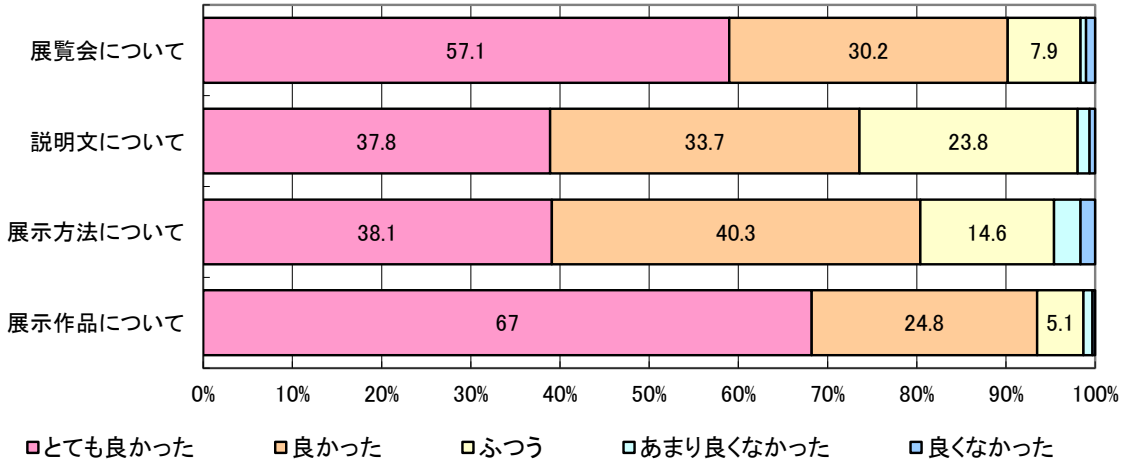
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・文化財は世界中の人々とその後世の人々の宝物だと強調されていてよかった。
・戦禍をくぐり抜けた作品(黄金装身具・ヘラクレス立像等)は見ごたえがあった。
・文化財を保護する意義と情熱の伝わるとても良い展示だった。
・キャプションの文字が大きく見やすかった。
・今まであまり見たことがない分野の展覧会だったが、分かりやすく、興味がひかれるように作られていると感じた。

注:上記数字は以下の通り

	上位合計	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	87.3	0.6	1.0
説明文	71.5	1.3	0.6
展示方法	78.4	2.9	1.6
展示作品	91.8	1.0	0.3

（%）

本展覧会では、紀元前2100年頃から紀元後3世紀頃までに古代のアフガニスタンで栄えた文化をご紹介します。これらは、1979年のソ連の軍事介入、内戦などで博物館は甚大な被害を受け、その多くが永遠に失われてしまったとみられていました。しかし、国立博物館の職員たちにより秘かに大統領府地下の金庫などに移され、その後14年もの間、静かに守り続けられていたことが2003年に判明します。本展は、この秘宝の再発見を契機に、アフガニスタンの文化遺産復興を支援するために企画された国際巡回展です。古代アフガニスタンの至宝231件に加え、日本で「文化財難民」として保護・保管され、この機にアフガニスタンに返還されることとなった流出文化財の中から15件が出品された本展には、15万人を超える方々にご来館いただきました。

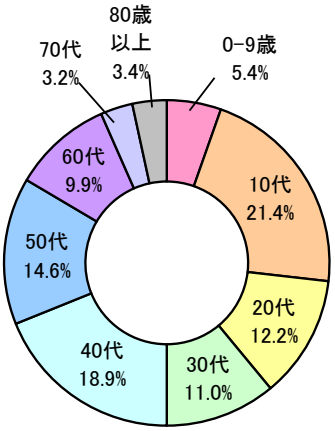
アンケートの結果、展覧会に対して87%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「作品とキャプションの位置が離れていて分かりづらい箇所があった」「休憩用の椅子が少ない」などのご意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

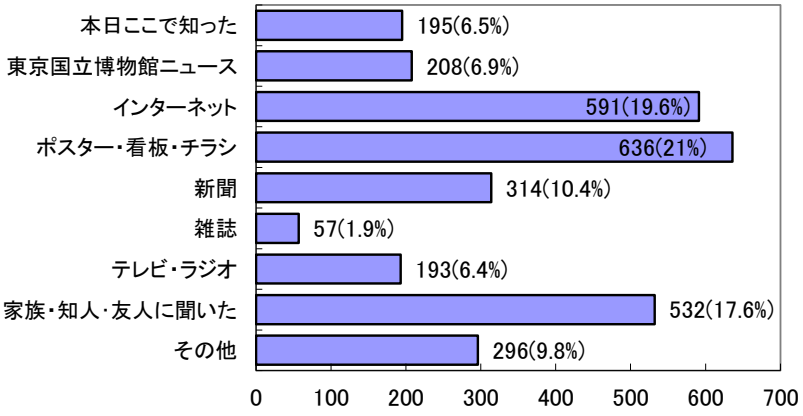
特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―」アンケート集計結果

開催期間：平成28年6月21日（火）～ 9月19日（月）（80日間）
回答者数2,196人（総入館者数：199,567人　アンケート回収率：1.1%）

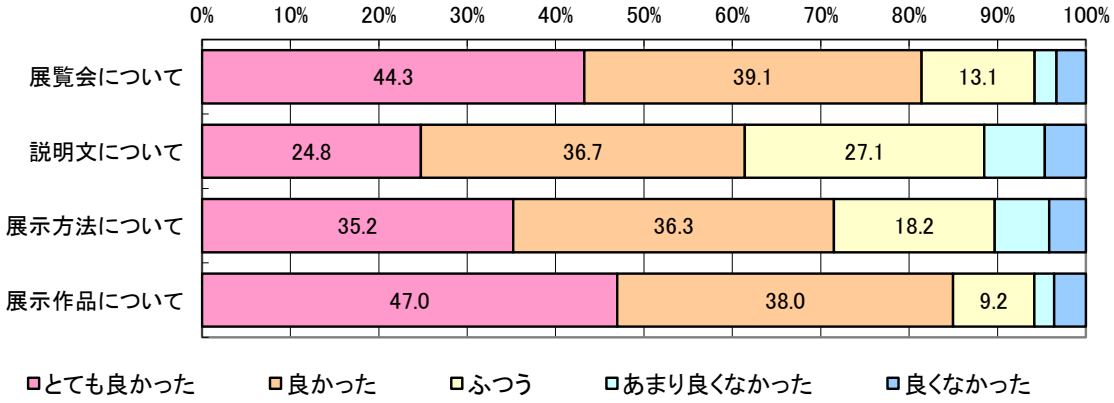
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・クーロス像などギリシャ彫刻は迫力があり見応えがあった。
（他にも、漁夫のフレスコ画、ギンバイカの金冠等展示作品への個別評価多数）
・どの時代の文明も大変魅力的で、歴史、文化、宗教や思想など多くを学べた。
・島ごとの構成、床のモザイクや神殿の装飾など展示方法の仕様が凝っていた。
・オリンピックシーズンにその原点の競技祭を伝える作品が見られて良かった。
・「聖闘士星矢」とのコラボや、キッズデー、ナイトミュージアムなど、オリジナルな企画が多く展示を含めて楽しめた。

注：上記数字は以下の通り

	上位合計	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	83.4	2.7	1.6
説明文	61.5	9.5	3.9
展示方法	71.5	5.4	3.1
展示作品	85.0	1.3	1.0

（%）

古代ギリシャには、時代や地域によりさまざまな美術が花開きました。その中心は一貫して神々と人間の姿と物語でした。大理石を削って作った小さなキュクラデス偶像、幾何学様式の壺絵からマケドニアの美しい金製品、等身大のヘレニズムの神像まで、歴史の変遷とともに見事なまでの多様性を目にすることができます。

本展では、ギリシャ国内40か所以上の国立博物館群から厳選された300件を超える古代ギリシャ時代の貴重な作品を展示する、という日本でかつてない規模による試みとなり、約20万人の来場者を迎えました。

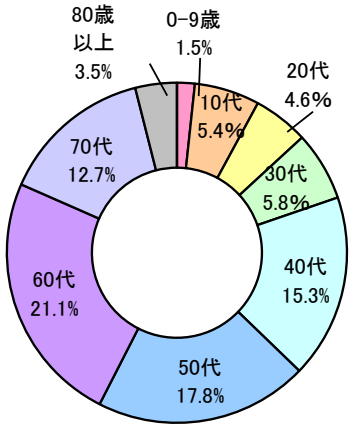
アンケートの結果、展覧会に対して83%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただきました。一方で、「印章など小さな作品展示には拡大写真が欲しい」といった展示への工夫に対する意見や「空調が寒すぎた」「手荷物検査に違和感を覚えた」など運営面への意見なども寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

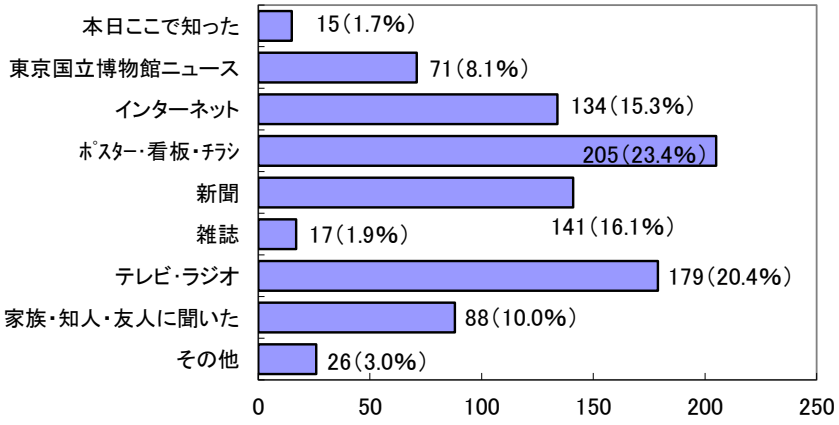
日韓国交正常化50周年記念　特別展
「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」アンケート集計結果

開催期間：平成28年6月21日（火）～ 7月10日（日）（20日間）
回答者数：608人（総入館者数：78,562人　アンケート回収率：0.77%）

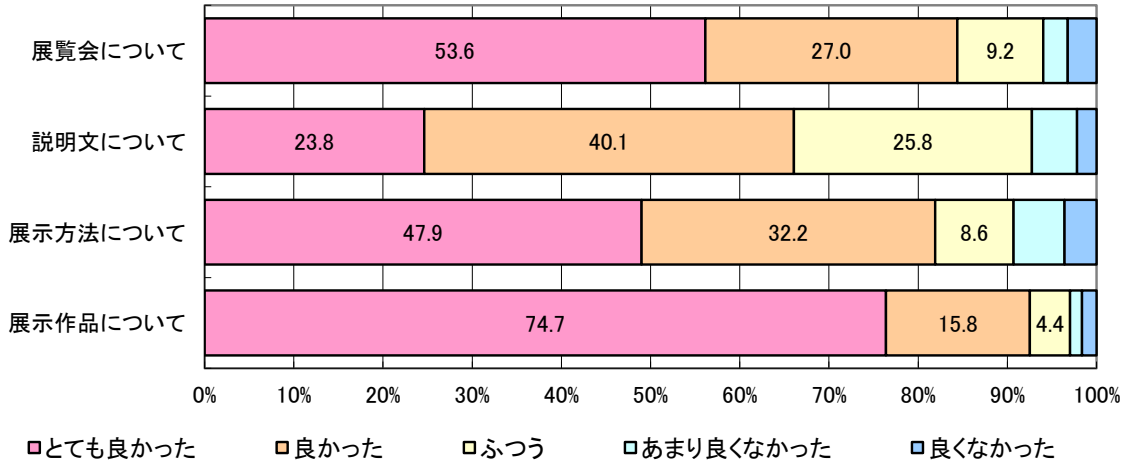
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・両国の国宝をじっくり見ることが出来て、当時の日韓関係への造詣も深まり、
　大変贅沢な時間が過ごせた。
・360度から鑑賞でき、2体の材質の違い、表情の違いをじっくり鑑賞できた。
・空間を広く取った展示方法がよかった。

注：上記数字は以下の通り

	上位合計	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	80.6	2.6	3.1
説明文	63.9	4.9	2.1
展示方法	80.1	5.6	3.5
展示作品	90.5	1.3	1.6

（%）

左足を踏み下げ、右足をその膝の上に組んで坐り、右手を頬に添えて思案する仏像・半跏思惟像は、仏教の母国・インドにはじまり、中国、朝鮮半島、日本へと伝わりました。日本や朝鮮半島では6世紀から8世紀の間に多くの像がつくられ、その中には古代仏教彫刻の傑作といわれる仏像があります。飛鳥時代、斑鳩の里に建立された聖徳太子ゆかりの古刹である奈良県の中宮寺門跡に伝わる国宝の半跏思惟像はその一つで、優しく微笑 む顔は誰もが知るところです。

また、韓国を代表する総合博物館である韓国国立中央博物館所蔵の銅製の半跏思惟像は、国宝78号像として広く親しまれています。日本と韓国に同じ姿の優れた仏像が残るのは、両国の古代から続く交流の深さを物語るといえましょう。

アンケートの結果、展覧会に対して80%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。

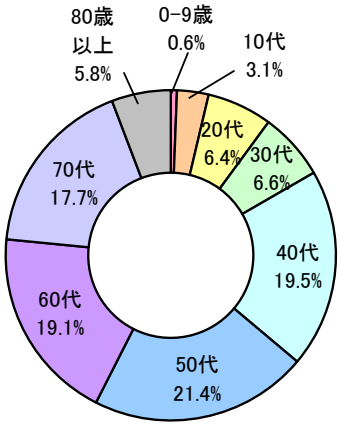
一方で、「会場が暗く、お顔がよく見えなかった」「手荷物検査が厳しく感じた」などのご意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

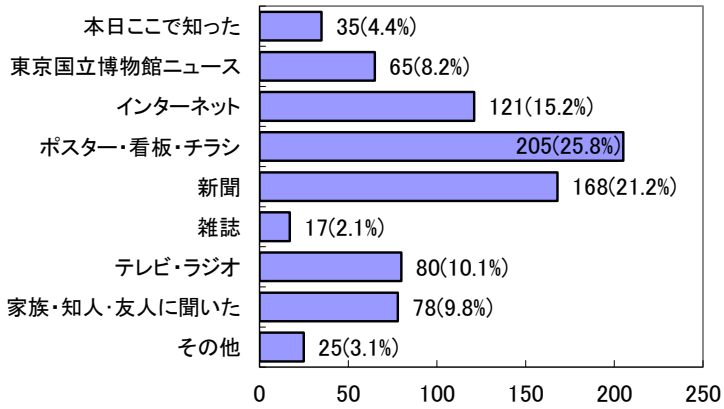
特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたアンケート集計結果

開催期間：平成28年9月13日（火）～平成29年1月9日（月・祝）（96日間）
回答者数：355人（総入館者数：212,144人　アンケート回収率：0.17%）

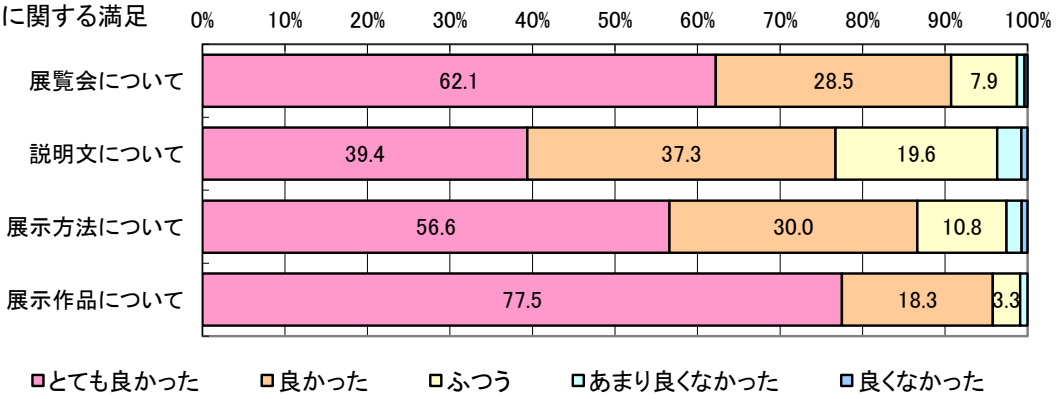
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足



④主な意見・感想

・日本最大の重要文化財という「十一面観音菩薩坐像」の存在感に圧倒された。
・めったに見られない秘仏を360度拝観できたことに感動した。
・音声ガイドが分かりやすく面白かった。
・グッズに魅力的なものが多くてよかった。

注：上記数字は以下の通り

	上位合計	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	90.6	0.9	0.4
説明文	76.7	3.0	0.7
展示方法	86.6	1.8	0.7
展示作品	95.8	0.9	0.0

（%）

滋賀県甲賀市に所在する天台宗の古刹・櫟野寺【らくやじ】には重要文化財に指定される平安時代の仏像が20体も伝わります。その数は、優れた仏像が数多く残る滋賀県でも特筆されます。本展は、20体すべてを寺外で展示する初めての機会です。

本尊の十一面観音菩薩坐像は像高が3mもある圧巻の作品で、普段は大きく重い扉に閉ざされる秘仏です。重厚感ある堂々とした姿ですが、美しい顔立ちは、見る人に安らぎを与えることでしょう。その十一面観音とともに2.2mある薬師如来坐像が並ぶ様子は壮観といえます。他にも、11体の観音や、どこか親しみのある毘沙門天立像、文治3年(1187)に造られたことが知られる貴重な地蔵菩薩坐像なども出品され、櫟野寺に伝わる平安彫刻の傑作を一時にご覧いただける展覧会です。櫟野の里にまだ残るかくれ里の空気とともに櫟野寺の秘仏をお楽しみいただく機会となった本展には、21万人を超える方々にご来場いただきました。

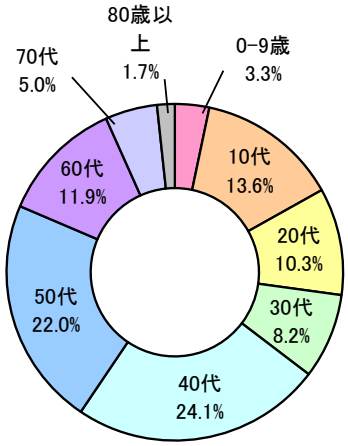
アンケートの結果、展覧会に対して90.6%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「会場が狭い」「会場内に座れる場所が欲しかった」などのご意見も寄せられました。

今後も、来場者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

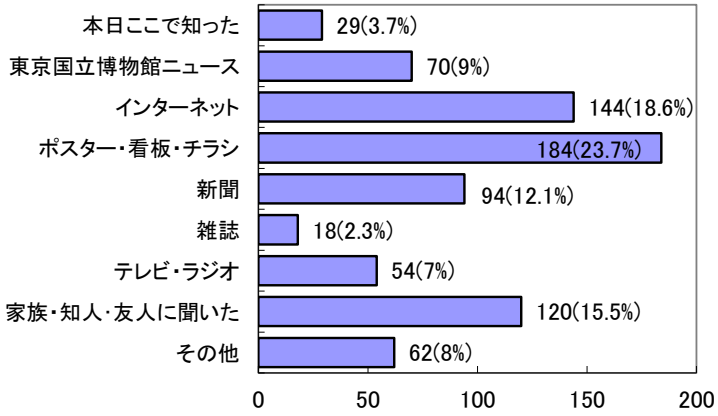
臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念特別展「禅―心をかたちに―」
アンケート集計結果

開催期間：平成28年10月18日（火）～11月27日（日）（36日間）
回答者数：534人（総入館者数：133,629人　アンケート回収率：0.4%）

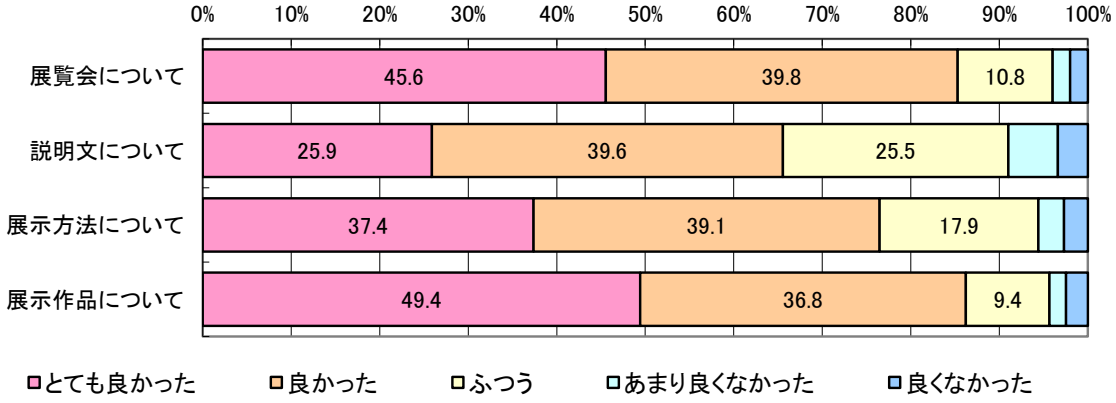
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・狩野派の障壁画、達磨図などの名品が特に良かった。
・一休、白隠や喫茶など禅の世界の奥深さに圧倒された。
・その時代の武将と宗教が密接に関係していた点が大変興味深い。

注：上記数字は以下の通り

	上位合計	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	85.4	1.9	2.5
説明文	65.5	2.9	2.7
展示方法	76.5	5.6	3.4
展示作品	86.2	2.0	2.0

（%）

禅宗は中国から伝えられた仏教の一派です。その導入は鎌倉時代から南北朝時代にかけて臨済【りんざい】宗を中心に行われ、それとともに新たに宋・元の美術、喫茶の風習が中国からもたらされました。江戸時代には、やはり臨済禅の流れをくむ黄檗【おうへき】宗が、明時代末の美術とともに中国から伝わり、また臨済宗中興の祖と称される白隠【はくいん】は教化のために自ら多数の書画を制作し、いまや禅画の先駆者として高く評価されています。このように禅は、中世以来、新たな文化への「架け橋」や「触媒【しょくばい】」として日本文化の形成に大きな役割を果たしてきました。

本展では、臨済宗・黄檗宗の各本山が所蔵する高僧の肖像、書、仏像、絵画や工芸を中心に、禅宗美術の至宝を通じて禅の
歴史と文化を、国宝22件、重要文化財102件を含む計240件を展示し、13万人を超える来館者を迎えました。

アンケートの結果、展覧会に対して85%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただきました。一方で、「展覧会の会期が短い」、「展示替えが多く、お目当ての作品を観ることが出来なかった」などの意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

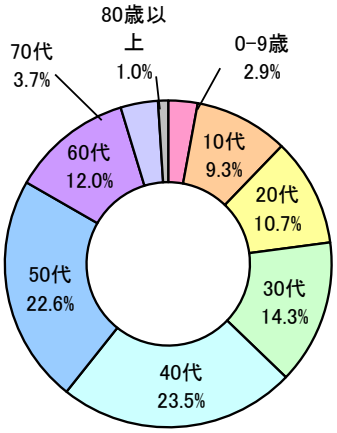
東京国立博物館

特別展「春日大社　千年の至宝」

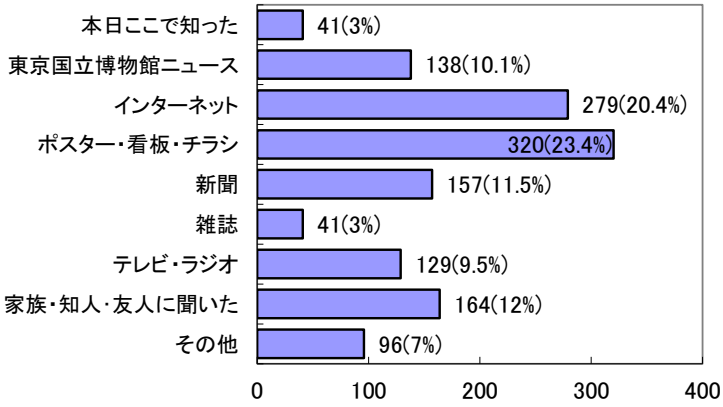
アンケート集計結果

開催期間：平成29年1月17日（火）～平成29年3月12日（日）（48日間）
回答者数：917人（総入館者数：209,572人　アンケート回収率：0.44%）

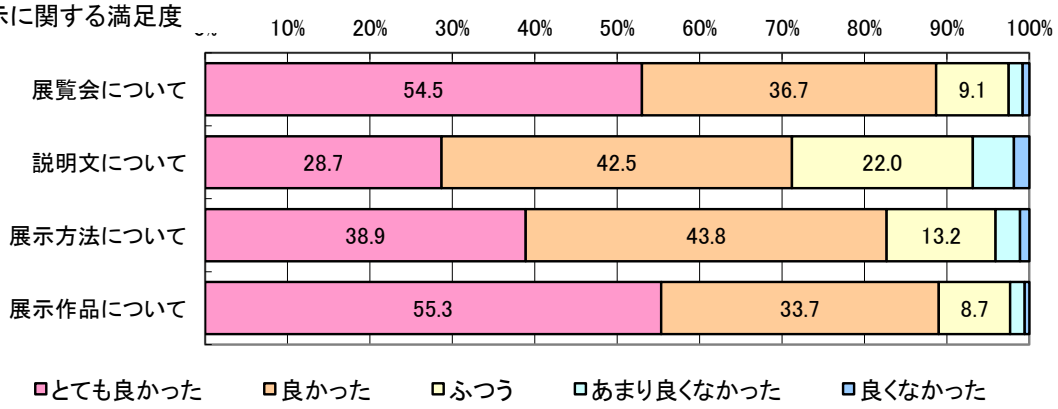
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・蒔絵箏や金地螺鈿毛抜形太刀など見ごたえのある国宝が多くあった。
・国宝の甲冑が4領そろった姿は大変すばらしかった。
・これだけ古いものが美しい状態で残っていることに、神へ捧げた証を感じた。

注：上記数字は以下の通り

	上位合計	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	91.2	1.7	0.8
説明文	71.2	5.0	1.9
展示方法	82.7	3.0	1.1
展示作品	89	1.8	0.5

（%）

春日大社では「式年造替」と呼ばれる社殿の建て替えや修繕が約20年に一度行われ、平成28年（2016）には60回目を迎えます。本展は、この大きな節目に、春日大社に伝来し、社外ではめったに拝観することのかなわない貴重な古神宝の数々とともに、春日の神々への祈りが込められた選りすぐりの名品を、かつてない規模で展覧するものです。「平安の正倉院」と呼ばれる春日大社に伝来した王朝美の精華を伝える古神宝類。祈りや願いを込め奉納された甲冑や刀剣。美しい自然に囲まれた聖地・春日野や神々の姿を現した絵画や彫刻。「千年」、すなわち「とこしえ」の祈りが今なお捧げられる春日大社の「至宝」が一堂に会する、大変貴重な機会となりました。国宝や重要文化財を100件以上が展示された本展には、20万人を超える方々にご来館いただきました。

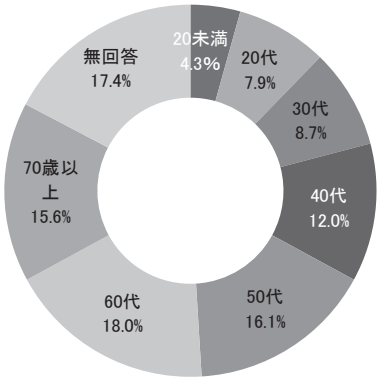
アンケートの結果、展覧会に対して91.2%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「説明が少なすぎる」、「イヤホンガイドが外れやすく感じた」などのご意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

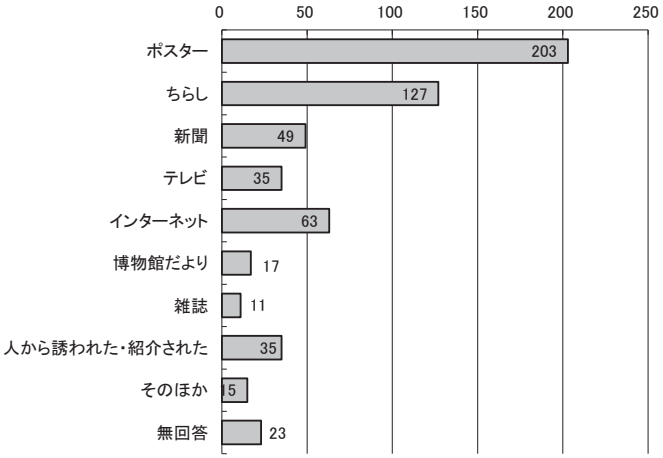
特別展覧会
「臨済禅師1150年 白隠禅師250年遠諱記念　禅−心をかたちに−」
アンケート集計結果

開催期間：平成28年4月12日（火）～ 5月22日（日）（37日間）
回答者数：416人（総来館者数　88,228人　アンケート回収率　0.47%）

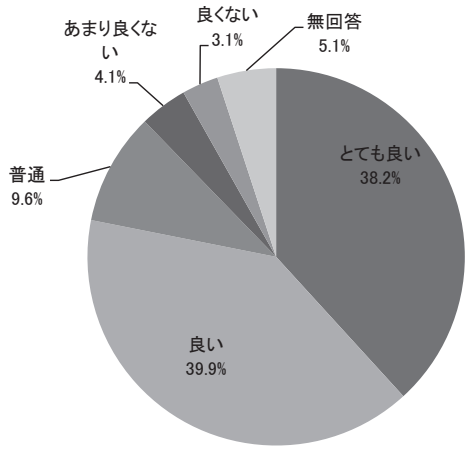
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
78.1%

④主な意見・感想

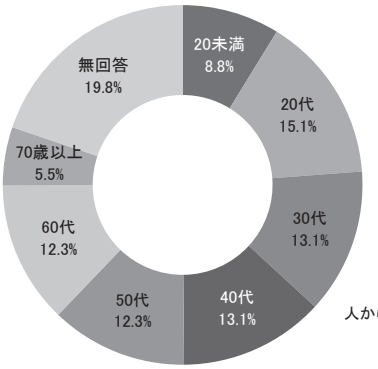
・展示品が多い
・貴重な作品を観ることができた
・禅の理解が深まった
・国宝・重文が多い

特別展覧会「没後150年　坂本龍馬」

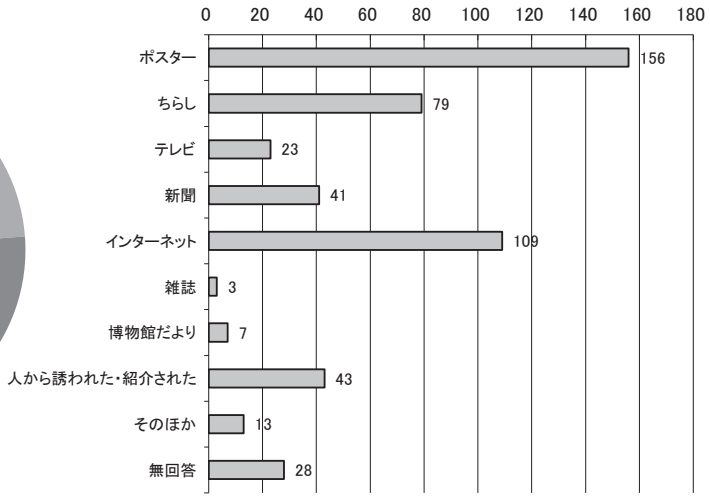
アンケート集計結果

開催期間：平成28年10月15日（土）～ 11月27日（日）（38日間）
回答者数：399人（総来館者数 98,533人　アンケート回収率 0.40%）

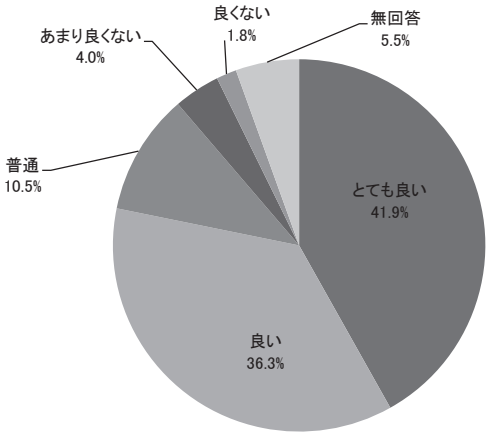
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
78.2%

④主な意見・感想

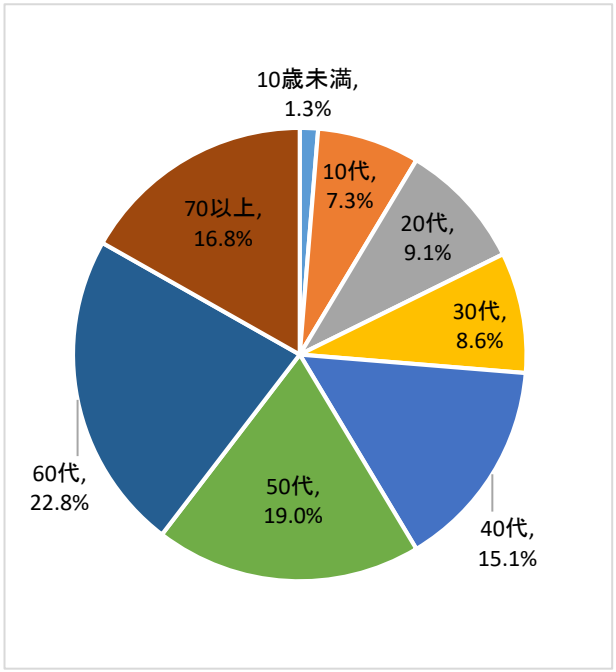
・展示品が豊富
・本物を観ることができた
・貴重な資料が展示されている
・手紙から龍馬の人柄が伝わった

奈良国立博物館

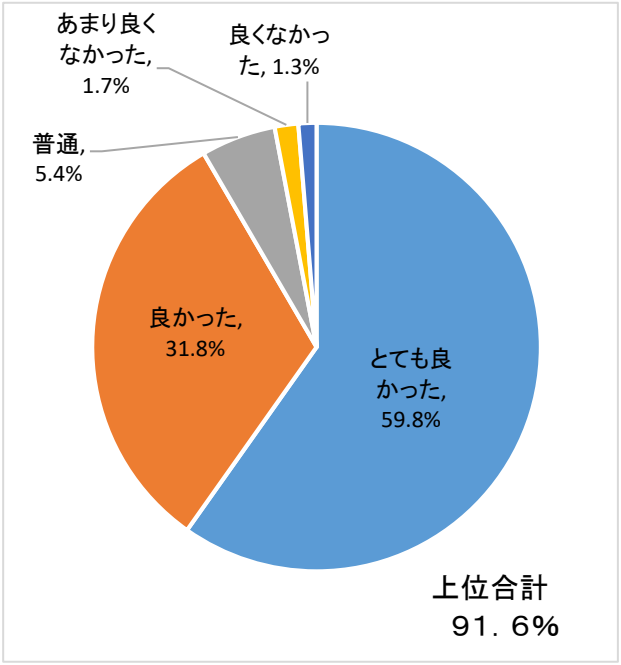
特別展「国宝 信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－」アンケート集計結果

開催期間：平成28年4月9日～5月22日(39日間)
回答者数：250人　入場者数：55,198人　回収率：0.45%

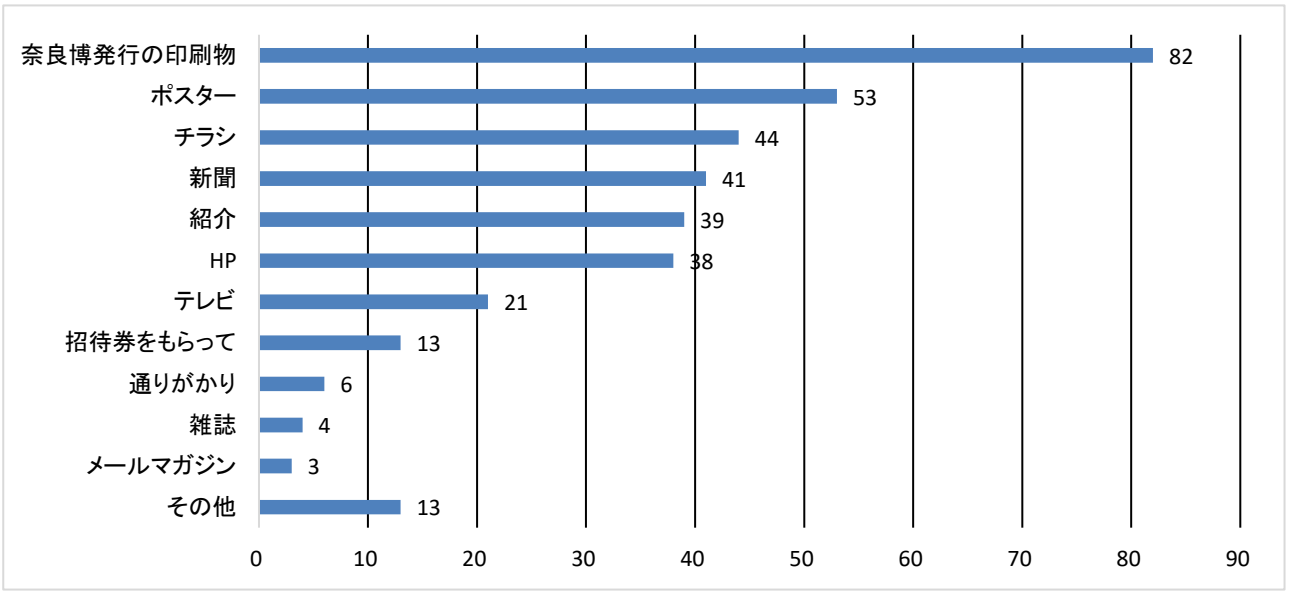
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



④主な意見・感想

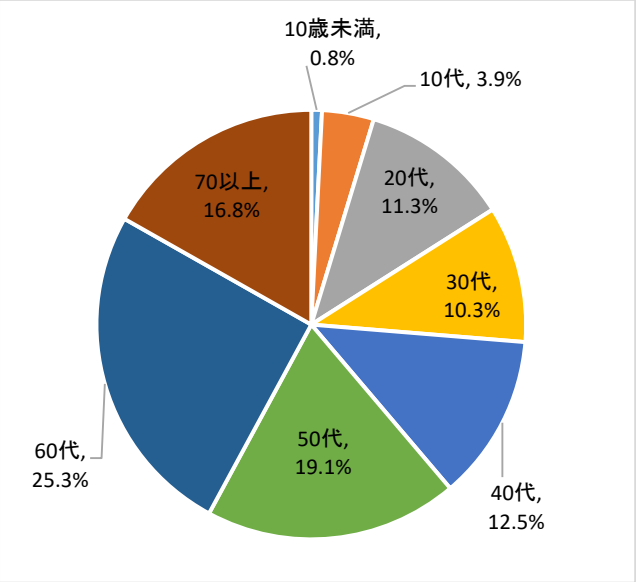
・絵巻の全巻全場面を見ることができてよかった。
・絵巻は見ていて楽しい。
・繊細な筆致で人物の生き生きとした表情が見事だった。
・昔から一度は本物を見たいと思っていました。感激です。
・最前列で見たい人とそうでない人の列が分かれていてよかった。
・スタッフに前の人に続いて進むよう促され、ゆっくり見られなかった。

生誕800年記念特別展「忍性　ー救済に捧げた生涯ー」

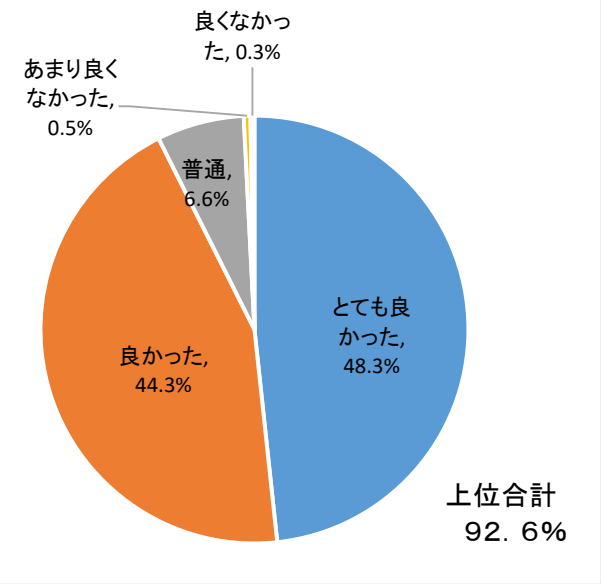
アンケート集計結果

開催期間：平成28年7月23日～9月19日(53日間)
回答者数：963人　入場者数：39,834人　回収率：2.41%

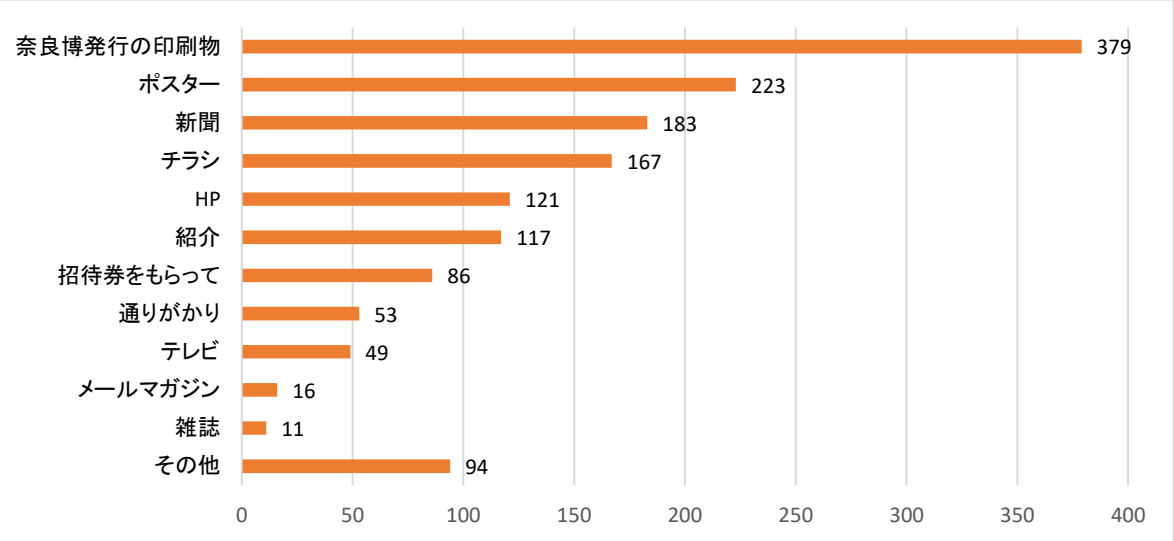
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



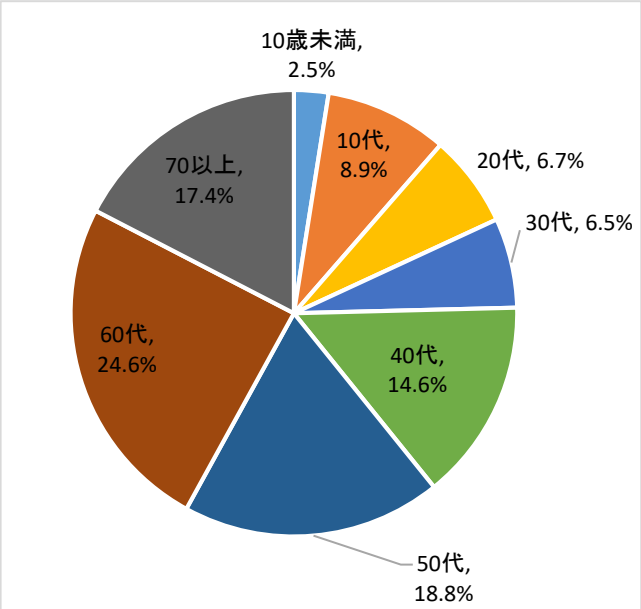
④主な意見・感想

・忍性について知識がなかったが、よく理解できた。
・東征伝絵巻を見ることができてよかった。
・忍性と奈良との関わりがわかった。ごく近いところに関係地がある。
・アニメは内容理解の大きな助けとなった。アニメ自体も秀逸。
・絵巻のタブレットやアニメーションなど、今までになくよかった。
・もっと英語解説が必要です。

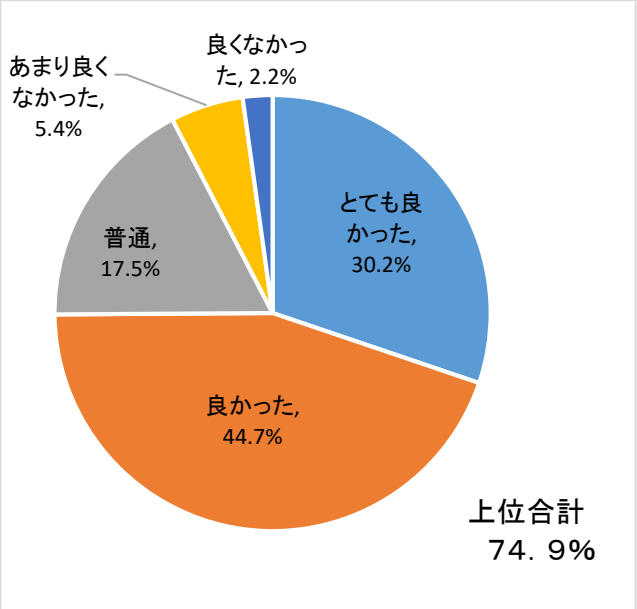
第68回正倉院展
アンケート集計結果

開催期間：平成28年10月22日～11月7日(17日間)
回答者数：1,099人　入場者数：208,614人　回収率：　0.53%

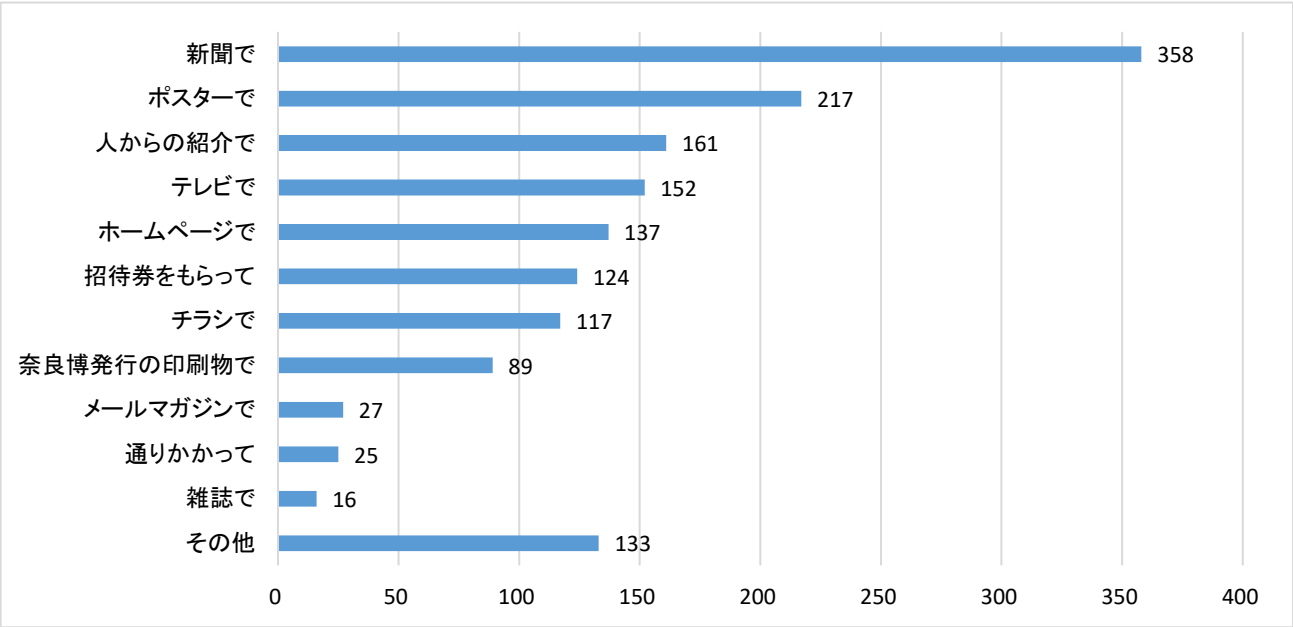
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



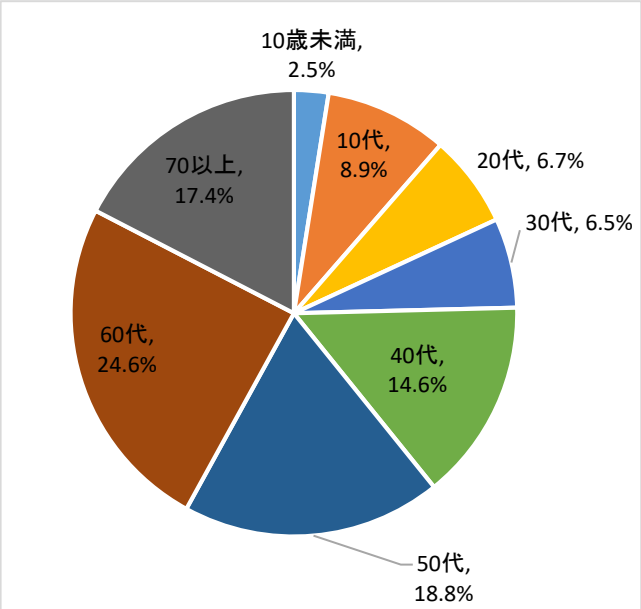
④主な意見・感想

・拡大写真や説明文でよりよく理解できました。
・鈴や幡、櫛などかわいらしく見ていて幸せな気持ちになれるものが多く、ここ数年で最高に素敵な展示でした。
・金土日祝は20時まで開館しているのがうれしいです。
・小さい展示物が見えにくかった。拡大鏡などで大きくして見たかった。
・人が多く、ゆっくり見られなかった。

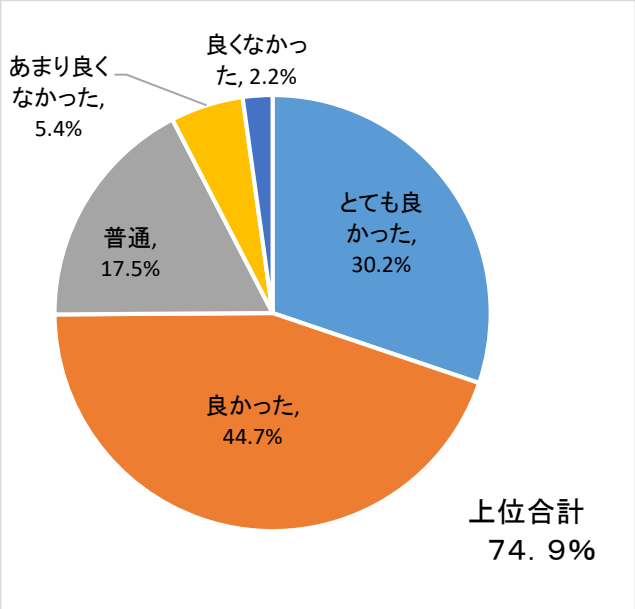
第68回正倉院展
アンケート集計結果

開催期間：平成28年10月22日～11月7日(17日間)
回答者数：1,099人　入場者数：208,614人　回収率：　0.53%

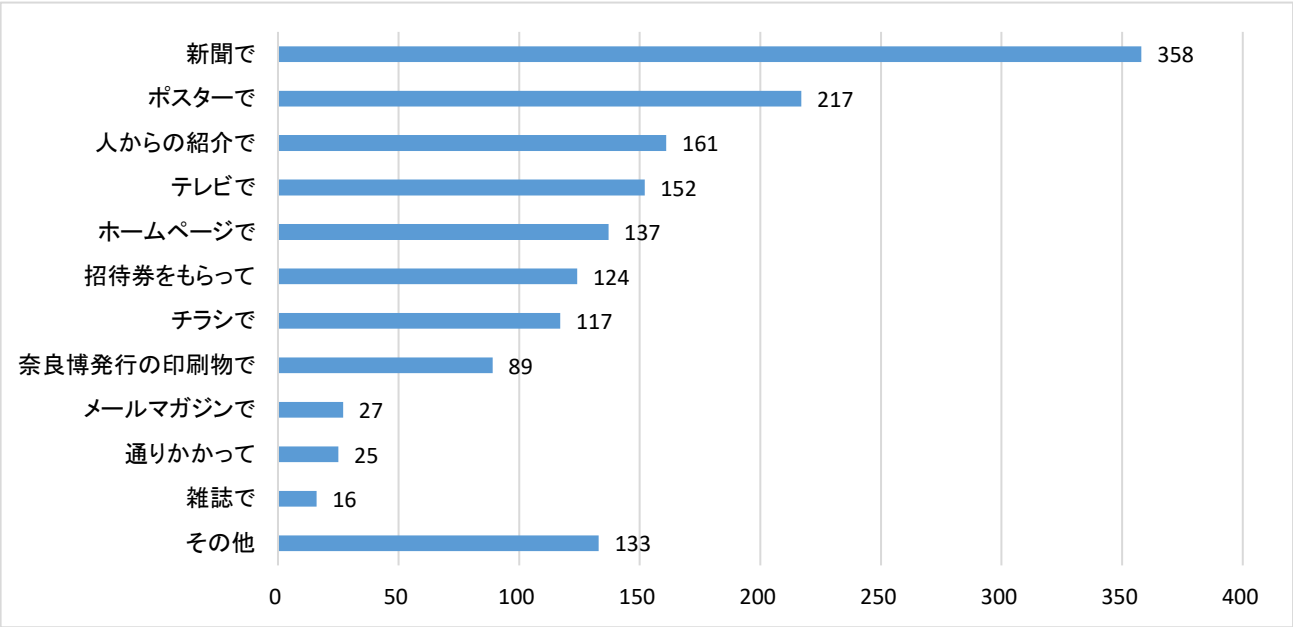
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



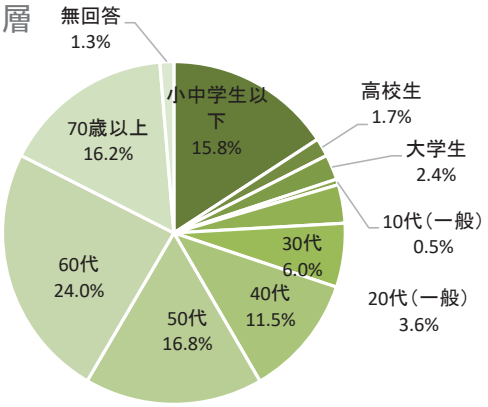
④主な意見・感想

・拡大写真や説明文でよりよく理解できました。
・鈴や幡、櫛などかわいらしく見ていて幸せな気持ちになれるものが多く、ここ数年で最高に素敵な展示でした。
・金土日祝は20時まで開館しているのがうれしいです。
・小さい展示物が見えにくかった。拡大鏡などで大きくして見たかった。
・人が多く、ゆっくり見られなかった。

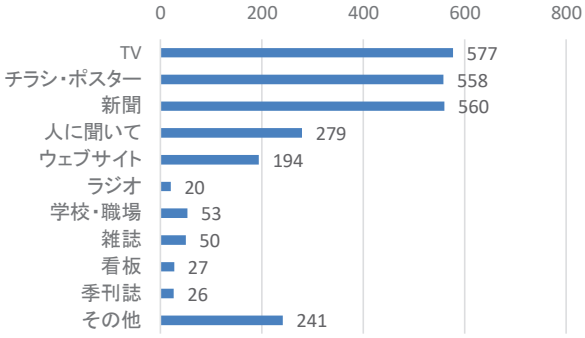
特別展「始皇帝と大兵馬俑」
アンケート集計結果

開催期間：平成28年3月15日(火)～6月12日(日)（78日間）
総回答者数：1,677人（総来館者数：191,222人　アンケート回収率：0.88%）

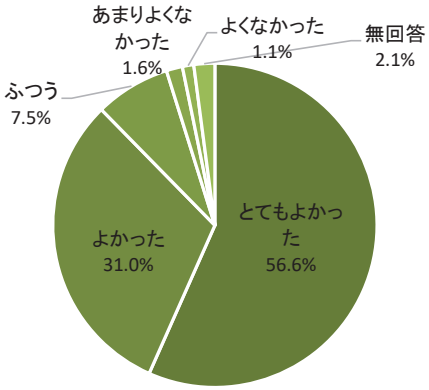
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



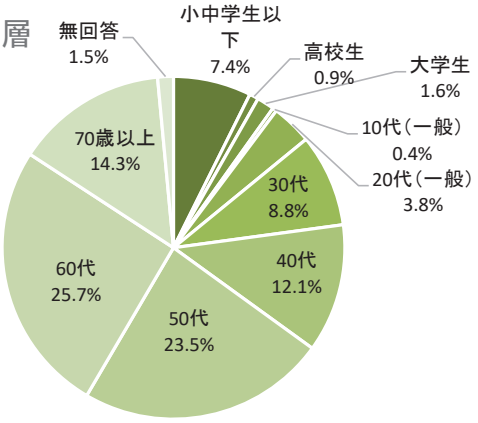
上位合計
87.6%

④主な意見・感想
・内容もわかりやすく、展示品の量も適度で、非常に見やすい展示だった。高台から兵馬俑を見られたり、馬車の展示の際の空間作りなど、舞台装置的なものが心を躍らせた。頭にもすっと入ってきて楽しめる、すごい展示だった。
・高位置から眺める兵馬俑の臨場感がすばらしいと感じた。また、兵馬俑を直接見ることができ、本物の迫力に感動した。ライティングでの陰影のコントラストも最高でリアリティを増して感じる事ができた。中国の文明の奥深さに思いをはせた。
・最初の展示物で説明文が長すぎると人が止まってしまうので、今回のように短い文だと流れは早くてよかった。
・展示説明文の赤い文字は、目に入りにくい。
・展示の字が小さい。人が多いと遠くから読まないといけないため、字が小さく苦戦した。お年寄りの人も多いので字を大きくしたらもっと楽しめると思う。
・音声ガイドのある作品のところで、人がたまってしまうので、少しスペースを作ってもらえると進みやすいと思う。

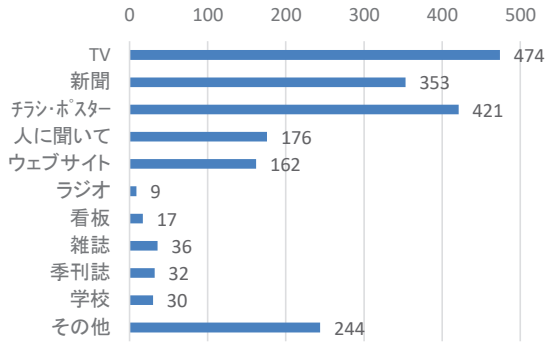
特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」
アンケート集計結果

開催期間：平成28年7月16日(土)～8月28日(日)（39日間）
総回答者数：1,278人（総来館者数：133,002人　アンケート回収率：0.96%）

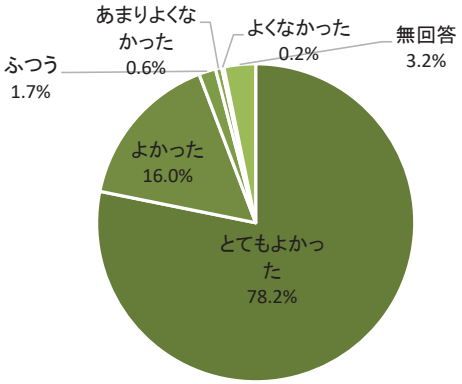
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



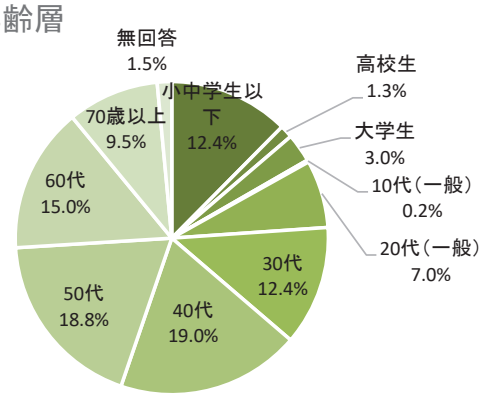
上位合計
94.2%

④主な意見・感想
・障壁画を部屋のレイアウトそのままに見ることができたのは非常に良かった。
・東山魁夷の絵の素晴らしさに感動！ライティングが非常に気を使ってあるのがわかる。講演会もよかった。
・順路、絵の順番提示の内容が良くまとまっていて良かった。
・とても素晴らしかった。心がとてもやすらいだ。
・作家個人の年表がなかったため、人生と時代背景のどのような流れの中で、作品がどのように変化したか等を見るため、少し困った。
・車椅子を使っているので、視点がたっている方より低い。天井ライトが、ガラス上辺にうつりこむことが多くあり、少し残念だ。
・館内が暗くて見づらかった。
・ガラスの額に入れてある暗い画面の作品のすぐ向かいに明るい照明の展示をしないでほしい。反射して見づらい。

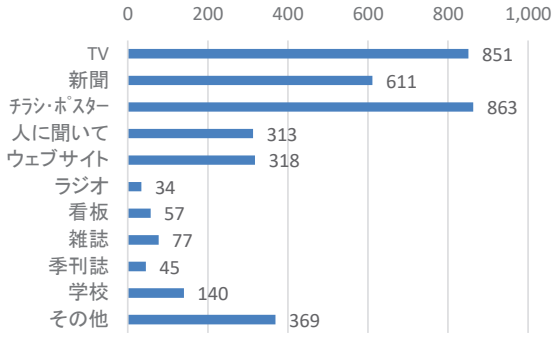
特別展「京都　高山寺と明恵上人　−特別公開　鳥獣戯画−」
アンケート集計結果

開催期間：平成28年10月4日（火）～11月20日（日）（45日間）
総回答者数：2,271人（総来館者数：161,172人　アンケート回収率：1.40%）

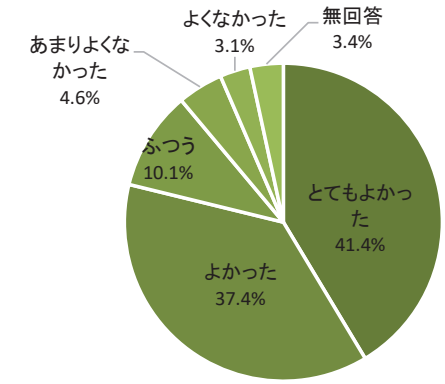
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



上位合計
78．8%

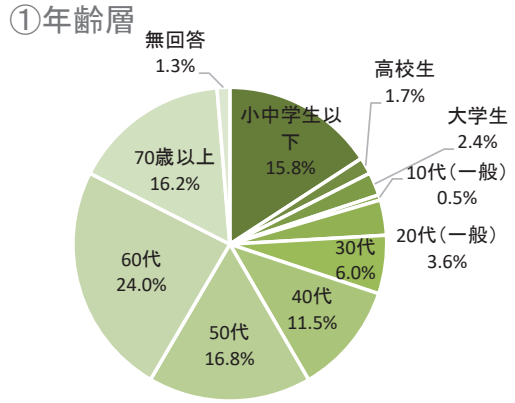
④主な意見・感想

・鳥獣戯画の絵はとてもおもしろく、興味深く見ることができた。
・学校で習ったばかりの鳥獣戯画に行けてとてもうれしかった。このような展覧会を開いていただきありがとうございました。
・鳥獣戯画のような余り見る事の出来ない貴重な文化物の展示を、これからも続けて欲しい。東京や京都に行かなくても。
・開館を30分早めていただいて助かりました。
・鳥獣戯画の展示のところは混んでいたが、その他は流れ良く進めたので、ストレスなく見れて良かった。展示の配置が見やすかった。
・明恵上人のエピソードにまつわる展示や関連ある人達や物に関する展示が上手くまとめられていて、鳥獣戯画だけでなく明恵上人の人物像が表せた展覧会だと思う。
・展示物に関する明恵さんのエピソードがかわいらしいパネルで説明されていて分かりやすかった。
・明恵さんを知らなかったけど、見ていて好きになった。おもしろかった。
・鳥獣戯画展では「1歩ずつ前へ」の声がうるさくて、集中して鑑賞することができなかった。
・2時間近く並び、とても腰が痛くなりました。もう少し、ベンチなど座れるところが欲しい。
・整理券を配付して（入場時間を30分毎とかにして）スムーズに流れるように運営してほしい。

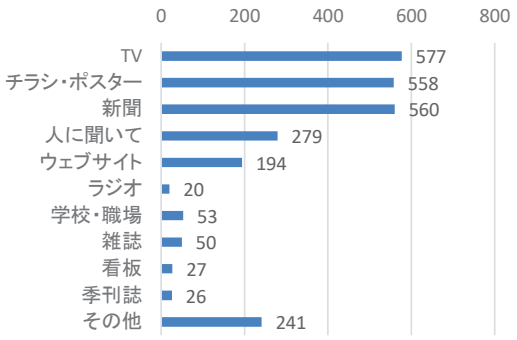
特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」
アンケート集計結果

開催期間：平成29年1月1日（日）～3月5日（日）（56日間）
総回答者数：646人（総来館者数：75,966人　アンケート回収率：8.5%）

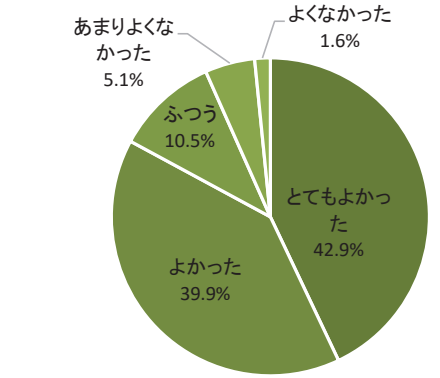
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



上位合計
82.9%

④主な意見・感想

・古事記、日本書紀と併せての解説が分かりやすくてよかった。ゆったりした展示と沖ノ島の波や波音、島の様子などを映していたのがよかった。
・大和朝廷、韓国との出土品との比較（類似性）がわかりやすかった。
・ドリーの解説が子供にもわかりやすくよかった。
・上陸できない沖ノ島の雰囲気を感じられる映像がよかった。神話と考古遺物の展示がとても興味深かった。日本書紀を読んでみたくなった。
・指輪や耳飾など、古代の物とは思えない斬新さできれいだった。
・館内が暗すぎる。北部九州の展示であるのであれば、宗像族だけでなく志賀島～宮地の、あずみ族も併せてしてもらいたかった。
・字が小さくて読みにくく残念でした。国宝、重文などわかりやすく書いてほしい。
・宗像・沖ノ島出土の展示が思った以上に少なかった。

（奥付）

平成 28 年度　独立行政法人国立文化財機構年報
平成 29 年 11 月 30 日発行
編集・発行　独立行政法人国立文化財機構
〒110-8712　東京都台東区上野公園 13 番 9 号
電話　(03)3822-1111（代表）
Fax　(03)3822-1113
印刷　株式会社長谷工システムズ
©2017. National Institutes for Cultural Heritage,
printed in Japan